九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 (18)

# 東山田一本杉遺跡

1995年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書　第125集
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書　(18)

# 東山田一本杉遺跡

Higashi yama da i ppon sugi
東山田一本杉遺跡

Nishi yama da ni hon matsu
西山田二本松遺跡B

Ima yama hachi man baru
今山八幡原遺跡

1995年3月

佐賀県教育委員会

# 序

この報告書は日本道路公団からの委託により，佐賀県教育委員会が昭和58年度から61年度にかけて実施した，佐賀郡大和町所在の東山田一本杉遺跡Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区，今山八幡原遺跡の発掘調査の記録であります。

佐賀平野の山麓部，特にここ大和町を東西に分断して南下する嘉瀬川流域には，原始・古代の遺跡が極めて高い密度で集中しております。殊に奈良時代以降は肥前国府の設置や西海道の整備により，肥前国の政治・文化の中心地域として飛躍的に発展しますが，往時の繁栄ぶりは惣座遺跡や久池井Ｂ遺跡等の発掘調査の成果を通して窺い知ることができます。

本書はこの地域において肥前国府が設置される以前の弥生時代に営まれていた集落跡および甕棺墓を主体とした埋葬施設，そして肥前国府が置かれた時期と相前後して設けられ，官人の生活の場，あるいは国府の機能の一翼を担っていたと思われる掘立柱建物跡や築地関連遺構等を中心に報告するものです。本書の成果が今後の関連する調査・研究の進展，および文化財愛護に対する理解の一助となれば望外の幸せです。

本報告書の発刊に際し，長期間にわたる多難な発掘調査を通じて終始多大なご協力・ご尽力を戴いた地元の方々をはじめ，日本道路公団並びに関係各位に対し，衷心から厚くお礼申し上げます。

平成７年３月31日

佐賀県教育委員会

教育長　林田重人

# 例　　言

1．本書は九州横断自動車道建設に伴い，昭和58年度から昭和61年度に実施した佐賀郡大和町大字東山田所在の東山田一本杉遺跡Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区，同町大字川上所在の西山田二本松遺跡B区，同町大字久留間所在の今山八幡原遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は日本道路公団の委託を受け，佐賀県教育委員会が実施した。

3．本書の執筆分担は次のとおりである。

第1章　調査の概要 …… 樋口秀信

第2章　地理的・歴史的環境 …… 樋口秀信

第3章　遺跡各説

東山田一本杉遺跡　Ⅰ区 …… 田平徳栄

東山田一本杉遺跡　Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡　B区

概要 …… 樋口秀信・渋谷　格

遺構　集落跡・埋葬遺構（弥生～古墳時代） … 渋谷　格

集落跡（奈良～平安時代前半） …… 樋口秀信

集落跡（平安時代後半～中世） …… 天本洋一

遺物　集落跡・埋葬遺構関係（弥生～古墳時代）渋谷　格

集落跡関係（奈良～平安時代前半） …… 樋口秀信

集落跡関係（平安時代後半～中世） …… 天本洋一

今山八幡原遺跡 …… 副島正道・田平徳栄

4．調査記録の作成および整理の分担は次のとおりである。

遺構実測 …… 田平徳栄・天本洋一・一ノ瀬憲昭・副島正道・舩底総一・本田秀樹
樋口秀信・川谷昭彦・山田尚久・野田美恵子・嬉野みつ代・松尾直子
種浦加代子

遺物実測 …… 久保恭枝・蒲原淑子・兵動美紀・末吉由紀子・吉田雅子・宮島五月
鶴田啓子・兵動律子・光石逸子・江副朋子・村里育子・岩井恵子

製　　図 …… 末吉由紀子・吉田雅子・野田美恵子・嬉野みつ代・鶴田啓子
兵動律子・光石逸子・江副朋子・村里育子

遺物復元 …… 村瀬邦子・土井マサ子・室岡勝代・江口友恵・田村芳子・野田美恵子
嬉野みつ代・新井久美・山口カズヨ・陣内香代子・森崎和子
瀬山由規子・徳永（田中）美穂子

遺構写真撮影 …… 田平徳栄・天本洋一・一ノ瀬憲昭・副島正道・舩底総一・本田秀樹
樋口秀信

遺物写真撮影 …… 田平徳栄・天本洋一・高瀬哲郎・副島正道・渋谷　格・古賀栄子

写真現像焼付 …… 古賀栄子・黒木優子

5．本書で報告した遺構および遺物に関する図面・写真等の調査記録類並びに出土遺物については，佐賀県教育委員会が保管している。

6．発掘調査にあたっては全般にわたり地元の方々のご協力・ご便宜を得た。また本書の作成にあたっては多くの方々より資料提供やご助言・ご教示をいただいた。この紙面を借りて心より感謝申し上げます。

7．本書の編集は樋口秀信が行った。

# 凡　　例

1．遺跡台帳（佐賀県教育委員会作成）に登録した各遺跡の略号は次のとおりである。

東山田一本杉遺跡Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区 …… ＨＹＳ（－Ⅰ・－Ⅱ・－Ⅲ）

西山田二本松遺跡Ｂ区 …… ＮＹＮ（－Ｂ）

今山八幡原遺跡 …… ＩＨＢ

2．遺構の種別に応じた分類記号は，既刊の『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書』に従い，次のとおりに標記する。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 竪穴住居跡および掘立柱建物跡 …… | ＳＢ | 石棺墓・石蓋土壙墓 …… | ＳＣ |
| 溝跡 …… | ＳＤ | 甕棺墓・壺棺墓 …… | ＳＪ |
| 土壙・竪穴 …… | ＳＫ | 土壙墓・木棺墓 …… | ＳＰ |
| その他の遺構（柵等） …… | ＳＸ | | |

3．遺構の寸法数字はm単位，遺物の寸法数字はcm単位を原則とする。

4．遺構図に用いた方位は，すべて真北（国土座標北）である。

5．本書に掲載した各遺物は佐賀県教育委員会作成の遺物台帳に登録している。表および図にはその各登録番号を付記する。

# 目　　次


**第1章　調査の概要**

1．調査の経過 ……2

2．調査組織 ……5

**第2章　地理的・歴史的環境**

1．地理的環境 ……8

2．歴史的環境 ……10

**第3章　遺跡各説**

**東山田一本杉遺跡Ⅰ区**

1．遺跡の概要 ……18

(1)　遺跡の立地と地理的環境 ……18

(2)　検出遺構と分布状況 ……18

(3)　出土遺物 ……20

(4)　遺跡の特色 ……20

2．遺構 ……23

(1)　甕棺墓 ……23

(2)　土壙墓 ……63

(3)　石棺墓 ……71

(4)　土壙 ……73

(5)　祭祀関係遺構 ……75

3．遺物 ……76

(1)　甕棺 ……76

(2)　祭祀関係土器 ……120

(3)　青銅器 ……122

(4)　玉類 ……122

(5)　人骨 ……123

4．考察 ……124
1　成人用甕棺の成立過程について ……124
(1)　編年の方法 ……124
(2)　口縁部および体部の分類と系統 ……125
①　口縁部の分類・系統 ……125
②　体部の分類・系統 ……128
③　口縁部・体部の各形式の対応関係 ……130
(3)　編年試案 ……136
(4)　その他の検討 ……139
①　口唇部刻目・体部沈線・彩色 ……139
②　法　量 ……141
(5)　成人用甕棺の成立と技術革新 ……142
2　東山田一本杉遺跡Ⅰ区墓地の形成過程 ……144
(1)　墓地の形成過程 ……144
(2)　墓地造営集団の復元 ……148

**東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区**

1．遺跡の概要 ……154

2．遺構 ……158
1　弥生時代から古墳時代にかけての遺構 ……158
(1)　竪穴住居跡 ……166
(2)　掘立柱建物跡 ……204
(3)　不明遺構 ……211
(4)　土壙 ……212
(5)　土壙墓 ……214
(6)　甕棺墓 ……228

2　奈良時代から平安時代前半にかけての遺構 ……230
(1)　掘立柱建物跡 ……230
(2)　溝跡 ……250
(3)　井戸跡 ……260
(4)　土壙 ……261

3　平安時代後半から中世にかけての遺構 ……269
(1)　遺構の概要 ……269
(2)　溝跡 ……270
(3)　井戸跡 ……271
(4)　土壙 ……273
(5)　土壙墓 ……277

3．遺物 ……280
1　弥生時代から古墳時代にかけての遺物 ……280
(1)　土器 ……282
(2)　土製品 ……380
(3)　石器 ……381
(4)　鉄器 ……384
(5)　装身具 ……386
(6)　小結 ……392

2　奈良時代から平安時代前半にかけての遺物 ……396

3　平安時代後半から中世にかけての遺物 ……421

**今山八幡原遺跡**

1．遺跡の概要 ……442

2．遺構と遺物 ……444
(1)　竪穴住居跡 ……444
(2)　土壙 ……445
(3)　井戸跡 ……446
(4)　溝跡 ……461

3．まとめ ……461

# 挿　図　目　次


調査の概要

Fig. 1　東山田一本杉遺跡・西山田二本松遺跡Ｂ区調査区位置図 ……4

2　今山八幡原遺跡調査区位置図 ……4

地理的・歴史的環境

Fig. 3　東山田一本杉遺跡・西山田二本松遺跡Ｂ区・今山八幡原遺跡周辺遺跡分布図 ……9

遺跡各説

東山田一本杉遺跡Ｉ区

Fig. 4　東山田一本杉遺跡Ｉ区遺構配置図 ……21～22

5　ＳＪ001・002甕棺墓 ……23

6　ＳＪ004・005・007甕棺墓 ……24

7　ＳＪ009・010・011甕棺墓 ……25

8　ＳＪ012・013・014甕棺墓 ……26

9　ＳＪ015・017・019甕棺墓 ……27

10　ＳＪ020・022・023甕棺墓 ……28

11　ＳＪ025・026・027甕棺墓 ……29

12　ＳＪ029・030・031甕棺墓 ……30

13　ＳＪ032・033・034甕棺墓 ……31

14　ＳＪ035・036甕棺墓 ……32

15　ＳＪ037・038甕棺墓 ……33

16　ＳＪ039・040・041甕棺墓 ……34

17　ＳＪ042・043・044・045甕棺墓 ……35

18　ＳＪ047・048・050甕棺墓 ……36

19　ＳＪ051・052・053甕棺墓 ……37

20　ＳＪ054・055・057甕棺墓 ……38

21　ＳＪ059・060・063甕棺墓 ……39

22　ＳＪ064・065・066甕棺墓 ……40

23　ＳＪ067・071・072甕棺墓 ……41

24　ＳＪ074・075甕棺墓 ……42

25　ＳＪ077・078・079甕棺墓 ……43

26　ＳＪ080・081・082甕棺墓 ……44

Fig. 27 ＳＪ083・084・085甕棺墓 ……45
28 ＳＪ086・087甕棺墓 ……46
29 ＳＪ088・089・091甕棺墓 ……47
30 ＳＪ092・093・095甕棺墓 ……48
31 ＳＪ099・100・101甕棺墓 ……49
32 ＳＪ108・111・113甕棺墓 ……50
33 ＳＪ115・121・122甕棺墓 ……51
34 ＳＪ123・124・126甕棺墓 ……52
35 ＳＪ127・129・130甕棺墓 ……53
36 ＳＪ131・132・135甕棺墓 ……54
37 ＳＪ136・137・139甕棺墓 ……55
38 ＳＪ140・141・142甕棺墓 ……56
39 ＳＪ143・144・145甕棺墓 ……57
40 ＳＪ146・147・148甕棺墓 ……58
41 ＳＪ149・150・152甕棺墓 ……59
42 ＳＪ153・155・156甕棺墓 ……60
43 ＳＪ157・158甕棺墓 ……61
44 ＳＪ159・160・161甕棺墓 ……62
45 ＳＰ016土壙墓 ……63
46 ＳＰ151土壙墓 ……64
47 ＳＰ056土壙墓 ……65
48 ＳＰ073・024土壙墓 ……66
49 ＳＰ046・076・138土壙墓 ……67
50 ＳＰ006・090土壙墓 ……68
51 ＳＰ049・058土壙墓 ……69
52 ＳＰ125・128土壙墓 ……70
53 ＳＣ018石棺墓 ……71
54 ＳＣ110石棺墓 ……72
55 ＳＫ070土壙 ……73
56 ＳＫ162・119土壙 ……74
57 ＳＸ028祭祀遺構 ……75
58 ＳＪ001・002・003・004甕棺 ……76
59 ＳＪ005・007・009甕棺 ……77

Fig. 60 ＳＪ010・011・012甕棺 ……78
61 ＳＪ013・014・017・019・020甕棺 ……79
62 ＳＪ021・022・023・025・027甕棺 ……80
63 ＳＪ026・029・030甕棺 ……81
64 ＳＪ032・034・035・036甕棺 ……82
65 ＳＪ037・038・039甕棺 ……83
66 ＳＪ040・041・042甕棺，044壺棺 ……84
67 ＳＪ043・045・047・050甕棺 ……85
68 ＳＪ048・051・052甕棺 ……86
69 ＳＪ053・054・055甕棺 ……87
70 ＳＪ057・059・060・062・066甕棺 ……88
71 ＳＪ064・071・072・079甕棺 ……89
72 ＳＪ074・075・077甕棺 ……90
73 ＳＪ078・080・081甕棺，082壺棺 ……91
74 ＳＪ083・084・085甕棺 ……92
75 ＳＪ086・087・088甕棺 ……93
76 ＳＪ089・091・092・093甕棺 ……94
77 ＳＪ099・100・108甕棺 ……95
78 ＳＪ111・113・115甕棺墓 ……96
79 ＳＪ121・122・123・124甕棺 ……97
80 ＳＪ126・127・129甕棺 ……98
81 ＳＪ130・131・132・136甕棺 ……99
82 ＳＪ135・137・139・140甕棺 ……100
83 ＳＪ141・142・143・144・145甕棺 ……101
84 ＳＪ146・147・148甕棺 ……102
85 ＳＪ149・150・152・153甕棺 ……103
86 ＳＪ155・156・157・160甕棺 ……104
87 ＳＪ158・159・161甕棺 ……105
88 ＳＸ028祭祀土器 ……121
89 ＳＪ075甕棺墓出土銅剣 ……122
90 玉類 ……122
91 東山田一本杉遺跡Ⅰ区甕棺編年図 ……137～138
92 口縁部刻目・体部沈線模式図 ……139

Fig. 93 甕棺法量 ……141
94 墓地形成過程(1) ……144
95 墓地形成過程(2) ……145
96 墓地形成過程(3) ……146
97 墓地形成過程(4) ……147

東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区
Fig. 1 東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区遺構配置図 …155～156
遺 構
弥生時代から古墳時代にかけての遺構
Fig. 2 弥生時代～古墳時代前期遺構配置図 ……159
3 墓域遺構配置図 ……161
4 ＳＢ161・165竪穴住居跡 ……166
5 ＳＢ228・235竪穴住居跡 ……167
6 ＳＢ236・238竪穴住居跡 ……168
7 ＳＢ239・247竪穴住居跡 ……169
8 ＳＢ248・249竪穴住居跡 ……170
9 ＳＢ251・252・297竪穴住居跡 ……171
10 ＳＢ260・262竪穴住居跡 ……172
11 ＳＢ264・282竪穴住居跡 ……173
12 ＳＢ265・267竪穴住居跡 ……174
13 ＳＢ269・273竪穴住居跡 ……175
14 ＳＢ280・281・295竪穴住居跡 ……176
15 ＳＢ283・284・288竪穴住居跡 ……177
16 ＳＢ289・291竪穴住居跡 ……178
17 ＳＢ298・299・300竪穴住居跡 ……179
18 ＳＢ301・306竪穴住居跡 ……180
19 ＳＢ311・320・322竪穴住居跡 ……181
20 ＳＢ321・323竪穴住居跡 ……182
21 ＳＢ348・349竪穴住居跡 ……183
22 ＳＢ355・358・359・387竪穴住居跡 ……184
23 ＳＢ365竪穴住居跡 ……185
24 ＳＢ391・400竪穴住居跡 ……186

Fig. 25 ＳＢ393・394竪穴住居跡 ……187
26 ＳＢ05・06・07竪穴住居跡 ……188
27 ＳＢ08・09竪穴住居跡 ……189
28 ＳＢ10・13・45竪穴住居跡 ……190
29 ＳＢ14・15竪穴住居跡 ……191
30 ＳＢ16・22竪穴住居跡 ……192
31 ＳＢ27・28竪穴住居跡 ……193
32 ＳＢ29・31竪穴住居跡 ……194
33 ＳＢ35・36・37竪穴住居跡 ……195
34 ＳＢ40・41竪穴住居跡 ……196
35 ＳＢ42・47・49竪穴住居跡 ……197
36 ＳＢ51・52・53竪穴住居跡 ……198
37 ＳＢ54・55竪穴住居跡 ……199
38 ＳＢ60・63竪穴住居跡 ……200
39 ＳＢ64・72竪穴住居跡 ……201
40 ＳＢ76・78竪穴住居跡 ……202
41 ＳＢ81・82竪穴住居跡 ……203
42 ＳＢ83竪穴住居跡 ……204
43 ＳＢ179・224・243掘立柱建物跡 ……205
44 ＳＢ397・402・403掘立柱建物跡 ……206
45 ＳＢ404・405・406掘立柱建物跡 ……207
46 ＳＢ407・26掘立柱建物跡 ……208
47 ＳＢ30・57・91・92・93掘立柱建物跡 ……209
48 ＳＢ94・95掘立柱建物跡 ……210
49 ＳＸ302不明遺構 ……211
50 ＳＫ177土壙 ……212
51 ＳＫ210・213・220・223・324・336・357土壙 ……213
52 ＳＰ182・192土壙墓 ……214
53 ＳＰ194・195土壙墓 ……215
54 ＳＰ197・198・200土壙墓 ……216
55 ＳＰ203・205・206土壙墓 ……217
56 ＳＰ207・208土壙墓 ……218
57 ＳＰ209・211・212土壙墓 ……219

Fig. 58 ＳＰ214・215土壙墓 ……220
59 ＳＰ217・219土壙墓 ……221
60 ＳＰ221・222土壙墓 ……222
61 ＳＰ230・231・241土壙墓 ……223
62 ＳＰ244・253土壙墓 ……224
63 ＳＰ257・305土壙墓 ……225
64 ＳＰ04・25土壙墓 ……226
65 ＳＰ39土壙墓 ……227
66 ＳＪ199・202・218甕棺墓 ……228
67 ＳＪ24・190・261甕棺墓 ……229

奈良時代から平安時代前半にかけての遺構

Fig. 68 奈良・平安時代前半の遺構配置図 ……231
69 ＳＢ237掘立柱建物跡 ……237～238
70 ＳＢ240掘立柱建物跡 ……239
71 ＳＢ254掘立柱建物跡 ……241
72 ＳＢ255掘立柱建物跡 ……243
73 ＳＢ256掘立柱建物跡 ……244
74 ＳＢ258掘立柱建物跡 ……244
75 ＳＢ266・401掘立柱建物跡 ……245
76 ＳＢ372掘立柱建物跡 ……247
77 ＳＢ373掘立柱建物跡 ……248
78 ＳＢ398掘立柱建物跡 ……249
79 溝跡位置図及びセクション図 ……252
80 ＳＥ290井戸跡 ……260
81 ＳＫ186・242・250・286・304・307・308土壙 ……263
82 ＳＫ332・333・367・386・389・002土壙 ……265
83 ＳＫ285遺物出土状態 ……267
84 ＳＫ011・019土壙 ……268

平安時代後半から中世にかけての遺構

Fig. 85 平安時代後半～中世の遺構配置図 ……269
86 溝跡断面図 ……270

Fig. 87 ＳＥ245井戸跡実測図 ……271
88 井戸跡実測図 ……272
89 土壙実測図 ……273
90 土壙実測図 ……274
91 土壙実測図 ……275
92 土壙実測図 ……276
93 土壙墓実測図 ……277

遺　物

弥生時代から古墳時代にかけての遺物

Fig. 94 ＳＪ190・199甕棺 ……283
95 ＳＪ202・218・261甕棺 ……284
96 ＳＪ24甕棺・ＳＰ200土壙墓出土土器 ……285
97 ＳＢ165・235竪穴住居跡出土土器① ……287
98 ＳＢ235竪穴住居跡出土土器② ……288
99 ＳＢ235竪穴住居跡出土土器③ ……289
100 ＳＢ235竪穴住居跡出土土器④ ……290
101 ＳＢ236・238竪穴住居跡出土土器 ……291
102 ＳＢ239竪穴住居跡出土土器 ……292
103 ＳＢ247竪穴住居跡出土土器① ……293
104 ＳＢ247②・248竪穴住居跡出土土器 ……294
105 ＳＢ249竪穴住居跡出土土器① ……295
106 ＳＢ249竪穴住居跡出土土器② ……296
107 ＳＢ249竪穴住居跡出土土器③ ……297
108 ＳＢ249竪穴住居跡出土土器④ ……298
109 ＳＢ249竪穴住居跡出土土器⑤ ……299
110 ＳＢ251・252・260・262竪穴住居跡出土土器 ……300
111 ＳＢ264竪穴住居跡出土土器 ……301
112 ＳＢ267竪穴住居跡出土土器 ……302
113 ＳＢ269竪穴住居跡出土土器① ……304
114 ＳＢ269竪穴住居跡出土土器② ……305
115 ＳＢ269③・273・280・281竪穴住居跡出土土器 ……306
116 ＳＢ282竪穴住居跡出土土器① ……307

Fig. 117 S B282竪穴住居跡出土土器② ……308
118 S B282竪穴住居跡出土土器③ ……309
119 S B284・288竪穴住居跡出土土器 ……310
120 S B289竪穴住居跡出土土器 ……311
121 S B295竪穴住居跡出土土器 ……312
122 S B298竪穴住居跡出土土器① ……313
123 S B298竪穴住居跡出土土器② ……314
124 S B298竪穴住居跡出土土器③ ……315
125 S B299・300竪穴住居跡出土土器 ……316
126 S B301・306竪穴住居跡出土土器 ……317
127 S B311・320竪穴住居跡出土土器① ……318
128 S B320竪穴住居跡出土土器② ……319
129 S B321竪穴住居跡出土土器 ……320
130 S B323・348竪穴住居跡出土土器 ……321
131 S B349竪穴住居跡出土土器 ……322
132 S B355竪穴住居跡出土土器 ……323
133 S B359・365竪穴住居跡出土土器 ……325
134 S B387・391竪穴住居跡出土土器 ……326
135 S B393・394・400竪穴住居跡出土土器 ……327
136 S B05・06竪穴住居跡出土土器 ……329
137 S B07・08・09竪穴住居跡出土土器 ……330
138 S B10・13竪穴住居跡出土土器 ……331
139 S B15・16竪穴住居跡出土土器 ……333
140 S B22竪穴住居跡出土土器 ……334
141 S B27竪穴住居跡出土土器 ……335
142 S B29竪穴住居跡出土土器① ……336
143 S B29竪穴住居跡出土土器② ……337
144 S B29竪穴住居跡出土土器③ ……338
145 S B31・36・37竪穴住居跡出土土器 ……339
146 S B41竪穴住居跡出土土器 ……340
147 S B45・46竪穴住居跡出土土器 ……341
148 S B47・49・51竪穴住居跡出土土器 ……342
149 S B52・53竪穴住居跡出土土器 ……343

Fig. 150　ＳＢ54竪穴住居跡出土土器 ……344
151　ＳＢ55・63竪穴住居跡出土土器 ……346
152　ＳＢ64・72・76竪穴住居跡出土土器 ……347
153　ＳＢ78・81・83竪穴住居跡出土土器 ……348
154　ＳＸ302不明遺構出土土器① ……349
155　ＳＸ302不明遺構出土土器② ……350
156　ＳＸ302不明遺構出土土器③ ……351
157　ＳＢ57掘立柱建物跡，ＳＫ210・213・324土壙出土土器 ……352
158　ＳＫ50土壙出土土器・外来系土器 ……353
159　出土土製品 ……380
160　出土石器① ……382
161　出土石器② ……383
162　出土鉄器 ……385
163　出土装身具① ……387
164　出土装身具② ……388
165　弥生時代集落変遷図① ……392
166　弥生時代集落変遷図② ……393
167　ＳＢ235出土肩部に波状文，沈線文をもつ壺 ……394

奈良時代から平安時代前半にかけての遺物

Fig. 168　ＳＢ237掘立柱建物跡出土遺物 ……399
169　築地関連遺構出土須恵器 ……402
170　築地関連遺構出土土師器 ……405
171　ＳＤ164・303溝跡出土遺物① ……407
172　ＳＤ303溝跡出土遺物② ……409
173　ＳＤ303溝跡出土遺物③ ……411
174　ＳＤ017・021溝跡，ＳＥ290井戸跡出土遺物 ……412
175　ＳＫ250・285土壙出土遺物 ……414
176　ＳＫ285・286・307・386・011・019①土壙出土遺物 ……416
177　ＳＫ019土壙出土遺物② ……418
178　黒色包含層中及び表面採集遺物 ……420

平安時代後半から中世にかけての遺物


Fig. 179　ＳＤ187溝跡出土遺物実測図 ……423
180　ＳＫ226・242土壙，ＳＥ245・246井戸跡出土遺物実測図 ……425
181　ＳＫ268・272・292・293・296土壙，ＳＤ329溝跡出土遺物実測図 …427
182　ＳＤ335溝跡出土遺物実測図① ……429
183　ＳＤ335溝跡出土遺物実測図② ……431
184　ＳＤ335溝跡出土遺物実測図③ ……433
185　ＳＰ356土壙墓，ＳＫ368土壙出土遺物実測図 ……435
186　ＳＫ371土壙，ＳＥ01井戸跡，ＳＫ20土壙，ＳＤ33溝跡，ＳＥ38井戸跡出土遺物実測図 ……437
187　ＳＫ52土壙，ＳＤ61溝跡，ＳＫ62・68土壙，ＳＰ69土壙墓出土遺物実測図 ……439


今山八幡原遺跡


Fig. 1　今山八幡原遺跡周辺地形図 ……442
2　今山八幡原遺跡遺構配置図 ……443
3　ＳＢ037竪穴住居跡 ……444
4　ＳＫ017土壙 ……445
5　ＳＫ017土壙出土土器 ……445
6　ＳＥ005井戸跡 ……446
7　ＳＥ005井戸跡出土土器 ……447
8　ＳＥ008井戸跡 ……448
9　ＳＥ008井戸跡出土土器 ……448
10　ＳＥ009井戸跡 ……449
11　ＳＥ009井戸跡出土土器 ……450
12　ＳＥ012井戸跡 ……451
13　ＳＥ012井戸跡出土土器 ……451
14　ＳＥ013井戸跡 ……452
15　ＳＥ013井戸跡出土土器 ……452
16　ＳＥ020井戸跡 ……453
17　ＳＥ020井戸跡出土土器① ……454
18　ＳＥ020井戸跡出土土器② ……456
19　ＳＥ020井戸跡出土土器③ ……457
20　ＳＥ036井戸跡 ……458
21　ＳＥ036井戸跡出土土器① ……459
22　ＳＥ036井戸跡出土土器② ……460

# 表　目　次

東山田一本杉遺跡Ⅰ区


Tab. 1　甕棺観察表 ……106～119
2　甕棺口縁部組合せ ……127
3　甕棺体部組合せ ……129
4　甕棺口縁部・体部組合せ ……130
5　甕棺形式分類表 ……130～135
6　編年表 ……136


東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区


Tab. 1　弥生時代遺構一覧表 ……161～165
2　奈良・平安時代前半の遺構一覧表 ……234
3　平安時代後半～中世の遺構一覧表 ……277～279
4　弥生時代～古墳時代の土器観察表 ……353～379
5　ガラス小玉一覧表 ……386・389・390・391
6　奈良・平安時代前半の遺物観察表 ……398～419
7　平安時代後半～中世の遺物観察表 ……422～438

# 図 版 目 次

東山田一本杉遺跡Ⅰ区（遺構）

PL. 1 遺跡周辺航空写真
2 遺跡周辺航空写真
3 遺跡全景
4 遺跡近景
5 遺跡近景
6 ＳＪ001・002・004甕棺墓
7 ＳＪ005・007・009甕棺墓
8 ＳＪ010・011・012甕棺墓
9 ＳＪ013・014・017・022甕棺墓・ＳＣ018石棺墓
10 ＳＪ019・020・023甕棺墓・ＳＰ024土壙墓
11 ＳＪ025・026・027甕棺墓
12 ＳＪ029・030・032・088甕棺墓
13 ＳＪ034・035・037・051甕棺墓
14 ＳＪ036・039甕棺墓
15 ＳＪ038・040・041・064甕棺墓
16 ＳＪ042・043・044・045・046甕棺墓
17 ＳＪ047・048・050・052・053甕棺墓
18 ＳＪ054・055・057・059甕棺墓
19 ＳＪ060・065・066・067甕棺墓
20 ＳＪ071・072・074・126・135甕棺墓
21 ＳＪ075・076・077・078甕棺墓
22 ＳＪ079・080・081甕棺墓
23 ＳＪ082・083・084・085・091甕棺墓
24 ＳＪ086・087・089甕棺墓
25 ＳＪ092・093・099・108甕棺墓
26 ＳＪ111・113・115甕棺墓
27 ＳＪ121・122・123甕棺墓
28 ＳＪ124・131・137甕棺墓
29 ＳＪ127・129・130・136甕棺墓
30 ＳＪ139・140・150・158甕棺墓

東山田一本杉遺跡Ⅰ区（遺構）


PL. 31 ＳＪ141・142・143・144甕棺墓

32 ＳＪ145・146・147・148・149甕棺墓

33 ＳＪ152・153・155甕棺墓

34 ＳＪ156・157・158甕棺墓

35 ＳＪ159・160・161甕棺墓

36 ＳＰ016・036石蓋土壙墓

37 ＳＰ151石蓋土壙墓

38 ＳＰ056・073・138配石土壙墓

39 ＳＰ006・090配石土壙墓

40 ＳＰ049・058・125土壙墓

41 ＳＣ018・110石棺墓

42 ＳＸ028祭祀土器群出土状況

43 ＳＫ070・106・112・114土壙

44 ＳＫ117・119・133土壙


東山田一本杉遺跡Ⅰ区（遺物）


PL. 45 ＳＪ002下・004下・005下・007下・009下・010下甕棺

46 ＳＪ011上下・012下・013下・014下・019下甕棺

47 ＳＪ020下・021下・022下・023上下・025下・027甕棺

48 ＳＪ026上下・029上下・030下甕棺

49 ＳＪ032上・034下・035上下・036上下甕棺

50 ＳＪ037上下・038上下・039上下甕棺

51 ＳＪ040下・041下・042上下・043上下甕棺

52 ＳＪ044・045・047下・048上・050上下甕棺

53 ＳＪ051上下・052上下・053上下甕棺

54 ＳＪ054上下・055上下・059上下甕棺

55 ＳＪ057下・060下・064下・071上下・072下甕棺

56 ＳＪ074上下・075上下・077上下甕棺

57 ＳＪ078上下・079上下・081上下甕棺

58 ＳＪ083上下・084上下・085上下甕棺

59 ＳＪ086・087上下・088上下・089下甕棺

60 ＳＪ092上下・093下・099上下甕棺

61 ＳＪ108上下・111上下・113上下甕棺

東山田一本杉遺跡Ⅰ区（遺物）

PL. 62 ＳＪ115上下・121下・122下・124上下甕棺
63 ＳＪ126上下・127上下・129上下甕棺
64 ＳＪ130上下・131上下・135上下甕棺
65 ＳＪ137下・139上下・142上下甕棺
66 ＳＪ141下・143上下・144下・145下・146下甕棺
67 ＳＪ147上下・148上下・149上下甕棺
68 ＳＪ150上下・153下・156下・158上下甕棺
69 ＳＪ157上下・159上下・160下・161下甕棺
70 甕棺墓出土玉類・銅剣
71 ＳＸ028祭祀関係遺構出土土器

東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区（遺構）

PL. 72 遺跡近景
73 ＳＢ165・235・238竪穴住居跡
74 ＳＢ247・248・249・264竪穴住居跡
75 ＳＢ267・269・273・298竪穴住居跡
76 ＳＢ298・299・300・355・359・365・387竪穴住居跡
77 ＳＢ301・348・391・400竪穴住居跡
78 ＳＢ393・394・54・64竪穴住居跡
79 ＳＢ05～10・36・37・40・41竪穴住居跡
80 ＳＢ76竪穴住居跡，ＳＢ179掘立柱建物跡
81 ＳＢ26掘立柱建物跡，ＳＫ220土壙，ＳＸ302不明遺構
82 ＳＫ210・223・50土壙
83 ＳＰ182・194・197土壙墓
84 ＳＰ200・207・209土壙墓
85 ＳＰ212・214・230土壙墓
86 ＳＰ244・257・04土壙墓
87 ＳＪ199・202・261甕棺墓
88 遺跡全景
89 掘立柱建物跡等近景
90 ＳＢ237掘立柱建物跡・柱穴
91 ＳＢ237掘立柱建物跡柱穴セクション
92 ＳＢ240・254掘立柱建物跡

東山田一本杉遺跡II・III区，西山田二本松遺跡B区（遺構）

PL. 93 SB255・256掘立柱建物跡
94 SB258・266掘立柱建物跡
95 SB266・401掘立柱建物跡・柱穴セクション
96 SB372掘立柱建物跡・柱穴セクション
97 SB373掘立柱建物跡・柱穴セクション
98 築地関連遺構セクション（SD158・159・160溝跡）
99 築地関連遺構セクション（SD174・175・178溝跡）
100 築地関連遺構（SD316・327・328溝跡）
101 築地関連遺構（SD343・345・346溝跡）
102 築地関連遺構（SD350・366・374溝跡）
103 築地関連遺構（SD374溝跡セクションNo.1・2，SD375溝跡）
104 SD303・17溝跡
105 SE290井戸跡，SK196・242土壙
106 SK250・285・307土壙
107 SK332・02・19土壙
108 SD275・335・17溝跡
109 SE245・246・371・01・38井戸跡
110 SK171・191・193・204・268・271・272土壙
111 SK277・278・293・360・368・03・20土壙
112 SP356・69土壙墓

東山田一本杉遺跡II・III区，西山田二本松遺跡B区（遺物）

PL. 113 SJ190下・202上下・218下・24甕棺
114 SJ218上・261下甕棺，SB235竪穴住居跡出土土器
115 SB235竪穴住居跡出土土器
116 SB238・247・249竪穴住居跡出土土器
117 SB249竪穴住居跡出土土器
118 SB251・252・264・269竪穴住居跡出土土器
119 SB269竪穴住居跡出土土器
120 SB282・289竪穴住居跡出土土器
121 SB298竪穴住居跡出土土器
122 SB306・320・321・355・359・365竪穴住居跡出土土器
123 SB05・07・09・15・22・27竪穴住居跡出土土器

東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区（遺物）

PL. 124　ＳＢ29竪穴住居跡出土土器
125　ＳＢ41・54・76竪穴住居跡出土土器
126　ＳＫ210・324土壙，ＳＸ302不明遺構出土土器
127　玉類，鉄器，石器
128　ＳＢ237掘立柱建物跡，築地関連遺構出土遺物
129　築地関連遺構，ＳＤ303溝跡出土遺物
130　ＳＤ303・017・021溝跡，ＳＥ290井戸跡出土遺物
131　ＳＫ250・285土壙出土遺物
132　ＳＫ286・307・11・19土壙出土遺物
133　黒色包含層出土，表面採集遺物
134　ＳＤ187溝跡，ＳＫ226・242土壙，ＳＥ245井戸跡出土遺物
135　ＳＥ246井戸跡，ＳＫ292・296土壙，ＳＤ329溝跡出土遺物
136　ＳＤ335溝跡出土遺物
137　ＳＤ335溝跡，ＳＰ356土壙墓出土遺物
138　ＳＫ368・371土壙，ＳＤ33溝跡，ＳＥ38井戸跡出土遺物
139　ＳＫ52・62土壙，ＳＤ61溝跡，ＳＰ69土壙墓出土遺物

今山八幡原遺跡（遺構）

PL. 140　遺跡全景
141　遺跡近景，全景
142　ＳＥ005・008・009井戸跡
143　ＳＥ012・013・020井戸跡
144　ＳＥ036井戸跡，ＳＢ037住居跡，ＳＫ017土壙
145　ＳＥ020・036井戸跡遺物出土状況

今山八幡原遺跡（遺物）

PL. 146　ＳＫ017土壙，ＳＥ005井戸跡出土遺物
147　ＳＥ008・009井戸跡出土遺物
148　ＳＥ012・013井戸跡出土遺物
149　ＳＥ020井戸跡出土遺物
150　ＳＥ020井戸跡出土遺物
151　ＳＥ036井戸跡出土遺物
152　ＳＥ036井戸跡出土遺物

# 第1章　調査の概要

# 1．調査の経過

九州横断自動車道建設に係る埋蔵文化財発掘調査事業については，昭和44年６月から開始した分布調査をその嚆矢とする。これは九州地方建設局からの委託により，佐賀県教育委員会が県内の路線予定区域の全域（採石・採土場等の周辺地区も含む）を対象に行ったものである。その後も昭和48年９月の日本道路公団による計画路線の発表を受け，昭和51年12月まで詳細な分布調査を行った。その結果，路線全長約91.9kmにおいて総数209箇所，総面積1,350,000㎡にも及ぶ埋蔵文化財の包蔵地を確認した。

この確認調査結果に基づき，工事計画との調整を図りながら，昭和52年１月から開始した本調査は鳥栖－佐賀大和，次いで佐賀大和－武雄，武雄－嬉野，佐賀大和ＩＣと展開し，調査開始から14年目（確認調査開始から起算すると21年目）にあたる昭和63年度の鳥栖ＩＣ（迂回道路建設）をもって全ての発掘調査が終了した。

このうち今回の報告に係わる佐賀郡大和町内の嘉瀬川以西の路線区間は，大和西工事区内の総延長4.1kmの部分であるが，確認調査の結果，路線内には本調査が必要な地区が30箇所あり，その総面積は167,600㎡にも及ぶことが判明した。そこで1985年（昭和60年）１月から開始する予定のコンクリートボックス設置工事，および1986年７月開始予定の路線内全域の盛土工事に対応できるよう，調査予定区域内の農作物等の上物の撤去，重機の進入路の確保，発掘調査区の取り扱いについての工事担当者の注意徹底等についての調整・申し入れを経て，1982年より東山田Ａ遺跡（2,800㎡），東山田Ｂ遺跡（1,400㎡）の２遺跡に着手した。

これら各遺跡の調査報告は昭和54年の発刊以来継続しており，平成５年度までに終了している17集に，今後作成する予定の３集を加えた全20集の刊行によって，本事業の総てを終了する計画である。

第１集　大門西遺跡
第２集　香田遺跡
第３集　西原遺跡
第４集　金立開拓遺跡
第５集　久保泉丸山遺跡
第６集　下石動遺跡
第７集　撰分遺跡
第８集　長尾開拓遺跡
第９集　礫石遺跡
第10集　老松山遺跡
第11集　惣座遺跡
第12集　西石動遺跡
第13集　志波屋六本松乙遺跡
第14集　都谷遺跡
第15集　朝日北遺跡
第16集　切畑遺跡
第17集　東福寺遺跡
第18集　東山田一本杉遺跡（本報告書）
第19集　西山田遺跡（予定）
第20集　内野山北窯跡（予定）

さて，今回第18集で報告するのは，佐賀郡大和町の嘉瀬川以西に所在する東山田一本杉遺跡Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区，今山八幡原遺跡の３遺跡である。

東山田一本杉遺跡については調査の進捗からⅠ区・Ⅱ区・Ⅲ区に区分した。Ⅰ区は嘉瀬川西岸の低位段丘の南側縁辺部で，昭和58年11月から昭和59年３月まで調査を行った。調査面積は500㎡で，ミカン園造成時の削平が著しいが，弥生時代前期末から後期にかけての甕棺墓を主体とする埋葬遺構群が約130基検出された。ただし，これはその占地形態から墓域の一部に相当し，主要部分は調査区の北側に存在すると思われる。

Ⅱ・Ⅲ区はⅠ区の西側近接地で，調査面積は8,000㎡である。調査はⅠ区と一時期平行して昭和59年１月から昭和60年３月まで行った。Ⅱ・Ⅲ区において検出した遺構の様相はⅠ区とは異なり，弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけて営まれた集落跡と墳墓群，及び奈良・平安時代の国府関連施設もしくは官人の邸宅と思われる掘立柱建物群と築地関連遺構が中心である。

西山田二本松遺跡Ｂ区は東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区の西側隣接地で，遺跡の内容から両遺跡は元来同一の遺跡と判断されるため，今回合わせて報告を行うものである。

遺跡は嘉瀬川西岸約300ｍの低位段丘上に立地しており，2,500㎡が調査対象となった。調査は昭和61年４月に実施し，弥生時代から中世に及ぶ竪穴住居跡・土壙墓等を検出しており，東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区周辺に中心を置く集落跡の縁辺部と思われる。

今山八幡原遺跡は複合扇状地の緩斜面上に形成されており，今回の調査面積は6,000㎡である。検出した遺構は平安時代の竪穴住居跡・井戸跡・溝跡等で，この地域に中心を置く集落跡の一部分と思われるが，調査区全体に広がる近世以降の溝による削平もあって遺構の残存密度が粗であり，遺跡の性格の把握には今少し資料の集積が必要である。

この大規模な発掘調査の全成果がまとまるには今少しの時間が必要だが，これまではほとんど把握されていなかった佐賀平野の，しかも遺跡の密度が殊に高い脊振山系の山麓部を二分する形で長大な“試掘溝”をひたすら穿ったことにより，線的であるにせよ莫大な量の良質な情報を得た反面，遺跡の面的な広がりの中では逆に途方もない損失を招いたこともまた事実である。このことは昭和54年度以来の続刊である本報告書の執筆担当者の誰もが銘じていることであり，咀嚼の不十分な情報を世に送り出すことへの不安と自責の念を禁じ得ない。

さて，これら遺跡のほとんどは事前協議を経て記録保存の方法を採ってきたが，昭和52年の調査開始時点で，用地買収等の都合上最初の予定地となった佐賀市の久保泉丸山遺跡が，その重要性に対する日本道路公団の理解と協力により，調査開始から幾多の調整をへて６年余りの後に移設による全面保存の措置が講じられたことは，本県の文化財保護行政にとって大きな飛躍となった。遺跡の保存と活用という観点から，現在では野外の歴史公園としてのみならず，自動車道利用者からも憩いの場として親しまれており，文化財保護の一つのケースとして，また保護行政の取るべき姿勢の一つとしてその存在意義は大きい。

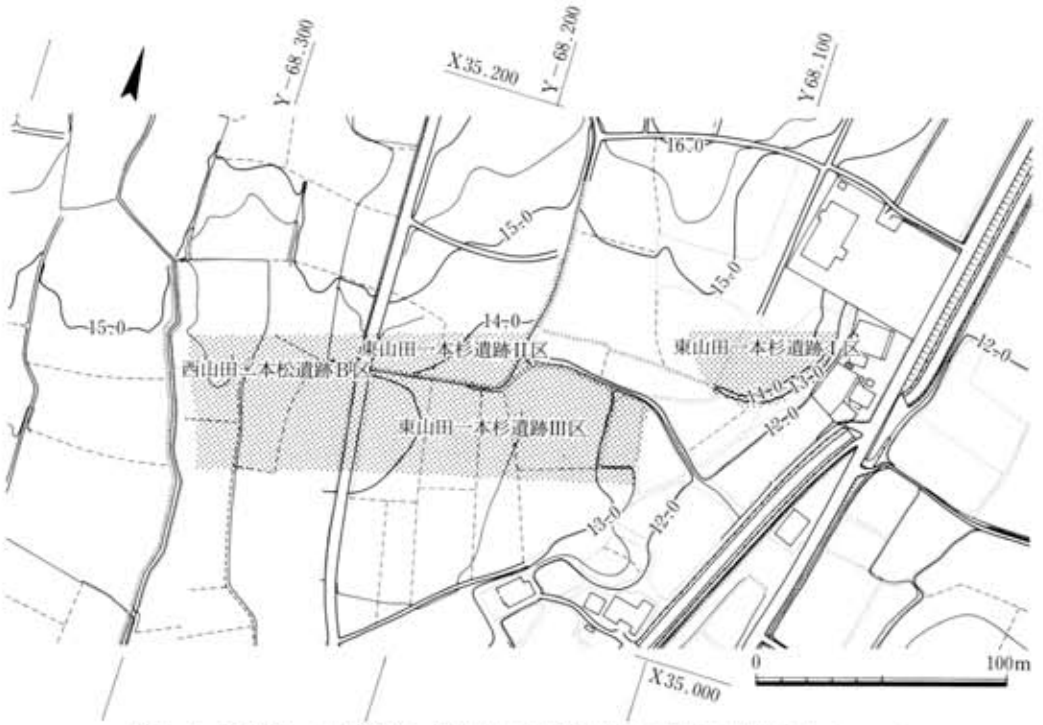



Fig. 1　東山田一本杉遺跡，西山田二本松遺跡B区調査区位置図（1/3,000）

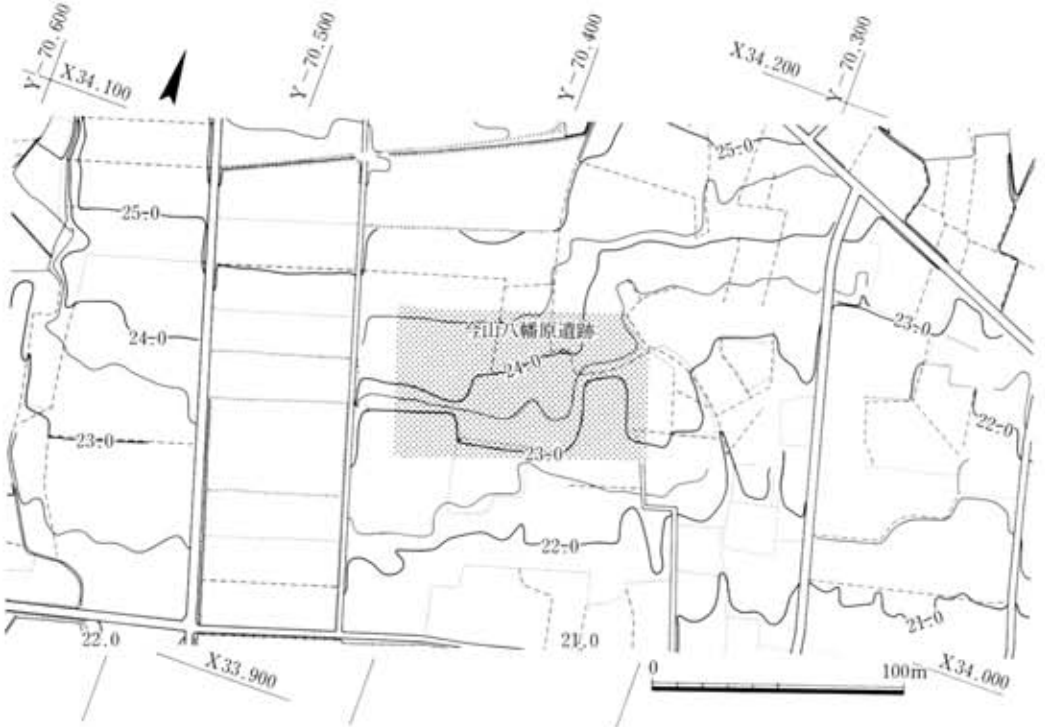



Fig. 2　今山八幡原遺跡調査区位置図（1/3,000）

# 2. 調　査　組　織

東山田一本杉遺跡Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区，今山八幡原遺跡の調査は，九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として昭和58年度～61年度に実施した。その発掘調査および整理・報告に係る組織は下記のとおりである。

《発掘調査》

総　括

| | | |
|---|---|---|
| 教　育　長 | 古藤　浩（昭和58・59年度） | 志岐常文（昭和59～61年度） |
| 教育次長 | 大塚正道（昭和58年度） | 高橋一之（昭和58～60年度） |
| | 釈　憲正（昭和59年度） | 堤　清行（昭和60年度） |
| | 古賀信夫（昭和60・61年度） | 野角計宏（昭和61年度） |
| 文化課長 | 中島信行（昭和58年度） | 北村一義（昭和59～61年度） |
| 参　　事 | 高島忠平（昭和60年度） | |
| 課長補佐 | 山田陸三（昭和58・59年度） | 高島忠平（昭和58・59年度） |
| | 宮原義幸（昭和60・61年度） | 尾形善郎（昭和60・61年度） |

発掘調査総括

| | | |
|---|---|---|
| 参　　事 | 高島忠平（昭和60年度） | |
| 課長補佐 | 高島忠平（昭和58・59年度） | 尾形善郎（昭和60・61年度） |
| 調査第1係長 | 中牟田賢治（昭和58～61年度） | |

調査担当

〈東山田一本杉遺跡Ⅰ区〉（昭和58年度）

| | |
|---|---|
| 文化財保護主事 | 田平徳栄 |
| 嘱　　託 | 本田秀樹 |

〈東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区〉（昭和59年度）

| | |
|---|---|
| 主　　査 | 田平徳栄 |
| 嘱　　託 | 舩底聡一 |

〈西山田二本松遺跡Ｂ区〉（昭和60年度）

| | |
|---|---|
| 主　　査 | 天本洋一 |
| 指導主事 | 副島正道 |
| 嘱　　託 | 樋口秀信 |
| 嘱　　託 | 本田秀樹 |

〈西山田二本松遺跡Ｂ区〉（昭和61年度）

| | |
|---|---|
| 主　　査 | 天本洋一 |
| 指導主事 | 副島正道 |
| 文化財保護主事 | 樋口秀信 |

〈今山八幡原遺跡〉（昭和60年度）

| | |
|---|---|
| 主　　査 | 天本洋一 |
| 指導主事 | 副島正道 |
| 嘱　　託 | 本田秀樹 |

庶　務

庶務係長　中野安正（昭和58年度）　菊池文夫（昭和59～61年度）

主　　査　山下行夫（昭和59～61年度）

主　　事　山口　勝（昭和58年度）　山下行夫（昭和58年度）

井原裕子（昭和58・59年度）　東　英明（昭和58～60年度）

鶴田明美（昭和60・61年度）　西岡真一（昭和61年度）

《整理・報告》

〈平成６年度〉

総　括

教育長　林田重人

教育次長　深川弘一　土居　正（前任）　月岡英人（後任）

文化財課長　高島忠平

参　　事　木下　巧

課長補佐　瀬戸明廣　田平徳栄

整理・報告

〈東山田一本杉遺跡Ⅰ区〉

課長補佐　田平徳栄

〈東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区〉

調査係長　天本洋一

文化財保護主事　樋口秀信

〃　渋谷　格

〈西山田二本松遺跡Ｂ区〉

調査係長　天本洋一

文化財保護主事　樋口秀信

〃　渋谷　格

〈今山八幡原遺跡〉

指導主事　副島正道

庶　務

文化課庶務企画係長　岩瀬茂生

主　　査　古屋きよみ　鷲崎義彦　池田　学

嘱　　託　谷本祐子

# 第２章　地理的・歴史的環境

# 1．地理的環境

佐賀県の中央部から南東部に広がる佐賀平野は，北方からの脊振山，西方の杵島～経ヶ岳・多良岳の各山系と接し，東方は筑後川を越えて（筑後平野と改称）水縄・筑肥の山系を仰ぎ，南の有明海へと注ぐ，洪積台地と沖積低地からなる複合扇状地である。

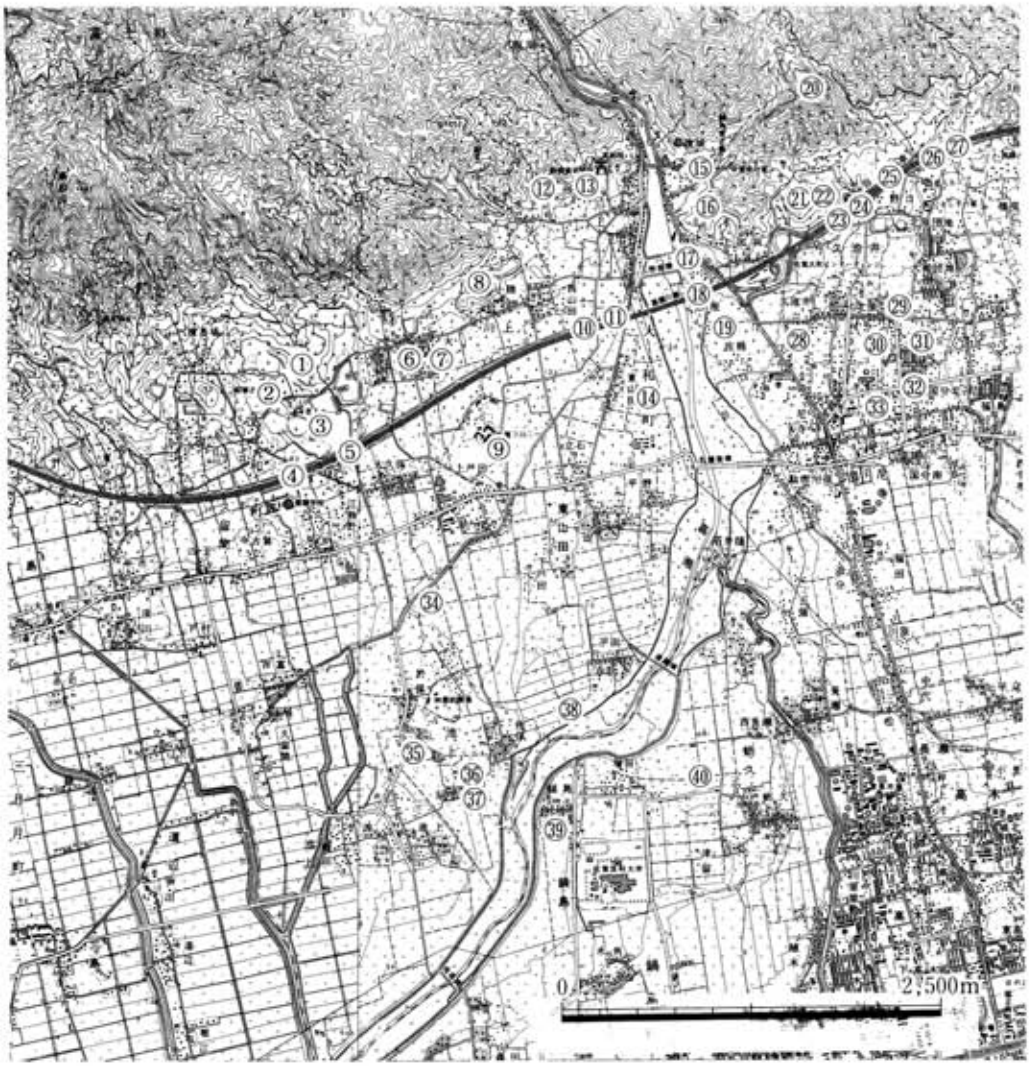
大和町はその佐賀平野の北辺中央部に位置しており，北には富士町・三瀬村，東には佐賀市・脊振村，南には佐賀市，西には三日月町がそれぞれ隣接する北高南低の細長い地域である。北部域は脊振山系の鬼原山・金敷城山・高取山・春日山等から派生する丘陵地帯であり，花崗岩塊を基盤とするその地質組成は，南部域の第四紀層の沖積低地とは際立った対比を見せている。

大和町の山間部の谷底平野を開析しながら流れる名尾川・柚ノ木川・小副川川・天川の各小河川はやがて合流し，嘉瀬川となって町の中央部を北から南へ貫流した後，多布施川等数本の分流を伴って佐賀市へ流れ込むが，この過程で山地帯及び標高15～40mの洪積台地を侵食しながら両岸に見事な景観を造り出している。特に渓口周辺の川上峡は“九州の嵐山”と賞される程の山紫水明の地で，上流の富士町古湯から下流の本町石井樋までは川上・金立県立自然公園に指定されている。

また大和町から佐賀市にかけての標高５～15mの一帯は，嘉瀬川及び巨勢川の氾濫によって生み出された低地であり，しかも脊振山系から延びた洪積台地がそのあたりで埋没しているため，非常に複雑な微地形が形成されている。弥生時代以降のこの地における歴史は，この独特な地理的環境の有効利用の歴史であったと言える。

さて東山田一本杉遺跡が所在する東山田地区はこの大和町の南部に位置しており，遺跡は地区の東側を流れる嘉瀬川の段丘上に所在する。また西山田二本松遺跡が所在する川上地区は東山田地区の南西側隣接地であるが，東山田地区も含めこの地域一帯は佐賀平野の中央部に位置する嘉瀬川扇状地の扇頂部にあたり，佐賀平野はここより東西に扇を広げながら南方向へと緩やかに傾斜する。

今山八幡原遺跡が所在する久留間地区は，脊振山系の高取山（標高441m）から南へ延びる丘陵と，嘉瀬川中流域から三日月町の織島地区にいたる低平な平野部（標高5.7m前後）から成っており，湿田の中に島状に点在する微高地が古代から現代に至るまでの生活の拠点として利用されている。




①今山古墳群
②船塚古墳
③大願寺二本松遺跡
④今山八幡原遺跡
⑤大久保三本松遺跡
⑥大願寺廃寺
⑦大願寺一本松遺跡
⑧小隈古墳
⑨七ヶ瀬遺跡
⑩西山田二本松遺跡（B区）
⑪東山田一本杉遺跡
⑫水上古墳群
⑬星隈古墳群
⑭東山田三本松遺跡
⑮高畠古墳
⑯玉林寺古墳群
⑰惣座六本杉遺跡
⑱惣座遺跡
⑲肥前国庁跡
⑳春日山城跡
㉑前隈山前方後円墳
㉒前隈山古墳群
㉓春日遺跡
㉔久池井C遺跡
㉕礫石A遺跡
㉖礫石B遺跡
㉗久池井一本松遺跡
㉘久池井遺跡
㉙北原遺跡
㉚宝満遺跡
㉛春日丘遺跡
㉜国分寺跡
㉝築山前方後円墳
㉞於保三本松B遺跡
㉟池上二本松B遺跡
㊱風楽寺古墳
㊲佐保遺跡
㊳本村籠遺跡
㊴鍋島本村南遺跡
㊵増田遺跡群

Fig. 3　東山田一本杉遺跡，西山田二本松遺跡B区，今山八幡原遺跡周辺遺跡分布図

# 2. 歴史的環境

今回報告を行うのは大和町内に所在する遺跡であるが，三日月町から大和町，佐賀市を経て神埼町，更に鳥栖市へと至る脊振山系の南裾部一帯は，佐賀県内でも有数の遺跡密集地帯で，連綿と続く物質文化及び精神文化を表象する人間活動の痕跡が数多く遺存している。

まず調査地区を含む周辺地域の各時代における様相を概括してみよう。最初に先土器時代についてであるが，この時代の単独遺跡として確認されたものは数例に過ぎず，しかも断片的な資料がほとんどで，この点同じ県内でも遺跡密度が非常に高い東松浦半島，殊に上場台地一帯とはその状況が大きく異なるが，水晶を原材としたナイフ形石器が出土した久池井一本松遺跡[1]や黒曜石製のナイフ形石器が出土した惣座遺跡[2]，安山岩系の石材を用いた台形石器が出土した礫石遺跡[3]のほか，周辺には佐賀市の藤附E遺跡[4]・梅ヶ谷遺跡，富士町の地蔵平遺跡・小ヶ倉遺跡や，サヌカイトの産地という好条件を生かした石器製作遺跡と考えられる三日月町の老松山遺跡[5]・岡本遺跡等が点在する。

縄文時代に移行すると，主に丘陵の南側端部が生活の場となるが，低地でも微地形を利用して居住域を設けていたことが最近の調査によって確認されている。例えば佐賀市の東名遺跡では標高3mの低湿地から早期末の集石遺構と共に人骨や遺物が出土しており，同時代の集落論を再考する契機となった。また同市の金立開拓遺跡[6]では早期・前期および後期の住居跡，土壙，溝，甕棺墓等から多量の土器と共に十字形石製品，円盤形土製品等が出土している。大和町内でも押型文土器，曽畑式土器，阿高式土器等が出土した小隈遺跡，今山遺跡，晩期の壺棺が出土した大願寺二本松遺跡[7]や，県内でも数例しかない晩期の住居跡が確認された春日遺跡[8]等がある。また晩期から弥生時代前期への過渡期の支石墓，甕棺墓，壺棺墓等が検出され，埋葬形態の変遷を辿る上で重要な資料を提供した礫石A・B遺跡や，佐賀市の久保泉丸山遺跡[9]，黒土原遺跡等も周辺に所在する。

このように縄文時代については早期から確認例があり，それが晩期以降埋葬施設を中心に大幅に増加しているが，これは社会現象の変化，殊に定住化および集落形成の萌芽と考えることができる。

弥生時代への移行に伴って山麓部及び低位の洪積台地を中心に集落が形成され始める。久池井C遺跡[10]では前期の竪穴住居跡，土坑等が確認され，春日B遺跡では中期初頭の竪穴住居跡と同時期の土器を多量に包含する溝が検出されている。惣座遺跡[11]は中・後期の甕棺墓を主体とする埋葬施設と後期の大規模な環濠集落から構成されているが，中期前半頃の銅剣・銅矛の鋳型片と舶載鏡片，小型仿製鏡，ガラス玉約7,000点が出土しており，特に後期前半頃と思われる高純度の銀製指輪3点は日本最古の出土品で，楽浪漢墓からの出土品との類似が指摘されて

いる。また佐賀平野において支石墓の最初の調査例となった南小路支石墓[12]や広形銅戈が出土した南小路遺跡，本書で報告する東山田一本杉遺跡，西山田二本松Ｂ遺跡，更に池上二本松遺跡，池上二本松Ｂ遺跡，佐保遺跡等が集中している。佐賀市の鍋島本村遺跡では中期前半の遺構が主体で，細形銅剣，細形銅戈鋳型，石製把頭飾等が出土しており，同市の増田遺跡[13]群では500基を越える甕棺墓，木棺墓が検出されていることから，中期前半には標高８ｍ前後の嘉瀬川中流域の低位の洪積台地（鍋島台地，増田台地）及び周辺の低湿地が既に開発されていたことがわかる。大和町内においても嘉瀬川中流域に位置する本村籠遺跡[14]から多紐細文鏡，青銅製鉇等が出土している。また池上台地上の池上二本松Ｂ遺跡[15]では方形周溝墓が確認されているが，これは古墳時代前期にこの地区に出現する前方後円墳の発生を考える上で重要な資料である。

このように稲作の開始と共に形成された定住型の集落は，後期には大集落へと発展するが，これは沖積作用によって形成された山麓南側の肥沃な低地における生産性の向上によって，大集落の集団性の維持が可能となったことに起因すると思われる。

古墳時代の遺跡の分布は弥生時代のそれと似通っているが，特筆すべきは古い様相を呈する前方後円墳の存在であろう。県内に分布する40余基のうち，佐賀平野における最古相を有する佐賀市金立町の銚子塚古墳[16]をはじめ，４世紀末から６世紀前半までに築かれた小隈山古墳[17]，池の上古墳，前隈山古墳[18]，風楽寺古墳，道善寺古墳等11基が嘉瀬川両岸一帯に集中している。なかでも県指定史跡の船塚古墳[19]は葺石積みの３段築成で，その主軸長114ｍは県内最大規模を誇り，周辺に陪塚と思われる円墳７基を伴っている。

その後６世紀後半から７世紀前半になると様相は一変する。現在でもその一部が礫石古墳群や男女山古墳群あるいは久池井一本松古墳群として知られているように，多数の群集墳が築かれ始めるが，それも７世紀後半を境に急速に衰退しており，脊振山系南麓ではわずかに神埼町の天神尾古墳群が確認されているに停まる。

おそらくは弥生時代に誕生し，古墳時代前期頃からこの地域を統べていた勢力（佐嘉君）の存在が考えられるが，後期になると脊振山系南麓の墳墓は群集墳に替わることから，その勢力が6世紀を境に他地域へ移動するか，別のより強大な勢力に吸収されてしまった感がある。

また集落跡については惣座遺跡で前期，春日遺跡で後期の住居跡がそれぞれ検出されているが，現時点では地域を総じて論じるには資料的に不十分である。

なお本書で報告する（東）山田の地名は，安閑天皇の皇后である春日山田皇女の“女代田”に由来すると考えられ，『肥前国風土記』にも討伐された土蜘蛛の名として登場していることから，奈良期以前に既に地名として存在していたと考えられ，『和名抄』にも山田郷の記述が見られる。また川上については『肥前国風土記』に「山の川上に荒神あり。往来のなかば生き，なかば殺さる。」とあり，嘉瀬川（川上川）の上流域がそのまま地名化したもので，同様の由来を

もつものに武雄市の川上等がある。

奈良時代に移ると，この地は一挙に佐賀平野の政治的中枢となるが，これは8世紀前半代の肥前国府[20]の設置に起因する。国庁は104.5m×77.2mの築地と側溝に囲まれた内部に，南門から前殿・正殿・後殿と並び，正殿両脇から出た回廊が築地に達する部分の前面に両脇殿を配する大宰府政庁（II期）と類似している。なお国庁域については従来より考古学をはじめ，文献史学や地理学の見地からも意見が述べられているが，1975年以来佐賀県教育委員会及び大和町教育委員会の調査を経て，現在では惣座地区の南側の微高地上に推定されている。近接する久地井B遺跡[21]では行政機関もしくは居館の存在を窺わせる計画的に配置された大型建物群が検出され，惣座遺跡においても整然と配置された大型の倉庫群（正倉跡？）が確認されている。またこれらとは嘉瀬川を挟んで対峙する位置にある東山田一本杉遺跡においては数時期にわたる国府関連建物群が見つかっている。

また国分寺・国分尼寺をはじめ大願寺，あるいは後世肥前一の宮となる河上神社(淀姫神社)及びそれと一体である実相院，玉林寺，万寿寺（お不動さん）等が相次いで造営され，文化的中心地としての役割も果たした。

また主要地方道としての肥前西海道（延喜道）が整備されたが，これについては平成3年度より平成6年度まで佐賀県教育委員会の確認調査が実施されている。

平安時代末期に造営された築山瓦経塚[22]は，天養元年（1144年）10月に僧定照らを願主として妙法蓮華経一部八巻，無量義経一巻，観普賢経一巻，阿弥陀経一巻，般若心経一巻，法華懺法一巻及び仏画を瓦に刻み，平積みして埋納したいわゆる“瓦経”として著名である。

中世以降は春日山城跡，実相院遺跡，西山遺跡等城跡や寺院跡関連の遺跡が多く立地していることからわかるように脊振山系南麓が歴史の表舞台となる。河上神社，実相院には知行安堵や訴訟関係を中心とする中世古文書が数多く遺存しているが，その内容からこの地域は南北朝期から室町初期にかけて田畑・屋敷・園等の開墾を通して形成されて行ったと考えられる。

戦国時代以降この地では歴史的事件が多く発生している。天文14年（1545年）に起きた河上社頭の戦い[23]は，後に肥前の支配者となった龍造寺氏が，当時の主家少弐氏を攻め滅ぼす直接的な動機となった出来事であり，弘治3年（1557年）肥前国唯一の霊場であった春日山を舞台にした龍造寺隆信と神代勝利との戦闘は両者の確執に終止符を打った激闘として有名である。また元亀元年（1570年）肥前に来襲した豊後の太守大友宗麟とそれに呼応した肥前諸将の総勢30,000余の軍勢の包囲によって龍造寺隆信は窮地に立つが，隆信の義兄弟で旗下の鍋島信昌(のちの直茂)が僅か300余の手勢を率いて大友軍に夜襲をかけ，宗麟の甥で総大将の大友八郎親貞を討ち取った今山の戦いは，鍋島家の名声を確固たるものにした出来事である。この合戦は後世“佐賀の桶狭間”と呼称されるほど著名で，今山古戦場跡は現在大友氏縁の地として大友公園と呼ばれている。

その後東山田地区は江戸期に小城藩領となり，明治22年以降は川上村，大和村を経て昭和34年から大和町の大字となっている。また久留間地区も江戸期から明治22年までは久留間村として小城藩領として佐保川島郷に属し，その後小城県，佐賀県，三瀦県，長崎県を経て佐賀県の所属となり，今日に至る。

＜註＞

（１）田平徳栄「久池井一本松遺跡」（『礫石遺跡』佐賀県教育委員会）1989

（２）樋渡敏暲ほか『肥前国府跡Ⅰ』（佐賀県教育委員会）1978
樋渡敏暲ほか『肥前国府跡Ⅱ』（佐賀県教育委員会）1981

（３）多々良友博「礫石Ｂ遺跡の縄文土器」（『礫石遺跡』佐賀県教育委員会）1989

（４）高瀬哲郎「藤附Ｅ遺跡」（『香田遺跡』佐賀県教育委員会）1981

（５）松尾吉高「老松山遺跡」（佐賀県教育委員会）1989

（６）森田孝志ほか『金立開拓遺跡』（佐賀県教育委員会）1984

（７）田中穣二ほか『大願寺二本松遺跡』（大和町教育委員会）1993

（８）田平徳栄「春日遺跡」（『惣座遺跡』佐賀県教育委員会）1990

（９）多々良友博ほか『久保泉丸山遺跡』（佐賀県教育委員会）1986

（10）田平徳栄「久池井Ｃ遺跡」（『礫石遺跡』佐賀県教育委員会）1989

（11）田平徳栄『惣座遺跡』（佐賀県教育委員会）1990

（12）木下之治「脊振山脈南麓で初めて発見された大和町南小路支石墓」（『新郷土』301号　新郷土刊行会）1974

（13）前田達男『増田遺跡群Ⅰ』（佐賀市教育委員会）1993
前田達男ほか『増田遺跡群Ⅱ』（佐賀市教育委員会）1994

（14）田中穣二『本村籠遺跡・於保三本松遺跡』（大和町教育委員会）1990

（15）田中穣二「池上二本松Ｂ遺跡」『左保遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ区，池上二本松Ｂ遺跡』（大和町教育委員会）1989

（16）木下之治『銚子塚』（佐賀市教育委員会）1976

（17）松尾禎作「小隈山古墳」（『佐賀県考古大観』祐徳博物館）1959

（18）松尾禎作「前隈山古墳」（『佐賀県考古大観』祐徳博物館）1959

（19）松尾禎作「船塚古墳」（『佐賀県考古大観』祐徳博物館）1959

（20）註（２）に同じ。

（21）田平徳栄ほか「久地井Ｂ遺跡」（『惣座遺跡』佐賀県教育委員会）1990

（22）松本隆昌『肥前築山瓦経塚』（大和町教育委員会）1994

（23）『大和町史』（大和町史編纂委員会編）1975

# 第3章　遺　跡　各　説

# 東山田一本杉遺跡Ⅰ区

遺跡名：東山田一本杉遺跡Ⅰ区（略号ＨＹＳ－Ⅰ）
所在地：佐賀郡大和町大字東山田字一本杉

# 東山田一本杉遺跡Ⅰ区

## 1．遺跡の概要

### (1) 遺跡の立地と地理的環境

遺跡は，嘉瀬川が佐賀平野に流れ出るあたりの渓口部西岸に位置する(Fig. 1)。嘉瀬川までの距離は約800m，山裾部まで約1.8km。東岸の肥前国庁跡とは嘉瀬川を挟んで相対峙する。現状では高速道下となって，その北側に大和町北部消防署がある。

遺跡が所在するあたりは標高約13m。地形は山麓部の緩やかな傾斜地であり，嘉瀬川によって形成された扇状地の扇頂部に近い(Fig. 3)。ただし嘉瀬川に近接しているため，遺跡の東側から南側にかけては氾濫で抉られ，比高差1m前後の起伏が複雑である。東山田一本杉遺跡全体の中では嘉瀬川に面した東端の一画を占めることになり，日常生活に関わる土地利用としては川辺りの，いわば未利用地に等しい集落の縁端部であったことが推測できる。

一帯は調査以前は畑地に利用されていた。耕作土下には1mちかい火山灰の黒色土が厚く堆積し，その下は砂礫層となる。遺構はこの黒色土を切り込んでいる。

### (2) 検出遺構と分布状況

Ⅰ区は甕棺墓を中心とする弥生時代の墓地としての特色をもつ。検出した遺構は，埋葬関係では甕棺墓119基，石囲いや石蓋をもつものを含む土壙墓13基，石棺墓2基，祭祀関係遺構1基の計135基，その他土壙8基である（Fig. 4)。ほかに浅い堀込みや柱列などがあるが，埋土からみて最近の掘り込みと考えられることから除外する。

地形は低台地の東端にあり，南側に向かって緩く傾斜する。遺構の分布は全体として，その東側から南側にかけての縁辺部に集中している。

甕棺の編年および墓地全体の形成過程については「4．考察」で詳しく述べることにするが，全体の傾向をいえば，まず初めは，前期末頃に土壙墓が造られ，引き続き前期末～中期初頭にかけて甕棺墓地として発展，中期前半以後は数を激減させながらも後期前半まで継続して甕棺墓地が営まれ，後期中頃の土壙墓および石棺墓で終わる。

**甕棺墓**　全部で119基を検出した。推定を含め時期別にみると，前期(末)76基，中期32基(初頭16，前半7，中頃1，後半8)，後期11基（初頭8，前半3）である。したがって前期末から中期初頭が92基，全体の8割にちかい，圧倒的多数を占める。

甕棺墓地の形成過程を概観すると，前期においては，それ以前の土壙墓等から引き続いて墓域東南部に初めて甕棺が登場し，中期初頭にかけて，台地東辺を西南－東北方向に伸びた墓道

を中心に東辺および北側に墓域が拡大，発展する。この間，墓域は終始台地の東辺に限定され，ついには飽和状態となる。中期前半になると墓域はあらたに台地の西側に展開するが，数は激減し，それ以前との系譜関係もやや不確になる。そして中期中頃には台地西側で小児墓１基だけが造られ，一旦は断絶にちかい状態となる。中期後半から後期前半にかけては再び台地の東北部を中心に少数の甕棺群が見られるようになるが，中期以前との直接的な系譜関係は不明である。詳細は「考察」で述べるが，微細に観察すれば各時期にそれぞれいくつかの群が構成される。但し，後期の一時期を除いて，甕棺の容量から判別するかぎりでは明瞭な小児墓域のような特殊なグループの存在は認めがたい。

甕棺の分布は全体的に見てきわめて密集度が高い。それにもかかわらず，とくに前期末から中期前半においては，墓壙は切り合っても甕棺相互の破壊が殆どないのは，何等かの地上標徴も想定されようが，基本的には同墓地の造営が同一集団によって契機的になされたことによるものであろう。ただし，墓壙は黒色土を掘り込んでおり埋土も同じ土質のため，墓壙どうしの切り合いによる先後関係の把握は殆ど不可能な状況であった。確実には少数例，甕棺が直接破壊を受けている場合のみ先後が判別できた。

埋葬形態は，合わせ口式が大部分で，他には明らかな例では石蓋をもつ単棺ＳＪ045，ＳＪ136，下部が石囲いで上甕を被せるＳＪ027，ＳＪ082などがある。また，希に板石で側面や上面を覆うものも見られる。埋置方法は，台地の緩やかな傾斜に並行させて棺を据えることを原則とし，東辺の墓道両辺では墓道に沿って列状に並ぶ傾向を示す。埋置角度は前期末では斜めに差し込むように埋めることが多いが，中期以降はほぼ水平に置く傾向がつよくなる。

**土壙墓**　墓地の東南部の10基と東北部の３基とがある。

東南部のグループは規模からみて成人墓と思われる７基と小児墓３基とからなる。成人墓は長方形の掘形で，小口に板石を立てるもの（ＳＰ073，ＳＰ056），蓋石を載せるもの（ＳＰ151），素掘りのもの(ＳＰ049，ＳＰ125)，といった３タイプがある。木棺等の使用が推定される。また，小児墓には小口片側に板石を立てるＳＰ076，ＳＰ138と，さらに板石敷きが加わったＳＰ046，石蓋のＳＰ016が見られる。これらの土壙墓の時期は明らかでないが，いずれもＩ区墓地で甕棺が出現する以前，おそらく前期末でも早い段階のものではないかと推定される。形態から見て，同じ大和町にある礫石遺跡の支石墓の下部構造に系譜をもつと考えられる。

一方，東北部のグループには側辺片側に配石をもつ成人墓土壙墓３基（ＳＰ006，ＳＰ024，ＳＰ090）がある。甕棺墓の造営が終わった後，後期中頃のものと推定している。

**石棺墓**　墓域東辺でＳＣ110，ＳＣ018の２基のみ検出した。共に小児棺である。時期は明らかでないが，ＳＣ018が前期末の甕棺を破壊しており，おそらく甕棺が衰退した後，後期中頃と考えられる。ＳＣ110は棺底に板石を敷き，近辺の遺構との関係から前期と推定する。

**祭祀関係遺構**　台地東辺部でＳＸ028　１基のみ検出した。時期は中期中頃である。周囲には

同時期の甕棺が見られず，墓地全体としても甕棺は西側の１基のみとなる断絶期に当たっており，別の所での埋葬儀礼に使用された後の廃棄壙と考えられる。

**土　壙**　埋葬密集部を外れた台地西北部で８基の土壙を検出した。ＳＫ119は楕円形で，多くの礫が投げこまれた中に弥生中期の壺破片が混じる。ＳＫ162は円形で前期末の甕棺を壊している。ＳＫ112・ＳＫ114・ＳＫ133は不整形の掘り込みが切り合い，ＳＫ117も３つの円形掘り込みからなり，黒色埋土に混じって礫，さらには甕棺や土壙墓を壊した際の甕棺片や板石が若干出土した。ＳＫ070は２段掘りの不整方形土壙墓。ＳＫ106は楕円形で中期中頃の甕片が出土。いずれも弥生中期以降と推定され，埋葬儀礼に関わる可能性はあるが，性格は不明である。

### (3)　出土遺物

弥生時代の甕棺墓地を特色とする遺跡であることから，出土遺物は殆ど埋葬関係に限られる。甕棺は総数119基，そのうち大部分が合わせ口式であり，個体数ではそれに倍する。時期は前期末から中期初が約77％と圧倒的多数を占めており，これも考察で述べるように，成人用甕棺の成立の様相を知る上では格好の資料といえるものである。甕棺の中には幾何学的文様を描くＳＪ030下甕のほか，縞状の黒彩を施した例も多いなど，特色あるものが含まれる。

いわゆる副葬品としては銅剣先１点のほか甕棺４基から，合わせて碧玉製管玉３点，蛇紋岩製小玉１点，ガラス小玉５点が出土した。ＳＪ075から出土した銅剣先１点は，副葬品というよりは刺突されて折れたまま体内に残った可能性がつよい。今のところ県内では前期末に溯る最古の青銅器資料である。また，玉類では，とくにＳＪ078出土のガラス小玉は前期末に溯る弥生時代最古期の１資料であり，しかもアルカリ系である点が注目される。但し，これらの内には，埋土中に混入した可能性のあるものも含まれる。

祭祀関係遺構ＳＸ028からは丹塗りの壺，高坏や鉢が計11点，まとまって出土した。廃棄された状態にちかいとはいえ，器種組成がわかる一括資料として貴重な例である。

その他，土壙等から若干の後期土器が出土したほか，縄文時代の黒曜石製スクレーパーと石槍が各１点，また縄文晩期末の夜臼式甕片，須恵器片等も若干採集した。

### (4)　遺跡の特色

Ｉ区は弥生時代前期末の甕棺墓を中心とした墓地であり，わずかな範囲にもかかわらず重要な内容を多く含むものである。とくに前期末の甕棺がこれだけ集中して調査された例は，甕棺の盛行地である佐賀県，福岡県を見渡しても殆どない。従来以上に詳細な甕棺の成立過程や墓地の形成過程を明らかにしうる可能性をもつ希有な遺跡といえる。

また，最古期のガラスや佐賀平野では最古の青銅器，あるいは多数の装飾甕棺など，出土品においても注目すべき資料が見られる。

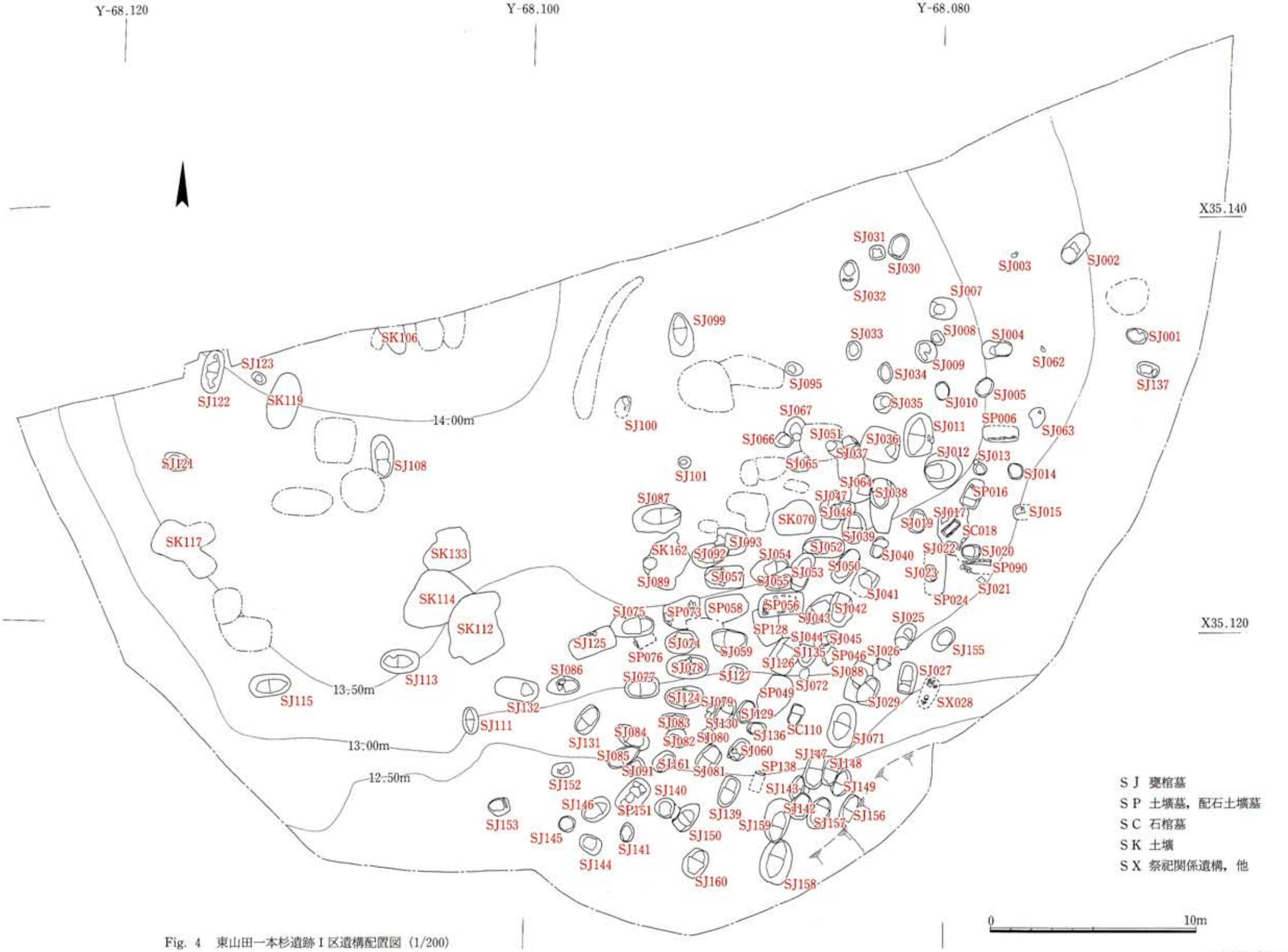



Fig. 4　東山田一本杉遺跡Ⅰ区遺構配置図（1/200）

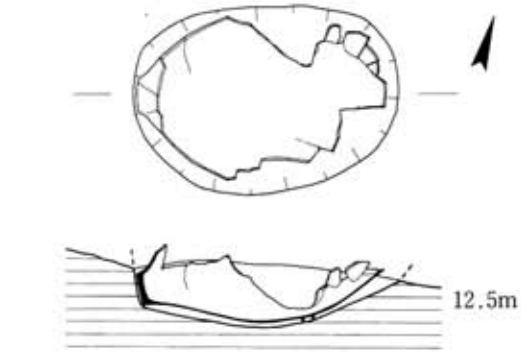
# 2．遺　　構

甕棺墓，土壙墓，石棺墓，祭祀関係遺構については，それぞれ原則として遺構番号順に図示して概要を付記することとし，その他の土壙は一括して説明する。

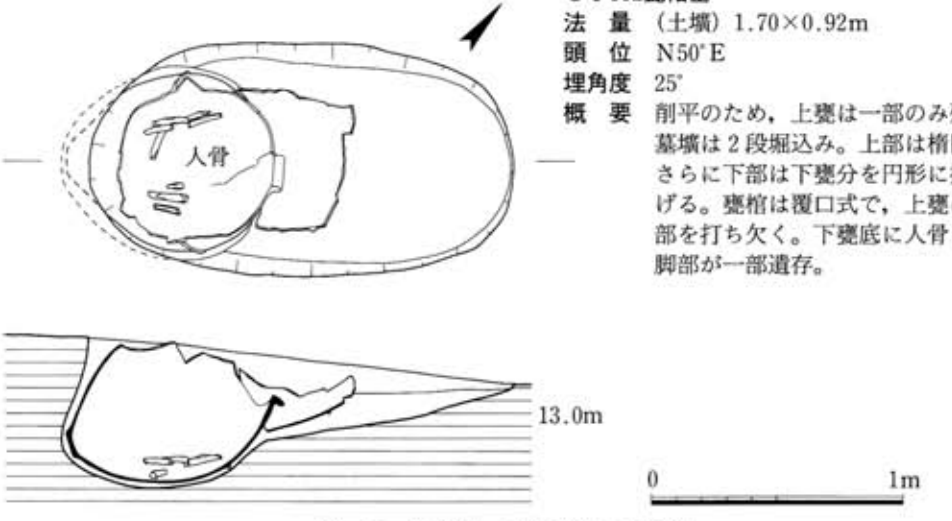
甕棺墓のうち，ＳＪ003・ＳＪ008・ＳＪ021・ＳＪ062・ＳＪ125の５基については，破壊によって甕棺が殆ど残存しないなど残存状態が悪く，敢えて図示していないので，写真に寄られたい。

以下の個別説明の中で，「法量（棺長）」は合わせ口式等甕棺の出土状況での全長，あるいは土壙墓で配石の状況から推定可能な場合の木棺等の最大長。「埋角度」は甕棺の場合における，中心軸の水平面からの仰角である。

## (1)　甕棺墓

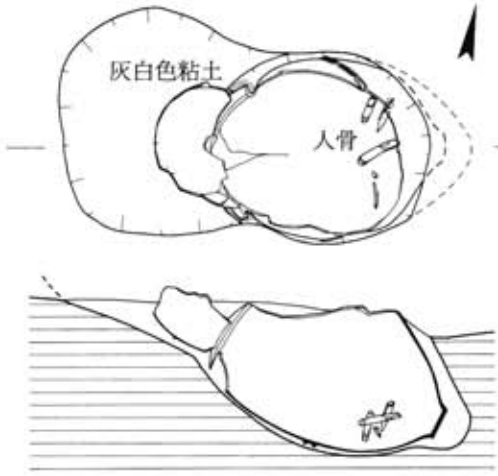


**ＳＪ001甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.06×0.75m
**頭　位**　N73°E
**埋角度**　12°
**概　要**　削平のため下甕のみ残存。墓壙は楕円形に浅く残存。

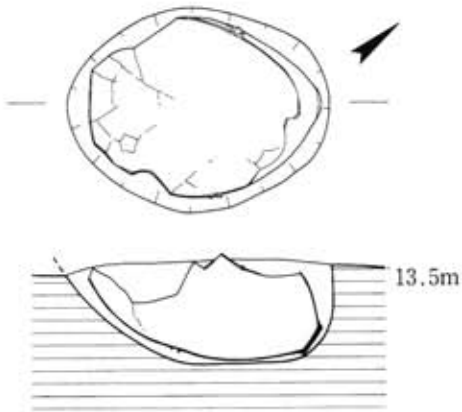



**ＳＪ002甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.70×0.92m
**頭　位**　N50°E
**埋角度**　25°
**概　要**　削平のため，上甕は一部のみ残存。墓壙は２段堀込み。上部は楕円形で，さらに下部は下甕分を円形に掘り下げる。甕棺は覆口式で，上甕は口縁部を打ち欠く。下甕底に人骨（男性）脚部が一部遺存。

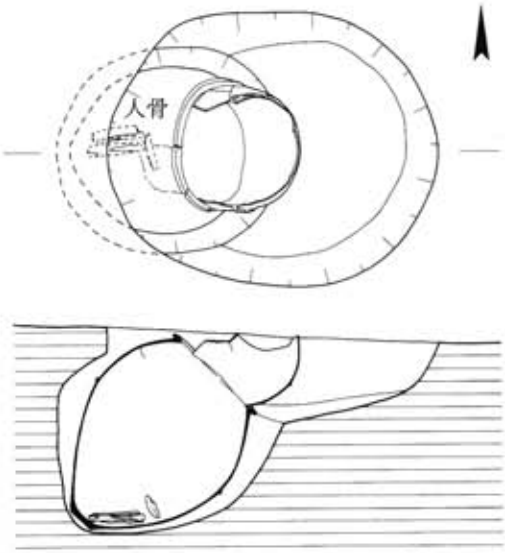
Fig. 5　ＳＪ001・002甕棺墓（1/30）




**ＳＪ004甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.46×0.90m
**頭　位**　N101°W
**埋角度**　31°
**概　要**　削平のため，上・下甕とも破損。墓壙は２段堀込み。上部は楕円形で，さらに下部は下甕分を東側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式で，上甕は口縁部を打ち欠き。接口部に灰色粘土で目張りを行う。人骨（男性）が一部残存。

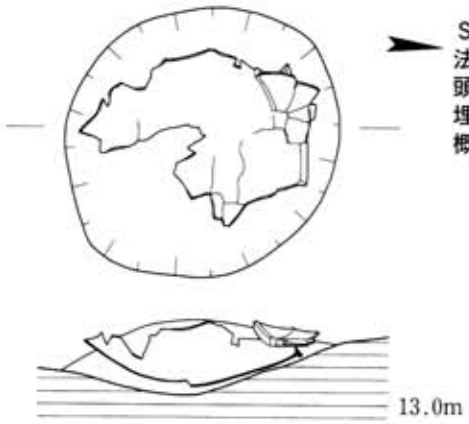



**ＳＪ005甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.04×0.80m
**頭　位**　N141°W
**埋角度**　33°
**概　要**　削平のため，上・下甕とも破損。とくに上甕は元の状況不明。墓壙は下甕分のみ楕円形に残存。北東側に向かって斜めに掘り下げる。

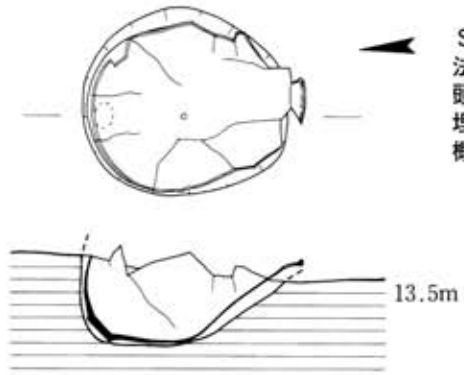



**ＳＪ007甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.31×1.08m
**頭　位**　N90°E
**埋角度**　44°
**概　要**　削平のため，上甕は２分の１欠。墓壙は２段掘り。上段は円形にちかい楕円形で，さらに下段を円形に堀込む。甕棺は呑口式。上甕に口縁部を打ち欠いた小形甕を使用する。人骨（女性）は頭部と足部が一部残る。

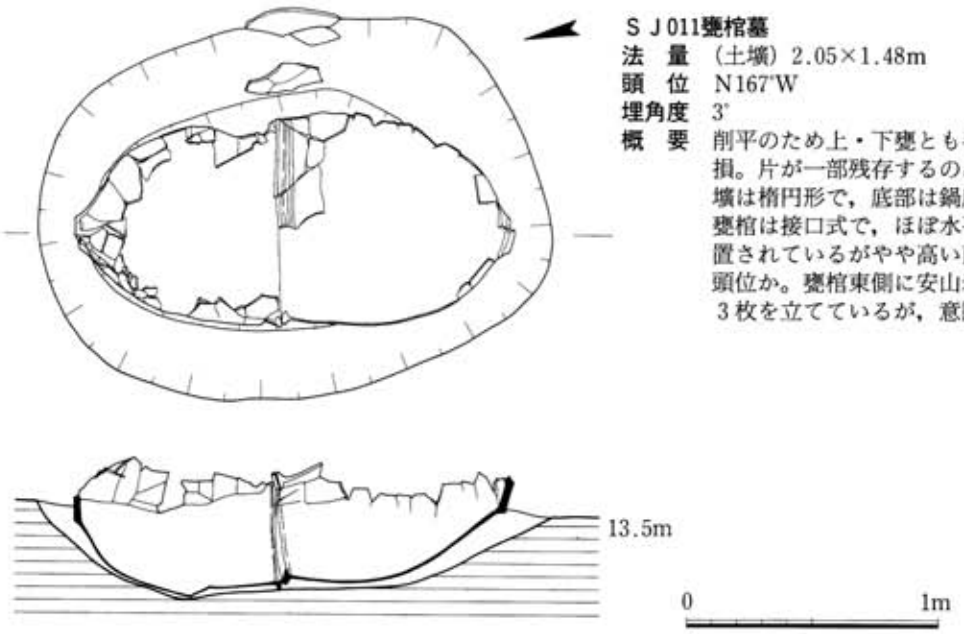
Fig. 6　ＳＪ004・005・007甕棺墓（1/30）




**ＳＪ009甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.10×1.06m
**頭　位**　N60°W
**埋角度**　14°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。とくに上甕は破片が一部残存するのみ。墓壙は下部が楕円形に残存。南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。

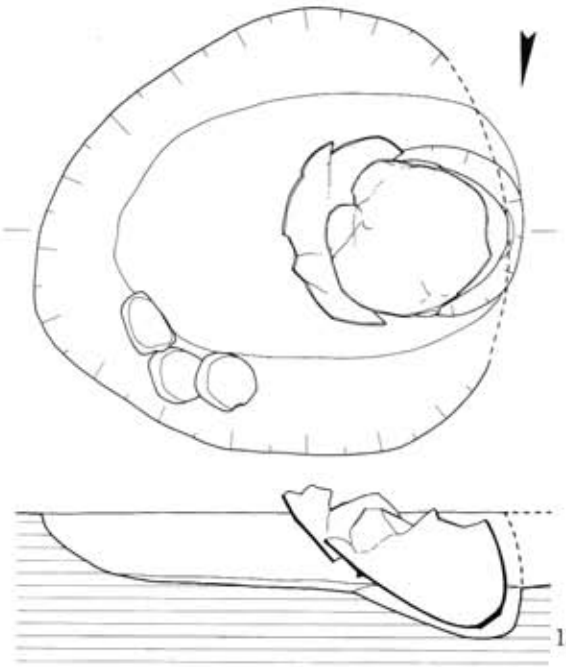



**ＳＪ010甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.82×0.74m
**頭　位**　N177°W
**埋角度**　39°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明。墓壙は下部が楕円形に残存。北南側に向かって斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。

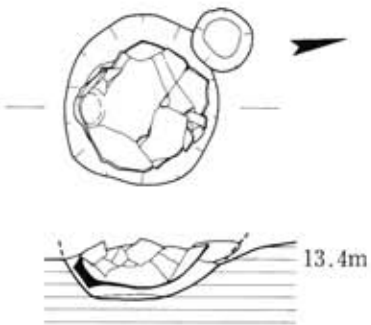



**ＳＪ011甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.05×1.48m
**頭　位**　N167°W
**埋角度**　3°
**概　要**　削平のため上・下甕とも半分破損。片が一部残存するのみ。墓壙は楕円形で，底部は鍋底状。甕棺は接口式で，ほぼ水平に埋置されているがやや高い南側が頭位か。甕棺東側に安山岩板石３枚を立てているが，意図不明。

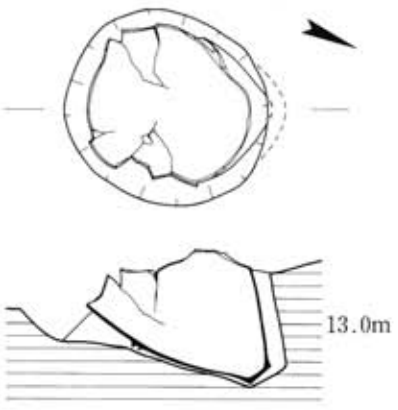
Fig. 7　ＳＪ009・010・011甕棺墓（1/30）




**ＳＪ012甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.86×1.75m
**頭　位**　N84°E
**埋角度**　50°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は２段掘り。上段は楕円形で底面平坦に掘り下げ，さらに下段を西側に向かい斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。下甕は細身でやや小形，上甕は口縁部打ち欠き。上下甕とも内面に赤色顔料塗布。

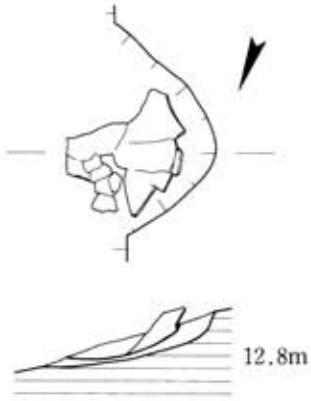



**ＳＪ013甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.61×0.68m
**頭　位**　N10°E
**埋角度**　34°
**概　要**　削平のため下甕のみ一部残存。墓壙は円形で浅く残る。

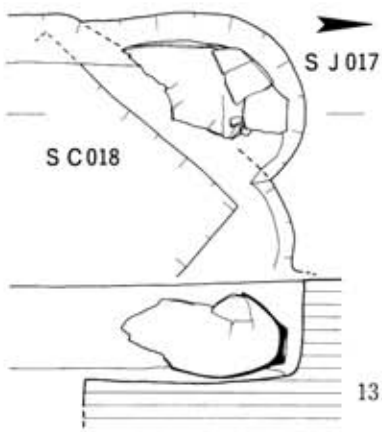



**ＳＪ014甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.80×0.76m
**頭　位**　N157°EW
**埋角度**　52°
**概　要**　削平のため上甕不明。下甕破損。墓壙は下甕が円形に浅く残存。北側にむかって斜めに掘り下げる。

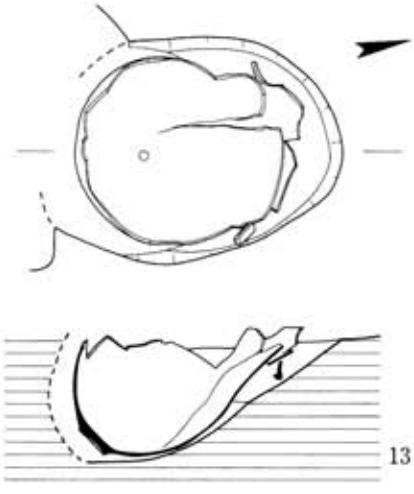
Fig. 8　ＳＪ012・013・014甕棺墓（1/30）




**ＳＪ015甕棺墓**
**法　量**
**頭　位**　N112°W
**埋角度**　約25°
**概　要**　上面は削平され，東側が荒らされているため，上甕と見られる破片が一部のみ残存。墓壙は楕円形で，東側に向かって斜めに掘り下げる。

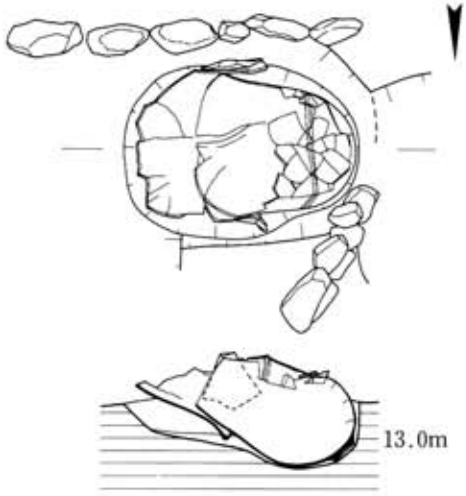



**ＳＪ017甕棺墓**
**法　量**
**頭　位**　N180°E
**埋角度**　13°
**概　要**　上面削平，また南側の大部分をＳＣ018に切られ，下甕が一部残存するのみ。墓壙は楕円形で，壙底は平坦に堀込む。

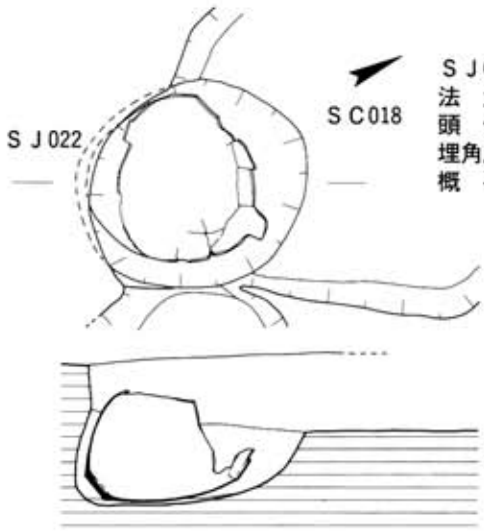



**ＳＪ019甕棺墓**
**法　量**　（土壙）（1.2）×0.88m
**頭　位**　N11°E
**埋角度**　43°
**概　要**　削平のため上甕はわずかに残存，下甕破損。また，南側は荒らされている。墓壙は楕円形で，南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。下甕に穿孔。埋土中からガラス小玉４点出土。

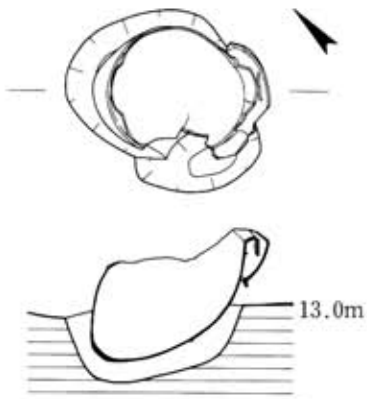
Fig. 9　ＳＪ015・017・019甕棺墓（1/30）




**ＳＪ020甕棺墓**
法　量　（土壙）0.93×0.70
頭　位　N90°E
埋角度　33°
概　要　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺の南側で墓壙との間に安山岩板石１枚を立てる。北側の配石は別遺構か。



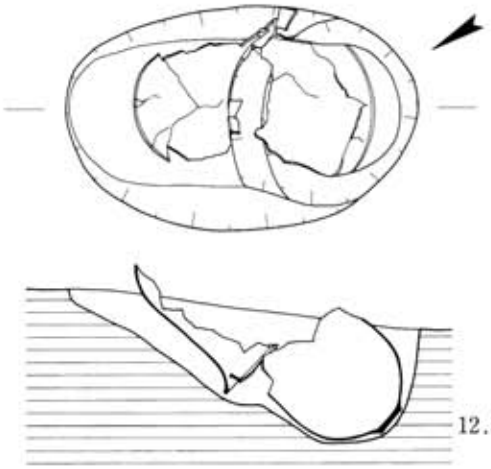

**ＳＪ022甕棺墓**
法　量　（土壙）0.87×0.81m
頭　位　N28°E
埋角度　32°
概　要　北側上面はＳＣ018石棺墓に削平され，上甕は詳細不明。墓壙は円形に残存。



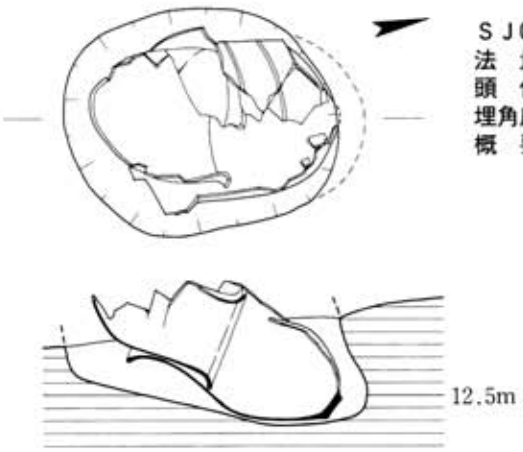

**ＳＪ023甕棺墓**
法　量　（土壙）0.70×(0.6)m
頭　位　N135°E
埋角度　48°
概　要　削平のため上甕は一部破片のみ残，下甕破損。また北側を荒らされている。墓壙は黒色土を堀込んでいるため，詳細不明。甕棺は覆口式で，急角度で埋置されている。

0　1m

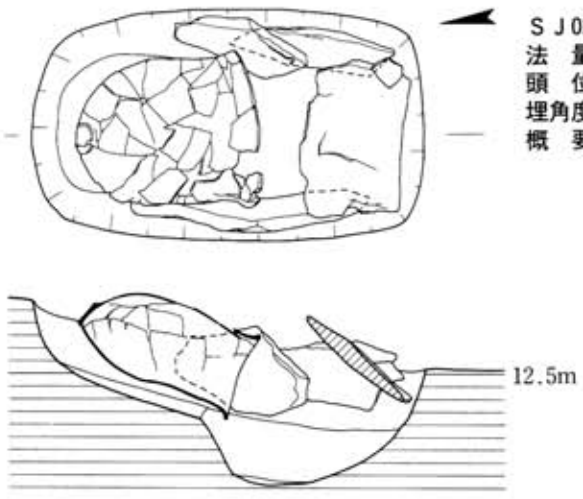
Fig. 10　ＳＪ020・022・023甕棺墓（1/30）




**ＳＪ025甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.40×0.88m
**頭　位**　N31°E
**埋角度**　38°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，東北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式で，下甕に穿孔。

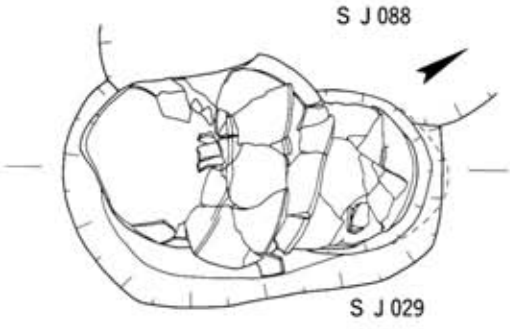


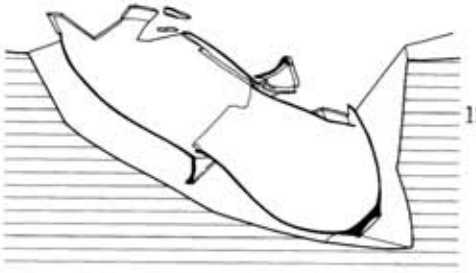

**ＳＪ026甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.10×0.88m
**頭　位**　N169°W
**埋角度**　27°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。上甕が下甕に深く落ち込んだ状態。



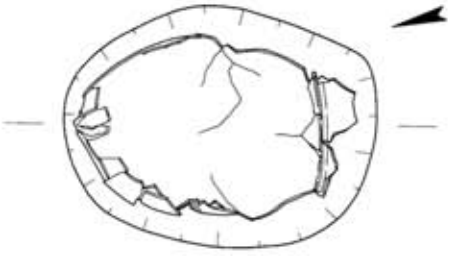

**ＳＪ027甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.56×0.92m
**頭　位**　N8°E
**埋角度**　17°
**概　要**　甕棺は上甕のみを使用し，下部は石囲いで変則的。墓壙は２段掘り。上段は隅丸長方形，下段は足部の南側を１段掘りくぼめる。石囲い部は粘板岩板石を東側に２枚，西側に１枚を立て，南側は蓋石状に覆う。

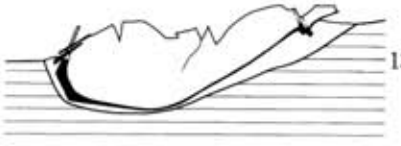
Fig. 11　ＳＪ025・026・027甕棺墓（1/30）




**ＳＪ029甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.50×(1.0)m
**頭　位**　N148°W
**埋角度**　43°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は隅丸長方形で，東北側に向かって斜めに掘り下げる。西側のＳＪ088を切る。

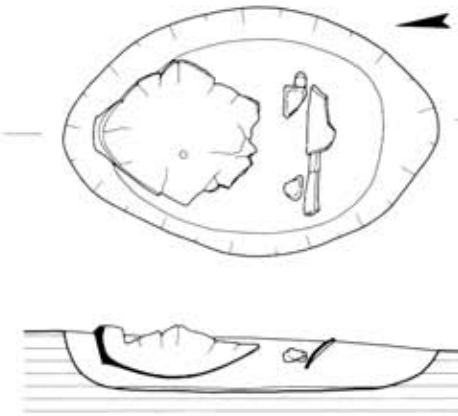




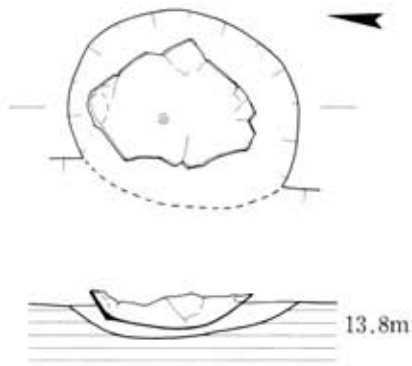

**ＳＪ030甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.23×0.95m
**頭　位**　N167°W
**埋角度**　28°
**概　要**　削平のため上甕は一部のみ残，下甕破損。墓壙は楕円形で浅く残存，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕の下面側には十字文様のヘラ描き絵画あり。

**ＳＪ031甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.87×0.77m
**頭　位**　N132°E
**埋角度**　斜傾
**概　要**　削平のため上下甕とも一部のみ残。墓壙は下部が円形に残る。

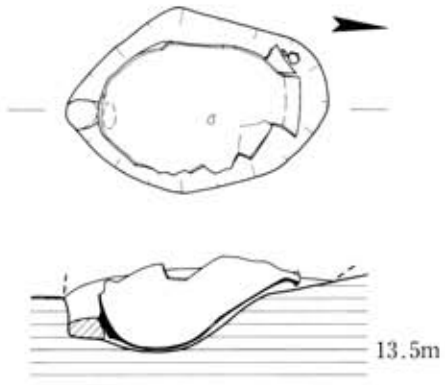
Fig. 12　ＳＪ029・030・031甕棺墓（1/30）




**ＳＪ032甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.50×0.98m
**頭　位**　N17°W
**埋角度**　9°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損し，下甕は口縁一部のみ残。墓壙は楕円形で，壙底は平坦に掘込む。甕棺はやや斜めに据え，下甕に穿孔。下甕の固定のため花崗岩礫２個を置く。

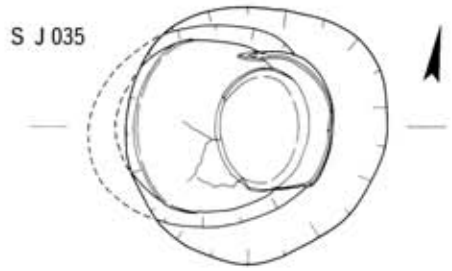



**ＳＪ033甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.92×(0.8)m
**頭　位**　N173°E
**埋角度**　24°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため下甕一部のみ残。墓壙は楕円形に浅く残存。甕棺は壙底に直接据え，頭位と見られる南側がやや上がる。

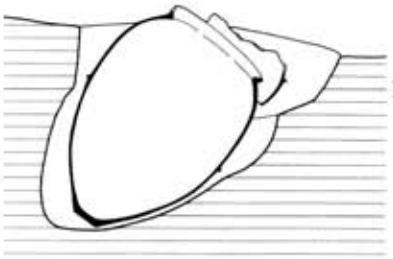



**ＳＪ034甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.05×0.73m
**頭　位**　N3°W
**埋角度**　28°
**概　要**　単棺か。削平のため一部のみ残存。墓壙は楕円形状に残るが，２段掘り込みと見られる。甕棺は底部に小礫を当てて固定。最深部からやや上がった位置に穿孔を施す。

Fig. 13　ＳＪ032・033・034甕棺墓（1/30）




**ＳＪ035甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.03×1.01m
**頭　位**　N79°E
**埋角度**　52°
**概　要**　削平のため上甕が一部のみ残。墓壙は２段掘りで，上部は円形，下部はその西側を斜めに掘り下げる。甕棺は急角度で埋置。上甕は口縁部打ち欠きの小形甕を使用。人骨片がわずかに残存する。




**ＳＪ036甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.97×1.73m，（棺長）1.38m
**頭　位**　N74°W
**埋角度**　40°
**概　要**　墓壙は２段掘り。上段は隅丸長方形で，さらにその東隅を円形に斜めに掘り下げる。甕棺は接口式で，上甕に口縁部を打ち欠いた小形甕を使用。人骨は頭骨片と四肢骨片が一部残る（熟年男性）。

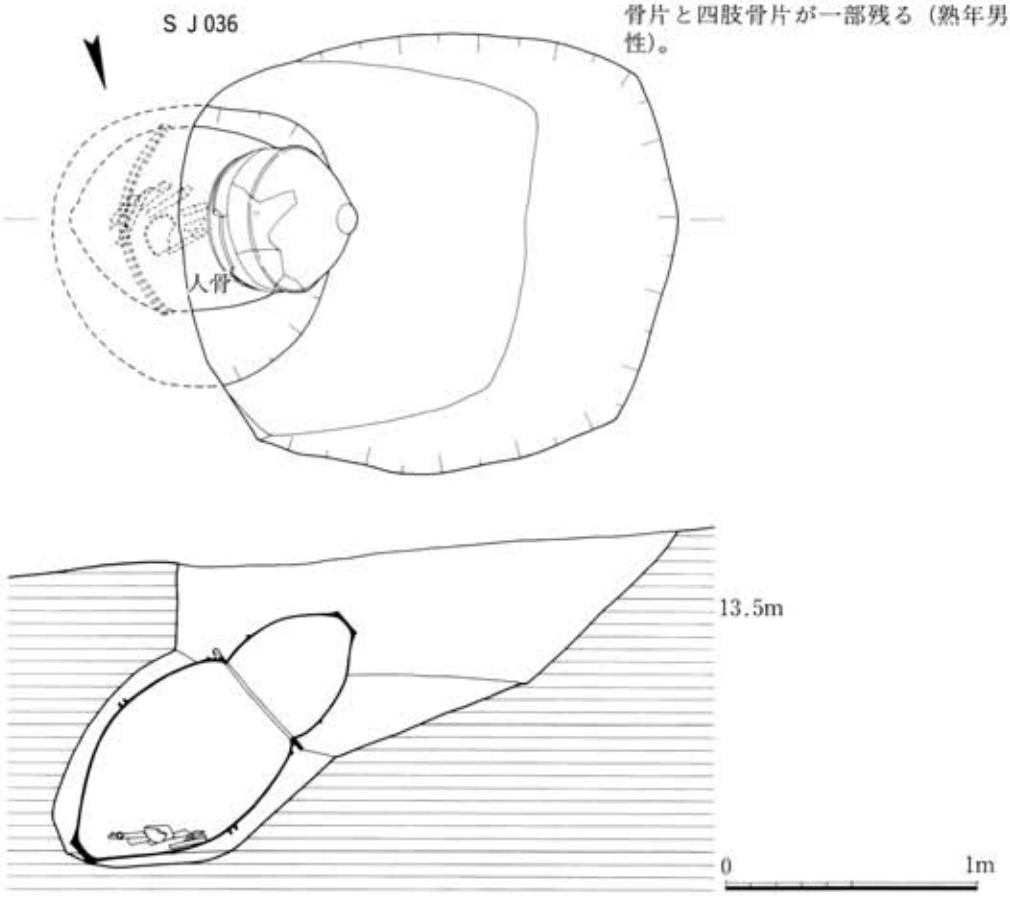
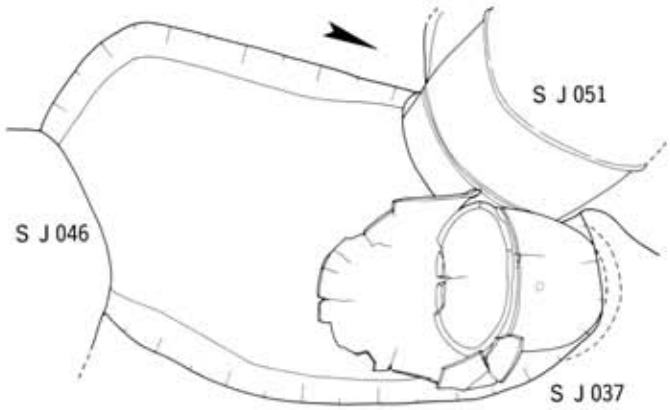
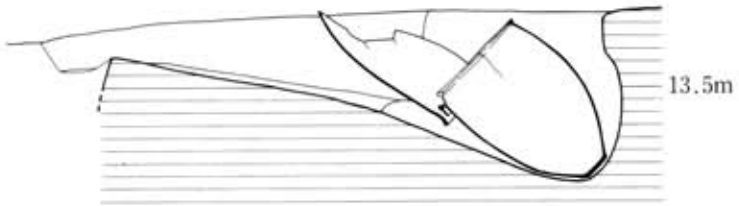
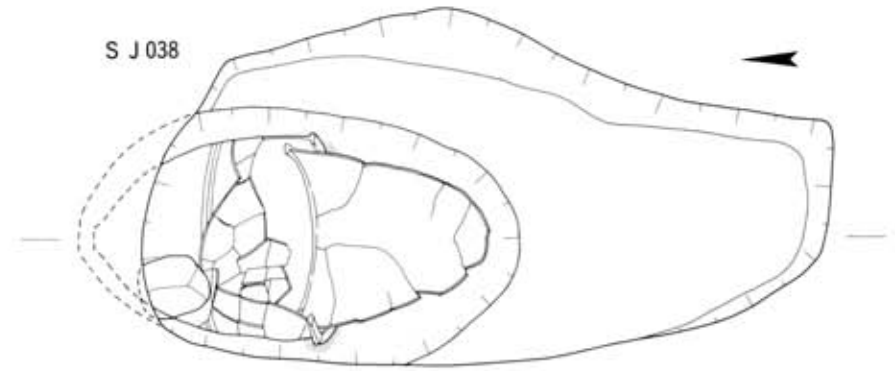


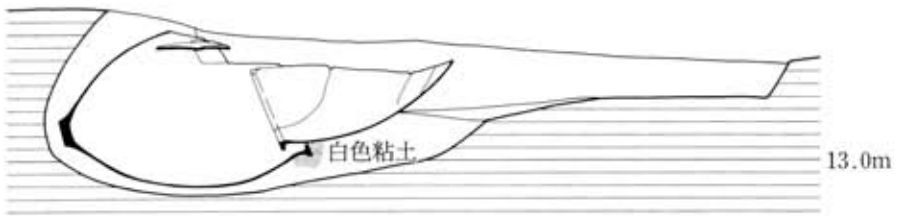

Fig. 14　ＳＪ035・036甕棺墓（1/30）




**S J 037甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.33×1.32m
**頭　位**　N160°E
**埋角度**　42°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。下甕に穿孔。後期にS J 051が近接して埋められる。

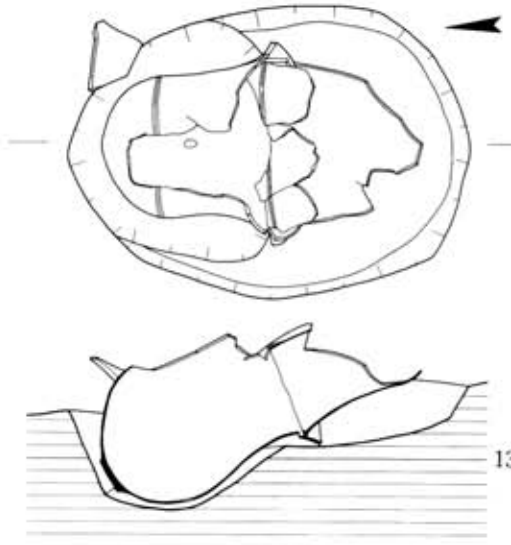


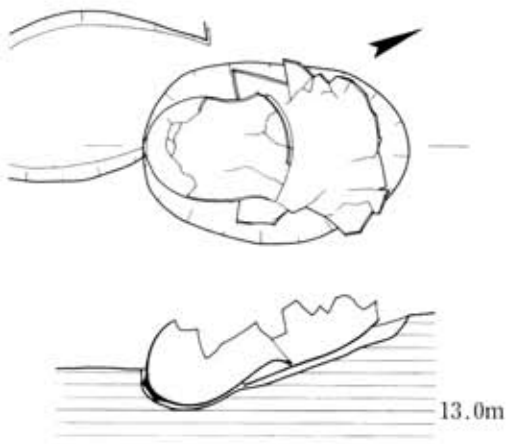




**S J 038甕棺墓**
**法　量**　（土壙）（2.0）×1.35m
**頭　位**　N180°E
**埋角度**　10°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は２段掘り。上段は楕円形で，南側は別の堀込みに切られる。南端隅から壺底部が出土したが，甕棺とは関係ない。上段は北側をさらに楕円形に堀込み，花崗岩礫が落ち込んでいた。甕棺は呑口式で，合わせ部に粘土目張り。

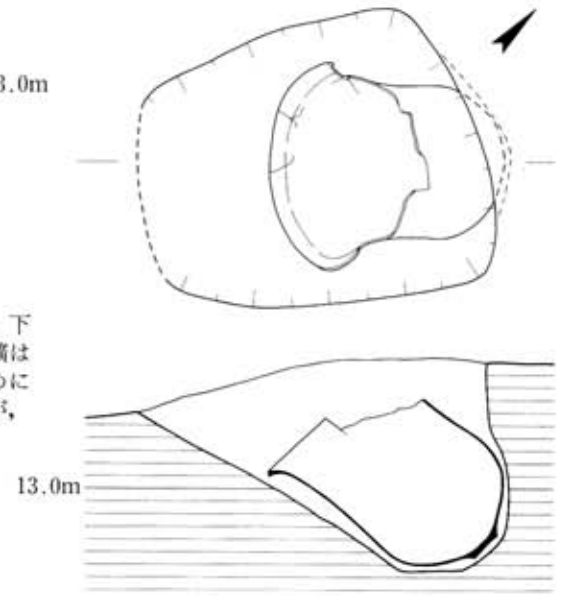
Fig. 15　S J 037・038甕棺墓（1/30）




**ＳＪ039甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.59×1.15m
**頭　位**　N87°W
**埋角度**　29°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は２段掘り。上段は楕円形で，下段は下甕分を円形に堀込む。北側には粘板岩板石１枚が斜めに立てかけた状態で残る。甕棺は呑口式。上甕は口縁部打ち欠き，下甕は穿孔を施す。

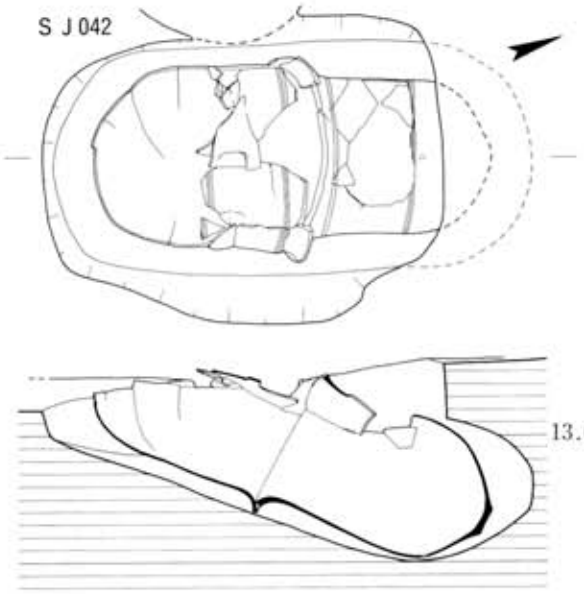



**ＳＪ040甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.05×0.71m
**頭　位**　N23°E
**埋角度**　33°
**概　要**　削平のため上下甕とも大きく破損。墓壙は楕円形で，壙底が南側で下がる。甕棺は覆口式。下甕が上甕に比べて極端に小さく，半分ちかくを覆われている。

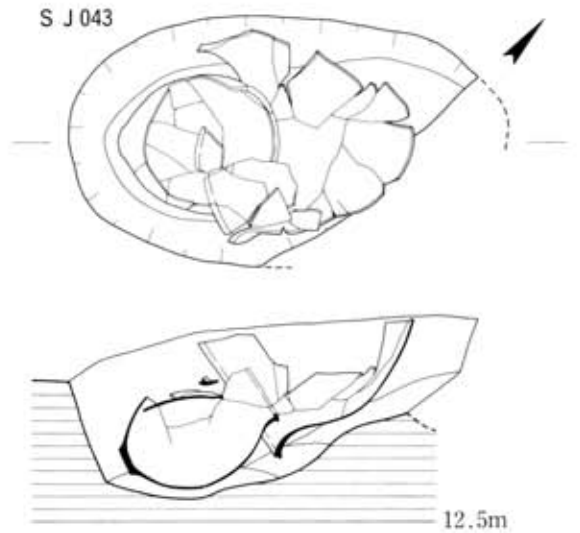



**ＳＪ041甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.38×0.85m（1.12）m
**頭　位**　N134°W
**埋角度**　38°
**概　要**　削平等のため上甕は破片一部のみ残，下甕は割れた破片が落下していた。墓壙は隅丸長方形で，東北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は合わせ口であるが，詳細不明。

Fig. 16　ＳＪ039・040・041甕棺墓（1/30）

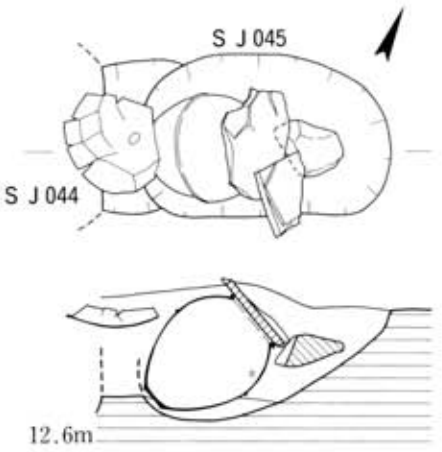



**ＳＪ042甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.60×1.10m
**頭　位**　N71°W
**埋角度**　26°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は隅丸長方形で，北側に向かって斜めに掘り下げ横穴状に掘り込む。甕棺は接口式。下甕に穿孔を施す。




**ＳＪ043甕棺墓**
**法　量**　（土壙）（1.75）×1.00m
**頭　位**　N50°E
**埋角度**　26°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は下甕が小形。東側のＳＪ042を切ると思われる。

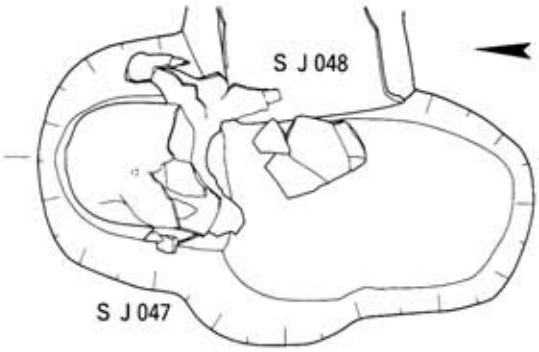
**ＳＪ045甕棺墓**
**法　量**　（土壙）（0.90）×0.64m
**頭　位**　N64°E
**埋角度**　38°
**概　要**　小児用単棺。墓壙は楕円形で，西南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は小形で壙底に直接据え，花崗岩礫を置いて固定し，安山岩板石２枚で蓋をする。ＳＪ044を切る。



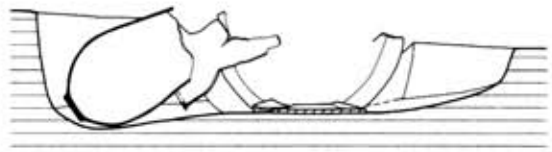

**ＳＪ044甕棺墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　西南
**埋角度**　不明
**概　要**　削平のため下甕一部のみ残。墓壙不明。下甕には穿孔を施す。東側をＳＪ045に切られる。

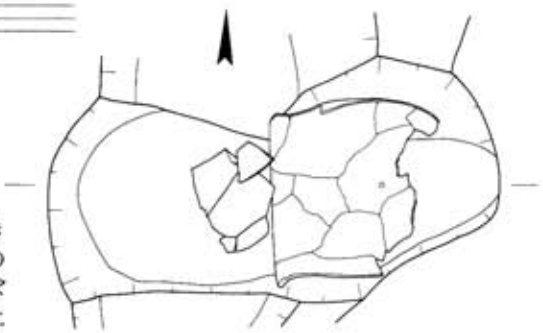
0　1m

Fig. 17　ＳＪ042・043・044・045甕棺墓（1/30）

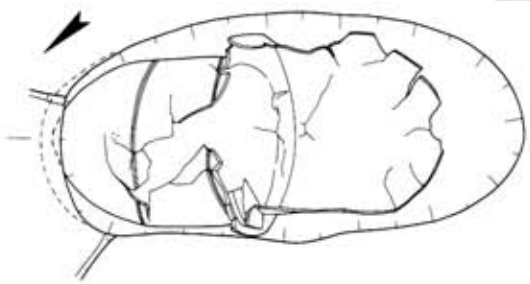



**ＳＪ047甕棺墓**
**法　量**　（土壙）　×約1.0
**頭　位**　N89°E
**埋角度**　27°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損し，さらに南側を荒らされている。墓壙は隅丸長方形と思われ。壙底は北側がやや下がる。甕棺は覆口式。下甕は上甕に比べて極端に小形で，口縁部打ち欠き。最深部やや上に穿孔。



**ＳＪ048甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.80m×
**頭　位**　N91°W
**埋角度**　50°
**概　要**　削平を受け，さらに上甕の大部分が抜き取られＳＪ049に切られる。ＳＪ039との先後不明。墓壙は楕円形で，壙底はほぼ平坦ながら頭位と見られる西側がやや上がる。甕棺の合わせ口部下に安山岩板石1枚を敷く。下甕に穿孔。



**ＳＪ050甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.84×0.90m
**頭　位**　N51°W
**埋角度**　27°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，北東南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔。

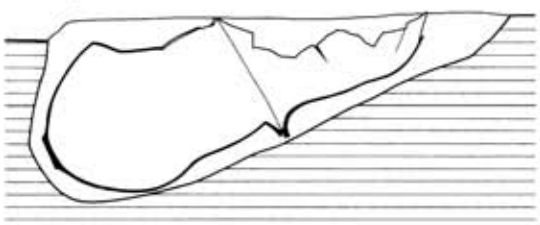
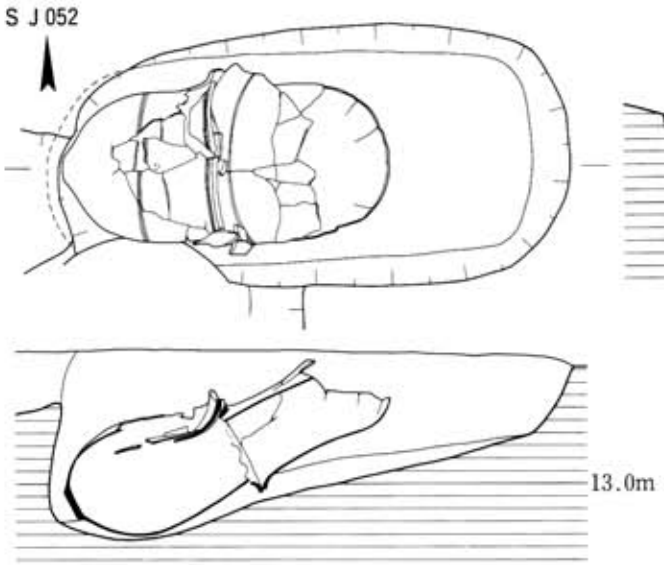
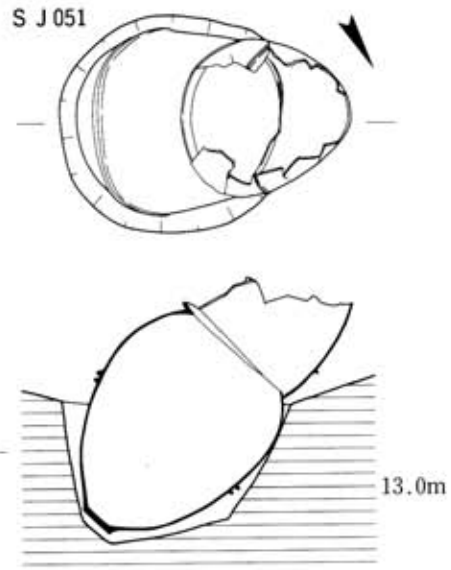


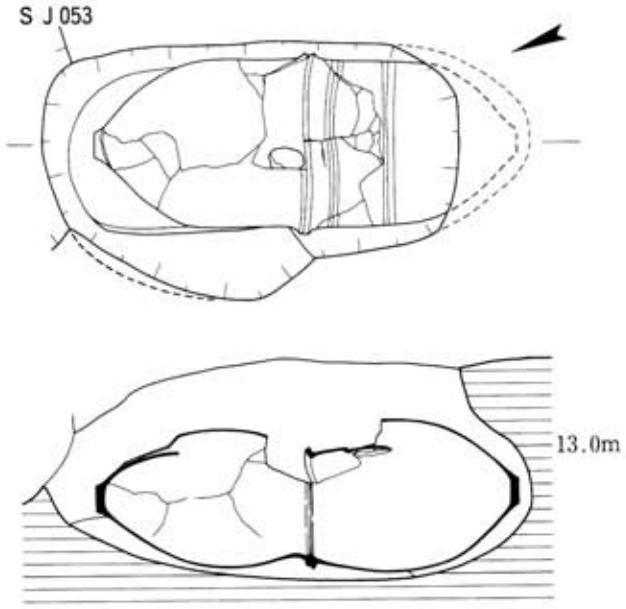
Fig. 18　ＳＪ047・048・050甕棺墓（1/30）

**ＳＪ052甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.50×1.03m
**頭　位**　N91°E
**埋角度**　22°
**概　要**　削平のため上甕破損。南部をＳＪ053が切る。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕は壙底に直接据え，穿孔。棺内埋土中から，いわゆる副葬品と見られる碧玉製管玉１点が出土した。



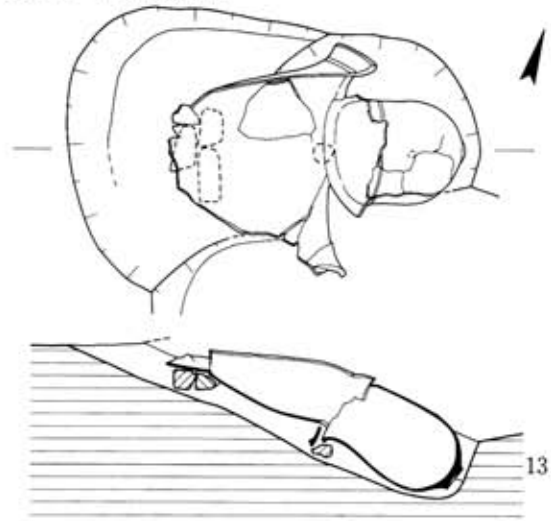




**ＳＪ051甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.01×0.85m
**頭　位**　N60°W
**埋角度**　48°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は２段掘りと見られるが，上段不明。下段は下甕分を円形に掘り込む。甕棺は接口式。急角度に埋置する。上甕は口縁部打ち欠き。

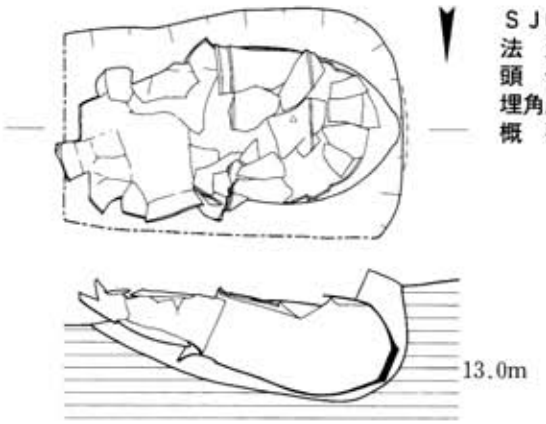



**ＳＪ053甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.65×（1.1）m
**頭　位**　N21°E
**埋角度**　0°
**概　要**　墓壙は楕円形。壙底はほぼ平坦で，南壁は下甕分を横に掘り込む。甕棺は接口式で，水平に据える。東西両側に接するＳＪ052，ＳＪ055よりは新しい。

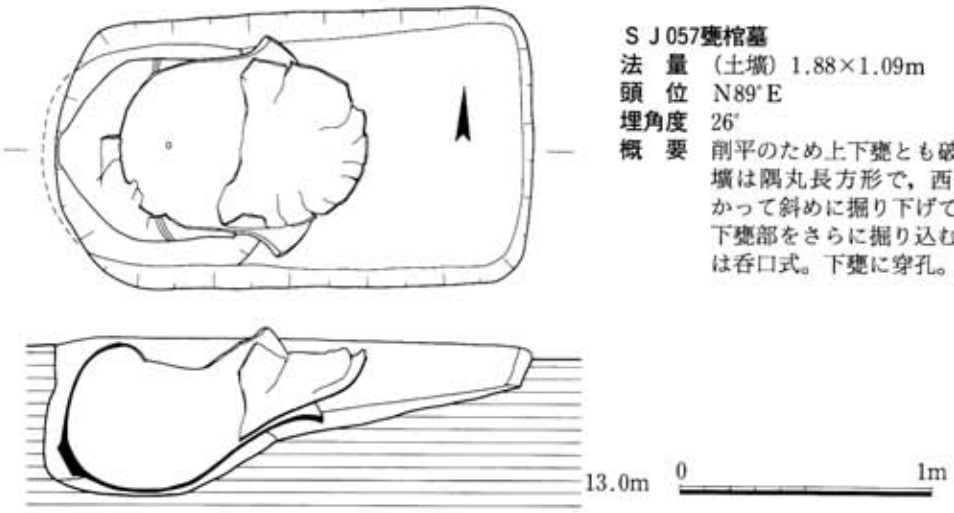
Fig. 19　ＳＪ051・052・053甕棺墓（1/30）




**ＳＪ054甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.62×(1.1)m
**頭　位**　N107°W
**埋角度**　37°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。花崗岩礫を３個置いて上甕を固定。下甕は，上甕に比べ極端に小形で，穿孔を施す。ＳＪ055と接するが先後不明。

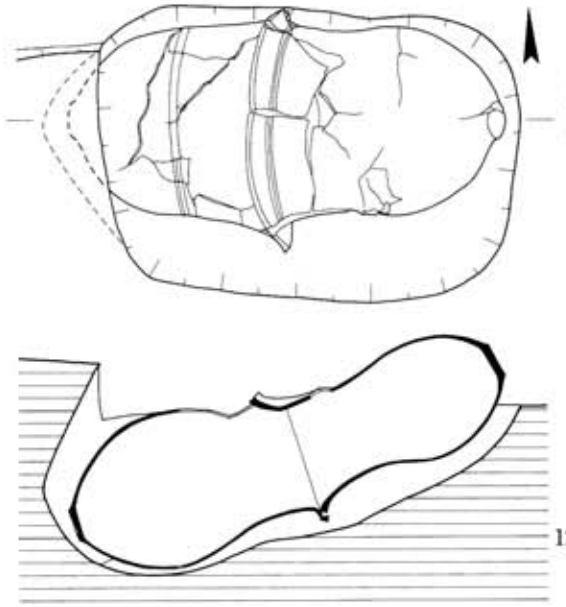



**ＳＪ055甕棺墓**
**法　量**　（土壙）　×約1.0m
**頭　位**　N89°E
**埋角度**　20°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は隅丸長方形で，壙底は東側が上がる。甕棺は呑口式。下甕は最深部よりやや上に穿孔。東側をＳＪ053に切られる。ＳＪ054とも接するが，先後は不明。

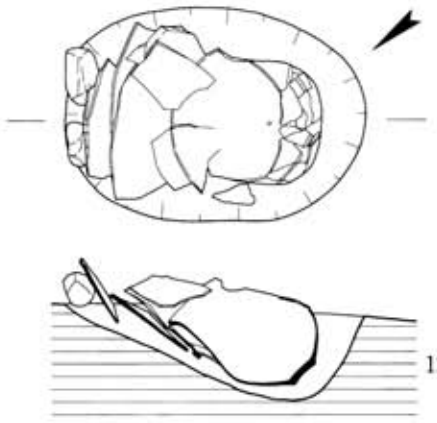



**ＳＪ057甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.88×1.09m
**頭　位**　N89°E
**埋角度**　26°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は隅丸長方形で，西側に向かって斜めに掘り下げてから，下甕部をさらに掘り込む。甕棺は呑口式。下甕に穿孔。

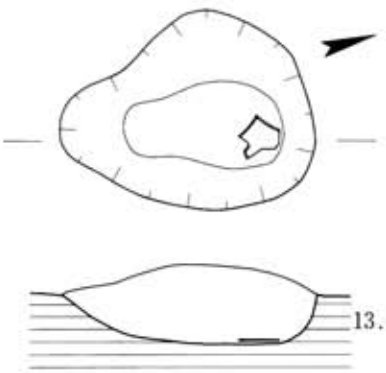
Fig. 20　ＳＪ054・055・057甕棺墓（1/30）




**ＳＪ059甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.68×1.14m
**頭　位**　N88°W
**埋角度**　20°
**概　要**　墓壙は隅丸長方形。壙底は東側が上がり，西壁を横に掘り込む。甕棺は接口式。下甕に穿孔。

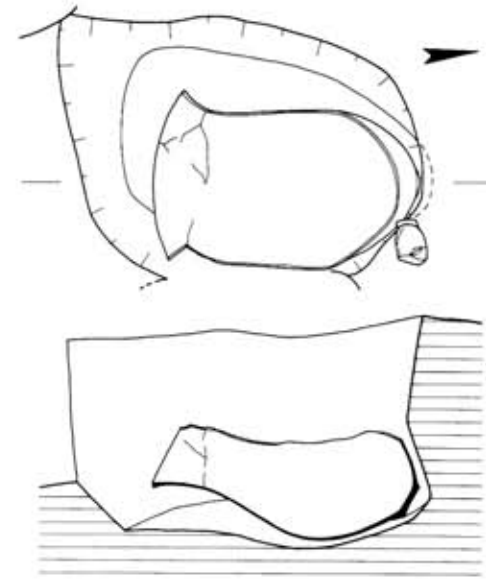



**ＳＪ060甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.2×0.84m
**頭　位**　N38°E
**埋角度**　42°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，壙底は東北側が上がる。甕棺は覆口式。上甕を固定するため花崗岩礫を2個置いて安山岩板石を3枚敷いている。下甕は比較的小形で，穿孔を施す。

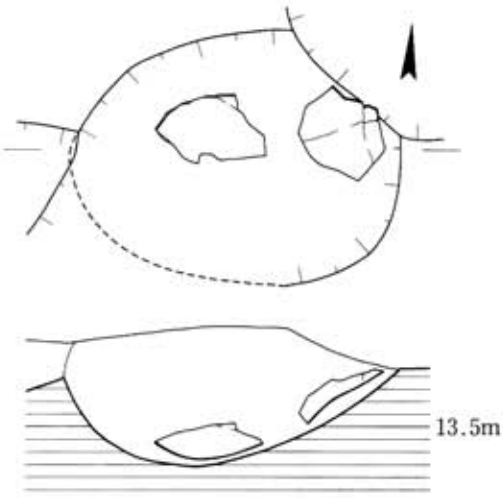



**ＳＪ063甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.02×0.79m
**頭　位**　N166°W
**埋角度**　ほぼ水平
**概　要**　削平と抜き取りにより，下甕の破片一部のみ残。墓壙は不整楕円形に浅く残存。壙底は頭位と見られる南側が斜めに上がる。

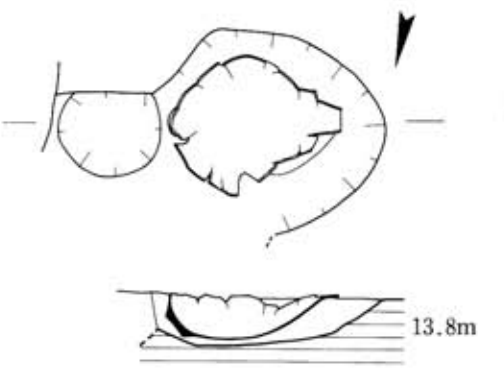
Fig. 21　ＳＪ059・060・063甕棺墓（1/30）




**ＳＪ064甕棺墓**
**法　量**　(土壙) 1.34×(1.05)m
**頭　位**　N174°W
**埋角度**　24°
**概　要**　合わせ口と見られるが，南側は荒らされて上甕不明。東側がＳＪ002と接するが，先後不明。墓壙は２段掘り，下段は壙底を水平にちかく掘り込む。

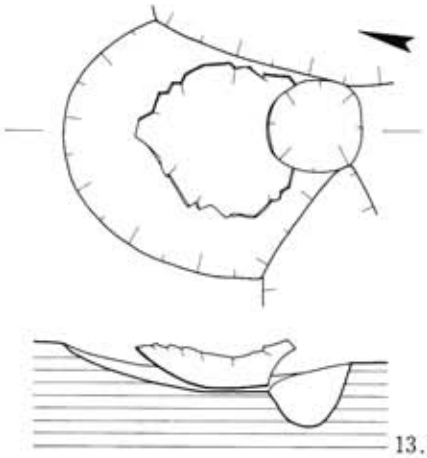



**ＳＪ065甕棺墓**
**法　量**　(土壙) 1.30×1.00m
**頭　位**　N80°E
**埋角度**　25°
**概　要**　抜き取りにより，上下甕が一部のみ残存。また東南隅が荒らされている。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。

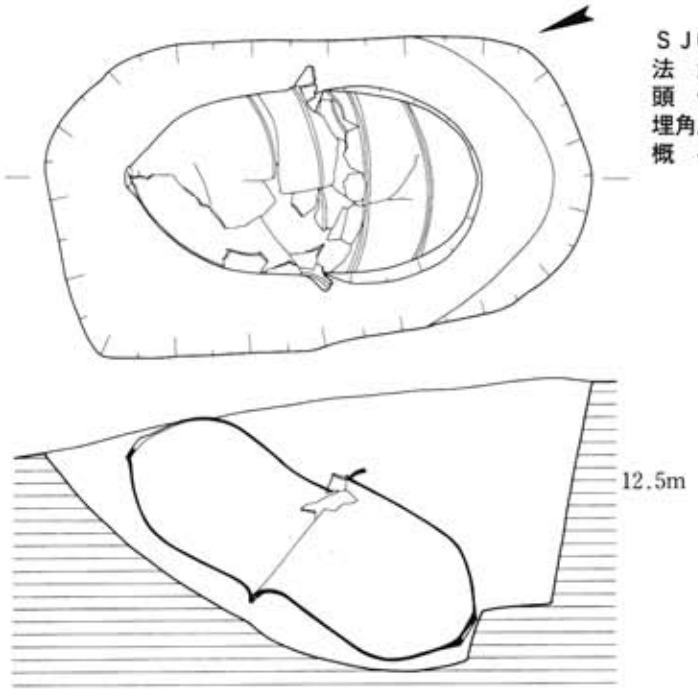



**ＳＪ066甕棺墓**
**法　量**　(土壙)　　×0.8m
**頭　位**　N34°W
**埋角度**　18°
**概　要**　合わせ口と見られるが，西北側を荒らされ，さらに削平のため下甕の一部のみ残。墓壙は楕円形状に浅く残存。壙底は頭位の西側に向かって上がる。

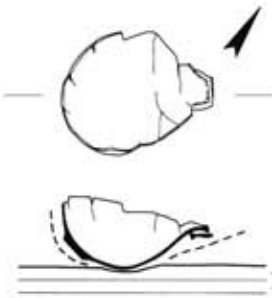
Fig. 22　ＳＪ064・065・066甕棺墓 (1/30)




**ＳＪ067甕棺墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　N167°E
**埋角度**　ほぼ水平
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため，下甕一部のみ残。また中央を荒らされている。東西それぞれでＳＪ051，ＳＪ061と切り合うが先後不明。墓壙は楕円形で，浅く残存。甕棺は頭位南側がやや上がる。

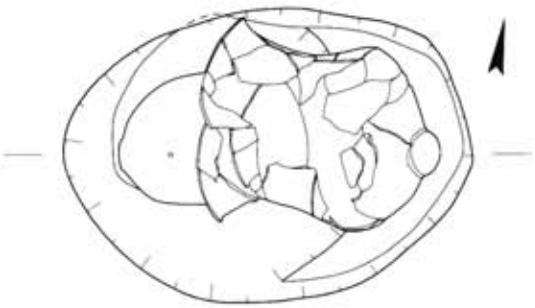


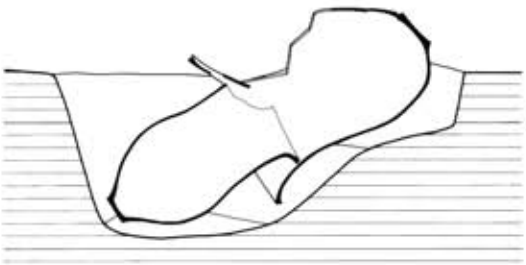

**ＳＪ071甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.18×1.20m
**頭　位**　N160°W
**埋角度**　32°
**概　要**　墓壙は隅丸長方形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。人骨一部残存。



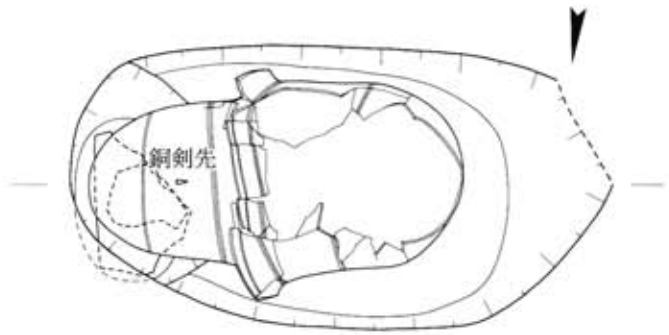

**ＳＪ072甕棺墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　N56°E
**埋角度**　35°
**概　要**　削平のため上甕は一部のみ残，下甕破損。墓壙は黒色土に掘り込んでいるため，掘形不明。甕棺は覆口式で，上甕として鉢を被せている。

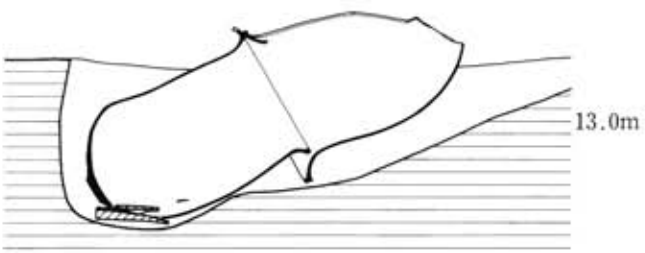
Fig. 23　ＳＪ067・071・072甕棺墓（1/30）





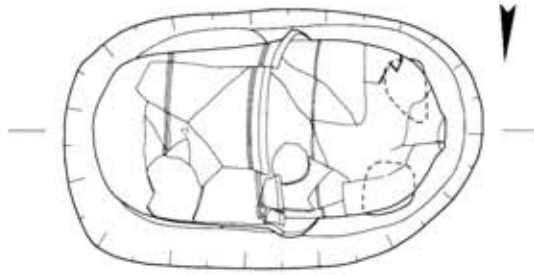

**ＳＪ074甕棺墓**
**法　量**　(土壙)1.63×1.15m，(棺長)1.40m
**頭　位**　N80°E
**埋角度**　30°
**概　要**　墓壙は楕円形で，西側を深く２段に掘り下げている。甕棺は覆口式で，斜めに据えつけている。下甕は比較的小形で，上甕が深く覆う。



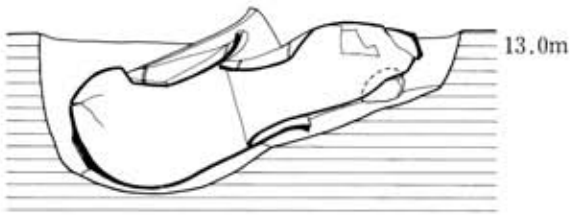



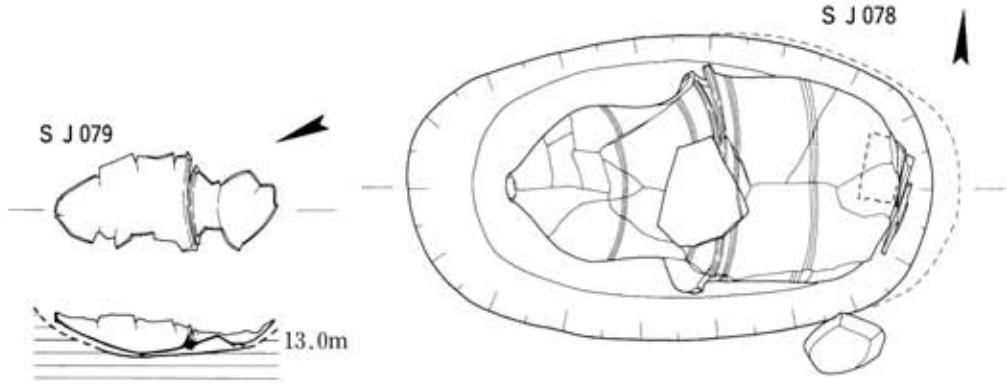

**ＳＪ075甕棺墓**
**法　量**　(土壙) 2.15×1.11m
**頭　位**　N96°W
**埋角度**　26°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形にちかい隅丸長方形で，東側に向かって斜めに掘り下げ，さらに最下段を１段掘りくぼめる。甕棺は下甕の最下位が穿孔時の失敗か，大きく破損しており，安山岩板石２枚を当てて塞ぐ。棺底から約10cm浮いて銅剣先１点が出土した。

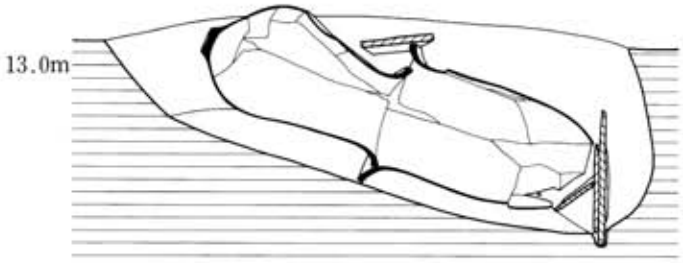
Fig. 24　ＳＪ074・075甕棺墓（1/30）



**ＳＪ077甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.68×1.02m，（棺長）1.41m
**頭　位**　N94°W
**埋角度**　21°
**概　要**　墓壙は楕円形で，東側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。下甕に穿孔。上甕は花崗岩礫２個を置いて固定している。



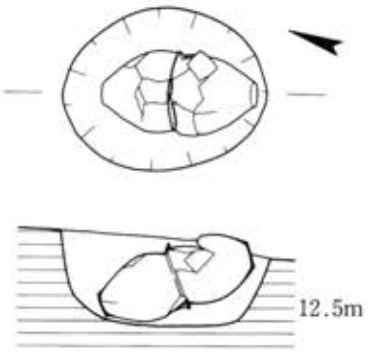



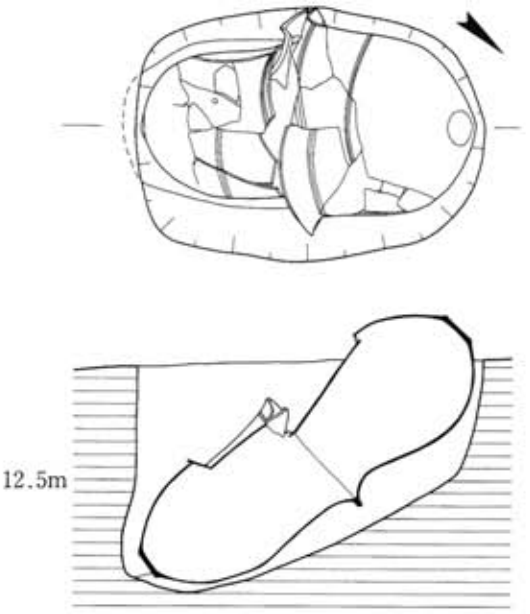

**ＳＪ079甕棺墓**
**法　量**　（棺長）約0.9m
**頭　位**　N158°W
**埋角度**　1°
**概　要**　小児棺。上甕に壺を使用する。削平のため，上・下甕とも大きく破損。墓壙不明。甕棺は接口式。

**ＳＪ078甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.08×1.20m
**頭　位**　N104°W
**埋角度**　17°
**概　要**　墓壙は楕円形で，東側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。下甕は底部を欠失し安山岩板石３枚で塞ぐ。上甕との合わせ口部上にも板石１枚を載せる。埋土中からガラス小玉１点出土。

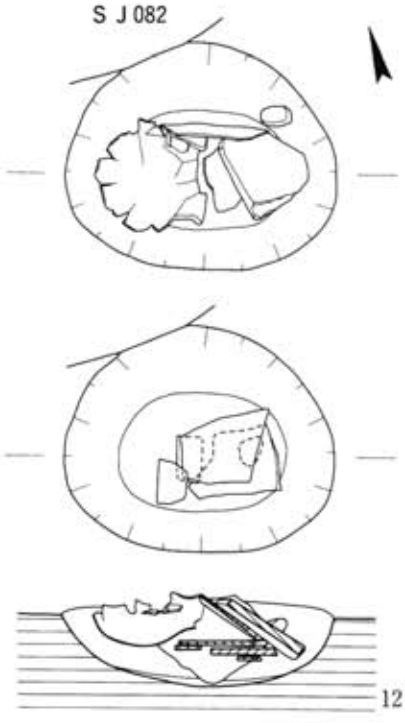
Fig. 25　ＳＪ077・078・079甕棺墓（1/30）




**ＳＪ080甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.82×0.64m
**頭　位**　N161°E
**埋角度**　19°
**概　要**　小児棺。墓壙は楕円形で，壙底を平坦に掘り込む。甕棺は生活用小形甕を転用した接口式で，斜めに埋置する。

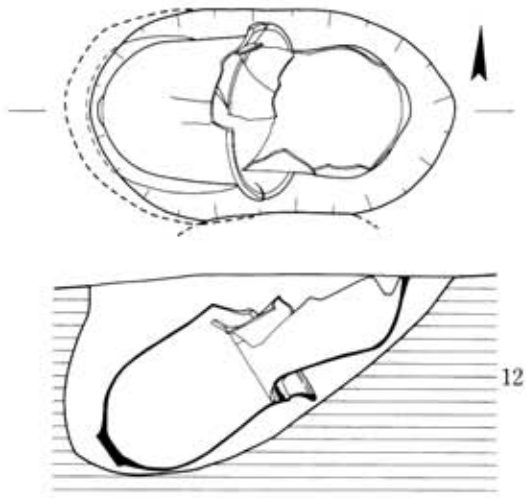



**ＳＪ081甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.38×1.00m，（棺長）1.55m
**頭　位**　N40°W
**埋角度**　36°
**概　要**　墓壙は楕円形で，頭南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔。

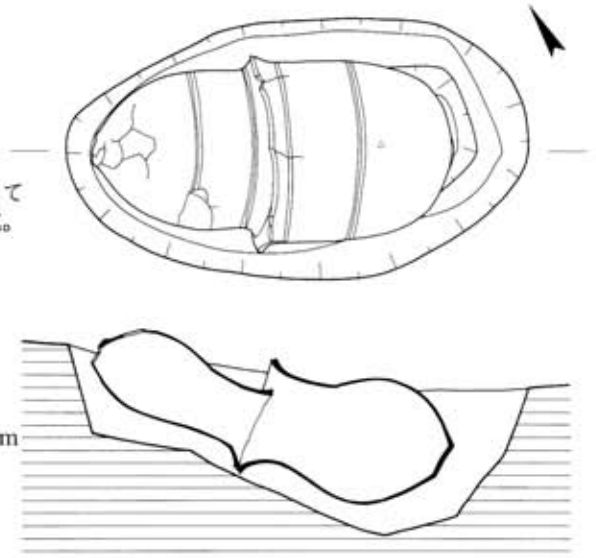



**ＳＪ082甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.08×0.90m
**頭　位**　N108°E
**埋角度**　10°
**概　要**　小児用単棺。削平のため大きく破損。墓壙は円形にちかい楕円形。甕棺には小形壺を用いる。安山岩板石を１枚北側に当て，頭位にあたる東側は安山岩板石２枚を敷いた上に口縁部を乗せ，板石２枚を蓋状に被せる。穿孔あり。

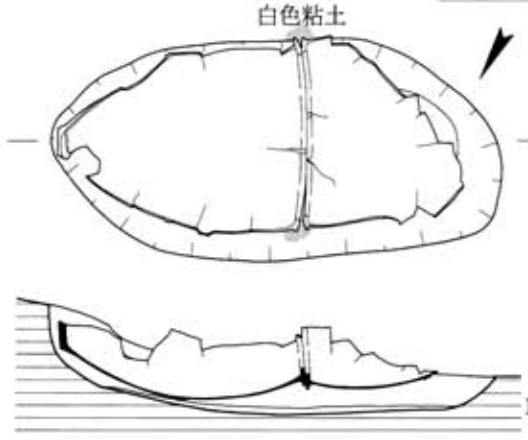
Fig. 26　ＳＪ080・081・082甕棺墓（1/30）




**ＳＪ083甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.45×0.85m，（棺長）1.4m
**頭　位**　N88°E
**埋角度**　33°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。南側でＳＪ082と接するが，先後不明。



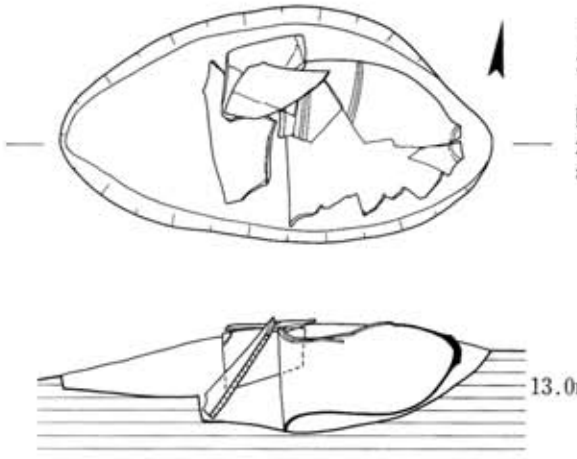

**ＳＪ084甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.82×1.07m
**頭　位**　N60°W
**埋角度**　23°
**概　要**　墓壙は楕円形で，東南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔。



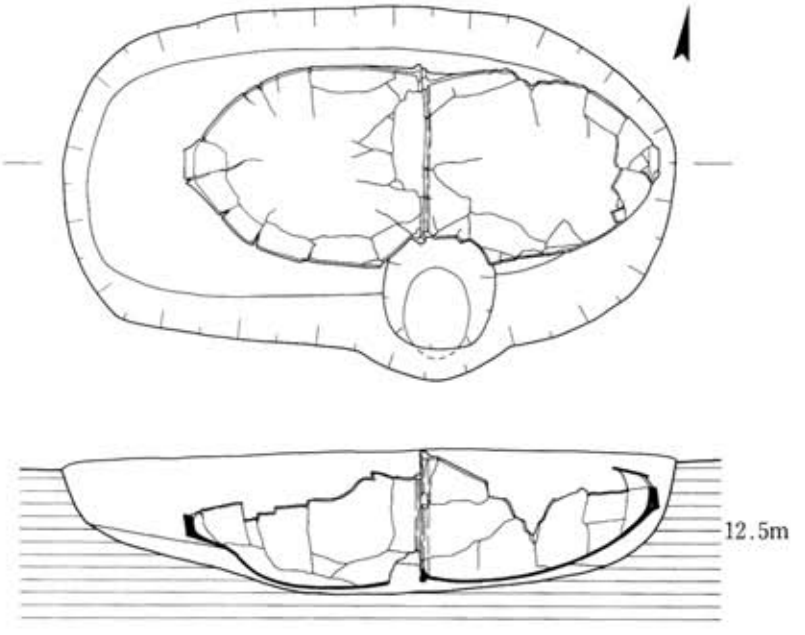

**ＳＪ085甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.80×0.88m
**頭　位**　N120°W
**埋角度**　50°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は下部が楕円形状に残存。壙底はほぼ水平水にちかい。甕棺は接口式。頭位と見られる東北側下甕を直接壙底に据え，西南側がやや上がる。

0　1m

Fig. 27　ＳＪ083・084・085甕棺墓（1/30）



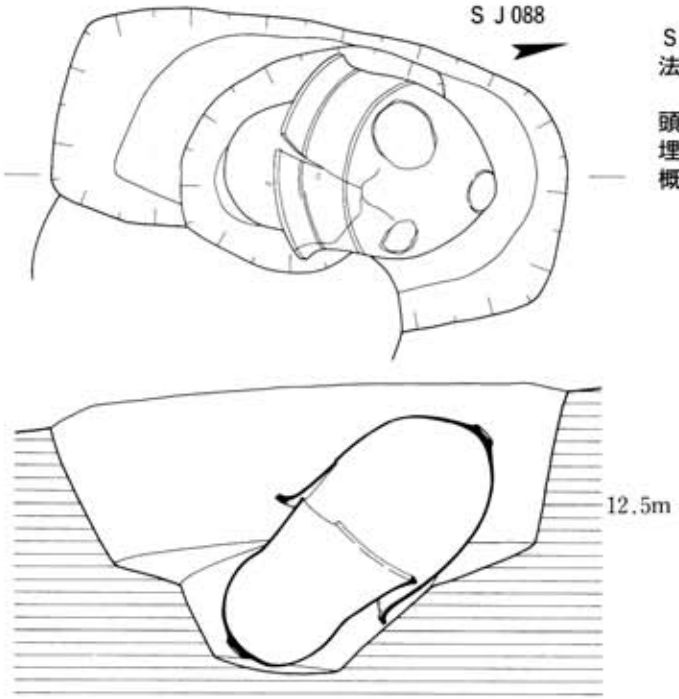

**ＳＪ086甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.72×0.95m
（棺長）0.72m
**頭　位**　N96°W
**埋角度**　−3°
**概　要**　単棺。削平のため南側破損。墓壙は楕円形で，棺埋置部をさらに１段浅く船底状に掘り込む。甕棺は壙底にほぼ水平に据え，口縁部は，石蓋というよりは，回りを囲うように安山岩板石で覆う。



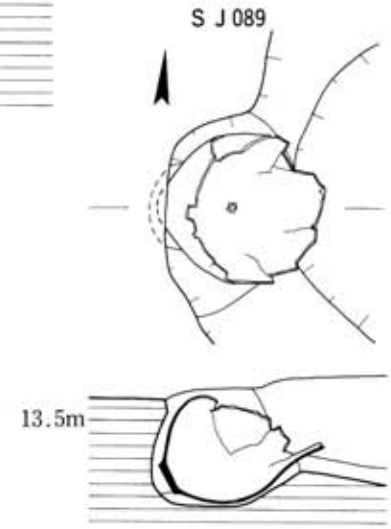

**ＳＪ087甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.40×1.35m
**頭　位**　N99°W
**埋角度**　−1°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は円形で，壙底は船底状。甕棺は接口式で，ほぼ水平に据える。墓壙の東側に寄っていることから見て，頭位は西側か。

0　1m

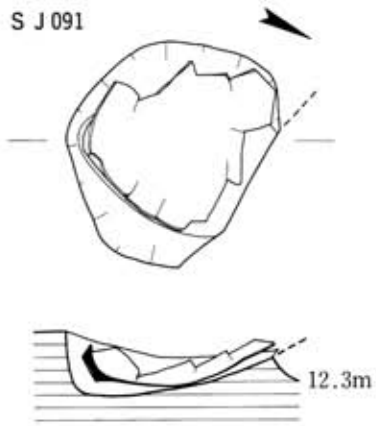
Fig. 28　ＳＪ086・087甕棺墓（1/30）




**ＳＪ088甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.15×(1.1)m
（棺長）0.72m
**頭　位**　N10°E
**埋角度**　42°
**概　要**　墓壙は２段掘り。上段は隅丸長方形，下段は下甕分を楕円形に掘り込む。甕棺は覆口式。下甕は比較的小形で，最下位よりやや上に１個，さらに体部中位にもう１個不必要な穿孔を施す。東側はＳＪ029に切られる。

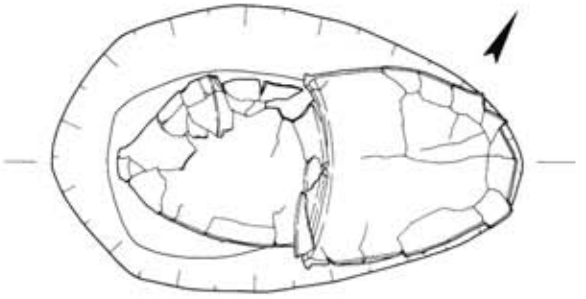


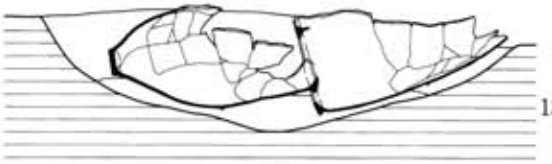

**ＳＪ089甕棺墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　N88°E
**埋角度**　30°
**概　要**　東側をＳＫ162に切られ，さらに削平のため上甕不明，下甕破損。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。



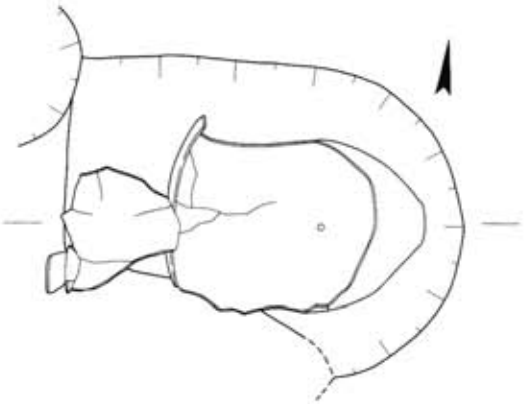

**ＳＪ091甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.35×0.87m
**頭　位**　N27°　W
**埋角度**　26°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明。墓壙は円形に浅く残存。東南側に緩く斜めに掘り込む。

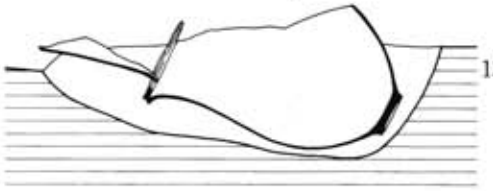
Fig. 29　ＳＪ088・089・091甕棺墓（1/30）



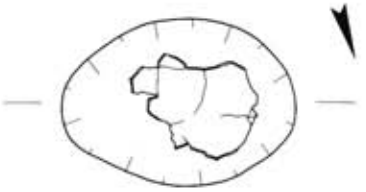



**ＳＣ092甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.87×1.13m
**頭　位**　N118°W
**頭　位**　9°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は楕円形で，西南側に向かってやや斜めに掘り下げる。甕棺は接口式と思われるが，現状では上甕が元の位置から下がっている。



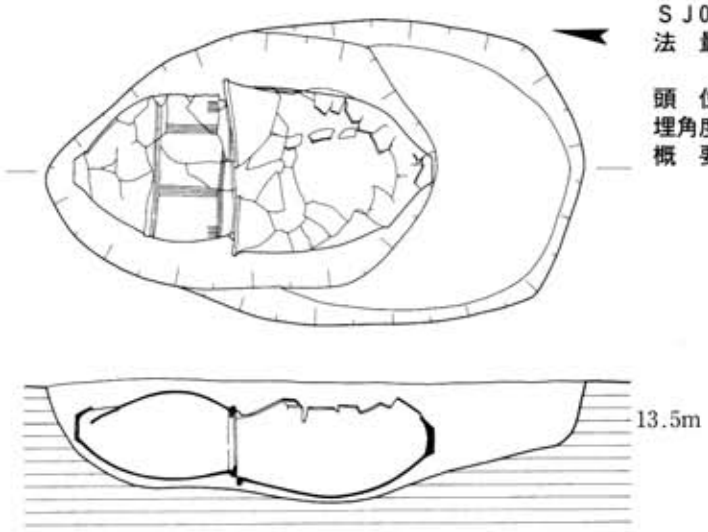



**ＳＪ093甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.58×（1.25）m
**頭　位**　N95°E
**埋角度**　23°
**概　要**　削平のため上甕はわずかに残存，下甕破損。墓壙は楕円形で，南側に向かって壙底をやや斜めに掘り下げる。甕棺は接口式と見られるが，上甕が動いているため詳細不明。下甕に穿孔。

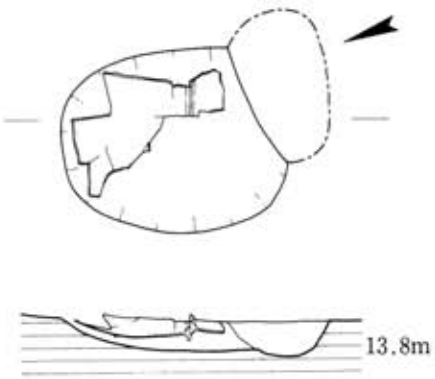


**ＳＪ095甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.93×0.66m
**頭　位**　N108°E
**埋角度**　ほぼ水平
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明，下甕が一部のみ残存。墓壙は楕円形で浅く残る。壙底はほぼ水平ながら頭位と見られる東南側がやや上がる。

Fig. 30　ＳＪ092・093・095甕棺墓（1/30）



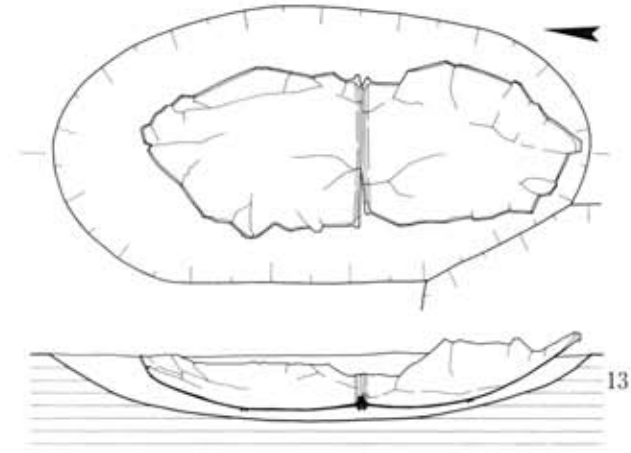

**ＳＪ099甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.14×1.20m
（棺長）1.43m
**頭　位**　N172°E
**埋角度**　3°
**概　要**　削平のため上甕一部破損。墓壙は楕円形で，壙底は棺埋置部をさらに１段浅く掘り込む。甕棺は接口式で，水平に据える。



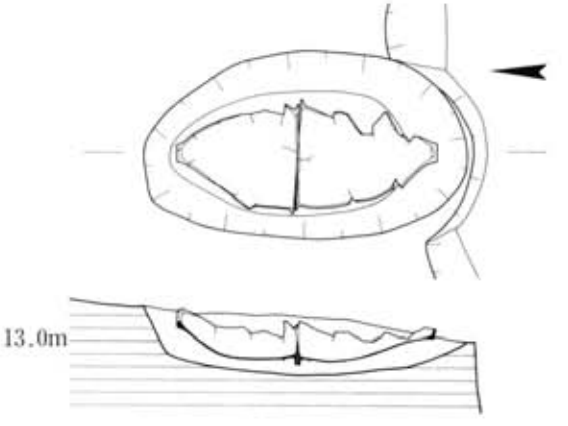

**ＳＪ100甕棺墓**
**法　量**　（土壙）（0.93）×0.74m
**頭　位**　N160°W
**埋角度**　ほぼ水平
**概　要**　削平，さらに北側を荒らされ，上・下甕は一部のみ残。墓壙は浅く残存，壙底は平坦に掘り込む。甕棺は接口式で，ほぼ水平に埋置。頭位は南側と見られる。

**ＳＪ101甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.67×0.60m
**頭　位**　N110°E
**埋角度**　不明
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため下甕の一部のみ残。東側が頭位と見られる。

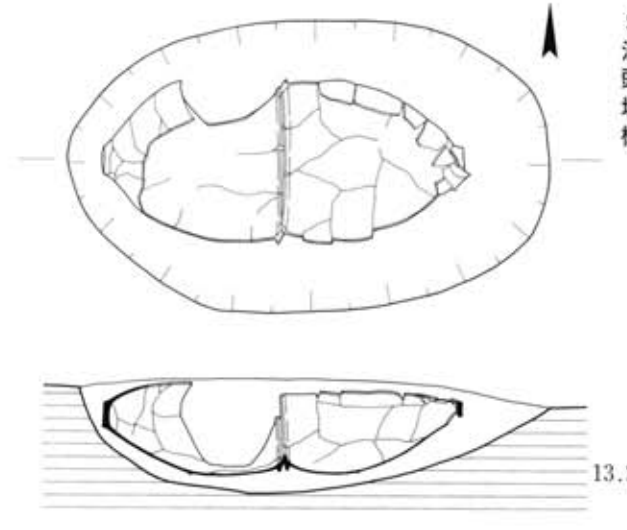
Fig. 31　ＳＪ099・100・101甕棺墓（1/30）




**ＳＪ108甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.13×1.10m
**頭　位**　N176°E
**埋角度**　2°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。西南を荒らされている。墓壙は楕円形で，壙底は船底状に浅く残存。甕棺は接口式。ほぼ水平に据えるが，頭位と見られるみなみがわがわずかに上がる。

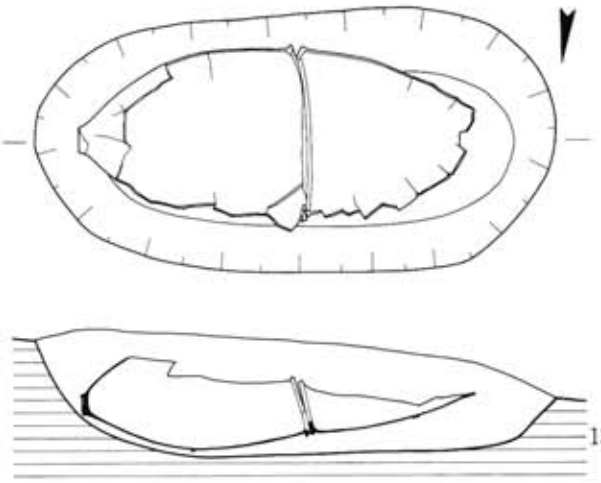



**ＳＪ111甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.28×0.73m
**頭　位**　N88°E
**埋角度**　0°
**概　要**　削平のため上・下甕とも大きく破損。墓壙は楕円形で，壙底はほぼ水平に掘り込む。甕棺は接口式。

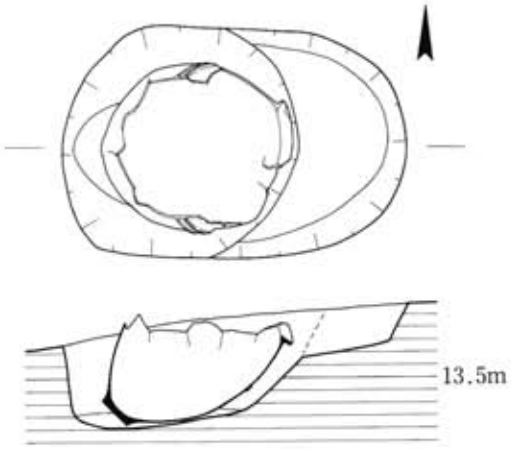



**ＳＪ113甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.90×1.15m
**頭　位**　N90°E
**埋角度**　1°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は楕円形で，壙底を船底状に斜め掘り下げる。甕棺は接口式で，ほぼ水平に埋置。東側に余裕があることから，東側が頭位と思われる。

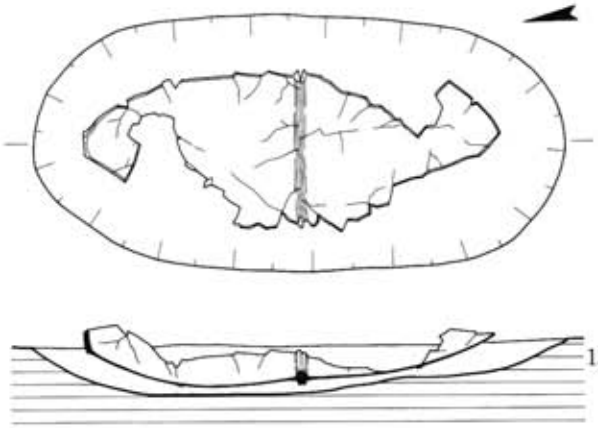
Fig. 32　ＳＪ108・111・113甕棺墓（1/30）




**ＳＪ115甕棺墓**
法　量　（土壙）2.08×1.02m
頭　位　N98°W
埋角度　8°
概　要　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は楕円形で，壙底はほぼ平坦。甕棺は接口式。頭位と見られる東側甕は直接壙底に据え，西側上甕をやや斜めに上げる。

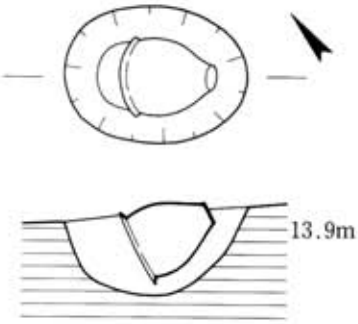



**ＳＪ121甕棺墓**
法　量　（土壙）1.37×0.90m
頭　位　N90°E
埋角度　40°
概　要　単棺。削平のため破損。墓壙は2段掘り。上段は楕円形，下部は西側をさらに楕円形に掘り込む。



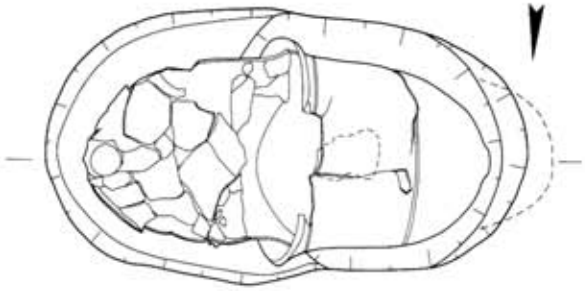

**ＳＪ122甕棺墓**
法　量　（土壙）2.13×1.02m
頭　位　N171°W
埋角度　5°
概　要　削平のため上下甕とも大部分破損。墓壙は楕円形で，壙底はほぼ平坦に掘り込み，浅く残存。甕棺は接口式。頭位南側をやや高く据える。

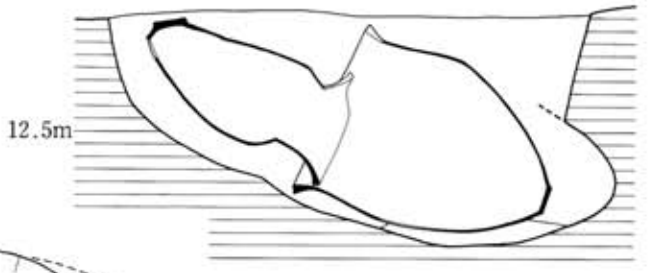
Fig. 33　ＳＪ115・121・122甕棺墓（1/30）

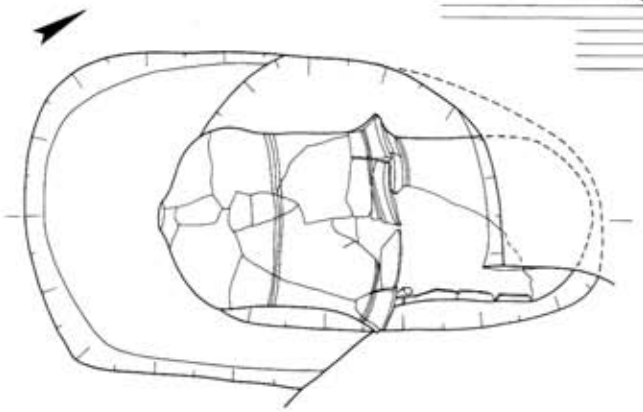



**ＳＪ123甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.73×0.63m
**頭　位**　N129°E
**埋角度**　28°
**概　要**　小児用甕棺か。墓壙は楕円形状に掘り込み，生活用土器の小形甕１個のみが斜めに伏せた状態で出土した。

**ＳＪ124甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.90×1.10m
**頭　位**　N87°E
**埋角度**　24°
**概　要**　墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。下甕は最深部には直径20㎝前後の大きく不整形な穿孔を行っている。





**ＳＪ126甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.88×1.31m
**頭　位**　N147°W
**埋角度**　17°
**概　要**　墓壙は２段掘り。上段は隅丸長方形で，下段は東北部をやや斜めに掘り下げ，さらに横に掘り込む。甕棺は接口式。下甕に穿孔。ＳＪ135と接するが，先後不明。

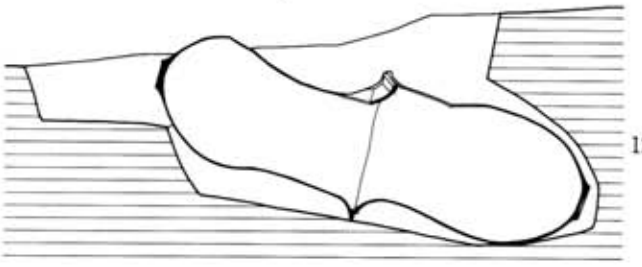
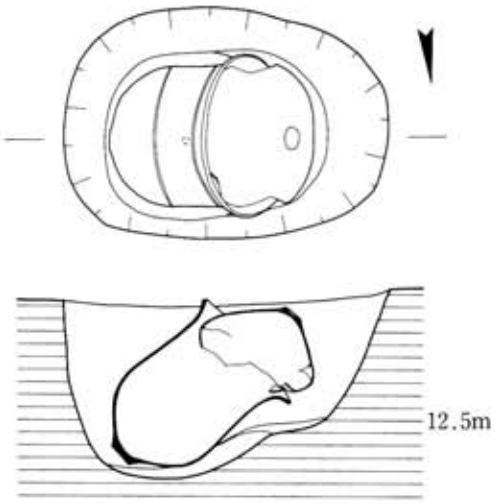
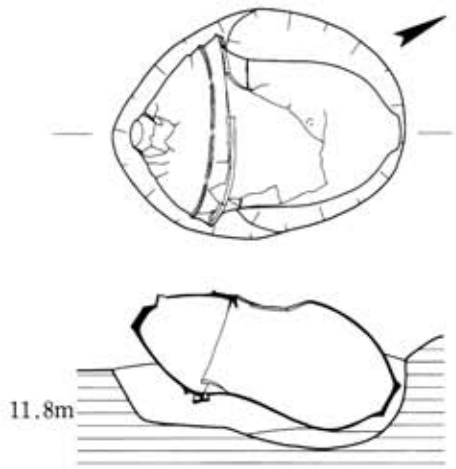


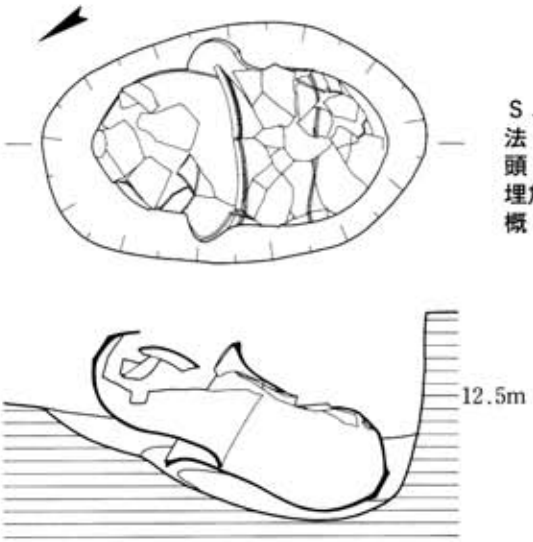
Fig. 34　ＳＪ123・124・126甕棺墓（1/30）




**ＳＪ127甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.28×0.93m
**頭　位**　N85°W
**埋角度**　39°
**概　要**　削平のため上下甕とも破損。墓壙は楕円形で，壙底は下甕分をさらに掘込む。甕棺は上甕がずれているが，元々呑口式と見られる。下甕は口縁部打ち欠き。穿孔を施す。

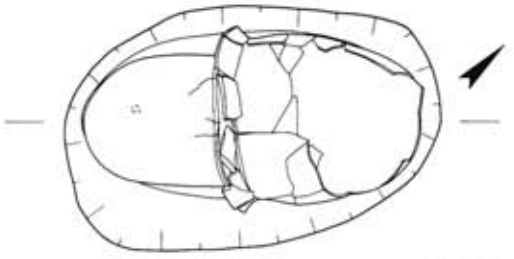
**ＳＪ129甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.17×0.90m，（棺長）1.08m
**頭　位**　N154°W
**埋角度**　20°
**概　要**　墓壙は楕円形で，壙底は北側に向かってやや斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。上甕は鉢形，下甕に穿孔。

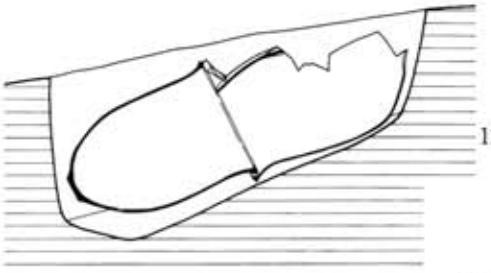


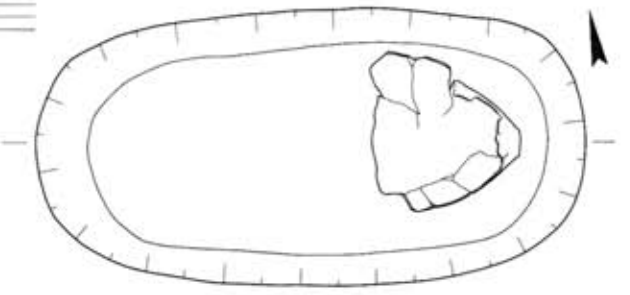

**ＳＪ130甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.54×0.93m（棺長）1.25m
**頭　位**　N32°E
**埋角度**　22°
**概　要**　墓壙は楕円形で，南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。下甕に穿孔。

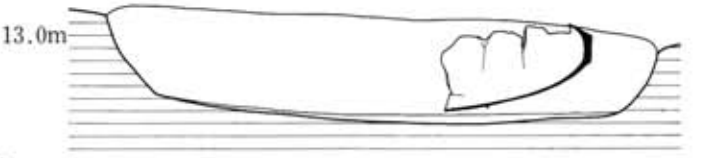
Fig. 35　ＳＪ127・129・130甕棺墓（1/30）



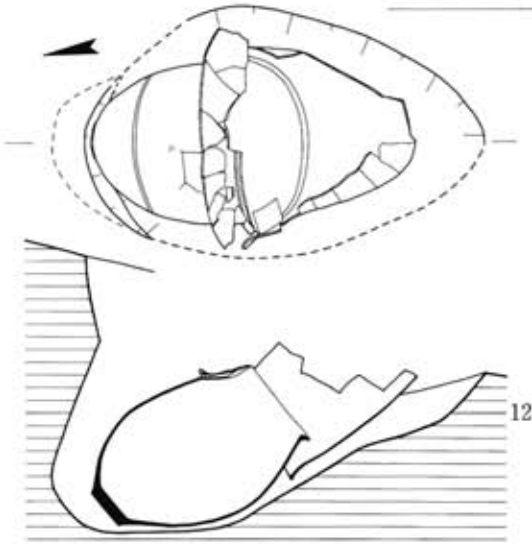



**ＳＪ131甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.48×0.95m
**頭　位**　N43°E
**埋角度**　23°
**概　要**　墓壙は楕円形で，西南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺はずれているが，元々接口式と見られる。下甕に穿孔を施す。



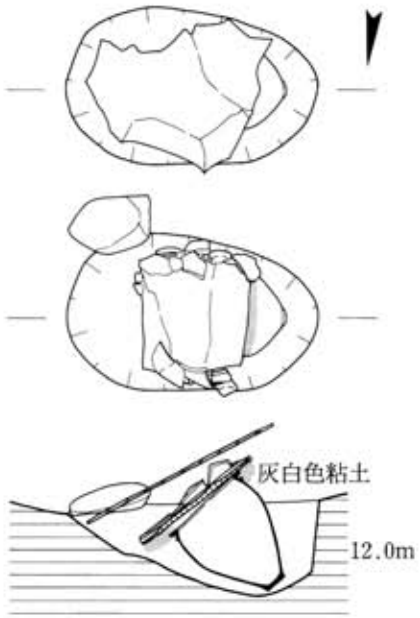



**ＳＪ132甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.18×1.08m
**頭　位**　N170°W
**埋角度**　0°
**概　要**　削平と抜き取りのため，頭位と見られる西側甕棺は不明，東側甕棺は一部のみ残。墓壙は楕円形で，壙底はほぼ水平に掘り込む。

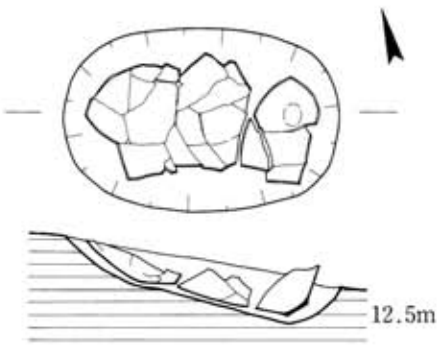



**ＳＪ135甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.57×(1.0)m
**頭　位**　N170°W
**埋角度**　37°
**概　要**　削平のため上甕破損。北東側はＳＪ044に切られる。西側はＳＪ126に切られると見られるが不確実。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。下甕に穿孔を施す。

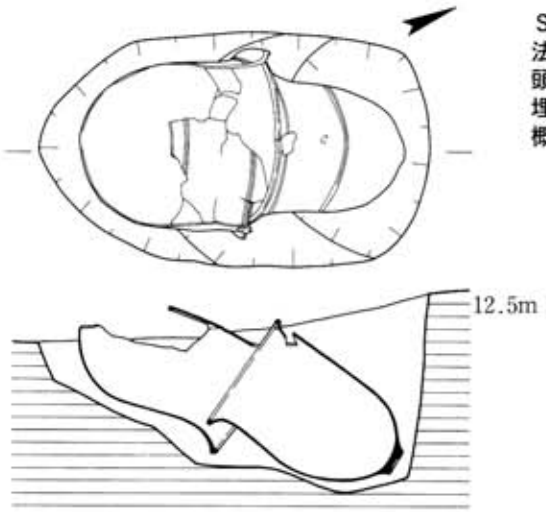
Fig. 36　ＳＪ131・132・135甕棺墓（1/30）




**ＳＪ136甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.00×0.60m
**頭　位**　N85°E
**埋角度**　49°
**概　要**　小児用単棺。墓壙は楕円形で，西側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は小形甕を使用。安山岩板石１枚で蓋をし口縁部に灰色粘土を巻き，生活用小形甕２個体分を割って目張りを行う。さらに安山岩板石を載せ，墓壙全体を覆う。

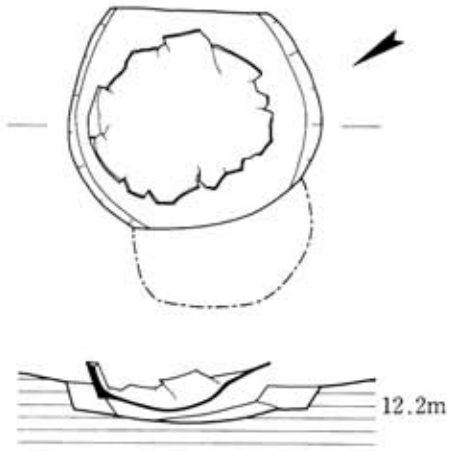



**ＳＪ137甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.10×0.72m
**頭　位**　N74°W
**埋角度**　約45°
**概　要**　削平のため上甕不明，下甕破損。墓壙は楕円形で浅く残存。東側に向かって斜めに掘り下げる。

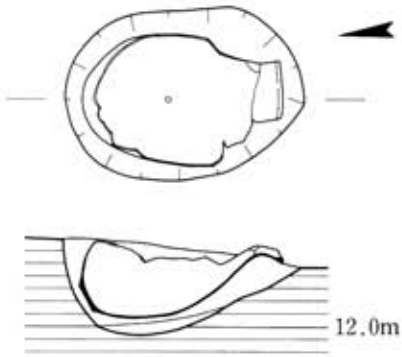



**ＳＪ139甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.56×0.93m，（棺長）約1.4m
**頭　位**　N157°W
**埋角度**　30°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は元々接口式とみられるが，上甕がずり落ちている。下甕に穿孔。

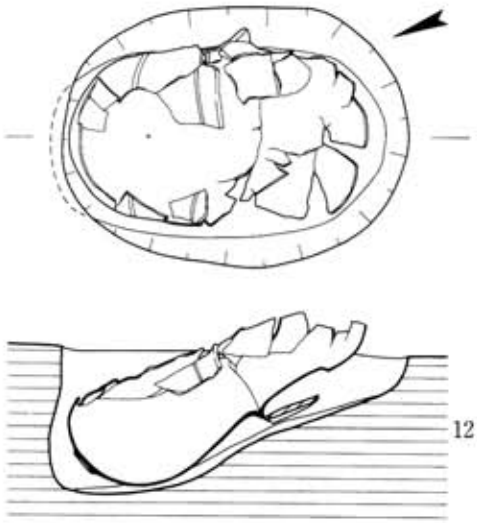
Fig. 37　ＳＪ136・137・139甕棺墓（1/30）




**ＳＪ140甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.98×1.34m，（棺長）1.0m
**頭　位**　N148°W
**埋角度**　16°
**概　要**　合わせ口と見られるが，北側を荒らされ，また削平のため詳細不明。墓壙は円形に浅く残存。東南部はＳＪ150と接するが，先後不明。

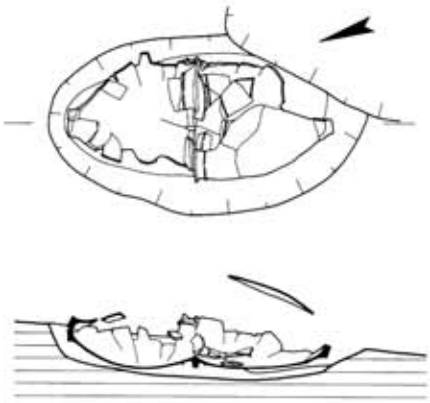



**ＳＪ141甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.94×0.68m
**頭　位**　N8°E
**埋角度**　27°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明，下甕破損。墓壙は楕円形で浅く残存。北南側に向かって斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。

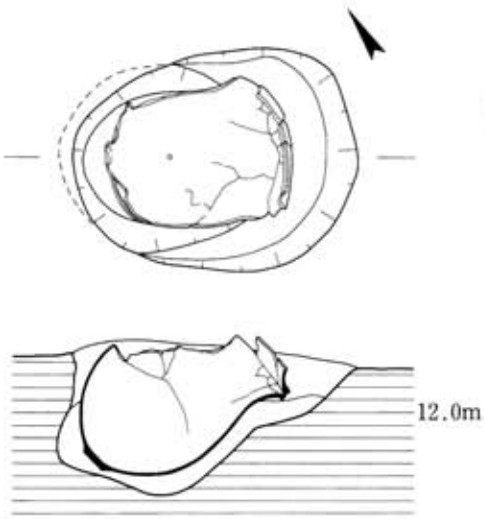



**ＳＪ142甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.35×1.02m
**頭　位**　N157°W
**埋角度**　37°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。壙底からやや急角度に埋置し，上甕の下に安山岩板石を１枚敷く。

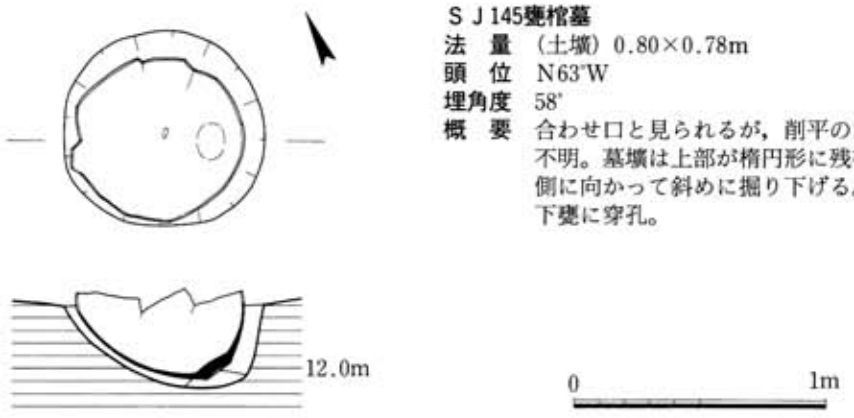
Fig. 38　ＳＪ140・141・142甕棺墓（1/30）




**ＳＪ143甕棺墓**
法　量　（土壙）1.27×0.70m，（棺長）1.05m
頭　位　N20°E
埋角度　8°
概　要　小児用。削平のため上・下甕とも破損。南端がＳＪ143を切る。墓壙は楕円形。壙底はほぼ平坦ながら，頭位と見られる北側がやや上がる。甕棺は接口式。下甕に穿孔。

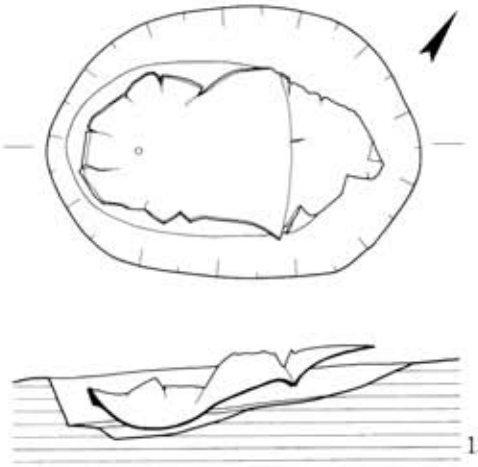



**ＳＪ144甕棺墓**
法　量　（土壙）0.64×0.88m
頭　位　N124°E
埋角度　38°
概　要　削平のため上下甕とも破損，上甕は口縁部のみ残。墓壙は２段掘りで，下甕部をさらに１段掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔を施す。

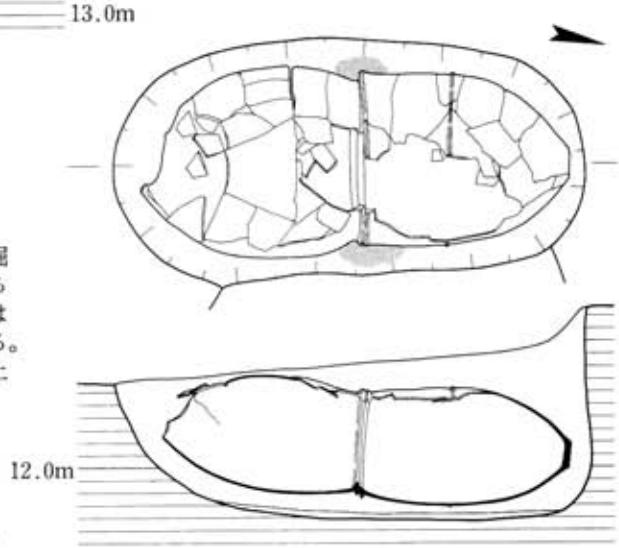



**ＳＪ145甕棺墓**
法　量　（土壙）0.80×0.78m
頭　位　N63°W
埋角度　58°
概　要　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明。墓壙は上部が楕円形に残存。東南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は下甕に穿孔。

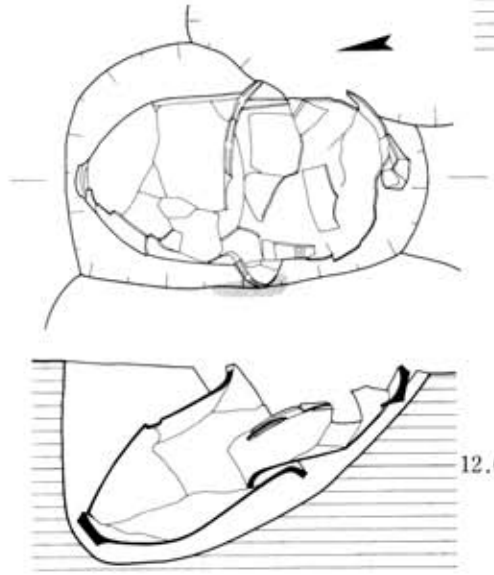
Fig. 39　ＳＪ143・144・145甕棺墓（1/30）




**ＳＪ146甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.43×1.08m
**頭　位**　N55°E
**埋角度**　19°
**概　要**　削平のため上・下甕とも一部残存。墓壙は楕円形で浅く残存。西南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔。

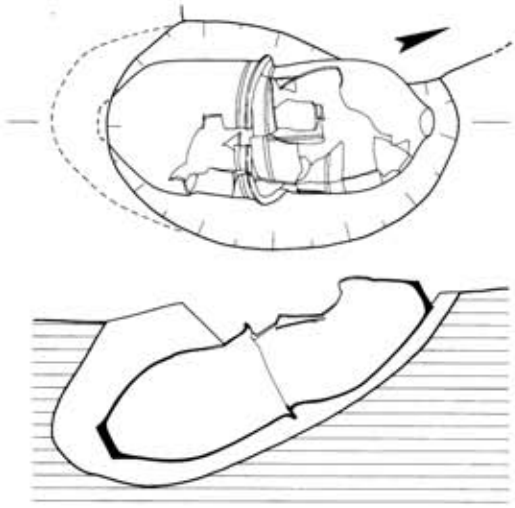



**ＳＪ147甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.87×(1.0)m
（棺長）1.65m
**頭　位**　N167°E
**埋角度**　6°
**概　要**　墓壙は楕円形で，北側を直に掘り下げ，壙底はほぼ平坦ながら南側が船底状に上がる。甕棺は接口式。頭位南側がやや上がる。合わせ口部分には下に灰色粘土を敷く。

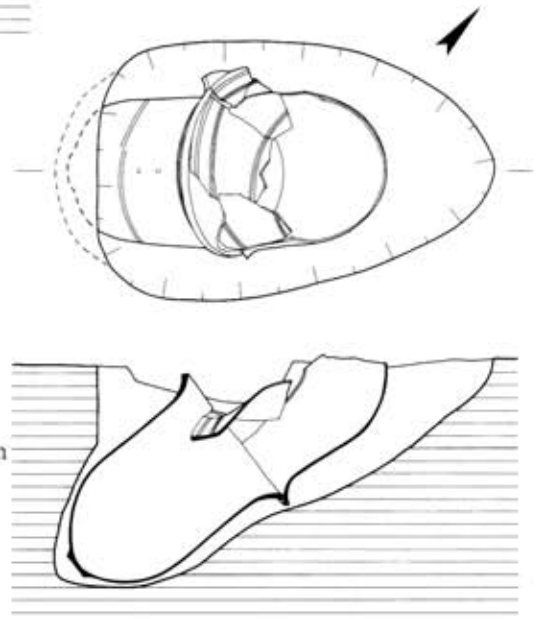



**ＳＪ148甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.44×(1.1)m
（棺長）約1.4m
**頭　位**　N172°W
**埋角度**　35°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は隅丸長方形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。東西両側に接するＳＪ147，ＳＪ149と切り合う。甕棺は呑口式。

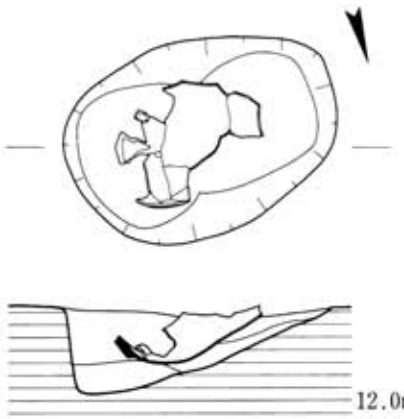
Fig. 40　ＳＪ146・147・148甕棺墓（1/30）




**ＳＪ149甕棺墓**
**法　量**　（土壙）0.91m×
**頭　位**　N19°E
**埋角度**　25°
**概　要**　墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は，上甕の口縁部が下甕よりやや小さく，呑口式となっている。東側のＳＪ148と切り合う。



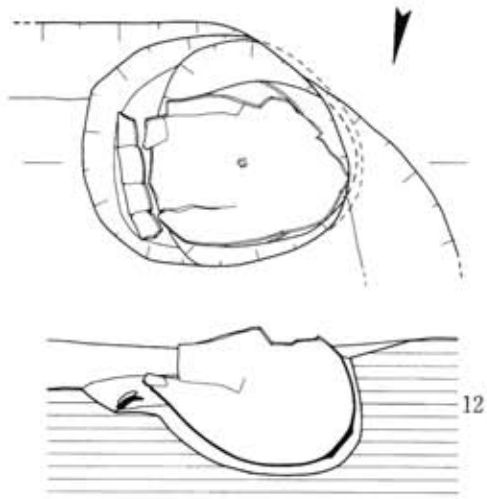

**ＳＪ150甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.50×1.04m
**頭　位**　N48°E
**埋角度**　38°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，西南側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は接口式。下甕に穿孔２個を施す。



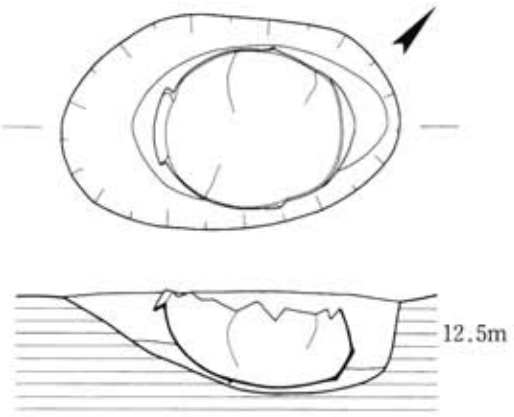

**ＳＪ152甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.10×0.80m
**頭　位**　N74°W
**埋角度**　30°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明。墓壙は下部で楕円形に残存しており，東側に向かって斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。

0　1m

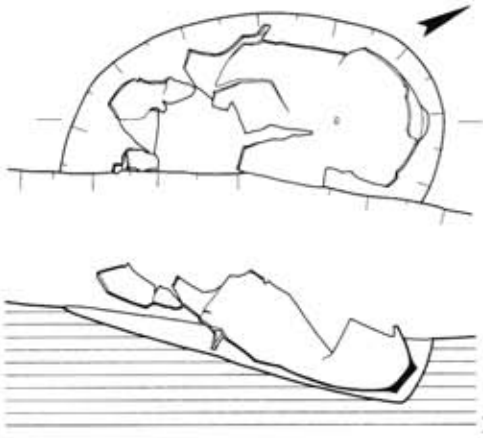
Fig. 41　ＳＪ149・150・152甕棺墓（1/30）




**ＳＪ153甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.05×0.91m
**頭　位**　N78°E
**埋角度**　40°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明，下甕破損。甕棺は２段掘りで，西側足方をさらに斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。

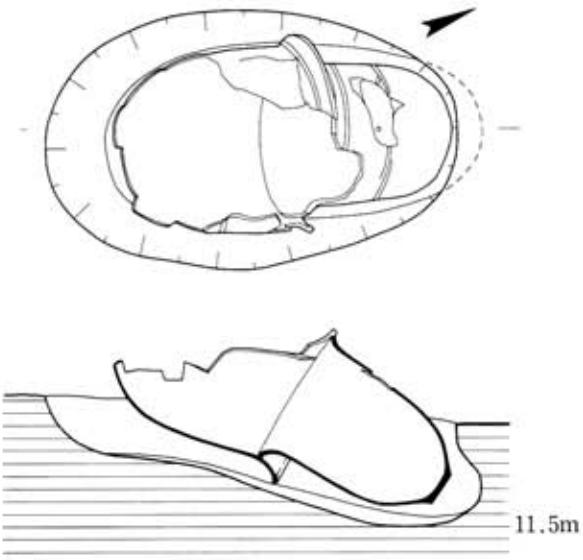



**ＳＪ155甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.33×0.85m
**頭　位**　N132°W
**埋角度**　34°
**概　要**　合わせ口と見られるが，削平のため上甕不明，下甕破損。甕棺は楕円で，東北側を斜めに掘り下げる。




**ＳＪ156甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.48m×
**頭　位**　N156°W
**埋角度**　37°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。東南側を削り取られている。墓壙は楕円形で，北東側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は覆口式。下甕は口縁部を打ち欠き，穿孔。

Fig. 42　ＳＪ153・155・156甕棺墓（1/30）




**ＳＪ157甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.63×1.03m
**頭　位**　N157°W
**埋角度**　35°
**概　要**　削平のため上甕破損。墓壙は楕円形で，北側に向かって斜めに掘り下げる。下甕に穿孔。

**ＳＪ158甕棺墓**
**法　量**　（土壙）2.15×1.58m
（棺長）1.80m
**頭　位**　N162°W
**埋角度**　8°
**概　要**　墓壙は楕円形で，壙底は頭位南側がやや上がる。ＳＪ159と北端で切り合うが，先後不明。甕棺は接口式。

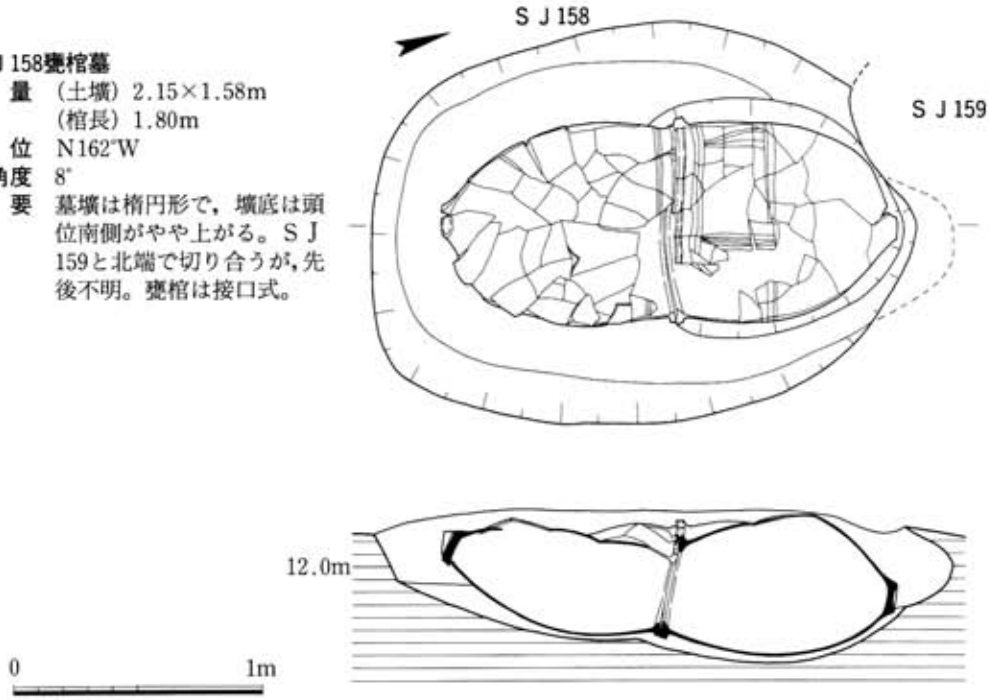
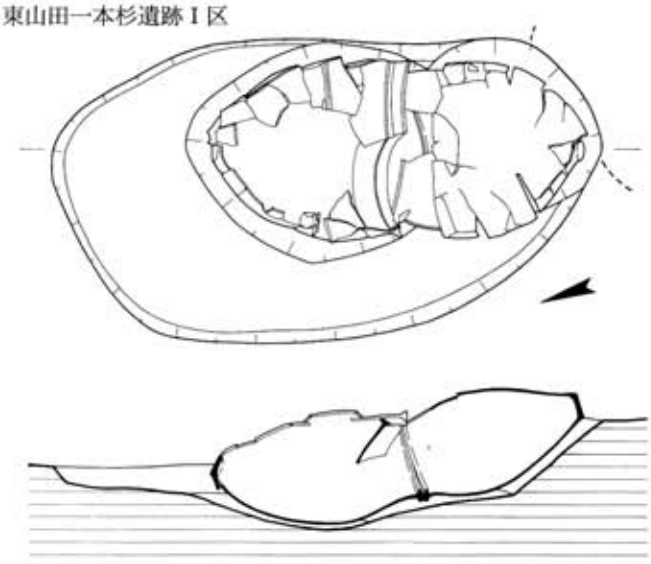
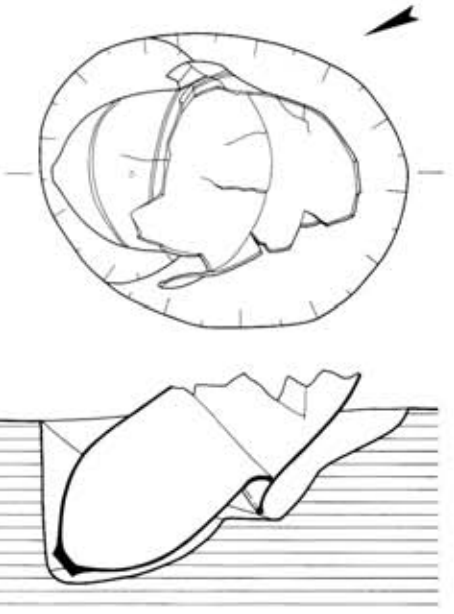


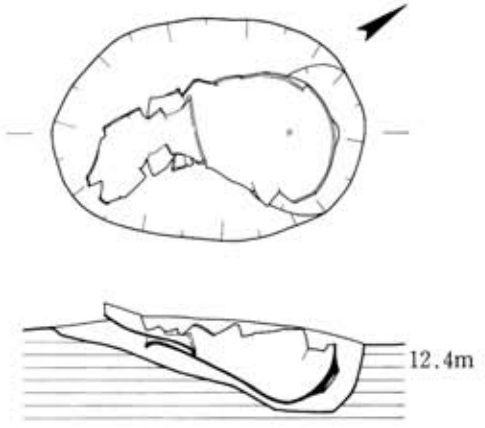

Fig. 43　ＳＪ157・158甕棺墓（1/30）




**ＳＪ159甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.65×0.87～0.85m
**頭　位**　N161°W
**埋角度**　12°
**概　要**　墓壙は楕円形。壙底は上・下甕棺分をそれぞれの形状に，北側に向かってやや斜めに掘り下げる。但し，北側の掘形は不確実。甕棺は接口式。




**ＳＪ160甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.46×1.15m
**頭　位**　N157°W
**埋角度**　40°
**概　要**　削平のため上・下甕とも破損。墓壙は楕円形で，南側に向かって斜めに掘り下げ，途中に段をつくる。甕棺は覆口式。下甕に穿孔。

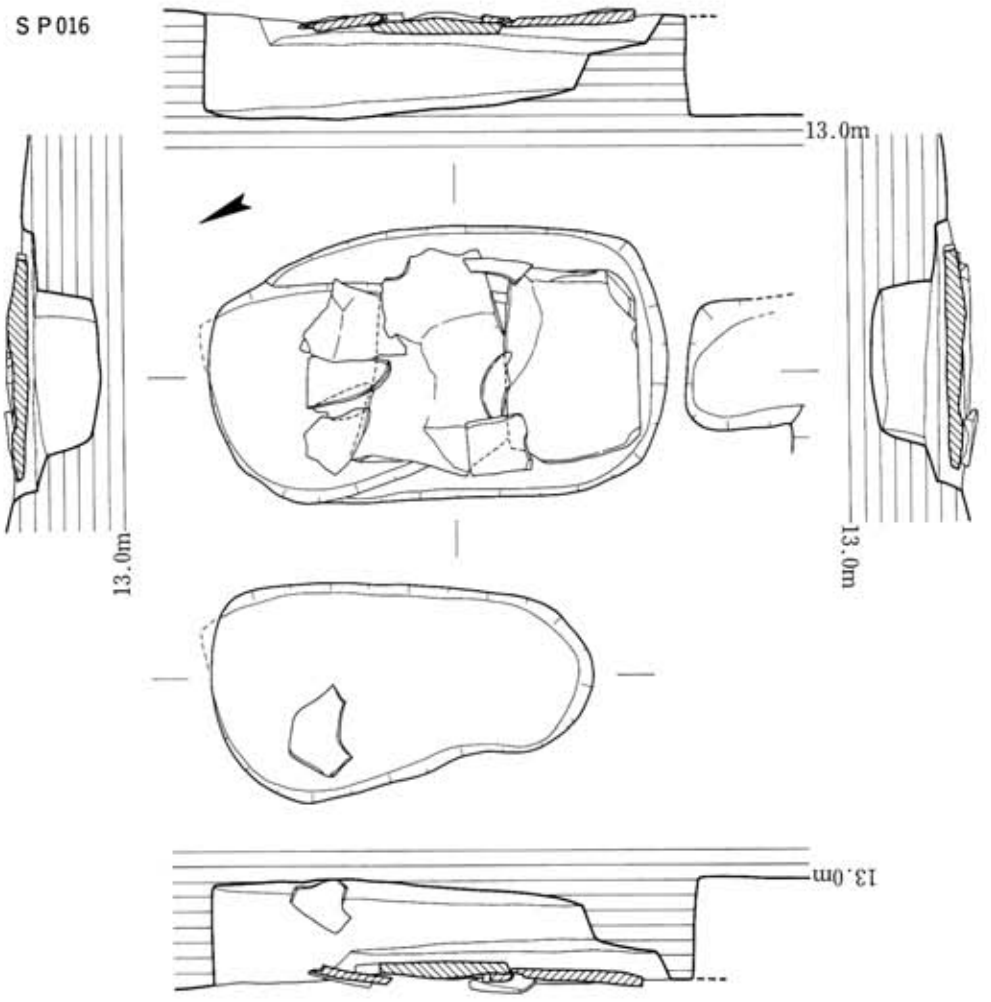



**ＳＪ161甕棺墓**
**法　量**　（土壙）1.13×0.87m
**頭　位**　N146°W
**埋角度**　33°
**概　要**　削平のため上甕は一部破片のみ残，下甕破損。墓壙は楕円形で浅く残り，北東側に向かって斜めに掘り下げる。甕棺は呑口式。下甕に穿孔。

0　1m

Fig. 44　ＳＪ159・160・161甕棺墓（1/30）

## (2)　土壙墓




**S P016土壙墓**

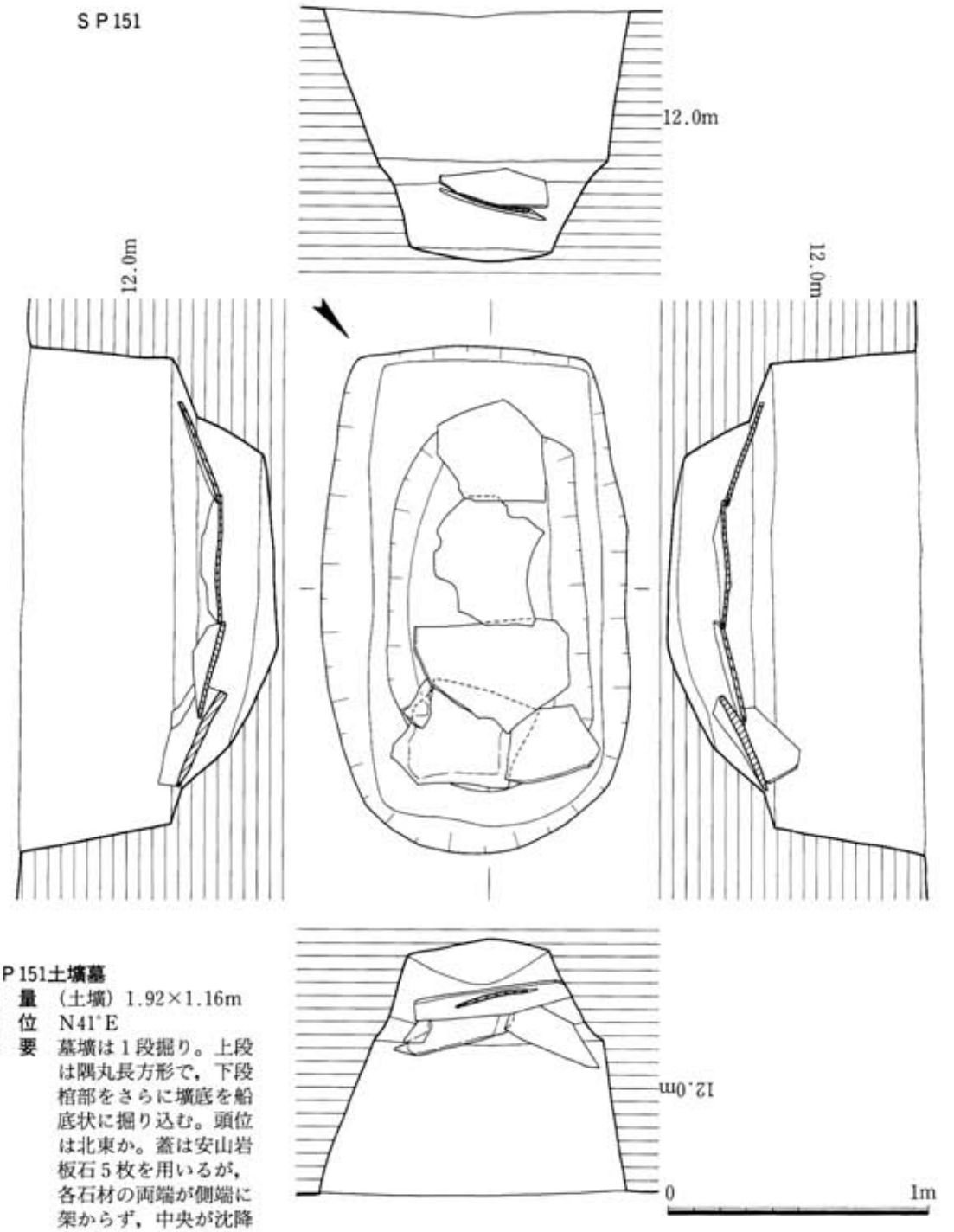
**法　量**　(上段) 1.51×0.98m
(下段) 1.27×0.72(0.54)m

**頭　位**　N155°W

**概　要**　2段掘り。上段は隅丸長方形。下段は楕円形にちかく，南側で幅が狭まる。安山岩の板石3枚で覆いさらに小板石で隙間を塞ぐ。壙底は南側でやや上がるが，掘形から見て頭位は北か。北側板石が破壊を受け，他所の甕棺片が落ち込んでいたことから木棺等の使用が推定できる。

0　1m

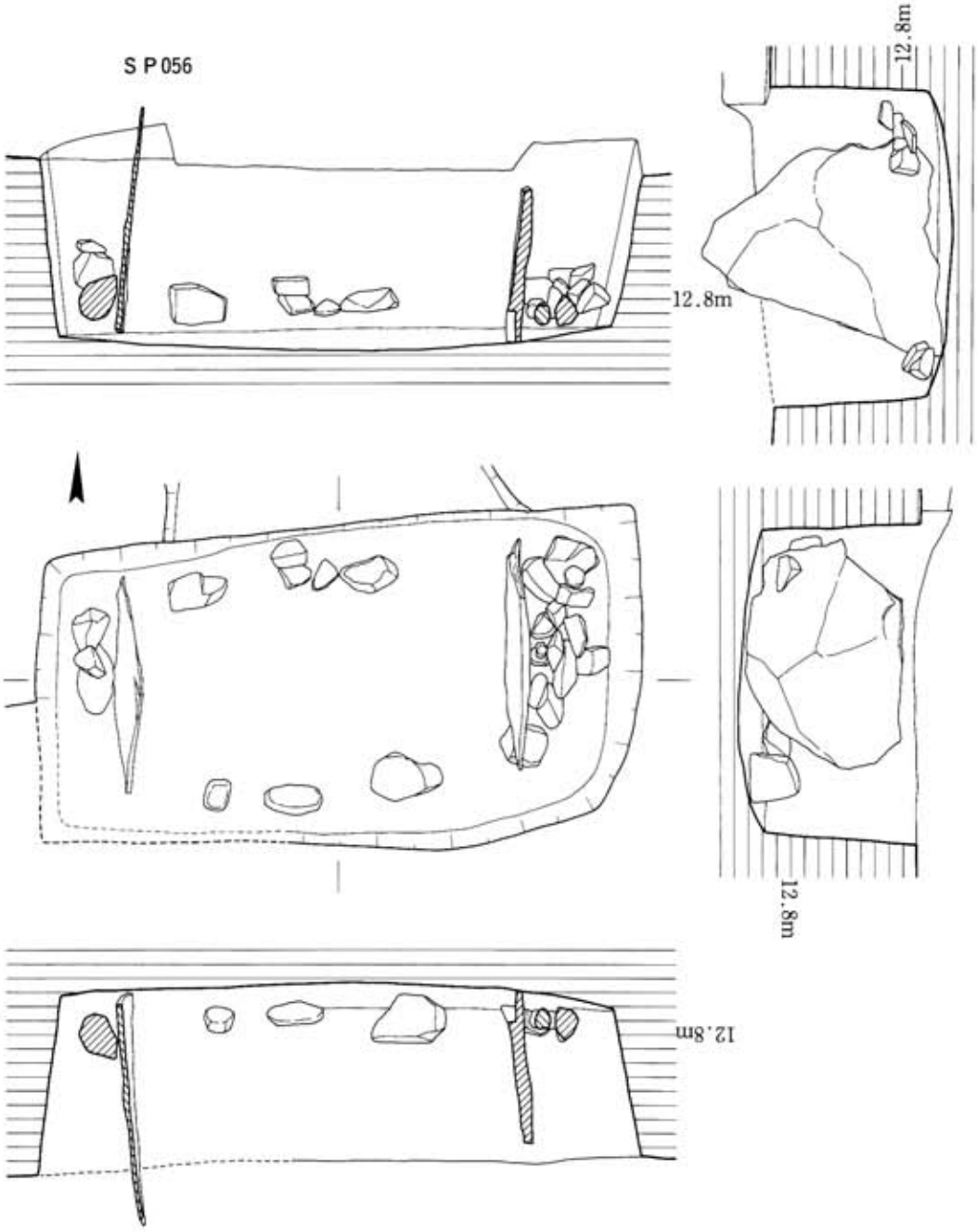
Fig. 45　S P016土壙墓 (1/25)




**SP151土壙墓**

**法　量**　（土壙）1.92×1.16m
**頭　位**　N41°E
**概　要**　墓壙は1段掘り。上段は隅丸長方形で，下段棺部をさらに壙底を船底状に掘り込む。頭位は北東か。蓋は安山岩板石5枚を用いるが，各石材の両端が側端に架からず，中央が沈降している。木棺等の使用が考えられる。

Fig. 46　SP151土壙墓（1/25）




**SP056土壙墓**

**法　量**　（土壙）2.15×1.10m
（棺内法）約1.4×0.5m

**頭　位**　N92°W

**概　要**　墓壙は隅丸長方形。壙底は平坦で，両小口側に安山岩板石を各1枚を立て，後方根元を花崗岩礫で押さえる。また，両側面にも礫を並べている。木棺の使用が推定される。頭位は西か。

Fig. 47　SP056土壙墓（1/25）

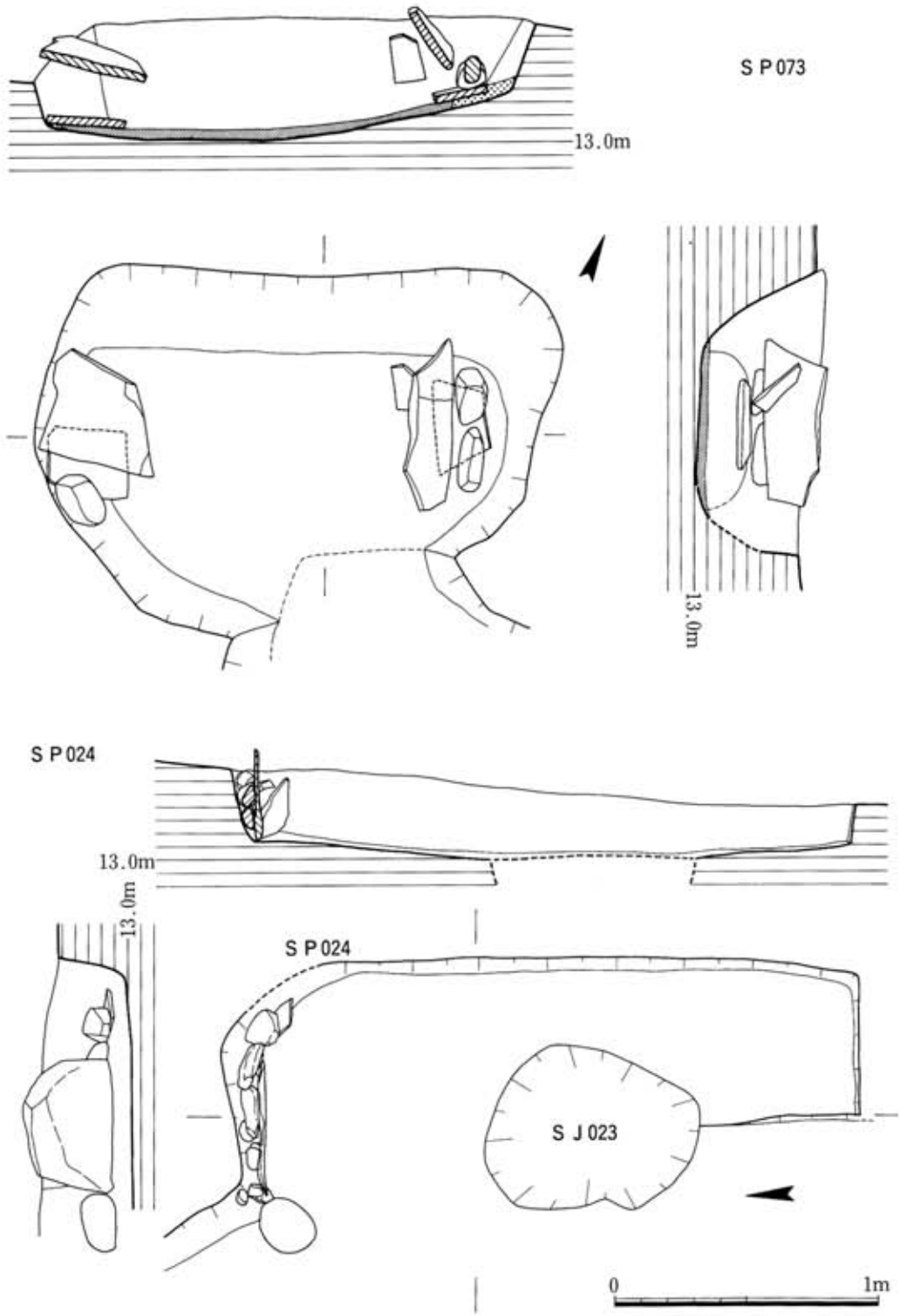
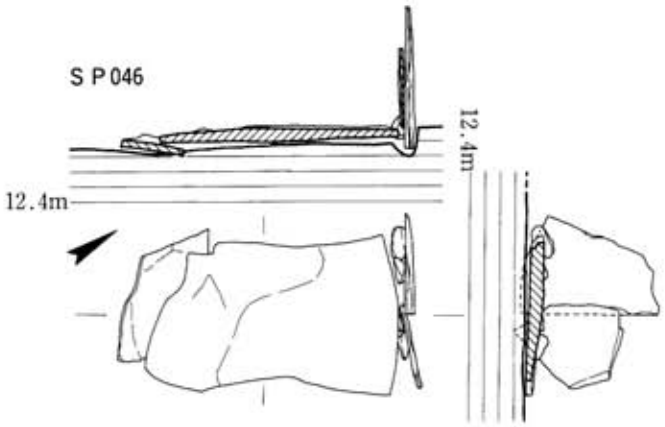
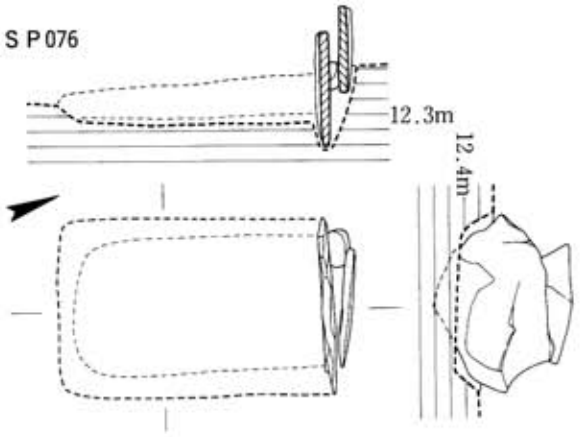


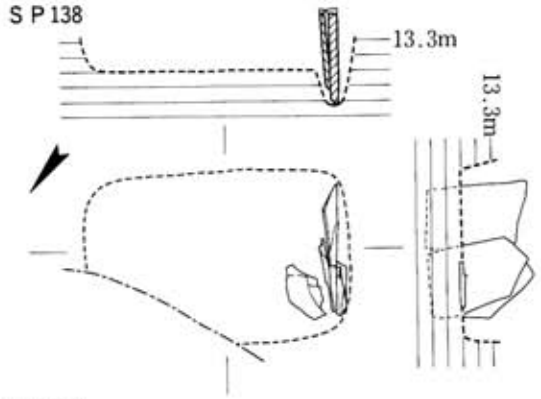

Fig. 48　S P073・024土壙墓（1/25）




**S P046土壙墓**
**法　量**　(土壙) 約0.8×(0.4)m
**頭　位**　N24°E
**概　要**　小児用土壙墓と見られる。黒色土中に掘り込んでいるため，墓壙は検出に努めたが確認できなかった。屍床に安山岩板石２枚を敷き，頭位と見られる北南側に花崗岩礫を数個置いて安山岩板石２枚を立てる。




**S P076土壙墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　N50°E
**概　要**　小児用土壙墓。頭位と見られる東北側に安山岩板石３枚を立てる。墓壙は立石の西南側とおもわれるが，黒色土を掘り込んでいるため不確実。

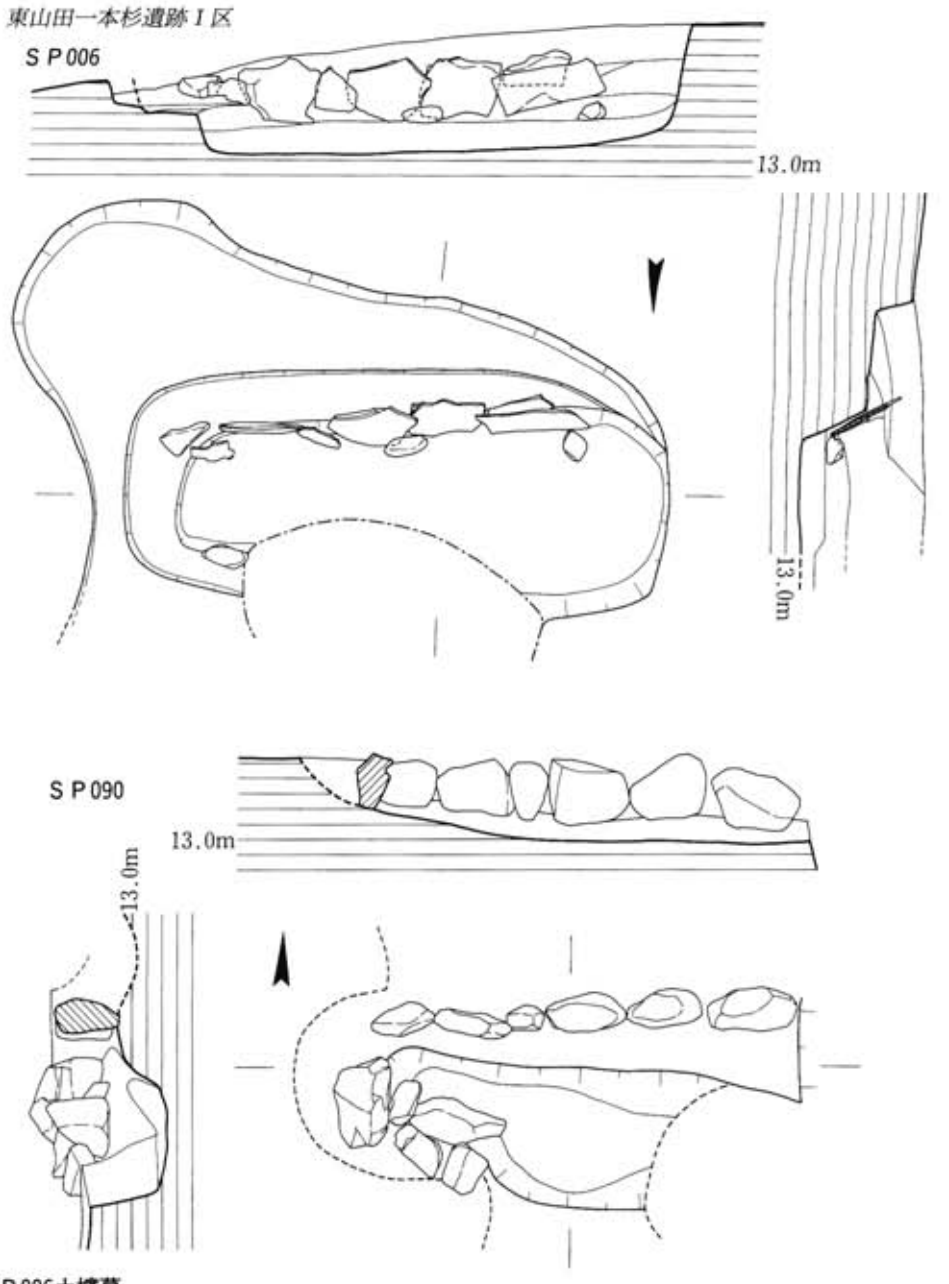



**S P138土壙墓**
**法　量**　不明
**頭　位**　N19°E
**概　要**　小児用土壙墓。墓壙は，黒色土を掘り込んでいるため形状，規模とも不明。北側に安山岩板石２枚を立て頭位を示す。

**S P073土壙墓**
**法　量**　(土壙) 2.10×1.35m
**頭　位**　N86°E
**概　要**　墓壙は隅丸長方形で，南辺を荒らされている。東西両小口にはそれぞれ安山岩板石を１枚ずつ敷き，さらに後方を花崗岩礫で押さえながら板石を立ててあったと見られる。木棺等の使用が推定される。壙底は頭位と見られる東側がやや上がる。

**S P024土壙墓**
**法　量**　(土壙) 2.36×(1.1)m
**頭　位**　N2°E
**概　要**　削平のため墓壙の残存は浅く，西側不明。また，中央部はＳＪ023に荒らされている。頭位と見られる北側に安山岩板石１枚を立て，裏側と両側を花崗岩礫で固める。

Fig. 49　S P046・076・138土壙墓 (1/25)




**SP006土壙墓**

**法　量**　（土壙）1.79×0.7(0.8)m
**頭　位**　N90°W
**概　要**　上面は削平され，北側が荒らされている。墓壙は隅丸長方形で，頭位と見られる西側でやや幅が広く壙底がわずかに上がる。南壁に安山岩板石を立て，不分的に花崗岩礫を置く。

**SP090土壙墓**

**法　量**　（土壙）0.85×約0.6m
**頭　位**　N91°W
**概　要**　全体に破壊が著しく，詳細不明。花崗岩礫を北側側辺には6個並べ，小口西側には3個置く。壙床部はさらに浅く掘り込む。頭位は西か。SJ021と切り合うが，先後不明。

0　1m

Fig. 50　SP006・090土壙墓（1/25）

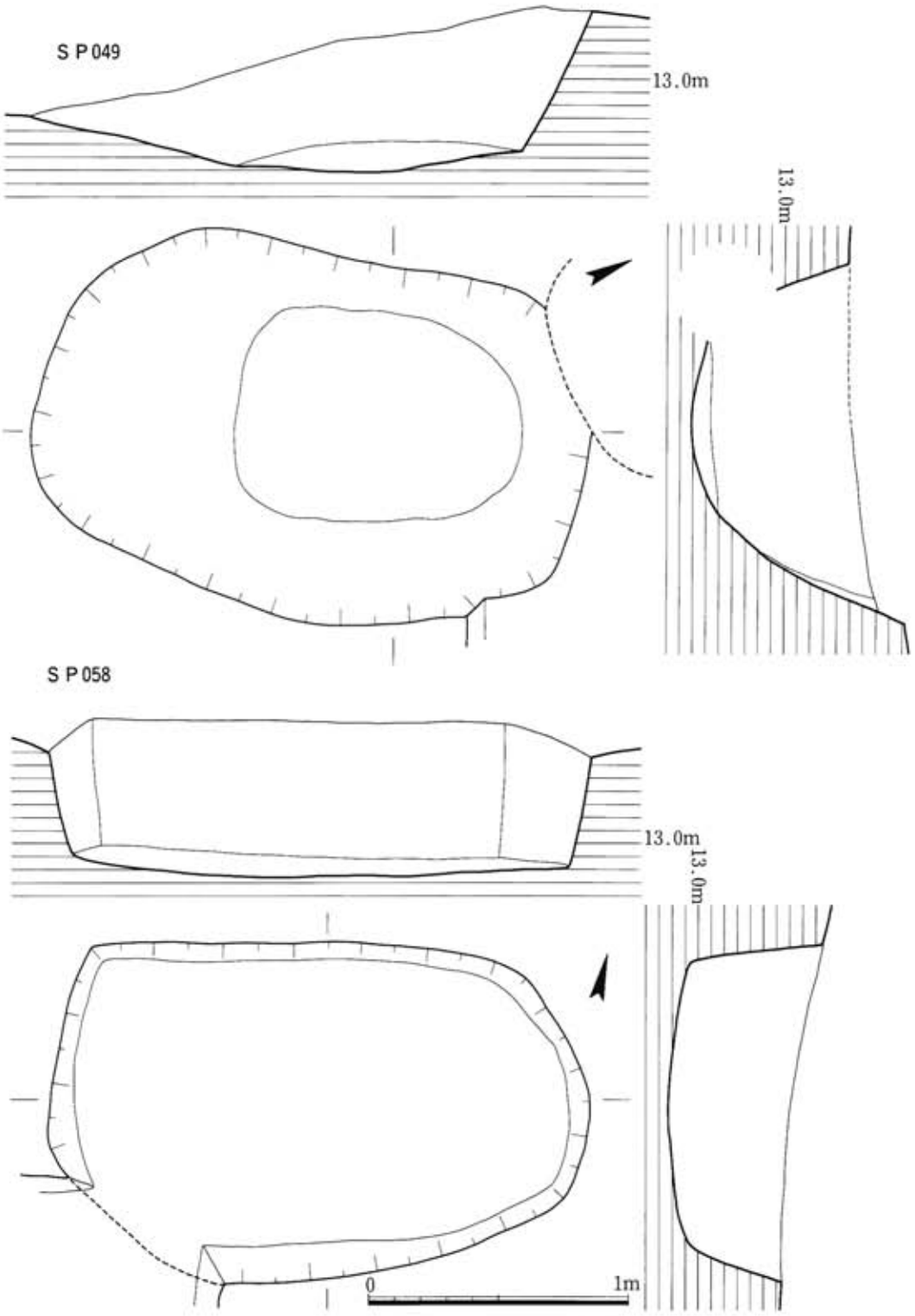



Fig. 51　S P049・058土壙墓（1/25）

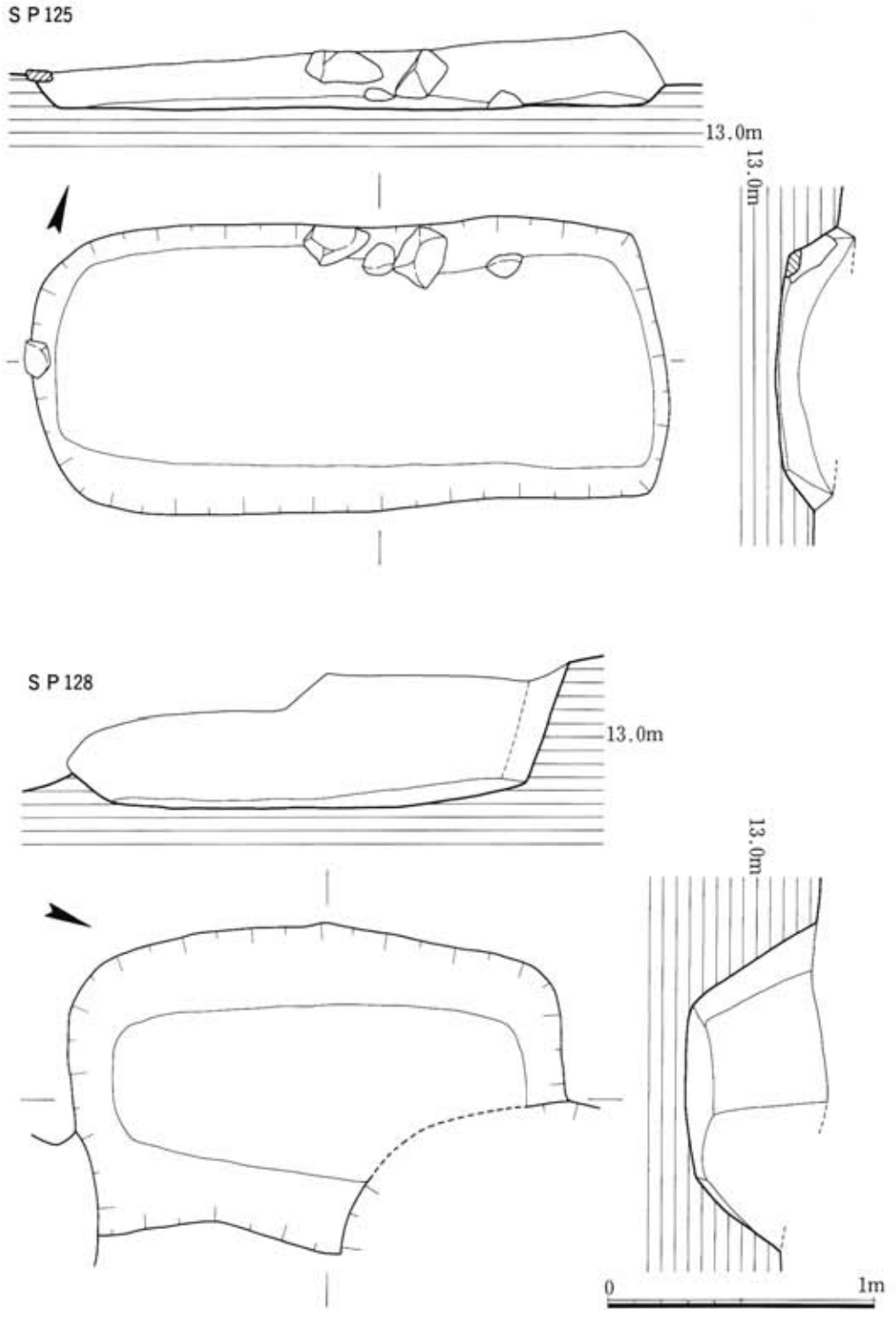



Fig. 52　S P125・128土壙墓（1/25）

**ＳＰ049土壙墓**
法　量　（土壙）2.14×1.34m
頭　位　N24°W
概　要　南側は削平を受け，形状に疑問な点はあるが，土壙墓としておく。墓壙はやや不整形な隅丸長方形。壙底は北側が平坦で，途中から南側に向かって上がる。頭位は北か。北端でＳＪ126と切り合うが，先後不明。

**ＳＰ058土壙墓**
法　量　（土壙）2.08×1.1～1.3m
頭　位　N103°W
概　要　墓壙は隅丸長方形。四壁はほぼ直に掘り下げ，壙底は平坦。西南隅を荒らされている。平面形から見て，頭位は西側か。

**ＳＰ125土壙墓**
法　量　（土壙）2.36×1.07m
頭　位　N70°E
概　要　削平のため浅く残存。平面は長方形で，西側やや隅丸気味。北側壁の礫は地山の石か。壙底はほぼ水平。

**ＳＰ128土壙墓**
法　量　（土壙）1.84×1.22m
頭　位　N21°W
概　要　墓壙は隅丸長方形。四壁はやや斜めに掘り下げ，壙底は平坦。東北隅をＳＰ056に切られる。

## (3)　石棺墓

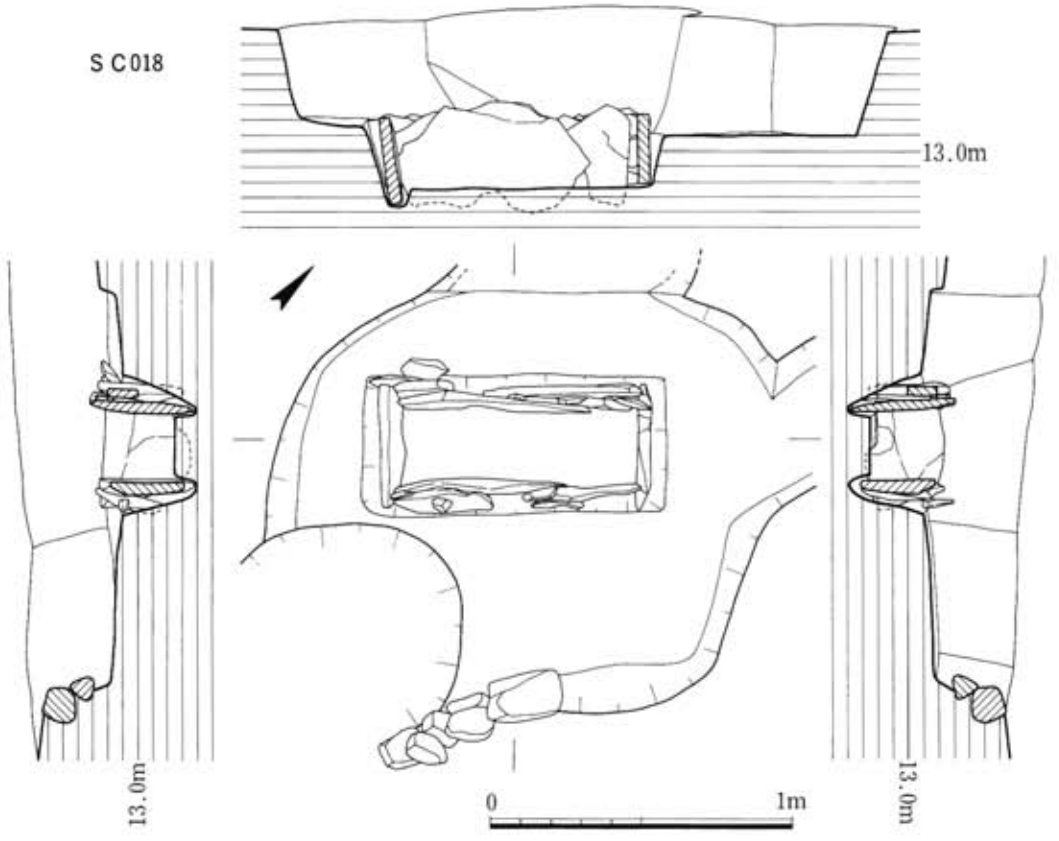
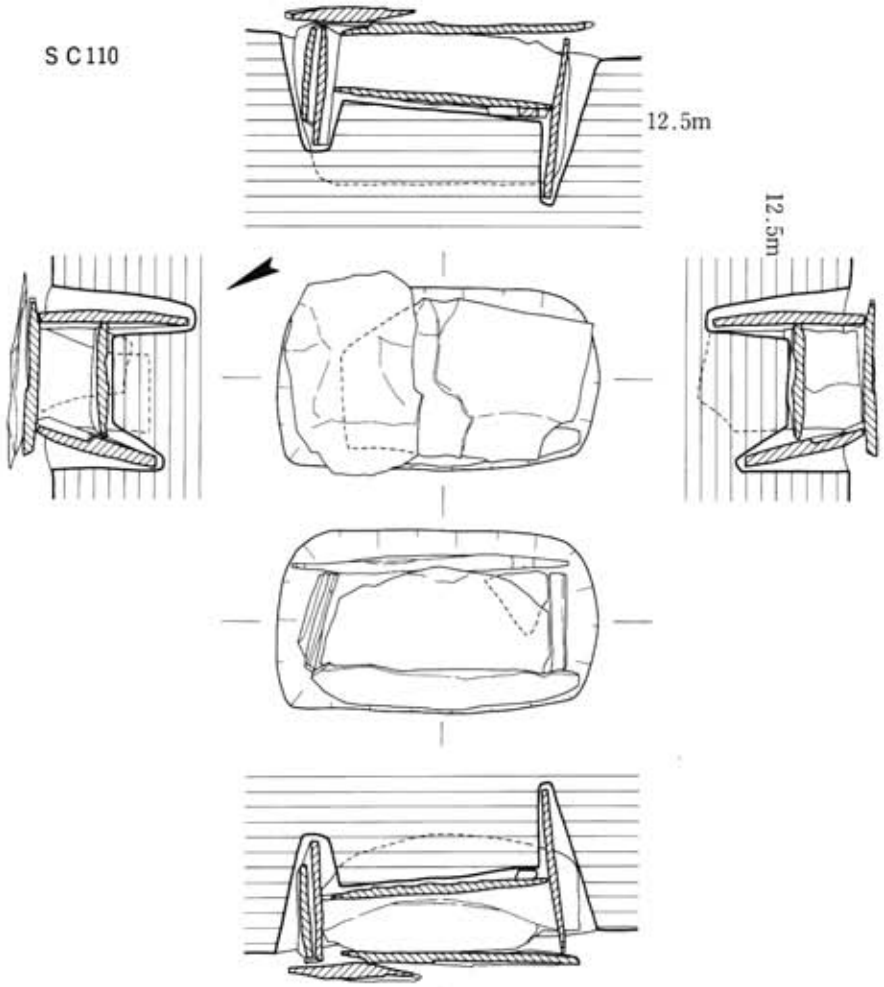



Fig. 53　ＳＣ018石棺墓（1/25）




**SC018石棺墓**

**法　量**　(棺内法) 0.88×0.23m，深0.23m
**頭　位**　N135°W
**概　要**　小児棺。2段掘りで，上段は隅丸長方形。さらに下段西北側に寄せて，長方形に堀込む。石棺は基本的に側面各2枚，小口各2枚づつ安山岩板石を立てる。蓋石が抜かれた可能性もあるが，木製蓋であったと考えられる。頭位は西南側か・北隅の列石との関係不明。

**SC110石棺墓**

**法　量**　(棺内法) 0.75×0.38m，深0.20m
**頭　位**　N153°W
**埋角度**　145°
**概　要**　小児用石棺墓。墓壙は隅丸長方形。石棺部は安山岩板石を床に1枚敷いて側面，小口とも1枚ずつ立て，2枚で蓋をする。頭位は南側か。石囲い部は粘板岩板石を東側に2枚，西側に1枚を立て，南側は蓋石状に覆う。

0　1m

Fig. 54　SC110石棺墓 (1/25)

### (4) 土壙

Ⅰ区西半部を中心に８基の土壙を検出した。甕棺の抜き跡あるいは祭祀関係遺構の可能性のあるものも含まれるが性格が明らかでなく，土壙としておく。時期は，土器によって明らかなものは弥生中期以降であるが，それ以外も一応弥生に含めておく。

ＳＫ070は東側を広く，西側に向かって２段に掘り込まれている。平面形は基本的に長方形である。東西2.12m，南北1.75m。

ＳＫ106は南北長の楕円形掘り込みで，北側は調査区外となる。壙底から中期の甕片が出土しており，甕棺の抜き跡の可能性もあるが，明確でない。

ＳＫ119は平面楕円形で，壙底は船底状をなす。東西2.76m，南北1.52m，深さは0.6m残存する。壙内には黒色土が詰まり，上面ちかくには焼けた跡のある花崗岩礫に混じって中期中頃の壺片が出土した。祭祀関連遺構の可能性もあるが，不明確である。

ＳＫ117は不整円形の土壙３基が切り合うように，浅く掘り込まれており，ここでは一括しておく。黒色土が詰まり，壙底から浮いた状態で多量の礫が投げこまれ，甕棺墓及び配石土壙墓を破壊した際の前期末の甕棺片と安山岩板石が出土した。

ＳＫ112・ＳＫ114・ＳＫ133は大形の浅い不整形土壙が一ヵ所に集中的に掘り込まれたもので，先のＳＫ117に似ている。焼けたものを含む多量の礫に混じって中期の甕棺片や安山岩板石が出土した。

ＳＫ162は径約1.8mの円形土壙で，壙底はほぼ平坦ながら北側がやや上がる。西南部を別の掘り込みに荒らされている。また，西側にあった前期末の甕棺ＳＪ089を一部壊している。黒色土が詰まる。

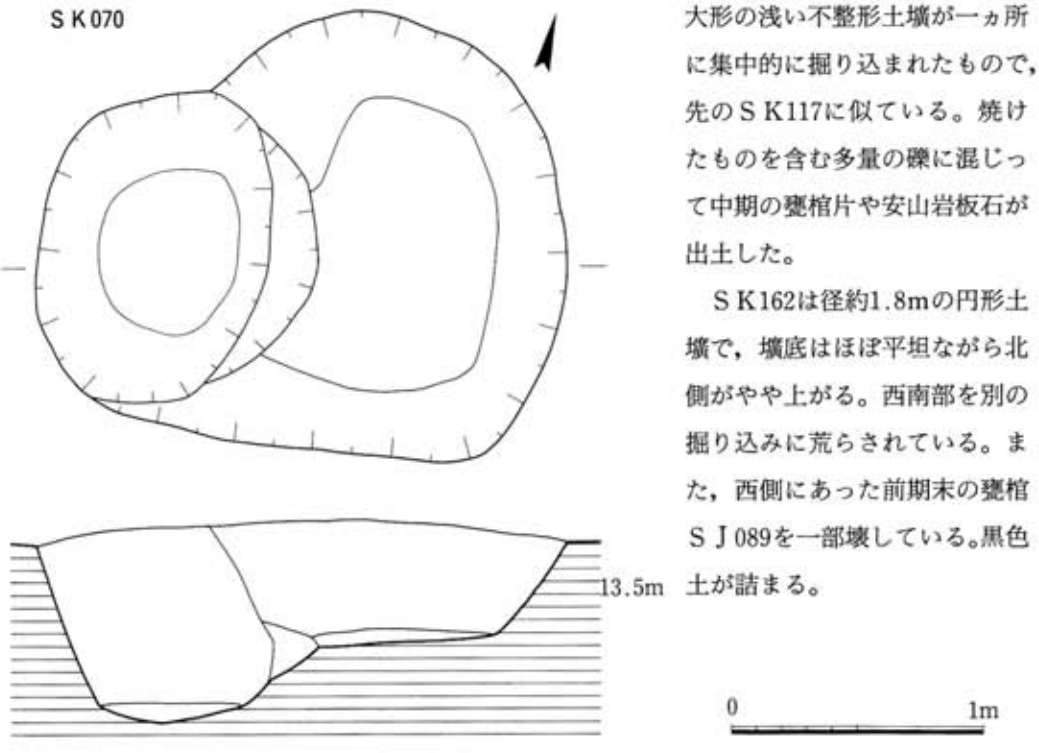



Fig. 55　ＳＫ070土壙（1/30）

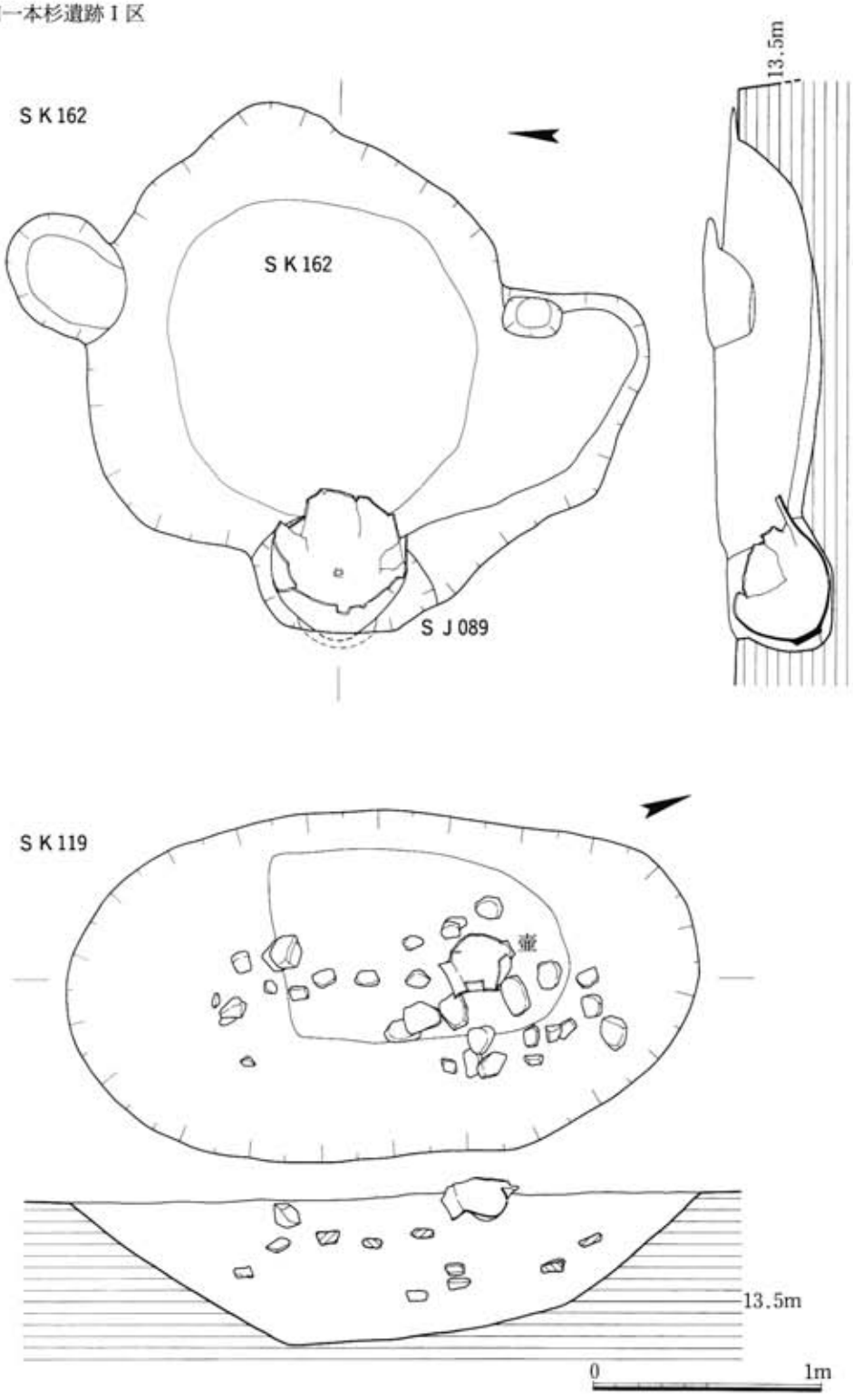



Fig. 56　S K162・119土壙（1/30）

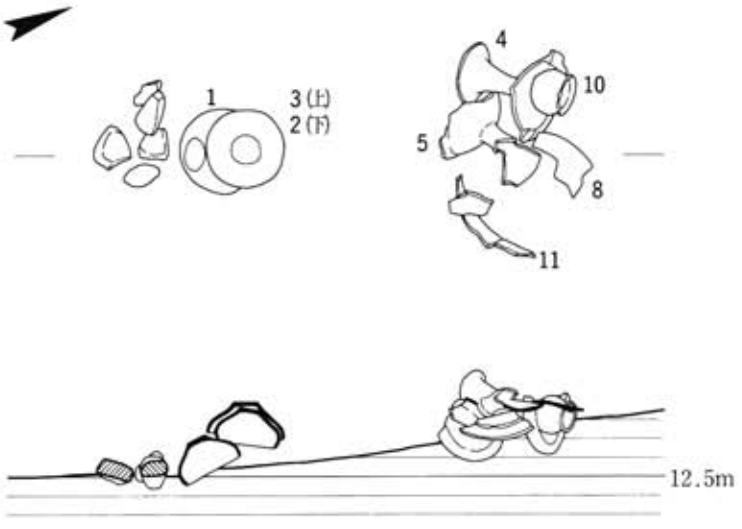
### (5)　祭祀関係遺構

墓域東辺で1ヵ所のみ，ＳＸ028を検出した。南北２群に別れる（Fig. 57）。

南群では完形品の鉢１～３の３点が倒伏した状態で置かれ，しかも内２点は重ねられていた。付近に小花崗岩礫が数点あったが，地山の礫の可能性がつよい。

北群はそれらから約70cm離れ，小形壺１点，大形壺２点，高坏３点が一群をなす。付近からは他にも高坏２点分の破片が出土した。いずれも丹塗り磨研の精製土器である。出土状況は高坏４，５が横倒しに置かれ，８は破片のみ残存。４の坏部には小形壺10が置かれていたが，元々壺を載せて立ててあった高坏がそのまま横転したとは考えにくい状況であった。また，その東脇の大形壺11は倒立した状態で口縁部から肩部が残存していた。

これらの土器の時期は中期中頃でもやや新しい傾向をもつが，中期中頃には付近に同時期の甕棺墓は存在せず，西方に離れて小児甕棺１基があるだけである。したがって，遺構そのものが埋葬に関わる何等かの祭祀行為を直接示すものとは考えにくく，おそらく別の所で行われた埋葬儀礼に用いられた祭祀土器の廃棄壙であろうと推測する。Ｉ区では他に，西半部を中心に多くの土壙が掘り込まれているが，祭祀土器等は見られず，埋葬儀礼に関わる行為の跡を積極的に窺わせるものはない。このような祭祀関係遺構は佐賀平野でも中期以降の甕棺墓地で散見するところであり，儀礼に使用された土器類の手厚い処理を基本的なスタイルとする。最近では吉野ケ里遺跡や鳥栖市柚比本村遺跡で，累世的に形成されたと思われる大規模な遺構から大量の祭祀土器が出土している。




No.はFig. 88の遺物番号に一致

Fig. 57　ＳＸ028祭祀遺構（1/20）

# 3．遺　　物

## (1) 甕棺

前期末から後期中頃まで，合計119基の甕棺を検出した。時期別には前期（末）76基，中期32基，後期11基で，とくに前期末から中期初頭のものが圧倒的に多い。

以下，原則として遺構番号順に図示するが，個々の説明はTab. 1に依られたい。また，多数を占める前期末から中期初頭の甕棺の意義付けについては，「考察」であらためて述べる。

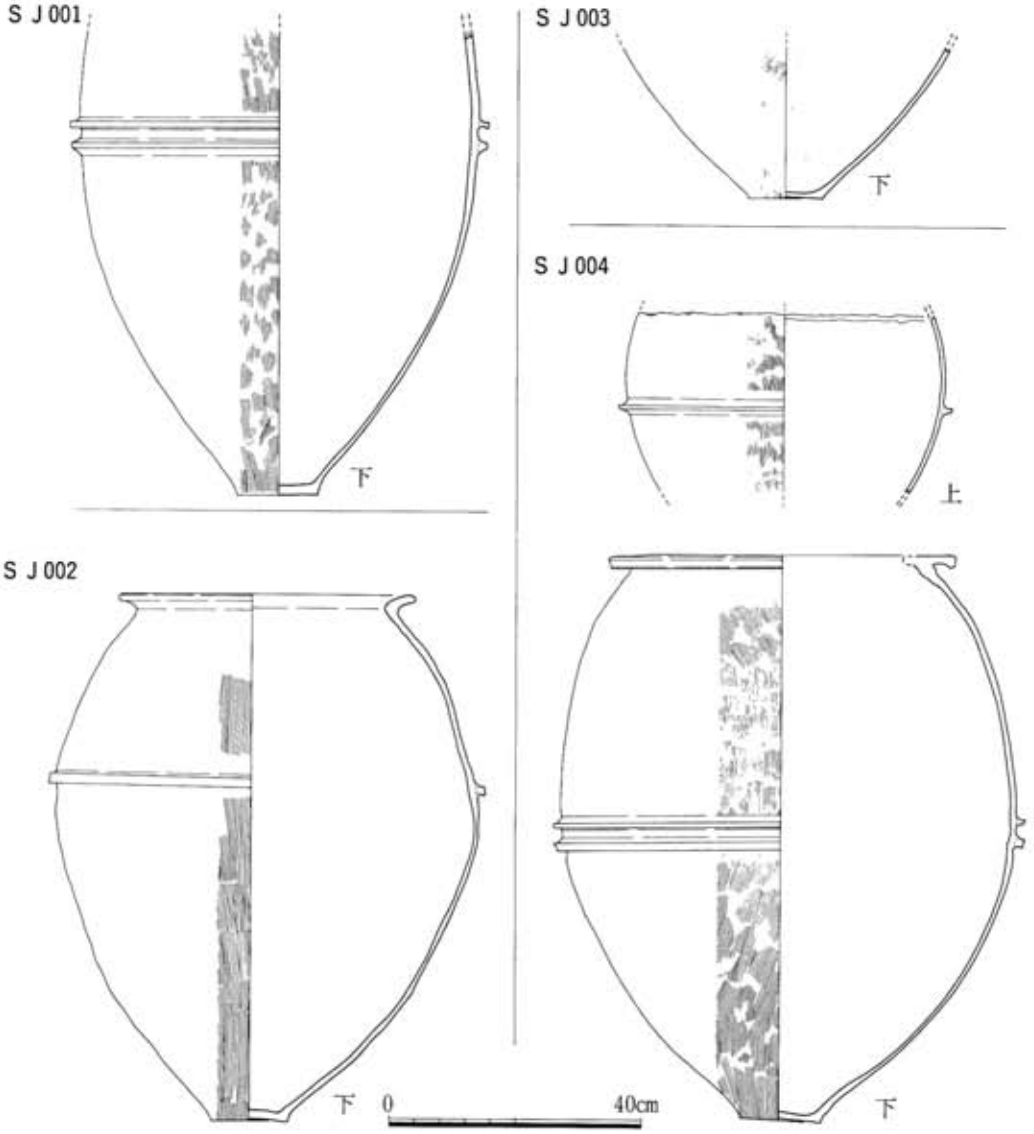



Fig. 58　S J 001・002・003・004甕棺（1/12）

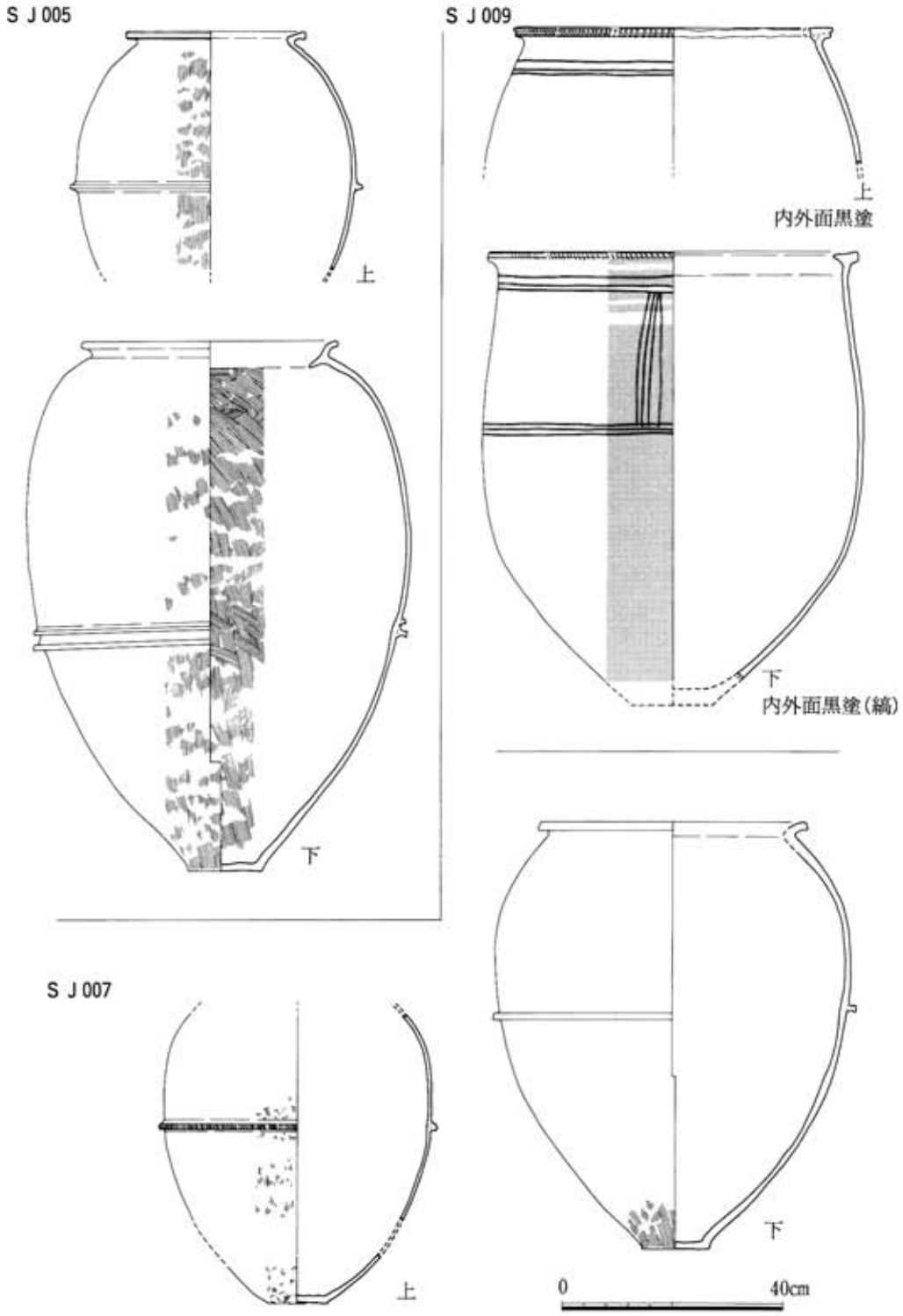



Fig. 59　S J 005・007・009甕棺（1/12）

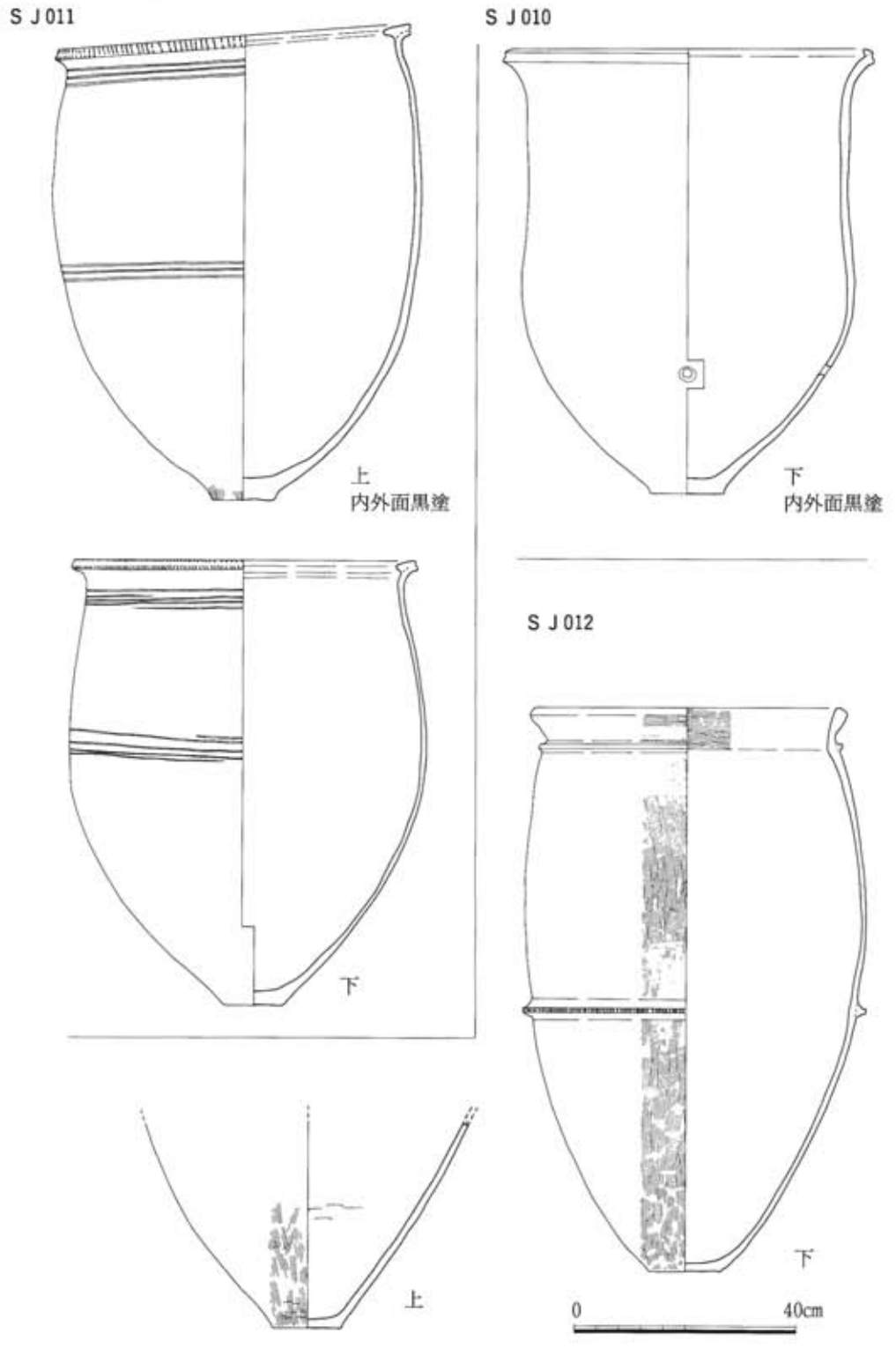



Fig. 60　S J 010・011・012甕棺（1/12）

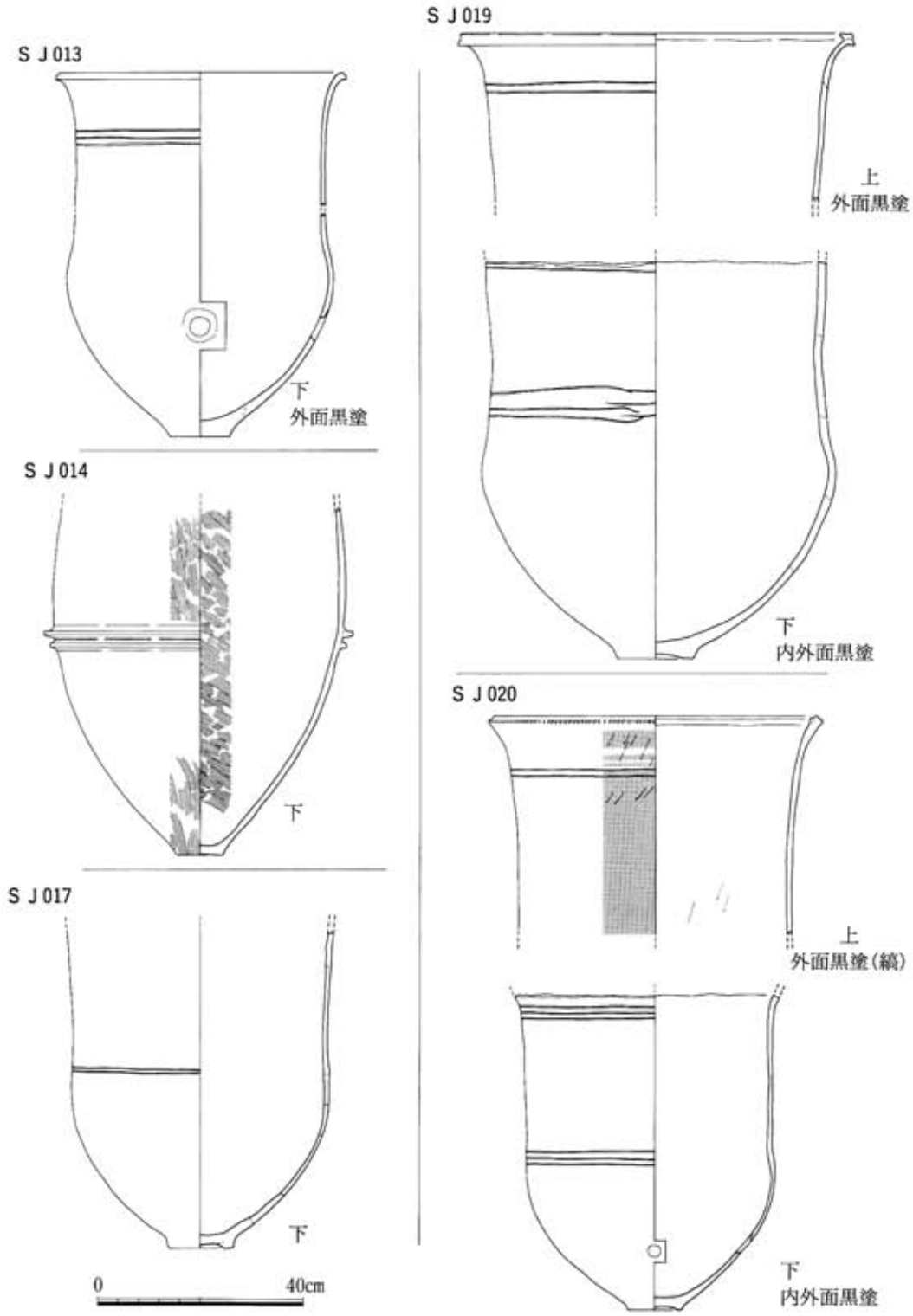



Fig. 61　S J 013・014・017・019・020甕棺（1/12）

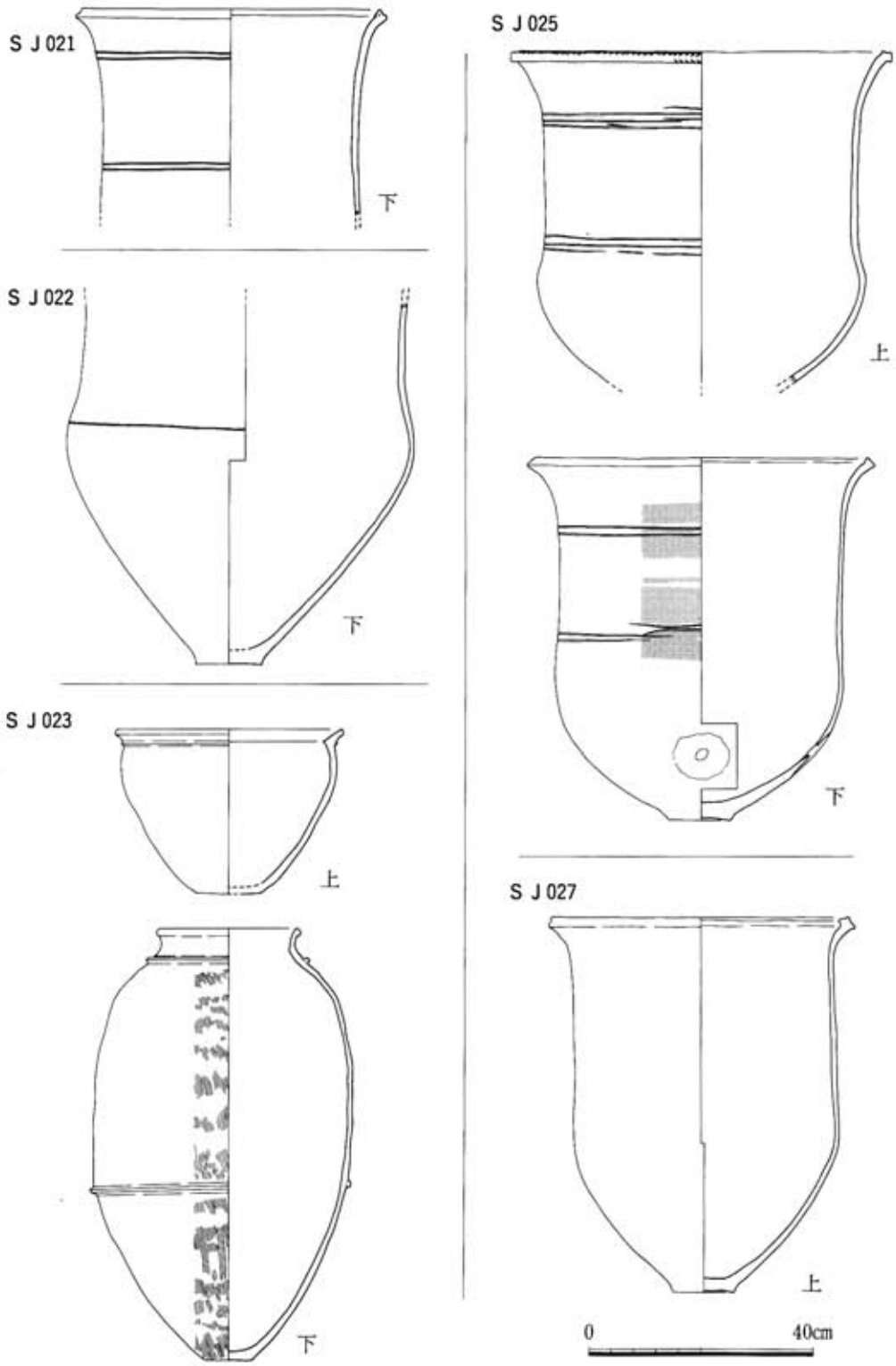



Fig. 62　S J 021・022・023・025・027甕棺（1/12）

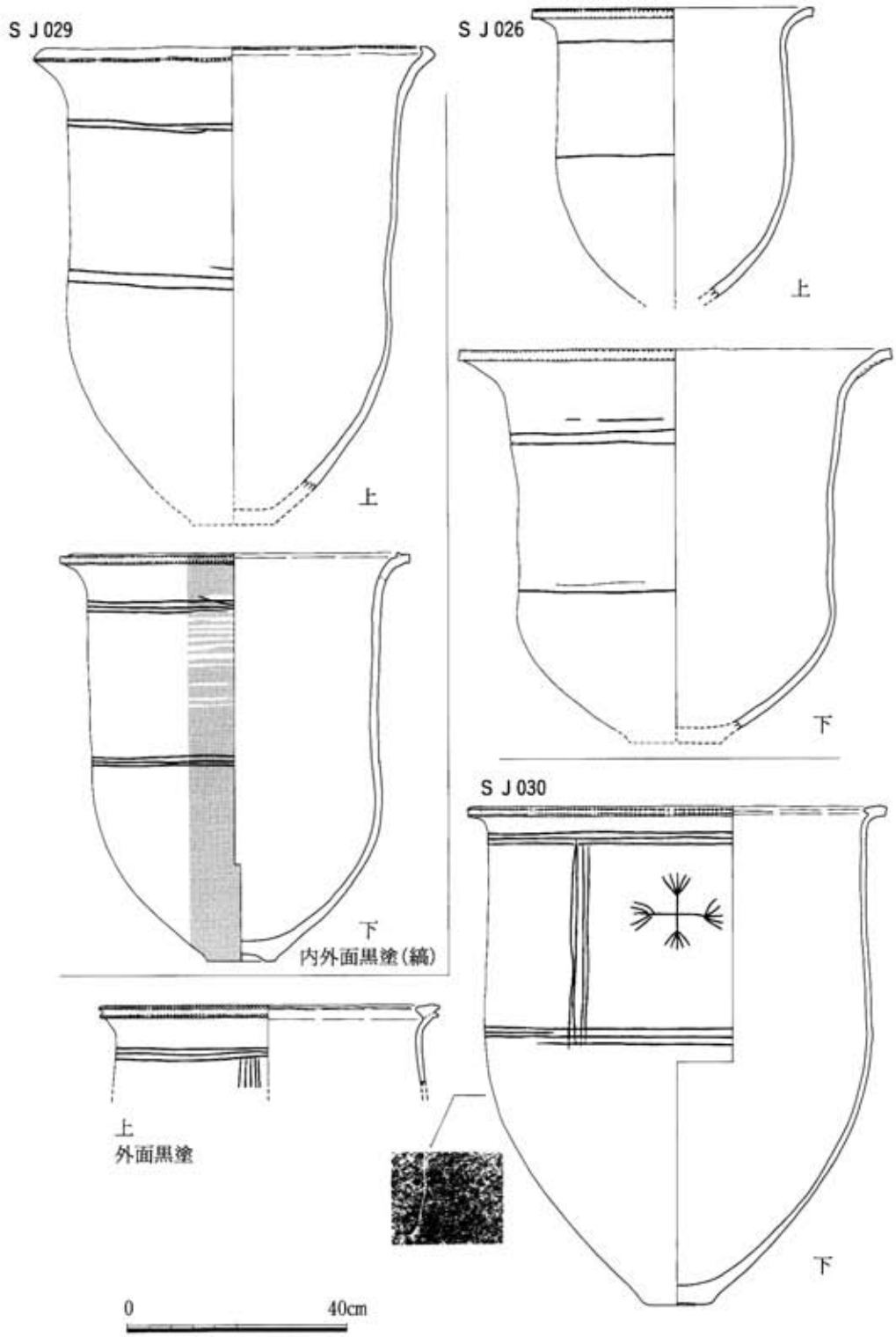



Fig. 63　S J 026・029・030甕棺(1/12)

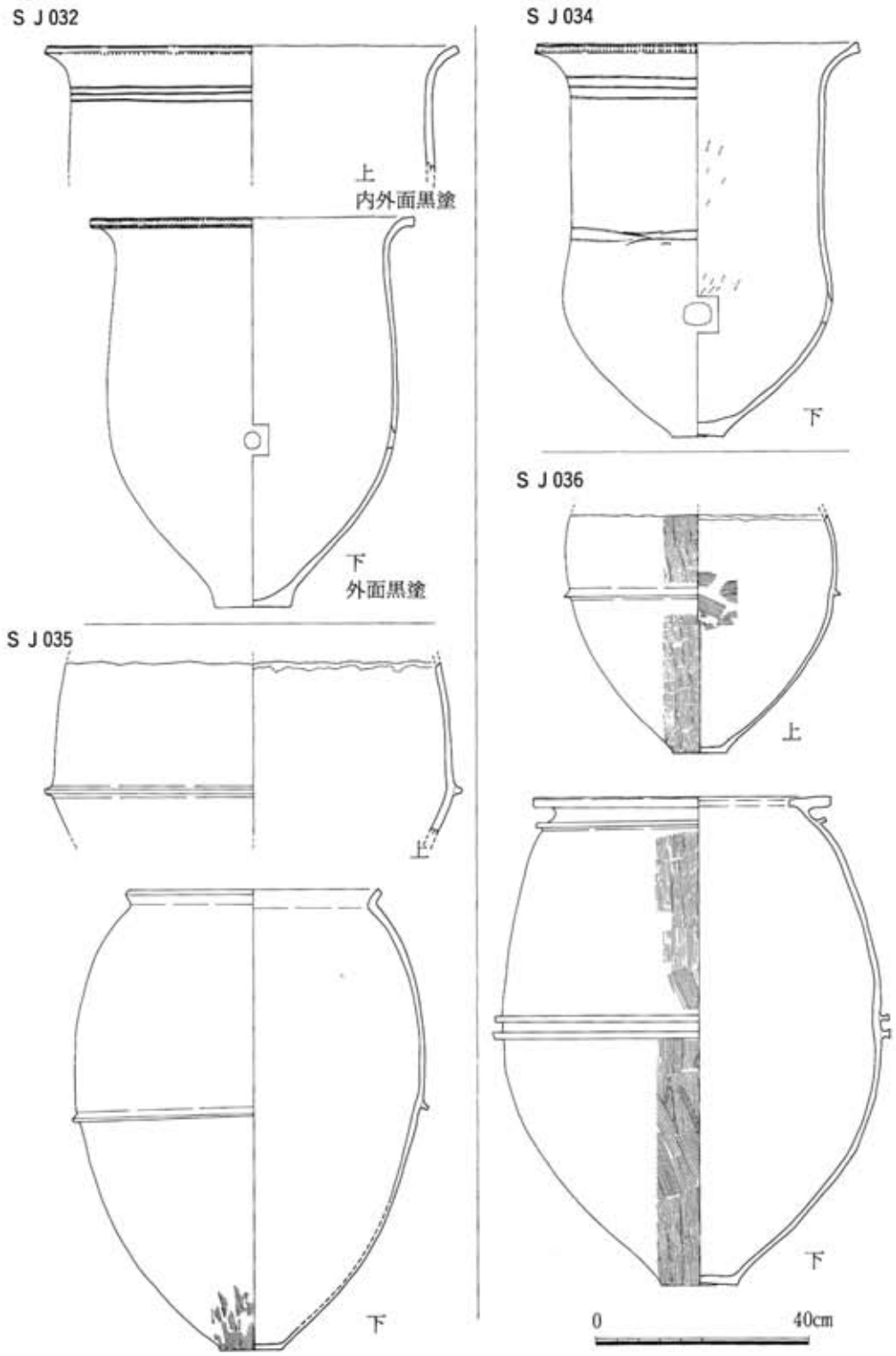



Fig. 64　S J 032・034・035・036甕棺（1/12）

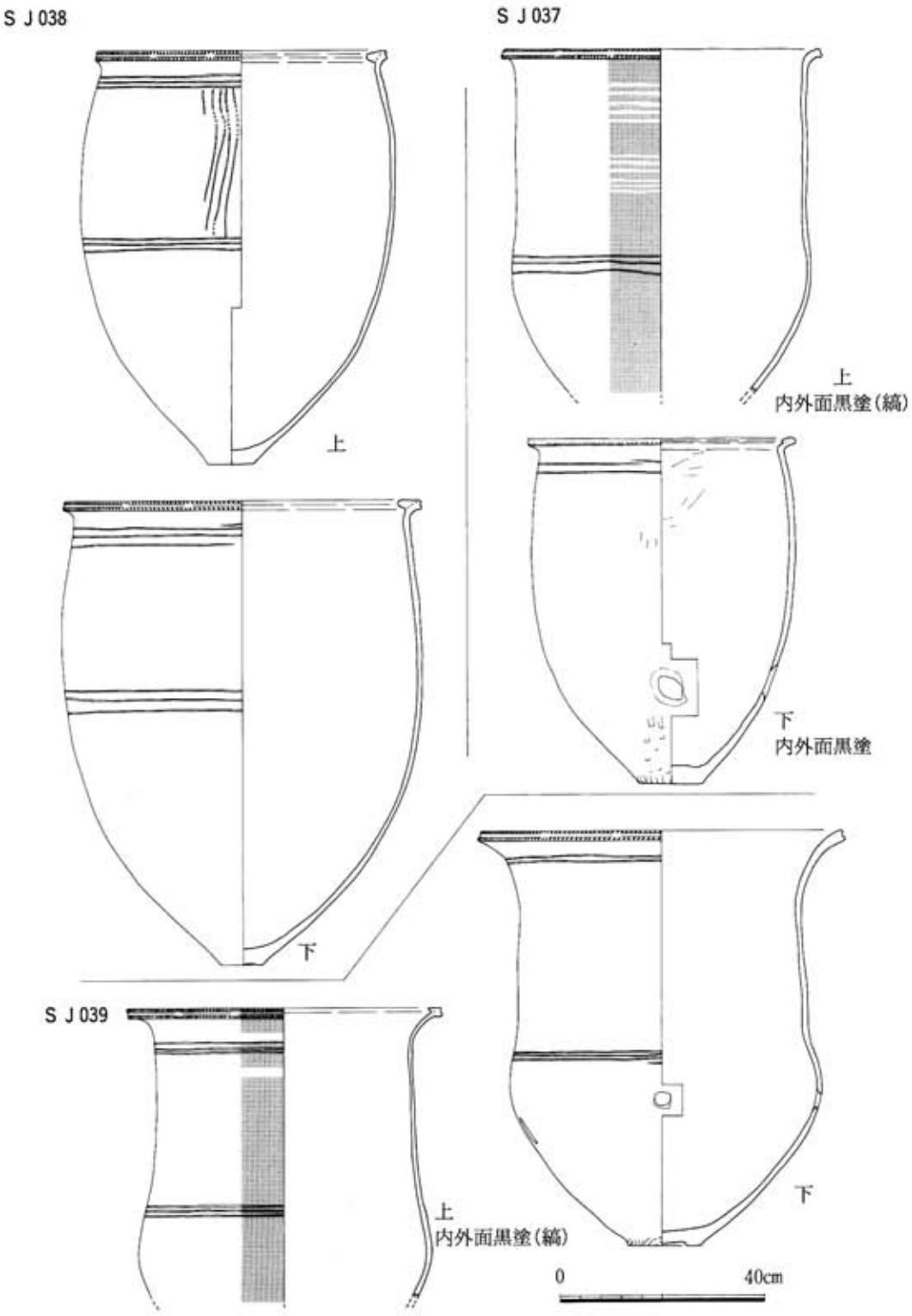



Fig. 65　S J 037・038・039甕棺（1/12）

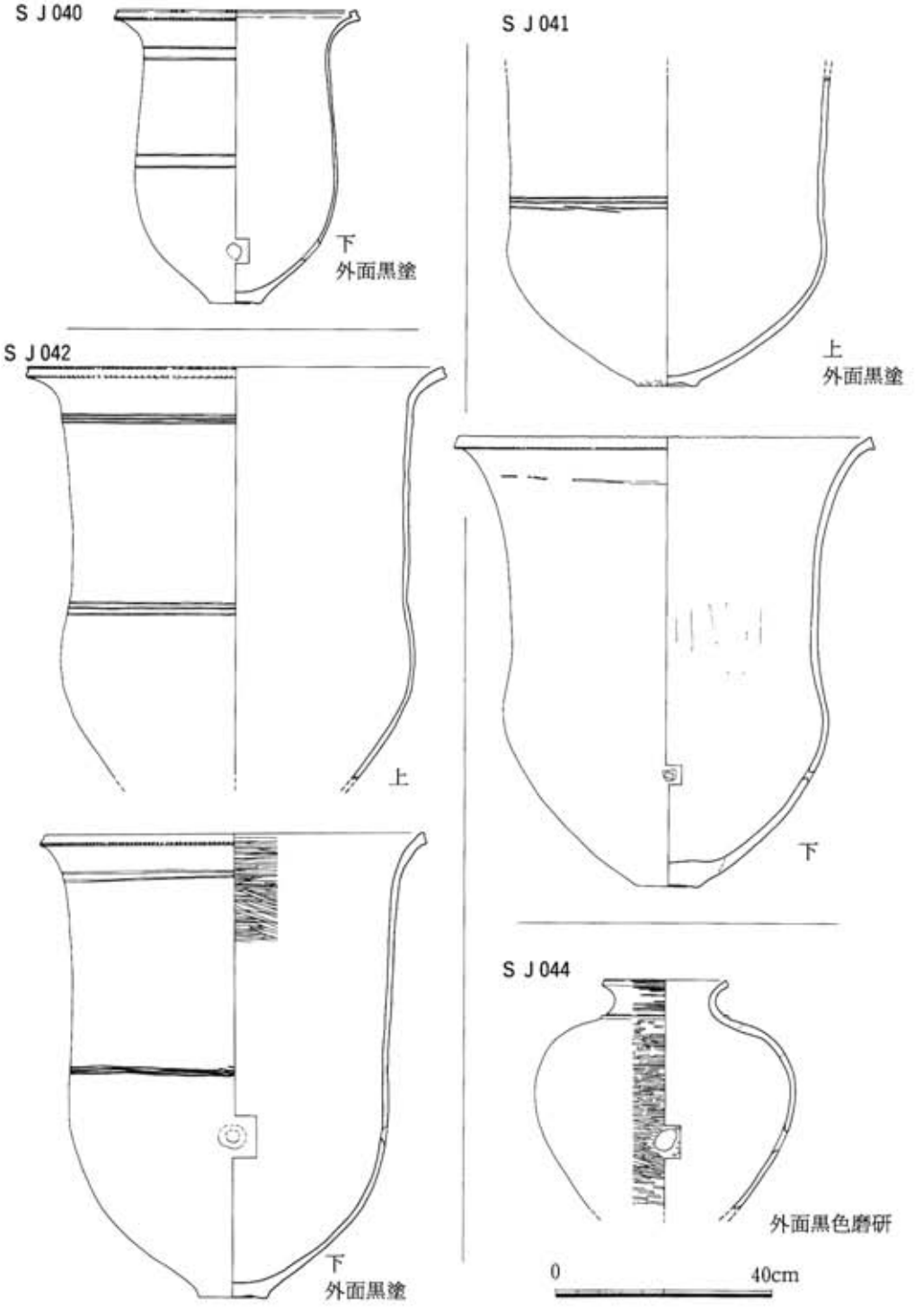



Fig. 66　S J 040・041・042甕棺，S J 044壺棺（1/12）

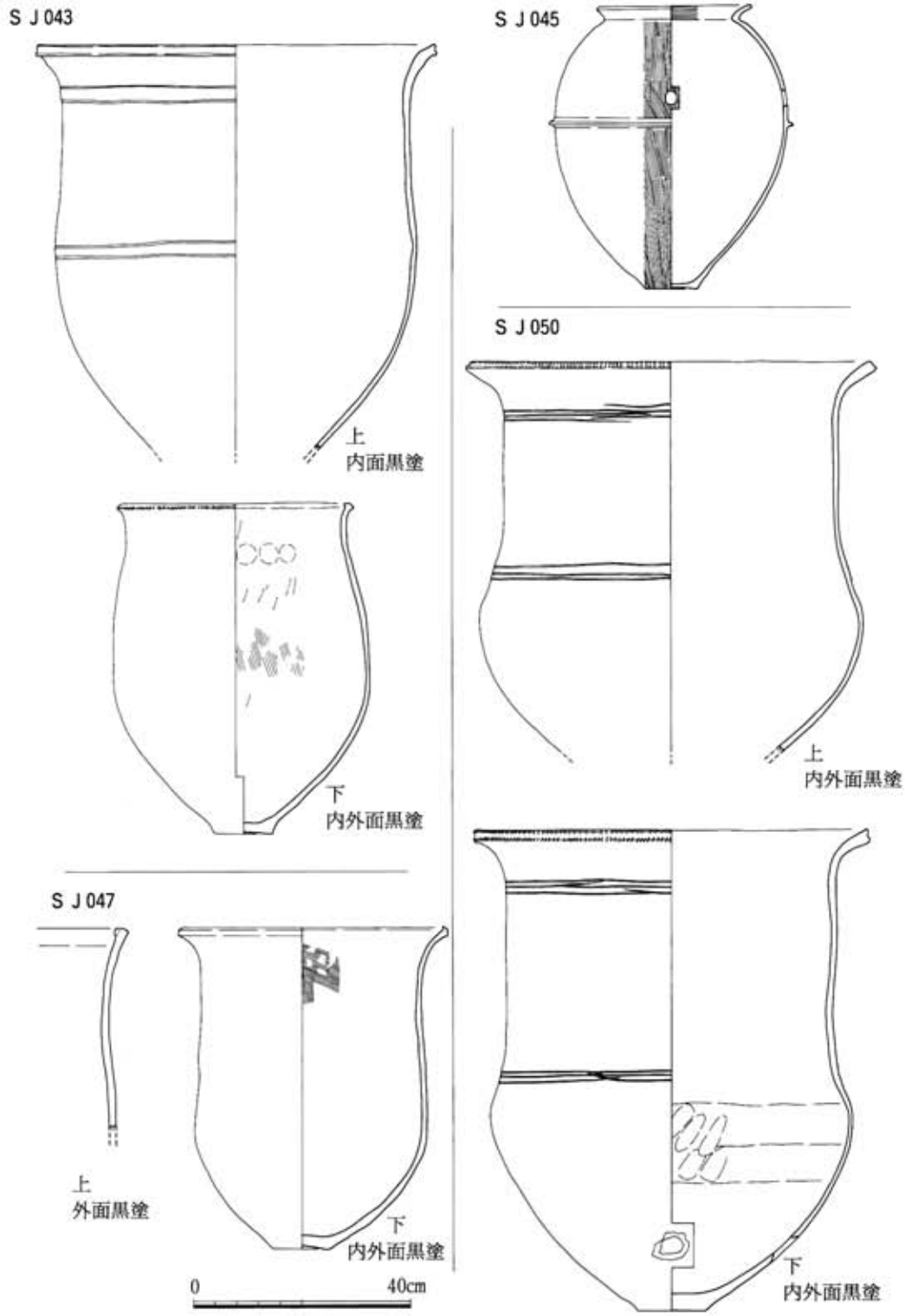



Fig. 67　S J 043・045・047・050甕棺（1/12）

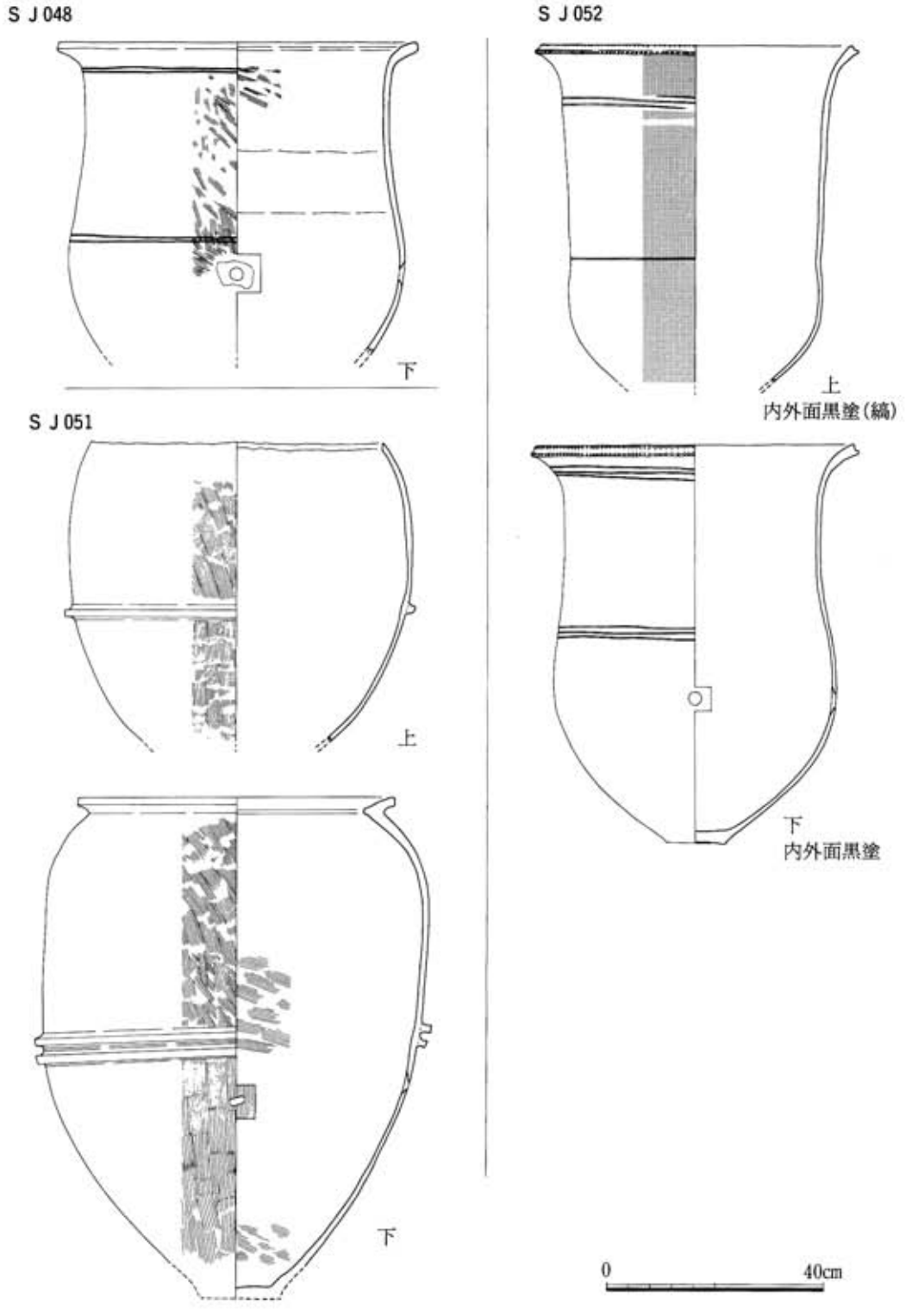



Fig. 68　S J 048・051・052甕棺（1/12）

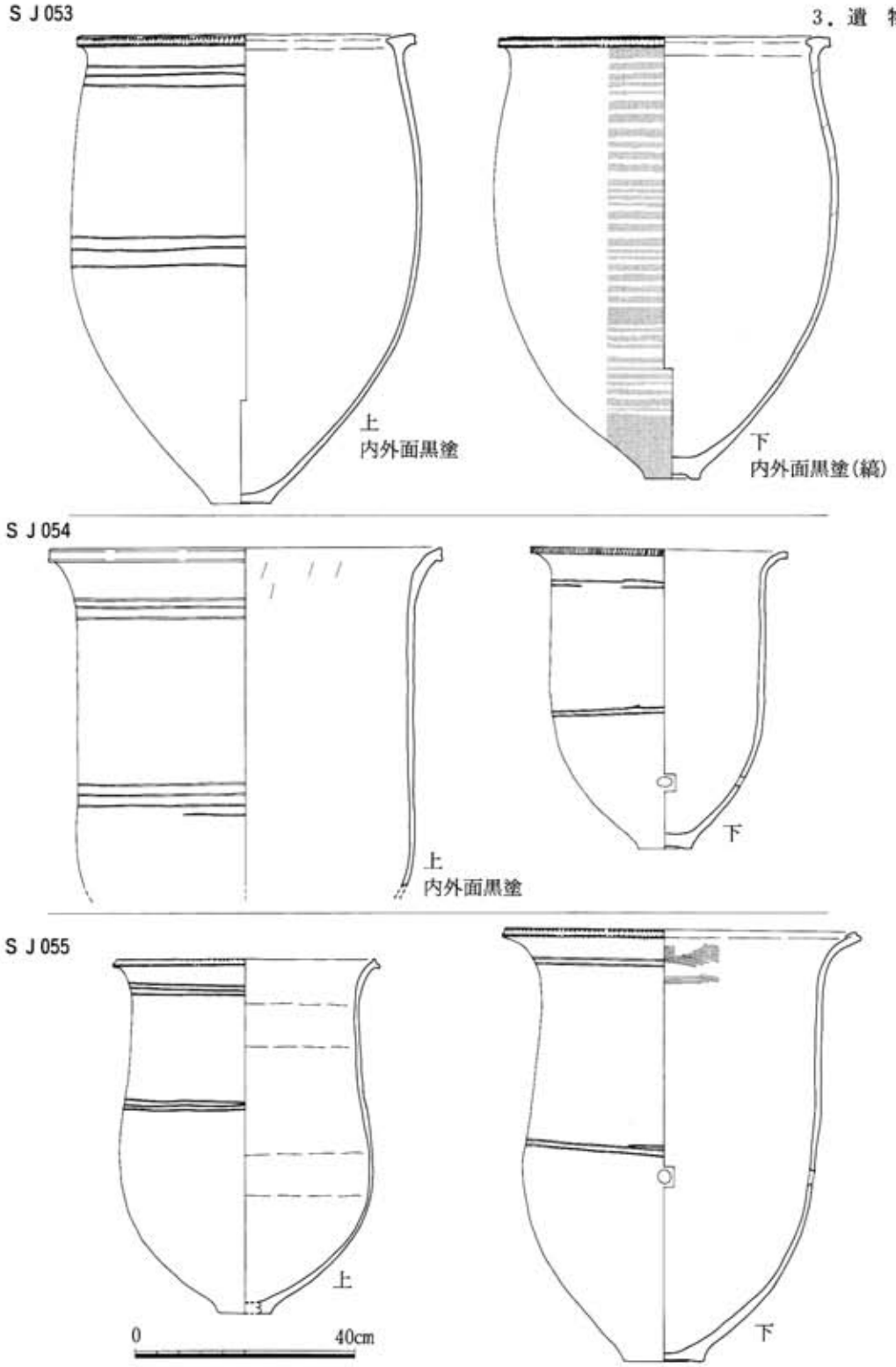



Fig. 69　S J 053・054・055甕棺（1/12）

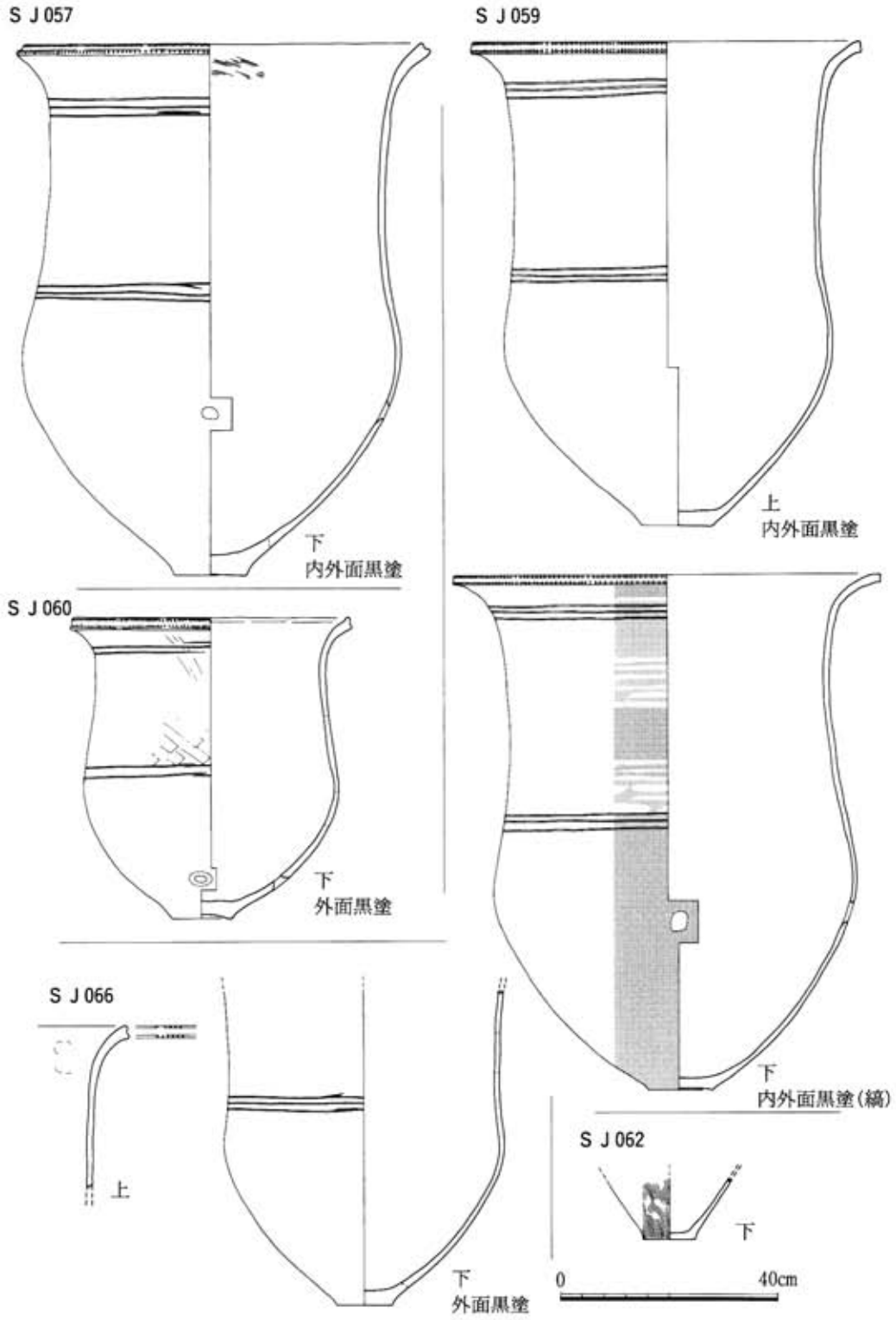



Fig. 70　S J 057・059・060・062・066甕棺（1/12）

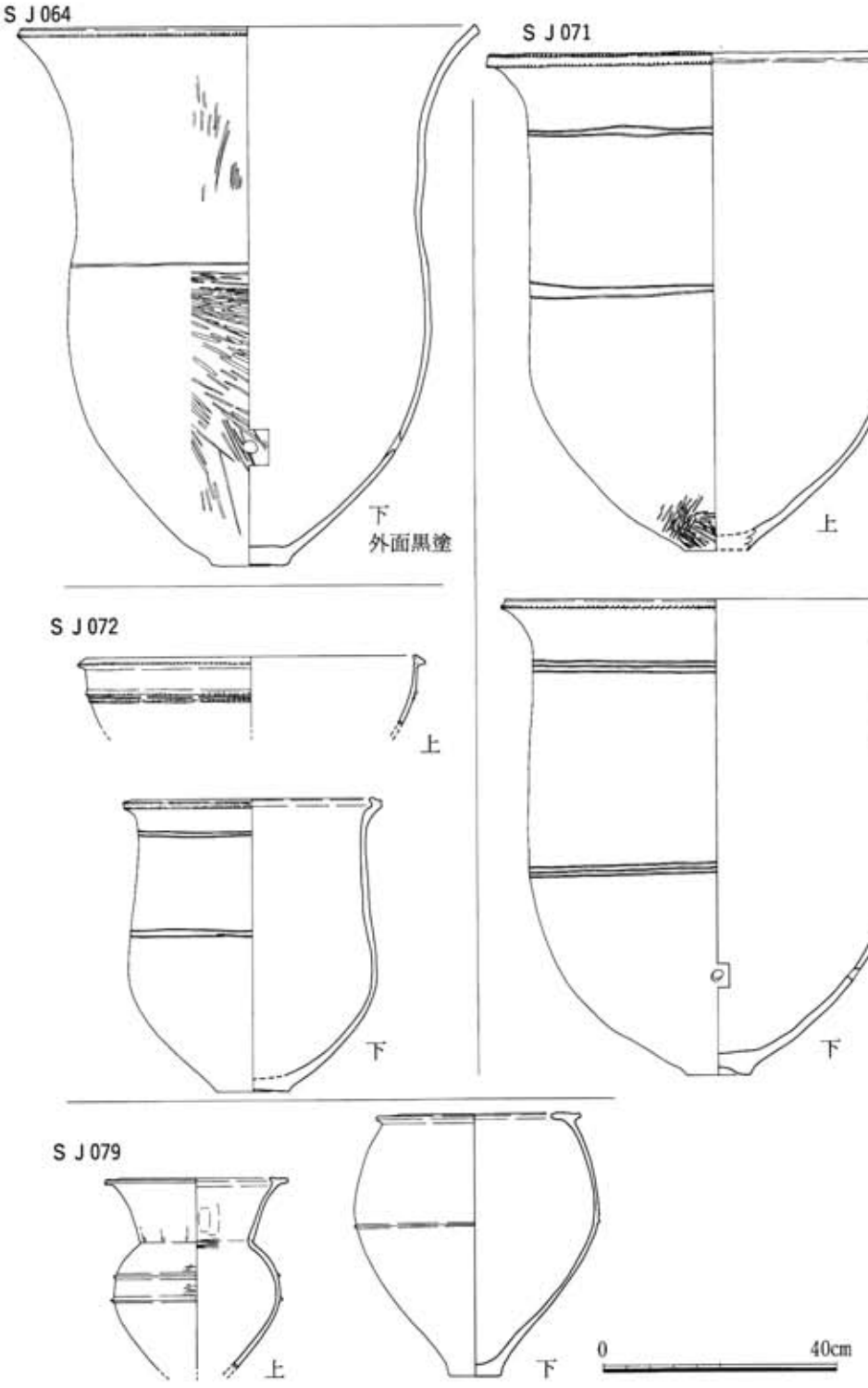



Fig. 71　S J 064・071・072・079甕棺（1/12）

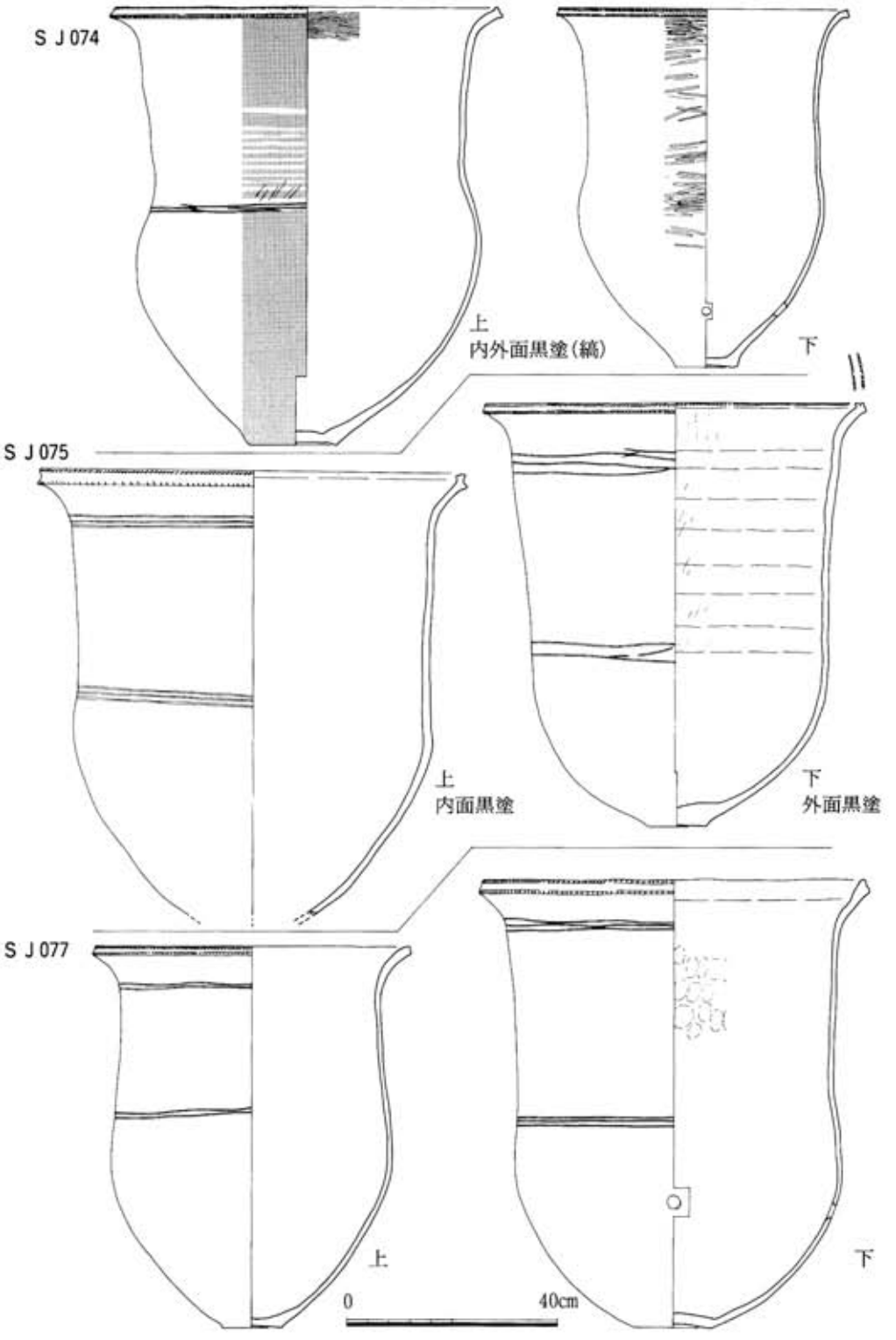



Fig. 72　S J 074・075・077甕棺（1/12）

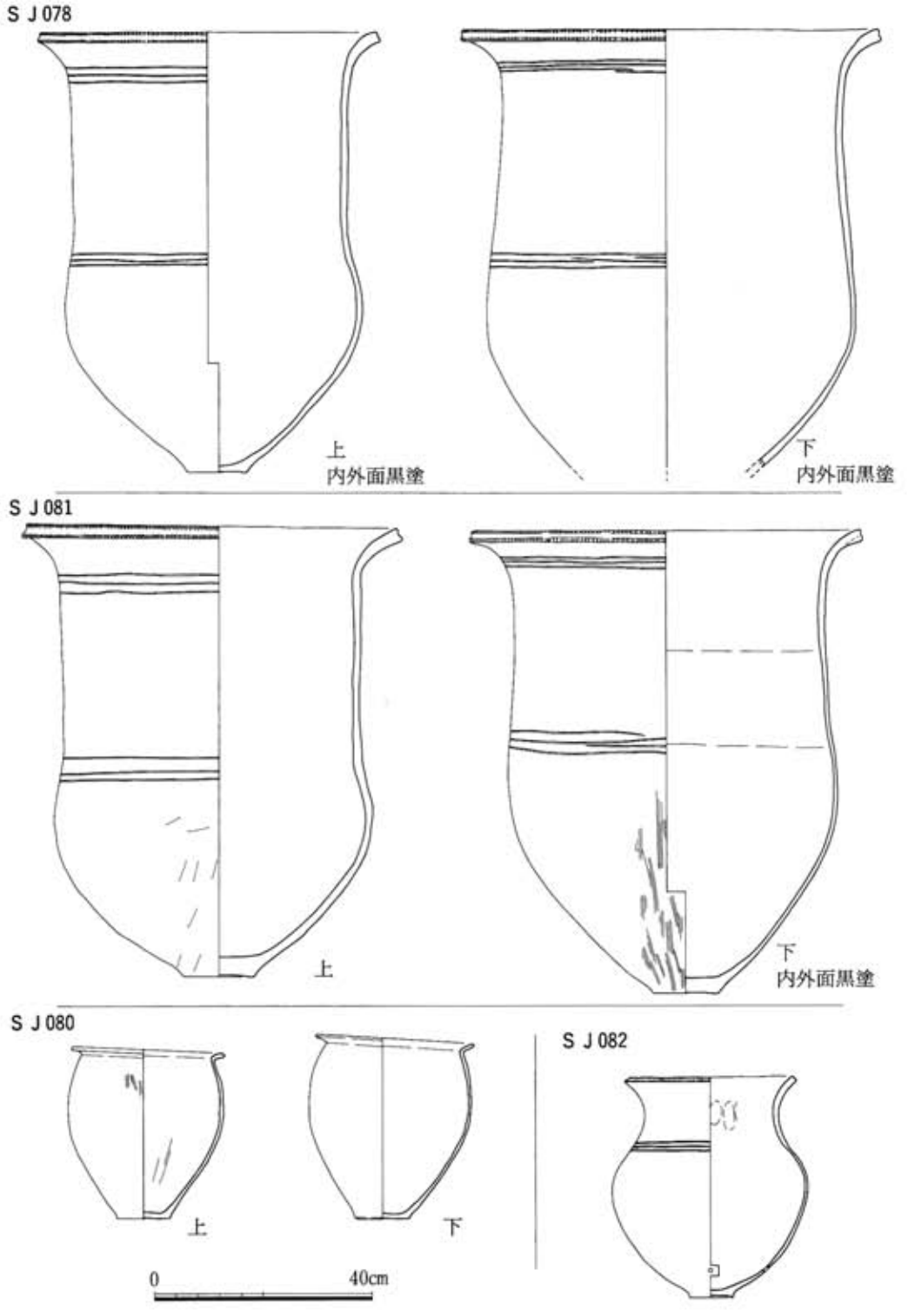



Fig. 73　S J 078・080・081甕棺，S J 082壺棺（1/12）

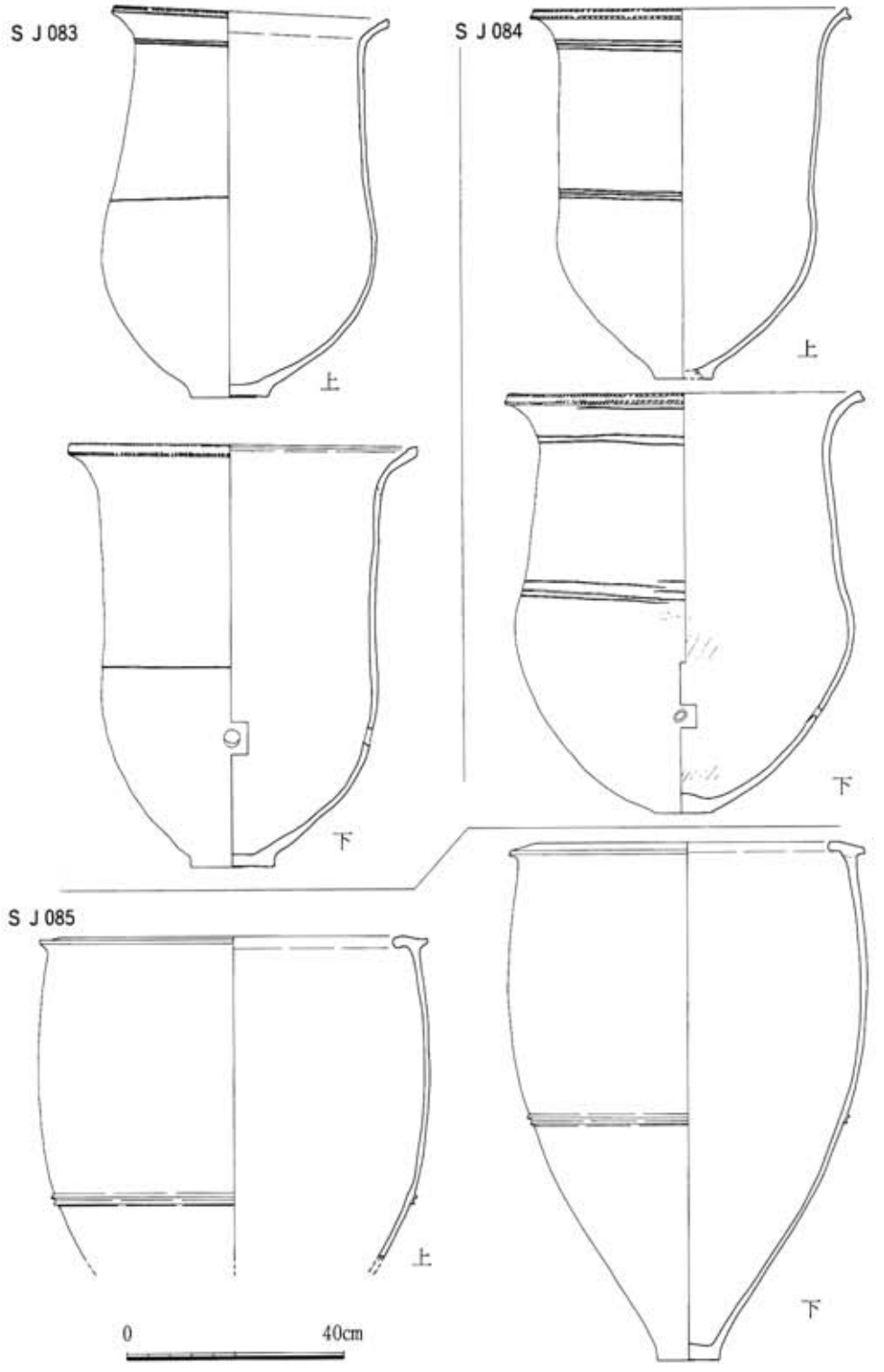



Fig. 74　S J 083・084・085甕棺（1/12）

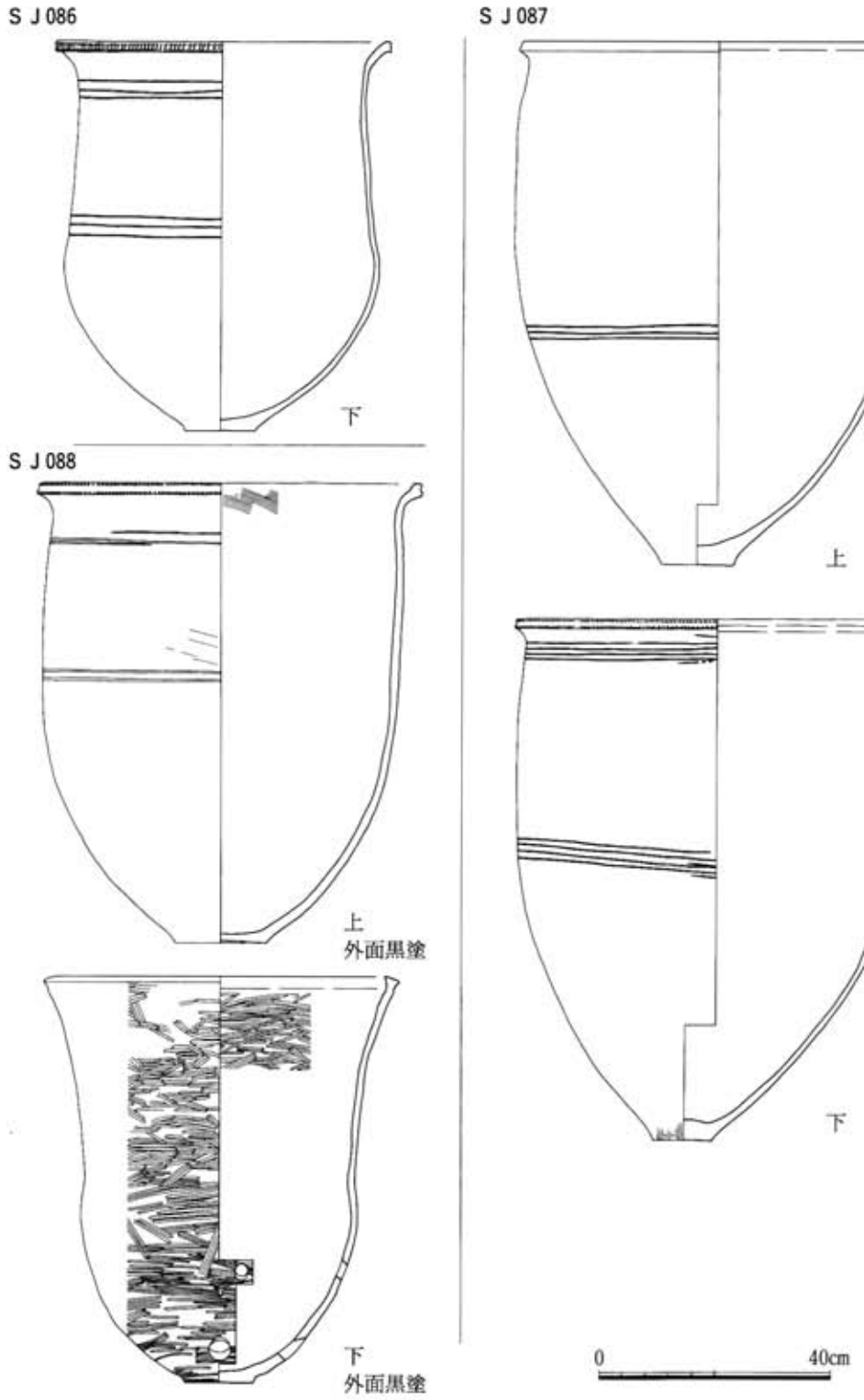



Fig. 75　S J 086・087・088甕棺（1/12）

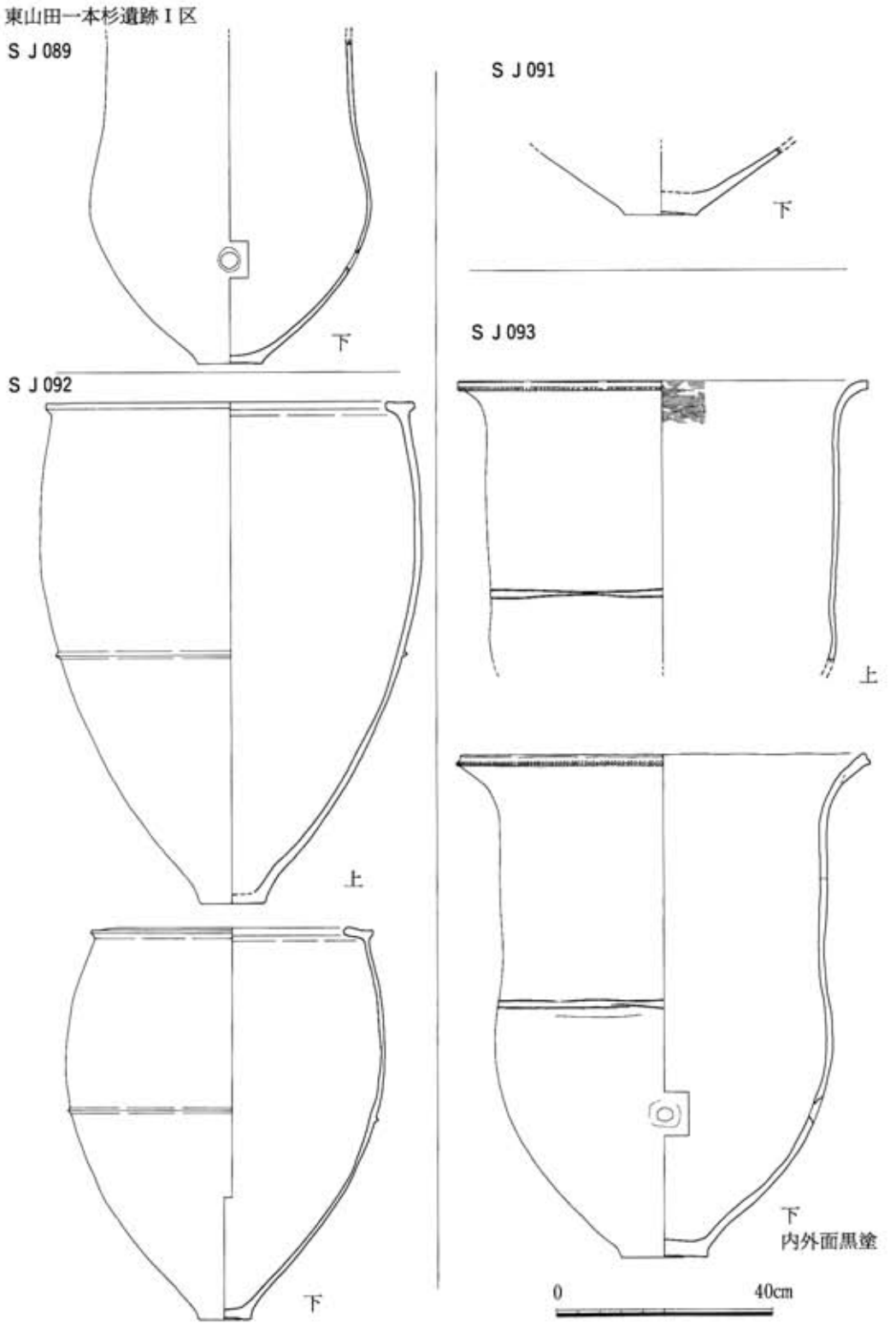



Fig. 76　S J 089・091・092・093甕棺（1/12）

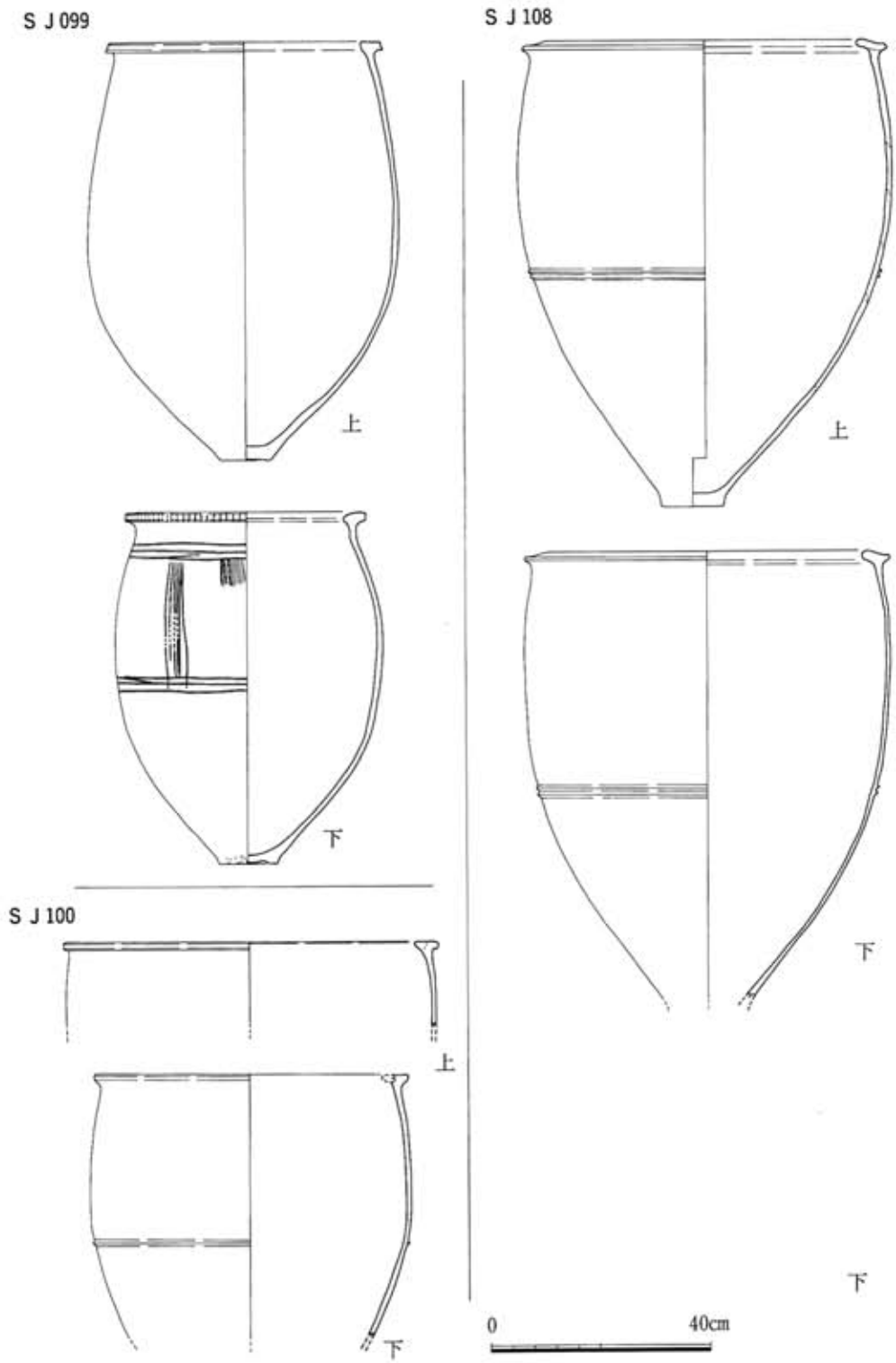



Fig. 77　S J 099・100・108甕棺（1/12）

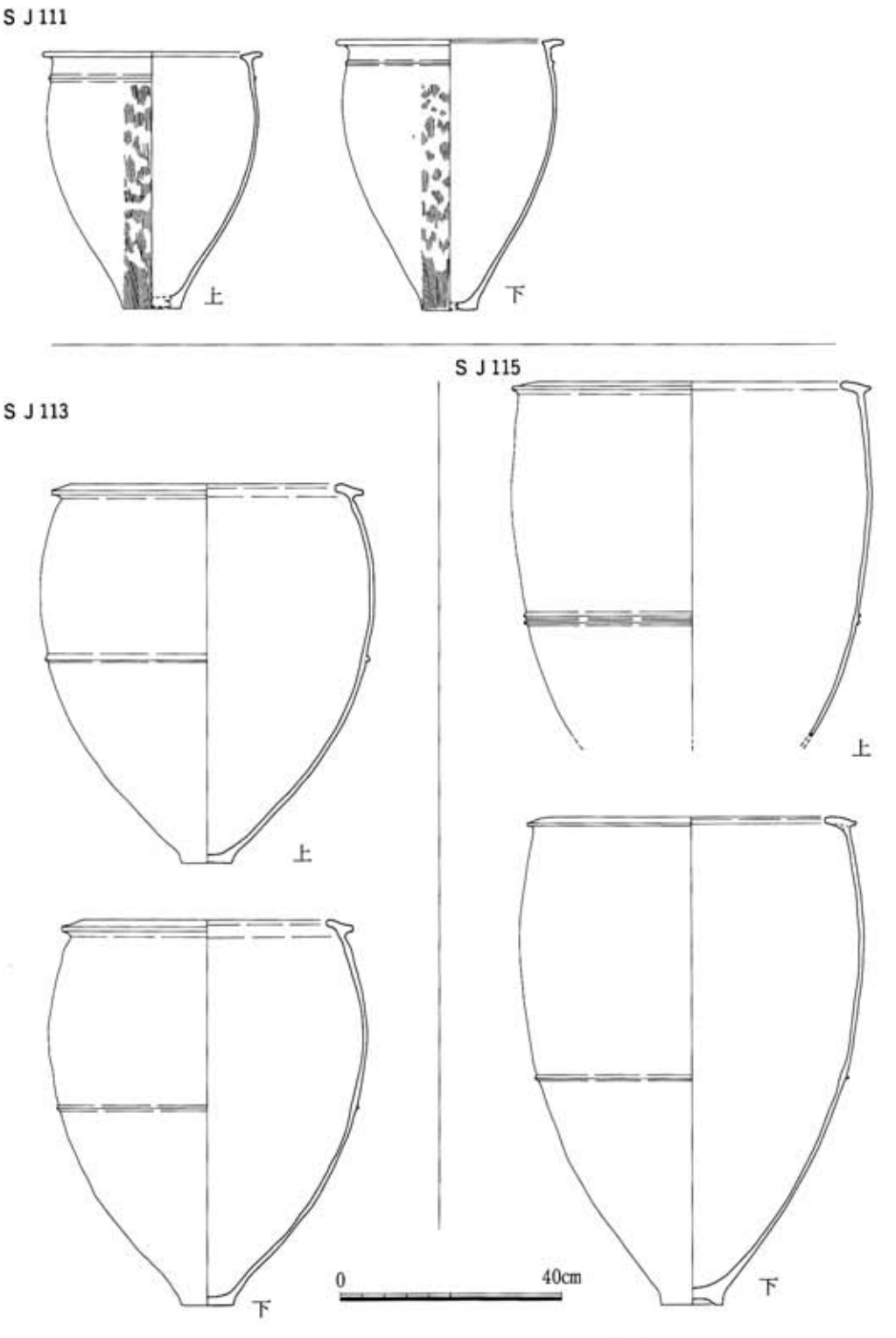



Fig. 78　S J 111・113・115甕棺墓（1/12）

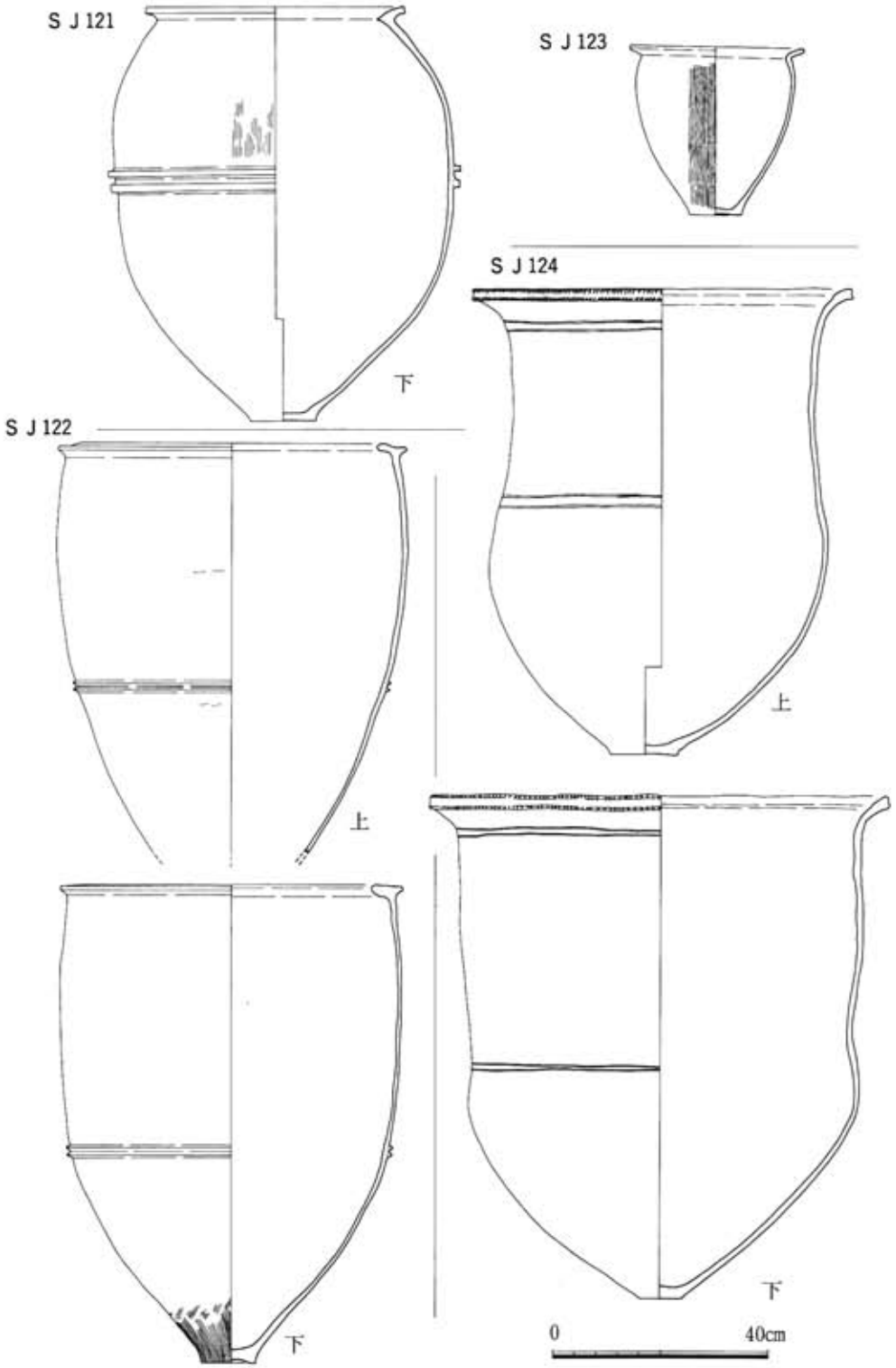



Fig. 79　S J 121・122・123・124甕棺（1/12）

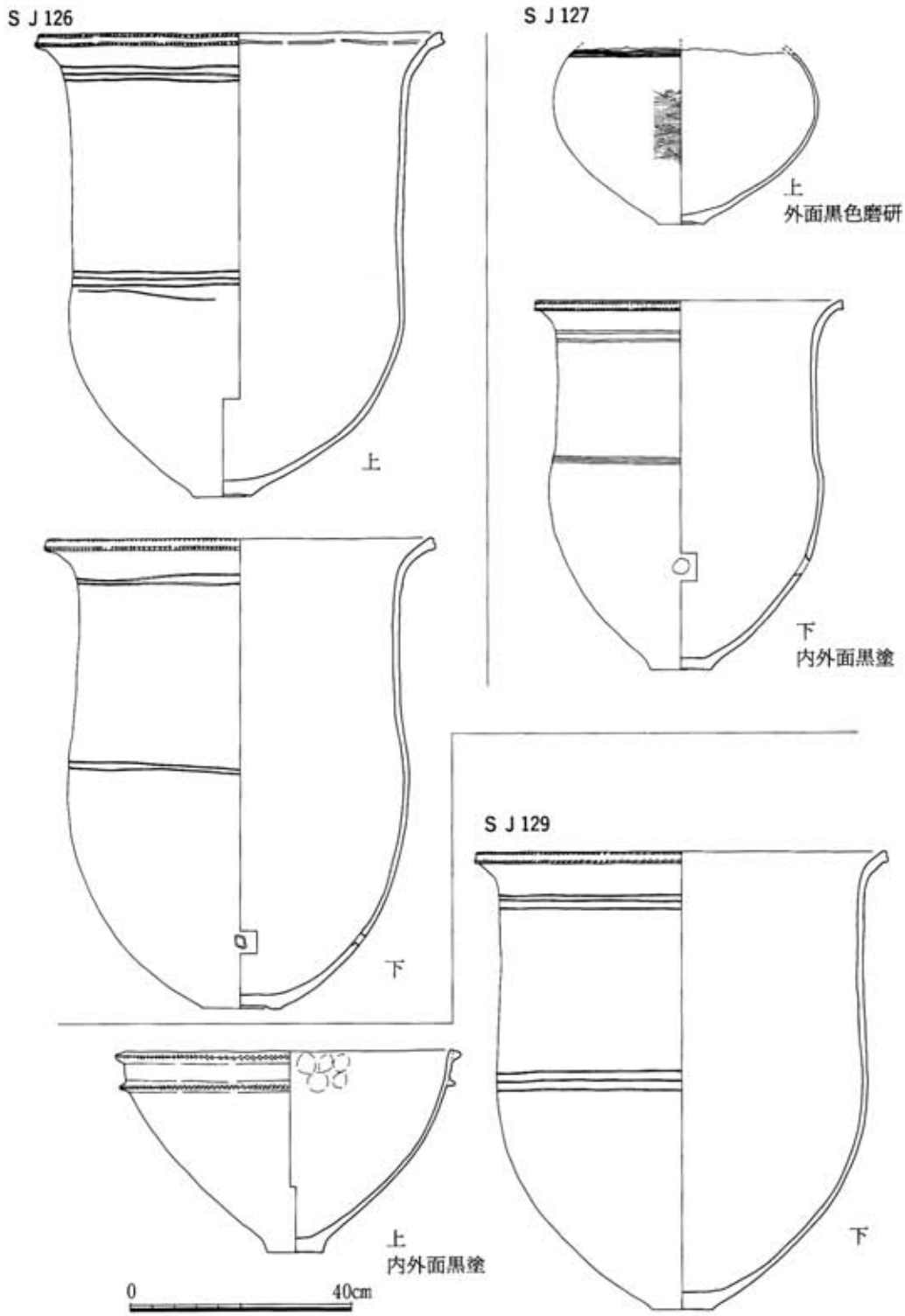



Fig. 80　S J 126・127・129甕棺（1/12）

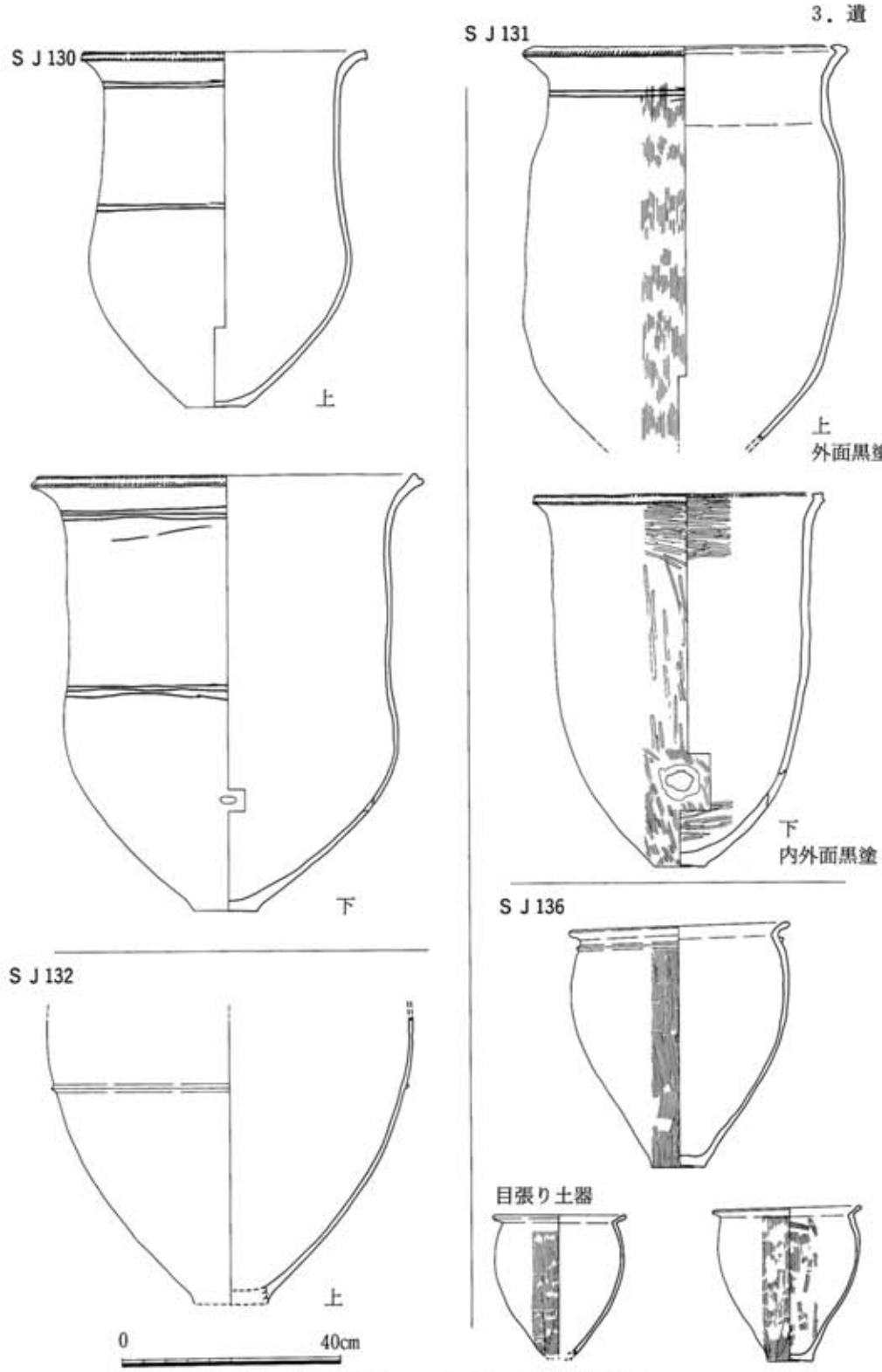



Fig. 81　S J 130・131・132・136甕棺（1/12）

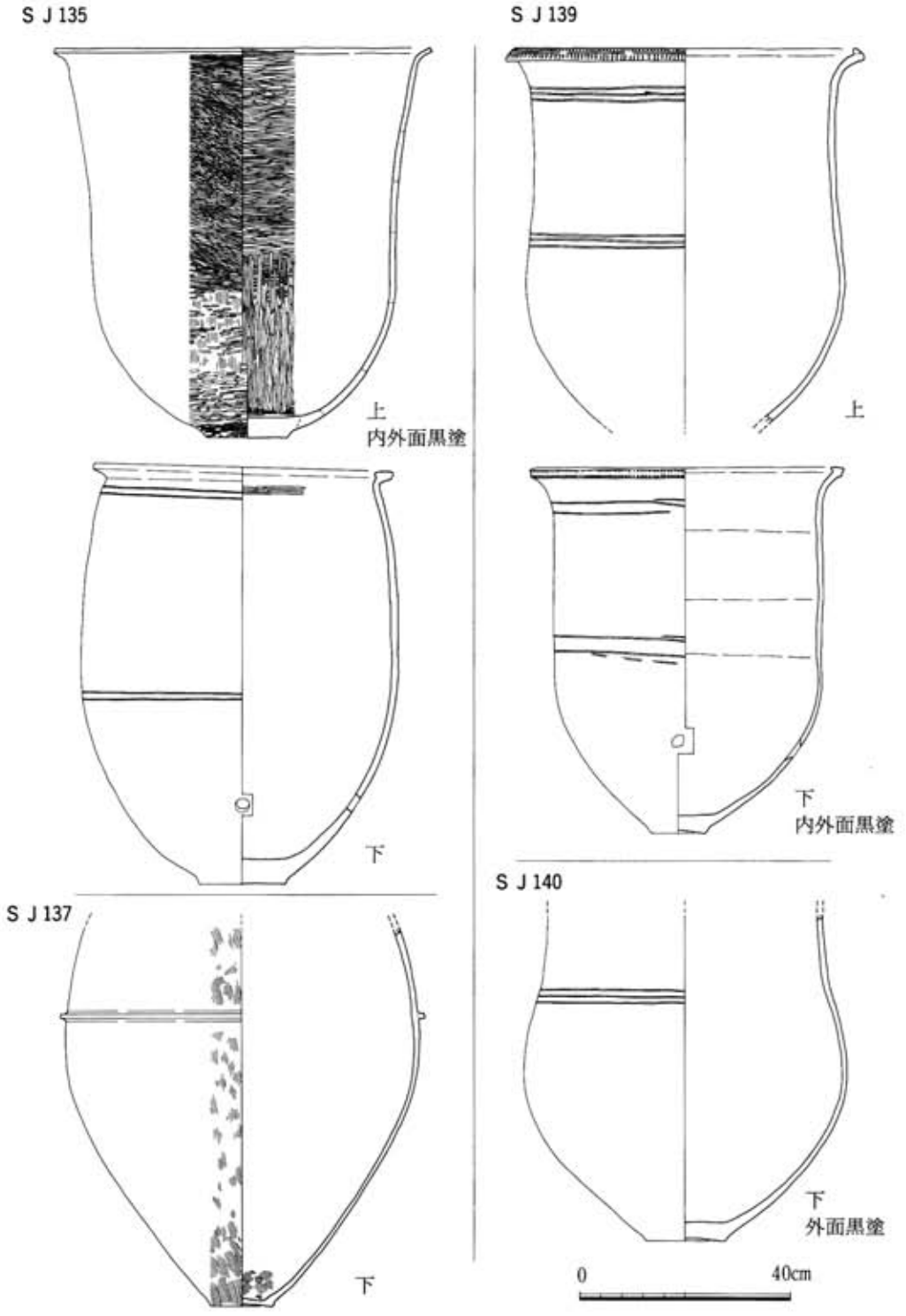



Fig. 82　S J 135・137・139・140甕棺（1/12）

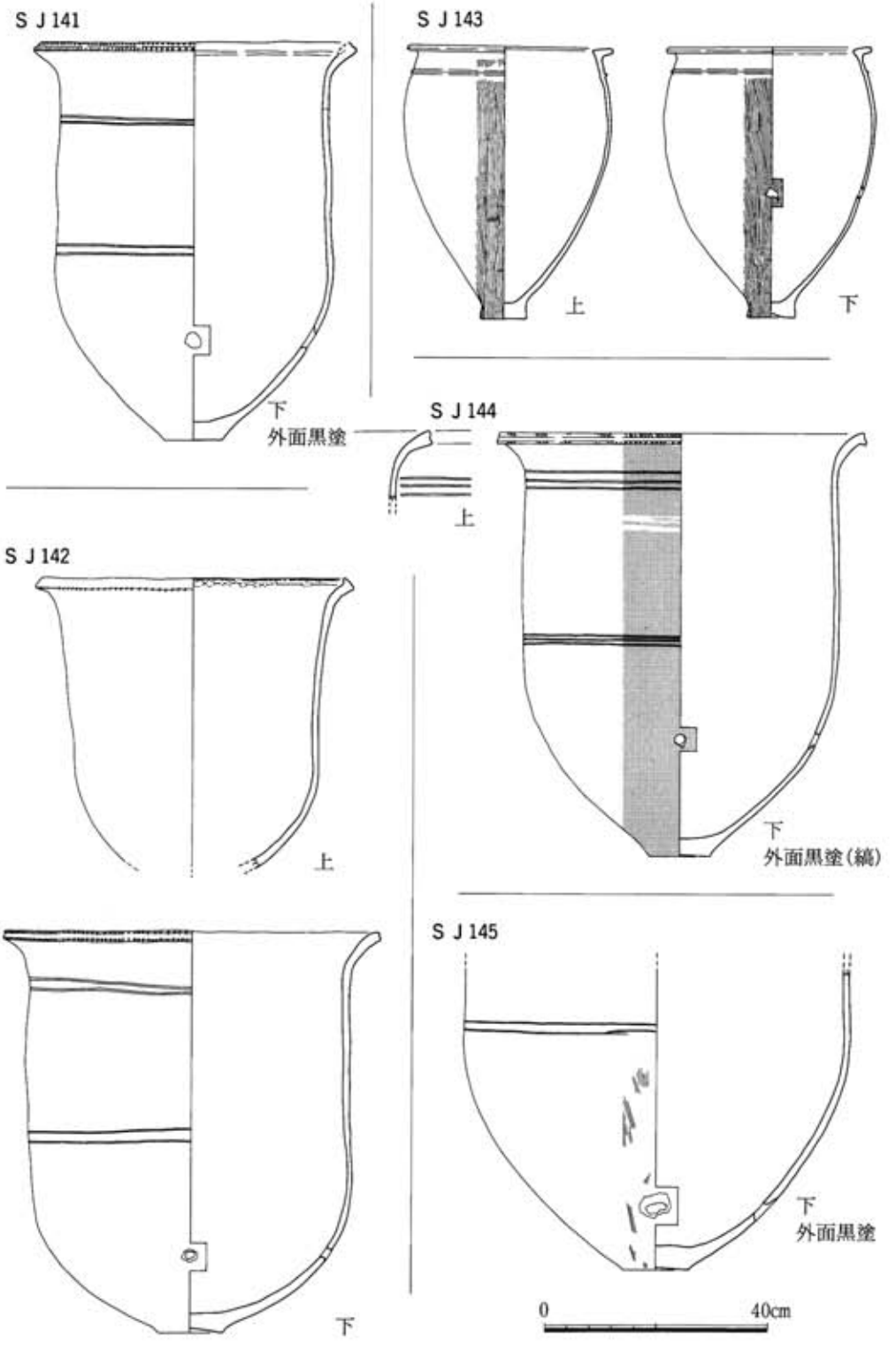



Fig. 83　S J 141・142・143・144・145甕棺（1/12）

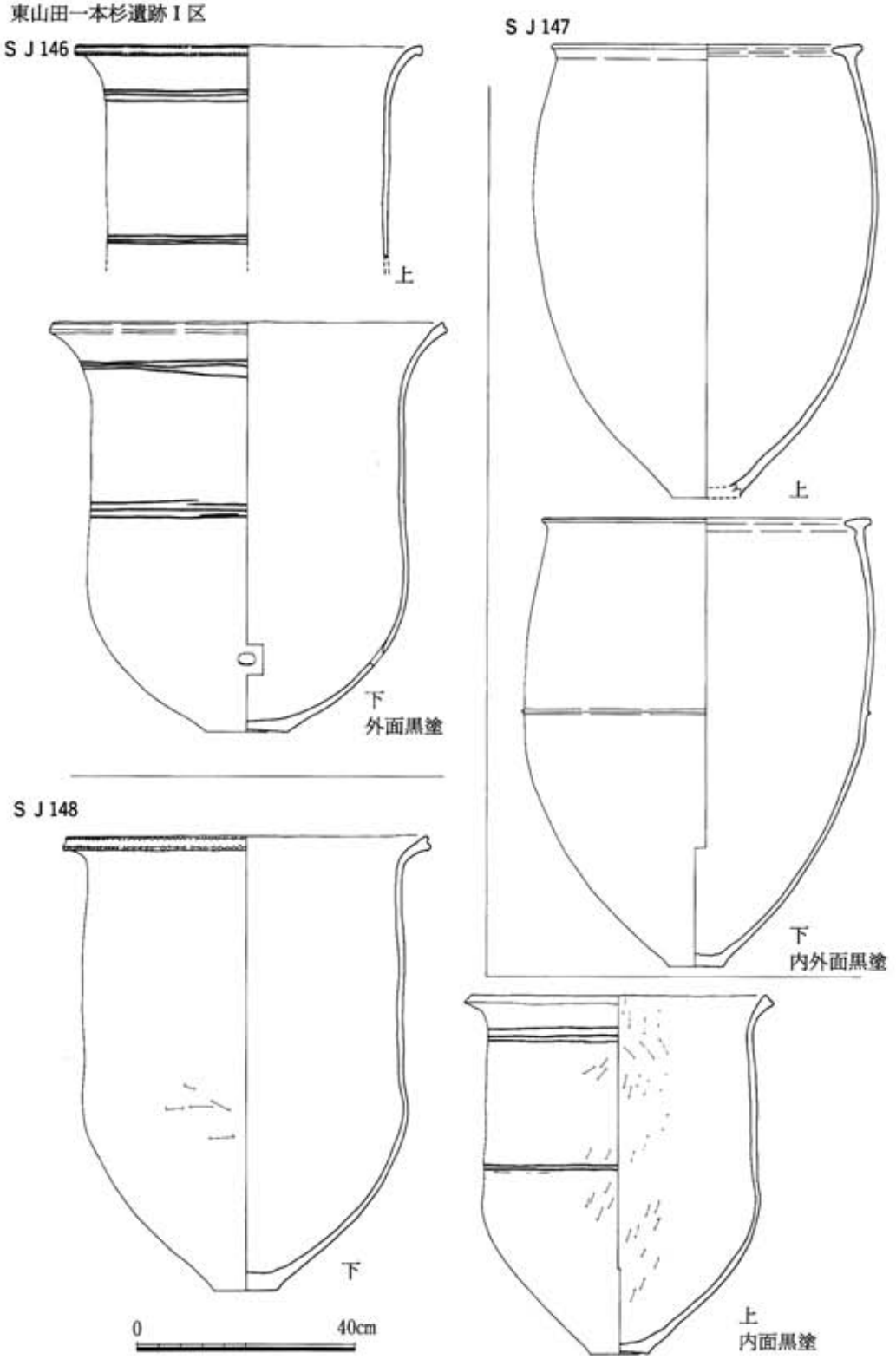



Fig. 84　S J 146・147・148甕棺（1/12）

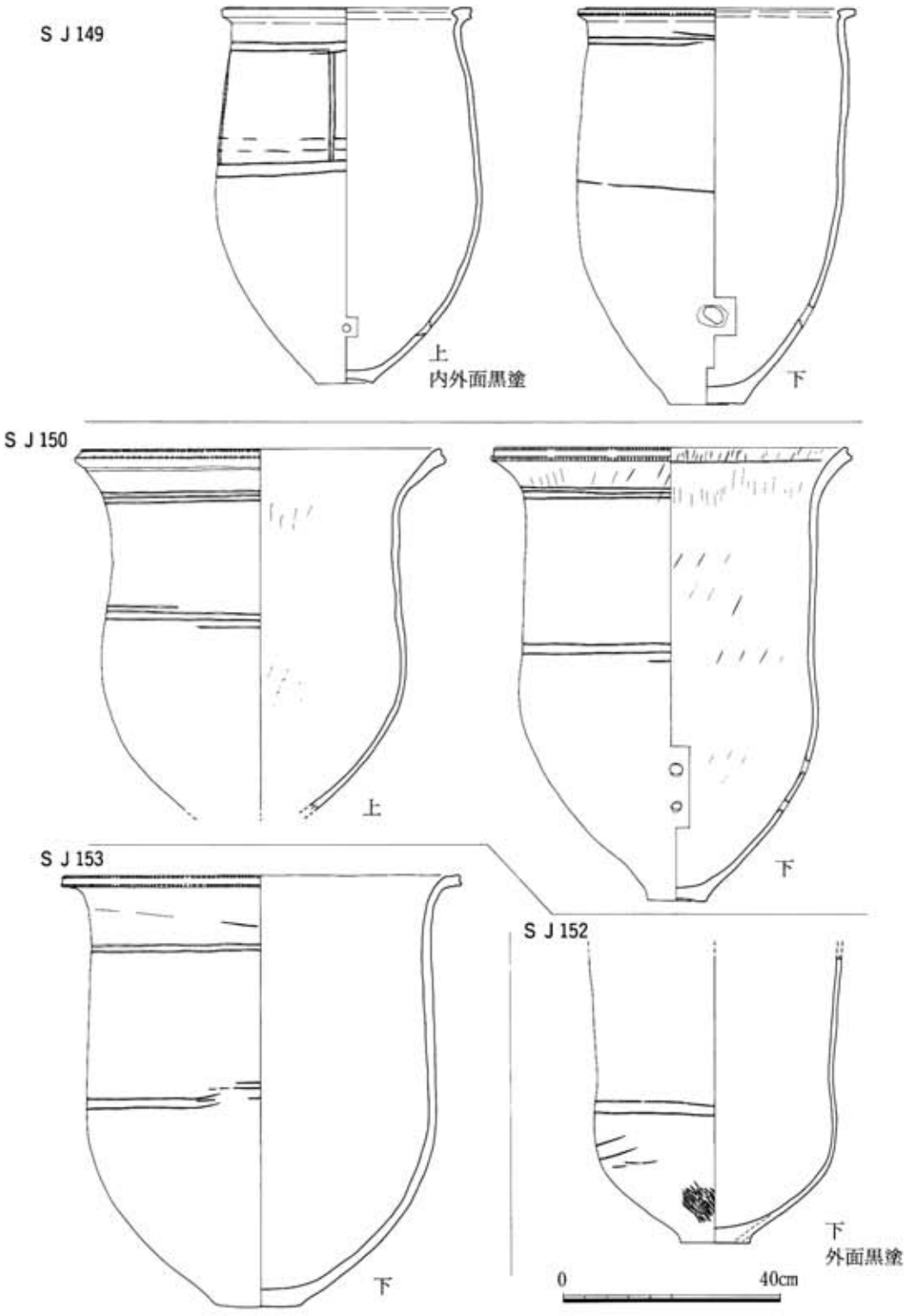



Fig. 85　S J 149・150・152・153甕棺（1/12）

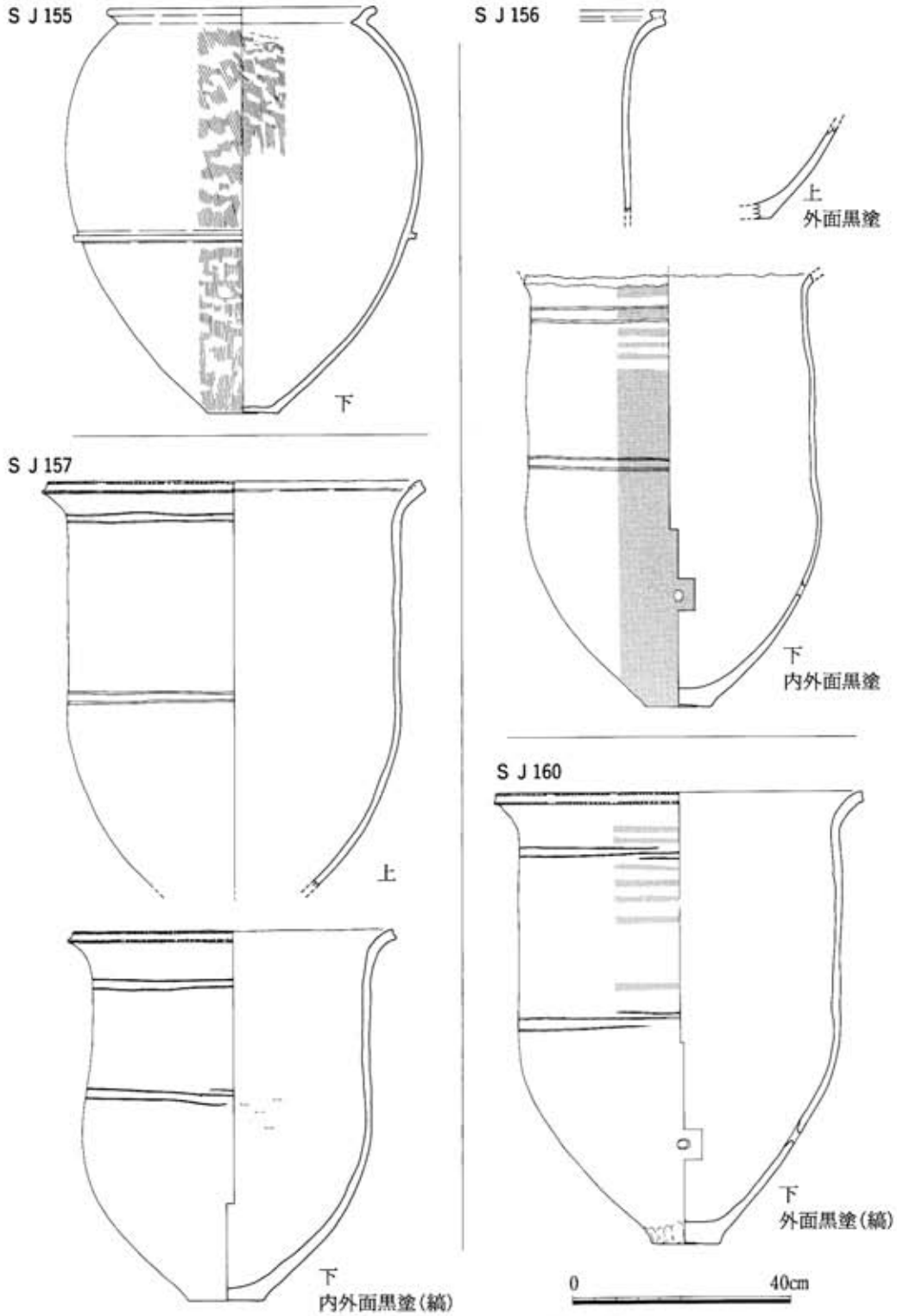



Fig. 86　S J 155・156・157・160甕棺（1/12）

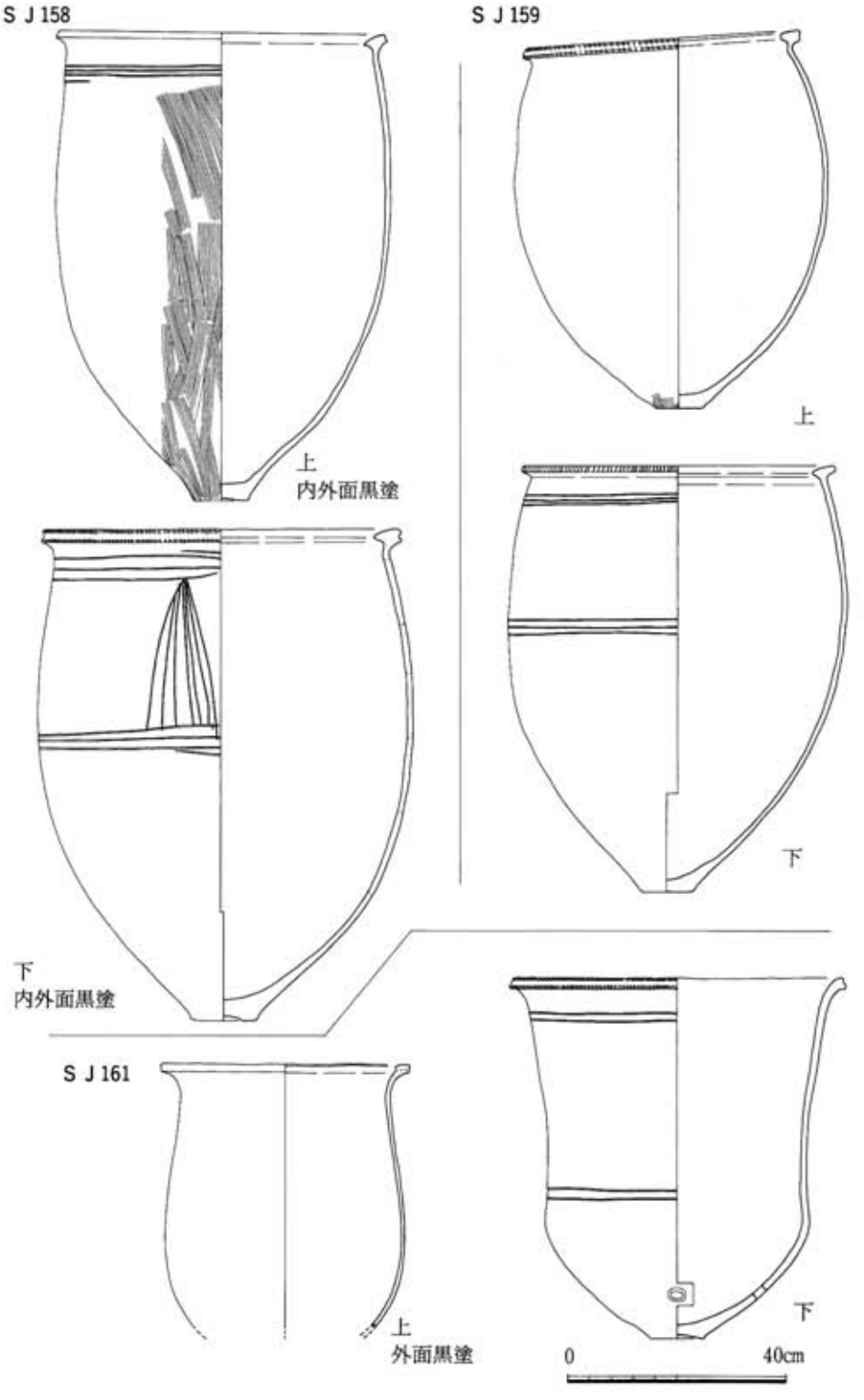



Fig. 87　S J 158・159・161甕棺（1/12）

Tab. 1　甕棺観察表　　時期1～6期は後述の編年による。口径は外口径，胴径は最大径。

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 001<br>fig. 58 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 922537 | 下甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高<br>口径<br>胴径　60.6 | 口縁部不明。体部中位やや上にコ字突帯2条。 | 外面ハケ目後ナデ，内面ナデ。明褐色。 |
| 002<br>fig. 58<br>912165 | 上甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。口縁部打ち欠き。体部にコ字突帯1条。 | 内外面ハケ目後ナデ。明黄褐色。 |
| 903289 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高　83.5<br>口径　47.0<br>胴径　67.2 | 体部は中位上が張り，上位がつよく締まる。中位上にコ字突帯1条。口縁部は端部がやや上向して平坦。 | 体部は外面ハケ目，内面ナデ。口縁部ナデ。淡黄褐色。 |
| 003<br>fig. 58 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920402 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。下体部はやや膨らみをもって立ち上がる。 | 内外面ハケ目後ナデ。器壁が薄い。明黄褐色。 |
| 004<br>fig. 58<br>922536 | 上甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高<br>口径<br>胴径　51.6 | 破片。体部は中位上が張り，上位が締まる。コ字突帯1条を巡らす。 | 体部は外面ハケ目後ナデ，内面ナデ。褐色。 |
| 903422 | 下甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高　89.6<br>口径　42.5<br>胴径　72.0 | 口縁部は鋤先状平坦。胴部は丸味がつよく，中位に2条コ字突帯。底部は薄い。 | 体部は外面ハケ目，内面ナデ。口縁部ナデ。明黄褐色。 |
| 005<br>fig. 59<br>912158 | 上甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径　33.2<br>胴径　51.5 | 体部は倒卵形で，中位にコ字突帯1条。口縁部は端部がやや上向して平坦。 | 体部は外面ハケ目後ナデ，内面ナデ。口縁部ナデ。淡黄褐色。 |
| 910576 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高　95.7<br>口径　47.0<br>胴径　70.0 | 体部は肩が張り中位下にコ字突帯2条。口縁部は「く」字形で，内側につよく突出。 | 体部は内外面ハケ目後ナデ。口縁部ナデ。明茶褐色。 |
| 007<br>fig. 59<br>912169 | 上甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径<br>胴径　50.9 | 体部は肩が張り中位に刻目突帯1条。底部付近は膨らみをもって立ち上がる。 | 体部は外面ハケ目後ナデ消し，内面ナデ。褐色。 |
| 904323 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高　77.1<br>口径　49.6<br>胴径　64.0 | 体部は肩が張り中位やや上にコ字突帯1条。口縁部は「く」字形に折れて短く外反気味に開く。 | 内外面ナデ仕上げ，外面底部付近にハケ目残る。茶褐色。 |
| 009<br>fig. 59<br>920392 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高<br>口径　57.8<br>胴径 | 破片。体部は上位でつよく締まる。口縁部は平坦で内側突出部打ち欠き。口唇部刻目。沈線は上3条，下不明。 | 内外面ナデ。淡褐色で，内外面黒塗り。 |
| 920417 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高(82.0)<br>口径　67.3<br>胴径　68.8 | 体部一体化し内湾気味に立ち上がる。口縁部は平坦で内側につよく突出。口唇部刻目。沈線は上下各3条，縦4区。 | 内外面ナデ。褐色。外面黒塗りで，口縁部下の沈線付近に2条程度の縞塗り。 |
| 010<br>fig. 60 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920423 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高　80.0<br>口径　67.1<br>胴径　60.0 | 体部は一体化し上体部ほぼ直行。口縁部は端部上面に粘土帯を巡らせ平坦をつくる。口唇部刻目，体部沈線無し。 | 内外面ナデ。明黄褐色で，内外面とも黒塗り。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 011<br>fig. 60<br>910147 | 上甕 | 中期初<br>6　期 | 器高　85.6<br>口径　64.2<br>胴径　66.8 | 体部は一体化し上位内湾気味。口縁部は接合部に外反傾向を残し平坦部を乗せる。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。外面底部付近にハケ目残る。淡褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 911931 | 下甕 | 中期初<br>6　期 | 器高　80.0<br>口径　61.2<br>胴径　64.3 | 体部は一体化し上位内湾。口縁部は接合部に外反傾向を残し平坦部を乗せる。口唇部刻目。沈線は雑に上下各3条。 | 内外面ナデ。口形やや歪む。明褐色。 |
| 012<br>fig. 60<br>912157 | 上甕 | 後期前半<br>三　津 | 器高<br>口径<br>胴径 | 胴部下半のみ残。下体部はあまり膨らまずに立ち上がる。 | 内外面ナデ。外底部付近にハケ目残る。褐色。 |
| 910106 | 下甕 | 後期前半<br>三　津 | 器高 101.0<br>口径　54.6<br>胴径　61.2 | 体部はやや異形の細身で，口縁部は肥厚した「く」字形。口縁下と体部中位やや下に刻目をもつ台形突帯を巡らす。 | 体部は外面ハケ目後かるくナデ，内面ナデ。口縁部はハケ目後，外面ナデ。褐色。 |
| 013<br>fig. 61 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 922535 | 下甕 | 前期末<br>3　期 | 器高　70.0<br>口径　56.8<br>胴径　52.0 | 下体部はやや膨らみを残し，上体部直行。口縁部はあまり肥厚せず緩く外反。沈線は上3条，下無し。内から穿孔。 | 内外面ナデ。黄褐色で，外面黒塗り。 |
| 014<br>fig. 61 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920413 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径<br>胴径　54.0 | 体部は中位に最大経を置き細身。コ字形突帯2条を巡らす。 | 内外面ハケ目。褐色。 |
| 017<br>fig. 61 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920407 | 下甕 | 前期末<br>3　期 | 器高<br>口径<br>胴径　50.0 | 下体部はやや膨らみを残し上体部はやや開き気味に直行。底部は上げ底状。沈線は下2条，上不明。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 019<br>fig. 61<br>920379 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径　76.2<br>胴径 | 口縁部はやや開き気味の上体部から肥厚せず外反し，平坦口縁を乗せる。沈線は上2条，下不明。口唇部刻目無し。 | 内外面ナデ。褐色で，外面黒塗り。 |
| 920378 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高<br>口径<br>胴径　68.0 | 下体部は膨らんで壺の特徴を残し，上体部直行。沈線は下3条，上も3条か。口縁部打ち欠き。 | 内外面ナデ。明褐色で，外面黒塗り。内面も黒塗りか。 |
| 020<br>fig. 61<br>920398 | 上甕 | 前期末<br>3～4期 | 器高<br>口径　64.4<br>胴径 | 口縁部は上体部からそのまま肥厚せずに外反し，端部上面に三角突帯。口唇部刻目。沈線は上2条，下不明。 | 内外面ナデで，ヘラナデ痕残る。褐色。外面黒塗りで，口縁部に3条程度の縦塗り。 |
| 920388 | 下甕 | 前期末<br>3　期 | 器高(64.0)<br>口径(54.5)<br>胴径　49.6 | 下体部はわずかに膨らみを残し，上体部直行。口縁部は外反するが，打ち欠き。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 021<br>fig. 62 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 922527 | 下甕 | 前期末<br>4　期 | 器高<br>口径　55.6<br>胴径 | 上体部は直行。口縁部は肥厚せずに外反し，内側に1段薄く幅の狭い粘土帯。沈線は上下各2条。口唇部刻目無し。 | 内外面ナデ。褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 022<br>fig. 62 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920385 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高<br>口径<br>胴径 61.6 | 下体部は明瞭に膨らみ壺の特徴を残し，底部に向かって急にすぼまる。上体部直行。 | 内外面ナデ。外面暗褐色，内面黄褐色。 |
| 023<br>fig. 62<br>912060 | 上甕 | 後期前半<br>三津 | 器高 29.0<br>口径 40.4<br>胴径 | 鉢形。口縁部は「く」字形に折れて，屈曲部に三角突帯。体部は境のやや不明瞭な平底から直線的に開く。 | 内外面ナデ。淡黄褐色。 |
| 910124 | 下甕 | 後期前半<br>三津 | 器高 76.8<br>口径 24.4<br>胴径 45.8 | 体部は細身長胴で中位やや下に台形突帯。口縁部はよわく「く」字形に折れ，端部を丸める。屈曲部下に台形突帯。 | 体部外面はハケ目後かるくナデ。口縁部と体部内面ナデ。赤褐色，一部褐色。 |
| 025<br>fig. 62<br>020410 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高(64.0)<br>口径 68.0<br>胴径 58.6 | 下体部はやや膨らみ低く，上体部直行。口縁部は外反し端部上面を平坦にナデ。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 920414 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 64.2<br>口径 62.1<br>胴径 51.4 | 体部はほぼ一体化し上体部直行。口縁部はやや肥厚して外反し上端部にナデて稜。沈線は上下各2条。側から穿孔。 | 内外面ナデ。明褐色。外面黒塗りで，上下沈線間に1条以上の縞塗り。 |
| 026<br>fig. 63<br>910121 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高(54.5)<br>口径 51.0<br>胴径 42.9 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部はやや肥厚して大きく外反。口唇部刻み目。沈線は上下に細く各1条。 | 内外面ナデ。明褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 910585 | 下甕 | 3期 | 器高(70.2)<br>口径 78.2<br>胴径 57.5 | 下体部はやや膨らんで低く上体部直行。口縁部は外反し端部上面を平坦状にナデ，口唇刻目。上下に雑沈線各2条。 | 内外面ナデ。口形が大きく歪む。暗褐色。 |
| 027<br>fig. 62<br>920389 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高 66.5<br>口径 52.8<br>胴径 47.2 | 体部は一体化し上体部ほぼ直行。口縁部は外反し上面内傾の粘土帯を乗せる。口縁部が波打つ。刻目，沈線無し。 | 内外面ナデ後，内面に不定方向へラミガキ。明褐色，内外面とも黒塗り。 |
| | 下甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | (石囲い) | |
| 029<br>fig. 63<br>910116 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高(86.2)<br>口径 73.2<br>胴径 58.8 | 体部は上下ほぼ一体化。口縁部は肥厚せず外反し端部上面に上向する三角突帯。口唇部刻み目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 910592 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 73.6<br>口径 63.5<br>胴径 52.9 | 体部は上下一体化。口縁部は肥厚せず外反し上面に三角突帯を巡らせ平坦状。口唇部刻み目，沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明褐色。外面とも黒塗りで，上体部に10条以上の細かな縞塗り。内面も黒塗りか。 |
| 030<br>fig. 63<br>922533 | 上甕 | 中期初<br>5期 | 器高<br>口径 62.2<br>胴径 | 破片。上体部は内湾気味。口縁部は外反して端部に平坦口縁を乗せる。口唇部刻目。沈線は口縁下3条と縦区画。 | 内外面ナデ。器体は褐色で，外面黒塗り。 |
| 922540 | 下甕 | 中期初<br>5期 | 器高 90.0<br>口径 75.6<br>胴径 69.9 | 体部は一体化し，外反した端部に未発達な平坦部を乗せる。口唇部刻目。沈線は上下各3条，縦5区画。十字絵画。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 032<br>fig. 64<br>920397 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径 76.7<br>胴径 | 口縁部は肥厚せずに外反。口唇部刻目。沈線は上3条，下不明。 | 内外面ナデ。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 920408 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 72.8<br>口径 60.2<br>胴径 54.4 | 体部は一体化し，上位内傾。底部突出。口縁部は外反し，やや肥厚した端部上面を平坦にナデ。口唇部刻目。穿孔。 | 内外面ナデ。黄褐色で，外面黒塗り。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 034<br>fig. 64 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 922539 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　73.8<br>口径　61.2<br>胴径　50.6 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。口縁部は外反して端部肥厚。口唇部刻目。沈線は上3条，下2条。穿孔。 | 内外面ナデ。内面にヘラナデ痕あり。明茶褐色。 |
| 035<br>fig. 64<br>922531 | 上甕 | 後期前<br>三津 | 器高<br>口径<br>胴径　69.0 | 体部は途中屈曲し，台形突帯を巡らす。口縁部打ち欠き。 | 内外面ナデ。調整は全体に粗く，器壁が厚い。 |
| 903425 | 下甕 | 後期前<br>三津 | 器高　86.0<br>口径　46.4<br>胴径　65.4 | 体部はやや肩張り気味で，中位にコ字突帯を巡らす。口縁部は「く」字形によわく屈曲。 | 内外面ナデ。外面底部付近にハケ目残る。黄褐色。 |
| 036<br>fig. 64<br>902281 | 上甕 | 中期後<br>立岩 | 器高<br>口径<br>胴径　51.1 | 体部は中位上が張って上位が締まり，中位に三角突帯を巡らす。体部上位打ち欠き。 | 外面ハケ目，内面はハケ目の後ナデ。外面茶色，内面黒色。 |
| 903291 | 下甕 | 中期後<br>立岩 | 器高　91.5<br>口径　56.0<br>胴径　74.7 | 体部は中位がつよく張り，コ字形突帯2条を巡らす。口縁部は厚い平坦口縁で，口縁下にもコ字形突帯1条が巡る。 | 体部外面ハケ目，口縁部と体部内面ナデ仕上げ。明茶褐色。 |
| 037<br>fig. 65<br>911940 | 上甕 | 中期初<br>5期 | 器高(76.0)<br>口径　62.8<br>胴径　58.6 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。口縁部は器体が薄く短く外反。口唇部刻目。沈線は下3条，上無し。 | 内外面ナデ。淡褐色。外面は黒塗で，上体部に8条以上の細かな縞塗り。内面も黒塗りか。 |
| 911948 | 下甕 | 中期初<br>5期 | 器高　67.3<br>口径　52.5<br>胴径　51.6 | 体部は一体化し，上体部内湾。口縁は短く外反し，端部に薄い粘土帯。口唇下端刻目。沈線は上2条。内から穿孔。 | 内外面ナデ。部分的にヘラ痕残る。暗褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 038<br>fig. 65<br>902288 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高　80.4<br>口径　62.3<br>胴径　61.6 | 上体部内湾。口縁部は短く外反し粘土帯を端部内側に突出させ平坦。口唇刻目。沈線は上下各3条，及び縦1ヶ所。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 902282 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高　90.4<br>口径　70.2<br>胴径　70.6 | 上体部内湾気味。口縁部は短く外反し粘土帯を端部内側に突出させ平坦。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。黄褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 039<br>fig. 65<br>903292 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高<br>口径　62.0<br>胴径　57.6 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部は大き外反し端部に平坦粘土帯。口唇刻目，沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明黄褐色。内外面黒塗りで，外面口縁部付近に縞塗り。 |
| 903424 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　80.6<br>口径　71.4<br>胴径　60.6 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇刻目。沈線は上下各2条。穿孔2ヶ所。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 040<br>fig. 66 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | | |
| 912056 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高　54.2<br>口径　45.6<br>胴径　37.6 | 体部は一体化し上位内傾。口縁部は大きく外反し端部に上面やや内傾の粘土帯。口唇刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。明黄褐色で，外面黒塗り。 |
| 041<br>fig. 66<br>920409 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高<br>口径<br>胴径　58.0 | 下体部はやや膨らんで低くつぶれ，上体部直行。沈線は下3条，上不明。 | 内外面ナデ。外底部付近にヘラナデ痕。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 910125 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　81.8<br>口径　76.3<br>胴径　60.0 | 下体部は膨らみを残し，上体部直行。口縁部は肥厚せず外反。口唇部刻目。口縁下にかすかに1条沈線残。穿孔。 | 内外面ナデ。内面にヘラナデ痕。口形やや歪む。明褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 042<br>fig. 66<br>903294 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高(88.0)<br>口径 77.9<br>胴径 66.0 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。淡褐色。 |
| 902298 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 85.8<br>口径 69.7<br>胴径 59.0 | 下体部はかすかに膨らみ，上体部直行。口縁部はあまり肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上2条，下3条。穿孔。 | 内外面ナデ。内面口縁部付近へラミガキ。口形やや歪む。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 043<br>fig. 67<br>910588 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高(82.2)<br>口径 73.0<br>胴径 66.6 | 体部は一体化し，上体部は内傾気味に直行。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目無し。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。明褐色で，内面黒塗り。外面も黒塗りか。 |
| 910119 | 下甕 | 前期末<br>4～5期 | 器高 60.7<br>口径 43.8<br>胴径 47.3 | 上体部はつよく内湾し全体に下膨れ気味。口縁部はわずかに外反し端部内面に小さな三角突帯。口唇下端に刻目。 | 内外面ナデで，内面一部にヘラナデ及びハケ目痕残る。褐色で，内外面黒塗り。 |
| 044<br>fig. 66 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | (単棺) | |
| 920424 | 下甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高<br>口径 22.4<br>胴径 48.3 | 壺。破片。胴部は肩がつよく張り，頸部が締まって口縁部が急に外反する。頸胴間に三角突帯を巡らす。胴部穿孔。 | 口縁部内外面及び胴部外面黒色へラミガキ。胴部内面ナデ。暗褐色。 |
| 045<br>fig. 67 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | (単棺) | |
| 910138 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高 52.1<br>口径 28.1<br>胴径 43.2 | 体部は倒卵形に張り，中位やや上に「コ」字突帯。口縁部は「く」字に折れて外反気味に開く。上体部穿孔。 | 口縁部内面及び体部外面ハケ目，体部内面ナデ。褐色。 |
| 047<br>fig. 67<br>912161 | 上甕 | 前期末<br>3～5期 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。口縁部は直行体部から緩く外反して開き，端部内面に三角突帯を巡らす。口縁下沈線無し。 | 内外面ナデの後，口縁部外面を粗く斜めへラミガキ。褐色で，外面黒塗り。 |
| 910140 | 下甕 | 前期末<br>4～5期 | 器高 58.8<br>口径 49.5<br>胴径 42.8 | 体部は一体化し，上体部ほぼ直行。口縁部は大きく外反し，上端部に小さな三角突帯。刻目，沈線無し。 | 内外面ナデ。内面一部にハケ目残る。整形，調整ともやや雑。明茶褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 048<br>fig. 68 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920421 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高<br>口径 66.6<br>胴径 62.0 | 体部にやや膨らみを残し，上体部は内傾直行。口縁部は段をなして肥厚外反。沈線は上下各2条。内側から穿孔。 | 内外面はハケ目痕を残してナデ仕上げ。褐色。 |
| 050<br>fig. 67<br>920380 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高(80.0)<br>口径 75.2<br>胴径 70.8 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇部は鈍い刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明褐色で，内外面黒塗り。 |
| 920405 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高 88.0<br>口径 71.6<br>胴径 64.9 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。内から穿孔。 | 内外面ナデ。口形やや歪む。明褐色。 |
| 051<br>fig. 68<br>910117 | 上甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高<br>口径<br>胴径 63.1 | 体部は倒卵形で，上位がつよく締まる。中位やや下にコ字突帯。口縁部打ち欠き。 | 外面はハケ目後上位ナデ，内面ナデ仕上げ。明褐色。 |
| 911926 | 下甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高(92.4)<br>口径 58.4<br>胴径 70.6 | 体部は肩が張り，中位にコ字突帯2条。口縁部はつよく屈曲して上面斜行の平坦口縁となる。穿孔。 | 体部は外面ハケ目，内面ハケ目後ナデ。口縁部ナデ。明茶褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 052<br>fig. 68<br>920386 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高(68.0)<br>口径　59.6<br>胴径　46.2 | 下体部はやや膨らんで低くつぶれ，上体部直行。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上2条，下1条。 | 内外面ナデ。褐色。内外面とも黒塗りで，外面の口縁下沈線付近に3条程度の縞塗り。 |
| 911937 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　73.3<br>口径　59.8<br>胴径　52.0 | 下体部は膨らみを残し上体部内傾直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇に鈍い刻目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。明茶褐色で，内面黒塗り，外面も黒塗りか。 |
| 053<br>fig. 69<br>910595 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高　84.6<br>口径　62.0<br>胴径　63.8 | 上体部は内湾して立ち上がる。口縁部は平坦で内側にやや突出。口唇部刻目。沈線は間隔を広く上下各3条。 | 内外面ナデ。暗褐色で，内外面黒塗り。 |
| 910596 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高　79.8<br>口径　60.0<br>胴径　62.8 | 上体部は内湾し，底部がすぼまる。口縁部は体部から短く外反，端部内側に粘土帯を突出させ平坦状。口唇部刻目。 | 内外面ナデ。明黄褐色。外面は底部付近以外は全面に縞塗り，内面も黒塗りか。口形が三角形にちかく歪む。 |
| 054<br>fig. 69<br>910145 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高<br>口径　71.8<br>胴径　61.2 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。口縁部はあまり肥厚せず緩く外反。口唇部刻目無し。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。内面一部にヘラナデ痕あり。淡黄褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 910136 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高　52.9<br>口径　46.8<br>胴径　39.2 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は肥厚せず大きく外反。口唇部に斜線状刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 055<br>fig. 69<br>912152 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高　63.9<br>口径　48.8<br>胴径　46.0 | 体部は一体化しながら下膨らみ，上体部内傾。口縁部は肥厚せずに緩く外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 910144 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高　78.2<br>口径　64.9<br>胴径　52.8 | 体部は一体化し上体部直行。口縁部は大きく外反し上端に薄く粘土帯。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。内面口縁部にハケ目残る。口形やや歪む。淡褐色。 |
| 057<br>fig. 70 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 911932 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　97.6<br>口径　74.2<br>胴径　69.6 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部は肥厚して緩く外反。口唇部に鈍い刻目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。内面口縁部にハケ目残る。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 059<br>fig. 70<br>902300 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高　88.8<br>口径　71.0<br>胴径　60.2 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部はやや肥厚して大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 902299 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高　94.6<br>口径　84.8<br>胴径　66.4 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部は内傾した後，口縁部まで肥厚せず大きく外反。口唇刻目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。口形歪む。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 060<br>fig. 70 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 911936 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高　55.1<br>口径　51.0<br>胴径　46.9 | 下体部にやや膨らみを残し上体内傾。口縁はあまり肥厚せず大きく外反。口唇刻目。沈線上下各2条。内から穿孔。 | 内外面ナデ。外面上体部に板ナデ痕一部残る。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 062<br>fig. 70 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 922528 | 下甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高<br>口径<br>胴径 | 底部残。下体部は直線的に開く。 | 外面ハケ目，内面ナデ。黄褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 064<br>fig. 71 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | (単棺) | |
| 911930 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 92.2<br>口径 78.4<br>胴径 62.7 | 異形。下体部に膨らみを残し，体部から口縁部にかけて緩く開く。口唇下端に刻目，体部中位に沈線1条。穿孔。 | 内外面ナデの後，外面ヘラミガキ。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 066<br>fig. 70<br>920403 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。口縁部はやや肥厚して緩く外反。口唇部刻目。沈線は上3条，下不明。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 920404 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高<br>口径(66.0)<br>胴径 53.0 | 下体部にやや膨らみを残し，上体部直行。沈線は下体部3条，上不明。 | 内外面ナデ。褐色で，外面黒塗り。 |
| 071<br>fig. 71<br>910105 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高 85.3<br>口径 76.4<br>胴径 62.3 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は大きく外反し上端に段をもって肥厚。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデの後，外底部付近のみヘラミガキ。褐色。 |
| 910149 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 81.2<br>口径 72.3<br>胴径 63.6 | 体部は一体化し，上体部ほぼ直行。口縁部は大きく外反し口唇下端のみ膨らんで刻み目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。口形歪む。淡褐色。 |
| 072<br>fig. 71<br>920393 | 上甕 | 前期末 | 器高<br>口径 26.0<br>胴径 | 鉢。口縁部残。上体部が内湾気味に立ち上がる。口縁部に三角突帯，刻目。口縁下に2条の小三角突帯，刻目。 | 内外面ナデ。内面褐色，外面黄褐色。 |
| 920420 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 50.0<br>口径 44.8<br>胴径 42.9 | 下体部にやや膨らみを残し，上体部内傾。口縁は外反し上端に上向三角突帯。口唇刻目。沈線は細く上下各2条。 | 内外面ナデ。口形歪む。内面褐色，外面暗褐色。 |
| 074<br>fig. 72<br>910599 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高 83.0<br>口径 74.5<br>胴径 65.4 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部やや外傾直行。口縁部は肥厚せずに開き，口唇刻目。体部中位に2条細沈線。 | 内外面ナデ，内面口縁部にハケ目。口形歪む。褐色で，外面黒塗り。内面も黒塗りか。 |
| 910150 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高 68.3<br>口径 55.8<br>胴径 46.7 | 下体部に膨らみを残し，上体部直行。口縁部は肥厚せず緩く外反。口唇部刻目。穿孔。 | 内外面ナデの後，外面上位3分の2を粗くヘラミガキ。外面明茶褐色，内面端褐色。 |
| 075<br>fig. 72<br>910148 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高(87.0)<br>口径 81.7<br>胴径 68.3 | 下体部にやや膨らみを残し上体部直行。口縁部は外反して上端にやや厚い粘土帯。口唇刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。口縁部が波打つ。明茶褐色で，内面黒塗り。 |
| 910600 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 80.4<br>口径 72.8<br>胴径 56.0 | 下膨れで上体部が開き気味に直行。口縁部は外反して上端に三角突帯で小平坦。口唇刻目。沈線は上3条，下2条。 | 内外面ナデ。内面にヘラナデ痕残る。口形やや歪む。褐色で，外面黒塗り。 |
| 077<br>fig. 72<br>910107 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高 72.7<br>口径 59.4<br>胴径 53.4 | 下体部にやや膨らみを残し上体部は内傾直行。口縁部はやや肥厚して大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 910108 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 85.0<br>口径 71.9<br>胴径 62.1 | 下体部にやや膨らみを残し上体部直行。口縁部は段をなして肥厚し緩く外反。口唇刻目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。暗黄褐色。 |
| 078<br>fig. 73<br>910593 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高 80.2<br>口径 61.7<br>胴径 55.0 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。口形歪む。褐色。 |
| 920418 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高(86.0)<br>口径 76.4<br>胴径 67.0 | 下体部は膨らみ，上体部は内傾気味に直行。口縁部はやや肥厚して大きく外反。口唇刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明褐色で，内外面黒塗り。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 079<br>fig. 71<br>912159 | 上甕 | 中期前半 | 器高　33.0<br>口径　25.5<br>胴径　28.7 | 壺。胴部は中位やや上で張り，間広な三角突帯2条を巡らす。頸部は直線的に開き，平坦口縁を乗せる。 | 外面は胴部ヨコヘラミガキ，頸部タテヘラミガキ，内面ナデ。暗褐色。 |
| 912061 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　45.0<br>口径　35.4<br>胴径　42.2 | 体部は中位上でつよく張り，三角突帯を巡らす。底部が急にすぼまる。口縁部は内側につよく突出して平坦。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 080<br>fig. 73<br>910131 | 上甕 | 中期後半<br>立　岩 | 器高　31.4<br>口径　28.3<br>胴径　28.6 | 小型甕。体部は中位やや上で張る。口縁部はよわく屈曲し端部がやや上向して開く。 | 外面はハケ目後ナデ。内面ナデ仕上げで，ヘラナデ痕残る。淡褐色。 |
| 910130 | 下甕 | 中期後半<br>立　岩 | 器高　33.7<br>口径　28.4<br>胴径　29.5 | 小型甕。体部は中位やや上で張る。口縁部はよわく屈曲し端部がやや上向して開く。 | 内外面ナデ仕上げ。淡褐色。 |
| 081<br>fig. 73<br>912051 | 上甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　82.4<br>口径　70.2<br>胴径　58.8 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。口縁部は肥厚して大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ，外面下体部にヘラナデ痕残る。口形歪む。明褐色。 |
| 920419 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　84.4<br>口径　71.4<br>胴径　60.0 | 下体部に膨らみを残し，上体部はやや内傾直行。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ，外面下体部にハケ目残る。口形歪む。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 082<br>fig. 73 | | | 器高<br>口径<br>胴径 | （単棺） | |
| 910581 | 下甕 | | 器高　40.0<br>口径　29.9<br>胴径　35.7 | 壺。胴部は肩が張り，丸みをもち，頸部から口縁部にかけて肥厚外反。口唇部刻目。頸胴間に3条沈線。穿孔。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 083<br>fig. 74<br>910127 | 上甕 | 前期末<br>4　期 | 器高　72.5<br>口径　51.1<br>胴径　52.0 | 体部は一体化し下膨らみ。上体部は内傾直行。口縁部は肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上2条，下1条。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 910126 | 下甕 | 前期末<br>4　期 | 器高　77.9<br>口径　63.3<br>胴径　67.5 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は大きく外反して端部に薄い粘土帯。口唇部刻目。沈線は下1条。穿孔。 | 内外面ナデ。茶色。 |
| 084<br>fig. 74<br>912055 | 上甕 | 前期末<br>3　期 | 器高　68.5<br>口径　59.6<br>胴径　48.4 | 下体部にやや膨らみを残し，上体部直行。口縁部は外反して端部肥厚。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ，外面一部にヘラナデ痕残る。茶褐色。 |
| 911927 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　78.8<br>口径　66.7<br>胴径　62.8 | 下体部は明瞭に膨らみ，上体部内傾直行。口縁部は肥厚せず大きく外反。口唇部刻目。沈線は上2条，下3条。 | 内外面ナデ，ヘラナデ痕残る。明褐色。 |
| 085<br>fig. 74<br>911939 | 上甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高<br>口径　71.7<br>胴径　72.4 | 上体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は平坦で内側につよく突出。体部中位やや下に三角突帯2条。 | 内外面ナデ。器体は明茶褐色で，外面黒塗り。 |
| 910579 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　95.8<br>口径　66.0<br>胴径　66.6 | 上体部は内湾気味に立ち上がり底部すぼまる。口縁部は平坦で内側につよく突出。体部中位やや下に三角突帯2条。 | 内外面ナデ。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 086<br>fig. 75 | | | 器高<br>口径<br>胴径 | （単棺） | |
| 920387 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　67.6<br>口径　57.6<br>胴径　54.8 | 下体部にやや膨らみを残し，上体部は内傾直行。口縁部はやや肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 087<br>fig. 75<br>911927 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高 90.4<br>口径 68.4<br>胴径 69.2 | 体部は内湾気味に立ち上がり口縁部は上面がやや内側に傾き未発達な平坦口縁を乗せる。沈線は中位やや下に3条。 | 内外面ナデ。淡褐色。 |
| 910578 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高 89.8<br>口径 69.0<br>胴径 67.6 | 体部は内湾気味に立ち上がり上端がわずかに外反，未発達な平坦口縁を乗せる。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ，外面底部付近にハケ目残る。口形は歪み，口縁部が波打つ。明褐色。 |
| 088<br>fig. 75<br>912052 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高 79.4<br>口径 67.1<br>胴径 62.1 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は外反して端部上面に平坦状の粘土帯。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。口縁部内面ハケ目。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 903295 | 下甕 | 4期 | 器高 70.0<br>口径 62.3<br>胴径 48.2 | 異形。下体部に膨らみを残し上体部は口縁部まで一気に外反気味に開く。口縁端部内面に上向三角突帯。穿孔2個。 | 外面ヘラミガキ，内面は口縁部付近ヘラミガキ，体部ナデ。淡褐色で，外面黒塗か。 |
| 089<br>fig. 76 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920382 | 下甕 | 前期末<br>2期 | 器高<br>口径<br>胴径 51.8 | 体部は明瞭に膨らみ，上体部直行。沈線は上無し，下不明。内側から穿孔。 | 内外面ナデ。暗褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 091<br>fig. 76 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920396 | 下甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 底部破片。下体部は底部から大きく開いて立ち上がる。 | 内外面ナデ。暗褐色。 |
| 092<br>fig. 76<br>910103 | 上甕 | 中期初<br>汲田 | 器高 94.0<br>口径 68.2<br>胴径 70.6 | 体部は下体部がつよくすぼまり上体部内湾，中位に三角突帯。口縁部はL字形にちかく平坦部が内側につよく突出。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 910109 | 下甕 | 中期初<br>汲田 | 器高 72.7<br>口径 52.2<br>胴径 59.0 | 体部は下体部がすぼまり，上体部内湾，中位に三角突帯。口縁部はL字形で平坦部が内側につよく突出。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |
| 093<br>fig. 76<br>922538 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高<br>口径 76.3<br>胴径 64.5 | 下体部はやや膨らみを残し上体部直行。口縁はかすかに段をもち肥厚せず外反。口唇部下端刻目。沈線は下2条。 | 体部ナデ。口縁部は内面ハケ目，外面ナデ。外面一部にヘラミガキ痕。 |
| 920422 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 93.2<br>口径 76.4<br>胴径 62.4 | 下体部やや膨らみ上体部直行。口縁はあまり肥厚せず大きく外反。口唇部下端刻目。沈線は下2条。内から穿孔。 | 内外面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 099<br>fig. 77<br>910118 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高 76.0<br>口径 50.8<br>胴径 57.0 | 体部は一体化し，上体部内湾気味に縮まる。口縁部は未発達ながらL字形平坦。口唇部刻目，沈線ともに無し。 | 内外面ナデ。外面茶褐色，内面褐色。 |
| 910115 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高 64.0<br>口径 44.2<br>胴径 49.0 | 体部は一体化し上体部内湾。口縁部は変則L字形で上面カーブ。口唇部刻目。沈線は上下各3条と雑に縦6区画。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 100<br>fig. 77<br>920425 | 上甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高<br>口径 68.8<br>胴径 | 口縁部残。口縁部は未発達なT字形にちかい。 | 内外面ナデ。茶褐色。 |
| 922526 | 下甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高<br>口径 57.6<br>胴径 59.0 | 上体部内湾気味に立ち上がり，中位に三角突帯1条。口縁部は未発達なT字形。 | 内外面ナデ。明褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 108<br>fig. 77<br>911942 | 上甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　84.7<br>口径　66.2<br>胴径　68.0 | 体部は上体部が内湾気味に立ち上がり，中位やや下に三角突帯2条。口縁部はL字形で平坦が内側につよく突出。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 911941 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高(84.0)<br>口径　66.4<br>胴径　66.5 | 体部は上体部が内湾気味に立ち上がり，中位やや下に三角突帯2条。口縁部はL字形で平坦が内側に強く突出。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 111<br>fig. 78<br>922529 | 上甕 | 中期中頃<br>須　玖 | 器高　46.6<br>口径　40.0<br>胴径　38.4 | 生活用甕の転用。下体部でつよく締まる。口縁部は逆L字形で，内側にやや突出。口縁部下に三角突帯を巡らす。 | 体部外面ハケ目後ナデ。口縁部から体部内面にかけてナデ。外面に多量の煤付着。 |
| 922530 | 下甕 | 中期中頃<br>須　玖 | 器高　49.0<br>口径　41.3<br>胴径　38.9 | 生活用甕の転用。下体部でつよく締まる。口縁部は逆L字形。口縁部下に三角突帯を巡らす。 | 体部外面ハケ目後ナデ。口縁部から体部内面にかけてナデ。外面に多量の煤付着。 |
| 113<br>fig. 78<br>910143 | 上甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　68.6<br>口径　56.8<br>胴径　60.8 | 上体部は内湾して器高のわりに径が大きく，体部中位に三角突帯1条。口縁部はT字形にちかく，外端が下傾。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 910142 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　69.7<br>口径　52.9<br>胴径　58.0 | 上体部は内湾し，体部中位に三角突帯。口縁部はT字形にちかく，外端が下傾。 | 内外面ナデ。黄褐色で，内面黒塗り。 |
| 115<br>fig. 78<br>911944 | 上甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高<br>口径　54.0<br>胴径　65.3 | 体部は内湾気味に立ち上がり，中位やや下に三角突帯2条。口縁部はL字形で，外側にやや突出。 | 内外面ナデ。明黄褐色。 |
| 912154 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　88.3<br>口径　59.8<br>胴径　62.4 | 体部は内湾気味に立ち上がり，中位やや下に三角突帯1条。口縁部はL字形で，外側にやや突出。 | 内外面ナデ。外面褐色，内面灰褐色。 |
| 121<br>fig. 79 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | （単棺） | |
| 910586 | 下甕 | 中期後半<br>立　岩 | 器高　76.9<br>口径　48.2<br>胴径　63.1 | 体部は中位やや上で大きく膨らみ，コ字突帯2条を巡らす。口縁部は稜をなして「く」字形にちかく屈曲。 | 内外面ナデ仕上げ，体部外面の一部にハケ目残る。黄褐色。 |
| 122<br>fig. 79<br>911945 | 上甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高(88.0)<br>口径　65.2<br>胴径　65.6 | 体部は内湾気味に立ち上がり，中位に三角突帯2条。口縁部はL字形で，外側にやや突出。 | 内外面ナデ，体部内外面に一部ヘラナデ痕。淡茶褐色。 |
| 911946 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　89.0<br>口径　63.8<br>胴径　64.0 | 体部は内湾気味に立ち上がり，中位下に三角突帯2条。底部は突出気味。口縁部はL字形で，外側にやや突出。 | 内外面ナデ，外面底部付近にハケ目残る。淡茶褐色。 |
| 123<br>fig. 79 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不明 | |
| 910129 | 下甕 | 中期前半<br>汲　田 | 器高　31.2<br>口径　32.5<br>胴径　29.6 | 生活用甕。体部は上位でやや内湾。口縁部は屈曲して端部が上向気味に開く。 | 体部は外面ハケ目，内面ナデ。口縁部ナデ。外面赤褐色，内面黒灰色。 |
| 124<br>fig. 79<br>910594 | 上甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　86.4<br>口径　70.0<br>胴径　62.8 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部は外反気味に立つ。口縁部は外反し端部上面で一段肥厚。口唇刻目。沈線上下各2条。 | 内外面ナデ。口形歪む。褐色。 |
| 910104 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高　93.0<br>口径　83.8<br>胴径　72.4 | 下体部は膨らみ，上体部直行。口縁部はやや急に外反し，端部上面で一段肥厚。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。外面黄褐色，内面淡褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 126<br>fig. 80<br>910114 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高 83.8<br>口径 74.3<br>胴径 60.6 | 下体部はやや膨らみを残し，上体部直行。口縁部は外反して端部上面が一段肥厚。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。淡褐色。 |
| 910113 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 84.8<br>口径 70.8<br>胴径 61.6 | 下体部やや膨らみ上体部直行。丸底にちかい。口縁部はあまり肥厚せず外反。口唇刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |
| 127<br>fig. 80<br>910141 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 48.0 | 壺。口頸部打ち欠き。胴部は低くつぶれて外に張り，頸胴間に沈線3条を巡らす。 | 胴部は外面を丁寧な黒色磨研，内面ナデ。明黄褐色で，外面黒褐色。 |
| 910139 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 66.8<br>口径 56.1<br>胴径 50.0 | 下体部やや膨らみ，上体部直行。口縁部は肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。明褐色で，口縁部の内外面に黒塗り残る。 |
| 129<br>fig. 80<br>920411 | 上甕 | | 器高 36.3<br>口径 58.8<br>胴径 | 鉢。体部は小さな底部から緩く内湾気味に開いて立ち上がり，口唇部と口縁下に刻目三角突帯。 | 内外面ナデ。全体に歪みが大きく，調整も雑。明褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 911934 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 82.8<br>口径 74.4<br>胴径 67.2 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。口縁部はあまり肥厚せずに外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。外面明褐色，内面淡褐色。 |
| 130<br>fig. 81<br>910580 | 上甕 | 前期末<br>2期 | 器高 65.0<br>口径 51.8<br>胴径 48.2 | 下体部は明瞭に膨らみ上体部直行。口縁部はやや肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ，外底部は粗くヘラミガキ。暗褐色。 |
| 911928 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 79.0<br>口径 68.8<br>胴径 61.2 | 下体部はやや膨らみを残し，上体部直行。口縁部は肥厚しながら外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 131<br>fig. 81<br>910590 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高 71.7<br>口径 59.1<br>胴径 57.6 | 異形。上体部内湾気味。口縁部は体部から急に立ち外反し，端部内面に三角突帯。口唇下端に刻目。沈線は上2条。 | 外面ハケ目の後ナデ，内面ナデ。褐色で，外面黒塗り。内面も黒塗か。 |
| 910591 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 67.2<br>口径 52.4<br>胴径 46.5 | 異形。体部は一体化し上体部直行。口縁部は緩く外反し端部上面を平坦に三角突帯。口唇と突帯に刻目。内から穿孔。 | 外面はナデの後粗くヘラミガキ。内面もナデのあと口縁部と底部ヘラミガキ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 132<br>fig. 81 | 上甕 | 中期前半<br>汲田 | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920395 | 下甕 | 中期前半<br>汲田 | 器高<br>口径<br>胴径 67.0 | 破片。下体部は丸味をもって立ち上がる。最大径やや下に三角突帯1条を巡らす。 | 内外面ナデ。明茶褐色。 |
| 135<br>fig. 82<br>910598 | 上甕 | 中期初<br>5期 | 器高 73.8<br>口径 71.8<br>胴径 57.6 | 異形。体部は一体化しながら下膨らみ，上体部は直線的に外向。口縁は短く外反し内面に小三角突帯を置き平坦状。 | 内外面とも丁寧なヘラミガキ。外面下体部にハケ目残る。底部は内面を粘土で厚く広く埋める。灰褐色。 |
| 910128 | 下甕 | 中期初<br>5期 | 器高 79.8<br>口径 56.5<br>胴径 60.0 | 体部は下膨れ気味に一体化し内湾気味。口縁は短く外反し上端に未発達な平坦を乗せる。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。口縁部内面にハケ目残る。褐色。 |
| 136<br>fig. 81 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | （石蓋） | |
| | 下甕 | 中期後半<br>立岩 | 器高 28.1<br>口径 27.2<br>胴径 26.6 | 生活用小形甕。口縁部は「く」字形に折れ，底部がつよく締まる。他に，目張りに用いられた同形式甕2個あり。 | 内外面ハケ目のあと，かるくナデ。明褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 137<br>fig. 82 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920384 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高<br>口径<br>胴径　67.1 | 体部は中位が張り，底部に向かって急にすぼまる。中位やや上に三角突帯1条。 | 体部は外面ハケ目後ナデ，内面ナデ仕上げで底部にハケ目残る。明茶褐色。 |
| 139<br>fig. 82<br>911933 | 上甕 | 前期末<br>3　期 | 器高(80.0)<br>口径　64.0<br>胴径　60.8 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。口縁部は外反し，上端部に上向する三角突帯。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。口縁外端面は突帯接合部を凹部として残す。黄褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 912153 | 下甕 | 前期末<br>3　期 | 器高　69.3<br>口径　59.6<br>胴径　50.8 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は外反し上端部に平坦状粘土帯。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 140<br>fig. 82 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920383 | 下甕 | 前期末<br>2　期 | 器高<br>口径<br>胴径　61.6 | 下体部は明瞭に膨らみ壺の特徴を残し，上体部直行。沈線は下3条，上不明。 | 内外面ナデ。褐色で，外面黒塗り。内面も黒塗りか。 |
| 141<br>fig. 83 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920412 | 下甕 | 前期末<br>4　期 | 器高　71.2<br>口径　58.6<br>胴径　50.5 | 体部はほぼ一体化し上体部直行。口縁部は外反し薄く粘土帯を巡らせ肥厚。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。淡黄褐色で，外面黒塗り。 |
| 142<br>fig. 83<br>910111 | 上甕 | 前期末<br>4～5期 | 器高(56.0)<br>口径　57.7<br>胴径　44.0 | 体部は一体化しながら下膨らみで上体部直行。口縁部は外反し上端部に上向する三角突帯。口唇部刻目。沈線無し。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |
| 910110 | 下甕 | 前期末<br>4　期 | 器高　72.2<br>口径　67.8<br>胴径　58.0 | 体部は一体化しながら下膨らみで上体部直行。口縁部は肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |
| 143<br>fig. 83<br>912057 | 上甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高　49.2<br>口径　36.9<br>器高　37.2 | 生活用大型甕。脚状底部。体部は上位に最大径を置き，逆L字形平坦口縁を乗せる。口縁下に三角突帯1条。 | 外面ハケ目，内面ナデ。褐色。 |
| 912053 | 下甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高　48.8<br>口径　36.9<br>胴径　37.9 | 生活用大型甕。脚状底部。体部は上位に最大径を置き，逆L字形平坦口縁を乗せる。口縁下に三角突帯1条。穿孔。 | 外面ハケ目，内面ナデ。茶褐色。 |
| 144<br>fig. 83<br>912164 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目の有無は磨耗のため不明。沈線は上3条，下不明。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 910102 | 下甕 | 前期末<br>4　期 | 器高　76.0<br>口径　65.4<br>胴径　56.9 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部はやや肥厚して外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。穿孔。 | 内外面ナデ。灰黄色。外面は黒塗りで上体部にやや斜行した数条の縞塗り。 |
| 145<br>fig. 83 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920416 | 下甕 | 前期末<br>4～5期 | 器高<br>口径<br>胴径　69.0 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。沈線は下2条上不明。内側から穿孔。 | 内外面ナデ。下体部の外面一部にハケ目残る。褐色で，外面黒塗り。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時期 | 法量(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 146<br>fig. 84<br>920391 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高<br>口径 63.1<br>胴径 51.8 | 体部は一体化の傾向をみせ，上体部直行。口縁部は肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 920415 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 74.8<br>口径 61.0<br>胴径 58.4 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。口縁部はやや肥厚して大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 147<br>fig. 84<br>910123 | 上甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高 82.8<br>口径 57.2<br>胴径 63.0 | 体部は一体化し内湾して立ち上がる。口縁部は内側につよく突出するT字形平坦。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 910112 | 下甕 | 中期初<br>城ノ越 | 器高 81.9<br>口径 60.2<br>胴径 63.4 | 体部は一体化し内湾して立ち上がり，中位やや上に三角突帯1条。口縁部は内側につよく突出するT字形平坦。 | 内外面ナデ。明褐色で，内面黒塗り。 |
| 148<br>fig. 84<br>910582 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高 65.6<br>口径 56.5<br>胴径 50.8 | 下体部にわずかに膨らみを残し，上体部直行。口縁部は肥厚して外反。口唇部刻目無し。沈線は上3条，下2条。 | 内外面ナデ。外面褐色，内面暗褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 910583 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 83.1<br>口径 67.1<br>胴径 59.1 | 下体部にわずかに膨らみを残し，上体部直行。口縁部はやや肥厚して外反。口唇部刻目。沈線無し。 | 内外面ナデ。下体部外面にヘラナデ痕残る。口形歪む。明褐色。 |
| 149<br>fig. 85<br>910122 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高 69.2<br>口径 46.4<br>胴径 49.2 | 上体部内湾。口縁は体部端が短く外反し平坦状粘土帯が乗る。沈線は上下各2条と縦5区画。穿孔。 | 内外面ナデ。下体部の沈線は最初の2条ナデ消し。器体は褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 910120 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高 73.0<br>口径 51.3<br>胴径 49.2 | 上体部が内湾気味に立つ。口縁は体部端が短く外反し平坦状粘土帯。口唇下端に刻目。沈線は上2条下3条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色。 |
| 150<br>fig. 85<br>903293 | 上甕 | 前期末<br>3期 | 器高(71.0)<br>口径 68.8<br>胴径 56.8 | 下体部にやや膨らみを残し上体部内傾気味に立つ。口縁部は肥厚し大きく外反。口唇部刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。明褐色。 |
| 902296 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 83.4<br>口径 64.4<br>胴径 55.2 | 下体部にやや膨らみを残し上体部直行。口縁は肥厚し外反，上面に界線。口唇刻目。沈線は上3条下2条。穿孔2個 | 内外面ナデ仕上げで，ヘラナデ痕残る。黄褐色。 |
| 152<br>fig. 85 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 920394 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高<br>口径<br>胴径 44.8 | 下体部にやや膨らみを残し上体部は直にやや外行。底部が厚い。沈線は下2条，上不明。 | 内外面ナデ。下体部外面ヘラミガキ，一部にヘラ傷あり。褐色で，外面黒塗り。 |
| 153<br>fig. 85 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 911935 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 79.1<br>口径 73.8<br>胴径 65.0 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は肥厚せずに外反。口唇部刻目。沈線は上2条，下は基本的に2条。 | 内外面ナデ。淡褐色。 |
| 155<br>fig. 86 | 上甕 | | 器高<br>口径<br>胴径 | 不詳 | 不詳 |
| 910578 | 下甕 | 後期初<br>桜馬場 | 器高 74.6<br>口径 49.6<br>胴径 65.6 | 体部は倒卵形で，中位下にコ字突帯を巡らす。口縁部は内側に突出して稜をなして「く」字形に折れる。 | 内外面ハケ目の後ナデ。黄褐色。 |

| 遺構番号<br>登録番号 | 種別 | 時　期 | 法量(cm) | 形　態　の　特　徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 156<br>fig. 86<br>912162 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。上体部は直行。口縁部は外反して端部上面に粘土帯を巡らせ平坦部をつくる。沈線上2条，下不明。 | 内外面ナデ。褐色で，外面黒塗り。 |
| 910589 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高(81.0)<br>口径(56.0)<br>胴径 54.4 | 下体部はやや膨らみを残し，上体部直行。口縁部は外反，打ち欠き。沈線は上下各2条。穿孔。 | 内外面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 157<br>fig. 86<br>910597 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高(82.0)<br>口径 70.4<br>胴径 61.0 | 体部は一体化し，上体部直行。口縁部は外反し，端部上面に段をなし薄い粘土帯。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。明黄褐色。 |
| 910577 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 67.0<br>口径 58.2<br>胴径 53.0 | 体部はほぼ一体化し，上体部ほぼ直行。口縁部はあまり肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。体部内面にヘラナデ痕残る。明褐色で，内外面黒塗り。上体部外面に一部縞塗り残る。 |
| 158<br>fig. 87<br>910137 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高 86.0<br>口径 60.5<br>胴径 61.5 | 体部は内湾気味に立ち上がり底部で急にすぼまる。口縁部は上面が内傾した平坦を乗せる。沈線は上3条，下無し。 | 口縁部ナデ。体部は外面ハケ目のあとかるくナデ，内面ナデ。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 910584 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高 90.0<br>口径 66.0<br>胴径 68.0 | 体部は内湾して立つ。口縁部は体部上端が短く外反し上面内傾の平坦。口唇部刻目。沈線は上下各3条，縦5区画。 | 内外面ナデ。口形歪む。褐色で，内外面とも黒塗り。 |
| 159<br>fig. 87<br>910146 | 上甕 | 中期初<br>6期 | 器高 62.2<br>口径 50.8<br>胴径 59.8 | 体部は倒卵形で，小さな底部をつくる。口縁部は体部上端が短く外反して平坦を乗せる。口唇部刻目。沈線無し。 | 内外面ナデ。外面底部ちかくにハケ目残る。外面暗黄褐色。内面淡褐色。 |
| 910101 | 下甕 | 中期初<br>6期 | 器高 77.7<br>口径 57.5<br>胴径 62.0 | 体部は内湾して立つ。口縁部は上面が内傾した平坦を乗せる。口唇部に線条刻目。沈線は上下各3条。 | 内外面ナデ。黄褐色。 |
| 160<br>fig. 86<br>912163 | 上甕 | 前期末<br>2～4期 | 器高<br>口径<br>胴径 | 破片。口縁部は緩く外反して端部上面に粘土帯を乗せ平坦をつくる。口唇部刻目不明。沈線は上3条，下不明。 | 内外面ナデ。褐色で，外面黒塗り。 |
| 922297 | 下甕 | 前期末<br>4期 | 器高 83.6<br>口径 68.7.<br>胴径 59.2 | 体部はほぼ一体化し，上体部直行。底部は厚い。口縁部はあまり肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は上下各2条。 | 内外面ナデ。黄褐色，外面黒塗りで，口縁下の一部に縞塗り残る。 |
| 161<br>fig. 87<br>920390 | 上甕 | 前期末<br>4期 | 器高(56.0)<br>口径 46.0<br>胴径 44.1 | 体部は下膨れで上体部内傾。口縁部は大きく外反し，端部上面に粘土帯を乗せ平坦をつくる。刻目，沈線無し。 | 内外面ナデ。明褐色で，外面黒塗り。 |
| 920381 | 下甕 | 前期末<br>3期 | 器高 66.0<br>口径 61.6<br>胴径 48.4 | 下体部はやや膨みを残し低くつぶれ上体部は開き気味。口縁は肥厚せず外反。口唇部刻目。沈線は各上下2条。穿孔。 | 内外面ナデ。明褐色。 |

### (2) 祭祀関係土器

ＳＸ028祭祀関係遺構出土の一括資料である。小形壺１点，大形壺２点，鉢３点，高坏５点(分)がある（Fig. 88)。図示した資料のうち，鉢３点とそれ以外の壺･高坏といったいわゆる祭祀土器とは群を別にして出土した。

１～３は，本来は生活用土器の鉢。

１は底部がややすぼまる特徴をもち，体部は内湾しながら急に立ち上がる。体部内面は斜めハケの後にかるくナデ，外面は縦ハケの後に口縁部付近ヨコナデ。黄褐色で砂粒を含む。口径19.6cm，器高11.8cm。２はやや小振りで，体部は内湾しながら急に立ち上がる。体部はハケの後ナデ消し，口縁部横ナデ。黄褐色で砂粒を含む。口径16.4cm，器高9.2cm。３もやや小振りであるが，体部は口縁部ちかくで急に立つ。体部は内面は完全にナデ仕上げ，外面は縦ハケの後口縁部横ナデ。茶褐色で砂粒を含み，焼は成良好である。口径17.0cm，器高8.8cm。

４～９は祭祀土器の丹塗り高坏。

４は坏部がやや浅く，口縁部平坦面は外端がやや下がる。脚は高く伸びた筒部から裾がそのまま開く。丹は坏部から脚部外面に塗られる。調整は坏部が内面横方向ミガキ，外面ナデ，口縁部平坦面に暗文風ミガキを施す。脚部は縦ハケの後かるくヘラミガキ。胎土は淡黄褐色で砂粒を含み，赤褐色に発色。口径26.7cm，器高21.8cm。５は坏部がやや深く，脚部は低く大きく開く。丹は坏部から脚部外面に塗布。調整は坏部が内面横方向ミガキ，外面は縦ハケ目を残し，口縁部平坦面に暗文風ミガキを施す。脚部は縦方向ミガキで裾部は暗文風となる。胎土は淡黄褐色で砂粒を含み，丹は赤褐色に発色する。口径24.5cm，器高19.4cm。６は坏部破片。ナデ仕上げで，丹塗りを施す。胎土は砂粒を含み褐色，丹は赤褐色に発色。復元口径25.6cm。７は小形高坏の破片。口縁部外端にキザミ目を施す。復元口径19.0cm。８は異形高坏の坏部破片で，口縁部下に突帯を巡らす。内外面とも横ナデ丹塗り。復元口径33.6cm。９は８の脚部か。ナデの後，丹塗りの上に縦方向の暗文を施す。

10は小形壺。安定した平底をもち，胴部は中位が球状に張って全体的に低くつぶれ，口縁部は急に折れて短く開く。口縁部内外面から胴部外面にかけて丹を塗り，口縁部と胴部は横方向に磨く。底部および胴部外面は焼成時の焼きぶくれからくる剝離が著しい。胎土は砂粒を含み，明黄褐色，丹は赤黄色に発色する。口径10.7cm，胴径12.8cm，器高9.5cm。

11は大形壺。胴部はややなで肩で三角突帯と台形突帯を２段に巡らす。頸部は短く直立した後外反して平坦口縁部をつくり，外端にキザミ目を施す。内外面とも横ナデ。丹塗りは外面から内面は頸部まで。胎土は砂粒を含み褐色で，丹は赤褐色に発色する。口径37.0cm。

これらの遺物は中期中頃の須玖式にあたるものである。いわゆる祭祀土器と生活用土器とが群を別にしながらも，廃棄された状態で一括して出土している点が注目される。

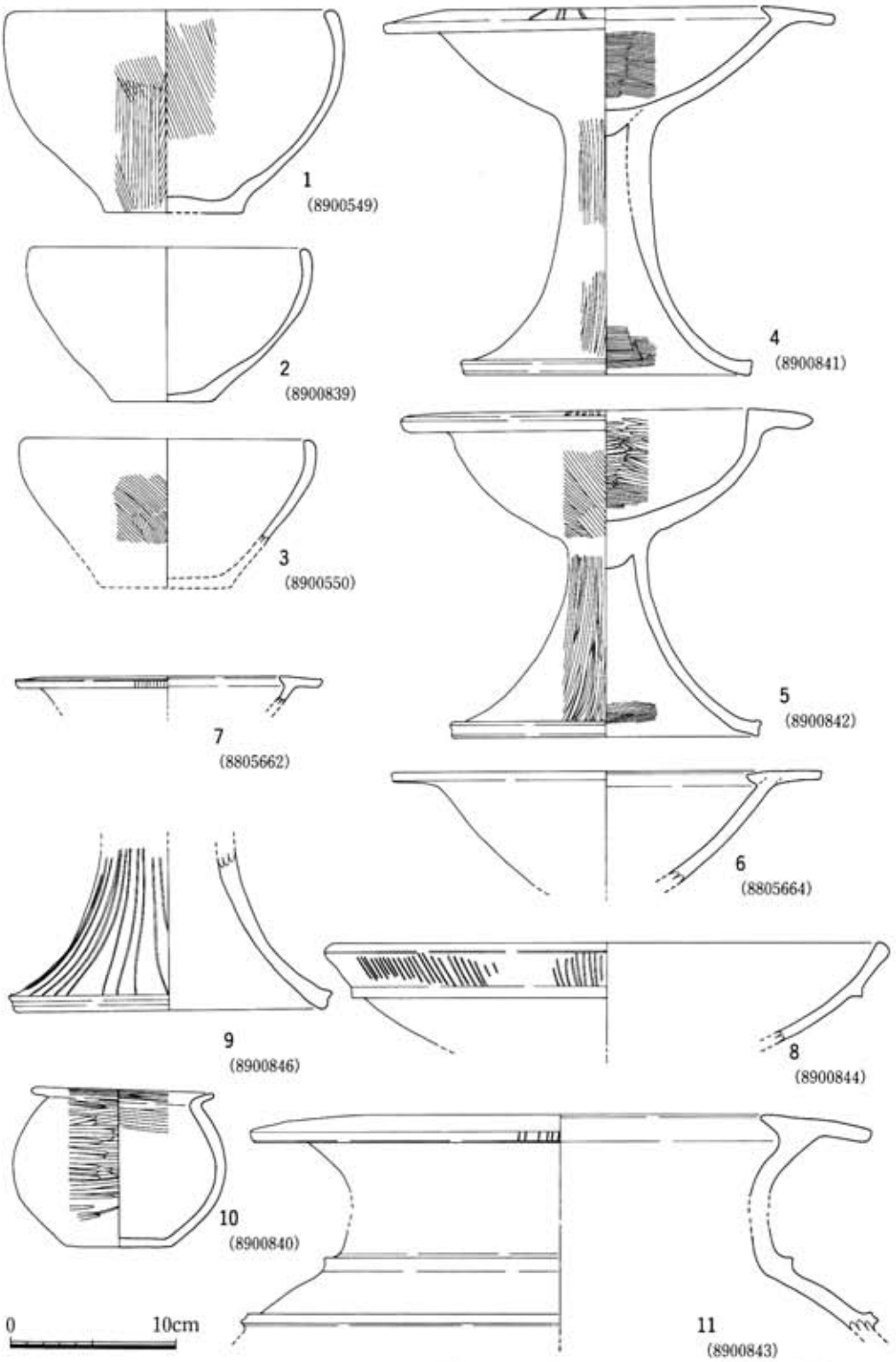



Fig. 88　SX028祭祀土器（1/4）　　（　）は遺物登録番号

### (3) 青銅器

ＳＪ075から１点のみ出土した（Fig. 89）。細型銅剣の切先である。全体に厚みがあり，樋が先端近くまで通る。残存長4.8cm。現状ではやや鋒が鈍くなっているが，出土直後はきわめて鋭利であった。折損部は斜めの割れ口のままで，再加工等は認められない。暗緑色の錆に覆われているが，もともと銅質は良好と思われる。

副葬品というよりは，折れた“凶器”が体内に残った可能性がつよい。甕棺は前期末に位置づけられるものであり，今のところ確認できるかぎりでは，佐賀県下で最古の青銅器である。

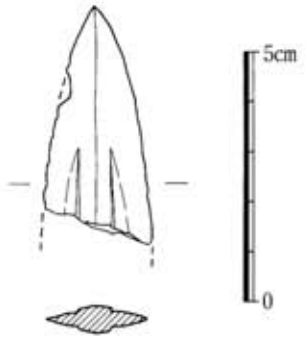



Fig. 89　ＳＪ075甕棺墓出土銅剣（2/3）

### (4) 玉類

甕棺墓５基から，あわせてガラス小玉５点，蛇紋岩製小玉１点，碧玉管玉３点が出土した（Fig. 90）。ＳＪ019出土のガラス小玉４点は造りがやや粗いが，ＳＪ078出土の１点は全体が丁寧に研磨され丸みを帯びる。ＳＪ072出土の管玉のうち１点は欠損部を削り落とすなど仕上げが粗く，弥生時代のものとしては異例に太形である。ＳＪ072出土の小玉は蛇紋岩をやや不整形に薄く研磨したもので，白濁してはいるが，ヒスイのような明るい緑色を呈す。

このうち，ＳＪ078出土のガラス小玉は前期末の甕棺に伴うものであり，弥生時代では現在確認できる最古の例である。しかも成分分析の結果ではアルカリガラスとのことであり従来，鉛ガラスから始まったといわれてきた弥生時代のガラス工芸の理解に再検討を促す重要な資料となった。

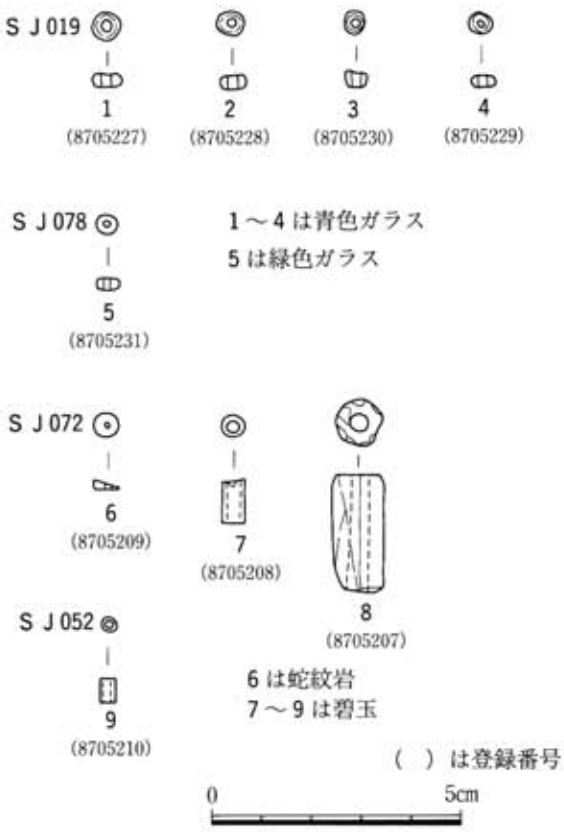



Fig. 90　玉類（2/3）

分析にあたっては静岡大学の藤田等教授に御協力，御教示をいただいた。

## (5) 人骨

甕棺の殆どが棺内に黒色土が流入していたため人骨は残りが悪く，わずかに6基のみで一部残存していた。埋葬状況等の詳細が分かるものはない。

6基のうち，前期末の甕棺は1基，他は中期後半から後期前半の甕棺である。

骨の整理，分析にあたっては長崎大学医学部解剖学第二教室に協力を依頼した。記して感謝いたす次第である。

以下，結果のみ記す。

| 遺構番号(時期) | 人　骨　残　状　状　況 | 性別 | 年齢 |
|---|---|---|---|
| S J 002<br>後期初頭 | 右上腕骨骨体下部，右大腿骨骨体中央部，左大腿骨骨体下部，脛骨骨体中央部前縁（左右の別不明） | 男性 | 不明 |
| S J 004<br>中期後半 | 右・左大腿骨骨体の一部，右・左脛骨骨体の一部 | 男性 | 不明 |
| S J 007<br>後期初頭 | 頭蓋冠骨片，左大腿骨骨体の一部 | 女性 | 不明 |
| S J 035<br>後期前半 | 骨種不明の四肢骨片少量 | 不明 | 不明 |
| S J 036<br>中期後半 | 頭蓋冠(頭頂～後頭部)，下顎骨，上腕骨及び下肢骨の大部分　…頭蓋冠には朱が付着 | 男性 | 熟年 |
| S J 071<br>前期末 | 5×5㎜程度で，骨種不明の小骨片4個 | 不明 | 不明 |

# 4．考　　察

## 1　成人用甕棺の成立過程について

甕棺の考古資料としての重要性は，個々の甕棺それぞれが集団を構成した一人一人の墓であり，なおかつ甕棺の形式から時代を特定できる点にある。すなわち，甕棺の分布や墓地の形成過程の分析等によって背後の集団の構造や規模，消長を明らかにし，弥生社会を復元するには格好の資料である。この点では，あらゆる時代，あらゆる地域を通じて，北部九州ほど有利な条件に恵まれた地域は他に無いといっても過言ではないであろう。

しかしながら，この甕棺の考古学上の有利さがはたしてどこまで生かされているかという点になると，必ずしも十分とは言い難いのが現状ではないだろうか。主な理由は，甕棺があまりに斉一的に完成されたものであるが故に，詳細な時代性や地域性が捉えにくい点にあるように思われる。基本的な枠組みが定着化された感のある甕棺編年にしても，今のところ一形式あたりに包括される時間幅や地域幅があまりに大きく，そこから直ちに集団の問題を細かに論じるには未だ無理があると言わざるを得ない。したがって今後，甕棺を資料として弥生社会の復元をよりリアルなものとするには，甕棺のもつ様々な事象の多角的な検討が求められているが，基礎作業としてさらに詳細な甕棺の編年が必要になる。

ここではまとめに替えて東山田一本杉遺跡Ⅰ区の甕棺墓地を取り上げ，弥生前期末から中期初頭を中心とした時期の甕棺の編年を試みると同時に，成人用甕棺がいかにして成立したか，その過程を追うことにする。既に述べたように，本遺跡ではその大半が弥生前期末前後に集中しており，甕棺が定式化するまでの激しい変化の様相が看取できる。このような遺跡は佐賀平野でも比較的少なく，成人用甕棺成立期の諸問題を論じるには，これまでのところ最も有利な条件を備えた遺跡であるといえる。

### (1)　編年の方法

ここで編年作業の対象とするのは，甕棺が未だ小児用壺棺の名残りを留め口縁部が外反する前期様式から，平坦口縁が定形化せず胴部に突帯を巡らす以前の中期初頭のもの，すなわち従来の編年でいう伯玄社式・金海式から城ノ越式の一部の時期の甕棺に限ることにする。

具体的な検証は次のように進める。甕棺構成要素のうち編年の基準として特に重要なのは「口縁部」と「体部」である。そこで，まず「口縁部」と「体部」それぞれについて形態分類を行い，上甕と下甕の組合せにおいて諸形態がどのように組み合わさるか，例えば口縁部Ａ類と口縁部Ｂ類との組合せを見ることにより，諸形態の時間的な配列を検討する。次に，「口縁部」と

「体部」各々の諸形態の時間的関係について，例えば口縁部Ａ類と体部Ａ類がどのような関係にあるか，甕棺１個体ごとに諸形態の組み合せを検討した上で，最後に全体の編年を試みることにする。その他，「口唇部刻目」，「体部沈線」等の諸要素については二次的特徴として扱い，この編年に照らしながら，後にそれぞれの諸形態の変化を見ていくことにする。

各部位において，諸形態の変化はあくまで漸移的である。それぞれどのような時間的並行関係にあるかというこの種の検討を行う上では，成人用甕棺の殆どが甕２個体のを組み合わせから成り，しかもこの時期にあっては，口縁部の形態一つをとっても上甕と下甕とが極めて多様に組み合わさることが大いに利点となる。以下，説明はやや繁雑になるが，複数の視点から編年を試みようとする以上，一つ一つ整理しながら段階を追って論を進めるより仕方がない。

ところで，これら甕棺の各部位の変化を見ていく場合，あらかじめ確認しておかなければならないのは次の４点である。従来の甕棺編年の研究成果から帰結される，いわば“定理”ともいうべきものであって，各部位の変化の方向性を示す基本的認識としてまず確認しておきたい。

①　口縁部　朝顔形の外反口縁から平坦口縁への変化，発展

②　体　部　小児用壺棺から成人用甕棺の成立に至る間の壺から甕への変化，発展

③　刻　目　口唇部に施される刻み目の簡略化あるいは省略化

④　沈　線　体部の上下２段に施された沈線の簡略化あるいは省略化

## ⑵　口縁部および体部の分類と系統

### ①　口縁部の分類・系統

前期様式の朝顔形口縁から，未定形ながらも中期様式の平坦口縁の出現に至るまでの間を，５類系９形式に大別する。

**Ａ類**　口縁部が朝顔形に外反する特徴をよく示すもの。

**Ⅰ式**　口縁部は大きく外反する。体部上位から口縁端部に向かってほぼ一定の厚さで外反するＡＩａ式と，端部に向かって漸次肥厚するＡＩｂ式，さらに端部上面に段をなして肥厚するＡＩｃ式とがある。

**Ⅱ式**　外反は極端に小さく，上体部から短く折れるように曲がる。数は１点のみで特殊。

**Ｂ類**　口縁部が朝顔形に外反し，端部上面に平坦を意識した粘土帯を乗せるもの。

**Ⅰ式**　口縁部は大きく開き，端部上面に幅が狭くやや厚みのある粘土帯を乗せる。

**Ⅱ式**　口縁部は短く折れるように曲がり，端部上面に薄い粘土帯を乗せ，未発達な平坦状口縁をつくる。

**Ｃ類**　Ｌ字形またはＴ字形の平坦口縁を乗せるもの。

**Ⅰ式**　体部上端の内側に短く外反の痕跡を残し，平坦口縁を乗せる。

Ⅱ式　体部上端の内側に外反の痕跡を残さず，平坦口縁を乗せる。

D類　口縁部が朝顔形に外反し，上面内側に小さな三角突帯を巡らせ平坦を意識したもの。

Ⅰ式　口縁部は大きく開き，上面内側に小さな三角突帯を回して擬似平坦をつくる。

Ⅱ式　口縁部は短く折れるように曲がり，上面内側に小さな三角突帯を回して擬似平坦をつくる。

E類　口縁部が朝顔形に開き，上面端部に上向した三角突帯を巡らすもの。口縁部が大きく開くＥａ式と，上体部が直線的に開き口縁部がほぼ一体化した特殊形態のＥｂ式とがある。

以上の分類を基に，各甕棺ごとに口縁部の形式をTab. 5の中で示した。そのうち，上甕と下甕の組合せから口縁部各形式の共伴関係が知られる48例を取り上げ，各形式間の系統並びに時間的関係を検討することにする（Tab. 2）。

まず，同類系どうしの組合せでは，最も多くを占めるA類では同形式の共伴は以外と少なく，ＡＩｂ－ＡＩｂの９例が目立つにすぎず，ＡＩｃ－ＡＩｃが１例，他はいずれも異形式間の共伴である。例えば甕棺墓が定式化された弥生中期であれば，同形式の共伴が通常であるが，ここではむしろ逆であり，しかもその間の変化の方向も見定めがたい。したがって，ＡＩａ，ＡＩｂ，ＡＩｃの３形式については，ＡＩｂをA類の基本的な形式と認めながらも，その間の先後関係は窺うことができず，同時期の中のバリエーションにすぎないと考えておくのが適当であろう。なお，II式については１例のみでA類間の共伴例はないが，“定理”①に基づく口縁部変化の理解から，Ⅰ式の後に続くものとしてよいであろう。よって，ＡＩａ・ＡＩｂ・ＡＩｃ→ＡIIへの変化を想定する。

B類どうしの関係では類例が少なく，ＢII－ＢIIの共伴が１例のみであるが，これも口縁部の変化の方向性からＢＩ→ＢIIを想定する。

C類どうしでは，ＣＩ－ＣＩ，ＣII－ＣIIといった同形式の共伴が各３例ある一方，異形式の共伴ＣＩ－ＣIIも３例ある。したがって，概念的には口縁部の形式変化の方向としてＣＩ→ＣIIが想定されるわけであるが，実際はその間にあまり時間差が無かったかほぼ同時期であったことを示している。その他，D類とE類では，それぞれ同形式が１例ずつある。D類の場合はやはり“定理”①からＤＩ→ＤIIと想定する。また，E類は，Ｅｂが口縁部の変化の中ではやや特殊なため，これのみではＥａとの系統関係が不明であり，とりあえず同時期としておく。

それでは次に，各類系がどのような並行関係にあるか，異類形どうしの組合せを見ておく。特に問題となるのはA類とB類の関係である。共伴例は以外と少ないが，ＡＩとＢＩが３例，ＡIIとＢIIとが１例あり，それぞれ時間的な並行関係が推定できる。同様にしてB類とD類とではＢＩとＤＩ，ＢIIとＤIIとがそれぞれ対応するであろう。その他，A類とE類ではＡＩとＥａ，D類とE類とではＤＩとＥａが並行関係を窺わせる。また，B類とE類との関係で，B

Tab. 2　甕棺口縁部組合せ

（同類系関係）

A－A

| | Ⅰa | Ⅰb | Ⅰc | Ⅱ |
|---|---|---|---|---|
| A類 | 8 | | | |
| | | 9 | | |
| | | | 1 | |
| | | — | 3 | |
| | | | 4 | |

B－B

| | Ⅰ | Ⅱ |
|---|---|---|
| B類 | | 1 |

C－C

| | Ⅰ | Ⅱ |
|---|---|---|
| C類 | | |
| | 3 | |
| | | 3 |
| | | 3 |

D－D

| | Ⅰ | Ⅱ |
|---|---|---|
| D類 | 1 | |

E－E

| | Ⅰa | Ⅰb |
|---|---|---|
| E類 | 1 | |

（異類系関係）

A－B

| | BⅠ | BⅡ |
|---|---|---|
| AⅠ | 3 | |
| AⅡ | | 1 |

A－E

| | Ea | Eb |
|---|---|---|
| AⅠ | 2 | |
| AⅡ | | |

B－D

| | DⅠ | DⅡ |
|---|---|---|
| BⅠ | 1 | |
| BⅡ | | 1 |

B－E

| | Ea | Eb |
|---|---|---|
| BⅠ | 1 | 1 |
| BⅡ | | |

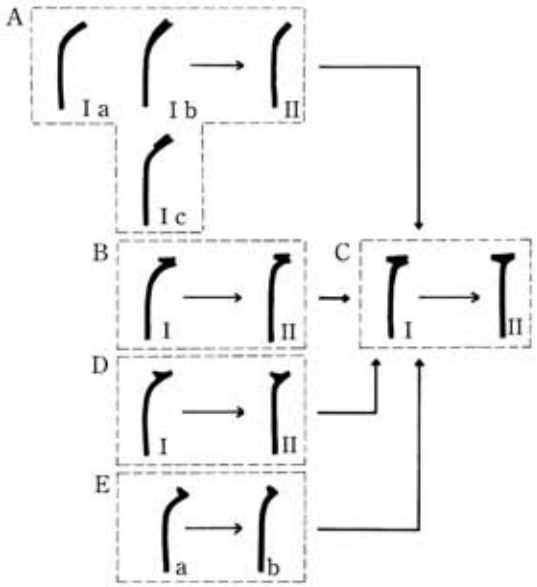
D－E

| | Ea | Eb |
|---|---|---|
| DⅠ | 1 | |
| DⅡ | | |

（口縁部各類の時期関係）

| 類 | 数 | 第1段階 | 第2段階 | 第3段階 | 第4段階 |
|---|---|---|---|---|---|
| A　類 | 66 | AⅠ | a b c (65) | AⅡ(1) | |
| B　類 | 8 | BⅠ | (5) | BⅡ(3) | |
| C　類 | 18 | | | | CⅠⅡ(18) |
| D　類 | 5 | | CⅠ(4) | DⅡ(1) | |
| E　類 | 7 | | Ea b (7) | | |

口縁部変化
〈模式図〉



ⅠとⅠa，Ⅰbの共伴例が各1例ずつあるのは，先に不明としたⅠaとⅠbの関係をほぼ同時期と見るべきことを意味していよう。

このような共伴関係については，厳密にはこれら以外の共伴例がありえないということにはならないが，少なくとも取り上げた限りでは時間的並行関係の一端を示すものとして積極的に評価しておきたい。以上，口縁部のみで見た各形式の系統および時間的関係について整理するとTab. 2に示した時期関係のようになる。各類の関係については，A類をベースとしてB・D・E類が出現，さらにそれぞれの要素を取り込んで平坦口縁C類が登場すると見ている。

### ② 体部の分類・系統

小児棺から成人棺への発展，すなわち壺形土器から甕形土器への発展の中で分別できる体部の特徴を，1類系5形式に大別する。

**Ⅰ式** 下体部が明瞭に膨らみ，壺の特徴をよく留めるもの。上体部が直に立ち上がるⅠa式と，内傾気味に立ち上がるⅠb式とがある。礫石遺跡例を標識とするが，東山田一本杉遺跡では該当例なし。

**Ⅱ式** 下体部にやや膨らみを残し，壺の特徴を留めるもの。上体部が直に立ち上がるⅠa式と，内傾気味に立ち上がるⅠb式とがある。

**Ⅲ式** 下体部にかすかに膨らみを残すが，壺の特徴の喪失が著しいもの。上体部が直に立ち上がるⅠa式と，内傾気味に立ち上がるⅠb式とがある。

**Ⅳ式** 下体部が膨らみを失って上体部とほぼ一体化し，壺の特徴の喪失が著しいもの。上体部が直に立ち上がるⅢa式と，下体部が下膨れ気味で上体部がやや内傾するくⅢb式とがある。

**Ⅴ式** 体部は完全に上下が一体化し，上位が内湾しながら立ち上がる。下体部はすぼまる傾向をもつ一方，未だ下膨れ気味のものも見られる。

以上の分類を基に，各甕棺の体部の形式をTab. 5の中で示した。口縁部と同様に，そのうち，上甕と下甕の組合せから体部各形式の共伴関係が知られる44例を取り上げ，各形式間の系統並びに時間的関係を検討する（Tab. 3－(1)）。

壺から甕への発展という“定理”②からすれば，大別したⅠ式から順次Ⅴ式へと一系的な変化が想定されるわけであるが，実態はどうか。細分した形式も含め，各形式の差異は微細であり，その間の変化は暫移的と予想される。但し本遺跡では最古式にあたるⅠ式は存在しないので，ここでの検討からは除外する。

Ⅰ式からⅤ式まで同形式どうしの組合せが多いのは当然のこととして，まず気づくのは異形式の共伴の多さである。このような状況はどのように解釈すべきであろうか。体部が全体としてⅠ式→Ⅴ式へと暫移的に変化したとの立場に立つならば，異形式どうしが共伴する場合でも

時間的序列の中で互いに隣接する関係にあるのが順当である。この点，ここでは上体部が直行か内傾かの違いで各形式をａとｂとに細分したが，結局のところその差異は同時期のバリエーションとして理解せざるを得ない。つまり，Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ式それぞれのａ，ｂ間に時間的差異は無視できるものであると考える。そうしてもう一度整理したのがTab. 3 －(2)である。

あらためてⅡ式からⅤ式の共伴関係を見ると，同形式どうしの共伴が多いのは先と同様であり，隣接形式どうしの共伴も目立つが，重要な点は全体が契機的に変化していった様相をよく示していることである。隣接形式どうしの共伴が多く見られるのは，もともと暫移的な変化を見せる体部の特徴を敢えて区分したことにもよるが，先に想定したとおり，基本的には体部の各形式がⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴ式の序列で変化したことが確認できる。

Tab. 3　甕棺体部組合せ

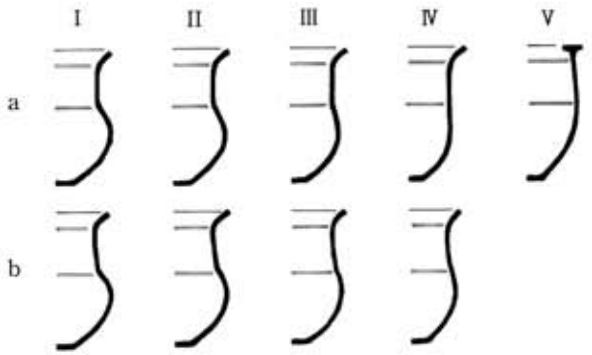
(1)

| Ⅰ | Ⅱa | Ⅱb | Ⅲa | Ⅲb | Ⅳa | Ⅳb | Ⅴ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | | | | | | |
| | | 5 | | | | | |
| | | | 2 | | | | |
| | | | 5 | | | | |
| | | | | 1 | | | |
| | | | | | 10 | | |
| | | | | | | 2 | |
| | | | 3 | | | | 9 |
| | | | | | 2 | | |
| | | | | | | 1 | |
| | | | | | | | 2 |

(2)

| Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ |
|---|---|---|---|---|
| | 7 | | | |
| | | 5 | | |
| | | 5 | | |
| | | | 3 | |
| | | | 12 | |
| | | | | 2 |
| | | | | 9 |

体部変化〈模式図〉



### ③ 口縁部・体部の各形式の対応関係

次に，口縁部と体部の各形式がどのような時間的関係にあるかという点について整理しておく。

Fig. 4はこれまでの整理を基に，甕棺1個体ごとに口縁部と体部の形式がわかる甕棺110個体を取り上げ，その組合せを数で示したものである。最も多いA類では，口縁部AⅠが体部Ⅱ～Ⅳまでとほぼ平均して組み合わさる。口縁部AⅡは体部Ⅳの時期に対応しているが1個体のみであり，その時期は短いと思われる。

口縁部B類では，口縁部BⅠが体部Ⅱ～Ⅳと組み合わさるが，例数の多さから見てとくに体部Ⅳの時期に中心があることが推測できる。また，口縁部BⅡは体部Ⅳ，Ⅴに対応している。口縁部C類では，口縁部CⅠ，CⅡともに体部Ⅴと組み合わさる。

口縁部D類では，口縁部DⅠが体部Ⅳと，口縁部DⅡは体部Ⅳと1例，口縁部E類も体部Ⅳと組み合わさる。

Tab. 4　甕棺口縁部・体部組合せ

| 口縁部＼体部 | | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ | Ⅳ | Ⅴ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | AⅠ | | 21 | 25 | 22 | |
| | AⅡ | | | | 1 | |
| B | BⅠ | | 1 | 1 | 6 | |
| | BⅡ | | | | 1 | 2 |
| C | CⅠ | | | | | 9 |
| | CⅡ | | | | | 9 |
| D | DⅠ | | | | 5 | |
| | DⅡ | | | | 1 | |
| E | E | | | | 6 | |

Tab. 5　甕棺形式分類表　　時期1～6期は後述の編年による。（時期）は推定

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 甕形式期 | 口縁部 | 体部 | 刻目 | 沈線 | 黒彩 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 008 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 大形 | 4か | 不明 | Ⅳa | 不明 | 不詳　下3 | | |
| 009 | 上 | 大形 | 6後 | CⅡ | Ⅴ | Ab | 不詳　上3 | 内外 | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6後 | CⅡ | Ⅴ | Ab | A | 外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 010 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 大形 | 4 | BⅠ | Ⅳb | D | D | 内外 | |
| 011 | 上 | 大形 | 6前 | CⅠ | Ⅴ | Ab | A | 内外 | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6前 | CⅠ | Ⅴ | Aa | A | | |
| 013 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | AⅠa | Ⅲa | D | Ba | 外 | |
| 015 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | 不明 | Ⅲa | 不明 | 不詳　下3 | 外 | |
| 017 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 小形 | 3 | 不明 | Ⅲa | D | 不詳　下2 | | |

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 変形式期 | 口縁部 | 体　部 | 刻　目 | 沈　線 | 黒　彩 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 019 | 上 | 大形 | 2～4 | BⅠ | 不明 | D | 不詳　上2 | 外 | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | 不明 | Ⅱa | 不明 | Aか | 内外 | 口縁打ち欠き |
| 020 | 上 | 大形 | 3～4 | DⅠ | 不明 | Aa | 不詳　上2 | 外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 3期 | 下 | 小形 | 3 | 不明 | Ⅲa | 不明 | A | 内外 | 口縁打ち欠き |
| 021 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 小形 | 4 | AⅠc | Ⅳa | D | A　2+2 | | |
| 022 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （2期） | 下 | 大形 | 2 | 不明 | Ⅱa | 不明 | 不詳　下1 | | |
| 025 | 上 | 大形 | 3 | AⅠa | Ⅲa | Aa | A | | |
| 3期 | 下 | 小形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | D | A　2+2 | 外，縞 | 縞は上体部中位 |
| 026 | 上 | 小形 | 4 | AⅠb | Ⅳa | Aa | A　1+1 | 内外 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | A　2+2 | | |
| 027 | 上 | 小形 | 4 | BⅠ | Ⅳa | D | D | | |
| （4期） | 下 | | | － | － | － | － | | 下部石囲い |
| 029 | 上 | 大形 | 4 | Ea | Ⅳa | Aa変 | A　2+2 | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | DⅠ | Ⅳa | Aa | A | 内外，縞 | 縞は上体部全面 |
| 030 | 上 | 大形 | 5～5後 | BⅡ | 不明 | Ab | C | 外 | |
| 5期 | 下 | 大形 | 5前 | BⅡ | Ⅵa | Ab | C | | 十字絵画 |
| 031 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | 混入の可能性 |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | 不詳　下3 | 外 | |
| 032 | 上 | 大形 | 2～4 | AⅠa | 不明 | Aa | 不詳　上3 | 内外 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AⅠb | Ⅳb | Aa | D | 外 | |
| 033 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | 不詳　下3 | 外 | |
| 034 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （2期） | 下 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱa | Ab | A　3+2 | | |
| 037 | 上 | 大形 | 5前 | AⅡ | Ⅳa | Ab | Bb | 内外，縞 | 縞は上体部全面 |
| 5期 | 下 | 小形 | 5後 | BⅡ | Ⅴ | B | Ba 2 | 内外 | |
| 038 | 上 | 大形 | 6前 | CⅠ | Ⅴ | C | C | | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6前 | CⅠ | Ⅴ | Ab | A | | |
| 039 | 上 | 大形 | 2 | BⅠ | Ⅱa | Aa | A | 内外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱb | Aa | A　2+3 | | |

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 甕形式期 | 口縁部 | 体部 | 刻目 | 沈線 | 黒彩 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 040 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (4期) | 下 | 小形 | 4 | BⅠ | Ⅳb | Aa | A 2+2 | 外 | |
| 041 | 上 | 大形 | 3 | 不明 | Ⅲa | 不明 | 不詳 下3 | 外 | 混入の可能性 |
| 3期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠa | Ⅱa | Aa | Ba | | |
| 042 | 上 | 大形 | 2 | AⅠa | Ⅱa | Aa | A | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | A 2+3 | 外 | |
| 043 | 上 | 大形 | 4 | AⅠb | Ⅳa | D | A 2+2 | 内 | |
| 4期 | 下 | 小形 | 4～5前 | Ea | Ⅳb | B | D | 内外 | |
| 044 | 上 | | | − | − | − | − | | |
| | 下 | 壺棺 | | − | − | − | − | | 黒色磨研 |
| 047 | 上 | | 3～5前 | Ea | 不明 | D | 不明 | 外 | |
| 4期 | 下 | 小形 | 4～5前 | Ea | Ⅳa | D | D | 内外 | |
| 048 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (3期) | 下 | 大形 | 3 | AⅠc | Ⅲb | D | A 2+2 | | |
| 050 | 上 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱa | Aa | A | 内外 | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱa | Ab | A | 内外 | |
| 052 | 上 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | A 2+1 | 内外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 3期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱb | Ab | A | 内 | |
| 053 | 上 | 大形 | 6後 | CⅡ | Ⅴ | Aa | A | 内外，縞 | 縞は体部全面 |
| 6期 | 下 | 大形 | 6前 | CⅠ | Ⅴ | Aa | D | 内外 | |
| 054 | 上 | 大形 | 4 | AⅠb | Ⅳa | D | A | 内外 | |
| 4期 | 下 | 小形 | 4 | AⅠa | Ⅳa | C | A 2+2 | | |
| 055 | 上 | 小形 | 4 | AⅠa | Ⅳb | Aa | A | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AⅠc | Ⅳa | Aa | A 2+2 | | |
| 057 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (2期) | 下 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱb | Aa | A | 内外 | |
| 059 | 上 | 大形 | 2 | AⅠb | Ⅱa | Ab | A | 内外 | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠa | Ⅱb | Aa | A | 内外，縞 | 縞は上体部全面 |
| 060 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (3期) | 下 | 小形 | 3 | AⅠb | Ⅲb | Ab | A 2+2 | 外 | |
| 063 | 上 | | | | | | | | |
| (3期) | 下 | | | | | | | | |

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 変形式期 | 口縁部 | 体　部 | 刻　目 | 沈　線 | 黒　彩 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 064 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | AIa | IIIa | B | Bb　1条 | 外 | |
| 065 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 3 | 不明 | IIIb | 不明 | 不明 | | |
| 066 | 上 | | 2～4 | AIb | 不明 | Aa | 不詳　上3 | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | 不明 | IIIa | 不明 | 不詳　下3 | 外 | |
| 067 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 大形 | 4 | 不明 | IVa | 不明 | 不詳　下3 | | |
| 071 | 上 | 大形 | 4 | AIc | IVa | Aa | A　2+2 | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIa | IVa | B | A | | |
| 072 | 上 | 鉢 | | － | － | － | － | | 鉢 |
| （4期） | 下 | 小形 | 4 | DI | IVb | Aa | A　2+2 | | |
| 074 | 上 | 大形 | 2 | AIb | IIa | Aa | Bb　2条 | 内外，縞 | 縞は上体部全面 |
| 2期 | 下 | 小形 | 2 | AIa | IIa | Ab | D | | |
| 075 | 上 | 大形 | 3 | BI | IIIa | Aa | A | 内 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | DI | IVa | Aa | A　3+2 | 外 | |
| 077 | 上 | 大形 | 3 | AIb | IIIa | Ab | A　2+2 | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AIc | IIIa | Aa | A | | |
| 078 | 上 | 大形 | 2 | AIb | IIa | Ab | A | 内外 | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AIb | IIb | Ab | A | 内外 | |
| 081 | 上 | 大形 | 2 | AIb | IIa | Ab | A | | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AIb | IIb | Aa | A | 内外 | |
| 082 | 上 | | | － | － | － | － | | |
| | 下 | 壺 | | － | － | Ab | 頸3 | | 壺，口縁打ち欠 |
| 083 | 上 | 小形 | 4 | AIa | IVb | Aa | A　2+1 | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIc | IVa | Aa | Bb　1条 | | |
| 084 | 上 | 小形 | 3 | AIb | IIIa | Aa | A | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 2 | AIa | IIb | Ab | A　2+3 | | |
| 086 | 上 | | | － | － | － | － | | 石蓋 |
| （2期） | 下 | 小形 | 2 | AIb | IIb | Ab | A | | |
| 087 | 上 | 大形 | 6後 | CII | V | D | Bb　3条 | | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6前 | CI | V | Ab | A　4+4 | | |

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 変形式期 | 口縁部 | 体部 | 刻目 | 沈線 | 黒彩 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 088 | 上 | 大形 | 4 | BⅠ | Ⅳa | Aa | A 2+2 | 外 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | Eb | Ⅳa | D | D | 外 | 変形口体 |
| 089 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (2期) | 下 | 小形 | 2 | 不明 | Ⅱb | 不明 | D | | |
| 091 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| | 下 | | | 不明 | Ⅳa | 不明 | Aか | | |
| 093 | 上 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | B | Bb 2条 | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | B | Bb 2条 | 内外 | |
| 095 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (2期) | 下 | 大形 | 2 | 不明 | Ⅱa | 不明 | 不詳 下3 | | |
| 099 | 上 | 大形 | 6後 | CⅡ | Ⅴ | D | D | | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6後 | CⅡ | Ⅴ | Ab | C | | |
| 101 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (3期) | 下 | 大形 | 3 | 不明 | Ⅲaか | 不明 | 不明 | | |
| 124 | 上 | 大形 | 2 | AⅠc | Ⅱb | Ab | A 2+2 | | |
| 2期 | 下 | 大形 | 2 | AⅠc | Ⅱa | Aa | A 2+2 | | |
| 126 | 上 | 大形 | 3 | AⅠc | Ⅲa | Aa | A | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Aa | A 2+2 | | |
| 127 | 上 | 壺 | | − | − | 不明 | 頚3 | 黒色磨研 | 壺，口縁打ち欠 |
| 3期 | 下 | 小形 | 3 | AⅠa | Ⅲa | Aa | A 2+2 | 内外 | |
| 129 | 上 | 鉢 | | − | − | − | − | 内外 | 鉢 |
| (4期) | 下 | 大形 | 4 | AⅠb | Ⅳa | Aa | A | | |
| 130 | 上 | 小形 | 2 | AⅠb | Ⅱa | Aa | A 2+2 | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AⅠb | Ⅲa | Ab | A | | |
| 131 | 上 | 大形 | 4 | DⅠ | Ⅳa | B | Ba 2条 | 外 | タコ壺型 |
| 4期 | 下 | 小形 | 4 | DⅠ | Ⅳa | Aa | D | 内外 | |
| 135 | 上 | 大形 | 5前 | DⅡ | Ⅳa | D | D | | ミガキ |
| 5期 | 下 | 大形 | 5後 | BⅡ | Ⅴ | D | A 2+2 | | |
| 139 | 上 | 大形 | 4～5前 | Ea | Ⅳa | Aa | A | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | BⅠ | Ⅳa | Ab | A 2+2 | 内外 | |
| 140 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| (2期) | 下 | 大形 | 2 | 不明 | Ⅱa | 不明 | 不詳 下3 | 外 | |

| 遺構番号・時期 | | 法量 | 変形式期 | 口縁部 | 体　部 | 刻　目 | 沈　線 | 黒　彩 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 大形 | 4 | AIc | Ⅳa | Aa | A　2+2 | 外 | |
| 142 | 上 | 小形 | 4～5前 | Ea | Ⅳa | Aa | D | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIb | Ⅳa | Aa | A　2+2 | | |
| 144 | 上 | | 2～4 | AIb | 不明 | Aa | 不詳　上3 | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIb | Ⅳa | Aa | A | 外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 145 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 大形 | 4～5前 | 不明 | Ⅳa | 不明 | 不詳　下2 | 外 | 周囲3期 |
| 146 | 上 | 大形 | 4 | AIa | Ⅳa | Aa | A | | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIb | Ⅳa | Aaか | A | 外 | |
| 148 | 上 | 小形 | 3 | AIb | Ⅲa | D | A　3+2 | 内 | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AIb | Ⅲa | Aa | D | | |
| 149 | 上 | 小形 | 6前 | CI | Ⅴ | D | C | 内外 | |
| 6期 | 下 | 小形 | 6前 | CI | Ⅴ | B | A　2+1 | | |
| 150 | 上 | 大形 | 3 | AIb | Ⅲb | Aa | A | | |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | AIc | Ⅲa | Ab | A　3+2 | | |
| 152 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （3期） | 下 | 小形 | 3 | 不明 | Ⅲa | 不明 | 不詳　下2 | 外 | |
| 153 | 上 | | | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | | |
| （4期） | 下 | 大形 | 4 | AIa | Ⅳa | Aa | A　2+2 | | |
| 156 | 上 | | 2～4 | BI | 不明 | Aa | 不詳　上2 | 外 | 口縁打ち欠き |
| 3期 | 下 | 大形 | 3 | 不明 | Ⅲa | 不明 | A　2+2 | 内外 | |
| 157 | 上 | 大形 | 4 | AIc | Ⅳa | Aa | A　2+2 | | |
| 4期 | 下 | 小形 | 4 | AIb | Ⅳa | Aa | A　2+2 | 内外，縞 | 縞は口縁部下 |
| 158 | 上 | 大形 | 6後 | CII | Ⅴ | D | Ba | 内外 | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6前 | CI | Ⅴ | Ab | C | 内外 | |
| 159 | 上 | 小形 | 6後 | CII | Ⅴ | Ab | D | | |
| 6期 | 下 | 大形 | 6後 | CII | Ⅴ | C | A | | |
| 160 | 上 | | 2～4 | BI | 不明 | D | 不詳　上3 | 外 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 4 | AIb | Ⅳa | Aa | A　2+2 | 外，縞 | 縞は上体部全面 |
| 161 | 上 | 小形 | 4 | BI | Ⅳb | D | D | 外 | |
| 4期 | 下 | 大形 | 3 | AIa | Ⅲa | Aa | A　2+2 | | |

### (3) 編年試案

以上述べたように口縁部と体部について各形式の時間的関係を理解した上で，さらに先に示した口縁部各形式の系統的関係を考慮し，下記のとおり編年を行なう。

当該時期を，全体として6期に分ける（Tab. 6）。

**第1期**　本遺跡では該当例なし。礫石A遺跡ＳＡ40，ＳＡ41，ＳＡ45を標識とする。口縁部は朝顔型に大きく外反し，体部は下体部が段をなして膨らみ明瞭に壺の特徴を残すⅠ類。

**第2期**　口縁部は朝顔型に大きく外反するＡⅠ類を主流として，平坦口縁の先駆をなすＢⅠ類も一部登場する。体部は下体部にやや膨らみを残すⅡ類。

**第3期**　口縁部はＡⅠ類を主流とするが，ＢⅠ類も一部に見られる。体部は下体部にかすかに膨らみを残すが，壺の特徴の喪失が著しいⅢ類。

**第4期**　口縁部は依然ＡⅠ類を主流とするが，ＢⅠ類が割合を増し，新たにＤⅠ，Ｅ類も加わる。体部は下体部に膨らみが無く上下一体化し，壺の特徴を殆ど喪失したⅣ類。

**第5期**　口縁部はＡ類が殆ど見られなくなり特殊ＡⅡ類が一部残るが，むしろＢⅡ，ＤⅡ，Ｅ類といったバリエーションが目立つ。体部はⅣ類が残り，途中から中期形のⅤ類に変わる。前後2期に分けたのはこれまでの分類の方法論から必然的に設定されるもので，時間的には無視できる程度の差であろう。第5期自体が過渡期的な様を示す。

**第6期**　口縁部は初現的な平坦口縁Ｃ類，体部は中期形のⅤ類となる。

以上を図示すると，Fig. 91のように整理できる。この間の変化は成人用甕棺の成立期における土器様式が前期から中期へと移行する変化の過程を示すものである。その境をどこに置くかについては，口縁部及び体部のこれまでの説明から，過渡期といえる第5期をもって従来の城ノ越期に並行させ，中期の開始とするのが適当であろう。

Tab. 6　編年表

| 時期区分 / 形式区分 | | 前期　末 | | | | 中期初頭 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1期 | 2期 | 3期 | 4期 | 5期前 | 5期後 | 6期前 | 6期後 |
| 口縁部 | A類 | | AⅠ | abcⅠ | | AⅡ | | | |
| | B類 | | | BⅠ | | BⅡ | | | |
| | C類 | | | | | | | CⅠ | CⅡ |
| | D類 | | | | DⅠ | DⅡ | | | |
| | E類 | | | | Eab | | | | |
| 体　部 | | Ⅰab | Ⅱab | Ⅲab | Ⅳab | | | Vab | |

| 時期 | 第 1 期 | 第 2 期 | 第 3 期 | 第 4 期 | 第 5 期 | 第 6 期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 体部 / 口縁部 | Ⅰa，b類 | Ⅱa，b類 | Ⅲa，b類 | Ⅳa，b類 | | Ⅴa，b類 |
| AⅠa類 | 礫石A40下　礫石A45 | 042上　084下 | 127下 | 071下　083上 | (口縁部AⅡ類) 037上 | (口縁部CⅠ・CⅡ類) (CⅠ) 011上　(CⅡ) 158上 |
| AⅠb類 | | 081上　057下 | 130下　150上 | 144下　032下 | | 087下　053上 |
| AⅠc類 | | 124下　124上 | 126上　048下 | 071上 | | 149上 |
| BⅠ類・BⅡ類 | | (口縁部BⅠ類) 039上 | (口縁部BⅠ類) 075上 | (口縁部BⅠ類) 139下　010下 | (口縁部BⅡ類) 030下　135下 | |
| DⅠ類・DⅡ類 | | | | (口縁部DⅠ類) 029下　072下 | (口縁部DⅡ類) 135上 | |
| Ea類・Eb類 | | | | 088下　043下 | | |

Fig. 91　東山田一本杉遺跡Ⅰ区甕棺編年図 (1/32)

### ⑷　その他の検討

#### ①　口唇部刻目・体部沈線・彩色

上記の編年を基に，ここでは存在しない第１期を除く第２期～６期について「口唇部刻目」，「体部沈線」，「彩色」といった他の部位がそれぞれがどのように変化していくか見ておく。

**〈口唇部刻目〉**　刻目を省略したものも含め，次の４類に大別できる。

**Ａ類**　口唇部の上下両端に刻目を施す。上下別々に刻目を施したＡａ類と，同時に施したＡｂ類とがある。

**Ｂ類**　口唇部の下端にのみ刻目を施す。なお，上端にのみ施す例は見当たらない。

**Ｃ類**　口唇部全面に斜線状の刻目を施す。

**Ｄ類**　刻目を省略する。

Ａ類は第１期～６期の各時期にわたり平均的に圧倒的多数を占める（約８割）。但し，そのうちのＡａ類とＡｂ類との割合を見ると第１～３期まではＡａ類が約７割を占めて優位にあるが，第５期・６期には逆にＡｂ類が７割を占めるようになり，簡略化傾向を示す。同じくＡ類の簡略化といえるＢ類は少数ながら第３期以降に出現。Ｃ類は口唇部が偏平になった段階のもので，第４期以降に見られる。また，刻目を省いたＤ類は第３期から以降に出現する。

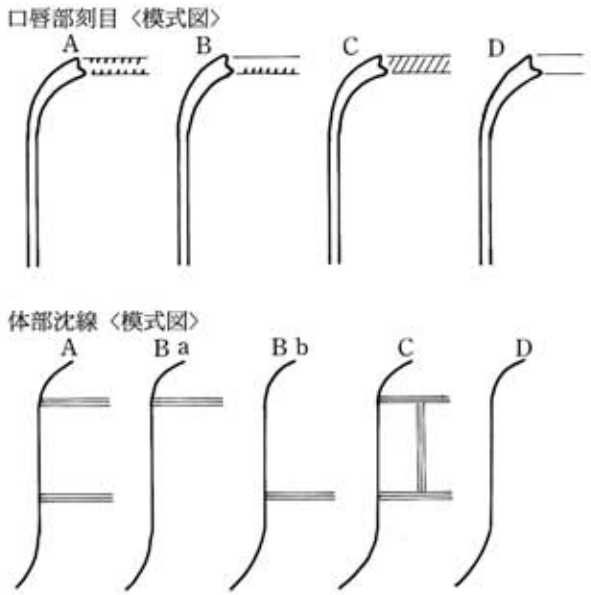



Fig. 92　口縁部刻目・体部沈線模式図

**〈体部沈線〉**　沈線を省略したものも含め，次の４類に大別できる。

**Ａ類**　口縁部下と体部下位の２段に施す。各３条ずつが基本。

**Ｂ類**　口縁部下にのみ１段施すＢａと，体部下位にのみ１段施すＢｂとがある。いずれも３条が基本。

**Ｃ類**　口縁部下と体部下位の２段に施した後，縦沈線４～５箇所で上下を結ぶ。横は３条が基本，縦は５条前後で一定しない。

**Ｄ類**　沈線を完全に省略する。

Ａ類は第１期～４期の各時期にわたって平均的に圧倒的多数を占め（約８割），割合は減少す

るが，第5期・6期まで存続する。B類は第2期～6期まで各時期に見られるが，割合はごく少なく，A類の簡略形といった感は否めない。縦沈線の加わるC類はいわゆる金海式甕棺の特徴の一つで，第5期に出現し，第6期まで見られる。D類は第2期から少数存在するが，第4期以降に割合が増加する傾向を示す。

〈彩　色〉

本遺跡では，第2～6期にかけて，器面に黒く彩色を施した甕棺がきわめて多い。内外面，あるいはどちらか一方を黒く塗った例は，識別できる限りでも上甕・下甕を合わせて約50個体があり，全体の約2割5分を占める。水洗の際の剝落で不明のものを含めれば，おそらく4割を越えるであろう。黒色顔料の素材は炭素（煤）と思われる。

時期別には2期から始まり，第5，6期には約5割を占めるようになり割合を増す。塗布の状況は，内外面ともに黒く塗る例が多く，次いで外面のみ，内面のみ塗布した例は少ない。このうち内面のみ塗布する例は第2，3期に限られるが，例数の少なさによるものと見られ，実態はいずれの場合も第2～6期を通じて継続したと考えられる。

もう一つ注意すべきは縞条塗り分けの存在である。上体部を中心に，幅1cm前後の黒色帯数条が1cm前後の間隔をおいて横方向に並行周回し，全体として横縞模様を見せるものである。剝落のため全体が判るものは限られるが，本遺跡では13個体が確認できる。

文様のパターンには3種類がある。そのうち口縁部下の一部に3，4条を巡らすタイプと体部上半全体に巡らせるタイプは，第2～6期に及ぶようである。もう一つのタイプは外側全面を縞模様で埋めつくしたもので，第6期に1例のみ見られる。全体の傾向として，縞模様は口縁部下から体部上半全体へ，さらに外面全体へと次第に装飾性を増していったようである。

手法については明らかでないが，観察する限りでは，縞文様の幅も間隔もほぼ一定で整然としている。周回の方法も渦巻状に連続して描かれたのか，それともリング状をなすのかは明らかでないが，きわめて直線的に描かれている。したがって，単にフリーハンドで引かれたとは思われず，紐等を巻きつけた上から顔料を塗布，あるいは全体をくすべるなどの特殊な方法によるものではないかと推測している。同様な縞状塗り分けの報告例は今のところ少なく，佐賀県下では近隣の大和町本村籠遺跡，佐賀市増田遺跡や鳥栖市村田三本松遺跡などの例が管見に触れる程度であるが，該期の黒塗り甕棺の分布状況から見て，この種の技法も北部九州の初期甕棺地帯，とくに佐賀平野，福岡平野一円に及んでいたと推測する。特色ある装飾技法であるだけに，今後，その分布状況や系譜関係などの把握に関心がもたれる。

一般的に，弥生時代の祭祀や葬送儀礼など神聖な場に用いられる色は「赤」のイメージがつよい。しかしながら，ここでの甕棺成立期においては朱など「赤」の使用は全くない。むしろ「黒の世界」である。この「黒」の演出も，中期になって甕棺の器面調整が刷毛目に替わる頃には装飾として不向きとなり，次第に衰滅していったと思われる。

### ② 法　量

甕棺が専用棺として完成する要件の一つに法量の規格性がある。当初から，甕２個体を合わせて用いることが一般的である以上，少なくとも口径だけは同じであるこが望ましいことは言うまでもない。しかしながら取り上げた第２～６期の甕棺97基のうち，合わせ口の状況が判る39例についてその実態を見ると，中期初とした第５，６期では接口式７，覆口式１，呑口式２となって接口式が一般的となるのに対し，前期の第２～４期では接口式14例，覆口式13例，接口式12例となって未だ接口式の優位が確立していない状況を示している。つまり，前期様式の段階では組合せ，規格性に対する配慮があまりなされていないことが解る。

この不揃いの直接の原因が生産者側にあるのか使用者側にあるのかは不明だが，根本的には前期様式の甕棺の形態そのものに問題があると考えられる。後述するように，第２～４期においては成形から焼成に至るまでの製作技術の欠陥から，口形は殆どが歪み，整った形のものはきわめて少ない。したがって，朝顔形の形状に制約される限りにおいては，たとえ口径を揃えたとしても実際に接口式での使用に耐えるものは少ない，といったやむを得ない事情があり，むしろ朝顔形の利点を採れば，大小の甕を組み合わせて覆口式または呑口式で使用する方がかえって便利であったかと考えられる。規格性がとくに問題となるには，平坦口縁の完成を待たなければならなかった。

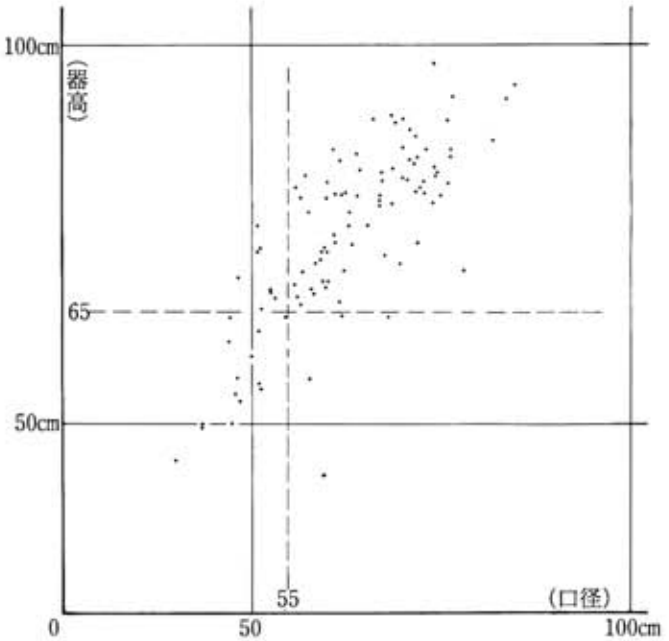


Fig. 93　甕棺法量

とはいえ，第２期から第６期まで，法量に大小の違いがあるのも事実であり，試みに口径と器高の関係を図示してみた(Fig. 93)。口径では約55cm～75cm，器高では約65cm～90cmの間に大部分が収まるが，全体の中でとくにいくつかの明瞭なグループが認められるわけではない。したがって，実際の法量区分はなかなか困難であるが，敢えて便宜的に分ければ，口径55cm以下，または器高65cm以下を目安として小形棺とし，それ以上を大形棺としておく。Tab. 5 に示した棺の大小はこれによる。

### (5) 成人用甕棺の成立と技術革新

大型甕棺の成立過程を見ていくと，北部九州弥生人の実に涙ぐましい努力の跡を覗く思いがする。それまでの生活用土器から如何にして大型土器の製作が可能になるか，あらゆる工夫と失敗，そして様々な試行錯誤の過程がそこに映し出されているからである。

最大の課題は，「大型化したことによる土器の自重で下体部が沈み，上体部が外方に開くのをどのように止めるか」という点にあった。そのための技術革新は成形，調整，焼成のあらゆる工程に及んだ。先学の研究成果に依りながら，あらためて前期様式の第１～４期の甕棺を，中期様式の第５，６期と比べてみよう。

まず第一に成形においては，粘土帯接合部を貼り合わせることにより壁体の強化が試みられた。高島忠平氏が言うように，下膨らみで湾曲部の多い前期様式，本稿での第１～４期の甕棺では必然的に用いられる技法であり，いきおい器壁は厚くなった。前期様式の甕棺の異常な重さはそのためである。第５期以降，粘土帯の接合は基本的に積み上げ方式に替わっていく。

第二に体部の形態の改良が試みられた。前期様式では壺を基調としているため，もともと下体部は下膨らみとなり，垂直方向への加重が成形の支障になることが避けられない。この点，中期様式になると下体部がすぼまるのは，この垂直加重に耐えるためのきわめて合理的な対策であって，分散しようとする加重を底部方向に集中させる優れた工夫である。合わせて上体部の内湾は外方向への開きに対する効果的な防止となった。第１～４期の甕棺に見られる上・下体部の一体化に向かおうとする変化は，そのような流れに沿うものである。

第三に口縁部の朝顔形から平坦への変化が挙げられる。第１～４期の甕棺では口形が整った円形に焼き上がったものはきわめて希で，殆どが多かれ少なかれ歪んでいる。これは外方に開こうとする力に耐えられない朝顔形口縁部の根本的な欠陥であって，たとえ口縁部を肥厚させることによってもその防止効果の程は限られたと思われる。おそらく，成形から乾燥に至るまでの間に大部分は変形してしまったことであろう。第３期以降に出現した未発達な平坦口縁が第６期にほぼ完成を見るのは，この点で画期的ともいえる改良となり，以後のスタイルを決定付けた。

調整の点では，叩きの技法が問題になるであろう。器壁を一定に薄く仕上げ胎土を叩き締めるこの手法は後期になって積極的に採り入れられるようになるが，第１～４期の甕棺では厚い器壁のままナデて仕上げる状況から，基本的には叩きは用いられなかったと考えられる。

焼成についても，実態は不明ながら，著しい改良の跡が認められる。第１～４期の甕棺では褐色に焼き締まったものはむしろ希で，全体が白っぽく，しかも黒斑が目立ち，軟質なものが

大部分である。内外面の黒彩あるいは縞状塗り分けは，外観の不器量を潮塗するための装飾といった意味もあったかと思われる程である。ところが第６期頃になると，おそらく焼成温度を高上させるための何等かの工夫が加えられたためであろう，これらの欠点は急速に，しかも見事に克服される。

成形，調整，焼成にわたるこれらの技術改良は，相互に補完しあいながら進められる必要があった。しかもその変化はきわめて短期間の内であったと思われる。先に示した編年で，過渡的な段階も含めて前期様式から中期様式への移行時期を第５期に置いたのは単に形態だけでなく，以上のような技術改良の画期を背景としたものであった。本遺跡では，このような甕棺製作に関る技術改良の軌跡が具体的な形でよく示されている。

大型甕棺の焼造は，世界的にも類を見ない高度な技術に支えられた特色ある土器文化であり，同時期の青銅器や鉄器の製作技術にも引けを採らない。北部九州の弥生文化が生んだ最大の“発明”であったといっても決して過言ではないであろう。

## 参　考　文　献


森　貞次郎　「弥生時代における細型銅剣の流入について」(『日本民族と南方文化』)　金関丈夫古希記念委員会　1966

高島　忠平　「甕棺の製作技術」(『立岩遺蹟』)　福岡県飯塚市立岩遺跡調査会　1977

橋口　達也　「甕棺の編年的研究」(『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書31』)　福岡県教育委員会　1979

井上　裕弘　「甕棺を黒く塗る風習」『山陽新幹線関係文化財調査報告書９』　福岡県教育委員会　1978

藤瀬　禎博　『村田・三本松遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第17集　鳥栖市教育委員会　1983

田中　稿二　『平成２年度大和町内文化財調査』　大和町文化財調査報告書第16集　大和町教育委員会　1992

前田　達男　『増田遺跡群Ⅰ』佐賀市文化財調査報告書第43集　佐賀市教育委員会　1993

## 2　東山田一本杉遺跡Ⅰ区墓地の形成過程

### (1)　墓地の形成過程

主に前項の甕棺編年に基づき，Ⅰ区墓地の形成過程を見ていくことにする。

本遺跡は，一部土壙墓と石棺墓を混じえながら，弥生前期末から後期前半の甕棺を中心とする墓地であり，主体は前期末から中期初頭にある。成人用甕棺の成立過程を検討するため，従来，前期末として一括してきた時期を第１～４期に区分した結果，副次的にその間の墓地形成の各段階をより詳細に観察することが可能となった。

全体を第１～11期に分けて説明する(Fig. 94～97)。このうち，第１～４期は今回あらたに区分したもの，第５・６期は城ノ越式期に対応すると考えている。さらに第７期以降は，汲田式－須玖式－立岩式－桜馬場式－三津式，といった森貞次郎氏の編年に従うことにする。勿論，各時期は甕棺の形式時期であって，必ずしもそのまま均等な時間幅を意味するものではない。

［第１期］　この時期，成人用甕棺は礫石遺跡では既に出現しているが，本遺跡ではまだ登場していない。土壙墓11基と石棺墓１基がこの時期に対応するものであろうと推定する。

基本的に，Ａ：小口に平石を立てる，Ｂ：棺部上面を平石で覆う，Ｃ：配石をもたない，といった３タイプがある。基本的には礫石遺跡でも見られたような支石墓の下部構造に系譜を引くものと考えられる。また石棺墓１基も，底に板石を敷く小児墓で，支石墓系と考える。時期は前期後半の新しい段階か，あるいは末と推定する。分布は，およそ３群に分かれる。

ａ群５基のうち，４基は成人用でＡまたはＣタイプ。東－西主軸の４基が列状に並ぶ。もう１基の小児墓はＡタイプ。ｂ群は西南－東北主軸または南－北主軸。成人用２基は共にＣタイプで，１基はａ群に切られる。これに並走するように，Ａタイプの小児墓土壙墓２基と小児用石棺墓１基が列状に並ぶ。他，東北端には三津式の甕棺に切られてＡタイプ，西南端にはＢタイプのいずれも成人用土壙墓がそれぞれ単独で存在する。群は構成しないが，便宜上，ｃ，ｄ（群）としておく。

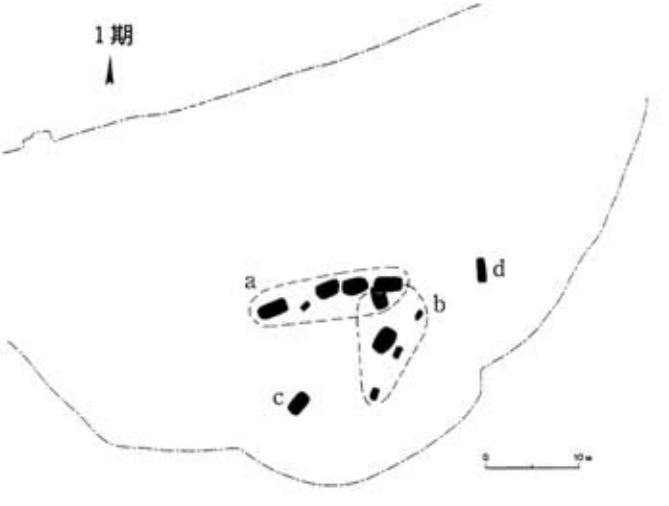



Fig. 94　墓地形成過程 (1)

［第２期］　初めて成人用甕棺墓が登場する。６群に分かれる。第１期土壙墓群との系譜関係は，ａ群５基とｅ群２基が第１期の土壙墓ａ群を，ｃ群２基は第１期ｃ群，ｂ群２基は第１期ｂ群，ｄ群２基は第１期ｄ群をそれぞれ引き継ぐと推定する。台地の縁辺にあたるｂ，ｃ群の東脇には，第１期の段階で既に存在していたであろう墓道が明確な形をとるようになり，さらに北側に伸びて新たにｆ群２基が出現する。

［第３期］　第２期の各群の外側に拡散する形で，６群に分かれる。ａ群４基とｅ群６基は基本的に東西主軸で，それぞれ第２期のａ，ｅ群が両外側に拡大していったもの。ｇ群６基は第２期のｂ，ｃ群の系譜，ｆ群２基は第２期のｆ群の系譜にあたるものと思われる。墓道の東側にはｈ群２基があらたに出現する。また，ｄ群４基は第２期のｄ群に続くものであろう。

［第４期］　第３期の甕棺墓群の外側にさらに墓域が拡大する形で，６群に分かれる。ａ群10基およびｅ群３基はそれぞれ３期のａ，ｅ群の系譜と思われ，方位をややまばらにしながらａ群が優勢になる。一方，墓道の存在はこの時期に一層明瞭になる。ｇ群６基は墓道の西側に並び，ｈ群８基はその東側に並んで数を増す。墓道はさらに北側に伸びて墓域を拡げ，ｆ群が３基に増えるとともに，向い合ってｉ群３基が出現する。

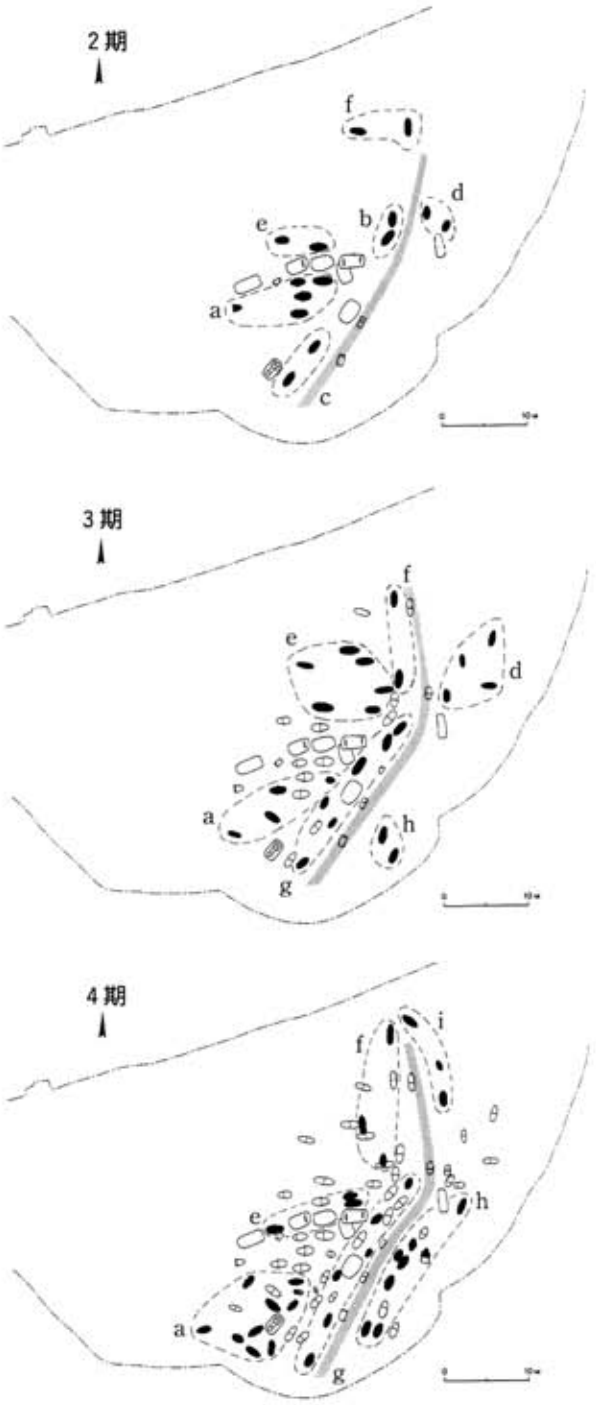



Fig. 95　墓地形成過程 (2)

**［第5・6期］** 城ノ越期

3群に分かれる。それまでの墓域はとくに西南部が手狭になり，全体として北部に中心が移る。h群5基は第4期のh群の系譜に連なるものであり，墓域の東南端にかたまって一群を成す。以後，南辺部では埋葬が見られなくなる。墓道は北側が若干東にコースを変え，その西側にk群7基が並ぶ。第4期のiの系譜か。さらに墓域は西方に拡張する傾向を見せ，k群の西に第2期のf群に続くと見られるj群3基がある。

**［第7期］** 汲田式期

全体として，それまでの墓域は満杯状態となり，あらたに，それまで利用がなされなかったⅠ区西半部に墓域を拡げる。基本的に東－西主軸の*l*群6基と南北主軸m群2基との2群に分かれるが，明確な群を構成しない。両群ともそれまでの埋葬群との系譜関係は不明となる。

**［第8期］** 須玖式期

この時期，西には南西部で小児棺1基が見られるだけとなり，それまでの墓地としての利用は一旦，停止する。東端に祭祀関連遺構が1基見られるが，実際は別地で行われた祭祀の後の廃棄土壙であろう。

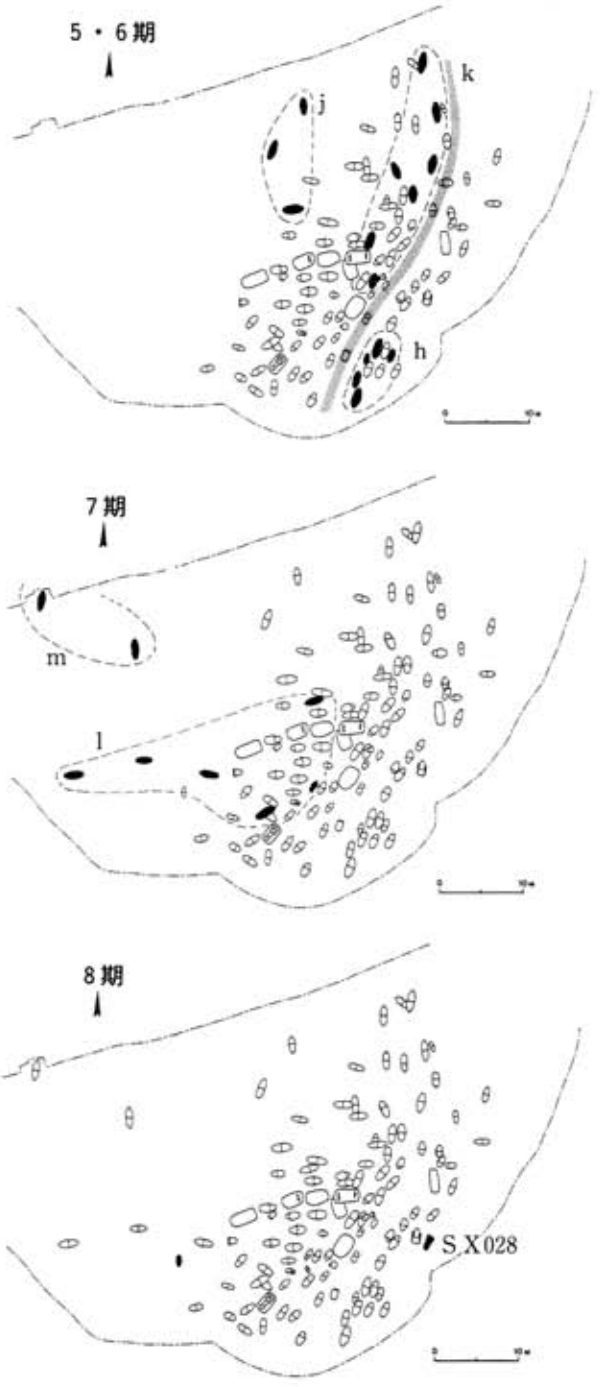



Fig. 96　墓地形成過程 (3)

［第９期］　立岩式期

須玖式期の断絶を経て，再び墓地として利用が始まる。但し，古い埋葬区域や墓道を敢えて避けているらしいことから，当時まだそれらが何等かの形状や標徴を残していたと考えられる。全体としては，東北部に墓域の中心が移る。およそ３群に分かれるが，実質的に群といえるのは o 群くらいのものである。o 群５基は東北部にあって小児墓１基を含む。n（群）は西北にあって，小児墓１基のみとなる。p 群２基は旧墓域の中に離れて小児墓に限られる。

［第10期］　桜馬場式期

墓域の東北部を中心として，o 群の成人墓６基が造られる。主軸方位は不統一である。その南端の２基は西南－東北主軸で小児墓と成人墓各１基からなり，墓道を挟むが，一応 p 群としておく。西半部では既に埋葬が見られなくなる。

［第11期］　三津式期以降

墓域東北部に三津式の成人棺３基が造られる。また，旧墓道の東北辺にある成人用土壙墓２基と小児用石棺２基は，時期は明らかでないが，後期中頃かと推定する。以後，Ｉ区での造墓が止む。

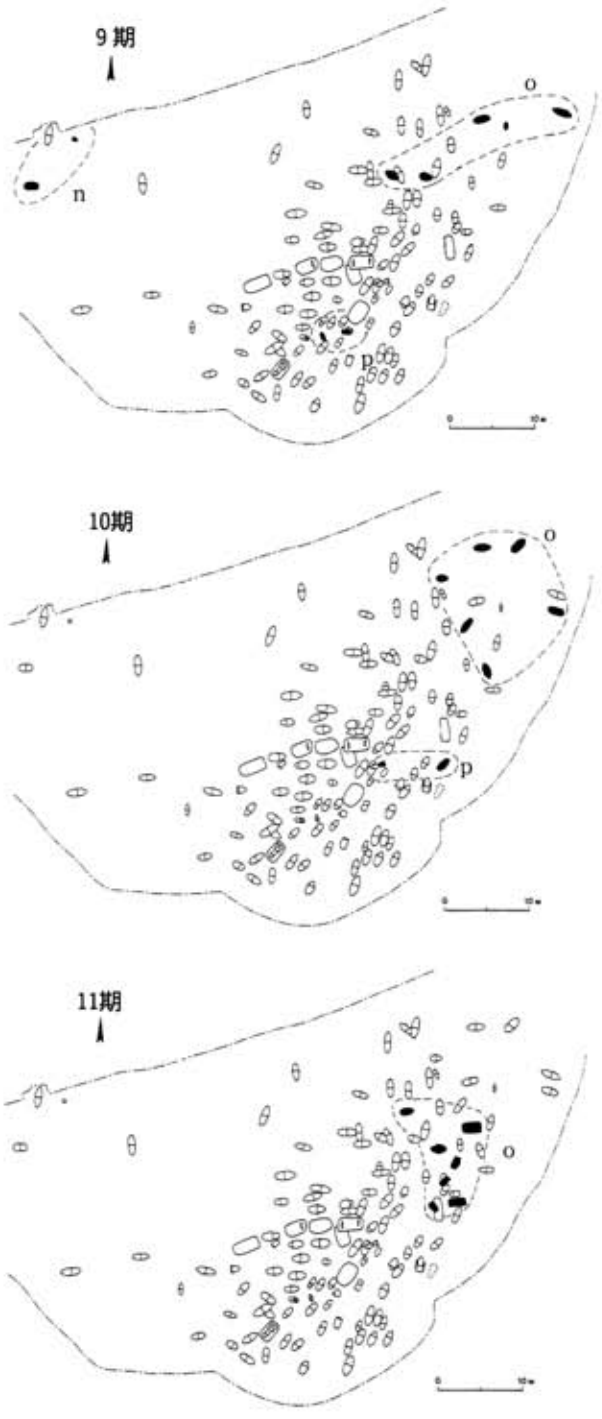



Fig. 97　墓地形成過程 (4)

### (2) 墓地造営集団の復元

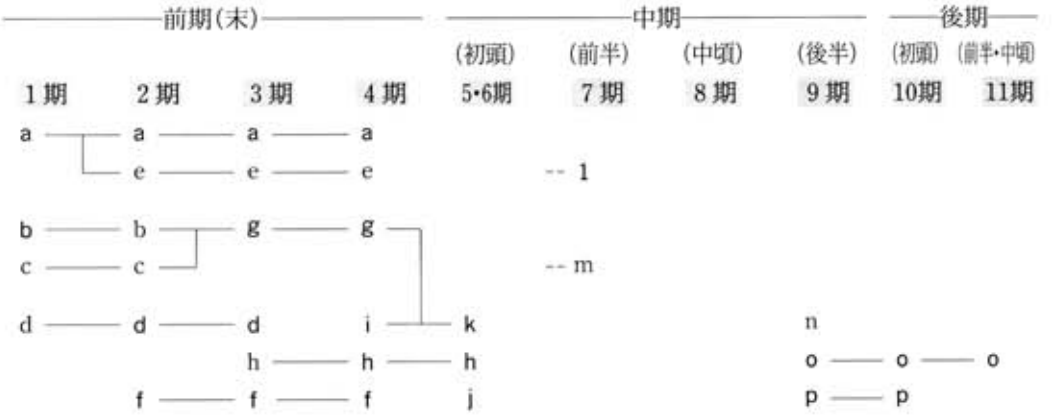
まず，以上からみた墓地造営の特色を概括すれば次のとおりである。

a．全体的にみた墓地としての土地利用は，台地の東南部に始まり，東辺および北側に拡がりをみせた後，一旦西半部にまで拡大し，最終的には東北部に戻る。その間，東辺に墓道が通じた結果，一時期を除いて，台地の広さにもかかわらず東辺部が墓域の中心となった。

b．埋葬様式の変遷は，前期後半の新しい段階あるいは末の土壙墓，または一部石棺墓に始まる。前期末から中期前半にかけてはほぼ甕棺墓一色になり，中期中頃の一時的な断絶を経て以後，数を減じながらも後期前半まで甕棺墓の造営が続き，後期中頃の土壙墓および石棺墓で終わる。

c．墓地形成からみた各群の平面的な系譜関係は，前期末に第1期の3群に始まり，第2～3期には5～6群に拡大，第5・6期は3群に縮小する。とくに第4期において各群の存在が明瞭になる。この間，埋葬群としての系譜関係は，途中派生したものも含め，比較的解りやすい。第7期の2群は系譜関係不明。そして第8期の断絶を経て，第9期以降は3群から2群，1群に縮小して終わるが，いずれにしてもそれ以前との直接的な系譜関係は認めにくい。

以上の系譜関係は，およそ次のように整理できる。




(太字は3基以上の群)

この間，墓地の密集度にもかかわらず全体的に相互の切り合いが少ないのは，何等かの地上標徴があったことをも推測させるが，基本的にはⅠ区墓地が特定集団によって伝統的かつ契機的に造営されたことを示すものである。その点は，とくに1期～5・6期に顕著である。

このような状況から，Ⅰ区の墓地を形成した集団の構成や規模についてどのような解釈が成り立つであろうか。一つの試みとして，最も群構成が明瞭で，しかも最盛期の様相を示す第4

期を例にとって検討してみよう。

第4期の埋葬数は6群34基で，1群平均は約5～6基である。問題は実際の時間幅である。ここでは前期末～中期初に当たる時期を第2期～第5・6期に細分したが，おそらく1期当たりはとうてい1世代，約20年にも満たない時間幅であろうと考えている。一体，1世代にも満たない期間に34人，年当り2人前後もの死者がでる集団とはどの程度の規模の集団であろうか。そして，5～6人の死者がでる群とはどのような性格のグループであろうか。

問題になるのは当時の年齢構成および死亡状況であるが，ここではまず，乳児の死亡数を全体の死亡数から除外するための検討を行うことにする。というのは，一般的に未開社会では未成人，特に生後間もなく死亡する乳児の死亡率がきわめて高いとされる。生活集団の実相を墓地から捕らえようとする場合，その異常に高い乳児の死亡数をそのまま全体の死亡数の中に含めてしまうと，現実の集団の実態から大きく乖離した数字が生じてしまうからである。日本でも明治時代には成人に達するまでに生まれ落ちた子の約4割が死亡していた。しかも，そのうちの50～60%は乳児であった(内閣統計局資料)。遡って中世の吉母浜遺跡では，乳児を含む未成人の死亡率53.5%という数字がある。さらに弥生時代では福岡県下の甕棺墓地における小児棺の割合が，平均すると全体の50.3%になるという研究報告があるが，これは小児棺を目安にしたもので，実際は乳幼児の埋納が大半であったと推測できる。佐賀県下でも，同じ大和町に在って本遺跡に近い礫石A，B遺跡では，乳児の死亡率が55～60%という高い値を示している。礫石A，B遺跡は共に弥生前期の支石墓系墓地で，下部構造は「成人墓」が土壙であるのに対し，「小児墓」は壺棺を用いていた。「小児墓」といっても，実際は壺の容量からみて生後間もない乳幼児が葬られたと考えざるを得ず，しかも，集団の成員としては見做されなかったためか，同じ墓地の中でも「成人墓」群とは離れて別に葬られていた。

したがって，少ないながらもこれらの類例から見る限りでは，一般に，弥生社会では生まれた子供の約半分が乳児のうちに死亡していたと考えられ，おそらくこの東山田一本杉遺跡においても同じような状況ではなかったかという推測が成り立つ。

そうして見ると，問題になるのは第4期の甕棺の中にはたしてこのような乳児が含まれるかどうか，あるいはどのくらい含まれるかである。甕棺の法量を手掛りにして見ると，実態として第4期では，上・下棺の少なくとも一方が大形，小形の区別がつく甕棺の総数は28基，その内，単棺や壺棺あるいは合せ口の下甕が小形棺であるなどにより，乳児も含め未成人が葬られた可能性があるものは7基，25%である。因に，第2～第5・6期では総数77基のうち18基，23%である。

そこで，仮に乳児も成人と同様に全て甕棺に葬られたと仮定するとどうなるか。最多でも7基，25%という数字は，先に推定した弥生時代の乳幼児の死亡率に比較してあまりに低すぎると言わざるを得ない。さらに7基の内に乳児以外の未成人も含まれる可能性を考えれば，乳児

の割合はさらに低くなるのである。したがってその場合は，全ての乳児死亡数を小形甕棺だけでまかなうのは不可能となり，成人用甕棺まで利用したと考えざるを得なくなるが，これには容量の点で大いに問題があろう。理由は，そもそもこれら７基の“小形甕棺”でさえ，大部分が合せ口で，下甕に小形棺を使用してはいるが，実際には高年令の未成人の収容も可能な容量をもっており，乳児を葬るにはかえって不向きと思われるからである。

よって，少なくとも第４期において見る限りでは，乳児の埋葬は大部分が甕棺以外に葬られた可能性がつよく，土器棺はせいぜい少数の「壺」棺が選ばれる程度であったと考える。その場合，大部分の乳児の埋葬形態としては，同じ墓地内であれば土壙墓等，現状では検出困難な黒色表土を掘り込んで埋められたと推測しておく。第２期に遡るが，検出された小児用土壙墓２基はたまたま板石をもつ構造であることから存在が明らかになったものであることを思えば，必ずしも突飛な話ではなく，礫石Ａ，Ｂ遺跡における乳児の取扱い方を想起させるものである。もっとも，礫石Ａ，Ｂ遺跡との関連で見ると乳児棺に生活土器が転用されていないのは奇異な感を受けるが，この点については，成人用甕棺成立期における，埋葬に対する意識の変化と，未だ法量による機能分化が確立していない甕棺の生産体制の限界を示すものと解釈しておきたい。

以上の理解に立って，第４期の甕棺数34基という数字は，基本的に，１世代未満の間に死亡した乳児を除く未成人および成人の数であったと考える。ただし，これはあくまで一定期間内の死亡者累積数であって，一時期として捉えた集団の生活実態とは別であることは言うまでもない。一時期の集団規模を明らかにするには，ほぼ40歳といわれる当時の平均寿命の適応範囲や出産命令，人口増加率，世代構成など複雑な要素を加味して算定されなければならないであろう困難な問題があることから，今はこれ以上の仮定を重ねることは差し控えておく。ただ，漠然とではあるが敢えて大胆に憶測すれば，乳児を除いて年平均２人前後が亡くなる集団となると，未成人の死亡率の高さや戦争など不測の事態を考慮したとしても，ほぼ３世代を合わせて50人は優に越える存外大きな規模の集団ではなかったかと想定している。また，第４期における各群の平均５，６基からは，きわめて親密な血縁関係に基づくグループの存在が想定される。ただし，３～10基まで幅があるため，いわゆる家族的な関係から親族的な関係まで多様な実態が考えられ，その具体的な性格を一概に決めつけるのは困難である。

以上は第４期について，集団の復元を試みたところである。血縁的紐帯を基本とするであろうその集団の規模，性格からは，それ自体で水田経営を中心とした生産や共業をある程度可能とし，日常生活を集団的に維持完結し得る一つの「ムラ」の存在を思い浮かべることができよう。第２期に成立，定着した「ムラ」は第５，６期まで順調な発展を示す。そして第７期以降，急に衰退あるいは消滅したかのように見えるが，ただし，これはあくまで墓地造営上の現象であって，必ずしも「ムラ」の解体を意味するものとは限らないであろう。

勿論，このような試算は現段階ではいくつもの仮定が必要であり，仮定の取り方によっては極端な結論の違いが出てくるのはやむを得ない。先の試算でも，１期当たりの時間幅の設定，群の捉え方，乳児や未成人の死亡率の採り方によっては，同じ墓地でも評価が大きく分かれることになるであろう。確実性を高めるには，考古学のみならず，さらに多くの形質人類学や民族学上のデータの集積が必要である。また，時期別の比較検討も必要であろう。

甕棺の編年や群の捉え方が細かくなることについては，かえって本質を見誤まるとの批判があるかもしれない。しかしながら，詳細を極める努力によって，新しく見えてくるものもある。「甕棺墓地からいかに集団を復元するか」は，甕棺研究の最も重要な課題であると認識するが故に，東山田一本杉遺跡Ｉ区墓地を取りあげて一つの解釈を試み，敢えて愚見を呈した次第である。

## 参　考　文　献


橋口　達也　「甕棺の編年的研究」(『九州縦貫自動車道関係文化財調査報告書31』)　福岡県教育委員会　1979

折尾　学　「発掘調査の概要」(『史跡金隈遺跡』福岡市文化財調査報告書123)　福岡市教育委員会　1983

田平　徳栄　「礫石Ａ・Ｂ遺跡」(『礫石遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書９)　佐賀県教育委員会　1989

中橋　孝博・永井　昌文　「山口県吉母浜遺跡出土人骨」(『吉母浜遺跡』)　下関市教育委員会　1985

中橋　孝博・永井　昌文　「４．寿命」(『弥生時代とその環境』弥生文化の研究１)　雄山閣　1989

# 東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
# 西山田二本松遺跡Ｂ区

遺跡名：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区（略号ＨＹＳ－Ⅱ・－Ⅲ）
遺跡名：西山田二本松遺跡Ｂ区（略号ＮＹＮ－Ｂ）
所在地：佐賀郡大和町大字東山田，大字川上

# 東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区

## 1．遺跡の概要

東山田一本杉遺跡Ⅰ区の状況と，東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区における平安時代後半期以降の様相については各段の本論に譲るとして，ここでは弥生時代から古墳時代初頭にかけて営まれた集落跡並びに奈良時代から平安時代前半期にかけて展開する掘立柱建物跡群と築地関連遺構について概要を記したい。

本調査区における弥生時代中期後半から古墳時代初期にかけての遺構として竪穴住居跡100基，掘立柱建物跡18棟，不明遺構１基，土壙14基，土壙墓32基，甕棺墓６基，溝跡１条が確認された。これらの遺構は調査区のほぼ全域に分布している。

中期後半から後期前半にかけて，調査区中央西寄りに横口式土壙墓を主体とする墓域が形成される。甕棺墓については４基が成人棺で，いずれも桜馬場式に相当する。土壙墓を主体とする点では，隣接するⅠ区の甕棺墓群とは大きく異なっている。墓域は墓が営まれなくなった後も，古墳時代初頭に集落が廃絶するまで意識され続けていると考えられる。

調査区の全域にわたって検出された竪穴住居跡は，後期中頃から古墳時代初頭にかけてのものであり，中でも後期後半のものが最も多い。住居の形態は長方形ないし方形で，多くのものが長軸両辺にベッド状遺構を伴う。掘立柱建物跡は１間×２間と１間×１間のものが大多数である。倉庫群としてまとまっているような状態ではないため，個々の住居に伴うものであろう。

かなり大規模な集落であるにもかかわらず，環溝が確認されていない点がこの集落の特徴といえる。嘉瀬川東岸には惣座遺跡をはじめとしていくつかの環溝集落が確認されているが，その状況と対照的である。集落間のランク差など，弥生時代から古墳時代にかけての社会を考える上で興味深い事象である。

奈良時代から平安時代前半期にかけての様相は，この地域の特殊性を十分に反映している。すなわち嘉瀬川の東岸に肥前国府を中心とする官衙が展開するのと時を合わせ，それと関連する施設がこの西岸地域一帯にも造営され始めるのである。

この時期の遺構として確認できたのは掘立柱建物跡11棟，溝跡（築地関連遺構を含む）33条，井戸跡１基，土壙17基であるが，この中で特筆すべきは４グループに分けられる掘立柱建物群と，その中の１グループを囲む築地と思われる遺構の存在である。

この掘立柱建物跡については，その全てが東山田一本杉遺跡Ⅲ区に集中していることから，この場所が嘉瀬川西岸の中心地域の一部であったことは想像に難くない。また本調査区の西側

Fig. 1　東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区遺構配置図（1/500）

に展開する西山田二本松遺跡（A区），及び西山田三本松遺跡等では整然と配列された倉庫群（正倉？）が確認されており，また官衙役人が装着したものと思われる石帯の部分品である丸鞆と鉈尾が出土していることなどから，官衙としての特徴的な占地形態を取り，計画的な経営がなされていたと思われるが，ある時期には居住域であったものが，次の時期には倉庫群が立ち並ぶ様相を呈するなど，不安定な面も窺える。

また調査区東部分に位置するＳＢ372・373の２棟の掘立柱建物跡については，24条の断続する溝状遺構によって「コ」字型に囲まれた内側に立地するが，これら溝状遺構は断続しながら並行する２条の築地関連遺構に収斂されるものであり，「コ」の形状を取りながら両端共調査区外へと抜ける。そしてこの２条の間隙には築地塀が存在したと思われる。

更にこの溝状遺構から「定側松印（定側私印）」，「𠙵ヵ（宮，官？）」の２点の刻印土器が出土しているが，これはこれらの築地関連の溝状遺構に囲まれ，区画された一帯が公的な機関と関連していたことの証左といえる。

掘立柱建物群の中で最大であるＳＢ237は棟方位を真北にとり，四面に一間の出廂を配する。身舎部分の柱穴掘形は大型で定型化が見られ，国府正殿(1)にも匹敵する全体規模を有しており，嘉瀬川西岸に配された建物群の中でも際立った存在であったと思われる。

また建て替えと思われるＳＢ401からＳＢ266への変遷は，この建て替え前後で柱穴掘形が小型で不揃いなものから，大型で隅丸方形及び円形を基本とする均一的なものへと変化する点は，この地域において何らかの政治的配慮が働いたことの現れとも受け取れる。

なお惣座遺跡(2)の調査において報告されているところの，８世紀後半～９世紀初頭を出現時期とする大型の長棟構造を持つ倉庫群が本調査区にも存在していることから，この時期の嘉瀬川東岸部との関係が今後の課題として浮上する。

ともあれ，東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区と西山田二本松遺跡Ｂ区における奈良時代から平安時代前半期にかけての展開は，４つのグループに大別される掘立柱建物跡と，その中の１グループと密接な関係を持ちながら機能している２条の築地関連遺構の盛衰によって具現されており，西山田二本松遺跡Ｂ区で確認した方１町（108m）の区画溝となる可能性を持つＳＤ021と合わせて，特に南北方向への広がりを今後の調査でとらえることができれば，嘉瀬川を挟んで対峙の位置にある肥前国庁との機能分担，あるいは佐嘉郡衙との関係の一端が明らかになるものと思われる。

＜註＞

(1) 樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅰ』（佐賀県教育委員会）1978
　　樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅱ』（佐賀県教育委員会）1981

(2) 田平徳栄　『惣座遺跡』（佐賀県教育委員会）1990

# 2．遺　　構

## 1　弥生時代から古墳時代にかけての遺構

この時期の遺構としては，竪穴住居跡100棟，掘立柱建物跡18棟，不明遺構１基，土壙14基，土壙墓32基，甕棺墓６基，溝跡１条が確認された。調査区ほぼ全域に分布している。時期的には弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけてのものである。

ここでは，弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての時期を６期に区分して報告することにする。高三瀦式前半（後期初頭～前半）をⅠ期，高三瀦式後半（いわゆる後期中頃）をII期，下大隈式前半（後期後半の前半）をIII期，下大隈式後半（後期後半の後半）をⅣ期，西新式（終末期）をⅤ期，布留式古段階並行期をⅥ期とする。なお，それぞれの時期の土器の特徴については遺物の項を参考にされたい。以下，分布状況，特徴などについて概観する。

さて，これらの遺構のうちもっとも古く出現するものは，土壙墓と甕棺墓からなる墓地である。土壙墓が主体である。ＳＪ261甕棺墓（小児棺）とＳＰ305土壙墓は墓域からはずれているが，それ以外は調査区中央西寄りに集中してみられ，墓域を形成する。土壙墓と甕棺墓が混在している。完形の小型壺が１点出土したＳＫ210土壙がこの墓域の中にあり，祭祀土壙の一種であろうと考えられる。

**土壙墓**については，28基が墓壙の側壁及び墓壙底の一部を横に掘り込んで棺をなす，いわゆる横口式土壙墓といわれるものである。そのうちＳＰ244土壙墓は石蓋のものである。隣接するものの中には掘り込む方向が一定するものもあるが，墓地全体としては一定の方向性はみられないようである。また，ＳＰ194土壙墓は土壙墓棺内の小口の一方を下，もしくは横に掘り込む形態のもので，足元掘込式と呼ばれているものである。他の形態としてはＳＰ200土壙墓が土器蓋のものである。

また，**甕棺墓**は４基が成人棺であろうと考えられる規模で，いずれも桜馬場式に相当するものである。上甕，下甕とも口縁部を打ち欠いたもの（ＳＪ199甕棺墓），上甕に日常土器を転用したもの（ＳＪ202甕棺墓），単棺のもの（ＳＪ24甕棺墓）などその形態はそれぞれ異なる。ＳＪ24甕棺墓はＳＰ25土壙墓よりも新しく，土壙墓の時期を決める手がかりとなる。小児棺のうちＳＰ190甕棺墓は土壙墓に隣接して墓域の中にあり，ＳＪ261甕棺墓は集落内に営まれている。

これらの墓の時期的な上限は，上述のように切合関係で甕棺墓より古いものがあり，中期後半にまでさかのぼる可能性が高い。下限は祭祀土壙と考えられるII期のＳＫ210土壙より新しいものがあり，土器蓋土壙墓はII期でも新しい時期になると思われるので，III期にも一部墓地が営まれていた可能性がある。しかし，III期には竪穴住居が墓域周辺にかなり出現するので，墓はあまり盛んには営まれなくなると想定される。したがって，墓地の中心的な時期はⅠ期から

II期にかけてであると考えられる。ただし，墓地としては古墳時代初頭まで意識され続けている。また，副葬品などは出土しなかった。

**竪穴住居跡**は削平が激しく，残存状況が悪いものが大多数である。ほぼ調査区全域に展開する。時期別にみても，明確にグルーピングできるような状況ではなく，散漫に展開していたようである。しかし，集落の最終段階まで墓域内にはほとんど住居を営んでいないので，墓域は最後まで意識されていたものと考えられる。

すべての竪穴住居が平面長方形ないしは方形のもので，ベッド状遺構をもつものが多い。長軸方向を東西におくものが多数を占める。主柱穴は不明なものが多いが，判明したものの中ではVI期のＳＢ76竪穴住居跡１棟のみが４本柱のものであり，それ以外はすべて２本柱のものである。多くの住居に祭祀的な場所と想定されている壁際土壙がみられる。南辺中央にあるものが圧倒的に多い。ベッド状遺構は全体の形態が判明する64棟のうち41棟にみられる。住居の長軸両辺につく形態が基本的なものである。その中で，片方のベッ

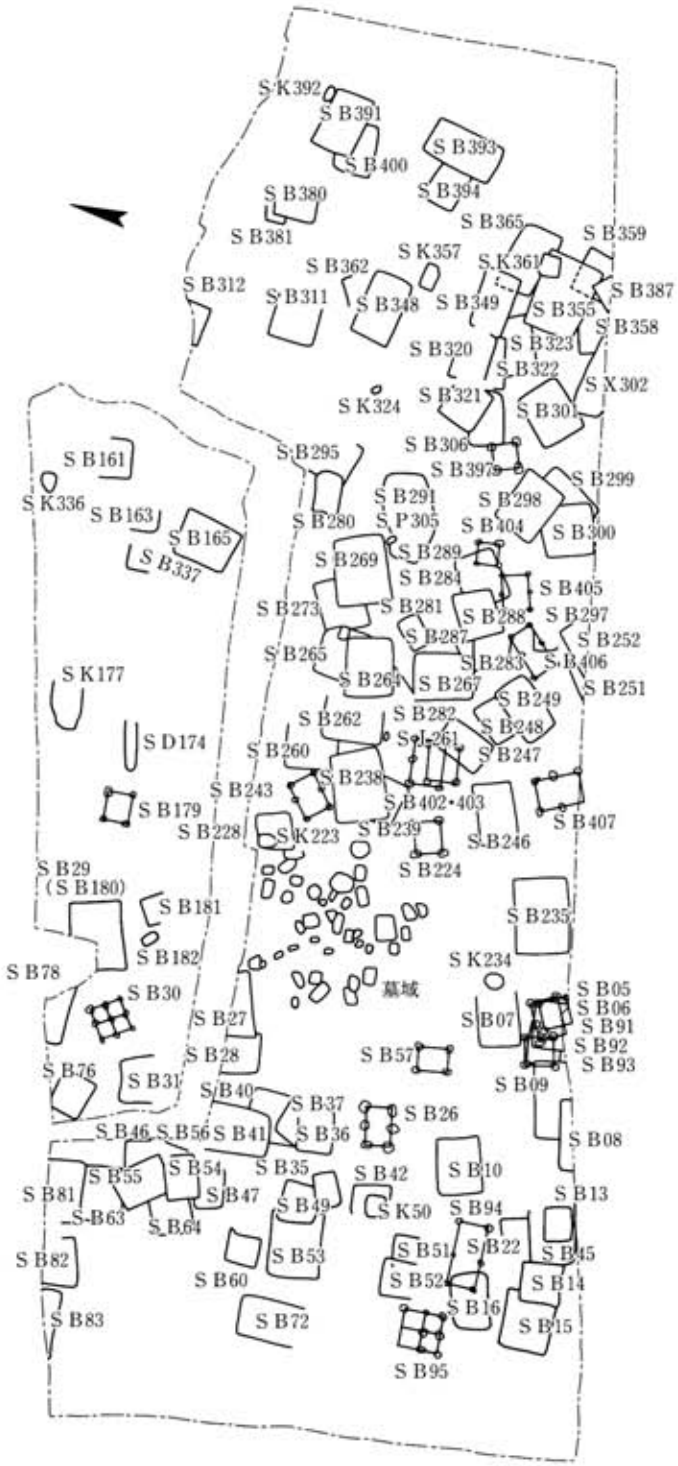



Fig. 2　弥生時代～古墳時代前期遺構配置図（1/1,000）

ド状遺構が一方の隅にのみあるもの，L字形になるものなどいろいろなバリエーションがある。やや特異なものとして，四隅にそれぞれベッド状遺構をもつSB238竪穴住居跡がある。

竪穴住居の時期はII期からVI期にかけてで，III期からIV期，すなわち後期後半のものがもっとも多く，この時期に集落の規模がもっとも大きくなっている。竪穴住居を中心とした集落の変遷などについては後述することにしたい。

**掘立柱建物跡**は図上で確認したものを含め，18棟認められる。形態は1間×2間と1間×1間のものが多く，他に2間×2間で総柱のものがある。分布には偏りがなく，掘立柱建物同士で主軸を特にそろえたものもない。したがって，個々の住居に伴う高床倉庫と考えられ，まとまって倉庫群を形成しているわけではない。しっかりとした方形，ないしは長方形の掘形を持つものと，掘形が円形であまりしっかりとしていないものがある。時期を決定する遺物に乏しいが，主軸方向の同じ住居が隣接する場合が多いので，ほぼ竪穴住居と同じ時期のものと考えられる。

**不明遺構**は，調査区南辺東寄りにある。調査区外にのびているため，全体の形態は明確にできないが，溝状の遺構になると考えられる。土器の出土量がかなり多く，祭祀遺構的なものと考えられる。

**土壙**は平面方形のものと円形のもの，不定形なものがみられる。その性格は不明なものが多いが，上述したように墳墓に対する祭祀土壙と考えられるものが1基ある。遺物に墓と時期的に並行する祭祀土器があるので，他にも祭祀土壙が存在したと思われる。

**溝跡**は1条確認されるが，性格は不明である。嘉瀬川西岸では，東山田一本杉遺跡をはじめとして西に隣接する西山田二本松遺跡，西山田三本松遺跡で弥生時代後期のかなり大規模な集落が認められるが，環溝と考えられる溝は今のところ確認されていない。これは惣座遺跡を始めとする嘉瀬川東岸の状況とはまったく異なっている。

以上，墓地と集落について特徴をまとめると，墓地については中期後半からIII期にかけて営まれた横口式土壙墓を主体として，他に甕棺墓などから構成されるものである。後期前半の時期が最も盛んであると考えられる。副葬品などは認められない。集落は竪穴住居中心で，II期からVI期にかけて営まれる。その中心的な時期は後期後半と考えられる。かなり大規模な集落と推定されるが，後期後半以降盛行する環溝はないものと考えられる。墓と集落は同時に営まれる時期があるが，中心となる時期はずれている。また，墓地としての意識は集落が廃絶するまで残っている。このようなことから，東山田一本杉遺跡の墓地も集落も特にランクの高いものとはいえず，特別な性格をもつものとは考えにくい。

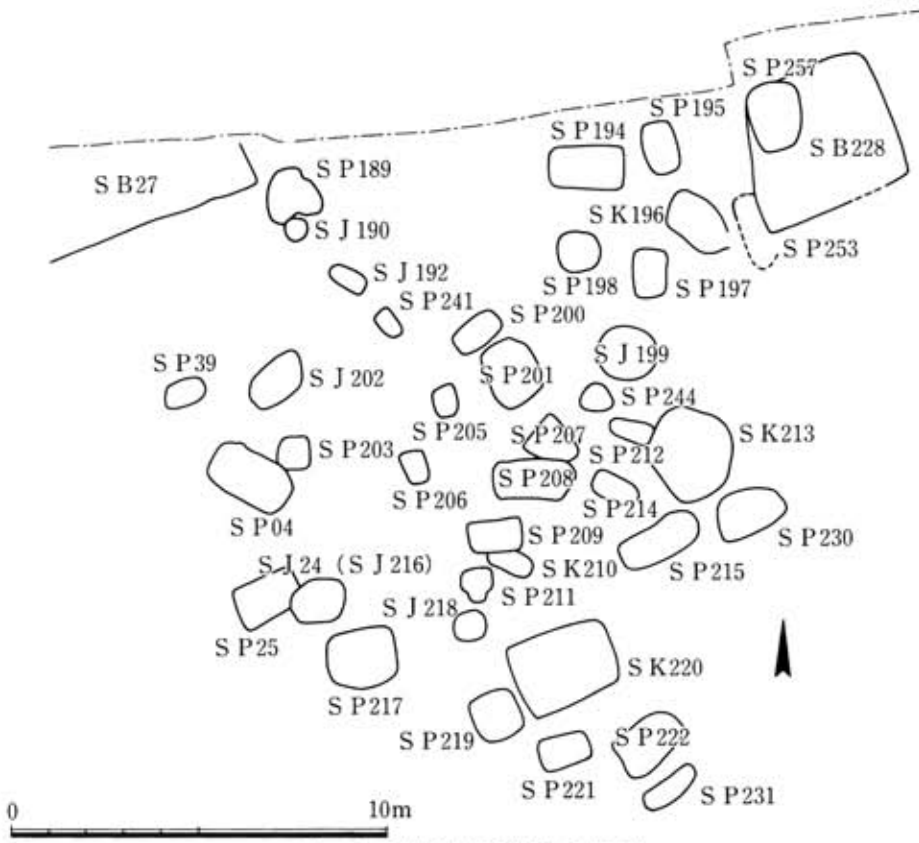



Fig. 3　墓域遺構配置図（1/200）

Tab. 1　弥生時代遺構一覧表

| 遺構番号 | 地区 | 種　別 | 形　態 | 規　模（m） | 時　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| S B161 | II区 | 竪穴住居跡 | 方形か | (3.1)×3.85 | | |
| S B163 | 〃 | 〃 | 〃 | (2.98)×(2.6) | II～III | |
| S B165 | 〃 | 〃 | 不整長方形 | 5.85×4.74 | II | |
| S D174 | 〃 | 溝跡 | | (5.1)×0.97 | II？ | |
| S K177 | 〃 | 土壙 | 不整形 | (4.53)×2.38 | II | |
| S B179 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 3.38×2.8 | | |
| S B180 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 7.13×5.38 | IV | S B29として報告 |
| S B181 | 〃 | 〃 | 〃 | (2.8)×2.86 | III | |
| S P182 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.51×0.32 | | |
| S P189 | III区 | 〃 | 〃 | 0.84×0.4 | | |
| S J 190 | 〃 | 甕棺墓 | 覆口 | | I | |
| S P192 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.04×0.38 | | |
| S P194 | 〃 | 〃 | 足元掘込 | 1.96×0.39 | | |
| S P195 | 〃 | 〃 | 横口式 | 1.2×0.3 | | |
| S K196 | 〃 | 土壙 | 不整形 | (1.6)×0.9 | | |
| S P197 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.26×0.18 | | |

| 遺構番号 | 地区 | 種　別 | 形　態 | 規　模（m） | 時　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SP198 | III区 | 土壙墓 | 横口式 | (0.65)×0.29 | | |
| SJ199 | 〃 | 甕棺墓 | 成人　覆口 | | | |
| SP200 | 〃 | 土壙墓 | 土器蓋 | 1.27×0.27 | | |
| SP201 | 〃 | 〃 | | 1.56×1.39 | | 墓かどうか不明確 |
| SJ202 | 〃 | 甕棺墓 | 成人　接口 | | | |
| SP203 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 0.88×0.25 | | |
| SP205 | 〃 | 〃 | 〃 | 0.48×0.36 | | |
| SP206 | 〃 | 〃 | 〃 | 0.72×0.31 | | |
| SP207 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.65×0.46 | | |
| SP208 | 〃 | 〃 | 〃 | 2.01×0.49 | | |
| SP209 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.55×0.49 | | |
| SK210 | 〃 | 土壙 | | 0.9×0.29 | II | |
| SP211 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 0.47×0.25 | | |
| SP212 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.02×0.16 | | |
| SK213 | 〃 | 土壙 | 不整円形 | 2.2×1.98 | III？ | 弥生時代かどうか不明確 |
| SP214 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.24×0.32 | | |
| SP215 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.93×0.29 | | |
| SJ216 | 〃 | 甕棺墓 | 成人　単棺 | | | SJ24として報告 |
| SP217 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.57×0.39 | | |
| SJ218 | 〃 | 甕棺墓 | 覆口 | | | |
| SP219 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.17×0.5 | | |
| SK220 | 〃 | 土壙 | 不整長方形 | 2.33×1.73 | III～？ | |
| SP221 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 0.9×0.34 | | |
| SP222 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.68×0.41 | | |
| SK223 | 〃 | 土壙 | 不整円形 | 2.28×2.15 | III？ | 弥生時代かどうか不明確 |
| SB224 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 3.42×2.8 | | |
| SB228 | 〃 | 竪穴住居跡 | 不整方形 | 3.78×3.56 | IV～？ | |
| SP230 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.98×0.45 | | |
| SP231 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.1×0.46 | | |
| SB232 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 5.56×4.4 | IV | SB07として報告 |
| SB233 | 〃 | 〃 | 長方形 | 4.8×(3.34) | IV？ | SB05として報告 |
| SK234 | 〃 | 土壙 | 円形 | 1.56×1.45 | II | |
| SB235 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 7.9×5.54 | VI | |
| SB236 | 〃 | 〃 | 長方形 | 6.23×3.67 | (III～) IV | |
| SB238 | 〃 | 〃 | 長方形 | 7.54×5.3 | III | |
| SB239 | 〃 | 〃 | 方形か | (3.12)×4.82 | III | |
| SP241 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 0.76×0.2 | | |
| SB243 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×2間 | 4.0×2.85 | | |
| SP244 | 〃 | 土壙墓 | 石蓋横口式 | 0.74×0.11 | | |
| SB247 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 5.46×3.45 | | |

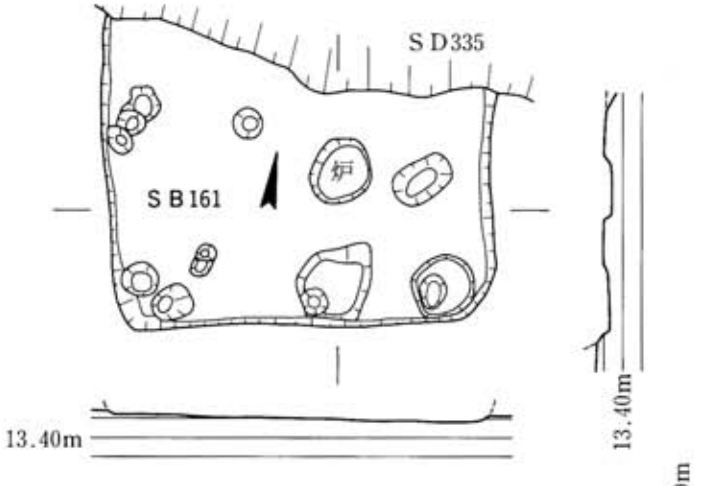
| 遺構番号 | 地区 | 種　別 | 形　態 | 規　模（m） | 時　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| S B248 | Ⅲ区 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | (2.9)×4.18 | Ⅲ | |
| S B249 | 〃 | 〃 | 長方形 | 6.34×3.89 | Ⅳ～(Ⅴ) | |
| S B251 | 〃 | 〃 | | ？×3.92 | Ⅲ | |
| S B252 | 〃 | 〃 | 長方形 | (5.5)×(3.6) | Ⅳ～ | |
| S P253 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 2.16×0.51 | | |
| S P257 | 〃 | 〃 | 〃 | 1.74×0.37 | | |
| S B260 | 〃 | 竪穴住居跡 | 方形？ | 5.3×(3.38) | Ⅱ～Ⅲ | |
| S J 261 | 〃 | 甕棺墓 | 小児 | | | |
| S B262 | 〃 | 竪穴住居跡 | 方形？ | 6.25×(5.62) | Ⅲ | |
| S B264 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.83×4.83 | Ⅲ | |
| S B265 | 〃 | 〃 | 方形？ | 5.4×(4.58) | Ⅱ～Ⅲ？ | |
| S B267 | 〃 | 〃 | 〃 | 6.48×4.66 | (Ⅲ～) Ⅳ | |
| S B269 | 〃 | 〃 | 〃 | 7.09×5.57 | Ⅳ (～Ⅴ) | |
| S B273 | 〃 | 〃 | 〃 | (6.0)×4.57 | Ⅲ | |
| S K279 | 〃 | 土壙 | 〃 | 1.21×0.92 | | |
| S B280 | 〃 | 竪穴住居跡 | 〃 | 4.13×2.67 | Ⅲ？ | |
| S B281 | 〃 | 〃 | 〃 | 3.54×2.89 | Ⅱ | |
| S B282 | 〃 | 〃 | | | Ⅴ | |
| S B283 | 〃 | 〃 | 長方形？ | (3.4)×3.64 | Ⅲ | |
| S B284 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.4×4.44 | Ⅱ～Ⅲ | |
| S B287 | 〃 | 〃 | | | Ⅲ？ | |
| S B288 | 〃 | 〃 | 長方形 | 4.88×4.31 | Ⅴ？ | |
| S B289 | 〃 | 〃 | 〃 | (4.75)×(2.7) | Ⅳ | |
| S B291 | 〃 | 〃 | 方形？ | 5.5×(5.7) | | |
| S B295 | 〃 | 〃 | 長方形？ | (4.2)×(4.8) | Ⅱ～Ⅲ | |
| S B297 | 〃 | 〃 | | | Ⅲ？ | |
| S B298 | 〃 | 〃 | 長方形 | 6.12×4.68 | Ⅳ | |
| S B299 | 〃 | 〃 | 長方形？ | 6.48×(2.56) | Ⅲ | |
| S B300 | 〃 | 〃 | 方形 | 5.27×5.2 | Ⅲ | |
| S B301 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.95×4.71 | Ⅲ | |
| S X302 | 〃 | 不明遺構 | 溝跡状 | (8.86)×2.48 | Ⅲ | |
| S P305 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | (0.79)×(0.4) | | |
| S B306 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 5.54×3.61 | Ⅳ | |
| S B311 | 〃 | 〃 | 〃 | (5.42)×4.85 | Ⅲ | |
| S B312 | 〃 | 〃 | 長方形？ | | Ⅱ～Ⅲ | |
| S B320 | 〃 | 〃 | 長方形 | (5.4)×3.98 | Ⅳ(～Ⅴ？) | |
| S B321 | 〃 | 〃 | 方形 | 4.56×(4.26) | Ⅳ | |
| S B322 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.36×4.18 | (Ⅲ～) Ⅳ | |
| S B323 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.7×(3.4) | (Ⅲ～) Ⅳ | |
| S K324 | 〃 | 土壙 | 長楕円形 | (6.5)×0.27 | Ⅳ | |

| 遺構番号 | 地区 | 種別 | 形態 | 規模（m） | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SB334 | III区 | 竪穴住居跡 | | | | |
| SK336 | II区 | 土壙 | 楕円形 | 1.3×1.1 | II | 土壙墓か |
| SB337 | 〃 | 竪穴住居跡 | | | | |
| SB348 | III区 | 〃 | 長方形 | 7.06×4.52 | IV | |
| SB349 | 〃 | 〃 | 〃 | 6.28×3.72 | III | |
| SB355 | 〃 | 〃 | 〃 | 8.1×5.68 | III | |
| SK357 | 〃 | 土壙 | 不整長方形 | 2.53×0.95 | | |
| SB358 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | (5.3)×(3.14) | III？ | |
| SB359 | 〃 | 〃 | | (3.07)×4.8 | III？ | |
| SK361 | 〃 | 土壙 | 不整方形 | 1.97×1.77 | III | |
| SB362 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | | (III～) IV | |
| SB365 | 〃 | 〃 | 長方形 | 7.12×4.12 | (II～) III | |
| SB380 | 〃 | 〃 | 長方形？ | | IV？ | |
| SB381 | 〃 | 〃 | | | IV？ | |
| SB387 | 〃 | 〃 | | | IV | |
| SB391 | 〃 | 〃 | 長方形 | 6.6×4.1 | III | |
| SK392 | 〃 | 土壙 | 不整形 | 0.78×0.43 | | |
| SB393 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 7.24×4.43 | III | |
| SB394 | 〃 | 〃 | 〃 | (3.83)×3.3 | III | |
| SB397 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 2.9×2.75 | | |
| SB400 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形 | 5.33×4.29 | II～III | |
| SB402 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 3.8×3.2 | | |
| SB403 | 〃 | 〃 | 1間×2間 | 4.9×3.42 | | |
| SB404 | 〃 | 〃 | 1間×1間 | 2.4×2.2 | | |
| SB405 | 〃 | 〃 | 1間×2間 | 3.75×2.98 | | |
| SB406 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.0×2.46 | | |
| SB407 | 〃 | 〃 | 〃 | 4.82×3.42 | | |
| SP04 | NYN | 土壙墓 | 2段掘 | 1.4×0.42 | | 木棺墓か |
| SB05 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | 4.8×(3.34) | IV | SB233と同一住居 |
| SB06 | 〃 | 〃 | 長方形 | (3.9)×3.77 | (II) ～III | |
| SB07 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.56×4.4 | IV？ | SB232と同一住居 |
| SB08 | 〃 | 〃 | 長方形？ | 5.61×(1.42) | III | |
| SB09 | 〃 | 〃 | 〃 | 7.82×(3.8) | II～III | |
| SB10 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.62×4.48 | II～III | |
| SB13 | 〃 | 〃 | 〃 | 3.38×2.88 | IV | |
| SB14 | 〃 | 〃 | 方形 | 3.96×4.12 | IV？ | |
| SB15 | 〃 | 〃 | 長方形 | 5.77×5.19 | IV | |
| SB16 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.9×3.71 | II | |
| SB22 | 〃 | 〃 | | (4.58)×(3.0) | IV(～V？) | |
| SJ24 | 〃 | 甕棺墓 | 成人　単棺 | | I | |

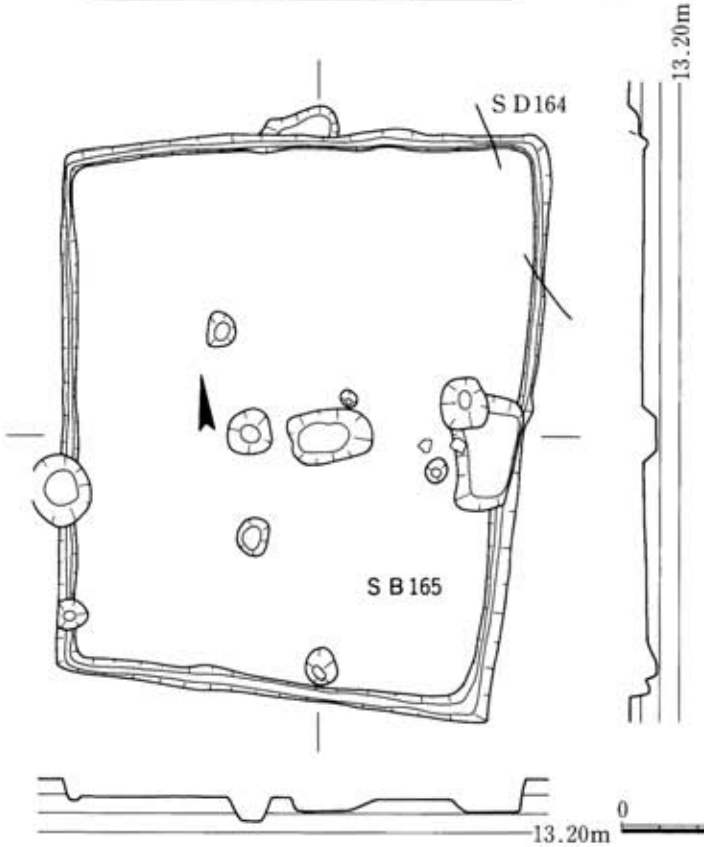
| 遺構番号 | 地区 | 種　別 | 形　態 | 規　模（m） | 時　期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＰ25 | NYN | 土壙墓 | 横口式 | 1.61×0.47 | | |
| ＳＢ26 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×2間 | 3.28×2.8 | Ⅳ（～Ⅴ） | |
| ＳＢ27 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | (6.5)×(2.32) | Ⅴ | |
| ＳＢ28 | 〃 | 〃 | 〃 | (3.6)×(3.9) | Ⅳ | |
| ＳＢ29 | 〃 | 〃 | 長方形 | 7.13×5.38 | Ⅳ | ＳＢ180と同一住居 |
| ＳＢ30 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 2間×2間 | 3.38×3.32 | Ⅳ～ | |
| ＳＢ31 | 〃 | 竪穴住居跡 | 方形？ | (4.1)×4.81 | Ⅳ | |
| ＳＢ35 | 〃 | 〃 | 長方形 | 3.74×2.48 | Ⅲ？ | |
| ＳＢ36 | 〃 | 〃 | 〃 | 4.83×3.66 | Ⅳ？ | |
| ＳＢ37 | 〃 | 〃 | | (3.5)×(2.55) | Ⅳ | |
| ＳＰ39 | 〃 | 土壙墓 | 横口式 | 1.02×0.42 | | |
| ＳＢ40 | 〃 | 竪穴住居跡 | 方形？ | (3.94)×5.14 | | |
| ＳＢ41 | 〃 | 〃 | 長方形 | 4.57×(6.43) | Ⅴ | |
| ＳＢ42 | 〃 | 〃 | | (3.7)×3.89 | Ⅳ？ | |
| ＳＢ45 | 〃 | 〃 | 長方形 | 3.9×(6.5) | Ⅳ（～Ⅴ） | |
| ＳＢ46 | 〃 | 〃 | | | Ⅲ？ | |
| ＳＢ47 | 〃 | 〃 | 長方形 | 4.15×2.84 | Ⅲ | |
| ＳＢ49 | 〃 | 〃 | 長方形 | (4.3)×3.85 | Ⅲ | |
| ＳＫ50 | 〃 | 土壙 | 方形 | 1.89×1.83 | Ⅳ？ | |
| ＳＢ51 | 〃 | 竪穴住居跡 | 長方形？ | (4.94)×(2.34) | Ⅲ | |
| ＳＢ52 | 〃 | 〃 | 〃 | (3.64)×3.71 | Ⅲ | |
| ＳＢ53 | 〃 | 〃 | 長方形 | 6.64×5.28 | Ⅲ？ | |
| ＳＢ54 | 〃 | 〃 | 〃 | 4.48×3.57 | Ⅵ | |
| ＳＢ55 | 〃 | 〃 | 〃 | 5.76×3.84 | Ⅳ | |
| ＳＢ56 | 〃 | 〃 | | | Ⅱ～Ⅲ | |
| ＳＢ57 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 3.26×2.5 | Ⅵ | |
| ＳＢ60 | 〃 | 竪穴住居跡 | 方形？ | (3.05)×3.39 | Ⅳ？ | |
| ＳＢ63 | 〃 | 〃 | 長方形？ | 5.58×(4.46) | Ⅲ | |
| ＳＢ64 | 〃 | 〃 | 長方形 | (4.22)×4.02 | Ⅱ | |
| ＳＢ72 | 〃 | 〃 | 〃 | (6.31)×4.23 | Ⅱ | |
| ＳＢ76 | 〃 | 〃 | 方形 | 3.6×4.15 | Ⅵ | |
| ＳＢ78 | 〃 | 〃 | 長方形？ | (5.94)×(2.68) | Ⅳ | |
| ＳＢ81 | 〃 | 〃 | 〃 | 6.56×(3.78) | Ⅲ | |
| ＳＢ82 | 〃 | 〃 | | 5.4×3.62 | | |
| ＳＢ83 | 〃 | 〃 | 長方形？ | 7.02×(1.75) | Ⅲ | |
| ＳＢ91 | 〃 | 掘立柱建物跡 | 1間×1間 | 3.07×2.92 | | |
| ＳＢ92 | 〃 | 〃 | 〃 | 3.11×2.9 | | |
| ＳＢ93 | 〃 | 〃 | 1間×2間 | 4.0×2.84 | | |
| ＳＢ94 | 〃 | 〃 | 〃 | 6.68×3.18 | | |
| ＳＢ95 | 〃 | 〃 | 2間×2間 | 4.4×3.88 | | 弥生時代かどうか不明確 |

## (1) 竪穴住居跡

弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡は100棟検出された。残存状況が悪く，プランなど不明なものを除き88棟を図示した。以下，東山田一本杉遺跡として登録されているものから順に説明する。また，図示しなかったものについては遺構一覧表を参考にされたい。

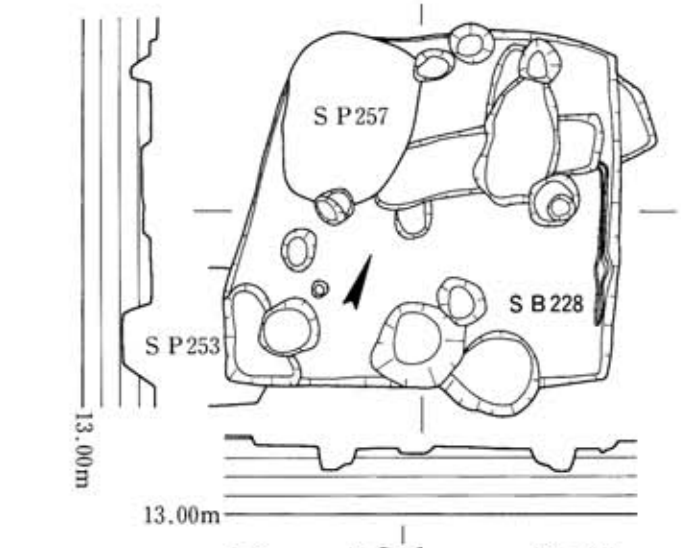



**ＳＢ161**
**形態**　方形か
**規模**　3.1＋α×3.85m
**特徴**　ＳＤ335に切られる。床面は礫混じりの黄褐色砂質土。やや偏在して炉がある。主柱穴は不明。

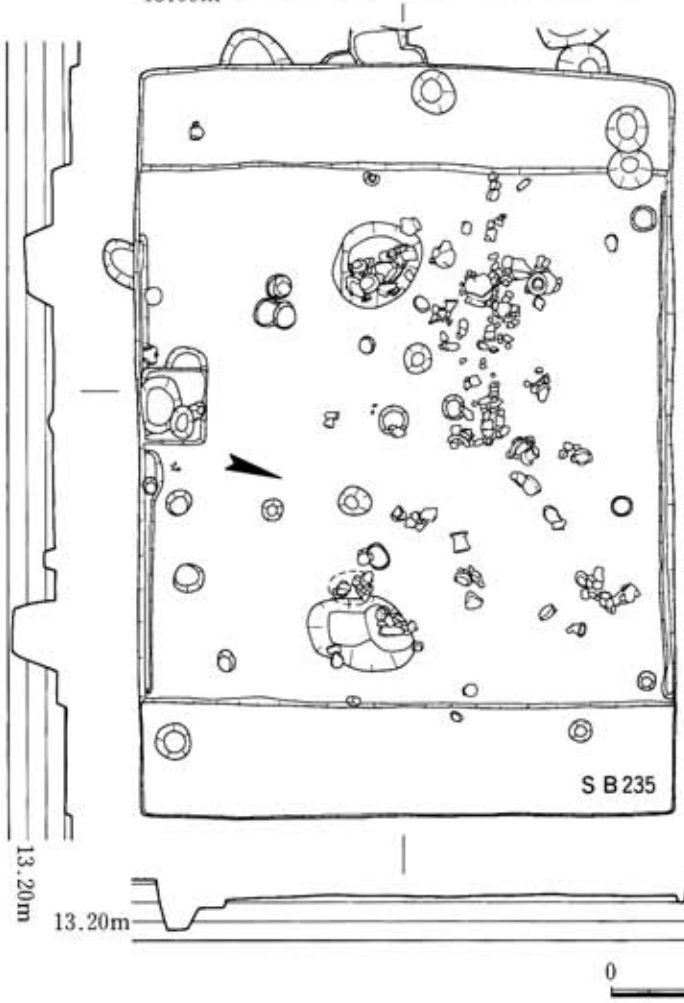



**ＳＢ165**
**形態**　不整形の長方形
**規模**　5.85×4.74m
**特徴**　ＳＤ164，167に切られる。埋土はやや砂質の褐色土。周溝がめぐる。東辺中央に壁際土壙がある。炉，主柱穴は不明。

Fig. 4　ＳＢ161・165竪穴住居跡（1/80）




**S B228**
**形態**　方形
**規模**　3.78×3.56m
**特徴**　S P257を切るものと思われる。埋土は黒褐色土，貼床は黄褐色土と褐色土。東壁に周溝と思われる溝がある。主柱穴は明確にできないが，2本柱の可能性が高い。




**S B235**
**形態**　長方形
**規模**　7.9×5.54m
**特徴**　2本柱の大型住居。S B258に切られる。床面は黒褐色土が若干混じる黄褐色土。東西両辺に削り出しのベッド状遺構，南北両壁に周溝がある。また，南辺中央に壁際土壙がある。土器が多量に出土している。

Fig. 5　S B228・235竪穴住居跡（1/80）

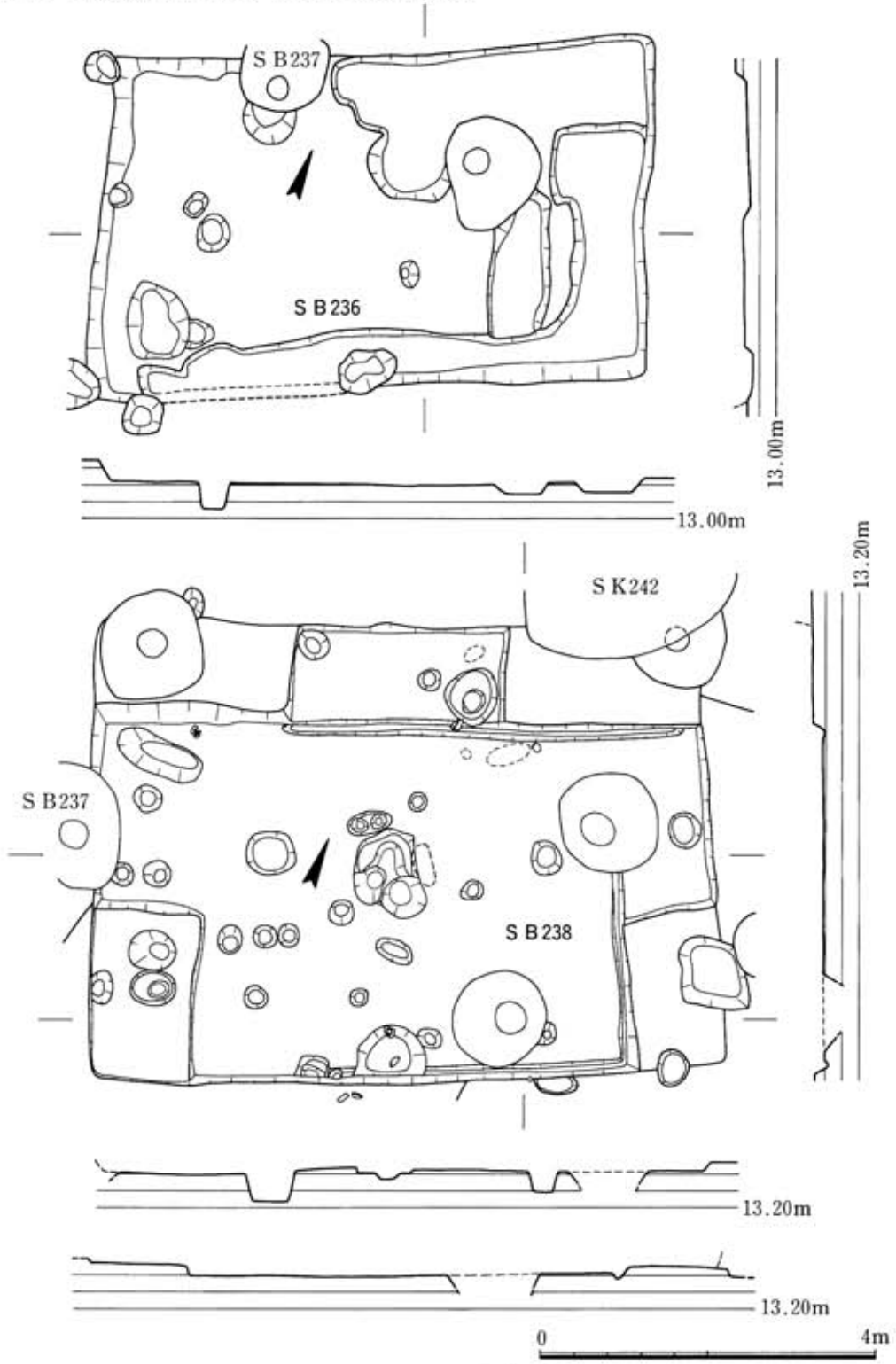



Fig. 6　S B236・238竪穴住居跡（1/80）

**ＳＢ236**

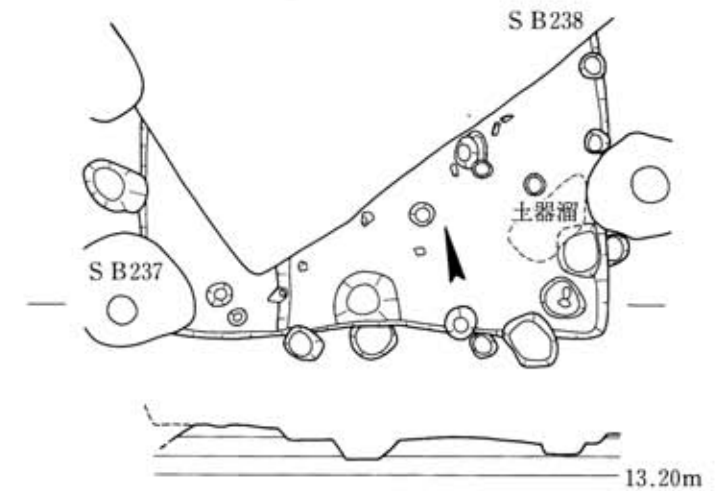
**形態**　長方形　　**規模**　6.23×3.67m

**特徴**　ＳＢ237に切られる。全体に削平が激しい。埋土は褐色土，床面は黄褐色土。炉，主柱穴は不明。

**ＳＢ238**

**形態**　長方形　　**規模**　7.54×5.3m

**特徴**　ＳＢ239・260を切り，ＳＢ238，ＳＫ242に切られる。削り出しのベッド状遺構はかなり特異な形態で，四隅にそれぞれある。中央に炉，南壁に壁際土壙がある。２本柱か。周溝が南壁から東壁，北壁にある。

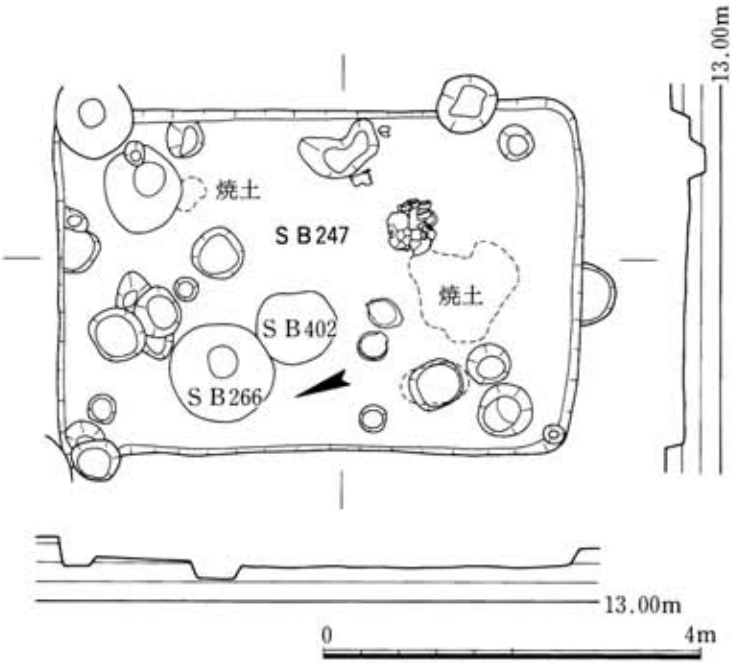



**ＳＢ239**

**形態**　方形か

**規模**　3.12＋α×4.82m

**特徴**　ＳＢ237・238に切られる。床面は全体に凸凹が激しく，黄褐色土で貼床をする。東辺に削り出しのベッド状遺構，南辺中央に壁際土壙がある。



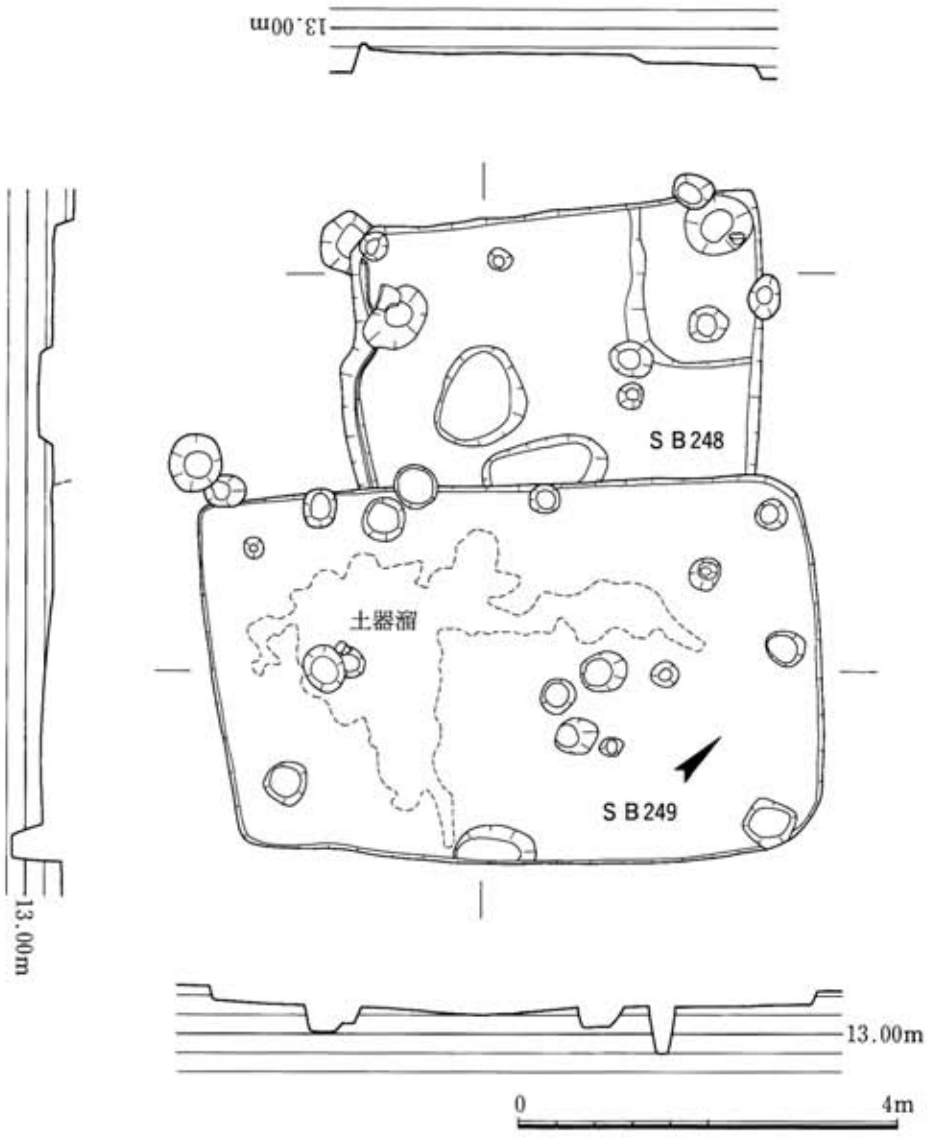

**ＳＢ247**

**形態**　長方形

**規模**　5.46×3.45m

**特徴**　ＳＢ237・266・401・402に切られる。床面は南側が傾斜しており，南側を黄褐色土がブロック状に多量に混ざった黒褐色土で貼床をして，水平にする。炉，主柱穴は不明。

Fig. 7　ＳＢ239・247竪穴住居跡（１/80）




**ＳＢ248**

**形態**　長方形か　　**規模**　2.9＋α×4.18m

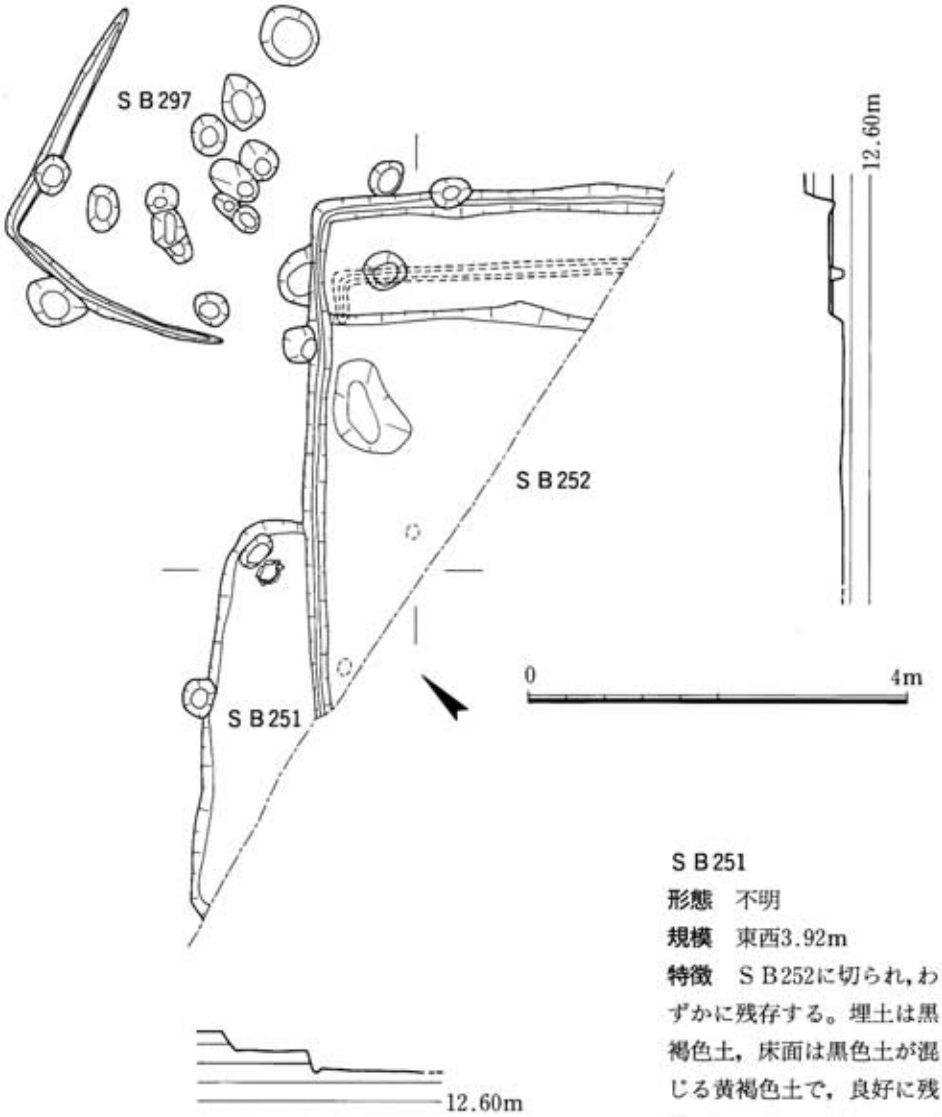
**特徴**　ＳＢ249に切られる。床面は不明確だが，黄褐色土がブロック状に混ざる褐色土。北隅に削り出しのベッド状遺構，南西壁に周溝がある。

**ＳＢ249**

**形態**　長方形　　**規模**　6.34×3.89m

**特徴**　ＳＢ248を切る。床面は黄褐色土が混じる黒色土であるが，明確ではなく，凹凸が激しい。南東辺中央に壁際土壙がある。２本柱か。土器が多量に出土している。

Fig. 8　ＳＢ248・249竪穴住居跡（1/80）

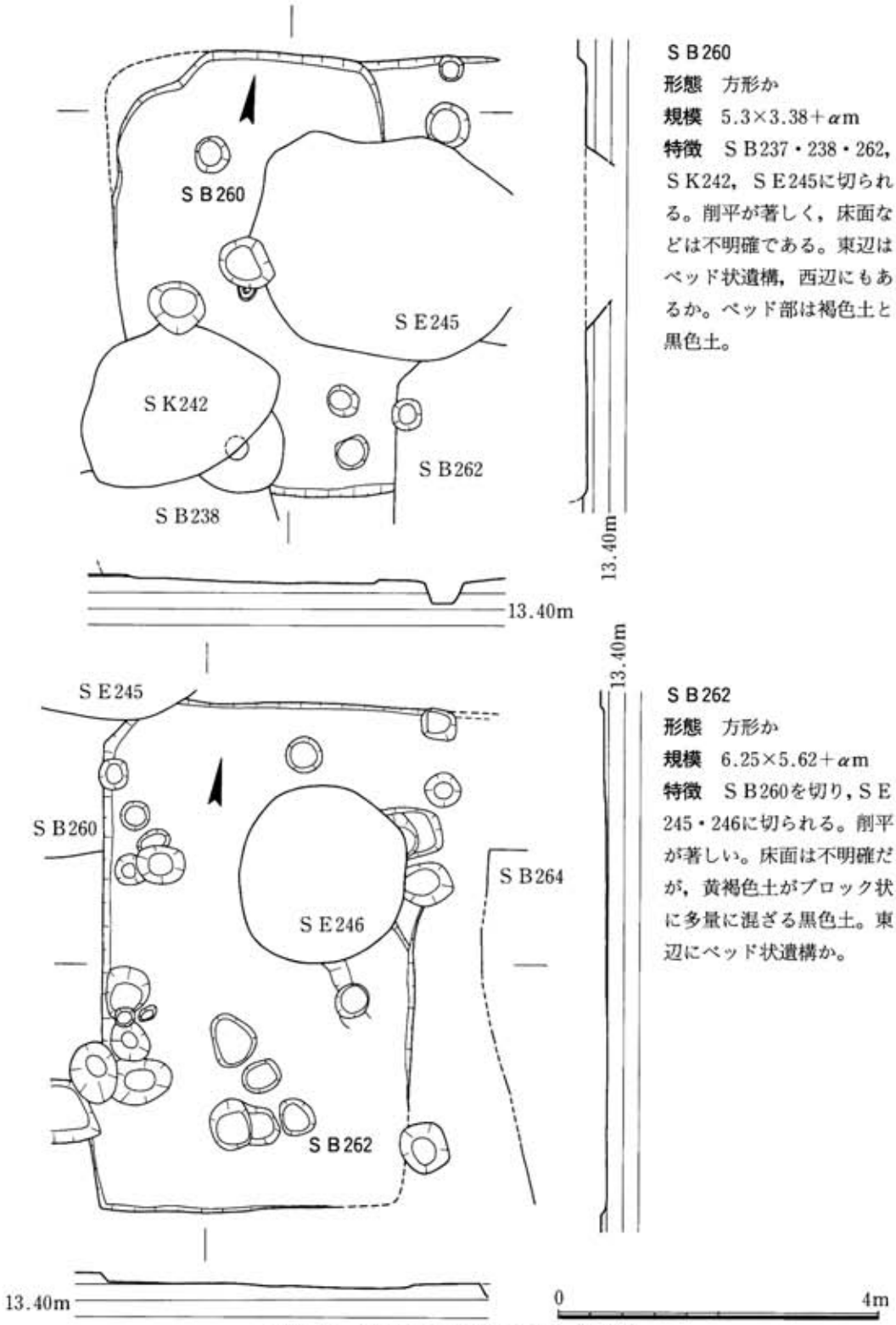



**S B251**
**形態**　不明
**規模**　東西3.92m
**特徴**　S B252に切られ，わずかに残存する。埋土は黒褐色土，床面は黒色土が混じる黄褐色土で，良好に残る。

**S B252**
**形態**　長方形か　　**規模**　5.5＋α×3.6＋αm
**特徴**　S B251を切る。かなりの部分が調査区外にある。床面は一部黒色土が混じる黄褐色土。北東辺にベッド状遺構がある。削り出しと黒色土で貼床をする部分がある。周溝がめぐる。

**S B297**
**形態・規模**　不明
**特徴**　周溝のみ一部確認された。

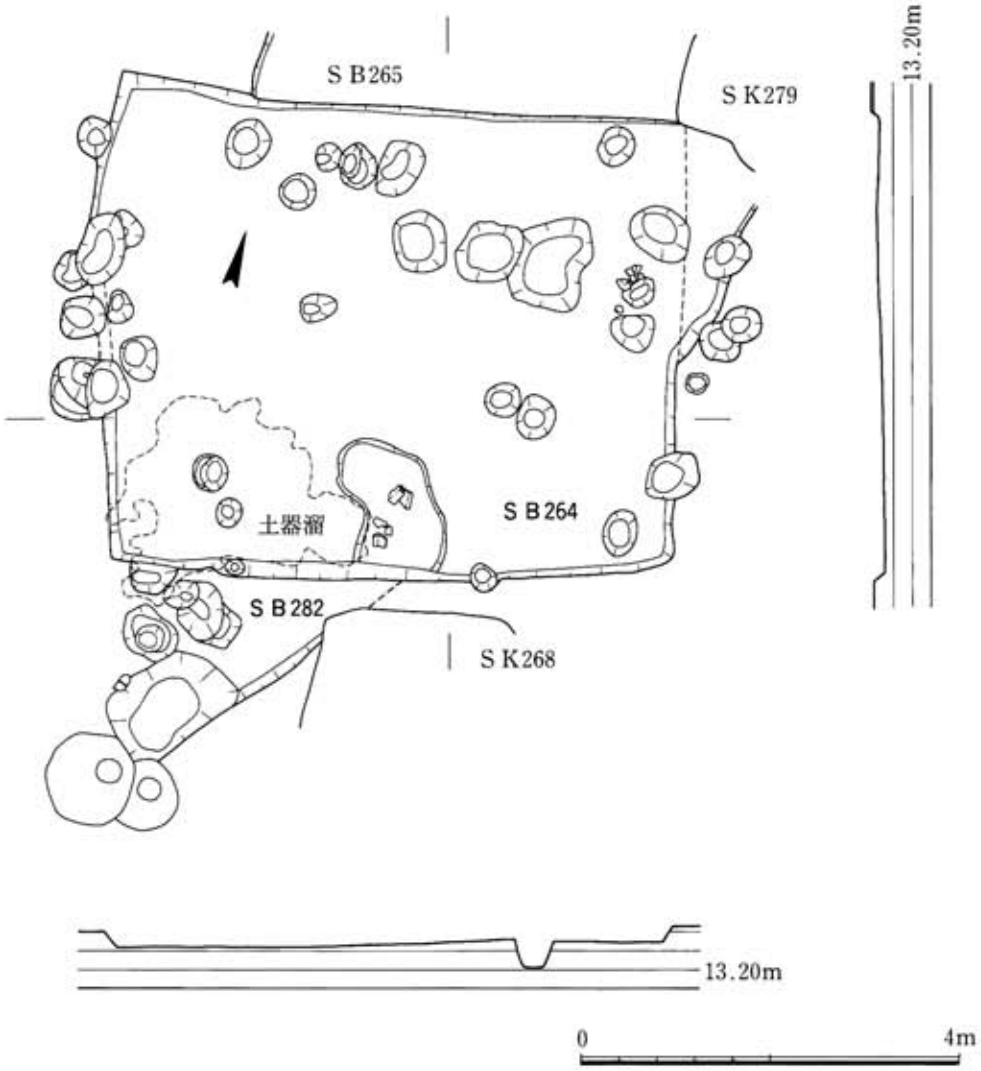
Fig. 9　S B251・252・297竪穴住居跡（1/80）




**S B260**
**形態**　方形か
**規模**　5.3×3.38＋αm
**特徴**　S B237・238・262，S K242，S E245に切られる。削平が著しく，床面などは不明確である。東辺はベッド状遺構，西辺にもあるか。ベッド部は褐色土と黒色土。

**S B262**
**形態**　方形か
**規模**　6.25×5.62＋αm
**特徴**　S B260を切り，S E 245・246に切られる。削平が著しい。床面は不明確だが，黄褐色土がブロック状に多量に混ざる黒色土。東辺にベッド状遺構か。

Fig. 10　S B260・262竪穴住居跡（1/80）



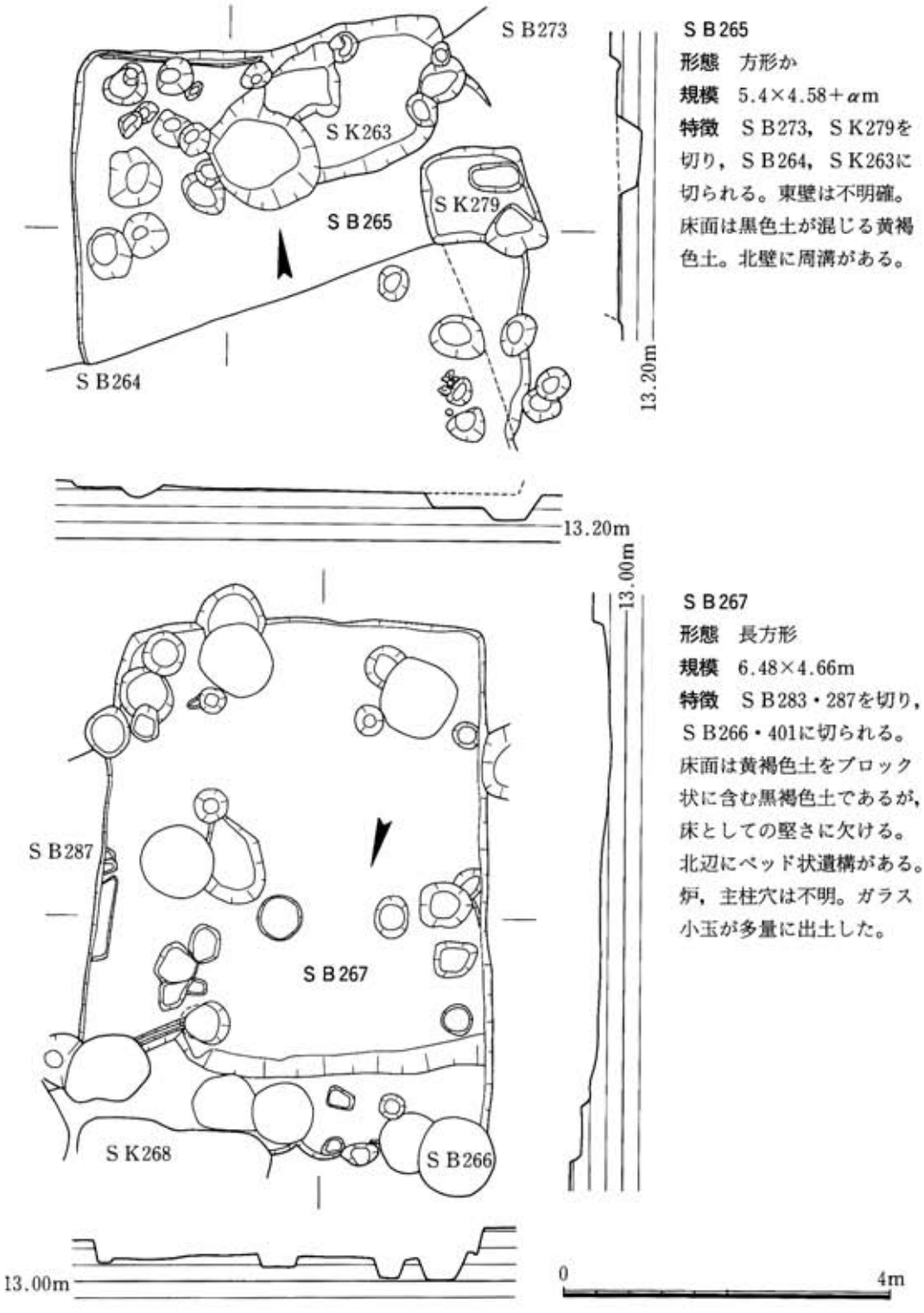

**S B264**　**形態**　長方形　**規模**　5.83×4.83m

**特徴**　S B265を切り，S B282に切られる。床面は黄褐色土と黒色土。不整形であるが，南辺中央に壁際土壙がある。炉，主柱穴は不明。南西部の土器溜は床面から20～30cm上にあり，S B282に伴うものと考えられる。

**S B282**　**形態・規模**　不明

**特徴**　S B264を切り，S B266・401に切られる。南東壁と壁際土壙と考えられるもののみ確認される。土器の出土量は多い。

Fig. 11　S B264・282竪穴住居跡（1/80）

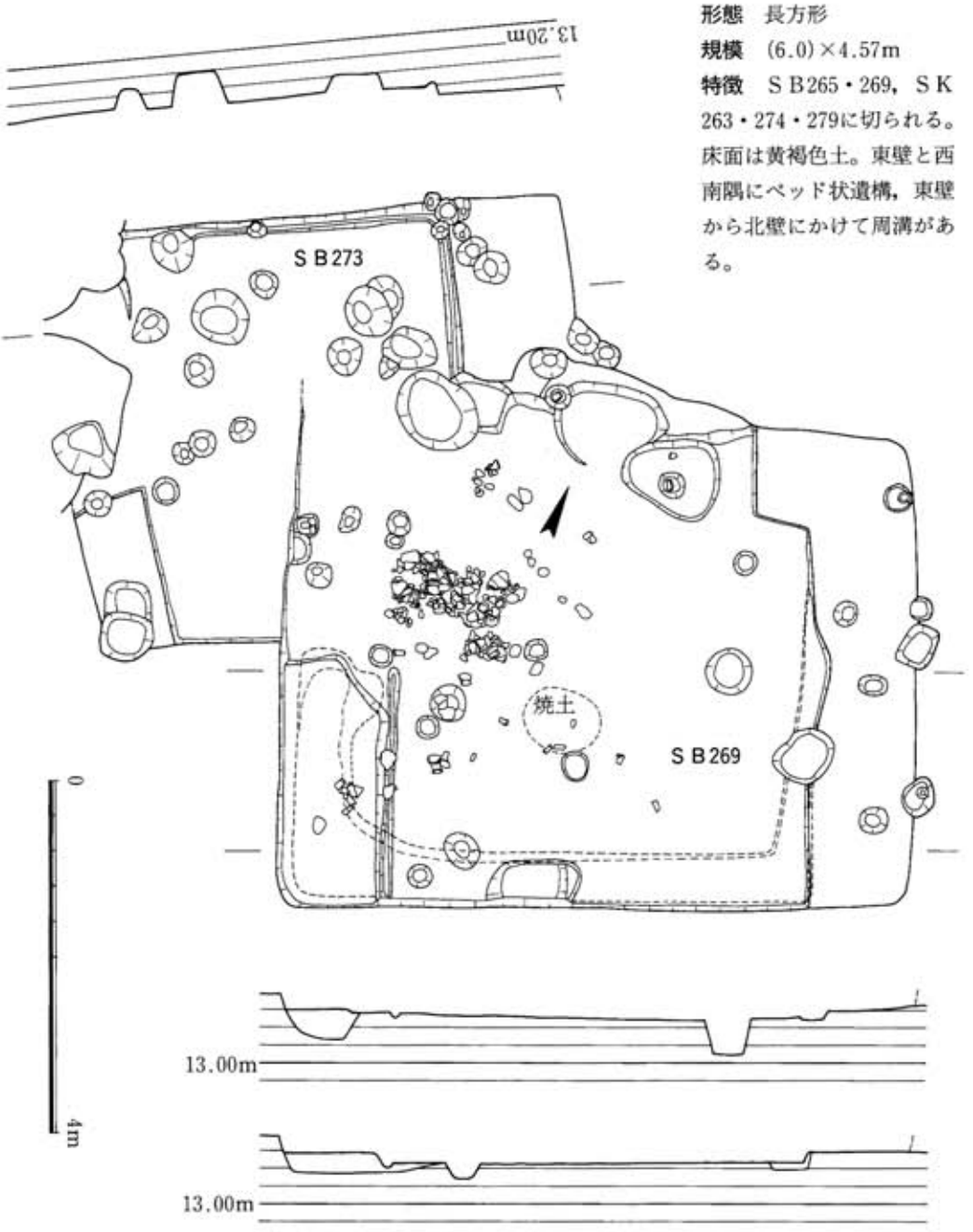



**S B265**
**形態**　方形か
**規模**　5.4×4.58＋αm
**特徴**　S B273，S K279を切り，S B264，S K263に切られる。東壁は不明確。床面は黒色土が混じる黄褐色土。北壁に周溝がある。

**S B267**
**形態**　長方形
**規模**　6.48×4.66m
**特徴**　S B283・287を切り，S B266・401に切られる。床面は黄褐色土をブロック状に含む黒褐色土であるが，床としての堅さに欠ける。北辺にベッド状遺構がある。炉，主柱穴は不明。ガラス小玉が多量に出土した。

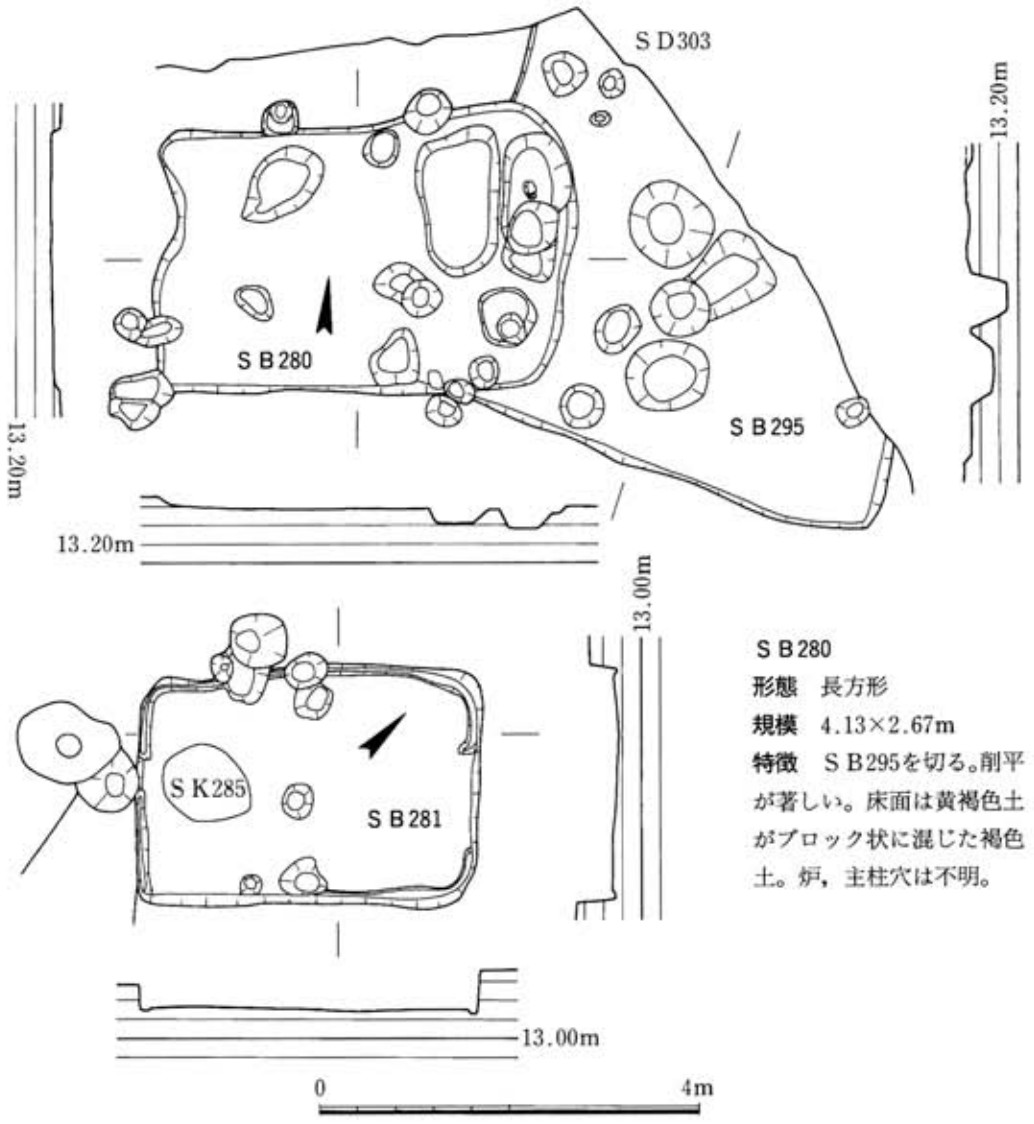
Fig. 12　S B265・267竪穴住居跡（1/80）

**ＳＢ273**
**形態**　長方形
**規模**　(6.0)×4.57m
**特徴**　ＳＢ265・269，ＳＫ263・274・279に切られる。床面は黄褐色土。東壁と西南隅にベッド状遺構，東壁から北壁にかけて周溝がある。




**ＳＢ269**　**形態**　長方形　**規模**　7.09×5.57m
**特徴**　ＳＢ273を切る。床面は黄褐色土。中央南寄りにわずかに焼土があり，炉と考えられる。東西両辺にベッド状遺構がある。西辺のものは下層を黒色土で，上層を褐色土で貼床をする。

Fig. 13　ＳＢ269・273竪穴住居跡（1/80）



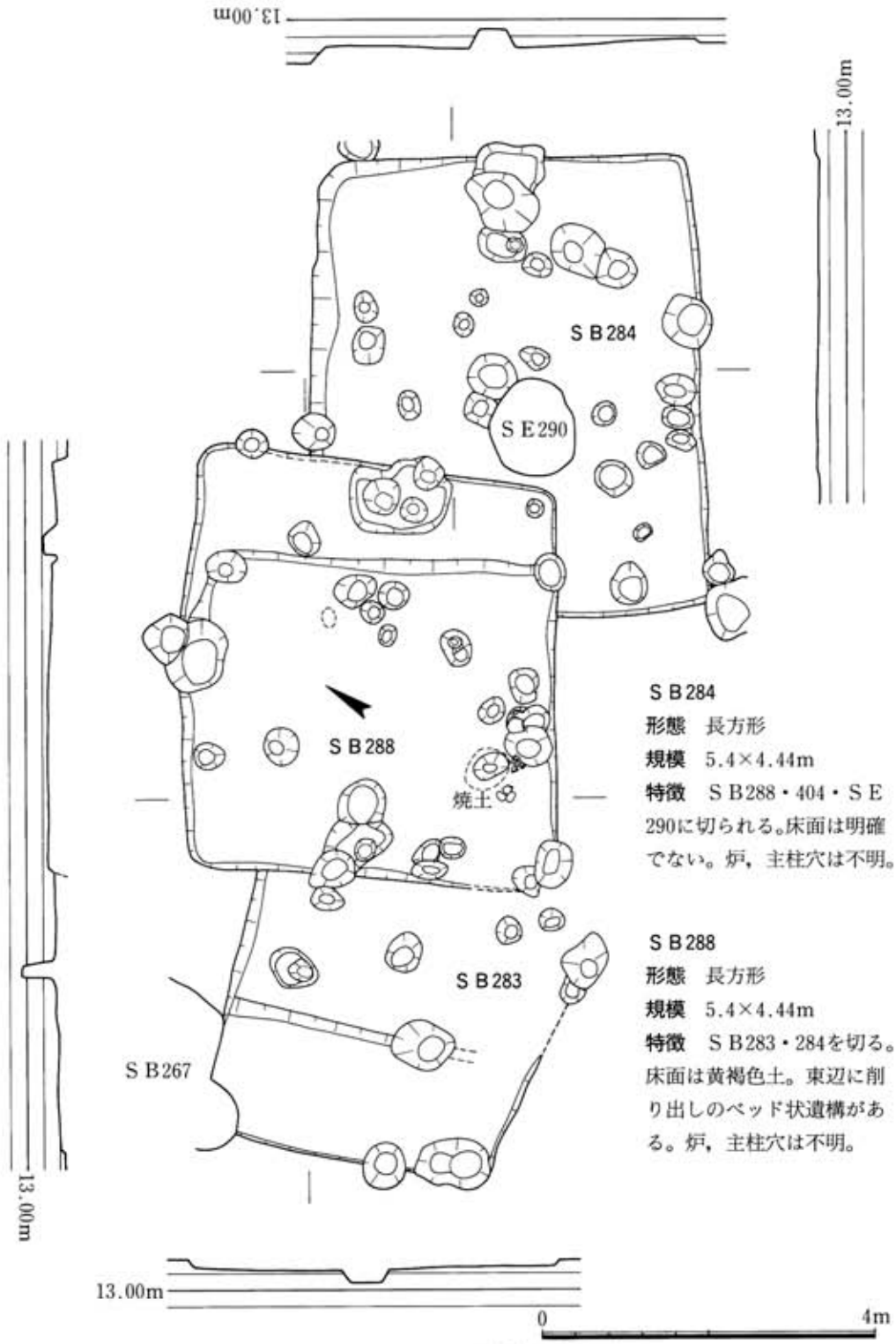

**SB280**
**形態**　長方形
**規模**　4.13×2.67m
**特徴**　SB295を切る。削平が著しい。床面は黄褐色土がブロック状に混じた褐色土。炉，主柱穴は不明。

**SB281**
**形態**　小型の長方形
**規模**　3.54×2.89m
**特徴**　SK285に切られる。床面は黄褐色土。とぎれとぎれに周溝がめぐる。

**SB295**
**形態**　長方形か
**規模**　4.2+α×（4.8）m
**特徴**　SB280，SD303に切られる。床面は黄褐色土。2本柱か。

**SB283**
**形態**　長方形か
**規模**　3.4+α×3.64m
**特徴**　SB267・288・401に切られる。床面は暗黄褐色土であるが，明確ではない。

Fig. 14　SB280・281・295竪穴住居跡（1/80）




**S B284**
**形態**　長方形
**規模**　5.4×4.44m
**特徴**　S B288・404・S E 290に切られる。床面は明確でない。炉，主柱穴は不明。

**S B288**
**形態**　長方形
**規模**　5.4×4.44m
**特徴**　S B283・284を切る。床面は黄褐色土。東辺に削り出しのベッド状遺構がある。炉，主柱穴は不明。

Fig. 15　S B283・284・288竪穴住居跡（1/80）

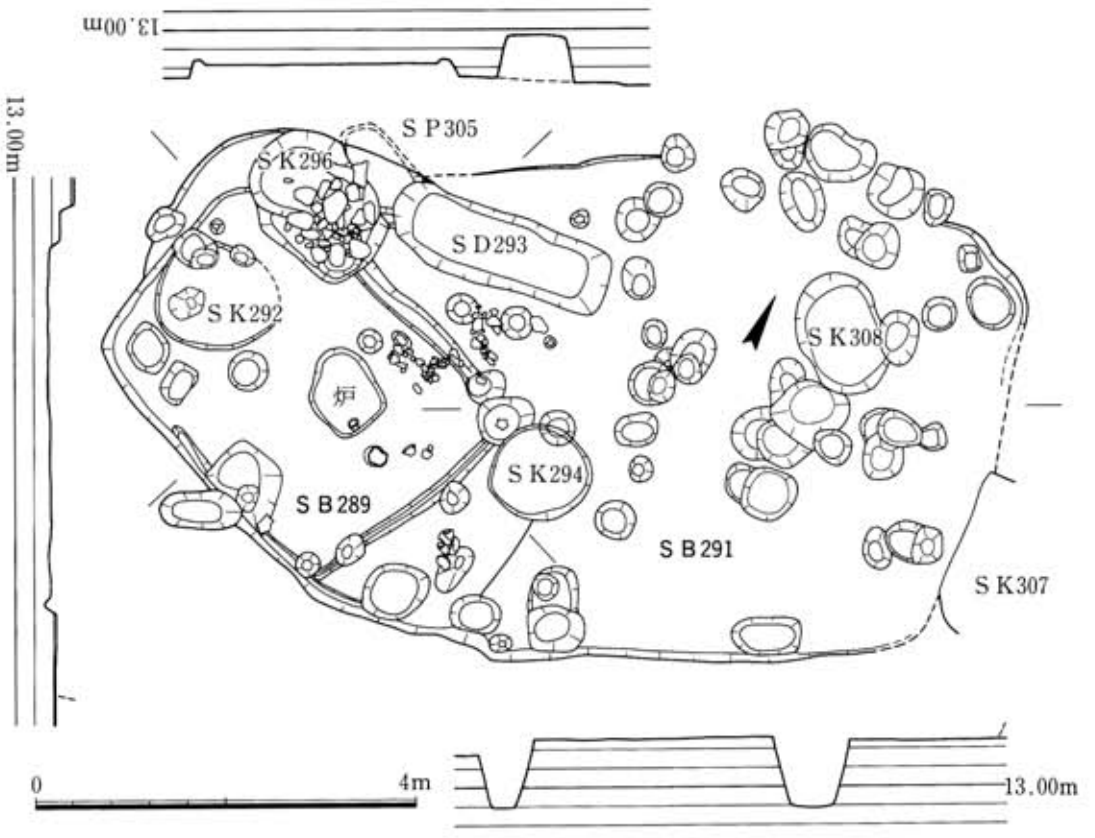



Fig. 16　S B289・291竪穴住居跡（1/80）

**S B289**　**形態**　長方形　**規模**　(4.75)×（2.7）m
**特徴**　S B291・S P305を切り，S K292・294・296，S D293に切られる。中央に炉，南辺に壁際土壙，東辺にベッド状遺構がある。北壁，東壁から南壁にかけて周溝がめぐる。

**S B291**　**形態**　方形か　**規模**　(5.7)×5.5m
**特徴**　S B289，S K294・307・308に切られる。床面は褐色土。残存状況が悪く詳細は不明。

**S B298**　**形態**　長方形　**規模**　6.12×4.68m
**特徴**　S B299・300を切る。中央に炉，南辺中央に壁際土壙がある典型的な2本柱の長方形住居である。床面は黄褐色土。周溝がめぐり，東西両辺に削り出しのベッド状遺構がある。土器の出土量も多い。

**S B299**　**形態**　方形　**規模**　6.48×2.56+αm
**特徴**　S B298・300に切られる。床面は褐色土。北辺に削り出しのベッド状遺構がある。

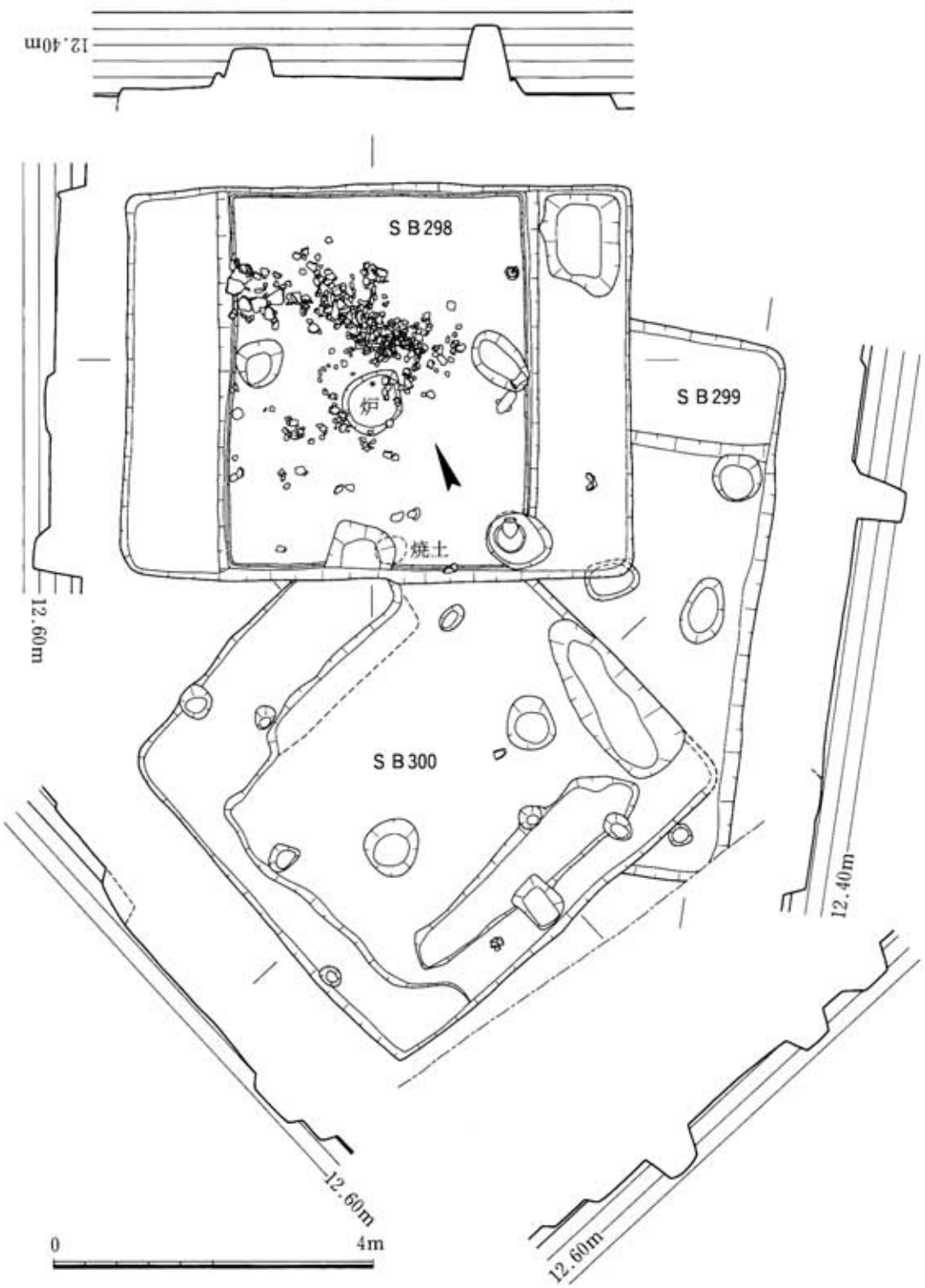
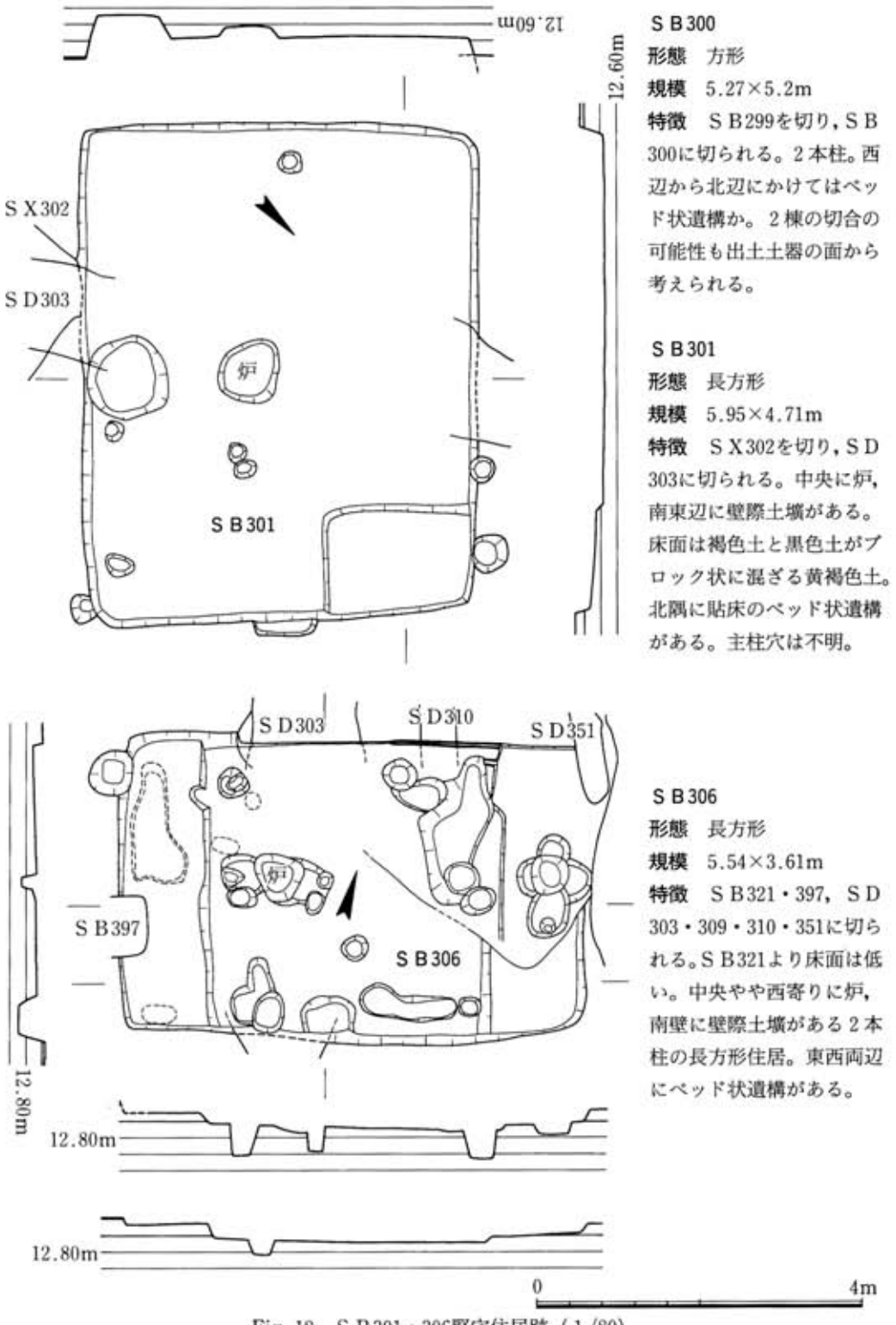



Fig. 17　S B298・299・300竪穴住居跡（1/80）

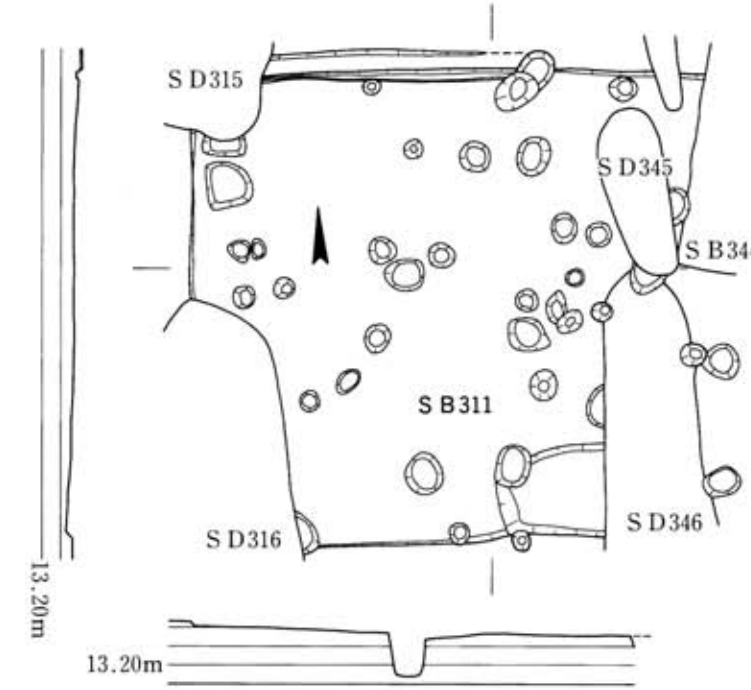



**ＳＢ300**
**形態**　方形
**規模**　5.27×5.2m
**特徴**　ＳＢ299を切り，ＳＢ300に切られる。２本柱。西辺から北辺にかけてはベッド状遺構か。２棟の切合の可能性も出土土器の面から考えられる。

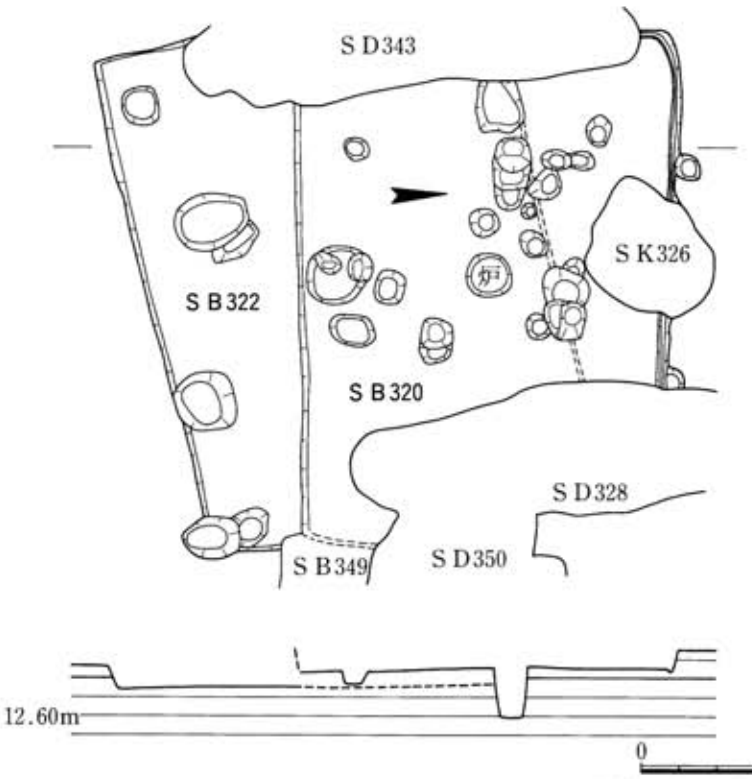
**ＳＢ301**
**形態**　長方形
**規模**　5.95×4.71m
**特徴**　ＳＸ302を切り，ＳＤ303に切られる。中央に炉，南東辺に壁際土壙がある。床面は褐色土と黒色土がブロック状に混ざる黄褐色土。北隅に貼床のベッド状遺構がある。主柱穴は不明。

**ＳＢ306**
**形態**　長方形
**規模**　5.54×3.61m
**特徴**　ＳＢ321・397，ＳＤ303・309・310・351に切られる。ＳＢ321より床面は低い。中央やや西寄りに炉，南壁に壁際土壙がある２本柱の長方形住居。東西両辺にベッド状遺構がある。

Fig. 18　ＳＢ301・306竪穴住居跡（1/80）



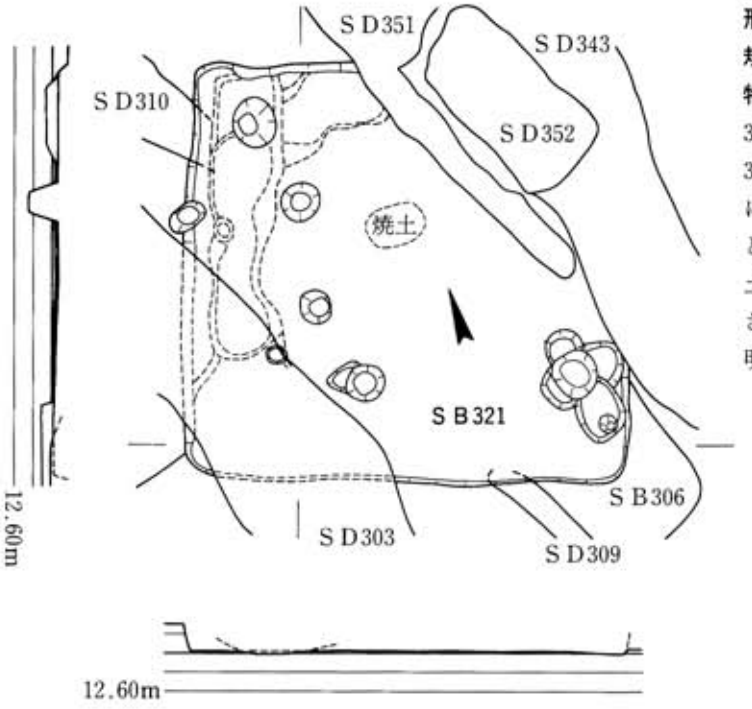

**S B311**
**形態**　長方形
**規模**　5.42＋α×4.85m
**特徴**　S B344，S D315・316・345・346に切られる。床面は黄褐色土。北壁に周溝がある。



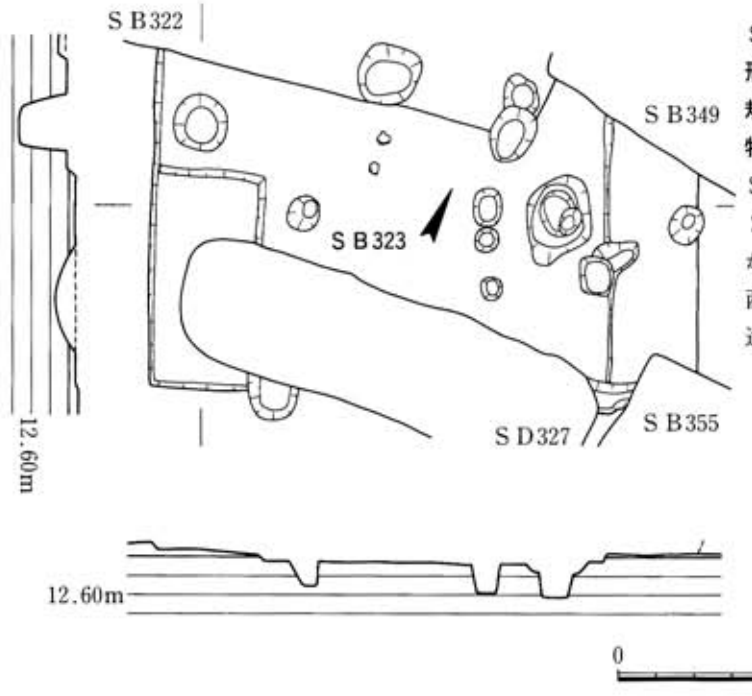

**S B320**
**形態**　長方形
**規模**　(5.4)×3.98m
**特徴**　S B322・349を切り，S D328・343・350，S K329に切られる。中央に炉がある。北壁から東壁にかけて周溝がめぐり，南壁にもあった可能性がある。

**S B322**
**形態**　長方形
**規模**　5.36×4.18m
**特徴**　S B323を切り，S B320・321，S D343・349に切られる。S B320より床面は低い。床面は褐色土がブロック状に混ざる黄褐色土。

Fig. 19　S B311・320・322竪穴住居跡（1/80）

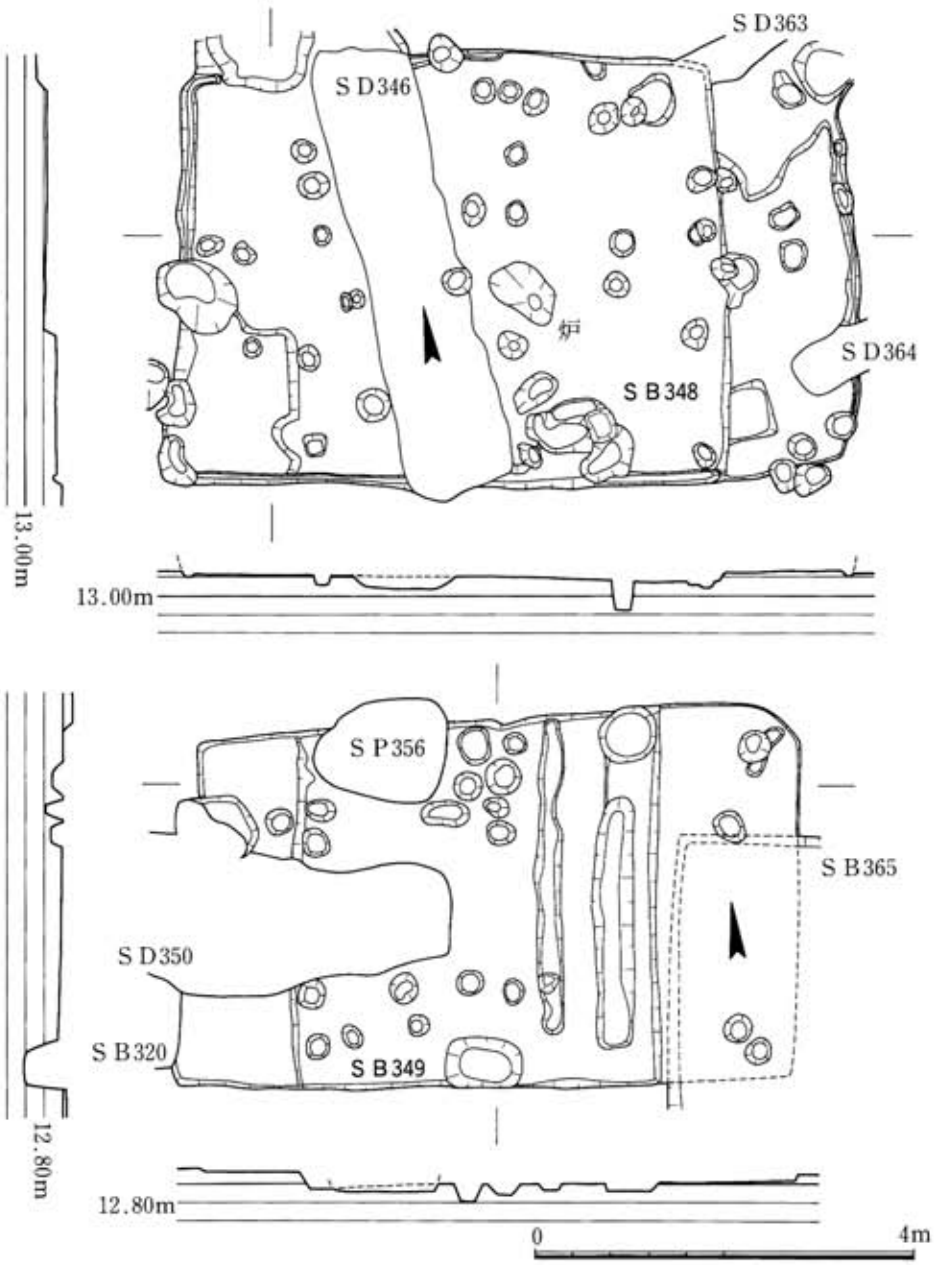



**S B321**
**形態**　方形
**規模**　4.56×（4.26）m
**特徴**　S B306を切り，S D 303・309・310・343・351・352に切られる。中央北寄りに焼土がみられるが，炉かどうかは不明。床面は褐色土がブロック状に多量に混ざる黄褐色土。主柱穴は不明。




**S B323**
**形態**　長方形か
**規模**　5.7×3.4＋αm
**特徴**　S B322・349・355，S D327・349に切られる。2本柱か。床面は黄褐色土が混じる褐色土。西辺と南西隅に削り出しのベッド状遺構がある。

Fig. 20　S B321・323竪穴住居跡（1/80）




**S B348**

**形態**　長方形　　**規模**　7.06×4.52m

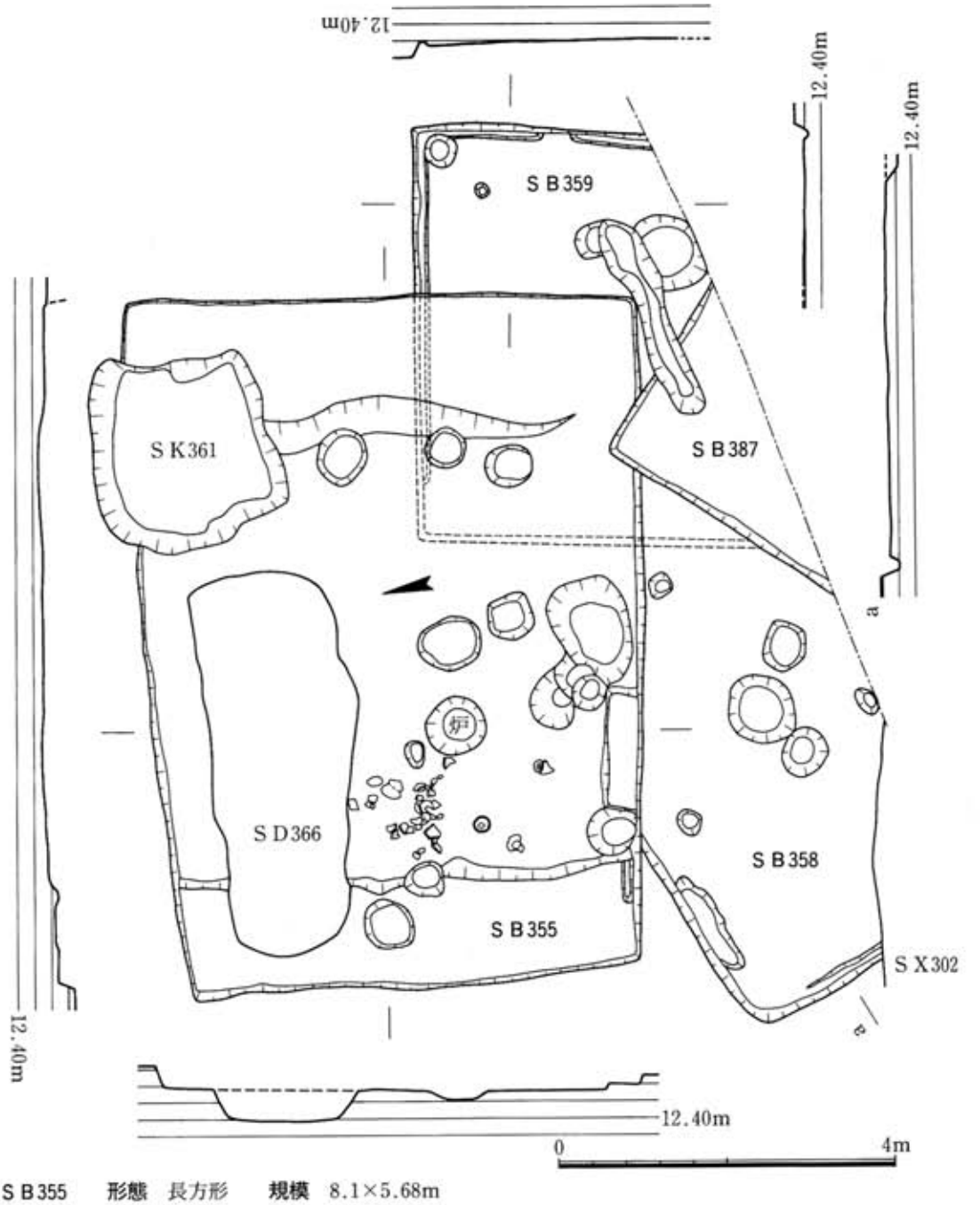
**特徴**　S B362を切り，S D346・363・364に切られる。中央に炉がある。周溝が途切れ途切れにめぐり，東辺と西南隅に削り出しのベッド状遺構がある。

**S B349**

**形態**　長方形　　**規模**　6.28×3.72m

**特徴**　S B322・323・365を切り，S B320，S D350，S K356に切られる。南壁に壁際土壙，東西両辺に削り出しと貼床（S B365の部分）によるベッド状遺構がある。

Fig. 21　S B348・349竪穴住居跡（1/80）




**S B355**　**形態**　長方形　**規模**　8.1×5.68m

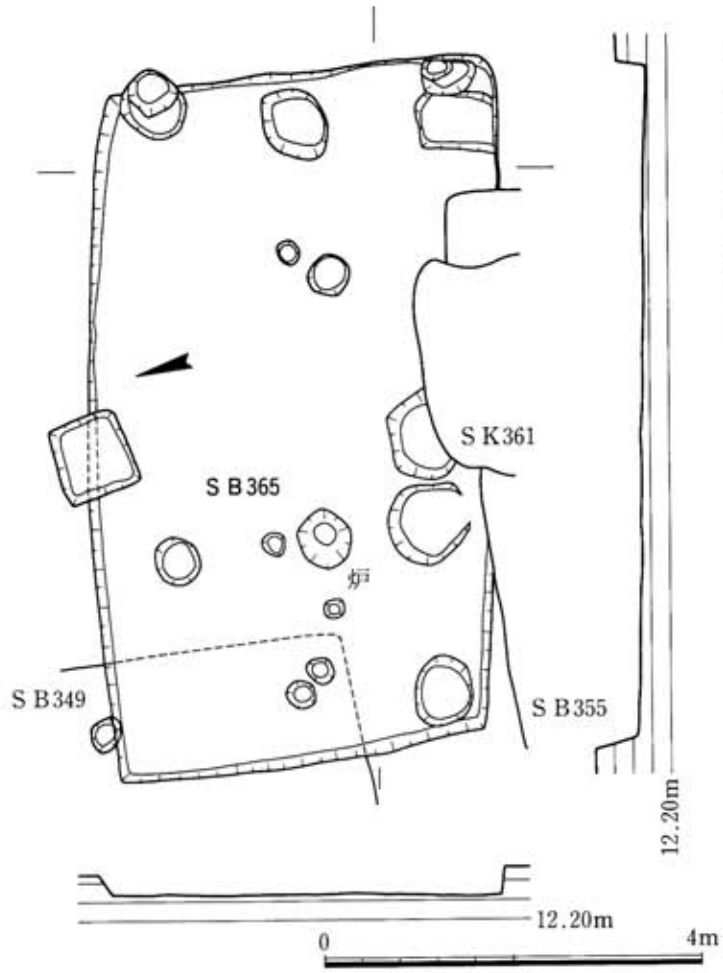
**特徴**　S B358・359・365を切り，S B387（出土遺物による新旧），S D366，S K361に切られる。中央西寄りに炉，東西両辺に削り出しのベッド状遺構がある。S B359の部分は黄褐色土と黒褐色土で貼床をする。南壁中央に壁際土壙か。

Fig. 22　S B355・358・359・387竪穴住居跡（1/80）

**ＳＢ358**　**形態**　長方形か　**規模**　5.3＋α×3.14＋αm
**特徴**　ＳＢ355・387，ＳＸ302に切られる。床面は黄褐色砂質土。北壁と西壁に途切れ途切れに周溝がある。切合などにより炉，主柱穴など不明。

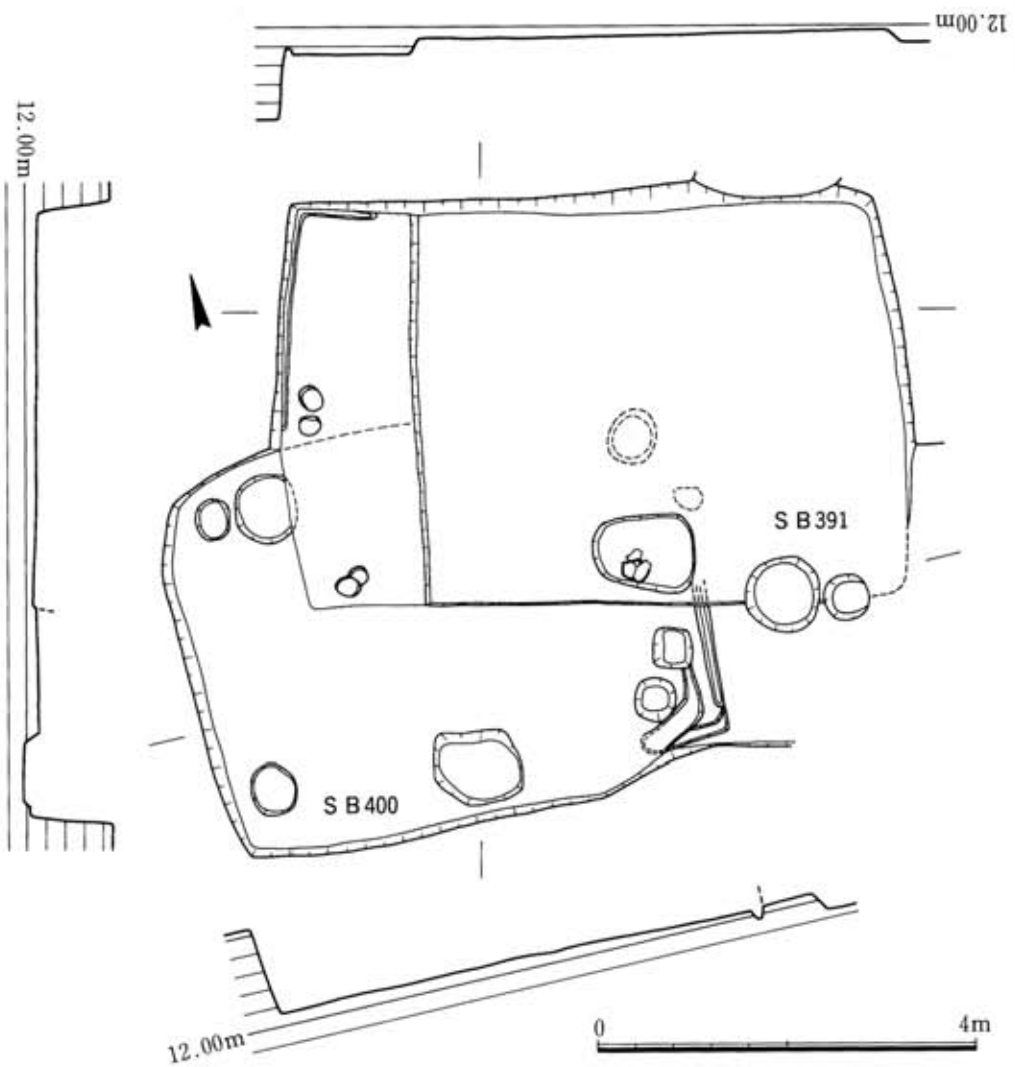
**ＳＢ359**　**形態**　長方形か　**規模**　3.8＋α×4.8m
**特徴**　ＳＢ355・387に切られる。一部調査区外にある。床面は褐色土がブロック状に混ざる黄褐色土。北壁と東壁に周溝がある。炉，主柱穴など不明。

**ＳＢ387**　**形態・規模**　不明
**特徴**　ＳＢ355・358・359を切る。調査時はＳＢ355が新しいととらえていたが，出土遺物の検討の結果切合関係を変更した。床面は黄褐色土である。大部分調査区外のため詳細不明。




**ＳＢ365**
**形態**　不整形の長方形
**規模**　7.12×4.12m
**特徴**　ＳＢ349・355，ＳＫ361に切られる。床面は凸凹があり，褐色土が混じる黄褐色土。中央かなり西寄りに炉がある。主柱穴は不明。

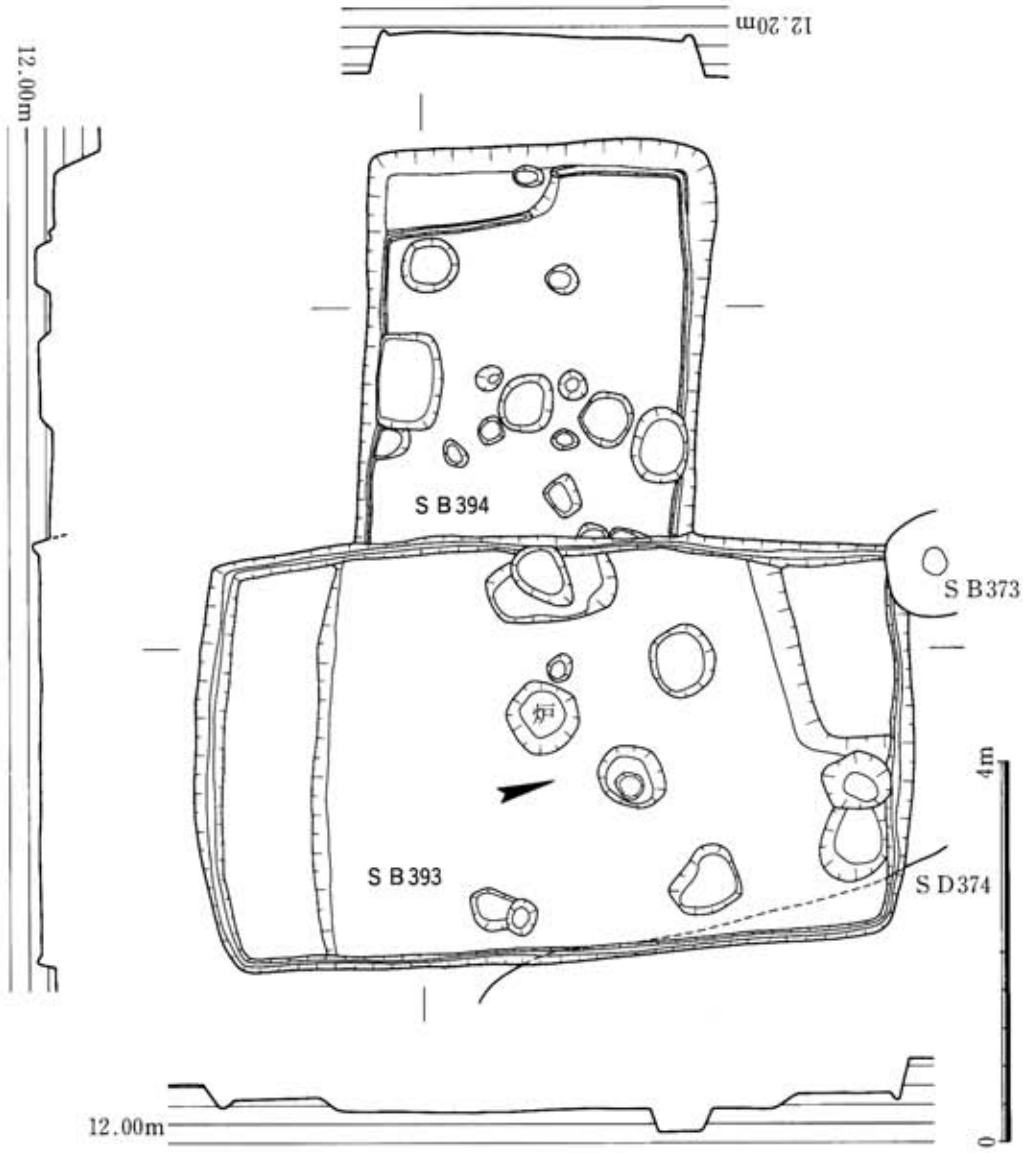
Fig. 23　ＳＢ365竪穴住居跡（1/80）




**ＳＢ391**　**形態**　長方形　**規模**　6.6×4.1m
**特徴**　ＳＢ400を切り，ＳＤ374に切られる。北西隅から西壁に周溝がめぐる。西辺に削り出しのベッド状遺構がある。ＳＢ400の部分は貼床である。ＳＤ374に切られて明確ではないが，東辺もベッド状遺構で，住居が東に拡大する可能性がある。

**ＳＢ400**　**形態**　長方形　**規模**　5.33×4.29m
**特徴**　ＳＢ391に切られる。西壁に周溝がある。南辺に壁際土壙か。

Fig. 24　ＳＢ391・400竪穴住居跡（1/80）




**S B393**　**形態**　長方形　**規模**　7.24×4.43m
**特徴**　S B394を切り，S B373，S D374に切られる。中央に炉がある。周溝がめぐり，西辺中央に壁際土壙，南辺と北西隅に削り出しのベッド状遺構がある。主柱穴は不明。

**S B394**　**形態**　長方形　**規模**　3.83＋α×3.3m
**特徴**　S B393に切られる。床面は淡褐色粘質土。南辺に壁際土壙があり，周溝がほぼ全面にめぐる。南西隅にベッド状遺構がある。中央に炉か。主柱穴は不明。

Fig. 25　S B393・394竪穴住居跡（1/80）

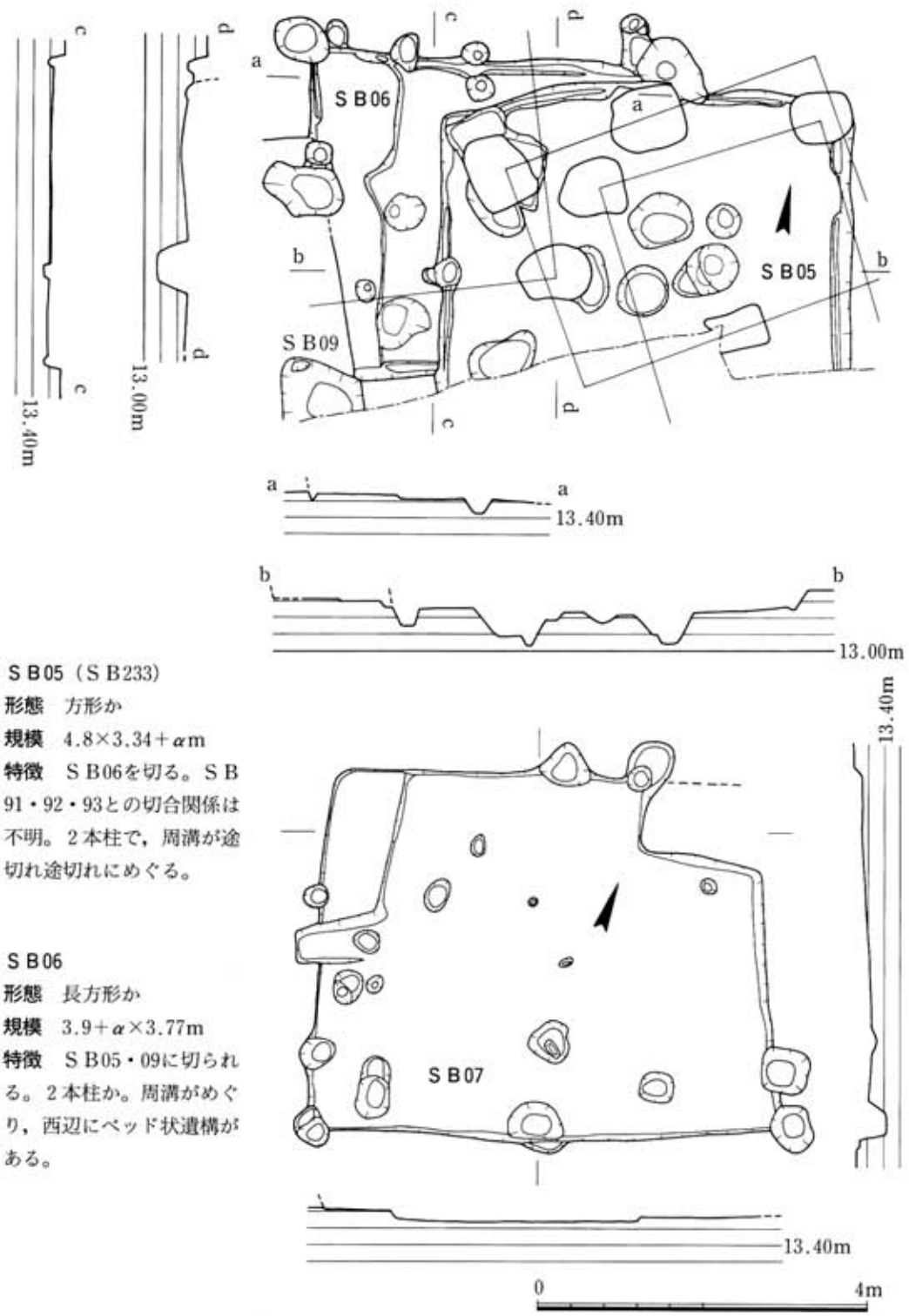
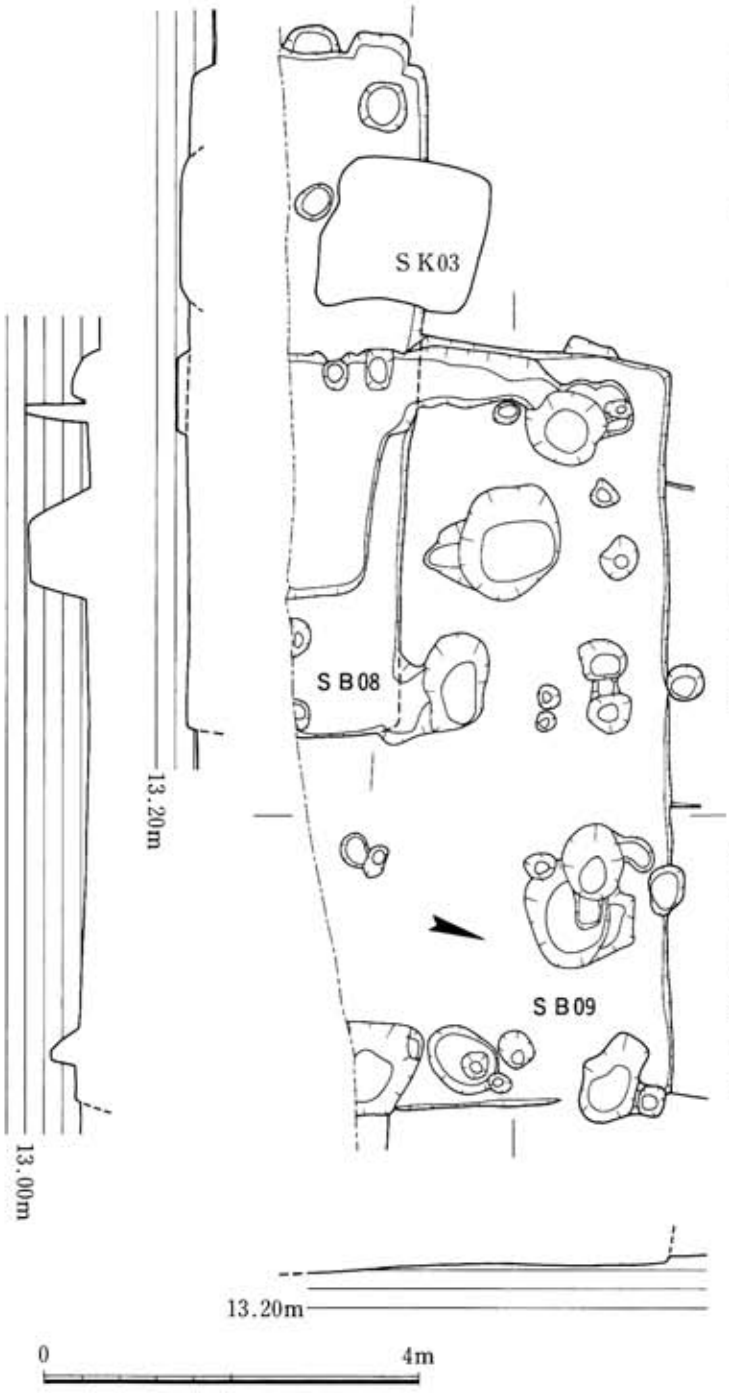



Fig. 26　ＳＢ05・06・07竪穴住居跡（１/80）

**ＳＢ05（ＳＢ233）**
**形態**　方形か
**規模**　4.8×3.34＋αm
**特徴**　ＳＢ06を切る。ＳＢ91・92・93との切合関係は不明。２本柱で，周溝が途切れ途切れにめぐる。

**ＳＢ06**
**形態**　長方形か
**規模**　3.9＋α×3.77m
**特徴**　ＳＢ05・09に切られる。２本柱か。周溝がめぐり，西辺にベッド状遺構がある。

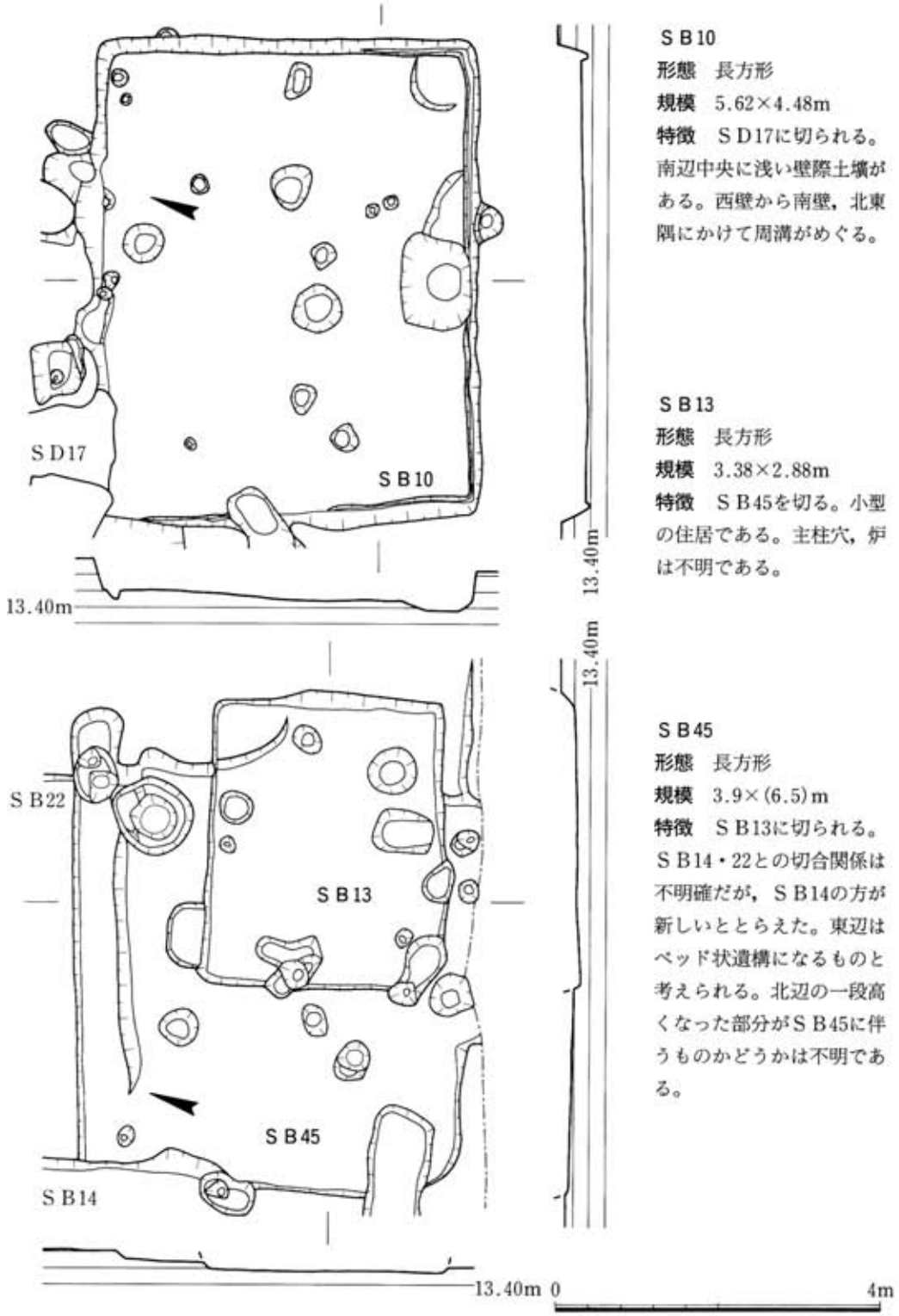



**S B07（S B232）**
**形態**　長方形
**規模**　5.56×4.4m
**特徴**　南壁中央に壁際土壙がある。北西隅にベッド状遺構がある。東北隅が一段高く，ベッド状遺構と思われるが，L字状のものになる可能性もある。

**S B08**
**形態**　長方形か
**規模**　5.61×1.42＋αm
**特徴**　S B09を切り，S K03に切られる。S B09の部分には貼床をする。大部分が調査区外であり，詳細は不明。

**S B09**
**形態**　長方形か
**規模**　7.82×3.8＋αm
**特徴**　S B06を切り，S B08に切られる。半分ほど調査区外にある。炉，主柱穴は不明で，周溝やベッド状遺構もみられない。

Fig. 27　S B08・09竪穴住居跡（1/80）




**ＳＢ10**
**形態**　長方形
**規模**　5.62×4.48m
**特徴**　ＳＤ17に切られる。南辺中央に浅い壁際土壙がある。西壁から南壁，北東隅にかけて周溝がめぐる。

**ＳＢ13**
**形態**　長方形
**規模**　3.38×2.88m
**特徴**　ＳＢ45を切る。小型の住居である。主柱穴，炉は不明である。

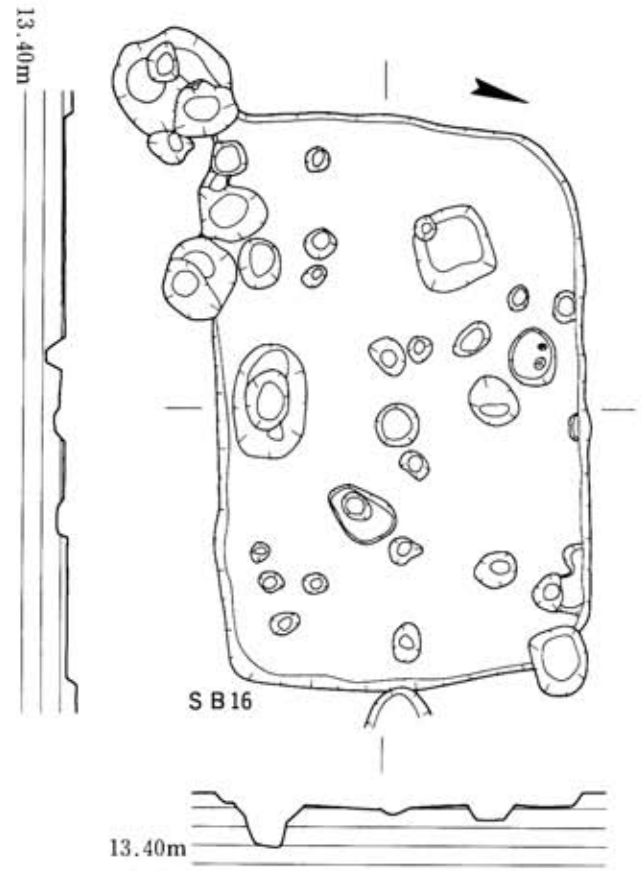
**ＳＢ45**
**形態**　長方形
**規模**　3.9×(6.5)m
**特徴**　ＳＢ13に切られる。ＳＢ14・22との切合関係は不明確だが，ＳＢ14の方が新しいととらえた。東辺はベッド状遺構になるものと考えられる。北辺の一段高くなった部分がＳＢ45に伴うものかどうかは不明である。

Fig. 28　ＳＢ10・13・45竪穴住居跡（1/80）

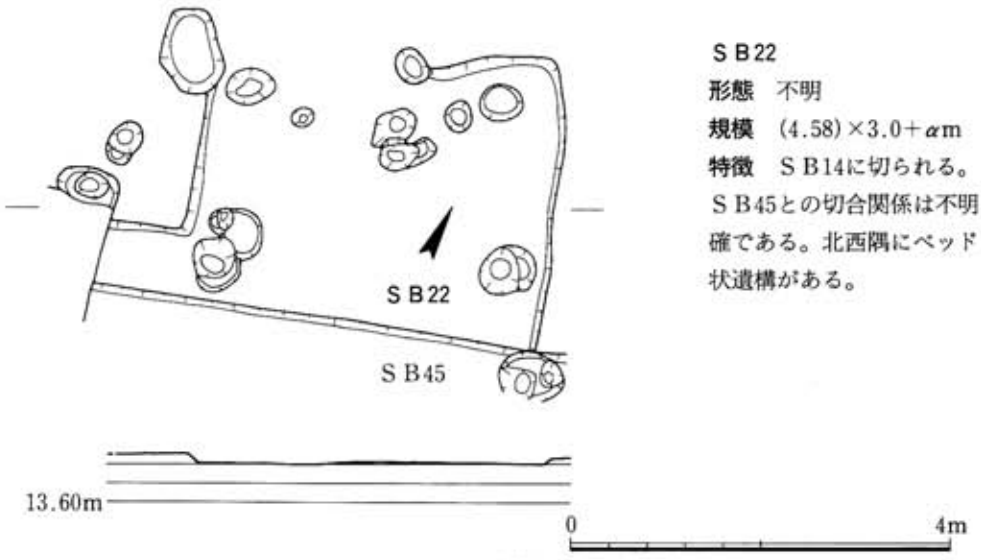
**SB14**
**形態**　方形
**規模**　4.12×3.96m
**特徴**　SB15・22を切る。SB45との切合は明確ではないが，SB14の方が新しいととらえた。主柱穴や炉は不明。

**SB15**
**形態**　長方形
**規模**　5.77×5.19m
**特徴**　SB14，SD18に切られる。2本柱と考えられる。北東隅から東辺にかけてベッド状遺構がある。北西隅もベッド状遺構になり，南辺に壁際土壙がある可能性がある。

Fig. 29　SB14・15竪穴住居跡（1/80）

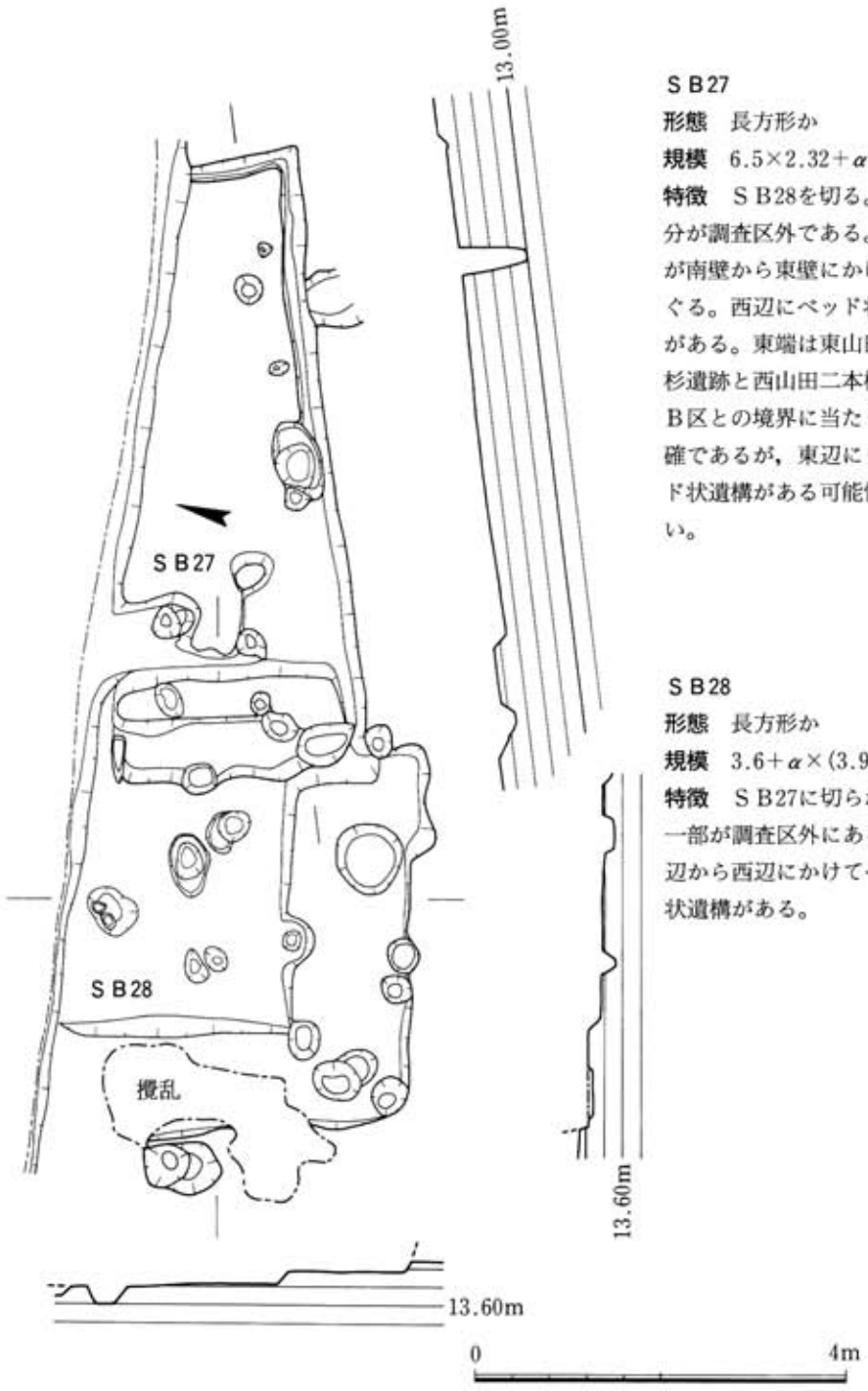



**ＳＢ16**
**形態**　長方形
**規模**　5.9×3.71m
**特徴**　周溝やベッド状遺構はみられない。南辺中央に壁際土壙か。主柱穴に，炉は不明である。




**ＳＢ22**
**形態**　不明
**規模**　(4.58)×3.0＋αm
**特徴**　ＳＢ14に切られる。ＳＢ45との切合関係は不明確である。北西隅にベッド状遺構がある。

Fig. 30　ＳＢ16・22竪穴住居跡（1/80）




**S B27**

**形態**　長方形か

**規模**　6.5×2.32＋αm

**特徴**　S B28を切る。大部分が調査区外である。周溝が南壁から東壁にかけてめぐる。西辺にベッド状遺構がある。東端は東山田一本杉遺跡と西山田二本松遺跡B区との境界に当たり不明確であるが，東辺にもベッド状遺構がある可能性が高い。

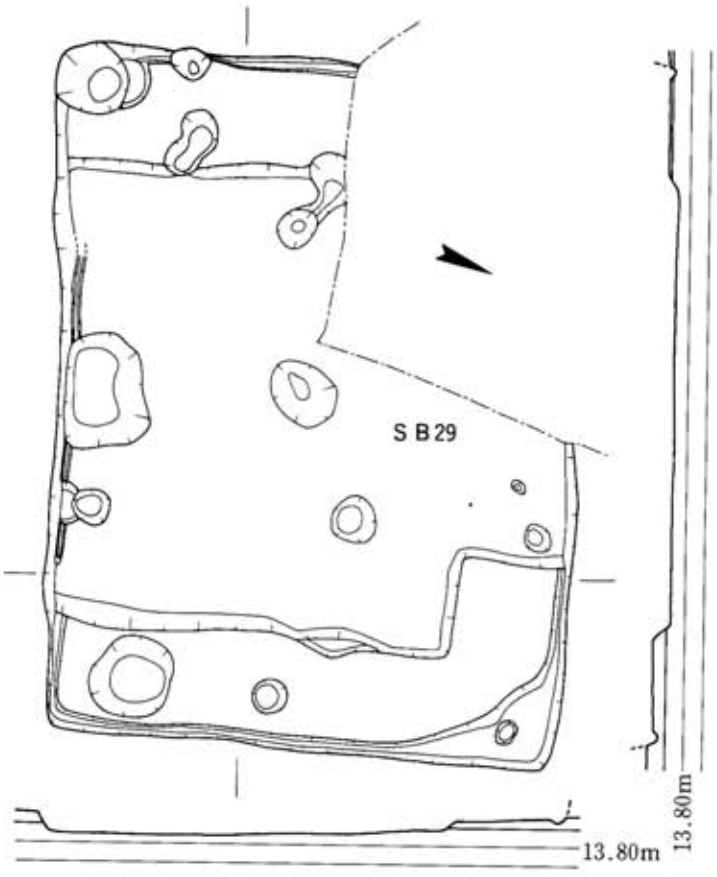
**S B28**

**形態**　長方形か

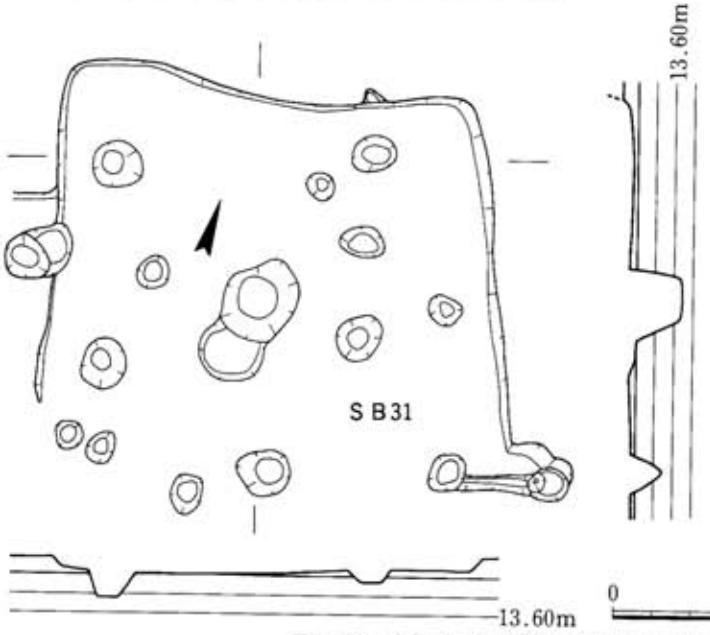
**規模**　3.6＋α×(3.9)m

**特徴**　S B27に切られる。一部が調査区外にある。南辺から西辺にかけてベッド状遺構がある。

Fig. 31　S B27・28竪穴住居跡（1/80）

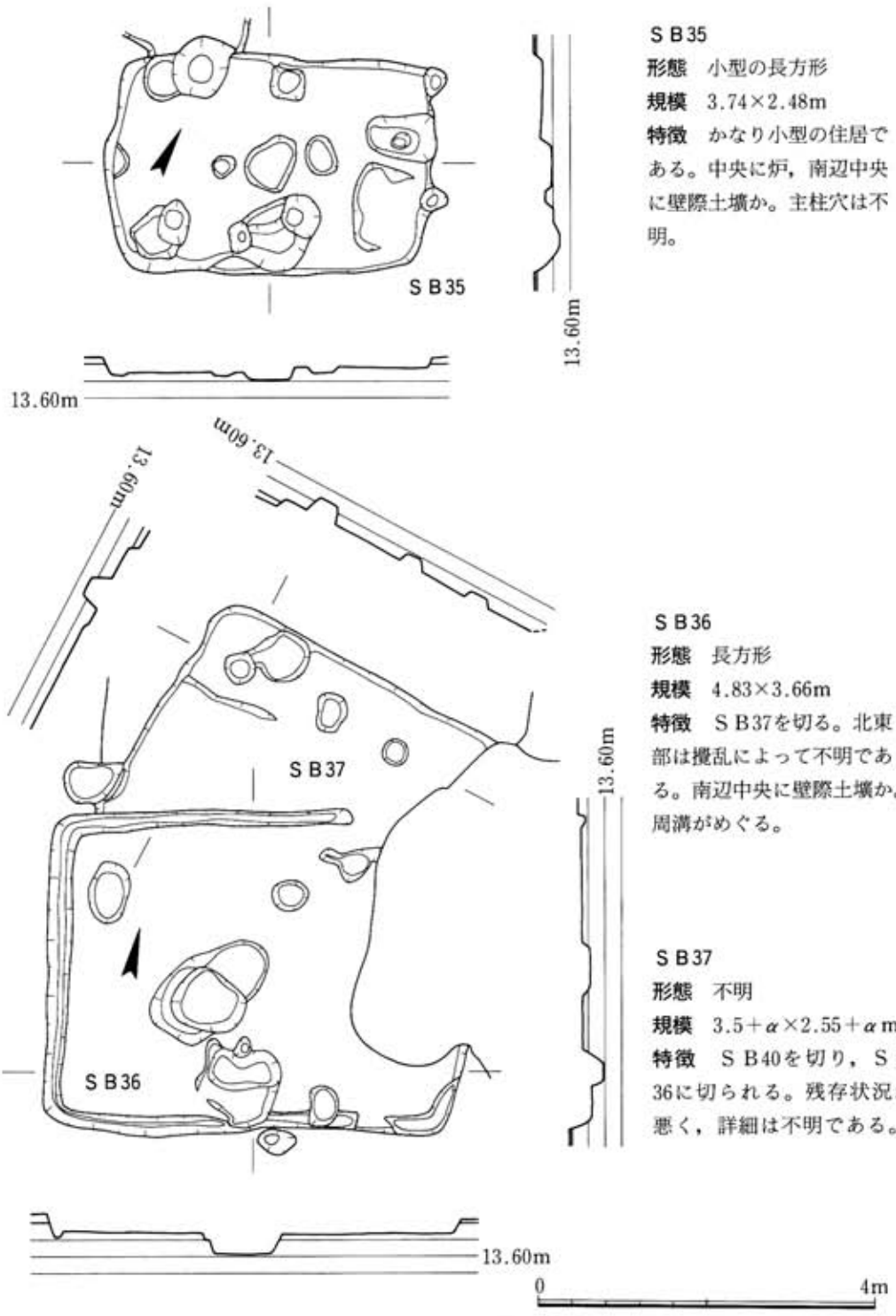



**ＳＢ29（ＳＢ180）**
**形態**　長方形
**規模**　7.13×5.38m
**特徴**　一部が調査区外にある。南辺中央に壁際土壙がある。周溝が途切れ途切れにめぐる。西辺と東北隅から東辺にかけてベッド状遺構がある。中央に炉か。




**ＳＢ31**
**形態**　長方形か
**規模**　4.1＋α×4.81m
**特徴**　南半分は削平されている。北西隅はやや不整形である。２本柱か。周溝やベッド状遺構はみられない。

Fig. 32　ＳＢ29・31竪穴住居跡（1/80）

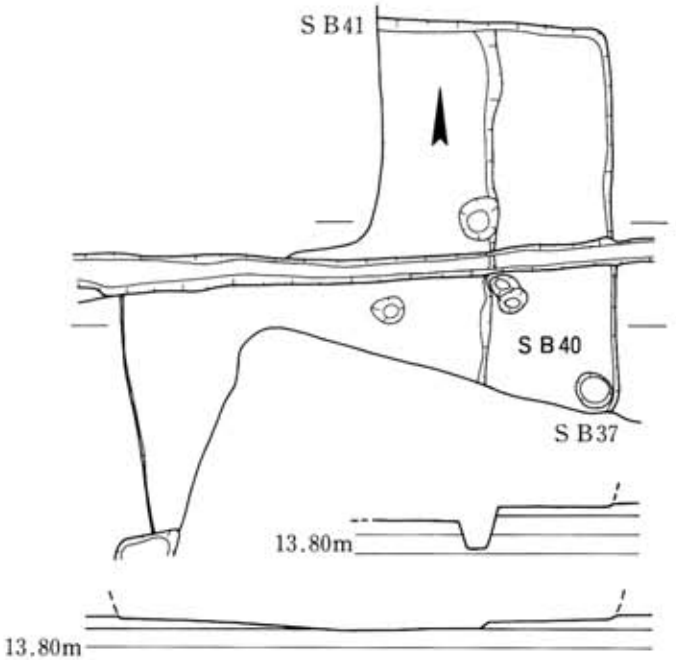



**S B35**
**形態**　小型の長方形
**規模**　3.74×2.48m
**特徴**　かなり小型の住居である。中央に炉，南辺中央に壁際土壙か。主柱穴は不明。

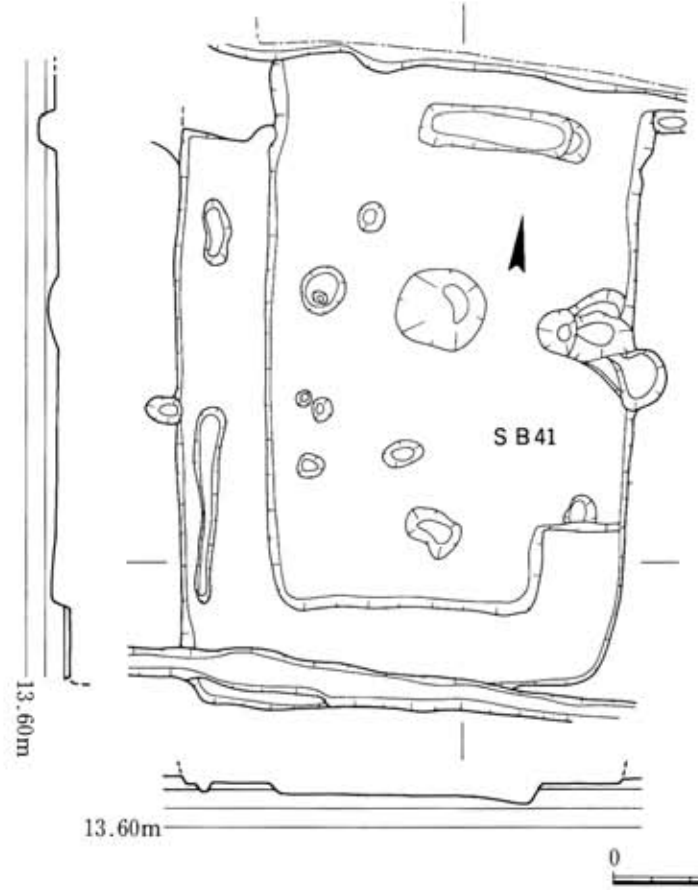
**S B36**
**形態**　長方形
**規模**　4.83×3.66m
**特徴**　S B37を切る。北東部は攪乱によって不明である。南辺中央に壁際土壙か。周溝がめぐる。

**S B37**
**形態**　不明
**規模**　3.5＋α×2.55＋αm
**特徴**　S B40を切り，S B36に切られる。残存状況が悪く，詳細は不明である。

Fig. 33　S B35・36・37竪穴住居跡（1/80）

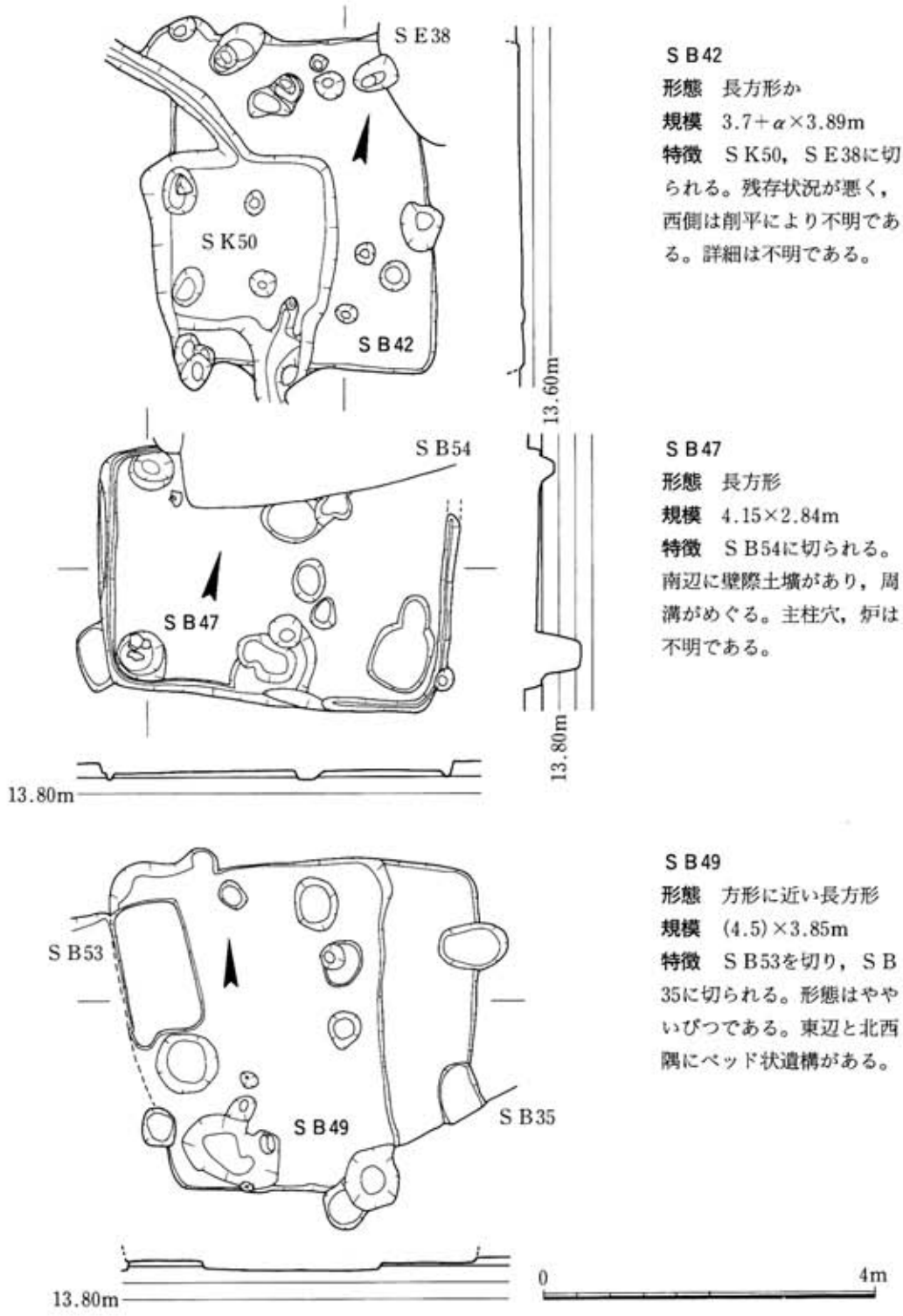



**ＳＢ40**
**形態**　長方形
**規模**　5.14×3.94＋αm
**特徴**　ＳＢ37・41に切られる。残存状況が悪く，南西隅は不確実である。２本柱か。東辺にベッド状遺構がある。




**ＳＢ41**
**形態**　長方形
**規模**　6.43＋α×4.57m
**特徴**　ＳＢ40を切る。一部調査区外にある。２本柱で中央に炉，東辺に壁際土壙か。東南隅から南辺，西辺にかけてベッド状遺構がみられる。

Fig. 34　ＳＢ40・41竪穴住居跡（1/80）

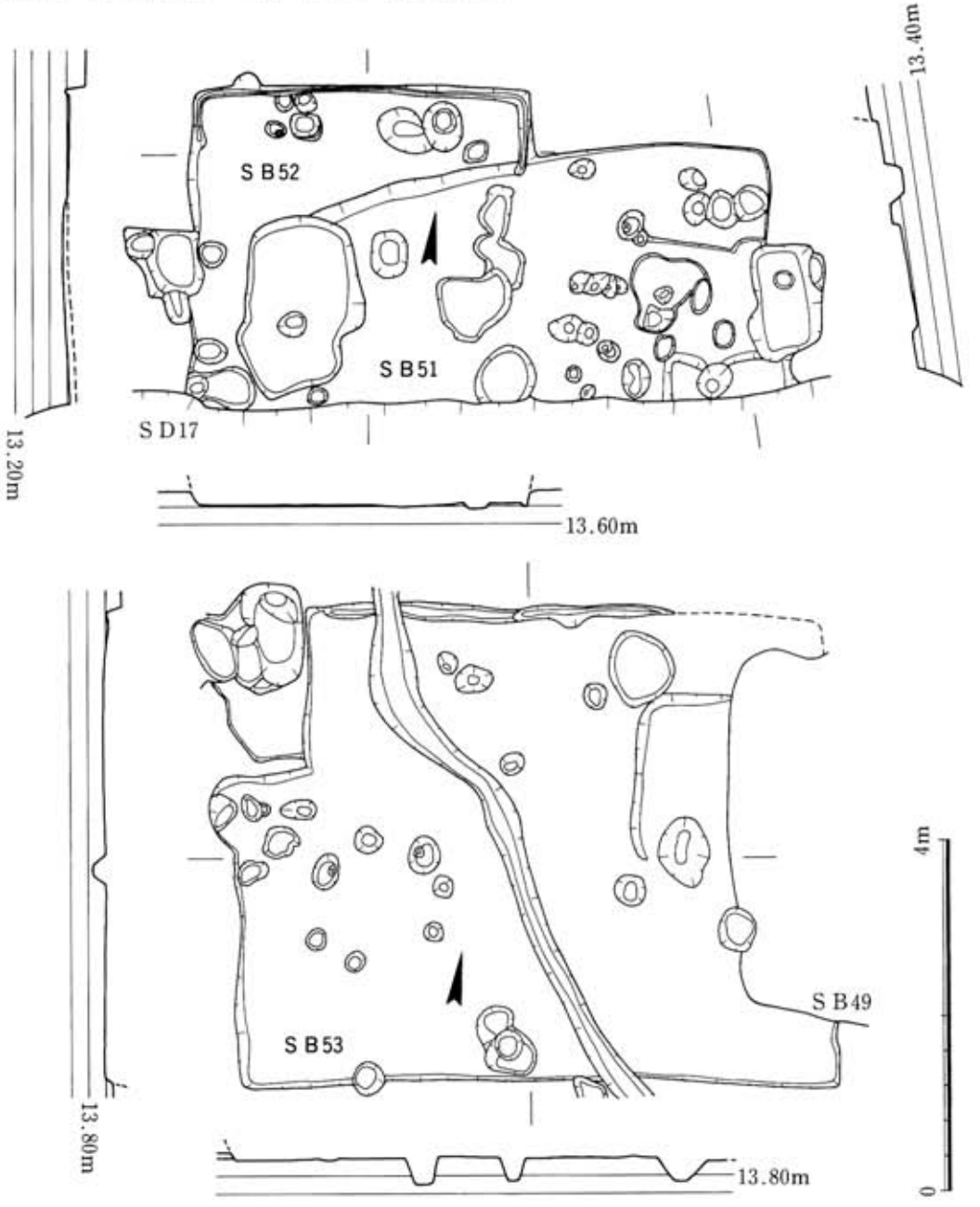



**S B42**
**形態**　長方形か
**規模**　3.7＋α×3.89m
**特徴**　S K50，S E38に切られる。残存状況が悪く，西側は削平により不明である。詳細は不明である。

**S B47**
**形態**　長方形
**規模**　4.15×2.84m
**特徴**　S B54に切られる。南辺に壁際土壙があり，周溝がめぐる。主柱穴，炉は不明である。

**S B49**
**形態**　方形に近い長方形
**規模**　(4.5)×3.85m
**特徴**　S B53を切り，S B35に切られる。形態はややいびつである。東辺と北西隅にベッド状遺構がある。

Fig. 35　S B42・47・49竪穴住居跡（1/80）




**ＳＢ51**

**形態**　長方形か　**規模**　4.94＋α×2.34＋αm

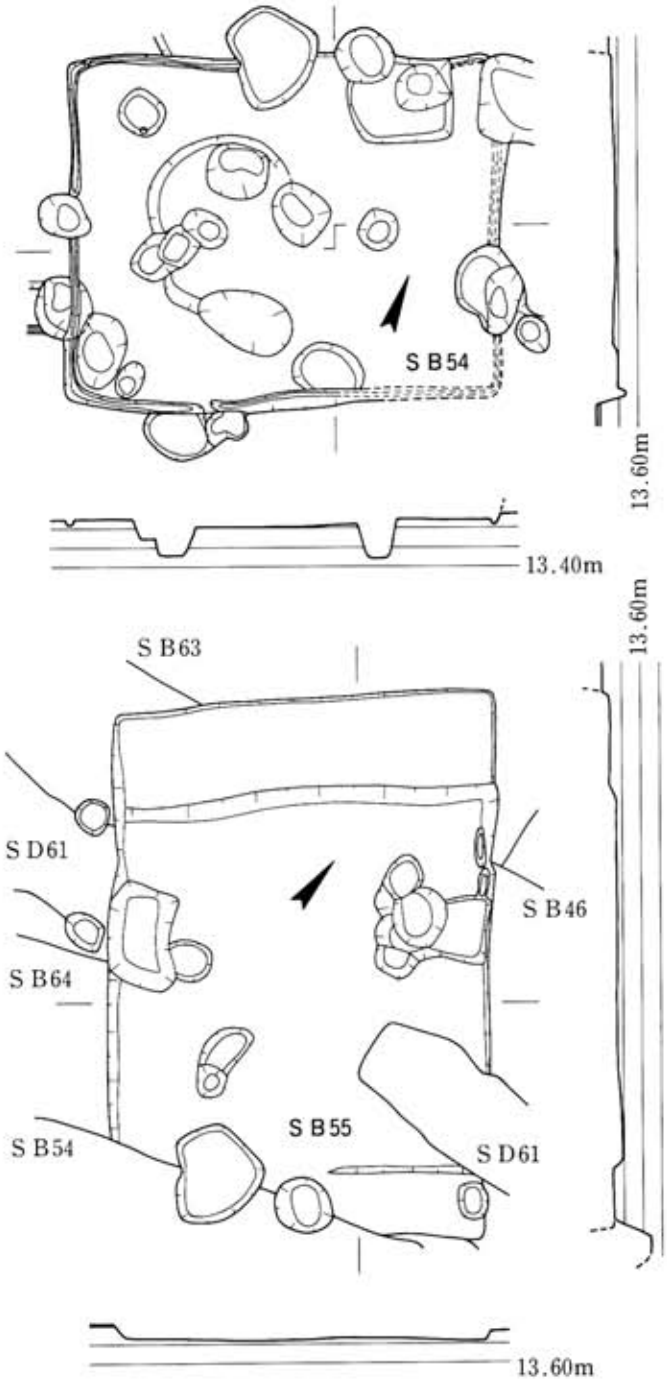
**特徴**　ＳＢ52，ＳＤ17に切られる。西側は攪乱により不明である。北東隅と南東隅にベッド状遺構がある。

**ＳＢ52**

**形態**　長方形か　**規模**　3.64＋α×3.71m

**特徴**　ＳＢ51を切り，ＳＤ17に切られる。ＳＢ51の部分には貼床をする。北西隅から北壁にかけて周溝がある。

Fig. 36　ＳＢ51・52・53竪穴住居跡（1/80）

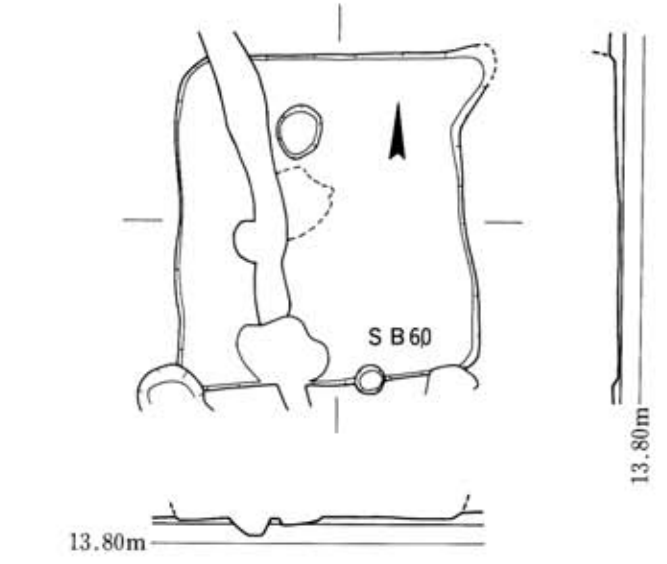



**S B53**
**形態**　長方形
**規模**　6.64×5.28m
**特徴**　S B49に切られる。北東隅は削平される。2本柱。北壁に周溝，北西隅にベッド状遺構がある。

**S B54**
**形態**　長方形
**規模**　4.48×3.57m
**特徴**　S B47・55・64を切る。2本柱で，周溝がめぐる。中央に炉か。古墳時代初頭に属する。

**S B55**
**形態**　長方形
**規模**　5.76×3.84m
**特徴**　S B46・63・64を切り，S B54，S D61に切られる。南西辺に壁際土壙がある。北西辺と南東辺にベッド状遺構があり，南東辺のものは貼床によって一段高くしている。主柱穴，炉は不明である。

Fig. 37　S B54・55竪穴住居跡（1/80）

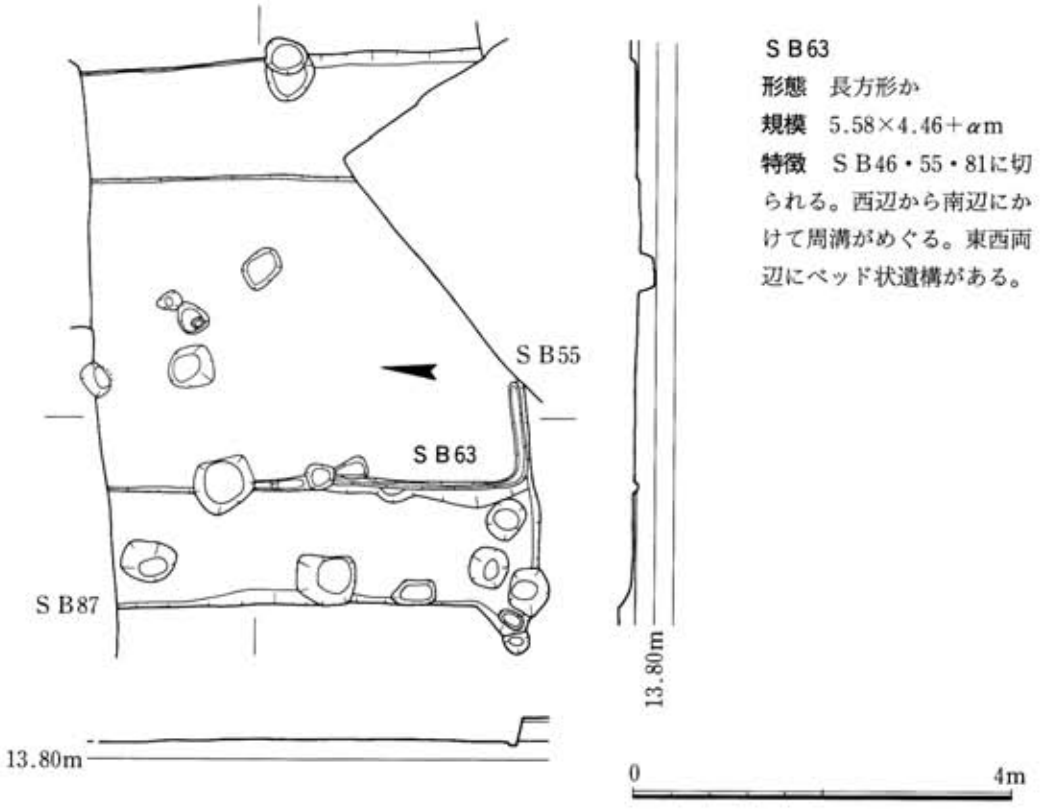



**ＳＢ60**

**形態**　方形か

**規模**　(3.05)×3.39m

**特徴**　残存状況が悪く，詳細は不明である。北東隅がかなりいびつであり，東辺にはベッド状遺構になり，長方形の住居になる可能性が高い。



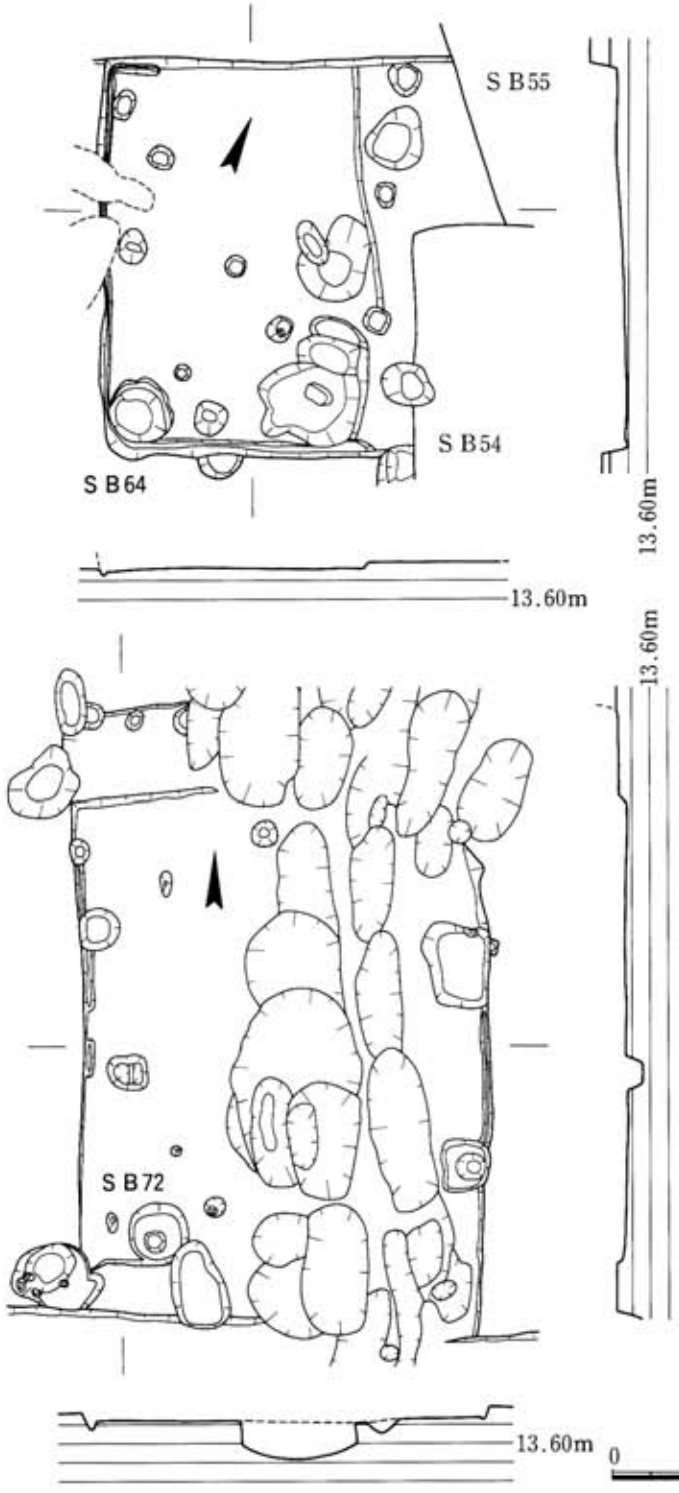

**ＳＢ63**

**形態**　長方形か

**規模**　5.58×4.46＋αm

**特徴**　ＳＢ46・55・81に切られる。西辺から南辺にかけて周溝がめぐる。東西両辺にベッド状遺構がある。

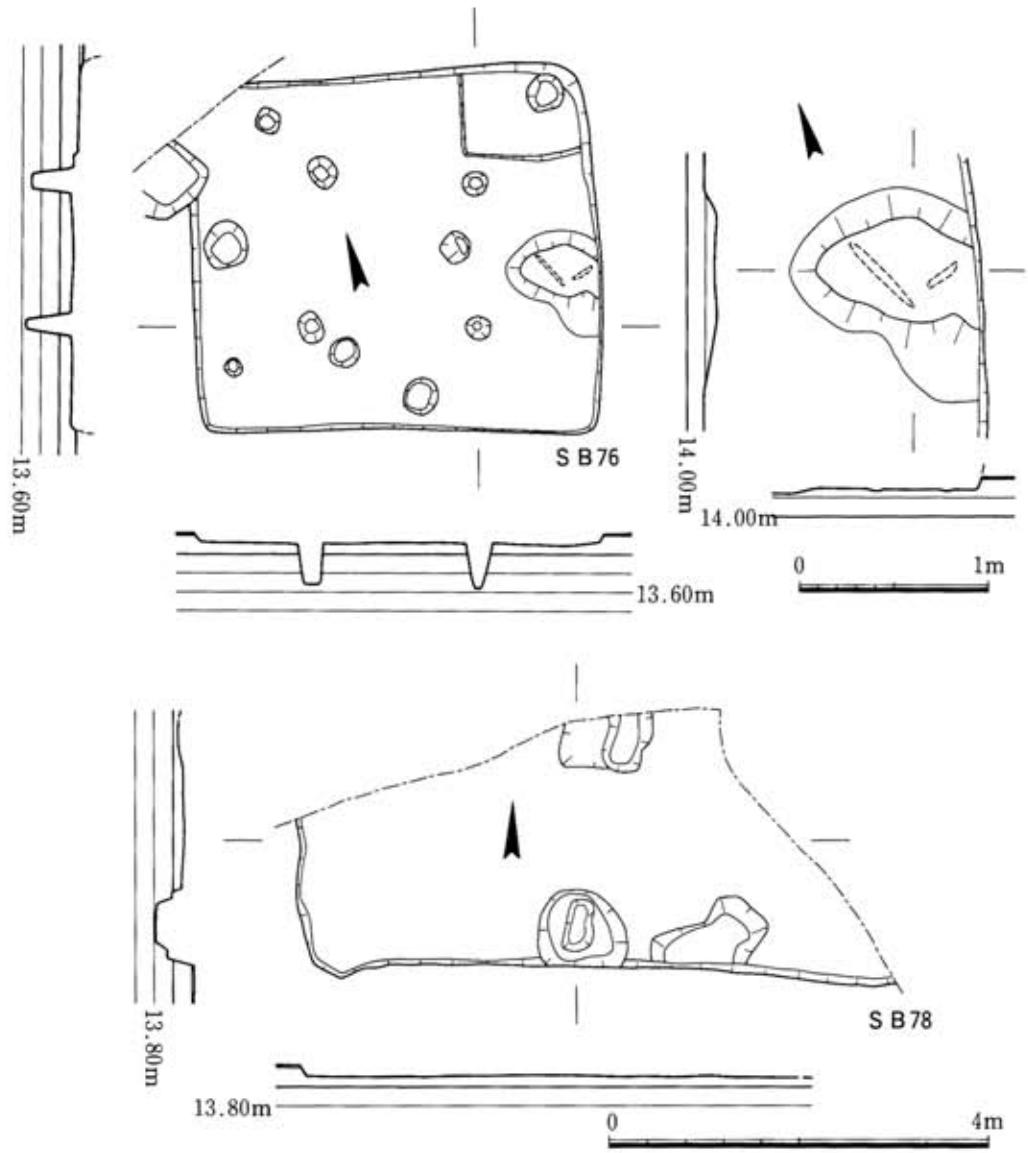
Fig. 38　ＳＢ60・63竪穴住居跡（1/80）




**S B64**
**形態**　長方形
**規模**　4.02×4.22＋αm
**特徴**　S B54・55に切られる。2本柱か。北西隅から南壁にかけて周溝がめぐる。西辺に貼床によるベッド状遺構がある。東辺にもベッド状遺構があり，住居が拡大する可能性がある。

**S B72**
**形態**　長方形
**規模**　6.31＋α×4.32m
**特徴**　S K73・74，S D89に切られるなど後世の攪乱が激しい。2本柱で，東辺に壁際土壙か。東西両壁に周溝，南北両辺にベッド状遺構がある。

Fig. 39　S B64・72竪穴住居跡（1/80）




**ＳＢ76**

**形態**　方形　　**規模**　4.15×3.6m

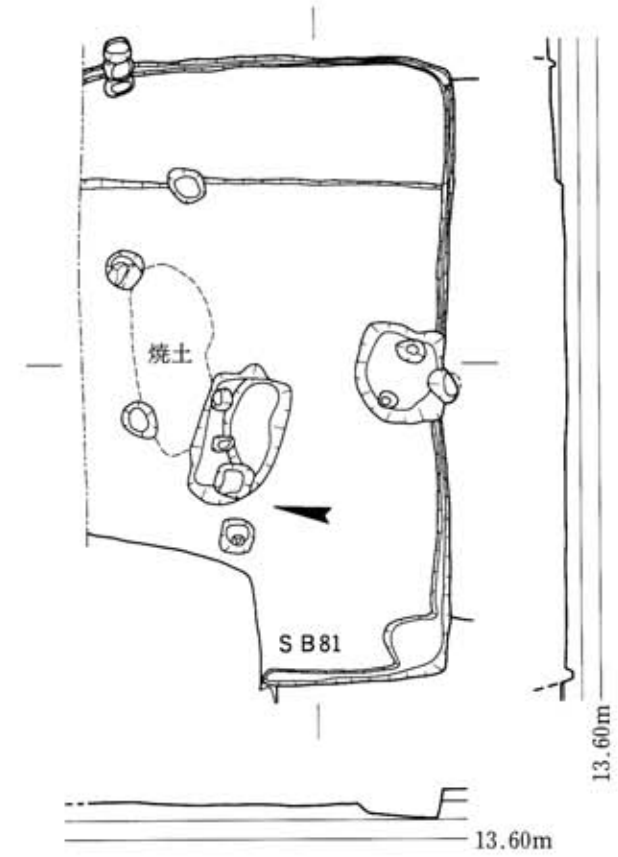
**特徴**　一部調査区外。主柱穴のはっきりした例では唯一４本柱である。北東隅にベッド状遺構がある。東辺中央に若干の高まりが認められ，出入り口の施設か。古墳時代初頭。

**ＳＢ78**

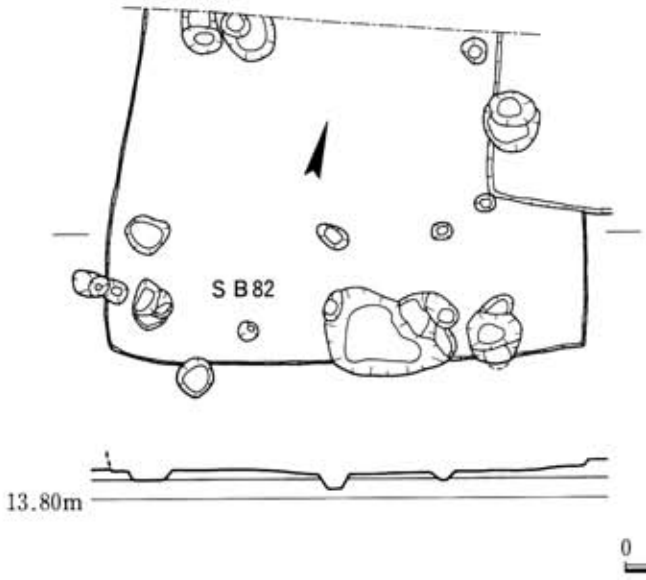
**形態**　長方形か　**規模**　5.94＋α×2.68＋αm

**特徴**　かなりの部分が調査区外にあるため，詳細は不明である。南辺中央に壁際土壙か。周溝，ベッド状遺構は現状ではみられない。

Fig. 40　ＳＢ76・78竪穴住居跡（1/80・1/40）

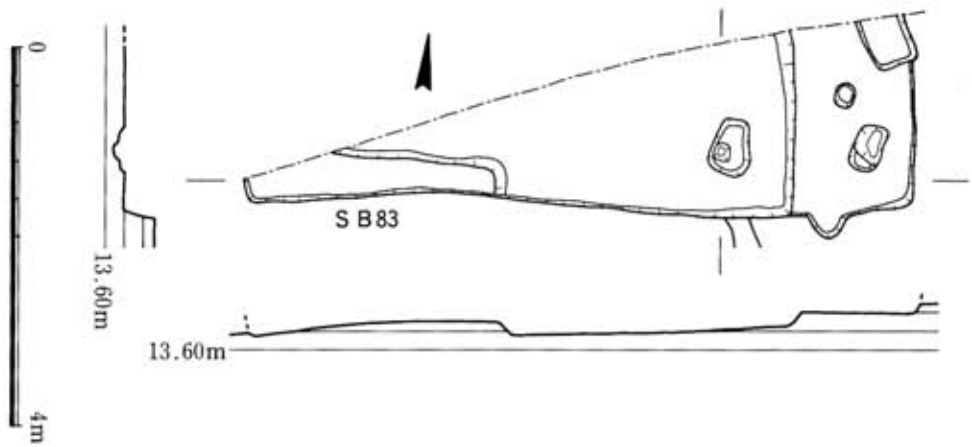



S B81
**形態**　長方形か
**規模**　6.56×3.78＋αm
**特徴**　北半分が調査区外にある。S B63を切る。床面は硬くしまる。南辺中央に壁際土壙がある。周溝がめぐり，東辺にベッド状遺構がある。中央にやや広く焼土が検出されたが，炉の痕跡か。




S B82
**形態**　不明
**規模**　5.4×3.62＋αm
**特徴**　かなりの部分が調査区外にあるため，詳細は不明である。周溝やベッド状遺構はみられない。

Fig. 41　S B81・82竪穴住居跡（1/80）




**SB83**　**形態**　長方形か　**規模**　7.02×1.75＋αm
**特徴**　大部分が調査区外にあるため，主柱穴などの詳細は不明である。ベッド状遺構が東辺と南西隅にある。周溝はみられない。

Fig. 42　SB83竪穴住居跡（1/80）

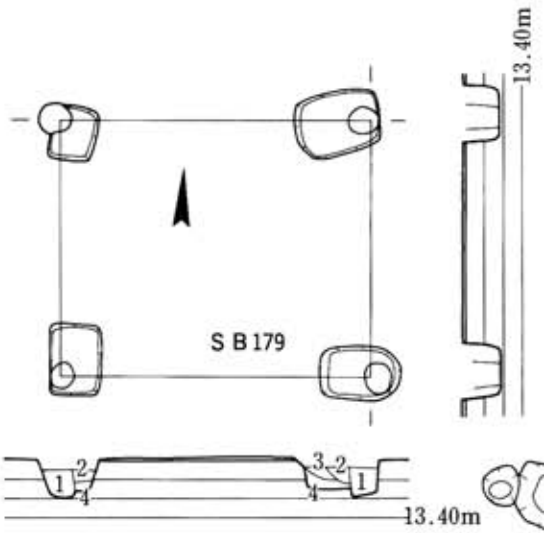
### (2)　掘立柱建物跡

弥生時代から古墳時代の掘立柱建物跡は18棟確認された。1間×1間，1間×2間，2間×2間で総柱という3種類ある。発掘調査時に確認されたものはSB179・397・26・30・57の5棟で，それ以外は整理途中に図面上で確認した。これらは構造からこの時期のものであろうと判断した。このなかには構造などにやや疑問があり，不確実なものがある。また，他にも弥生時代に属するであろう小穴が多数あり，さらに掘立柱建物がたつ可能性もある。

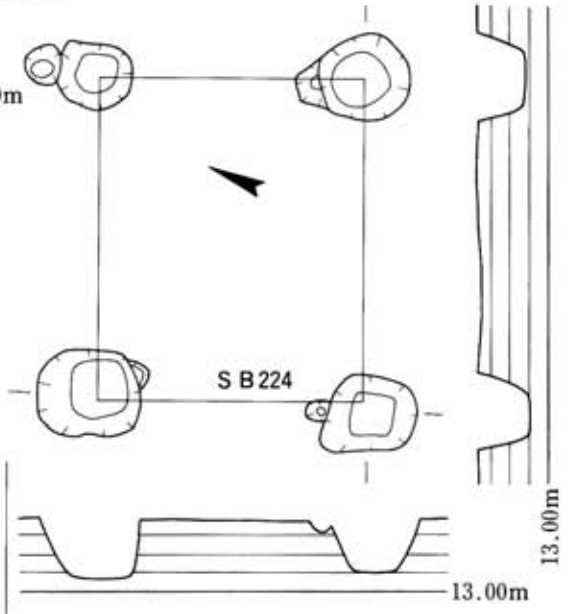
掘立柱建物の分布をみると，調査区南半分に多いようにみえるが，特に集中してみられるというわけではない。掘立柱建物同士の主軸方向はかなりばらつきがあり，竪穴住居と主軸をそろえる例が多い。したがって，特に倉庫群を形成するというよりは，それぞれの住居に伴う高床倉庫であろう。また，竪穴住居の数に比べて，掘立柱建物の数が少ないといった傾向もひとつの特徴として上げることができよう。

柱の掘形は基本的に隅丸方形で構成されるものと，円形や不整形のものからなる2種類がある。隅丸方形のものは柱穴としてしっかりとしているが，他方は柱の掘形としてはやや小さく，しっかりしていない傾向がある。多くは柱痕跡が不明確であるが，SB179など確認できた例からすると，径約20～30cmほどのものと推測される。

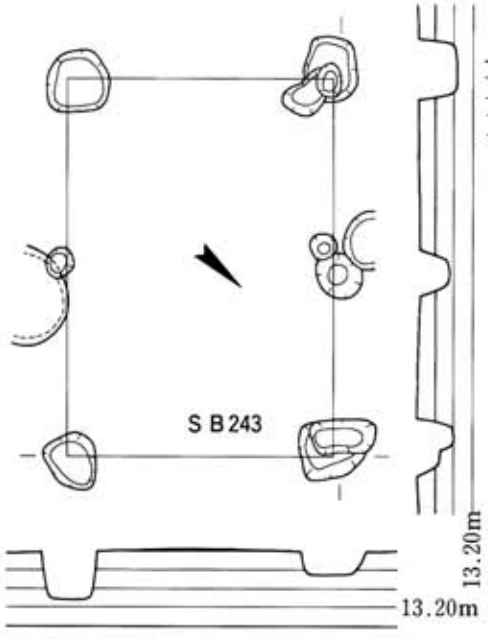
詳細な時期は柱の掘形からあまり土器が出土していないため，不明であるが，2間×2間のものはやや新しくなるものと考えられる。




**S B179**
**形態**　1間×1間　**規模**　3.38×2.8m
**特徴**　柱の掘形は0.7×0.5mほどの長方形を基本とする。柱痕跡は径26～30cmほどであるが，不明瞭なものが多い。
1　黒色土　　2　黒色土（黄色土混）
3　黄色土　　4　褐色土（黄色土混）

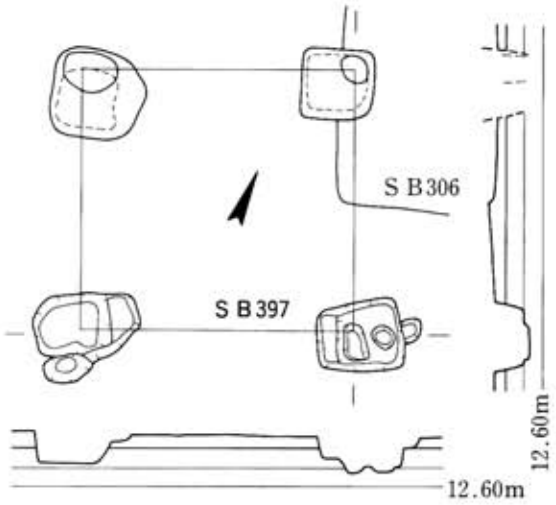



**S B224**
**形態**　1間×1間
**規模**　3.42×2.8m
**特徴**　柱の掘形は一辺0.4～0.6mほどの隅丸方形を基本とする。埋土は黒色土である。図面上で確認した。

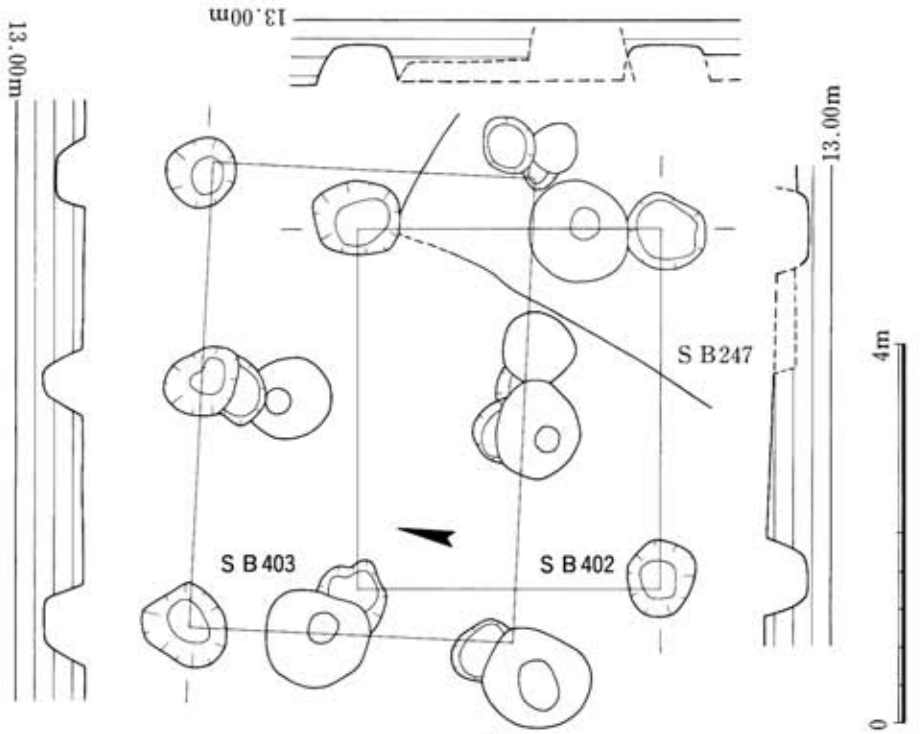



**S B243**
**形態**　1間×2間
**規模**　4.0×2.85m
**特徴**　S B237に切られる。柱の掘形は0.2～0.5mの円形ないしは不整方形である。図面上で確認した。

Fig. 43　S B179・224・243掘立柱建物跡（1/80）



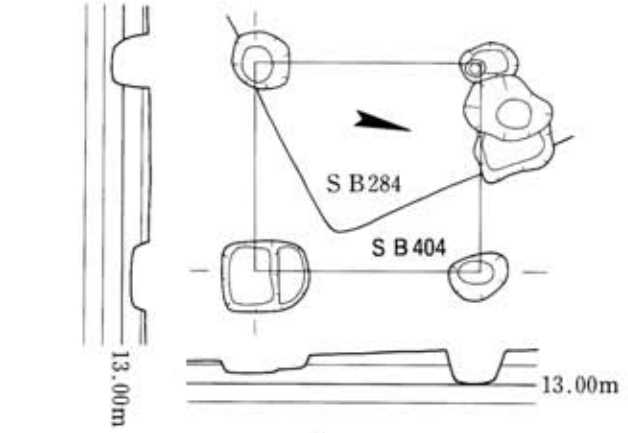

**S B397**
**形態**　1間×1間
**規模**　2.9×2.75m
**特徴**　S B306を切る。柱の掘形は0.8×0.6mほどの長方形を基本として，段掘りをしている。確認された柱痕跡は径約30cmである。



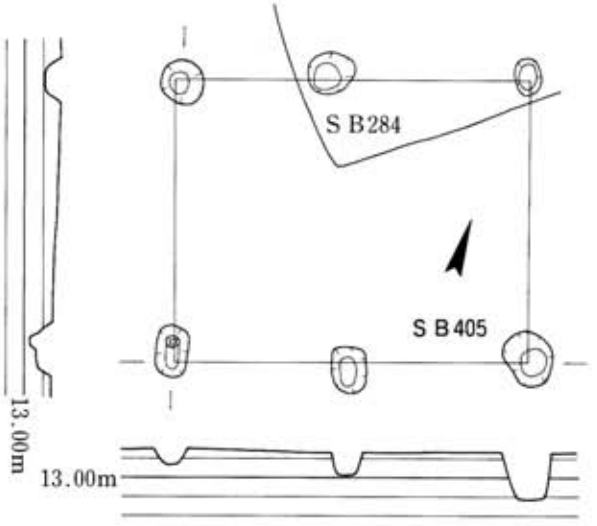

**S B402**
**形態**　1間×1間　　**規模**　3.8×3.2m
**特徴**　S B247を切り，S B237・266・401に切られる。S B403と重なる。掘形は径0.4～0.6mほどの円形ないしは不整形である。図面上で確認した。

**S B403**
**形態**　1間×2間　　**規模**　4.9×3.42m
**特徴**　S B237・266・401に切られる。S B402と重なる。掘形は径0.4～0.5mほどの円形ないしは不整形である。図面上で確認した。

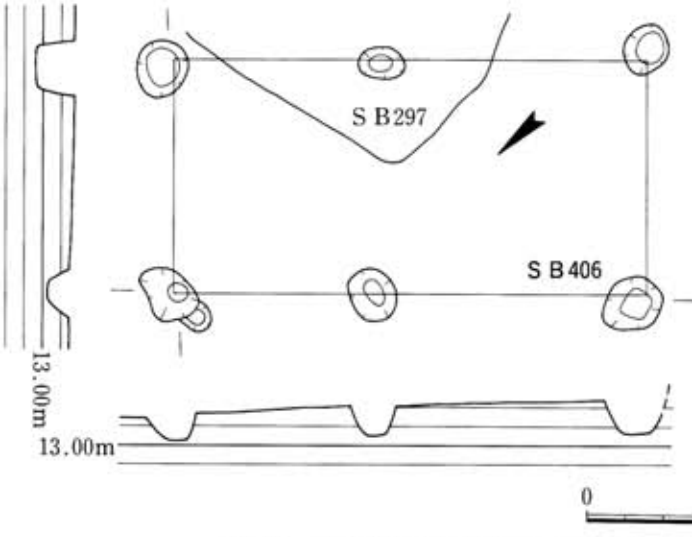
Fig. 44　S B397・402・403掘立柱建物跡（1/80）




**S B404**
**形態**　1間×1間
**規模**　2.4×2.2m
**特徴**　S B284を切る。柱の掘形は0.8×0.6mの長方形と径0.4mほどの円形ないしは不整形である。図面上で確認した。

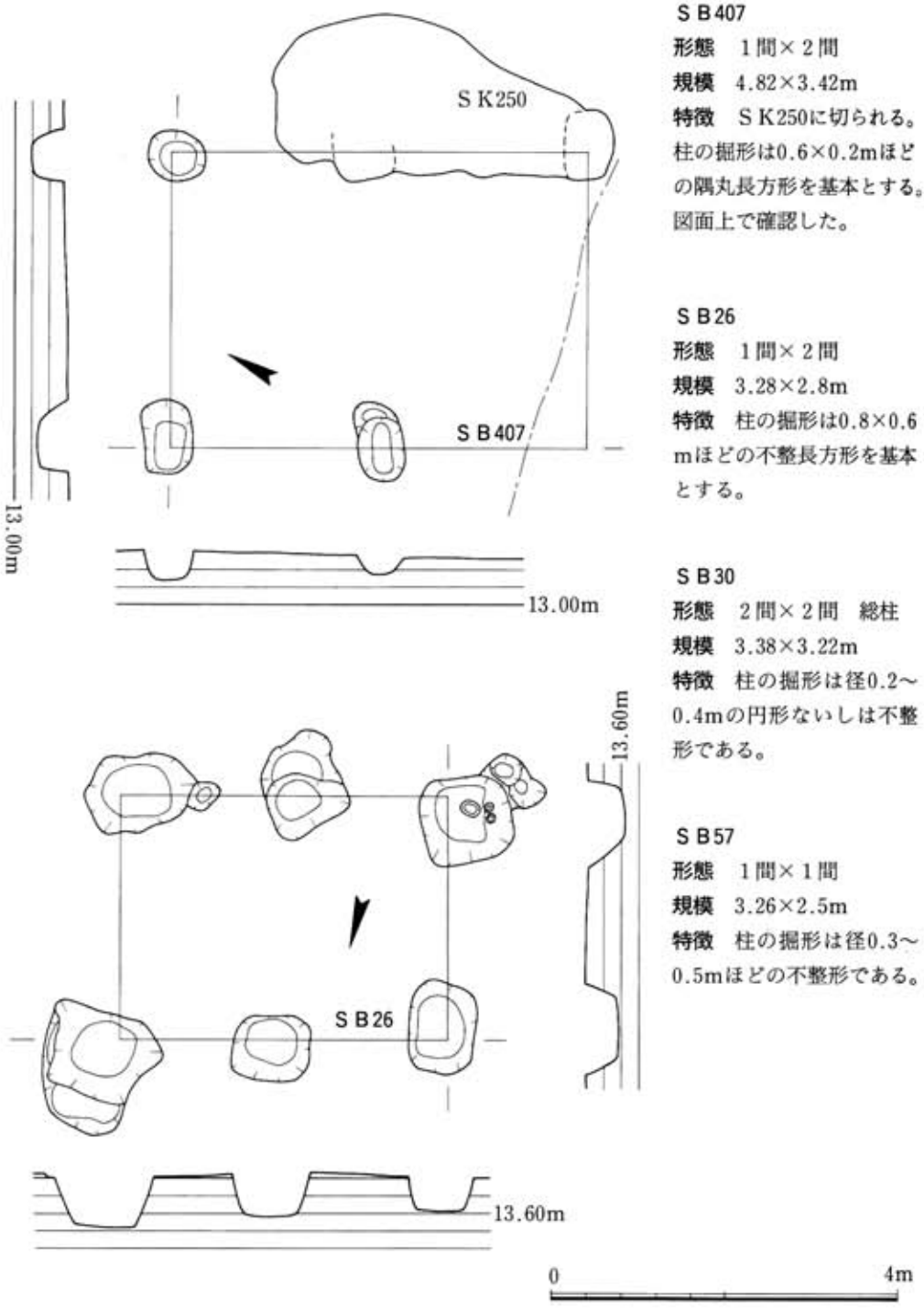



**S B405**
**形態**　1間×2間
**規模**　3.75×2.98m
**特徴**　柱の掘形は径0.2～0.3mほどの円形ないしは長方形である。図面上で確認した。桁行の中央の柱穴がずれることや柱穴のレベルがかなり異なるなど構造にやや疑問が残る。




**S B406**
**形態**　1間×2間
**規模**　5.0×2.46m
**特徴**　柱の掘形は径0.25～0.4mほどの円形ないしは不整形である。図面上で確認した。柱の掘形は小さいが，レベルはほぼそろっている。

Fig. 45　S B404・405・406掘立柱建物跡（1/80）



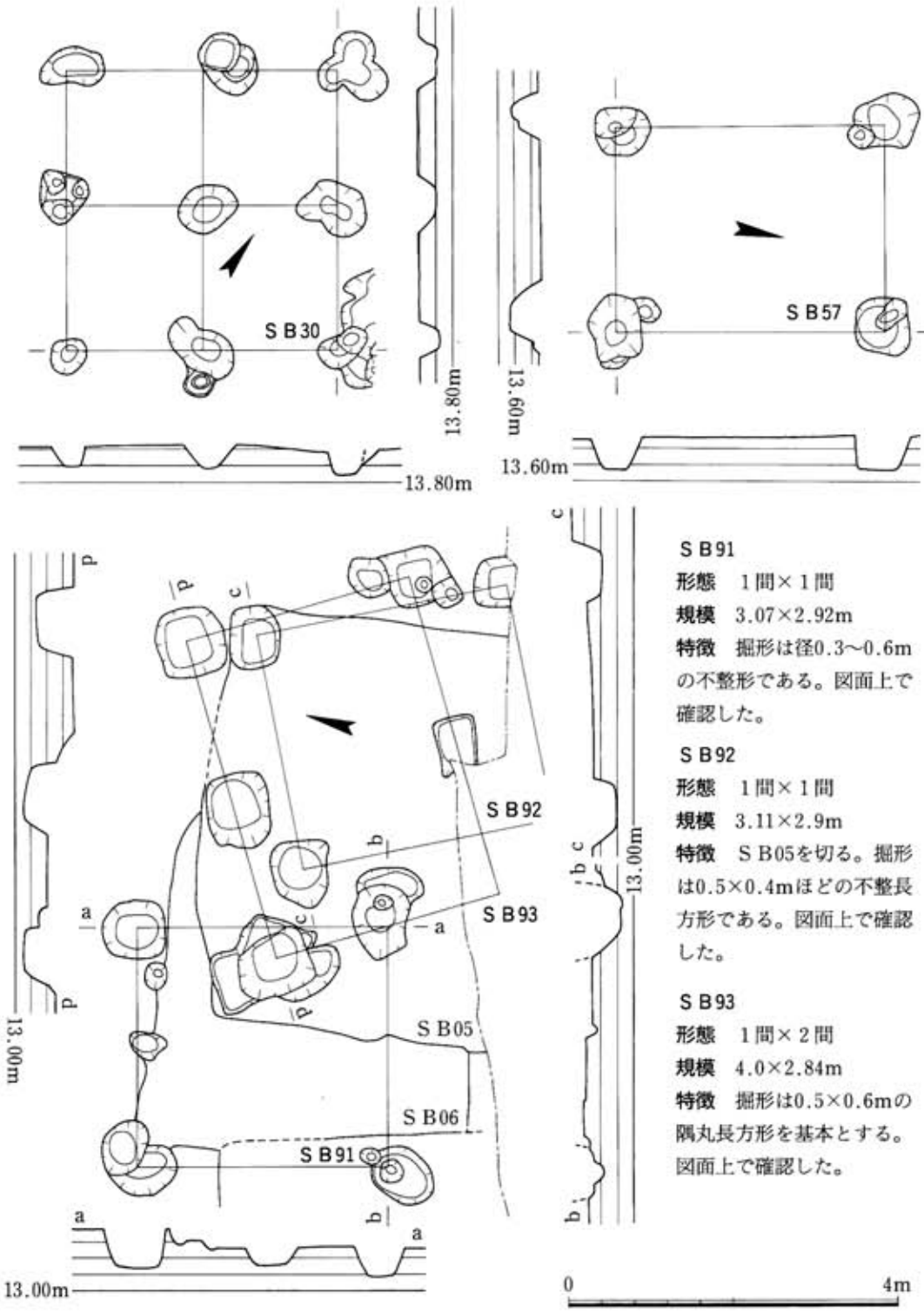

**ＳＢ407**
**形態**　１間×２間
**規模**　4.82×3.42m
**特徴**　ＳＫ250に切られる。柱の掘形は0.6×0.2mほどの隅丸長方形を基本とする。図面上で確認した。

**ＳＢ26**
**形態**　１間×２間
**規模**　3.28×2.8m
**特徴**　柱の掘形は0.8×0.6mほどの不整長方形を基本とする。

**ＳＢ30**
**形態**　２間×２間　総柱
**規模**　3.38×3.22m
**特徴**　柱の掘形は径0.2～0.4mの円形ないしは不整形である。

**ＳＢ57**
**形態**　１間×１間
**規模**　3.26×2.5m
**特徴**　柱の掘形は径0.3～0.5mほどの不整形である。

Fig. 46　ＳＢ407・26掘立柱建物跡（１/８）

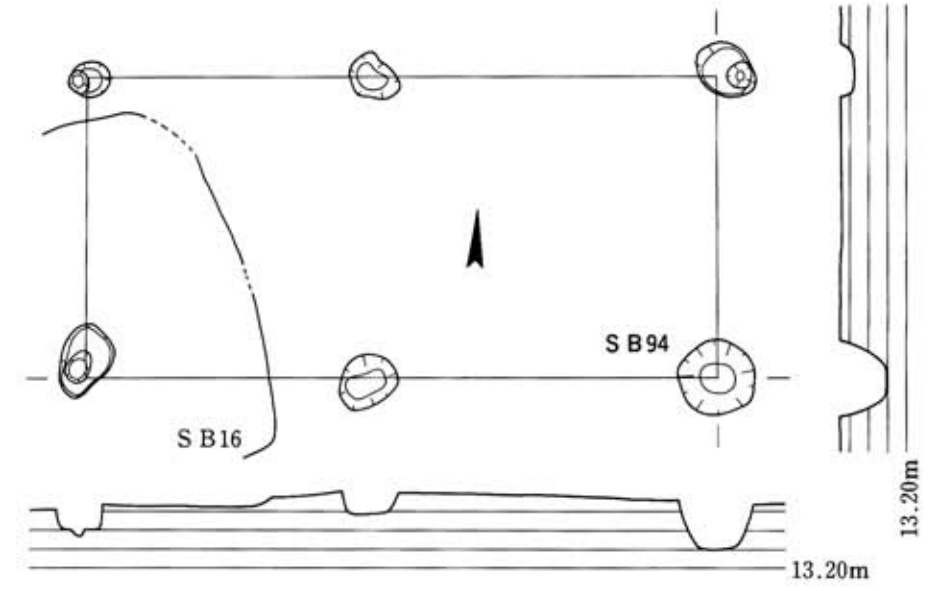


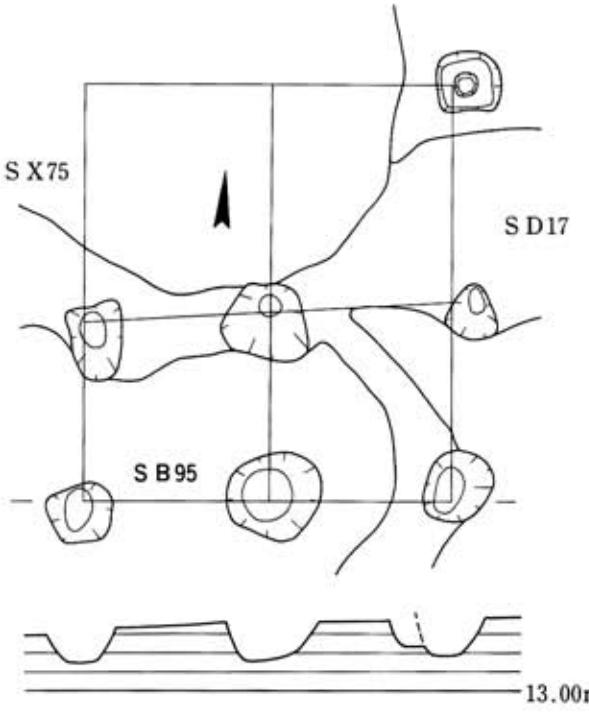

**S B91**
**形態**　1間×1間
**規模**　3.07×2.92m
**特徴**　掘形は径0.3～0.6mの不整形である。図面上で確認した。

**S B92**
**形態**　1間×1間
**規模**　3.11×2.9m
**特徴**　S B05を切る。掘形は0.5×0.4mほどの不整長方形である。図面上で確認した。

**S B93**
**形態**　1間×2間
**規模**　4.0×2.84m
**特徴**　掘形は0.5×0.6mの隅丸長方形を基本とする。図面上で確認した。

Fig. 47　S B30・57・91・92・93掘立柱建物跡（1/80）




**S B94**
**形態**　1間×2間
**規模**　6.68×3.18m
**特徴**　掘形は径0.2～0.4mほどの不整形である。図面上で確認した。規模，柱穴のレベルにやや疑問を残す。

**S B95**
**形態**　2間×2間　総柱
**規模**　4.4×3.88m
**特徴**　S D17，S X75に切られる。掘形は一辺0.5mの方形ないしは不整形を基本とする。図面上で確認した。ほぼ正方向であり，奈良・平安時代の可能性がある。

0　4m

Fig. 48　S B94・95掘立柱建物跡（1/80）

### (3)　不明遺構

性格不明の遺構が１基検出された。発掘調査時点では竪穴住居扱いとしていたが，形態的にみて住居とは考えにくく，性格も不明なため，不明遺構として報告する。したがって，遺物などはＳＢ302として登録されている。

**ＳＸ302不明遺構**は調査区南辺の西側にある。ＳＢ358を切り，ＳＢ301，ＳＤ303，ＳＫ304に切られる。調査区外にのびているため，全体の形態は不明であるが，溝状の遺構になる可能性が高いと考えられる。規模は長さ8.86m以上，幅2.48mを測る。床面はほぼフラットで，小穴も掘り込まれていない。壁面は緩やかに立ち上がる。

土器がかなり出土している。出土状況は，床面から５～15cm程度のところに集中している。器台が多い。

性格としては，祭祀遺構的なものであろうかと思われる。これと類似する遺構が西山田三本松遺跡でも検出されている。

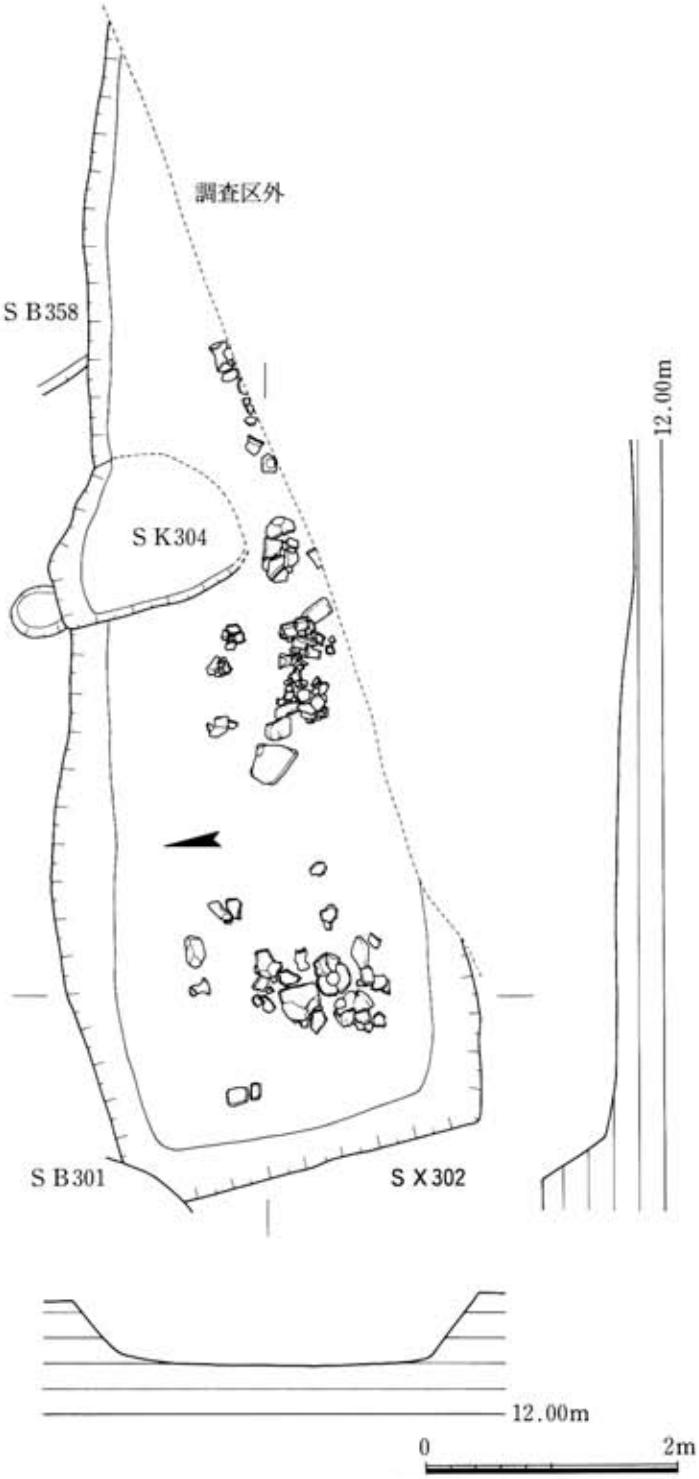



Fig. 49　ＳＸ302不明遺構（１/60）

### (4) 土壙

弥生時代の土壙は13基検出され，11基を図示した。他にも弥生時代に属するものがある可能性がある。性格は不明なものが多い。

**SK177土壙**は不整形の土壙である。性格は不明である。II期。

**SK210土壙**は0.9×0.29mの小型のもので，完形の小型壺が1点出土している。SP209土壙墓に切られる。墓域の中にあることとあわせ考えると，祭祀土壙の一種であろう。II期。

**SK213・223土壙**は類似した形態である。弥生時代のものかどうか確実ではない。SK223は袋状を呈し，SK213も同様であったものと思われる。両者とも床面からやや浮いた状態で礫が集中してみられる。

**SK220土壙**はやや不整形の長方形プランで，石包丁2点が出土した。貯蔵穴であろうか。

**SK324土壙**は6.5×0.29mほどの長楕円形をなす小型の土壙であるが，土器がかなり出土している。廃棄土壙であろうか。IV期。

**SK279土壙**（Fig. 12）は長方形，**SK336土壙**は楕円形，**SK357・361土壙**（Fig. 22）は不整長方形の土壙で，いずれも性格は不明である。

**SK50土壙**（Fig. 35）は隅丸方形のもので，床面に4個の柱穴がある。SB42を切る。

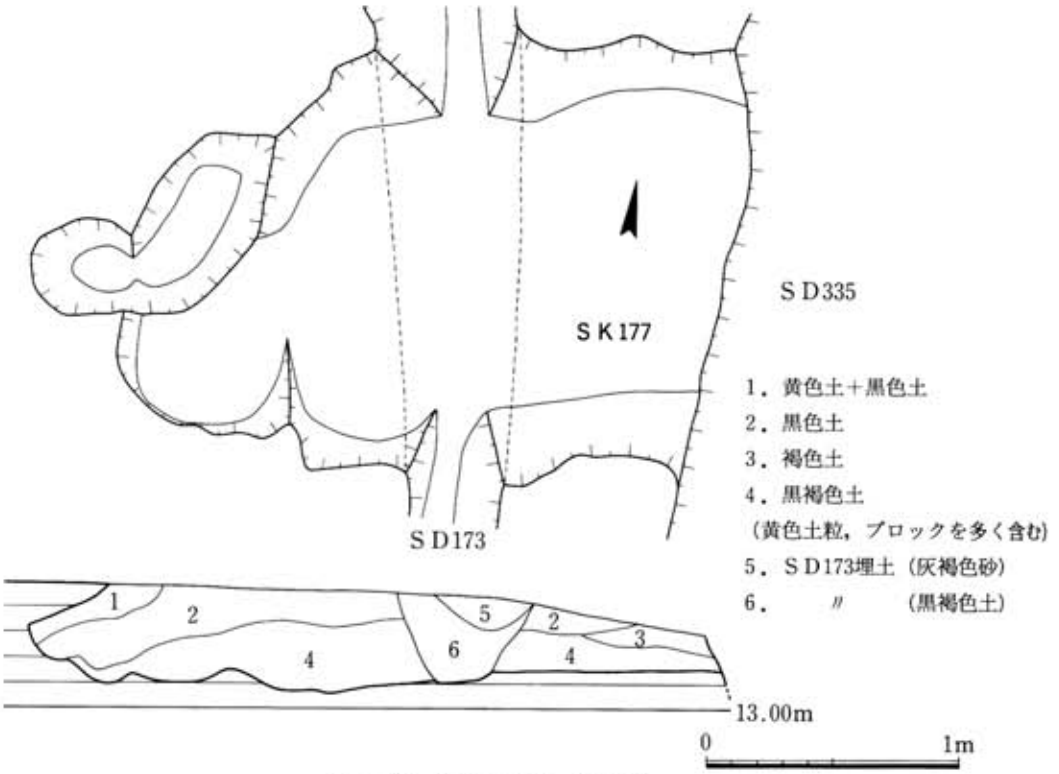



Fig. 50　SK177土壙（1/60）

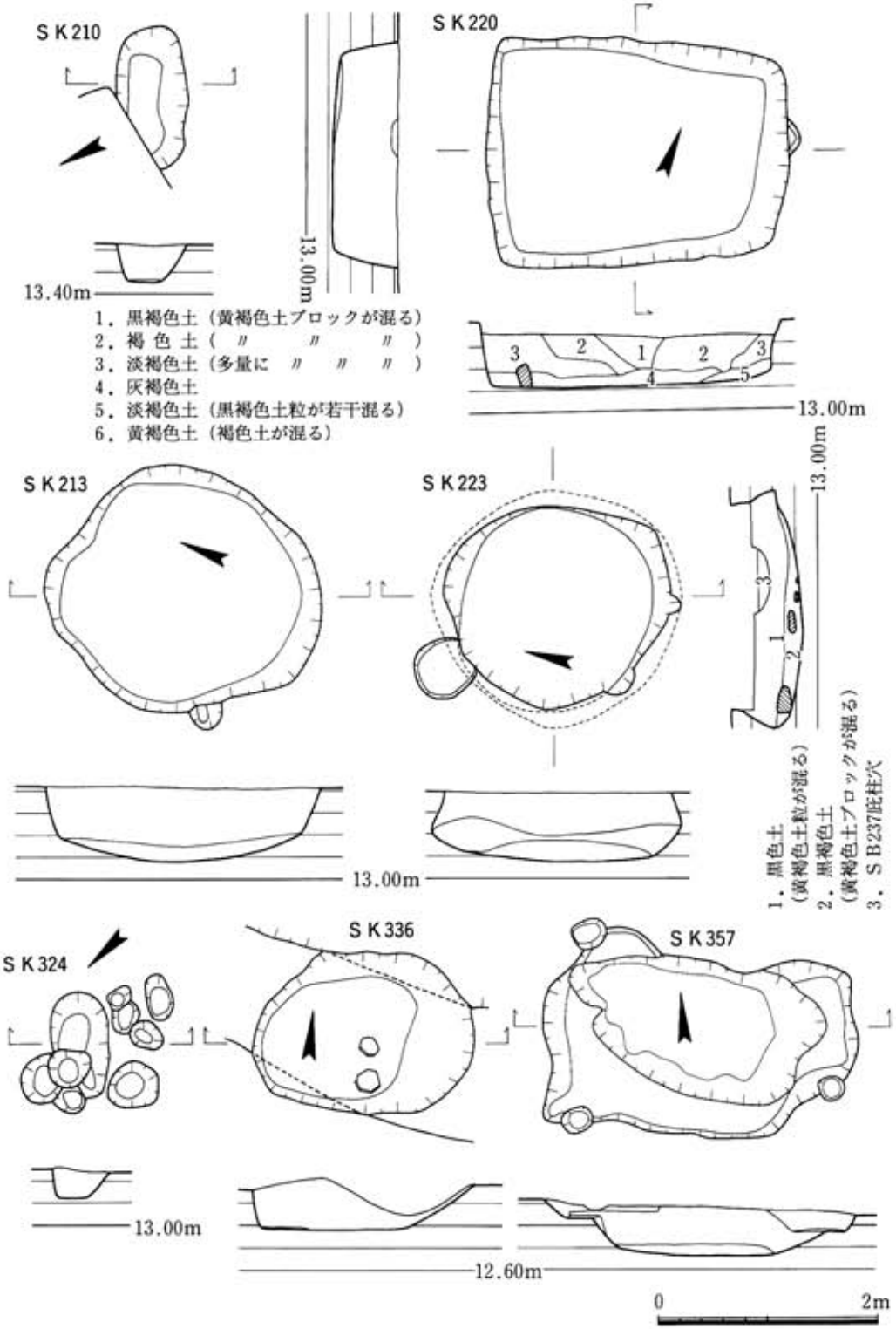
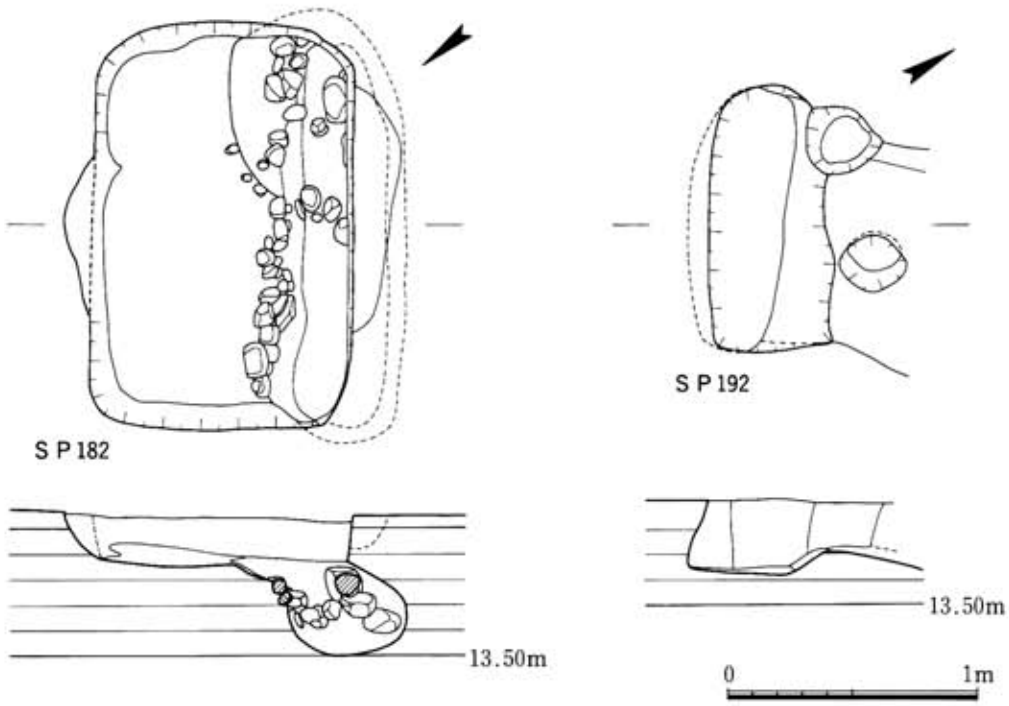



Fig. 51　S K210・213・220・223・324・336・357土壙（1/60）

### (5) 土壙墓

土壙墓と認められるものは32基確認された。分布は調査区中央やや西寄りの墓域に集中しているが，SP182土壙墓が墓域のやや北寄りに，SP305土壙墓が大きく東にはずれている。形態はほとんどがいわゆる横口式土壙墓で28基，「足元掘り込み」の土壙墓が1基，木棺墓と考えられるものが1基ある。横口式のもののうち，SP244土壙墓は石蓋であり，他のものにも木蓋を想定させる礫石や粘土が確認されたものがある。また，SP200土壙墓は土器蓋のものである。これらの墓の時期は，蓋に用いられた土器や甕棺墓や土壙との切合関係により，弥生時代中期後半から後期前半と考えられる。

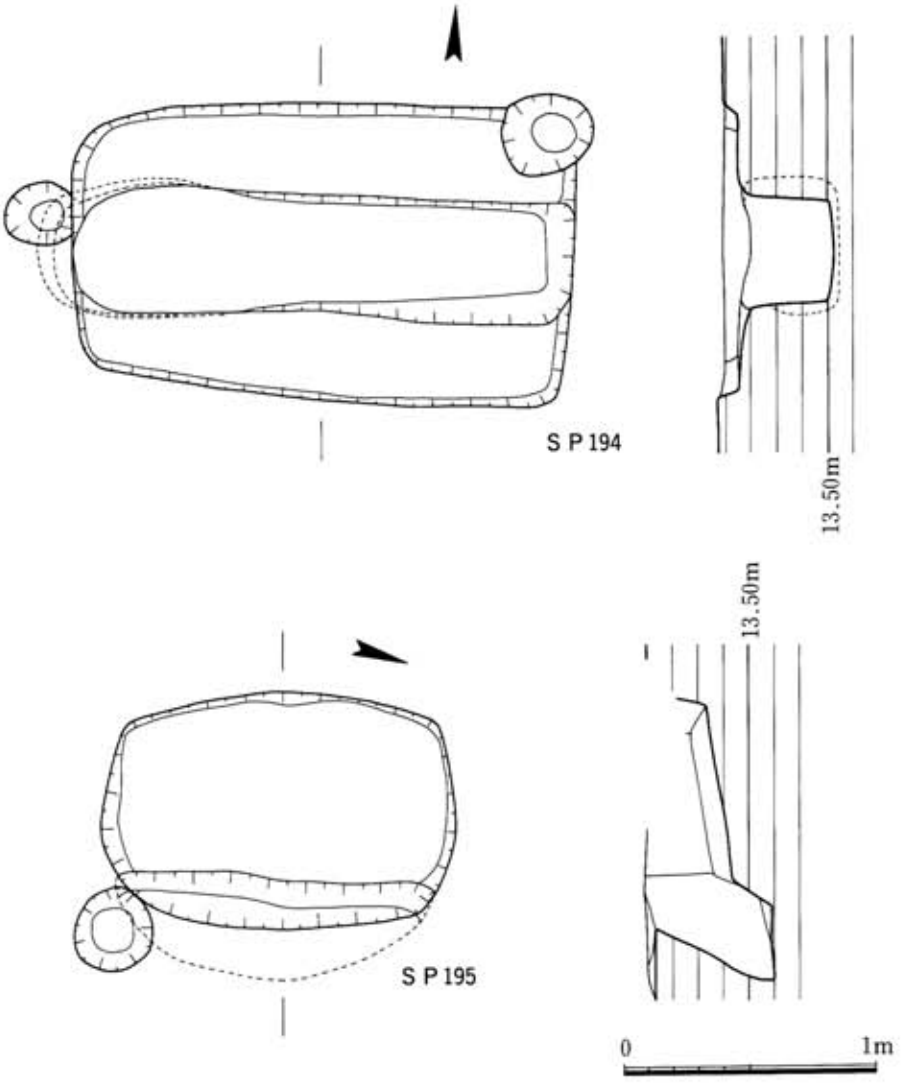
なお，土壙墓と認定したもの以外に壁がややえぐれる遺構が数基みられるが，明確に墓ととらえることはできなかった。




**SP182**
**規模** 1.51×0.32m　**主軸** N55°W
**概要** 横口式。墓壙は1.45×0.95mの隅丸長方形で，南辺を長さ0.23m，深さ0.36mほど掘り込み，主体部とする。横口部の礫石は蓋に関係するものか。

**SP192**
**規模** 1.04×0.38m　**主軸** N52°W
**概要** 横口式。墓壙はSK194との切合により不明である。先後関係も不明。南辺を掘り込み，主体部とする。

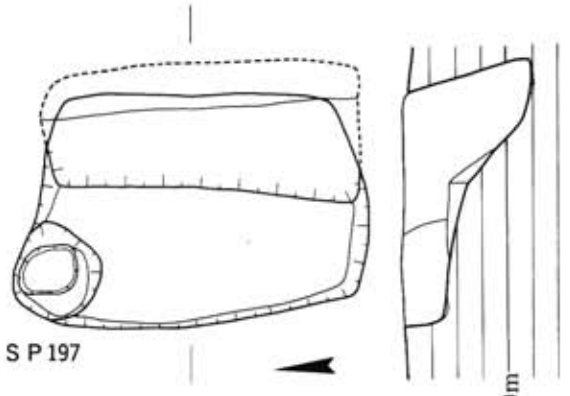
Fig. 52　SP182・192土壙墓（1/30）




**S P 194**　**規模**　1.96×0.39m　**主軸**　N87°E
**概要**　足元掘り込み。墓壙は1.89×1.11mの長方形で，中央部を掘り下げ，さらに西小口を0.14mほど掘り込む。

**S P 195**　**規模**　1.2×0.3m　**主軸**　N10°W
**概要**　横口式。墓壙は1.29×0.81mの隅丸長方形で，東辺を長さ0.3m，深さ0.15mほど掘り込み，主体部とする。

Fig. 53　S P 194・195土壙墓（1/30）

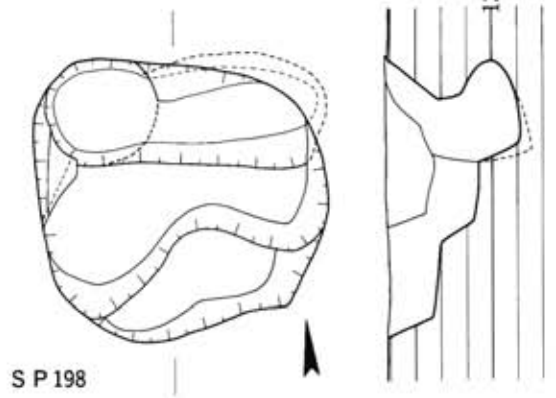



**S P 197**

**規模**　1.26×0.18m

**主軸**　N 0°

**概要**　横口式。墓壙は1.18×0.84mほどの長方形で，さらに東辺を長さ0.17m，深さ0.25mほど掘り込み，主体部とする。

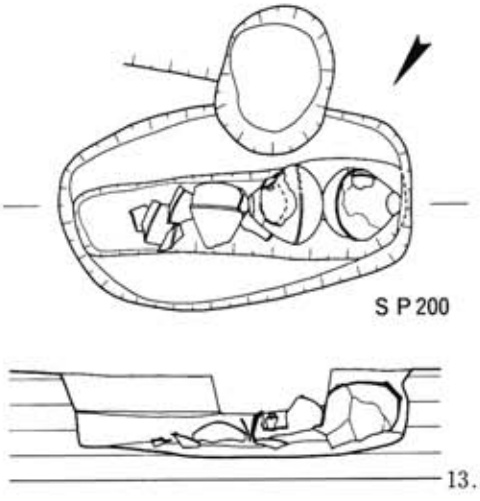



**S P 198**

**規模**　(0.65)×0.29m

**主軸**　N87°W

**概要**　横口式。墓壙は1.04×0.68mの不整長方形で，2段掘り。北辺を長さ0.15m，深さ0.17mほど掘り込み，主体部とする。



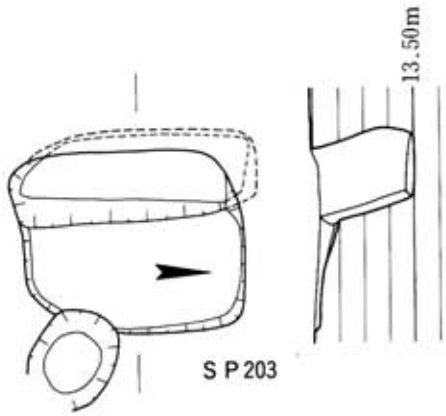

**S P 200**

**規模**　1.27×0.27m

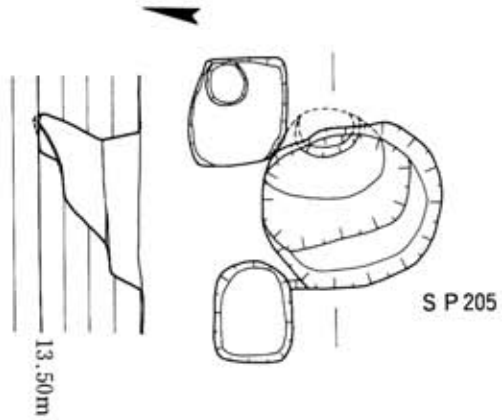
**主軸**　N57°E

**概要**　足元掘り込みか。墓壙は1.3×0.72mの不整長方形。西小口を若干掘り込む。ほぼ半分を打ち欠いた土器約3個体分を蓋として用いる。

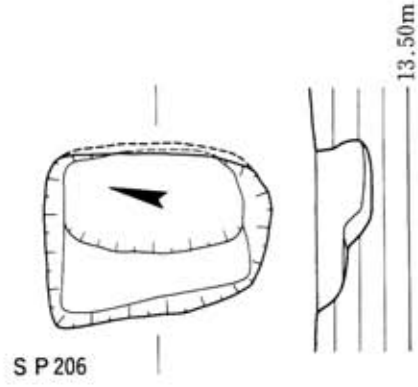
Fig. 54　S P197・198・200土壙墓（1/30）




S P 203
**規模**　0.88×0.25m
**主軸**　N 0°
**概要**　横口式。墓壙は0.83×0.7mほどの長方形で，さらに西辺を長さ0.1m，深さ0.3mほど掘り込み，主体部とする。

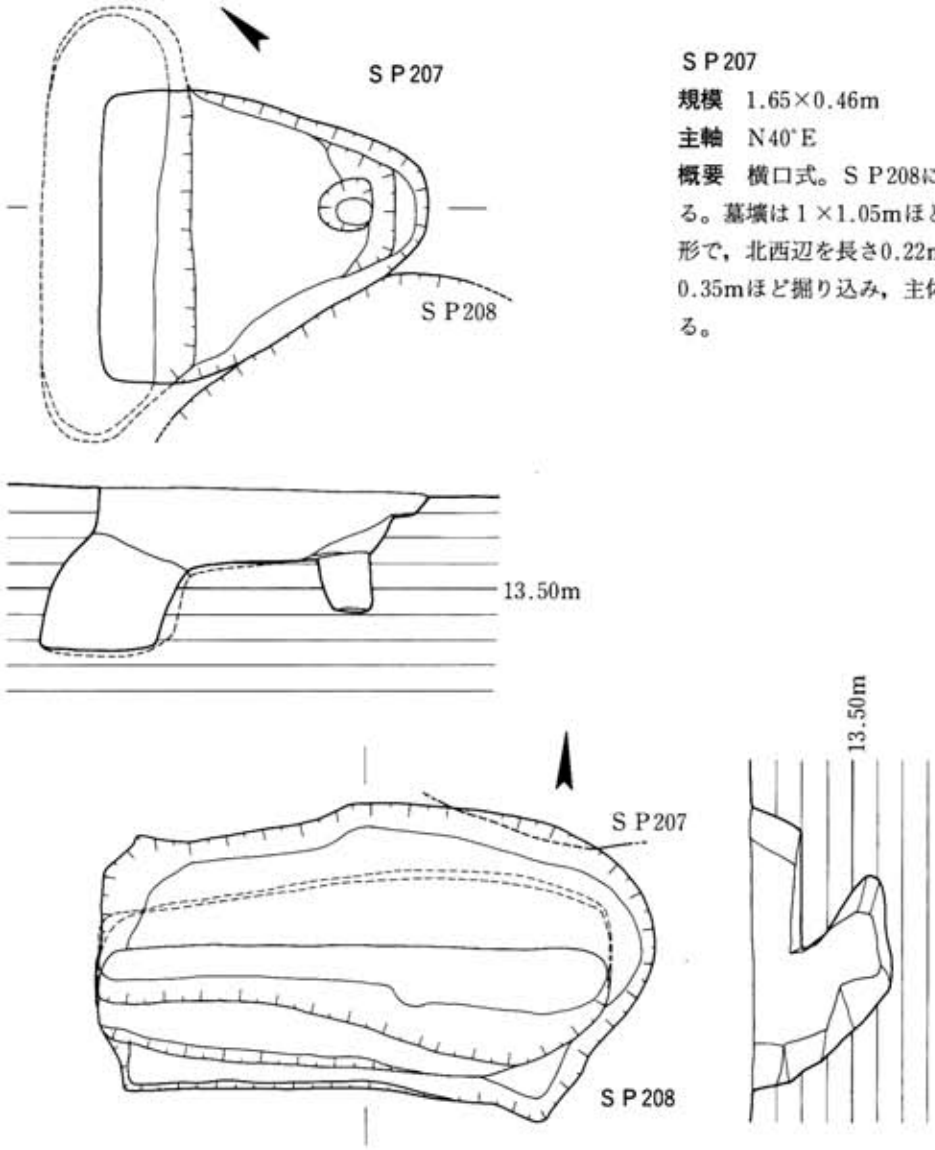



S P 205
**規模**　0.48×0.36m
**主軸**　N25°W
**概要**　横口式。墓壙は0.58×0.52mの楕円形に近い。東辺を長さ0.1m，深さ0.28mほど掘り込み，主体部とする。




S P 206
**規模**　0.75×0.31m
**主軸**　N13°W
**概要**　横口式。墓壙は0.75×0.6mほどの不整長方形で，東辺を長さ0.05m，深さ0.1mほど掘り込み，主体部とする。

Fig. 55　S P203・205・206土壙墓（1/30）

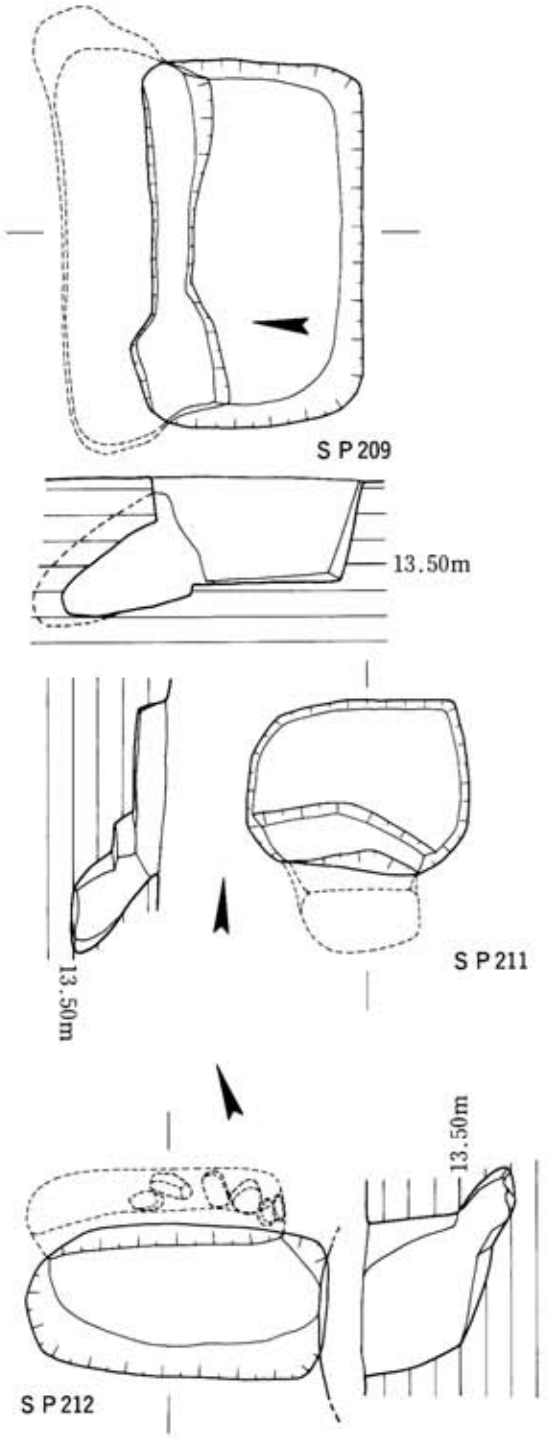



**S P207**
**規模**　1.65×0.46m
**主軸**　N40°E
**概要**　横口式。S P208に切られる。墓壙は1×1.05mほどの略台形で，北西辺を長さ0.22m，深さ0.35mほど掘り込み，主体部とする。

**S P208**　**規模**　2.01×0.49m　**主軸**　N86°E
**概要**　横口式。S P207を切る。墓壙は2.03×1.0mほどの不整長方形で，南辺から北に向かって長さ0.3m，深さ0.36mほど掘り込み，主体部とする。

0　1m

Fig. 56　S P207・208土壙墓（1/30）



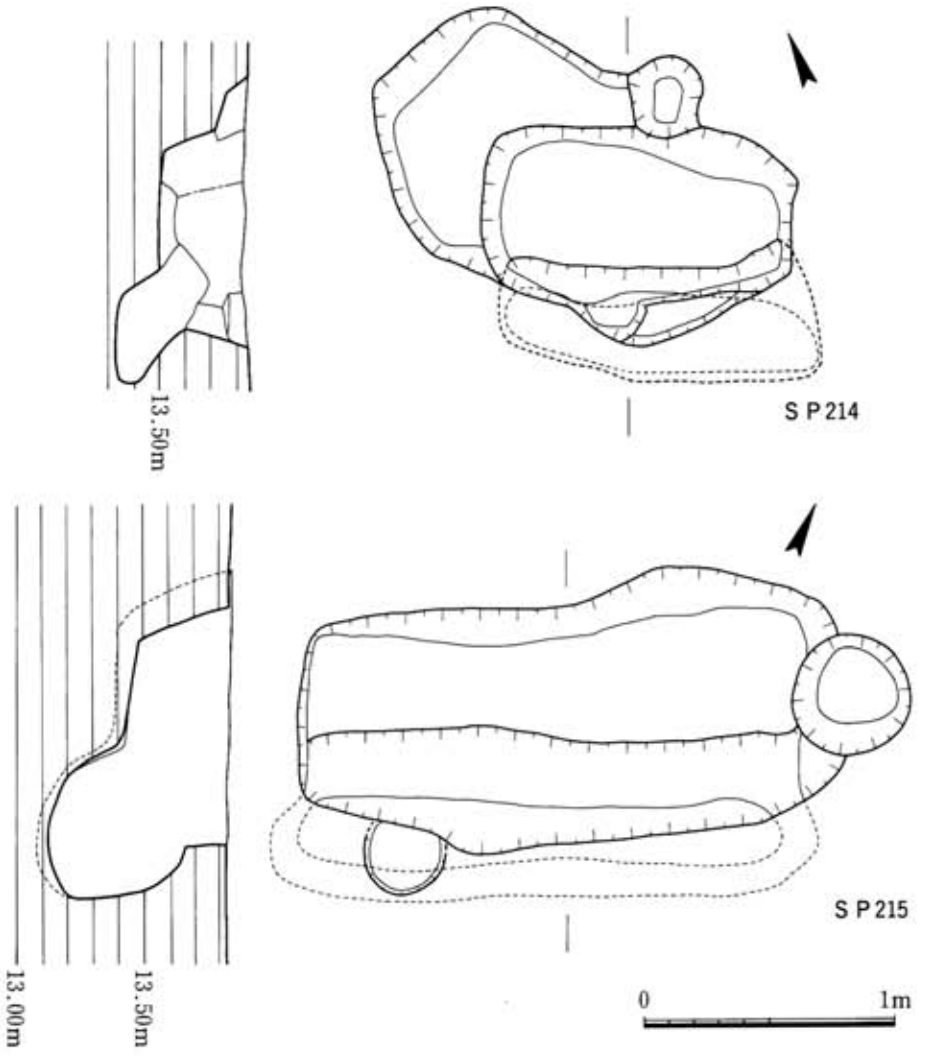

**S P 209**
**規模**　1.55×0.49m
**主軸**　N86°E
**概要**　横口式。墓壙は1.28×0.7mの長方形で，北辺を長さ0.4m，深さ0.12mほど掘り込み，主体部とする。

**S P 211**
**規模**　0.47×0.25m
**主軸**　N87°E
**概要**　横口式。墓壙は0.82×0.6mほどの不整長方形で，さらに南辺を長さ0.32m，深さ0.25mほど掘り込み，主体部とする。

**S P 212**
**規模**　1.02×0.16m
**主軸**　N70°W
**概要**　横口式。墓壙は1.08×0.44mの隅丸長方形で，北辺を長さ0.17m，深さ0.1mほど掘り込み，主体部とする。

0　1m

Fig. 57　S P 209・211・212土壙墓（1/30）



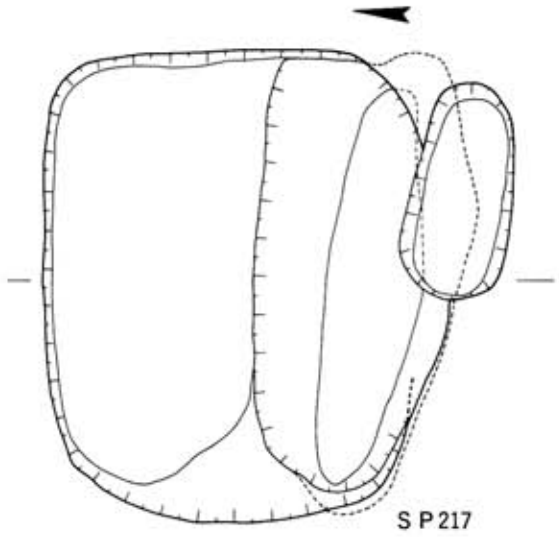

**SP214　規模**　1.24×0.32m　**主軸**　N62°W

**概要**　横口式。墓壙は1.1×0.62mほどの長方形で，南辺を長さ0.2m，深さ0.18mほど掘り込み，主体部とする。

**SP215　規模**　1.93×0.29m　**主軸**　N65°E

**概要**　横口式。墓壙は2.0×0.8mほどの不整長方形で，南辺を長さ0.2m，深さ0.3mほど掘り込み，主体部とする。

Fig. 58　SP214・215土壙墓（1/30）

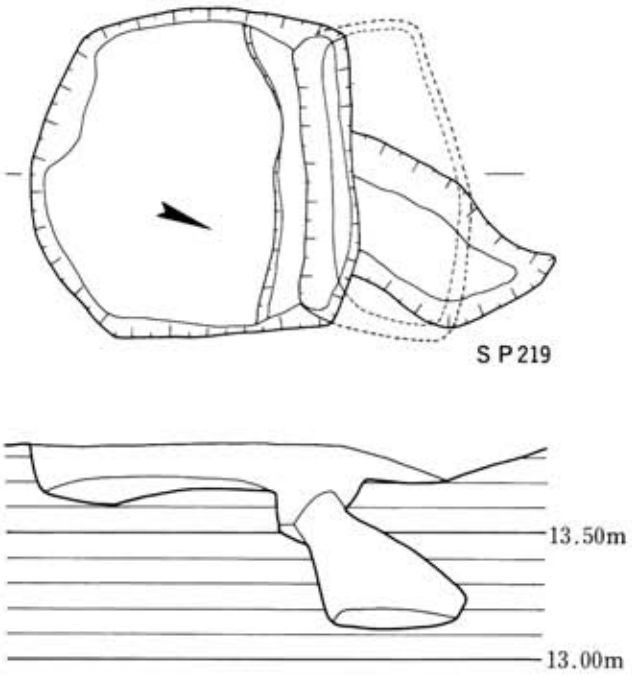



**S P217**

**規模**　1.57×0.39m

**主軸**　N85°W

**概要**　横口式。墓壙は1.64×1.4mほどの隅丸長方形で，南辺を長さ0.2m，深さ0.2mほど掘り込み，主体部とする。



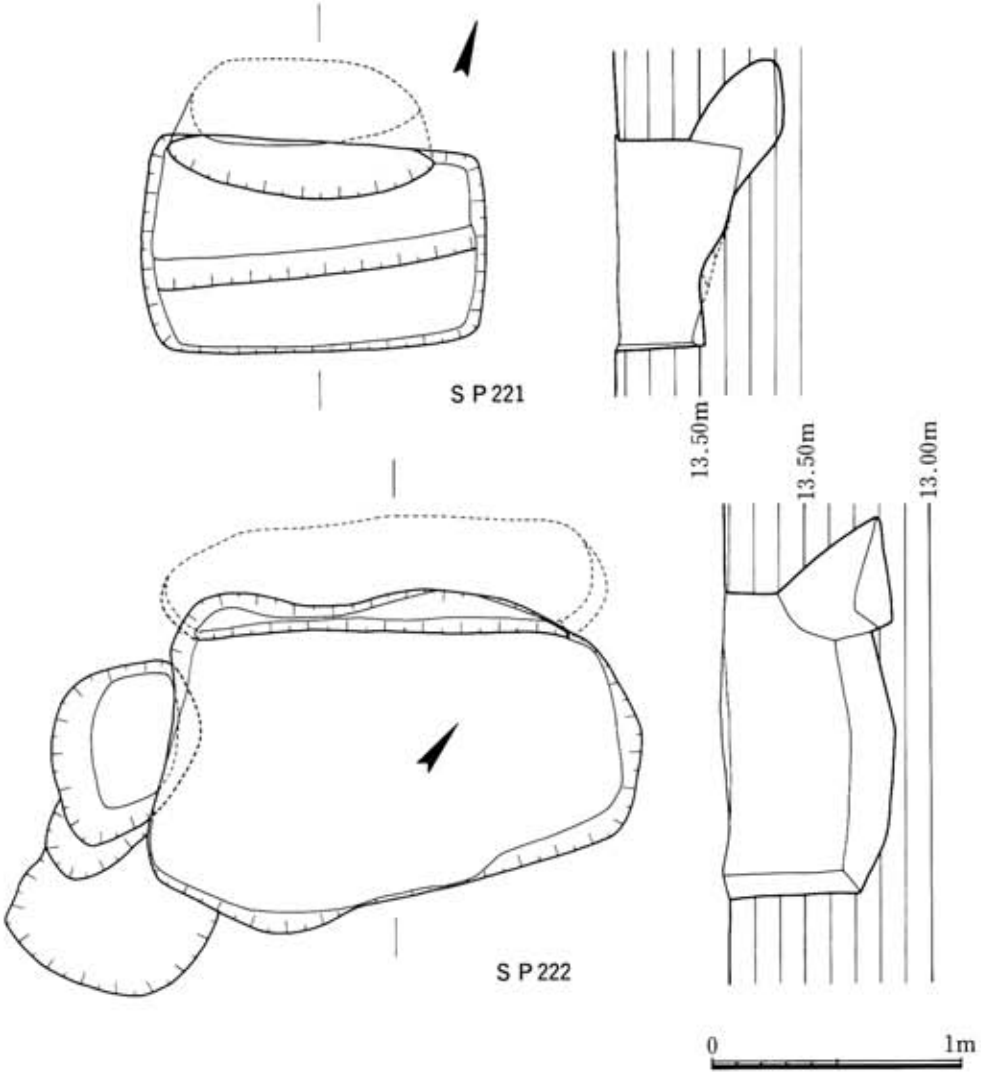

**S P219**

**規模**　1.17×0.5m

**主軸**　N63°E

**概要**　横口式。墓壙は一辺1.2mの不整長方形で，北辺を長さ0.48m，深さ0.55mほど掘り込み，主体部とする。

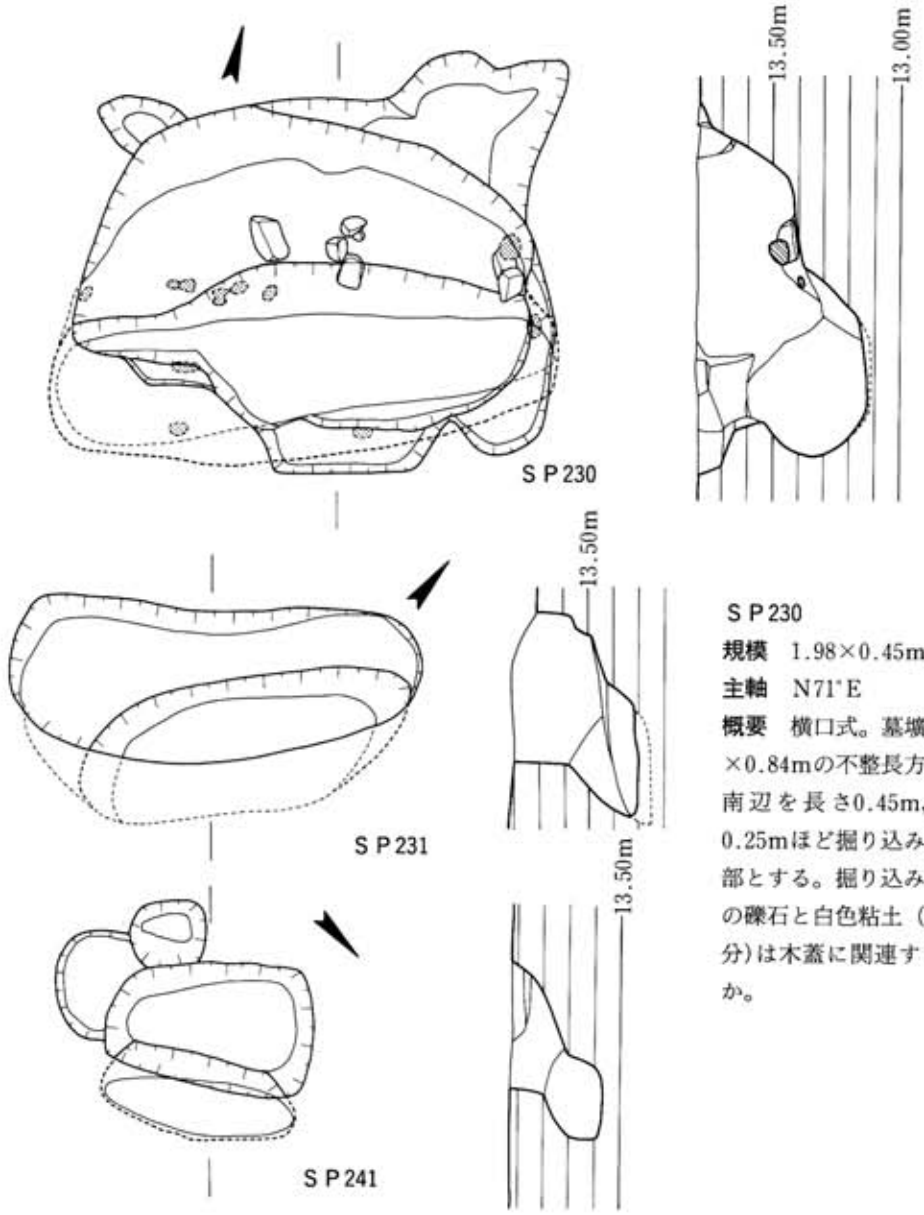
Fig. 59　S P217・219土壙墓（1/30）




**ＳＰ221**　**規模**　0.9×0.34m　**主軸**　N73°E
**概要**　横口式。墓壙は1.29×0.77mほどの長方形で，北辺を長さ0.32m，深さ0.2mほど掘り込み，主体部とする。

**ＳＰ222**　**規模**　1.68×0.41m　**主軸**　N53°E
**概要**　横口式。墓壙は1.82×1.13mほどの不整長方形で，北西辺を長さ0.3m，深さ0.1mほど掘り込み，主体部とする。

Fig. 60　ＳＰ221・222土壙墓（1/30）



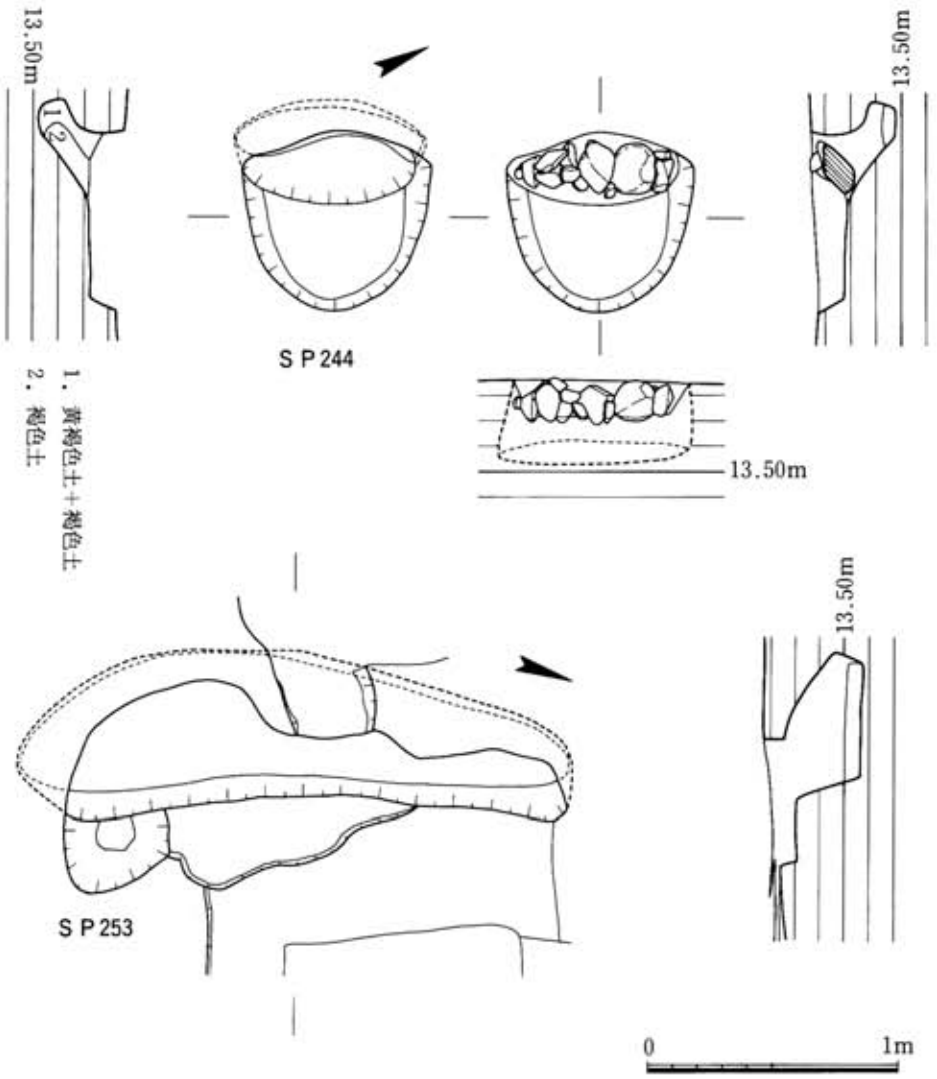

**S P230**
**規模**　1.98×0.45m
**主軸**　N71°E
**概要**　横口式。墓壙は1.68×0.84mの不整長方形で，南辺を長さ0.45m，深さ0.25mほど掘り込み，主体部とする。掘り込み部付近の礫石と白色粘土（網掛部分）は木蓋に関連するものか。

**S P231**　**規模**　1.1×0.46m　**主軸**　N31°E
**概要**　横口式。墓壙は1.55×0.43mほどの不整長方形で，南東辺を長さ0.2m，深さ0.15mほど掘り込み，主体部とする。

**S P241**　**規模**　0.76×0.2m　**主軸**　N36°W
**概要**　横口式。墓壙は0.67×0.35mほどの不整長方形で，北東辺を長さ0.18m，深さ0.15mほど掘り込み，主体部とする。

0　1m

Fig. 61　S P230・231・241土壙墓（1/30）



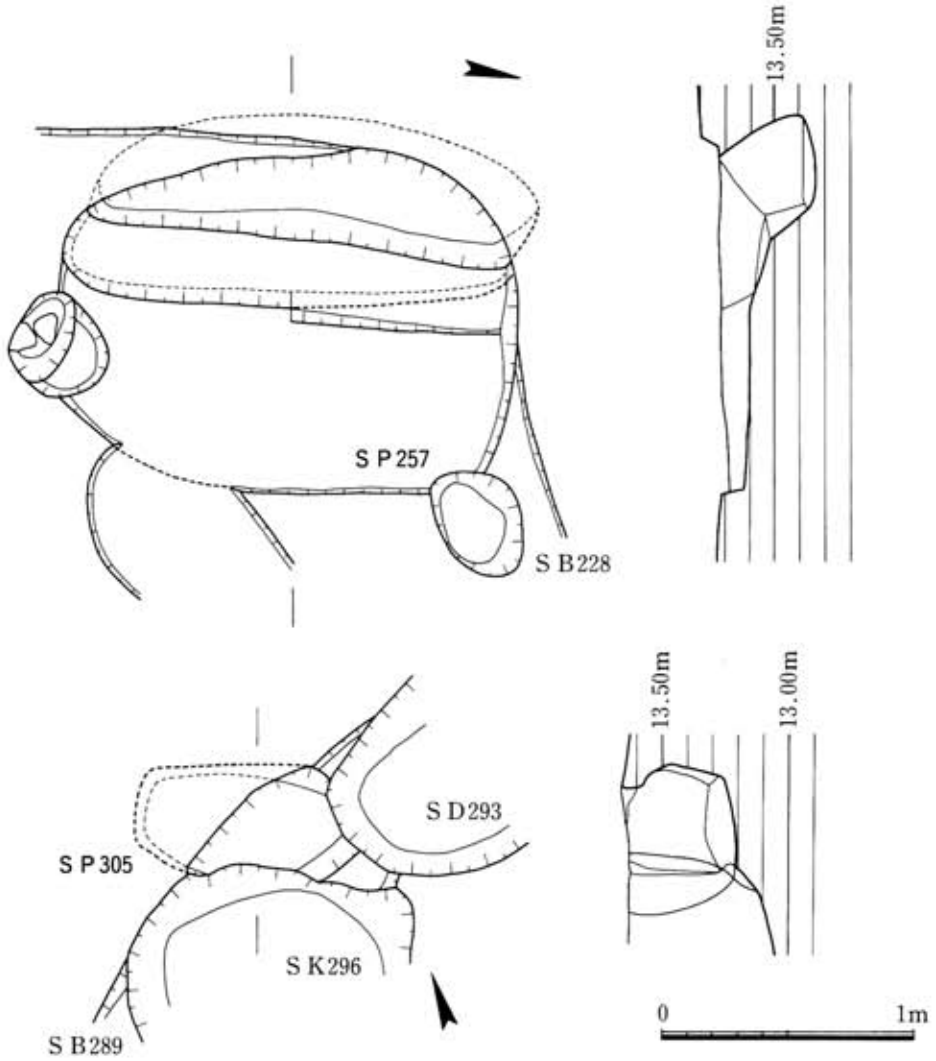

**ＳＰ244**　**規模**　0.74×0.11m　**主軸**　N24°E

**概要**　横口式。墓壙は0.56×0.61mの不整形で，西辺を長さ0.13m，深さ0.2mほど掘り込み，主体部とする。10数個の礫石で蓋をしている。

**ＳＰ253**　**規模**　2.16×0.51m　**主軸**　N19°W

**概要**　横口式。削平などにより墓壙は不明確である。西辺を長さ0.35m，深さ0.26mほど掘り込み，主体部とする。

Fig. 62　ＳＰ244・253土壙墓（1/30）




**S P257**　　**規模**　1.74×0.37m　　**主軸**　N 8°E

**概要**　横口式。S B228に切られるか。墓壙は1.75×1.3mほどの隅丸長方形で，西辺を長さ0.16m，深さ0.2mほど掘り込み，主体部とする。

**S P305**　　**規模**　(0.79)×0.4m　　**主軸**　N65°W

**概要**　横口式。S B289・S D293・S K296に切られ，墓壙は不明である。西に掘り込み，主体部とする。

Fig. 63　S P257・305土壙墓（1/30）

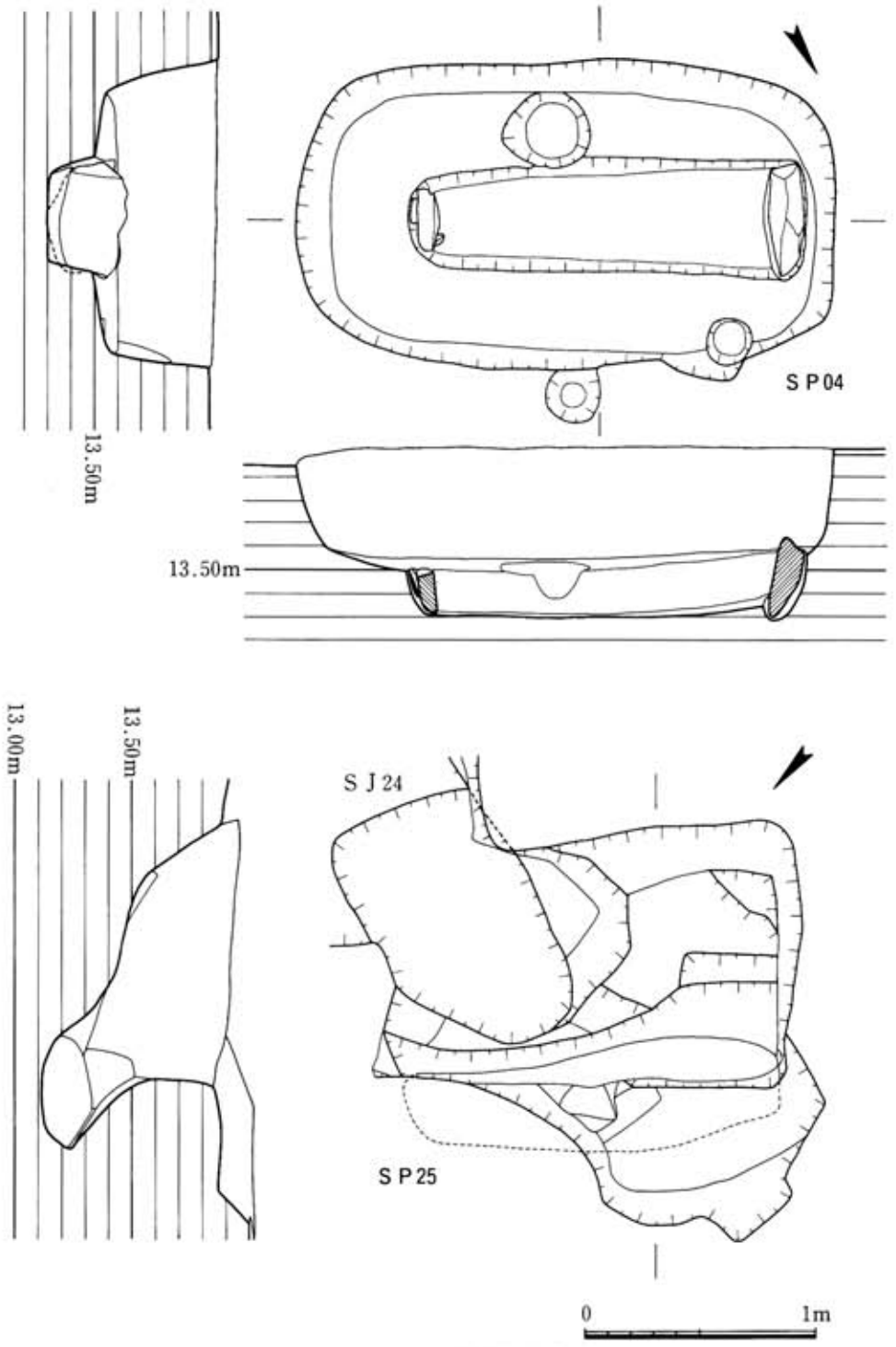



Fig. 64　ＳＰ04・25土壙墓（1/30）

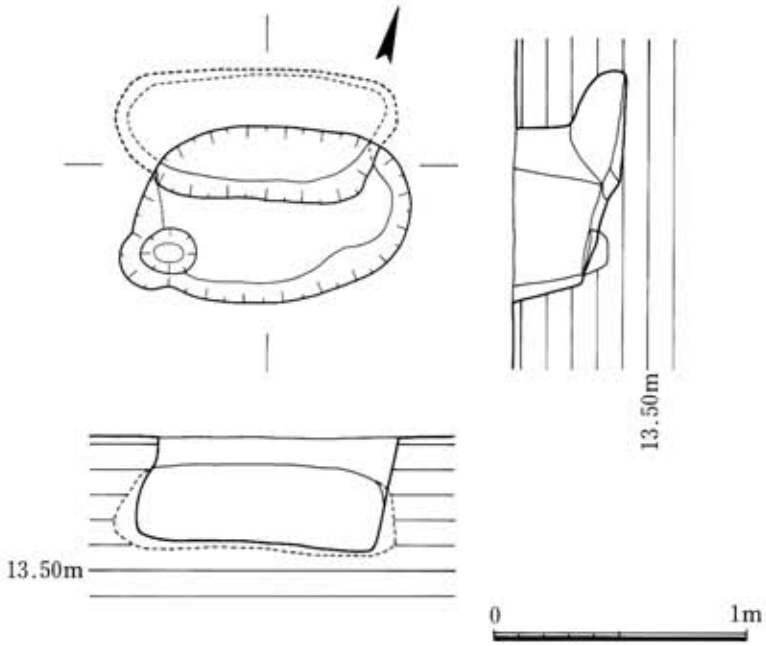



Fig. 65　ＳＰ39土壙墓（１/30）

ＳＰ04

**規模**　1.4×0.42m　　**主軸**　N60°W

**概要**　土層では明確ではないが，木棺墓と考えられる。墓壙は2.09×1.1mの隅丸長方形で，中央西寄りに主体部を設ける。両小口に板石を立てている。主体部内の中央から西寄りにかけて突き固められて部分がある。

ＳＰ25

**規模**　1.61×0.47m　　**主軸**　N62°E

**概要**　横口式。ＳＪ24に切られる。墓壙は1.5×0.9mほどの長方形と考えられる。北辺を長さ0.3m，深さ0.35mほど掘り込み，主体部とする。

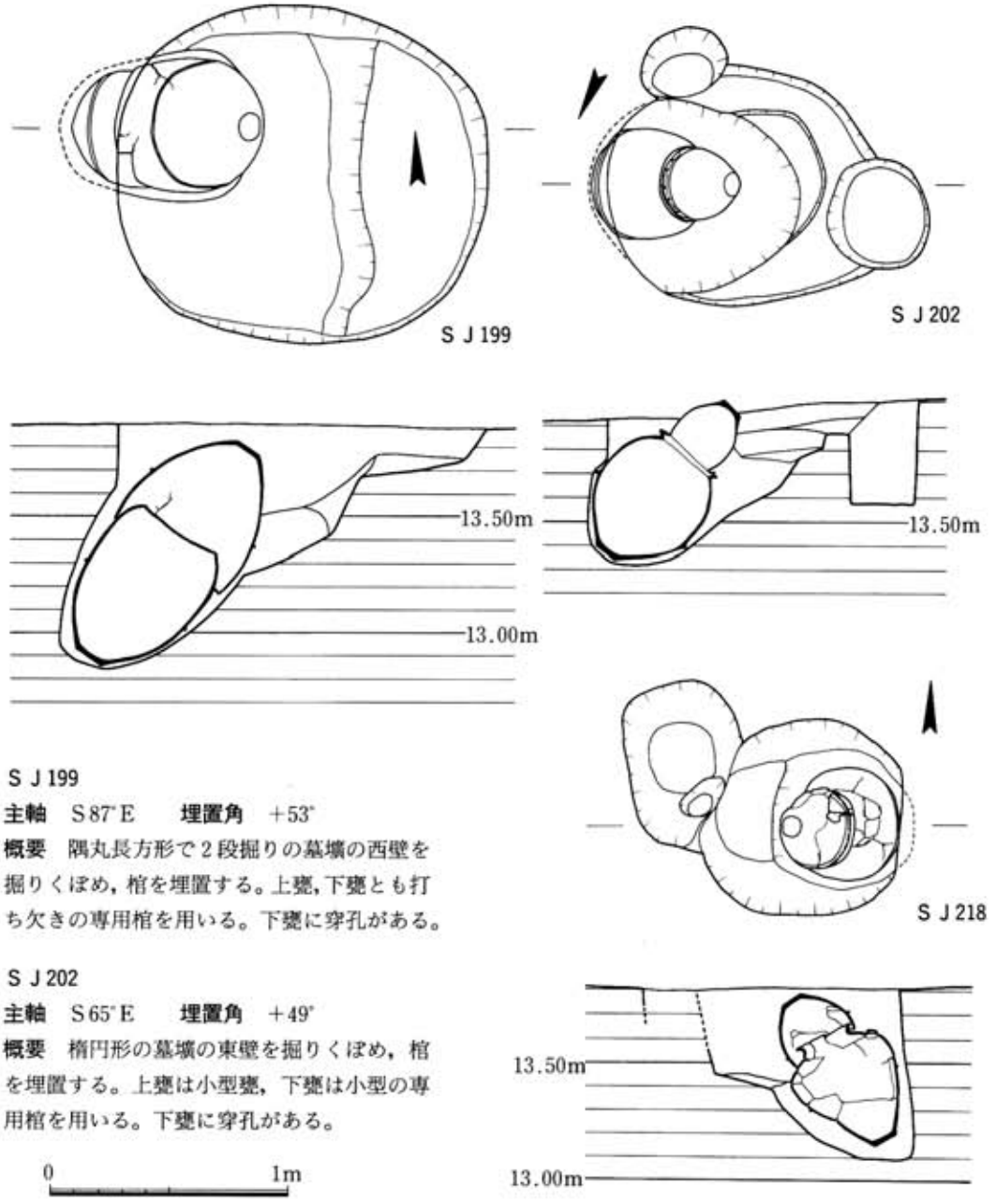
ＳＰ39

**規模**　1.02×0.42m　　**主軸**　N76°E

**概要**　横口式。墓壙は0.92×0.61mの隅丸長方形で，北辺を長さ0.23m，深さ0.1mほど掘り込み，主体部とする。

### (6) 甕棺墓

甕棺墓は6基検出された。小児棺のＳＪ261甕棺墓以外は墓域内にある。ＳＪ199・202・24甕棺墓は成人棺と考えられる。ＳＪ218甕棺墓はいわゆる中型棺である。棺の形態・組み合わせはそれぞれ異なっている。大型棺の時期はいずれも桜馬場式期（Ⅰ期）に相当する。




**ＳＪ199**
**主軸**　S87°E　　**埋置角**　+53°
**概要**　隅丸長方形で2段掘りの墓壙の西壁を掘りくぼめ，棺を埋置する。上甕，下甕とも打ち欠きの専用棺を用いる。下甕に穿孔がある。

**ＳＪ202**
**主軸**　S65°E　　**埋置角**　+49°
**概要**　楕円形の墓壙の東壁を掘りくぼめ，棺を埋置する。上甕は小型甕，下甕は小型の専用棺を用いる。下甕に穿孔がある。

Fig. 66　ＳＪ199・202・218甕棺墓（1/30）

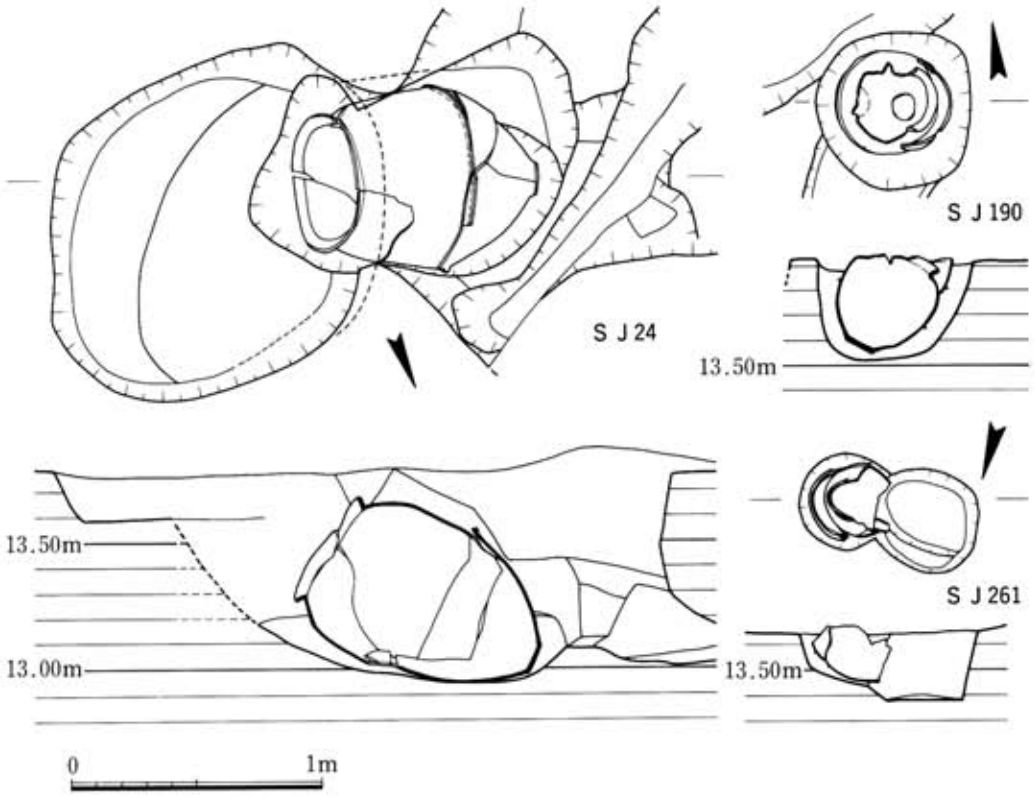



Fig. 67　S J 24・190・261甕棺墓（1/30）

**S J 218　　主軸**　S 87°W　　**埋置角**　+55°

**概要**　隅丸長方形の墓壙の東壁を掘りくぼめ，棺を埋置する。上甕は胴部上半部より上を打ち欠いた壺を，下甕は小型の専用棺を用いる。

**S J 24　　主軸**　S 68°E　　**埋置角**　+29°

**概要**　調査区の境界にあり，墓壙と甕棺の関係を図面上で復原した。S P25を切るものと考えられる。墓壙は二段掘りとみられ，西壁を掘りくぼめ，棺を埋置する。専用棺の単棺である。

**S J 190　　主軸**　S 84°E　　**埋置角**　+61°

**概要**　削平が著しく，墓壙の詳細は不明。S P189を切る。上甕は壺の胴部上半部以上を打ち欠いたものと思われ，下甕は非常に小型の専用棺を用いる。下甕にかなり大きい穿孔がある。

**S J 261　　主軸**　N 74°E　　**埋置角**　（+46°）

**概要**　削平が著しく，墓壙の詳細については不明。墓域を離れて，S B262に隣接する。上甕は小型壺の胴部上半部以上を打ち欠いたものと思われ，下甕は頸部以上を打ち欠いた小型の壺を用いる。

## 2　奈良時代から平安時代前半にかけての遺構

奈良時代から平安時代前半にかけての遺構は，東山田一本杉遺跡（ＨＹＳ－Ⅱ区･Ⅲ区），西山田二本松遺跡（ＮＹＮ－Ｂ区）において確認しているが，その内訳は掘立柱建物跡11棟，溝跡（築地関連遺構を含む）33条，井戸跡１基，土壙17基である。このうち東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区において確認した掘立柱建物跡，築地関連遺構，井戸跡については嘉瀬川を越えて東南東約800mに肥前国庁跡，東北東約700mにはやはり掘立柱建物群が確認された惣座遺跡が立地することから，これらとの関連が問題となっている。

なお，この遺構群に関しては，Fig. 68でその配置を示し，遺構一覧表としてTab. 2を掲げている。以下遺構種別毎に概括してみたい。

### (1)　掘立柱建物跡

本調査区内で確認した掘立柱建物跡11棟については，その全てが東山田一本杉遺跡Ⅲ区においてである。建物跡に伴う遺物の量が少ないため分類については問題を残すが，棟柱の方位と築地に関連すると思われる溝状遺構との位置関係から勘案すると，おおよそ４グループに大別される。

まず調査区東側に立地するＳＢ372・373の２棟，次いで調査区中央部に位置するＳＢ255・266（401）の２棟，更に後者と切り合っているＳＢ237があり，そしてその西側に交互２列に配置されているＳＢ240・254・256・258の長棟構造をとる一連の掘立柱建物群である。

ＳＢ372及びＳＢ373については共に東西棟で棟方位，軒面を揃えた配置状況が見られ，柱穴掘形も均一性が保たれていることから，この２棟が同一時期に同一の建設計画によって建て上げられ，相互に関連しながら機能していたことは明らかである。ＳＢ372については北側の構造が地区外で未確認であるため，今回の調査では南側に一間の出廂を持つ片面廂の建物として判断しており，この建物の北側に更に同時期の掘立柱建物群が展開している可能性とも併せて，今後の追加調査に期待のかかるところであるが，ともあれこのような主殿と考えられる廂が付属する建物に同規模の建物が添う形態は久池井Ｂ遺跡Ⅱ区[1]でも検出されている。

またこの２棟は２条の断続する溝状の遺構によって「 」字型に囲まれた空間に立地しているが，この２列の遺構の間に築地が存在したであろうことを想定すれば，築地塀に囲まれた内側に建つ官人の邸宅であった可能性が浮かぶ。

ＳＢ372及びＳＢ373の時期については，柱穴掘形の埋土から出土している須恵器・土師器の杯蓋・杯身の細片から判断する限り，８世紀前半頃にはその建て上げが行われたと思われる。また周囲を巡る築地が建物と同時期に築かれ，同時期に廃棄されたとすれば，建物の存続時期の下限を８世紀後半代と考えることができる。

Fig. 68　奈良・平安時代前半の遺構配置図（1/1,000）

第2グループはSB237である。棟方位は真北を向き，四面に一間の出廂を配する。身舎部分の柱穴掘形は大型で定型化しているが，本調査区において類似するものはSB266のみである。このSB237の全体規模は，例えば国府正殿[2]と比べ，桁の長さでは劣るものの，梁の規模では凌いでおり，嘉瀬川西岸に配された建物群の中でも際立っていたと思われる。

重複するSB255・266との先後関係については，柱穴掘形の切り合いからSB266よりも古く，その時期については埋土中の遺物から見る限り9世紀の初頭から後半が建物の築造・維持されていた時期であったと推定される。第3グループについてもその後の時期，特にSB401からSB266への建て替えと，SB266が，よりSB237に近い柱穴掘形の形態を採用していることを考えれば，SB237とさほど時間的隔たりのない時期に位置付けられるのではあるまいか。

第3グループとしてとらえているSB255及びSB266は，いずれも南北方向に棟を向ける。SB255は柱穴掘形が小型，SB266は東側に一間の出廂を持ち，東西棟でやや大型の柱穴掘形という特徴を有する。またSB398も部分的な調査しか行っていないが，位置関係から同一グループに含まれる可能性がある。

SB255とSB266はほぼ直交する形で「L」字状に配置されている。またSB266はSB401の建て替え後の建物と考えられる。このSB401は小規模の柱穴掘形で，柱間も不均一であり，平面プランも台形上に歪んでいることから割合短期間，あるいは作業終了を待たずしてSB266へ建て替わったことも考えられる。この建て替え前後で大きく異なるのは，柱穴掘形が大型で隅丸方形及び円形を基本とする均一的なものへと変わる点である。

柱穴掘形の大型化と画一化はこのSB266と切り合うSB237から派生していることが推定され，双方の時間的な近接について考察したいところであるが，SB255とSB266のどちらについても伴う遺物がほとんど無いため，現段階では困難である。

第4グループは調査区中央部西寄りに棟方位を南北棟に揃えて点在する長棟構造の倉庫群である。SB240・254・256・258の4棟が適度な間隔をとりながら互列に配置されている。建物によっては未掘部分もあるため，規模の正確な把握は困難だが，現段階ではそのすべてが5間×2間の身舎部分のみの建物と考えられ，群の南側への展開が推測される。建物に伴う遺物がほとんど無いため時期の決定は困難だが，惣座遺跡[3]における大型の長棟構造を持つ倉庫群が，その出現時期を8世紀後半～9世紀初頭に位置付けられていることから，SB372・373廃絶後の9世紀初頭以降に築造され，機能していたと思われる。

またこのグループの北側に位置するSD187との位置関係が問題として残る。SD187が第4グループを区画する機能を帯びたものであるならば，第4グループはここを起点（終点）に南方向へ展開することになるが，SD187は現段階では平安時代後半期から中世に時期を設定しているため，遺物からの補完ができない現状では，このグループの機能時期の下限をそこまで引き下げて考える余裕が必要である。

以上，本調査区における掘立柱建物群について概括したが，この地区における掘立柱建物群において特筆すべきは，地区東側から中央北側に伸びる築地関連遺構と思われる2条の断続する溝と，それが「L」状に囲む空間内に立地していて，緊密な相関関係にある2棟の掘立柱建物との組み合わせである。これは本調査地区北側への展開が想定され得るが，この北側隣接地について大和町教育委員会[4]が昭和62年(1987)に町道改良工事に伴い文化財調査を実施した際に，SB255の北側で奈良時代の3間(＋α)×2間(＋α)の総柱の建物跡を1棟確認している。また本調査区におけるSD033・355といった中世の溝跡とおそらくはつながると思われる二重環濠による区画と，その内側に建つ居館の存在が調査者によって示されている。本調査区においては総柱の建物跡は検出されておらず，総柱と側柱との相違による時期の接点が存在するのか不明であるが，ともあれ地区北側においても奈良時代の掘立柱建物が存在することから，掘立柱建物跡と築地関連遺構に関係する遺構群は更に広範囲に展開していると思われる。

なお，周辺遺跡における総柱建物跡の時間的位置付けに関しては，例えば先述の惣座遺跡においては8世紀前半～中頃に計画的に配置されたものが，8世紀後半～9世紀初頭には国府正殿規模のものを含む，側柱を支持柱とする長棟構造の倉庫機能と行政機能とを兼備した正方位建物群に替わることが報告されている。これから勘案すれば本調査区周辺において8世紀前半代には既に総柱建物群が機能している一方，築地関連遺構と規模・柱穴掘形等に付いて共通する属性を持つ掘立柱建物群の組み合わせによって収斂される一群が存在しており，これらが9世紀の初頭には廃絶され，大型建物や長棟構造の倉庫群と変遷して行ったと思われる。

またこの建物群を国府関連の施設の一部と見るか，あるいは佐嘉郡衙のそれととらえるかは，今後の周辺の調査による資料の集積を待って判断されるであろう。

Tab. 2　奈良・平安時代前半の遺構一覧表

| 調査区 | 遺構番号 | 遺構種別 | 形態 | 規模(間数、長軸長×短軸長×深さ等) | 備考(主軸方位等) |
|---|---|---|---|---|---|
| HYS-III | SB237 | 掘立柱建物跡 | | 9間×4間(身舎部分7間×2間＋出1間の四面廂) | 0°00′EW |
| 〃 | SB240 | 〃 | | 5間×2間(＋α) | N6°40′W |
| 〃 | SB254 | 〃 | | 5間×2間 | N5°30′W |
| 〃 | SB255 | 〃 | | 5間(＋α)×3間(身舎部分5間(＋α)×2間＋出1間の東面廂) | N5°20′W |
| 〃 | SB256 | 〃 | | 3間(＋α)×2間 | N3°00′W |
| 〃 | SB258 | 〃 | | 5間(＋α)×2間 | N4°40′W |
| 〃 | SB266 | 〃 | | 5間×2間 | N88°30′E |
| 〃 | SB372 | 〃 | | 5間×4間(＋α)(身舎部分5間×3間＋南側に1間の出廂) | N86°00′E |
| 〃 | SB373 | 〃 | | 5間×3間 | N86°20′E |
| 〃 | SB398 | 〃 | | 2間(＋α)×(1間) | N88°00′E<br>(N2°00′W) |
| 〃 | SB401 | 〃 | | 5間×2間 | N86°20′E |
| HYS-II | SD157 | 溝跡 | | 3.70(＋α)m×1.70m×0.11～0.28m | N89°00′E |
| 〃 | SD158 | 〃 | | 15.50(＋α)m×1.60m×0.13～0.70m | N87°40′W |
| 〃 | SD159 | 〃 | | 3.60m×1.15m×0.09～0.62m | N86°00′W |
| 〃 | SD160 | 〃 | | 8.90m×1.67m×0.46～0.72m | N89°40′W |
| 〃 | SD164 | 〃 | | 9.50(＋α)m×1.35m×0.25m | N15°30′W |
| 〃 | SD167 | 〃 | | 4.30(＋α)m×1.05m×0.23m | N71°30′W |
| 〃 | SD170 | 〃 | | 3.75m×1.15m×0.70m | N86°00′W |
| 〃 | SD175 | 〃 | | 9.25(＋α)m×1.50m×0.66m | N87°30′W |
| 〃 | SD178 | 〃 | | 7.00(＋α)m×1.25m×0.50～0.93m | N88°00′W |
| 〃 | SD184 | 〃 | | 3.60(＋α)m×1.20m×0.61m | N87°30′W |
| HYS-III | SD303 | 〃 | | 33.30(＋α)m×0.70～2.20m×0.47m | N15°00′<br>～N36°00′W |
| 〃 | SD310 | 〃 | | 6.30(＋α)m×1.40m×0.20m | N36°00′W |
| 〃 | SD314 | 〃 | | 4.05m×1.80m×0.10～0.67m | N89°00′W |
| 〃 | SD315 | 〃 | | 4.95m×1.60m×0.10～0.90m | N0°20′E |
| 〃 | SD316 | 〃 | | 4.80(＋α)m×1.60m×0.53m | N2°40′W |
| 〃 | SD325 | 〃 | | 22.60(＋α)m×0.65～2.00m×0.50m | N2°30′E<br>～N26°00′W |
| 〃 | SD327 | 〃 | | 4.50m×1.20m×0.70m | N84°30′W |
| 〃 | SD328 | 〃 | | 4.85m×1.40m×0.20～0.60m | N2°20′W |

| 調査区 | 遺構番号 | 遺構種別 | 形　態 | 規　模(間数、長軸長×短軸長×深さ等) | 備考(主軸方位等) |
|---|---|---|---|---|---|
| HYS-Ⅲ | SD331 | 溝　跡 | | 5.00m×0.90m×0.17m | N3°20′W |
| 〃 | SD342 | 〃 | | 9.90m×1.65m×0.35～0.73m | N0°40′W |
| 〃 | SD343 | 〃 | | 4.70m×1.25m×0.37～0.52m | N3°40′W |
| 〃 | SD345 | 〃 | | 1.80m×0.70m×0.85m | N19°20′W |
| 〃 | SD346 | 〃 | | 10.95m×1.10m×0.28～0.39m | N5°20′W |
| 〃 | SD347 | 〃 | | 4.60m×1.35m×0.42m | N0°00′EW |
| 〃 | SD350 | 〃 | | 3.35m×1.53m×0.18m～0.51m | N82°20′W |
| 〃 | SD363 | 〃 | | (5.30＋α)m×0.35m×0.12m | N69°00′E |
| 〃 | SD364 | 〃 | | (5.20＋α)m×0.55m×0.05～0.20m | N72°20′E |
| 〃 | SD366 | 〃 | | 4.50m×1.80m×0.58m | N80°00′W |
| 〃 | SD374 | 〃 | | (21.00＋α)m×3.20m×0.43m | N4°30′W |
| 〃 | SD375 | 〃 | | (18.20＋α)m×0.70m×0.10～0.14m | N3°00′W |
| 〃 | SD390 | 〃 | | 4.80m×1.72m×0.25m | N80°20′W |
| NYN-B | SD017 | 〃 | | (8.50＋α)m×1.10m×0.33～0.50m | N7°00′W |
| 〃 | SD021 | 〃 | | (56.50＋α)m×0.80m×0.30m | N3°20′W |
| HYS-Ⅲ | SE290 | 井戸跡 | 円　形 | 1.15m×1.05m×1.39m | N50°00′E |
| HYS-Ⅱ | SK162 | 土　坑 | 隅丸方形 | 3.10m×1.80m×0.27m | N6°20′W |
| 〃 | SK186 | 〃 | 隅丸方形・不定形 | 2.43m×0.90m×0.28～0.55m | N50°30′E |
| HYS-Ⅲ | SK242 | 〃 | 円形基本の不定形 | 2.50m×1.90m×0.46m | N69°30′E |
| 〃 | SK250 | 〃 | 長円形基本の不定形 | 4.03m×1.75m×0.65m | N12°30′W |
| 〃 | SK285 | 〃 | 円形に近い長円形 | 1.00m×0.80m×0.50m | N70°20′E |
| 〃 | SK286 | 〃 | ほぼ円形 | 0.58m×0.52m×0.51m | N68°00′E |
| 〃 | SK304 | 〃 | 不定形 | 1.15m×1.20m×0.75m | N79°40′E |
| 〃 | SK307 | 〃 | ほぼ長円形 | 1.90m×1.65m×0.50m | N83°00′E |
| 〃 | SK308 | 〃 | ほぼ長円形 | 1.31m×0.90m×0.34m | N49°00′W |
| 〃 | SK332 | 〃 | 不定形 | 2.20m×1.45m×0.47m | N86°00′E |
| 〃 | SK333 | 〃 | 円　形 | 0.97m×0.93m×0.82m | N62°20′E |
| 〃 | SK367 | 〃 | 不定形 | 4.73m×2.90m×0.52m | N84°30′E |
| 〃 | SK386 | 〃 | 隅丸方形 | 3.15m×2.20m×0.34m | N80°20′W |
| 〃 | SK389 | 〃 | 隅丸方形・長円形 | 3.10m×1.52m×0.14m | N72°00′W |
| NYN-B | SK002 | 〃 | ほぼ正方形 | 1.95m×1.88m×0.76m | N79°00′E |
| 〃 | SK011 | 〃 | 不定形 | 2.00m×1.80m×0.22m | N18°30′E |
| 〃 | SK019 | 〃 | 長円形 | 2.45m×1.43m×0.61m | N5°00′E |

ＳＢ237

構　造：９間×４間（身舎部分７間×２間に出１間の四面廂が付属）　南北棟

柱　間：身舎部分　桁行17.48m　柱間2.30～2.70m
　　梁行 5.63m　柱間2.55～3.00m
　　廂部分　桁行23.04m　柱間2.13～2.70m
　　梁行11.15m　柱間2.50～3.00m

方　位：N0°00′EW（正方位）

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅲ区中央部に位置する。本調査区においては最大規模の掘立柱建物跡であり，この地区周辺において現在確認されている建物との比較においても，肥前国府の調査時に検出されている正殿遺構と考えられるＳＢ090と同様の構造を持つ。建物規模においても身舎部分の規模及び出廂を含めた場合の桁行でＳＢ090には僅かに及ばないものの，梁行では凌いでおり，これまでＳＢ090に次ぐ規模であった惣座遺跡のＳＢ247・260を全体規模では凌ぐものである。

柱通りは直線ではなく，身舎東西側柱の北より第４柱以南が緩やかに湾曲する。また身舎側柱と廂側柱とは横一列ではなく，廂の柱間の方が概して大きい。

柱穴の掘形については，身舎部分は全体的に不揃いだが，基本的には円形若しくは隅丸方形で一辺（径）1.0～1.2m，そして柱根径は約30cmである。根固め石等は用いておらず，黒色土・黄色粘質土・黄色土混黒色土等を互層に衝き固めており，そのいくつかに抜痕が見られる。廂部分については不定円形で，0.6m前後の掘形径であり，埋土の状況は身舎部分と同様である。ＳＫ223（弥生時代；土壙）・242（奈良時代；土壙）を切り，ＳＢ266（平安時代後半期；掘立柱建物跡）に切られる。

ＳＢ240

構　造：５間×２間（＋α）　南北棟

柱　間：桁行10.20m　柱間1.80～2.20m
　　梁行 2.40m（＋α）　柱間2.15～2.40m

方　位：N6°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅲ区西部に位置する。長棟構造と思われるが，桁行と梁行とが直交しないため，下部構造がいびつである。また西側の身舎側柱は隣接する西山田二本松遺跡Ｂ区に所在するため，調査後再構築を試みたが果たせなかった。東側のＳＢ254や北側のＳＢ256，南側のＳＢ258等長棟構造の建物の一群との位置関係から，これらと同様の構造を持つと判断したが，これらを区分する目隠し塀，あるいは棚列の可能性も残る。柱穴掘形の掘り込み面は黄褐色土である。

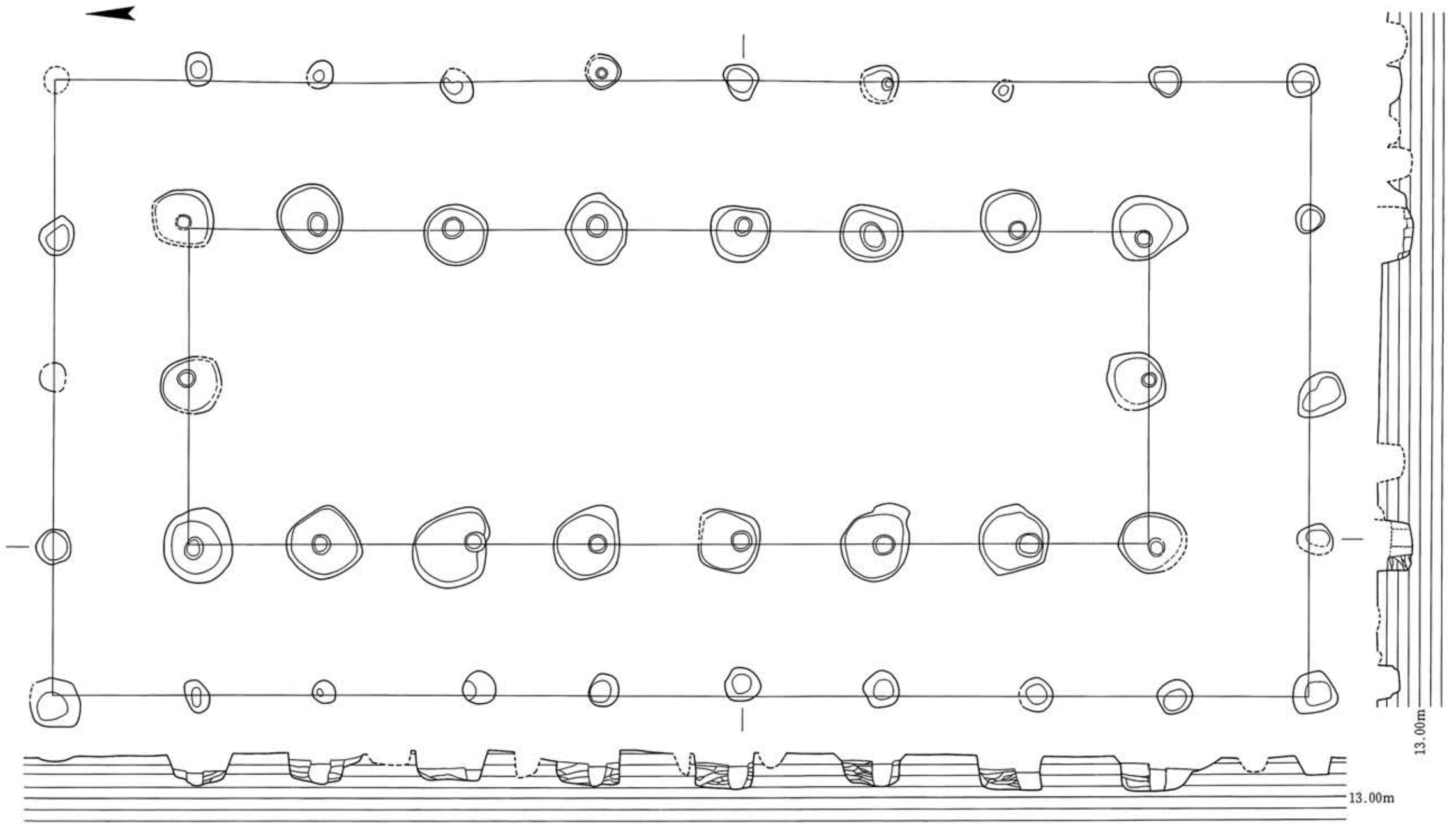



Fig. 69　S B237掘立柱建物跡（1/80）

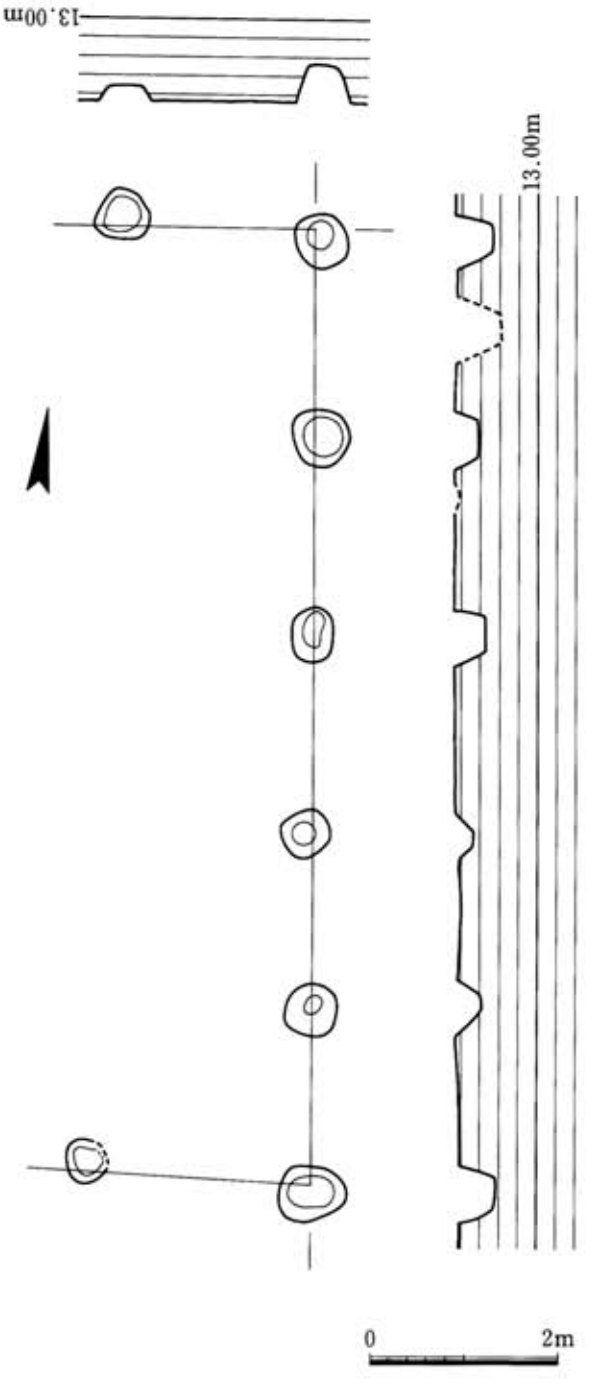



Fig. 70　S B240掘立柱建物跡（1/80）

ＳＢ254

構　造：５間×２間　南北棟

柱　間：桁行12.90m　柱間2.40～2.65m

　　梁行 5.25m　柱間2.55～2.75m

方　位：N5°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅲ区の西部に位置し，ＳＢ255との新旧関係は不明。長棟構造で柱穴の掘形は不定形だが，基本的には径0.6～0.7mの円形。隣接するＳＢ256との距離は柱心間で1.0～1.2m，ＳＢ240とは1.5～1.65mである。

ＳＢ255

構　造：５間（＋α）×３間（身舎部分５間（＋α）×２間に出１間の東面廂が付属）南北棟

柱　間：身舎部分　桁行11.90（＋α）m　柱間1.70～3.35m

　　梁行 6.20m　柱間3.00～3.20m

　　廂部分　桁行12.70（＋α）m　柱間2.40～2.70m

　　梁行1.80～1.89m　柱間1.80～1.89m

方　位：N5°20′W

特　徴：弥生時代中期～後期の甕棺墓・土壙墓群の真上に建てられた掘立柱建物で，建物の東側に廂を付属する構造をとる。ＳＢ237と切り合っているが新旧関係は不明。柱穴の掘形は不定形だが，基本的には円形もしくは隅丸方形であり，一辺（径）0.5～0.6mを測る。北側が現代の水路によって切られているため，全体的な規模の把握が困難だが，身舎西側柱南北両端のそれぞれ２本の間隔がその他に比べ不均一であることから，西側南北両端部に出入口等の施設を有する６間×３間の片面廂の構造と思われる。

ＳＢ256

構　造：３間（＋α）×２間　南北棟

柱　間：桁行7.60m（＋α）　柱間2.50～2.60m

　　梁行5.40m　柱間2.60～2.80m

方　位：N3°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅲ区の西部に位置する。建物の北側は近～現代の河川流路と重複しているため未掘であり，西側についても調査外のため全体的な規模や構造は不明であったが，隣接する西山田二本松遺跡Ｂ区の調査によって身舎西側柱と思われる柱穴４基が確認され，長棟構造をとることが判明した。

なお柱穴の掘形については円形で，径0.6m前後と均一的である。

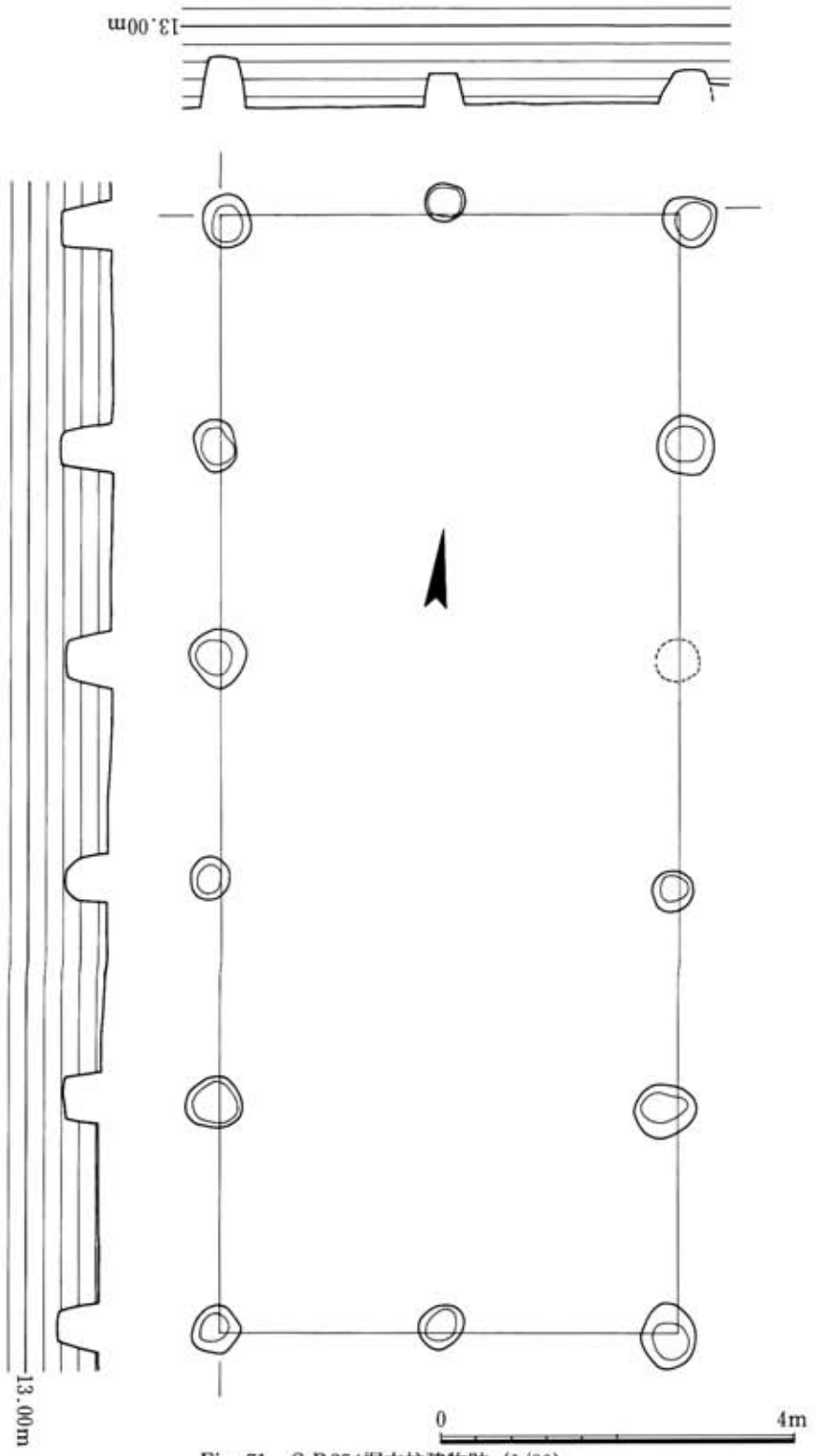



Fig. 71　S B254掘立柱建物跡（1/80）

SB258

構　造：5間（＋α）×2間　南北棟

柱　間：桁行7.25m（＋α）　柱間2.00～2.10m

梁行4.50m　柱間2.25m

方　位：N4°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡III区の西部南端に位置しており，建物の南側部分が本年度調査区外に及んでいるため全体規模については不明だが，構造的には長棟構造と思われる。柱穴の掘形は不定形で，径0.4～0.7mと不揃いである。

SB266

構　造：5間×2間　東西棟

柱　間：桁行10.75m　柱間2.00～2.25m

梁行 5.30m　柱間2.40～2.90m

方　位：N88°30′E

特　徴：東山田一本杉遺跡III区中央部のやや南寄りに位置した長棟構造の建物で，本調査区中最大の掘立柱建物跡であるSB237を切る。柱穴の掘形は隅丸方形及び円形で一辺(径)1.0m前後とこの調査区内では大型である。柱根の固定方法については，1箇所のみ花崗岩の根固め石を据える以外は，黒色土混ざりの黄色土をベースに，黒色土を間層として突き固めている。廃絶後は柱根が抜かれたと思われるが，その抜き跡には礫が混じっている。このSB266は身舎北側柱の新旧関係よりSB401からの建て替えと思われるが，この変遷時における変化としてとらえられるのは，SB401が小型の柱穴の掘形であったのに対し，柱間は変わらないまま掘形の形状のみがSB237に類似する大型で，隅丸方形及び円形の整ったものへと変わった点と，棟方位を2°10″東西方向に近づけた点であるが，そのことはSB237に対する意識の現れとも受け取れる。

SB372

構　造：5間×4間（＋α）（身舎部分5間×3間に，南側に1間の出廂が付属）　東西棟

柱　間：身舎部分　桁行12.50m　柱間1.75～3.15m

梁行 5.95m　柱間1.85～2.05m

廂部分　桁行12.75m　柱間2.05～3.35m

梁行 2.05m　柱間2.00～2.05m

方　位：N86°00′E

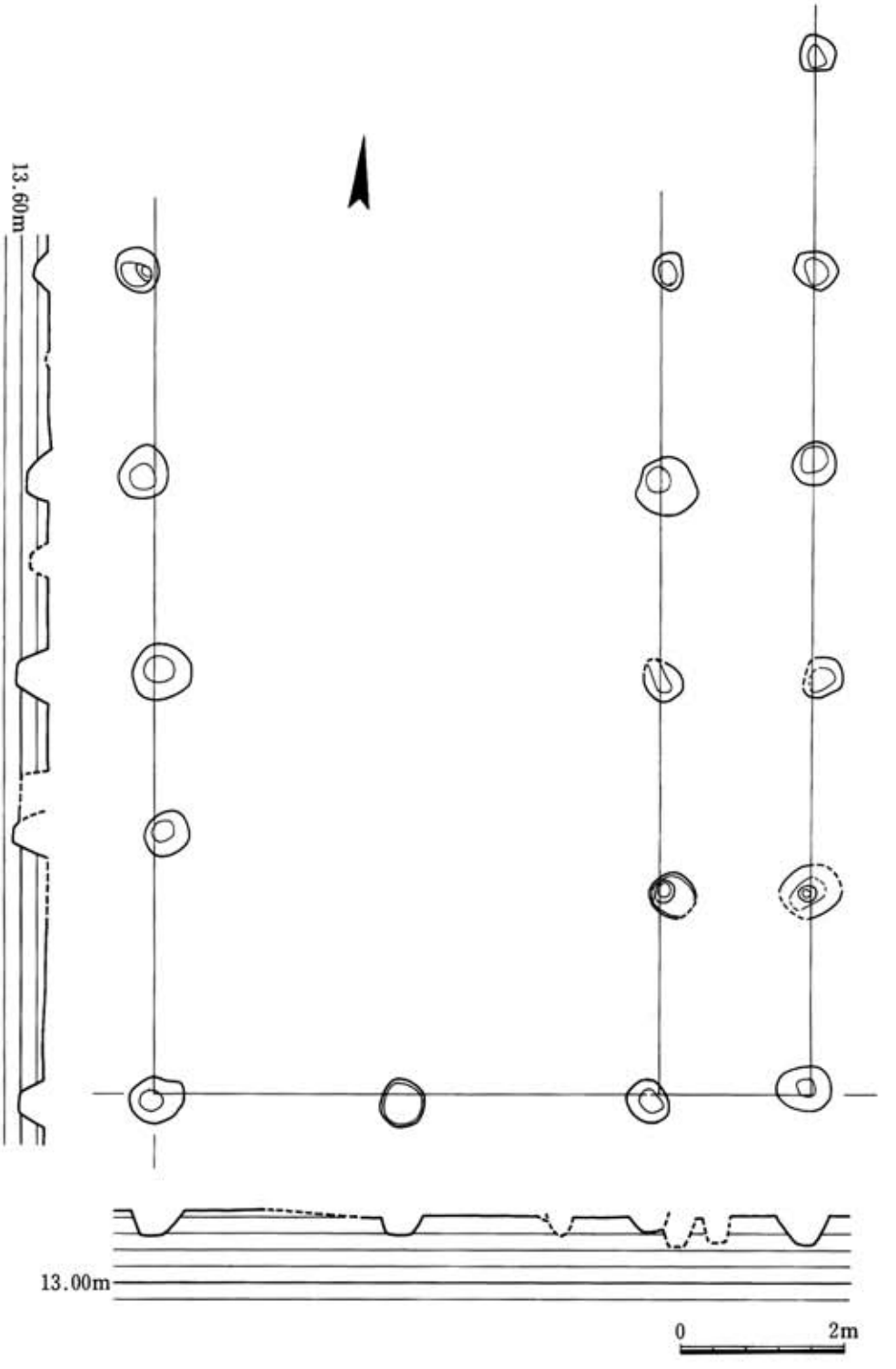



Fig. 72　S B255掘立柱建物跡（1/80）

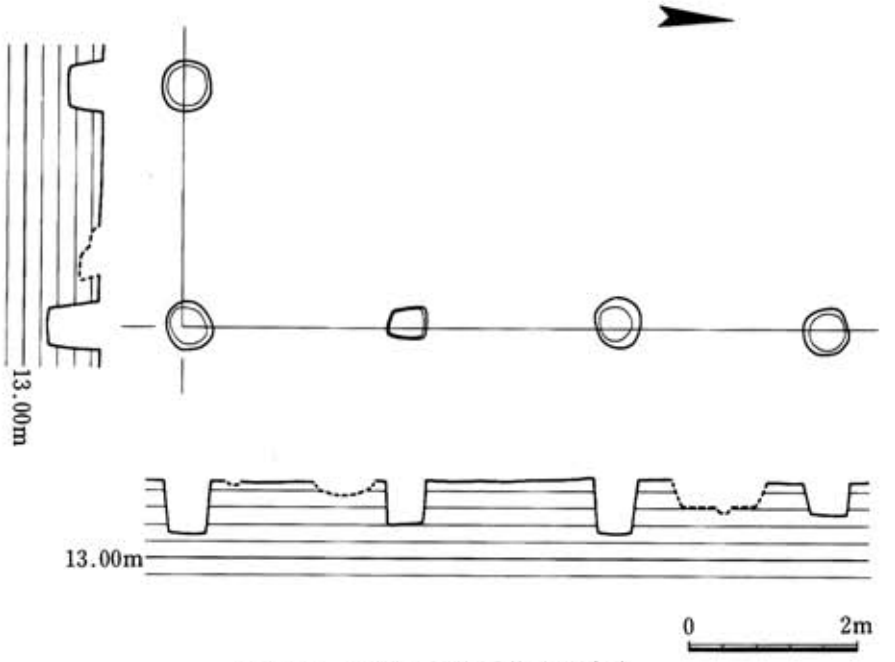



Fig. 73　S B256掘立柱建物跡（1/80）

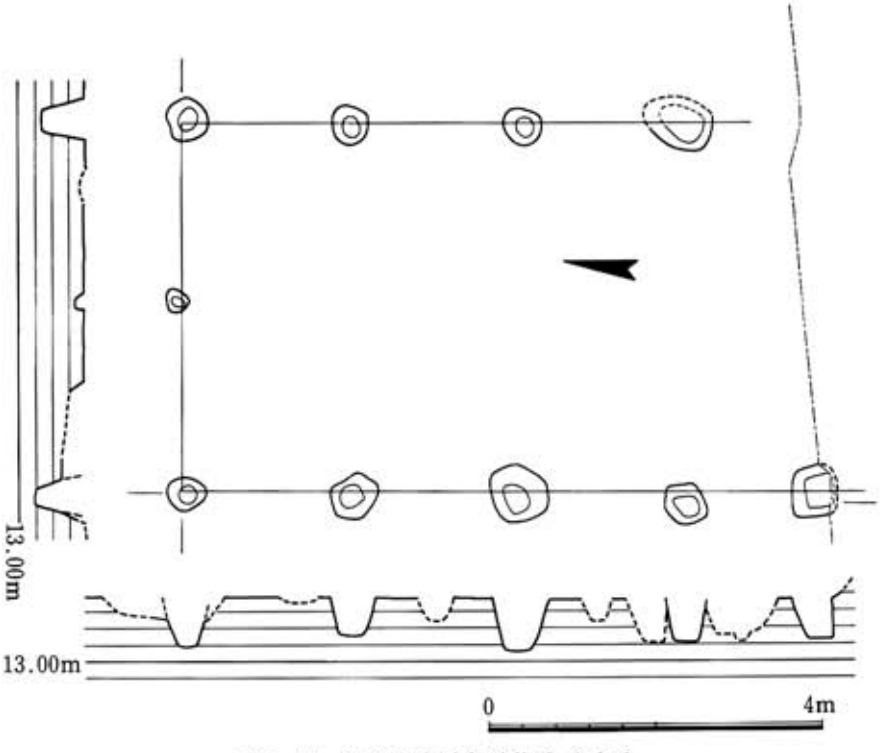



Fig. 74　S B258掘立柱建物跡（1/80）

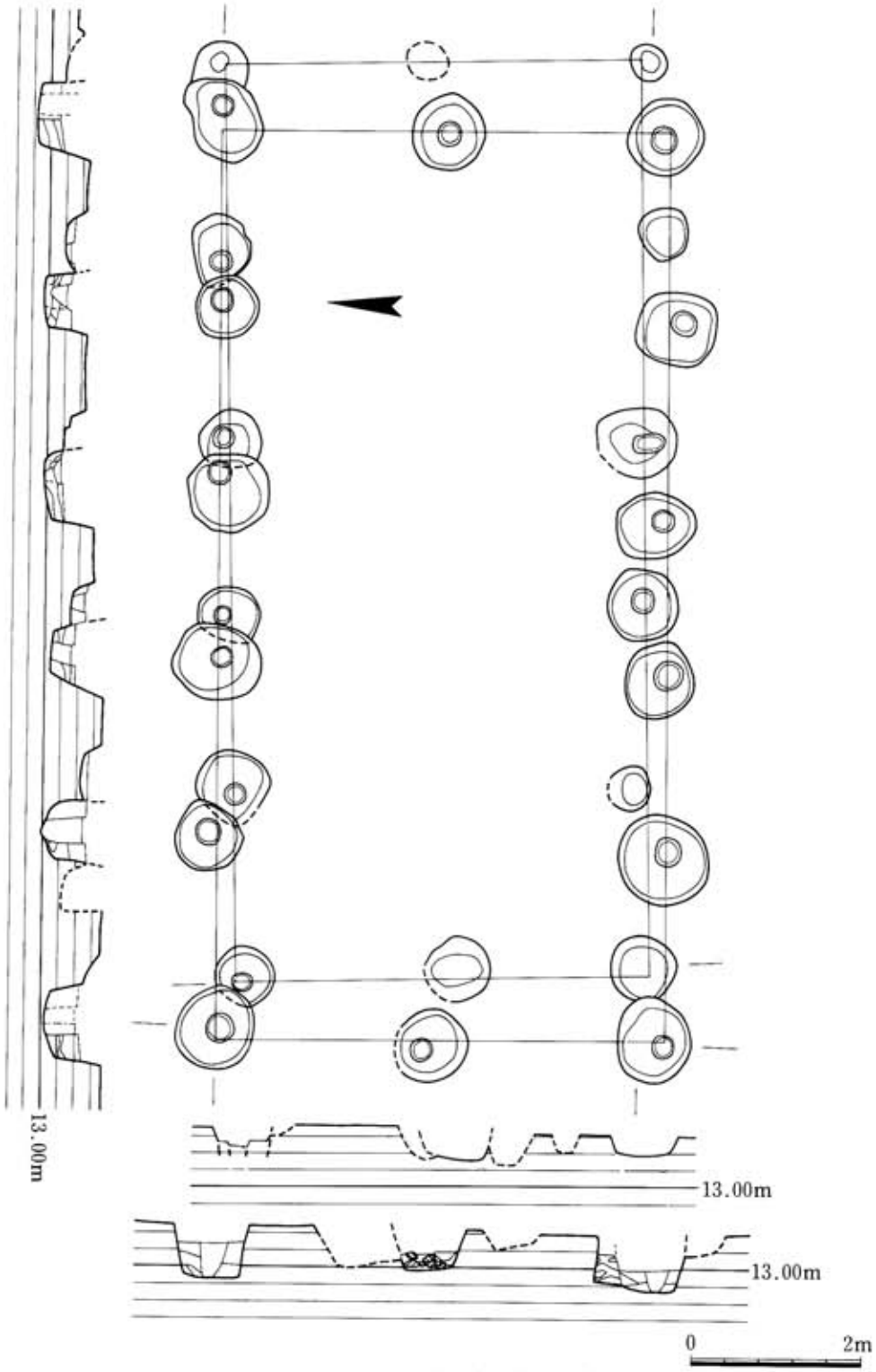



Fig. 75　S B266・401掘立柱建物跡（1/80）

特　徴：本調査区東側の，築地関連の２条の断続する溝状遺構によって囲まれた内側に立地する。南側に１間の出廂を付属するが，北側については不明なため，ここでは片面廂の建物と仮定する。なお身舎南側柱の西妻から棟方向と軸線を一にした２本の円形の柱穴が更に西方へ延びており，外部施設の存在を窺わせる。柱穴の掘形は身舎東西側柱については隅丸方形で一辺1.0mの整然とした平面形で，30cm前後の柱根径であるが，身舎南側柱の東側から２～４本については平面形が小型の円形もしくは不定形であり，作業の簡略化とも受け取れる。また身舎南北側柱・廂南側柱の東西両端の柱間が内側の３間に比べ0.6～1.3m広くなっていることから，付属施設を意図した変則配列の可能性がある。

ＳＢ373

構　造：５間×３間　東西棟

柱　間：桁行12.60m　柱間2.15～2.90m

梁行 7.35m　柱間2.25～2.70m

方　位：N86°20′E

特　徴：２条の断続する溝状遺構の囲いの内側で，ＳＢ372の南側に身舎東西両面の軒面を揃えて建つ。ＳＢ372の柱通りが身舎南側柱・廂南側柱とも東西両端の柱間が内側の３間に比べて距離をとっているのに対し，この建物ではそのような配慮は見られない。柱穴の掘形はＳＢ372と同様一辺1.0m前後の隅丸方形で，柱根径も30cmと同じである。根固め石は用いていないが，柱穴底部を段掘りにして柱根を据え，黒色土・黄色土混じりの黒色土・暗褐色土等を互層に敷き込んで突き固めている。埋土中にはＳＢ372同様焼土粒を多く含むが，これは後世の混入と思われる。

ＳＢ398

構　造：２間（＋α）×（１間）

柱　間：桁行（梁行）5.25m　柱間2.50～2.75m

方　位：N88°00′E（N2°00′W）

特　徴：調査区の中央部に位置するが，建物の北部分を現代の河川流路によって切られているため，確認できたのは南側の３柱のみで全体構造に関しては不明である。ただし，河川の北側においては柱穴が確認できなかったことから，仮に棟方位を東西方向にとった場合，最大幅で梁行２間の建物が考えられる。柱穴の掘形については0.70～0.90mの円形を基本とした不定形で，平面形態からはＳＢ237やＳＢ266に類似している。柱穴掘形の掘り込みは黄褐色土からで，底は礫混じりの黄褐色土である。

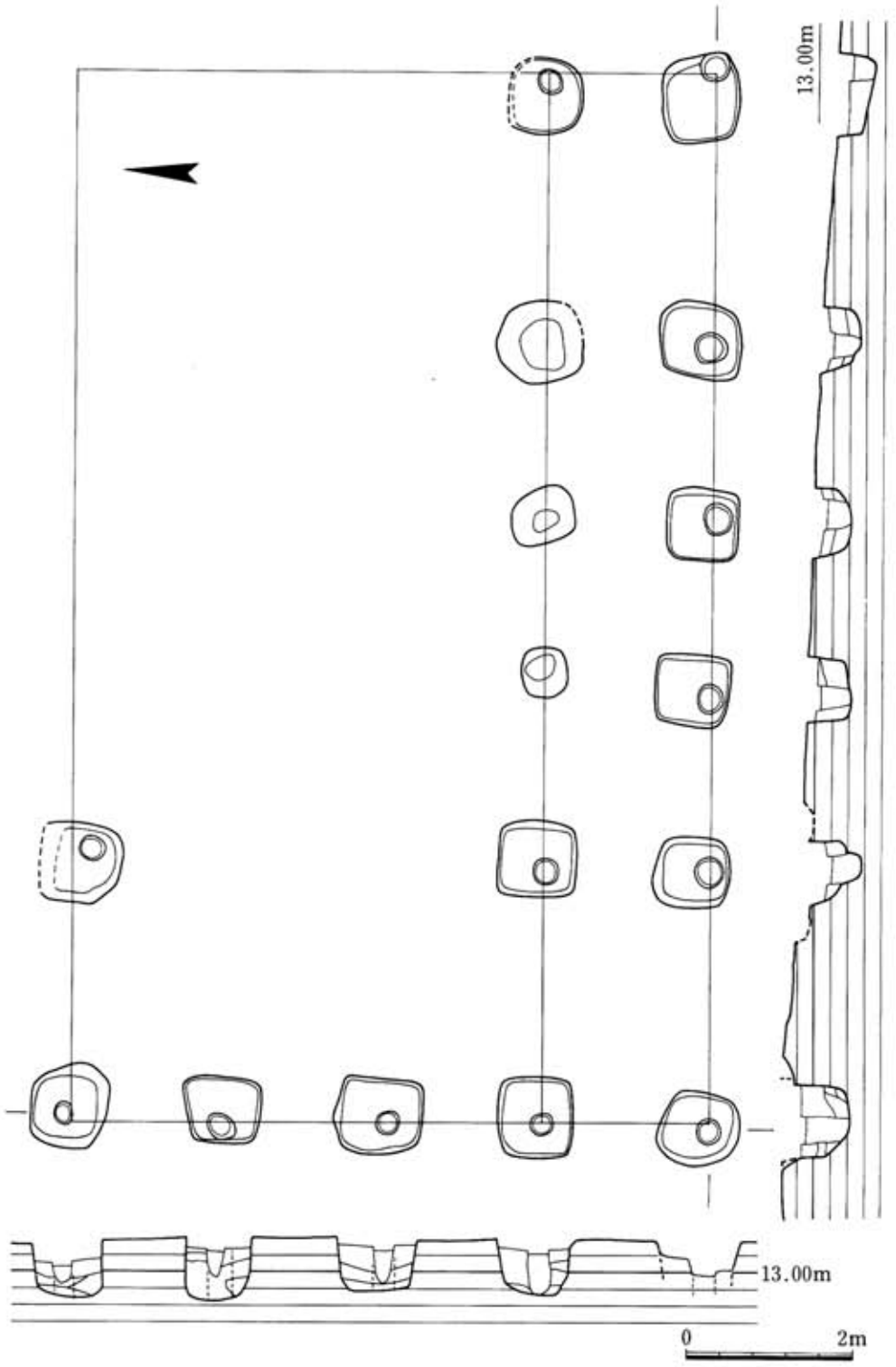



Fig. 76　S B372掘立柱建物跡（1/80）

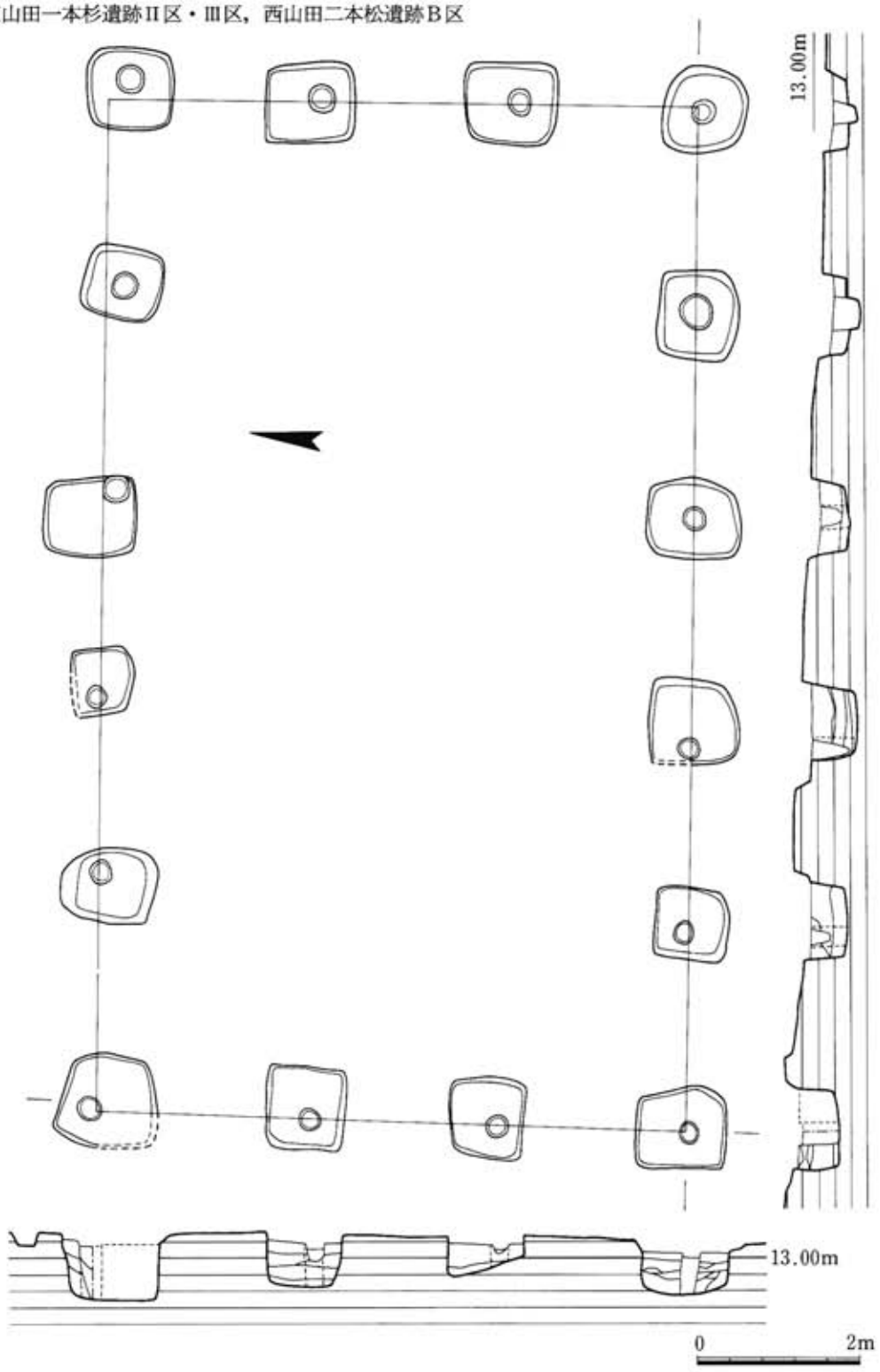



Fig. 77　ＳＢ373掘立柱建物跡（1/80）

SB401

構　造：5間×2間　東西棟

柱　間：桁行10.60（10.84）m　柱間2.00～2.45m

　　梁行 4.75（ 5.20）m　柱間2.15～2.60m

方　位：N86°20′E

特　徴：調査区中央部に位置する長棟構造の建物で，SB266はこの建物の建て替えと思われる。柱穴の掘形は円形を基本とした不定形で，径は0.45～0.90mと不均一である。柱穴埋土は黒色土混じりの黄色土・黄色粘質土等で，これらを互層に重ねて突き固めており，その状況はSB266と類似している。また両桁行と両梁行が揃っていないため，側柱の配置状況がいびつな平面形態となっている。

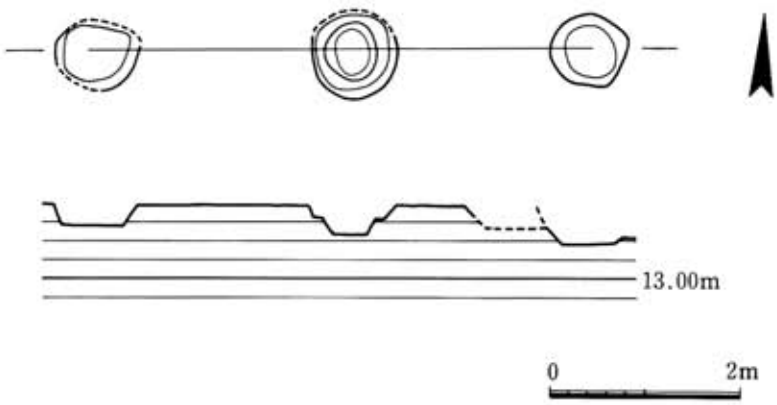



Fig. 78　SB398掘立柱建物跡（1/80）

＜註＞

(1) 田平徳栄ほか　「久地井B遺跡」（『惣座遺跡』佐賀県教育委員会）1990

(2) 樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅰ』（佐賀県教育委員会）1978

　樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅱ』（佐賀県教育委員会）1981

(3) 田平徳栄　『惣座遺跡』（佐賀県教育委員会）1990

(4) 松本隆昌　『東山田一本杉遺跡・西山田天神遺跡・西山田二本松遺跡・西山田三本松遺跡』（大和町教育委員会）1991

### (2) 溝跡

本調査区においては33条の溝跡を確認しているが，これらは24条の築地に関連すると思われる溝状の遺構と，掘立柱建物に施設として付属すると思われる２条，及びその他の性格を有する７条に分類される。このうち特に東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区において検出した築地関連遺構と思われる24条については，２条の断続しながら並行する溝状遺構に収斂されるものである。これらは調査区の西側から中央部にかけては東西方向に直線的にそれぞれ61m（北側），66m（南側）走り，地区東側に至って一旦南方向へ28m（内側），31m（外側）下った後，東へ90°直角に曲がって21m（内側），34m（外側）直進し，再度90°北側に折れて「コ」状の空間を作り，24m（内側），33m（外側）北上したところで調査区外へ抜けている。全体的には「コ」の形状となるが，この２条の残存幅3.0～3.5mの間隙部分に築地が版築により築かれていたと思われる。またこの断続する２条の溝状遺構は，不規則な断続状態や，規格性を見い出し難い二段掘りの状況，そして平底・「Ｕ」字状等統一性のない底面形態等々から，水を流すため，あるいは水を張っておくためのいわゆる築地側溝的な役割を意図して掘削されたというよりは，むしろ築地を築く際に採土目的で穿った土取り壙の名残と考えた方が自然である。この観点からＳＤ157・167等の，２列並行の連続体とは若干軸線を異にする溝状の遺構についても，後日に築地の補修の目的で採土した跡と考えたい。なおＳＫ367・389については調査時には土壙として登録しているが，これらも土取り壙と判断される。

ただしＳＢ372・373の東側を巡るＳＤ374・375については，断面形状が明らかに溝状を呈していることから築地側溝として機能していたものか，あるいは築地がＳＫ386，ＳＤ390に挟まれる位置で終了し，替わってこれに接する形で居館に取り付く進入道路が敷かれていたと仮定した場合，その道路側溝として機能していたことも考慮に入れておく必要がある。

なお掘立柱建物跡の段で述べたように，昭和62年の大和町教育委員会の調査においてはその継続部分が確認されていないため，一連の施設の北側地区外への展開は不明である。この築地遺構に伴う溝状遺構の掘削・機能時期については，遺物から判断する限り８世紀前半から後半の時期に収まると見られ，これによって区画された中に立地するＳＢ372・373の機能時期と合致する。

またＳＤ374からは「定側松印（定側私印）」，「宍（宮，官？）」の２点の刻印土器が出土しており，そのことがこの２棟の掘立柱建物と築地関連の溝状遺構の組み合わせに官衙関連遺構という重要性を付加している。

なお周辺遺跡における築地遺構の類例としては，昭和59年（1984）に大和町教育委員会が住宅団地建設に伴い調査を行った北原宝満遺跡[1]の例がある。これは東西方向に54m，南北方向に13mの「Ｌ」字状に屈曲する２条の溝状の遺構と，溝間4.8mの間隙に版築された築地の基部が確認されている。この例では北側（外側）の溝跡は１本の側溝状であるのに対し，南側（内側）

は本遺跡と同様の断続する短い溝の集合体であり，更に版築の内側に後世の築地で見られる犬走りに似た通路が設けられている。この築地遺構は位置関係から方１町と推定される国分尼寺の北東角の築地に相当すると思われる。また特に南側の溝状遺構を中心に合計41点もの墨書土器が出土しており，８世紀中頃から後半にかけての国分尼寺周辺の様相を窺い知ることができる。

掘立柱建物跡に付属すると思われる溝跡としてはＳＤ363・364があげられるが，この２条の溝はＳＢ373の建物側面から南西方向に平行して流れ出る斜行溝で，雨落ち水，あるいは下水を築地の方へと導く排水溝的施設の可能性も考えられるが，機能時期も含めての確証が得られなかった。

ＳＤ164・303・310・325の４条は，調査区中央部北側から南側にかけて位置しており，北西から南東へと流れる斜行溝である。これらの溝跡は全体の形状及び幅員が一定していないこともあって，小河川の流路の可能性も依然として残るが，肩部の掘り込みが明らかな部分もあり，また埋土中に多量の遺物を包含していることもあって，ここでは遺構として取り扱った。なおＳＤ164については恐らくＳＤ303・310と同一溝と思われる。

これらの溝跡の時期については，例えばＳＤ164はＳＤ158を切っていることから，これら一連の築地関連遺構よりも新しい時期，つまり９世紀前半から中頃に機能していた溝と判断される。この時期には先述のＳＢ372・373は既に廃棄されていたと思われるため，ＳＢ237・266等の第２・第３・第４のグループとの関連性・先後関係が問題として残る。

以上，東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区における溝跡の様相を概括したが，隣接する西山田二本松遺跡Ｂ区においても調査区の西側部分で２条の溝跡を検出しているため，その概略を付記する。

まずＳＤ017は埋没した丘陵の縁辺部から南方向の谷部内へ向かって斜行している。遺物から８世紀後半代の遺構と判断されるが，同時期に機能していたと思われる築地関連遺構との関係及びその性格については不明である。

ＳＤ021はやはり埋没した丘陵の縁辺部にあって，調査区を東西に分断しながら直線的に南下する断面形態が「Ｕ」字状の溝跡である。この溝については嘉瀬川東岸の久池井Ｂ遺跡Ⅲ区[(2)]で検出されているＳＤ713・753と平面形態，断面形態，しっかりした掘り込み及び溝底部が僅かに北高南低である点等が類似しており，これらと同一の性格であるならば，方１町（108m）の区画溝に相当する可能性が大きいが，今回の調査においては区画の主体及び全体規模の両方とも把握することができなかった。調査区の南北に隣接する地域での今後の調査の進展に期待したい。

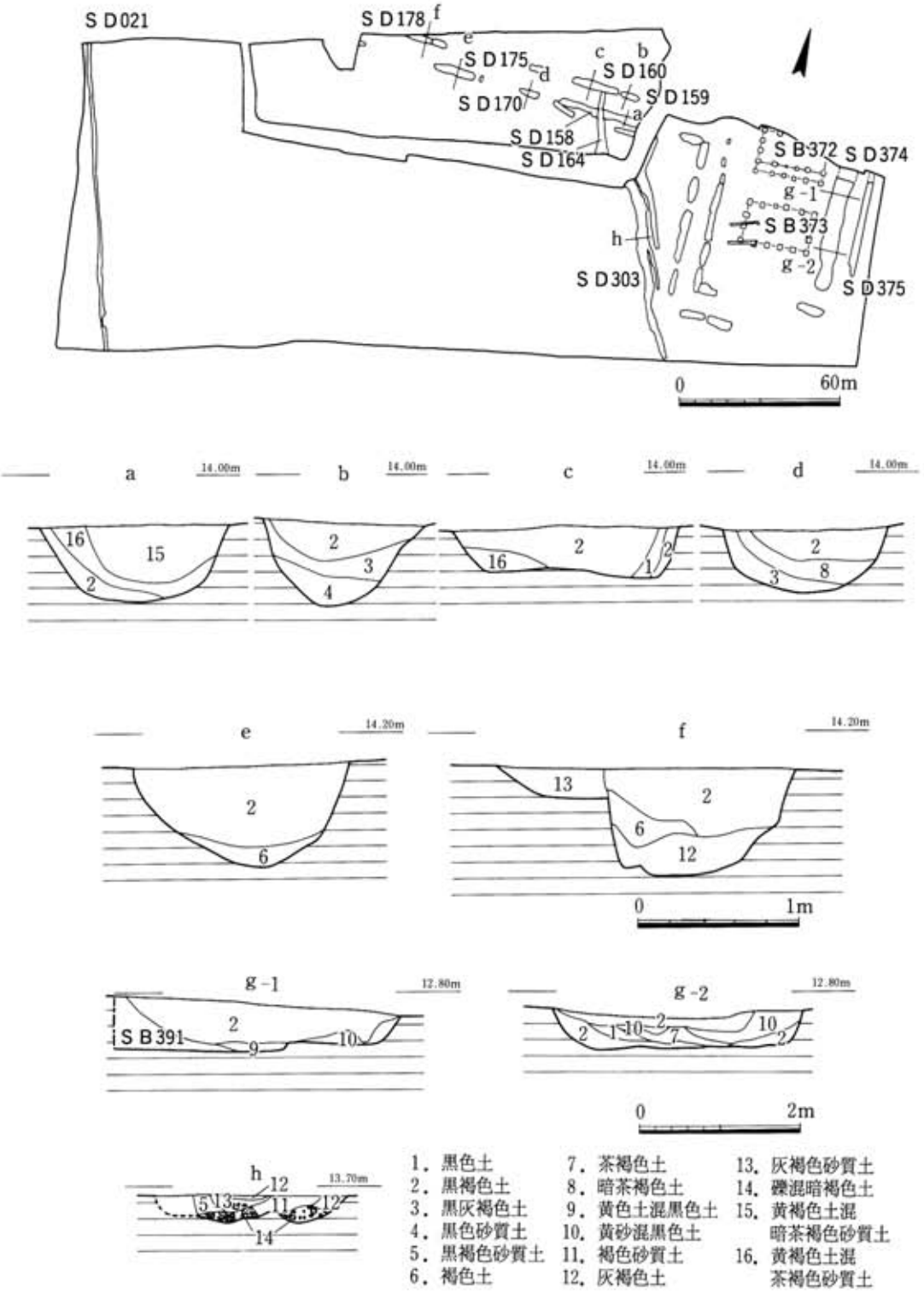



Fig. 79　溝跡位置図及びセクション図

SD157

規　模：長さ3.70（＋α）m×幅員1.70m×深さ（1段目）0.11m；（2段目）0.28m

方　位：N89°00′E

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。溝の中軸線がSD167のそれと重なるため，この2条は共に築地に関連する遺構(築地補修のための土取り坑)と思われる。溝の両端部は丸味をもっており，南側は二段掘りである。

SD158

規　模：長さ15.50（＋α）m×幅員1.60m×深さ0.13～0.70m

方　位：N87°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。4回の掘り替え，もしくは4条の短い溝の連続体。東側はSD314に連続すると思われる。中央部をSD164，東部をSD034にそれぞれ切られる。

SD159

規　模：長さ3.60m×幅員1.15m×深さ（1段目）0.09m；（2段目）0.62m

方　位：N86°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。中央部西側は二段掘りもしくは掘り直しと思われる。これより北側部分の溝状遺構が途絶えるため，二列並行ではなくなるが，構造的には南北溝のSD331へと継続するものと思われる。

SD160

規　模：長さ8.90m×幅員1.67m×深さ（1段目）0.46m；（2段目）0.72m

方　位：N89°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。中央部西側は二段掘りで，底部分には礫（径1～3㎝）の集中が見られる。中央部東側をSD164に，そして西側をSK162（平安時代後半期；土坑）から切られる。

SD164

規　模：長さ9.50（＋α）m×幅員1.35m×深さ0.25m

方　位：N15°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置し，東南東に流れる斜行溝。掘り込み面は礫混じりの黄褐色土。築地関連の溝状遺構を切る。

SD167

規　模：長さ4.30（＋α）m×幅員1.05m×深さ0.23m

方　位：N71°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。掘り込み面は礫混じりの暗黄褐色土である。中軸線がSD157と合致していることから，共に築地修復時の土砂採取坑と思われる。

SD170

規　模：長さ3.75m×幅員1.15m×深さ0.70m

方　位：N86°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。東側のSD158との間隔が，北溝のSD160・184との間隔と対を成す。

SD175

規　模：長さ9.25（＋α）m×幅員1.50m×深さ0.66m

方　位：N87°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。2列並行の南溝については，西側の調査区境に南溝の中軸線の延長線上にのるSD183を検出しているが，築地関連遺構であることの確証が得られないため，この溝が確認できた最も西側のものとなる。東側部分をSD355（平安時代後半期）から切られる。

SD178

規　模：長さ7.00（＋α）m×幅員1.25m×深さ（1段目）0.50m；（2段目）0.93m

方　位：N88°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。埋土は褐色土・黒褐色土・黒色土等である。2列並行の北列のうち最も北西に位置しており，この延長に乗る溝状遺構はその後の大和町教育委員会の調査においても確認されていない。東側は大きな二段掘りで，溝そのものを掘削し直したような状況である。

SD184

規　模：長さ3.60（＋α）m×幅員1.20m×深さ0.61m

方　位：N87°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部北側に位置する東西溝。

SD303

規　模；長さ33.30（＋α）m×幅員0.70～2.20m×深さ0.47m

方　位；N15°00′～36°00′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部から南側にかけて南南東方向に貫流する斜行溝。幅員が一定せず，溝底部の形状も平底・緩やかなU字状・階段状等に変化していることから，自然流路の集合体の可能性もあるが，壁の立ち上がりが明確であり，多量の遺物を包含することからここでは溝状遺構として取り扱った。SD164と同一溝の可能性がある。SD310（平安時代前半期）に切られる。

SD310

規　模；長さ6.30（＋α）m×幅員1.40m×深さ0.20 m

方　位；N36°00′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部に位置しており，南南東方向に向かう斜行溝。褐色土から掘り込んでおり，埋土は灰褐色砂質土，黒色砂質土である。主軸方位からSD310の南南東に位置するSD309に連続することも考えられる。

SD314

規　模；長さ4.05m×幅員1.80m×深さ（1段目）0.10m；（2段目）0.67m

方　位；N89°00′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部北側に位置する東西溝。掘り込みは黄褐色土。溝底部は「U」字状で，溝の北側半分は二段掘りの状態。築地部分のコーナーに相当。

SD315

規　模；長さ4.95m×幅員1.60m×深さ（1段目）0.10m；（2段目）0.90m

方　位；N0°20′E

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部北側に位置する南北溝。掘り込みは黄褐色土。埋土は黒褐色土。溝底部は凹凸が激しい。北側部分は二段掘を呈する。

SD316

規　模；長さ4.80（＋α）m×幅員1.60m×深さ0.53m

方　位；N2°40′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部に位置する南北溝。掘り込みは黄褐色土から。底部は平底に近い「U」字状。SD315より連続しており，居住域の外側を巡る。

SD325

規　模：長さ22.60（＋α）m×幅員0.65～2.00m×深さ0.50m

方　位：N2°30′E～26°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部に位置しており，南南東方向に向かう斜行溝。灰褐色砂質土から掘り込む。流れはまずSD034に沿って南流した後，南南東に向きを変えており，断面形状も最初は緩やかなV字状であったものが次第に明瞭なV字状へと変化する。この溝はおそらくはSD303・310と同種と思われる。

SD327

規　模：長さ4.50m×幅員1.20m×深さ0.70m

方　位：N84°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部南側に位置する東西溝。掘り込みを褐色土から行い，埋土は褐色土・黒色土等。居住域の区画部分の南西コーナーの外溝に当たる。

SD328

規　模：長さ4.85m×幅員1.40m×深さ（1段目）0.20m；（2段目）0.60m

方　位：N2°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部南側に位置する南北溝。黄褐色土から掘り込み，礫混じりの黄褐色砂質土に至る。埋土は褐色土・黒褐色土である。中央部は二段掘り。居住域の南西コーナーの内溝に該当し，南東側面でSD350と直交する。

SD331

規　模：長さ5.00m×幅員0.90m×深さ0.17m

方　位：N3°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部北側に位置する南北溝。黄褐色土から掘り込む。SD315と相対する位置にあり，居住域を区画する築地の内溝に担当するが，これより北側への展開は確認できない。

SD342

規　模：長さ9.90m×幅員1.65m×深さ（1段目）0.35m；（2段目）0.73m

方　位：N0°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部中央に位置する南北溝。黄褐色土から掘り込む。北側部分は二段掘り。SD341（平安時代後期以降；溝状遺構）に切られる。

SD343

規　模：長さ4.70m×幅員1.25m×深さ（1段目）0.37m；（2段目）0.52m

方　位：N3°40′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部南側に位置する南北溝。底部は平らで，南側は二段掘り。居住域の南西コーナーに相当し，SD328と相対する。これより南側では南北方向に主軸を向ける溝は検出できず，東へ折れたところで東西溝であるSD327が始まる。北西部をSD352（平安時代後半期以降；溝状遺構）に切られる。

SD345

規　模：長さ1.80m×幅員0.70m×深さ0.85m

方　位：N19°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部北側に位置する南北溝。黄褐色土からの掘り込みで埋土は暗褐色砂質土。元来南側に接するSD346と同一のものと思われる。

SD346

規　模：長さ10.95m×幅員1.10m×深さ（1段目）0.28m；（2段目）0.39m

方　位：N5°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部中央に位置する南北溝。黄褐色土からの掘り込みで埋土は褐色砂質土。隅丸方形を呈し南半部は二段掘り。断面形状は逆台形。

SD347

規　模：長さ4.60m×幅員1.35m×深さ0.42m

方　位：N0°00′EW

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部中央に位置する南北溝。黄褐色土からの掘り込みで，黄褐色砂質土に至る。平面形態は隅丸方形を基本とする不定形。

SD350

規　模：長さ3.35m×幅員1.53m×深さ（1段目）0.18m；（2段目）0.51m

方　位：N82°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部南側に位置する東西溝。底部は平坦。西側は二段掘りで，断面形状は逆台形。SD328とほぼ直交しており，居住域の内側溝列の南西コーナーに相当。

ＳＤ363

規　模；長さ（5.30＋α）ｍ×幅員0.35ｍ×深さ0.12ｍ

方　位；N69°00′E

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部中央に位置しており，ＳＢ373の内部から外部へ向かう斜行溝。黄褐色土からの掘り込み。ＳＢ373からの排水施設か。

ＳＤ364

規　模；長さ（5.20＋α）ｍ×幅員0.55ｍ×深さ（１段目）0.05ｍ；（２段目）0.20ｍ

方　位；N72°20′E

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部中央に位置しており，ＳＢ373の身舎南側柱列の西側から２本目を起点とし，１本目をかすめながら断続して西流する斜行溝。黄褐色土からの掘り込み。柱穴掘形を切る。ＳＤ363とは平行して流れている。

ＳＤ366

規　模；長さ4.50ｍ×幅員1.80ｍ×深さ0.58ｍ

方　位；N80°00′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部南側に位置する東西溝。底部は平坦。平面形態は東側が若干幅の広い隅丸方形で，しっかりした掘り込みを行っている。この溝から東側の一群については平面形態や主軸方位等の上で規則性が見い出し難い。

ＳＤ374

規　模；長さ（21.00＋α）ｍ×幅員3.20ｍ×深さ0.43ｍ

方　位；N4°30′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東端部に位置する南北溝。黒色土からの掘り込みは明確で黄褐色砂質土に至る。埋土は褐色土・黒褐色土の水平堆積で，底部は緩やかな凹凸を持つ。調査区の東端部中央が終点と思われるが，起点は調査区の北外にあるため溝の全長については不明。ＳＢ372・373の東側を区画する溝状遺構である。

ＳＤ375

規　模；長さ（18.20＋α）ｍ×幅員0.70ｍ×深さ（１段目）0.10ｍ；（２段目）0.14ｍ

方　位；N3°00′W

特　徴；東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の最東端部に位置し，ＳＤ374とほぼ平行する南北溝。黒褐色粘質土からの掘り込みで，東側が二段掘りを呈する。ＳＤ374と同じく調査区の東

端部中央が終点と思われるが，起点は調査区の北外にあるため，溝の全長については不明。ＳＤ374と対を成し，ＳＢ372・373の東外側を区画する。ＳＤ374との関係から築地関連遺構と道路側溝の両方を考慮する必要がある。

ＳＤ390

規　模：長さ4.80m×幅員1.72m×深さ0.25m

方　位：N80°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の南東コーナー部に位置しており，ＳＤ374の延長線上にあたる。性格的にはＳＤ350へとつながる東西溝である。淡褐色粘質混砂土(粗い砂粒)からの掘り込みで，底部に至る。平面形態は不定形だが，基本的には隅丸方形で，中央部に最大幅員が存在し，西から東へ緩やかに傾斜している。

ＳＤ017

規　模：長さ（8.50＋α）m×幅員1.10m×深さ（1段目）0.33m：（2段目）0.50m

方　位：N7°00′W

特　徴：西山田二本松遺跡Ｂ区の北西部に位置する南北溝。北側の壁体は急角度で掘り込まれており，底部は二段掘りを呈する。南側は緩やかな谷部を下って行くため，やがて傾斜の中に消失してしまう。溝の断面形態は「Ｕ」字状。

ＳＤ021

規　模：長さ（56.50＋α）m×幅員0.80m×深さ0.30m

方　位：N3°20′W

特　徴：西山田二本松遺跡Ｂ区の西端部に位置する南北溝。調査区を東西に分断して，北から南へ直線的に延びる。始点・終点とも調査区外にあるため，その全体規模は把握できないが，久池井Ｂ遺跡で確認されているＳＤ713・753のように，方一町の区画溝となって巡る可能性もある。

＜註＞

(1) 谷澤　仁　「肥前国府域周辺の墨書土器について Ⅰ」(『佐賀考古』第1号　佐賀考古談話会) 1994

(2) 田平徳栄ほか　「久地井Ｂ遺跡」(『惣座遺跡』佐賀県教育委員会) 1990

### (3) 井戸跡

井戸跡については東山田一本杉遺跡III区の中央部南側で1基検出している。埋土最下部出土の土師器片から判断すると，9世紀中頃から後半にかけて機能していたと思われ，位置関係からSB266（401）に伴う可能性が高い。本調査区における井戸跡はほかに平安時代後半期以降の2基があるが，例えば久池井B遺跡で見られるように，複数の井戸が一定地域に集中していて，長期間にわたる井戸掘削のための土地利用の形態とは異なるようである。

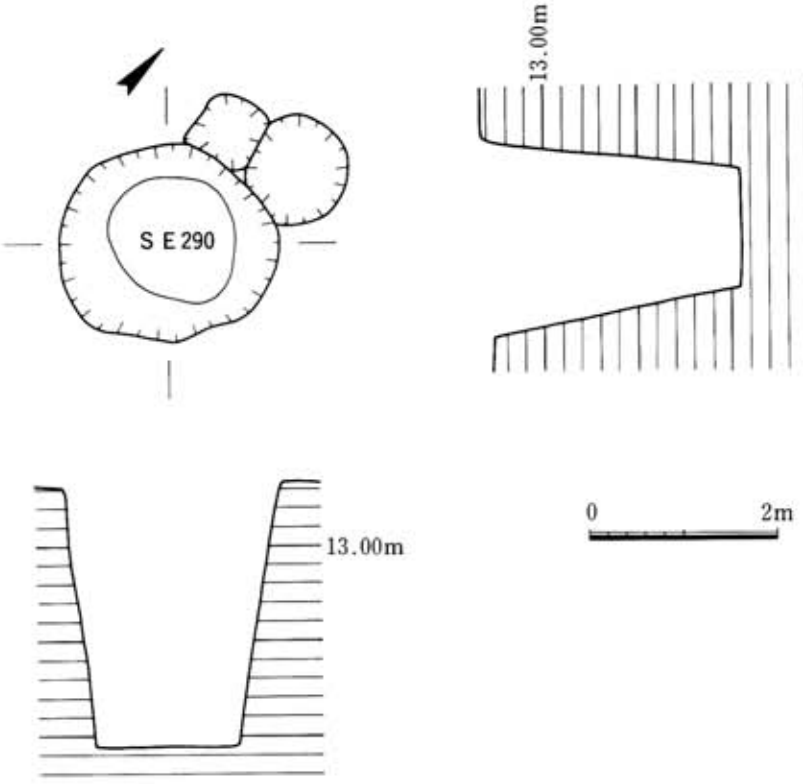



Fig. 80　SE290井戸跡（1/40）

**SE290**

規　模：長軸1.15m×短軸1.05m×深さ1.39m

方　位：N50°00′E

特　徴：東山田一本杉遺跡III区の中央部南寄りに位置している。掘り込みが黄褐色砂質土（粗い砂粒）にまで達しており，埋土は灰褐色砂質土である。この井戸跡は平面形態が円形で底が平坦な素掘りの小規模なものであり，果たしてこれ1基で飲料水がまかなえていたのか疑問が残るが，本調査区においては同時期の井戸と思われる遺構はこれ以外には検出されていない。SB284（弥生時代；竪穴住居跡）を切っている。

### (4) 土壙

土壙については17基を検出した。このうち調査区東部の南側に所在するＳＫ367・386・389に関しては溝状遺構の項で述べたように，土壙というよりもむしろ築地関連遺構と見るべきである。この３例を除けば，東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部にほぼ集中する傾向にある。

#### ＳＫ162

規　模：長軸3.10m×短軸1.80m×深さ0.27m

方　位：N6°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の北側中央部に位置しており，東から西に向かって隅丸方形の撥形に広がっている。底面はほぼ平らで，ＳＤ160（築地関連遺構）を切っている。

#### ＳＫ186

規　模：長軸2.43m×短軸0.90m×深さ（１段目）0.28m；（２段目）0.55m

方　位：N50°30′E

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部北寄りに位置しており，東半部は隅丸方形，西半部は二段掘りで長円形に近い不定形を呈する。北側の壁面は比較的緩やかに，そして南側の壁面はやや急に立ち上がる。

#### ＳＫ242

規　模：長軸2.50m×短軸1.90m×深さ0.46m

方　位：N69°30′E

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部に位置している。掘り込みは黄褐色土からで，埋土は黒色土・黒褐色土・灰褐色砂質土である。平面形態は円形を基本とした不定形で，北側壁面がオーバーハングしており，底面はほぼ平底である。ＳＢ237(平安時代前半期；掘立柱建物跡）の身舎北側柱及びＳＢ238・260（弥生時代；竪穴住居跡）を切っている。

#### ＳＫ250

規　模：長軸4.03m×短軸1.75m×深さ0.65m

方　位：N12°30′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部南側に位置している。掘り込み面は褐色土で，礫混じりの黄褐色土に達している。平面形態は長円形を基本とする不定形であり，

底面はほぼ平らな状態である。壁面は緩やかに立ち上がるが，実際は直立していたものが崩落して現況の状態になったと思われる。

SK285

規　模：長軸1.00m×短軸0.80m×深さ0.50m

方　位：N70°20′E

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部に位置している。平面形態は円形に近い長円形で，掘り込みはしっかりしている。埋土内から土師器の杯蓋・杯身等を多く検出した。SB281（弥生時代；竪穴住居跡）を切る。SB266（401；平安時代前半期；掘立柱建物跡）の東北隅（鬼門）にあたることから，地鎮の際に使用した物を埋納した祭祀遺構の可能性もある。

SK286

規　模：長軸0.58m×短軸0.52m×深さ0.51m

方　位：N68°00′E

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部に位置する。平面形態はほぼ円形である。掘り込みは褐色土からで，底部は黄褐色土に達している。

SK304

規　模：長軸1.15m×短軸1.20m×深さ0.75m

方　位：N79°40′E

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部南端に位置しており，平面形態は不定形。北側壁面は緩やかな立ち上がりを見せ，南側・東側は痕跡を止めるのみである。褐色土から掘り込んでおり，底部は黄褐色砂質土に達する。埋土は淡褐色砂質土及び灰褐色砂質土である。底面は平坦ではなく，東側へ行くに従って深くなる。SB302(弥生時代；竪穴住居跡）を切る。

SK307

規　模：長軸1.90m×短軸1.65m×深さ0.50m

方　位：N83°00′E

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の中央部東寄りに位置する。褐色土から掘り込んでおり，黄褐色砂質土に達する。埋土は黒色土である。平面形態はほぼ長円形で，北側は二段掘りを呈する。底部は平坦ではなく，東側へ深くなっている。

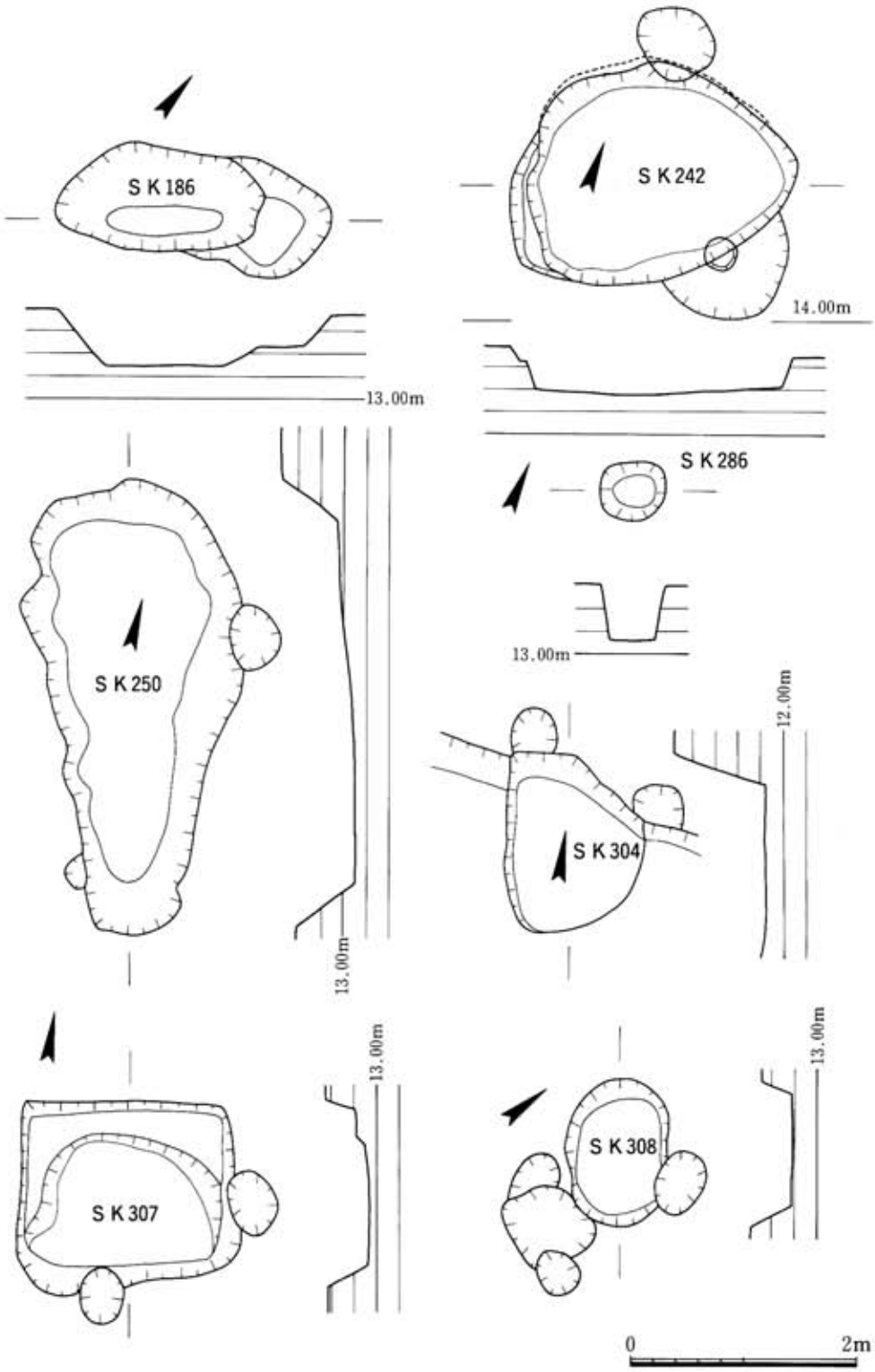



Fig. 81　S K186・242・250・286・304・307・308土壙（1/60）

ＳＫ308

規　模：長軸1.31m×短軸0.90m×深さ0.34m

方　位：N49°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の中央部東側に位置している。掘り込みは褐色土からで，黄褐色土に達する。埋土は淡褐色砂質土である。平面形態はほぼ長円形で，壁の立ち上がりはどの面も比較的急である。ＳＢ291（弥生時代：竪穴住居跡）を切っている。

ＳＫ332

規　模：長軸2.20m×短軸1.45m×深さ0.47m

方　位：N86°00′E

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部中央に位置する。黄褐色土から掘り込まれており，礫混じりの黄褐色土に達している。平面形態は不定形で，底面は平坦ではなく，南側ほど深い。ＳＤ346（奈良時代：築地関連遺構）に切られる。

ＳＫ333

規　模：長軸0.97m×短軸0.93m×深さ0.82m

方　位：N62°20′E

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部北側に位置する。掘り込みは黄褐色土からで，底部は黄褐色砂質土である。また埋土中には焼土粒・炭化物が多量に含まれる。北側壁体の立ち上がりは急であるのに対し，南側は緩やか。平面形態は円形で柱穴状を呈しており，ＳＢ372（奈良時代：築地関連遺構に囲まれた掘立柱建物跡）の南側身舎側柱の主軸の延長線上に位置するため，ＳＢ372関連施設の下部構造の可能性がある。

ＳＫ367

規　模：長軸4.73m×短軸2.90m×深さ0.52m

方　位：N84°30′E

特　徴：東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区の東部南端に位置する。黒色土から掘り込まれており，底部も黒色土である。埋土は灰褐色砂質土及び黒色土である。平面形態は不定形で，底面は平坦ではなく，東に向かって深くなる。壁体の立ち上がりは北側については急で，東西南面は緩やかである。全体的に崩れてはいるものの，築地関連遺構の一部（外溝）の可能性が高い。

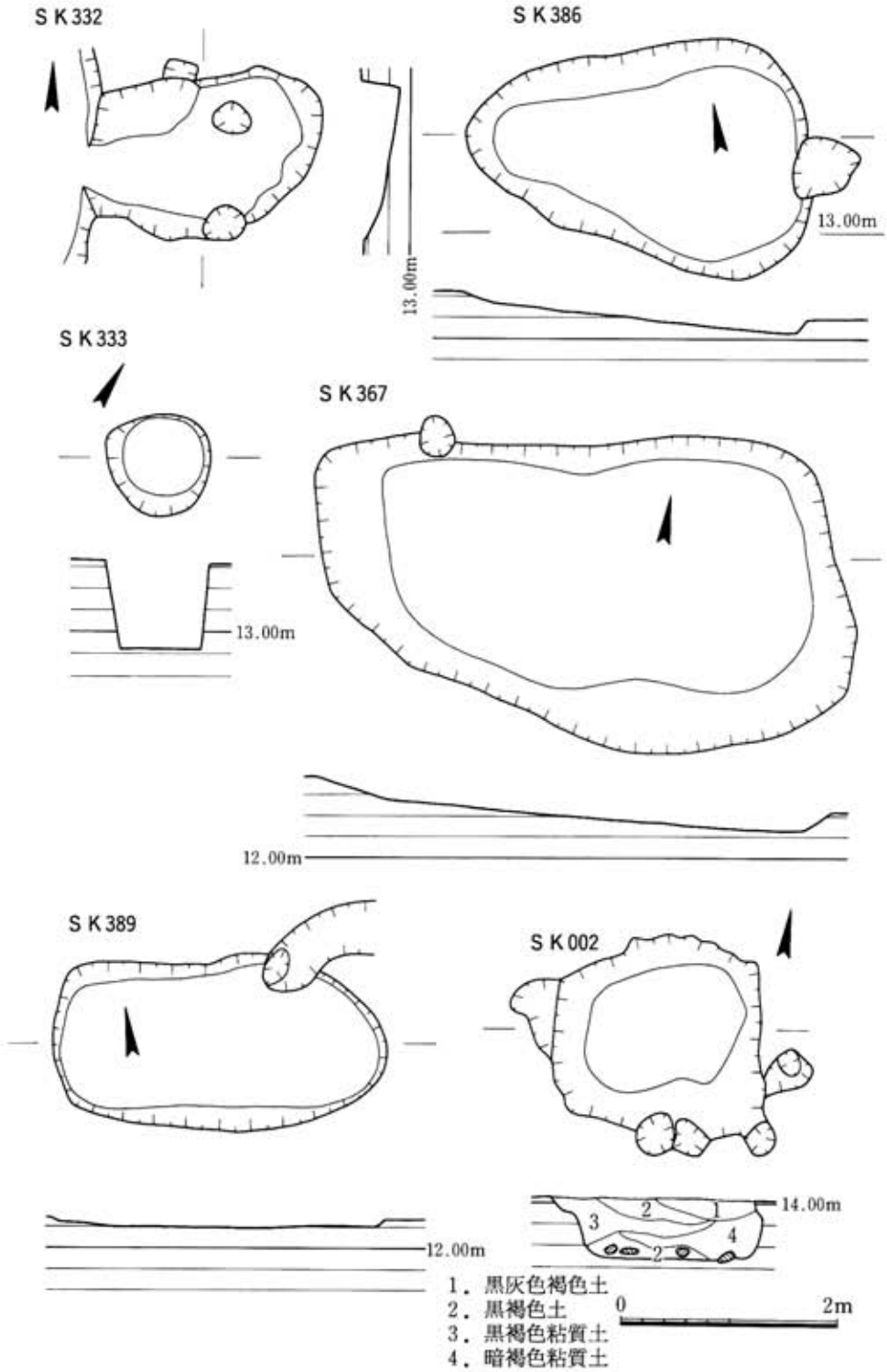



Fig. 82　S K332・333・367・386・389・002土壙（1/60）

SK386

規　模：長軸3.15m×短軸2.20m×深さ0.34m

方　位：N80°20′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東側南端，SK367の東側に隣接する。掘り込みは黒褐色砂質土（粗い砂粒）からで，底部も黒褐色砂質土である。埋土は灰褐色砂質土である。平面形態は隅丸方形で幅は西側が狭く，東側にいくほど広くなっており，底面については西側が浅く東側が深くなっている。SK367と連続していた築地関連遺構と考えられる。

SK389

規　模：長軸3.10m×短軸1.52m×深さ0.14m

方　位：N72°00′W

特　徴：東山田一本杉遺跡II区・III区の東部やや南側の，SD374とSD390（いずれも築地関連遺構）の中間に位置する。掘り込み面は黒褐色砂質土及び淡褐色粘質砂土（いずれも粗い砂粒）で，埋土は黒色土である。また底面は平坦である。平面形態については西半部が隅丸方形，東半部が長円形で，他の築地関連遺構のような溝状の形態ではないため，調査時には土壙として取り扱ったが，SD374及びSD390との位置関係から，築地関連遺構の一部として再考している。

SK002

規　模：長軸1.95m×短軸1.88m×深さ0.76m

方　位：N79°00′E

特　徴：西山田二本松遺跡B区の東部中央に位置する。平面形態は方形で，各壁とも擂鉢状の傾斜角度で立ち上がっている。SB240・256の西側に隣接しており，関連して機能していたと考えられる。

SK011

規　模：長軸2.00m×短軸1.80m×深さ0.22m

方　位：N18°30′E

特　徴：西山田二本松遺跡B区の南端部に位置する。平面形態は不定形で，擂鉢状の掘り込みを有する土壙の集合体か。南側の掘形は明確だが，北側は削平を受けているため痕跡のみ残る。SD012（弥生時代：溝跡）を切る。

ＳＫ019

規　模：長軸2.45m×短軸1.43m×深さ0.61m

方　位：N5°00′E

特　徴：西山田二本松遺跡Ｂ区の南西端部に位置する。平面形態は長円形で，擂鉢状の掘り込みを有する大小４基の土壙の集合体と見ることができる。床面は平坦ではなく北側程深くなっている。

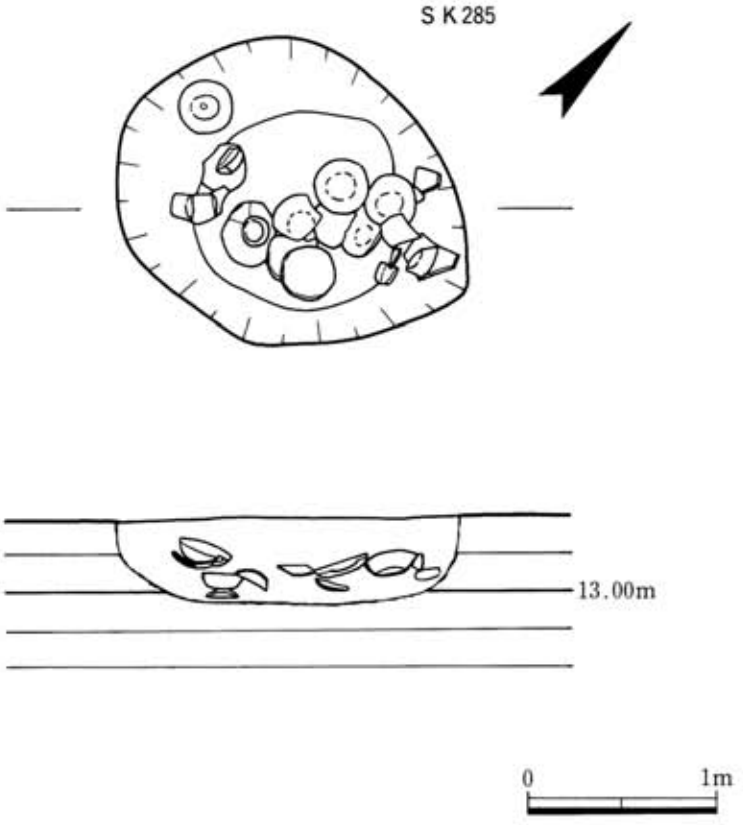



Fig. 83　ＳＫ285遺物出土状態（1/40）

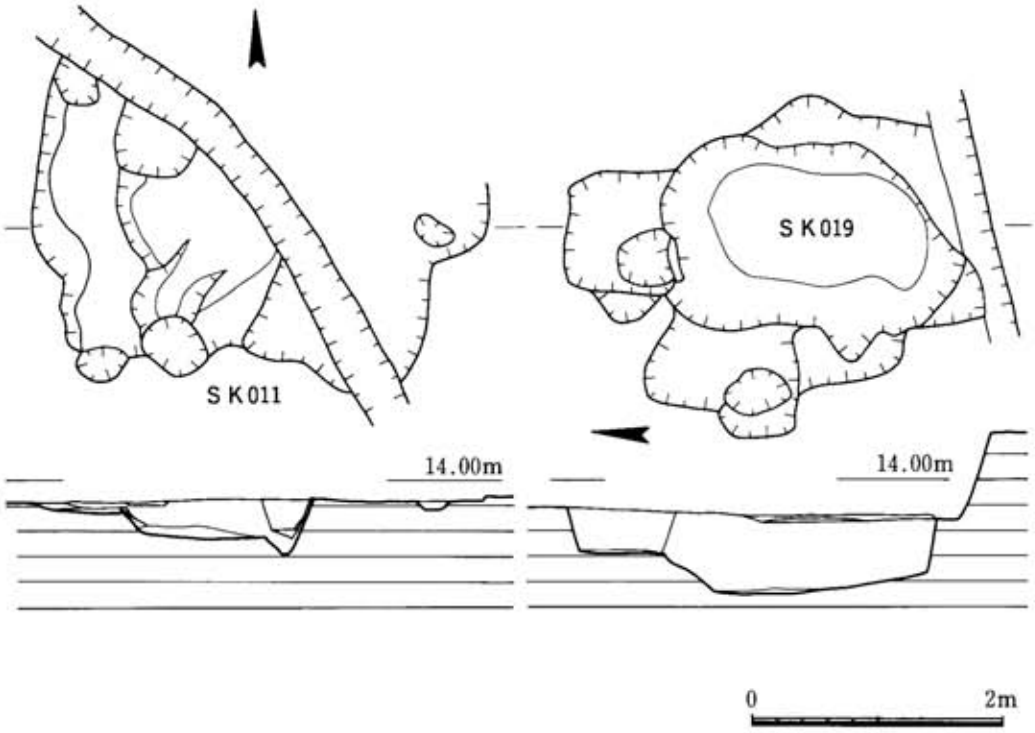



Fig. 84　SK011・019土壙（1/60）

## 3　平安時代後半から中世にかけての遺構

### (1)　遺構の概要

東山田一本杉遺跡の平安時代後半～中世の遺構と見られるのは，出土遺物等から溝跡10条，井戸跡５基，土壙43基，土壙墓２基などである。

こうした遺構のほとんどが平安時代後半（12世紀中頃）から鎌倉時代（14世紀前半）にかけてのものである。この時期の遺構は，発掘調査区の北側に東西方向に屈折して住居地域を区画するような溝（ＳＤ335）が延びており，井戸跡はこの溝の中央南側に１基，西側に２基，東側に１基存在する。土壙は井戸跡が確認された周辺を主に，また土壙墓は，調査区の両側から一基づつ検出した。

この他，調査区域内には多くの柱穴があり，当然当該期の建物が在ったと見られるが，特定できなかった。

つぎに室町時代の遺構はＳＥ245，ＳＤ329，335，ＳＫ069などかある。発掘調査区北側の屈折溝は引き続き存続したと見られ，この区画溝（ＳＤ335）の南側から井戸跡１基を検出した。

このように，平安時代後半～中世の遺構は上面が削平されている事もあり少なく，集落の全体像をつかむには程遠い状況であったが，肥前国府に近い立地と，石組みの井戸や青磁椀の副葬品を持つ土壙墓の所在から，有力者の屋敷等の所在が考えられる。

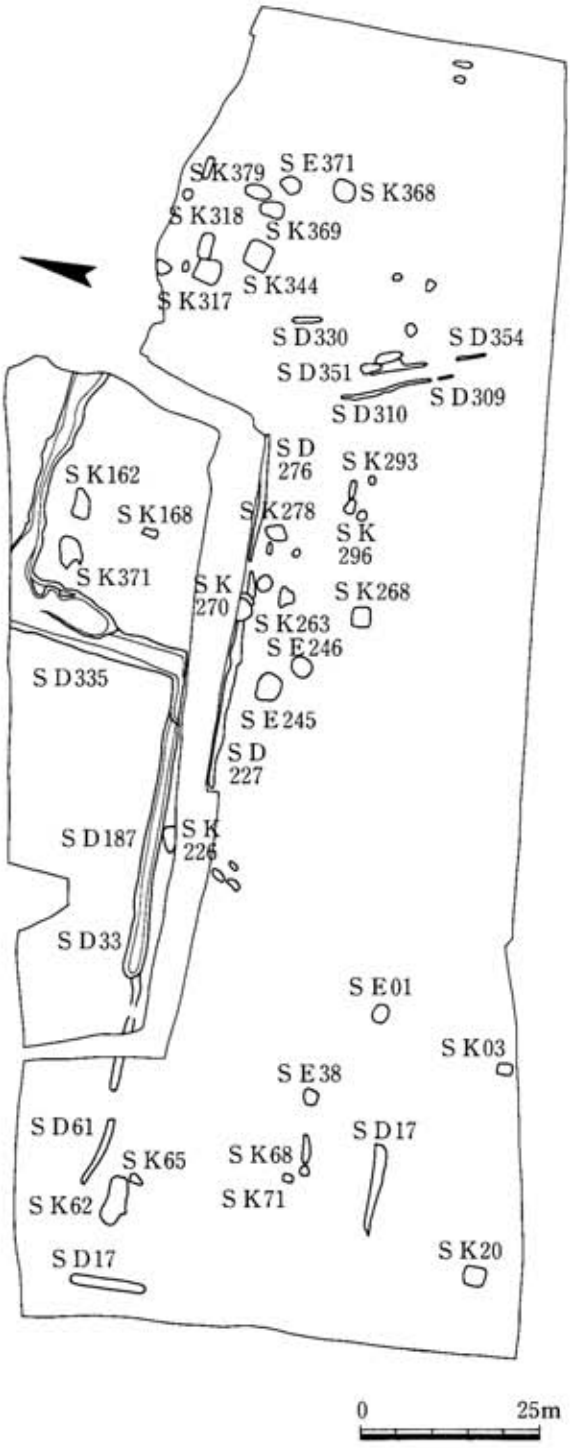



Fig. 85　平安時代後半～中世の遺構配置図

## (2) 溝跡

溝跡は発掘調査区から16条検出したが，同一遺構と見られる溝があり，集約すると10条の溝を検出したこととなる。この内SD335溝は，SD185，187，033溝と同じ溝の延長と見られ，東西方向に延びるが，途中でほぼ直角に屈折する。溝の幅は3.5～1.2m，深さ0.85～0.3m，長さ85mで溝の断面は逆台形状である。溝内からは，平安時代後半から室町時代の土器，陶磁器類が多く出土しており，平安時代後半から室町時代にかけての長い使用が考えられる。またSD187の南5mに東西に延びるSD227，及び調査区西側のSD17，61についてもほぼ平行か直角に延びており，SD335溝と関連ある遺構の可能性がある。

つぎにSD309，310とSD351，354については，同一遺構と見られ1.8mの間隔にてN－W28°～23°の方向に延びているが，いづれも残存状態が悪く溝の詳細はわからない。

このように，溝の全体の区画が不明であるため溝の性格付けについては明らかでないが，前者については屋敷の区画溝の一つと考えることができる。

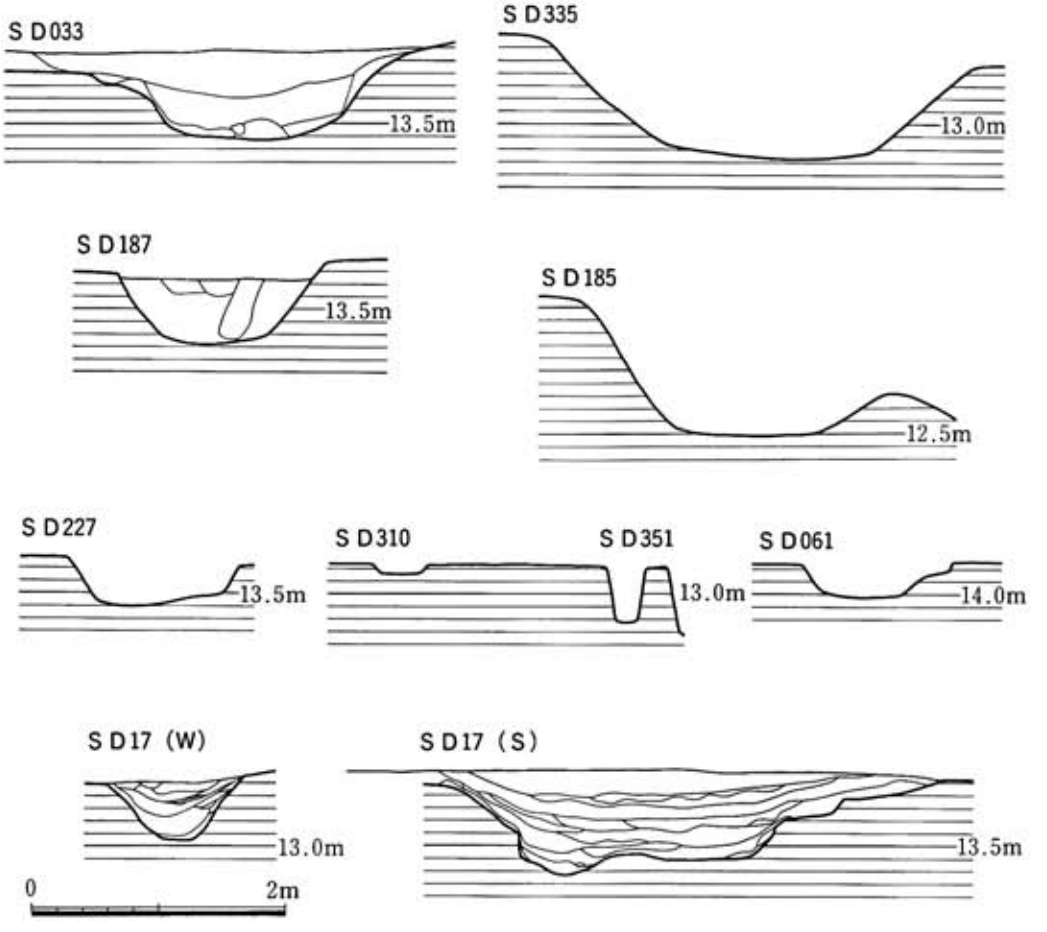



Fig. 86　溝跡断面図

### (3) 井戸跡

調査区の中央にＳＥ245，246が，西側にＳＥ001，038が，東側にＳＥ371の５基が所在する。ＳＥ245は，円形の石積井戸である。井戸の掘り方は長さ3.4m，幅2.7m，の楕円形で掘り方のやや西寄りに40～15cmの自然石（花崗岩）を主に一部割石を用い，上面の径1.35m，下端の径0.55m，深さ2.15mの上面が広くなる逆円錐台形状に石積みを行なっている。内部から14世紀代の土師器小皿，龍泉窯系青磁椀，土鍋が出土した。

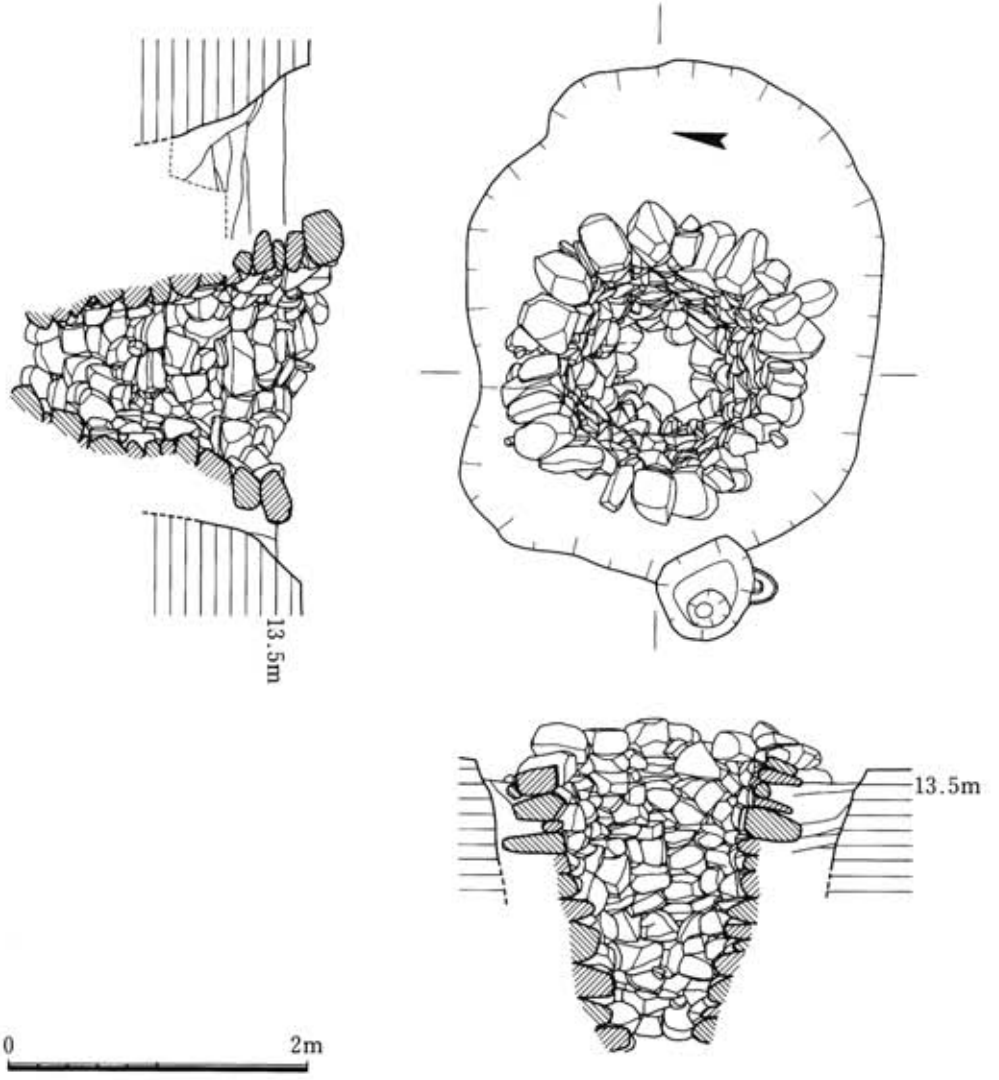



Fig. 87　ＳＥ245井戸跡実測図

ＳＥ246，371，01，38は，いずれも円形の素掘りの井戸で，径2.18～1.65m，深さ2.0～1.35mである。井戸の断面は，逆円錐台形状となるもの（ＳＥ371，38），ほぼ円柱状となるもの（ＳＥ01），壁面が壊れて中膨らみとなるもの（ＳＥ246）がある。ＳＥ246，038は周囲に柱穴状の穴が５～６箇所あり上屋があった可能性も見られる。内部から12世紀後葉から13世紀前葉にかけての土師器杯，瓦器椀，青磁椀などが出土した。

こうした井戸は，深さが2.15～1.35mと浅く調査時点では水がしみ出す程度であるが，床面は砂質層となっており当時は湧水があったものと見られる。

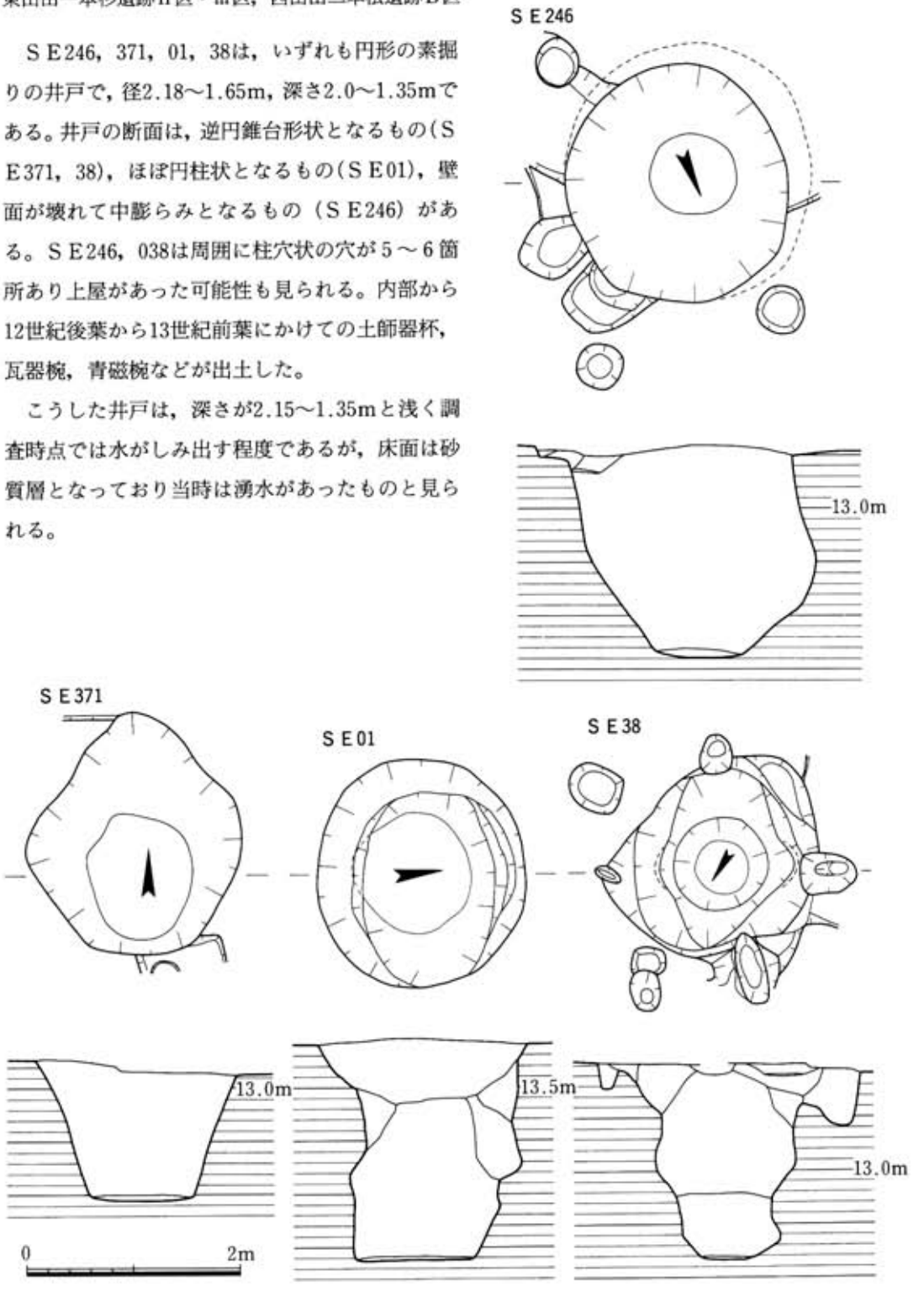



Fig. 88　井戸跡実測図

### (4)　土壙

平安時代後半から中世の土壙として取り扱ったのは43基である。この中には出土遺物が少なく時期の判断が不明確な土壙もあるが，埋土の状況等からこの時期のものと判断した。土壙の分布状況は調査区の東側ＳＥ371の周囲，調査区の中央ＳＥ245の東側

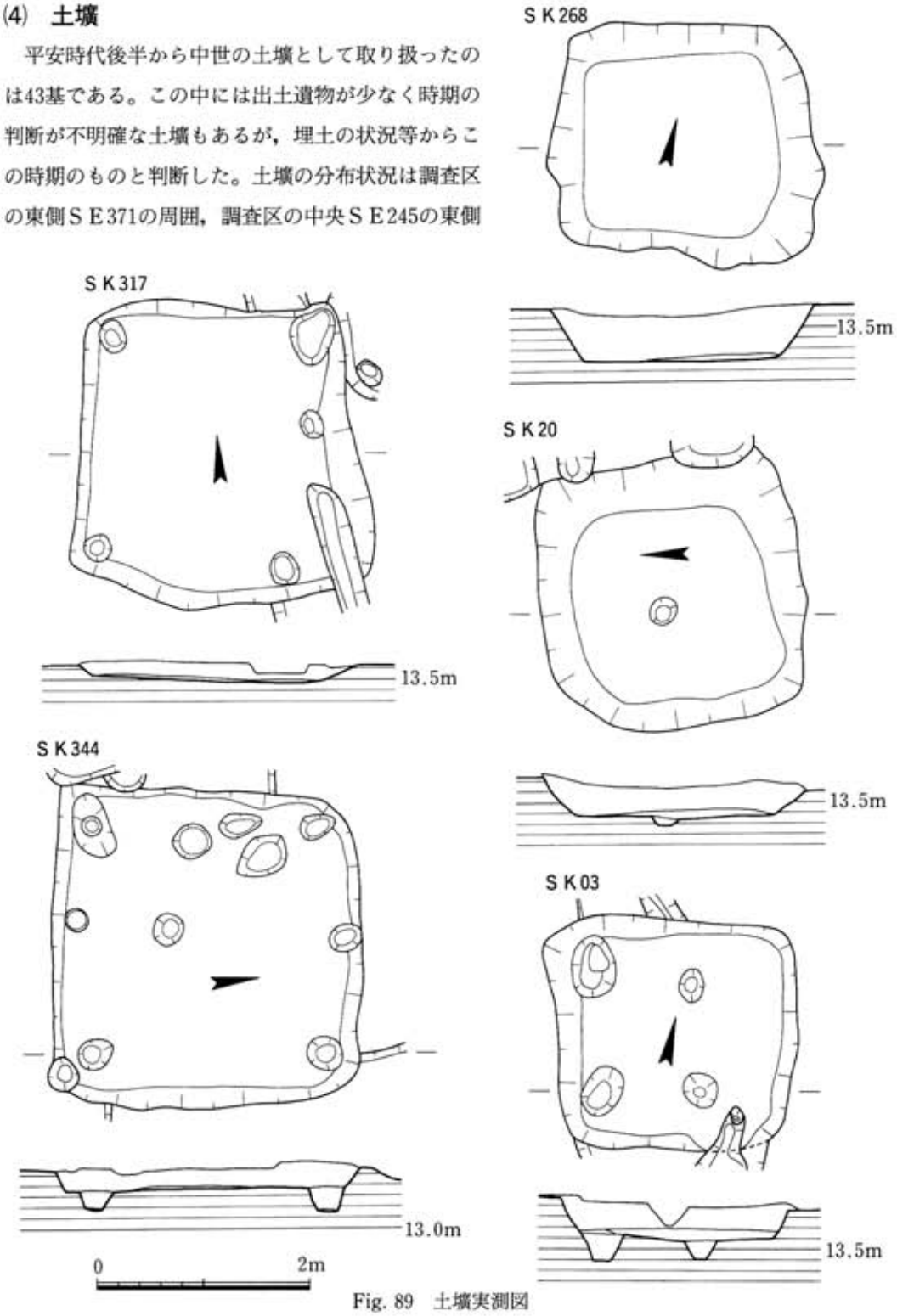



Fig. 89　土壙実測図

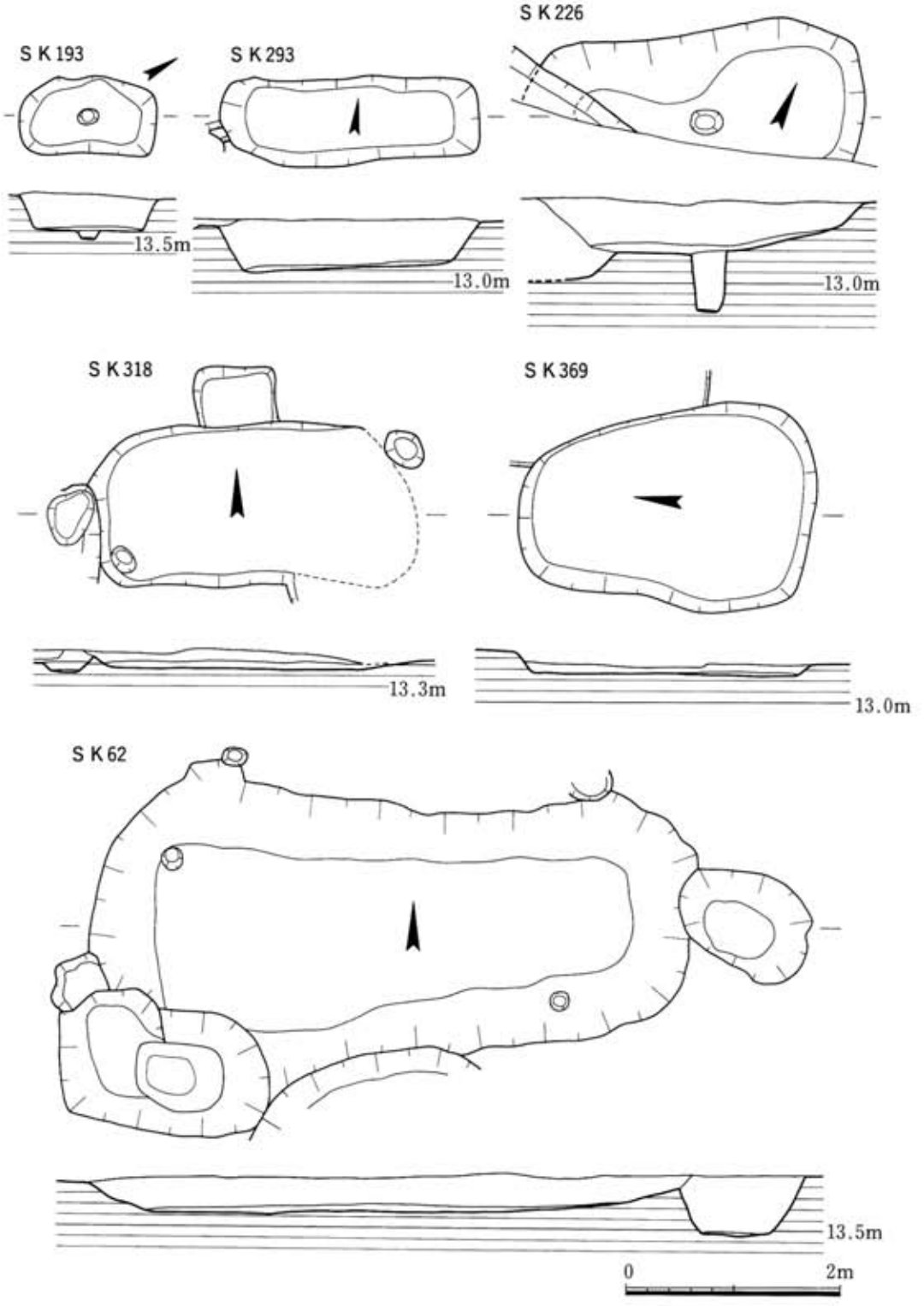

S K 193
S K 293
S K 226
13.5m
13.0m
13.0m
S K 318
S K 369
13.3m
13.0m
S K 62
13.5m
0
2m

Fig. 90　土壙実測図

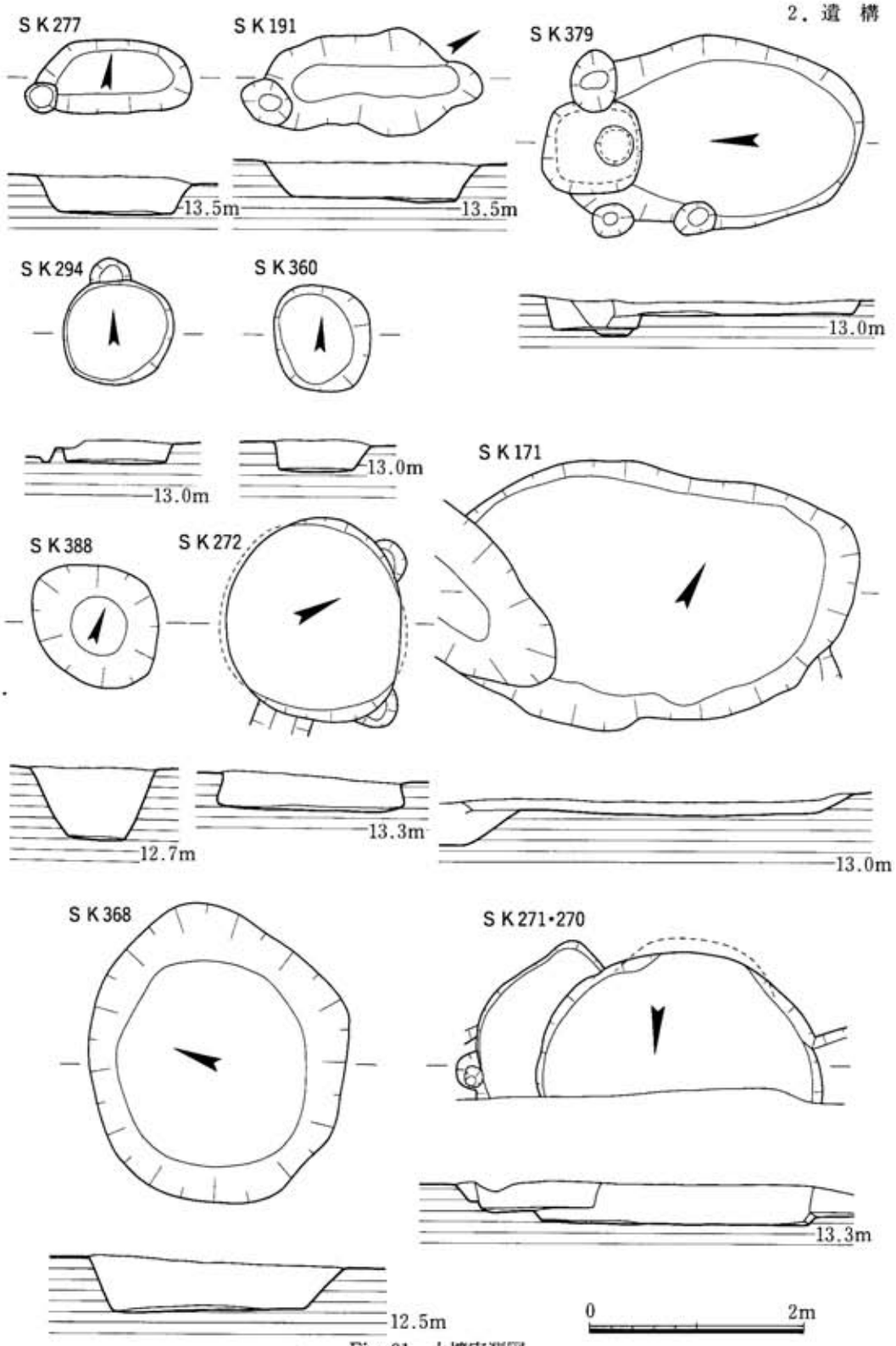

S K 277
S K 191
S K 379
13.5m
13.5m
S K 294
S K 360
13.0m
13.0m
13.0m
S K 171
S K 388
S K 272
12.7m
13.3m
13.0m
S K 368
S K 271・270
13.3m
12.5m
0
2m

Fig. 91　土壙実測図

に主に分布するが調査区の西側にも散在する。こうした土壙としたものの平面の形はさまざまなものがあるが，大きく方形，隅丸長方形，円形，楕円形，不定形がある。

方形の土壙はＳＫ268，317，344，03，20の５基がある。大きさは長さ2.95～1.54m，深さ1.5～0.18mである。ＳＫ317，344には土壙内に４ヵ所，６ヵ所の柱穴状の穴があり，竪穴の可能性もある。

隅丸長方形の土壙はＳＫ193，226，318，62など９基がある。この中で最も小さいＳＫ193は長さ1.26m，幅0.7m，深さ0.36mで中央に穴が一ヶ所見られることから柱穴になることも考えられる。最も大きいＳＫ062は長さ5.55m，幅2.2m，深さ0.36mで西側の幅が広くなる。この他の土壙は長さ3.2～1.8m，幅1.7～0.78m，深さ0.56～0.18mである。

楕円形の土壙はＳＫ171，191，277，379など15基がある。長さが1.55～1.2m，幅1.2～0.68m，深さ0.57～0.1mの小形の土壙が９基と最も多く，長さ2.8～2.0m，幅1.8～0.9m，深さ0.3～0.21mの長さが２m代の土壙が３基，さらに長さが３ｍを超える土壙が２基である。

つぎに円形の土壙は，ＳＫ270，272，368，388など８基がある。直径が１m以内の小形土壙が２基，２m以内の土壙が４基，２ｍを超える土壙が２基である。深さは浅く0.65～0.2m。この他に一定の形を成していない不定形とした土壙がある。これはＳＫ162，278，313ななど６基で，ＳＫ162は長方形に近く，ＳＫ278は楕円形に近い。

このように，平安時代後半から中世の土壙としたものにはいろいろな形態がある。この内の約４分の３については土師器小皿，杯，輸入陶磁器などが出土しているが，出土量は比較的少なく，また完形品がほとんどないのが特長である。このことから土壙の性格については，柱穴，竪穴状の施設，貯蔵穴，ゴミ穴などが考えられるが断定はできない。

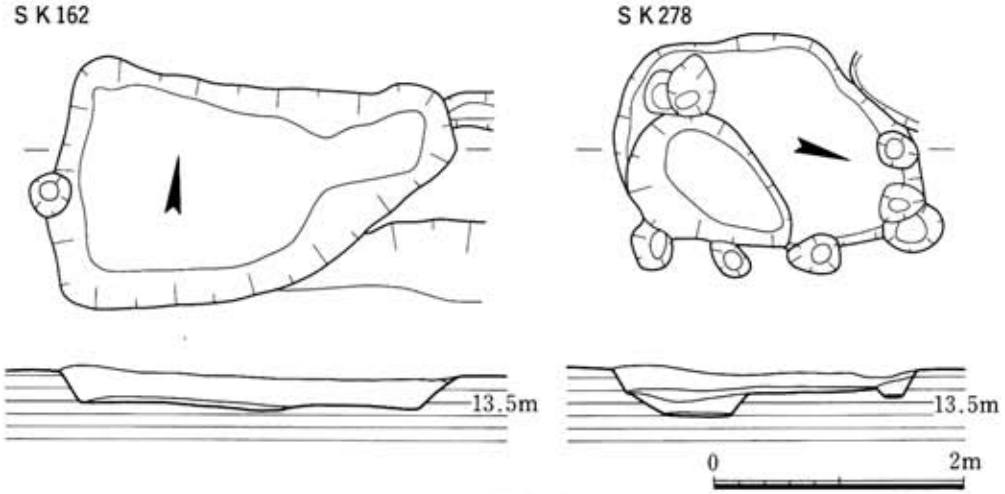



Fig. 92　土壙実測図

### (5) 土壙墓

平安時代後半から鎌倉時代の土壙墓は調査区の中央からＳＰ356を，また東側からＳＰ69の２基を検出した。

ＳＰ356土壙墓は，楕円形に近い隅丸長方形で，ＳＢ349を切っている。長さ1.38m，幅1.05m。上面は削平を受けており，深さ0.23mしか残っていない。主軸方向はＮ－Ｗ75°で，中央西寄りに龍泉窯系青磁椀２個，土師器小皿４個を副葬しており，12世紀末から13世紀前葉にかけての土壙墓である。

ＳＰ69土壙墓は，やや歪な長方形で，長さ1.22m，幅0.83m，深さ0.2m，主軸方向はほぼ真北のＮ－Ｗ５°である。土壙墓の中央北側に，土師器杯１点，小皿４点を副葬している。13世紀中頃から後葉にかけての土壙墓である。

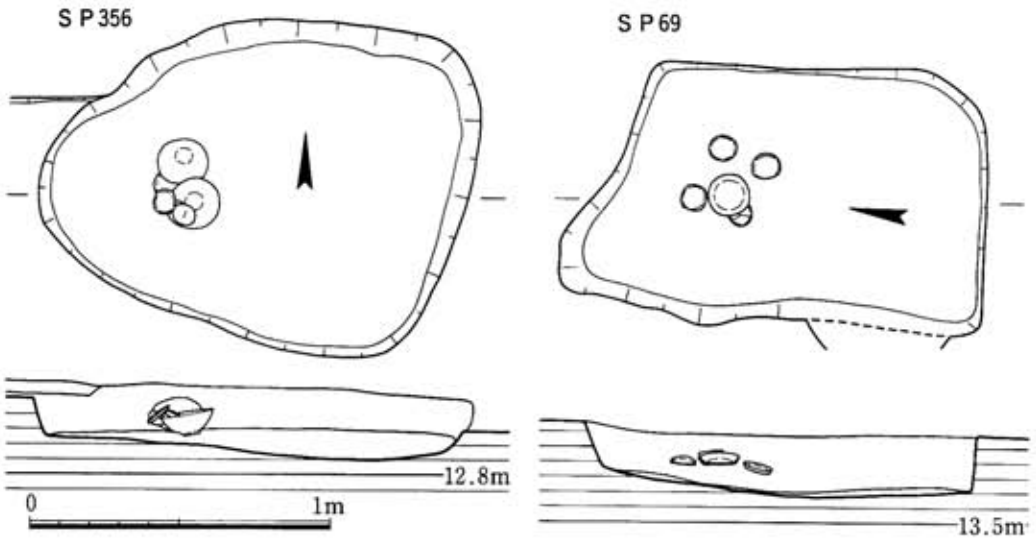



Fig. 93　土壙墓実測図

Tab. 3　平安時代後半～中世の遺構一覧表

| 遺構番号（溝跡） | 規模（単位m） 長さ | 幅 | 深さ | 方位 | 出土遺物ほか | 時期 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＤ185 ＨＹＳ | 26.0 | 1.2 | 0.3 | Ｎ－Ｗ89° | 土師器杯(へら)須恵器鉢，片口鉢，土鍋 | 鎌倉～室町時代 | 同一遺構 |
| ＳＤ187 ＨＹＳ | 34.0 | 1.7～2.3 | 0.85 | Ｎ－Ｅ83° | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀，龍泉窯系椀（ＨＹＳＳＤ033の東半分） | | |
| ＳＤ33 ＮＹＮ－Ｂ | 34.0 | 1.7～2.3 | 0.85 | Ｎ－Ｅ83° | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀（ＨＹＳＳＤ187の西半分） | | |
| ＳＤ335 ＨＹＳ | 20.5 | 3.0～3.5 | 0.8 | Ｎ－Ｗ1° | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀，龍泉窯系，同安窯形青磁皿，椀，備前擂鉢 | | |
| ＳＤ227 ＨＹＳ | 19.2 | 1.3 | 0.3 | Ｎ－Ｅ85° | ―― | 時期不祥 | |
| ＳＤ275 ＨＹＳ | 3.4 | 0.85 | 0.11 | Ｎ－Ｅ73° | ―― | 時期不祥 | |
| ＳＤ276 ＨＹＳ | 12.0 | (0.9) | | Ｎ－Ｅ81° | 土師器小皿，青磁椀小片 | 鎌倉時代 | |

| 遺構番号（溝跡） | 規模（単位m） 長さ | 幅 | 深さ | 方位 | 出土遺物ほか | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SD309 HYS | 1.65 | 0.28 | 0.27 | N－W28° | SD310の続きか | 時期不祥 |
| SD310 HYS | 10.9 | 0.45 | 0.24 | N－W28° | 土師器小皿(糸)，瓦質土鍋，染付け椀 | 室町時代 |
| SD330 HYS | 3.5 | 0.55 | 0.23 | N－W17° | 土師器杯(へら) | 平安時代（12世紀） |
| SD351 HYS | 6.7 | 0.35 | 0.3 | N－W25° | 龍泉窯系青磁椀 | 鎌倉時代か |
| SD354 HYS | 3.3 | 0.35 | 0.16 | N－W23° | 土師器小皿片 SD351の続きか | 時期不祥 |
| SD17W NYN-BE | 8.5 | 1.1 | 0.5 | N－W1° | 土師器小皿片 | 時期不祥 |
| SD17S NYN-BW | 14.8 | 1.8～3.9 | 0.85 | N－E85° | 土師器小皿片 | 時期不祥 |
| SD061 NYN-B | 25.0 | 0.9～1.05 | 0.25 | N－E89° 西側は円弧を描く | 瓦器椀，白磁椀，龍泉窯系青磁椀，常滑甕 | 鎌倉時代 |

| 遺構番号（井戸跡） | 形状 | 規模（単位m） 長さ | 幅 | 深さ | 出土遺物ほか | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SE245 HYS | 円形に石積掘方楕円形 | 3.4 | 2.7 | 2.15 | 土師器小皿(糸)，龍泉窯系青磁椀，土鍋 | 鎌倉時代 14世紀 |
| SE246 HYS | 円形素掘り | 2.18 | 2.05 | 1.98 | 土師器小皿，杯(糸)瓦器皿，椀，同安窯系青磁椀，土鍋，滑石製石鍋 | 鎌倉時代 13世紀前葉 |
| SE371 HYS | 円形素掘り | 1.9 | 1.8 | 1.35 | 土師器杯(糸)瓦器椀，同安窯系青磁椀 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SE01 NYN－B | 円形素掘り | 2.14 | 1.95 | 2.0 | 瓦器椀，白磁椀 | 平安時代 12世紀後葉 |
| SE038 NYN－B | 円形素掘り | 1.70 | 1.65 | 1.80 | 土師器小皿(糸)瓦器椀，龍泉窯系青磁椀，同安窯系青磁椀，東播系片口鉢 | 鎌倉時代 13世紀前葉 |

| 遺構番号（土壙） | 形状 | 規模（単位m） 長さ | 幅 | 深さ | 出土遺物ほか | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| SK162 HYS | 長方形状 | 3.1 | 1.7 | 0.25 | ——— | 時期不祥 |
| SK168 HYS | 不定形 | 約1.9 | 0.95～0.6 | 0.25 | 土師器小皿(へら) | 平安時代 12世紀 |
| SK171 HYS | 楕円形 | 約3.8 | 2.3 | 0.24 | ——— | 時期不祥 |
| SK191 HYS | 楕円形 | 2.0 | 0.9 | 0.32 | ——— | 時期不祥 |
| SK193 HYS | 隅丸長方形 | 1.26 | 0.7 | 0.36 | ——— | 時期不祥 |
| SK204 HYS | 長方形 | 約1.8 | 0.9 | 0.4 | ——— | 時期不祥 |
| SK226 HYS | 隅丸長方形 | 3.2 | —— | 0.48 | 同安窯系青磁椀 | 鎌倉時代 |
| SK263 HYS | 楕円形 | 約2.4 | 1.8 | 0.3 | 土師器小皿(糸)東播系片口鉢，龍泉窯系青磁椀 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK268 HYS | 方形 | 2.4 | 2.1 | 0.5 | 土師器小皿，杯(糸)，瓦器椀，白磁椀 | 鎌倉時代 12世紀後半 |
| SK270 HYS | 円形 | 2.66 | —— | 0.33 | 土師器小皿，杯(糸)瓦質土鍋 | 鎌倉時代 14世紀～ |
| SK271 HYS | 不定形 | —— | —— | 0.28 | 土師器小皿(糸)瓦器椀，東播系片口鉢 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK272 HYS | 円形 | 1.88 | 1.63 | 0.33 | 土師器小皿(糸)瓦器椀，龍泉窯系青磁椀，白磁杯，東播系片口鉢 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK274 HYS | 楕円形状 | 約2.0 | 約1.1 | 0.5 | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀，滑石製石鍋ほか | 鎌倉時代 |
| SK277 HYS | 楕円形 | 1.42 | 0.68 | 0.5 | 土師器小皿(糸)瓦器椀，龍泉窯系青磁椀 | 鎌倉時代 |
| SK278 HYS | 隅丸方形状 | 2.4 | 1.66 | 0.20 | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀，白磁杯，土鍋 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK292 HYS | 楕円形 | 1.3 | 1.12 | 0.27 | 土師器小皿，杯(糸)龍泉窯系青磁椀，白磁杯 | 鎌倉時代 13世紀 |

| 遺構番号（土壙） | 形状 | 規模（単位m） | | | 出土遺物ほか | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | |
| SK293 HYS | 隅丸長方形 | 2.4 | 0.78 | 0.47 | 土師器小皿，青磁椀小片，東播系片口鉢 | 鎌倉時代 |
| SK294 HYS | 円形 | 1.04 | 0.98 | 0.2 | 土師器小皿，杯(糸) | 鎌倉時代 |
| SK296 HYS | 楕円形 | 1.4 | 0.85 | 0.46 | 土師器小皿，杯(糸)白磁杯，龍泉窯系青磁椀 | 鎌倉時代 13世紀後半 |
| SK313 HYS | 不定形 | 約2.5 | 1.5 | 0.2 | ——— | 時期不祥 |
| SK317 HYS | 方形 | 2.8 | 2.58 | 0.18 | 土師器杯，椀 | 鎌倉時代か |
| SK318 HYS | 隅丸長方形 | 約3.0 | 1.48 | 0.2 | ——— | 時期不祥 |
| SK319 HYS | 楕円形 | 1.24 | 0.82 | 0.1 | 褐釉壺 | 時期不祥 |
| SK326 HYS | 楕円形 | 1.4 | 1.2 | 0.46 | 土師器小皿(糸) | 時期不祥 |
| SK329 HYS | 楕円形 | 2.4 | 1.05 | 0.56 | 土師器小皿(糸)枢府系白磁皿，土鍋 | 鎌倉時代 |
| SK341 HYS | 楕円形 | 3.48 | 1.2 | 0.63 | 土師器小皿(糸)同安窯系青磁椀 | 鎌倉時代 |
| SB344 HYS | 方形 | 2.95 | 2.92 | 0.24 | ——— | 時期不祥 |
| SK352 HYS | 隅丸長方形 | 2.3 | 1.1 | 0.56 | 土師器杯(糸)龍泉窯系青磁椀片 | 鎌倉時代 |
| SK360 HYS | 円形 | 0.98 | 0.88 | 0.28 | 土師器小皿(糸)瓦器椀，同安窯系青磁皿 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK368 HYS | 円形 | 2.8 | 2.42 | 0.52 | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀，龍泉窯系同安窯系青磁椀，土鍋 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK369 HYS | 楕円形 | 2.74 | 1.7 | 0.18 | 土師器小皿，杯(糸)瓦器椀 | 鎌倉時代 |
| SK379 HYS | 楕円形 | 約2.8 | 1.75 | 0.21 | 土師器小皿，(糸)瓦器椀 | 鎌倉時代 |
| SK383 HYS | 隅丸長方形 | 2.64 | 0.82 | 0.2 | 土師器杯(糸)瓦器椀 | 鎌倉時代 |
| SK388 HYS | 円形 | 1.18 | 1.10 | 0.65 | 土師器杯(糸)龍泉窯系青磁椀，東播系片口鉢 | 鎌倉時代 |
| SK395 HYS | 円形 | 0.78 | 0.76 | 0.4 | ——— | 時期不祥 |
| SK396 HYS | 楕円形 | 1.2 | 0.8 | 0.2 | ——— | 時期不祥 |
| SK03 NYN－B | 方形 | 1.7 | 1.54 | 0.48 | ——— | 時期不祥 |
| SK020 NYN－B | 方形 | 2.48 | 2.45 | 0.42 | 土師器小皿，杯(糸)龍泉窯系青磁皿，椀 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK62 NYN－B | 隅丸長方形 | 5.55 | 2.20 | 0.36 | 瓦器椀，白磁皿，椀，龍泉窯系青磁椀 | 鎌倉時代 13世紀 |
| SK65 NYN－B | 楕円形 | 1.55 | 1.1 | 0.57 | 土師器小皿(糸)瓦器椀片 | 鎌倉時代 |
| SK68 NYN－B | 楕円形 | 1.3 | 0.9 | 0.46 | 土師器小皿(糸)白磁杯 | 鎌倉時代 13世紀～ |
| SK70 NYN－B | 楕円形 | 1.4 | 1.0 | 0.41 | 土師器小皿(糸)白磁椀 | 鎌倉時代 |
| SK71 NYN－B | 円形 | 1.22 | 1.08 | 0.42 | 土鍋 | 鎌倉時代 |

| 遺構番号（土壙墓） | 形状 | 規模（単位m） | | | 方位 | 出土遺物 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | | |
| SP356 HYS | 隅丸長方形 | 1.38 | 1.05 | 0.23 | N－W5° | 土師器小皿(糸)4点，龍泉窯系青磁椀2個 | 鎌倉時代 13世紀前後 |
| SP69 NYN－B | 長方形 | 1.22 | 0.83 | 0.20 | N－W75° | 土師器小皿4点，杯(糸)1点 | 鎌倉時代 前葉 |

# 3．遺　　物

出土遺物のなかで主体を占めるのは，弥生時代後期の土器，奈良時代から平安時代の土師器・須恵器，中世の土師器・輸入磁器である。その中で弥生土器がもっとも多い。これら以外の時代の遺物は少ない。

弥生時代の特徴ある遺物としては，ガラス勾玉や多量に出土したガラス小玉などの装身具が出土している。

奈良・平安時代のものとしては，「定側松印」と刻印された土器，墨書土器，緑釉陶器，円面硯などがある。

また，縄文時代の遺物として押型文土器が数点と石鏃が10点ほど出土しているが，小片であることと紙数の都合上図示しなかった。

## 1　弥生時代から古墳時代にかけての遺物

弥生時代から古墳時代初頭に属するものとしては，土器・土製品・石器・鉄器・装身具が出土した。

土器は主として竪穴住居から出土した。しかし，全体的に削平が著しく，まとまって出土したのは，SB235・249・269・282・298・320・29竪穴住居ぐらいである。それにもかかわらず，他に奈良時代以降の遺構からもかなりの量の弥生土器が出土していることなどもあわせて，かなりの量の土器が出土している。

土器は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて，特に後期後半の時期を中心とする。中期の土器がわずかにみられる。ほぼ全器種がそろっている。また，埋葬に用いられたものとして甕棺と土壙墓の蓋に転用されてものがある。

土製品として土錘，紡錘車，土弾，スプーン状土製品が出土した。SB64からは土弾が10数個出土している。なお，スプーン状土製品は土器と同じ挿図に図示している。

石器は石包丁と砥石が多い。後期の遺跡としては石包丁がかなり多いと思われる。未製品も出土している。

鉄器は鉄鏃，鉇，手斧，鎌，刀子などがある。集落の規模にしてはあまり多くない傾向があり，石器が多いことと関連する可能性がある。

装身具としては，ガラス勾玉，ガラス管玉，碧玉製管玉，ガラス小玉などがある。特に，ガラス小玉の出土量が多く，SB267竪穴住居からは103個集中して出土した。

さて，先述したように，ここでは弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて6期に分けているが，ここでそれぞれの時期の土器の特徴について述べておく。底部形態と高坏の形態に特に注

目した。底部形態は平底，不安定な平底，凸レンズ状底，丸底に大まかに区分する。ここで「不安定な平底」というのは，「平底に近い凸レンズ状底」などといわれているものに近く，底部調整が丁寧でなくなった結果，安定した平底ではないが，凸レンズ状底に含めるほど下方に突出していないものを指す。凸レンズ状底はいわゆる凸レンズ状のものと，ほとんど丸底に近いものに細分が可能である。また，甕や壺の胴部外面下半部のケズリ調整にも注目した。これは，「ケズリ整形」「ハケ調削り調整」「カキケズリ」などといわれるものを指す。

Ⅰ期（高三瀦式古段階相当）は，底部形態がすべて平底で占められ，中期須玖式の系統を引く鋤先状の高坏のみ出土する時期を指す。竪穴住居はまだ出現しておらず，大型甕棺のみがこの時期のものとして認められる。

Ⅱ期（高三瀦式新段階相当）は，不安定な平底がみられ始める時期である。高坏はまだ須玖系統のものが主体を占めるが，元来外来系であるが急速に在地化する，坏部が屈曲し外方に開く高坏（以下，後期系高坏とする）もわずかだが出現している。後期中頃といわれている時期がここに当たるのであろう。ＳＢ165・281出土土器などがこの時期のものである。

Ⅲ期（下大隈式古段階相当）は，不安定な平底が主体を占め，凸レンズ状底もみられる時期で，後期系高坏は坏部の外反度があまりないものが主体を占める。須玖系統の高坏は基本的にみられなくなり，胴部下半部のケズリ調整が出現する。ＳＢ238・300・355出土土器などがこの時期にあたる。

Ⅳ期（下大隈式新段階相当）は，時期が下るにつれ不安定な平底より凸レンズ状底が多くなる。後期系高坏は口縁部の外反度がかなりあるがあまり長くならないものが主体を占める時期である。ケズリ調整がかなり多くなることも特徴である。ＳＢ247・249・269・298・320出土土器などが該当し，かなりまとまって出土している時期といえる。

Ⅴ期（いわゆる終末期）は，丸底がかなりみられ，長く大きく外反する口縁部をもつ後期系高坏が主体を占める時期を指す。ＳＢ282・27出土土器などがこの時期である。

Ⅵ期は布留式古段階に相当する。ＳＢ54出土土器がこの時期にあたる。この遺跡ではこの時期の土器様式に特徴的なことがあると考えるので，小結の項で述べることにしたい。

以上の時期区分は，武末編年[1]，常松編年[2]，岩永編年[3]などに近いものと考えている。

## ＜註＞

1．武末純一 1977 「遺物の検討(1)弥生土器」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』ＸＩＸ，福岡県教育委員会。
2．常松幹雄 1984 「西北九州における弥生時代後期土器様式の構成に関する一研究（前編）」『古代』77，早稲田大学考古学会。1985 「西北九州における弥生時代後期土器様式の構成に関する一研究（後編）」『古代』80，早稲田大学考古学会。
3．岩永省三 1992 「土器から見た弥生時代社会の動態」『生産と流通の考古学』，横山浩一先生退官記念事業会。

(1) 土器（Fig. 94～158）

埋葬に用いられた土器，竪穴住居出土土器，ＳＸ302不明遺構出土土器，掘立柱建物・土壙出土土器の順にそれぞれ遺構ごとに説明してゆく。また，弥生時代から古墳時代の遺構には明確に伴わないが，外来系のものと考えられる土器は別にまとめて図示した。なお，埋葬に用いられた土器は挿図内に主な法量を示し，本文中で説明した。それ以外の土器についての個別の説明は観察表によられたい。

ａ）埋葬に用いられた土器

ＳＪ190甕棺（Fig. 94）

3は下甕。く字状口縁で，平底である。胴部最大径部よりやや下に三角突帯が１条めぐる。口縁部はヨコのナデ，外面は縦方向のハケメ，内面はナデである。胴部下半部に外からのかなり大きい穿孔がある。茶褐色を呈する。

ＳＪ199甕棺（Fig. 94）

上甕，下甕とも平底で，口縁部を打ち欠いている。１は上甕で，外面は縦方向のハケメ後ナデ，内面はナデである。胴部最大径部より下に三角突帯が１条めぐる。暗褐色を呈する。

2は下甕で，調整は上甕と同様である。胴部最大径部より下にややだれたコ字状突帯が１条めぐり，胴部上半部に穿孔がある。明褐色を呈する。

ＳＪ202甕棺（Fig. 95）

4は上甕。Ｌ字状口縁とく字状口縁の中間的な口縁部で，底部は平底である。口縁部はヨコのナデ，外面は縦方向のハケメ，内面はナデである。茶褐色を呈する。

5は下甕。く字状口縁で，平底である。口縁部はヨコのナデ，外面は縦および斜め方向のハケメ，内面は板状工具によるナデである。胴部最大径部より下にややだれたコ字状突帯が１条めぐり，胴部下半部に穿孔を施す。茶褐色を呈する。

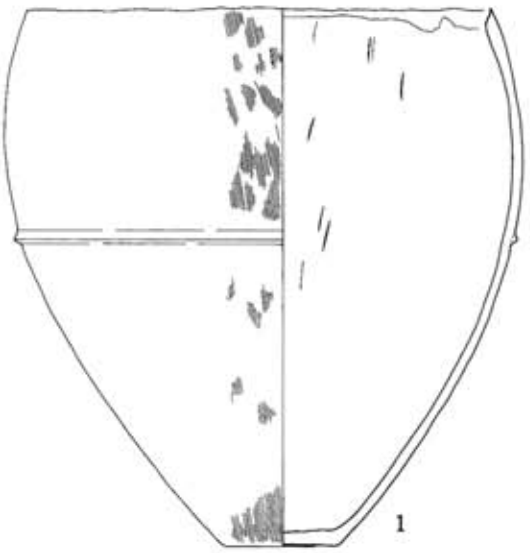
ＳＪ218甕棺（Fig. 95）

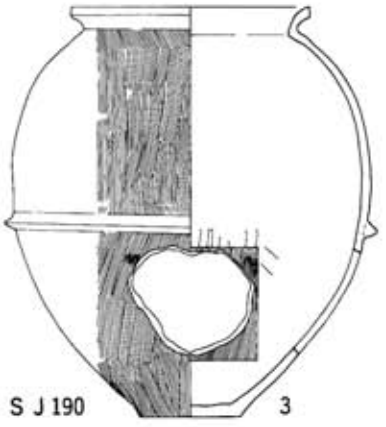
6は上甕。口縁部から胴部上半分を打ち欠く。平底で，胴部最大径部よりやや下にコ字状突帯が1条めぐる。外面はハケメ，内面はナデである。黄橙色を呈する。

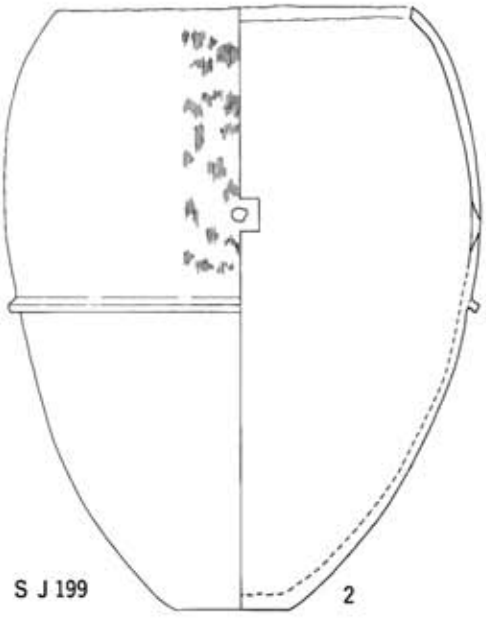
7は下甕。く字状口縁で，平底である。口縁部はヨコのナデ，外面は縦方向のハケメ，内面は板状工具によるナデである。胴部最大径部よりやや下にコ字状突帯が１条めぐる。淡褐色を呈する。

**ＳＪ261甕棺**（Fig. 95）

8は下甕。口縁部を欠失するが，削平のためか，打ち欠きなのかは不明である。底部は報告書作成段階で所在不明であるが，平底であった。肩部に低い三角突帯が2条，胴部最大径部に1条三角突帯がめぐる。外面は胴部突帯より上がナデ，下が縦方向のハケメ，内面はナデである。橙色を呈する。なお，上甕は小破片のため図示しなかった。



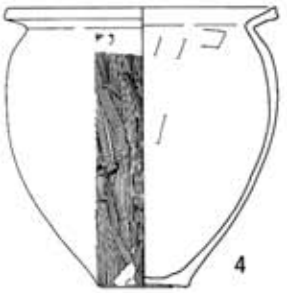



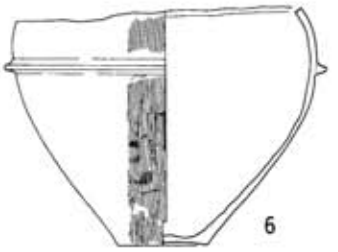

1 -92003455
口径　49.4
胴径　55.2
底径　12.2
器高　56.4

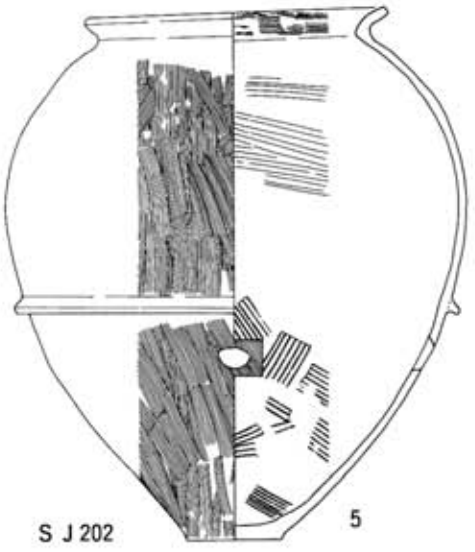
3 -91000134
口径　25.3
胴径　37.7
底径　10.8
器高　43.1

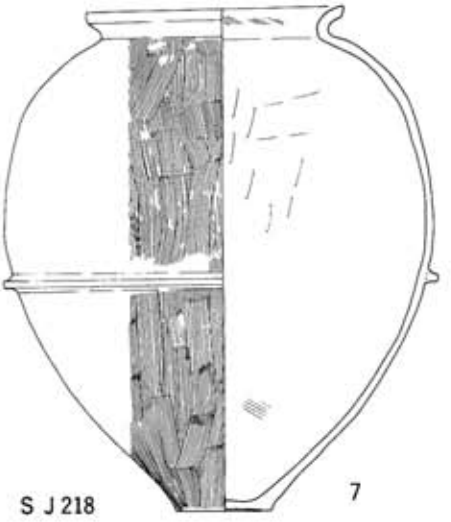
2 -92003456
口径　37.6
胴径　50.2
底径　12.3
器高　63.6

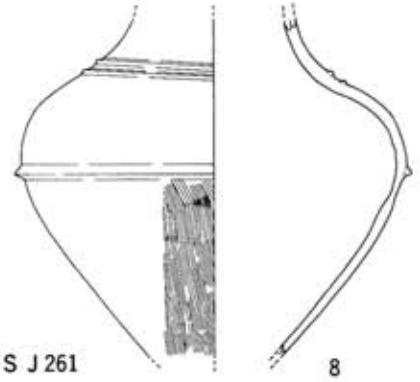
Fig. 94　ＳＪ190・199甕棺（1/8）





4 -91000132
口径　28.9
底径　9.9
器高　29.3

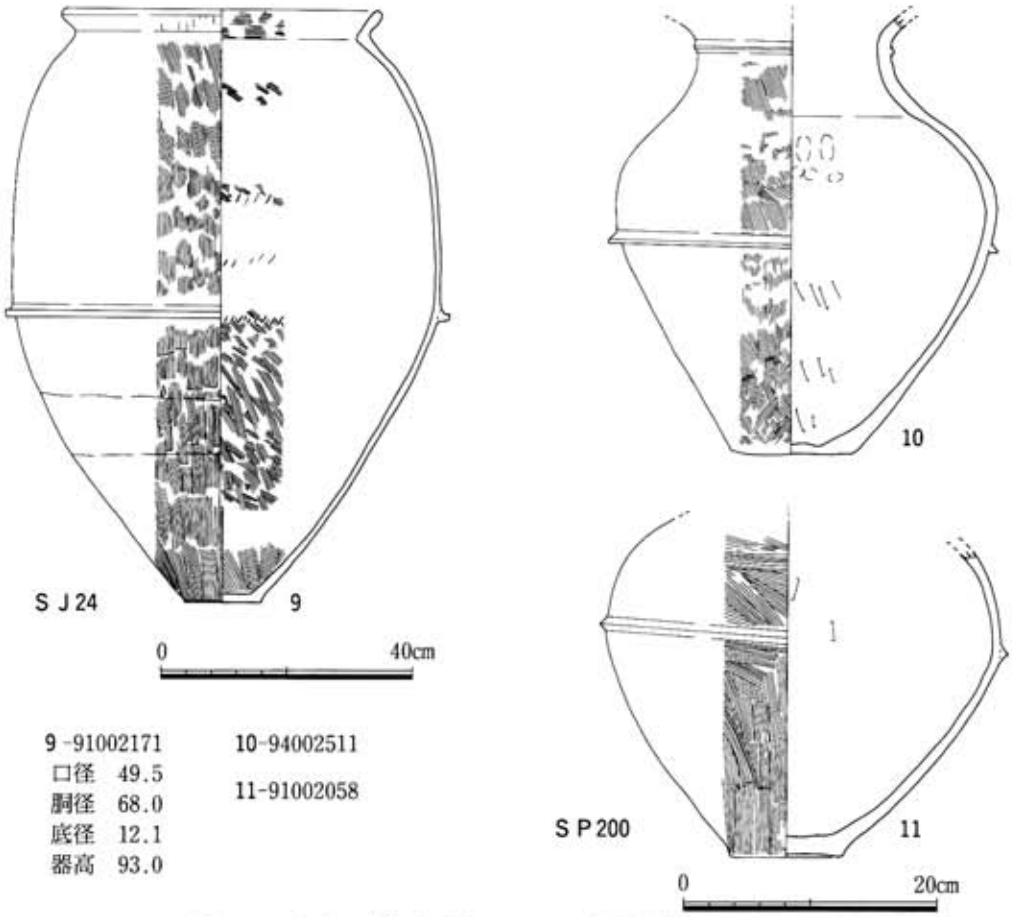
5 -91000133
口径　31.7
胴径　48.0
底径　10.1
器高　56.0

8 -94002629
胴径　30.4

6 -94002677
口径　30.1
底径　9.6
器高　24.6

7 -9100135
口径　27.1
胴径　45.8
底径　10.2
器高　53.0

Fig. 95　S J 202・218・261甕棺（8は1/6，他は1/8）




9 -91002171
口径　49.5
胴径　68.0
底径　12.1
器高　93.0

10-94002511

11-91002058

Fig. 96　S J 24甕棺（1/12）・S P200土壙墓出土土器（1/6）

**S J 24甕棺**（Fig. 96）

9は器高93.0cmを測る。く字状口縁で，平底である。口縁部はヨコのナデ，外面は縦方向のハケメ後一部ナデ，内面はハケメ後ナデである。胴部最大径部にコ字状突帯が1条めぐる。黄橙色を呈する。

**S P 200土壙墓出土土器**（Fig. 96）

2点図示した。いずれも蓋として用いられたものである。10は口縁部を打ち欠く。さらに底部は完存するが，胴部は約1/3が打ち欠かれている。平底だが，やや不安定である。外面はハケメ後ナデ，内面はナデである。頸部に三角突帯，胴部最大径部よりやや下に三角突帯に近いコ字状突帯がそれぞれ1条めぐる。浅黄褐色を呈する。

11は口縁部から胴部上半部とそれより下半部の約1/2を打ち欠く。平底で，胴部最大径部に三角突帯が1条めぐる。外面はハケメ，内面はナデである。暗褐色を呈する。

b）竪穴住居跡出土土器

SB165出土土器（Fig. 97）

12は短いく字状口縁で，底部平底の甕。13は底部がやや不安定な無頸壺。底部がほとんど平底のもので占められることからII期に位置づけられる。

SB235出土土器（Fig. 97～100）

14～17はく字状口縁の甕。16は丸底に近い凸レンズ状底である。14・16・17は胴部外面下半部ケズリである。18～25は広口壺。21・22は頸部のくびれが強く，長胴になるタイプである。23の肩部には崩れた波状文と斜め方向の沈線文が部分的に施され，２条の沈線文がめぐる。24は丸底，25は尖り底である。26は長頸壺で精製品である。27は台付壺で精製品である。28は台付鉢。29・30は屈折口縁の鉢で，29はかなり薄手の精製品である。31は沓形の支脚。32・33は器台。34は台付鉢の脚部か。４方に径２㎜前後の小孔２を穿つが，１ヶ所のみ３孔穿つ。35はスプーン状土製品。36・37は椀形の鉢。38・39はやや深めの直口縁の鉢。40～42はミニチュアの鉢。43～48は高坏。44は外面，坏部内面ヘラミガキの精製品。45は口縁部内面に縦方向，46は口縁部外面に鋸歯状，47は口縁部外面に鋸歯状，内面に縦方向の暗文を施す。

全体的にみて底部は丸底に近い凸レンズ状底と丸底のもので占められる。高坏も終末のものである。以上のことからみると，V期に位置づけられる土器群ではあるが，23の肩部の波状文などの文様からみて，布留式並行期にまで下る可能性がある。

SB236出土土器（Fig. 101）

49は高坏。屈曲が明確でなく，直線的である。50は広口壺。51は大型器台の胴部で，透かしがある。底部は不安定な平底のものが多いが，高坏の形態や外面下半部ケズリもある程度みられることから，全体的にはIV期の古い段階に位置づけられる。

SB238出土土器（Fig. 101）

52～54は椀形の鉢。52には突帯が２条めぐる。54は内面に縦方向の暗文を施す。55は台付鉢か。56は屈折口縁の鉢。57は有孔の直口縁の鉢。58はグラス形のミニチュアである。59・60は直口縁の大型の鉢。61は器台で，上下に透かしの痕跡がある。底部は平底，不安定な平底のものが多いことと図示しなかったが高坏の形態などからみてIII期に位置づけられる。

SB239出土土器（Fig. 102）

62はく字状口縁の甕。63は平底の甕底部。64は壺，65は鉢のミニチュア。66は直立気味の口縁部をもつ高坏。67は高坏の脚部。68・69は器台。70はジョッキ形土器の把手である。底部は

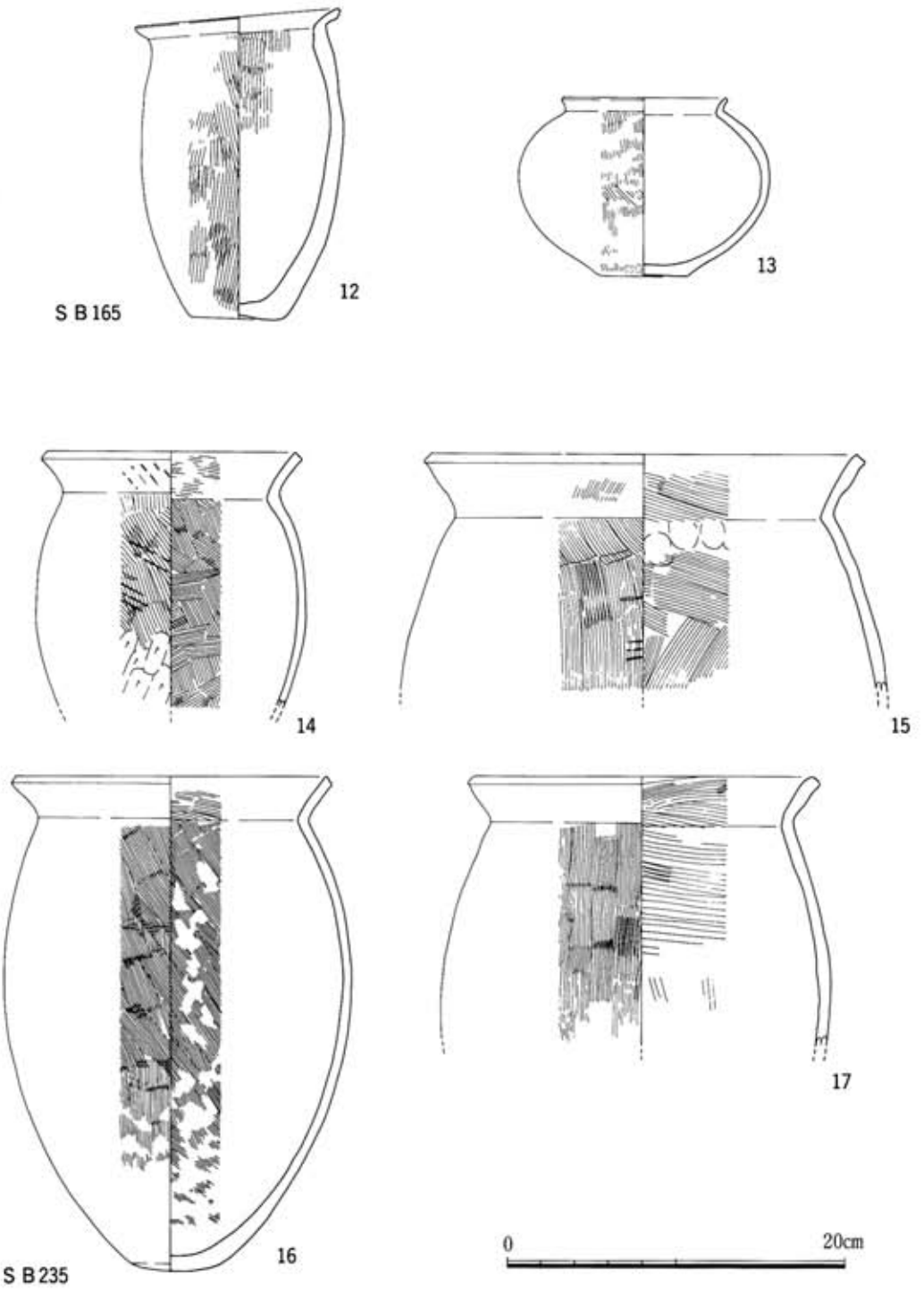



Fig. 97　S B 165・235竪穴住居跡出土土器①（1/4）

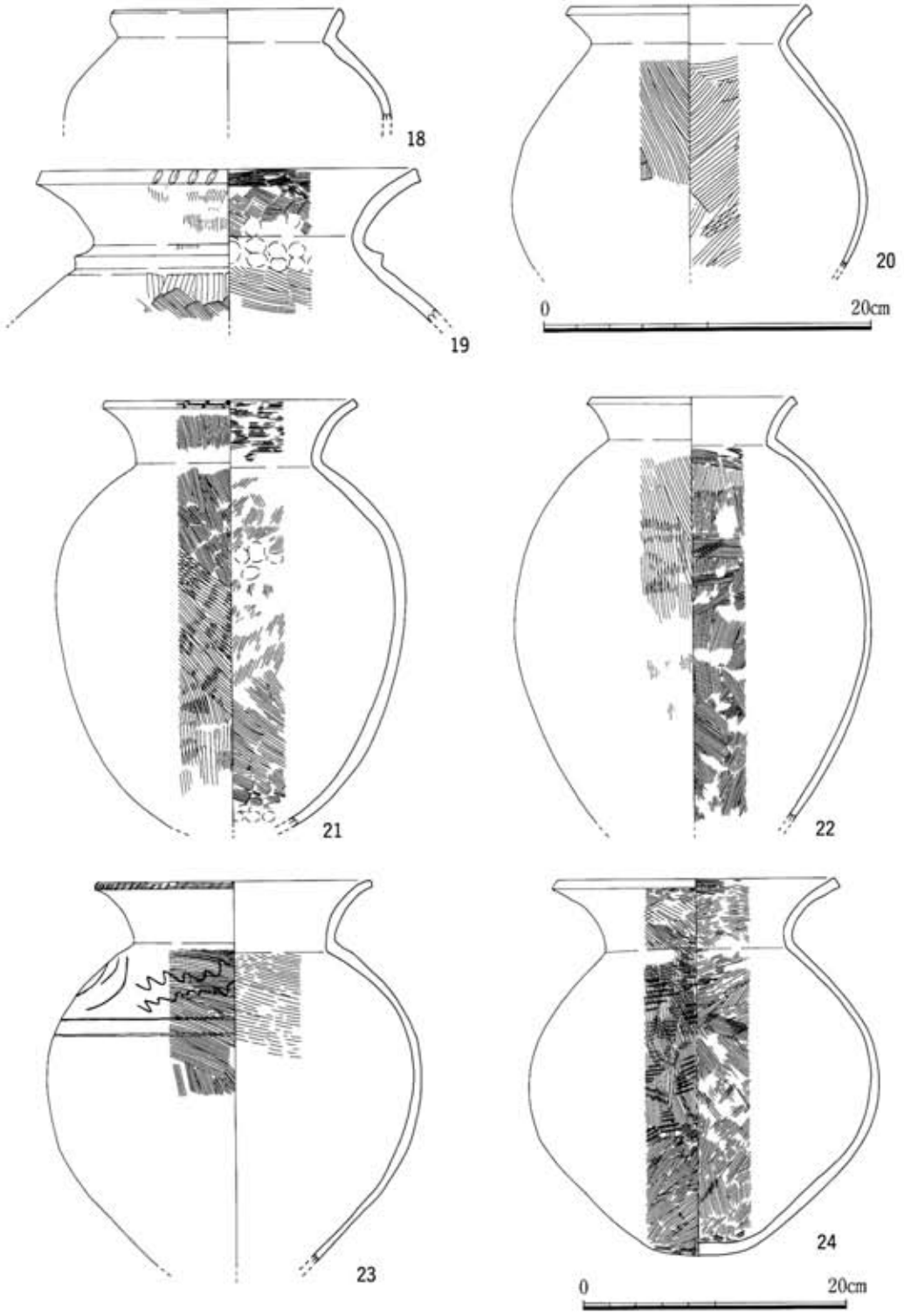



Fig. 98　S B235竪穴住居跡出土土器② (18～20 1/4，21～24 1/5)

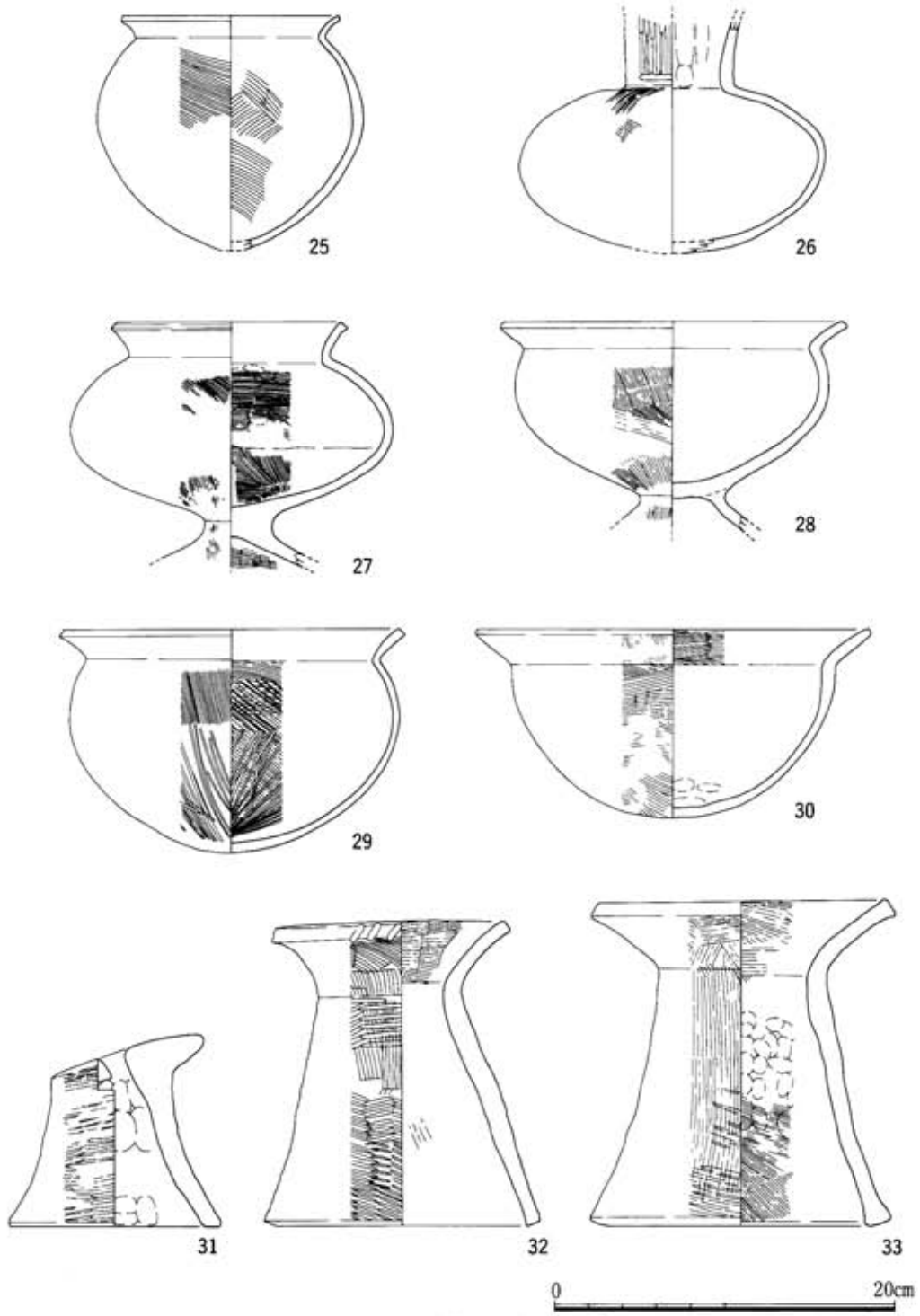



Fig. 99　S B235竪穴住居跡出土土器③（1/4）

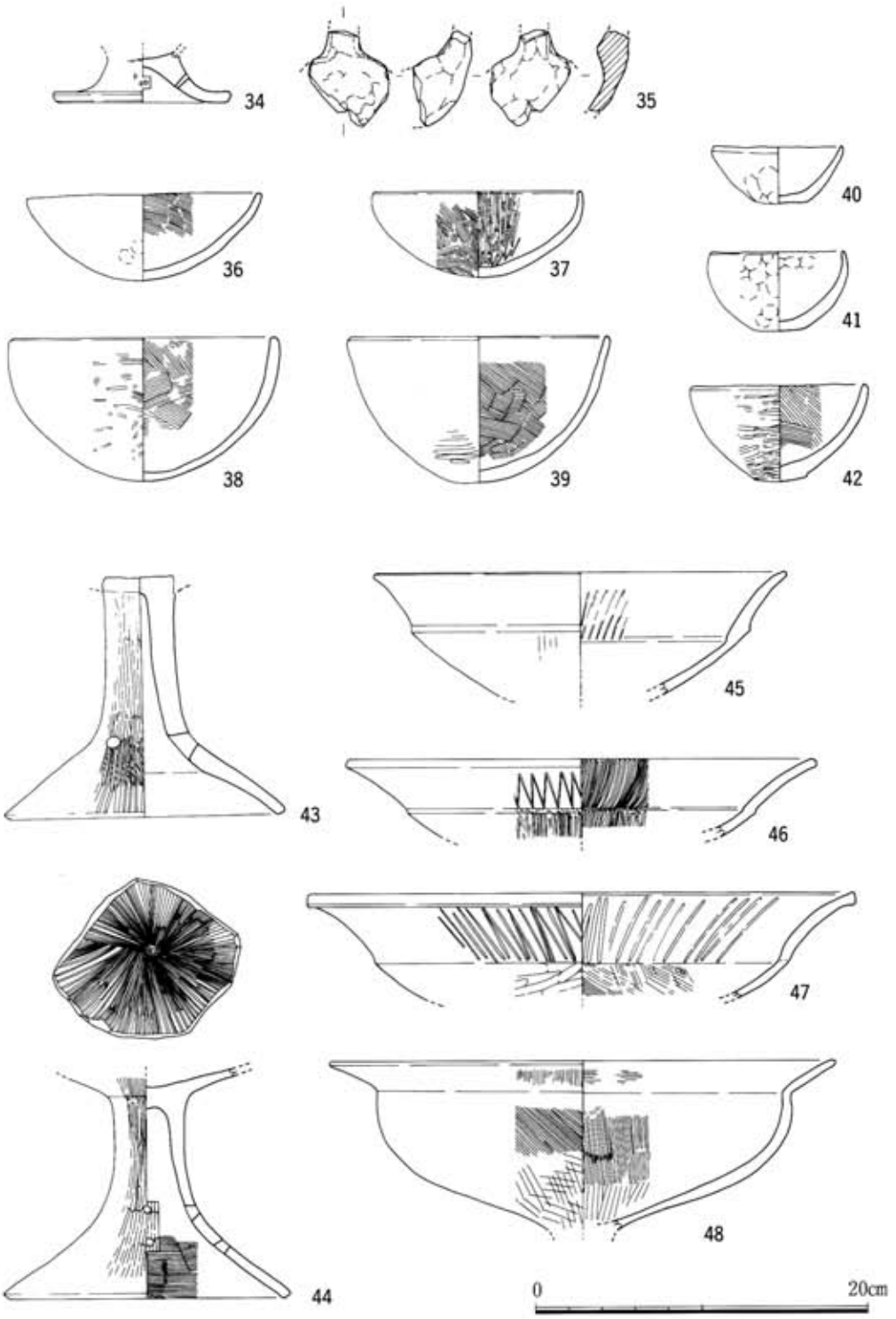



Fig. 100　ＳＢ235竪穴住居跡出土土器④（1/4）

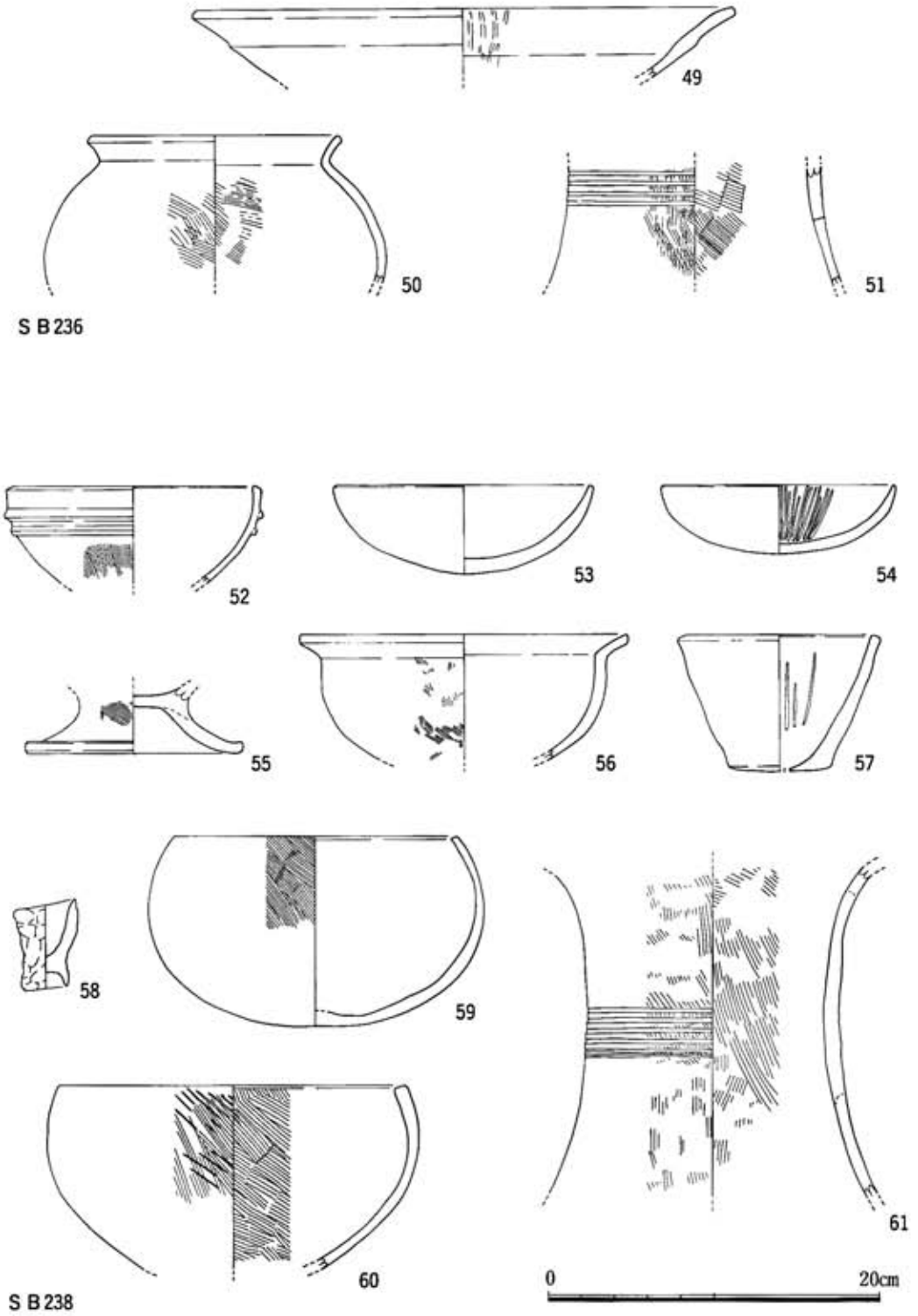



Fig. 101　S B 236・238竪穴住居跡出土土器（1/4）

平底のものがほとんどであるが，高坏の形態からIII期の古い段階に位置づけられよう。

**SB247出土土器**（Fig. 103・104）

71は凸レンズ状底の広口壺。72はあまり頸部がしまらない広口壺で，やや不安定な平底である。73・74はく字状口縁の甕。75は椀形の鉢。76は鉢の一種か。77は超大型の鉢。凸レンズ状底である。全体的にみて，IV期に位置づけられる土器群であろう。

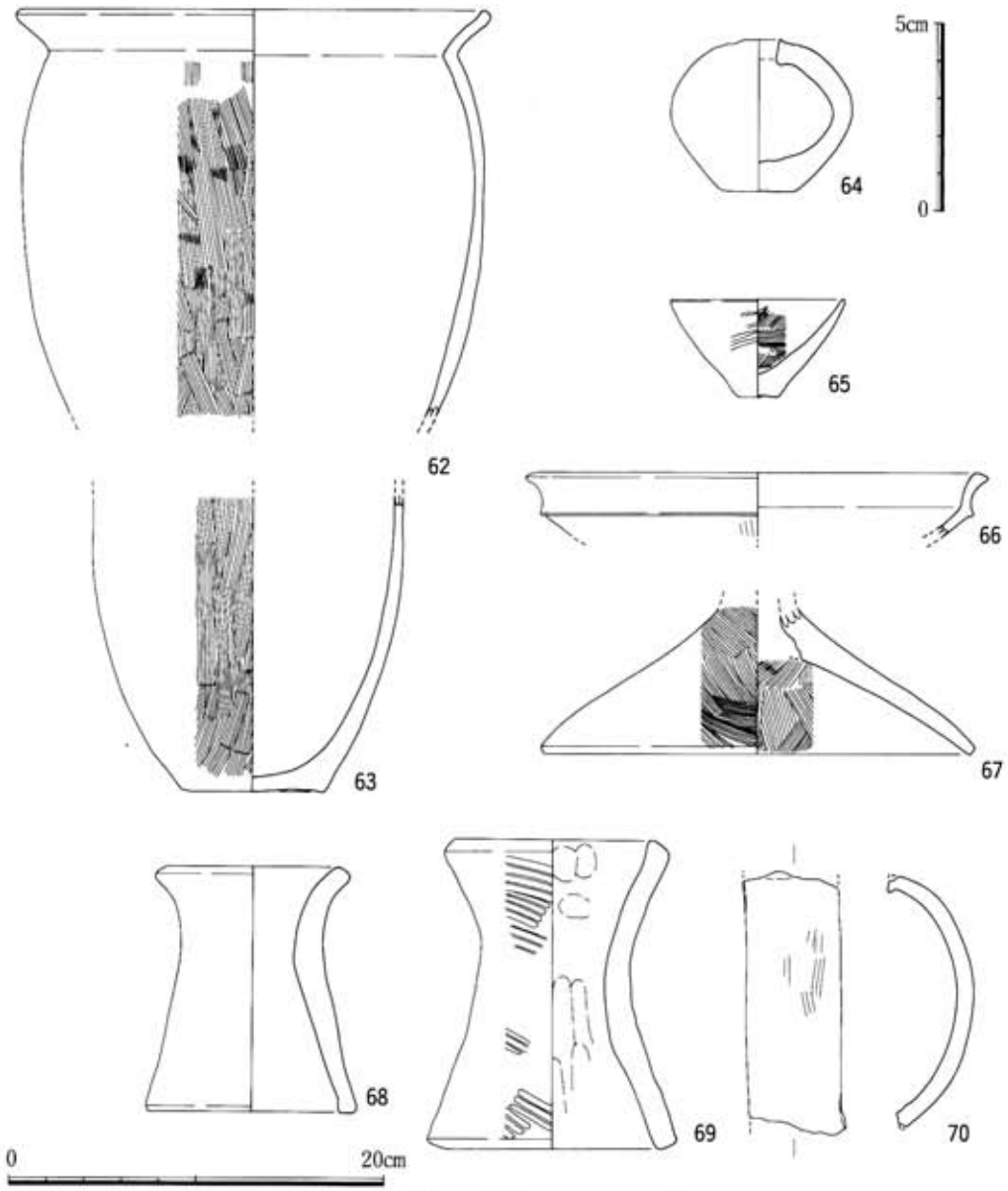



Fig. 102　SB239竪穴住居跡出土土器（64は1/2，他は1/4）

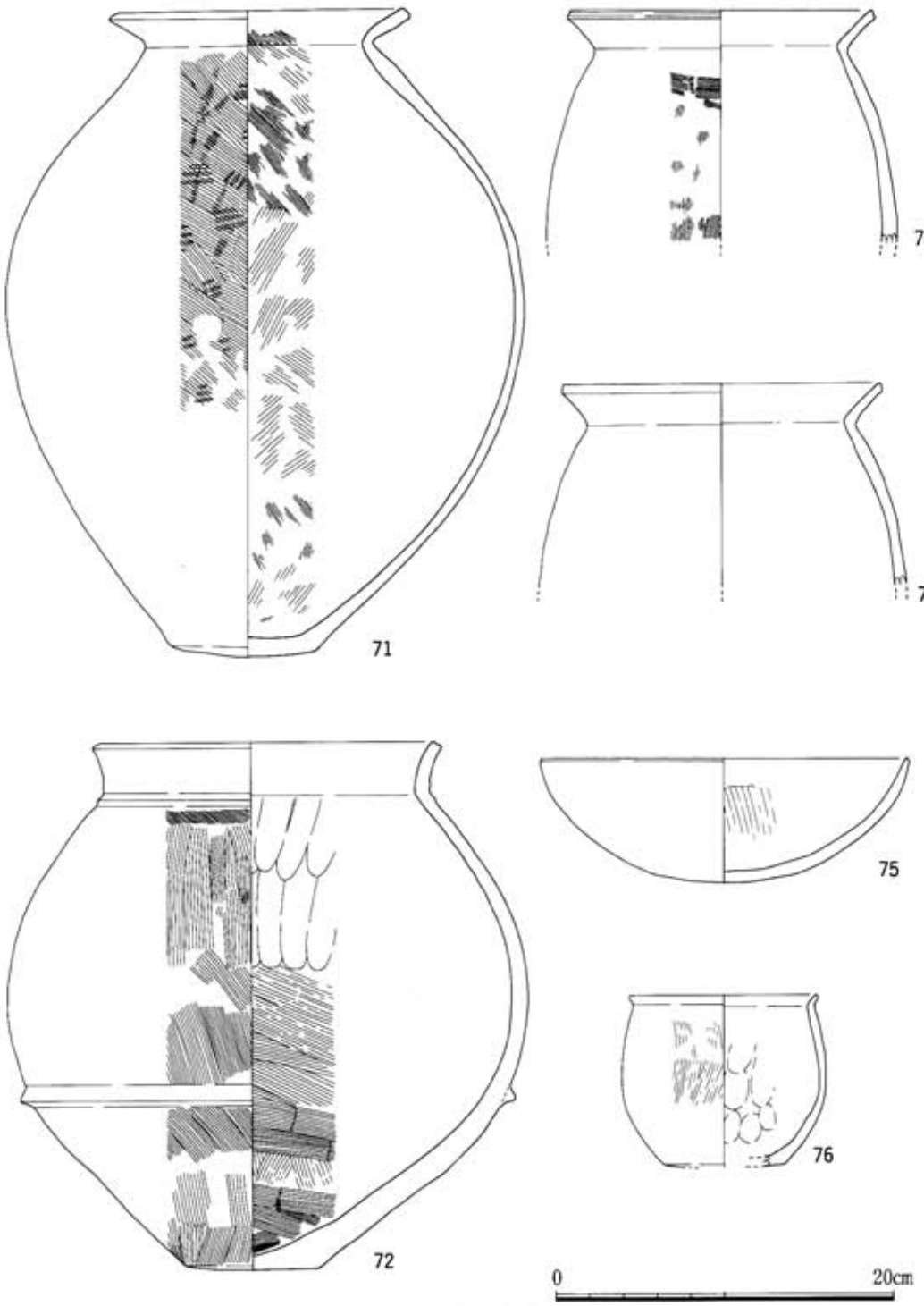


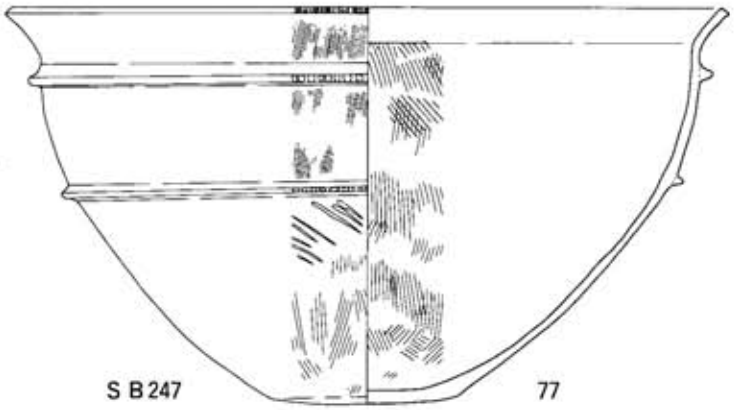

Fig. 103　S B247竪穴住居跡出土土器① (1/4)

**S B248出土土器**（Fig. 104）

78はく字状口縁の甕。79は球形胴部の甕。79は底部平底の甕である。他に不安定な平底のものが出土しており，III期に位置づけられよう。

**S B249出土土器**（Fig. 105～109）

81～84・86～90はく字状口縁の甕。83は口唇部に刻みを施す。84・87～90は凸レンズ状底で



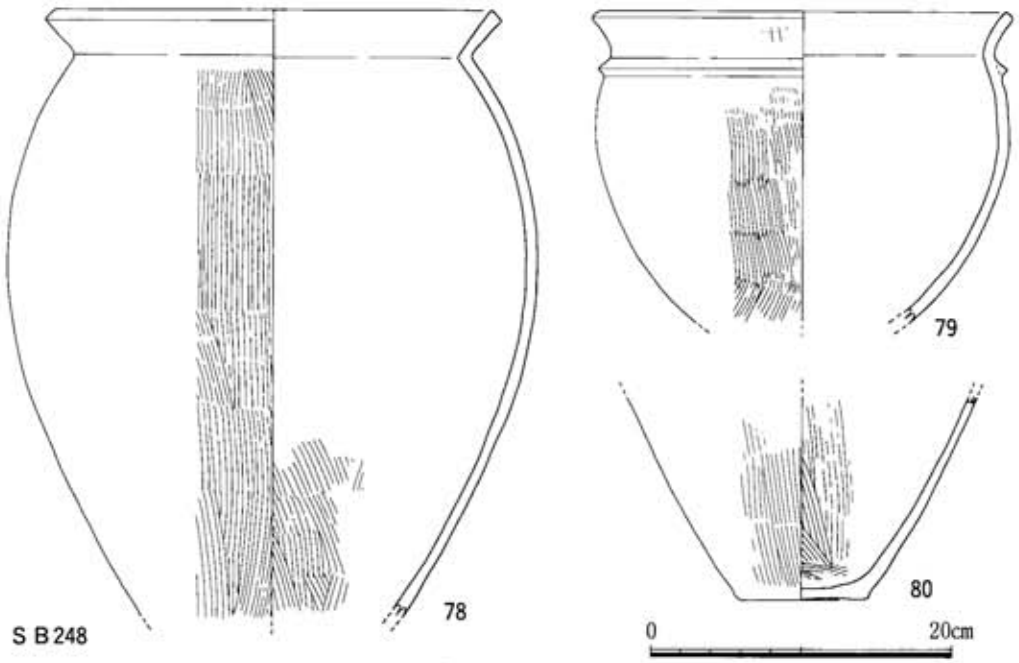




Fig. 104　S B247②・248竪穴住居跡出土土器（1/5）

あるが，88・89は丸底に近い。90は下膨らみの胴部である。81・82・86～90は外面下半部ケズリ。85・91～93・95・99は広口壺。85・92は頸部に三角突帯がめぐる。91は肩部に描きかけの櫛描の文様，95は刻みを施す。91～93・95・99は外面下半部ケズリ。94は複合口縁壺。96は壺胴部から底部で，肩部に沈線文，底部に×字形のヘラ描き文を施す。97・98は高坏。98は口縁部外面に鋸歯状の暗文か。100・104は壺，105は甕のミニチュア。101は椀形，102は直口縁，103は屈曲口縁で不安定な平底をもつ鉢。106は台付鉢。107は屈折口縁，108は直口縁の鉢。109・

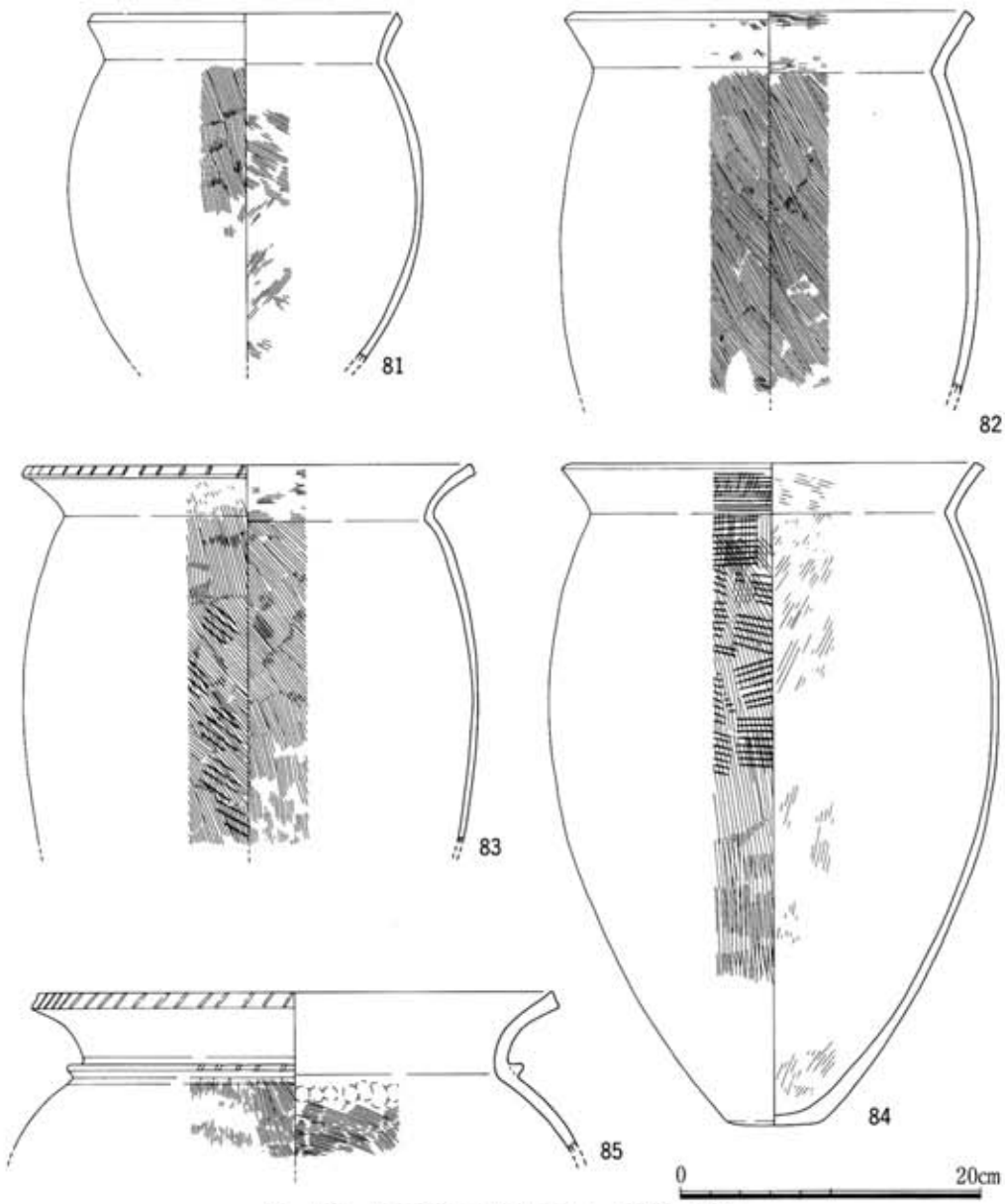



Fig. 105　ＳＢ249竪穴住居跡出土土器①（1/5）

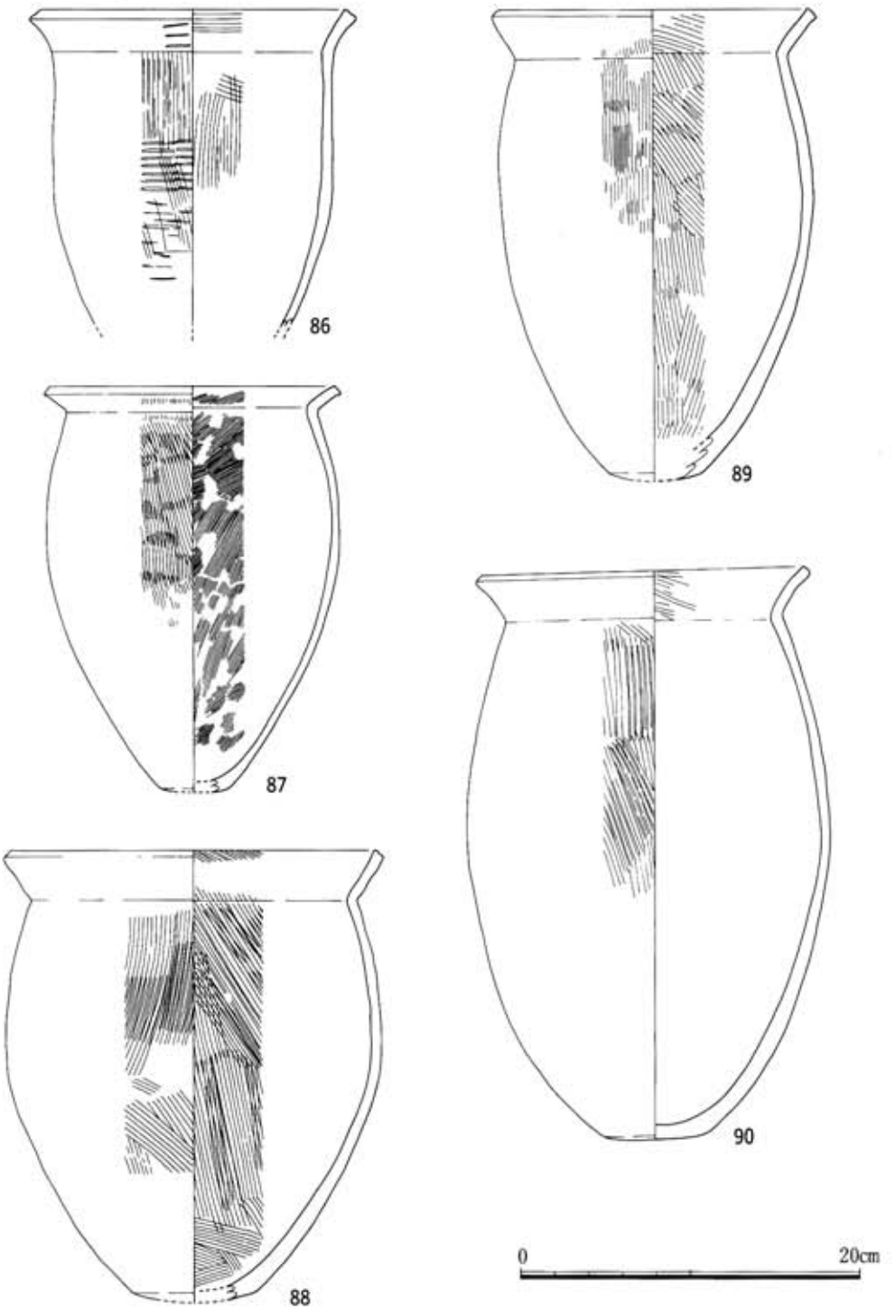



Fig. 106　ＳＢ249竪穴住居跡出土土器②（1/4）

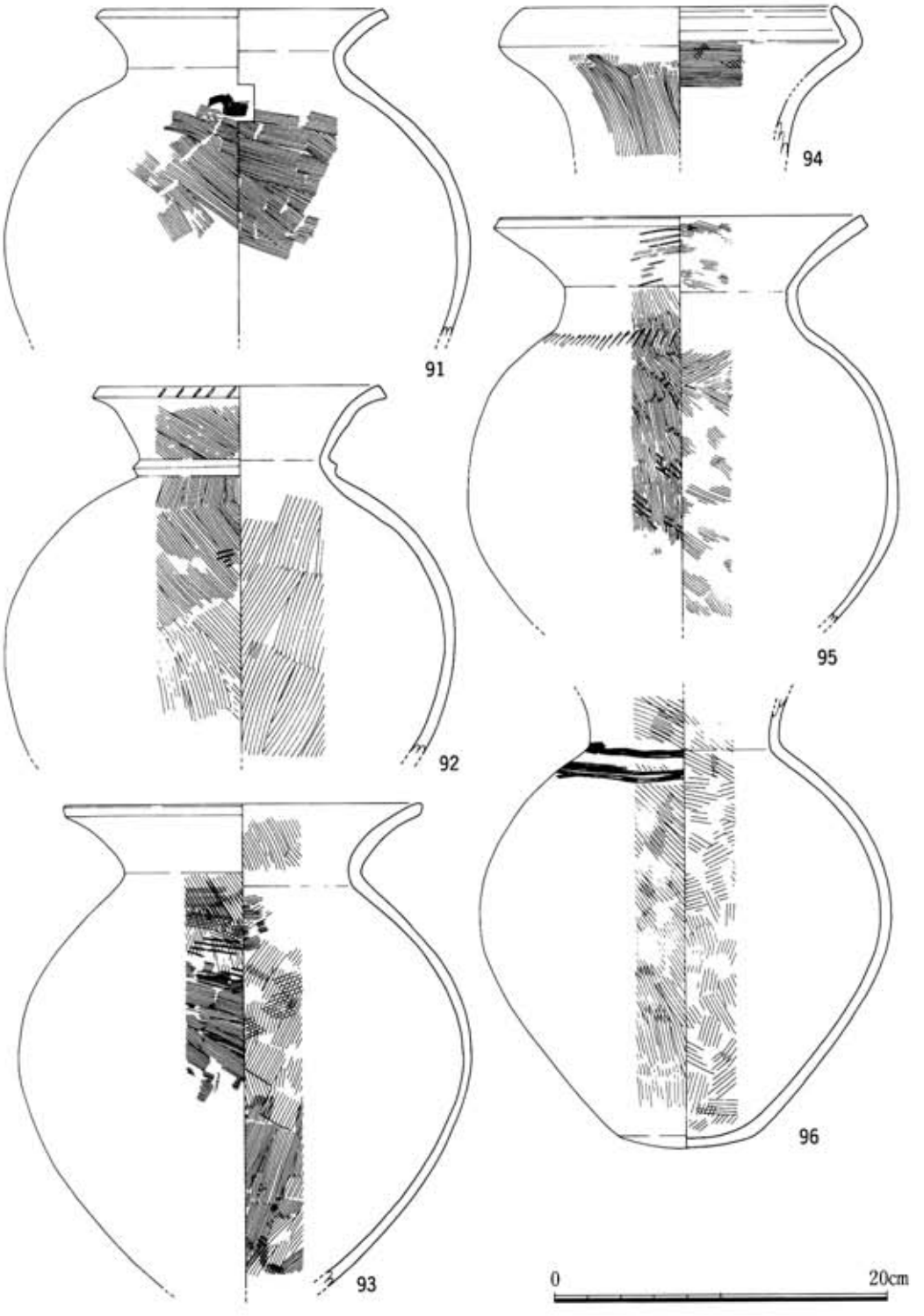



Fig. 107　S B249竪穴住居跡出土土器③（1/4）

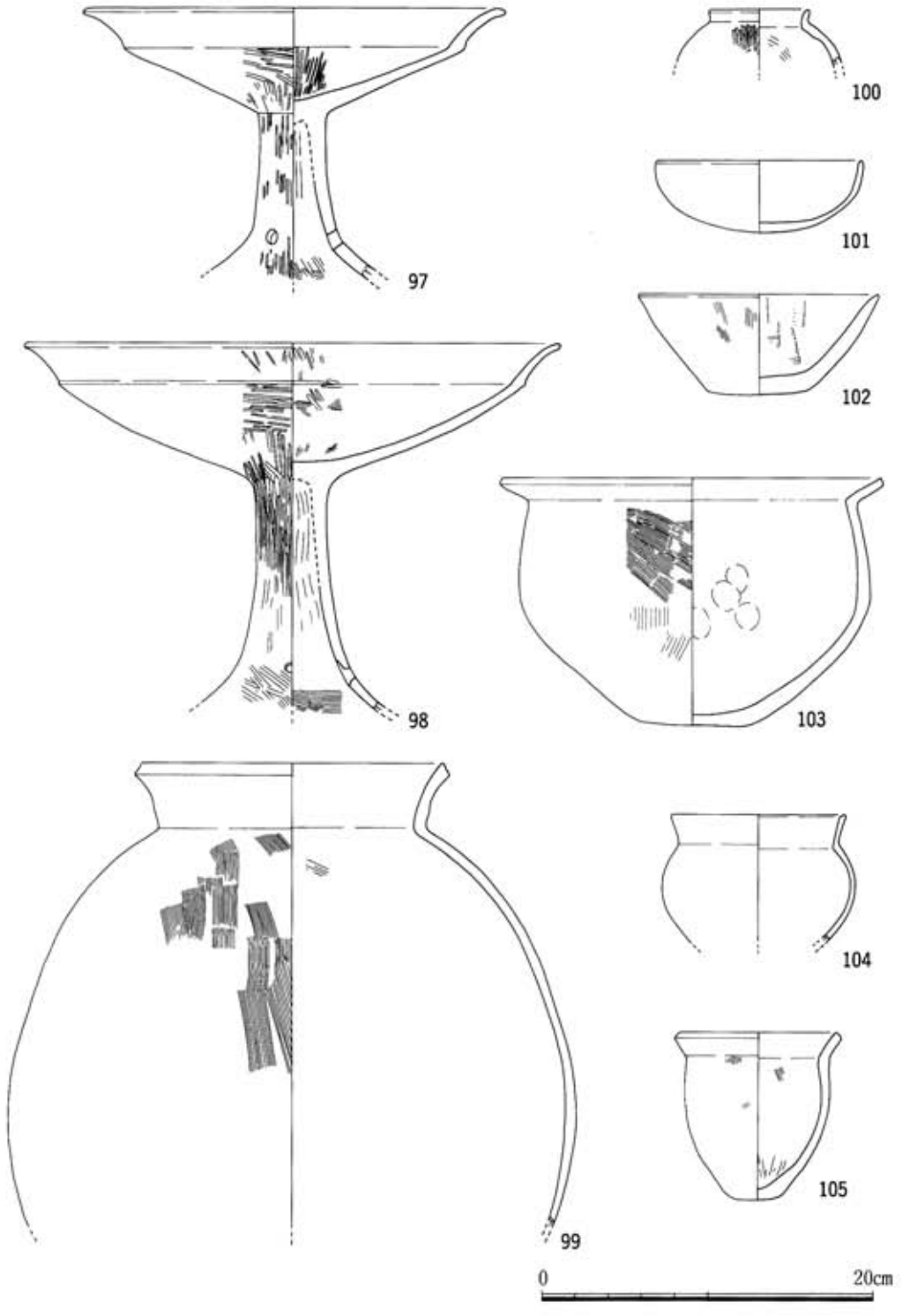



Fig. 108　S B249竪穴住居跡出土土器④ (1/4)

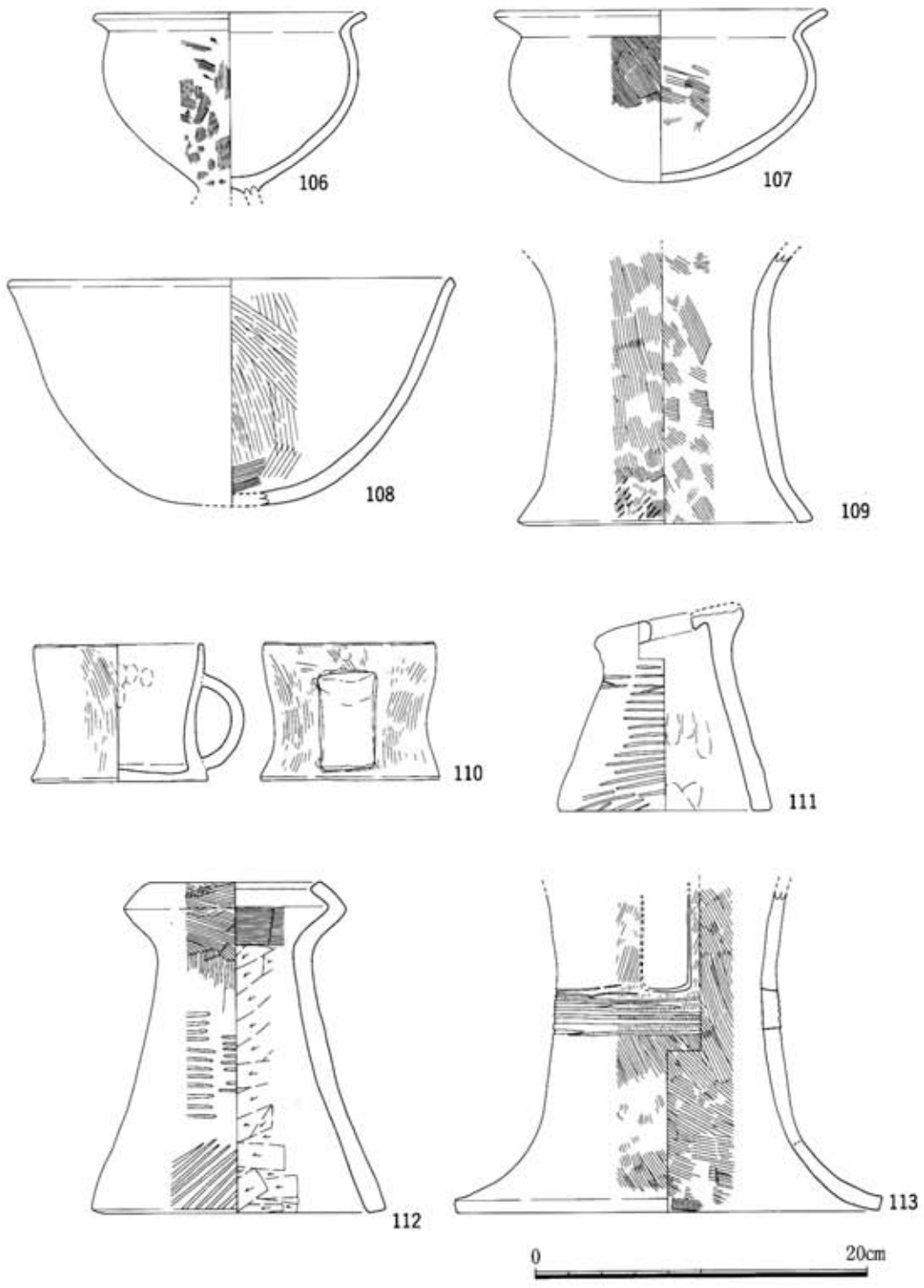



Fig. 109　S B249竪穴住居跡出土土器⑤ (1/4)

112・113は器台。113は上半部に4方，下半部に2方長方形の透かしを施すのか。110はジョッキ形土器。

全体的に底部は凸レンズ状底でも丸底に近いものが多く，IV期でも新しい段階に位置づけられる。

**SB251出土土器**（Fig. 110）

114は不安定な平底をもつ鉢である。III期に位置づけられよう。

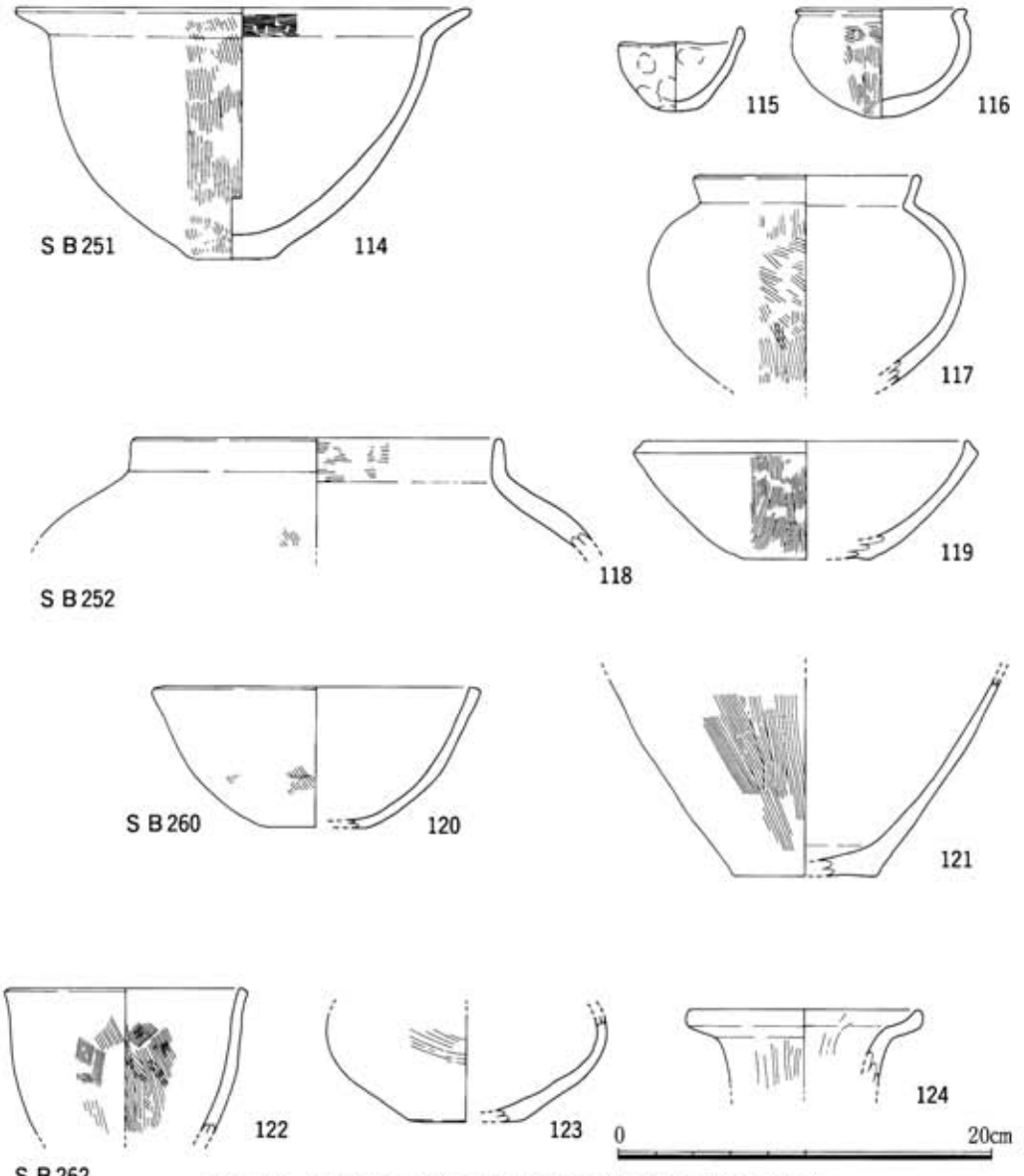



Fig. 110　SB251・252・260・262竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ252出土土器**（Fig. 110）

115・116はミニチュア。115は一方を高く引き出す。117は広口壺，118は直口壺。119は不安定な平底で直口縁の鉢。Ⅳ期以降であろうか。

**ＳＢ260出土土器**（Fig. 110）

120は直口縁の鉢で，不安定な平底か。121は平底の甕。他にも平底のものが出土しており，Ⅱ期に位置づけられよう。

**ＳＢ262出土土器**（Fig. 110）

122は直口縁の小型甕か。123は不安定な平底の壺，124は器台か。全体的に不安定な平底のものが多く，Ⅲ期に位置づけられる。

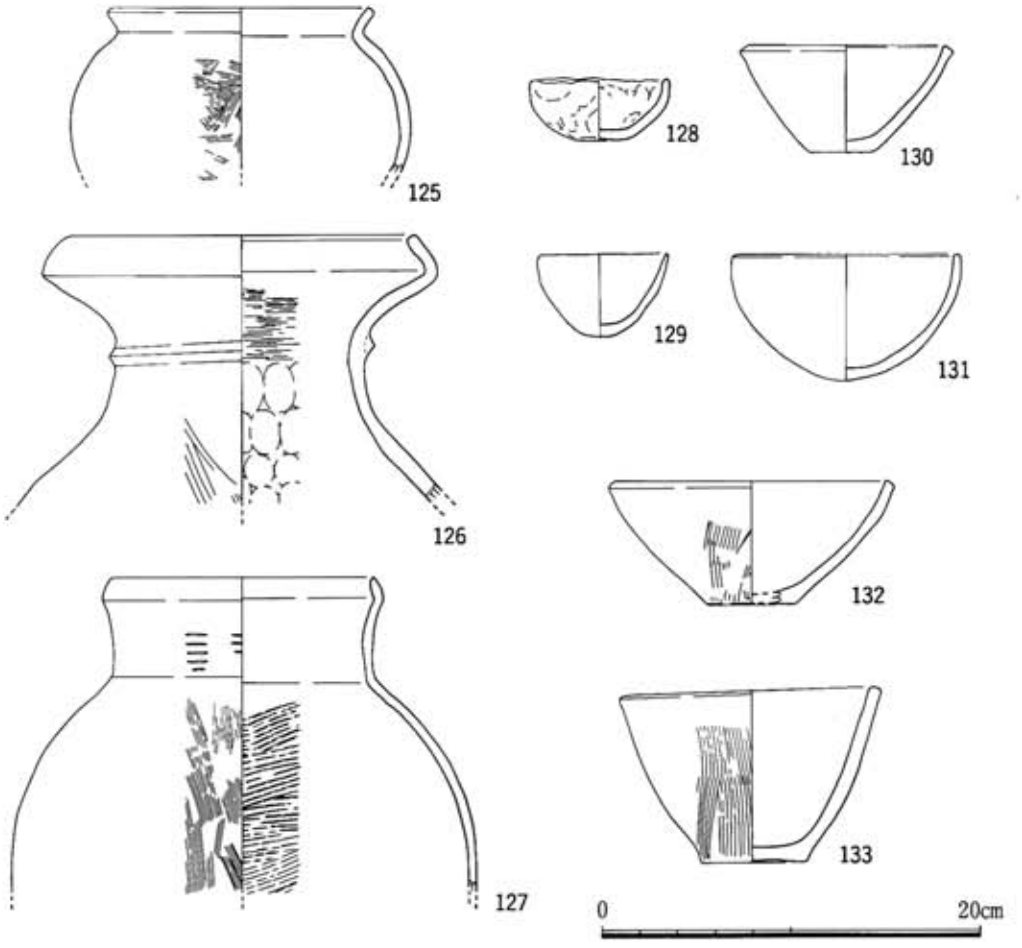



Fig. 111　ＳＢ264竪穴住居跡出土土器（1/4）

**SB264出土土器**（Fig. 111）

125は無頸壺。126は内傾する口縁部が直線的な，127は口縁部がわずかに内湾する複合口縁壺。127はSB282に伴う可能性がある。128・129はミニチュアの鉢。130～133は鉢。131は丸底の椀形の鉢で，内面に丹塗りされる。他のものはほぼ平底の直口縁の鉢。底部は不安定な平底のもの，平底のものが主体を占め，III期に位置づけられる。

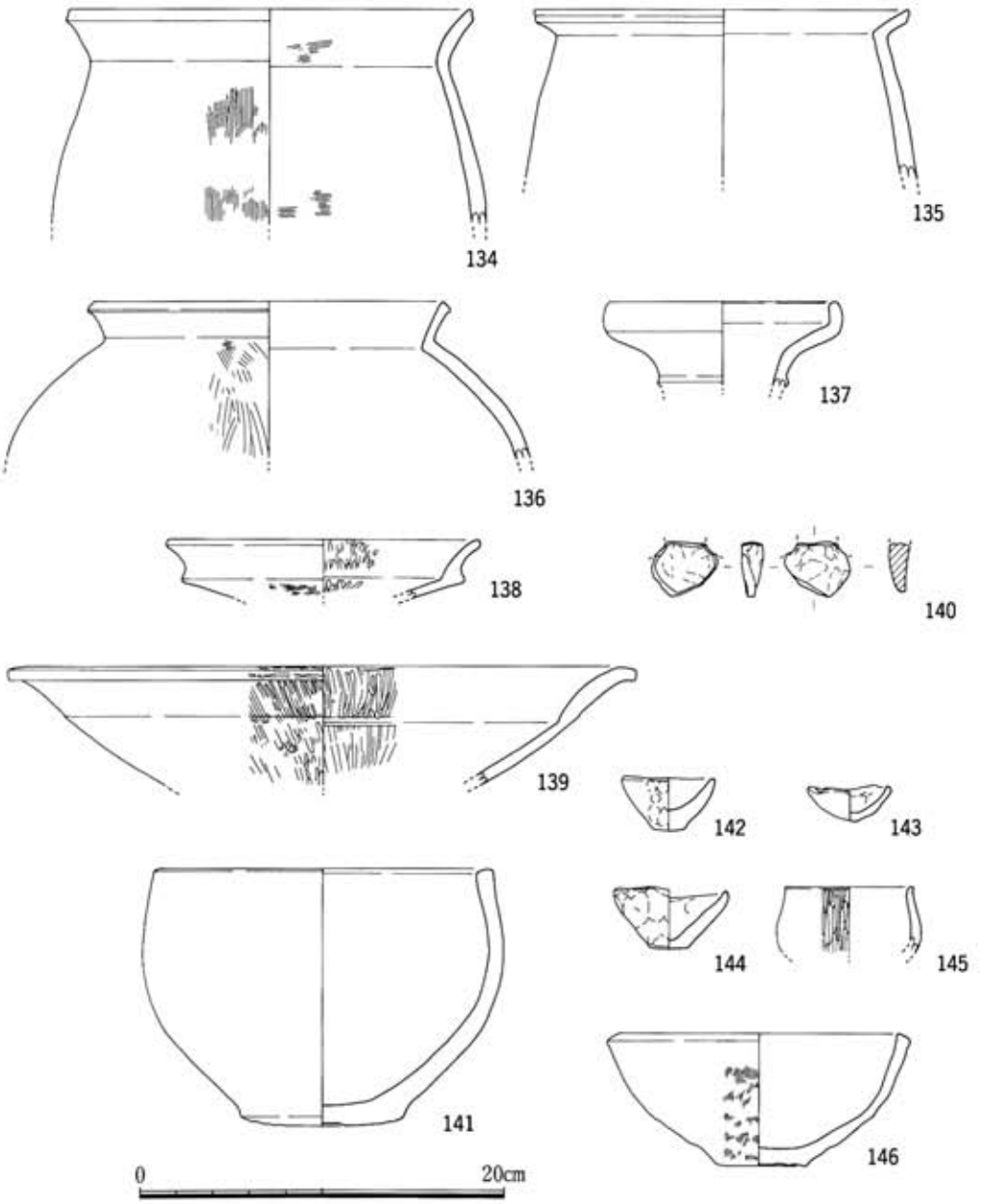



Fig. 112　SB267竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ267出土土器**（Fig. 112）

134・135はく字状口縁甕。136は広口壺。137は小型の複合口縁壺。138は小型の高坏か。139は屈曲が明瞭でなく直線的な坏部の高坏。140はスプーン状土製品である。141は凸レンズ状底で直口縁の深めの鉢。142～144は鉢のミニチュア。145は壺のミニチュアか。146は不安定な平底の直口縁の鉢。全体的にみて不安定な平底のものが多いが，凸レンズ状底のものもみられる。高坏の形態と合わせてⅣ期の古い段階に位置づけられよう。

**ＳＢ269出土土器**（Fig. 113～115）

147～150はく字状口縁の甕。149は丸底に近い凸レンズ状底，150は凸レンズ状底である。すべて胴部外面下半部ケズリ。151・152は丸底の広口壺。153・161は鉢のミニチュア。154は小型高坏の脚部か。４方に２個１組の穿孔を施す。155～157は高坏。155は口縁部内面に，156は口縁部外面に縦方向の，157は口縁部外面に鋸歯状の暗文を施す。158は鉢か。器壁が厚く，特異な形態である。159・160は椀形の鉢。159は内面に縦方向の暗文を施す。162は凸レンズ状底，163は丸底の屈折口縁の鉢。164はやや深めの直口縁の鉢。165・166は器台で，ともに裾端部に刻みを施す。167・168は受け部をつまみ出した沓形の支脚。

凸レンズ状底，不安定な平底のものが主体を占め，外面下半部のケズリも多くみられる。Ⅴ期的な高坏が１点あり，Ⅳ期でも新しい段階に位置づけられる。

**ＳＢ273出土土器**（Fig. 115）

170は椀形の鉢。171は直口縁の壺か。外面に櫛描の文様があり，内外面に雑なヘラミガキを施す。不安定な平底のものが多く，Ⅲ期に位置づけられよう。

**ＳＢ280出土土器**（Fig. 115）

169は直口縁の鉢。不安定な平底のものが多く，Ⅲ期に位置づけられよう。

**ＳＢ281出土土器**（Fig. 115）

172は鋤先状口縁の高坏。173はく字状口縁の甕。174は底部やや不安定なく字状口縁の甕。平底のものが多く，高坏の形態と合わせⅡ期に位置づけられる。

**ＳＢ282出土土器**（Fig. 116～118）

175～178はく字状口縁の甕。175は口唇部，頸部に刻みを施す。179は凸レンズ状底で，178と同一個体か。176～179は外面下半部ケズリ。180は丸底に近い凸レンズ状の甕の底部。181・184～188は広口壺。185は丸底に近い凸レンズ状底である。185・186は外面下半部ケズリ。182

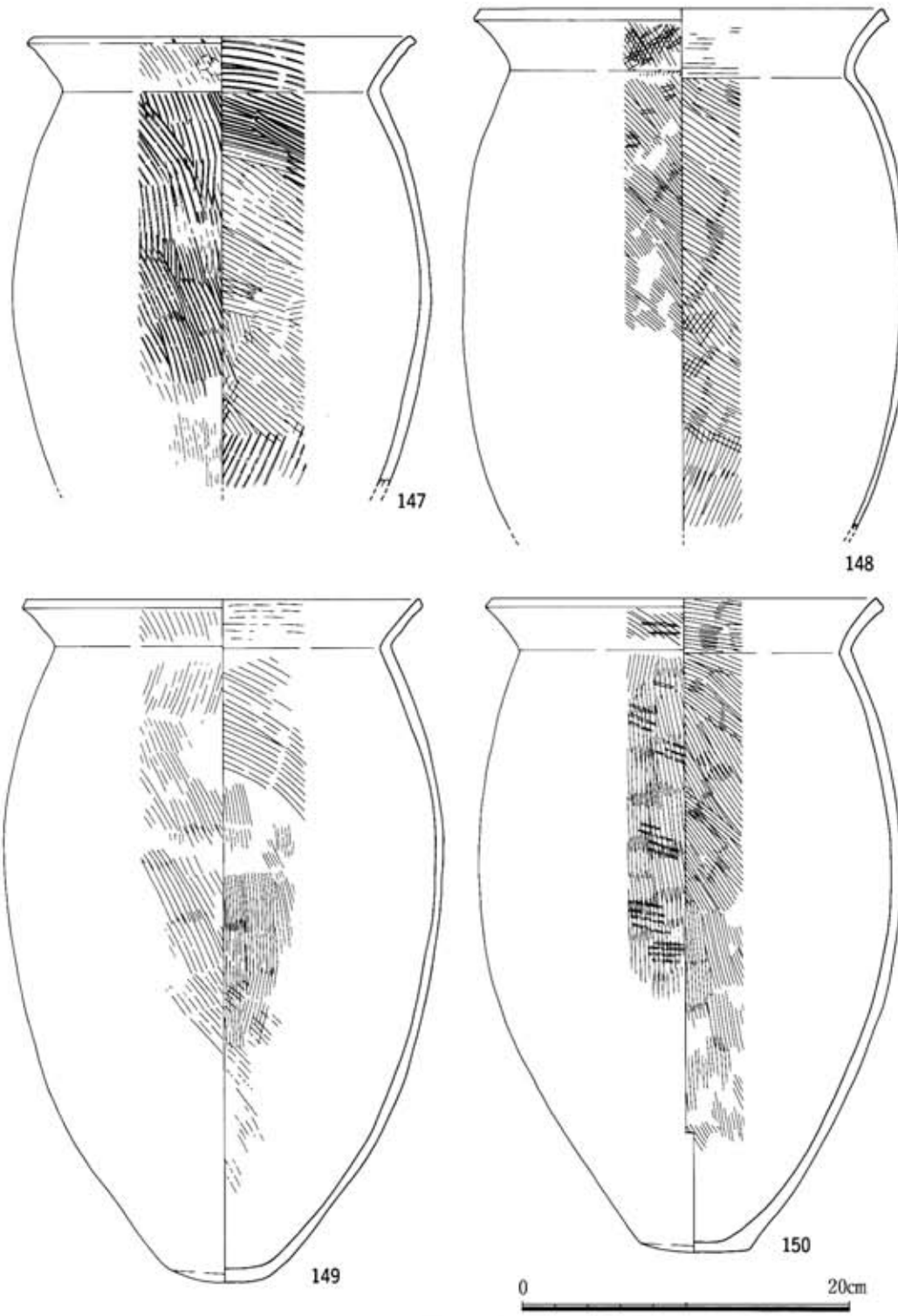



Fig. 113　ＳＢ269竪穴住居跡出土土器①（1/4）

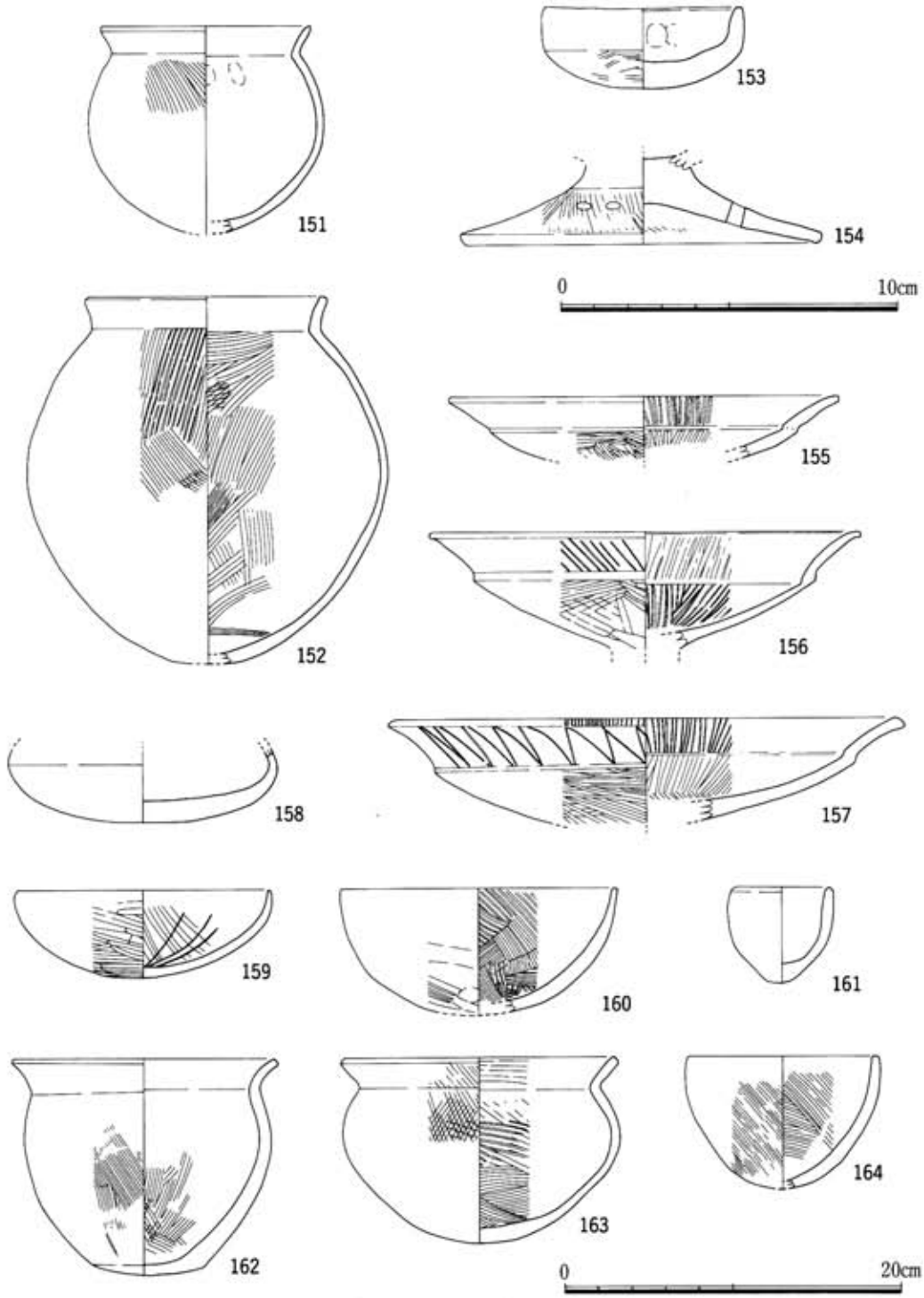



Fig. 114　S B269竪穴住居跡出土土器②（153・154は1/2，他は1/4）

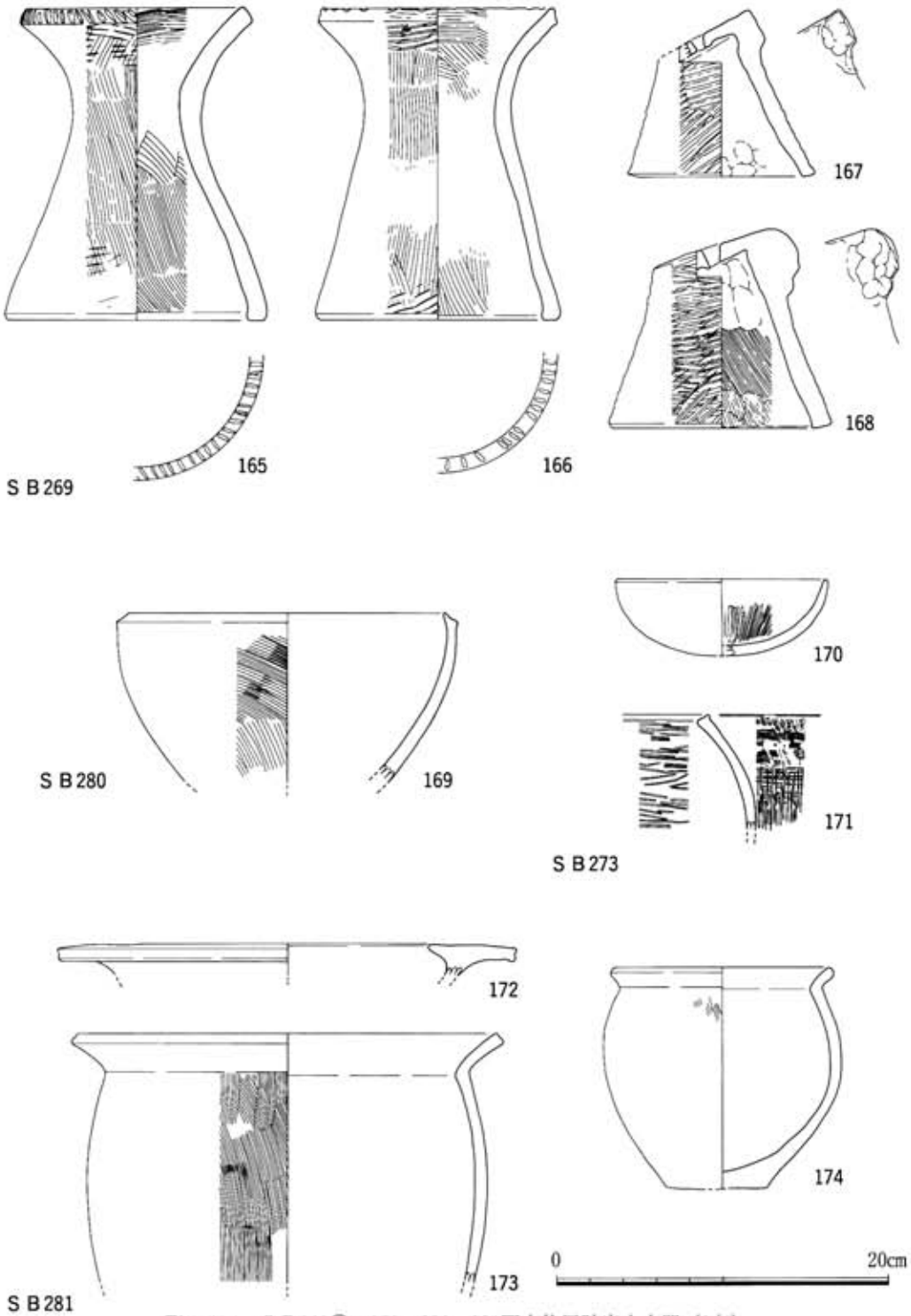



Fig. 115　S B 269③・273・280・281竪穴住居跡出土土器（1/4）

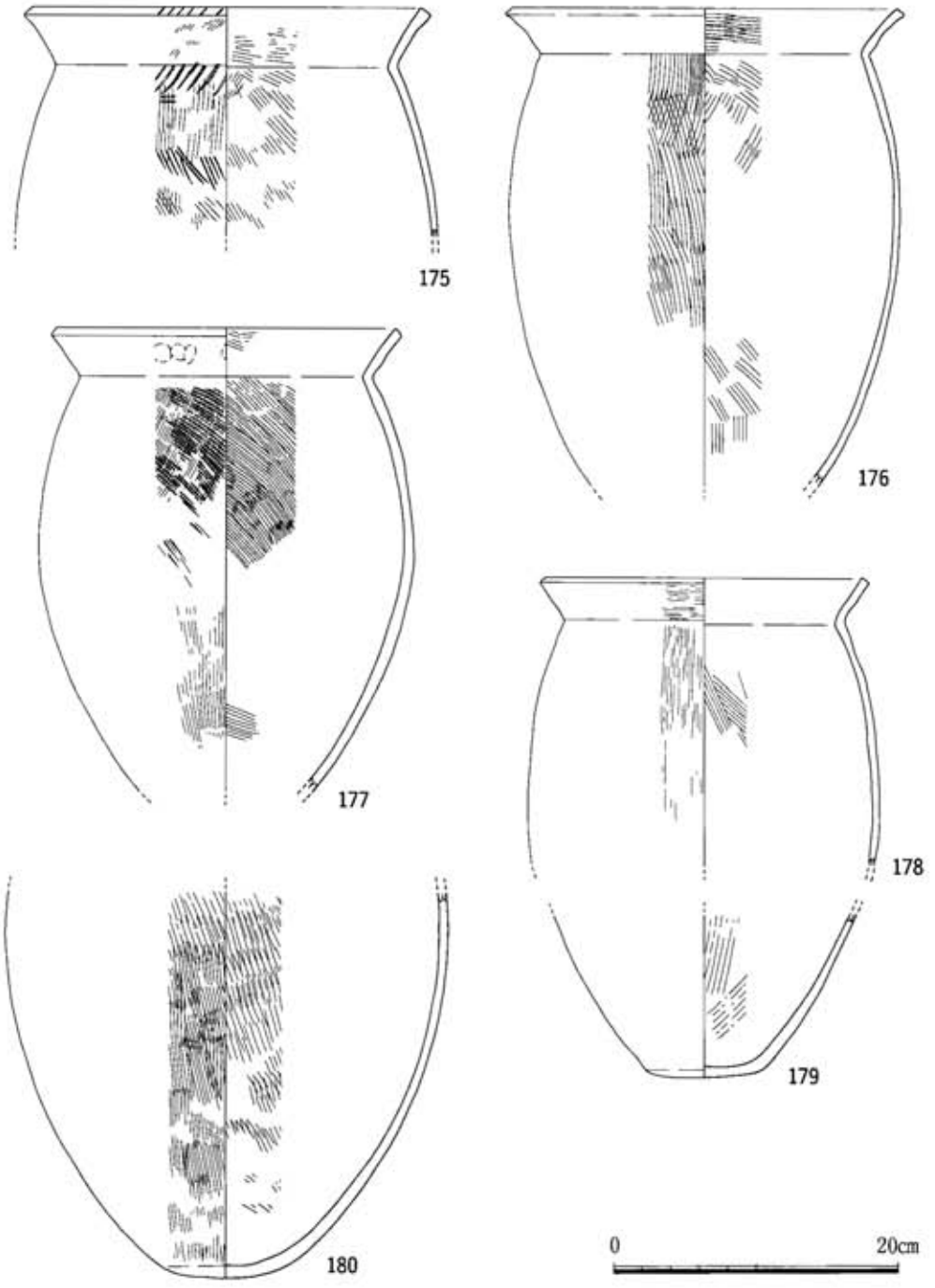



Fig. 116　S B282竪穴住居跡出土土器①（1/5）

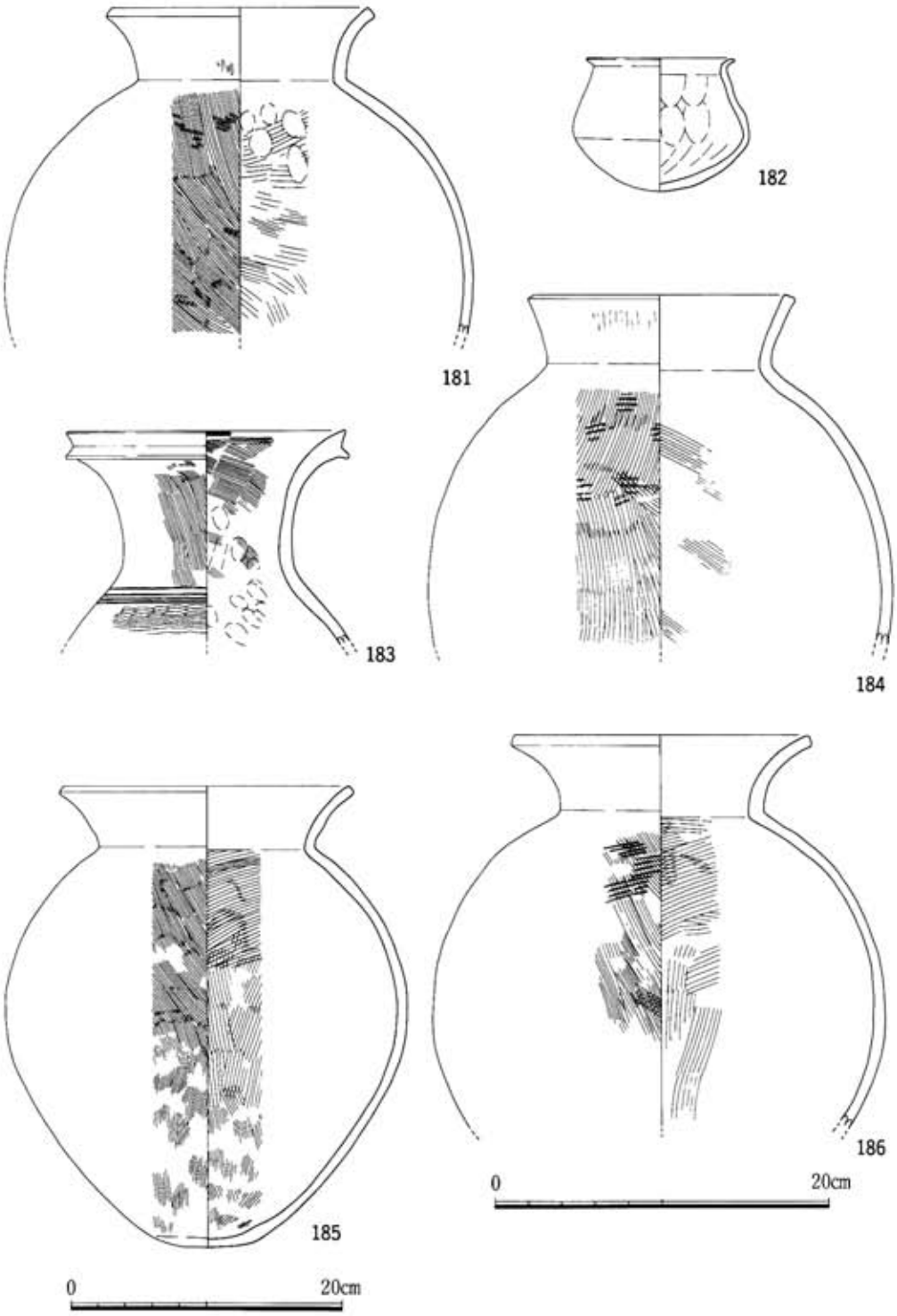



Fig. 117　ＳＢ282竪穴住居跡出土土器②（185は1/5，他は1/4）

は底部丸底の小型無頸壺。183は外傾する口縁部をもつ複合口縁壺。頸部と胴部の境に沈線3条，櫛描の波状文を施す。187・188は高坏。187は口縁内外面に鋸歯状の，坏部内外面に縦方向の暗文を施す。189は椀形の，190は屈折口縁の鉢。191は台付鉢の脚部。192は大型器台で，上下3方に長方形の透かしがある。円形の透かしが上半部に2個，下半部に1個縦1列に1ヶ所だけ並んでいる。193は斎形の支脚。194は器台。

底部は丸底に近い凸レンズ状底のものが多く，丸底のものもみられる。高坏の形態に古い要素が残るが，Ⅴ期に位置づけられる。

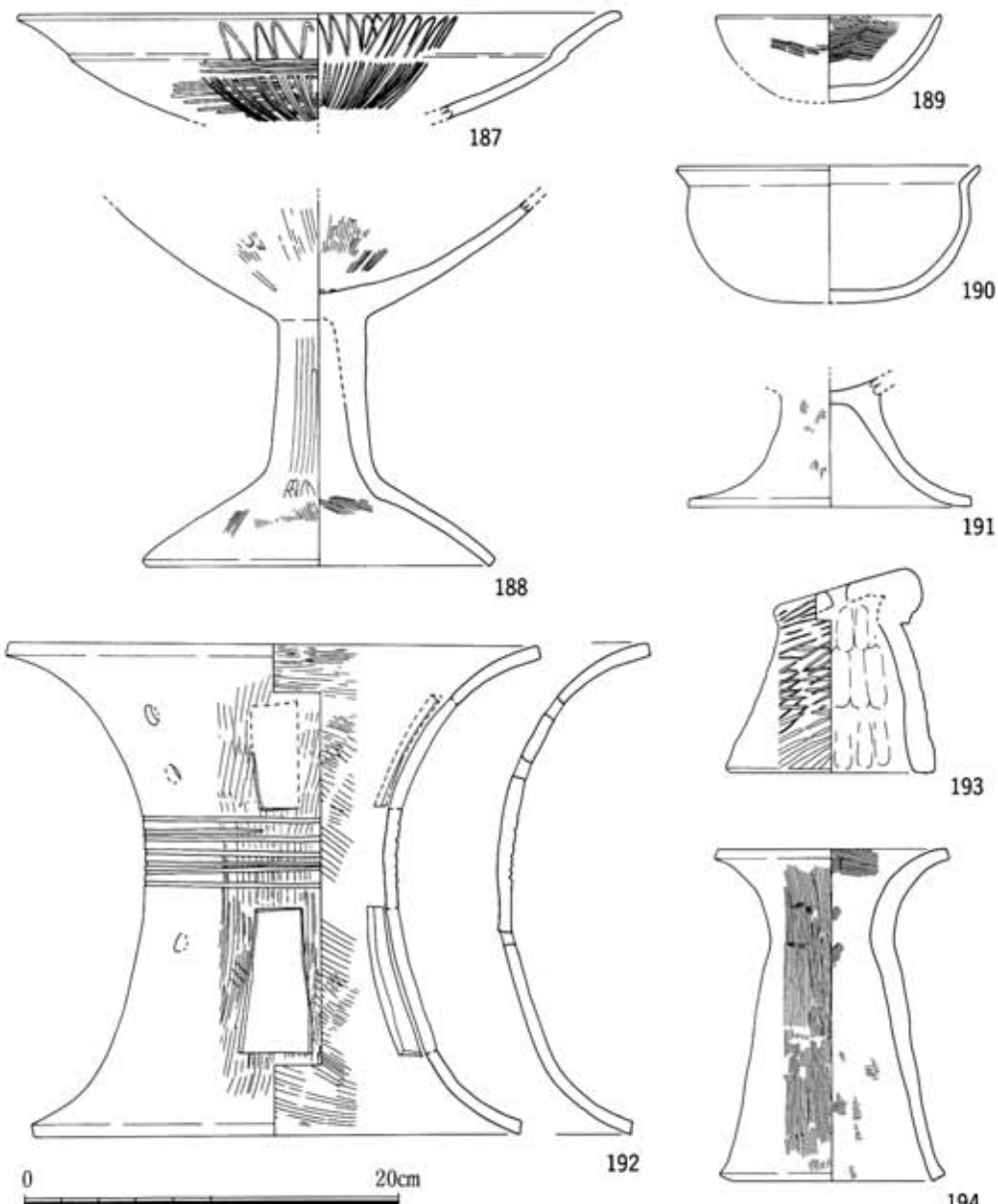



Fig. 118　S B282竪穴住居跡出土土器③（1/4）

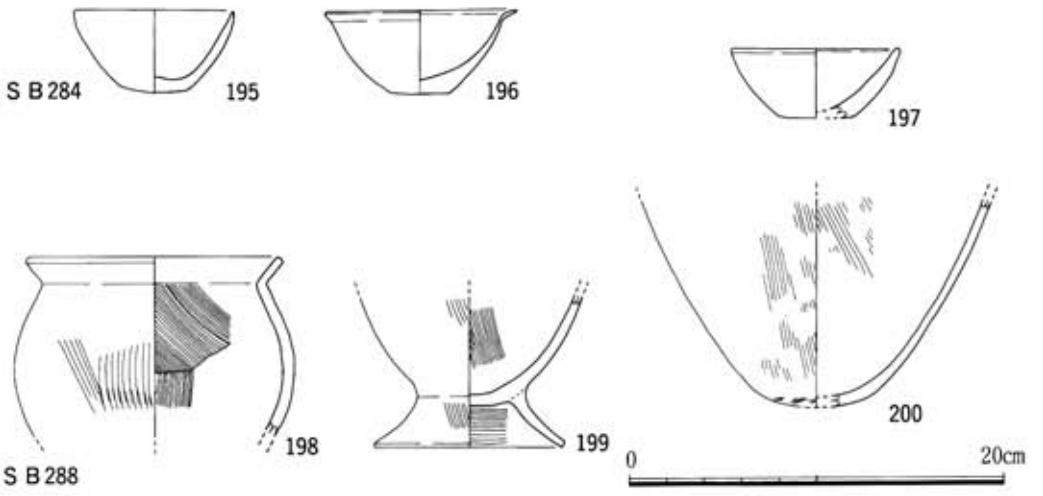



Fig. 119　S B284・288竪穴住居跡出土土器（1/4）

**S B 284出土土器**（Fig. 119）

195・196はミニチュアの鉢。底部は平底のものが多く，不安定な平底のものもみられる。II期からIII期に位置づけられる。

**S B 288出土土器**（Fig. 119）

197はミニチュアの鉢。198はく字状口縁の甕。199は台付甕。200は丸底に近い凸レンズ状底をなす甕底部。底部は凸レンズ状底のものが多く，丸底のものもみられる。V期か。

**S B 289出土土器**（Fig. 120）

201はく字状口縁の甕。202・204は丸底の広口壺。203は長胴のかなり細身のものに復原できる。205は直口縁，206・207は屈折口縁の鉢。207は凸レンズ状底で，底部に穿孔がある。208・209は杏形の支脚。209は穿孔が途中までである。210は大型器台で，上半部に4ヶ所，下半部に6ヶ所に透かしがある。中央に沈線が10条ほどめぐる。

底部は凸レンズ状底のものが多く，丸底気味のものがある程度みられる。207には古い要素がみられるが全体的にみてIV期に位置づけられる。

**S B 295出土土器**（Fig. 121）

211は直口縁の大型の鉢。212は平底の甕。平底のものが多いが，III期的な器台片もあり，II期からIII期に位置づけられる。

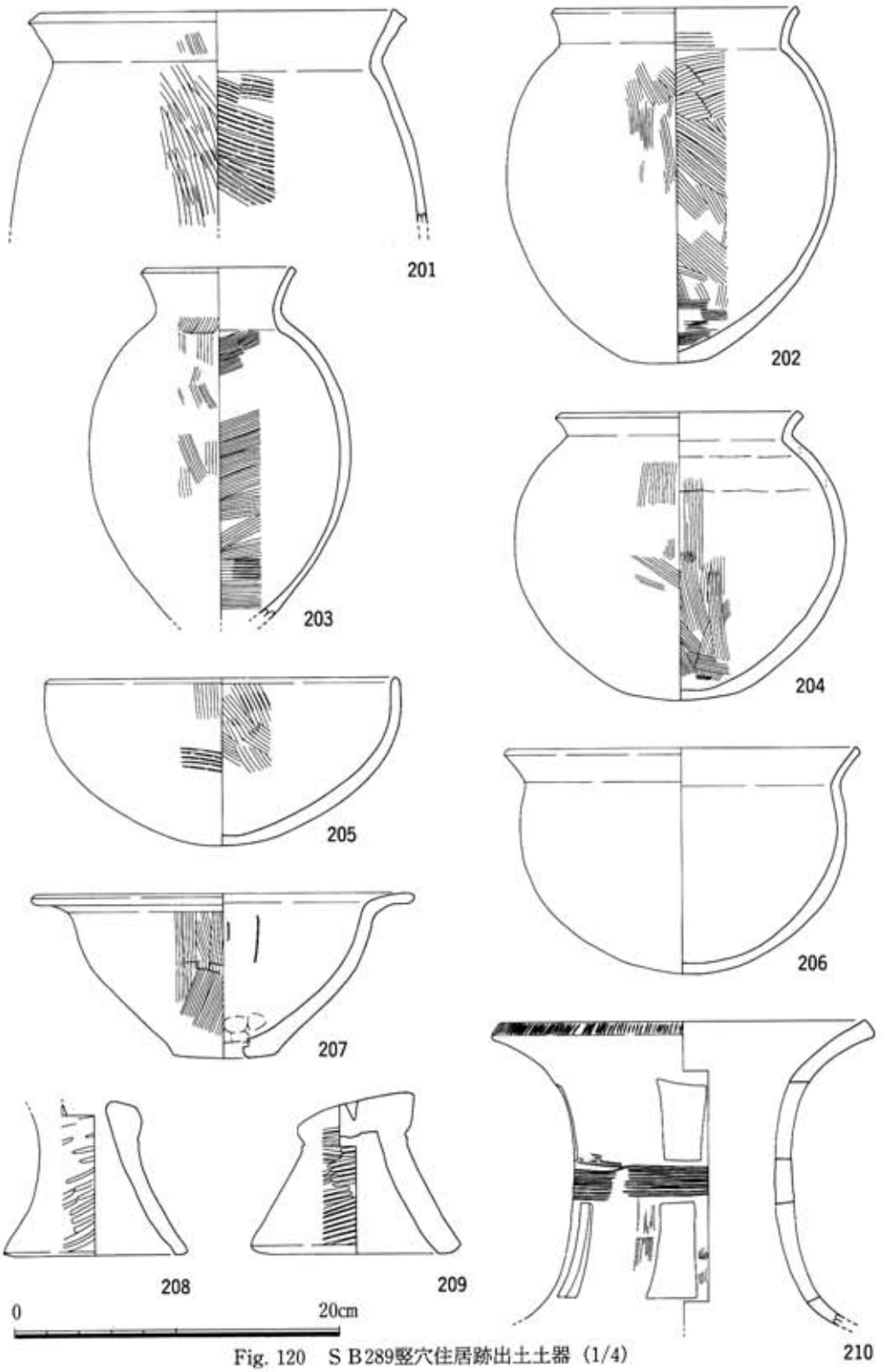



Fig. 120　ＳＢ289竪穴住居跡出土土器（1/4）

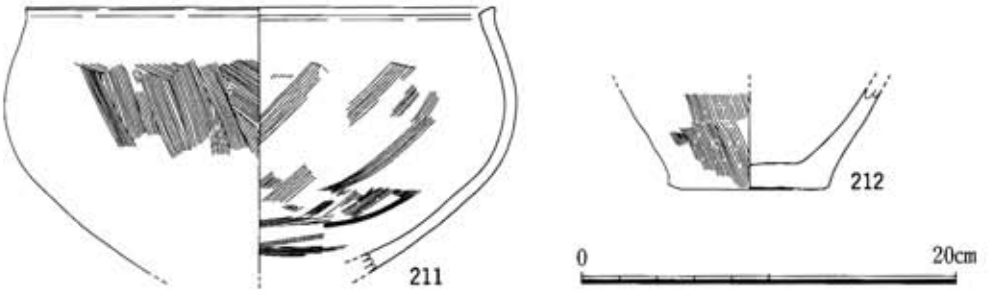



Fig. 121　S B295竪穴住居跡出土土器（1/4）

**S B298出土土器**（Fig. 122～124）

213・214はく字状口縁の甕。214・215は凸レンズ状底である。216は長頸壺の胴部。217・219・221・225は広口壺。218は不安定な平底で，胴部にコ字状突帯が1条めぐる。220は直口壺。222は口縁端部が外反する複合口縁壺。223・224・228～230は高坏。223・230は鋸歯状，224は逆レ字状，229は縦方向の暗文を口縁外面に施す。226は頸部以上を打ち欠く大型の壺。凸レンズ状の底部である。227は台付鉢のミニチュアか。231は椀形，232はやや深めの直口縁の鉢。233は屈折口縁の台付鉢。234は報告書作成時点では所在不明であるが，変わった形態の高坏の脚部である。235・236は器台。

全体的に凸レンズ状底のものが主体を占める。高坏の形態と合わせてIV期に位置づけられる。

**S B299出土土器**（Fig. 125）

237は受け部が水平な支脚。238は口縁部が直線的に内傾する複合口縁壺。不安定な平底のものや杏形の支脚が出土しており，III期に位置づけられる。

**S B300出土土器**（Fig. 125）

239は内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。240は口縁部が直立気味の広口壺。241は不安定な平底でく字状口縁の甕。242は高坏。243はやや深めの直口縁の鉢。244は屈折口縁の大型鉢で，頸部に突帯が1条めぐる。口唇部と突帯上に刻み目を施す。245はミニチュアの鉢。246は受け部が水平な支脚。

底部は不安定な平底のものが主体を占め，高坏の形態と合わせIII期に位置づけられる。

**S B301出土土器**（Fig. 126）

247はく字状口縁の甕。248は無頸壺の一種か。胴部に三角突帯がめぐる。249は不安定な平底で直口縁の鉢。底部は不安定な平底が大多数で，図示していないが杏形支脚の小破片があることなどからIII期に位置づけられる。

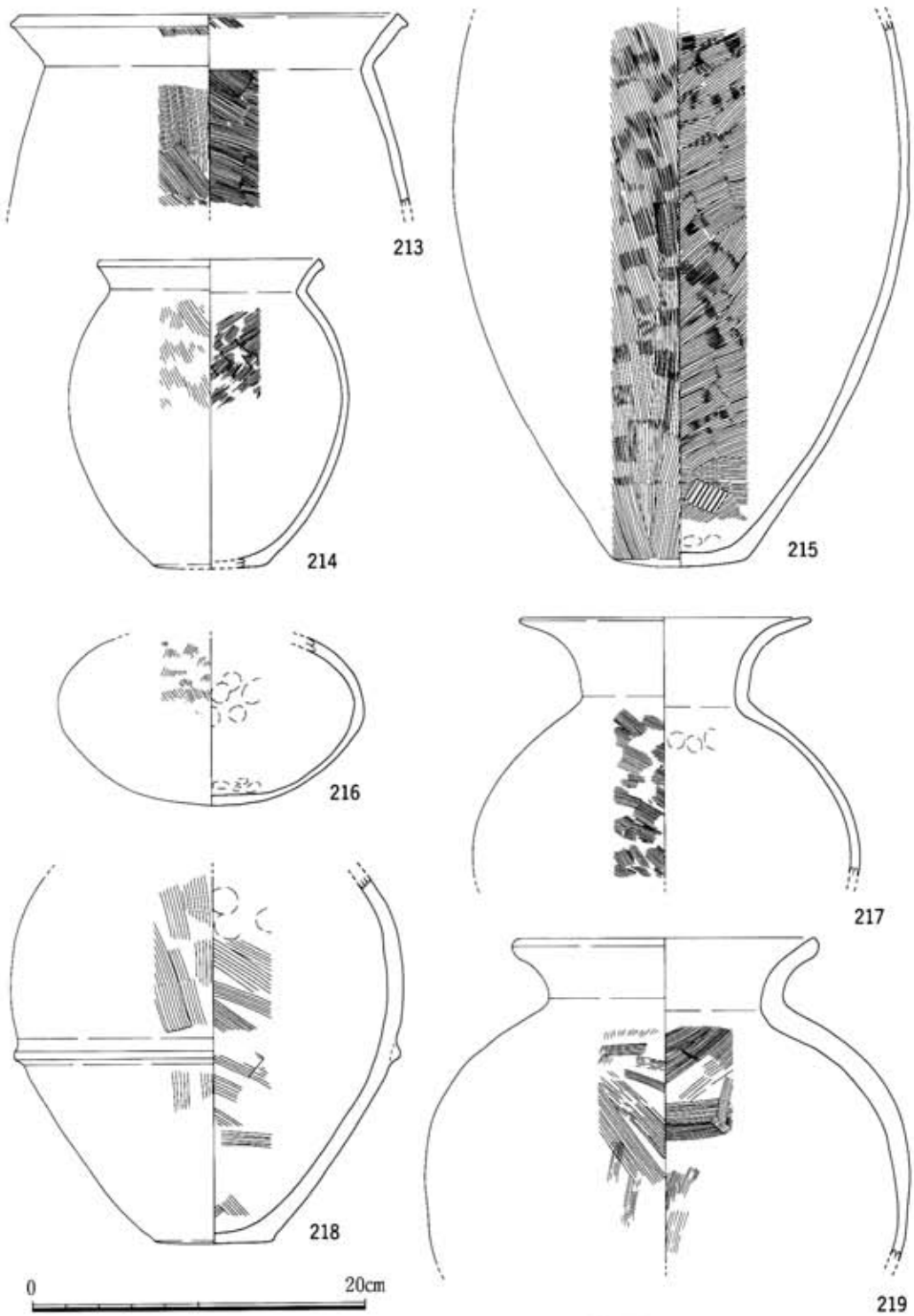



Fig. 122　S B298竪穴住居跡出土土器①（1/4）

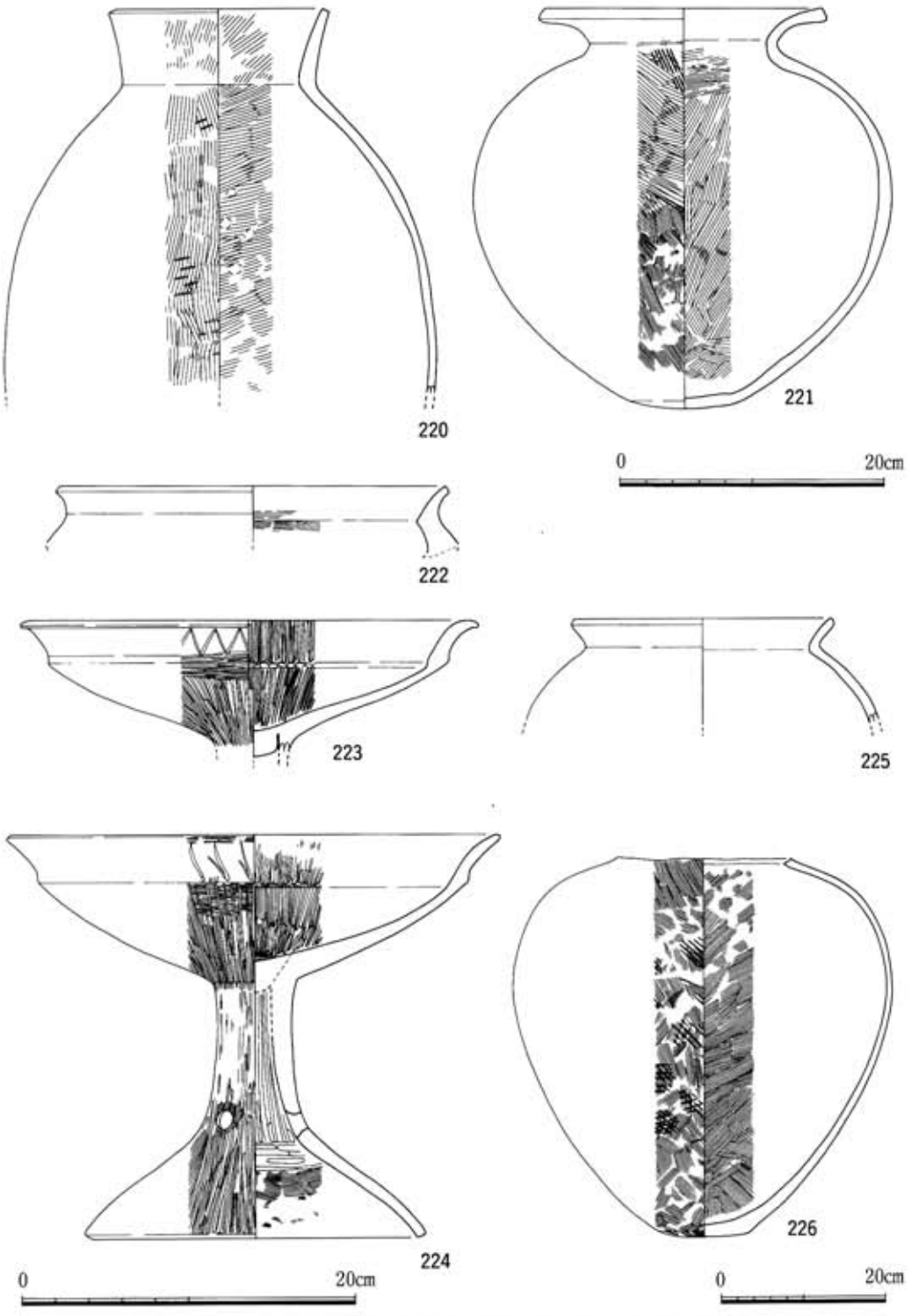



Fig. 123　ＳＢ298竪穴住居跡出土土器②（220・221は1/5，226は1/8，他は1/4）

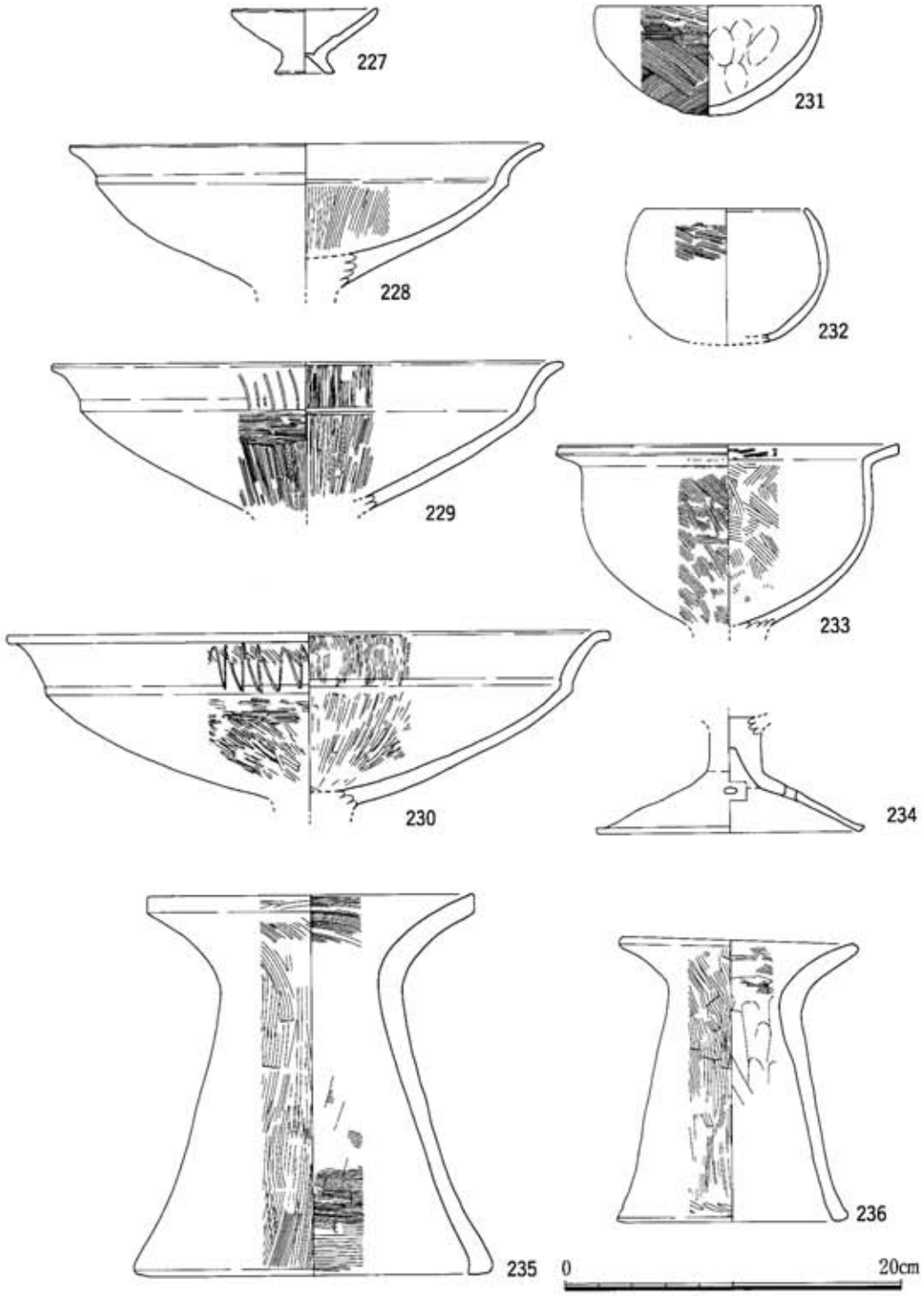



Fig. 124　S B298竪穴住居跡出土土器③ (1/4)

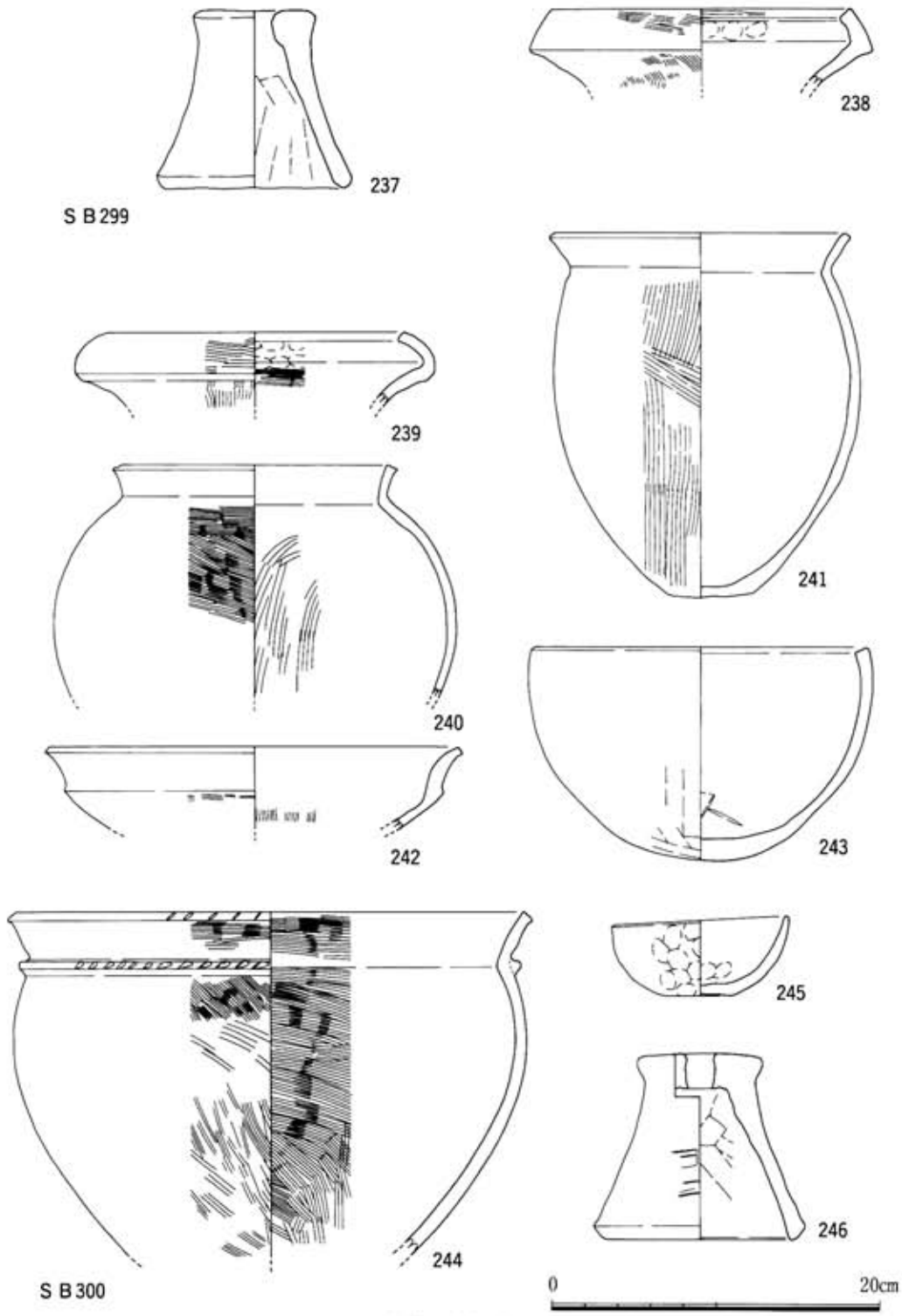



Fig. 125　S B299・300竪穴住居跡出土土器（244は1/5，他は1/4）

**ＳＢ306出土土器**（Fig. 126）

250・251は椀形の鉢。252はミニチュア。253は丸底に近い凸レンズ状底で屈折口縁の鉢。254・255は器台。不安定な平底のものが主体を占めるが，凸レンズ状底がみられる。図示していないが高坏の形態などと合わせⅣ期の古い段階に位置づけられよう。

**ＳＢ311出土土器**（Fig. 127）

256は屈折口縁の鉢。257はやや不安定な平底。平底のものが多く，不安定な平底のものもみられる。図示していないが高坏の形態と合わせⅢ期に位置づけられる。

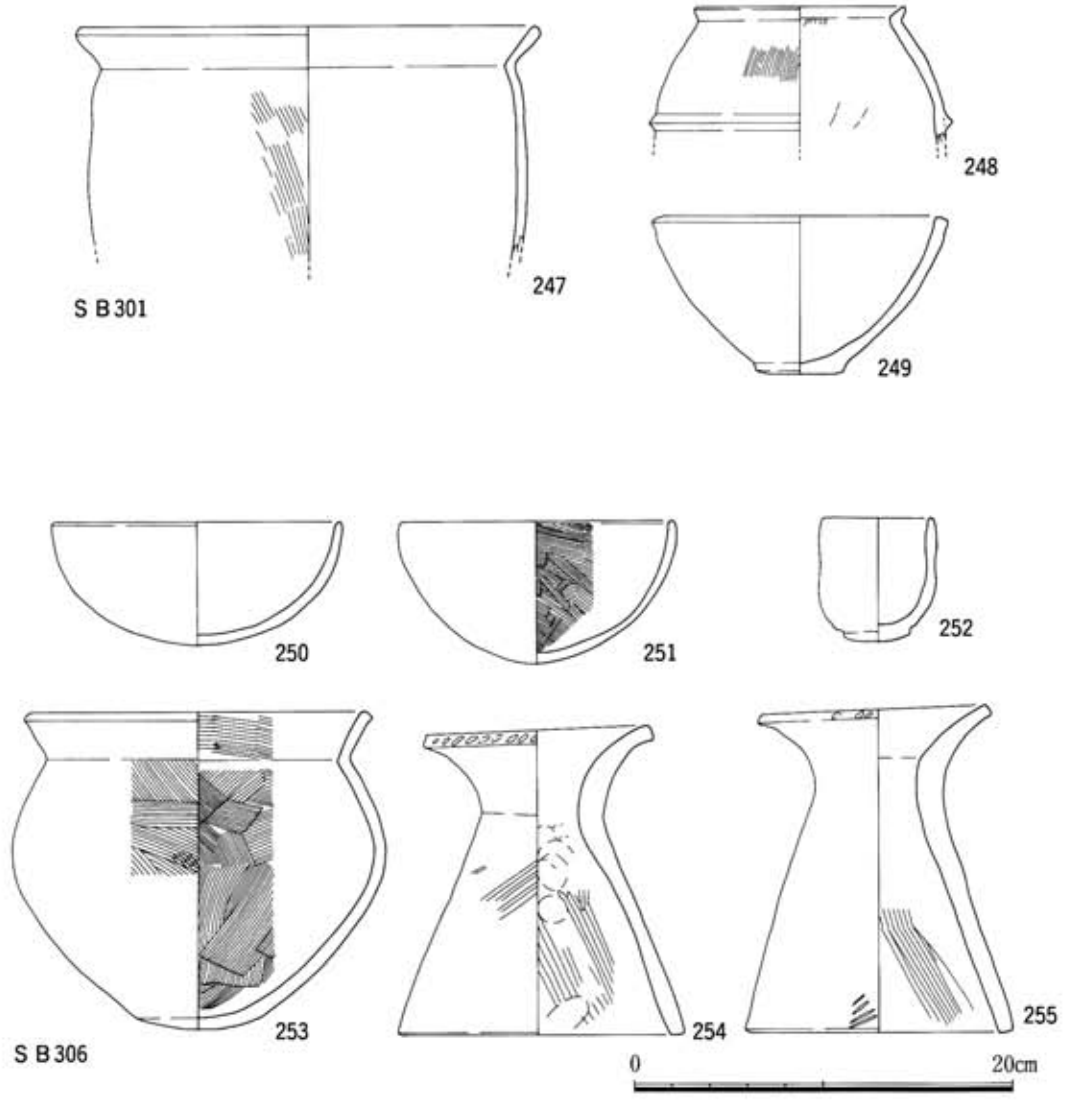



Fig. 126　ＳＢ301・306竪穴住居跡出土土器（1/4）

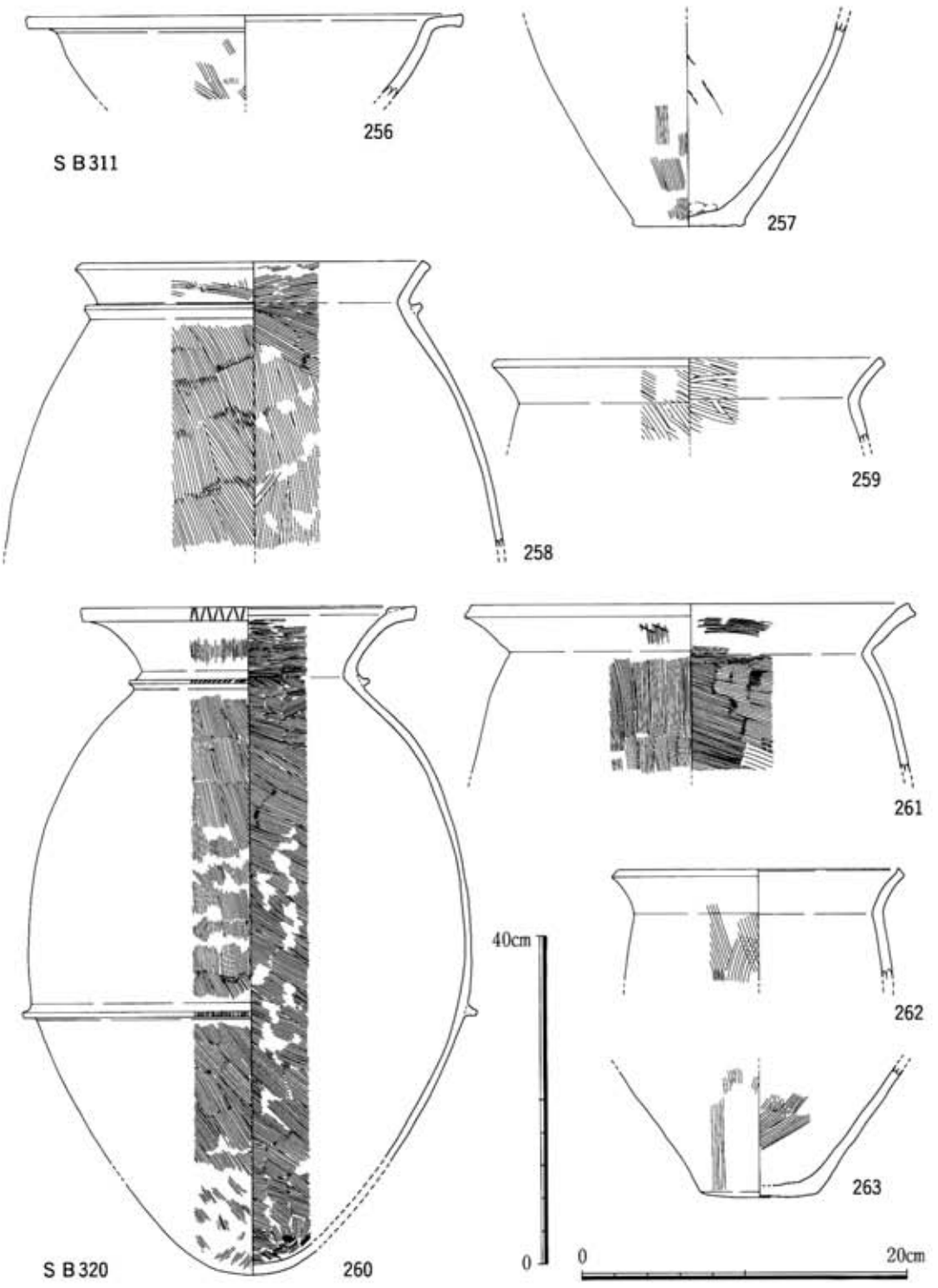



Fig. 127　S B311・320竪穴住居跡出土土器①（258・260は1/8，他は1/4）

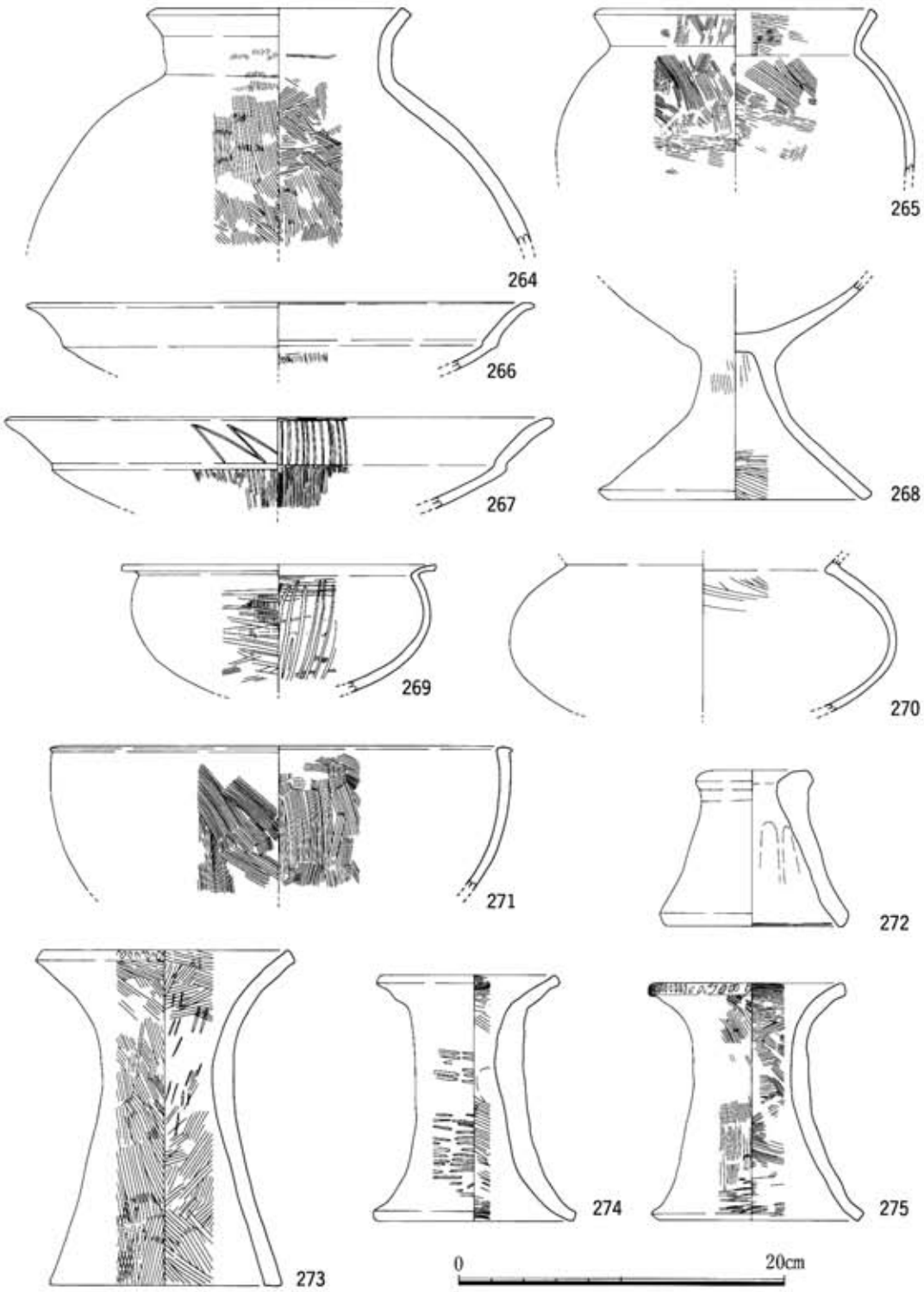



Fig. 128　S B320竪穴住居跡出土土器②（1/4）

**ＳＢ320出土土器**（Fig. 127・128）

258はく字状口縁の大甕。頸部にコ字状突帯が１条めぐる。259・261・262はく字状口縁の甕。260は丸底の大甕。口縁部内面を肥厚させ，口唇部に鋸歯状に刻みを施す。263は凸レンズ状底の甕底部。264は直口縁の壺。265は広口壺。266～268は高坏。267は口縁部外面に鋸歯状の，内面に縦方向の暗文を施す。269・270は屈折口縁の鉢。270は雑なヘラミガキを施す。暗文を意図しているのか。271は直口縁の鉢。272は受け部が水平な支脚。273～275は器台。

全体的に不安定な平底のもの，凸レンズ状底のものが主体を占める。高坏の形態と合わせⅣ

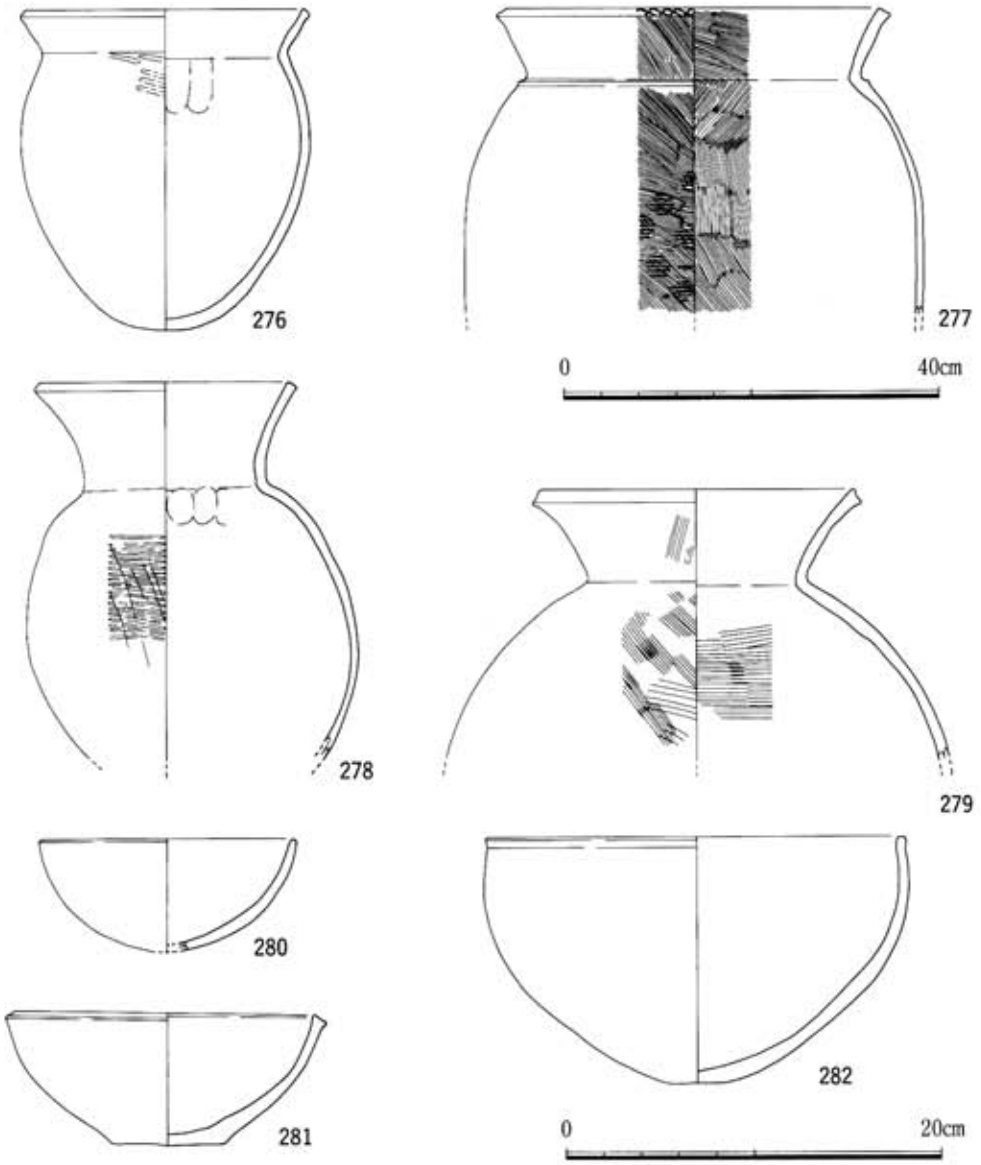



Fig. 129　ＳＢ321竪穴住居跡出土土器（277は1/8，他は1/4）

期に位置づけられる。

**ＳＢ321出土土器**（Fig. 129）

276は丸底に復原されるく字状口縁の甕。277はく字状口縁の大甕。口唇部にＸ字状に刻みを施す。頸部に三角突帯がめぐる。278は長胴で口縁部が長い広口壺で，ゆがみが大きい。279も広口壺。280は椀形の鉢。281は不安定な平底で直口縁の鉢。282は丸底に近い底部で直口縁のやや大型の鉢。底部をわずかに意識している。

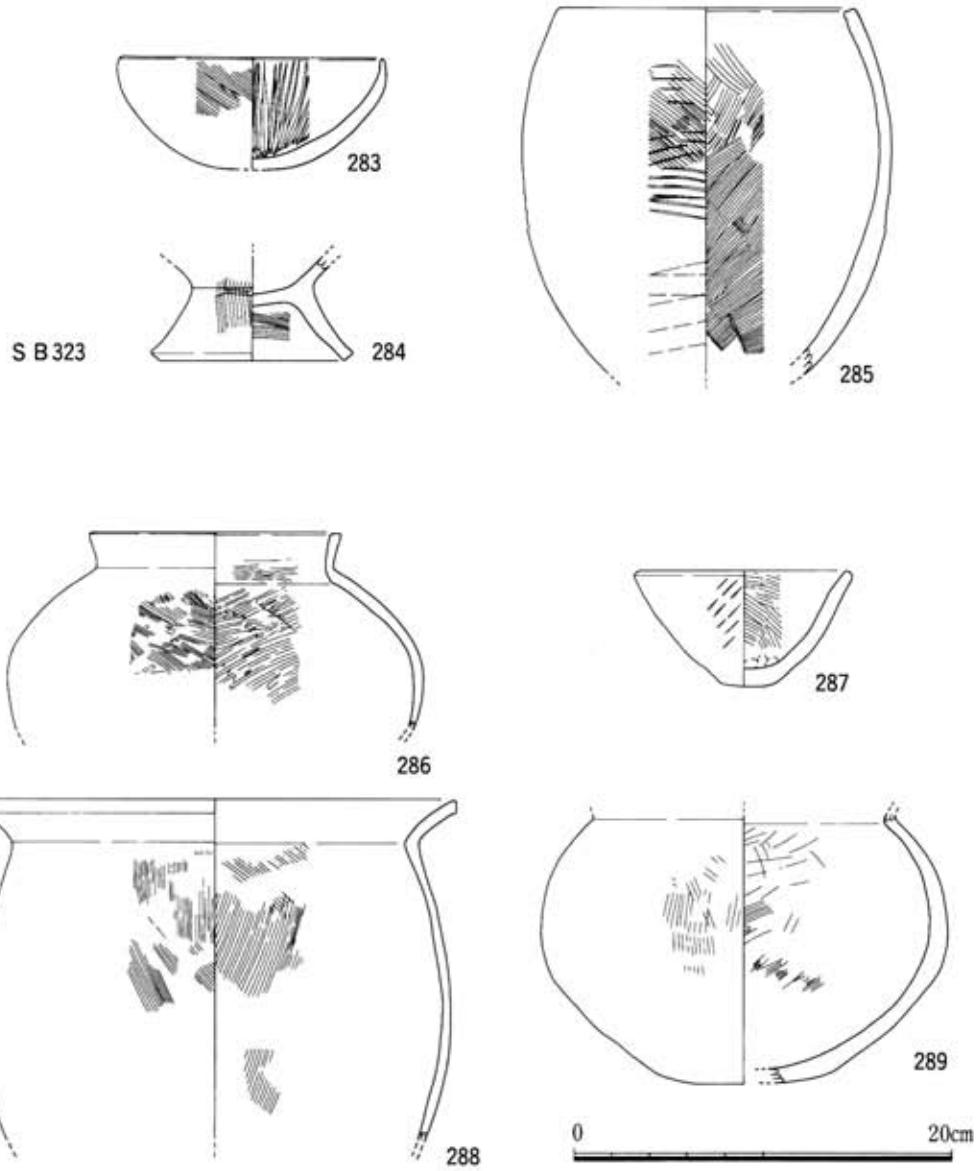



Fig. 130　ＳＢ323・348竪穴住居跡出土土器（1/4）

底部は不安定な平底のものが多いが，切り合いが激しいため周辺からの混入も考えられる。丸底のものもあり，外面ケズリが多いことなどからIV期に位置づけられよう。

**SB323出土土器**（Fig. 130）

283は椀形の鉢。内面に縦方向の暗文を施す。234は台付甕。235は長胴の鉢。住居の切り合いからみれば，III期か。

**SB348出土土器**（Fig. 130）

286は直口縁の壺。外面下半部ケズリ。287は直口縁で小型の鉢。288はく字状口縁の甕。289は丸底に近い底部で屈折口縁の鉢。不安定な平底のものが多く，凸レンズ状底のものもみられる。図示していないが高坏の形態と合わせIV期に位置づけられよう。

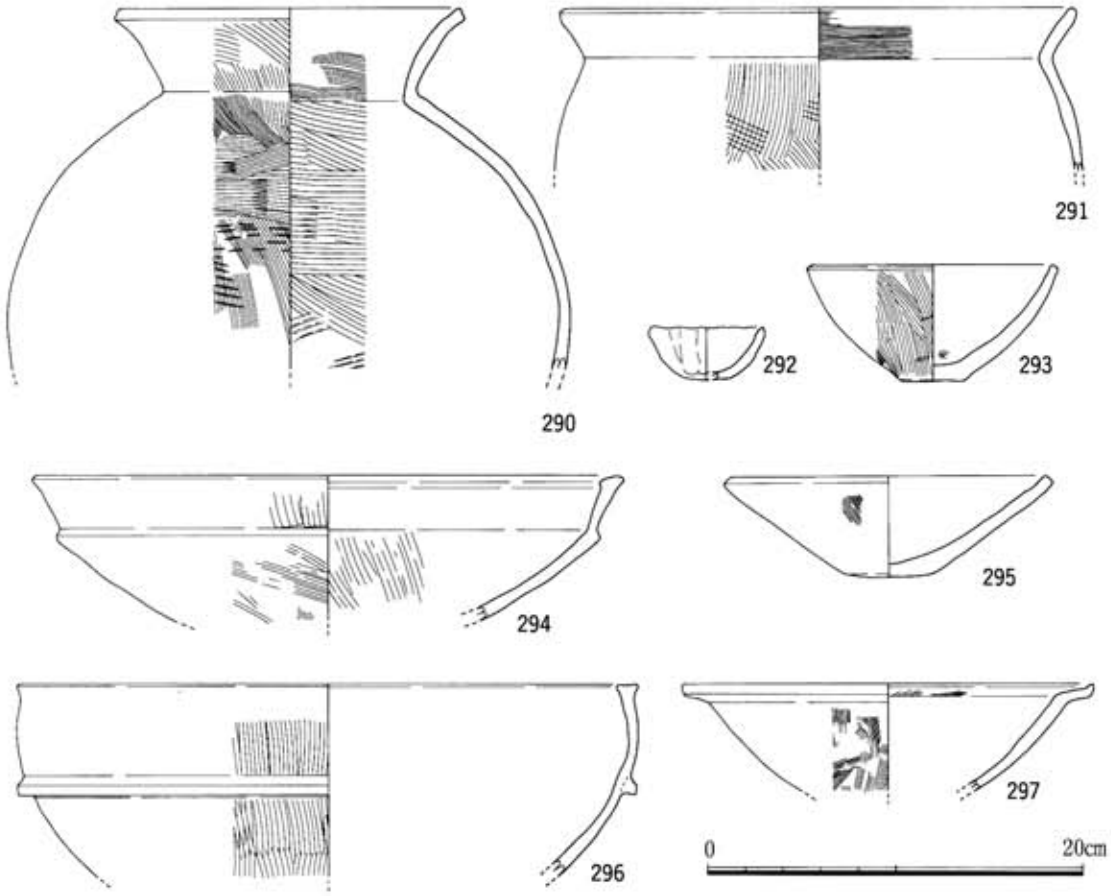



Fig. 131　SB349竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ349出土土器**（Fig. 131）

290は広口壺。291はく字状口縁の甕。292は手捏ねのミニチュア。293・295は不安定な平底で直口縁の鉢。294は口縁部が直立気味で端部が肥厚する高坏。296は直口縁で胴部にコ字状突帯がめぐる大型の鉢。297は屈折口縁の鉢。口縁端部を上方につまみ出す。底部は不安定な平底のものが多く，Ⅲ期に位置づけられる。

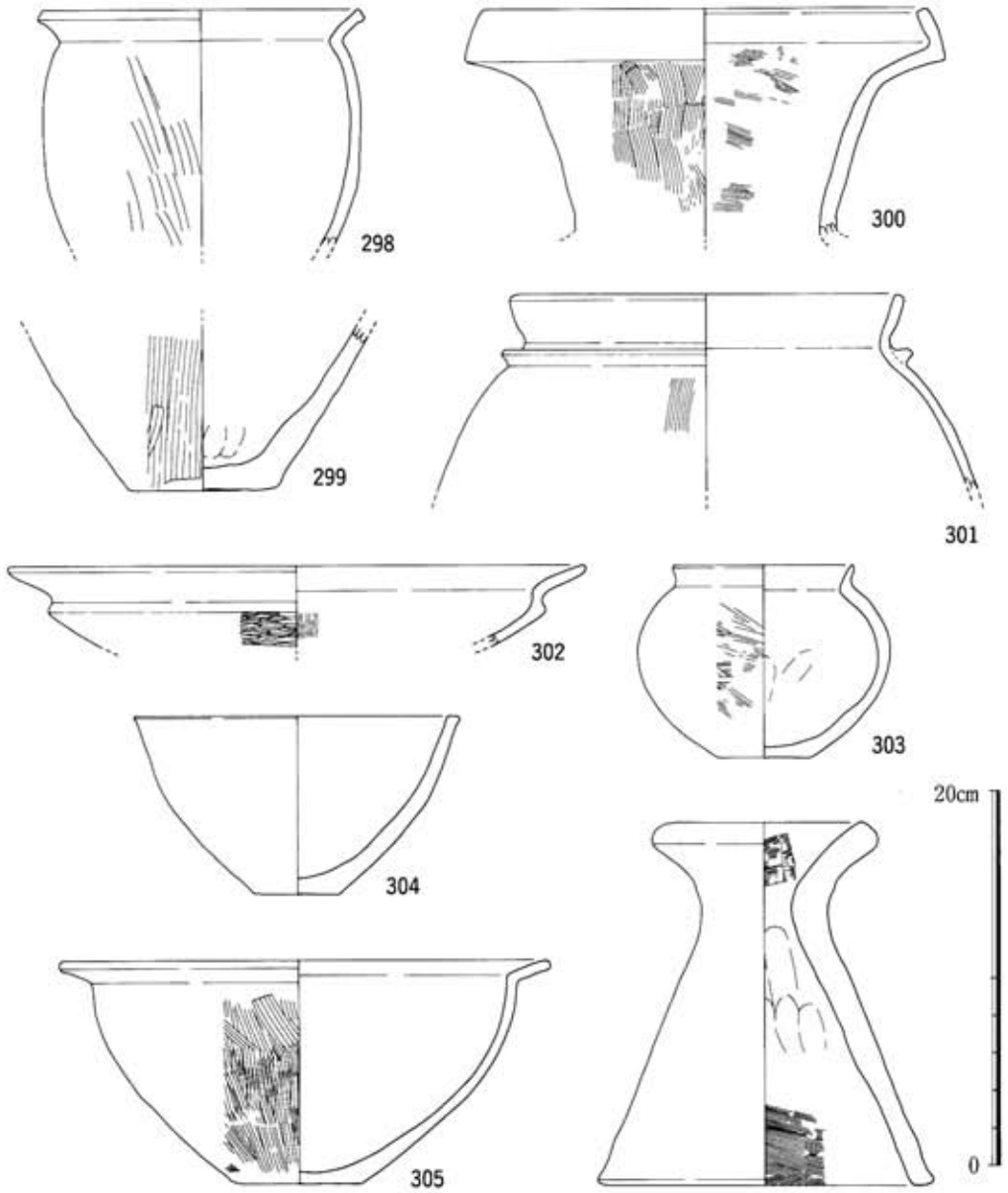



Fig. 132　ＳＢ355竪穴住居跡出土土器（1/4）

**SB355出土土器**（Fig. 132）

298はく字状口縁の甕。299は平底の甕底部。300は口縁部が直立気味の複合口縁壺。301は壺か。頸部にコ字状突帯がめぐる。302は口縁部がやや特異な高坏。303は平底で小型の無頸壺。304は平底で直口縁の，305はやや不安定な平底で屈折口縁の鉢。306は器台。

底部は不安定な平底のものが主体を占め，高坏の形態と合わせIII期に位置づけられる。

**SB359出土土器**（Fig. 133）

307は胴部下膨らみでく字状口縁の甕。308はやや深めの椀形の鉢。309は口縁部がわずかに内湾する複合口縁壺。310は高坏。311は器高が低い甕か。全体的にみてレンズ状底のものが多く，高坏もIV期的ではあるが，切合関係からIII期以前に位置づけられる竪穴住居である。出土土器の多くはSB387からの混入であろう。

**SB365出土土器**（Fig. 133）

312は鋤先状口縁の高坏。上層から出土。313・312はミニチュアの鉢。315はく字状口縁の甕。316は不安定な平底で直口縁の鉢。317は小型の広口壺。底部は不安定な平底のものが多く，図示していないがIII期的な後期系高坏も出土している。須玖系の高坏は上層からの出土であり，全体的にはIII期の古い段階に位置づけられよう。

**SB387出土土器**（Fig. 134）

318は胴部やや下膨らみのく字状口縁の甕。319・320は椀形の鉢。321は屈折口縁の鉢。平底ものものが数点出土しているが，全体的に新しい様相が多く，SB359出土土器と合わせIV期に位置づけられよう。

**SB391出土土器**（Fig. 134）

322はく字状口縁の甕。323は広口壺。324は後期系高坏，325は鋤先状口縁の高坏。326はやや不安定な平底で屈折口縁の鉢。底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。須玖系高坏も出土しているが，SB400からの混入の可能性があり，後期系高坏の形態からIII期に位置づけられる。

**SB393出土土器**（Fig. 135）

327は不安定な平底で屈折口縁の鉢。328は平底で直口縁の深めの鉢。底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。切合関係と合わせIII期に位置づけられる。

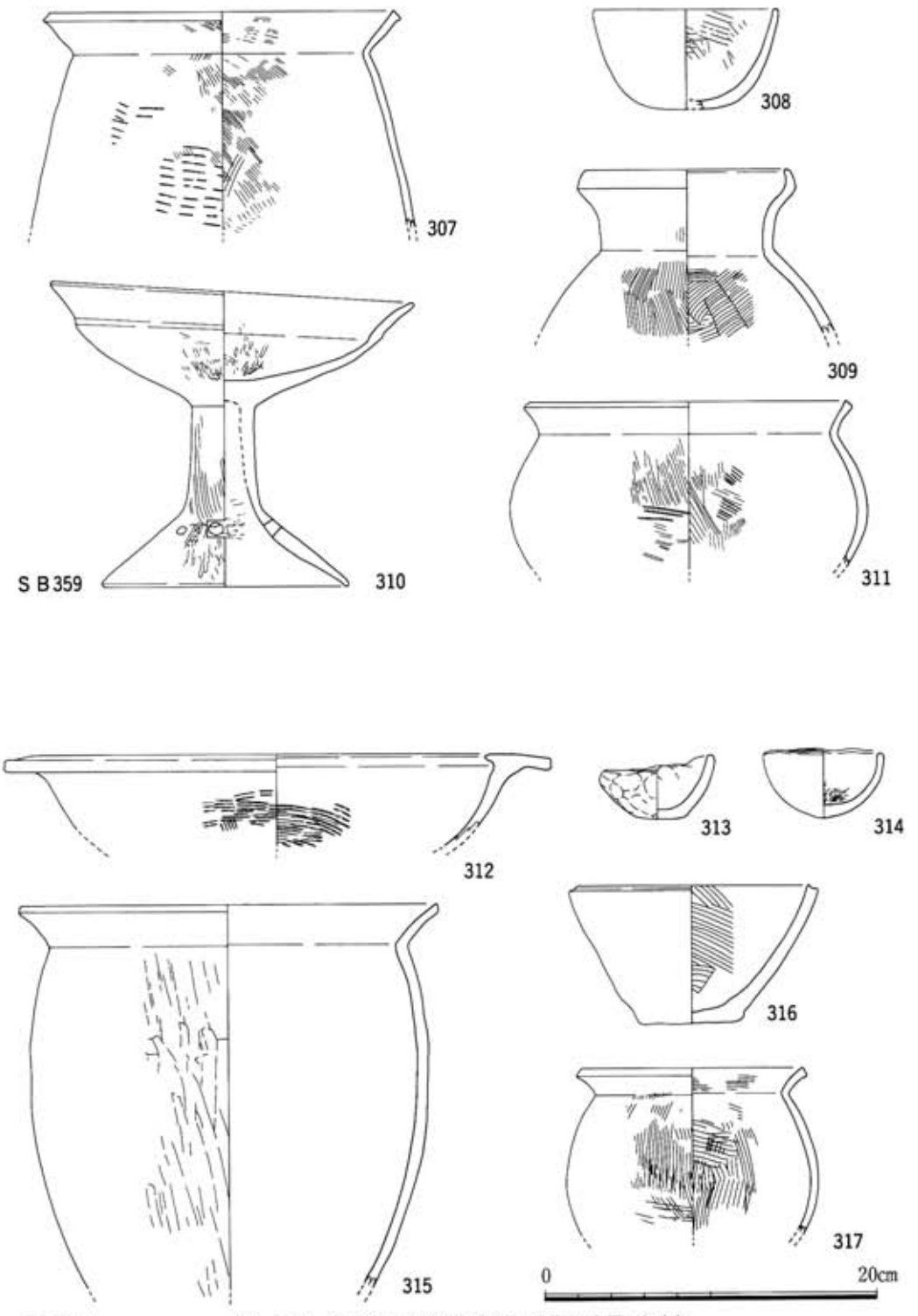



Fig. 133　S B359・365竪穴住居跡出土土器（1/4）

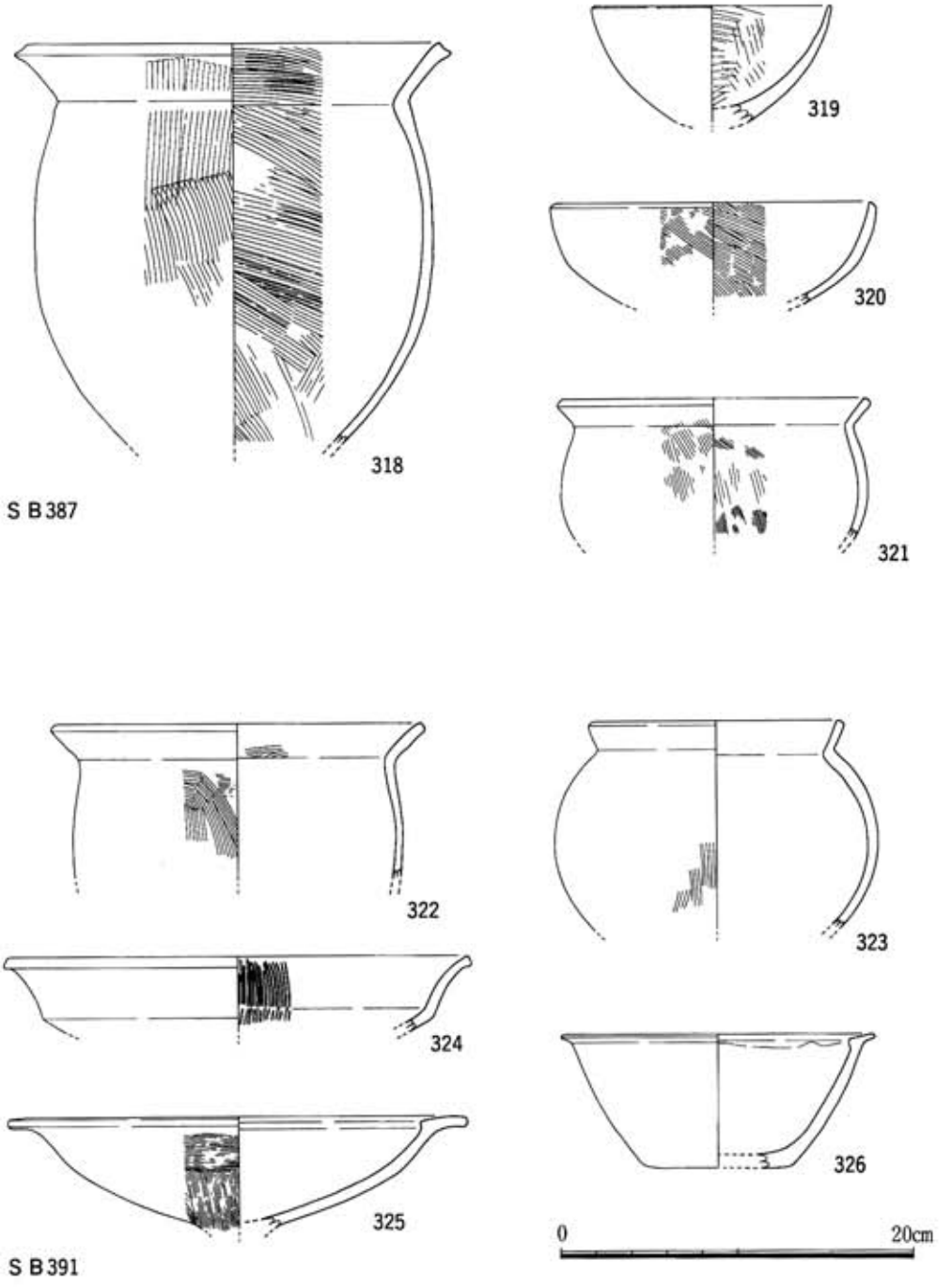



Fig. 134　S B 387・391竪穴住居跡出土土器（1/4）

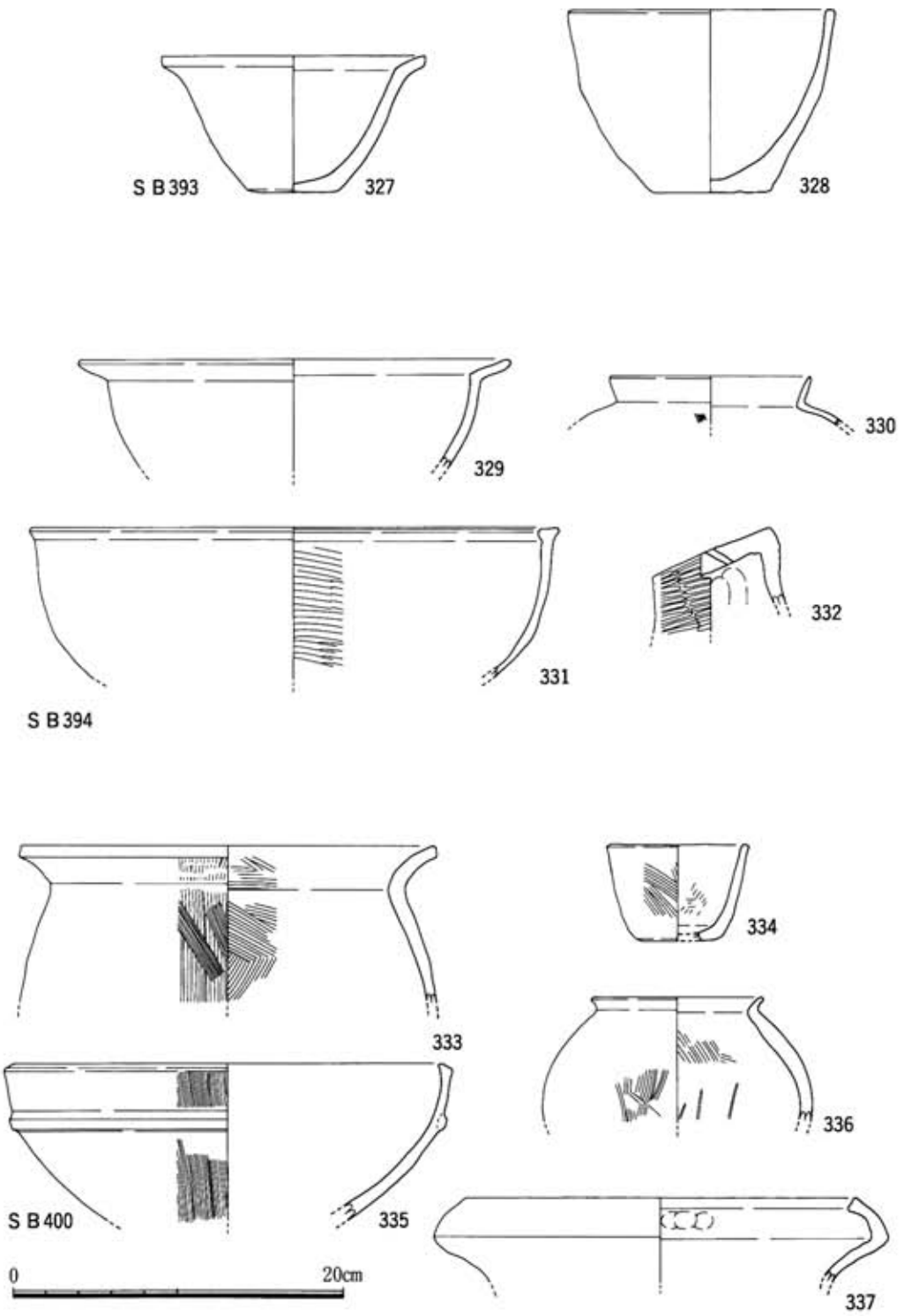



Fig. 135　S B 393・394・400竪穴住居跡出土土器（1/4）

**SB394出土土器**（Fig. 135）

329は屈折口縁の鉢。330は口縁がやや直立気味の無頸壺。331は口縁端部が肥厚する直口縁の大型の鉢。332は沓形の支脚。平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。沓形の支脚が出土していることからIII期に位置づけられる。

**SB400出土土器**（Fig. 135）

333はく字状口縁の甕。334は不安定な平底で直口縁の深めの小型鉢。335は直口縁でコ字状突帯が1条めぐる鉢。336は無頸壺。337は内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。平底のものが主体を占め，不安定な平底のものがみられる。II期からIII期に位置づけられよう。

**SB05出土土器**（Fig. 136）

338・339はく字状口縁の甕。339は外面下半部ケズリか。340は台付甕。341は丸底で屈折口縁の鉢。342は長胴で直口縁の鉢。凸レンズ状底のものが多く，不安定な平底のものがみられ，IV期に位置づけられる。

**SB06出土土器**（Fig. 136）

343はく字状口縁の甕。344は小型の広口壺か。345は受け部が水平な支脚。切合などで住居の残存状況が悪いため不明な点が多いが，III期的な様相が強い。

**SB07出土土器**（Fig. 137）

346・347は椀形の鉢。口縁部が長くのびる甕があることなどからIV期以降か。

**SB08出土土器**（Fig. 137）

348は直口縁の鉢。丸底ではないであろう。349は内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。349は複合口縁壺の頸部から胴部で，頸部に三角突帯，胴部にコ字状突帯がめぐる。底部は不安定な平底のものが大多数であり，III期に位置づけられる。

**SB09出土土器**（Fig. 137）

351は短く屈曲するく字状口縁の甕。底部は平底である。352は鋤先状口縁の高坏。353は受け部が水平な支脚。354は内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。355はミニチュアの鉢。356は口縁部が内傾する深めの鉢。357は底部がわずかに意識された直口縁の鉢。

底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。352・353が出土していることからII期からIII期にかけての時期であろう。

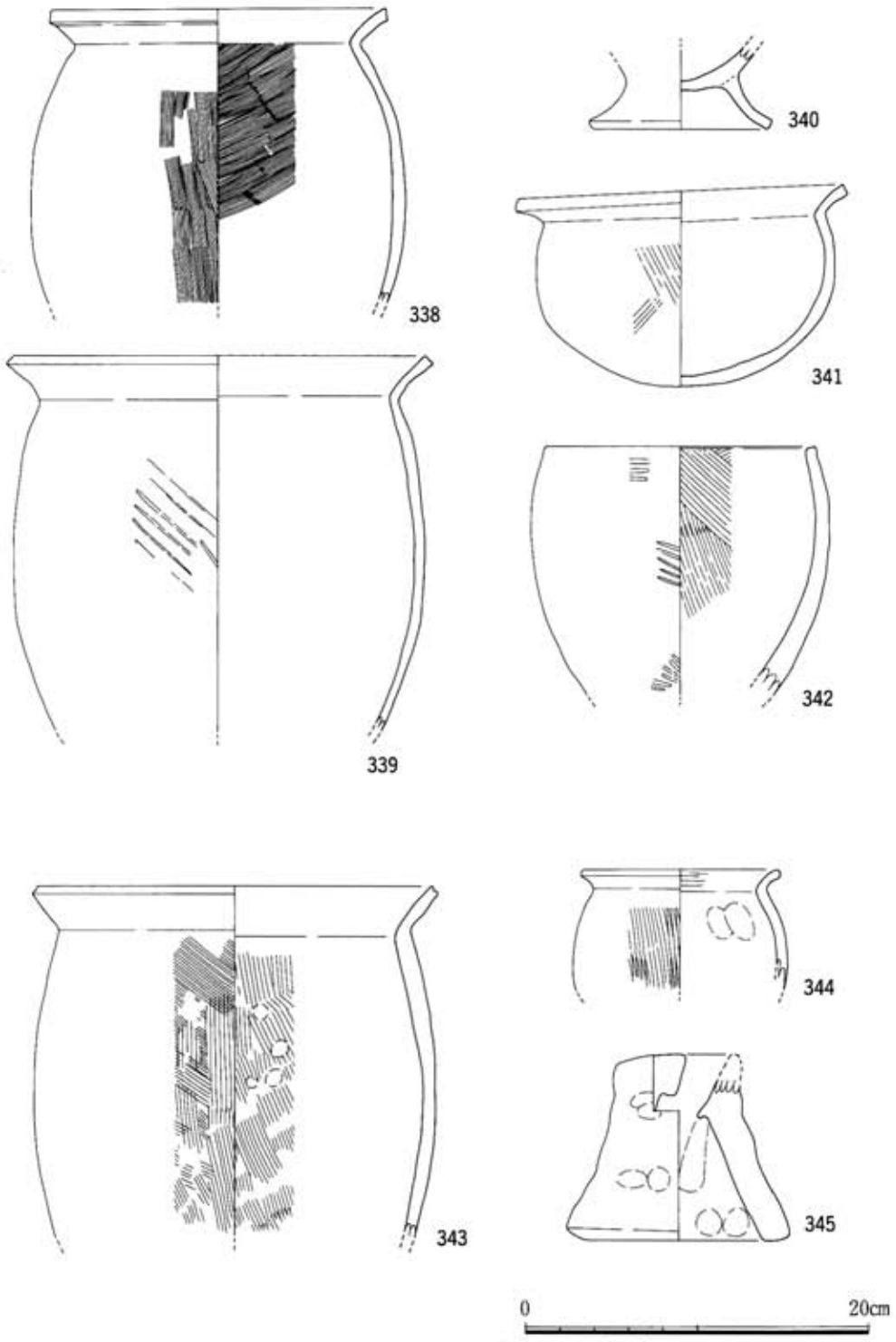



Fig. 136　S B05・06竪穴住居跡出土土器（1/4）

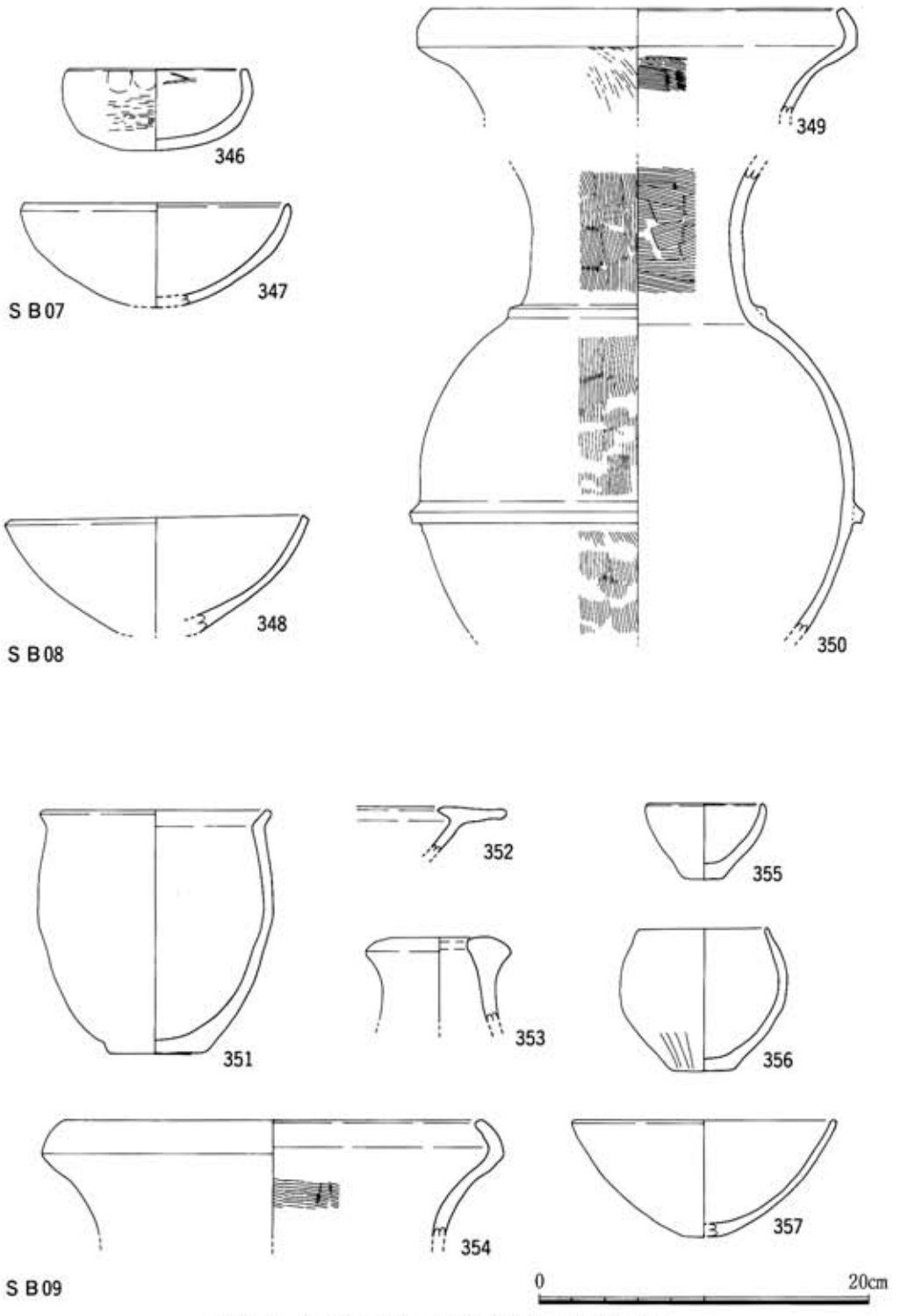



Fig. 137　S B07・08・09竪穴住居跡出土土器（1/4）

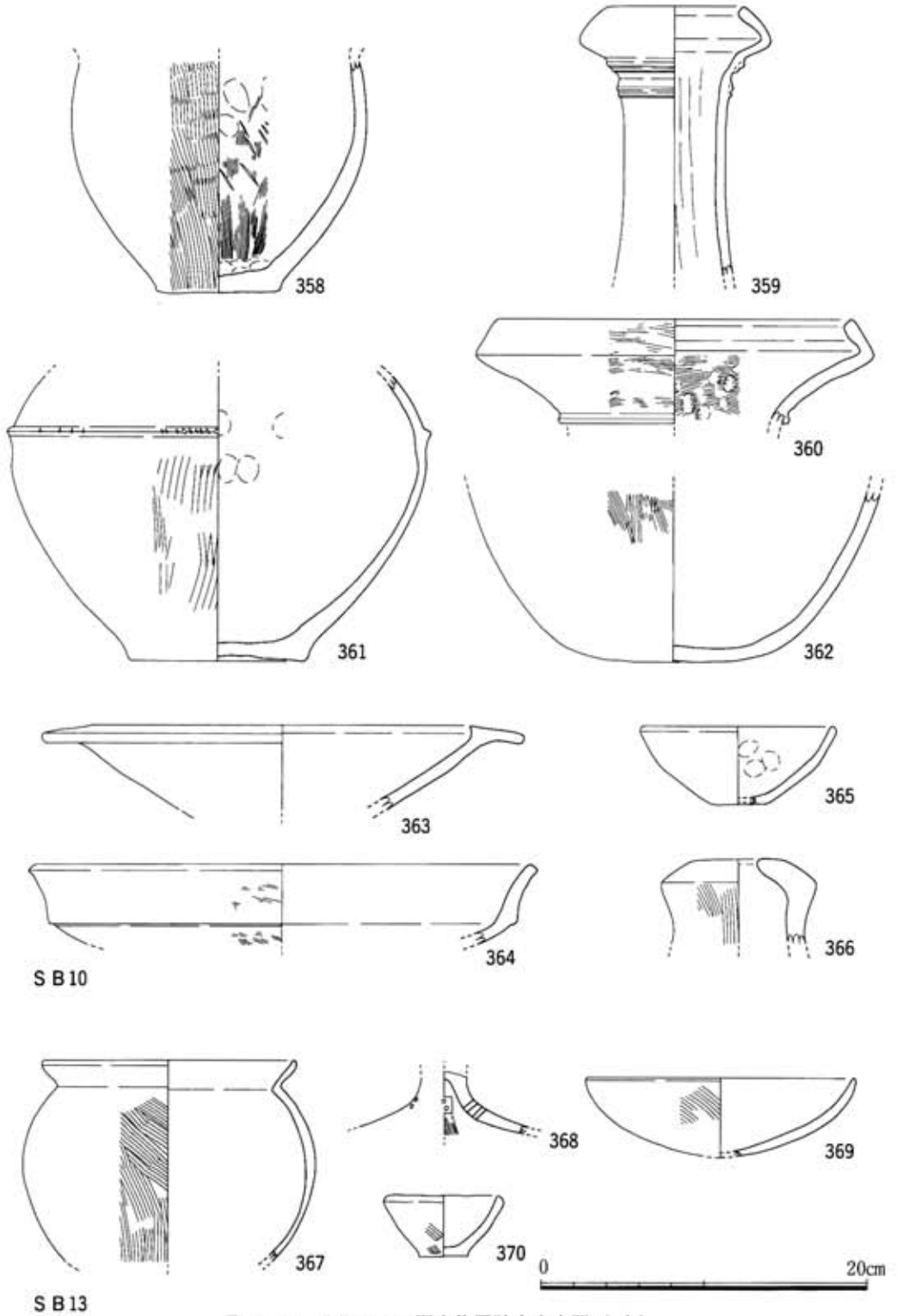



Fig. 138　S B10・13竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ10出土土器**（Fig. 138）

358は平底の甕底部。359は長頸の袋状口縁壺。混入か。360は直線的に内傾する複合口縁壺。361は平底，262は不安定な平底の壺底部。361は胴部に三角突帯が１条めぐる。363は鋤先状口縁，364は直立気味の口縁をもつ後期系高坏。365は平底で直口縁の鉢。366は受け部が水平になる支脚。

底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。須玖系高坏と後期系高坏，366のような支脚があることからⅡ期からⅢ期にかけての時期である。

**ＳＢ13出土土器**（Fig.138）

367は広口壺。口縁部がわずかに内湾する。368は小型高坏の脚部か。上下に２個１組の小さい穿孔が６方に施される。369は椀形の鉢。370は鉢のミニチュア。切合，削平が激しいため時期否定は難しい。底部は不安定な平底のものが多く，凸レンズ状底のものがみられる。図示していないがⅣ期的な高坏もあり，切合関係などからⅣ期に位置づけられるか。

**ＳＢ15出土土器**（Fig. 139）

371・372はく字状口縁の甕。373は不安定な平底の甕。374・375・376は高坏。376は口縁部外面に鋸歯状の暗文を施す。377は小型高坏の脚部か。上下２個１組の円形透かしを６～８ヶ所に施しているものと考えられる。378・379は椀形の鉢。

底部は凸レンズ状底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。高坏の形態と合わせⅣ期に位置づけられる。

**ＳＢ16出土土器**（Fig. 139）

380は平底の壺底部。381は器台。平底のものが多く，不安定な平底のものがみられ，図示していないが須玖系高坏が出土していることからⅡ期に位置づけられる。

**ＳＢ22出土土器**（Fig. 140）

382は凸レンズ状底でく字状口縁の甕。383は丸底で粗製の甕。384は台付甕。385は胴部下膨らみでく字状口縁の甕。386は器台。387は丸底に近い凸レンズ状底の広口壺。388は高坏。豊前系か。389は台付鉢。390はミニチュア。

底部は凸レンズ状底のものが多く，不安定な平底のもの，丸底のものがみられ，Ⅳ期に位置づけられよう。

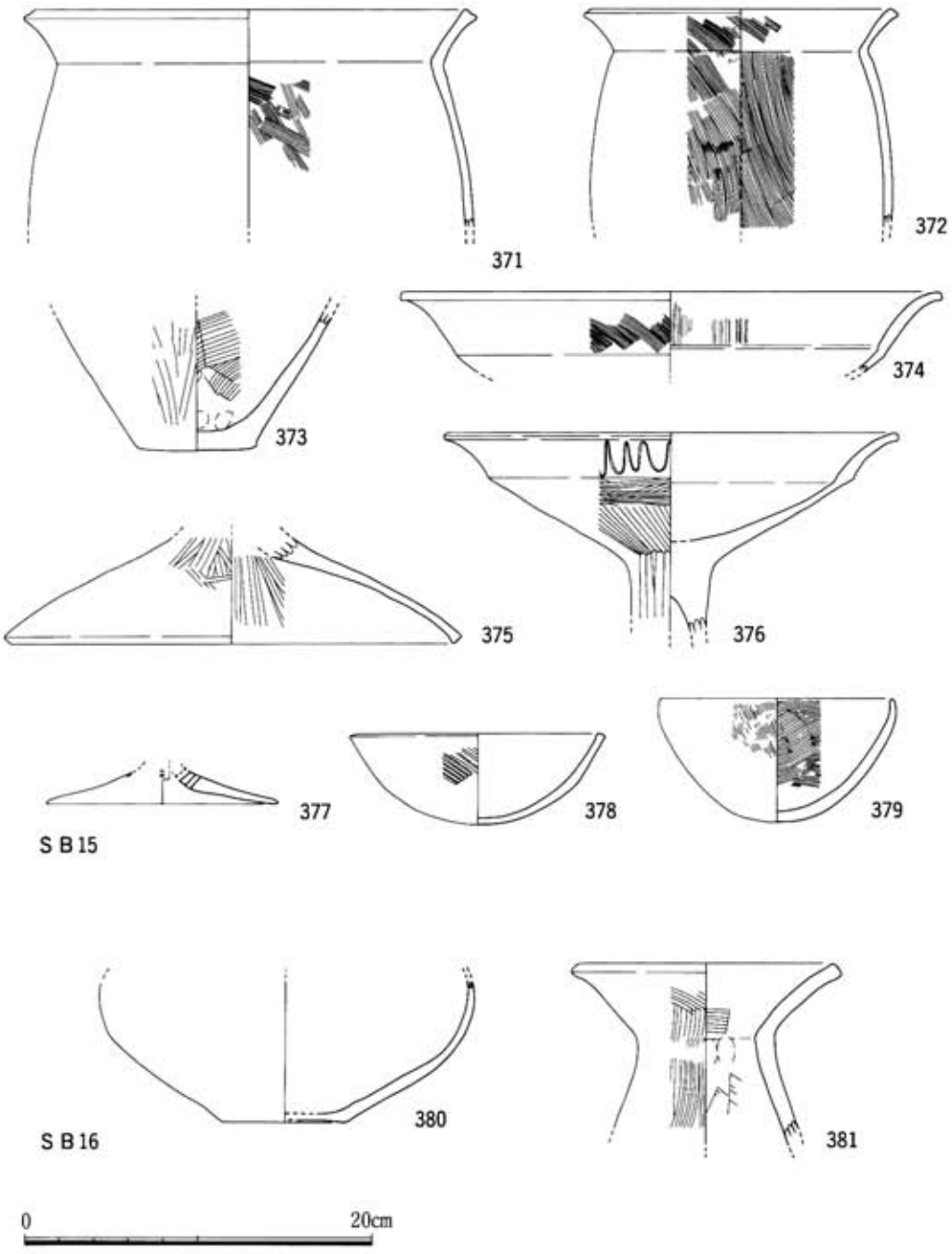



Fig. 139　S B 15・16竪穴住居跡出土土器（1/4）

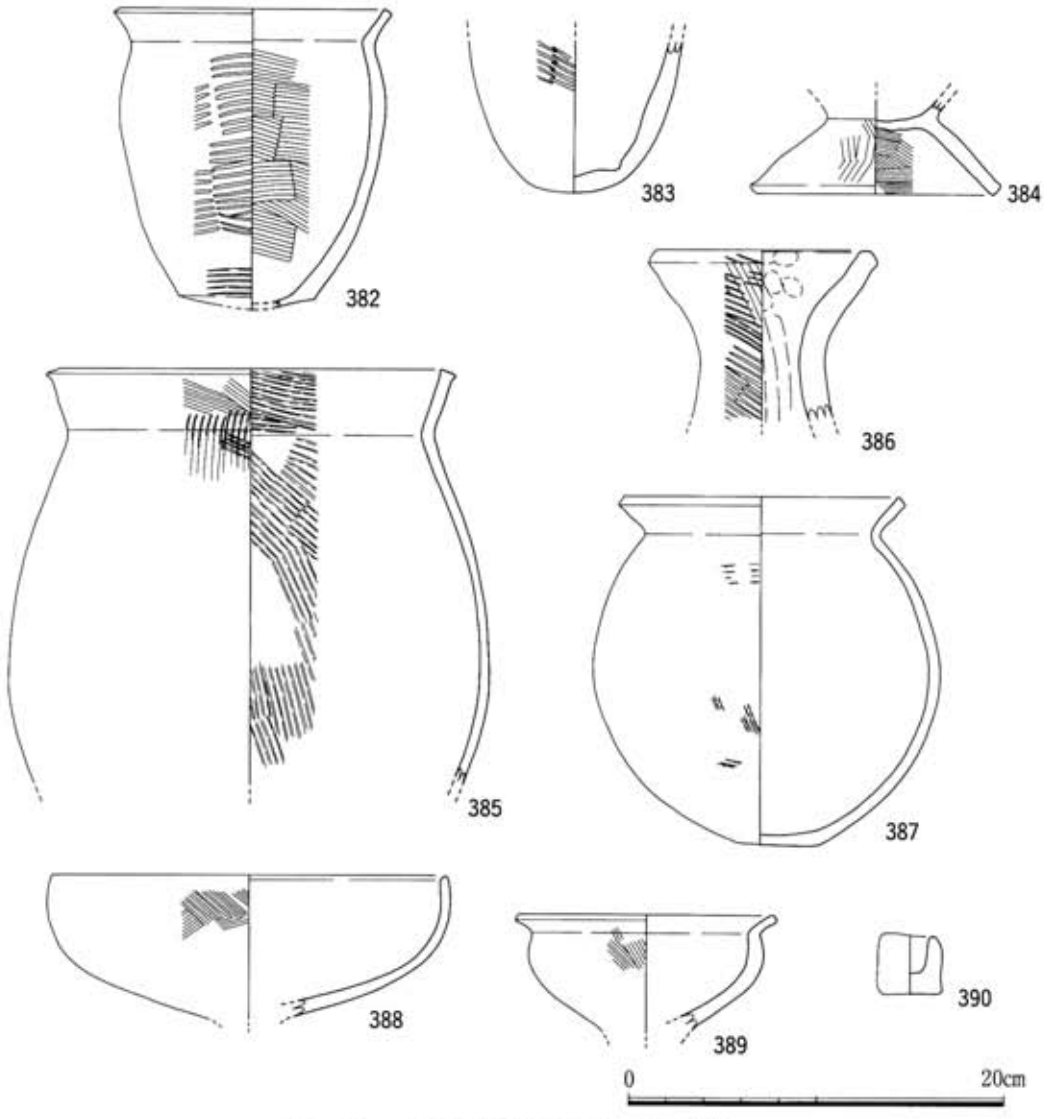



Fig. 140　ＳＢ22竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ27出土土器**（Fig. 141）

391は丸底に近い凸レンズ状底でく字状口縁の甕。外面下半部ケズリ。392は口縁部が長く外反する高坏。口縁部外面に暗文か。393は直立する口縁部が内傾する高坏。口縁部内外面に暗文か。394は大型器台。長方形の透かしと縦方向に４個１組の円形透かしを３ヶ所ずつ施すか。出土遺物は少ないが，高坏の形態からⅤ期に位置づけられる。

**ＳＢ29出土土器**（Fig. 142～144）

395・397はく字状口縁の甕。396・398は凸レンズ状底，399は不安定な平底の甕底部。401は

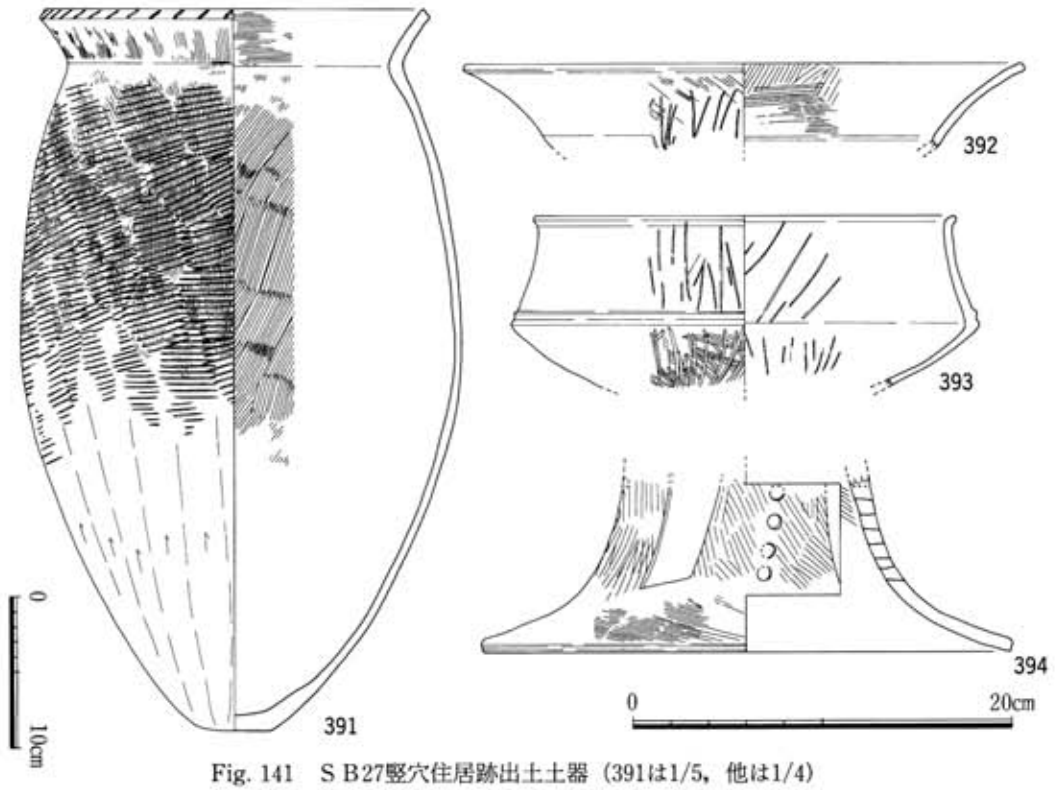



Fig. 141　ＳＢ27竪穴住居跡出土土器（391は1/5，他は1/4）

小型の甕。器壁が厚い。395・398・399は外面下半部ケズリ。400は広口の大型壺。口唇部に鋸歯状の刻み，頸部と胴部に境に三角突帯が１条めぐる。402・404～406は広口壺。404・406は丸底に近い凸レンズ状底で，外面下半部ケズリ。403は口縁端部が外反する複合口縁壺。頸部と胴部の境に三角突帯が２条めぐる。407はミニチュア。408は椀形の鉢。408は内面に縦方向の暗文を施す。409～412は内傾する直口縁の鉢。412～417は高坏の坏部。413は口縁部内面に鋸歯状，坏部内面に縦方向，415は口縁部外面に縦方向，416は口縁部外面に鋸歯状の暗文を施す。418は高坏脚部。419は受け部が水平になる支脚。420～423は器台。421は裾外面に２条，端部に１条沈線がめぐる。

西山田二本松遺跡ＳＢ29としては多量に出土しているにもかかわらず，東山田一本杉遺跡ＳＢ180としてはほとんど遺物が出土しておらず，出土状況にやや疑問が残る。全体的にみると，Ⅳ期の新しい段階に位置づけられよう。

**ＳＢ31出土土器**（Fig. 145）

424は高坏。425はやや不安定な平底で屈折口縁の鉢。426は所在不明だが，支脚のミニチュアか。427はグラス形の鉢。高坏と鉢の形態からⅣ期の古い段階に位置づけられよう。

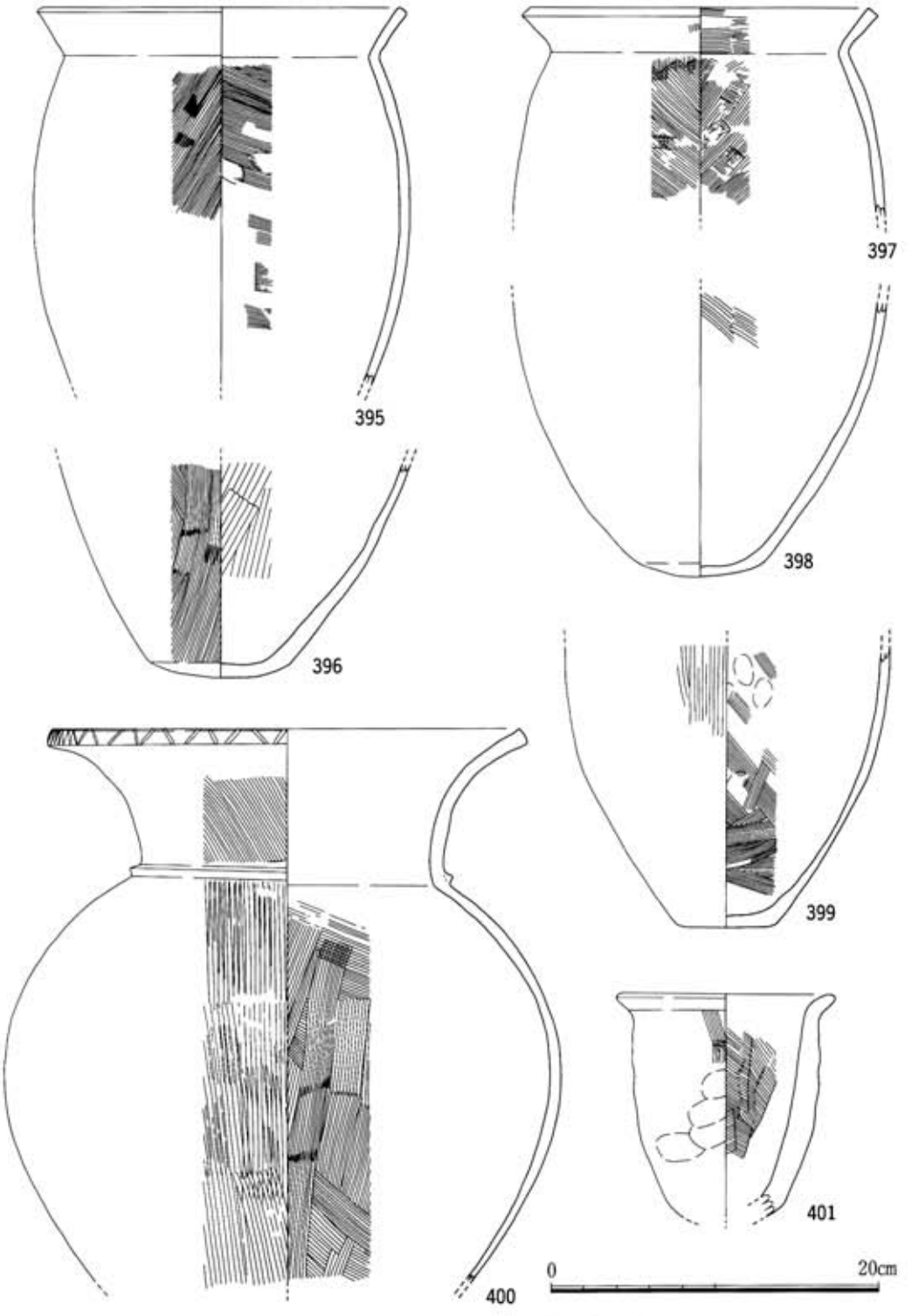



Fig. 142　ＳＢ29竪穴住居跡出土土器①（1/4）

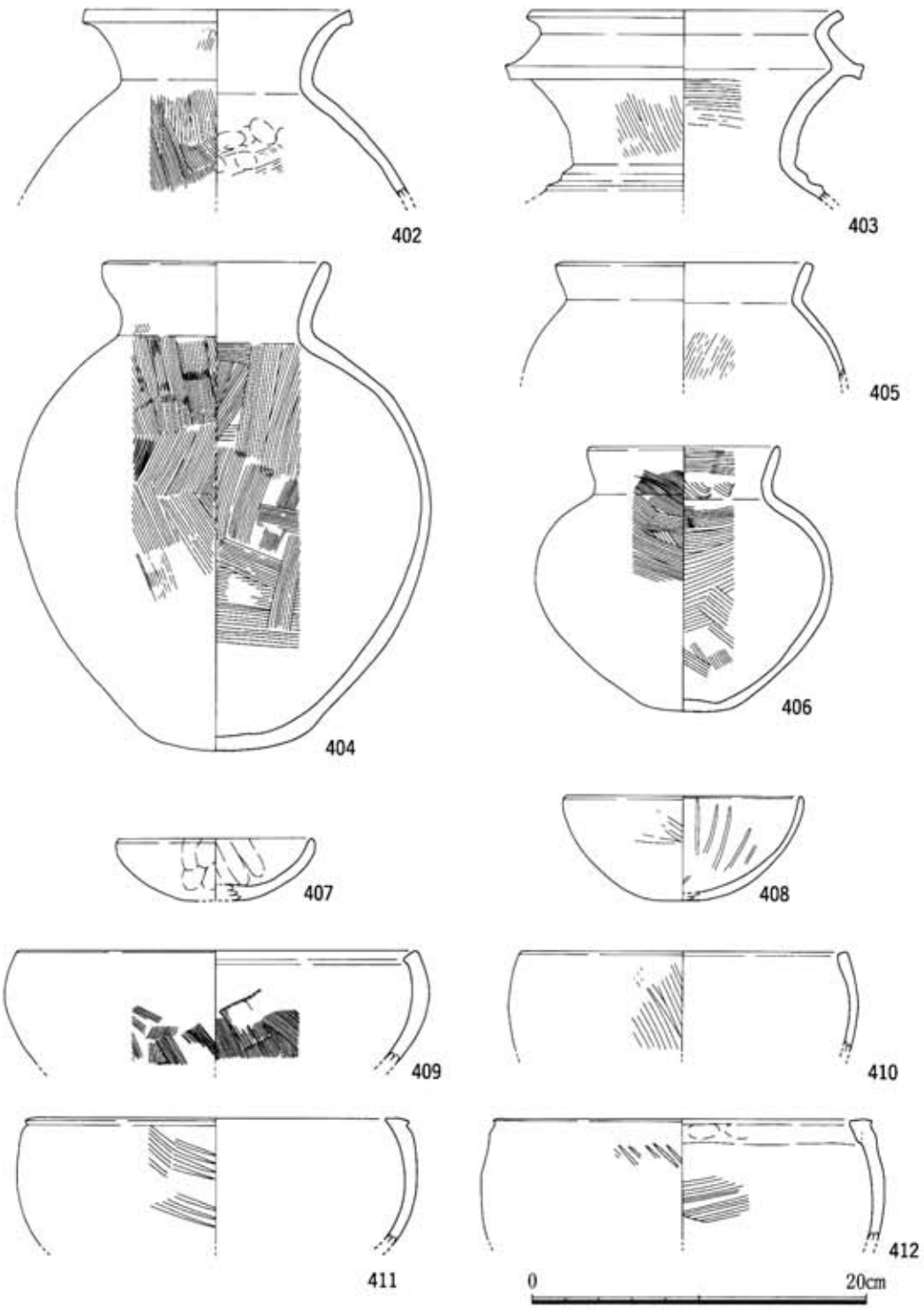



Fig. 143　S B29竪穴住居跡出土土器②（1/4）

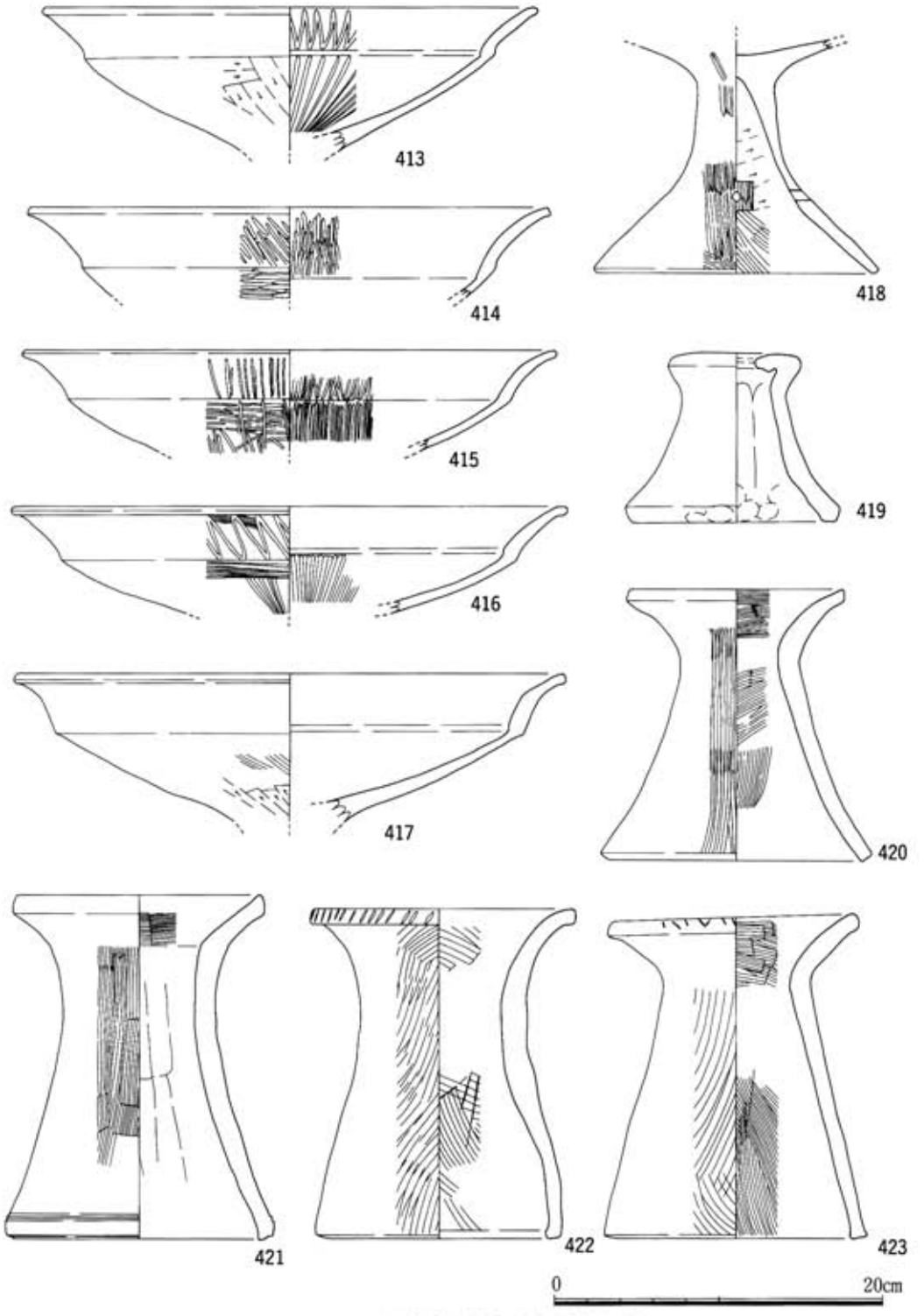



Fig. 144　S B29竪穴住居跡出土土器③ (1/4)

**ＳＢ36出土土器**（Fig. 145）

430は鉢のミニチュア。431はジョッキ形土器。底部は不安定な平底のものが多く，平底，凸レンズ状底のものがみられる。ＳＢ37との切合関係を考慮すればⅣ期か。

**ＳＢ37出土土器**（Fig. 145）

428・429は直口縁の鉢。凸レンズ状底のものがみられ，平底のものもある。図示していないがⅣ期的な高坏があることからⅣ期に位置づけられよう。

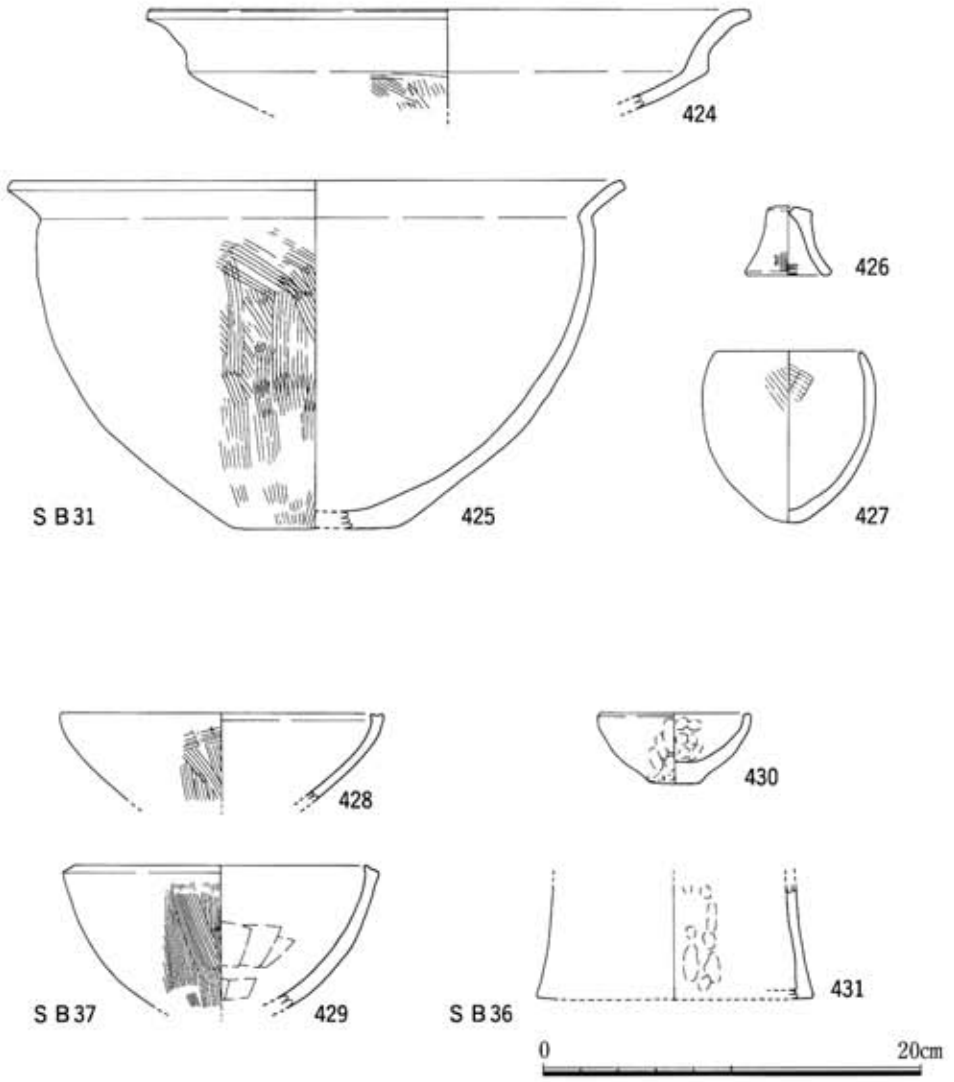



Fig. 145　ＳＢ31・36・37竪穴住居跡出土土器（1/4）

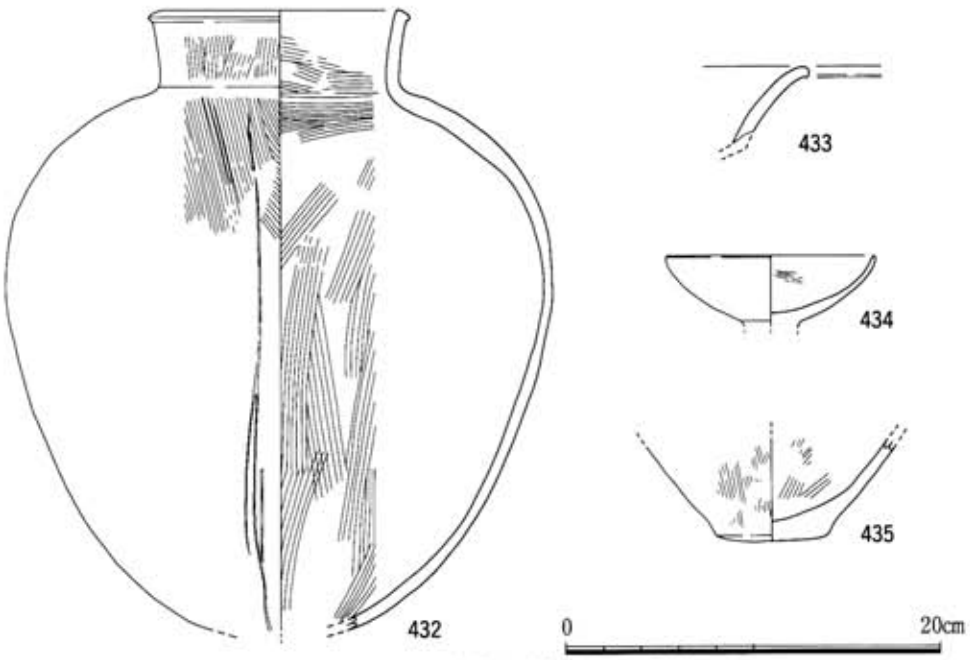



Fig. 146　S B41竪穴住居跡出土土器（1/4）

**S B41出土土器**（Fig. 146）

432は直口縁で長胴の壺。胴部に縦方向のヘラ描文か。433は長く大きく開く高坏と思われる。434は小型高坏の坏部。外来系のものであるが，胎土は通有のものである。435は凸レンズ状底の甕底部。底部は凸レンズ状底のものが主体を占めることと高坏の形態からV期に位置づけられる。

**S B45出土土器**（Fig. 147）

436はく字状口縁の甕。437は丸底の壺底部。438は大甕。口縁部に刻み，頸部に三角突帯がめぐる。439はミニチュアの鉢。440は袋状の受け部の器台。441は3方に円形透かしがある高坏の脚部。凸レンズ状底のものが多く，丸底のものがみられることからIV期の新しい段階に位置づけられる。

**S B46出土土器**（Fig. 147）

442は平底の甕底部。443はジョッキ形土器。混入の可能性もある。底部は平底のものが多い。切合関係などを考慮するとII期からIII期か。

外来系土器の項で図示するが，短頸の広口壺やいわゆる伝統的第V様式系統の底部などが出土しているが，それらのものは混入したものと考えられる。

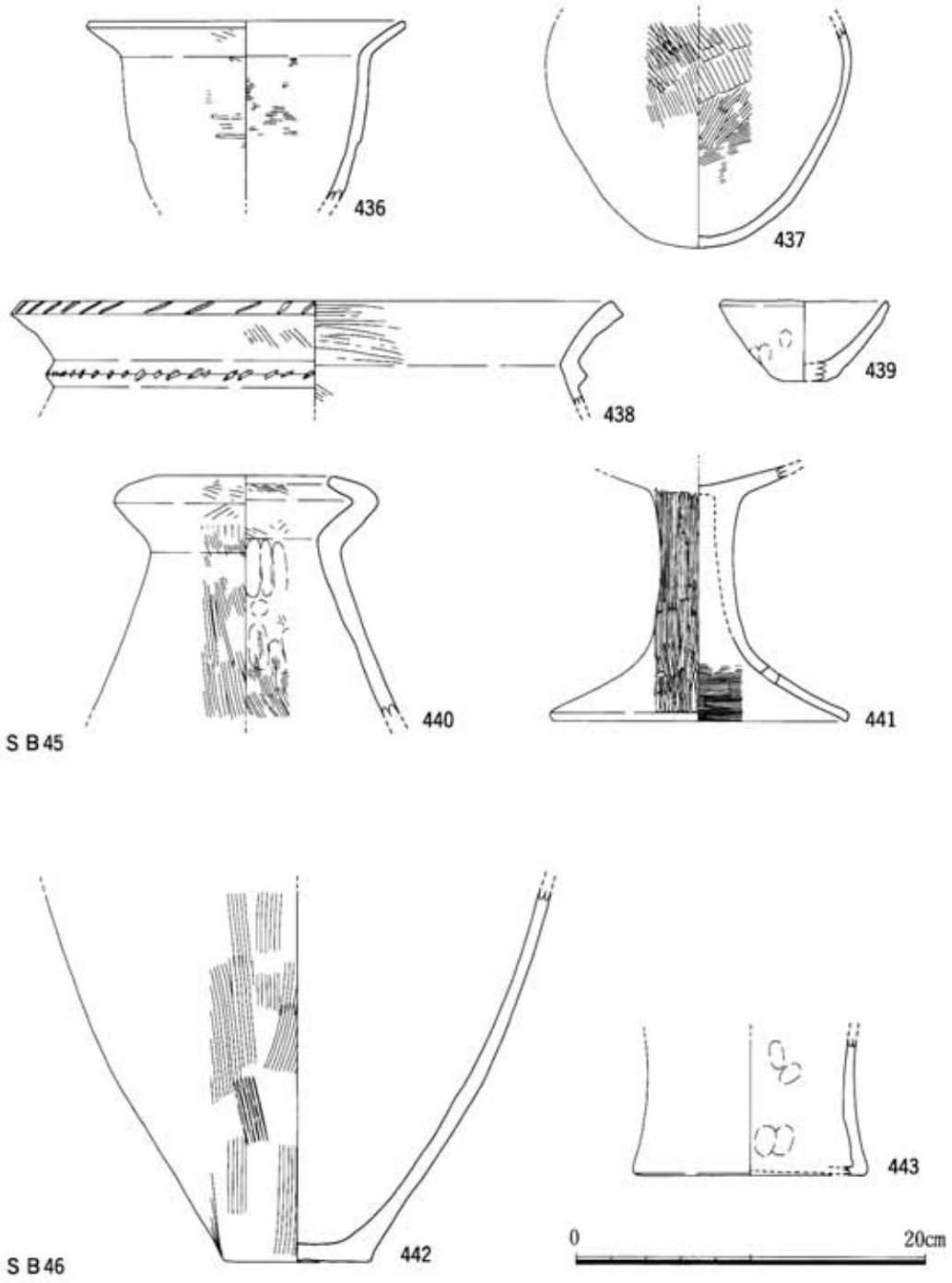



Fig. 147　S B 45・46竪穴住居跡出土土器（1/4）

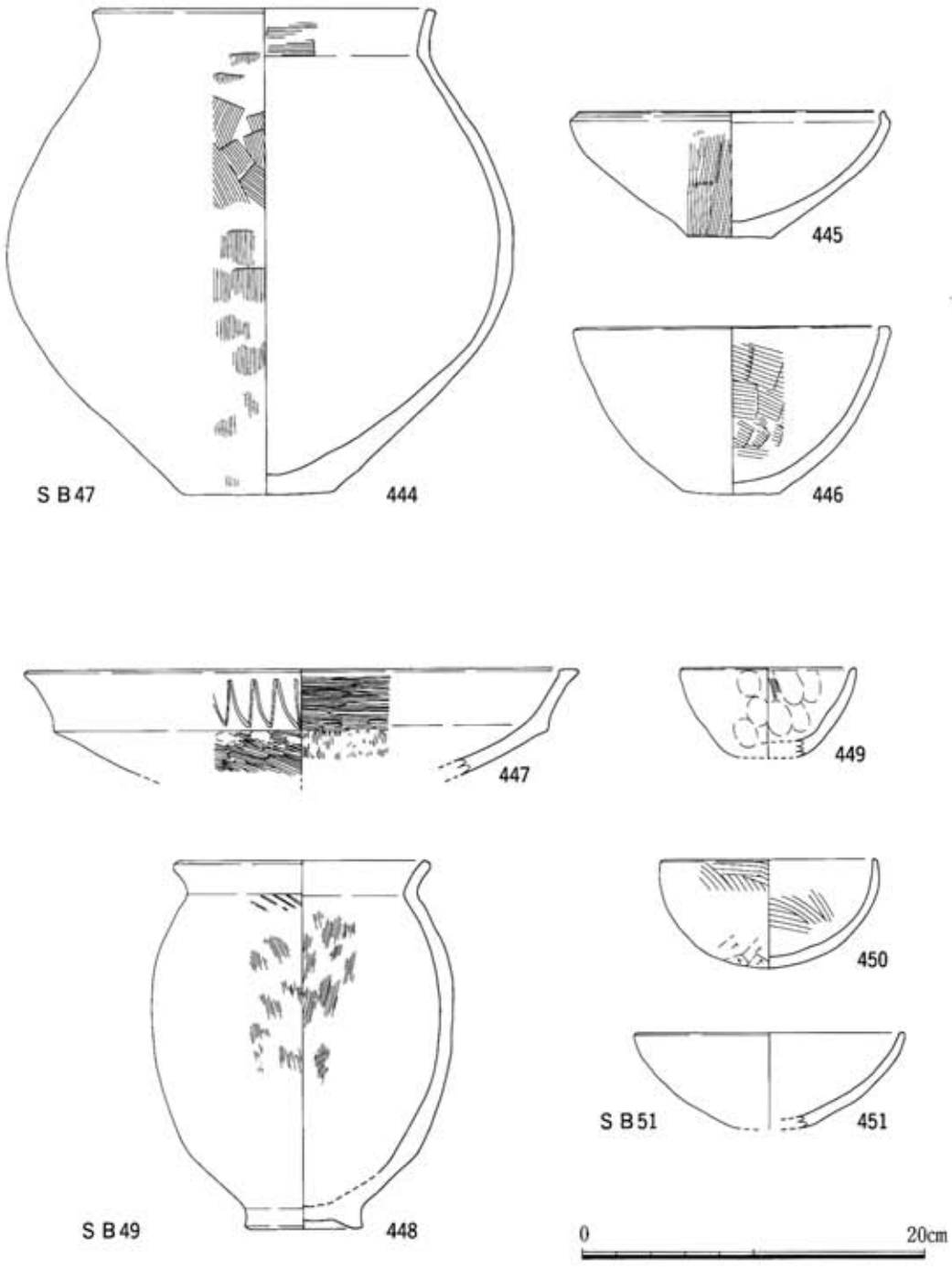



Fig. 148　S B47・49・51竪穴住居跡出土土器（1/4）

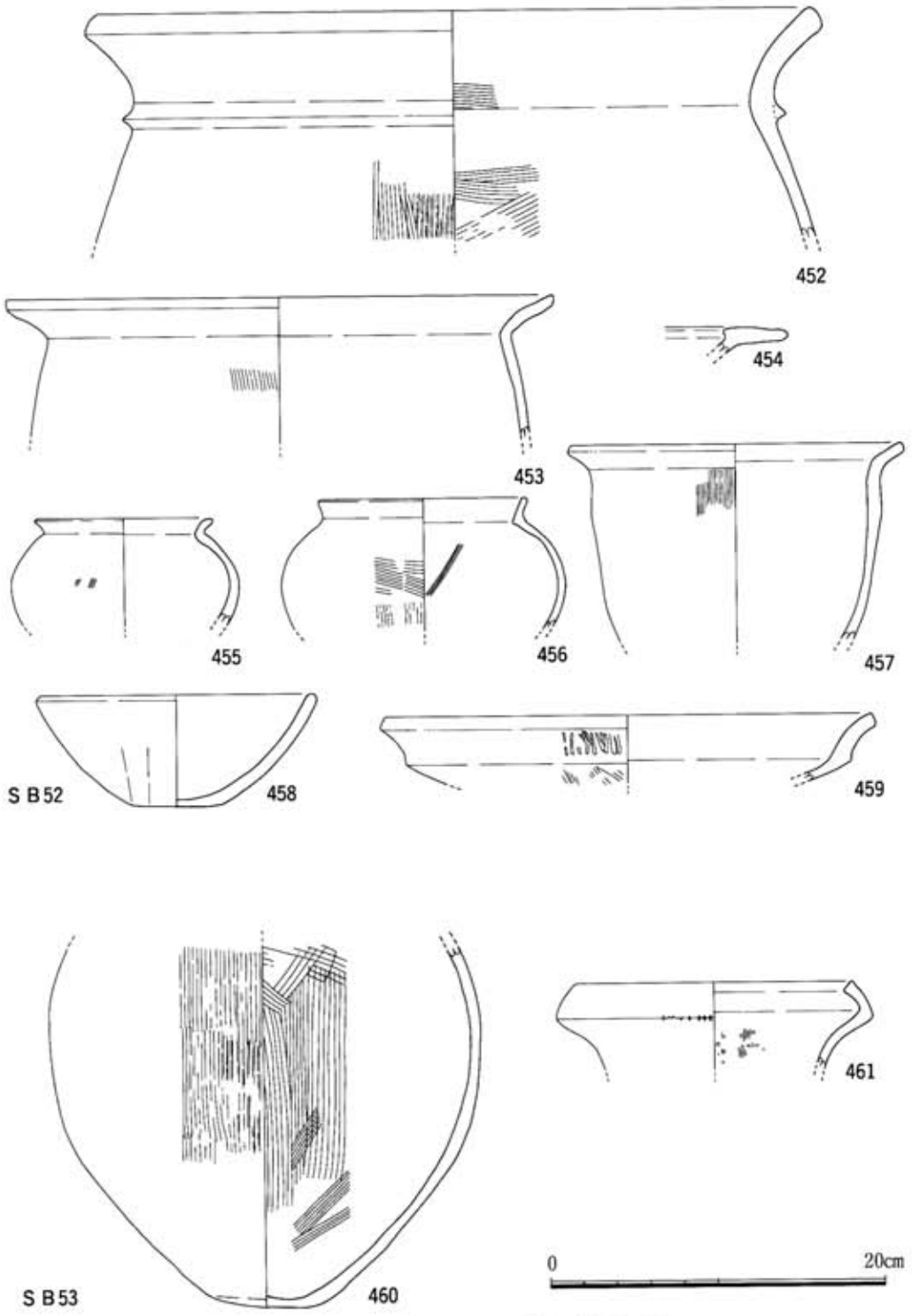



Fig. 149　S B52・53竪穴住居跡出土土器（1/4）

**S B47出土土器**（Fig. 148）

444は底部やや不安定な直口縁の壺。445はやや不安定な底部，446は不安定な底部の直口縁の鉢。他にも不安定な平底のものが出土しており，III期に位置づけられよう。

**S B49出土土器**（Fig. 148）

447は直線的な口縁で端部が肥厚する高坏。口縁部外面に鋸歯状の暗文を施す。448は高台状の底部でく字状口縁の甕。底部は不安定な平底のものが多く，凸レンズ状底のものがみられる。高坏の形態などからIII期と位置づけられる。

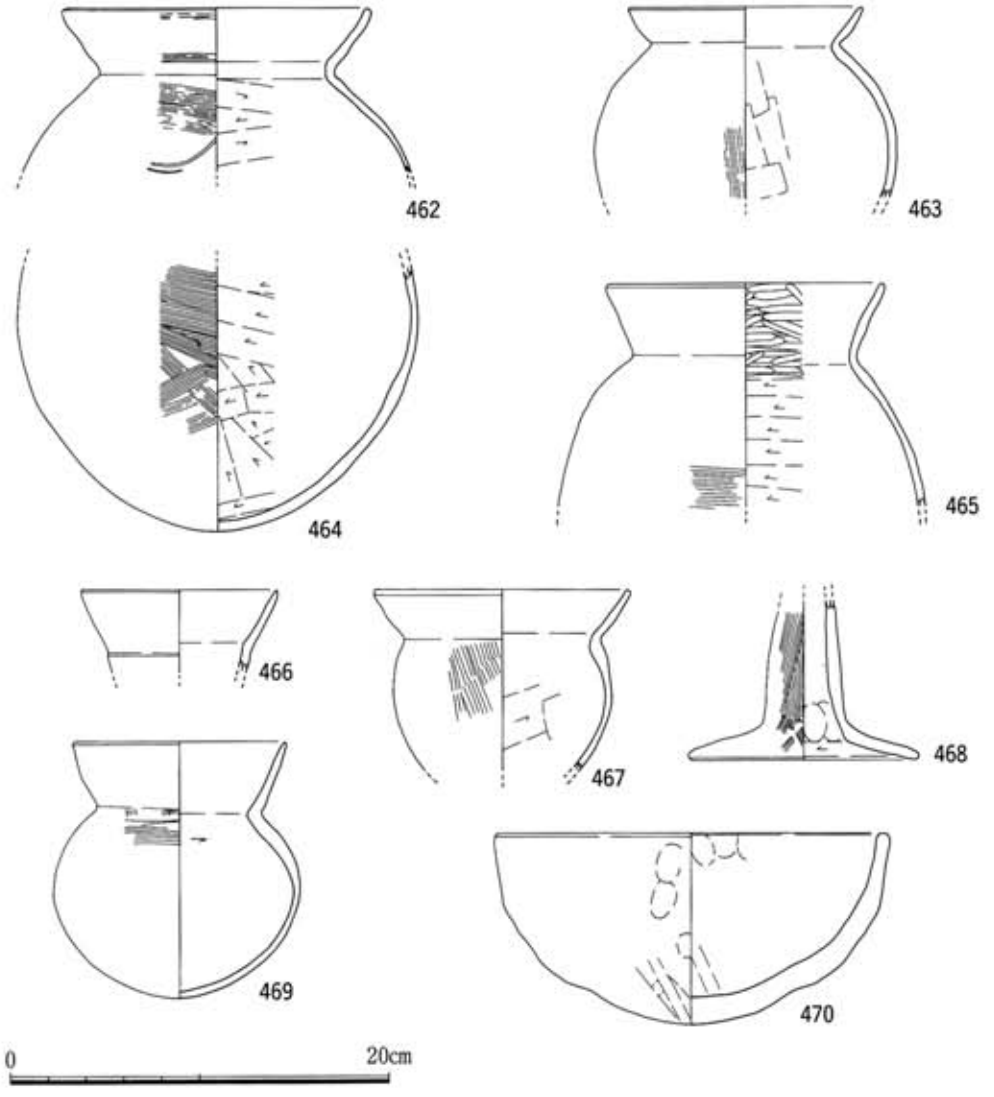



Fig. 150　S B54竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ51出土土器**（Fig. 148）

449は手捏ねで鉢のミニチュア。450は椀形，451は不安定な平底で直口縁の鉢。Ⅲ期か。

**ＳＢ52出土土器**（Fig. 149）

452は頸部に三角突帯が１条めぐる大甕。453・457はく字状口縁の甕。454は鋤先状口縁の高坏。455・456は無頸壺。458はやや不安定な底部の直口縁の鉢。459は高坏で，口縁部外面に暗文か。底部は不安定な平底のものが多く，平底のものがみられる。後期系高坏の形態などからⅢ期の古い段階に位置づけられよう。

**ＳＢ53出土土器**（Fig. 149）

460は凸レンズ状底の壺。461は内傾する口縁が内湾する複合口縁壺。屈曲部に刻み目を施す。460のような土器もあるが，切合関係などからⅢ期か。

**ＳＢ54出土土器**（Fig. 150）

462は布留系の甕。口縁部は立ち気味で，胴部に波状文を施す。463も布留系の甕。464は甕の底部。外面は通有のハケメではない雑なもので，下半部はケズリ状の調整である。いづれも器壁が厚めである。465は直口縁の壺。口縁内面にヘラミガキを施す。466・467・469は小型広口壺。468は高坏の脚部。470は粗製の直口縁の鉢。

在来系のものは存在するが小破片がほとんどで周辺の住居からの混入と考えられる。Ⅵ期ないしはそれ以降に位置づけられる。

**ＳＢ55出土土器**（Fig. 151）

471は広口壺。472は高坏脚部。473は屈折口縁で大型の鉢で，丸底と思われる。474はミニチュアの壺。475は凸レンズ状の底部。凸レンズ状底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。Ⅳ期に位置づけられる。

**ＳＢ63出土土器**（Fig. 151）

476はく字状口縁で，小型の甕か。477は鋤先状の，478は後期系高坏。不安定な平底のものが多く，レンズ状底がみられる。高坏の形態などと合わせ，Ⅲ期に位置づけられよう。

**ＳＢ64出土土器**（Fig. 152）

479は平底のく字状口縁の甕。480は底部がやや不安定な，481は平底の無頸壺。底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。図示していないが須玖系高坏があることとあわ

せてII期に位置づけられる。

**SB72出土土器**（Fig. 152）

482・483は平底の甕底部。484は粗製の直口縁でやや深めの鉢。他にも平底のものが出土しており，II期に位置づけられる。

**SB76出土土器**（Fig. 152）

485は外来系の小型広口壺。他に内面ヘラケズリの胴部小破片が出土しており，住居の形態（4本柱）とあわせてVI期に位置づけられる。

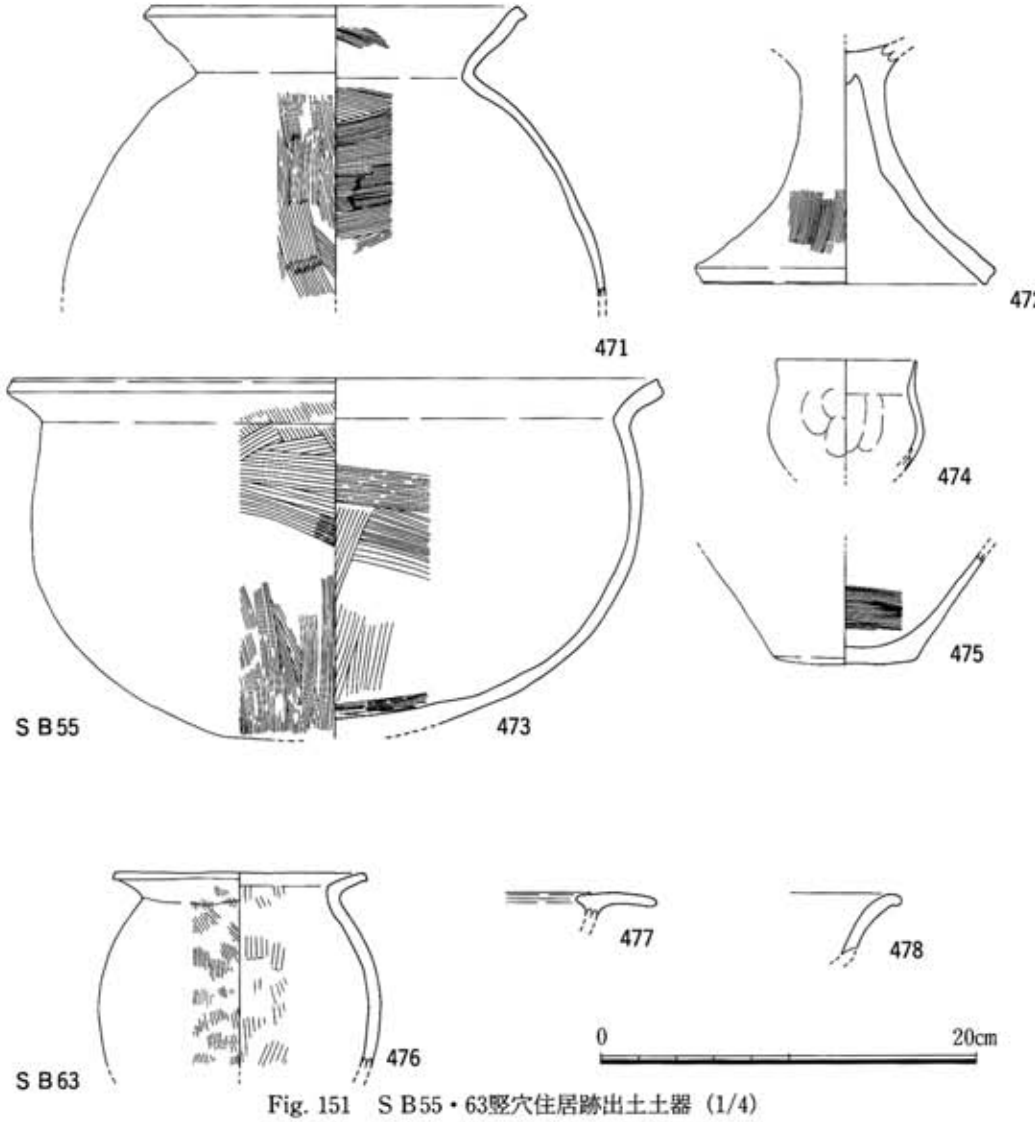



Fig. 151　SB55・63竪穴住居跡出土土器（1/4）

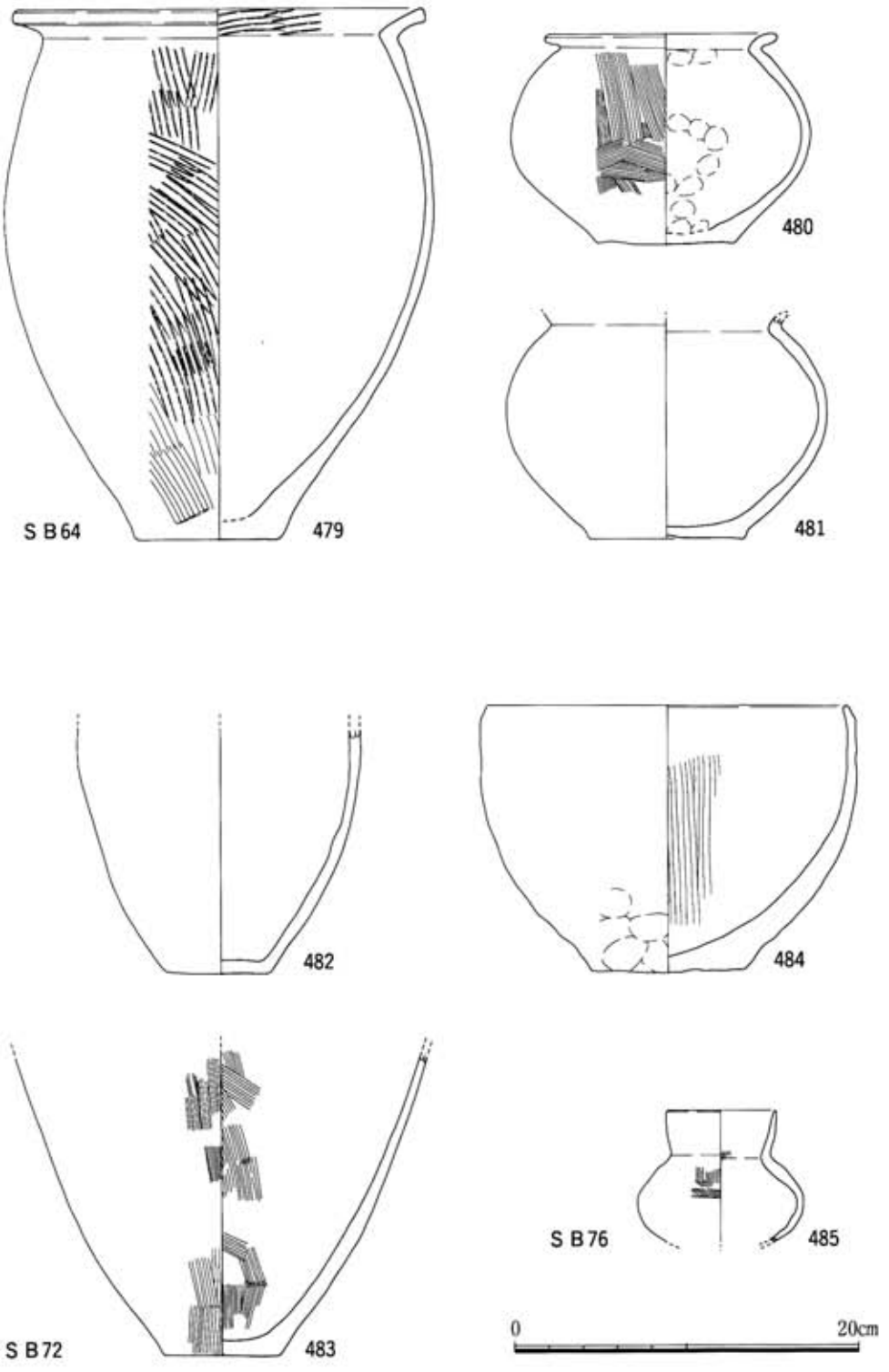



Fig. 152　S B64・72・76竪穴住居跡出土土器（1/4）

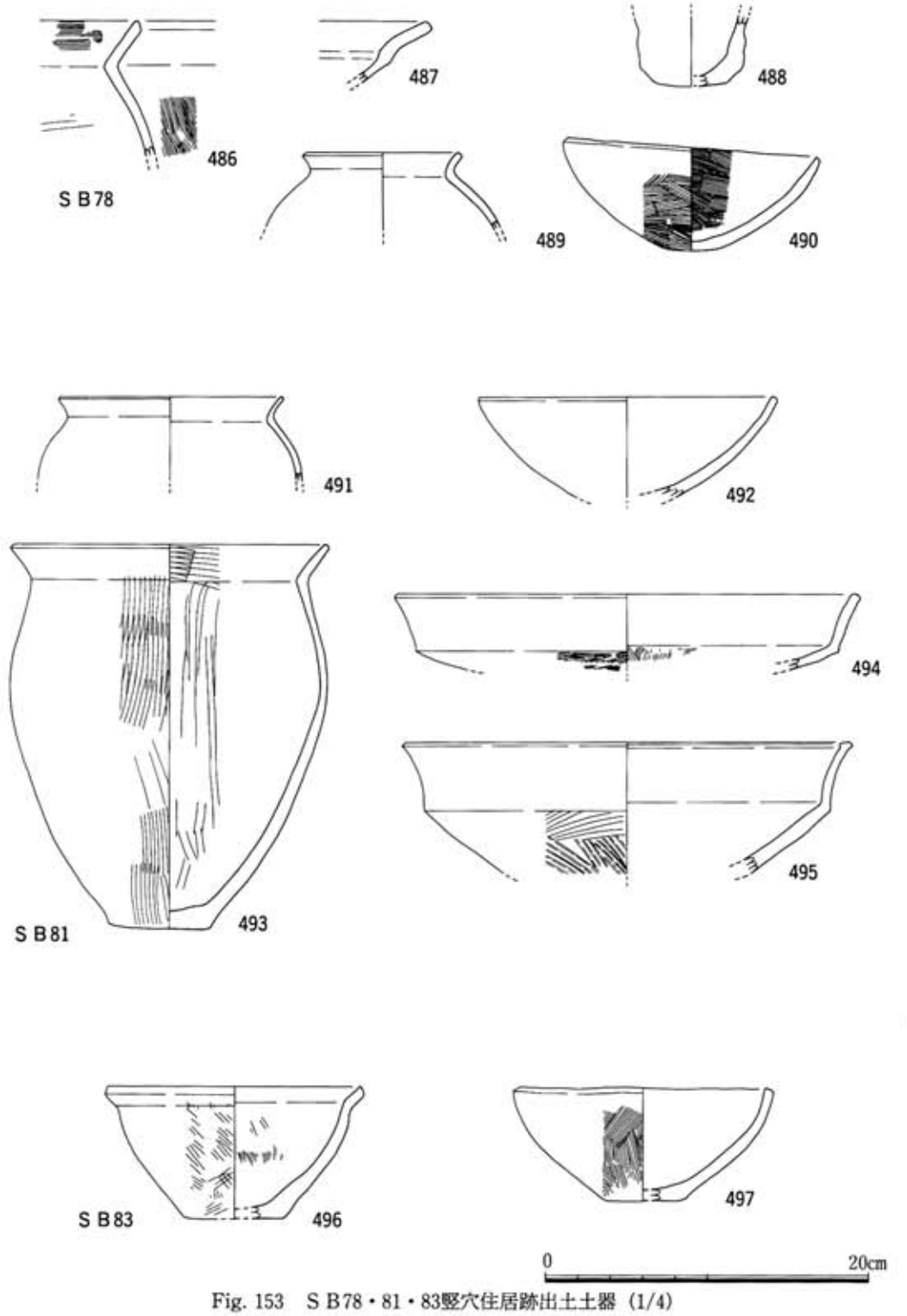



Fig. 153　S B78・81・83竪穴住居跡出土土器（1/4）

**ＳＢ78出土土器**（Fig. 153）

486はく字状口縁の甕。487は高坏。488は手捏ねで，甕のミニチュアか。489は小型の広口壺。490は直口縁の鉢で，底部がわずかに意識されている。底部は不安定な平底のものが多く，凸レンズ状底のものがみられる。高坏の形態などからⅣ期に位置づけられる。

**ＳＢ81出土土器**（Fig. 153）

491は小型の広口壺。492は直口縁の鉢。493は不安定な平底でく字状口縁の甕。494・495は口縁部が直立気味の高坏。不安定な平底のものが多く，凸レンズ状底のものがみられる。高坏の形態などからⅢ期に位置づけられる。

**ＳＢ83出土器**（Fig. 153）

496はやや不安定な平底で屈折口縁の鉢。487は不安定な平底で直口縁の鉢。鉢の形態からⅢ期に位置づけられよう。

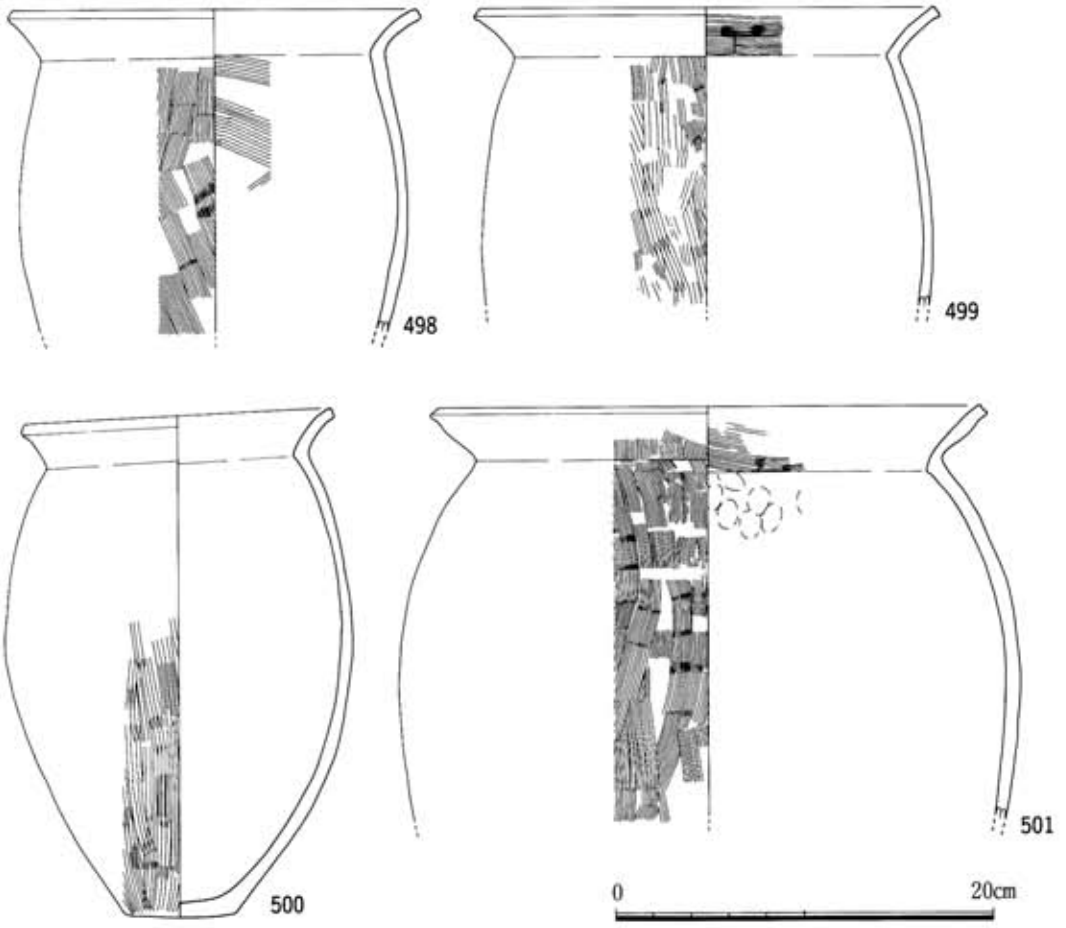



Fig. 154　ＳＸ302不明遺構出土土器①（1/4）

### c） ＳＸ302不明遺構出土土器（Fig. 154～156）

498～501はく字状口縁の甕。500は不安定な平底。502は長胴の広口壺。503は直口壺で，胴部に低い三角突帯が５条ほどめぐる。504は球形胴部の広口壺。口唇部に刻みを施す。505も広口壺で，底部は凸レンズ状底である。506は口縁部がほぼ直立する高坏。507は高坏脚部。508は不安定な平底で直口縁の鉢。509は凸レンズ状底で屈折口縁の鉢。510は平底で屈折口縁の鉢。511

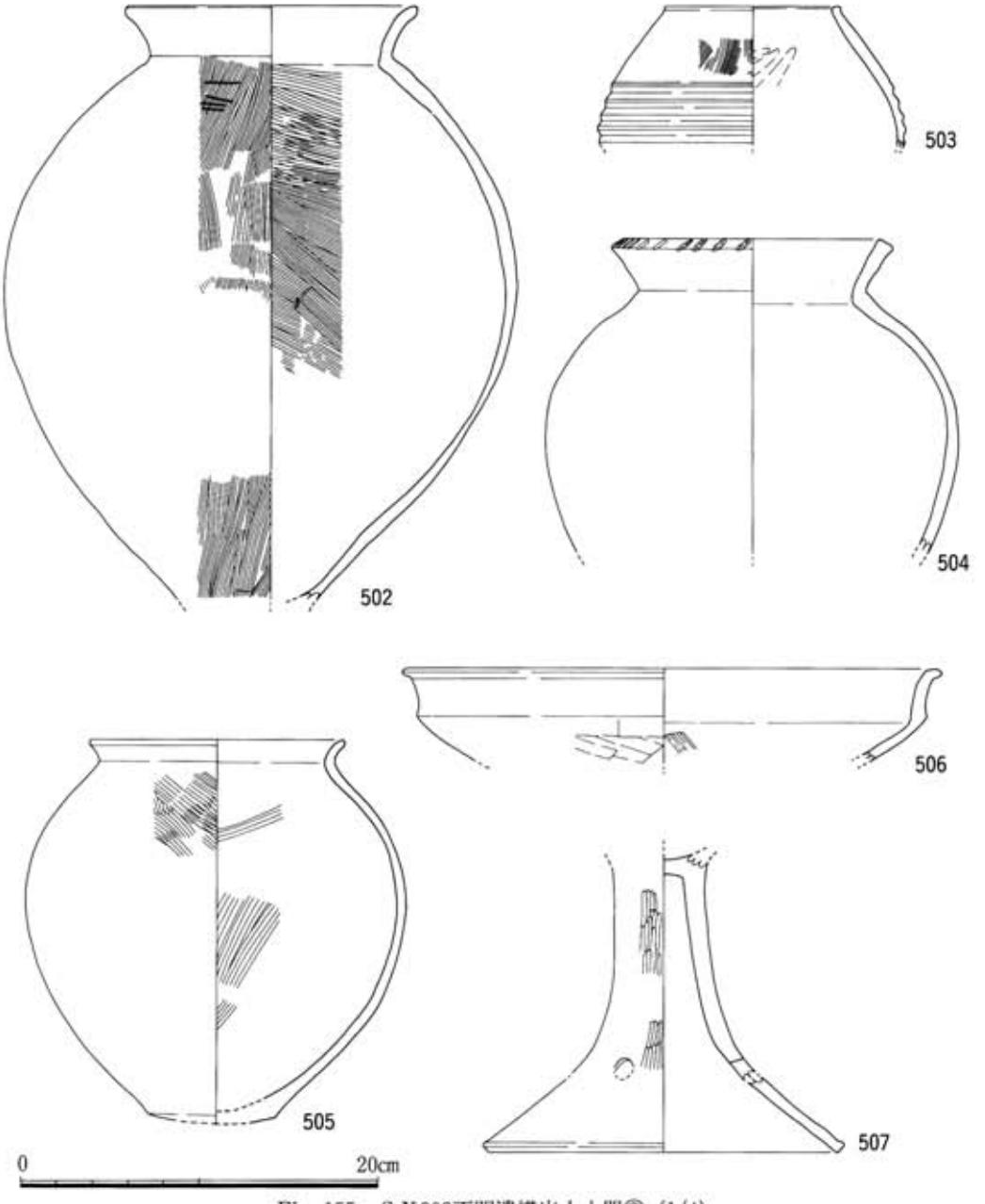



Fig. 155　ＳＸ302不明遺構出土土器②（1/4）

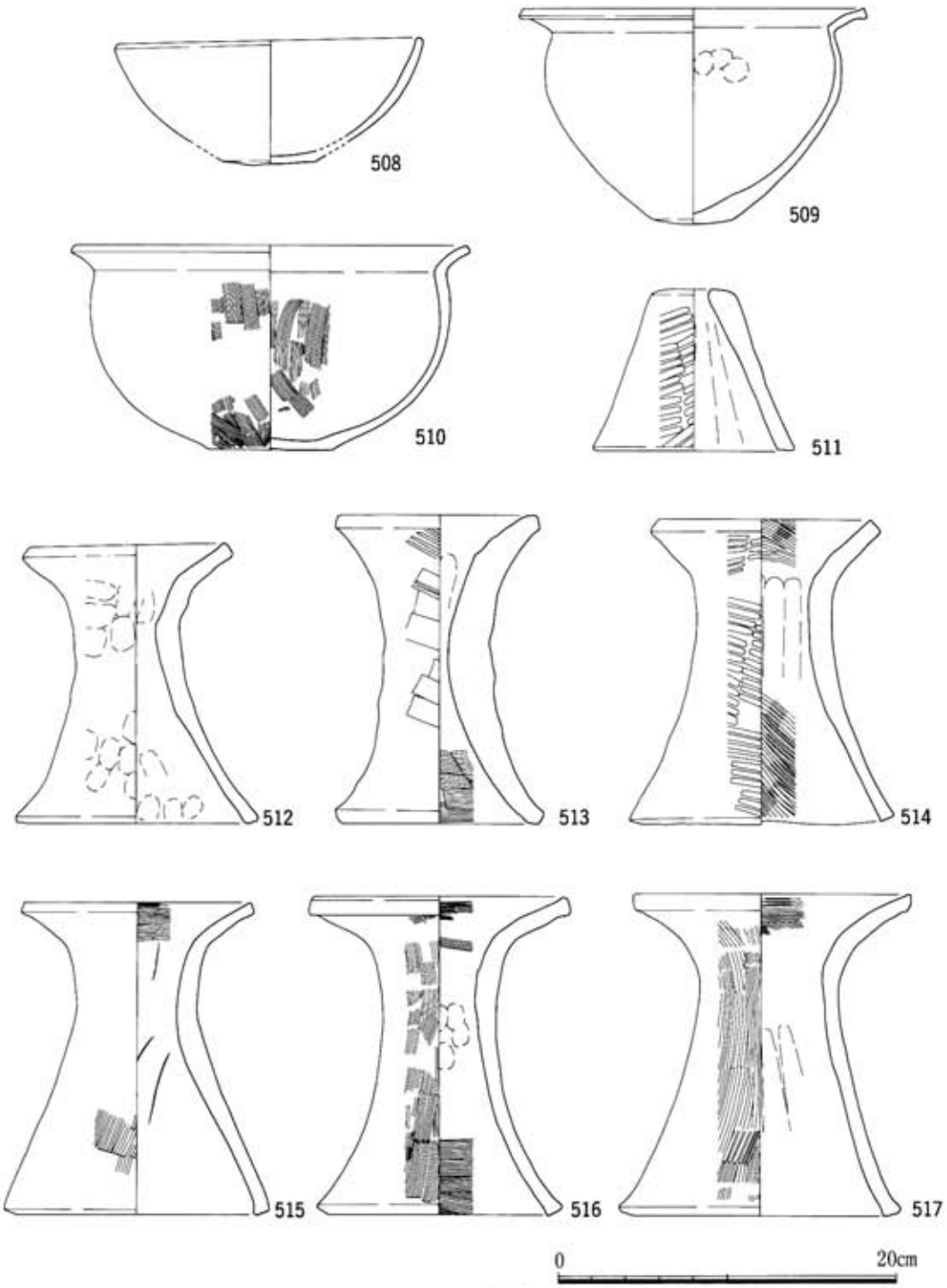



Fig. 156　ＳＸ302不明遺構出土土器③（1/4）

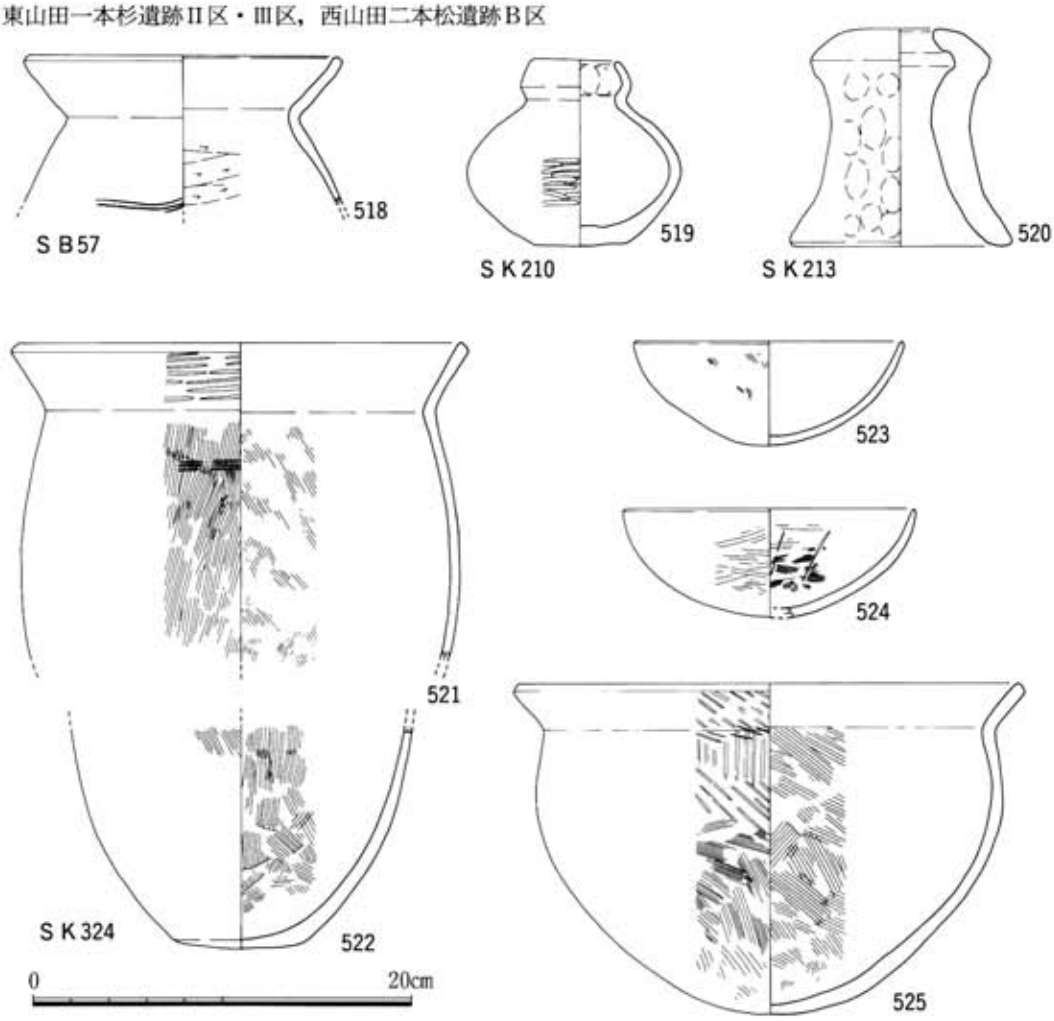



Fig. 157　S B57掘立柱建物跡，S K210・213・324土壙出土土器（1/4）

は受け部が水平な支脚。512～517は器台。器種的には器台が比較的目立つ存在である。底部は平底のものが多く，不安定な平底のものがみられる。高坏の形態と合わせてIII期の古い段階に位置づけられる。

**d）掘立柱建物跡・土壙出土土器**（Fig. 157・158）

518はS B57柱穴出土で，布留系の甕。胴部に波状文を施す。建物の時期はVI期であろう。

519はS K210出土で，小型の複合口縁壺である。底部はやや不安定で，新しい様相をもつ。II期に位置づけられよう。520はS K213出土で，袋状の受け部の支脚である。

521～525はS K324出土。521はく字状口縁の甕。522は凸レンズ状の甕底部。外面下半部はケズリである。523・524は椀形の鉢。524は内面に縦方向の暗文がある。525は丸底で屈折口縁の鉢。IV期に位置づけられる土器群である。

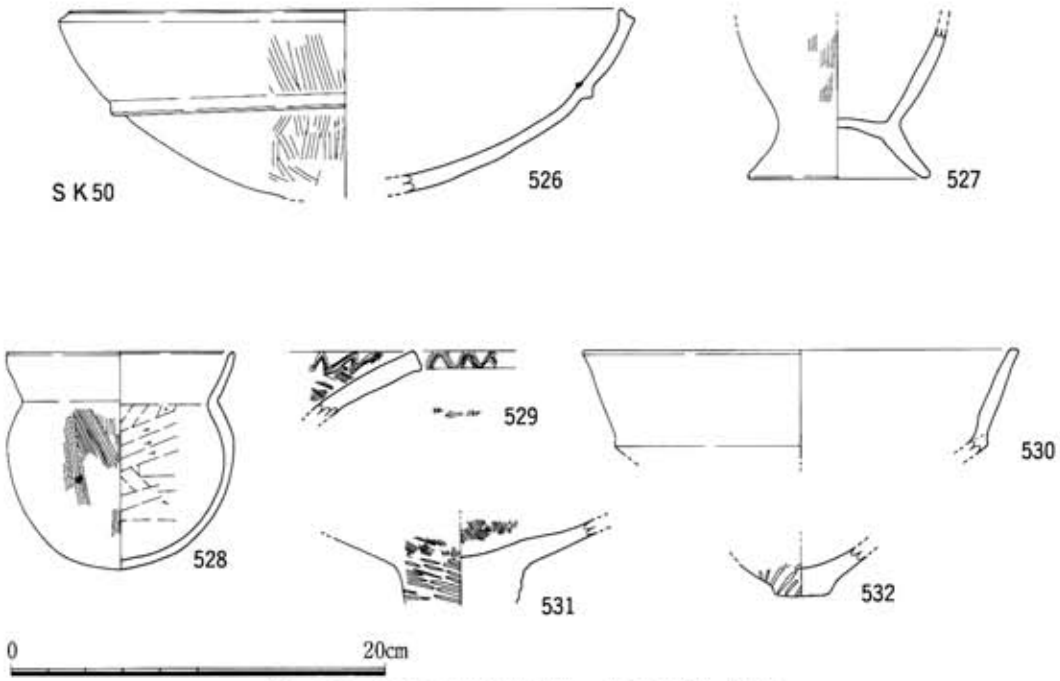



Fig. 158　SK50土壙出土土器・外来系土器（1/4）

526・527はSK50出土。526は丸底の鉢か。高坏の可能性もある。丹塗磨研が施され，胴部に三角突帯がめぐる。527は台付甕。

e）**外来系土器**（Fig. 158）

外来系のものとみられ，混入と考えられるものを図示した。528は小型の広口壺。529・530は二重口縁壺の口縁部と考えられる。529は口唇部と口縁部内面に波状文が施される。SB287埋土上層出土。531・532はいわゆる伝統的第Ⅴ様式系統の底部であろう。いずれも胎土などで搬入品であるかどうかを判断するのは困難である。528・530・531はSB46埋土出土で，SB54などからの混入か。532は奈良・平安時代のSD17出土。

このほかにも，外来系土器とみられるものがごく少量あるが，明確に遺構に伴わない。

Tab. 4　弥生時代～古墳時代の土器観察表

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 97-12<br>88005637 | SB165 | 甕 | 口径 12.2<br>器高 17.8 | 口縁部はかなり屈曲し，底部は平底。胴部はかなり厚ぼったい。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ハケ後ナデ。 | 褐色 |
| -13<br>88005636 | SB165 | 壺 | 口径 9.7<br>器高 10.5 | 無頸壺。胴部の張りが大きい。底部はやや不安定である。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 97-14<br>94002683 | SB235<br>P10 | 甕 | 口径 15.5 | く字状口縁の甕。口縁外面タタキ後ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ。 | 黄橙色 |
| -15<br>94002809 | SB235<br>埋土下層 | 〃 | 口径 26.0 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ。内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -16<br>94002685 | SB235<br>埋土上層 | 〃 | 口径 19.0<br>器高 29.2 | 完形に復原できる甕。底部は丸底に近い凸レンズ状底。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい橙色 |
| -17<br>89000882 | SB235<br>№40 | 〃 | 口径 20.8 | く字状口縁の甕。胴部やや下膨らみ。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ | 褐色 |
| 98-18<br>94002692 | SB235<br>P7 | 壺 | 口径 14.2 | 口縁部内面は直線的である。口縁部はヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 黄橙色 |
| -19<br>94004881 | SB235<br>埋土下層 | 〃 | 口径 22.6 | 口唇部に刻み，頸部に三角突帯1条めぐる。口縁部ハケメ後ヨコのナデ，胴部内外面ハケメ。 | 橙色 |
| -20<br>89000894 | SB235<br>№22 | 〃 | 口径 14.4 | 胴部は下膨らみ。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -21<br>94002682 | SB235<br>埋土 | 〃 | 口径 19.3 | 長胴の広口壺。口唇部に刻み。口唇部ヨコのナデ，頸部ハケメ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ。内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -22<br>94002676 | SB235<br>埋土下層 | 〃 | 口径 16.0 | 長胴の広口壺。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -23<br>94002810 | SB235<br>№29・30 | 〃 | 口径 21.0 | 広口壺。口唇部に刻み，肩部に波状文，沈線文。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ。内面ハケメ後ナデ | にぶい黄橙色 |
| -24<br>94002675 | SB235<br>№31 | 〃 | 口径 22.0<br>器高 28.6 | 広口壺。底部は丸底。口唇部ヨコのナデ。頸部ハケメ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | にぶい黄色 |
| 99-25<br>88005653 | SB235<br>№23 | 〃 | 口径 12.8 | 尖り底の広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -26<br>94004776 | SB235<br>№37 | 〃 | 胴径 17.8 | 精製の長頸壺。外面は頸部から胴部上半部ヘラミガキ，胴部下半部ナデ。内面ナデ，下半部ハケメ。 | 黄橙色 |
| -27<br>94004205 | SB235<br>№36 | 台付壺 | 口径 13.2 | 精製の台付壺。口縁部ヨコのナデ。胴部から脚部にかけて外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。 | 茶褐色 |
| -28<br>94004204 | SB235<br>№16 | 台付鉢 | 口径 19.8 | 屈折口縁の鉢に脚部をつけたもの。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後一部ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -29<br>89000863 | SB235<br>№15 | 鉢 | 口径 20.0<br>器高 13.1 | 丸底で屈折口縁の鉢。かなり薄く精製品。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ハケメ，下半部ハケメ後ヘラミガキ。 | 褐色 |
| -30<br>88005623 | SB235<br>№11 | 〃 | 口径 22.7<br>器高 10.5 | 丸底で屈折口縁の鉢。口縁部ハケメ後一部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -31<br>94004196 | SB235<br>埋土下層 | 支脚 | 底径 12.6<br>器高 11.3 | 香形の支脚。受部はつまみ出す。外面タタキ。上面タタキ後ナデ。内面ユビオサエ後ナデ。 | 明褐色 |
| -32<br>94004777 | SB235<br>P7 | 器台 | 口径 13.4<br>器高 17.9 | 口唇部に刻み。外面タタキ後上半部ハケメ。内面上半部ハケメ，下半部ナデ。 | 明黄褐色 |
| -33<br>94004195 | SB235<br>床面 | 〃 | 口径 17.0<br>器高 19.1 | 完形。外面タタキ後ハケメ。内面ハケメ，中央部ユビオサエ後ナデ。 | 明褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 100-34<br>94004080 | S B235<br>埋土下層 | 台付鉢 | 裾径 10.6 | 4方に径2㎜ほどの小孔を3ヶ所は2，1ヶ所は3孔穿つ。在地の台付鉢か。内外面ともヨコのナデ。 | 浅黄橙色 |
| -35<br>94004206 | S B235<br>埋土下層 | スプーン | | スプーン状土製品の破片。調整はナデ。 | 褐色 |
| -36<br>94004197 | S B235<br>床面 | 鉢 | 口径 13.8<br>器高 5.2 | 椀形の鉢。外面はナデ，底部ケズリ。内面上半部ハケメ，下半部ナデ。 | 明褐色 |
| -37<br>89008994 | S B235<br>№1 | 〃 | 口径 12.6<br>器高 5.1 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ハケメ後暗文状のヘラミガキ。 | 茶褐色 |
| -38<br>94002690 | S B235<br>№42 | 〃 | 口径 16.1<br>器高 8.5 | 底部丸底のやや深い鉢。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ，内面上半部ハケメ，下半部ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -39<br>94004780 | S B235<br>埋土下層 | 〃 | 口径 15.4<br>器高 8.6 | 底部丸底のやや深い鉢。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ，内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -40<br>94004199 | S B235<br>埋土下層 | ミニチュア | 口径 7.8<br>器高 3.4 | 手捏ね。不安定な平底の鉢のミニチュア。外面ユビオサエ後ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -41<br>94004198 | S B235<br>P10 | 〃 | 口径 8.1<br>器高 4.7 | 手捏ね。椀形の鉢のミニチュア。外面ユビオサエ後ナデ，内面ナデ。 | 暗褐色 |
| -42<br>94004200 | S B235<br>№45 | 〃 | 口径 10.2<br>器高 5.7 | 凸レンズ状底の鉢のミニチュア。外面タタキ後ナデ。内面ハケメ。 | 褐色 |
| -43<br>94004202 | S B235<br>埋土下層 | 高坏 | 裾径 16.6 | 坏部との接合の際の擬口縁がある。3方透かし。外面ヘラミガキ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -44<br>94004203 | S B235<br>埋土 | 〃 | 裾径 17.0 | 器壁がやや薄く，精製品。坏部内面，外面丁寧なヘラミガキ，内面下半部ハケメ，上半部ナデ。 | 茶褐色 |
| -45<br>89000852 | S B235<br>№2 | 〃 | 口径 24.4 | 口縁部が大きく長く開く。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。内面に暗文がある。 | 褐色 |
| -46<br>95000162 | S B235<br>埋土上層 | 〃 | 口径 28.2 | 口縁部が大きく長く開く。坏部外面，内面ヘラミガキ。口縁外面ナデ後鋸歯状の暗文を施す。 | 橙色 |
| -47<br>94004201 | S B235<br>№46 | 〃 | 口径 32.6 | 口縁部が大きく長く開く。口縁部ヨコのナデの後外面鋸歯状の暗文，内面縦方向の暗文を施す。坏部内外面ヘラミガキ。 | 茶褐色 |
| -48<br>94004778 | S B235<br>№33 | 〃 | 口径 20.2 | 屈折口縁の鉢に脚部をつけた形態。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。坏部内外面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| 101-49<br>94005096 | S B236 | 〃 | 口径 32.9 | 屈曲が明確でなく，直線的である。口縁内面に暗文を施す。口縁部ヨコのナデ。坏部内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -50<br>94005095 | S B236<br>P1 | 壺 | 口径 15.5 | 直立気味の口縁部。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 灰白色 |
| -51<br>94005097 | S B236 | 器台 | | 胴部中央に4条の沈線がめぐる。透かしがみられるが，数は小片のため不明。内外面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -52<br>94002650 | S B238<br>埋土 | 鉢 | 口径 15.4 | 椀形の鉢で，胴部に三角突帯とコ字状突帯が1条ずつめぐる。口縁部ヨコのナデ。外面下半ハケメ後ナデ。内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -53<br>94002639 | S B238<br>埋土 | 〃 | 口径 15.7<br>器高 5.4 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。内外面ナデ。 | にぶい黄褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 101-54<br>94002642 | SB238 | 鉢 | 口径 14.2<br>器高 4.15 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。内面に縦方向の暗文を施す。 | 橙色 |
| -55<br>94002640 | SB238 | 台付鉢 | 裾径 13.2 | 鉢か甕か不明。外面ハケメ後ナデ，脚部内面ナデ。内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -56<br>94002643 | SB238<br>埋土 | 鉢 | 口径 19.8 | 屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，内外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -57<br>94002641 | SB238<br>埋土 | 〃 | 口径 12.2<br>器高 8.1 | 直口縁で，有孔の鉢。底部は不安定な平底。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。内面に暗文か。 | 橙色 |
| -58<br>95000165 | SB238<br>埋土 | ミニチュア | 口径 3.85<br>器高 5.0 | 手捏ね。グラス形で，類例に乏しい。ユビオサエ後ナデ。 | 黄褐色 |
| -59<br>88005655 | SB238<br>P7 | 鉢 | 口径 17.2<br>器高 11.4 | 直口縁で，内傾する口縁部をもつ鉢。丸底。外面上半部はハケメ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | 灰褐色 |
| -60<br>88005654 | SB238<br>P7 | 〃 | 口径 20.0 | 直口縁の鉢。口唇部ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -61<br>94002646 | SB238<br>埋土 | 器台 | | 胴部中央に6条沈線をめぐらす。上下に透かし孔があるが，破片のため数は不明。内外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| 102-62<br>94002750 | SB239<br>埋土 | 甕 | 口径 25.2 | く字状口縁の甕。口縁端部がやや肥厚する。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ナデ。 | 暗褐色 |
| -63<br>94002757 | SB239<br>埋土 | 〃 | 底径 7.6 | 底部平底の甕。外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -64<br>94002749 | SB239<br>埋土中層 | ミニチュア | 口径 0.95<br>器高 4.0 | 壺のミニチュア。平底で，球形の胴部の上部に孔を穿つ。内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -65<br>94002743 | SB239<br>埋土 | 〃 | 口径 9.4<br>器高 5.2 | 鉢のミニチュア。平底で，直口縁である。口縁部ナデ。外面タタキ後ナデ，内面ハケメ。 | 橙色 |
| -66<br>94002746 | SB239<br>埋土上層 | 高坏 | 口径 25.0 | 口縁部が直立気味の坏部。内外面ヨコのナデ，坏部外面ハケメ後ヨコのナデ。 | 橙色～黒褐色 |
| -67<br>94002753 | SB239<br>埋土 | 〃 | 裾径 23.4 | 裾部が内湾気味に立ち上がる。内外面ハケメ，外面にタタキがわずかに残る。 | 橙色 |
| -68<br>94002756 | SB239<br>埋土 | 器台 | 口径 10.2<br>器高 13.2 | 受け部は緩やかに外反し，裾部は直線的である。受け部，裾部ヨコのナデ。内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -69<br>94002755 | SB239<br>埋土 | 〃 | 口径 11.9<br>器高 16.6 | 胴部中央で屈曲し，上下ほぼ対称。外面タタキ後一部ナデ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -70<br>94002752 | SB239<br>埋土下層 | ジョッキ | | ジョッキ形土器の把手。調整はナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 103-71<br>94002688 | SB247<br>No2・1 | 壺 | 口径 17.9<br>器高 37.9 | 凸レンズ状底。口縁内面に文様のような感じのハケメか。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄褐色 |
| -72<br>94002808 | SB247<br>No1 | 〃 | 口径 20.7<br>器高 31.1 | 不安定な平底。頸部の突帯は貼付かどうか不明。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面上半ハケメ後ナデ。下半ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -73<br>94002689 | SB247<br>埋土上層 | 甕 | 口径 18.3 | く字状口縁の甕。口唇部ややくぼむ。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい赤褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 103-74<br>89000174 | S B247<br>№4 | 甕 | 口径 18.6 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。現在所在不明。 | 明赤褐色 |
| -75<br>94002805 | S B247<br>埋土下層 | 鉢 | 口径 21.8<br>器高 7.3 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ，胴部から底部外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄色 |
| -76<br>94002804 | S B247<br>埋土上層 | 〃 | 口径 11.2<br>器高 10.0 | 口縁部がやや屈曲する。壺に近い形態である。底部は不安定な平底か。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ後ナデ，内面ナデ | にぶい黄色 |
| 104-77<br>94002684 | S B247<br>埋土上層 | 大鉢 | 口径 47.9<br>器高 26.3 | 超大型の鉢。凸レンズ状底。頸部と胴部に三角突帯が1条めぐる。外面タタキ後ハケメ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -78<br>94004207 | S B248 | 甕 | 口径 28.8 | く字状口縁の甕。胴部最大径は比較的上位にある。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面上半ナデ，下半部ハケメ。 | 暗褐色 |
| -79<br>94004210 | S B248<br>埋土上層 | 〃 | 口径 27.0 | 球形胴部の甕。頸部に三角突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -80<br>94004208 | S B248 | 〃 | 底径 8.8 | 底部平底の甕。内外面ハケメ。 | 暗褐色 |
| 105-81<br>94002633 | S B249<br>第3群 | 〃 | 口径 21.0 | く字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -82<br>94002540 | S B249<br>№35 | 〃 | 口径 27.2 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい赤褐色 |
| -83<br>94002956 | S B249<br>第3群 | 〃 | 口径 30.4 | く字状口縁の甕。口唇部に刻みを施す。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | 明褐色 |
| -84<br>94004053 | S B249 | 〃 | 口径 28.2<br>器高 43.9 | 完形に復原できる。凸レンズ状底。口縁外面タタキ後ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面下半部にケズリの痕跡がある。 | 黄橙色 |
| -85<br>94004178 | S B249<br>土器溜 | 壺 | 口径 34.4 | 頸部に三角突帯めぐらす広口壺。口唇部に刻みを施す。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 茶褐色 |
| 106-86<br>94002802 | S B249<br>№31 | 甕 | 口径 19.0 | 屈曲部が明瞭でない。口縁外面タタキ後ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ。 | にぶい黄橙色 |
| -87<br>94002594 | S B249<br>第1群 | 〃 | 口径 22.0<br>残高 26.3 | く字状口縁の甕。凸レンズ状底。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -88<br>94002638 | S B249<br>表採 | 〃 | 口径 17.2<br>残高 23.8 | 頸部にややしまりがない。凸レンズ状底。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 明褐色 |
| -89<br>94002952 | S B249 | 〃 | 口径 18.9<br>残高 27.5 | 頸部にややしまりがない。凸レンズ状底。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 茶褐色 |
| -90<br>94002955 | S B249<br>№22 | 〃 | 口径 15.8<br>器高 34.9 | 胴部がやや下膨らみ。凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | 褐灰色 |
| 107-91<br>89008962 | S B249<br>№25 | 壺 | 口径 17.0 | 肩部に描きかけの櫛描の文様がある。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ，外面下半部ケズリ。 | 明褐色 |
| -92<br>94002958 | S B249<br>第3群 | 〃 | 口径 17.7 | 頸部に三角突帯がめぐる広口壺。口唇部に刻みを施す。口縁部ヨコのナデ。頸部から胴部外面ハケメ，下半部ケズリ。 | にぶい黄橙色 |
| -93<br>94004052 | S B249<br>№34 | 〃 | 口径 21.6 | 口縁部がやや長い広口壺。口縁内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 黄橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 107-94<br>94004535 | ＳＢ249<br>第３群 | 壺 | 口径 18.6 | 直線的に内傾する口縁部をもつ複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。頸部外面ハケメ，内面ハケメ，下部後ナデ。 | にぶい橙色 |
| -95<br>94002539 | ＳＢ249<br>検出面 | 〃 | 口径 22.5 | 長い口縁部をもつ広口壺。頸部に押圧文をめぐらす。口縁部外面タタキ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。外面下半部ケズリ。 | 黄橙色 |
| -96<br>94002967 | ＳＢ249<br>第１群 | 〃 | 胴径 24.6 | やや長胴気味の胴部。丸底に近い凸レンズ状底。肩部に沈線が８条程めぐる。底部に×字形のヘラ描き文。内外面ハケメ。 | 橙色 |
| 108-97<br>94002623 | ＳＢ249<br>埋土上層 | 高坏 | 口径 25.4 | 脚部に円形の透かしを３方に施す。口縁部は磨耗する。坏部内外面，脚部外面ヘラミガキ。脚部内面上半シボリ後ナデ。 | にぶい赤褐色 |
| -98<br>94002627 | ＳＢ249<br>埋土上層 | 〃 | 口径 32.1 | 脚部に円形の透かしを４方に施す。口縁外面に鋸歯状の暗文。坏部内面はヘラミガキか。脚部内面上半シボリ後ナデ。 | 橙色 |
| -99<br>94002964 | ＳＢ249<br>第３群 | 壺 | 口径 18.0 | 長胴の広口壺。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | にぶい橙～橙色 |
| -100<br>94002973 | ＳＢ249<br>第２群 | ミニチュア | 口径 6.1 | 壺のミニチュア。口縁部ヨコのナデ，胴部外面縦方向のヘラミガキ，内面ハケメ。 | 明赤褐色 |
| -101<br>94002631 | ＳＢ249<br>埋土 | 鉢 | 口径 12.6 | 椀形の鉢。外面は磨耗のため調整不明。内面ナデ。 | 橙色 |
| -102<br>94002622 | ＳＢ249<br>第１群 | 〃 | 口径 14.5<br>器高 6.0 | 不安定な平底で，直口縁の鉢。内外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -103<br>94004186 | ＳＢ249<br>第３群 | 〃 | 口径 22.2<br>器高 14.7 | 不安定な平底で，屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部後ナデか。内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -104<br>94002624 | ＳＢ249<br>第３群 | ミニチュア | 口径 10.7 | 壺のミニチュアか。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -105<br>94002621 | ＳＢ249<br>第３群 | 〃 | 口径 10.0<br>器高 10.0 | 甕のミニチュア。不安定な平底。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。 | 明赤褐色 |
| 109-106<br>94002625 | ＳＢ249<br>第２群 | 台付鉢 | 口径 16.7 | 屈折口縁の鉢に脚部をつけたもの。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -107<br>94002630 | ＳＢ249<br>№29 | 鉢 | 口径 20.2 | 丸底の屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ナデかケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| -108<br>94002597 | ＳＢ249<br>第３群 | 〃 | 口径 27.2<br>残高 13.5 | 直口縁で丸底の鉢。口縁部ヨコのナデ，外面ナデ，内面ハケメ。外面にタタキの痕跡か。 | にぶい黄橙色 |
| -109<br>94002628 | ＳＢ249<br>第３群 | 器台 | 裾径 17.6 | 胴部がしまらず，寸胴の器台。内外面ハケメ後ナデ，裾部外面にタタキの痕跡。 | にぶい黄橙色 |
| -110<br>94004187 | ＳＢ249 | ジョッキ | 口径 10.4<br>器高 8.15 | 完形に復原できるジョッキ形土器。胴部がややしまる。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。把手部ナデ。 | 明褐色 |
| -111<br>89008963 | ＳＢ249<br>№11 | 支脚 | 裾径 12.1<br>残高 12.5 | 沓形の器台。受け部をやや引き出す。外面タタキ，内面ナデ。現在所在不明。 | 褐色 |
| -112<br>89000173 | ＳＢ249<br>№17 | 器台 | 口径 10.2<br>器高 19.7 | 内傾する口縁部をもつ器台。口縁内面ナデ，口縁部から頸部ハケメ，裾部外面タタキ後ナデ，内面ケズリ。所在不明。 | 褐色 |
| -113<br>94002983 | ＳＢ249<br>第１群 | 〃 | 裾径 25.8 | 大型の器台。胴部中央に沈線を５条ほど施す。上半部は４方，下半部は２方に透かしを施すか。内外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 110-114<br>88005646 | S B251<br>床面 | 鉢 | 口径 24.2<br>器高 13.2 | 不安定な平底で，屈折口縁の鉢。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -115<br>94002602 | S B252<br>埋土上層 | ミニチュア | 口径 6.6<br>器高 3.7 | 手捏ねで，口縁の一部が把手状に引き出される。内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -116<br>94002603 | S B252<br>床面 | 〃 | 口径 9.2<br>器高 5.7 | ミニチュアの鉢。口縁部をやや折り曲げる。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -117<br>94002605 | S B252<br>埋土中層 | 壺 | 口径 12.2 | やや直立気味の口縁部と球形の胴部。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -118<br>94004043 | S B252<br>埋土中層 | 〃 | 口径 19.7 | 口縁部は短く直立する。口縁内面ハケメ後ナデ。内外面ナデ。 | 浅褐色 |
| -119<br>94004042 | S B252<br>埋土中層 | 鉢 | 口径 18.4<br>器高 6.2 | 不安定な平底で，直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -120<br>94004544 | S B260<br>床面 | 〃 | 口径 17.3<br>器高 7.4 | やや不安定な平底で，直口縁の鉢。口唇部ヨコのナデ。胴部外面ナデ，下半部ケズリ。内面ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -121<br>94004543 | S B260<br>床面 | 甕 | 底径 7.9 | 平底の甕。外面ハケメ後一部ナデ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -122<br>94005085 | S B262<br>床面 | 〃 | 口径 12.8 | 直口縁の小型甕。口縁部ヨコのナデ，内外面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| -123<br>94005092 | S B262<br>貼床内 | 壺 | 底径 5.8 | 不安定な平底の小型壺。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -124<br>94004768 | S B262<br>貼床内 | 器台 | 口径 12.0 | 器台かどうか不明。焼成はかなり良好。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 111-125<br>94004164 | S B264<br>P 2 | 壺 | 口径 14.2 | 広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -126<br>89008951 | S B264<br>P 2 | 〃 | 口径 18.6 | 内傾する口縁部が直線的な複合口縁壺。頸部に三角突帯が1条めぐる。口縁から頸部ヨコのナデ。内外面ハケメ後ナデ。 | 褐色 |
| -127<br>94002582 | S B264<br>南土器溜 | 〃 | 口径 13.8 | 口縁がわずかに内湾する複合口縁壺。口縁から頸部にかけて外面タタキ後ハケメ後ナデ。外面ハケメ後ナデ。内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -128<br>94004167 | S B264<br>下層 | ミニチュア | 口径 7.35<br>器高 3.3 | 手捏ね。椀形の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 黒褐色 |
| -129<br>94002584 | S B264 | 〃 | 口径 6.7<br>器高 4.4 | 〃　やや深めの鉢のミニチュア。　〃 | 赤橙色 |
| -130<br>89008947 | S B264<br>埋土 | 鉢 | 口径 11.3<br>器高 5.6 | 底部やや不安定な直口縁の小型の鉢。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。 | 茶褐色 |
| -131<br>94002583 | S B264<br>No.1 | 〃 | 口径 12.0<br>器高 6.7 | 底部丸底の直口縁の小型の鉢。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。内面は丹塗り。 | にぶい黄橙色 |
| -132<br>94004160 | S B264<br>下層 | 〃 | 口径 15.0<br>器高 6.48 | 平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面縦方向のハケメ，内面ナデ。 | 褐灰色 |
| -133<br>94002581 | S B264<br>埋土下層 | 〃 | 口径 13.9<br>器高 9.15 | 平底で直口縁の深めの鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面縦方向のハケメ，内面ナデ。 | 赤褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 112-134<br>94002697 | ＳＢ267<br>上層 | 甕 | 口径 22.4 | 口縁部の屈曲が緩やかなく字状口縁甕。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。 | にぶい赤褐色 |
| -135<br>94004171 | ＳＢ267<br>上層 | 〃 | 口径 20.9 | 外反度が大きいく字状口縁甕。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 明褐色 |
| -136<br>94004172 | ＳＢ267<br>上層 | 壺 | 口径 19.5 | 広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面縦方向のハケメ，内面ナデ。 | 明赤褐色 |
| -137<br>94004175 | ＳＢ267<br>埋土上層 | 〃 | 口径 12.8 | 複合口縁壺。口縁部は直立気味である。頸部に三角突帯が１条めぐる。口縁部から頸部ヨコのナデ。 | にぶい橙色 |
| -138<br>94004782 | ＳＢ267<br>下層 | 高坏 | 口径 17.2 | 小型の高坏。口縁外面ヨコのナデ。坏部外面，内面ヘラミガキ。 | 明赤褐色 |
| -139<br>94004785 | ＳＢ267<br>下層 | 〃 | 口径 32.6 | 屈曲部が明瞭でなく直線的な坏部。内外面ヘラミガキ。 | 明赤褐色 |
| -140<br>94004766 | ＳＢ267 | スプーン | | スプーン状土製品の匙部。調整はナデ。 | にぶい橙色 |
| -141<br>94004760 | ＳＢ267<br>下層 | 鉢 | 口径 18.5<br>器高 14.0 | 凸レンズ状底で，やや深めの直口縁の鉢。内外面ナデ。 | 明褐色 |
| -142<br>94004029 | ＳＢ267<br>貼床内 | ミニチュア | 口径 5.2<br>器高 2.85 | 手捏ね。不安定な平底の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 赤褐色 |
| -143<br>94004762 | ＳＢ267 | 〃 | 口径 4.6<br>器高 2.0 | 手捏ね。椀形の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 橙色 |
| -144<br>94004764 | ＳＢ267<br>埋土上層 | 〃 | 口径 6.15<br>器高 3.45 | 手捏ね。不安定な平底の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 明赤褐色 |
| -145<br>94004030 | ＳＢ267<br>上層 | 〃 | 口径 7.2 | 壺のミニチュアか。外面縦方向のヘラミガキ，内面ナデ。 | にぶい褐色 |
| -146<br>94002686 | ＳＢ267<br>埋土上層 | 鉢 | 口径 16.8<br>器高 7.1 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 赤褐色 |
| 113-147<br>94002883 | ＳＢ269<br>№10・11 | 甕 | 口径 23.3 | く字状口縁の甕。口唇部に刻みか。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 明褐色 |
| -148<br>94002962 | ＳＢ269<br>№22・23 | 〃 | 口径 24.2 | く字状口縁の甕。口縁外面タタキ後ハケメ後ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ。 | にぶい黄橙色 |
| -149<br>94004177 | ＳＢ269<br>埋土 | 〃 | 口径 23.8<br>器高 41.0 | 底部丸底に近い凸レンズ状底のく字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -150<br>94002963 | ＳＢ269<br>№７他 | 〃 | 口径 23.2<br>器高 39.3 | 底部凸レンズ状のく字状口縁の甕。口縁外面タタキ後ハケメ後ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ。 | にぶい橙色 |
| 114-151<br>94002894 | ＳＢ269<br>№３ | 壺 | 口径 12.4<br>残高 12.2 | 小型の広口壺。底部丸底か。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，上半部後ナデ，下半部後ケズリ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -152<br>94002960 | ＳＢ269<br>床面 | 〃 | 口径 15.0<br>器高 21.6 | 口縁部直立気味で，底部丸底に近い凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 明褐色 |
| -153<br>94002870 | ＳＢ269<br>床面 | ミニチュア | 口径 5.8<br>器高 2.4 | 椀形の鉢のミニチュアか。内面から外面上半部ユビオサエ後ナデ，外面ハケメ後ナデ。 | 明褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 114-154<br>94002860 | S B269<br>埋土 | 高坏 | 裾径 10.6 | 小型高坏の脚部か。3ヶ所に2個ずつ穿孔する。内外面ハケメ後ナデ。 | 茶褐色 |
| -155<br>94002861 | S B269<br>埋土下層 | 〃 | 口径 23.0 | 屈曲部があまり明確でなく直線的な坏部。内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ，外面下半部ミガキ。 | 明褐色 |
| -156<br>94002889 | S B269<br>P 4 | 〃 | 口径 25.6 | 口縁部がやや長い。口縁外面に斜めの暗文を施す。内面も暗文に近いヘラミガキ。外面下半部ヘラミガキ。 | 茶褐色 |
| -157<br>94002888 | S B269<br>No.7 | 〃 | 口径 30.6 | 口縁外面に鋸歯状，内面に縦方向の暗文を施す。坏部内面も暗文に近いヘラミガキ。外面下半部ヘラミガキ。 | 茶褐色 |
| -158<br>94002868 | S B269<br>No.4 | 鉢？ | | 鉢の一種か。丸底で器壁が厚い。内外面ナデ。 | 黒褐色<br>～褐色 |
| -159<br>94002892 | S B269<br>No.2 | 鉢 | 口径 15.0<br>器高 5.1 | 椀形の鉢。内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -160<br>94002891 | S B269<br>床面 | 〃 | 口径 16.4<br>器高 7.5 | 底部がいびつな丸底の椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ナデ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -161<br>94002616 | S B269<br>No.1 | ミニチュア | 口径 6.1<br>器高 5.6 | 深めの鉢のミニチュアか。底部やや尖り底気味。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。 | 褐色 |
| -162<br>94002896 | S B269<br>No.3・4・6 | 鉢 | 口径 15.9<br>器高 12.8 | 底部凸レンズ状の屈折口縁の鉢。口縁部から胴部上半部にかけてヨコのナデ。内外面下半部ハケメ。 | 明褐色 |
| -163<br>94002900 | S B269<br>No.14 | 〃 | 口径 15.9<br>器高 10.5 | 底部丸底の屈折口縁の鉢。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 茶褐色 |
| -164<br>94002893 | S B269<br>No.1 | 〃 | 口径 11.2<br>器高 7.9 | やや深めの直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。内外面ハケメ。底部外面ケズリ。 | 明褐色 |
| 115-165<br>94002898 | S B269<br>No.4 ・21 | 器台 | 口径 12.6<br>器高 18.6 | 裾部がやや内湾する。口唇部と裾部に刻みを施す。外面タタキ後ハケメ。内面ハケメ，胴部中央部ナデ。 | 明褐色 |
| -166<br>94002899 | S B269<br>No.16 | 〃 | 口径 14.0<br>器高 18.5 | 裾部は直線的。口唇部上端，裾部に刻みを施す。外面タタキ後ハケメ後一部ナデ。内面ハケメ，中央部ナデ。 | 明褐色 |
| -167<br>94002858 | S B269<br>No.8 | 支脚 | 裾径 11.2<br>器高 9.9 | 受け部をつまみ出す杏形の支脚。外面タタキ。内面ユビオサエ後ナデ。 | 明褐色 |
| -168<br>94002857 | S B269<br>No.5 | 〃 | 裾径 13.2<br>器高 11.9 | 受け部をつまみ出す杏形の支脚。外面タタキ。内面上半部ユビオサエ，下半部ハケメ。 | 明褐色 |
| -169<br>94002704 | S B280<br>床面 | 鉢 | 口径 20.2 | 口唇部がややくぼむ直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | 暗褐色<br>～橙色 |
| -170<br>94002615 | S B273<br>床面 | 〃 | 口径 12.9<br>器高 4.5 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ナデ，内面ヘラミガキ。 | 黄褐色 |
| -171<br>94002614 | S B273<br>上層 | 壺 | | 直口縁の壺か。口縁外面に櫛描で雑な波状文を施す。内外面ヘラミガキ。 | 赤褐色 |
| -172<br>94002711 | S B281<br>埋土上層 | 高坏 | 口径 27.4 | 鋤先状口縁の高坏。口縁部ヨコのナデ。 | 橙色 |
| -173<br>94002708 | S B281<br>埋土上層 | 甕 | 口径 27.8 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | 褐色～<br>黒褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 115-174<br>94002707 | ＳＢ281<br>埋土下層 | 甕 | 口径 13.4<br>器高 13.2 | 小型のく字状口縁の甕。底部やや不安定な平底。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい<br>黄橙色 |
| 116-175<br>94002538 | ＳＢ282<br>№5群 | 〃 | 口径 28.8 | 口唇部，頸部に刻みを施す。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい<br>黄橙色 |
| -176<br>94002730 | ＳＢ282 | 〃 | 口径 28.0 | く字状口縁の甕。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色～<br>明褐色 |
| -177<br>94004211 | ＳＢ282<br>№5群 | 〃 | 口径 24.0 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ，胴部外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ，下半部後ナデ。 | 褐色 |
| -178<br>94002591 | ＳＢ282<br>№3群他 | 〃 | 口径 23.0 | く字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -179<br>94002592 | ＳＢ282<br>№3群 | 〃 | 底径 8.15 | 178と同一個体か。底部凸レンズ状底。外面ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -180<br>94002673 | ＳＢ282<br>№5群 | 〃 | 底径 9.1 | 底部丸底に近い凸レンズ状底。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| 117-181<br>94002674 | ＳＢ282<br>№2群 | 壺 | 口径 15.9 | 口縁部直立気味の広口壺。口縁部ヨコのナデ，外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -182<br>89008971 | ＳＢ282<br>№3群 | 〃 | 口径 8.9<br>器高 7.8 | 丸底の小型の無頸壺。口縁部ヨコのナデ，外面下半部ケズリか。内面ナデ。 | 褐色 |
| -183<br>94004548 | ＳＢ282<br>№4群 | 〃 | 口径 16.4 | 外傾する口縁部の複合口縁壺。頸部と胴部の境に沈線３条と櫛描の波状文がある。頸部内面ハケメ後ナデ，胴部内面ナデ。 | にぶい<br>橙色 |
| -184<br>94004212 | ＳＢ282<br>№1・3群 | 〃 | 口径 14.8 | 直線的な口縁部の広口壺。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 明褐色 |
| -185<br>94003247 | ＳＢ282<br>№2群 | 〃 | 口径 21.7<br>器高 33.9 | 丸底に近い凸レンズ状底の広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部後ケズリ，内面ハケメ後一部ナデ。 | 黄橙色 |
| -186<br>94005098 | ＳＢ282<br>№2群 | 〃 | 口径 18.0 | 広口壺。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい<br>黄橙色 |
| 118-187<br>94004549 | ＳＢ282<br>№5群 | 高坏 | 口径 32.1 | 口縁内外面に鋸歯状の，坏部内外面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ，坏部外面ヘラミガキ。 | 明褐色 |
| -188<br>94004546 | ＳＢ282<br>№3群 | 〃 | 裾径 18.6 | 高坏の脚部。坏部内外面，脚部外面上半部ヘラミガキ。脚部下半部内外面ハケメ，内面ケズリ。 | 明褐色 |
| -189<br>94004547 | ＳＢ282<br>№3群 | 鉢 | 口径 11.9<br>器高 4.55 | 椀形の鉢。口唇部ヨコのナデ，外面ハケメ後ナデ，下半部ケズリ。内面ハケメ，下半部ナデ。 | 黒褐色 |
| -190<br>94002546 | ＳＢ282<br>№4群 | 〃 | 口径 16.3<br>器高 7.2 | 丸底の屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | にぶい<br>黄褐色 |
| -191<br>94002549 | ＳＢ282<br>№4群 | 台付鉢 | 裾径 14.9 | 台付鉢の脚部であろう。裾端部ヨコのナデ，脚部外面ハケメ後ナデ，坏部，脚部内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -192<br>94005099 | ＳＢ282<br>№4群 | 器台 | 裾径 26.1<br>器高 26.1 | 胴部中央に沈線が６条ほどめぐる。下半部３方透かし，上半部も同様か。円孔が上半に２，下半に１縦に一列のみ並ぶ。 | にぶい<br>黄橙色 |
| -193<br>89008996 | ＳＢ282<br>№5群 | 支脚 | 裾径 10.9<br>器高 10.9 | 受け部をつまみ出す。外面タタキ，内面ユビオサエ後ナデ。 | 褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 118-194<br>94002548 | S B282<br>№1群 | 器台 | 口径 12.3<br>器高 17.6 | 裾部は直線的で，受け部が大きく開く。端部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい赤褐色 |
| 119-195<br>94002610 | S B284<br>床面 | ミニチュア | 口径　8.5<br>器高　4.3 | 直口縁の鉢のミニチュア。不安定な平底。内外面ナデ。 | 黄褐色 |
| -196<br>94002609 | S B284<br>貼床内 | 〃 | 口径 10.2<br>器高　4.4 | 屈折口縁の鉢のミニチュア。やや不安定な平底。内外面ナデ。 | 黄褐色 |
| -197<br>94004542 | S B288<br>埋土 | 〃 | 口径　8.9<br>残高　4.1 | 直口縁の鉢のミニチュア。やや不安定な平底か。内外面ナデ。 | 明赤褐色 |
| -198<br>89008974 | S B288<br>床面 | 甕 | 口径 13.5 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ，内外面ハケメ。 | 褐色 |
| -199<br>89008975 | S B288<br>床面 | 台付甕 | 裾径 10.0 | 台付甕の脚部。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。脚部外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -200<br>95000163 | S B288<br>床面 | 甕 | | 丸底に近い凸レンズ状の底部。外面ハケメ後ケズリ，内面ハケメ後ナデ。底部タタキ。 | にぶい黄褐色 |
| 120-201<br>94000491 | S B289<br>№8 | 〃 | 口径 23.2 | く字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -202<br>94002702 | S B289<br>№4 | 壺 | 口径 15.0<br>器高 21.7 | 丸底で球形胴部の広口壺。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 橙色 |
| -203<br>94002701 | S B289<br>№7 | 〃 | 口径　9.4 | 長胴細身の壺。広口壺の一種か。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後板状工具によるナデ，内面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -204<br>94000483 | S B289<br>№5 | 〃 | 口径 15.1<br>器高 17.5 | 丸底で偏球形胴部の広口壺。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，下半部後ナデかケズリ，内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -205<br>94000482 | S B289<br>東側 | 鉢 | 口径 21.8<br>器高 10.1 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面上半部ハケメ，下半部ナデ。 | にぶい橙色 |
| -206<br>94000499 | S B289<br>№5 | 〃 | 口径 21.7<br>器高 13.7 | 丸底でやや深めの屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，外面板状工具によるナデ，内面ナデ。 | にぶい黄褐色 |
| -207<br>94000485 | S B289<br>№1 | 〃 | 口径 23.5<br>器高　9.9 | 屈折口縁で凸レンズ状底の有孔鉢。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -208<br>94000497 | S B289<br>№9・17 | 支脚 | 裾径 11.4<br>残高　9.4 | 杏形の支脚。外面タタキ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -209<br>94000488 | S B289<br>№1 | 〃 | 裾径 12.8<br>器高　9.8 | 杏形の支脚。受け部の穿孔は途中までである。外面タタキ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -210<br>94002703 | S B289<br>№15 | 器台 | 口径 23.2 | 胴部中央に10条ほど沈線，口唇部に刻みを施す。上半部4方，下半部6方透かし。端部ヨコのナデ。内外面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| 121-211<br>94004538 | S B295<br>P 2 | 鉢 | 口径 24.9 | 直口縁の鉢。口縁部やや内傾する。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -212<br>94004537 | S B295<br>P 2 | 甕 | 底径　8.5 | 平底の甕。外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい褐色 |
| 122-213<br>94002590 | S B298<br>P 3 | 〃 | 口径 23.8 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 赤橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 122-214<br>94002664 | ＳＢ298<br>埋土上層 | 甕 | 口径 13.6<br>器高 18.5 | 凸レンズ状底でく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| -215<br>94002735 | ＳＢ298<br>Ｐ２ | 〃 | 底径 7.9 | 凸レンズ状底の甕底部。内外面ハケメ，底部ナデ。 | 明褐色 |
| -216<br>94002666 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 壺 | | 長頸壺の胴部。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -217<br>94004050 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 〃 | 口径 17.4 | やや口縁部が長い広口壺。口縁部ヨコのナデか。胴部外面ハケメ後ナデ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -218<br>94002734 | ＳＢ298<br>№７ | 〃 | 底径 7.1 | 不安定な平底で，複合口縁壺か。胴部にコ字状突帯が１条めぐる。胴部上半部ハケメ，下半部後ナデ。内面ハケメ。 | 橙色 |
| -219<br>94002567 | ＳＢ298<br>№11・12 | 〃 | 口径 18.4 | やや器壁が厚い広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい赤橙色 |
| 123-220<br>94002618 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 〃 | 口径 16.5 | 長胴の直口縁の壺。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | にぶい黄褐色 |
| -221<br>94004051 | ＳＢ298<br>№４ | 〃 | 口径 21.9<br>器高 29.8 | 口縁部の外反度が大きい広口壺。丸底に近い凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ，胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | 橙色 |
| -222<br>94004194 | ＳＢ298<br>埋土中層 | 〃 | 口径 23.0 | 口縁端部が外反する複合口縁壺の口縁部。外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。 | 明褐色 |
| -223<br>94002607 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 高坏 | 口径 27.5 | 口縁外面に鋸歯状の暗文を施す。口縁外面ヨコのナデ。坏部外面，内面全面ヘラミガキ。 | 赤褐色 |
| -224<br>94002608 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 〃 | 口径 29.6<br>器高 24.0 | 口縁外面に逆レ字状の暗文を施す。口縁外面ヨコのナデ。外面，坏部内面ヘラミガキ。脚部内面ハケメ後ナデ。 | 赤褐色 |
| -225<br>94004191 | ＳＢ298<br>№11 | 壺 | 口径 17.4 | 広口壺の口縁部。調整は磨耗のため不明であるが，ヨコのナデか。 | 明褐色 |
| -226<br>94002678 | ＳＢ298<br>№９ | 大壺 | 胴径 45.9 | 凸レンズ状底の大型壺。頸部以上打ち欠き。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | 黄褐色 |
| 124-227<br>94002659 | ＳＢ298<br>Ｐ１ | ミニチュア | 口径 8.75<br>器高 3.8 | 台付鉢のミニチュアか。調整はナデ。 | 赤褐色 |
| -228<br>94002566 | ＳＢ298<br>№９ | 高坏 | 口径 28.4 | 短い口縁部が大きく外反する高坏。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ケズリ，内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -229<br>94002606 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 〃 | 口径 30.7 | 短い口縁部が大きく外反する高坏。口縁外面ヨコのナデ後縦方向の暗文を施す。坏部外面，内面ヘラミガキ。 | 赤褐色 |
| -230<br>94003241 | ＳＢ298<br>№７ | 〃 | 口径 36.1 | 口縁部がやや直立に近い。口縁外面にハケメ，ヨコのナデ後鋸歯状の暗文を施す。坏部外面，内面ヘラミガキ。 | 橙色 |
| -231<br>89008999 | ＳＢ298<br>№２ | 鉢 | 口径 13.3<br>器高 6.4 | 椀形の鉢。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。現在所在不明。 | 茶褐色 |
| -232<br>94002660 | ＳＢ298<br>Ｐ３ | 〃 | 口径 9.6<br>残高 8.0 | 口縁部が内湾するやや深めの丸底の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | 赤褐色 |
| -233<br>94002620 | ＳＢ298<br>上層 | 台付鉢 | 口径 20.4 | 屈折口縁の台付鉢。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。 | 赤褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 124-234<br>89005629 | S B298<br>№6 | 高坏 | 裾径 16.0 | 直立する脚部に直線的な裾部の高坏。円形の透かしが4ヶ所ある。外面から内面下半部ヨコのナデ，上半部ヘラケズリ。 | 明褐色 |
| -235<br>94003240 | S B298<br>№7 | 器台 | 口径 19.4<br>器高 22.6 | 大きく開く受け部に直線的な裾部。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ，中央部ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -236<br>94003238 | S B298<br>№5 | 〃 | 口径 14.1<br>器高 17.0 | 大きく開く受け部に直線的な裾部。外面ハケメ，裾部にタタキの痕跡。内面ナデ，上半部ハケ後ナデ。 | 橙色 |
| 125-237<br>94004539 | S B299<br>埋土 | 支脚 | 裾径 11.8<br>器高 10.7 | 受け部が水平な支脚。外面タタキ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -238<br>94004540 | S B299<br>P 2 | 壺 | 口径 18.2 | 口縁部が直線的に内傾する複合口縁壺。外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。 | にぶい橙色 |
| -239<br>94000439 | S B300 | 〃 | 口径 18.0 | 内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。内外面ハケメ後ヨコのナデ。 | 橙色 |
| -240<br>94000449 | S B300 | 〃 | 口径 17.2 | 口縁部がやや直立気味の広口壺。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，下半部ナデか。内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -241<br>93002614 | S B300 | 甕 | 口径 18.2<br>器高 22.0 | 不安定な平底でく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリか。内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -242<br>94000434 | S B300 | 高坏 | 口径 25.2 | 口縁部が直立気味の高坏。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ハケメ後ミガキか。内面ハケメ。 | 橙色 |
| -243<br>94000447 | S B300 | 鉢 | 口径 20.6<br>器高 12.9 | 直口縁で深めの鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面下半部板状工具によるナデかケズリ。内面ナデ。 | 橙色 |
| -244<br>94000450 | S B300 | 〃 | 口径 39.4 | 屈折口縁の大型の鉢。頸部にコ字状突帯1条がめぐる。口唇部と突帯上に刻み。内外面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -245<br>94000424 | S B300 | ミニチュア | 口径 5.85<br>器高 4.8 | 椀形の鉢のミニチュア。底部やや不安定な平底。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 黄橙色 |
| 126-246<br>94000436 | S B300<br>床面 | 支脚 | 裾径 12.8<br>器高 11.1 | 受け部が水平な支脚。外面タタキ後ナデ，内面板状工具によるナデ。 | 明赤褐色 |
| -247<br>93002617 | S B301 | 甕 | 口径 24.7 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 黄褐色 |
| -248<br>88005626 | S B301<br>床面 | 壺 | 口径 11.0 | 無頸壺の一種か。口縁部が外反する。胴部に三角突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -249<br>93002620 | S B301 | 鉢 | 口径 15.8<br>器高 8.25 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 黄褐色 |
| -250<br>89000953 | S B306<br>床面 | 〃 | 口径 19.4<br>器高 6.5 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 褐色 |
| -251<br>89000954 | S B306 | 〃 | 口径 14.2<br>器高 7.5 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ナデ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -252<br>94004534 | S B306 | ミニチュア | 口径 5.7<br>器高 6.5 | 直口縁で深めの鉢のミニチュア。内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -253<br>89008979 | S B306<br>床面 | 鉢 | 口径 17.8<br>器高 16.6 | 丸底に近い凸レンズ状底で屈折口縁の鉢。口縁外面ハケメ後ナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 126-254<br>89000947 | S B306<br>床面 | 器台 | 口径 11.7<br>器高 16.3 | 裾部がやや内湾する。口唇部に刻みを施す。端部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ。内面上半部ナデ，下半部ハケメ後ナデ。 | にぶい橙色 |
| -255<br>89000948 | S B306<br>床面 | 〃 | 口径 11.7<br>器高 17.3 | 裾部は直線的である。口唇部に刻みを施す。外面タタキ後ナデ。内面上半部ナデ，下半部ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| 127-256<br>94000459 | S B311<br>埋土 | 鉢 | 口径 26.8 | 屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -257<br>94000462 | S B311<br>埋土 | 甕 | 底径 6.8 | やや不安定な平底の甕。外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -258<br>94002681 | S B320 | 大甕 | 口径 43.2 | く字状口縁の大型甕。頸部にコ字状突帯が1条めぐる。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。内外面ハケメ。 | 褐色 |
| -259<br>93003273 | S B320 | 甕 | 口径 24.2 | く字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部内外面ハケメ。 | 赤褐色 |
| -260<br>94002680 | S B320 | 大甕 | 口径 40.7<br>器高 80.8 | 口縁内面を肥厚させる。口唇部に鋸歯状に刻みを施す。頸部，胴部にコ字状突帯がめぐる。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。 | にぶい黄褐色 |
| -261<br>93003266 | S B320 | 甕 | 口径 27.7 | く字状口縁の甕。口縁外面タタキ後ハケメ後ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 赤褐色 |
| -262<br>93003267 | S B320 | 〃 | 口径 18.0 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい褐色 |
| -263<br>93003277 | S B320 | 〃 | 底径 7.25 | 凸レンズ状底の甕底部。内外面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| 128-264<br>94002671 | S B320 | 壺 | 口径 16.4 | 直口縁の壺。口縁部はやや外反する。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ一部ナデ。 | 橙色 |
| -265<br>93003274 | S B320 | 〃 | 口径 15.4 | 口縁部が直立気味の広口壺。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ一部ナデ。 | 黄橙色 |
| -266<br>93003278 | S B320 | 高坏 | 口径 31.3 | 短い口縁部が大きく外反する高坏。全体に磨耗のため調整は不明であるが，内面はハケメか。 | 橙色 |
| -267<br>94002672 | S B320 | 〃 | 口径 33.9 | IV期的な高坏。口縁外面に鋸歯状，内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ，坏部内外面ヘラミガキ。 | にぶい赤褐色 |
| -268<br>94003230 | S B320 | 〃 | 裾径 16.8 | やや短い高坏の脚部。坏部内面，脚部内面上半部ナデ。脚部外面ハケメ後ナデ，脚部内面下半部ハケメ。 | 明赤褐色 |
| -269<br>94003231 | S B320<br>第1群 | 鉢 | 口径 19.4 | 屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。内外面ハケメ後雑なヘラミガキ。 | 明赤褐色 |
| -370<br>94003232 | S B320<br>第1群 | 〃 | | 屈折口縁の鉢。内面はハケメ後ナデ。外面は磨耗のため調整不明。 | 褐色 |
| -271<br>93003264 | S B320 | 〃 | 口径 28.6 | 直口縁の鉢。口唇部やや肥厚する。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 暗橙色 |
| -272<br>94003226 | S B320 | 支脚 | 裾径 10.8<br>器高 9.6 | 受け部が水平な支脚。裾部内面1/2ほど沈線状になる。内外面ナデ。 | 橙色 |
| -273<br>94002667 | S B320 | 器台 | 口径 16.0<br>器高 20.4 | 口唇部に刻みを施す。外面タタキ後ハケメ。内面ハケメ，中央部タタキ後ナデ。 | 浅黄橙色 |

| Fig.図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 128-274<br>94003228 | S B320 | 器台 | 口径 11.1<br>器高 15.0 | 上下が対称に近い形態。外面タタキ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | 褐色 |
| -275<br>94003229 | S B320 | 〃 | 口径 12.0<br>器高 14.5 | 口唇部に刻みを施す。外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 明褐色 |
| 129-276<br>89000877 | S B321<br>埋土 | 甕 | 口径 15.2<br>器高 16.8 | 丸底に復原できるく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。外面にタタキの痕跡あり。 | 褐色 |
| -277<br>94002679 | S B321 | 大甕 | 口径 41.8 | く字状口縁の大型甕。口唇部にX字状の刻みを施す。頸部に三角突帯がめぐる。外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | にぶい黄褐色 |
| -278<br>89000448 | S B321<br>埋土 | 壺 | 口径 13.7 | 口縁部が長い小型の広口壺。全体にかなりゆがむ。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ。内面ナデ。 | 褐色 |
| -279<br>94000453 | S B321<br>上層 | 〃 | 口径 15.4 | 広口壺。口縁外面はハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 明黄褐色 |
| -280<br>94000456 | S B321 | 鉢 | 口径 13.6<br>器高 5.9 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ，内外面ナデ。 | 橙色 |
| -281<br>88005651 | S B321<br>床面 | 〃 | 口径 16.9<br>器高 7.05 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口唇部が肥厚する。口縁部ヨコのナデ。内外面ナデ。 | 暗褐色 |
| -282<br>89000449 | S B321<br>埋土 | 〃 | 口径 22.2<br>器高 12.9 | 直口縁で深めのやや大型の鉢。底部はわずかに意識する。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 褐色 |
| 130-283<br>88005625 | S B323<br>P 3 | 鉢 | 口径 14.1<br>器高 5.25 | 椀形の鉢。内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ナデ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -284<br>94000472 | S B323<br>検出面 | 台付甕 | 裾径 10.7 | 台付甕の脚部。脚部端部ヨコのナデ。外面，脚部内面ハケメ。内面ナデ。 | 明褐色 |
| -285<br>94000469 | S B323<br>埋土 | 鉢 | 口径 15.6 | 長胴で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| -286<br>94003204 | S B348 | 壺 | 口径 13.4 | 直口縁の壺。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -287<br>89008977 | S B348 | 鉢 | 口径 11.5<br>器高 6.1 | 丸底で直口縁の小型の鉢。外面タタキ後ナデ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -288<br>94003206 | S B348 | 甕 | 口径 25.4 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 橙色 |
| -289<br>94003203 | S B348 | 鉢 | | 丸底に近い底部で屈折口縁の鉢。外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 131-290<br>93003261 | S B349 | 壺 | 口径 18.4 | 口縁部が直線的に外に開く広口壺。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -291<br>93003254 | S B349 | 甕 | 口径 27.7 | く字状口縁の甕。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 灰黄色 |
| -292<br>93003260 | S B349 | ミニチュア | 口径 5.9<br>器高 2.75 | 手捏ね。鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 灰黄色 |
| -293<br>93003259 | S B349 | 鉢 | 口径 13.4<br>器高 6.1 | やや不安定な平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ナデ。 | 浅黄橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 131-294<br>93003256 | S B349 | 高坏 | 口径 31.2 | やや直立気味の口縁部で，口縁端部が肥厚する。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。坏部外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -295<br>93003262 | S B349 | 鉢 | 口径 17.6<br>器高 5.3 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい黄褐色 |
| -296<br>93003253 | S B349 | 〃 | 口径 32.8 | 直口縁の大型の鉢。胴部にコ字状突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい赤褐色 |
| -297<br>93003255 | S B349 | 〃 | 口径 22.0 | 屈折口縁の鉢。口縁端部を上方につまみ出す。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい赤橙色 |
| 132-298<br>93003878 | S B355 | 甕 | 口径 17.5 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 暗黄褐色 |
| -299<br>93003882 | S B355 | 〃 | 底径 8.0 | 平底の甕底部。外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -300<br>93003299 | S B355 | 壺 | 口径 23.7 | 口縁部が直立気味の複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。頸部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -301<br>93003889 | S B355 | 〃 | 口径 21.1 | 直立気味の口縁の壺か。頸部にコ字状突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメか，内面ナデか。 | にぶい黄橙色 |
| -302<br>93003297 | S B355 | 高坏 | 口径 31.2 | 口縁部は屈曲部から直立し，急に大きく外反する。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ヘラミガキ，内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -303<br>94003243 | S B355 | 壺 | 口径 9.7<br>器高 10.2 | 平底で直立気味の口縁の無頸壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ。内面ナデ。 | 橙色 |
| -304<br>93003880 | S B355 | 鉢 | 口径 17.6<br>器高 9.4 | 平底で直口縁のやや深めの鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | 赤褐色 |
| -305<br>94003242 | S B355 | 〃 | 口径 26.5<br>器高 11.8 | やや不安定で屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -306<br>93003888 | S B355 | 器台 | 口径 12.0<br>器高 19.3 | 胴部のしまりが強い。外面ナデ。内面上部と下部ハケメ，中央部ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 133-307<br>94003223 | S B359 | 甕 | 口径 21.7 | 下膨らみの胴部でく字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ナデ，胴部外面タタキ後ハケメ後ナデか，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -308<br>94004151 | S B359 | 鉢 | 口径 11.2<br>残高 6.0 | 椀形でやや深めの鉢。外面ハケメ後ナデか。内面ハケメ，下半部ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -309<br>94004157 | S B359 | 壺 | 口径 12.4 | 口縁部がわずかに内湾する複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。頸部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。胴部内外面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -310<br>94003220 | S B359 | 高坏 | 口径 21.9<br>器高 18.4 | ほぼ完形に復原できるIV期的な高坏。口縁外面ヨコのナデ，内外面ヘラミガキ。脚部上部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。 | にぶい黄橙色 |
| -311<br>94003221 | S B359 | 甕 | 口径 19.0 | 球形胴部の器高の低い甕か。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリか。内面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -312<br>94002948 | S B365<br>上層 | 高坏 | 口径 33.2 | 鋤先状口縁の高坏。丹塗の痕跡がある。口縁部ヨコのナデ，坏部内外面ハケメ。 | 橙色 |
| -313<br>94003215 | S B365 | ミニチュア | 口径 6.4<br>器高 3.9 | 手捏ね。鉢のミニチュア。外面ユビオサエ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 133-314<br>94003216 | S B365 | ミニチュア | 口径　6.9<br>器高　4.2 | 手捏ね。鉢のミニチュア。内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -315<br>94003207 | S B365<br>P 4 | 甕 | 口径 25.2 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面板状工具によるナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -316<br>89000450 | S B365<br>P 5 | 鉢 | 口径 13.9<br>器高　8.2 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口唇部がややくぼむ。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ナデ，内面ハケメ。 | 褐色 |
| -317<br>94003205 | S B365 | 壺 | 口径 13.3 | 小型の広口壺か。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| 134-318<br>88005645 | S B387<br>埋土 | 甕 | 口径 24.4 | 胴部やや下膨らみのく字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -319<br>88005643 | S B387<br>埋土 | 鉢 | 口径 13.6 | 椀形でやや深めの鉢。外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | 褐色 |
| -320<br>88005642 | S B387<br>埋土 | 〃 | 口径 18.5 | 椀形の鉢であろう。外面ハケメ後ナデ，下半部ケズリ。内面ハケメ。 | 褐色 |
| -321<br>88005639 | S B387<br>埋土 | 〃 | 口径 17.7 | 屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 明茶褐色 |
| -322<br>94002557 | S B391 | 甕 | 口径 21.0 | く字状口縁の甕。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄褐色 |
| -323<br>94002555 | S B391 | 壺 | 口径 14.4 | 口縁がやや内湾する広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面は磨耗が著しいが，ハケメか。内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -324<br>94002552 | S B391 | 高坏 | 口径 26.3 | 口縁端部がやや肥厚する。口縁外面ヨコのナデ，内面ヘラミガキ。坏部外面ケズリか。 | 黄橙色 |
| -325<br>94002553 | S B391 | 〃 | 口径 25.8 | 鍔先状口縁の高坏。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -326<br>94002563 | S B391 | 鉢 | 口径 17.7<br>残高 7.45 | 底部がやや不安定で口縁が短く屈折する。口縁部ヨコのナデ，外面板状工具によるナデ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 135-327<br>94003245 | S B393 | 〃 | 口径 15.7<br>器高　8.1 | 不安定な平底で屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，内面ナデ。外面磨耗のため調整不明。 | 橙色 |
| -328<br>94003246 | S B393 | 〃 | 口径 16.0<br>器高 10.9 | 平底で直口縁の深めの鉢。口縁部ヨコのナデ，内面板状工具によるナデ。外面磨耗のため調整不明。 | にぶい橙色 |
| -329<br>94000356 | S B394<br>埋土 | 〃 | 口径 26.1 | 屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 赤橙色 |
| -330<br>94000357 | S B394 | 壺 | 口径 12.2 | 直立気味の口縁の無頸壺。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 黒褐色 |
| -331<br>94000361 | S B394 | 鉢 | 口径 31.9 | 口縁端部が肥厚する直口縁の大型の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデか，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | 暗黄色 |
| -332<br>94000360 | S B394 | 支脚 | | 杏形の支脚。斜めに小孔を穿つ。受け部タタキ後ナデ。外面タタキ，内面ナデ。 | 暗黄色 |
| -333<br>93003292 | S B400<br>埋土上層 | 甕 | 口径 25.2 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 135-334<br>93003286 | ＳＢ400 | 鉢 | 口径　8.5<br>残高　5.7 | やや不安定な平底で深めの直口縁の鉢。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -335<br>93003293 | ＳＢ400<br>埋土上層 | 〃 | 口径 27.1 | 直口縁の鉢。胴部にコ字状突帯が１条めぐる。口唇部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -336<br>93003295 | ＳＢ400 | 壺 | 口径 10.3 | 球形胴部の無頸壺。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -337<br>94003294 | ＳＢ400 | 〃 | 口径 23.2 | 内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。 | 黄橙色 |
| 136-338<br>92000020 | ＳＢ05<br>埋土 | 甕 | 口径 19.4 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ハケメ。 | 黄褐色 |
| -339<br>92000022 | ＳＢ05<br>埋土 | 〃 | 口径 24.2 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ，下半部ケズリか。内面ナデ。 | 黄橙～黒褐色 |
| -340<br>92000015 | ＳＢ05<br>埋土 | 台付甕 | 裾径 10.0 | 台付甕の脚部。内外面ナデ。 | 橙色 |
| -341<br>92000014 | ＳＢ05 | 鉢 | 口径 18.9<br>器高 11.8 | 丸底の屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 黄橙色 |
| -342<br>92000024 | ＳＢ05<br>埋土 | 〃 | 口径 15.8 | 長胴で直口縁の鉢。口唇部ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ナデ。内面ハケメ，下半部ナデ。 | 黄橙色～橙色 |
| -343<br>91002386 | ＳＢ06<br>埋土 | 甕 | 口径 23.6 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| -344<br>91002379 | ＳＢ06<br>埋土 | 壺 | 口径 11.3 | 広口壺の一種か。口縁外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -345<br>91002380 | ＳＢ06<br>埋土 | 支脚 | 裾径 13.1<br>器高 10.8 | 受け部が水平な支脚。内外面ユビオサエ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 137-346<br>91002381 | ＳＢ07<br>埋土 | 鉢 | 口径 10.9<br>器高　4.7 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，底部ナデ，内面ナデ。 | にぶい褐色 |
| -347<br>91002382 | ＳＢ07<br>Ｐ１ | 〃 | 口径 16.0<br>残高　6.1 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面板状工具によるナデ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -348<br>91002391 | ＳＢ08<br>埋土 | 鉢 | 口径 17.6 | 直口縁の鉢。底部は平底か。内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -349<br>91002384 | ＳＢ08<br>埋土 | 壺 | 口径 25.0 | 内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。頸部外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -350<br>91002390 | ＳＢ08<br>埋土 | 〃 | | 複合口縁壺の頸部から胴部。頸部に三角突帯，胴部にコ字状突帯が１条づつめぐる。外面，頸部内面ハケメ。内面ナデ。 | 橙色～褐灰色 |
| -351<br>91002393 | ＳＢ09 | 甕 | 口径 13.5<br>器高 14.6 | 平底のく字状口縁の甕。口縁部は短く屈曲する。口縁部ヨコのナデ。内外面ナデ。 | 橙色 |
| -352<br>95000096 | ＳＢ09<br>埋土 | 高坏 | | 鼓先状口縁の高坏。口縁部ヨコのナデか。 | 橙色 |
| -353<br>95000097 | ＳＢ09<br>埋土 | 支脚 | 口径 8.75 | 受け部が水平な支脚。内外面ナデ。 | 黄褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 137-354<br>95000098 | S B09<br>埋土 | 壺 | 口径 27.6 | 内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。口縁部ヨコのナデ。頸部外面ナデ，内面ハケメ，一部ナデ。 | 黄褐色 |
| -355<br>91002366 | S B09<br>床面 | ミニチュア | 口径 7.2<br>器高 4.5 | 不安定な平底の鉢のミニチュア。内外面ナデ。 | 赤褐色 |
| -356<br>91002365 | S B09<br>埋土 | 鉢 | 口径 7.8<br>器高 8.5 | 内傾する直口縁で深めの鉢。内外面ナデ，外面下半部ハケメか。 | 橙色 |
| -357<br>91002392 | S B09<br>埋土 | 〃 | 口径 15.9<br>器高 6.9 | 底部をわずかに意識した直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，外面に一部ハケメの痕跡がある。胴部内外面ナデ。 | 橙色 |
| 138-358<br>95000142 | S B10<br>埋土 | 甕 | 底径 7.6 | 平底の甕の底部から胴部。外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| -359<br>92002210 | S B10<br>埋土 | 壺 | 口径 8.3 | 長頸の袋状口縁壺。頸部にM字状突帯が2条めぐる。口縁部ヨコのナデ。頸部内外面ナデ。 | 淡黄色 |
| -360<br>95000141 | S B10 | 〃 | 口径 24.3 | 直線的に内傾する複合口縁壺。頸部にコ字状突帯がめぐる。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。 | 橙色 |
| -361<br>92000179 | S B10<br>埋土 | 〃 | 底径 10.6 | 平底の複合口縁壺か。胴部に三角突帯が1条めぐる。胴部外面下半部ハケメ。胴部外面，内面ナデ。 | 橙色 |
| -362<br>92000184 | S B10 | 〃 | | 不安定な平底の壺。外面上半部ハケメ，下半部ナデ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -363<br>95000139 | S B10<br>埋土 | 高坏 | 口径 29.6 | 鋤先状口縁の高坏。口縁上面に暗文の痕跡か。磨耗が著しく調整不明。 | 浅黄橙色 |
| -364<br>95000140 | S B10 | 〃 | 口径 31.2 | 口縁部がやや直立気味である。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 赤褐色 |
| -365<br>92000182 | S B10<br>埋土 | 鉢 | 口径 11.6<br>器高 4.8 | 平底で直口縁の小型の鉢。口縁部ヨコのナデ。内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -366<br>92000186 | S B10 | 支脚 | | 受け部が水平な支脚。外面ハケメ，上面から内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -367<br>92000196 | S B13<br>P 1 | 壺 | 口径 15.5 | 広口壺の一種か。口縁部がわずかに内湾する。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -368<br>92000343 | S B13<br>埋土 | 高坏 | | 上下2個1組の小さい穿孔が6方ほど施されるか。外面ハケメか。内面下部ハケメ，上部ナデ。 | 橙色 |
| -369<br>92000197 | S B13<br>埋土 | 鉢 | 口径 16.4<br>残高 4.8 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ナデ，内面ナデ。 | 黒褐色 |
| -370<br>92000198 | S B13<br>埋土 | ミニチュア | 口径 6.7<br>器高 3.7 | 平底の鉢のミニチュア。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| 139-371<br>92000100 | S B15<br>P 1 | 甕 | 口径 24.6 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| -372<br>92000151 | S B15<br>P 1 | 〃 | 口径 16.8 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| -373<br>92000152 | S B15<br>埋土 | 〃 | 底径 6.6 | 不安定な平底。内外面ハケメ。底部ナデ。 | 黄橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 139-374<br>92000153 | ＳＢ15<br>Ｐ１ | 高坏 | 口径 30.2 | 屈曲部があまり明瞭でなく直線的な坏部。口縁内面に縦方向の暗文か。坏部内外面ナデ。口縁外面にハケメあり。 | 橙色～<br>黄橙色 |
| -375<br>92000155 | ＳＢ15<br>Ｐ１ | 〃 | 裾径 25.2 | やや内湾気味に立ち上がる裾部。内外面ヘラミガキ。 | 橙色～<br>黄橙色 |
| -376<br>92000154 | ＳＢ15<br>埋土 | 〃 | 口径 25.2 | 口縁外面に鋸歯状の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ。外面粗雑なヘラミガキ，坏部内面に暗文か，調整はナデか。 | 橙色 |
| -377<br>92000158 | ＳＢ15<br>埋土 | 〃 | 裾径 13.0 | 小型高坏の脚部か。上下２個１組の円孔を施す。外面ナデ，内面ハケメが残る。 | 橙色～<br>黒褐色 |
| -378<br>92000156 | ＳＢ15<br>Ｐ１ | 鉢 | 口径 13.6<br>器高　5.1 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面上半部ハケメ，下半部ナデ。内面ナデ。 | 橙色 |
| -379<br>91002389 | ＳＢ15<br>床面 | 〃 | 口径 13.2<br>器高　7.0 | やや深めの椀形の鉢。外面上半部ハケメ後ナデ，下半部ナデ。内面ハケメ。 | にぶい<br>橙色 |
| -380<br>92000200 | ＳＢ16<br>埋土 | 壺 | 底径　7.2 | 平底の壺の底部。内外面ナデ。 | 浅黄橙<br>色 |
| -381<br>92000451 | ＳＢ16<br>埋土 | 器台 | 口径 14.3 | 受け部ヨコのナデ。内外面ハケメ。 | 浅黄橙<br>色 |
| 140-382<br>89009627 | ＳＢ22<br>埋土 | 甕 | 口径 13.7<br>残高 15.7 | 凸レンズ状底でく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ，内面ハケメ。 | 褐色～<br>明褐色 |
| -383<br>89009400 | ＳＢ22<br>埋土 | 〃 | | 丸底の小型の甕。外面タタキ，下半部ケズリ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -384<br>89009399 | ＳＢ22<br>埋土 | 台付甕 | 裾径 12.5 | 台付甕の脚部。脚部内外面ハケメ。胴部内外面ナデ。 | 淡褐色 |
| -385<br>89009626 | ＳＢ22<br>埋土 | 甕 | 口径 20.0 | 傾きがやや不明だが，胴部下膨らみになる。口縁外面から内面ハケメ。外面ナデ。 | 明褐色<br>～褐色 |
| -386<br>89009631 | ＳＢ22 | 器台 | 口径 11.5 | 器台の上半部。外面タタキ，一部ハケメ，内面ナデ。 | 明褐色 |
| -387<br>89009397 | ＳＢ22<br>埋土 | 壺 | 口径 14.5<br>器高 18.4 | 丸底に近い凸レンズ状底の広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ナデ，内面ナデ。 | 明褐～<br>淡褐色 |
| -388<br>89009628 | ＳＢ22<br>埋土 | 高坏 | 口径 20.4 | 直立する直口縁の高坏坏部。口縁部ヨコのナデ。坏部上半部ハケメ，下半部ナデ。内面ナデ。 | 淡褐色<br>～褐色 |
| -389<br>89009630 | ＳＢ22<br>埋土 | 台付鉢 | 口径 13.3 | 屈折口縁の鉢に脚部をつけたものと思われる。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ナデ。内面ナデ。 | 淡褐色 |
| -390<br>95000099 | ＳＢ22 | ミニチュア | 口径　3.1<br>器高 3.05 | やや特異な形態の鉢のミニチュア。内外面ナデ。 | 褐色 |
| 141-391<br>89009916 | ＳＢ27<br>埋土 | 甕 | 口縁 25.1<br>器高 47.3 | 底部丸底に近い凸レンズ状底。口唇部に刻み。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。外面タタキ後ハケメ，下半部ケズリ。 | 黄褐～<br>黒褐色 |
| -392<br>91002314 | ＳＢ27<br>埋土 | 高坏 | 口径 29.2 | 口縁は長くのびる。口縁外面に暗文か。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。所在不明。 | 橙色 |
| -393<br>91002315 | ＳＢ27<br>埋土 | 〃 | 口径 22.0 | 直立する口縁が内傾する。口縁部内外面に暗文か。口縁部ヨコのナデ，坏部下半部ヘラミガキ。所在不明。 | 橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 141-394<br>91002316 | S B27<br>埋土 | 器台 | 裾径 27.6 | 長方形と4個1組縦方向の円形透かしを3ヶ所ずつ施すか。内外面ハケメ後ナデ。所在不明。 | 橙色 |
| 142-395<br>92000110 | S B29<br>埋土 | 甕 | 口径 22.2 | く字状口縁の甕。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後一部ナデ。 | 淡褐色 |
| -396<br>92000108 | S B29<br>埋土 | 〃 | 底径　8.5 | 凸レンズ状の甕底部。外面ハケメ，内面ハケメ，下半部ナデ。 | 黄橙色 |
| -397<br>91002348 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 20.5 | く字状口縁の甕。口縁外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ。 | 赤褐色 |
| -398<br>91002342 | S B29<br>埋土 | 〃 | | 丸底に近い凸レンズ状の甕底部。外面ケズリ。内面ナデ，上部にハケメの痕跡。 | 橙色 |
| -399<br>92000109 | S B29<br>埋土 | 〃 | 底径　5.8 | 不安定な平底の甕底部。外面上半部ハケメ，下半部ケズリ。内面ハケメ。 | 淡褐色 |
| -400<br>91002063 | S B29<br>埋土 | 壺 | 口径 28.8 | 口唇部に鋸歯状の刻みを施す。口縁部に三角突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。頸部外面から胴部内外面ハケメ。 | 淡褐色 |
| -401<br>89009346 | S B29<br>埋土 | 甕 | 口径 12.6 | 小型のく字状口縁の甕。器壁が厚い。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ後ナデ，内面ハケメ。 | 黄褐色 |
| 143-402<br>91002337 | S B29<br>埋土 | 壺 | 口径 16.0 | 広口壺の口縁部。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -403<br>91002352 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 18.3 | 口縁端部が外反する複合口縁壺。頸部に三角突帯が2条めぐる。口縁部ヨコのナデ，頸部内外面ハケメ。 | 橙色 |
| -404<br>91002064 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 13.6<br>器高 29.1 | 口縁部は直立気味。底部は丸底に近い凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，下半部ケズリか。内面ハケメ。 | 淡黄褐色 |
| -405<br>92000358 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 15.4 | 口縁部は直立気味。口縁部ヨコのナデ。胴部の調整は磨耗のため不明。内面はハケか。 | にぶい黄橙色 |
| -406<br>92000166 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 11.2<br>器高 15.7 | 口縁部直立気味で，球形の胴部。丸底に近い凸レンズ状底。口縁外面ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリか。 | 浅黄橙色 |
| -407<br>92000290 | S B29<br>埋土 | ミニチュア | 口径 11.6<br>器高 3.65 | 椀形の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。所在不明。 | 淡褐色 |
| -408<br>91002340 | S B29<br>埋土 | 鉢 | 口径 14.0<br>器高　6.1 | 椀形の鉢。内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ，内面ナデ。外面ヘラミガキか。 | 黒褐色 |
| -409<br>92000293 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 24.1 | 口縁部が内傾する直口縁の鉢。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。内外面ハケメ。 | 赤橙色 |
| -410<br>92000294 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 19.7 | 口縁部が内傾する直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 赤橙色 |
| -411<br>92000192 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 21.8 | 口縁部が内傾する直口縁の鉢。口縁部やや肥厚する。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ，内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -412<br>92000193 | S B29<br>埋土 | 〃 | 口径 21.4 | 口縁部が内傾する直口縁の鉢。口縁部を肥厚させる。口縁部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ，内面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| 144-413<br>92000188 | S B29<br>埋土 | 高坏 | 口径 29.4 | 短く大きく開く口縁部。内面は口縁部に鋸歯状，坏部に縦方向の暗文を施す。口縁部から内面ナデ。坏部外面ヘラケズリ。 | 橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 144-414<br>92000371 | SB29<br>埋土 | 高坏 | 口径 31.6 | やや長く外反する口縁部。口縁部から坏部外面へラミガキ，坏部内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -415<br>92000291 | SB29<br>P4 | 〃 | 口径 32.1 | 短く大きく開く口縁部。口縁外面に縦方向の暗文を施す。内外面へラミガキ。口縁外面にハケメの痕跡あり。 | 赤橙色 |
| -416<br>92000190 | SB29<br>埋土 | 〃 | 口径 32.2 | 短く大きく開く口縁部。口縁外面に鋸歯状の暗文を施す。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ。坏部外面，内面へラミガキ。 | にぶい橙色 |
| -417<br>92000189 | SB29<br>埋土 | 〃 | 口径 32.6 | 口縁部が直立気味に立ち上がり外反する。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ハケメ後ナデ，下半部ケズリ。内面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -418<br>89009350 | SB29 | 〃 | 裾径 16.6 | 裾部が直線的に立ち上がる。円形の穿孔は4～6方か。外面へラミガキ，裾端部ハケメ，内面ケズリ。 | 褐色～黒褐色 |
| -419<br>92000163 | SB29<br>埋土 | 支脚 | 裾径 12.0<br>器高 10.2 | 受け部が水平になる支脚。内外面ナデ。 | 浅黄橙～橙色 |
| -420<br>92002207 | SB29<br>埋土 | 器台 | 口径 12.8<br>器高 16.2 | 裾部がやや湾曲して立ち上がる。端部ヨコのナデ。内外面ハケメ。 | 黄橙色～橙色 |
| -421<br>92002209 | SB29<br>埋土 | 〃 | 口径 14.4<br>器高 20.6 | 裾部がやや湾曲して立ち上がる。裾外面に2条，端部に1条沈線がめぐる。端部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -422<br>92000162 | SB29<br>埋土 | 〃 | 口径 15.4<br>器高 19.7 | 裾部が内湾して立ち上がる。口唇部に刻みを施す。端部ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ハケメ，中央部ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -423<br>92000161 | SB29<br>埋土 | 〃 | 口径 14.4<br>器高 19.4 | 裾部が直線的に立ち上がる。口唇部に刻みを施す。端部ヨコのナデ，内外面ハケメ。 | 浅黄橙色 |
| 145-424<br>90000931 | SB31 | 高坏 | 口径 31.8 | 短く大きく開く口縁部。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 黄褐～茶褐色 |
| -425<br>90000932 | SB31<br>埋土 | 鉢 | 口径 32.0<br>残高 18.1 | 不安定な平底で屈折口縁の大型の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 褐色～灰黄色 |
| -426<br>92000342 | SB31<br>P1 | ミニチュア | 裾径 4.3<br>器高 3.6 | 支脚のミニチュアか。外面から裾部内面ハケ。内面から上面ナデ。 | 橙色 |
| -427<br>90000930 | SB31<br>埋土 | 鉢 | 口径 7.6<br>器高 8.9 | グラス形の鉢。底部がわずかに意識される。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ミガキに近いハケ，下半部ナデ。内面ナデ。 | 黄褐色 |
| -428<br>90000929 | SB37<br>埋土 | 〃 | 口径 17.0 | 直口縁の鉢。口唇部ややくぼむ。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 黄褐～茶褐色 |
| -429<br>90000928 | SB37<br>埋土 | 〃 | 口径 15.2 | 直口縁の鉢。口唇部ややくぼむ。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面板状工具によるナデか。 | 赤褐色 |
| -430<br>95000092 | SB36<br>埋土 | ミニチュア | 口径 8.05<br>器高 3.7 | 手捏ねで，鉢のミニチュア。不安定な平底。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 浅黄褐色 |
| -431<br>95000091 | SB36<br>埋土 | ジョッキ | 底径 14.6 | ジョッキ形土器の底部片。内外面ナデ。 | 浅黄橙色 |
| 146-432<br>92000104 | SB41<br>埋土 | 壺 | 口径 13.8<br>胴径 28.8 | 直口縁で長胴の壺。胴部に縦方向のヘラ描沈線文か。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ケズリ。 | 淡茶褐色 |
| -433<br>95000090 | SB41<br>埋土 | 高坏 | | 長く大きく開く口縁部の高坏か。調整は磨耗のため不明であるが，ヨコのナデか。 | 橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 146-434<br>91002394 | ＳＢ41 | 高坏 | 口径 11.1 | 小型高坏の坏部。口縁部から外面ヨコのナデ。坏部内面ハケメ後ナデ。 | 暗橙色 |
| -435<br>95000089 | ＳＢ41<br>埋土 | 甕 | 底径　5.9 | 凸レンズ状の底部。胴部内外面ハケメ後ナデ。底部ナデ。 | 黄橙色 |
| 147-436<br>95000143 | ＳＢ45 | 〃 | 口径 18.6 | く字状口縁の小型甕。傾きは不明確。口縁部ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -437<br>91002359 | ＳＢ45 | 壺 | | 丸底の壺底部。胴部外面ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ後ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -438<br>91002361 | ＳＢ45 | 大甕 | 口径 33.8 | く字状口縁。口唇部と突帯上に刻みを施す。頸部に三角突帯が１条めぐる。内外面ヨコのナデ。 | 橙色 |
| -439<br>91002358 | ＳＢ45 | ミニチュア | 口径　9.7<br>残高　4.5 | 手捏ね。直口縁の鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 赤褐色 |
| -440<br>95000144 | ＳＢ45 | 器台 | 口径　9.9 | 受け部が袋状になる。受け部ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -441<br>91002360 | ＳＢ45 | 高坏 | 裾径 16.7 | 高坏の脚部。３方に円形の透かしを施す。外面から坏部内面へラミガキ。裾部内面ハケメ，脚部内面ナデ。 | 浅黄橙色 |
| -442<br>92000102 | ＳＢ46<br>床面 | 甕 | 底径　8.5 | 平底の甕底部。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。底部ナデ。 | 淡黒褐色 |
| -443<br>95000095 | ＳＢ46<br>埋土 | ジョッキ | 底径 13.4 | ジョッキ形土器の底部から胴部。内面ナデ。外面磨耗のため調整不明瞭，ナデか。 | 灰白色 |
| 148-444<br>89009917 | ＳＢ47<br>№２ | 壺 | 口径 18.9<br>器高 27.9 | 直口壺。やや不安定な平底。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |
| -445<br>91002346 | ＳＢ47<br>№１ | 鉢 | 口径 18.7<br>器高 4.95 | やや不安定な平底で直口縁の鉢。口縁端部をつまみ出す。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 赤褐色 |
| -446<br>91002347 | ＳＢ47<br>床面 | 〃 | 口径 18.5<br>器高　9.6 | 不安定な平底で直口縁のやや深めの鉢。口縁部ややゆがむ。口縁部ヨコのナデ。外面ナデ，内面ハケメ。 | 橙色 |
| -447<br>95000087 | ＳＢ49 | 高坏 | 口径 31.8 | 口縁端部がやや肥厚する。口縁外面に鋸歯状の暗文を施す。口縁外面ヨコのナデ。坏部外面，内面へラミガキ。 | 黄褐色 |
| -448<br>91002364 | ＳＢ49 | 甕 | 口径 14.8<br>器高 21.3 | 高台状の底部でく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。外面にタタキの痕跡あり。 | 灰褐色 |
| -449<br>92000123 | ＳＢ51<br>埋土 | ミニチュア | 口径 10.2<br>残高 4.65 | 手捏ね。鉢のミニチュア。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 淡橙色 |
| -450<br>92000125 | ＳＢ51<br>埋土 | 鉢 | 口径 12.7<br>器高　6.2 | 椀形の鉢。内外面ハケメ後ナデ。底部へラケズリ。 | にぶい橙色 |
| -451<br>92000124 | ＳＢ51<br>埋土 | 〃 | 口径 15.8<br>残高 5.45 | 直口縁の鉢。不安定な平底であろう。口縁部ヨコのナデ。胴部外面下半部ケズリ後ナデ，内面ナデ。 | 褐色 |
| 149-452<br>92000120 | ＳＢ52<br>埋土 | 大甕 | 口径 44.1 | 頸部に三角突帯が１条めぐる。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ナデ。胴部内外面ハケメ。 | 淡茶褐色 |
| -453<br>92000118 | ＳＢ52<br>埋土 | 甕 | 口径 32.7 | く字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 淡橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 149-454<br>95000093 | ＳＢ52<br>埋土 | 高坏 | | 鋤先状口縁の高坏。口縁上面に暗文の痕跡，丹塗磨研の痕跡がみられる。口縁部ヨコのナデ。 | 橙色 |
| -455<br>92000116 | ＳＢ52<br>埋土 | 壺 | 口径 10.7 | 小型の無頸壺。口縁部ヨコのナデ。内面ナデ。外面調整不明であるが，ハケメか。 | 明黄褐色 |
| -456<br>92000117 | ＳＢ52<br>埋土 | 〃 | 口径 12.5 | 口縁内面が直線的な無頸壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 褐色 |
| -457<br>92000121 | ＳＢ52<br>埋土 | 甕 | 口径 20.0 | く字状口縁で小型の甕。口縁部ヨコのナデ。内面ナデ。外面磨耗のため調整不明だが，ハケメか。 | 褐色 |
| -458<br>92000122 | ＳＢ52<br>埋土 | 鉢 | 口径 17.0<br>器高 6.6 | 底部やや不安定で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。外面板状工具によるナデ，内面ナデ。所在不明。 | 淡橙色 |
| -459<br>95000094 | ＳＢ52<br>埋土 | 高坏 | 口径 29.7 | 口縁が短く外反する高坏。外面は暗文か。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -460<br>92000276 | ＳＢ53<br>埋土 | 壺 | | 凸レンズ状底。広口壺か。外面上半部ハケメ，下半部ケズリ，内面ハケメ。 | にぶい橙色 |
| -461<br>95000150 | ＳＢ53<br>床面 | 〃 | 口径 16.6 | 内傾する口縁部が内湾する複合口縁壺。屈曲部に刻みを施す。口縁部ヨコのナデ。頸部内外面ハケメ。 | 黄橙色 |
| 150-462<br>91002069 | ＳＢ54 | 甕 | 口径 16.4 | 内湾する口縁がやや立ち気味である。胴部に波状文を施す。口縁部ハケメ後ヨコのナデ。外面ハケメ，内面ヘラケズリ。 | 淡黄色 |
| -463<br>91002068 | ＳＢ54<br>埋土 | 〃 | 口径 12.5 | 口縁部やや内湾する。磨耗が激しく調整不明であるが，口縁部ヨコのナデ，外面ハケメ，内面ヘラケズリか。器壁が厚い。 | 淡黄色 |
| -464<br>91002326 | ＳＢ54 | 〃 | | 丸底で球形の胴部。外面のハケメは雑で，通有のものではない。下半部はケズリ状の調整。内面ヘラケズリ。器壁が厚い。 | にぶい褐色 |
| -465<br>91002073 | ＳＢ54 | 壺 | 口径 14.8 | 口縁部が直立気味の広口壺。口縁外面から胴部上半部ナデ，中央部ハケメ。口縁内面ヘラミガキ，胴部内面ヘラケズリ。 | 橙色 |
| -466<br>91002070 | ＳＢ54 | 〃 | 口径 10.2 | 小型の広口壺。屈曲が明瞭でない。磨耗のため調整不明であるが，ナデか。 | 橙色 |
| -467<br>91002071 | ＳＢ54 | 〃 | 口径 13.4 | 小型の広口壺。口縁部やや内湾する。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。 | 灰白～褐灰色 |
| -468<br>91002074 | ＳＢ54 | 高坏 | 裾径 12.2 | 脚柱部やや膨らむ。裾部は強く屈曲する。脚柱部外面はハケメ，後ミガキか。裾部外面ハケメ，内面ケズリ。 | 橙色 |
| -469<br>91002072 | ＳＢ54 | 壺 | 口径 11.0<br>器高 13.5 | 小型の広口壺。口縁部やや内湾する。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ。内面上半部ヘラケズリ，下半部ナデ。 | 橙色 |
| -470<br>91002075 | ＳＢ54<br>埋土 | 鉢 | 口径 20.8<br>器高 10.0 | 粗製の直口縁の鉢。内外面ユビオサエ後ナデ。外面上半部にすすが付着する。 | にぶい橙色 |
| 151-471<br>92000111 | ＳＢ55<br>埋土 | 壺 | 口径 20.2 | 直線的な口縁部の広口壺。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 淡赤橙色 |
| -472<br>92000114 | ＳＢ55 | 高坏 | 裾径 15.8 | 裾部が比較的まっすぐ立ち上がる。裾端部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -473<br>91002062 | ＳＢ55 | 鉢 | 口径 34.7<br>残高 19.0 | 屈折口縁で丸底か。口縁外面ハケメ後ヨコのナデ，内面ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ。 | 淡黄褐色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量　cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 151-474<br>92000113 | S B55 | ミ　ニ<br>チュア | 口径(7.4) | 手捏ね。壺のミニチュア。口縁部ヨコのナデ。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 淡茶褐色 |
| -475<br>92000112 | S B55 | 甕か | 底径 7.35 | 凸レンズ状底。甕の底部か。胴部外面ケズリ，内面ハケメ後ナデ。底部ナデ。 | 淡橙色 |
| -476<br>95000145 | S B63<br>埋土 | 甕か | 口径 13.4 | く字状口縁で，小型の甕か。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ハケメ後ナデ。 | にぶい黄褐色 |
| -477<br>95000147 | S B63 | 高坏 | | 鋤先状口縁の高坏。ヨコのナデか。 | 浅黄橙色 |
| -478<br>95000146 | S B63<br>埋土 | 〃 | | 短くやや直立気味の口縁の高坏。ヨコのナデ。 | 黄橙色 |
| 152-479<br>89009341 | S B64<br>埋土 | 甕 | 口径 28.7<br>器高 30.7 | 平底でく字状口縁の甕。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 茶褐色 |
| -480<br>89009340 | S B64<br>№1 | 壺 | 口径 13.4<br>器高 12.2 | 底部やや不安定な無頸壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面上半部ハケメ，下半部ナデ，内面ナデ。 | 黄灰褐色 |
| -481<br>89009339 | S B64 | 〃 | 底径 9.0<br>残高 12.8 | 平底の無頸壺。口縁部ヨコのナデ。胴部ハケメ後ナデ，内面ナデ。所在不明。 | 茶褐色 |
| -482<br>92000011 | S B72<br>№1 | 甕 | 底径 6.0 | 平底。胴部内外面ナデ。 | にぶい黄橙色 |
| -483<br>92000013 | S B72<br>№1 | 〃 | 底径 6.8 | 平底。胴部内外面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -484<br>92000012 | S B72<br>床面 | 鉢 | 口径 20.8<br>器高 15.3 | 粗製の鉢。直口縁でやや深めの胴部。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ナデ，内面ハケメ。 | 黄橙色 |
| -485<br>92000009 | S B76<br>埋土 | 壺 | 口径 6.2 | 小型の広口壺。口縁部はほぼ直立する。口縁部ヨコのナデ。外面ハケメ，下半部ナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| 153-486<br>95000149 | S B78<br>埋土 | 甕 | | く字状口縁の甕。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 赤褐色 |
| -487<br>95000148 | S B78<br>埋土 | 高坏 | | 短く大きく開く口縁部。調整はヨコのナデ。坏部外面はケズリか。 | 暗赤褐色 |
| -488<br>92000010 | S B78<br>埋土 | ミニチュア | | 手捏ね。ミニチュアの甕の底部か。胴部内外面ナデ，底部ケズリ。 | 黄橙色 |
| -489<br>92000007 | S B78<br>埋土 | 壺 | 口径 9.2 | 短く外反する口縁部の小型の広口壺。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ナデ。 | 茶褐色 |
| -490<br>92000005 | S B78<br>P 1 | 鉢 | 口径 15.5<br>器高 6.9 | 直口縁の鉢。底部はわずかに意識される。口縁外面ヨコのナデ。口縁内面，胴部内外面ハケメ。 | 橙色 |
| -491<br>92000211 | S B81<br>P 2 | 壺 | 口径 13.6 | 口縁部が短く外反する小型の広口壺。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -492<br>92000208 | S B81<br>P 1 | 鉢 | 口径 18.2 | 直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ナデ。 | 灰褐色 |
| -493<br>92000165 | S B81<br>P 4 | 甕 | 口径 18.8<br>器高 23.4 | く字状口縁の甕。底部は不安定な平底。口縁外面ヨコのナデ。口縁内面，胴部内外面ハケメ。 | 黒褐色～橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器種 | 法量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 153-494<br>92000213 | S B81<br>P 1 | 高坏 | 口径 28.4 | 口縁部が直線的に直立気味の高坏。口縁部ヨコのナデ。坏部内外面ハケメ後ナデ。 | にぶい橙色 |
| -495<br>92000214 | S B81<br>P 2 | 〃 | 口径 29.2 | 口縁部が外反し直立気味の高坏。口縁端部内面がやや肥厚する。口縁部ヨコのナデ。坏部外面ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| -496<br>95000086 | S B83<br>埋土 | 鉢 | 口径 15.9<br>残高 8.05 | やや不安定な平底で屈折口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ハケメ後ナデ。 | 黄橙色 |
| -497<br>95000085 | S B83<br>埋土 | 〃 | 口径 16.0<br>残高 6.85 | 不安定な平底で直口縁の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハ褐色ケメ，内面ナデ。 | 橙色～ |
| 154-498<br>93003424 | S X302<br>No16 | 甕 | 口径 21.9 | く字状口縁の甕。屈曲部は緩やか。口縁部ヨコのナデ，胴部内外面ハケメ。 | 褐色 |
| -499<br>93003422 | S X302 | 〃 | 口径 24.6 | く字状口縁の甕。屈曲部は鋭い。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | にぶい褐色 |
| -500<br>93003415 | S X302<br>No 1 | 〃 | 口径 16.6<br>器高 26.8 | 不安定な平底でく字状口縁の甕。口縁部ヨコのナデ。胴部外面上半部ナデ，下半部ハケメ，内面ナデ。 | 橙色～黄橙色 |
| -501<br>93003423 | S X302<br>No16 | 〃 | 口径 29.3 | く字状口縁の甕。屈曲部は鋭い。口縁外面ヨコのナデ，内面ハケメ後ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色～黒褐色 |
| 155-502<br>93002616 | S X302<br>No 2 | 壺 | 口径 16.2 | 長胴の広口壺。口縁部ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，一部ナデ。内面上半部ハケメ，下半部ハケメ後ナデ。 | 黄褐色 |
| -503<br>93003427 | S X302 | 〃 | 口径 9.8 | 直口壺。口縁端部やや肥厚する。低い三角突帯が5条めぐる。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -504<br>93003421 | S X302<br>No 8 | 〃 | 口径 14.4 | 球形胴部の広口壺。口唇部に刻みを施す。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | 橙色～赤褐色 |
| -505<br>93003416 | S X302<br>No 9 | 〃 | 口径 14.0<br>残高 24.1 | 口縁部が短い球形胴部の広口壺。底部は凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ。胴部上半部ハケメ，下半部ナデ，内面ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -506<br>93003426 | S X302 | 高坏 | 口径 31.4 | 口縁部がほぼ直立する高坏。端部が短く外反する。口縁部ヨコのナデで，外面暗文か。坏部外面ナデ，内面ハケメ後ナデ。 | 橙色 |
| -507<br>94000418 | S X302<br>No15 | 〃 | 裾径 20.3 | 穿孔は3方か。坏部内面ナデ。脚部ヘラミガキ，内面ナデ。 | 橙色 |
| 156-508<br>94000451 | S X302<br>No12 | 鉢 | 口径 18.3<br>器高 7.4 | 直口縁の鉢。底部は不安定な平底。口縁部ヨコのナデ。胴部内外面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -509<br>93003429 | S X302<br>No12 | 〃 | 口径 20.1<br>器高 12.7 | 屈折口縁の鉢。底部は凸レンズ状底。口縁部ヨコのナデ，内面はハケメか。胴部外面板状工具によるナデ，内面ナデ。 | 橙色 |
| -510<br>94000452 | S X302 | 〃 | 口径 23.7<br>器高 12.0 | 屈折口縁の鉢。底部は平底。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後一部ナデ。内面ハケメ。 | 橙色～暗褐色 |
| -511<br>93003420 | S X302 | 支脚 | 裾径 11.8<br>器高 9.55 | 受け部が水平な支脚。端部ヨコのナデ。外面タタキ。内面ナデ。 | にぶい橙色 |
| -512<br>94000419 | S X302<br>埋土中層 | 器台 | 口径 12.5<br>器高 16.4 | 裾部が湾曲して立ち上がる。端部ヨコのナデ。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 橙色 |
| -513<br>93003419 | S X302<br>床面 | 〃 | 口径 11.1<br>器高 18.2 | 上下ほぼ対称の器台。器壁は厚い。端部ヨコのナデ。外面タタキ後ナデ。内面ナデ，下半部ハケメ。 | 橙色 |

| Fig-図番号<br>登録番号 | 出土地点 | 器　種 | 法　量 cm | 形態・調整の特徴・その他 | 色　調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 156-514<br>93003418 | S X302 | 器台 | 口径 12.2<br>器高 17.9 | 裾部が湾曲して立ち上がる。端部ヨコのナデ。外面タタキ。内面ハケメ，中央部ナデ。 | 橙色 |
| -515<br>94000421 | S X302<br>No 5 | 〃 | 口径 13.9<br>器高 18.2 | 裾部が直線的に立ち上がる。端部ヨコのナデ。外面ハケメ後ナデ。内面ナデ，上部ハケメ。 | にぶい黄橙色 |
| -516<br>94000423 | S X302 | 〃 | 口径 15.4<br>器高 18.8 | 裾部より受け部の方が径が大きい。端部ヨコのナデ。外面ハケメ。内面ハケメ，中央部ナデ。 | 橙色 |
| -517<br>93003417 | S X302<br>No20 | 〃 | 口径 16.0<br>器高 18.9 | 裾部と受け部の径がほぼ同じである。端部ヨコのナデ。外面ハケメ。内面ナデ，上部ハケメ。 | 橙色 |
| 157-518<br>92000278 | S B57 | 〃 | 口径 16.7 | 口縁部やや内湾する。胴部にヘラ描きの波状文を施す。口縁部ヨコのナデ，胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。 | 浅黄～灰白色 |
| -519<br>88005675 | S K210<br>埋土 | 壺 | 口径 4.4<br>器高 10.0 | 小型の複合口縁壺。頸部は短い。底部はやや不安定な平底。口縁部ヨコのナデ。胴部下半部ヘラミガキ。 | 黄橙色 |
| -520<br>95000037 | S K213<br>埋土 | 支脚 | 裾径 12.0<br>器高 11.4 | 受け部が袋状の支脚。受け部ヨコのナデ。内外面ユビオサエ後ナデ。 | 茶褐色 |
| -521<br>94000289 | S K324 | 甕 | 口径 24.0 | く字状口縁の甕。口縁部直立気味。口縁部タタキ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ハケメ，内面ハケメ後ナデ。 | 浅黄褐色 |
| -522<br>94000290 | S K324 | 〃 | 底径 7.1 | 凸レンズ状の甕底部。外面上半部ハケメ，下半部ケズリ。内面ハケメ。底部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 浅黄褐色 |
| -523<br>94000288 | S K324 | 鉢 | 口径 15.6<br>器高 5.7 | 椀形の鉢。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ後ナデ，内面ナデ。 | 浅黄褐色 |
| -524<br>94000287 | S K324 | 〃 | 口径 14.4<br>残高 5.45 | 椀形の鉢。内面に縦方向の暗文を施す。口縁部ヨコのナデ。色胴部内外面ハケメ後ナデ。 | 浅黄褐 |
| -525<br>94000291 | S K324 | 〃 | 口径 27.3<br>器高 17.4 | 底部丸底で屈折口縁の鉢。口縁部タタキ後ヨコのナデ。胴部外面タタキ後ナデ，下半部はケズリか。内面ハケメ後ナデ。 | 浅黄褐色 |
| 158-526<br>92000058 | S K50<br>床面 | 鉢か | 口径 29.2 | 直口縁の鉢か。内外面丹塗り。胴部に三角突帯が1条めぐる。口縁部ヨコのナデ。胴部内面ミガキ。 | 明赤褐色 |
| -527<br>92000059 | S K50<br>床面 | 台付甕 | 裾径 9.2 | 底部が上げ底状になる。脚部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ナデ。 | 明赤褐色 |
| -528<br>92000103 | S B46<br>埋土 | 壺 | 口径 12.1<br>器高 11.5 | 口縁部はやや内湾する。口縁部ヨコのナデ。胴部外面ハケメ，内面ヘラケズリ。底部内面ナデ。 | 淡茶色 |
| -529<br>94002613 | S B287<br>埋土上層 | 〃 | | 二重口縁壺の口縁部か。口唇部と口縁部内面に櫛描の波状文を施す。調整はハケメ後ヨコのナデ。 | 黄褐色 |
| -530<br>95000160 | S B46<br>埋土 | 〃 | 口径 23.0 | 二重口縁壺であろう。口縁部は直立気味。調整はヨコのナデ。 | 灰白色 |
| -531<br>95000161 | S B46<br>埋土 | 壺か | | 突出する小さい平底になると思われる。壺底部か。外面はタタキ，内面はハケメ後ナデ。 | 黄褐色 |
| -532<br>95000164 | S D17 | 甕か | | 突出する不安定な平底。甕底部か。外面はタタキ，内面はハケメ。 | 浅黄橙色 |

(2) **土製品** (Fig. 159)

**土錘** 533は全長3.23cm，径1.15cm，孔径0.4cm，ＳＢ260検出面出土。534は全長3.4cm，径0.9～1.2cm，孔径0.4cm，ＳＢ273埋土下層出土。

**紡錘車** 535は径4.2cm，孔径0.65cm，厚さ2.35cm，重量30.9cm，ＳＢ283埋土出土。

**土弾** 536～540はＳＢ64埋土上層から出土した。他にも破片があり，15点ほどあったと考えられる。536は全長4.3cm，径2.15cm，重量18.8ｇ，537は全長4.45cm，径2.35cm，残存重量20ｇ，538は全長4.35cm，径2.4cm，残存重量19.4ｇ，539は残存長4.0cm，径2.25cm，残存重量17.4ｇ，540は全長4.4cm，径2.3cm，残存重量17.8ｇ。541は全長4.05cm，最大径2.15cm，重量15.8ｇ，ＳＢ306ピット出土。542は残存長3.3cm，最大径2.4cm，ＳＢ63埋土上層出土。543は全長5.3cm，最大径3.1cm，重量37.6ｇ，ＳＢ163出土。

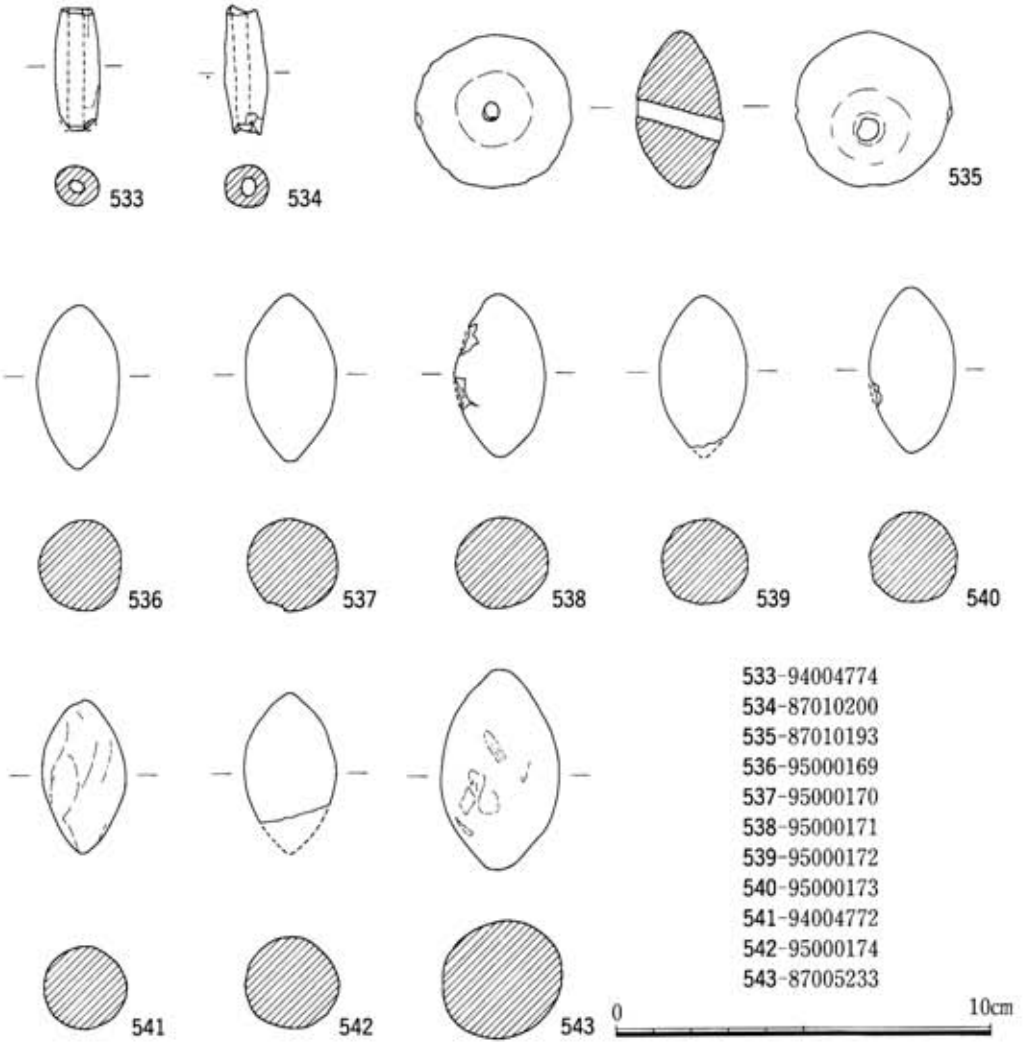



Fig. 159　出土土製品 (1/2)

### (3) 石器（Fig. 160・161）

**石包丁**　20数点の出土が確認されるが，14点を図示した。完形品がかなりあり，未製品も出土している。形態はバラエティに富むが，いずれも両刃である。研ぎ直しで小型になったものが多い。

544～546は脊が直線の半月刃である。544は立岩産といわれる輝緑凝灰岩系統の石材である。長さ12.6cm，幅4.35cm，厚さ0.7cm。ＳＢ180（ＳＢ29）床面出土。545・546は灰色の砂岩系統の石材である。545は残存長7.6cm，幅3.6cm，厚さ0.65cm。ＳＢ267出土。546は長さ10.15cm，幅4.6cm，厚さ0.8cm。ＳＢ269埋土出土。547は脊が湾曲する半月刃で，灰色の砂岩系統の石材である。長さ10.5cm，幅4.6cm，厚さ0.7cm。ＳＢ321出土。548は脊が直線の半月刃で，やや赤みがかかった灰色の泥岩系統の石材である。片面はかなり剝離している。長さ8.3cm，幅4.3cm，厚さ0.5cm。ＳＢ09埋土出土。549は脊が若干湾曲気味の半月刃であるが，やや不整形である。灰色の砂岩系統の石材で，残存長12.1cm，幅4.7cm，厚さ0.7cm。ＳＢ22埋土出土。550は脊がやや湾曲する半月刃である。穿孔の途中でやめているが，製品として使用しているようであり，研ぎ直し途中のものであろうか。長さ10.55cm，幅5.05cm，厚さ0.75cm。ＳＢ55埋土出土。551・552は破片であるが長方形に近いものであろうか。551はにぶい黄橙色，552は暗褐色のともに泥岩系統の石材である。いずれもＳＫ210出土。553は灰色の砂岩系統の石材のもので，脊がやや湾曲する半月刃である。長さ14.3cm，幅5.5cm，厚さ0.75cm。中世のＳＫ296から出土したが，混入である。554は灰色の砂岩系統の石材で，脊が直線の半月刃である。残存長8.2cm，幅4.4cm，厚さ0.3cm。ＳＢ365東側黒色土出土。555は長方形のもので，緑泥片岩系統の石材である。長さ10.95cm，幅3.6cm，厚さ0.65cm。奈良・平安時代のＳＢ266の柱穴から出土しているが，ＳＢ267からの混入であると考えられる。556は脊が湾曲する半月刃である。青灰色の片岩系統の石材である。長さ10.4cm，幅4.3cm，厚さ0.8cm。Ⅲ区Ｇ４グリッド表採。557は穿孔途中の未製品である。青みがかった灰色の砂岩系統の石材である。

**紡錘車**　１点図示した。558は両面，周縁とも平滑に研磨している。片岩系統の石材で，復原径5.5cm，復原孔径0.6cm，厚さ0.3cm。ＳＢ301出土。

**石斧**　石鑿と考えられる柱状片刃石斧１点を図示した。他に抉入石斧の破片が出土している。559は灰白色の泥岩系統の石材を用いている。使用，研ぎ直しで短くなっていると思われるが，完形品である。長さ4.6cm，幅1.5cm，厚さ1.3cm。西山田二本松遺跡Ｂ区表採。

**不明石製品**　２点出土した。ともに滑石製であり，石材からすると弥生時代のものかどうかは疑問がある。560はＳＢ306から出土したのでここに図示した。スプーン状土製品に近い形態になるとすれば，弥生時代のものとしてもよいのか。561もＳＢ235埋土下層から出土したのでここに示した。縦横方向の線刻がある。

**砥石**　20数点の出土を確認しているが，２点のみ図示した。562は泥岩系統の石材で，５面使用

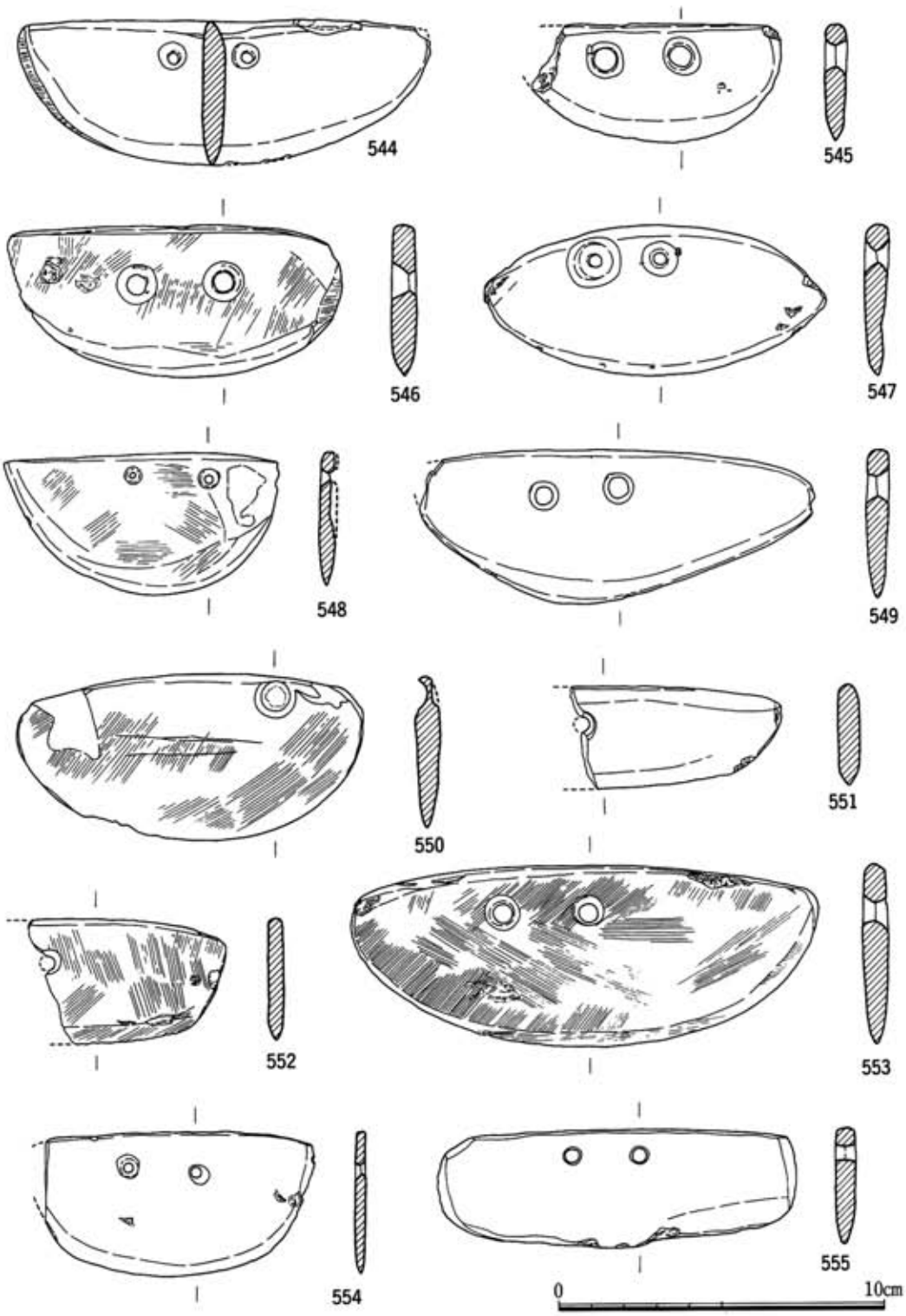
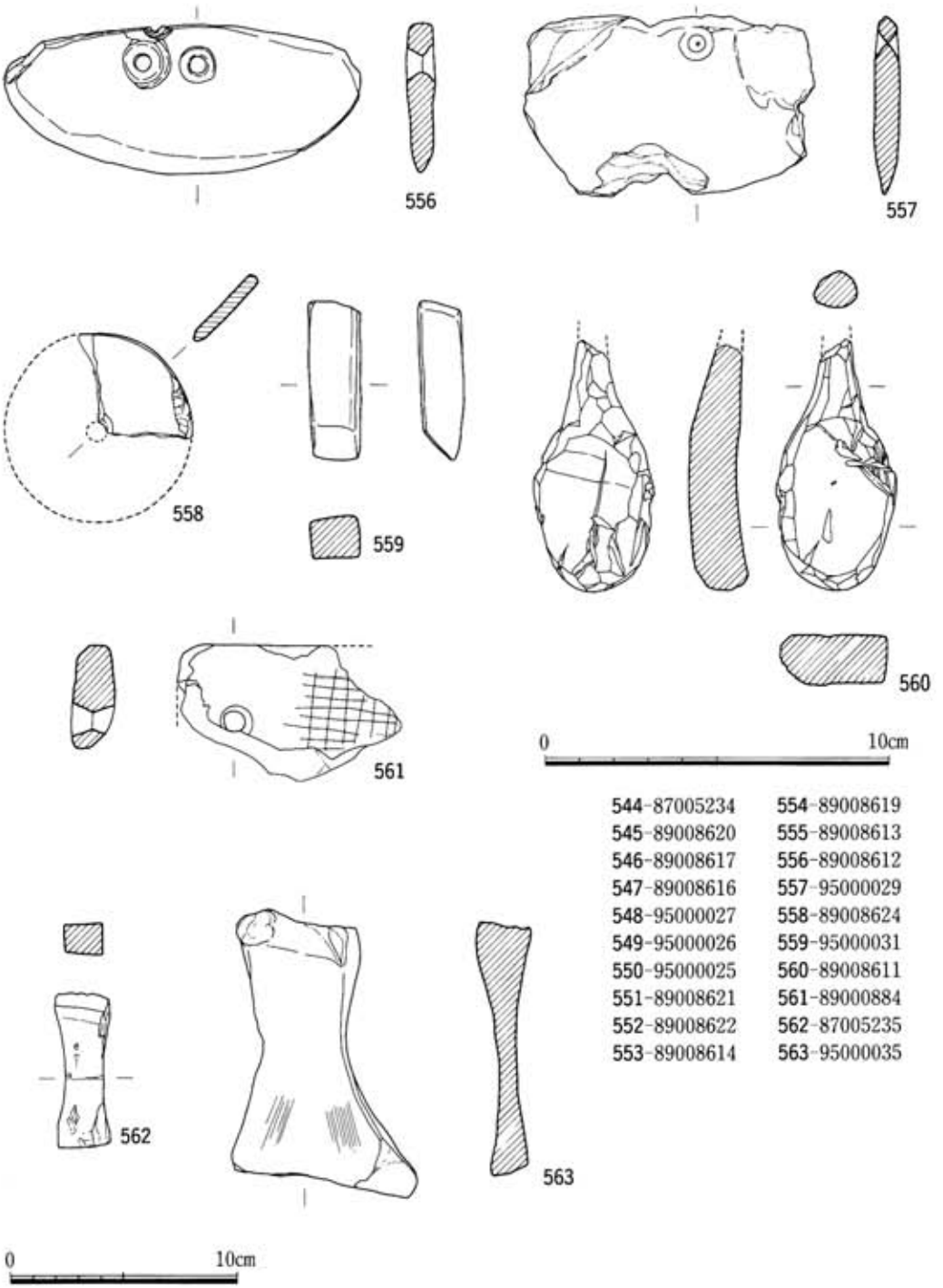



Fig. 160　出土石器①（1/2）




544-87005234
545-89008620
546-89008617
547-89008616
548-95000027
549-95000026
550-95000025
551-89008621
552-89008622
553-89008614
554-89008619
555-89008613
556-89008612
557-95000029
558-89008624
559-95000031
560-89008611
561-89000884
562-87005235
563-95000035

Fig. 161　出土石器②（562・563は1/3，他は1/2）

している。SB165床面出土。563は砂岩系統の石材で，4面使用している。SB400埋土上層出土。

### (4) 鉄器 (Fig. 162)

**鉄鏃** 5点を図示した。無茎式（564～566）と有茎式（567・568）のものがある。無茎式のものはいずれも凹基式のものである。

564は完形品で，全長5.0cm，幅2.6cm，厚さ0.2cm。樹皮状のものが付着している。SB273出土。565は基部をやや欠失する。身部中央部がややくぼんでいる。残存長3.8cm，幅1.8cm，厚さ0.15cm。564と同じく樹皮と思われるものが付着している。SB356出土。566は基部と刃部を欠失しているが，無茎式鉄鏃であろう。厚さ0.2cm。近現代の溝から出土しているが，混入であると考えられる。

567は弥生時代のものとするには類例に乏しいが，SB402の柱穴から出土していることや弥生時代から古墳時代前期のものの特徴が多くみられることからここに図示した。完形品で，全長5.05cm，鏃身長2.2cm，幅2.0cm，茎長2.85cm，茎幅0.35cm。568は先端部を欠失する。残存長9.0cm，鏃身幅2.55cm，茎長3.7cm。SD376上層出土。

**鉇** 3点図示した。いずれも断面は弧状を呈している。569は完形品で，両面に木質が付着する。全長9.5cm，幅1.3cm，厚さ0.2cm。SB391床面出土。570は一部欠失しているが，ほぼ完形に復原できる。裏すきに木質が良好に付着する。全長7.15cm，幅1.3cm，厚さ0.25cm。SB52埋土出土。571は下半部を欠失する。残存長5.65cm，幅1.45cm，厚さ0.2cm。奈良・平安時代のSD374から出土しているが，混入であろう。

**鑿** 1点出土した。572は全体に剝離が著しく，本来の形態をどこまでとどめているかはやや疑問である。刃部断面が長方形で，下端部はやや開き気味であり，両刃である。刃部幅1.9cm。袋部は刃部とほぼ同じ幅で，段などはみられない。断面は径1.95cmの円形で，内部に柄の木質が良好に残存する。肉眼観察では接合痕を確認することはできない。残存長11.1cm。SB47埋土出土。

**斧** 3点図示した。いずれも中型の鍛造袋状斧である。573は段が不明瞭な有肩のもので，完形品である。全長5.5cm，袋部幅2.3cm，刃部幅3.0cm。SB320出土。574は段が明確な有肩のもので，完形品である。全長5.9cm，袋部幅3.1cm，刃部幅3.8cm。現在所在不明になっており，確認できないが，袋部に木質が付着しているのか。奈良・平安時代のSD366から出土しているが，SB355からの混入であると考えられる。575は袋部の大部分を欠失するが，無肩のものであろうか。残存長4.5cm，刃部幅3.1cm。SB165出土。

**刀子** 3点図示した。いずれも茎部で，完形品はない。576・578はともにSK213出土で，弥生時代に属するものかは疑問がある。577は茎が短い特徴がある。SB252埋土上層出土。576と577

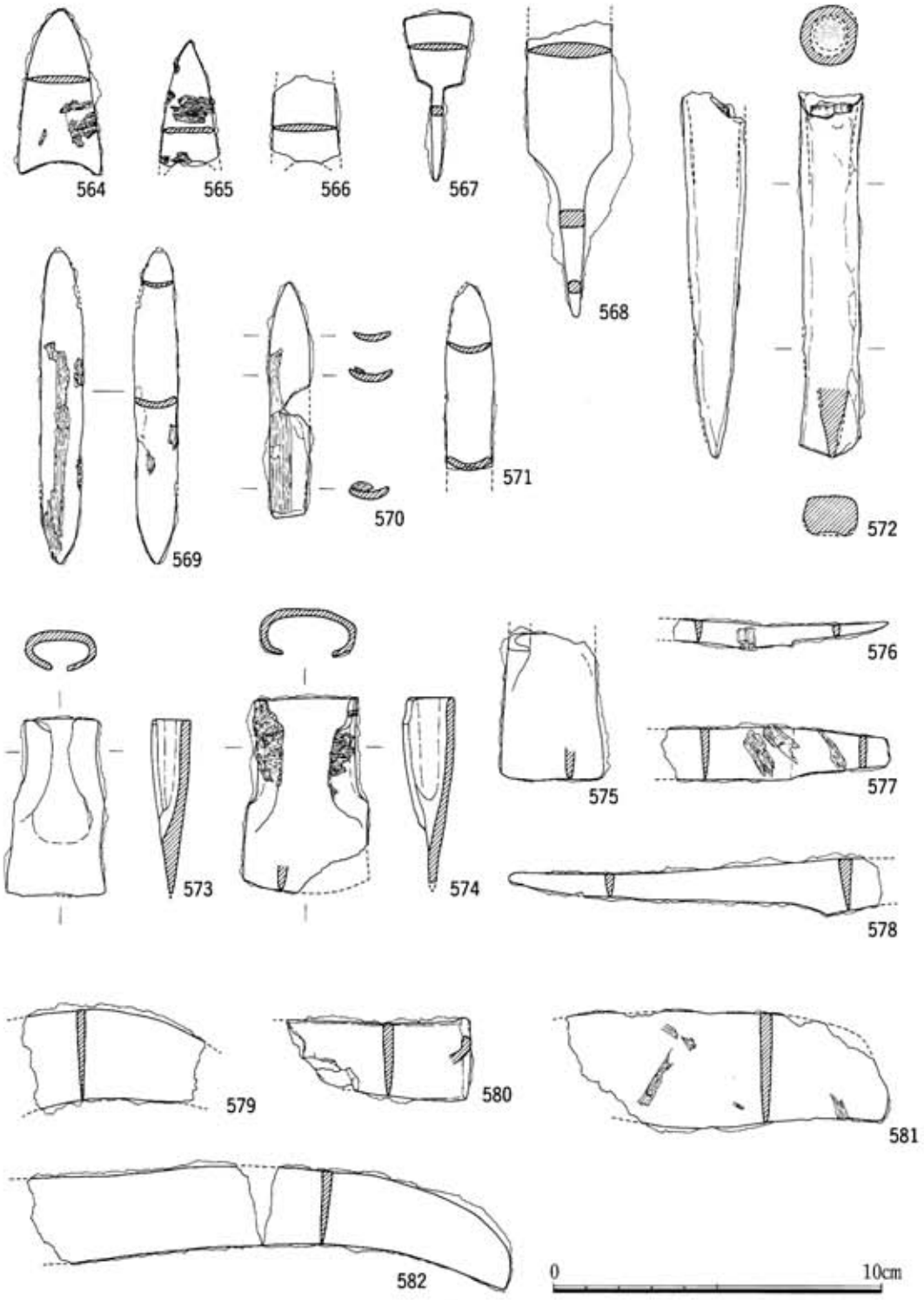



Fig. 162　出土鉄器（1/2）

には木質が付着している。

**鎌**　4点図示した。579は一部しか残存していない。湾曲しており，曲刃鎌であろう。幅2.8cm。SB265床面出土。580は基部のみ残存する。柄部の折り返しは短い。刃部はやや内湾するが，脊は直線で，直刃鎌になるか。基部幅2.4cm。SB52出土。581は先端部のみ残存する。先端部の形状は不明であるが，切り落とした可能性がある。幅3.5cm。SB349ベッド部出土。582は先端がとがった曲刃鎌である。基部は欠失する。残存長14.7cm，幅2.6cm。SB247床面出土。

（鉄器　遺物登録番号）

564－89008561　565－89008562　566－89008558　567－89008568　568－89008579
569－89008571　570－95000404　571－89008577　572－95000408　573－89008563
574－89008576　575－89008555　576－89008587　577－89008566　578－89008586
579－89008564　580－95000407　581－89008565　582－89008560

### (5)　装身具（Fig. 163・164）

**ガラス勾玉**　SB393から1点出土した。583は頭部が欠失する。径0.95cm。長さ3cmほどに復原できるようである。表面は1/3ほど白く風化しているが，緑色を呈する。

**ガラス管玉**　2点出土した。584は長さ2.2cm，径0.6cm，孔径0.1～0.18cmで，緑色を呈する。SB165床面出土。585は端部が欠失している。残存長1.75cm，径0.55cm，孔径0.12～0.15cmで，緑色を呈する。SB267床面出土。

**碧玉製管玉**　1点出土した。586は長さ0.55cm，径0.4cm，孔径0.25cm。SB269埋土出土。

**ガラス小玉**　260点以上出土し，252点図示した。SB267から103点ほど集中して出土している。径0.3～0.4cm，長さ0.2～0.3cmのものが多い。色調は，紺色が約半数を占めもっとも多く，ついで淡青色（コバルトブルー）が多い。時期的にみると，II期からIV期の古い段階のものが大部分である。

Tab. 5　ガラス小玉一覧表　（単位はcm）

| Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 | Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 163-587 | SB163 | 0.5 | 0.2 | 0.32 | 淡青 | 87005224 | 163-593 | SB165 | 0.32 | 0.15 | 0.21 | 青 | 87005216 |
| -588 | 〃 | 0.5 | 0.12 | 0.3 | 淡青 | 87005225 | -594 | 〃 | 0.3 | 0.15 | 0.27 | 紺 | 87005218 |
| -589 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 淡青 | 87005226 | -595 | 〃 | 0.28 | 0.1 | 0.4 | 青 | 87005215 |
| -590 | SB165 | 0.65 | 0.2 | 0.5 | 青 | 87005213 | -596 | SB238 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012720 |
| -591 | 〃 | 0.5 | 0.1 | 0.42 | 青 | 87005214 | -597 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 87012711 |
| -592 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.28 | 紺 | 87005217 | -598 | SB252 | 0.5 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 87012583 |

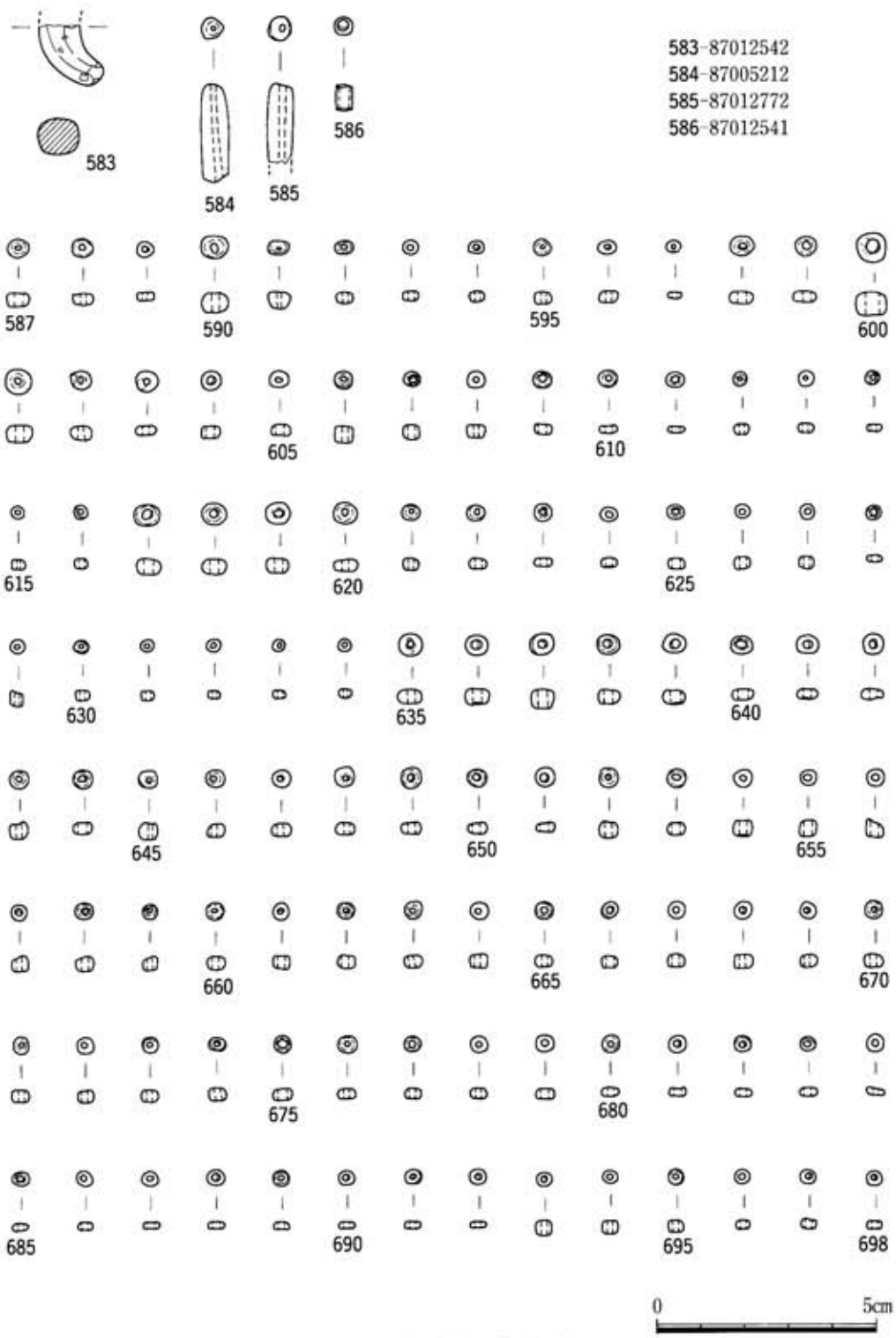



Fig. 163　出土装身具①（2/3）

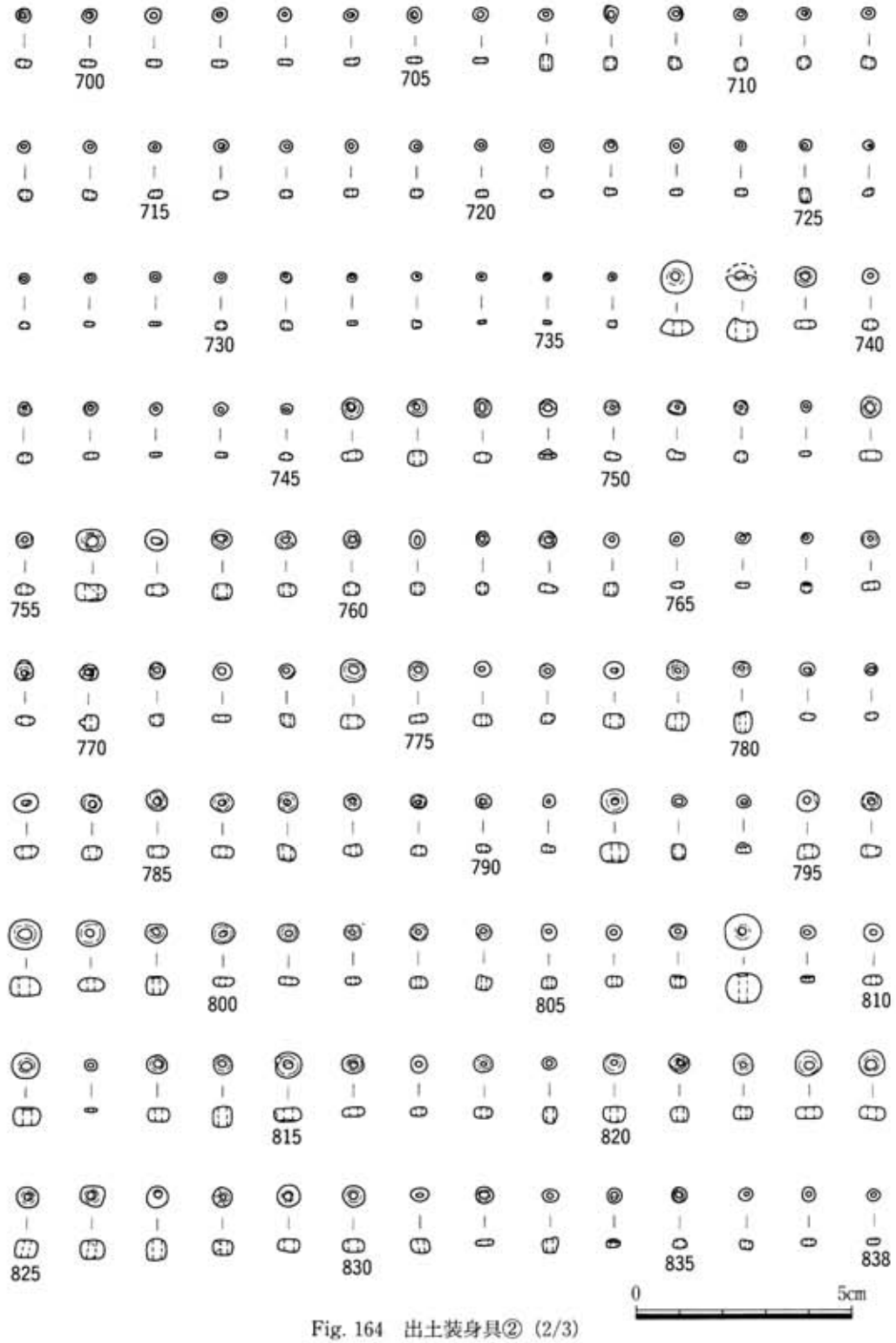



Fig. 164　出土装身具②（2/3）

| Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 | Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 163-599 | S B260 | 0.48 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012587 | 163-639 | S B267 | 0.5 | 0.25 | 0.35 | 紺 | 87012736 |
| -600 | S B262 | 0.65 | 0.32 | 0.52 | 淡青 | 87012708 | -640 | 〃 | 0.5 | 0.22 | 0.25 | 淡青 | 87012745 |
| -601 | 〃 | 0.6 | 0.2 | 0.4 | 紺 | 87012729 | -641 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012795 |
| -602 | 〃 | 0.5 | 0.15 | 0.35 | 淡青 | 87012730 | -642 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.25 | 淡青 | 87012796 |
| -603 | 〃 | 0.5 | 0.18 | 0.25 | 紺 | 87012703 | -643 | 〃 | 0.48 | 0.12 | 0.4 | 紺 | 87012770 |
| -604 | 〃 | 0.45 | 0.2 | 0.3 | 淡青 | 87012731 | -644 | 〃 | 0.48 | 0.2 | 0.23 | 淡青 | 87012741 |
| -605 | 〃 | 0.42 | 0.2 | 0.25 | 淡青 | 87012732 | -645 | 〃 | 0.45 | 0.1 | 0.4 | 紺 | 87012794 |
| -606 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.4 | 青緑 | 87012754 | -646 | 〃 | 0.45 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012800 |
| -607 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.32 | 淡青 | 87012756 | -647 | 〃 | 0.45 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012816 |
| -608 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 淡青 | 87012718 | -648 | 〃 | 0.45 | 0.12 | 0.27 | 淡青 | 87012811 |
| -609 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012755 | -649 | 〃 | 0.45 | 0.18 | 0.25 | 淡青 | 87012739 |
| -610 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012727 | -650 | 〃 | 0.45 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012809 |
| -611 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.18 | 紺 | 87012757 | -651 | 〃 | 0.45 | 0.2 | 0.2 | 青 | 87012799 |
| -612 | 〃 | 0.35 | 0.1 | 0.28 | 紺 | 87012728 | -652 | 〃 | 0.42 | 0.15 | 0.35 | 淡青 | 87012793 |
| -613 | 〃 | 0.35 | 0.1 | 0.22 | 淡青 | 87012709 | -653 | 〃 | 0.42 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012768 |
| -614 | 〃 | 0.35 | 0.12 | 0.15 | 紺 | 87012758 | -654 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.35 | 淡青 | 87012773 |
| -615 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.25 | 淡青 | 87012717 | -655 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.35 | 紺 | 87012814 |
| -616 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.25 | 淡青 | 87012759 | -656 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.4 | 淡青 | 87012797 |
| -617 | S B264 | 0.55 | 0.25 | 0.38 | 紺 | 87012776 | -657 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.4 | 淡青 | 87012817 |
| -618 | 〃 | 0.52 | 0.2 | 0.38 | 紺 | 87012777 | -658 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.35 | 紺 | 87012595 |
| -619 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.35 | 紺 | 87012300 | -659 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.35 | 紺 | 87012599 |
| -620 | 〃 | 0.55 | 0.15 | 0.3 | 青 | 87012298 | -660 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.32 | 紺 | 87012760 |
| -621 | 〃 | 0.4 | 0.1 | 0.3 | 紺 | 87012738 | -661 | 〃 | 0.4 | 0.18 | 0.32 | 淡青 | 87012802 |
| -622 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 青 | 87012778 | -662 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.32 | 紺 | 87012827 |
| -623 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.22 | 青 | 87012779 | -663 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012596 |
| -624 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.22 | 紺 | 87012780 | -664 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 淡青 | 87012746 |
| -625 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.22 | 紺 | 87012781 | -665 | 〃 | 0.4 | 0.17 | 0.3 | 紺 | 87012761 |
| -626 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012299 | -666 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 87012762 |
| -627 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012783 | -667 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012791 |
| -628 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.15 | 淡青 | 87012737 | -668 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012798 |
| -629 | 〃 | 0.32 | 0.12 | 0.36 | 淡青 | 87012785 | -669 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012801 |
| -630 | 〃 | 0.32 | 0.12 | 0.22 | 紺 | 87012782 | -670 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012805 |
| -631 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.22 | 紺 | 87012784 | -671 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012812 |
| -632 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 紺 | 87012786 | -672 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012815 |
| -633 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012787 | -673 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012825 |
| -634 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.22 | 紺 | 87012788 | -674 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.3 | 緑 | 87012831 |
| -635 | S B267 | 0.55 | 0.15 | 0.32 | 紺 | 87012790 | -675 | 〃 | 0.4 | 0.21 | 0.29 | 紺 | 87012598 |
| -636 | 〃 | 0.52 | 0.2 | 0.35 | 紺 | 87012792 | -676 | 〃 | 0.4 | 0.1 | 0.26 | 紺 | 87012796 |
| -637 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.45 | 淡青 | 87012789 | -677 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.25 | 紺 | 87012763 |
| -638 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.32 | 青 | 87012823 | -678 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.25 | 紺 | 87012764 |

| Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 | Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 163-679 | ＳＢ267 | 0.4 | 0.18 | 0.25 | 紺 | 87012804 | 164-719 | ＳＢ267 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012845 |
| -680 | 〃 | 0.4 | 0.17 | 0.2 | 紺 | 87012597 | -720 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012846 |
| -681 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 青 | 87012808 | -721 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.2 | 淡青 | 87012849 |
| -682 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012824 | -722 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 青 | 87012767 |
| -683 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 淡青 | 87012833 | -723 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 87012843 |
| -684 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012803 | -724 | 〃 | 0.28 | 0.1 | 0.18 | 淡青 | 87012856 |
| -685 | 〃 | 0.4 | 0.12 | 0.2 | 青 | 87012806 | -725 | 〃 | 0.25 | 0.1 | 0.3 | 紺 | 87012841 |
| -686 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.18 | 青 | 87012810 | -726 | 〃 | 0.25 | 0.05 | 0.2 | 淡青 | 87012742 |
| -687 | 〃 | 0.4 | 0.18 | 0.15 | 青 | 87012813 | -727 | 〃 | 0.25 | 0.12 | 0.15 | 青 | 87012850 |
| -688 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.15 | 青 | 87012818 | -728 | 〃 | 0.25 | 0.1 | 0.12 | 青 | 87012851 |
| -689 | 〃 | 0.38 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012820 | -729 | 〃 | 0.25 | 0.1 | 0.1 | 青 | 87012858 |
| -690 | 〃 | 0.38 | 0.15 | 0.17 | 紺 | 87012821 | -730 | 〃 | 0.23 | 0.1 | 0.2 | 紺 | 87012854 |
| -691 | 〃 | 0.38 | 0.15 | 0.15 | 淡青 | 87012819 | -731 | 〃 | 0.22 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012855 |
| -692 | 〃 | 0.38 | 0.15 | 0.15 | 青 | 87012807 | -732 | 〃 | 0.22 | 0.1 | 0.1 | 青 | 87012853 |
| -693 | 〃 | 0.35 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012828 | -733 | 〃 | 0.2 | 0.08 | 0.2 | 青 | 87012857 |
| -694 | 〃 | 0.35 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012834 | -734 | 〃 | 0.2 | 0.1 | 0.1 | 紺 | 87012600 |
| -695 | 〃 | 0.35 | 0.12 | 0.3 | 淡青 | 87012747 | -735 | 〃 | 0.2 | 0.08 | 0.1 | 青 | 87012860 |
| -696 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.25 | 淡青 | 87012735 | -736 | 〃 | 0.18 | 0.1 | 0.17 | 緑 | 87012859 |
| -697 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.22 | 紺 | 87012771 | -737 | ＳＢ269 | 0.72 | 0.22 | 0.4 | 紺 | 87012716 |
| -698 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.2 | 淡青 | 87012774 | -738 | 〃 | 0.7 | 0.3 | 0.57 | 青 | 87012512 |
| 164-699 | 〃 | 0.35 | 0.1 | 0.2 | 紺 | 87012765 | -739 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.2 | 紺 | 87012712 |
| -700 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012826 | -740 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.23 | 淡青 | 87012715 |
| -701 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.18 | 紺 | 87012832 | -741 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.26 | 紺 | 87012511 |
| -702 | 〃 | 0.32 | 0.12 | 0.2 | 紺 | 87012835 | -742 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 87012713 |
| -703 | 〃 | 0.32 | 0.12 | 0.15 | 紺 | 87012839 | -743 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 紺 | 87012508 |
| -704 | 〃 | 0.32 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012842 | -744 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 淡青 | 87012509 |
| -705 | 〃 | 0.32 | 0.15 | 0.13 | 淡青 | 87012829 | -745 | 〃 | 0.25 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 87012510 |
| -706 | 〃 | 0.32 | 0.2 | 0.1 | 青 | 87012830 | -746 | ＳＢ284 | 0.5 | 0.2 | 0.25 | 紺 | 87012524 |
| -707 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.4 | 紺 | 87012822 | -747 | 〃 | 0.45 | 0.15 | 0.35 | 青 | 87012525 |
| -708 | 〃 | 0.3 | 0.3 | 0.15 | 淡青 | 87012836 | -748 | 〃 | 0.45 | 0.25 | 0.25 | 淡青 | 87012523 |
| -709 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012837 | -749 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 淡青 | 87012522 |
| -710 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.3 | 淡青 | 87012844 | -750 | 〃 | 0.38 | 0.19 | 0.2 | 淡青 | 87012521 |
| -711 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.3 | 紺 | 87012848 | -751 | 〃 | 0.4 | 0.1 | 0.25 | 紺 | 87012519 |
| -712 | 〃 | 0.3 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012852 | -752 | 〃 | 0.32 | 0.1 | 0.25 | 淡青 | 87012518 |
| -713 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.23 | 紺 | 87012847 | -753 | 〃 | 0.25 | 0.1 | 0.15 | 淡青 | 87012520 |
| -714 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.22 | 淡青 | 87012775 | -754 | ＳＢ288 | 0.5 | 0.25 | 0.2 | 淡青 | 87012584 |
| -715 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.2 | 淡青 | 87012740 | -755 | 〃 | 0.4 | 0.13 | 0.18 | 淡青 | 87012586 |
| -716 | 〃 | 0.3 | 0.15 | 0.2 | 淡青 | 87012748 | -756 | ＳＢ289 | 0.65 | 0.35 | 0.4 | 淡青 | 87012534 |
| -717 | 〃 | 0.3 | 0.12 | 0.2 | 青 | 87012838 | -757 | 〃 | 0.5 | 0.3 | 0.25 | 紺 | 87012724 |
| -718 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012840 | -758 | 〃 | 0.45 | 0.2 | 0.35 | 紺 | 87012733 |

| Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 | Fig.-番号 | 出土地点 | 径孔 | 径 | 厚 | 色 | 登録番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 164-759 | S B289 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 87012526 | 164-799 | S B08 | 0.5 | 0.15 | 0.45 | 紺 | 95000002 |
| -760 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 淡青 | 87012533 | -800 | 〃 | 0.5 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 95000004 |
| -761 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 淡青 | 87012527 | -801 | 〃 | 0.45 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 95000005 |
| -762 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 淡青 | 87012532 | -802 | 〃 | 0.45 | 0.15 | 0.2 | 紺 | 95000006 |
| -763 | 〃 | 0.4 | 0.25 | 0.2 | 淡青 | 87012529 | -803 | 〃 | 0.4 | 0.1 | 0.3 | 紺 | 95000007 |
| -764 | 〃 | 0.35 | 0.3 | 0.15 | 紺 | 87012734 | -804 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.35 | 淡青 | 95000008 |
| -765 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.13 | 紺 | 87012528 | -805 | 〃 | 0.35 | 0.1 | 0.3 | 淡青 | 95000010 |
| -766 | 〃 | 0.3 | 0.15 | 0.15 | 紺 | 87012531 | -806 | 〃 | 0.35 | 0.1 | 0.25 | 淡青 | 95000009 |
| -767 | 〃 | 0.25 | 0.1 | 0.25 | 淡青 | 87012530 | -807 | S B09 | 0.4 | 0.15 | 0.25 | 淡青 | 95000011 |
| -768 | S B298 | 0.4 | 0.15 | 0.2 | 緑 | 87012592 | -808 | S B47 | 0.8 | 0.2 | 0.65 | 紺 | 95000013 |
| -769 | S B299 | 0.5 | 0.2 | 0.25 | 淡青 | 87012516 | -809 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 95000012 |
| -770 | 〃 | 0.4 | 0.18 | 0.38 | 紺 | 87012517 | -810 | S B53 | 0.4 | 0.15 | 0.25 | 紺 | 95000014 |
| -771 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 紺 | 87012515 | -811 | S B54 | 0.6 | 0.25 | 0.4 | 紺 | 95000015 |
| -772 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 紺 | 87012513 | -812 | S B162 | 0.3 | 0.11 | 0.1 | 紺 | 87005221 |
| -773 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.3 | 淡青 | 87012514 | -813 | S B171 | 0.5 | 0.17 | 0.32 | 紺 | 87005219 |
| -774 | S B311 | 0.55 | 0.25 | 0.3 | 緑 | 87012743 | -814 | S B268 | 0.45 | 0.2 | 0.5 | 紺 | 87012593 |
| -775 | 〃 | 0.4 | 0.2 | 0.2 | 紺 | 87012591 | -815 | S B344 | 0.6 | 0.2 | 0.32 | 紺 | 87012506 |
| -776 | 〃 | 0.38 | 0.1 | 0.3 | 淡青 | 87012706 | -816 | 〃 | 0.5 | 0.22 | 0.25 | 紺 | 87012505 |
| -777 | 〃 | 0.3 | 0.15 | 0.25 | 淡青 | 87012744 | -817 | S B372 | 0.37 | 0.15 | 0.22 | 淡青 | 87012719 |
| -778 | S B312 | 0.45 | 0.2 | 0.35 | 淡青 | 87012707 | -818 | II区 P1 | 0.4 | 0.15 | 0.25 | 青 | 87005222 |
| -779 | S B322 | 0.5 | 0.15 | 0.45 | 紺 | 87012504 | -819 | II区 P2 | 0.32 | 0.15 | 0.4 | 紺 | 87005220 |
| -780 | 〃 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | 紺 | 87012503 | -820 | G 4 P2 | 0.5 | 0.2 | 0.4 | 淡青 | 87012589 |
| -781 | 〃 | 0.35 | 0.2 | 0.15 | 紺 | 87012502 | -821 | G 4 P27 | 0.45 | 0.19 | 0.38 | 紺 | 87012588 |
| -782 | 〃 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 87012501 | -822 | J 3 P13 | 0.45 | 0.15 | 0.32 | 紺 | 87012721 |
| -783 | S B348 | 0.55 | 0.2 | 0.29 | 緑 | 87012296 | -823 | 表採 | 0.6 | 0.3 | 0.2 | 淡青 | 87012580 |
| -784 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.32 | 緑 | 87012751 | -824 | E1表採 | 0.6 | 0.25 | 0.22 | 紺 | 87012535 |
| -785 | 〃 | 0.5 | 0.23 | 0.3 | 緑 | 87012750 | -825 | NYN 表採 | 0.55 | 0.15 | 0.4 | 紺 | 95000016 |
| -786 | 〃 | 0.5 | 0.15 | 0.28 | 緑 | 87012749 | -826 | NYN 表採 | 0.55 | 0.2 | 0.45 | 淡青 | 95000017 |
| -787 | 〃 | 0.42 | 0.2 | 0.35 | 緑 | 87012297 | -827 | III区表採 | 0.5 | 0.2 | 0.5 | 淡青 | 87012585 |
| -788 | 〃 | 0.4 | 0.15 | 0.28 | 淡青 | 87012704 | -828 | G4表採 | 0.5 | 0.2 | 0.38 | 紺 | 87012539 |
| -789 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.25 | 淡青 | 87012752 | -829 | III区表採 | 0.5 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 87012723 |
| -790 | 〃 | 0.35 | 0.15 | 0.2 | 淡青 | 87012753 | -830 | G4表採 | 0.5 | 0.22 | 0.3 | 淡青 | 87012538 |
| -791 | S B355 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 淡青 | 87012705 | -831 | II区表採 | 0.4 | 0.15 | 0.3 | 淡黄 | 87005223 |
| -792 | S B365 | 0.6 | 0.2 | 0.45 | 紺 | 87012594 | -832 | G4表採 | 0.4 | 0.2 | 0.15 | 紺 | 87012537 |
| -793 | 〃 | 0.3 | 0.2 | 0.35 | 淡青 | 87012578 | -833 | III区表採 | 0.35 | 0.35 | 0.1 | 紺 | 87012725 |
| -794 | 〃 | 0.3 | 0.2 | 0.2 | 淡青 | 87012577 | -834 | F1表採 | 0.35 | 0.2 | 0.2 | 淡青 | 87012582 |
| -795 | S B393 | 0.5 | 0.18 | 0.32 | 淡青 | 87012722 | -835 | G4表採 | 0.3 | 0.18 | 0.25 | 紺 | 87012536 |
| -796 | 〃 | 0.5 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 87012579 | -836 | III区表採 | 0.3 | 0.1 | 0.22 | 淡青 | 87012726 |
| -797 | S B07 | 0.7 | 0.3 | 0.45 | 濃紺 | 95000001 | -837 | III区表採 | 0.3 | 0.15 | 0.19 | 青 | 87012590 |
| -798 | 〃 | 0.6 | 0.2 | 0.3 | 紺 | 95000003 | -838 | E5表採 | 0.3 | 0.1 | 0.15 | 紺 | 87012710 |

### (6) 小結

ここで，この調査区の弥生時代について若干まとめてみたい。

調査区中央やや西寄りに位置する墳墓群は，土壙墓30基（うち横口式28基），甕棺墓５基によって形成される。中期後半から営まれ始めたと考えられ，後期前半が中心とみられる。造墓主体は調査区内の集落がまず思い浮かぶが，同時期の竪穴住居は数が少なく，主体となる時期が異なる。調査区周辺では，西に隣接する西山田二本松遺跡A区[1]で後期前半から中頃のかなり大規

Fig. 165　弥生時代集落変遷図①

模な集落が確認されている。したがって，この墳墓群は西側の集落によって営まれたことが考えられる。そして，後期中頃以降集落の主体が東に移動し，本調査区の集落が営まれるようになったと推定される。

集落としては竪穴住居跡100棟，掘立柱建物跡18棟などが確認された。集落の変遷についてはFig. 165・166に示している。集落の上限は不明確であるが，墓地との関連などからII期であろうと推定される。この時期の竪穴住居は数は少ない。

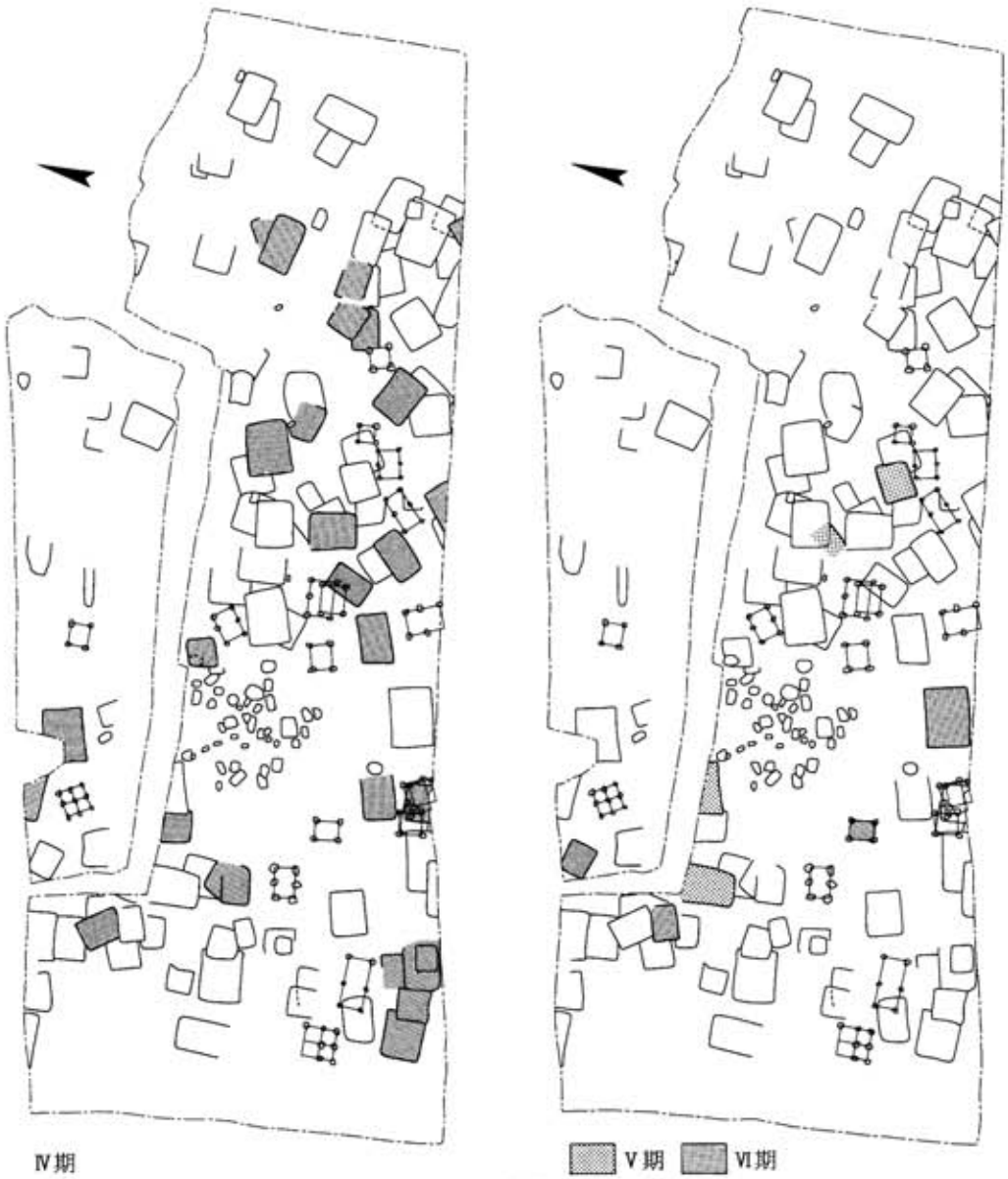



Fig. 166　弥生時代集落変遷図②

III期になると，調査区のほぼ全域に広がって竪穴住居が認められる。墓地の東西で分かれるようであるが，墓地を避けた結果ともいえ，グループを抽出することは難しいと考えられる。SX302不明遺構もこの時期と考えられる。

IV期もIII期同様，調査区ほぼ全域に竪穴住居があり，グルーピングも難しい。III期とIV期，後期後半代が竪穴住居がもっとも多く，調査区の集落の主体となる時期である。

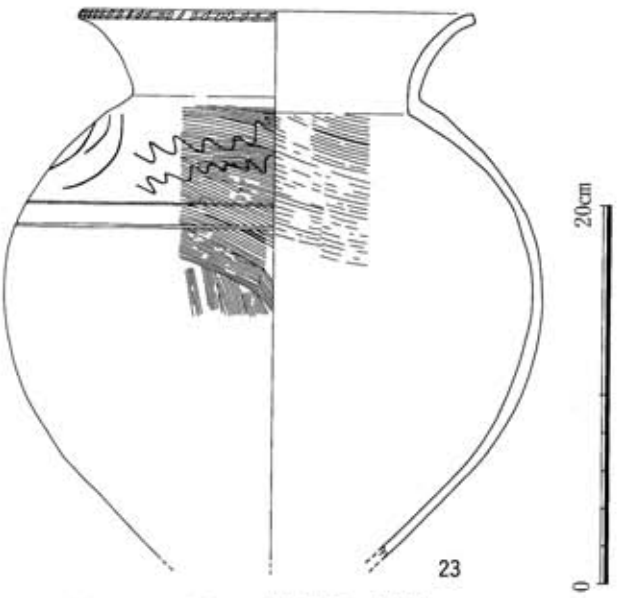



Fig. 167　SB235出土肩部に波状文，沈線文をもつ壺（1/4）

V期とVI期はごく少なくなるが，依然竪穴住居が認められ，集落が古墳時代初頭まで規模を縮小しながらも営まれ続けたことがわかる。VI期のSB76竪穴住居は調査区で唯一方形4本主柱のものである。

竪穴住居の主軸方向についてみると，II期には南北方向と東西方向の両者が混在してみられるが，III・IV期にはほとんど東西方向のものとなる。この時期には少数ではあるが，北東－南西方向のものやそれに直交するようなものも認められ，IV期にやや多い傾向がある。

出土土器については，大部分が在地系のもので占められるが，ごく少数ではあるが，外来系のものや若干影響を受けた土器などがみられる。

その中でもSB235竪穴住居跡から出土した壺（26）に注目してみたい。この土器は形態的にも，調整の面からしても在地系のものである。ところが，肩部に波状文などの文様や沈線文がみられる。波状文と沈線文は2条で一組をなしている。ただ，波状文は1周するわけではない。

さて，この波状文と沈線文は在地系土器にその原形を求めることは難しいと考えられ，布留式甕の影響とみなすことができよう。したがって，この土器は布留式土器の情報を保持した人によってつくられたと考えられる。ただ，施文されるのが甕形土器ではなく，壺形土器であることは大きな差異といえよう。これは，在地の土器製作の規制が働いているものと思われる。在地系の壺の肩部にはごく少数ではあるが，文様があるものがみられる。これに対して在地系の甕には文様はみられない。つまり，この壺の製作者は布留式の情報をもちながらも在地の規制を強く受けているものと推定されよう。

ところが，SB235竪穴住居跡出土土器をみてみると，高坏の形態などから布留式並行期のも

のとするには躊躇せざるをえない。したがって，26の壺１点のみで布留式並行期まで下らせることは難しい。ただ，布留式並行期と考えられるＳＢ54竪穴住居跡では出土する土器のほとんどが外来系のもので，在地系のものはほとんどない。つまり，今回調査された竪穴住居跡出土土器には在地系のものと外来系のものが混在するような土器群がないことになる。

このことを説明するには，二つの見方がある。

①在来系の土器を外来系のものが徐々に凌駕してゆく過程を前提として，集落にはある程度の断絶があった。ないしは調査区外にそのような過程を示す土器群が存在する。

②この集落では，布留式並行期のある時期まで在地系土器のみを製作していたが，ある時期に急速に土器様式が変化し外来系のみになった。この場合は集落の断絶をあまり考えなくてすむ。

この両者のどちらかであるかは，にわかには決めがたい。①はＳＢ235出土土器がやや古い様相をみせていることや，細長い調査区のため南北両側の状況が不明であることにより支持される。②は波状文などのあり方，４本主柱の住居といった外来系の要素がやや遅れていることなどから示唆される。もし，②の説明が成り立つならば，溝口孝司氏によるこの時期の土器相の四つの類型[2]のうちＡ類，在地系土器が卓越する類型に含まれよう。

また，後期後半のかなり大規模な集落にもかかわらず，環溝がみられないという特徴がある。これは，まさに嘉瀬川を挟んで対峙する位置にある突出部をもつ２重環溝をめぐらせた惣座遺跡を代表として，ほぼ同時期のいくつかの環溝集落が確認されている嘉瀬川東岸の状況と大きく異なっている。

このような状況は集落のランク差に起因するものと考えられる。鉄器が豊富な惣座遺跡[3]に比べ，この集落は弥生時代の属する鉄器は少ないようである。墳墓でみても，副葬品が明らかでない嘉瀬川西岸に対し，東岸では惣座Ｂ遺跡のおいて銀製指輪３点，ガラス小玉6,810個を副葬した土壙墓がある[4]。

小地域内における集落の消長や，さらに墳墓を含めた同時期の状況を明らかにすることによって，弥生時代から古墳時代へという社会変化のなかでのこの地域の動態が解明されよう。

＜註＞

(1)　佐賀県教育委員会 1986 「西山田二本松遺跡Ａ」『九州横断自動車道関係概報』

(2)　溝口孝司 1988 「古墳出現前後の土器相」―筑前地方を素材として―,『考古学研究』第35巻第２号

(3)　佐賀県教育委員会 1990 『惣座遺跡』佐賀県文化財調査報告書第96集

(4)　1984年大和町教育委員会調査

## 2　奈良時代から平安時代前半にかけての遺物

奈良時代から平安時代前半にかけての出土遺物については，土器類がほとんどであり，溝跡及び土壙からの出土がその大部分を占めている。

掘立柱建物跡群のうち，8世紀代に機能していたと思われるSB372・373の柱穴埋土内出土の遺物については，細片がほとんどのため本報告書では掲載していないが，杯蓋等を主体とする須恵器の出土量が土師器のそれに勝るようである。これが9世紀代と思われるSB237の場合には，土師器のうち特に杯身で底部外面に板状圧痕を残し，底径が小さく，体部が肉薄のものの出土が顕著で，量的には須恵器を凌ぐようになる。この逆転現象については久池井B遺跡[1]の調査で既に報告されているが，今回の調査においても同様の様相が見られる。

溝跡，特に築地関連の溝状遺構からの出土遺物は，区画されているSB372・373と同様の傾向を示しており，須恵器の量が土師器のそれを上回っている。出土量についても居住域を区画する部分からの出土が顕著であり，杯蓋はつまみが低いタイプ，杯身は底部から体部への移行部分の内側に低いがしっかりした高台を張り付けるタイプのものが大勢を占める。高杯については脚部の高さが低く，急角度で裾部が開くタイプが見受けられる。

築地関連の溝状遺構から出土した遺物については，そのほとんどが8世紀前半から後半にかけてのものと思われるが，関連する遺構の中で例えばSD157では9世紀前半の特徴を持った土器類が出土している。これはSD157が9世紀前半代に築地補修のための土取り壙として掘削されたことを物語っている。これによりSB372・373の機能時期の下限についても，築地関連の溝状遺構との関連において9世紀前半にまで下げることが可能である。

ここで特筆すべきはSB372・373の溝跡もしくはこれら建物と区画外とを結ぶ道路の側溝と考えられるSD374から印刻文を持つ2点の土器片が出土していることである。1点は皿形で内面の見込み部分に四角に枠取りを行い，その中に「定側松印」と刻んでいる。「定側」は人名かと思われるが文献等に見当たらず，どのような人物かは不明である。また，もう1点は高坏の内低部にやはり四角の枠を取って「𠙵」と刻印しており，「宮，官？」の異体字と考えられる。これら2点の資料は，肥前国府跡周辺でこれまで出土した他の墨書土器や石帯，硯等の遺物と同様に，国府が置かれた地域の特殊な状況を反映したものであり，官衙や官人居館あるいは寺院等との密接な関係を考えさせる。とくに「𠙵」は，同じ印章が用いられた可能性のつよい印刻をもつ須恵器・土師器が他にも大和町内で北原宝満遺跡[2]（肥前国分尼寺跡）から2点，北畑遺跡から3点，岡裏遺跡から1点が出土しており，同一の窯で焼かれた一群の土器が肥前国府の関連施設を中心に分布するものとして，今後の出土例の増加に注意する必要がある。

築地関連遺構以外の溝跡については，SD164及びSD303からの出土が大部分を占めている。種類の構成比率から見ると土師器が須恵器を圧倒しており，この時期にはすでに土師器の使用

が一般的であったと思われる。また量的な変化と共に器形にも変化が見られる。

例えば杯身は底部が小径化しているため体部は緩やかに立ち上がり，その器壁も底部に比べて肉薄に引き上げられている。高台を持つものについては細く高い高台が底部から体部への移行点に外に開いて張り付くようになるが，高台外面のヘラ削りについては旧態を残したものとナデ調整を行うものとが混在する。高杯の脚部は高くなり，下方へすぼまったまま延びて裾部に至って急角度で開く。小皿は全体の大きさに対して肉厚の底部から，急激にしかも短く引き上げて体部を作り出すタイプが大多数を占める。

このＳＤ303から出土した遺物の中で注目すべきは２面の圏脚円面硯である。両面とも釣り鐘形の形状で，陸部下に外堤部を張り付け，その下部にも１条の突帯を巡らせ，脚部には４箇所に長方形の透かしを穿っている。同種のものが肥前国庁跡[3]の調査でも確認されていることから，この時期大宰府等で見られるような風字硯の流行や，転用硯の氾濫とは一線を画した，定型化された硯が使用されており，そのことから公的機関の存在が窺えるのである。

井戸跡からの出土遺物は土師器の杯等が数点のみで，しかもこれらの時期幅が８世紀後半代から９世紀後半代と広いため，遺構の時期を絞り込むには至っていないが，ほかの遺構，特に掘立柱建物跡との関連から９世紀前半に比定したい。

土壙から出土した遺物に関しては，ＳＫ250及びＳＫ285出土のものが大半を占めている。ＳＫ250出土の土器について見てみると，杯蓋は中高のつまみが貼り付き，天井部から体部への移行が不明瞭なものが多く，杯身については特に高台が外へ強く開くものが大部分である。ＳＫ285については杯身が多く出土しており，底径が小さく器壁の薄い体部が緩やかに立ち上がるものがほとんどである。碗については外面の底部から体部への移行点のやや内側に，外に向かって開く高い貼付高台を持っている。これらは他の土壙からの出土土器に共通する特徴でもあり，本調査区のこの時期の土壙については概ね８世紀末から９世紀の前半と捉えることができるが，西山田二本松遺跡Ｂ区のＳＫ019出土の杯蓋・杯身については７世紀代のものが少なからず含まれており，同区のＳＤ021からも数点ながら６世紀代の杯身が出土していることを考え合わせると，今回の調査においては確認できなかったが，この地区の周辺に弥生時代との断絶時期の一時期を埋める遺構が存在している（存在していた）可能性がある。いずれにしろ，今後の調査の進展によって全体的な把握が可能になると思われる。

## ＜註＞

(1)　田平徳栄ほか　「久地井Ｂ遺跡」（『惣座遺跡』佐賀県教育委員会）1990

(2)　谷澤　仁　「肥前国府域周辺の墨書土器についてⅠ」（『佐賀考古』第１号　佐賀考古談話会）1994

(3)　樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅰ』（佐賀県教育委員会）1978

　　樋渡敏暲ほか　『肥前国府跡Ⅱ』（佐賀県教育委員会）1981

Tab. 6　奈良・平安時代前半の遺物観察表

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 168-839<br>95000119 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 須恵器<br>皿 | 口径 (18.1)<br>底径 (14.6)<br>器高 2.4 | 体部の器壁は薄く短く引きあげられており，中程から折れて外反する。 | 体部及び底部内面は不定方向のナデ。底部外面はヘラ切り離し後ナデ。焼成は良好。 |
| Fig.168-840<br>88005652 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 底径 7.8 | 底部は平底で，体部外面下部に段を有する。体部の器壁は比較的薄く，緩やかに立ち上がる。 | 体部及び底部は両面ともナデで，板状圧痕を残す。焼成は良好。 |
| Fig. 168-841<br>94002713 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 底径 7.8 | 体部の器壁は厚く，内湾気味に立ち上がる。底部と体部との外面境に丸みを持っている。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。細かい砂粒を含む。 |
| Fig. 168-842<br>94002714 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 底径 7.2 | 平底から体部への移行はやや明瞭で，器壁の厚い体部は内湾気味に立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで板状圧痕を残す。少量の細かい砂粒を含む。 |
| Fig. 168-843<br>94002715 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.9)<br>底径 ( 8.0)<br>器高 3.4 | 底部と体部との境界が明瞭で，体部の器壁は薄く，緩やかに立ち上がり，口唇部はやや外反する。 | 体部内外面ともナデ。その他の部位の調整については不明。 |
| Fig. 168-844<br>94002716 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.4)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.9 | 底部から体部への移行は比較的緩やかで，体部の器壁はやや薄く，口唇部はわずかに外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。細かい砂粒を若干含む。 |
| Fig. 168-845<br>94002717 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.8)<br>底径 ( 6.8)<br>器高 3.1 | 底部から体部への移行は比較的緩やかで，体部は緩やかに立ち上がる。口唇部はやや外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。 |
| Fig. 168-846<br>94002718 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.3)<br>底径 ( 7.4)<br>器高 3.7 | 底部から体部への移行は明瞭で，体部は緩やかで立ち上がり，丸味を帯びた口唇部へと続く。 | 底部内面・体部内面はナデ。体部外面はロクロ成型時の指押さえ痕を残しながらナデ。底部外面はヘラ切り離し。細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-847<br>94002719 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (12.8)<br>底径 ( 7.8)<br>器高 3.7 | 底部と体部の境界に明瞭な屈曲する稜線を持ち，体部器壁は肉厚のまま，心持ち内弯しながら緩やかに立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-848<br>94002720 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (14.4)<br>底径 ( 7.7)<br>器高 3.9 | 底部から体部への移行は明瞭で体部の器壁は薄く，緩やかに立ち上がる。 | 底部内面はナデ。外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。体部内外面はナデで，細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-849<br>94002721 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 13.9<br>底径 7.6<br>器高 3.7 | 底部は平底で，体部との境界に明瞭な稜線を持つ。体部器壁は肉厚のまま緩やかに立ち上がり，口唇部が僅かだが外反する。 | 底部内面はナデ。外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。体部は内外面ともナデ。 |
| Fig. 168-850<br>94002722 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.1)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.5 | 平底で底部から体部への移行は明瞭で，体部は強く屈曲しながら立ち上がる。 | 底部内面はナデ。外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を留める。体部は内外面ともナデ。 |
| Fig. 168-851<br>94002723 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.5)<br>底径 ( 8.6)<br>器高 3.4 | 平底で底部から体部への移行は明瞭で，体部は器壁が薄くなりながら外反気味に立ち上がり，口唇部は僅かに外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。細砂粒を含む。 |

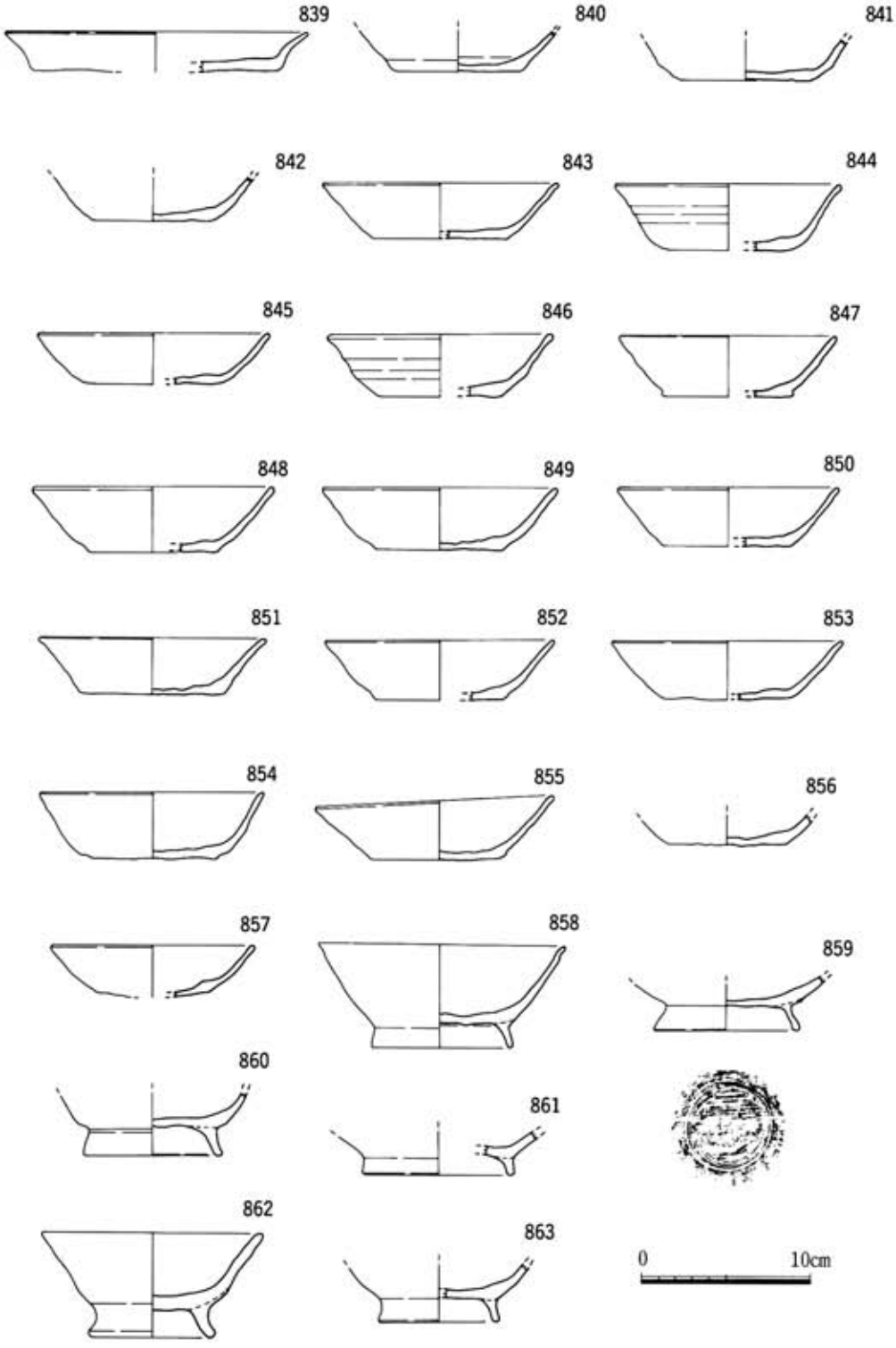



Fig. 168　S B237掘立柱建物跡出土遺物（1/4）

| 挿図番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 168-852<br>94002724 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.5)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.6 | 平底で底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が薄く，下部はやや内湾気味に立ち上がり，中程で反転してやや外反気味となる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 168-853<br>94002725 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.6)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 ( 3.4) | 底部から体部への移行は明瞭。体部の器壁の肉厚は底部と変わらず，緩やかに立ち上がり，口唇部が僅かに外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-854<br>94002726 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.4)<br>底径 ( 7.7)<br>器高 4.0 | 平底で体部の器壁はやや肉厚。体部は内湾気味に立ち上がり，口唇部が僅かに外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-855<br>94002727 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (14.1)<br>底径 ( 7.8)<br>器高 3.9 | 平底で底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が薄く，緩やかに立ち上がる。口唇部は平坦ではなく，全体的に歪みが見られる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。細砂粒を含む。 |
| Fig. 168-856<br>95000114 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 底径 ( 6.9) | 底部は平底で，体部との境界は明瞭。体部の器壁はやや肉厚で，内湾気味に立ち上がると思われる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を残す。焼成は良好。 |
| Fig. 168-857<br>95000117 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (12.1)<br>底径 ( 6.6)<br>器高 3.1 | やや丸みを持った底で，体部への移行が不明瞭。体部は非常に緩やかに内湾気味に立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離しで，焼成は良好。 |
| Fig. 168-858<br>88005674 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (14.7)<br>底径 ( 8.2)<br>器高 6.2 | 高い貼付高台を持つ。体部はやや内湾気味に立ち上がり，口縁直下で一度内側へ屈曲した後，外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。ロクロは左回転。焼成は良好。 |
| Fig. 168-859<br>89000961 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>碗 | 底径 8.4 | 外反する高い貼付高台を持ち，体部はやや内湾気味に立ち上がると思われる。 | 底部内面・体部内外面・高台外面はナデ。板状圧痕を残す。焼成は良好。 |
| Fig. 168-860<br>89008970 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>碗 | 底径 7.8 | 底部のやや内側に貼り付く高い高台付杯は，接地部に丸味を持つ。体部は底部よりやや強く屈曲し，直線気味に立ち上がる。 | 全体の調整をナデで行っており，体部内面には黒斑がある。焼成は良好。 |
| Fig. 168-861<br>95000115 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>高台付杯 | 底径 ( 8.4) | やや外反する貼付高台を持ち，体部は緩やかに立ち上がると思われる。 | 全体にナデによる調整が見られる。焼成は良好。 |
| Fig. 168-862<br>89008992 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (13.0)<br>底径 7.1<br>器高 6.2 | しっかりとした作りで強く外反する貼付高台を持つ。接地面は内側。体部は器壁が肉薄で，内湾気味に立ち上がり，中途で外側に直線的に延びる。 | 全体にナデによる調整が見られる。焼成は良好。 |
| Fig. 168-863<br>95000116 | HYS・SB237<br>掘立柱建物跡 | 土師器<br>碗 | 底径 ( 7.1) | 外反する高い貼付高台を持ち，底部から体部への移行は明瞭ではない。体部は緩やかに内湾気味に立ち上がると思われる。 | 底部内面から体部内面にかけてはヘラ磨きの痕跡を残す。その他の部位についてはナデによる調整を施す。 |

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器　種 | 法　量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 169-864<br>94002929 | HYS・SD314<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（15.0） | 天井部から口縁部へと緩やかに縁端部に至る。 | 天井内外面とも回転ナデ。細移行し，明瞭な断面三角形の口砂粒を含み，焼成は良好。 |
| Fig. 169-865<br>89000967 | HYS・SD342<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（14.0）<br>器高　3.0 | 偏平なつまみを貼付する。天井部から口縁部への移行は緩やかで，口縁端部を丸める。 | つまみ部分・天井部外面はナデ。口縁部から天井部内面にかけては回転ヘラ削り後に回転ナデを行っている。 |
| Fig. 169-866<br>94004110 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（14.2）<br>器高　2.1 | 天井部は平坦で，屈曲して膨らみの少ない口縁部へと移行する。口縁端部内側にしっかりとした作りの受け部を持つ。 | 天井部外面は回転ヘラ削り。その他の部位はナデ。細かい砂粒を含む。天井部外面に条痕状のヘラ記号を持つ。 |
| Fig. 169-867<br>94004108 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（18.8）<br>器高　3.3 | 高いつまみを貼付する。平坦な天井部から膨らみの少ない口縁部へと緩やかに移行する。口縁端部は断面三角形を意識しつつ丸める。 | つまみ部分はナデ。天井部外面平坦部は回転ヘラ削り。その他の部位はナデ。細かい砂粒を含む。 |
| Fig. 169-868<br>94002930 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（15.2）<br>器高　3.0 | 高いつまみを貼り付けており，平坦な天井部から口縁部へやや明瞭に移行する。口縁端部は断面三角形で，鉤形に内湾する。 | つまみ部分はナデ。天井部外面平坦部は回転ヘラ削り後ナデ。その他の部位はナデ。細かい砂粒を含み，焼成は良好。 |
| Fig. 169-869<br>94004111 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径（16.2）<br>器高（ 2.1） | 天井部は平坦で，やや明瞭に口縁部へと移る。口縁端部は丸味を持った断面三角形を呈する。 | 天井部は回転ヘラ削り。その他の部位はナデ。細かい砂粒を多く含む。 |
| Fig. 169-870<br>94002937 | HYS・SD314<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　身 | 口径（14.4）<br>底径（11.1）<br>器高　3.1 | 上げ底気味の底部から強く屈曲して立ち上がり，口縁端部は外反する。体部の器壁は肉厚。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。微砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 169-871<br>94004015 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　身 | 底径（ 7.8） | 僅かに上げ底気味の底部から，体部は強く屈曲して立ち上がるが，移行点は不明瞭。体部の器壁は肉厚。 | 底部内面から体部内面にかけてはナデ。体部外面はヘラ削り。体部外面はヘラ切り離し。径1㎜大の砂粒を含む。 |
| Fig. 169-872<br>94002938 | HYS・SD343<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>杯　身 | 口径（17.6）<br>底径（14.8）<br>器高　2.6 | 底部外周部はやや丸味を帯びる。底部から体部への移行は緩やかで，口唇部はやや外反する。底部内面に屈曲線1条を有する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外周部はヘラ切り離し後ナデ。底部外面はヘラ切り離し。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 169-873<br>95000107 | HYS・SD158<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>高台付杯 | 底径（ 7.8） | 底部から強く屈曲して立ち上がる。体部の器壁は肉厚。底部には断面三角形の短い高台が外開きに貼り付く。 | 体部外面から高台外にかけてはヘラ削り。底部内面はヘラ削り後ナデ。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 169-874<br>95000120 | HYS・SD178<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>高台付杯 | 底径（ 9.8） | 底部から体部への移行は明瞭ではなく，緩やかに立ち上がると思われる。底部外面から体部への移行点には強く外反する低い高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細かい砂粒を僅かに含む。焼成は良好。 |

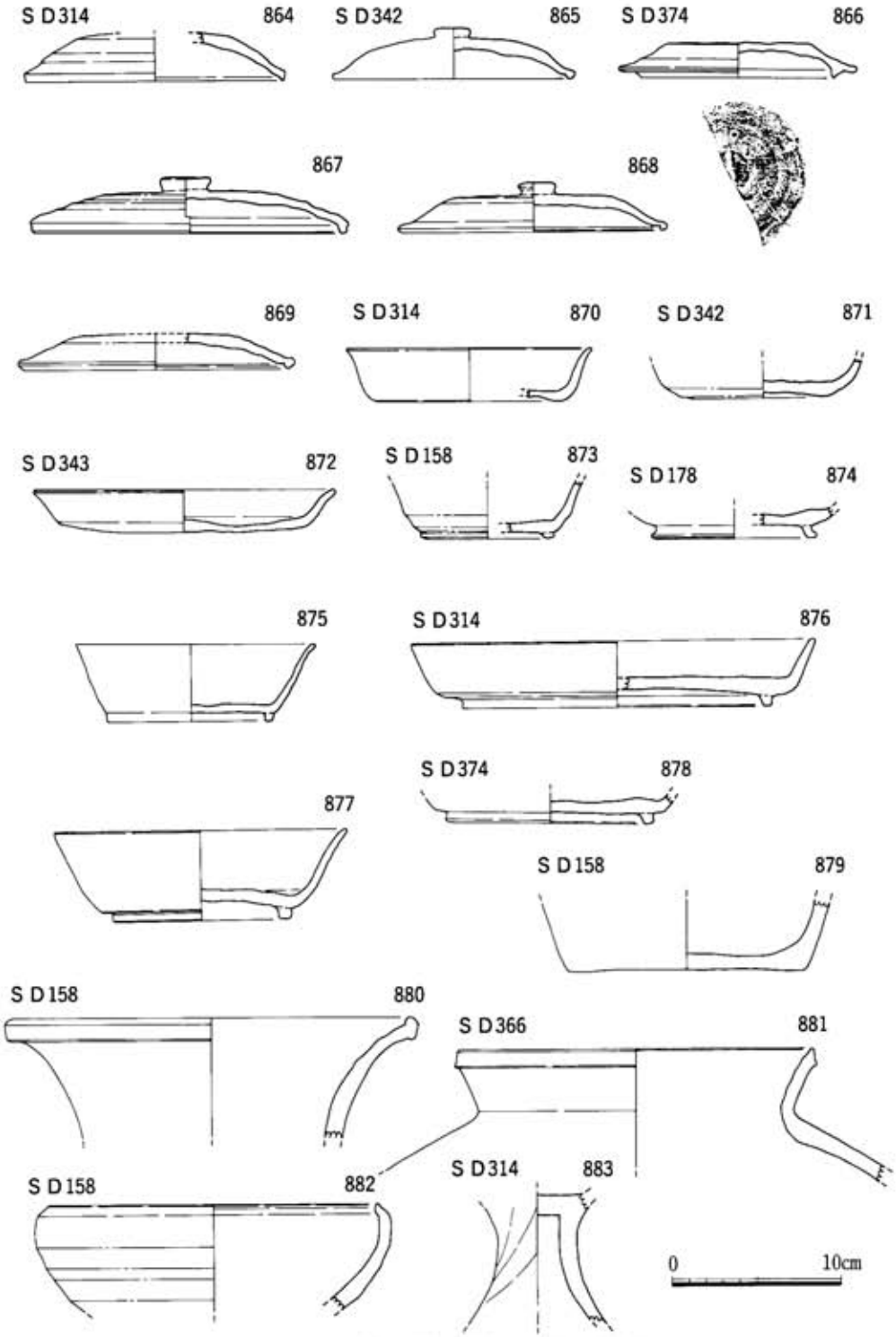



Fig. 169　築地関連遺構出土須恵器（1/4）

| 掲載番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器　種 | 法　量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 169-875<br>88005650 | HYS・SD178<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>碗 | 口径 (13.4)<br>底径 9.6<br>器高 4.7 | 底部から体部への移行は明瞭で，体部は強く屈曲して立ち上がり，口縁部付近で一度内傾した後やや外反する。体部の器壁は肉薄。底部から体部への移行点には断面四角形の短い高台が直立気味に貼り付く。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 169-876<br>94002940 | HYS・SD314<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>高台付杯 | 口径 (23.8)<br>底径 (17.7)<br>器高 4.0 | 底部の径は大きく，体部への移行は明瞭で，強く屈曲した後直線的に立ち上がる。外面の底部・体部の境界よりやや内側に，断面逆台形のしっかりした作りの高台がやや外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。高台内外面から体部外面にかけてはナデ。その他の部位は摩耗が激しいため，調整属性については不明。焼成は不良。 |
| Fig. 169-877<br>94002939 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>碗 | 口径 (17.1)<br>底径 (10.4)<br>器高 5.3 | やや上げ底気味の底部から体部への移行は明瞭。体部は強く屈曲した後，内湾気味に立ち上がり，途中から緩やかに外反する。体部の器壁は薄い。底部との境界にはしっかりとした作りの丸味を帯びた断面四角形の短い高台が貼り付く。 | 底部内面・体部内外面・高台内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。微砂粒を含み，焼成は良好。 |
| Fig. 169-878<br>94004112 | HYS・SD374<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>高台付杯 | 高台径(12.4) | 底部から体部への移行は明瞭で，屈曲後はそのまま直線的に立ち上がると思われる。底部・体部の移行点よりやや内側に断面逆台形のしっかりとした作りの短い高台が外開き気味に貼り付く。 | 体部内外面・高台内外面についてはナデ。その他の部位は摩耗が著しいため，調整属性については不明。 |
| Fig. 169-879<br>95000109 | HYS・SD158<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>鉢（？） | 底径 (13.9) | 平底で体部への移行は明瞭。外面の移行点には稜を持つ。体部は屈曲後，そのまま直線的に立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。焼成は良好。 |
| Fig. 169-880<br>95000108 | HYS・SD158<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>甕 | 口径 (24.2) | 頸部が強く「く」字状に屈曲し，肩部が張るタイプの甕形土器の口縁部で，外反した後，肥厚した口唇部に仕上げている。 | 内外面ともナデ。細砂粒を含む。一部に自然釉が付着している。焼成は良好。 |
| Fig. 169-881<br>94004016 | HYS・SD158<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>甕 | 口径 (21.0) | 大型の甕。肩部は直線的に張り，屈曲後は直線的に立ち上がる。口唇部は断面三角形を呈する。 | 肩部は内面が青海波状文，外面が格子目状にそれぞれ叩き痕を残す。口縁部は内外面共ナデ。 |
| Fig. 169-882<br>95000110 | HYS・SD158<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>鉢（？） | 口径 (19.4) | 底部から体部への移行は緩やかで，やや偏球形の体部形状を取る鉢形土器の体部上半と思われる。口縁部は内湾後直立する。 | 体部内面・口縁部内外面はナデ。体部外面はヘラ削り。砂粒を若干含む。焼成はやや不良。 |
| Fig. 169-883<br>89000969 | HYS・SD314<br>溝跡(築地関連遺構) | 須恵器<br>高杯 | ―――― | 高杯の脚部の一部のみの残存。脚部は高く，裾は緩やかに開く。 | 脚部内外面はナデ。細かい砂粒を若干含む。焼成は良好。 |

| 挿図番号(Fig.) | 出土遺構番号 | 遺物の種類 | 法量 | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 遺物登録番号 | 遺構種別 | 器種 | (cm) | | |
| Fig. 170-884 | HYS・SD157 | 土師器 | 口径 (13.4) | 平底の底部から体部への移行は内面においては不明瞭だが，外面においては稜線を伴う。体部は緩やかに立ち上がり，器壁は肉厚。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| 88005649 | 溝跡(築地関連遺構) | 杯身 | 底径 ( 7.4) | | |
| | | | 器高 3.3 | | |
| Fig. 170-885 | HYS・SD158 | 土師器 | 口径 (13.0) | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭で，体部は屈曲後そのまま立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し後ナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| 95000111 | 溝跡(築地関連遺構) | 杯身 | 底径 ( 9.8) | | |
| | | | 器高 3.2 | | |
| Fig. 170-886 | HYS・SD160 | 土師器 | 口径 (14.0) | 丸味を帯びた底部からやや明瞭に体部へと移行し，屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ削り。底部外面には黒斑有り。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| 89008906 | 溝跡(築地関連遺構) | 杯身 | 底径 (12.3) | | |
| | | | 器高 3.5 | | |
| Fig. 170-887 | HYS・SD374 | 土師器 | 口径 (14.4) | 平底の底部から体部への移行は明瞭で，内面に屈曲線が巡る。体部は直線的に立ち上がり，口唇部に至ってやや外反する。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ切り離し。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| 94002936 | 溝跡(築地関連遺構) | 杯身 | 底径 ( 9.8) | | |
| | | | 器高 4.2 | | |
| Fig. 170-888 | HYS・SD170 | 土師器 | 高台径(12.2) | 底部から体部への移行は比較的明瞭で，直線的に立ち上がると思われる。外面の移行点よりやや内側に，断面台形の高台が外開き気味に貼り付く。 | 全体的にナデ調整が施されている。細砂粒を若干含む。 |
| 95000052 | 溝跡(築地関連遺構) | 高台付杯 | | | |
| Fig. 170-889 | HYS・SD374 | 土師器 | 高台径(12.0) | 底部の一部のみ残存。底部から体部への移行点よりやや内側に断面逆台形のしっかりした作りの短い高台が貼り付く。 | 摩耗が著しく，調整属性については不明。微砂粒を含む。 |
| 94002931 | 溝跡(築地関連遺構) | 高台付杯 | | | |
| Fig. 170-890 | HYS・SD374 | 土師器 | 口径 (21.1) | 大型の皿。底部から体部への移行は比較的明瞭。体部は緩やかに立ち上がり，口唇部に至ってやや外反する。 | 底部は内外面とも摩耗が著しいため調整属性は不明。体部は内外面ともナデ。細砂粒を含む。 |
| 94004106 | 溝跡(築地関連遺構) | 皿 | 底径 (18.0) | | |
| | | | 器高 2.5 | | |
| Fig. 170-891 | HYS・SD374 | 土師器 | 口径 (15.8) | 底部は上げ底気味で器壁が厚い。底部から体部への移行は不明瞭。底部の縁辺部をつまみ上げる程度の低い体部で，口唇部は断面三角形を呈し，直立する。 | 全体的にナデ調整を行っており，細砂粒を含む。 |
| 94004107 | 溝跡(築地関連遺構) | 皿 | 底径 (12.7) | | |
| | | | 器高 1.4 | | |
| Fig. 170-892 | HYS・SD374 | 土師器 | 底径 (10.6) | 底部から体部にかけての一部が残存。底部は肉厚で，体部への移行は不明瞭。体部は緩やかに立ち上がり短い口縁部に至ると思われる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ削り。細砂粒を含む。焼成は良好。底部内面の見込み部分には「定側松印(定側私印)」の刻印を有する。 |
| 87010184 | 溝跡(築地関連遺構) | 皿 | | | |
| Fig. 170-893 | HYS・SD315 | 土師器 | 口径 (10.2) | 胴部はやや内湾気味に立ち上がり，高い位置で強く屈曲して肩部を作り，稜線を巡らす。その後内側に折れ，すぐに外反気味の短い口縁部へ至る。外面の底部と体部との境界よりやや内側に，断面逆台形でしっかりした作りの短い高台が直立して貼り付く。 | 底部内面・口縁部・肩部・胴部上半はナデ。底部外面はヘラ切り離し。高台内外面・胴部下半はヘラ削り後ナデ。微砂粒を含み，焼成は良好。 |
| 89008909 | 溝跡(築地関連遺構) | 壷 | 高台径(5.3) | | |
| | | | 器高 8.2 | | |
| Fig. 170-894 | HYS・SD374 | 土師器 | 口径 (12.8) | やや偏球形の胴部形状で，なで肩の肩部から短い口縁部が直立し，口唇部はやや外反する。 | 全体的に摩耗が著しく，調整属性は不明。 |
| 94004103 | 溝跡(築地関連遺構) | 短頸壷 | 最大胴径(21.0) | | |
| Fig. 170-895 | HYS・SD347 | 土師器 | 高台径(10.6) | 肉厚で丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。体部は内湾気味に立ち上がる。外面の底部と体部との境界とおぼしき位置に，断面が丸味を帯びた長方形を呈する短い高台が貼り付く。 | 体部外面はヘラ削り。その他の部位についてはナデ。高台内には「千」のヘラ描き文字が有る。 |
| 87010182 | 溝跡(築地関連遺構) | 鉢 | | | |
| Fig. 170-896 | HYS・SD374 | 土師器 | ———— | 高杯の脚部か？一部のみ残存。裾部は緩やかに開く。 | 全体的にナデ調整を施す。砂粒をほとんど含まない。焼成は良好。底部に「卉」の刻印。 |
| 87010183 | 溝跡(築地関連遺構) | 高杯(？) | | | |

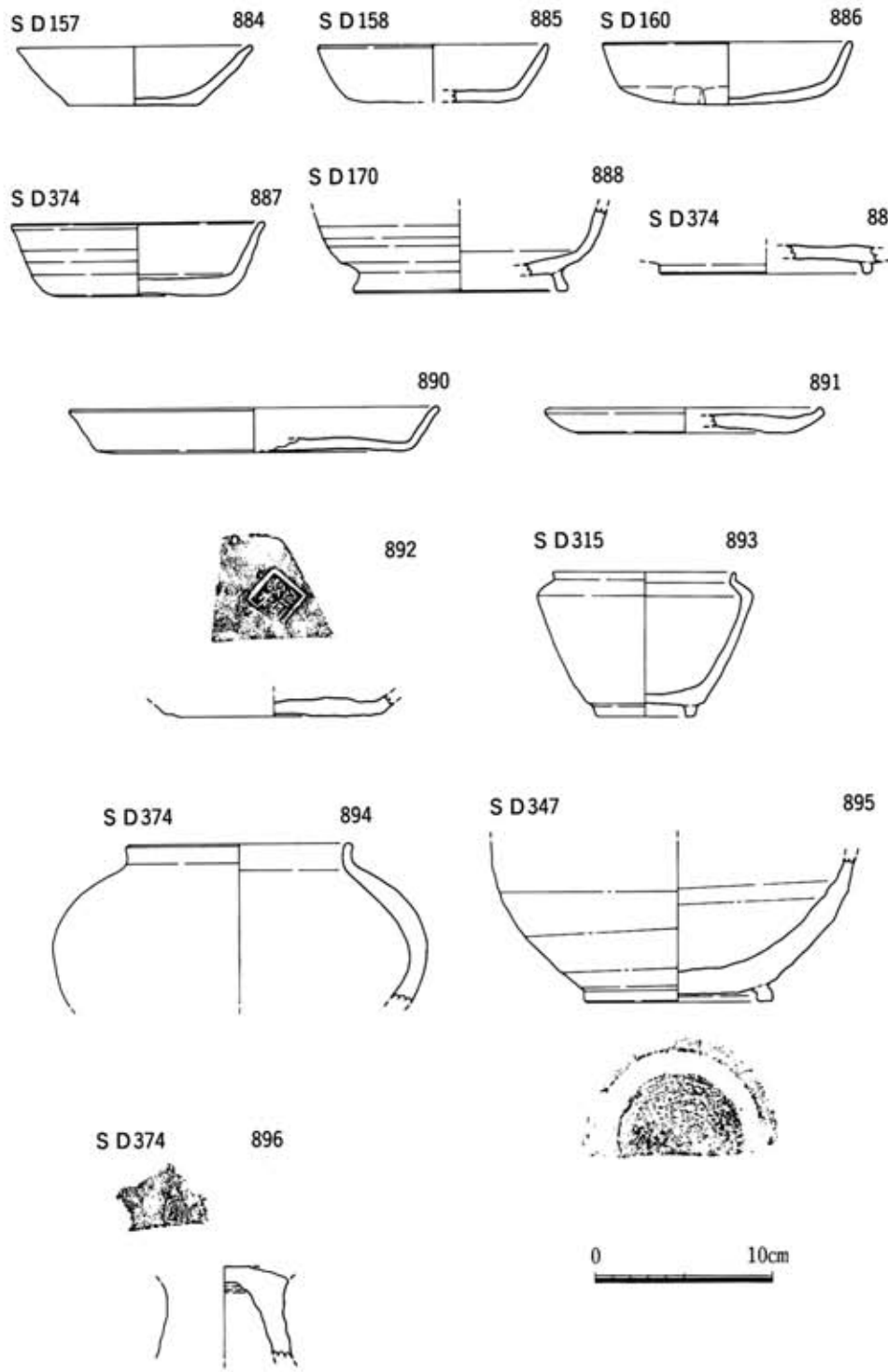



Fig. 170　築地関連遺構出土土師器（1/4）

| 挿図番号(Fig.) 遺物登録番号 | 出土遺構番号 遺構種別 | 遺物の種類 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 171-897 95000081 | HYS・SD164 溝跡 | 須恵器 杯蓋 | ―― | 杯蓋の一部。天井部から口縁部へ緩やかに移行し，断面は丸味を帯びた三角形を呈する。 | 天井部外面はヘラ削り。天井部内面・口縁部内外面はナデ。砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-898 95000072 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 (12.5)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.3 | 上げ底気味の底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は緩やかに，かつ直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-899 95000071 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 (12.5)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.3 | 平底の底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は緩やかに，かつ直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-900 95000076 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 (12.4)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.6 | 上げ底気味の底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は緩やかに，かつ直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-901 95000077 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 (12.7)<br>底径 ( 7.5)<br>器高 3.5 | 平底から体部への移行はやや不明瞭。体部は緩やかに，かつ直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-902 95000073 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 (12.6)<br>底径 ( 6.7)<br>器高 4.9 | 丸味を帯びた底部から体部への移行はやや明瞭で，内面には屈曲線が巡る。体部は器壁が薄く，緩やかに立ち上がり，中程から外反気味に開く。 | 底部外面はヘラ切り離しで，部分的に板状圧痕が残る。その他の部位はナデ。体部外面には「富？」の墨書を見る。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-903 89008989 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 杯身 | 高台径(3.8) | 底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は直線的に立ち上がると思われる。 | 全体的にナデ調整が見られる。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 171-904 95000074 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 鉢 | 口径 (20.2) | 緩やかに内湾しながら立ち上がる体部に，緩やかに外反する短い口縁部が付く。 | 体部内面・口縁部内面はナデ。体部外面・口縁部外面はハケ後ナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-905 95000078 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 鉢 | 口径 (18.0) | 平底で，底部から体部への移行がやや明瞭。体部は直線的に立ち上がる。 | 体部内外面ともナデ調整を行っている。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 171-906 95000079 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 甕 | ―― | 甕形土器の口縁部で，緩やかに外反する。 | 体部内面・口縁部内外面はナデ。胴部外面はハケ後ナデ。砂粒を多く含む。 |
| Fig. 171-907 95000080 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 高台付皿(?) | 高台径(11.2) | 器壁が厚手で，丸味を帯びる底部から体部への移行は不明瞭。体部は緩やかに立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，丸味を帯びた短い高台が外開きに貼り付く。 | 内外面共摩耗が著しく，調整属性については不明。砂粒を含む。 |
| Fig. 171-908 95000075 | HYS・SD164 溝跡 | 土師器 鍋（？） | 口径 (26.8) | 平底の底部から体部が内湾気味に立ち上がるタイプの鍋形土器と思われる。口縁部は丸味を持って外反し，口唇部は上を向く。 | 体部内面・口縁部内外面共ナデ。体部外面はハケ後ナデ。砂粒を多く含む。外面全体に煤が付着。 |
| Fig. 171-909 89000175 | HYS・SD303 溝跡 | 須恵器 杯身 | 口径 9.3<br>底径 6.0<br>器高 3.1 | 平底の底部から体部への移行は不明瞭。体部は直線的に立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。砂粒を僅かに含む。焼成は良好。 |
| Fig. 171-910 94002761 | HYS・SD303 溝跡 | 須恵器 壺 | 底径 ( 7.5) | 底部は平底で，胴部への移行は明瞭。胴部は内湾しながら立ち上がり，強く屈曲する肩部へ至る。頸部は明瞭な「く」字形を描く。口縁部は肩部より直角に立ち上がり，口唇部付近から外反すると思われる。 | 全体的にナデによる調整が施されている。細砂粒を若干含み，焼成は良好。自然釉が肩部を中心に付着。 |
| Fig. 171-911 89008983 | HYS・SD303 溝跡 | 須恵器 壺 | 口径 (29.2) | 大型の壺形土器の口縁部。ほぼ水平に張り出した口縁部から，内側に折り返して上面が平らな口唇部を作り出す。 | 口縁部内外面共ナデによる調整が施されている。砂粒はほとんど含まない。焼成は良好。 |
| Fig. 171-912 89008936 | HYS・SD303 溝跡 | 須恵器 鉢（？） | 底径 ( 7.5) | 平底の底部から体部への移行は明瞭。外面の移行点には稜線を持ち，その直上に１条の沈線を巡らせる。体部は強く屈曲した後，内湾気味に立ち上がる。 | 底部内面・体部内外面はナデ。底部外面はヘラ削り。砂粒を含む。焼成は良好。外面には自然釉が付着。 |
| Fig. 171-913 94002762 | HYS・SD303 溝跡 | 須恵器 甕 | 口径 (19.0) | 肩部はなで肩で，直線的に頸部へと至る。口縁部は強く円弧を描いて屈曲し，外反する。 | 胴部内面は青海波状文を残し，胴部外面は格子目状の叩き痕を留める。口縁部は内外面共ナデ。砂粒を若干含む。 |

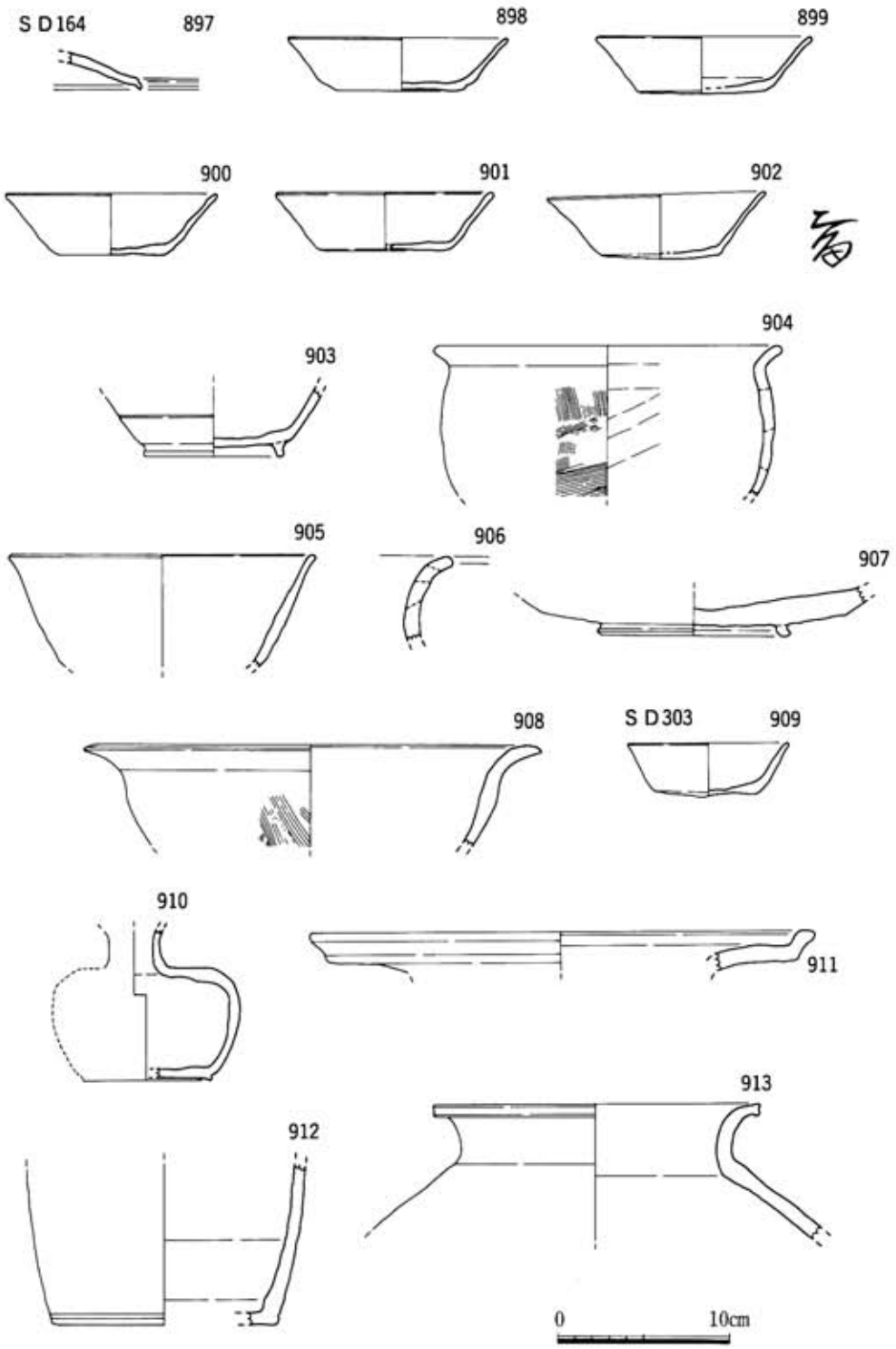



Fig. 171　S D164・303溝跡出土遺物①（1/4）

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 172-914<br>94002760 | HYS・SD303<br>溝跡 | 須恵器<br>杯蓋 | ———— | 天井部から口縁部へ緩やかに移行し，口唇部は丸味を帯びる。 | 全体的にナデによる調整が施されている。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-915<br>94002943 | HYS・SD303<br>溝跡 | 須恵器<br>硯 | 底径 (16.4) | 外堤部以下の部分の出土であるが，圏脚円面硯と思われる。脚部から裾部へは猫足状に続き，裾の端部は更に外側へ開く。脚部には長方形の透かし孔が穿かれているが，その数は全体で4箇所と思われる。 | 脚部の内外面共ナデ。砂粒はほとんど含まない。焼成は良好。 |
| Fig. 172-916<br>95000103 | HYS・SD303<br>状遺構 | 須恵器<br>硯 | 外堤径(10.8)<br>裾部径(15.0)<br>器高 10.6 | 圏脚円面硯。外堤部は貼り付けで陸部よりやや高く，突帯状に巡る。その下部にも1条の突帯を貼り付ける。脚部から裾部への移行は緩やかで猫足状に開き，裾端部は更に外側へと向く。脚部には合計4箇所の長方形の透かし孔を穿つ。 | 陸部・海部はヘラ磨き。その他の部位はナデ調整を施されている。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-917<br>94002763 | HYS・SD303<br>溝跡 | 須恵器<br>高杯 | ———— | 高杯の脚部の一部。杯部は浅く開き，脚部は高く伸びて，裾部が平坦に開くタイプと思われる。 | 全体的にナデ調整を施されている。脚部内面には絞り痕を留める。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-918<br>94004087 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (12.6)<br>底径 ( 7.2)<br>器高 3.4 | 底部は平底で，体部への移行はやや明瞭。屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-919<br>94004088 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (12.1)<br>底径 ( 8.1)<br>器高 3.6 | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭。体部は直線的に立ち上がり，口唇部は丸味を帯びる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで，一部に板状圧痕が残る。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 172-920<br>94004089 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>杯身 | 口径 (12.8)<br>底径 ( 6.8)<br>器高 3.8 | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭。体部は直線的に立ち上がり，口唇部は丸味を帯びる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-921<br>94002932 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(7.8) | 底部から体部への移行は明瞭で，内面に屈曲線が巡る。体部は内湾気味に立ち上がる。外面の移行点上に断面長方形の短い高台が外開きに貼り付く。接地面は内側である。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-922<br>94002933 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(9.4) | 底部から体部への移行はやや明瞭で，体部は屈曲後内湾気味に立ち上がる。外面の移行点上に断面長方形の高い高台を外反させて貼り付ける。 | 体部外面の高台際はヘラ削り。その他の部位はナデ。微砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-923<br>94002934 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(7.3) | 肉厚の底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は屈曲後内湾気味に立ち上がる。外面の移行点上に，断面長方形の高い高台を外反気味に貼り付ける。 | 底部外面はヘラ切り離し。体部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。微砂粒を含む。焼成は良好。 |

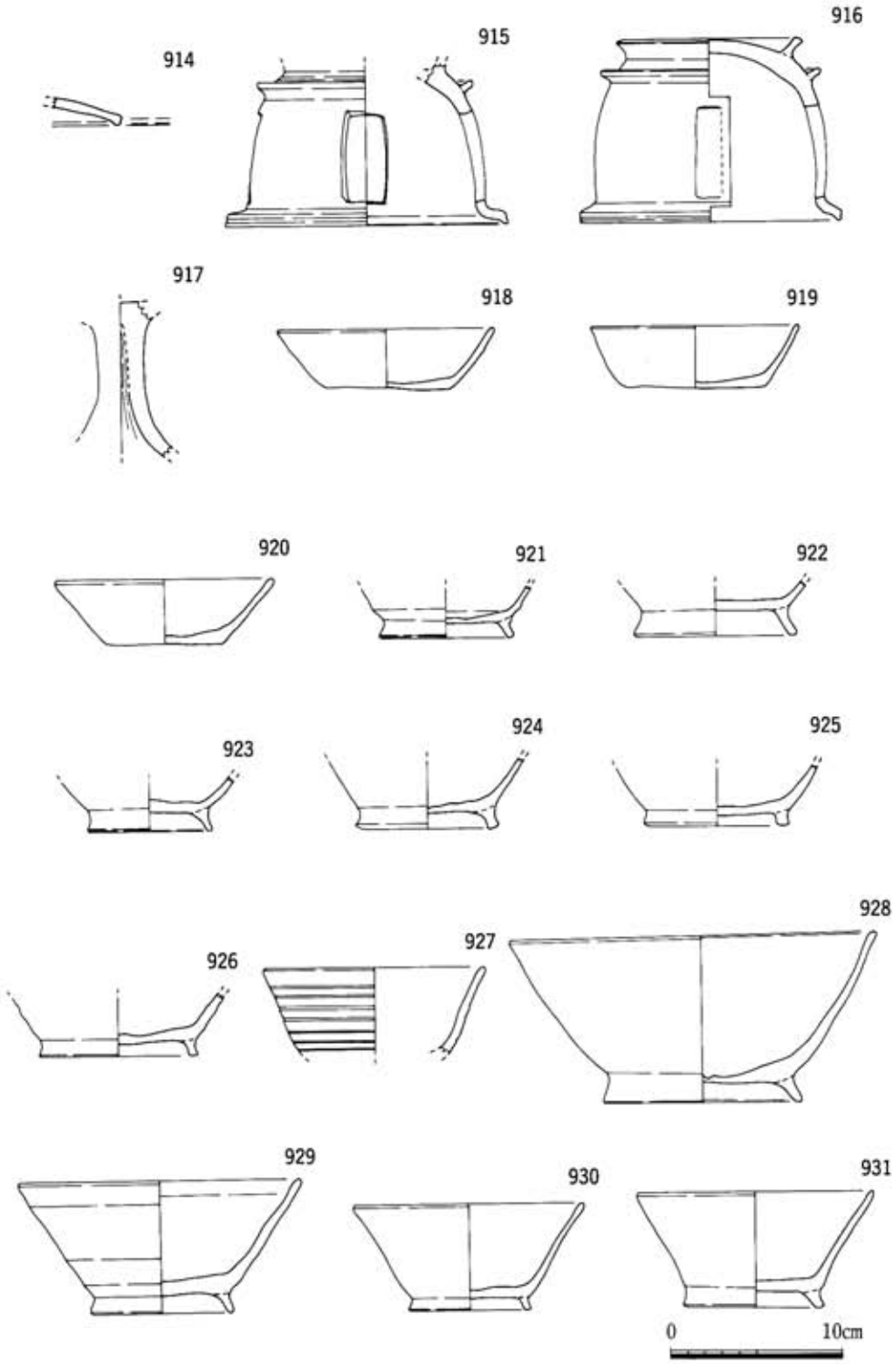



Fig. 172　ＳＤ303溝跡出土遺物②（1/4）

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 172-924<br>94004093 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(8.3) | 底部から体部への移行は不明瞭。体部は直線的に立ち上がる。外面の移行点上に，断面パチ形のしっかりとした作りの高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-925<br>94004095 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(8.4) | 底部から体部への移行は不明瞭。体部はやや内湾気味に立ち上がる。外面の移行点上に，断面四角形のしっかりとした作りの高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-926<br>94004097 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(9.3) | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部は直線的に立ち上がる。外面の移行点上に，断面パチ形のしっかりとした作りの高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離しで板状圧痕が残る。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-927<br>94004094 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (12.6) | 碗形土器の体部の一部が残存。やや内湾気味に立ち上がり，中程から外反に転じる。口縁下に残存部分だけでも７条の沈線を等間隔に巡らす。金属器の写しか？ | 体部内外面共ナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 172-928<br>94002941 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (21.3)<br>高台径(11.4)<br>器高 9.9 | 底部から体部への移行は不明瞭。体部の器壁は肉薄で，やや内湾気味に立ち上がり，口唇部は端部を丸く作り出す。外面の底部と体部との移行点上には，断面が丸味を帯びた三角形の高台が，外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-929<br>89008911 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (16.5)<br>高台径(8.1)<br>器高 7.7 | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は肉薄で，直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点上には，断面が丸味を帯びた三角形の高台が，外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 172-930<br>94004092 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (13.4)<br>高台径(7.1)<br>器高 6.3 | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は肉薄で，直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点上には，断面が丸味を帯びた四角形の高台が，外開きに貼り付く。 | 全体的にナデによる調整が施こされている。底部外面は板状圧痕を留める。焼成は良好。 |
| Fig. 172-931<br>94004096 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>碗 | 口径 (13.7)<br>高台径(8.1)<br>器高 6.8 | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は肉薄で，直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点上には，しっかりとした作りの，断面が丸味を帯びた台形の高台が外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |

| 挿図番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 173-932<br>94004099 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>甕 | 口径 (29.4) | 甕形土器の口縁部の一部。丸味のある胴部から緩やかに「く」字状に曲折して外反し，口縁部へと至る。 | 胴部内面は縦方向のヘラ削り。外面は縦方向のハケ。口縁部内外面はナデで，内面には薄くハケ目を留める。砂粒を若干含む。焼成は良好。外面には煤が付着。 |
| Fig. 173-933<br>94004090 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>皿 | 口径 (15.8)<br>底径 (11.3)<br>器高 2.1 | 肉厚の底部は上げ底気味。体部は底部の縁辺を引き上げたような形状で，直線的に短く立ち上がる。 | 体部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 173-934<br>94002758 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>高台付皿 | 高台径(18.4) | 大型の高台付皿。偏平な形状で器壁は薄い。外面の底部から体部への移行点と思われる部分に，断面が丸味を帯びた四角形の高い高台が，やや外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 173-935<br>94004091 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>皿 | 口径 (14.0)<br>底径 (10.2)<br>器高 1.7 | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭。体部は短く立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 173-936<br>94002935 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>小皿 | 口径 ( 8.6)<br>底径 ( 7.2)<br>器高 1.7 | 底部の器壁は厚く，端部をわずかにつまみ上げて体部を作る。口唇部上端面を面取りして仕上げている。 | 底部外面はヘラ切り離しで板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。微砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 173-937<br>94004100 | HYS・SD303<br>溝跡 | 土師器<br>鉢 | 口径 (23.4) | 体部は緩やかに外上方へ立ち上がり，「S」字状に屈曲して口唇部へ至る。 | 体部内面はヘラ削り。外面は摩耗が著しく，調整属性については不明。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 173-938<br>94004004 | HYS・SD303<br>溝跡 | 瓦<br>平瓦 | 厚さ 2.5 | 平瓦片。 | 側面は2回のヘラ削りにより面取りを行っている。裏面には細かい縄目文様の叩き痕を残す。 |

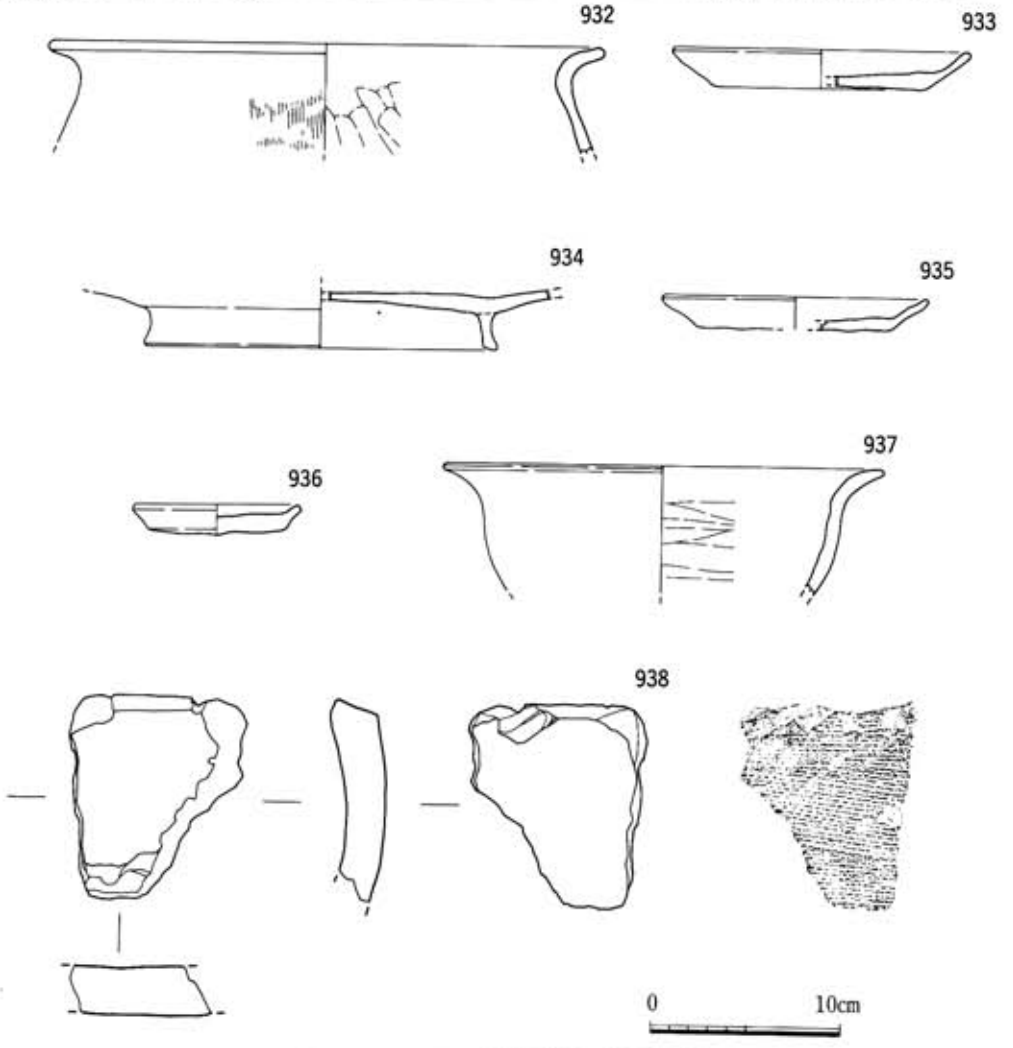



Fig. 173　ＳＤ303溝跡出土遺物③（1/4）

| 挿図番号(Fig.) 遺物登録番号 | 出土遺構番号 遺構種別 | 遺物の種類 器種 | 法量 (cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 174-939 92000273 | NYN-B・SD017 溝跡 | 須恵器 杯蓋 | 口径 (13.5) 器高 ( 1.9) | 天井部はやや平坦で，屈曲せずに口縁部へと至るため器高が低い。口唇部は丸まり，玉縁状を呈する。天井部中央には低いつまみが貼り付く。 | 天井部外面はヘラ切り離しで，中央部はその後ナデている。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 174-940 92000274 | NYN-B・SD017 溝跡 | 土師器 小皿 | 口径 ( 7.7) 器高 ( 1.6) | 若干上げ底気味の底部から，口縁部が短く直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。 |
| Fig. 174-941 92000266 | NYN-B・SD021 溝跡 | 須恵器 杯身 | 口径 ( 9.6) 器高 3.4 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。緩やかに立ち上がった口縁部はわずかに外反し，断面三角形の受けを持つ。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 174-942 92000267 | NYN-B・SD021 溝跡 | 須恵器 杯身 | 口径 ( 9.7) 器高 3.4 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。緩やかに立ち上がった口縁部はわずかに外反し，断面三角形の受けを備える。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。底部外面にヘラ記号を持つ。 |
| Fig. 174-943 92000265 | NYN-B・SD021 溝跡 | 土師器 杯身 | 口径 12.5 器高 4.2 | 丸味を帯びた底部は厚い器壁のまま口縁部へと至る。口縁部はやや内湾し，外面に稜線が巡る。 | 底部外面はナデで，一部にハケ目を留める。その他の部位はナデ。砂粒を多く含む。 |
| Fig. 174-944 92000272 | NYN-B・SD021 溝跡 | 土師器 ミニチュア土器 | 口径 ( 2.9) 器高 2.8 | 手捏ねにより丸底気味に成型。 | 指頭圧痕を留める。 |
| Fig. 174-945 94002510 | HYS・SE290 井戸跡 | 土師器 杯身 | 口径 (13.2) 底径 ( 9.2) 器高 3.8 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。体部は屈曲後内湾気味に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで板状圧痕を残す。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 174-946 94004081 | HYS・SE290 井戸跡 | 土師器 高台付杯 | 高台径 (9.0) | 高台付杯の底部の一部。外面の底部から体部への移行点に，断面四角形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 残存部位についてはナデ調整。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 174-947 94002512 | HYS・SE290 井戸跡 | 土師器 高台付杯 | 高台径(8.4) | 高台付杯の底部の一部。外面の底部から体部への移行点に，断面四角形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 残存部位についてはナデ調整。底部外面には板状圧痕を留める。 |
| Fig. 174-948 94002509 | HYS・SE290 井戸跡 | 土師器 高台付杯 | 口径 (13.7) | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との境界には高台が貼り付くが，欠損していて不明。 | 残存部位については全体的にナデ調整。焼成は良好。 |

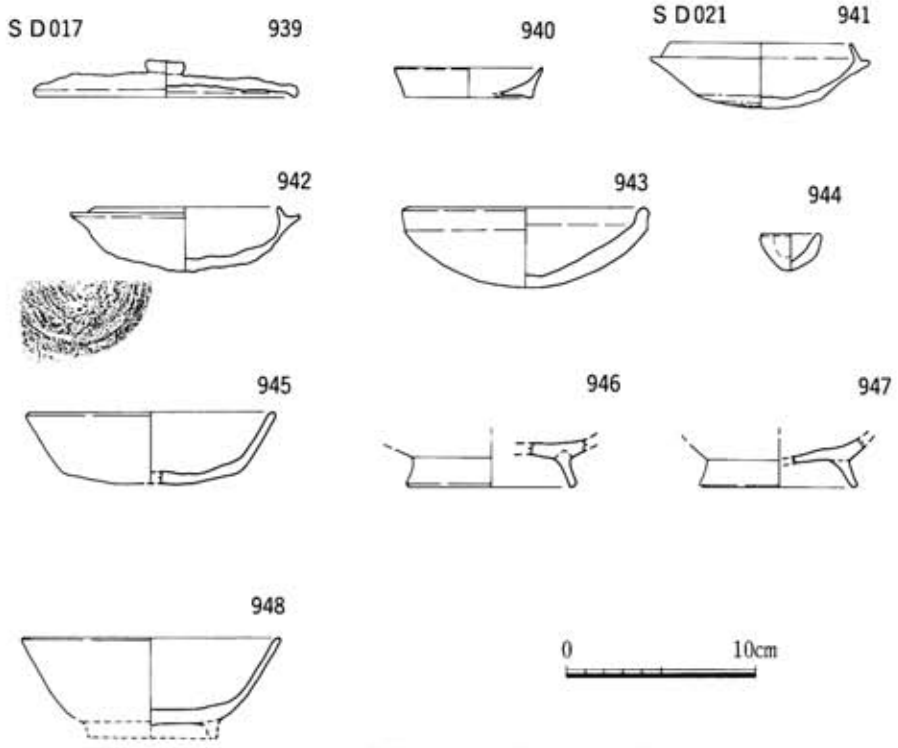



Fig. 174　S D017・021溝跡，S E290井戸跡出土遺物（1/4）

| 挿図番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 175-949<br>95000105 | HYS・SK250<br>土壙 | 須恵器<br>杯蓋 | 口径 (14.8) | 平坦な天井部から緩やかに口縁部へ移行し，屈曲が明瞭な断面三角形の口唇部に至る。 | 天井部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 175-950<br>94002764 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>杯蓋 | 口径 (17.0) | 丸味のある天井部から緩やかに口縁部へと移行し，口縁部は短く外反する。 | 天井部外面上半はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-951<br>94002765 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>杯蓋 | ―――― | 大型の杯蓋の一部。中高で断面菱形のつまみを貼付する。天井部を平坦に作る。 | 天井部とつまみの接点付近はナデ。その他の部位は丁寧なヘラ磨き。 |
| Fig. 175-952<br>94002766 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>杯蓋 | 口径 (15.5)<br>器高 3.8 | 中高のつまみを貼付。天井部から口縁部へは緩やかに移行。丸味のある口唇部を作る。 | つまみの外面はナデ。その他の部位はヘラ磨き。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-953<br>95000102 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>杯蓋 | 口径 (20.4)<br>器高 2.6 | 平坦な天井部から緩やかに口縁部へと移行する。口唇部はわずかに外反する。 | 天井部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒と径1㎜前後の赤色の粒子を少量含む。 |
| Fig. 175-954<br>94000285 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 (15.6)<br>底径 (11.4)<br>器高 5.6 | 丸味を帯びた底部から体部への移行はやや不明瞭。体部は屈曲後直線的に立ち上がり，口唇部は心持ち外反する。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位についてはナデ。細砂粒と径1㎜前後の赤色の粒子を少量含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-955<br>94000284 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(9.9) | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。外面の移行点上に断面三角形の短い高台が貼り付く。接地面は三角の一角。 | 底部内外面・体部外面はヘラによるナデ。その他の部位はナデ。焼成は良好。 |
| Fig. 175-956<br>94002767 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>高台付杯 | 高台径(8.6) | 心持ち丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。外面の移行点上に断面が丸味を帯びた三角形の高い高台が，外開きに貼り付く。 | 底部内外面・体部外面はヘラによるナデ。その他の部位はナデ。焼成は良好。底部内外面共ヘラ磨き。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含み，焼成は良好。 |
| Fig. 175-957<br>95000101 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>甕 | 口径 (28.8) | 甕形土器の口縁部。直立気味に立ち上がる体部から「く」字状に緩やかに外反する。 | 体部内面は横方向の粗いヘラ削り。外面はハケ。口縁部内面はハケ後ナデ。外面はナデ。細砂粒を少量含む。焼成良好。 |
| Fig. 175-958<br>94002768 | HYS・SK250<br>土壙 | 土師器<br>皿 | 高台径(8.5) | 底部は緩やかに体部へと移行。外面の移行点に断面三角形の高台が外開きに貼り付く。 | 体部外面はヘラ磨き。その他の部位はナデ。細砂粒を少量含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-959<br>94000281 | HYS・SK285<br>土壙 | 須恵器<br>杯蓋 | 口径 ( 8.8)<br>器高 3.3 | 若干丸味を帯びた天井部から強く屈曲し，口縁部へと移行する。口唇部は心持ち内湾する。 | 天井部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。天井部内面に「十」のヘラ記号を持つ。 |
| Fig. 175-960<br>88005900 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 (14.0)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 2.2 | 平底の底部から体部への移行は不明瞭。体部は器壁が薄く，緩やかに，かつ直線的に立ち上がる。同じサイズの杯身と比較すると，器高が低い。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。細砂粒を少量含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-961<br>88005899 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 (13.0)<br>底径 ( 7.0)<br>器高 3.4 | 丸味を持った底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は厚く，屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 底部内面はヘラナデ。外面はヘラ切り離し後丁寧なナデで，板状圧痕を残す。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 175-962<br>94000277 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 14.0<br>底径 8.0<br>器高 3.6 | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭。体部は屈曲後直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。焼成は良好。内面に炭化物が付着。 |
| Fig. 175-963<br>94004022 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 (14.3)<br>底径 ( 7.7)<br>器高 4.0 | 平底の底部から体部への移行は内面では不明瞭だが，外面では明瞭で稜線が巡る。体部の器壁は薄く，心持ち内湾気味に立ち上がり，丸味を帯びた口縁部へ至る。 | 全体的にナデによる調整を行っている。底部外面には板状圧痕を残す。 |
| Fig. 175-964<br>94000278 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 13.8<br>底径 7.0<br>器高 3.7 | 平底の底部から体部への移行は緩やか。体部は屈曲後直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ削り後ナデ。その他の部位はナデ。砂粒を少量含む。焼成は良好。底部中央に焼成前の穿孔が有る。 |
| Fig. 175-965<br>94000276 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径 14.1<br>底径 7.6<br>器高 3.9 | 平底の底部から体部への移行は明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 全体的にナデによる調整を行っている。底部外面には板状圧痕を残す。細砂粒を若干含む。焼成は良好。体部外面に「一」の墨書を残す。 |
| Fig. 175-966<br>89008948 | HYS・SK285<br>土壙 | 土師器<br>杯身 | 口径(14.8) | 体部は直線的に立ち上がる。 | 全体的にナデによる調整を施す。 |

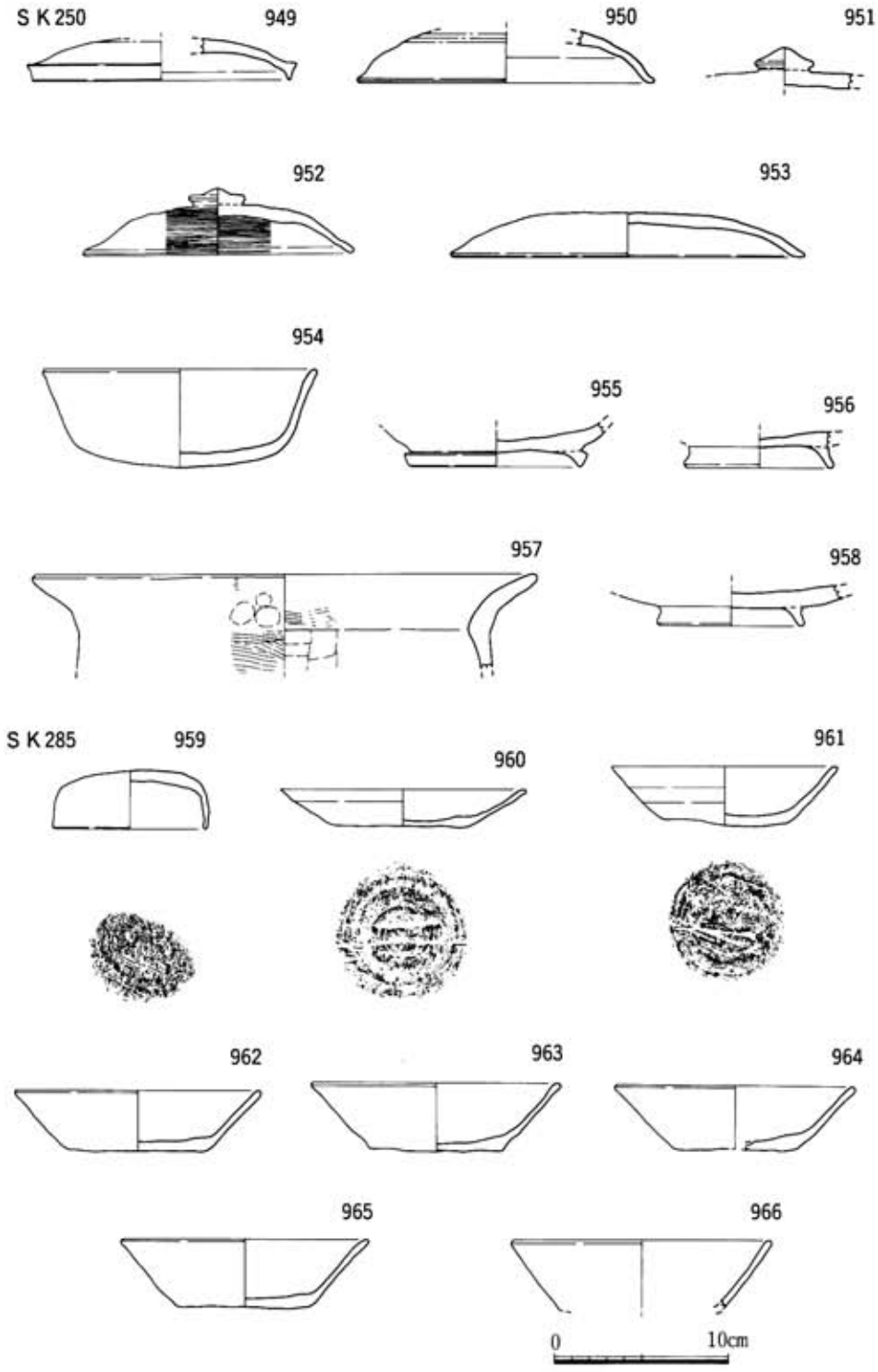



Fig. 175　S K250・285土壙出土遺物（1/4）

| 挿図番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器　種 | 法　量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 176-967<br>89000443 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>碗 | 口径 (14.8)<br>高台径(7.7)<br>器高 6.6 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。体部は内湾気味に立ち上がる。外面の移行点付近に断面が丸味を帯びた四角形の高い高台が，強く外に開いて貼り付く。 | 底部外面には板状圧痕が残る。その他の部位はナデによる調整を施す。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-968<br>94000280 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 14.8<br>高台径 7.8<br>器高 5.9 | 平底気味の底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，高い高台が外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ削り後ナデで板状圧痕を残す。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-969<br>94004024 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>甕 | ―――― | 甕形土器の口縁部の一部。丸味の有る胴部から，強くそして短く「く」字状に屈曲し，外反して口縁部へと至る。 | 体部内面上半はヘラ削り。外面はハケ。口縁部内面はナデ。外面はハケ後ナデ。細砂粒を多く含む。 |
| Fig. 176-970<br>89000442 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径 (13.8)<br>底径 ( 7.5)<br>器高 3.4 | 若干上げ底気味の底部から体部への移行は緩やかで，体部は屈曲後は直線的に立ち上がり，内傾気味の口縁部へと至る。 | 底部外面はヘラ切り離しで，板状圧痕を留める。その他の部位についてはナデ。砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-971<br>94000279 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径 14.4<br>底径 8.0<br>器高 2.3 | 平底の底部から体部への移行は不明瞭。屈曲後は緩やかに立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで，板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。内面煤が付着。 |
| Fig. 176-972<br>94004023 | HYS・SK285<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径 (13.2)<br>底径 ( 8.0)<br>器高 1.4 | 若干上げ底気味の底部から緩やかに体部へ移行する。体部は屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 底部外面は板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。 |
| Fig. 176-973<br>94000275 | HYS・SK286<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径 (13.2)<br>底径 ( 7.6)<br>器高 3.6 | 平底から体部への移行はやや明瞭。体部は器壁が厚く，屈曲後は直線的に立ち上がる。 | 底部外面は板状圧痕を残す。その他の部位はナデ。白色の砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-974<br>94000283 | HYS・SK286<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径 13.0<br>底径 7.2<br>器高 3.6 | 平底の底部から体部への移行はやや明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は内湾気味に立ち上がり，途中からわずかに外反に転じる。 | 底部外面はナデで板状圧痕を留める。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。底部に焼成前の穿孔有り。 |
| Fig. 176-975<br>94000282 | HYS・SK286<br>土　壙 | 土師器<br>碗 | 高台径 7.8 | 碗形土器の底部の一部。外面の底部と体部との境界よりやや内側に，断面三角形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 残存部分については全体的にナデによる調整を行っている。底部外面には板状圧痕が残る。微砂粒を若干含む。焼成良好。 |
| Fig. 176-976<br>89008937 | HYS・SK307<br>土　壙 | 須恵器<br>高台付杯 | 口径 (14.9)<br>高台径(9.8)<br>器高 3.9 | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が厚く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，断面三角形の低い高台が，角を接地面とし貼り付く。 | 残存部分は全体的にナデによる調整が施されている。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-977<br>89008938 | HYS・SK307<br>土　壙 | 須恵器<br>高台付杯 | 高台径(9.2) | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が厚く，強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，断面台形の低い高台付杯が，やや内湾気味に貼り付く。高台の外面は面取りを行っている。 | 残存部分は全体的にナデによる調整を行っている。 |

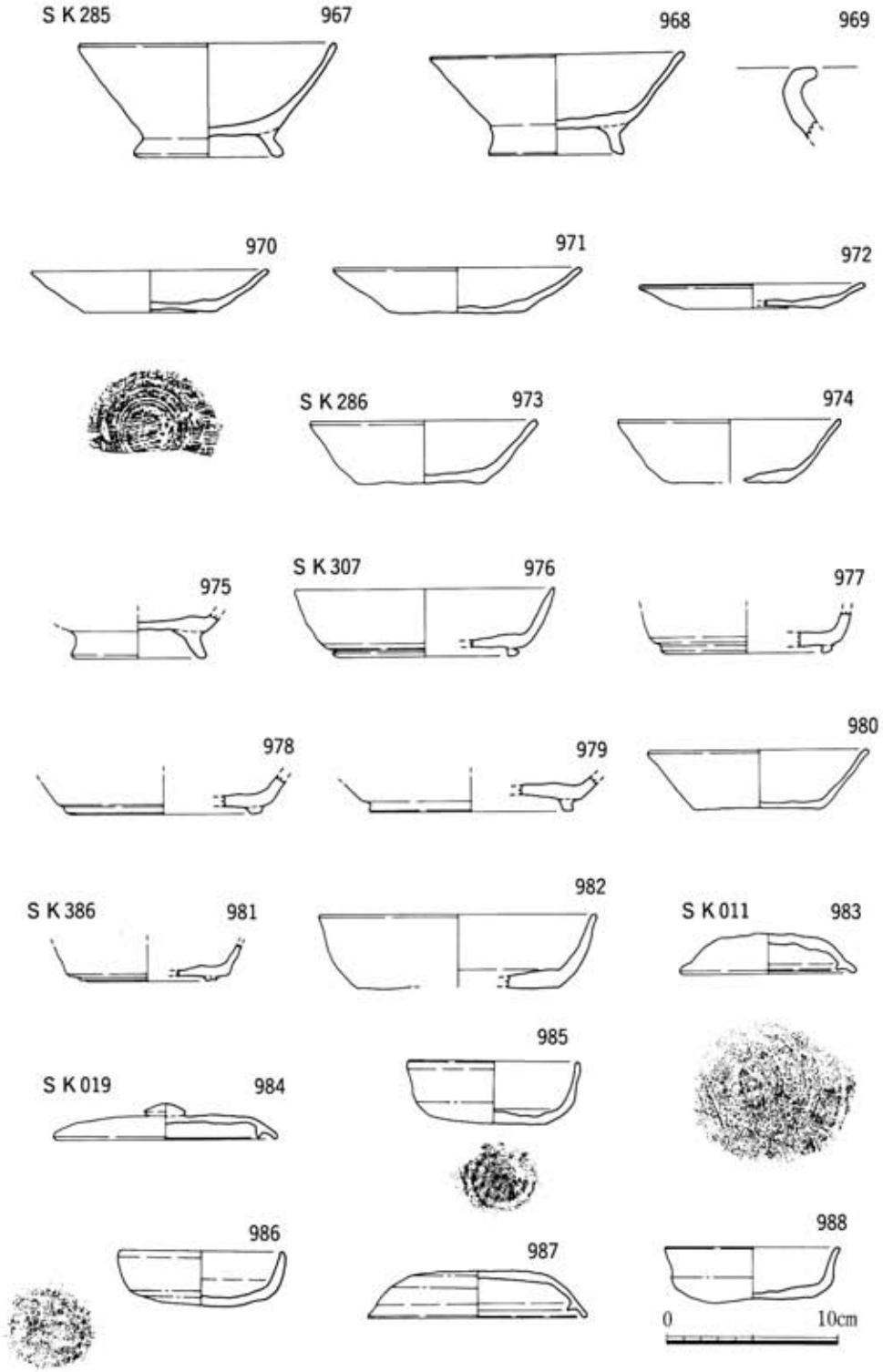



Fig. 176　S K285・286・307・386・011・019①土壙出土遺物（1/4）

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器　種 | 法　量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 176-978<br>94004061 | HYS・SK307<br>土　壙 | 須恵器<br>高台付杯 | 高台径(11.3) | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が厚く，強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，断面逆台形の，低いがしっかりした作りの高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。 |
| Fig. 176-979<br>94004062 | HYS・SK307<br>土　壙 | 須恵器<br>高台付杯 | 高台径(11.8) | 底部から体部への移行は明瞭。外面の移行点よりやや内側に，断面四角形のしっかりとした高台がやや外向きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-980<br>94004060 | HYS・SK307<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径　13.0<br>底径　7.6<br>器高　3.3 | 平底の底部から体部への移行は明瞭。体部は強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-981<br>94002533 | HYS・SK386<br>土　壙 | 須恵器<br>高台付杯 | 高台径(8.0) | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が厚く，強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。外面の移行点よりやや内側に，断面逆台形の，低いがしっかりした作りの高台が貼り付く。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-982<br>94002532 | HYS・SK386<br>土　壙 | 土師器<br>杯　身 | 口径　(16.2)<br>底径　(11.6)<br>器高　4.2 | 平底の底部から体部への移行は明瞭。内面には屈曲線が巡る。体部は器壁が厚く，強く屈曲した後は，やや内湾気味に立ち上がる。 | 残存部分については，全体的にナデによる調整が施されている。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-983<br>91002289 | NYN-B・SK011<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径　9.9<br>器高　2.3 | 丸味を帯びる天井部から口縁部への移行は緩やか。口縁部は外反し，内側にしっかりした作りの受けを持つ。 | 天井部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。砂粒を多量に含む。天井部外面にヘラ記号を持つ。 |
| Fig. 176-984<br>91002290 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径　12.7<br>器高　2.1 | 中高で断面菱形のつまみを貼付しており，平坦な天井部からやや明瞭に口縁部へ移行する。 | 天井部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。砂粒を多量に含む。 |
| Fig. 176-985<br>91002330 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　身 | 口径（9.8）<br>器高　3.6 | 杯身の一部。底部外面は平坦で，強く屈曲した後口縁部へと至る。 | 底部内外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。底部内面にヘラ記号を有する。 |
| Fig. 176-986<br>91002331 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　身 | 口径　9.4<br>器高　3.2 | 杯身の一部。丸味を帯びた底部から口縁部への移行は明瞭で，強く屈曲し，口縁部へ至る。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-987<br>91002332 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　蓋 | 口径　12.6<br>器高　2.8 | 平坦な天井部から口縁部への移行はやや明瞭で，口縁部は緩やかに開き，内側に断面三角形の受けを持つ。 | 天井部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 176-988<br>91002334 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　身 | 口径　10.1<br>底径　6.5<br>器高　3.3 | 平底から体部への移行は明瞭で，体部は強く屈曲した後，内湾気味に立ち上がり，途中から外反気味に開いて口縁部へと至る。 | 底部内面から体部外面にかけてはナデ。その他の部位はヘラ削り。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 177-989<br>91002335 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 須恵器<br>杯　身 | 口径（9.0）<br>器高　2.8 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。緩やかに立ち上がった口縁部はわずかに外反し，断面が鉤形の，上方に鋭り上がった受けを持つ。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 177-990<br>92000060 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 土師器<br>高杯（？） | 口径　(24.0) | 底部から体部への移行は不明瞭。口唇部は外反気味。 | 底部内面・体部内面はヘラ磨き。底部外面・体部外面はヘラ削り。口縁部内外面はナデ。細砂粒を含む。 |
| Fig. 177-991<br>92000057 | NYN-B・SK019<br>土　壙 | 土師器<br>皿 | 口径　(22.5)<br>器高　3.3 | 底部は器壁が薄く，体部への移行は緩やか。体部は屈曲後直線的に立ち上がり，口縁部直下で内湾する。 | 底部外面・口縁部外面ヘラ磨き。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。 |

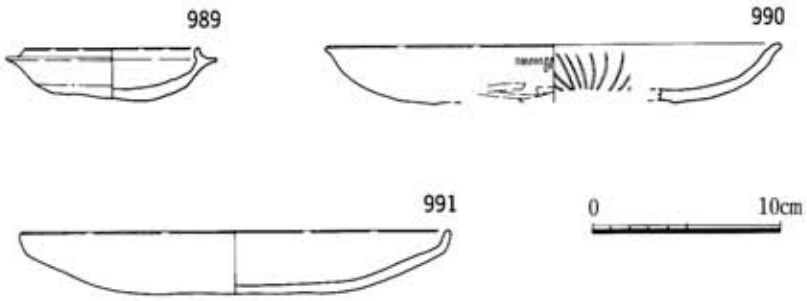



Fig. 177　ＳＫ019土壙出土遺物②（1/4）

| 掲図番号(Fig.)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 178-992<br>89010035 | 黒色土層 | 須恵器<br>杯身 | 口径（11.8）<br>器高　4.3 | 器壁の厚い丸底気味の底部から体部への移行は不明瞭。体部は屈曲後直線的に立ち上がり，口縁部は外反気味。 | 底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。砂粒を含む。 |
| Fig. 178-993<br>89010037 | 黒色土層 | 須恵器<br>高杯 | 高台径(10.8) | 杯底部はわずかに丸味を帯びており，杯体部はそこからやや明瞭に立ち上がる。脚部はわずかに開き，口縁部は嘴状を呈する。 | 杯部は内外面共ナデ。脚部については内外面共ナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-994<br>94002508 | 表面採集 | 須恵器<br>小壺 | 口径　10.8<br>底径　4.6<br>器高　9.4 | 平底の底部から，体部は強く屈曲しながら内湾気味に立ち上がり，稜をなして肩部へと移行する。肩部は直角に折れ，直立する頸部へと至る。口縁部は外反するが，口唇部は屈曲して直立する。外面の底部と体部との境界点よりやや内側に，断面鼓形の短い高台を直立気味に貼り付ける。 | 高台内面から肩部下まではナデで，一部にヘラ削りを残す。肩部はヘラナデ。その他の部位はナデ。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-995<br>92002202 | 表面採集 | 土師器<br>杯蓋 | 口径（16.0）<br>底径（ 2.3） | 丸味を帯びる天井部から，口縁部へと緩やかに移行し，丸味を持った口唇部を作る。天井部中央につまみの痕跡を残す。 | 天井部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。 |
| Fig. 178-996<br>89009634 | 表面採集 | 土師器<br>杯身 | 口径（12.3）<br>底径（ 8.3）<br>器高　4.2 | 平底の底部から体部への移行は明瞭。体部は強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位はナデ。砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-997<br>94000293 | 表面採集 | 土師器<br>杯身 | 口径（12.1）<br>底径（ 7.0）<br>器高　3.0 | 平底の底部から体部への移行は明瞭。体部は強く屈曲した後，直線的に立ち上がる。 | 底部外面はヘラ切り離し後ナデで，板状圧痕を止める。その他の部位はナデ。砂粒をわずかだが含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-998<br>89000847 | 表面採集 | 土師器<br>碗 | 口径（13.8）<br>高台径(7.4)<br>器高　6.2 | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の移行点上に断面逆台形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 残存部分については全体的にナデによる調整を行っている。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |

| 挿図番号(Fig.-)<br>遺物登録番号 | 出土遺構番号<br>遺構種別 | 遺物の種類<br>器　種 | 法　量<br>(cm) | 形態の特徴 | 技法の特徴・その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| Fig. 178-999<br>89000848 | 表面採集 | 土師器<br>碗 | 口径 (13.7)<br>高台径 6.9<br>器高　5.7 | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部は屈曲後は内湾気味に立ち上がる。全体的に器壁が薄い。外面の移行点上に丸味を帯びた断面逆台形の高い高台が，直立して貼り付く。 | 残存部分については全体的にナデによる調整を行っている。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1000<br>94000294 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 (14.5)<br>高台径(7.9)<br>器高　6.5 | 底部から体部への移行は緩やか。体部は屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点上に，断面四角形の高い高台付杯が外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ削り後ナデ。その他の部位についてはナデによる調整を行っている。細砂粒を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1001<br>94000296 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 (13.7)<br>高台径(7.8)<br>器高　5.9 | 底部から体部への移行は明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点よりやや内側に，断面が丸味を帯びた四角形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 残存部分については全体的にナデによる調整が見られる。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1002<br>94000297 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 (14.0)<br>高台径(8.2)<br>器高　6.3 | 底部から体部への移行は明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は直線的に立ち上がる。外面の底部と体部との移行点よりやや内側に，断面が丸味を帯びた四角形の高い高台が外開きに貼り付く。接地面は内側。 | 残存部分については全体的にナデによる調整が見られる。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1003<br>94000300 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 (13.9)<br>高台径(7.5)<br>器高　6.2 | 底部から体部への移行は明瞭。体部の器壁は薄く，屈曲後は直線的に立ち上がり，口縁下で外反気味となる。外面の底部と体部との移行点よりやや内側に，断面が丸味を帯びた四角形の高い高台が外開きに貼り付く。 | 底部外面はナデで板状圧痕を留める。その他の部位についてはナデによる調整。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1004<br>92000459 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 ( 8.8)<br>高台径(6.0)<br>器高　3.3 | 底部から体部への移行は明瞭。体部は器壁が薄く，屈曲後は直線的に立ち上がり，口縁下で外反気味となる。外面の移行点上に断面逆台形の低い高台が外開きに貼り付く。 | 底部外面はヘラ削りで，その他の部位はナデ。砂粒を含む。 |
| Fig. 178-1005<br>92000324 | 表面採集 | 土師器<br>高台付杯 | 口径 (15.8)<br>高台径(11.6)<br>器高　3.8 | 底部から体部への移行はやや明瞭。体部は屈曲後は内湾気味に立ち上がり，口唇部に至ってわずかに外反する。外面の移行点上に断面四角形の低い高台が，一角を接地点として外開きに貼り付く。 | 底部内面・体部内面・口縁部内面にかけてはヘラ磨き。底部外面はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒及び赤色の鉱物を若干含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1006<br>92000317 | 表面採集 | 土師器<br>小皿 | 口径 ( 9.0)<br>器高　1.5 | 丸味を帯びた底部から体部への移行は不明瞭。体部は内湾気味に立ち上がり，短い口縁部へと至る。 | 底部外面はヘラ切り離し。その他の部位についてはナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |
| Fig. 178-1007<br>92000304 | 表面採集 | 土師器<br>甕 | 口径 (15.0)<br>器高 (16.9) | 丸底から胴部は弧を描いて立ち上がり，直角に折れた後，短く外反する口縁部へ至る。口唇部には面取りを行う。 | 底部内面・胴部内面・胴部外面上半はハケ。底部外面・胴部外面下半はヘラ削り。その他の部位はナデ。細砂粒を含む。焼成は良好。 |

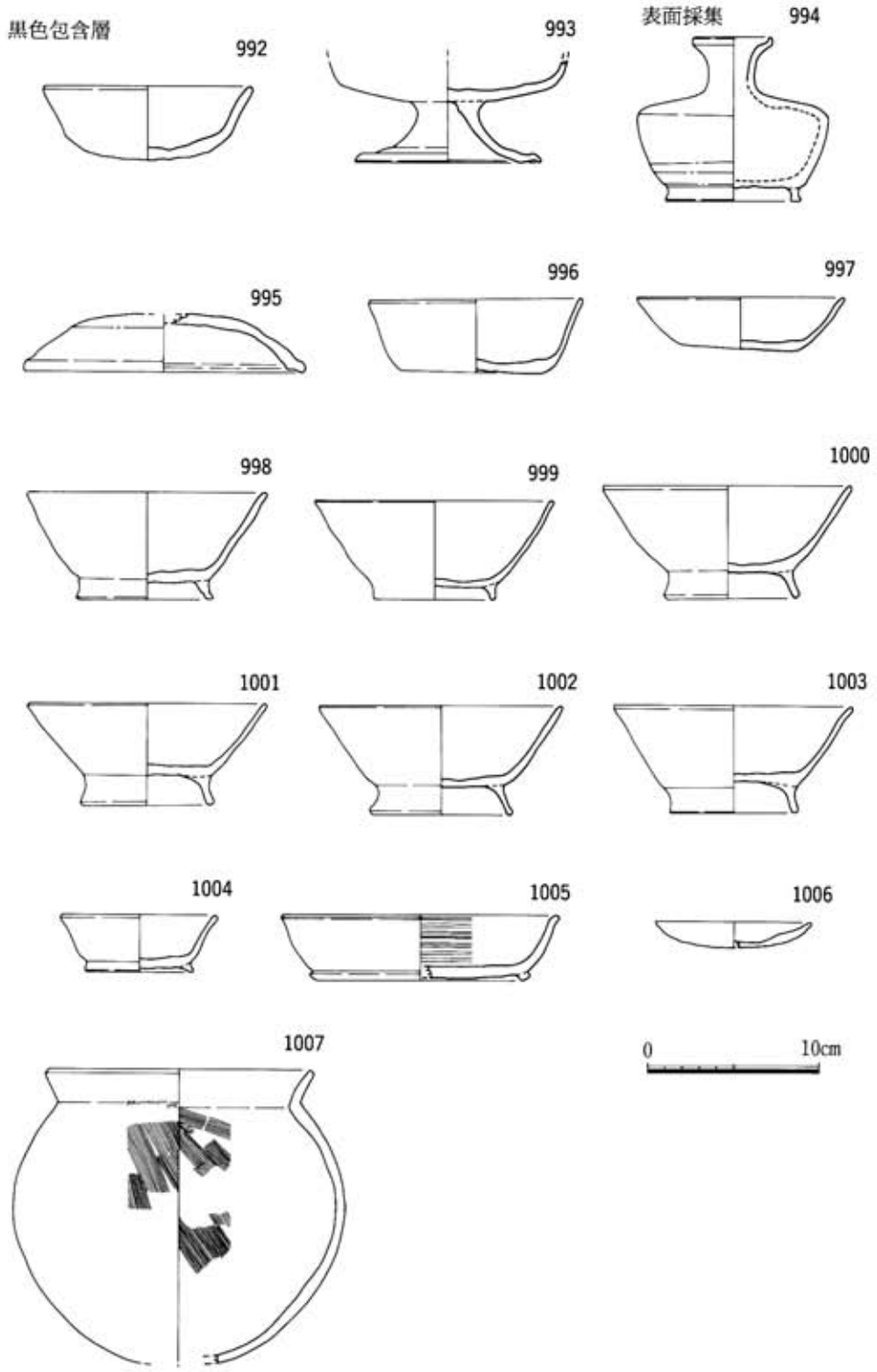



Fig. 178　黒色包含層中及び表面採集遺物（1/4）

## 3　平安時代後半から中世にかけての遺物

佐賀県下では平安時代後半（12世紀前葉）に中世土器としての性格が強い瓦器（皿，椀）が生産され，一般的に普及するが，この瓦器は引き続き鎌倉時代（14世紀前葉）まで生産使用される。東山田一本杉遺跡でも同様のことが言え，出土遺物を平安時代と鎌倉時代とに区別することが不都合なため，本文についてはこの瓦器が生産，普及した平安時代後半から取り扱うこととする。

東山田一本杉遺跡から出土する平安時代後葉から鎌倉時代の遺物は，土師器小皿，杯，瓦器皿，椀などの在地土器，東播系片口鉢，常滑産甕などの搬入土器，白磁，龍泉窯系青磁，同安窯系青磁などの輸入陶磁器が出土しており，佐賀平野に所在する同時期の遺跡の出土傾向とさほど変わりがない。この時代の遺構は，ＳＤ187，ＳＥ246，ＳＫ296，ＳＫ335，ＳＫ368，ＳＫ52，ＳＫ61など，Tab. 3で表した平安時代後半から中世とした遺構の大半がこの時期にあたる。出土遺物の傾向としては，土師器底部の切り離しは糸切りがほとんどで，わずかにヘラ切りが見られるが，当該地方の糸切りの導入が12世紀中頃であることからすれば遺構の大半が12世紀中頃以降と見られる。瓦器は，小皿と椀がある。このうちＳＤ61出土の**1150**（Fig. 187）は口縁部内側に段を設けていること，胎土が灰白色であることから畿内和泉型産の瓦器椀に似るが，小片であり可能性があるに留めざるを得ない。ここ数年，佐賀平野の遺跡から畿内産瓦器の出土が相次いでいるが，東播系須恵器や輸入陶磁器類の搬入に伴う商人の出入りと深く係わり合いがあるものと見られる。存地の瓦器椀は，体部から口縁部にかけ内椀するものと，内椀しながら開くものがあるが，ＳＫ52出土の**1149**（Fig. 187）は器壁が厚く，高台が低く安定しており古段階の瓦器椀の特長を持っている。

輸入陶磁器は，中国南宋時代の白磁皿，椀，壺，龍泉窯系青磁皿，椀，同安窯系青磁皿，椀などがあり，このうち残りの良い57点を図示した。白磁皿は口禿のⅨ類[1]，椀は高台が高いⅤ類が，龍泉窯系青磁椀は鎬蓮弁文を持つⅠ－５類が13点と多い。また同安窯系青磁は皿，椀とも一般的なⅠ類が多い。このように輸入陶磁器の出土は器種も限られ，かつ他の一般的な遺跡から出土する器種と変わらない。

このほか雑器の搬入品については，東播系片口鉢，常滑産甕がある。東播系片口は，古代末～中世にかけての遺跡からは普遍的に出土しておりその流入の多さが注目される[2]。本遺跡でも12世紀末～14世紀前半の片口鉢が８点出土している。常滑産甕は２点が（Fig. **187-1154・1155**）出土しているが，小片であるため詳細については不明である。

このほか，ＳＰ356土壙墓から副葬品として土師器小皿４点，龍泉窯系青磁椀２点が出土しておりセット関係としても貴重である。小皿は糸切り離しで，口径8.4～8.7cm。青磁椀はⅠ－５・ｂ類の完形であるが，釉がオリーブ黄色と発色が劣る。時期は太宰府編年のＳＫ1085と同時期

Tab. 7　平安時代後半～中世の遺物観察表
HYS　SD187溝跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| SD187<br>Fig. 179-1008<br>(89000436) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.4<br>底径 7.5<br>器高 1.1 | 底部は平坦で，体部は内椀ぎみに開く。器壁が薄く，丁寧に仕上げている。 | 底部は糸切り離し。板状圧痕があり，内底部はナデを行う。 |
| SD187<br>Fig. 179-1009<br>(89000437) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.3<br>底径 7.3<br>器高 1.1 | 底部は平坦で，体部は直線的に開く。 | 底部は糸切り離し。板状圧痕があり，内底部はナデを行う。 |
| SD187<br>Fig. 179-1010<br>(95000106) | 土師器<br>杯 | 口径 15.9<br>底径 10.9<br>器高 3.0 | 底部は凹凸があり，体部は高く内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離し。板状圧痕があり，内底部はナデを行う。 |
| SD187<br>Fig. 179-1011<br>(89000438) | 土師器<br>杯 | 口径 16.0<br>底径 11.5<br>器高 2.9 | 器壁が厚く，歪な作りである。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕が，内底部はナデを行う。胎土中の砂粒の混入が少なくもろい。 |
| SD187<br>Fig. 179-1012<br>(89000860) | 瓦器<br>椀 | 口径 16.5<br>高台径 5.9<br>器高 5.2 | 低く，狭い高台を貼りつける。体部は内椀しながら開く。 | 表面が磨耗しており，各部分の調整は不明。 |
| SD187<br>Fig. 179-1013<br>(89000439) | 瓦器<br>椀 | 口径 16.4<br>高台径 6.0<br>器高 6.5 | 低く，狭い高台を貼りつける。器壁が薄く，体部は半球形で体部中位にて稜線を残す。 | 表面が磨耗しており，各部分の調整は不明。 |
| SD187<br>Fig. 179-1014<br>(89000859) | 瓦器<br>椀 | 口径 17.1<br>高台径 6.5<br>器高 6.1 | 細く，高い高台を貼りつける。体部は半球形となり，器壁が厚く全体的に粗雑な作りである。 | 表面は磨耗している。口縁部は横ナデを行ない，ヘラミガキは見られない。 |
| SD187<br>Fig. 179-1015<br>(85000112) | 白磁<br>III | 口径 ——<br>高台径 4.1<br>器高 —— | 下半分のみ残存する。高台は低く，細く削り出す。見込み部分に一部，砂目が残る。 | 白磁皿III類体部下半は施釉されず，見込み部分の釉を輪状に欠き取る。釉灰オリーブ色。 |
| SD187<br>Fig. 179-1016<br>(89000874) | 白磁<br>椀 | 口径 17.4<br>高台径 6.0<br>器高 6.7 | 高台を細く高く削る。体部は内椀し，口縁部を外反させ端部を水平にする。 | 白磁椀V－4a類体部下半は施釉されず，内面上位と見込み部分に沈線を巡らす。釉灰白色。 |
| SD187<br>Fig. 179-1017<br>(95000113) | 白磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 6.0<br>器高 —— | 下半分のみ残存する。高台は細く，高く削る。 | 白磁椀V類乳白色の奇麗な釉を体部と高台部の境まで施釉する。見込み部分に沈線を巡らす。 |
| SD187<br>Fig. 179-1018<br>(89000879) | 白磁<br>III | 口径 11.2<br>底径 4.7<br>器高 2.6 | 体部上位で屈曲し，内面屈曲部に沈線を一条巡らす。 | 白磁皿VIII－2b類焼成が悪くにぶい黄橙色をしている。内底見込みに草花文のスタンプを押す。 |
| SD187<br>Fig. 179-1019<br>(89000182) | 青磁<br>III | 口径 ——<br>底径 4.5<br>器高 —— | 体部上半分を欠いている。体部中位で屈曲し，内面屈曲部に沈線を一条巡らす。 | 龍泉窯系青磁皿I－1b類釉は厚く，外底部にも釉が残る。内底見込みに花紋を片彫りする。 |
| SD187<br>Fig. 179-1020<br>(88005683) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 4.4<br>器高 —— | 下半部分の半分程が残存する。高台は台形状に低く削り出し，内底見込みに沈線を巡らす。 | 同安窯系青磁椀I－1b類釉は薄く，体部内面に櫛描紋，外面に櫛目紋を描く。釉オリーブ灰色。 |
| SD187<br>Fig. 179-1021<br>(95000159) | 青磁<br>椀 | 口径 20.5<br>高台径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部にかけ，5分の1程が残存する。器壁は厚く，口縁部にかけ直線的に開く。 | 越州窯系青磁椀II類釉は薄く，体部外面下半は施釉されない。 |
| SD187<br>Fig. 179-1022<br>(95002946) | 石器<br>砥石 | 長さ ——<br>幅 2.9<br>厚さ 2.5 | 台形方柱状をしており，両端を欠いている。小型の砥石である。 | 長軸の四面を砥面として使用している。 |

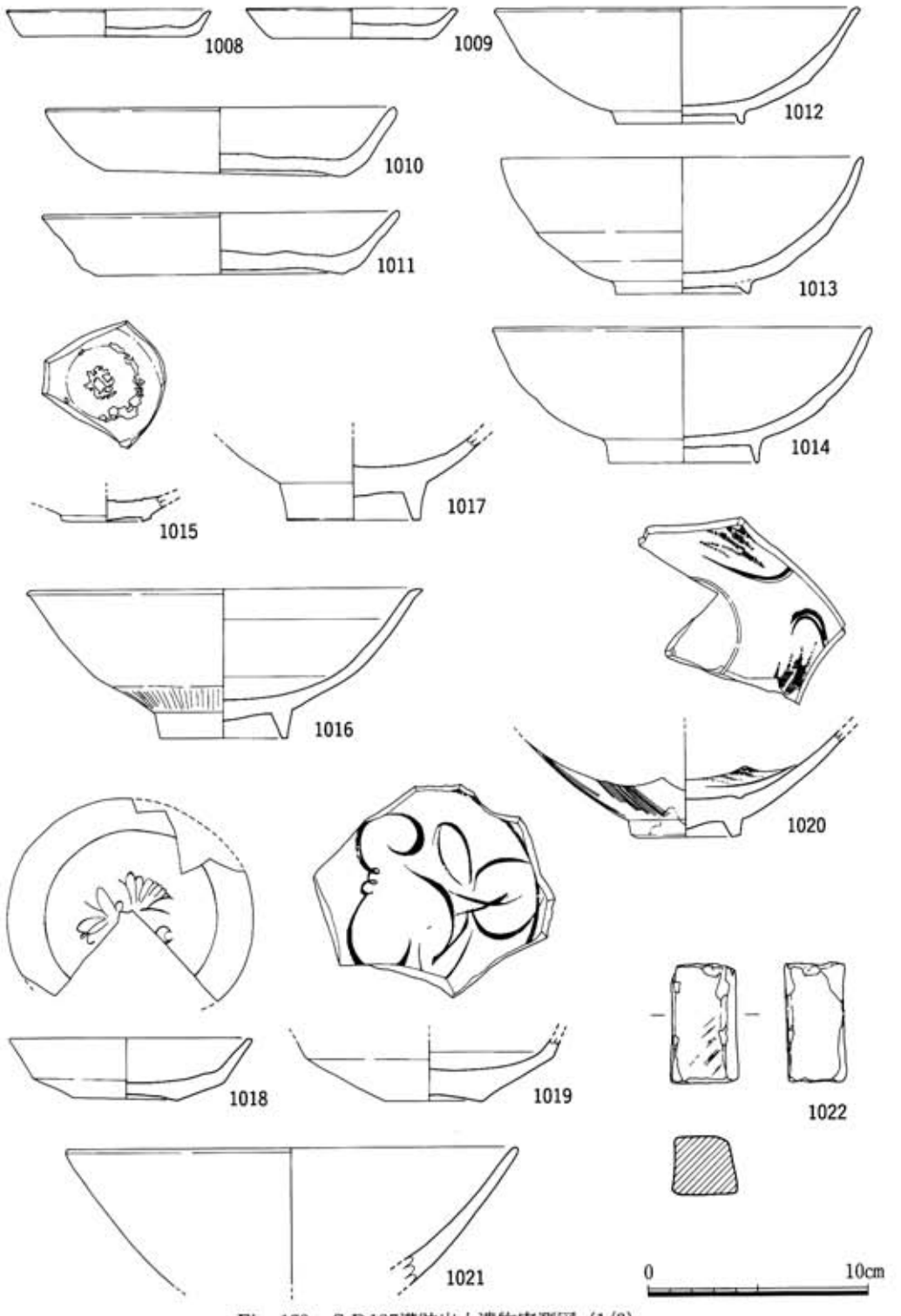



Fig. 179　S D187溝跡出土遺物実測図（1/3）

## ＨＹＳ　ＳＫ226・ＳＫ242土壙，ＳＥ245・ＳＥ246井戸跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＫ226<br>Fig. 180-1023<br>(89000873) | 青磁<br>椀 | 口径 16.6<br>高台径 4.8<br>器高 7.2 | 底部は，断面台形状に厚く削り同安窯系青磁椀Ⅲ－１ａ類体出す。体部は内椀し，口縁端部を外反させる。 | 部外面に，六本一組の片彫り風の帯線を入れる。 |
| ＳＫ242<br>Fig. 180-1024<br>(94004086) | 青磁<br>杯 | 口径 ——<br>高台径 5.6<br>器高 —— | 体部下半の３分の１程が残存する。高台は低く，平坦な杯部から体部が屈曲して上方へ延びる。 | 高麗青磁杯部内面に二条の回線が二対巡り，その間に花文を押印する。全面を施釉する。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1025<br>(94004082) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.8<br>底径 6.2<br>器高 1.8 | 口径の割に底径が小さく，体部は開きながら僅かに内椀する。 | 底部は，静止糸切り離し。体部ヨコナデ。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1026<br>(94004018) | 土師器<br>杯 | 口径 ——<br>底径 8.4<br>器高 —— | 口径に比べ底径が小さく，体部は内椀ぎみに延びる。 | 底部は静止糸切り離し。器壁は薄く，内底部に指頭による圧痕が見られる。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1027<br>(89008953) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 5.1<br>器高 —— | 体部下半から底部にかけて残存する。高台部を浅く，断面四角に削る。 | 龍泉窯系青磁椀Ｉ－5.ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有す。釉を高台部以外に厚く掛けている。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1028<br>(94004019) | 土師器<br>土鍋 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部の一部が残存する。口縁部外側に粘土帯を貼りつけ，下垂れの玉縁状とする。 | 内面，横方向の細かいハケメ，外面指頭圧痕が残る。外面に煤が付着する。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1029<br>(94004021) | 土師器<br>土鍋 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部と体部の一部が残存する。口縁部を外に折り曲げ，玉縁状とする。 | 内面，横方向の細かいハケメ，外面指頭圧痕が残る。外面に煤が付着する。 |
| ＳＥ245<br>Fig. 180-1030<br>(94004875) | 土製品<br>土垂 | 長さ 3.4<br>最大幅 1.1<br>重さ 3.2 | 中央が膨らむ円筒状。径3.5㎜の紐通し穴を開ける。 | 全体を手づくね整形。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1031<br>(94002513) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.1<br>底径 6.6<br>器高 1.2 | 底径が小さく，体部が大きく開く。 | 底部は糸切り離し。底部に板状圧痕があり，内底部はナデを行う。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1032<br>(89008991) | 土師器<br>杯 | 口径 14.1<br>底径 10.2<br>器高 2.8 | 底部が厚く，体部は真っすぐ開く。 | 底部は糸切り離し。表面が磨耗しており，細部の調整は不明。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1033<br>(94004078) | 瓦器<br>小皿 | 口径 9.8<br>底径 6.8<br>器高 1.4 | 底部は僅かに凹面となり，体部は内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離し。内定部はナデが見られ，口縁部は横ナデを行う。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1034<br>(89008987) | 瓦器<br>小皿 | 口径 9.8<br>底径 7.9<br>器高 1.4 | 器壁が薄く，体部が僅かに内傾する。 | 底部は糸切り離し。底部に板状圧痕があり，内底部は強いナデを行う。焼成が良く堅牢である。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1035<br>(94004102) | 瓦器<br>小皿 | 口径 11.2<br>底径 9.0<br>器高 1.5 | 底は平坦で，器壁が薄く，体部中位に稜をもつ。 | 底部は糸切り離し。内定部はナデが見られ，口縁部は横ナデを行う。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1036<br>(89008986) | 瓦器<br>小皿 | 口径 10.3<br>底径 7.7<br>器高 1.2 | 底は平坦で，器壁が薄く，体部は大きく開く。 | 底部は糸切り離し。底部に板状圧痕があり，内底部はナデを行う。口縁部は強く横ナデを行う。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1037<br>(89008985) | 瓦器<br>小皿 | 口径 10.4<br>底径 7.4<br>器高 1.3 | 底径が小さく，体部は内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離し。底部に板状圧痕があり，内底部はナデを行う。焼成が良く堅牢である。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1038<br>(89008988) | 瓦器<br>椀 | 口径 17.2<br>底径 6.9<br>器高 5.5 | 幅広の低い断面三角形の高台を貼りつける。体部から口縁部にかけ内椀する。 | 体部外面に指頭圧痕が残っており，部分的に箆ミガキが残る。内底部に重ね焼きの痕が見られる。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1039<br>(94004104) | 白磁<br>椀 | 口径 ——<br>底径 5.6<br>器高 —— | 底部から高台部にかけての二分の一が残存する。高台部は，細く高く削っている。 | 白磁椀Ⅴ類胎土は灰白色，釉は乳白色で，釉は体部と高台部の境まで施釉する。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1040<br>(94004079) | 青磁<br>椀 | 口径 17.0<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部にかけ４分の１程残存する。体部から口縁部にかけ内椀する。 | 同安窯系青磁椀Ｉ－１ｂ類体部内外面に櫛目紋を描く。釉は薄く浅黄色，胎土は灰白色。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1041<br>(94002514) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 5.0<br>器高 —— | 体部下半から底部にかけ残存する。高台を台形状に削り出し，体部は下位から内椀する。 | 同安窯系青磁椀Ｉ－１ｂ類体部内外面に櫛目文を描き，内底見込みと体部の境に段を有す。 |
| ＳＥ246<br>Fig. 180-1042<br>(94004105) | 土師器<br>土鍋 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部にかけての一部が出土した。口縁部を断面台形状とし，上面に押圧文を施す。 | 体部内面ナデ，一部ハケメ。外面ハケメ。外面に煤が付着。 |

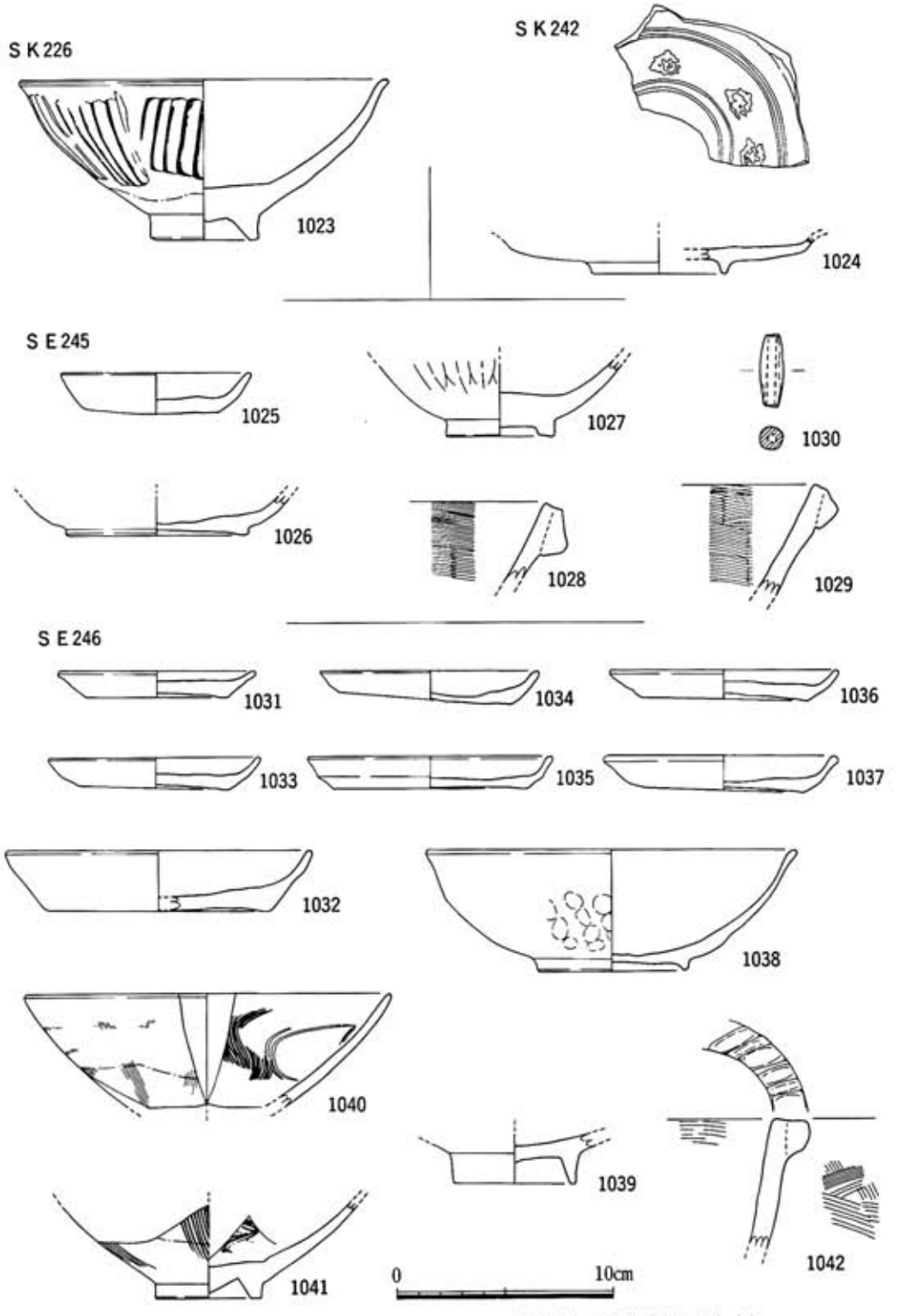



Fig. 180　S K226・242土壙，S E245・246井戸跡出土遺物実測図（1/3）

## ＨＹＳ　ＳＫ268・272・292・296土壙，ＳＤ329溝跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＫ268<br>Fig. 181-1043<br>(94004068) | 土師器<br>小皿 | 口径　8.8<br>底径　7.5<br>器高　1.1 | 底部は平坦で，体部は短く外開する。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内底部はナデを行なう。 |
| ＳＫ268<br>Fig. 181-1044<br>(94004067) | 瓦器<br>椀 | 口径　——<br>底径　7.2<br>器高　—— | 低く，細い高台を張り付け，体部は内椀する。 | 体部外面はケズリの後ヘラミガキ，内面はヘラミガキを行なう。 |
| ＳＫ268<br>Fig. 181-1045<br>(94004069) | 白磁<br>椀 | 口径　——<br>底径　——<br>器高　—— | 体部から口縁部の一部が出土。体部は内椀し，口縁部は小さめの玉縁とする。 | 白磁椀Ⅱ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ268<br>Fig. 181-1046<br>(94004066) | 白磁<br>椀 | 口径　——<br>底径　7.9<br>器高　—— | 高台は低く，内面を斜めに削り込む。体部は厚く，内面に沈線を巡らす。 | 白磁椀Ⅱ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ292<br>Fig. 181-1047<br>(00000000) | 白磁<br>皿 | 口径　——<br>底径　——<br>器高　—— | 口縁部と体部の一部が残存する。器壁が薄く，口縁部にかけ外上方に開く。 | 白磁皿Ⅸ－１・ｂ類口縁端部を口禿にしたもの。胎土，釉とも灰白色をしている。 |
| ＳＫ292<br>Fig. 181-1048<br>(89008995) | 白磁<br>皿 | 口径　——<br>底径　5.8<br>器高　—— | 体部下半から底部にかけ残存する。器壁は薄く，底は平底であるが幾分凸レンズ状となる。 | 白磁皿Ⅸ－１・ｂ類内面の体部と底部の境に輪状に沈線を持つ。胎土，釉とも灰白色をしている。 |
| ＳＫ292<br>Fig. 181-1049<br>(89000924) | 青磁<br>椀 | 口径　——<br>高台径 5.4<br>器高　—— | 体部下半から底部にかけ残存する。高台は断面四角に低く削る。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を施す。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＫ293<br>Fig. 181-1050<br>(94004077) | 白磁<br>皿 | 口径　——<br>底径　——<br>器高　—— | 体部から口縁部の４分の１が出土。体部は内椀ぎみに外傾し，端部は外反する。 | 白磁皿Ⅸ－１類口縁端部が口禿となっており，胎土は灰白色，釉は色である。 |
| ＳＫ293<br>Fig. 181-1051<br>(94004076) | 白磁<br>椀 | 口径　——<br>高台径——<br>器高　—— | 体部から口縁部にかけての一部が出土。体部は内椀ぎみに外傾し，端部の外反し上面が平らとなる。 | 白磁椀Ⅴ－４類胎土は□□色，釉は色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1052<br>(94004118) | 白磁<br>杯 | 口径　10.6<br>底径　6.4<br>器高　2.7 | 全体の４分の１程が出土。器壁は薄く，口縁部にかけ外上方に延び，端部が外反する。 | 白磁皿Ⅸ－１類全面施釉の後口縁部の釉を欠き取っている。胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1053<br>(88005670) | 青磁<br>椀 | 口径<br>高台径 ——<br>器高　—— | 口縁部から体部にかけ４分の１程が出土。体部は外上方に開き，釉が厚く掛かる。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1054<br>(88005673) | 青磁<br>椀 | 口径　16.8<br>高台径 5.3<br>器高　6.6 | 全体の３分の１程が出土。高台部を浅く削り，体部は内椀しながら外上方に開く。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５類体部外面に蓮弁文を，内底見込みに幾何学文様をスタンプする。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1055<br>(88005672) | 青磁<br>椀 | 口径　17.1<br>高台径 ——<br>器高　—— | 口縁部から体部上半の４分の１程が出土。体部は外上方に開き，口縁端部が僅かに外反する。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1056<br>(88005671) | 青磁<br>椀 | 口径<br>高台径 ——<br>器高　—— | 口縁部から体部上半の４分の１程が出土。体部は外上方に開き，口縁端部が細くなる。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉はオリーブ灰色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1057<br>(94004117) | 青磁<br>椀 | 口径　——<br>高台径——<br>器高　—— | 口縁部から体部上半の６分の１程が出土。体部は外上方に開き，口縁端部が細く僅かに外反する。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉はオリーブ灰色。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1058<br>(88005668) | 青磁<br>椀 | 口径　——<br>高台径 5.4<br>器高　—— | 体部下半から底部にかけ残存する。高台部は低く，底部は厚くなる。釉が厚く掛かる。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類外面に鎬蓮弁文を有し，内底見込みに幾何学文様をスタンプする。 |
| ＳＫ296<br>Fig. 181-1059<br>(88005669) | 青磁<br>椀 | 口径　——<br>高台径 4.1<br>器高　—— | 体部から底部にかけ３分の２が出土。小型の椀で，小さい高台部から体部にかけ内椀する。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＫ329<br>Fig. 181-1060<br>(95000083) | 土師器<br>小皿 | 口径　7.8<br>底径　6.2<br>器高　1.5 | 全体の３分の１が出土。底部から口縁部にかけ真っすぐ開く。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕が残る。 |
| ＳＫ329<br>Fig. 181-1061<br>(95000084) | 白磁<br>皿 | 口径　——<br>底径　——<br>器高　—— | 全体の７～８分の１程度が残存する。底部には高台が付くと見られる。全体的に薄手作り。 | 枢府系白磁内面に二条の回線を挟み，内底部と体部内側に草花文を型押しする。 |
| ＳＫ329<br>Fig. 181-1062<br>(95000082) | 土師器<br>土鍋 | 口径　——<br>底径　——<br>器高　—— | 体部と口縁部の一部が出土。外開きする口縁部を，外面に折り曲げ断面三角形状とする。 | 内面細いハケメ，外面ナデ仕上げ。外面に煤付着。 |

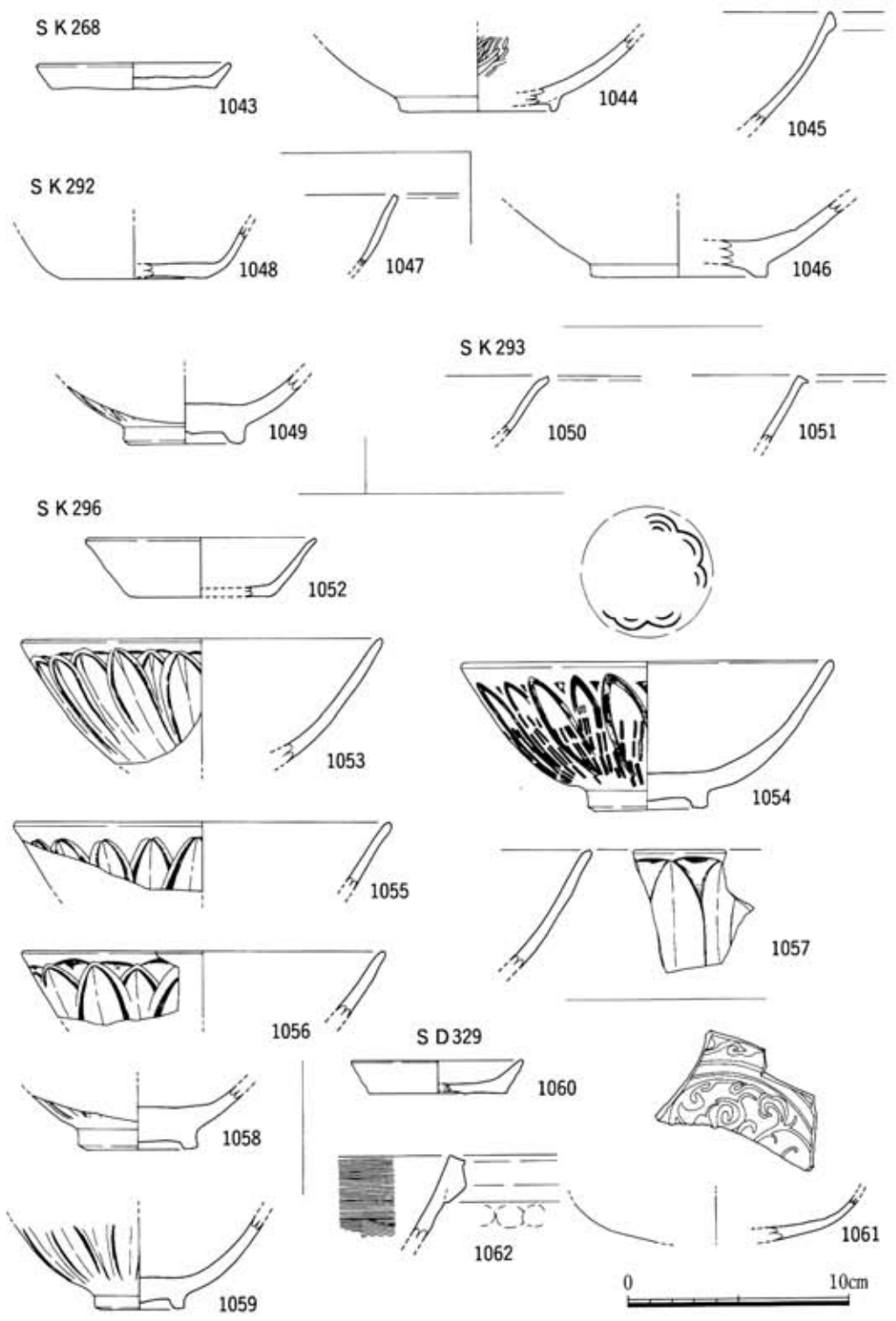



Fig. 181　S K268・272・292・293・296土壙，S D329溝跡出土遺物実測図（1/3）

## HYS　SD335溝跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| SD335<br>Fig. 182-1063<br>(89008924) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.6<br>底径 6.5<br>器高 1.0 | ほぼ完形。口縁端部にかけ細くなり，外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1064<br>(89008921) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.0<br>底径 6.7<br>器高 1.1 | ほぼ完形。口縁部にかけ大きく開き，口縁部の一ケ所が片口状となる。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1065<br>(89008914) | 瓦器<br>小皿 | 口径 8.9<br>底径 6.8<br>器高 1.4 | 完形。口縁部にかけ外上方に開き，口縁端部にかけ細くなる。焼成が悪く，土師器に近い。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1066<br>(89008923) | 瓦器<br>小皿 | 口径 8.9<br>底径 6.6<br>器高 1.3 | 完形。口縁部にかけ内椀ぎみに外上方に開く。焼成が悪く，土師器に近い。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1067<br>(89008922) | 瓦器<br>小皿 | 口径 8.8<br>底径 7.2<br>器高 1.2 | 全体の3分の2が出土。口縁部にかけ内椀ぎみに外上方に開く。焼成が悪く，土師器に近い。 | 底部は糸切り離し。板状圧痕，内定のナデの有無については不明。 |
| SD335<br>Fig. 182-1068<br>(95000067) | 土師器<br>杯b | 口径 11.6<br>底径 4.5<br>器高 3.1 | 全体の3分の2が出土。底径が小さく口縁部にかけ大きく開く。 | ロクロ造り。体部の器壁は薄く，底部は糸切り離し。 |
| SD335<br>Fig. 182-1069<br>(89008912) | 土師器<br>杯 | 口径 15.6<br>底径 11.6<br>器高 3.2 | 全体の3分の1が出土。器壁が厚く，体部から口縁部にかけ外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1070<br>(89008916) | 土師器<br>杯 | 口径 15.1<br>底径 10.5<br>器高 3.4 | 口縁部の3分の2を欠く。体部から口縁部にかけ内椀ぎみに外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1071<br>(89000177) | 土師器<br>杯 | 口径 14.4<br>底径 10.4<br>器高 3.3 | 全体の3分の1が出土。器壁が薄く，体部から口縁部にかけ外上方に開き，端部が外反する。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1072<br>(89008917) | 土師器<br>杯 | 口径 14.6<br>底径 10.6<br>器高 3.5 | 口縁部の3分の2を欠く。体部から口縁部にかけ内椀ぎみに外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。焼成が悪く，造りが粗雑。 |
| SD335<br>Fig. 182-1073<br>(89008915) | 土師器<br>杯 | 口径 16.0<br>底径 11.8<br>器高 3.3 | ほぼ完形。体部から口縁部にかけ外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1074<br>(89008905) | 土師器<br>杯 | 口径 16.0<br>底径 10.2<br>器高 3.4 | 全体の2分の1が出土。器壁が薄く，体部から口縁部にかけ外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。板状圧痕，内定のナデの有無については不明。 |
| SD335<br>Fig. 182-1075<br>(95000069) | 土師器<br>杯 | 口径 16.2<br>底径 12.7<br>器高 2.7 | 口縁部の2分の1を欠く。器壁が薄く，体部が低い。体部から口縁部にかけ外上方に開く。 | 底部は糸切り離し。底部は板状圧痕があり，内底部にはナデが見られる。 |
| SD335<br>Fig. 182-1076<br>(89008918) | 瓦器<br>椀 | 口径 15.7<br>高台径 7.3<br>器高 5.9 | ほぼ完形。高台部は低く幅広い底部は，押出し時のひび割れが生じ，体部の器壁は薄く内椀する。 | 体部内外面にヘラミガキが見られ，口縁部はヨコナデを行う。体部外面に重ね焼きの跡が残る。 |
| SD335<br>Fig. 182-1077<br>(89008927) | 瓦器<br>椀 | 口径 16.4<br>高台径 6.6<br>器高 6.5 | ほぼ完形。高台部は低く，狭い。体部は内椀しながら外上方に延びており，均整のとれた椀である。 | 体部内外面に丁寧なヘラミガキが見られ，口縁部はヨコナデを行う。内面に重ね焼きの跡が残る。 |
| SD335<br>Fig. 182-1078<br>(89000875) | 瓦器<br>椀 | 口径 17.8<br>高台径 7.4<br>器高 6.2 | 口縁部の半分を欠く。高台部は低く，幅広い。体部から口縁部にかけ内椀しながら外上方に開く。 | 体部外面にヘラミガキが，内面にヘラ当て痕が顕著に見える。口縁部ヨコナデ。 |
| SD335<br>Fig. 182-1079<br>(95000068) | 瓦器<br>椀 | 口径 18.3<br>高台径 7.8<br>器高 5.5 | 全体の3分の1が出土。高台部は低く幅広い。体部は浅く外上方に開きながら内椀する。 | 表面が磨耗しており，調整は不明。外底に×字状の線刻がある。 |
| SD335<br>Fig. 182-1080<br>(89008928) | 瓦器<br>椀 | 口径 17.7<br>高台径 7.4<br>器高 5.9 | 全体の2分の1が出土。底部は低く幅広い。体部は外上方に開きながら延びる。 | 表面が磨耗しており，調整は不明。外底に×字状の線刻がある。 |
| SD335<br>Fig. 182-1081<br>(89008907) | 瓦器<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 5.9<br>器高 —— | 体部下半から底部にかけ出土。高台部は低く安定しており，体部は内椀する。 | 表面が磨耗しており，調整は不明。 |
| SD335<br>Fig. 182-1082<br>(89008919) | 瓦器<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 6.3<br>器高 —— | 体部下半から底部にかけ出土。高台部は低く細く，体部は内椀する。 | 表面が磨耗しており，調整は不明。体部外面に指頭圧痕が顕著に残る。 |

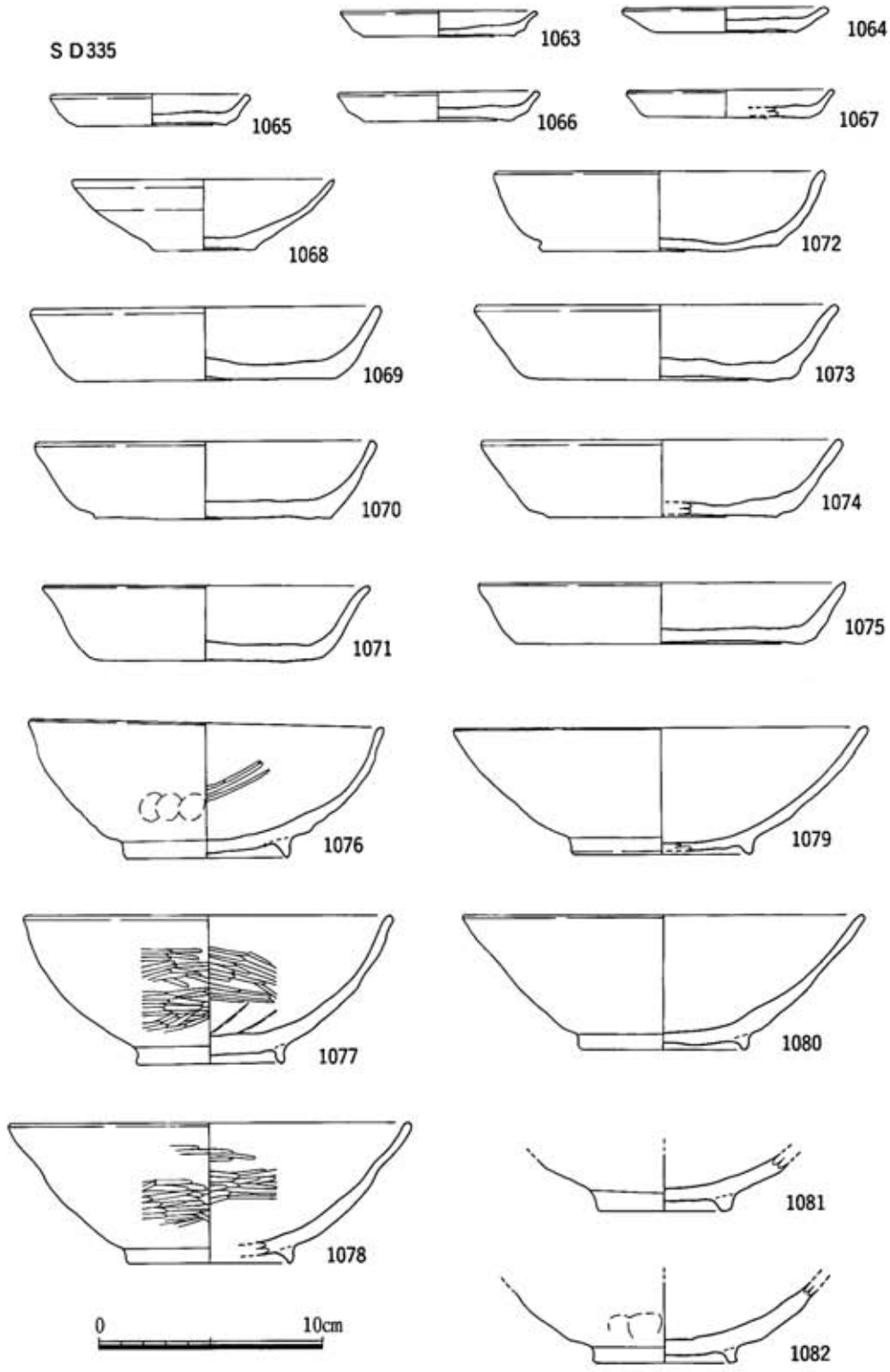



Fig. 182　S D335溝跡出土遺物実測図①（1/3）

## ＨＹＳ　ＳＤ335溝跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1083<br>(89000871) | 白磁<br>水注 | 口径　9.2<br>高台径　——<br>器高　—— | 口頸部の半分が出土した。水注になると見られ，口縁部にかけ開き，口縁端部は玉縁状となる。 | 胎土は灰色，発色が悪く釉はオリーブ灰色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1084<br>(89000869) | 白磁<br>壺 | 口径　——<br>高台計 7.8<br>器高　—— | 底部部分のみ出土した。前者と同じ器形の壺になると見られる。底部は厚く，高台部を浅く削る。 | 胎土，釉とも灰白色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1085<br>(95000062) | 白磁<br>皿 | 口径　9.2<br>底径　5.6<br>器高　1.9 | 全体の半分が出土した。底部は小さく僅かにレンズ状となる。体部は低く内腕する。 | 白磁皿Ⅷ類全面施釉の後，外底部の釉を欠き取る。胎土は灰白色，釉は明緑灰色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1086<br>(95000061) | 白磁<br>皿 | 口径　10.0<br>底径　5.8<br>器高　2.4 | 全体の半分が出土した。底部は小さく僅かにレンズ状となる。体部は低く，僅かに内腕する。 | 白磁皿Ⅸ－２類口縁端部が口禿になっている。胎土は灰白色，釉は明緑灰色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1087<br>(94002917) | 白磁<br>腕 | 口径　16.8<br>高台径　6.4<br>器高　5.8 | 幅広の低い高台で，体部は外上方に延び，口縁端部は僅かに外反する。内底見込みに沈線を巡らす。 | 白磁腕Ⅷ－１類内定見込みの釉を輪状に欠き取る。胎土，釉とも灰白色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1088<br>(89000870) | 白磁<br>腕 | 口径　——<br>底径　5.7<br>器高　—— | 体部下半から底部にかけての半分が出土した。高台部は高く，直部下半まで施釉する。 | 白磁腕Ⅴ－１類釉は薄く，体も灰白色をしている。胎土，釉と立に削り，体部にかけ内腕する。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1089<br>(94002916) | 白磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　6.1<br>器高　—— | 高台部は幅広で，断面台形状に白磁腕Ⅴ類釉は薄く，高台近低く削る。内底見込み近くに沈線を巡らす。 | くまで施釉する。胎土，釉とも灰白色をしている。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1090<br>(94002915) | 白磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　6.3<br>器高　—— | 高台部は，細く高く直立しており，底部は丸みを持ち，体部は外上方に延びる。 | 白磁腕Ⅴ類内面見込みに沈線を有す。胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1091<br>(95000063) | 青磁<br>皿 | 口径　11.0<br>底径　7.5<br>器高　2.5 | ほぼ完形。底はレンズ状となり，体部は外上方に開く。全面施釉の後，外底部の釉を欠き取る。 | 同安窯系青磁皿Ⅰ－２類内面にヘラと櫛により文様を描く。胎土は灰白色，釉は灰オリーブ色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1092<br>(89000865) | 青磁<br>皿 | 口径　10.2<br>底径　6.9<br>器高　2.0 | 口縁部の一部を欠く。底はレンズ状で，体部は外上方に大きく開く。体部外面下半から底部は無釉。 | 同安窯系青磁皿Ⅰ－１・ａ類内外面無文。胎土は褐灰色，釉はオリーブ灰色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1093<br>(94002921) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　6.6<br>器高　—— | 体部下半から高台部にかけ出土した。高台部は幅広で低く，底部は平坦で体部にかけ内腕する。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ－４類。内底部に草花文を片彫りする。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1094<br>(89000868) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　6.1<br>器高　—— | 体部下半から高台にかけ出土。底部は低く，断面コ字状に削っている。体部にかけ内腕する。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ－１類内外面とも無文であり，内面見込み部分に文字をスタンプする。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1095<br>(89000867) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　6.1<br>器高　—— | 体部下半から高台にかけ出土。底部は低く，断面コ字状に削っている。体部にかけ内腕する。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ－１類体部外面に蓮弁文を有すると見られる。胎土は灰白色，釉はオリーブ黄色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1096<br>(88005635) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　5.7<br>器高　—— | 体部下半から高台にかけ出土。底部は低く，断面コ字状に削る。体部は内腕し，釉が厚く掛かる。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鏑蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉はオリーブ灰色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1097<br>(95000064) | 青磁<br>腕 | 長さ　——<br>高台径　5.6<br>器高　—— | 底部は断面コ字状に浅く削り，体部は内腕する。釉は全面施釉の後，高台内面の釉を削っている。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ－５類体部外面に蓮弁文を有する。胎土は灰色，釉は厚く掛かり灰オリーブ色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1098<br>(95000065) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径——<br>器高　—— | 底部から高台の一部が出土。底部は断面コ字状に削る。釉は全面施釉し，畳付けの釉を削る。 | 青磁腕胎土は白色に近く，釉はコバルトブルー。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1099<br>(94002919) | 青磁<br>腕 | 口径　15.6<br>高台径——<br>器高　—— | 口縁部から体部にかけ３分の１が出土。体部は内腕し，口縁部は細く上方へ延びる。 | 龍泉窯系青磁腕Ⅰ類内面上位に沈線を巡らし，外面に櫛目文を有す。胎土は灰色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1100<br>(94002918) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>底径　5.3<br>器高　—— | 体部下半から高台部にかけ出土。高台は狭く，台形状に荒く削る。体部は外上方に延びる。 | 同安窯系青磁腕Ⅰ－１・ａ類内面に櫛目文を描く。胎土は灰色，釉はオリーブ灰色。 |
| ＳＤ335<br>Fig. 183-1101<br>(95000082) | 青磁<br>腕 | 口径　——<br>高台径　5.1<br>器高　—— | 体部下半から高台部にかけ出土。同安窯系青磁腕Ⅰ－１・ａ類高台は低く，断面台形状に荒く削る。 | 体部内外面に櫛目文様を入れる。体部は内腕し外上方へ延びる。胎土灰白色，釉はオリーブ黄色。 |

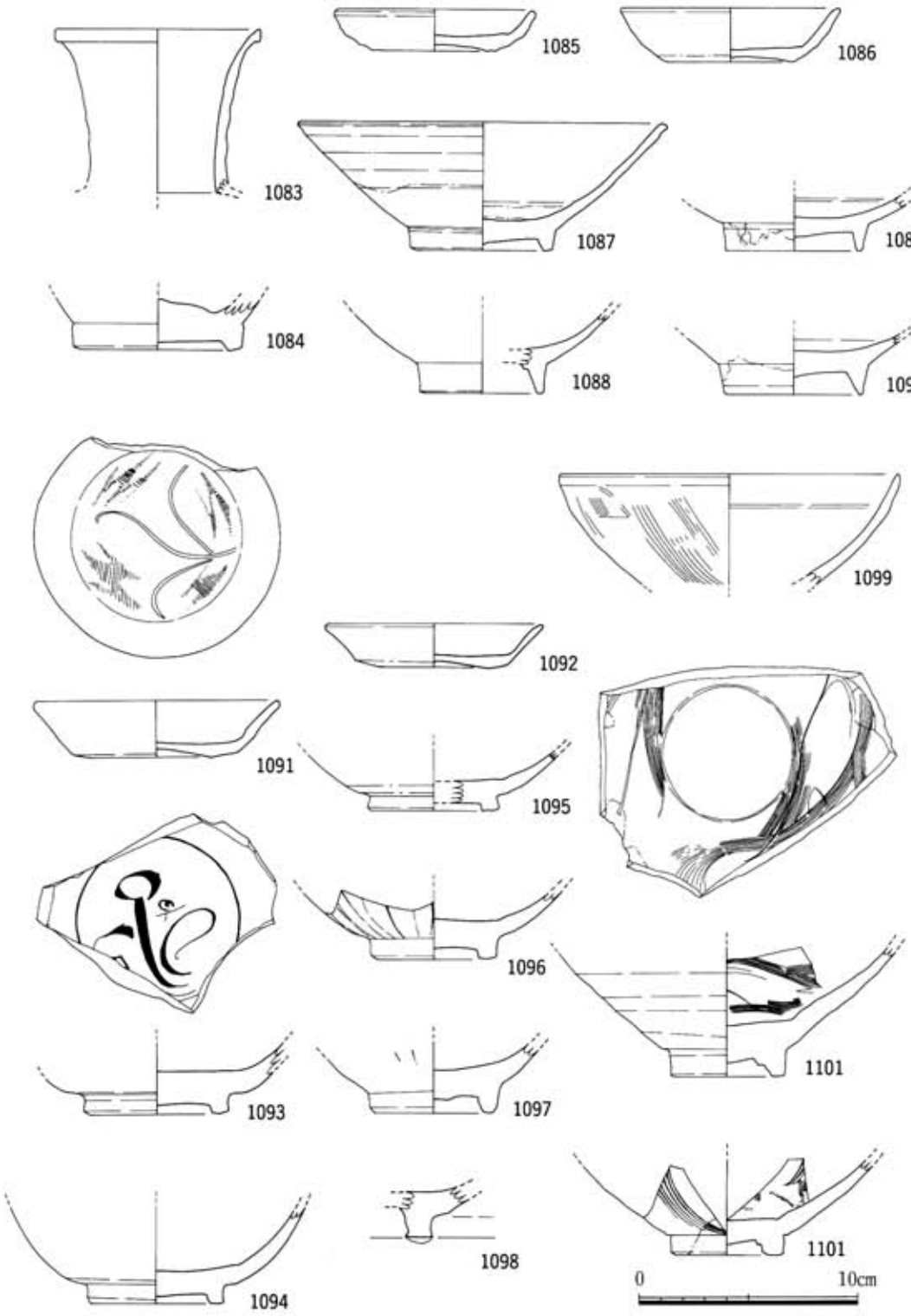



Fig. 183　ＳＤ335溝跡出土遺物実測図②（1/3）

## HYS　SD335溝跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| SD335<br>Fig. 184-1102<br>(95000138) | 緑釉陶器<br>椀 | 口径 ——<br>底径 7.6<br>器高 —— | 底部から体部の一部が出土した。底部は凹面となり，体部は内椀しながら開く。 | 京都洛北産緑釉陶器胎土は良く精製され，浅黄色の釉を全体に施す。 |
| SD335<br>Fig. 184-1103<br>(89000179) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 24.6<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部の一部が出土。体部から直線的に開き，玉縁状とした口縁部内側を強く摘み上げる。 | 東播系片口鉢強くヨコナデしている為，器壁の表面に凹凸が目立つ。口縁部に自然釉が掛かる。 |
| SD335<br>Fig. 184-1104<br>(95000057) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 一回り小型の片口鉢。体部から直線的に開き，口縁部を小さい玉縁状とする。 | 東播系片口鉢体部，口縁部ともヨコナデ。 |
| SD335<br>Fig. 184-1105<br>(95000055) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部の一部が出土。口縁部を両側に肥厚させ，大きい玉縁状とする。 | 東播系片口鉢体部，口縁部ともヨコナデ。口縁部に自然釉が掛かる。 |
| SD335<br>Fig. 184-1106<br>(95000053) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部の一部が出土。体部から直線的に開き，口縁部を玉縁状とする。 | 東播系片口鉢強くヨコナデしている為，器壁の表面に凹凸が目立つ。 |
| SD335<br>Fig. 184-1107<br>(95000056) | 土師器<br>土鍋 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部にかけ直線的に開き，口縁部に粘土帯を貼りつけ玉縁状とする。 | 内面横方向の細かいハケメ，外面指押さえの跡が残る。 |
| SD335<br>Fig. 184-1108<br>(95000058) | 土師器<br>釜 | 口径 14.6<br>底径 ——<br>器高 —— | 口頸部は短く，直行し，肩部は張る。肩部に径5㎜程の2個一対穴を穿ち，花紋をスタンプする。 | 焼成は良く，瓦質。口頸部内面荒いハケメ，外面ヘラミガキ。内面に煤が付着。 |
| SD335<br>Fig. 184-1109<br>(95000059) | 陶器<br>擂鉢 | 口径 32.2<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部は直線的に開き，口頸部はく字状となる。外面屈曲部が隆起する。 | 備前擂鉢体部，口縁部ともヨコナデした後，体部内面におろし目を入れている。 |
| SD335<br>Fig. 184-1110<br>(95000054) | 土師器<br>足鍋 | 口径 36.2<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部から体部の一部が出土。体部は外開しながら延び，口頸部は内椀する。 | 周防型の足鍋体部外面は指頭圧痕が残り，口頸部はヨコナデ。 |
| SD335<br>Fig. 184-1111<br>(85000116) | 土師器<br>土鍋 | 口径 33.6<br>底径 ——<br>器高 —— | 丸底で，体部は内椀し，口縁部を断面台形状に厚くし，その上面に縄文を施す。 | 体部内面ナデ，一部ハケメ，外面細かいハケメを行う。外面に煤が付着する。 |
| SD335<br>Fig. 184-1112<br>(85000123) | 陶器<br>丸瓦 | 長さ ——<br>幅 13.1<br>高さ 6.4 | 玉縁付の丸瓦で，横断面は半円弧状で，厚みがある。 | 下端はヘラ切り離しのままで，表面は布目痕が全体に薄く残り，玉縁部はヨコナデを行う。 |
| SD335<br>Fig. 184-1113<br>(89008905) | 土製品<br>分銅 | 高さ 4.6<br>幅 3.1<br>厚さ 2.4 | 上面がやや小さめの方柱形をしており，上面に提げ手を付ける。重さグラム。 | 全体を手づくねにて仕上げる。 |
| SD335<br>Fig. 184-1114<br>(95000069) | 鉄製品<br>釘 | 長さ ——<br>幅 0.6<br>厚さ 0.4 | 頭部と先端部を欠く。断面長方形で，端部にかけ細くなる。 | 全体が錆びており詳細は不明。 |

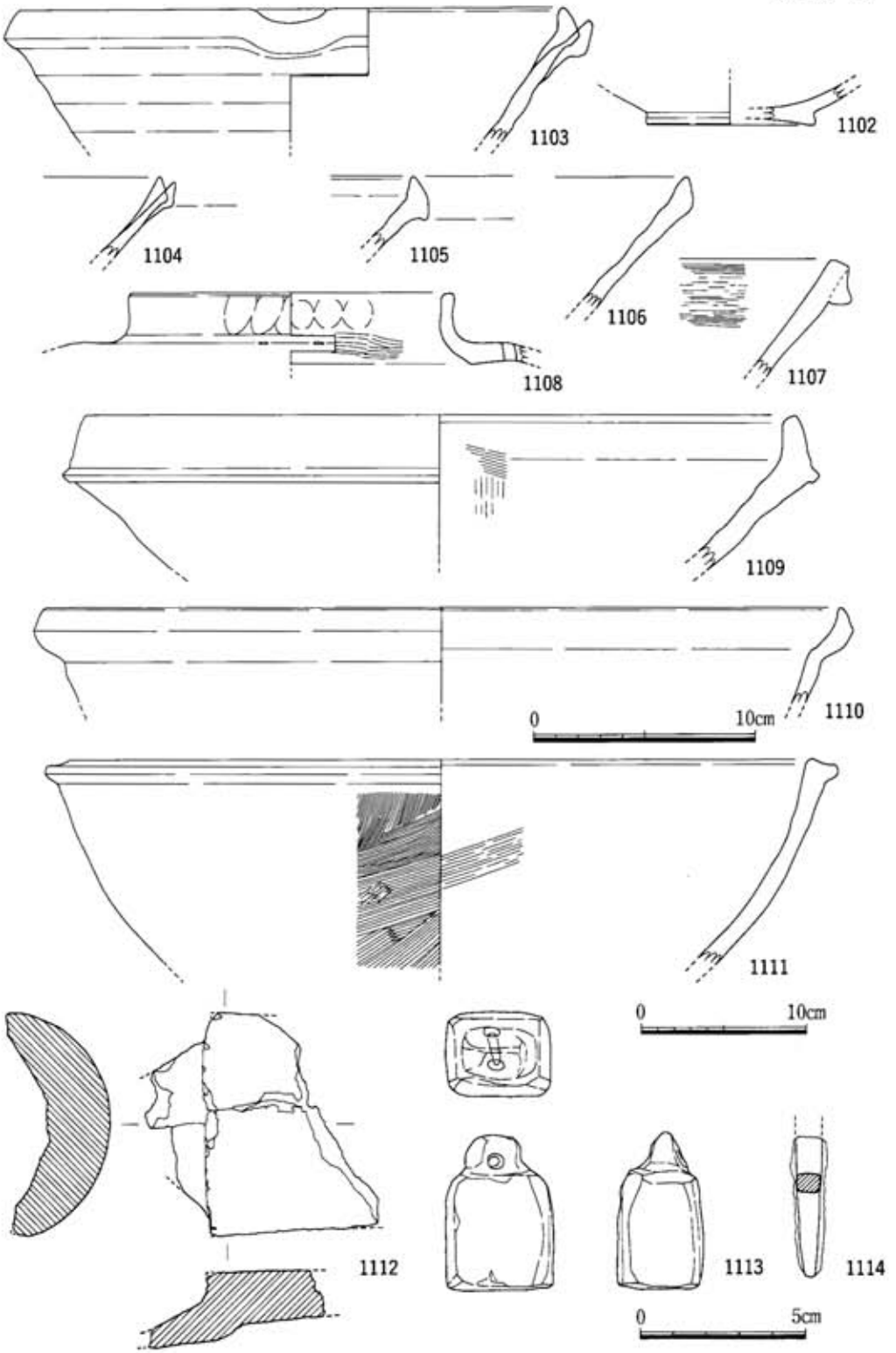



Fig. 184　ＳＤ335溝跡出土遺物実測図③（1/2・1/3・1/4）

## ＨＹＳ　ＳＰ356土壙墓・ＳＫ368土壙

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1115<br>(94002521) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.5<br>底径 7.0<br>器高 1.0 | 体部は低く開き，口縁端部にかけ細くなる。 | 底部は糸切り離し。表面が磨耗しており調整は不明。 |
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1116<br>(94002520) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.4<br>底径 6.9<br>器高 1.0 | 体部は低く開き，口縁端部にかけ細くなる。 | 底部は糸切り離し。表面が磨耗しており調整は不明。 |
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1117<br>(94002519) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.4<br>底径 7.2<br>器高 0.9 | 体部は低く開き，口縁端部にかけ細くなる。 | 底部は糸切り離し。表面が磨耗しており調整は不明。 |
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1118<br>(94002518) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.7<br>底径 7.1<br>器高 1.2 | 体部は低く開き，口縁端部にかけ細くなる。 | 底部は糸切り離し。表面が磨耗しており調整は不明。 |
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1119<br>(87009487) | 青磁<br>椀 | 口径 16.5<br>高台径 5.7<br>器高 7.2 | 高台は低く，断面コ字状に削る。体部は内椀し，口縁部にかけ外上方に開く。全面に貫入が入る。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉はオリーブ黄色。 |
| ＳＰ356<br>Fig. 185-1120<br>(87009489) | 青磁<br>椀 | 口径 16.4<br>高台径 5.4<br>器高 6.9 | 高台は低く，断面コ字状に削る。底部の器壁が厚く，体部は内椀し，口縁部にかけ外上方に開く。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－５・ｂ類体部外面に鎬蓮弁文を有する。胎土は灰白色，釉はオリーブ黄色。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1121<br>(94004114) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.1<br>底径 6.5<br>器高 0.9 | 体部は低く開いており，口縁端部にかけ細くなる。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕がある。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1122<br>(94002522) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.6<br>底径 6.5<br>器高 1.0 | 体部は低く，内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内定部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1123<br>(94004073) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.9<br>底径 6.1<br>器高 1.2 | 器壁が薄く，体部は低く内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内定部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1124<br>(94004072) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.0<br>底径 7.1<br>器高 1.0 | 器壁が薄く，体部は低く口縁端部にかけ大きく開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内定部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1125<br>(94004071) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.0<br>高台径 5.9<br>器高 1.3 | 器壁が薄く，体部は低く内椀しながら開く。 | 底部はヘラ切り離しで板状圧痕があり，内底部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1126<br>(94002529) | 土師器<br>杯 | 口径 15.4<br>底径 10.6<br>器高 2.4 | 器壁は薄く，底部は平坦で，体部は内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内定部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1127<br>(94002526) | 土師器<br>杯 | 口径 ——<br>底径 9.4<br>器高 —— | 口縁部を欠く。底部は平坦で，体部は外上方に開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕があり，内定部はナデを行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1128<br>(94002531) | 瓦器<br>椀 | 口径 16.7<br>高台径 6.3<br>器高 5.8 | 高台は低く，幅が狭い。体部は半球形状で，口縁部にかけ内椀する。 | 体部外面ヨコナデ，内面ヘラミガキを丁寧に行なう。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1129<br>(94004113) | 青磁<br>皿 | 口径 10.2<br>底径 4.7<br>器高 2.2 | 全体の半分が出土。底部はレンズ状で，体部は中位にて屈曲し，口縁部にかけ外反する。 | 同安窯系青磁皿Ⅰ－２類内底部にヘラと櫛にて模様を施す。胎土は灰白色，釉は明オリーブ灰色。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1130<br>(94004075) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>底径 5.8<br>器高 —— | 底部部分が出土。高台は浅く削り，底部は平坦である。高台内面に砂目の跡が残る。 | 龍泉窯青磁椀Ⅰ類内底見込み部分に花文様を行なう。胎土は灰白色，釉は明緑灰色。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1131<br>(94002534) | 青磁<br>椀 | 口径 14.9<br>底径 4.5<br>器高 6.6 | 高台は狭く，浅い台形状に削る。体部は内椀しながら外上方に延びる。 | 同安窯系青磁椀Ⅰ－１ｂ類体部内外面にヘラと櫛で文様を施す。胎土は灰色，釉は灰オリーブ色。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1132<br>(94004115) | 土師器<br>土鍋 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部の一部が出土。口縁部を逆Ｌ字状とし，口縁の上面に縄目を施す。 | 内面ハケメ，外面に指頭圧痕が残る。 |
| ＳＫ368<br>Fig. 185-1133<br>(89008589) | 鉄製<br>品釘 | 長さ ——<br>幅 0.8<br>厚さ 0.7 | 残存長7.0cm。頭部と先端部を欠く。断面は正方形に近く，先端部にかけ細くなる。 | 全面が錆びており，詳細は不明。 |

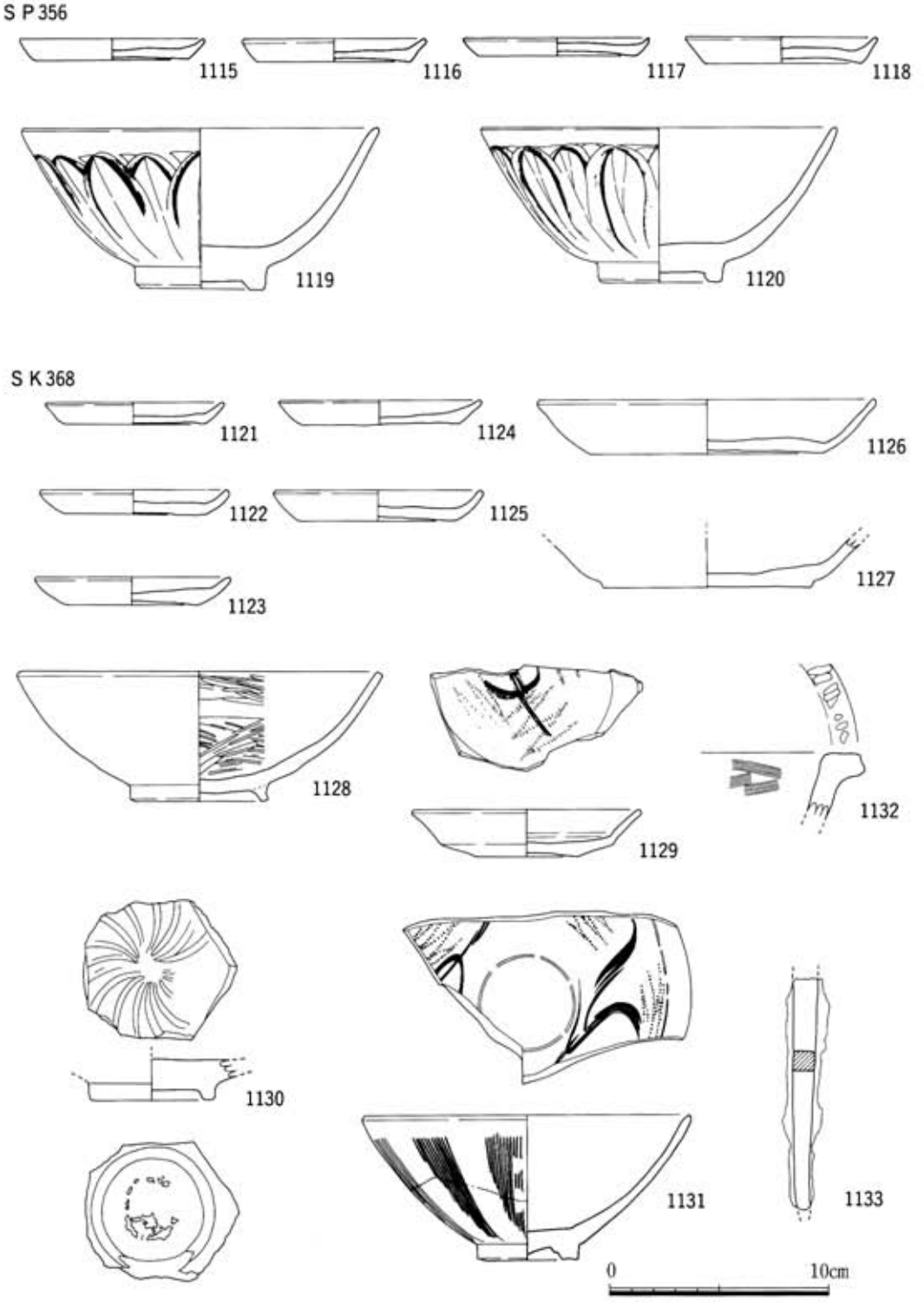



Fig. 185　S P 356土壙墓，S K 368土壙出土遺物実測図（1/3）

ＨＹＳ　ＳＫ371土壙，ＮＹＮ－Ｂ　ＳＥ01井戸跡，ＳＫ20土壙，ＳＤ33溝跡，ＳＥ38井戸跡

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＫ371<br>Fig. 186-1134<br>(94002528) | 土師器<br>杯 | 口径 15.4<br>底径 11.0<br>器高 2.8 | 底部は切り離し時についた凹凸が残る。体部は大きく外傾し，端部が内椀する。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕が，内底部にはナデが残る。 |
| ＳＫ371<br>Fig. 186-1135<br>(94002530) | 土師器<br>杯 | 口径 15.4<br>底径 11.6<br>器高 3.3 | 底部は平らで，体部は外傾し，端部が細くなる。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕が，内底部にはナデが残る。口縁部は強い横ナデを行う。 |
| ＳＫ371<br>Fig. 186-1136<br>(94004085) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>底径 4.8<br>高台 —— | 台形状の低い高台から，体部は内椀ぎみに外上方へ延び，体部上位にて内側に屈曲する。 | 同安窯系青磁椀Ⅰ－１・ｂ類体部内面上位に沈線を，また内面に篦と櫛，外面に櫛で文様を施す。 |
| ＳＥ01<br>Fig. 186-1137<br>(95000154) | 白磁<br>椀 | 口径 16.7<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部にかけ半分程残存する。体部は内椀し，口縁端部が外反する。 | 白磁椀Ⅴ－３・ａ類体部内面上位に沈線を行う。胎土灰白色，釉色。 |
| ＳＫ20<br>Fig. 186-1138<br>(95000123) | 土師器<br>小皿 | 口径 9.7<br>底径 8.1<br>器高 1.3 | 底部は平坦で，体部は短く口縁部にかけ内椀する。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕が見られる。 |
| ＳＫ20<br>Fig. 186-1139<br>(95000124) | 白磁<br>皿 | 口径 10.2<br>底径 7.6<br>器高 1.8 | 底部は平坦で，体部下半で屈折し，外傾する。口縁端部は僅かに玉縁状となる。 | 白磁皿類体部下半屈折部にて釉を削る。胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ20<br>Fig. 186-1140<br>(95000125) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部にかけ外傾し，端部を玉縁状とする。 | 小型の東播系片口鉢体部外面は指頭による凹凸がみられ，口縁部は横ナデを行なう。 |
| ＳＫ20<br>Fig. 186-1141<br>(95000126) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 口縁部にかけ外傾し，端部を玉縁状とする。 | 小型の東播系片口鉢口縁部は横ナデを行なう。 |
| ＳＤ33<br>Fig. 186-1142<br>(90000938) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.9<br>底径 6.5<br>器高 1.4 | 底部は平坦で，体部は短く開き，口縁端部は丸くなる。 | 底部は糸切り離し。口縁部横ナデ。 |
| ＳＤ33<br>Fig. 186-1143<br>(90000936) | 土師器<br>杯 | 口径 16.8<br>底径 10.0<br>器高 3.1 | 底部は口径に対し小さく平底となる。体部は内椀ぎみに開く。 | 底部は糸切り離し。体部横ナデ。 |
| ＳＤ33<br>Fig. 186-1144<br>(90000935) | 瓦器<br>椀 | 口径 16.5<br>高台径 7.2<br>器高 6.0 | 高台は低く幅がある。体部から口縁部にかけ内椀しながら開く。 | 押し出し技法による。体部下半はヘラ削り，上半から口縁部にかけ横ナデ。内面にヘラ当て痕有り。 |
| ＳＤ33<br>Fig. 186-1145<br>(95000155) | 白磁<br>椀 | 口径 ——<br>底径 7.4<br>器高 —— | 高台は厚く，浅く削。内面に沈線状の段を持つ。口縁部は玉縁状になると見られる。 | 白磁椀Ⅳ－１・ａ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＤ33<br>Fig. 186-1146<br>(95000122) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部にかけ外開し，口縁部を玉縁状とする。 | 東播系片口鉢口縁部にかけ横ナデを行う。 |
| ＳＥ38<br>Fig. 186-1147<br>(95000132) | 須恵器<br>片口鉢 | 口径 27.8<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部にかけ外開し，口縁部を摘み撫で玉縁状とする。 | 東播系片口鉢体部は粘土積み上げ時の凹凸が見られる。体部から口縁部にかけ横ナデを行う。 |
| ＳＥ38<br>Fig. 186-1148<br>(95000131) | 土師器<br>土鍋 | 口径 36.8<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部は内椀し，口縁部は外面に粘土帯を貼りつけ，断面台形状とする。 | 体部内面ハケメ，外面ハケの後ナデ消す。口縁部上に押圧縄文を施す。 |

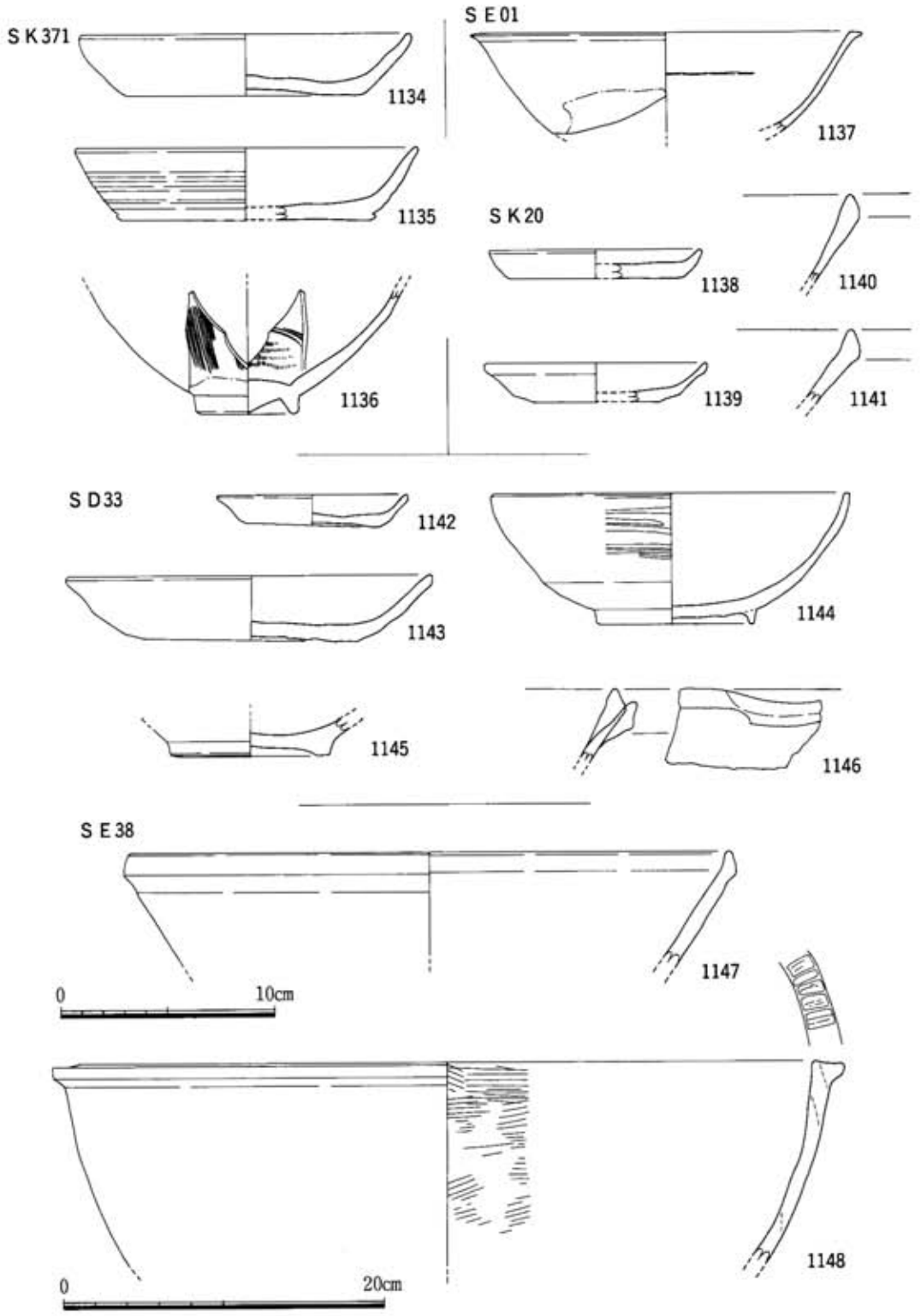



Fig. 186　S K371土壙，S E01井戸跡，S K20土壙，S D33溝跡，S E38井戸跡出土遺物実測図（1/3・1/4）

## ＮＹＮ－Ｂ　ＳＫ52土壙，ＳＤ61溝跡，ＳＫ62・ＳＫ68土壙，ＳＰ69土壙墓

| 遺構番号<br>挿図番号<br>(遺物登録番号) | 種類<br>器種 | 法量<br>(cm) | 形態の特長 | 技法の特長・その他 |
|---|---|---|---|---|
| ＳＫ52<br>Fig. 187-1149<br>(89009637) | 瓦器<br>椀 | 口径 15.2<br>高台径 6.6<br>器高 5.9 | 高台は幅広く安定し，体部は押し出し技法にて整形。器壁が厚く体部は内椀する。 | 底部に切り離しの整形痕と体部内外面に指頭圧痕が見られる。体部内面に筐ミガキが残る。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1150<br>(95000130) | 瓦器<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部の一部が出土。体部は内椀し，口縁端部内側に僅かに段を有す。 | 畿内系和泉型瓦器椀体部内外面とも横ナデ，体部器壁内部は灰白色をしている。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1151<br>(95000129) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 6.1<br>器高 —— | 高台は低く断面四角に削り，底部の器肉が厚い。底部は平坦で，体部は内椀する。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ－２類体部外面に草花文を施す。胎土は灰白色，釉は灰オリーブ色。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1152<br>(95000128) | 青磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 5.7<br>器高 —— | 高台は低く断面四角に削。底部は平坦で，体部は内椀する。 | 龍泉窯系青磁椀Ⅰ類胎土は灰白色，底部下半は焼成不良のためオリーブ黄色。釉は灰オリーブ色。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1153<br>(95000127) | 陶器<br>褐釉壺 | 口径 1.3<br>低径 ——<br>器高 —— | 底部は平坦で，器壁は薄く体部は外上方に延びる。 | 体部内外面に叩き痕が見られる。胎土は灰褐色。体部外面に灰オリーブ色の釉を厚く掛ける。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1154<br>(95000135) | 陶器<br>常滑甕 | 口径 ——<br>低径 ——<br>器高 —— | 体部の上半の一部が出土。 | 体部内面に自然釉が薄く残り，外面に幅2.8cm程の格子叩きを行う。 |
| ＳＤ61<br>Fig. 187-1155<br>(95000134) | 陶器<br>常滑鉢 | 口径 ——<br>底径 12.5<br>器高 —— | 底部から体部の一部が出土。底部は厚く平底で，体部にかけ大きく開く。 | 体部外面は凹凸が残り，内面は使用の為か表面が摺り減っており，捏ね鉢の可能性もある。 |
| ＳＫ62<br>Fig. 187-1156<br>(95000152) | 白磁<br>皿 | 口径 ——<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部にかけ残存する。体部下位に段を持ち，口縁部にかけ大きく開く。 | 白磁皿Ⅵ－１・ｂ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ62<br>Fig. 187-1157<br>(95000151) | 白磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部の一部が残存する。体部は内椀し口縁端部は小さい玉縁状とする。 | 白磁椀Ⅲ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ62<br>Fig. 187-1158<br>(95000100) | 白磁<br>椀 | 口径 ——<br>高台径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部の一部が残存する。体部は内椀し口縁端部は，玉縁状とする。 | 白磁椀Ⅳ類胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ68<br>Fig. 187-1159<br>(92000061) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.8<br>底径 6.6<br>器高 1.6 | 底部は凹凸があり，口縁部は外上方へ開く。 | 底部は糸切り離し。 |
| ＳＫ68<br>Fig. 187-1160<br>(92000062) | 白磁<br>皿 | 口径 9.8<br>底径 5.9<br>器高 2.0 | 底部は僅かに凹面となり，体部は内椀ぎみに外上方へ開く。 | 白磁皿Ⅸ－１・ｂ全面施釉後口縁端部を口禿とする。胎土，釉とも灰白色。 |
| ＳＫ68<br>Fig. 187-1161<br>(95000156) | 瓦質土器<br>捏鉢 | 口径 23.2<br>底径 ——<br>器高 —— | 体部から口縁部の一部が出土した。体部は外上方に延び，口縁部は玉縁状に肥厚させる。 | 軟質な瓦器。内面は横，斜め方向の細かいハケメ。外面は指頭による整形の後，荒くハケメを行う。 |
| ＳＫ68<br>Fig. 187-1162<br>(92000063) | 土製品<br>土垂 | 長さ 6.0<br>幅 1.1<br>重さ 6.5 | 径0.8～1.1cmで両端が小さくなる円筒状をしており，真中に0.3cm程の穴を開ける。 | 棒に粘土を巻き付け，手造り整形している。 |
| ＳＰ69<br>Fig. 187-1163<br>(92000340) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.5<br>底径 7.2<br>器高 1.4 | 底部は平坦で，体部は短く外上方に開く。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕がある。 |
| ＳＰ69<br>Fig. 187-1164<br>(92000338) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.5<br>底径 7.2<br>器高 1.3 | 底部は平坦で，体部は短く外上方に開く。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕がある。 |
| ＳＰ69<br>Fig. 187-1165<br>(92000339) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.7<br>底径 7.3<br>器高 1.3 | 底部は凹凸があり，体部は短く外上方へ開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕が，また内底部にナデがある。 |
| ＳＰ69<br>Fig. 187-1166<br>(92000337) | 土師器<br>小皿 | 口径 8.5<br>底径 7.4<br>器高 1.6 | 片方が歪む。体部は短く，外上方に開く。 | 底部は糸切り離しで，板状圧痕がある。 |
| ＳＰ69<br>Fig. 187-1167<br>(92000341) | 土師器<br>杯 | 口径 13.6<br>底径 10.4<br>器高 2.9 | 底部は平坦で，体部は内椀気味に外上方に開く。 | 底部は糸切り離しで板状圧痕が，また内底部にナデがある。 |

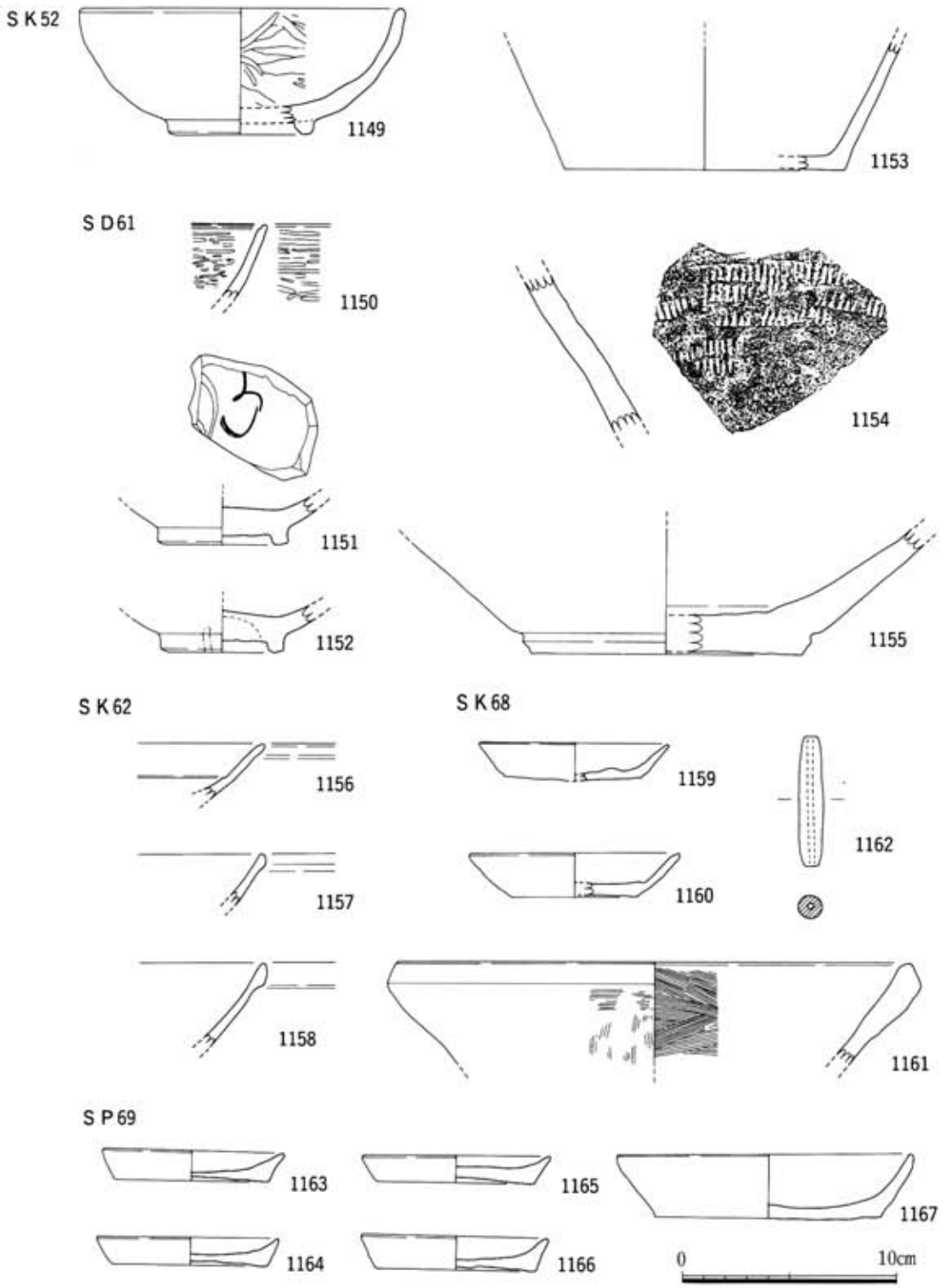



Fig. 187　SK52土壙，SD61溝跡，SK62・68土壙，SP69土壙墓出土遺物実測図（1/3）

の13世紀前後である。

室町時代の出土遺物としては，ＳＥ245，ＳＤ329，ＳＫ68などがあるが，いづれも出土量が少ない。こうした中，平安時代後期から中世にかけ大量の遺物が出土したＳＤ335から室町時代の土器が出土している。1107～1110（Fig. 184）の土鍋，釜，備前擂鉢，周防型足鍋などである。1109は備前擂鉢のⅣ期[4]とされるもの，また1110の周防型足鍋はⅣ型式[5]でいずれも15世紀である。こうした備前，周防型土器類についても県内からの出土例が度々報告されるようになった。

またＳＤ329から枢府系白磁（Fig. 181-1061）が出土している。県内からの枢府系白磁の出土は北浦遺跡[6]，伊万里市山ン寺遺跡[6]がある。

このほか，ＳＤ187から越州窯系青磁椀（Fig. 179-1021）が，ＳＤ335から緑釉陶器（Fig. 184-1102）が出土している。平安時代前半の所産であり，また混入ではあるが出土例が少なく報告しておきたい。

このように東山田一本杉遺跡の平安時代後葉から鎌倉時代の遺物は，出土傾向は他の同時代の遺跡とさほど変わらず，逆に大和町に所在する同時代の遺跡からすれば，少ない感じがするが，これは発掘調査区域が中世期の遺構の中心ではなく，周辺部の調査に終わったということに他ならない。とは言え，在地産の土師器に混じり多量の輸入陶磁器や国産の搬入土器が見られることは，中世における交易品の豊富さと流通量の広域化が改めて認識される。

## ＜註＞

(1) 輸入陶磁器類の分類は，横田賢次郎・森田　勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』九州歴史資料館　による。

(2) 堤　安信　『余江西二本松遺跡』1990　千代田町教育委員会　に詳しい。

(3) 註(1)に同じ。

(4) 間壁忠彦・間壁葭子　1966「備前焼研究ノート１－備前焼の成立」『倉敷考古館研究集報１』倉敷考古館

間壁忠彦　1991『備前焼』考古学ライブラリー60　ニュー・サイエンス社

(5) 岩崎仁志　1988「防長地域の足鍋について」『山口考古第17号』山口考古学会

なお，県内の土鍋関係については徳永貞紹　1990「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』日本中世土器研究会　に詳しい。

(6) 西田和己　『北浦遺跡』小城町教育委員会　1982

(7) 森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究№２』日本貿易陶磁研究会

# 今 山 八 幡 原 遺 跡

遺跡名：今山八幡原遺跡（略号ＩＨＢ）
所在地：佐賀郡大和町大字久留間字今山八幡原

# 今山八幡原遺跡

## 1．遺跡の概要

遺跡は天山山系の山麓部にあたる標高22～23mの緩斜面上に位置する（Fig. 1）。北方約500mには県下最大の前方後円墳船塚があり，また南側約200mには弥生前期～中期の甕棺墓地を中心とする七ヶ瀬遺跡がある。ただし調査区近辺では，遺跡の密度は比較的うすい。

調査の結果，検出された遺構は，平安時代でも9世紀代を中心とする時期の竪穴住居跡1棟，土壙1基，井戸跡7基，その他溝跡2条である（Fig. 2）。各遺構の分布は比較的まばらである。集落の一部にあたると見られるが，削平が著しいこともあって，竪穴1棟以外は掘立柱建物等の存在は明らかでない。調査区全体に近世以降の溝が縦横に走っていた。

遺物は土器類を中心として，井戸跡からの出土が多く，それぞれまとまりある貴重な一括資料を提供した。

Fig. 1　今山八幡原遺跡周辺地形図

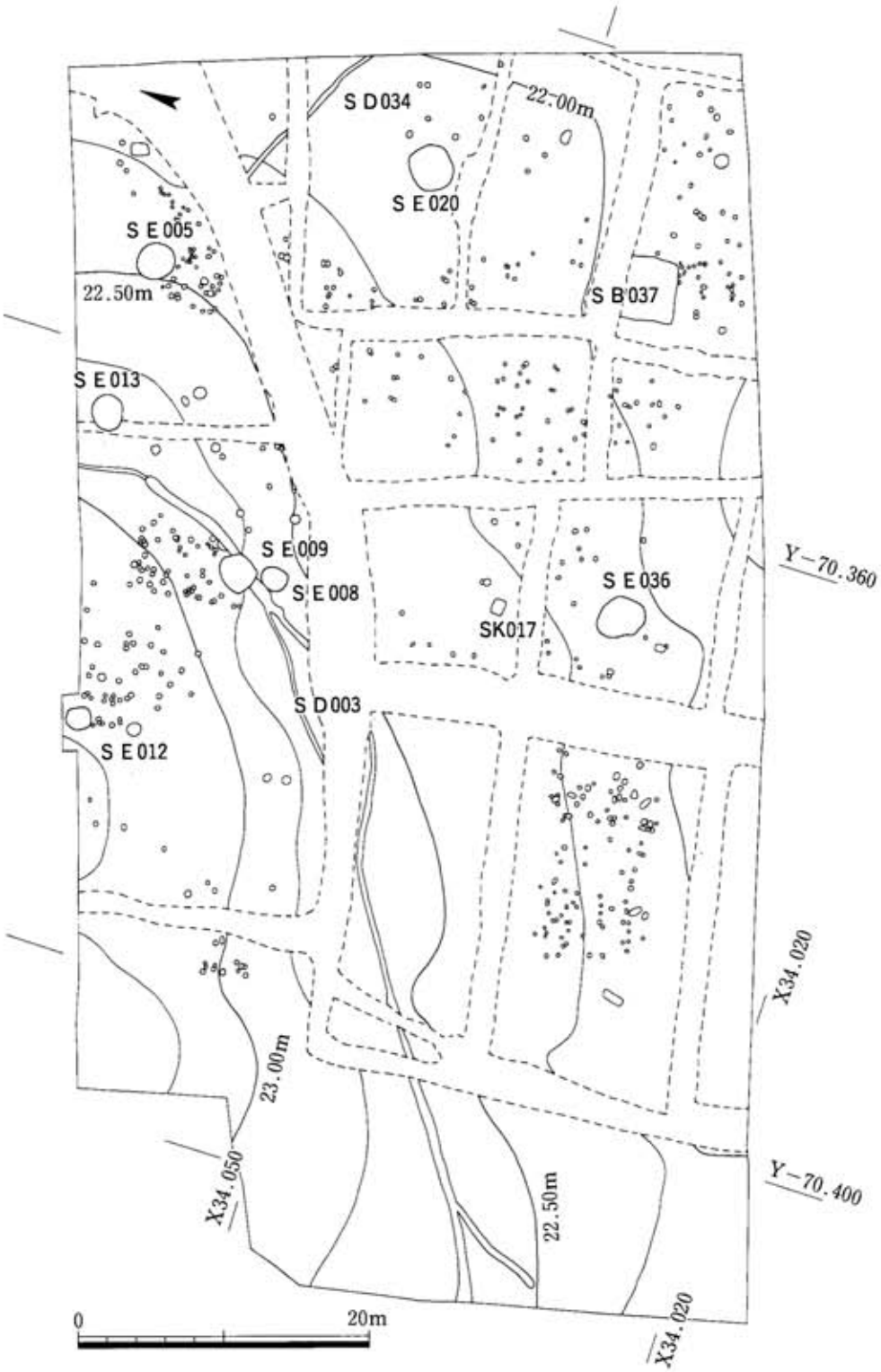



Fig. 2　今山八幡原遺跡遺構配置図（1/400）

# 2. 遺構と遺物

## (1) 竪穴住居跡

調査区の南東部で１棟検出した。

### ＳＢ037住居跡（Fig. 3）

北壁部分を近世の溝で切られているので全容は明らかでないが，主柱穴のあり方から考えると１辺が4.5m程の方形の住居跡となるであろう。壁高は，最も残りのよいところで0.1mである。主柱穴はＰ１～Ｐ４の４本柱である。北側にカマドが付設されていた可能性はあるが，荒らされており不明である。削平が著しく遺物は出土しておらず，時期については不明であるが，平安期頃と推定する。

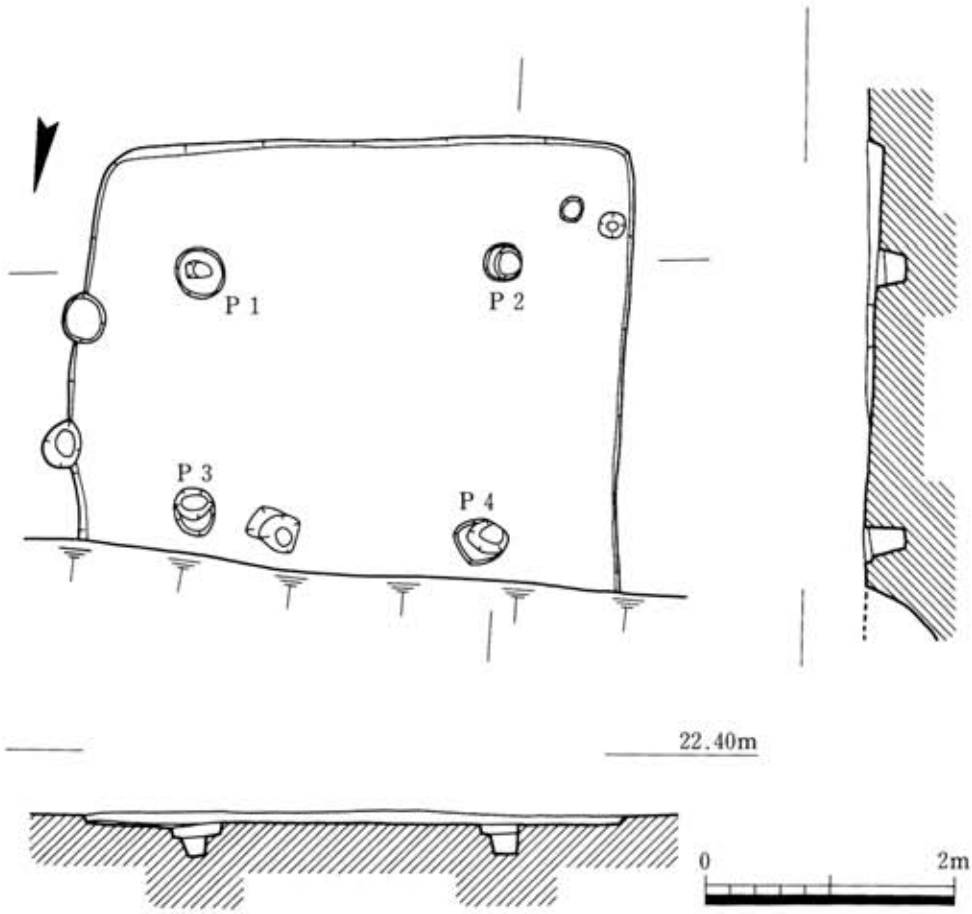



Fig. 3　ＳＢ037竪穴住居跡（1/60）

## (2) 土壙

調査区の中央部で1基検出した。

### SK017土壙（Fig. 4）

東西1.1m，南北0.9mの隅丸長方形を呈する。深さは0.2m程で，壁は直立気味である。西側に向って徐々に深さをますが，床面はほぼ平坦である。埋土中より土師器の皿・坏等が出土した。

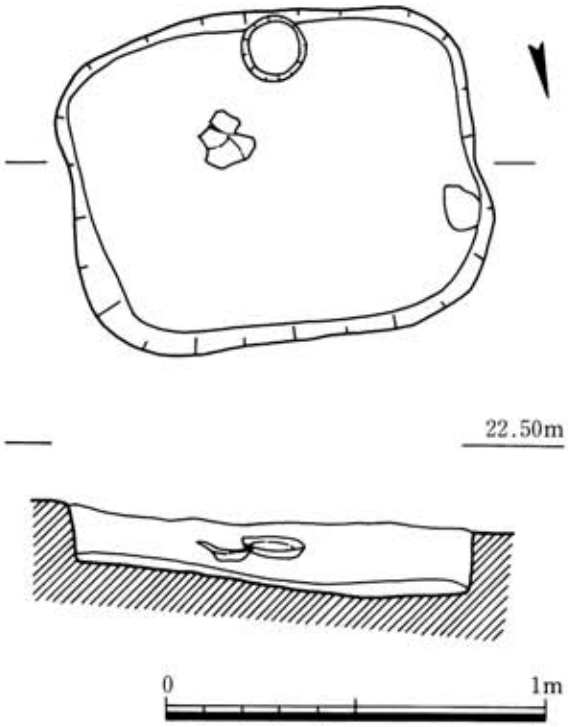



Fig. 4　SK017土壙（1/20）

### 出土土器（Fig. 5）

**土師器**

1は体部がわずかに内湾しながら開くタイプの坏で，口径15.1cm・器高4.5cm・底径8.0cm。大型のものである。内面はヨコナデ。外面は，口縁部がヨコナデ，以下底部までヘラケズリ。2は口径16.1cmで小型の皿である。体部・口縁部はヨコナデ，底部の調整は磨滅のため不明である。3は底部片で内面はヨコナデし，外面はヘラ削りしている。

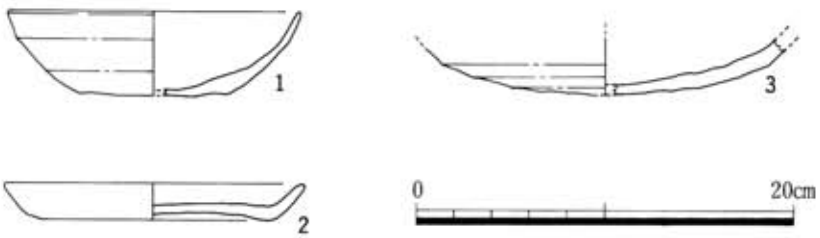



Fig. 5　SK017土壙出土土器（1/4）

## (3) 井戸跡

7基の井戸跡を検出した。平面形はほぼ円形で，掘方には，上面が外開きとなるものと，二段掘りとなる二形態がある。規模は直径2～3mである。いずれの井戸跡も湧水が激しく，底面まで完掘できなかった。出土遺物は豊富で，特にSE020井戸跡，SE036井戸跡からは多量の土師器甕・坏・埦が出土している。

### SE005井戸跡（Fig. 6）

調査区北東に位置する。上面の平面形はほぼ円形で，直径2.6mを測る。深さ1.0m程掘り下げたが，湧水が激しく完掘できなかった。掘り方は上面が外開きとなり，途中に段を設けた二段掘りとなる。土師器の坏・皿・埦・蓋・甕と須恵器の甕片が出土した。

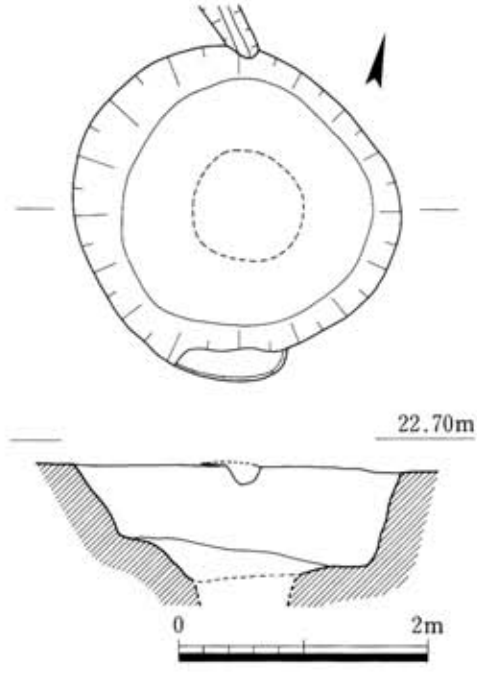



Fig. 6　SE005井戸跡（1/60）

### 出土土器（Fig. 7）

#### 土師器

1～3は平坦な底部に，直線的に外上方へ開く体部がつくものである。口径12.5～13.6cm，器高3.2～3.7cm，底径7.3～7.6cm。器面調整は，体部内外面がヨコナデ，内底部はヨコナデ，ナデ，外底面はヘラ切り離し，ナデで，4の底部には板目痕を有する。7は平坦で広い底部に短い体部がつく皿である。それに対し8は坏のつぶれたような形態のもので，器高が低いので皿とした。器面調整は体部内外面，内底部がヨコナデで外底部にヘラケズリを施す。13～15は甕で，いずれも底部の形態は不明である。復原口径は25.4～26.9cm。器面調整は，胴部内面ヘラケズリ，外面ハケ目。口縁部はヨコナデであるが内面にヨコ方向のハケ目が入る。15は小型の甕で内外面ヨコナデである。

#### 須恵器

16～17は須恵器の甕である。復原口径は16が21.4cm，17が23.8cm。頸部から口縁部にかけ外反しながら開く。器面調整は口頸部内外面ロクロナデ，胴部内面には同心円文叩き，胴部外面は格子目叩きを施す。

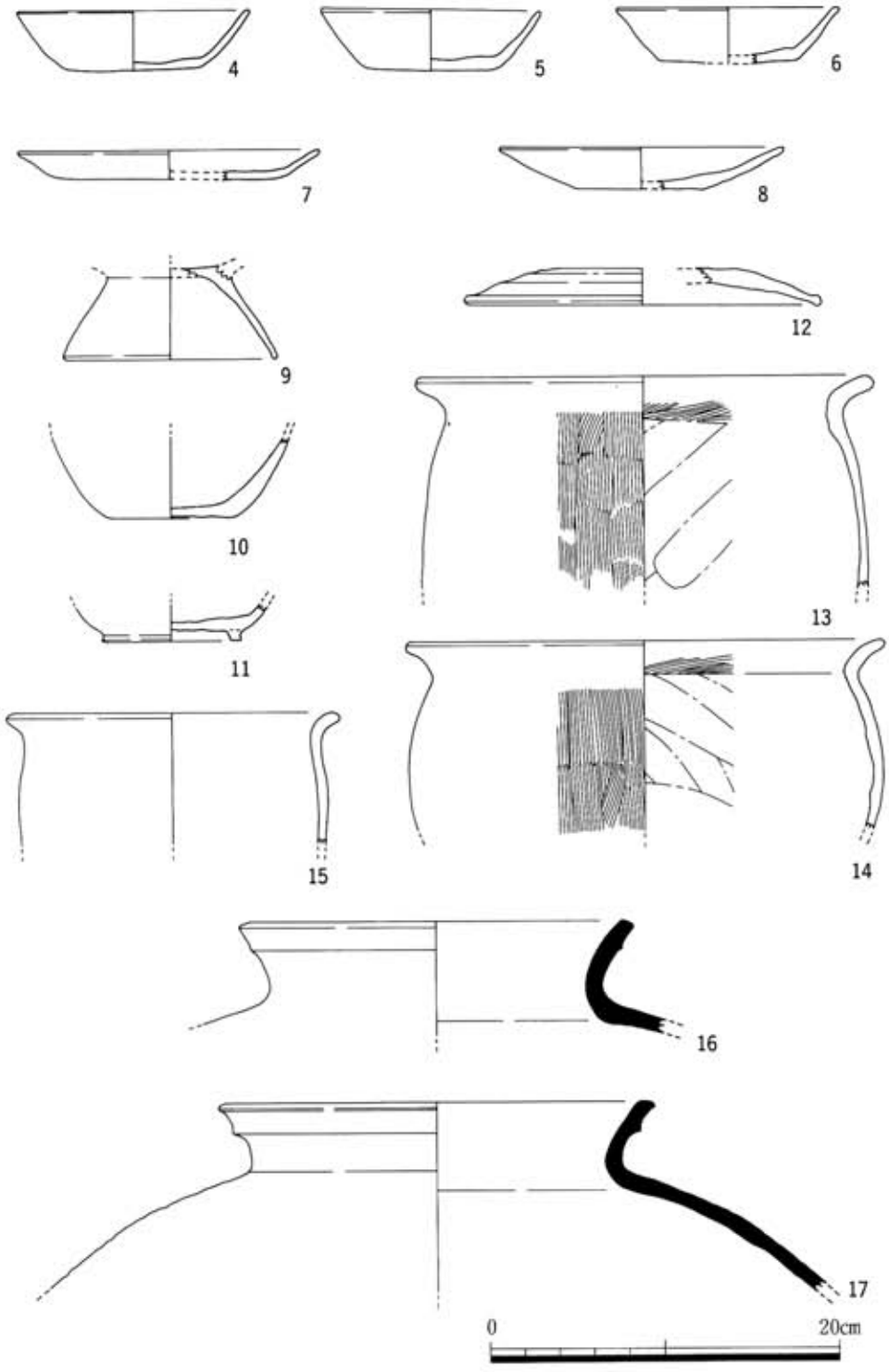



Fig. 7　ＳＥ005井戸跡出土土器（1/4）

**ＳＥ008井戸跡**（Fig. 8）

調査区北側に位置する。ＳＥ008井戸跡の北側に隣接してＳＥ009井戸跡が存在する。ＳＥ008井戸跡は当遺跡で検出された井戸跡の中で最も小さく，上面の平面形はほぼ円形で，直径は1.8mを測る。深さ1.0m程掘り下げたが，湧水が激しく底面まで達することができなかった。掘り方は立ち上りが急で直線的である。出土遺物には，土師器の坏・皿・甕と須恵器の坏片などがあるが，他の井戸跡の出土遺物の量と比べると少ない方である。

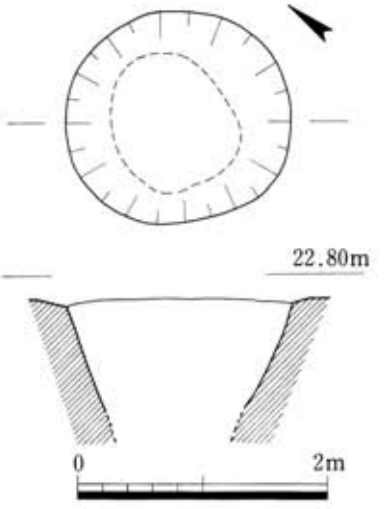



Fig. 8　ＳＥ008井戸跡（1/60）

**出土土器**（Fig. 9）

**土師器**

19は埋土下層出土の坏で，口径13.2cm，器高3.9cm，底径7.9cm。器面調整は体部がヨコナデ。内底面は磨滅の為不明で，外底面にヘラ切り離し痕が残る。20は短い体部をもつ皿で，復原口径20.0cm，器高1.8cm。体部はヨコナデ，内底面ナデ，外底面はヘラケズリを施す。21～23は甕で，21は小型の甕である。胴は張らず，口縁部は弓形状に外反する。薄手で作りも丁寧である。器面調整は内外面ヨコナデを施す。口径13.1cm。21・

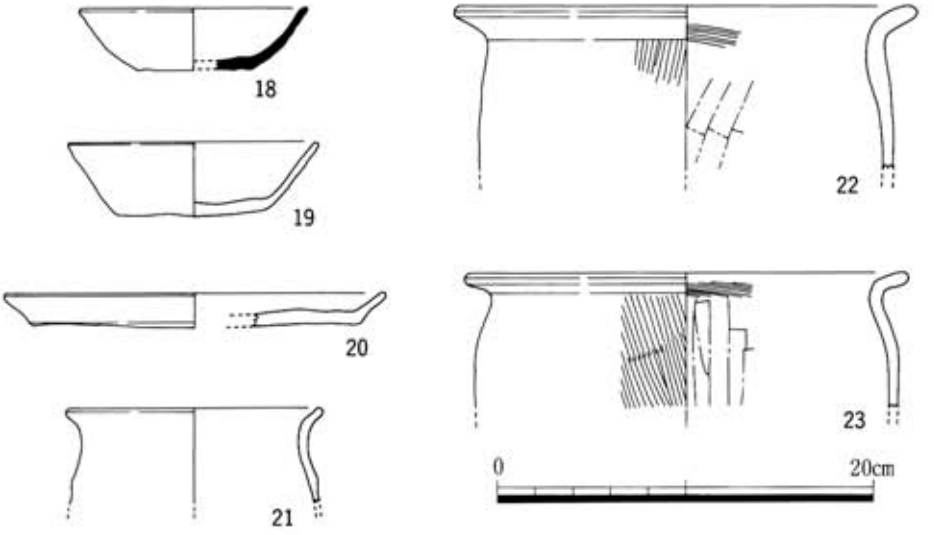



Fig. 9　ＳＥ008井戸跡出土土器（1/4）

23はそれぞれ口径24.0cm，23.0cm。いずれも胴部は直立気味で，口縁は外反して横方向に折れる。器面調整は，胴部内面ヘラケズリ，外面ハケ目。口縁部内面は横方向のハケ目とヨコナデ，外面はヨコナデである。

**須恵器**

埋土下層より18の坏が出土した。復原口径11.7cm，器高3.3cm，底径6.1cm。体部はやや内湾気味に立ち上る。調整はロクロナデである。

**ＳＥ009井戸跡**（Fig. 10）

調査区北側に位置し，ＳＥ008井戸跡と隣接する。平面形はほぼ円形で，直径は上面で2.5mを測る。掘り方は外開きであるが，上方に行くに従って垂直に近い角度となる。上層において遺物がまとまって出土したので図化した。遺物は土師器がほとんどで，坏・皿・埦・鍋・鉢が出土している。須恵器は小片が数点出ている。他には内黒の埦片が１点出土している。

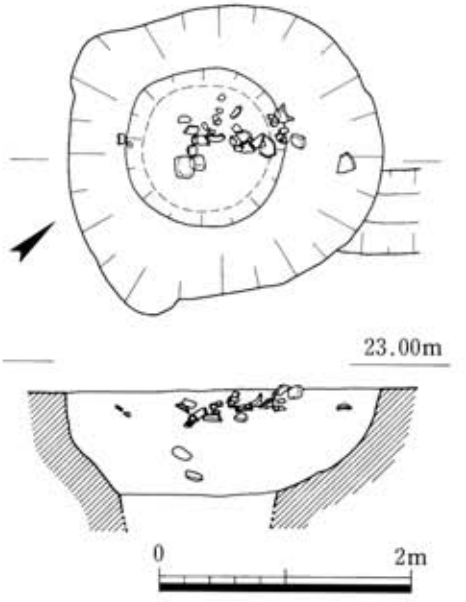



Fig. 10　ＳＥ009井戸跡（1/60）

**出土土器**（Fig. 11）

**土師器**

24は外上方へ直線的に開く体部をもつ坏で復原口径12.6cm・器高3.2cm・底径7.1cm。薄手である。25・26は皿でいずれも小形である。体部は短く外反している。27～30は椀。27・28は底部端に高台を貼り付け，体部は直線的に開く埦の類である。27は復原口径14.4cm・器高5.6cm。体部下位にヘラケズリを施す。30は鉢の口縁部で復原口径は，19.0cmである。29・30は胎土など似ている点が多いので同一個体の可能性もある。31は二次加熱の為に底部の剝離が激しく，全体に煤が付着していることから鍋とする。丸味のある底部から出た胴部は直立し，口縁部で外反して横方向に折れる。口径19.9cm，器高10.6cm。32は胎土も良く，作りも丁寧である。内面に縦方向のヘラミガキが施されている。鉄鉢形を呈する。33は内面を黒色に燻した黒色土器である。体部を若干内湾させ，内面に縦方向の細いヘラミガキを施している。当遺跡では黒色土器はＳＥ020井戸跡からもう１点出土している。

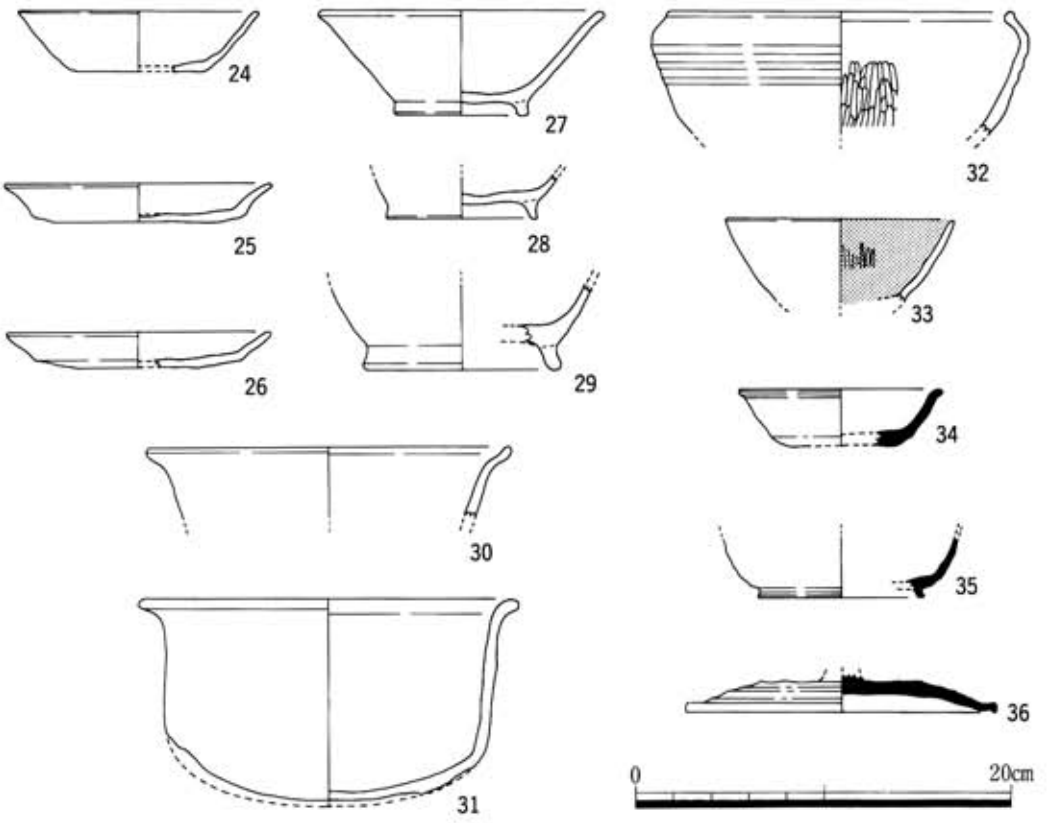



Fig. 11　ＳＥ009井戸跡出土土器（1/4）

### 須恵器

34～36が須恵器である。34は坏の小片で，口縁先端を外側へ短く折り曲げている。35は幅の狭い高台を底部端に貼り付けている。36は坏蓋であるが，胎土も大きな砂粒を含み，ヘラケズリも荒く，焼きも悪い。口径16.5cm。

### ＳＥ012井戸跡（Fig. 13）

調査区北端に位置する。平面形はほぼ円形を呈し，直径は上面で2.0mを測る。掘り方は２段掘りになっている。下段は中心から南東よりのところに円柱状の掘り込みであり，上段は南東に傾いたテラス状で，壁の立ち上りは垂直または袋状となる。深さ1.2mのところまで掘り下げたが底面にはいたらなかった。ＳＥ012井戸跡出土の遺物量は多い方ではない。土師器の坏・皿・埦・甕と須恵器の蓋・皿・高台付の坏片等が出土した。

### 出土土器（Fig. 13）

**土師器**

37～45が土師器である。37・38は坏で埋土下層の出土である。38は体部の開きが大きいために器高が低くなっている。39も下層出土の皿で底部と体部の境は明瞭でなく，体部はわずかに内湾する。外底面は不定方向にハケ目調整をおこなっている。復原口径は16.3cm。40～43は埦で，体部が直線的に開くものと，内湾しながら開くものとがある。いずれも最下層出土のものである。40はヨコナデ調整で外底部に板目痕が残り，41は内面ヨコナデ，体部外面下位をヘラケズリし，外底部はヘラ切り離しのままである。43は外底部にヘラ記号を有する。44，45は甕で45は小型の甕に共通の内外面ヨコナデ調整であるのに対し，44は内面ヘラケズリ，外面ハケ目である。

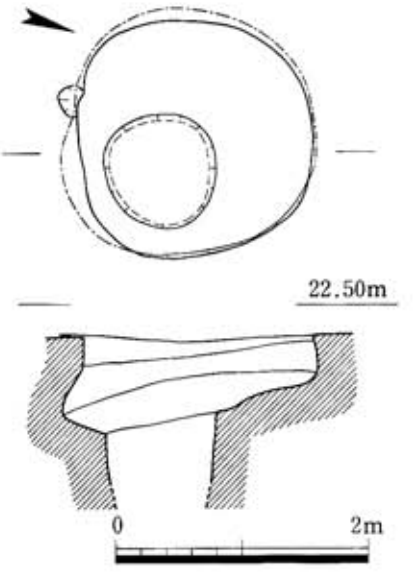



Fig. 12　S E012井戸跡（1/60）

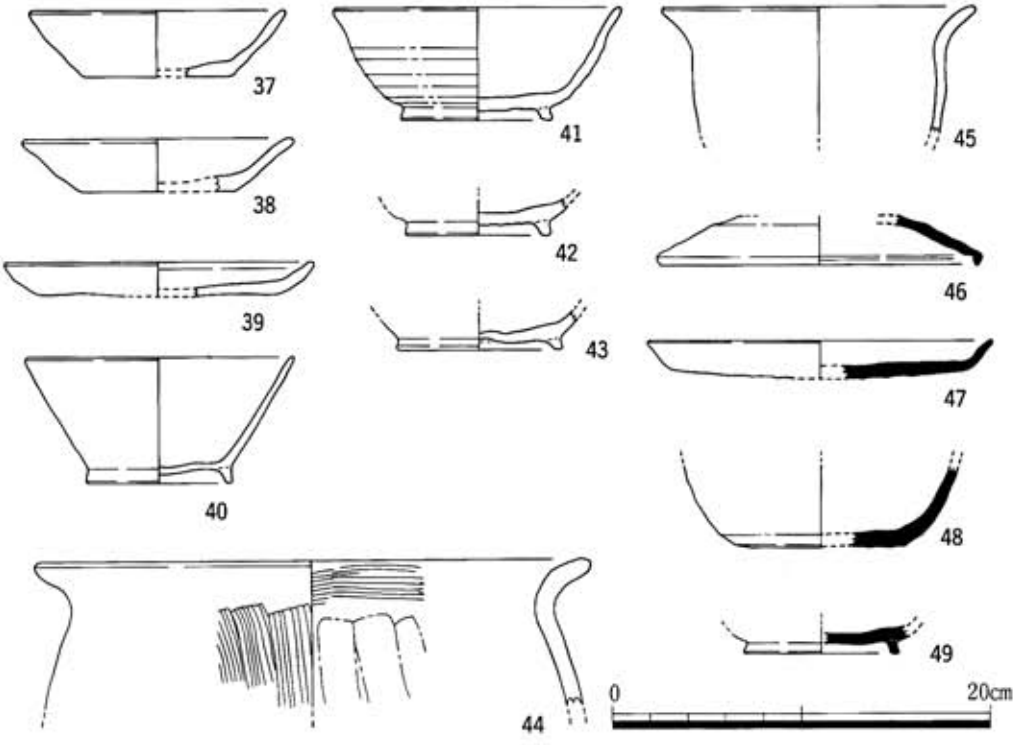



Fig. 13　S E012井戸跡出土土器（1/4）

### 須恵器

46～49が須恵器である。46は坏蓋で口縁部のつくりは先端部を内側へ折り曲げた程度の簡単なものである。47の皿は埋土下層からの出土である。復原口径18.0cm，器高2.0cm。49は高台付の坏の底部で，底部端からやや開いた高台を貼付している。外底面に墨が付着している。

### ＳＥ013井戸跡（Fig. 15）

調査区北側やや東よりに位置し，近世の溝に一部切られている。平面形はほぼ円形で直径は2.6mである。約１m掘り下げたが湧水のためそれ以上掘り下げることができなかった。底面はもっと深いものと考える。掘り方は外開きである。遺物は上層から下層にいたるまで出土したが，出土量は少ない方である。土師器の坏・皿・埦・甕と須恵器の甕片が出土した。

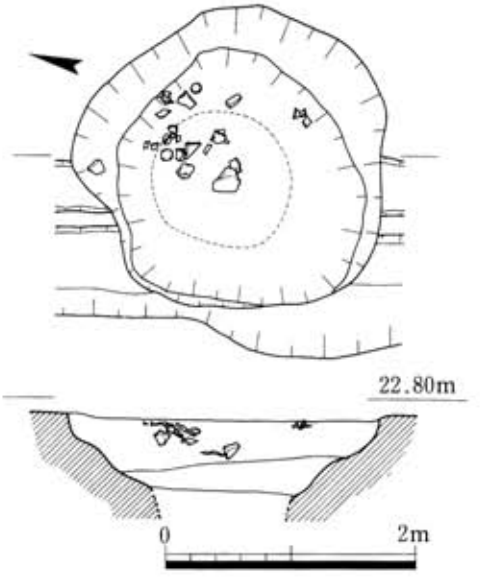



Fig. 14　ＳＥ013井戸跡（1/60）

### 出土土器（Fig. 16）

### 土師器

50～55が土師器である。全て埋土上層から出土している。50・51は坏で50の器面には油

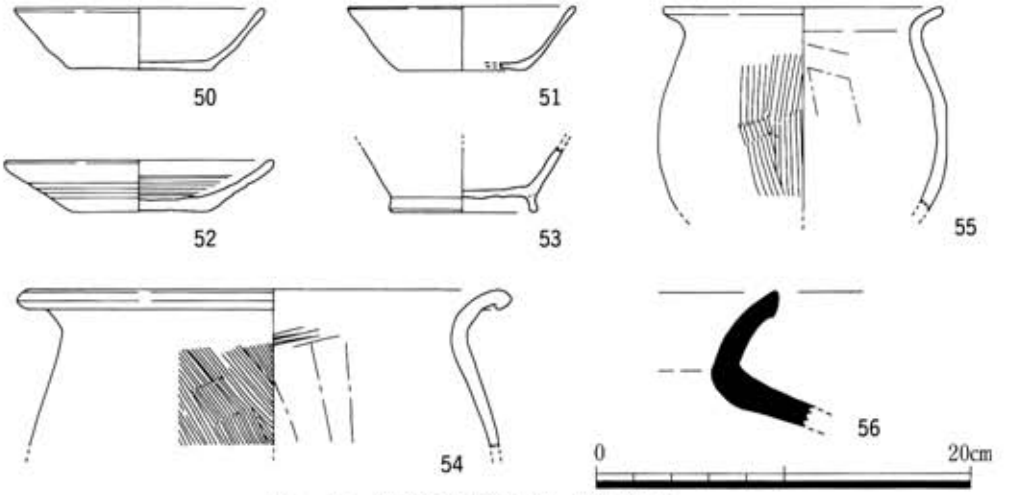



Fig. 15　ＳＥ013井戸跡出土土器（1/4）

煤が付着しており，灯火器として使用されたものと考えられる。口径13.4cm，器高3.2cm。52は体部の内外面に数段の沈線を有する。口径13.8cm・器高2.8cm。53は体部が直線的に開くタイプの埦である。外底面はヘラキリハナシ後に板目痕が残る。54・55は甕で，54の口縁部は「く」の字形を呈し，端部は下方に肥厚し段ができる。55は球形に膨む胴部を有する小形の甕である。器面調整は大形の甕と同様，胴部内面ヘラケズリ，外面ハケ目，口縁部ヨコナデである。

**須恵器**

須恵器は小片ばかりが数点出土している。ここでは埋土下層出土の甕の口縁部片のみ図示した。56，口頸部と肩部の一部が残存するだけである。口縁端部はややシャープさに欠けた断面三角形となる。焼成は若干焼きが甘く灰色を呈する。

**ＳＥ020井戸跡**（Fig. 16）

調査区西側に位置する。上面形はほぼ円形で，直径3.4mを測る。掘り方は上面が外開き，下面は円柱状となるようであるが，湧水のため完掘できなかった。深さ20～80cmのところで多量の土器の集中が見られた。土器類では土師器の坏・皿・埦のほかに全体の器形を知ることのできる甕が多数含まれる。また下層からは墨書土器と埋土中出土の黒色土器埦が出土している。石製品では砥石１点が出土した。当遺跡では，ＳＥ036井戸跡と並んで遺物の出土量が多い。

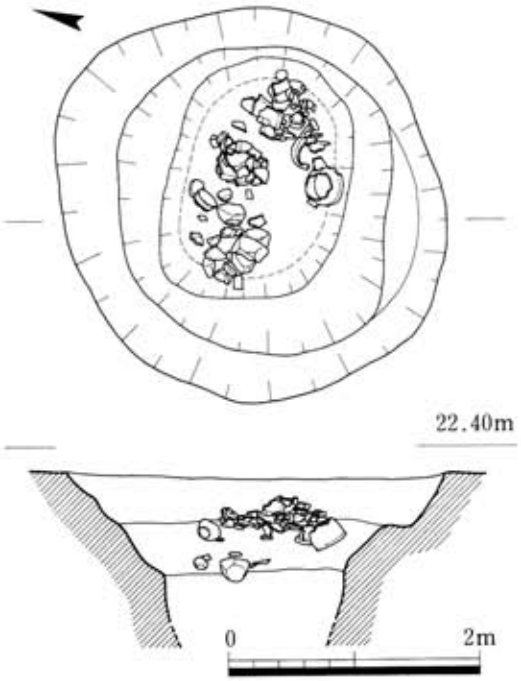



Fig. 16　ＳＥ020井戸跡（1/60）

**出土土器**（Fig. 17～Fig. 18）

**土師器**

57～62が土師器坏である。57・58は最下層からの出土で，他は埋土中の出土である。法量をみると，口径は12.2～13.4cmで，平均値12.7cm。器高は3.1～3.8cmで，平均値3.4cm。底径は7.0～7.6cm，平均値7.3cmとなる。体部が外反するものはなく，いずれも若干内湾気味か直線的に開くものばかりである。外底部はヘラ切り離し後板目痕が残るが，57だけが体部下位から外底部をヘラケズリしている。57～59の焼成は良好で硬質なため器面調整がよく観察できる。63～68は土師器皿である。口径13.0～16.0cm，器高1.4～2.8cm，底径8.0～11.6cmを測る。63～65は埋土中の出土で，66～68は最下層出土である。体部の長さをみると63～65は，口径に対し体

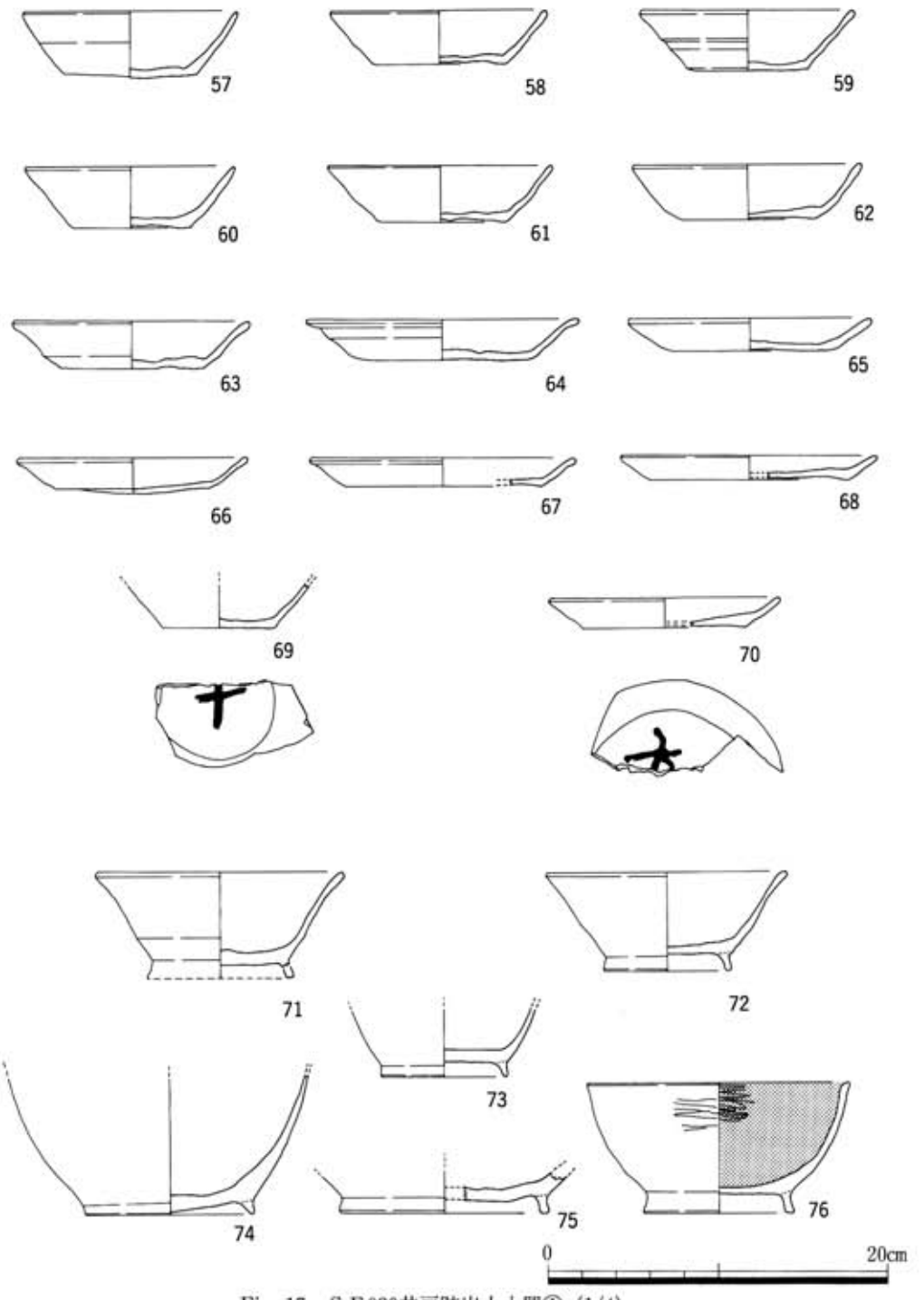



Fig. 17　S E020井戸跡出土土器① (1/4)

部が長めであり，66～68は短い。調整については外底面ヘラ切り離しを行い，板目痕が残るものが多い。69・70は墨書土器で，いずれも最下層からの出土である。ともに欠損しており，書かれてある文字または記号の全体がわかるものではないが，69については坏の外底部に「＋」，70については皿の外底部に「大」と部分的に読める墨書がある。69は底径6.6cm。外底面ヘラ切り離し後ナデ。70は復原口径12.8cm・器高1.6cm・底径9.0cm。外底面ヘラ切り離し後ナデ。71～76は土師器塊である。71～73の口径14cm程度のものと，74・75の大形品とがある。71・72の体部は直線的に外上方へ開き，先端部で若干外反する。外底面はヘラ切りハナシ後ナデており，72は板目痕が残る。76は黒色土器で内面を燻している。埋土中からの出土で，底部と体部～口縁部の1/4が残存するものである。体部は内湾しながら立ち上り，口縁先端部で小さく外反する。外底部は平坦で，高台はやや高めであるが安定した感じをうける。復原口径15.4cm・器高7.6cm。内面ヘラ磨き，体部外面上位ヘラ磨き，下位は磨滅のため調整不明。外底面はナデている。

甕は，全部で11個体を図示した。口径が25～30cm程のもの（77～84）と，13～20cm程の中，小型のもの（85～87）がある。底部の形態がわかるのは80・81・84で，いずれも球形の丸底となる。また，ＳＥ020井戸跡出土の甕の底部片をみても平底となる可能性のあるものは見あたらないため，他の甕も80・81同様球形の丸底となるものと考える。胴部については，やや張りがあり球形のもの（77・78・80・82・84）と，若干内傾はするものの直立気味のもの（79・81・83）がある。口縁部は，83の横方向に水平に折曲するものをのぞいてどれも「く」の字型に外反する。頸部内面の稜線は84に認められるだけである。口縁先端部の形態は丸味を帯びたもの（77，79，81，83）や，下方に巻き込むかたちのもの（82），下端を横方向につまみ出したかたちのもの（78）など全体に雑な感じをうけるが，80・84については先端が面取りされシャープなつくりである。器面調整は胴部内面ヘラケズリ，外面ハケ目調整。口頸部については，内面に横方向のハケ目を残すものと，ヨコナデしたものとがある。外面はヨコナデで，ハケ目を施す道具痕が残るものもある。80・81・84は内底面に指頭痕が残る。85～87は中・小型の甕である。85・86については形態，調整など前述の甕と共通するところが多い。口縁は短く外反する。87は小型の甕であり，復原口径13.0cmとしたが，小片のためおおよその値である。内外面ヨコナデである。このタイプの甕はＳＥ005・008・036・井戸跡でも出土している。

**須恵器**

88～90が須恵器である。88は最下層からの出土で全体の1/2程度残存する。底部は平坦で体部は若干内湾気味である。復原口径12.2cm・器高4.0cm。外底部は回転ヘラ切り未調整である。90は壺の肩部～頸部片である。最大胴部径11.8cmである。

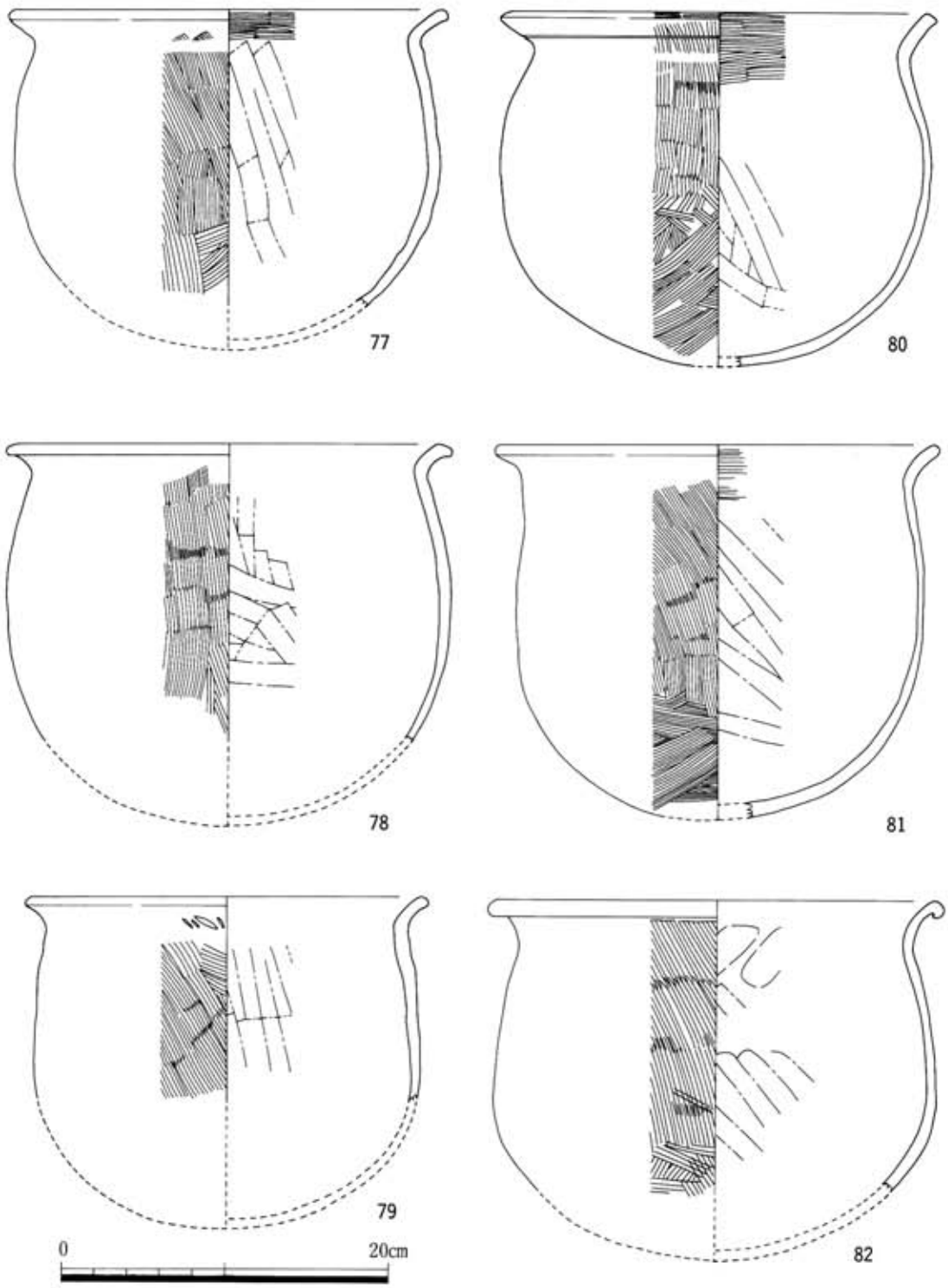



Fig. 18　S E020井戸跡出土土器②（1/4）

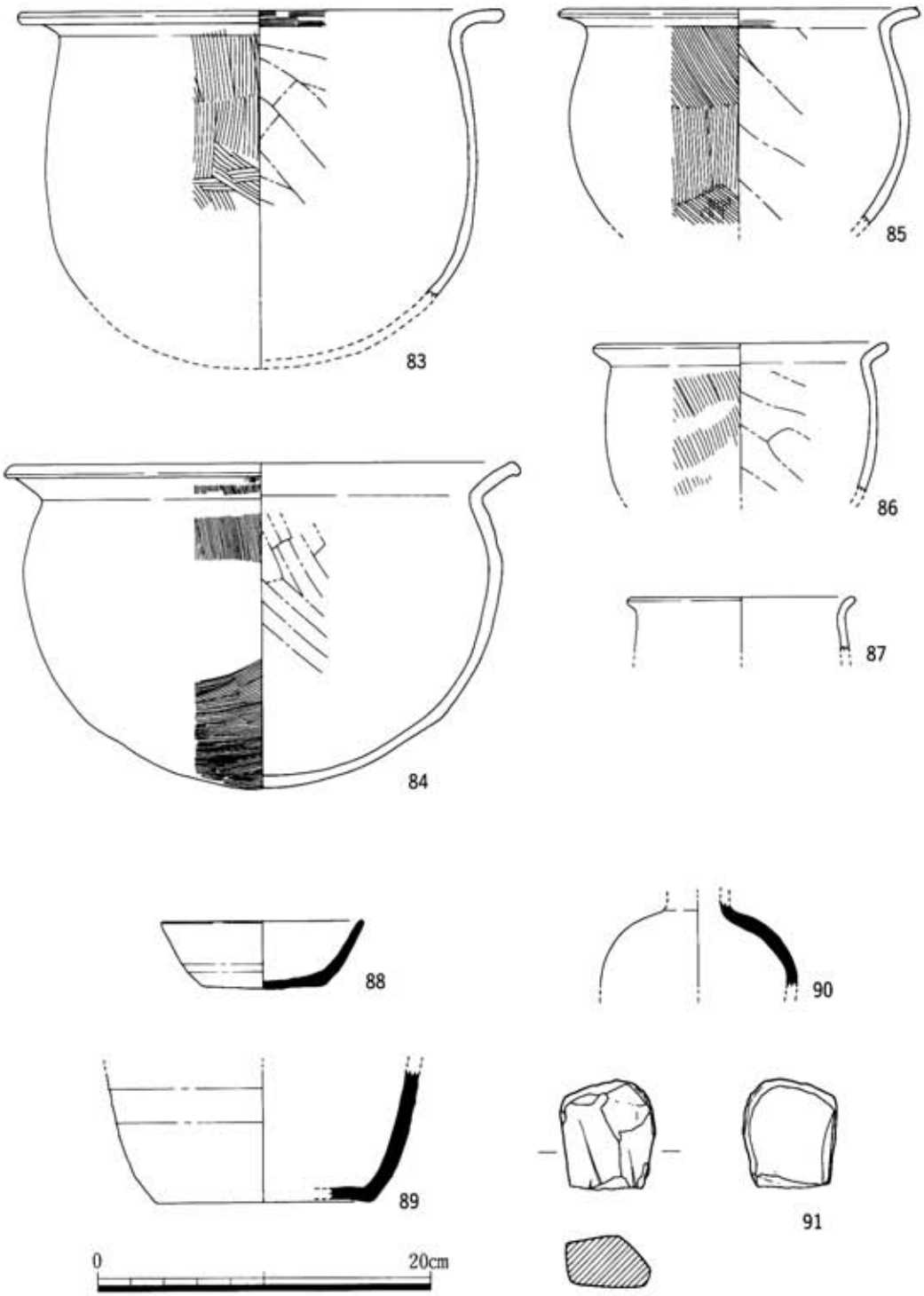



Fig. 19　ＳＥ020井戸跡出土土器③（1/4）

**石製品**

埋土中より砥石91が１点出土した。石材は砂岩である。携帯砥石・仕上砥と考えた。全部で５面の研砥面を持ち，そのうちの２面に条痕が残る。途中で折れているが現存長は6.5cm。最大幅5.5cm・厚さ3.0cm。

**ＳＥ036井戸跡**（Fig. 20）

調査区南側中央部に位置する。他の井戸跡と離れ単独で存在している。平面形は楕円形で，長径3.40m，短径2.40mを測る。掘り方は上面が外開きとなるが西側部分において直立気味に立ち上る。深さ1.3m程掘り下げたが底面に達せず，湧水のためそれ以上掘り下げることができなかった。遺物は埋土の上層から下層まで満遍なく出土したが，深さ0.8～1.0mのところで，土師器が比較的まとまって出土した。出土遺物の量はＳＥ020井戸跡と並んで多く，器種については，土師器坏・埦・甕が多い。須恵器は高台付坏・甕・壷・瓶片が出土している。石製品では砥石が２点，木製品としては，曲物の底板２枚分が出土した。

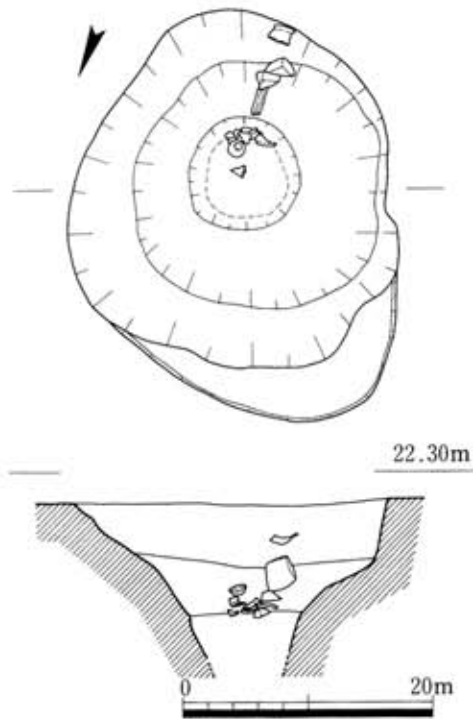



Fig. 20　ＳＥ036井戸跡（1/60）

**出土土器**（Fig. 22）

**土師器**

92～98が土師器坏である。いずれも下層及び最下層出土で，器高の高い98を除くと口径11.6～12.5cm，器高3.3～4.0cm，底径6.7～7.4cmである。平均値は口径12.2cm，器高3.6cm，底径7.1cmとなる。外底面に板目痕がつくものが半数ある。92・96以外は完形品である。98も完形品で，外面の約半分に黒班がある。他の坏に比べ器高が高くなっている。皿の出土は少なく図化できたものは２点だけであった。99は下層の出土で，胎土，焼成とも良く，つくりが丁寧である。101～107は埦で，106・107以外は下層または最下層の出土である。101は全体に器壁が厚くどっしりとしている。底部端に断面三角形の高台を貼付する。101～103の体部が若干内湾気味で丸味を持っているのに対し，104・107の体部は斜め上方に直線的にのびる。高台は底部端からやや開いて立つ。108は鉢であろう。復原口径20.0cmで最下層の出土である。

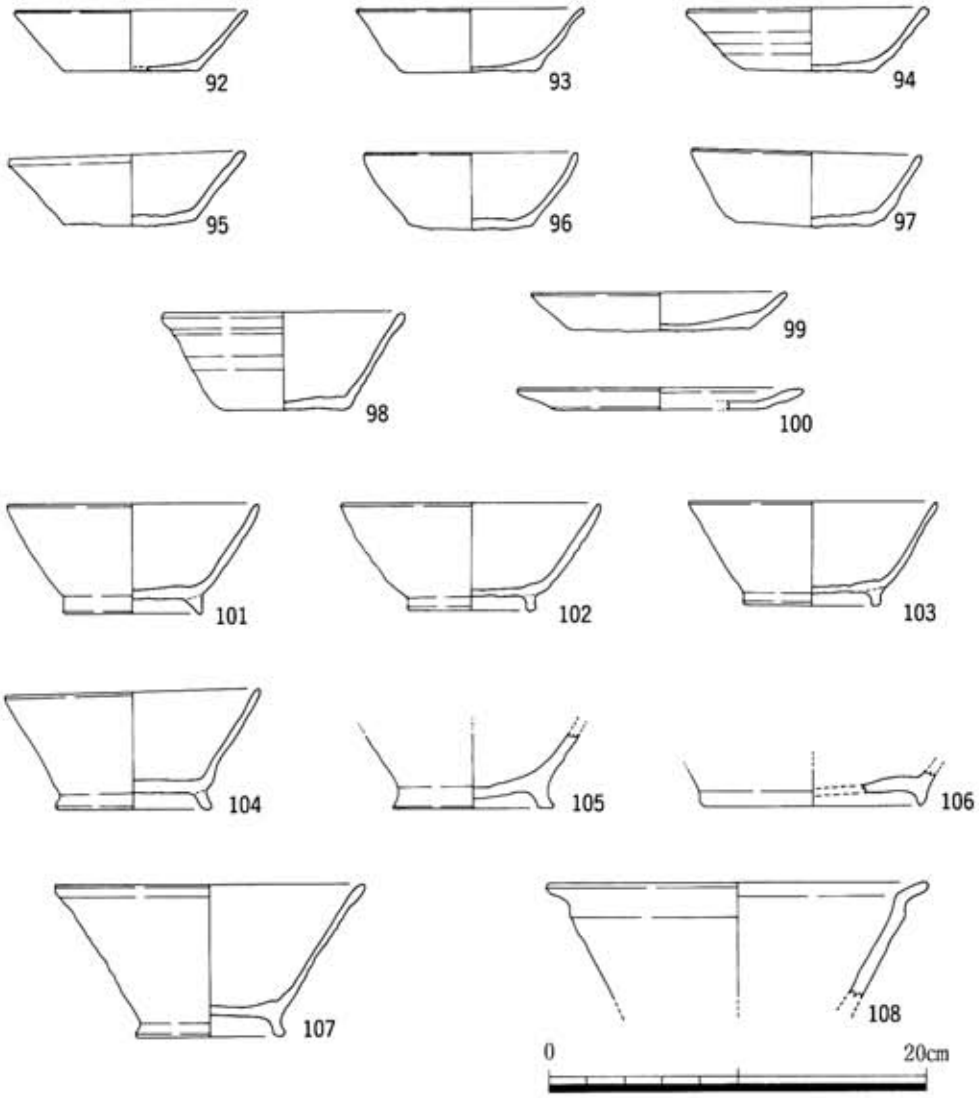



Fig. 21　ＳＥ036井戸跡出土土器①（1/4）

甕は全部で11個体を図示した。109～113は上層からの出土，114～119が下層から出土したものである。全体の器形が知れるものはないが，口縁～胴部の形状及び調整法などＳＥ020井戸跡出土の甕と大差ないと見られるので，ＳＥ036井戸跡出土の甕も丸底となるであろう。上層出土の甕については，口縁を「く」字状に外反させている。口径は24.0～28.0cm。113の小型の甕で口径16.2cmである。器面調整は，胴部内面ヘラケズリ，外面ハケ目，口縁部内外面ヨコナデである。111・113は粘土紐の痕跡を良く残している。下層出土の甕については口縁部が全体に「く」字状に外反するものが多いが体部から一定の厚さで横方向に折れるもの（116）や頸部で肥厚して掘曲するもの（117），弓形状に外反するもの（118）などもある。口径21.2～27.4cmである。119は小型の甕で口径17.4cm。内外面ヨコナデである。

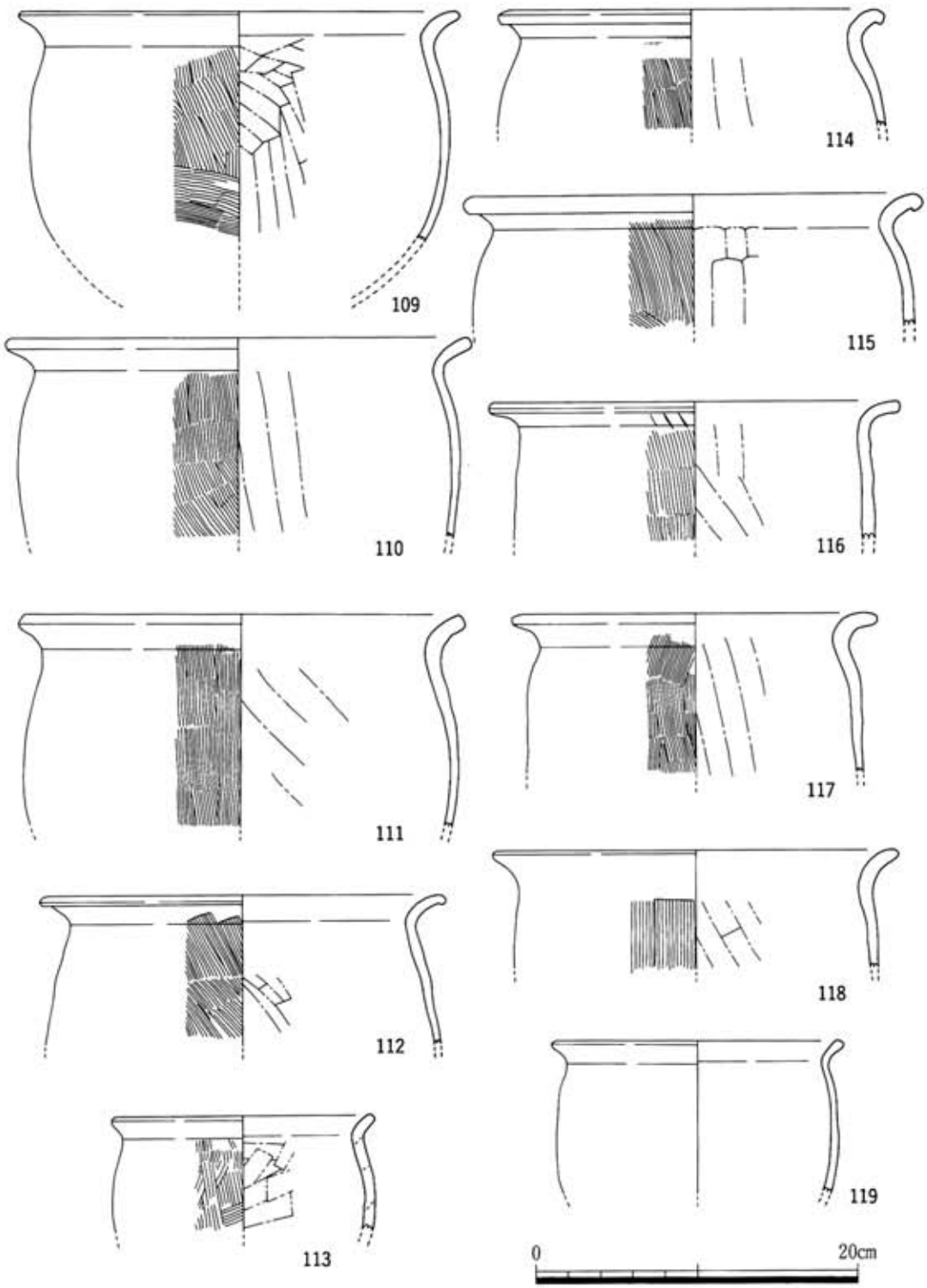



Fig. 22　S E036井戸跡出土土器②（1/4）

**須恵器**

写真のみ示す（PL. 152）。124が下層からの出土で他は上層の出土である。120・121ともに全体に対して貧弱な高台を貼付する。122は甕の口縁片で復原口径20.0cm。123は壺の肩部～頸部で，頸部接合付近に断面三角形の凸帯を貼付している。124は壺の口頸部で頸部にしぼり痕が残る。

**その他の遺物**

砥石２点と曲物とがある。

砥石は２点とも表採。砂岩で，置砥石と吊砥石が各１点あり，いずれも残片である。

曲物はＳＥ036井戸跡から側板片と底板片が２個体分出土した。直径は20cm前後と思われ，それぞれ木釘孔がみられる。

### (4) 溝跡

ＳＰ003は調査区の西北部は斜めに，またＳＤ034は東北隅を斜めに横切る。いずれも幅50cm程度の水路とみられるが，時期については不明である。

## 3．ま　と　め

本遺跡では，９世紀代を中心とする平安時代の井戸跡７基のほか，竪穴住居跡１棟と土壙１基，小溝１条が調査されており，一定期間，主に井戸が集中的に掘られた場所であったことがわかる。これは，同地点が扇状地の裾部に近く，湧水地点に当たっていたことによるものであろう。高速道関係の調査で見るかぎり，東西両辺に同じ時期の集落は確認されていないが，おそらく北側に隣接して関係する集落が存在するのではないかと推定される。

出土遺物は，井戸跡を中心に土師器が多い。とくにＳＥ020，ＳＥ036からは，井戸跡の性格上，時期幅はあるが，９世紀前半を中心とする時期の生活用土器の一端を示す一括資料が多量に出土した。ＳＥ020出土の墨書土器については，完全には読めず，性格は不明であるが，肥前国庁や厩が存在する地域の特殊性を示すものであろう。

# 図　　版

# 東山田一本杉遺跡Ⅰ区

東山田一本杉遺跡，西山田二本松遺跡　周辺航空写真（南から）

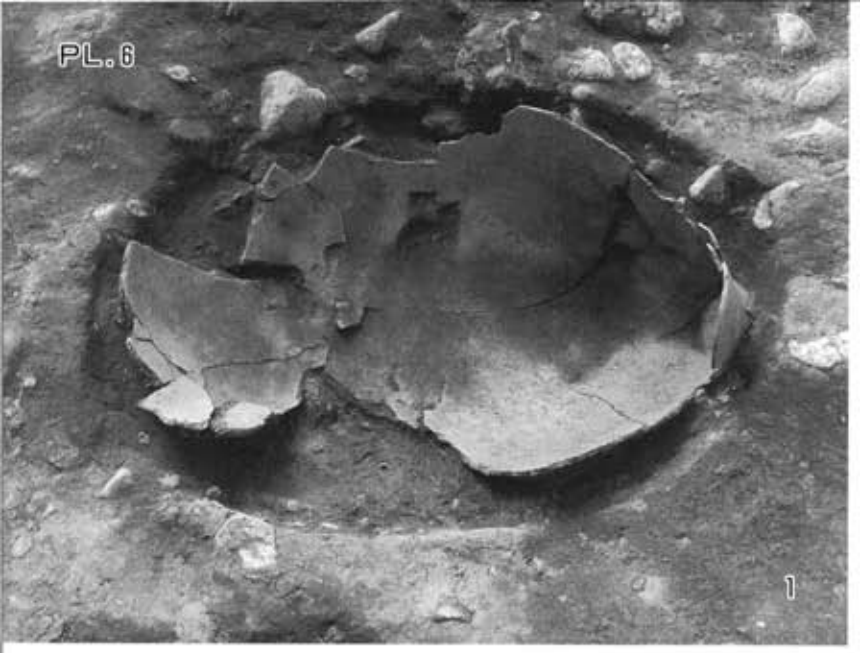
PL.2

東山田一本杉遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区　周辺航空写真（南から）

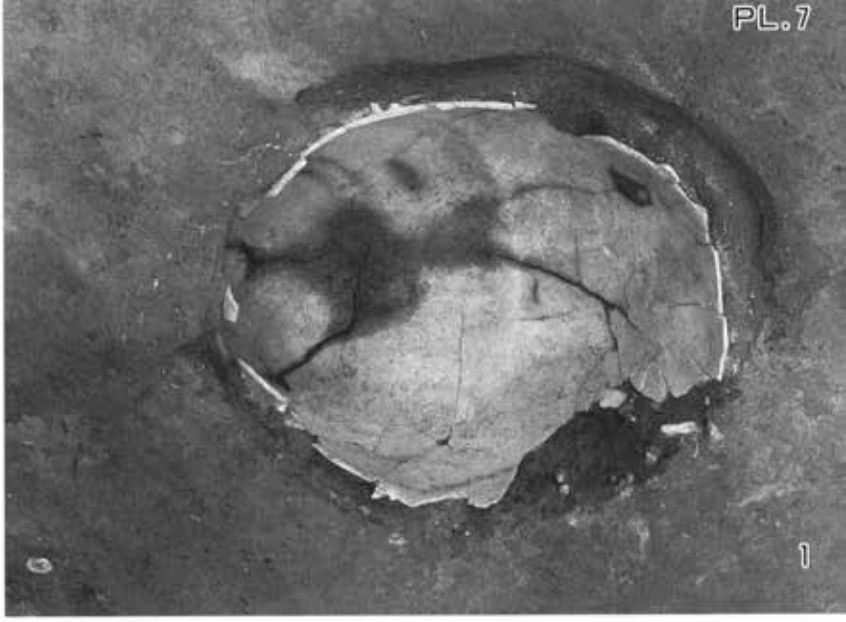
東山田一本杉遺跡Ⅰ区　　1．遺跡全景（南東から）
2．遺跡全景（東から）

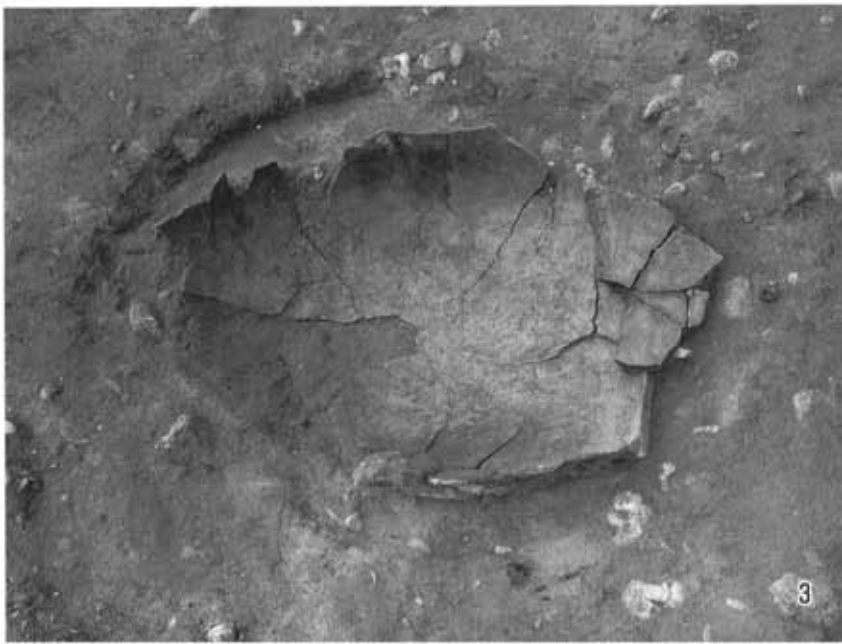
東山田一本杉遺跡
I区
1．遺跡近景
（南西から）
2．遺跡近景
（南東から）

東山田一本杉遺跡
I区
1．遺跡南部近景
（東から）
2．遺跡東北部近景
（南東から）

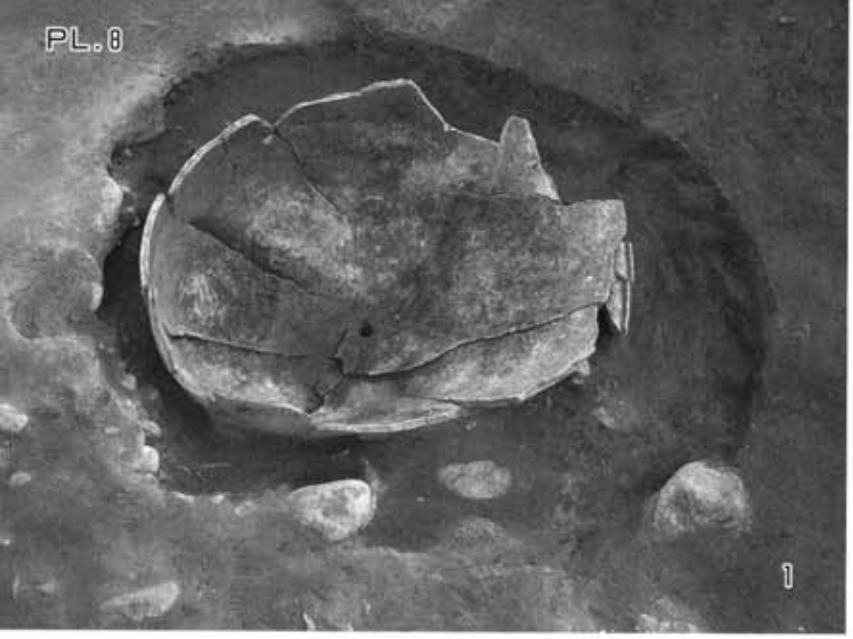


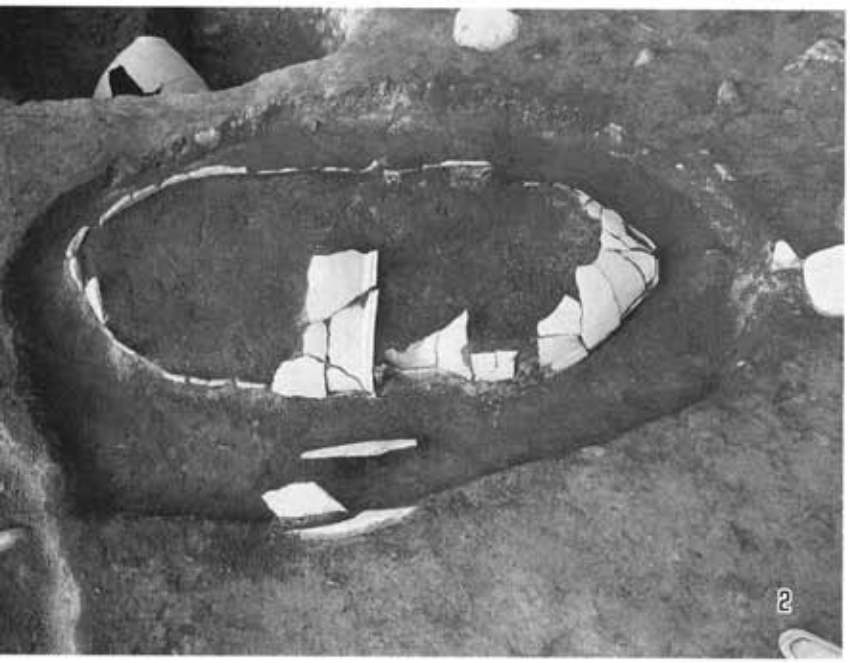
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ001甕棺墓
（北から）
2．ＳＪ002甕棺墓
（北西から）
3．ＳＪ004甕棺墓
（西から）





東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ005甕棺墓
（東から）
2．ＳＪ007甕棺墓
（東から）
3．ＳＪ009甕棺墓
（東から）

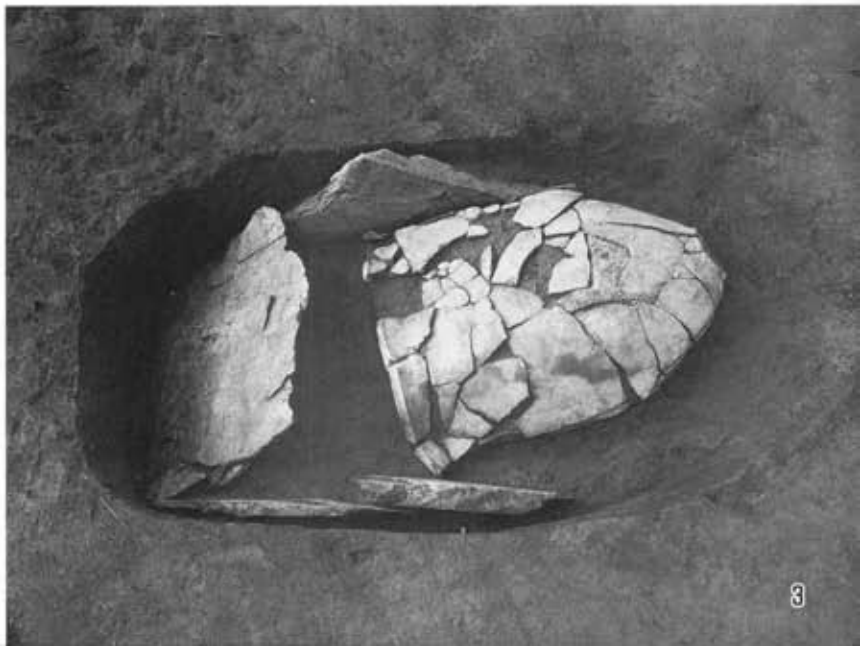




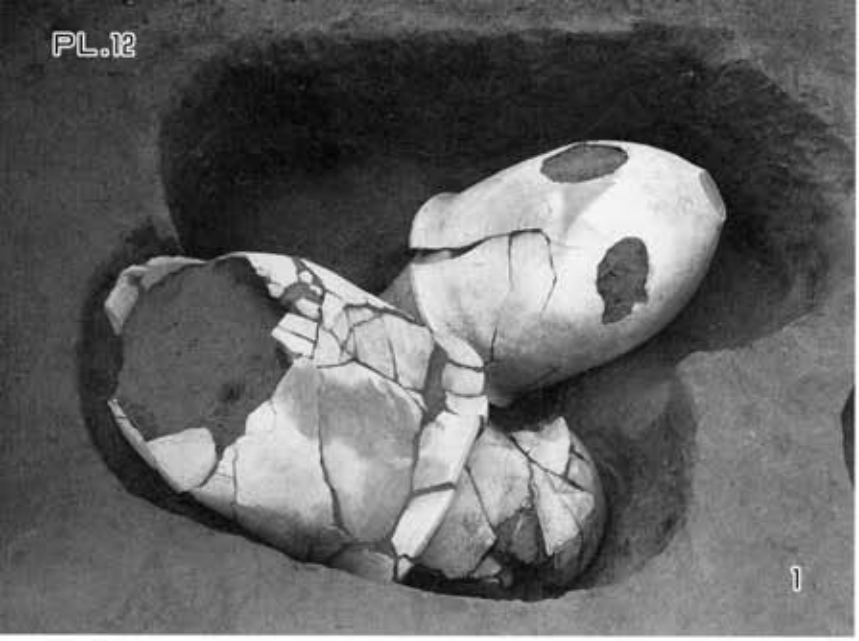
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ010甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ011甕棺墓
（東から）
3．ＳＪ012甕棺墓
（南から）

東山田一本杉遺跡１区
1．ＳＪ013甕棺墓
（東から）
2．ＳＪ014甕棺墓
（東から）
3．ＳＪ017甕棺墓(前)
ＳＣ018石棺墓(中)
ＳＪ022甕棺墓(後)
（北西から）

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ019甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ020甕棺墓
（北から）
3．ＳＪ023甕棺墓(前)
ＳＰ024土壙墓(後)
（南西から）




東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ025甕棺墓
（北西から）
2．ＳＪ026甕棺墓
（東から）
3．ＳＪ027甕棺墓
（東から）



東山田一本杉遺跡Ⅰ区

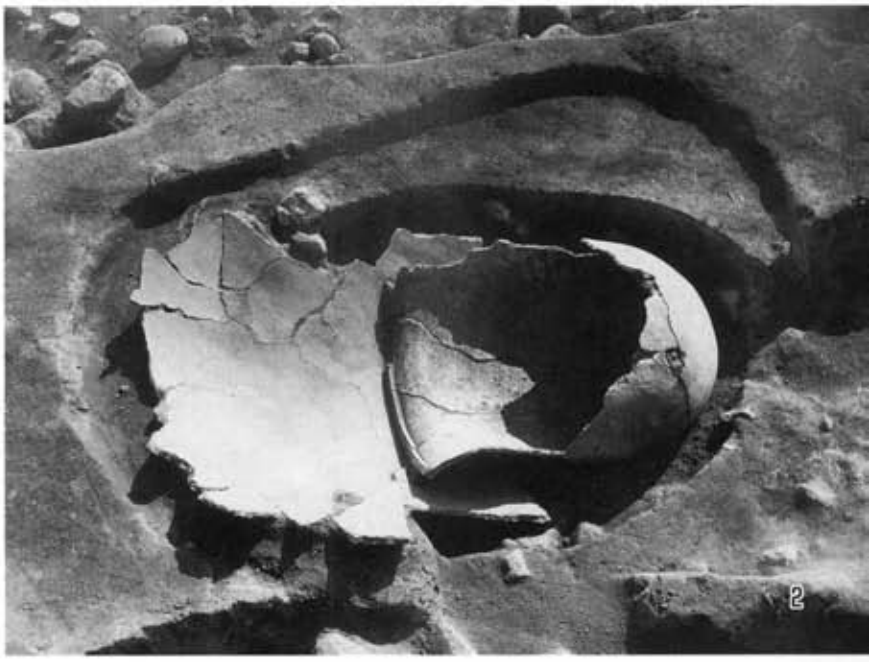
1．ＳＪ029甕棺墓(前)
　ＳＪ088甕棺墓(後)
　(南東から)

2．ＳＪ030甕棺墓
　(西から)

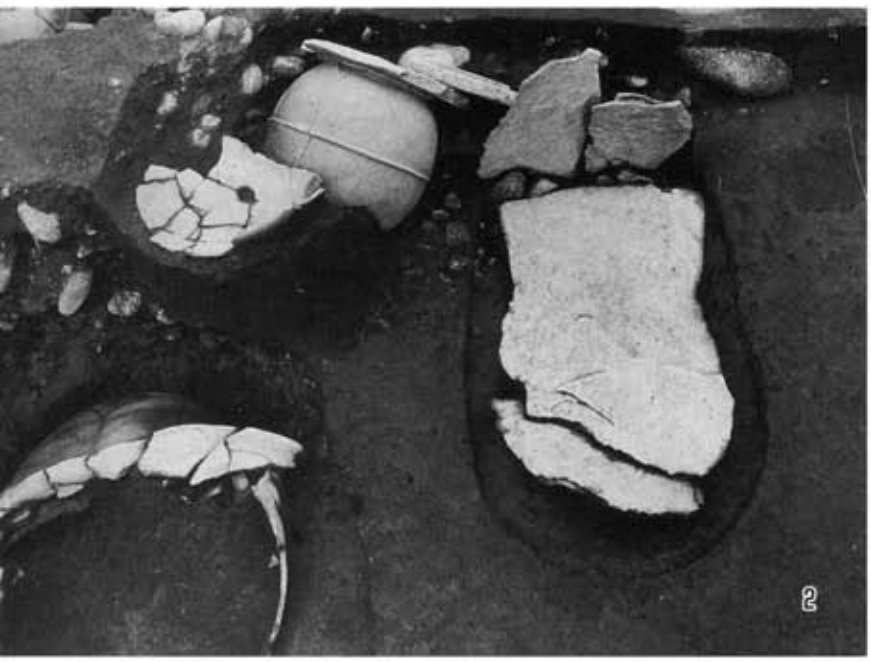
3．ＳＪ032甕棺墓
　(西から)

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ034甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ035甕棺墓
（北から）
3．ＳＪ037甕棺墓
ＳＪ051甕棺墓
（北から）

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ036甕棺墓
（北から）
2．ＳＪ036甕棺墓(内部)
（北から）
3．ＳＪ039甕棺墓
（西から）



東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ038甕棺墓(後)
ＳＪ064甕棺墓(前)
(西から)
2．ＳＪ040甕棺墓
(西から)
3．ＳＪ041甕棺墓
(東から)



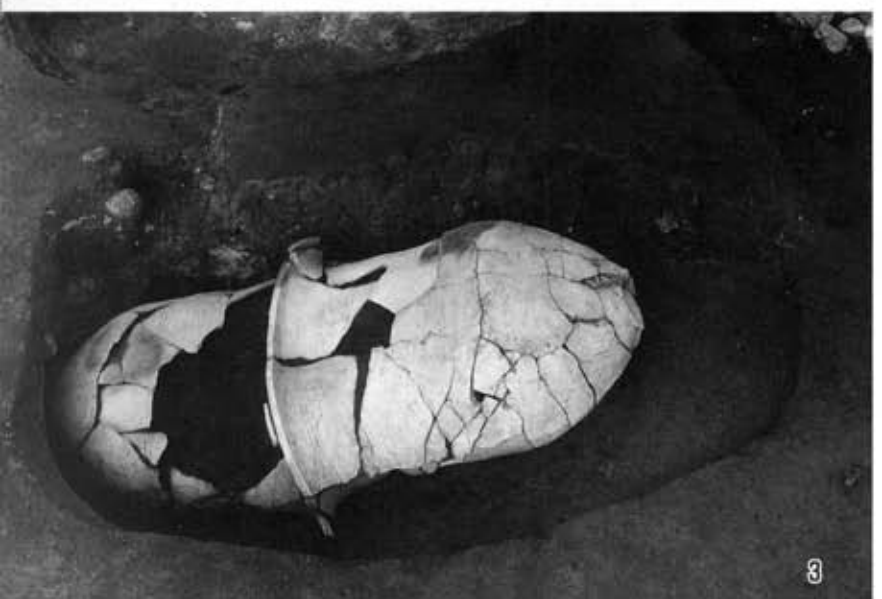
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ042甕棺墓(前)
ＳＪ043甕棺墓(後)
(東から)
2．ＳＪ044甕棺墓(左)
ＳＪ045甕棺墓(中)
ＳＪ046甕棺墓(右)
(南から)
ＳＪ045甕棺墓
(南から)

東山田一本杉遺跡Ⅰ区

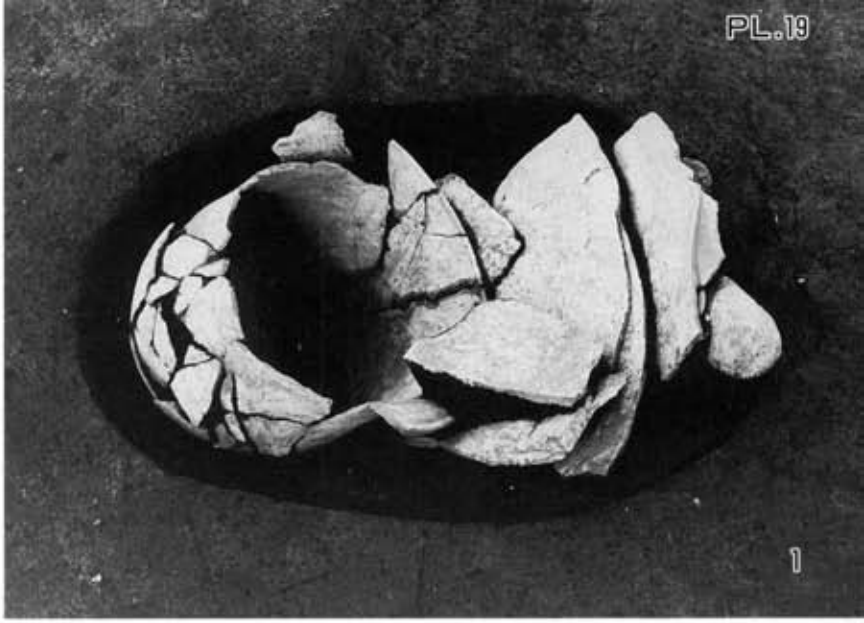
1．ＳＪ047甕棺墓
　ＳＪ048甕棺墓
　（西から）

2．ＳＪ050甕棺墓
　（北西から）

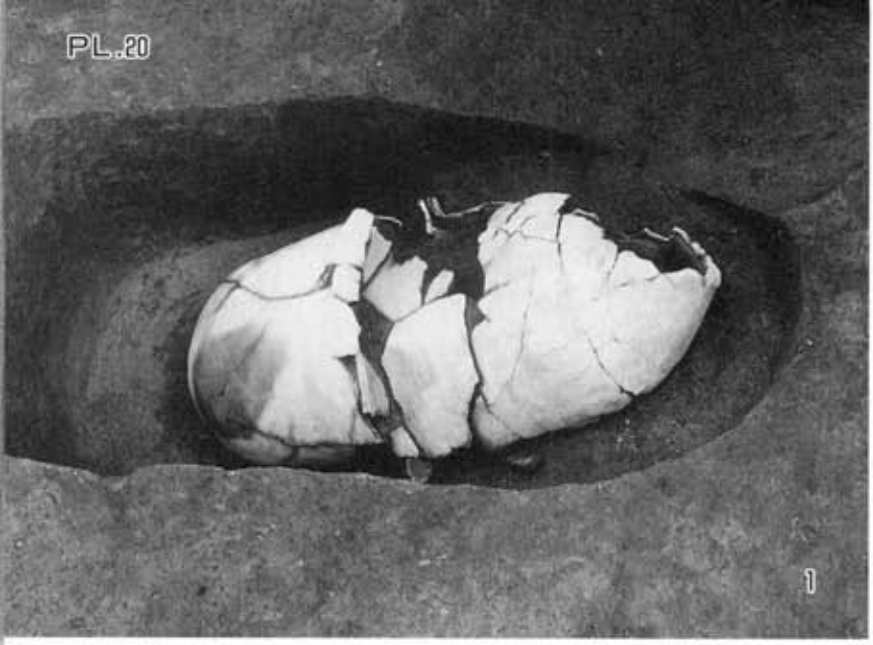
3．ＳＪ052甕棺墓（左）
　ＳＪ053甕棺墓（右）
　（西から）

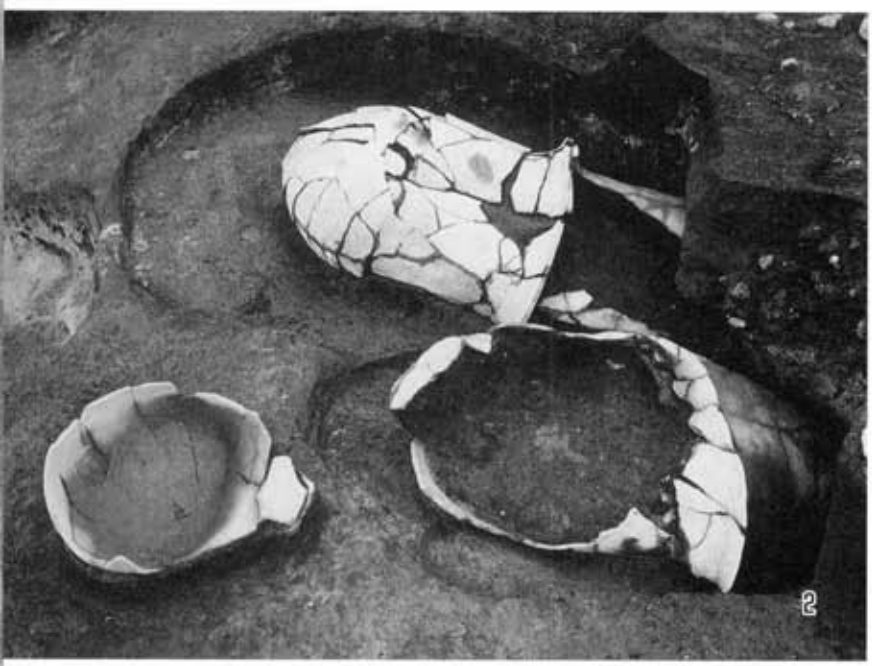


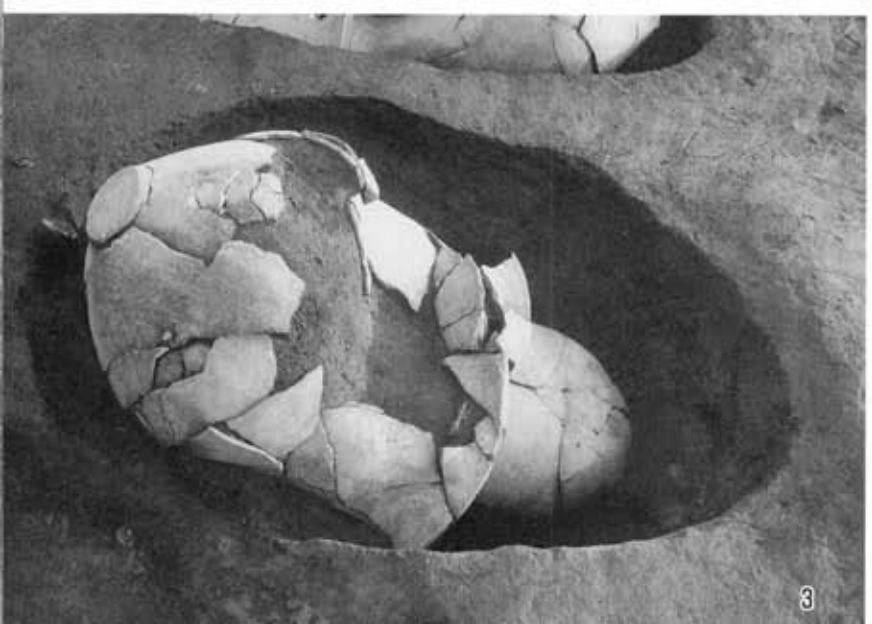

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ054甕棺墓(前)
ＳＪ055甕棺墓(後)
(北から)
2．ＳＪ057甕棺墓
(南から)
3．ＳＪ059甕棺墓
(南から)



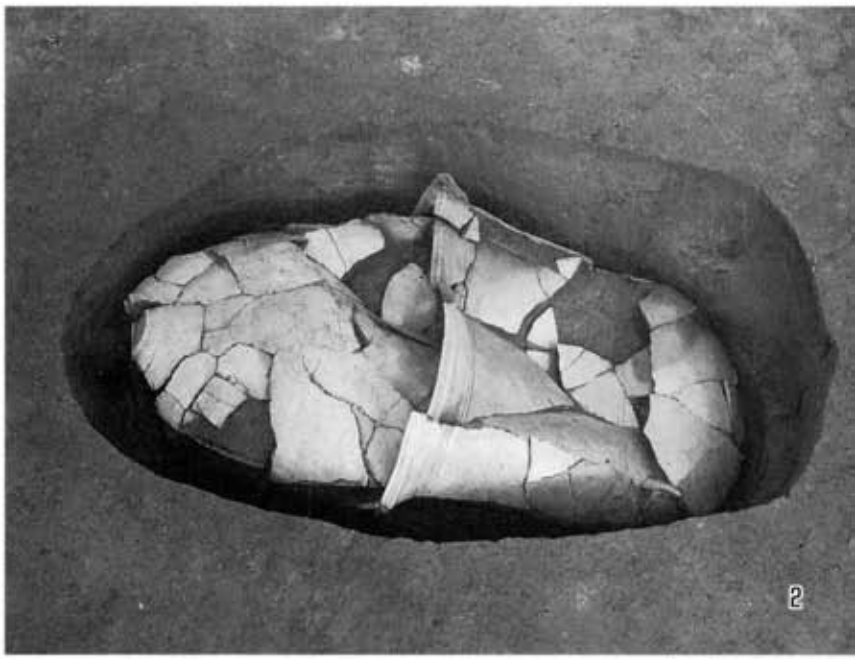
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ060甕棺墓
（南東から）
2．ＳＪ065甕棺墓
（南から）
3．ＳＪ066甕棺墓(右)
ＳＪ067甕棺墓(左)
（北から）



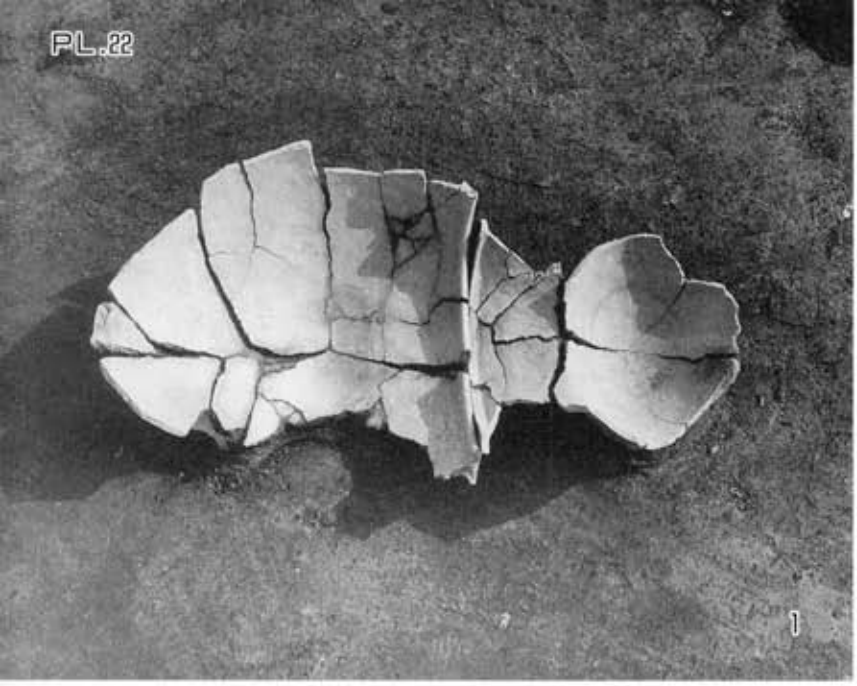


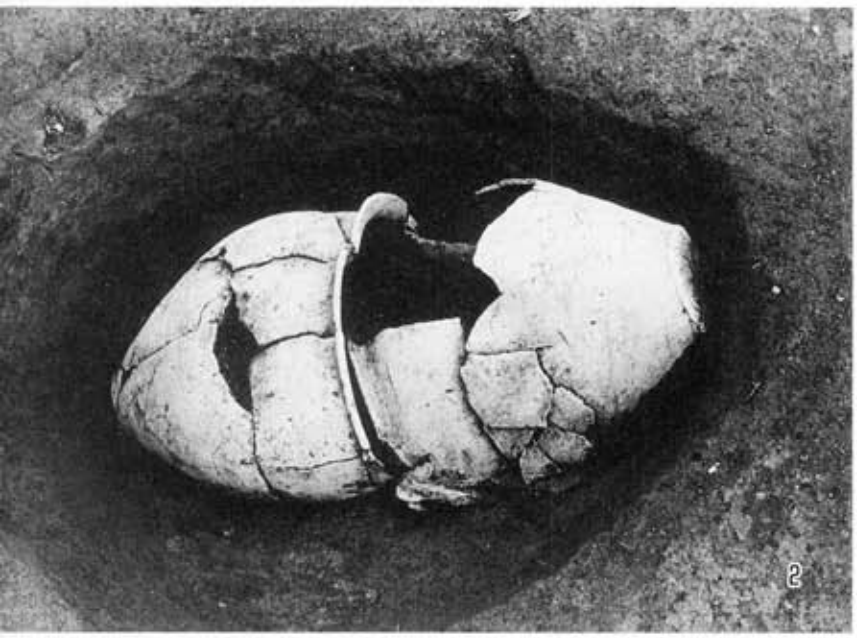


東山田一本杉遺跡Ⅰ区
ＳＪ071甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ072甕棺墓(左)
ＳＪ135甕棺墓(右)
ＳＪ126甕棺墓(後)
（東から）
3．ＳＪ074甕棺墓
（北から）

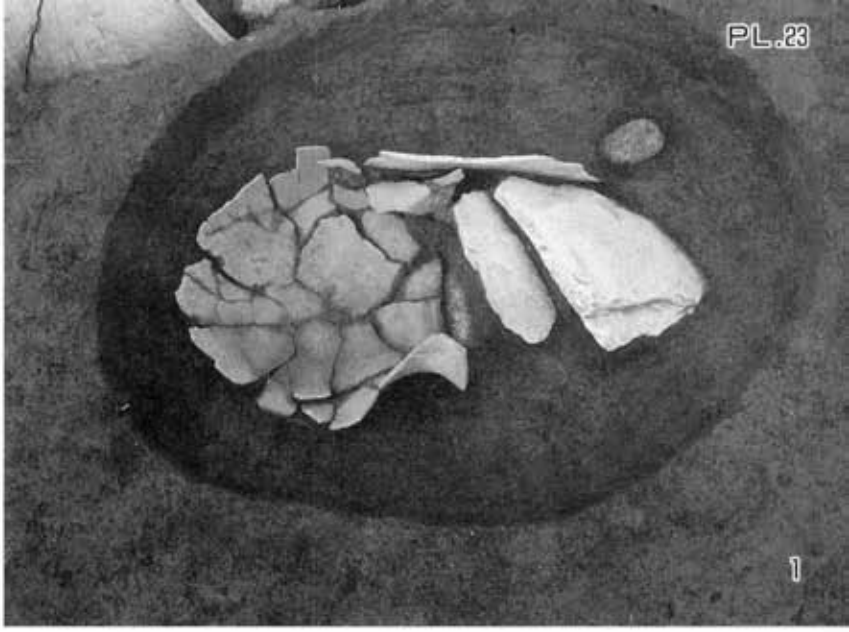


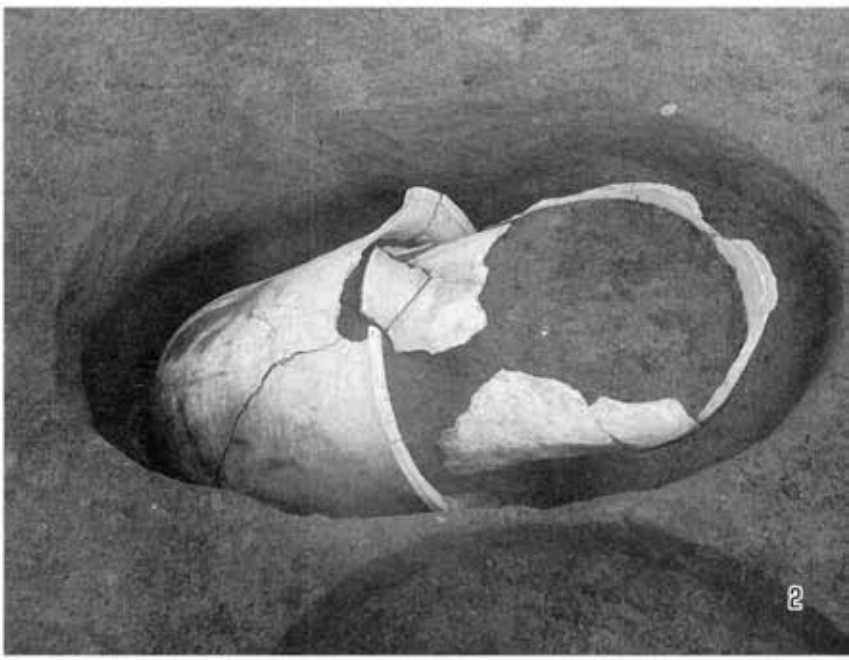
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ075甕棺墓(前)
　ＳＪ076甕棺墓(後)
　(北から)
2．ＳＪ077甕棺墓
　(南から)
3．ＳＪ078甕棺墓
　(南から)

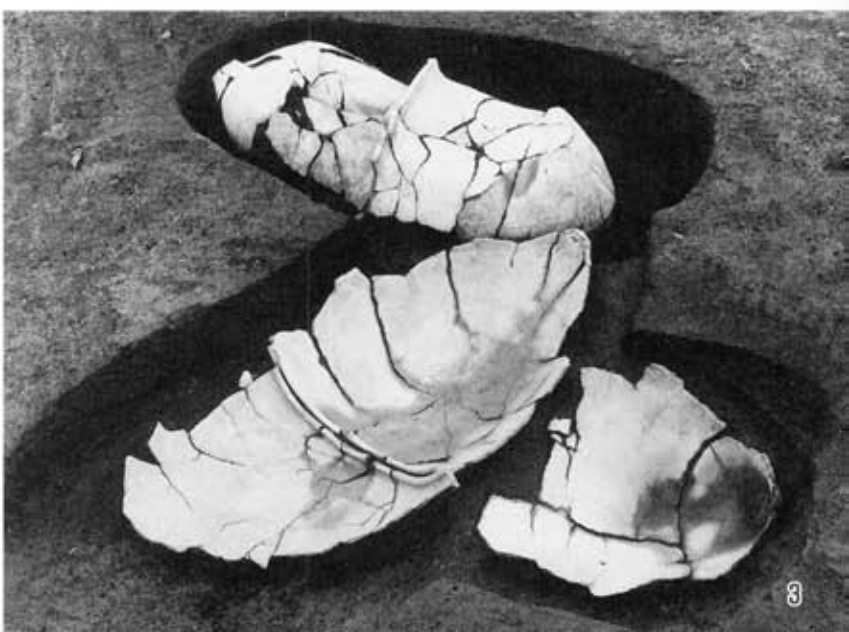




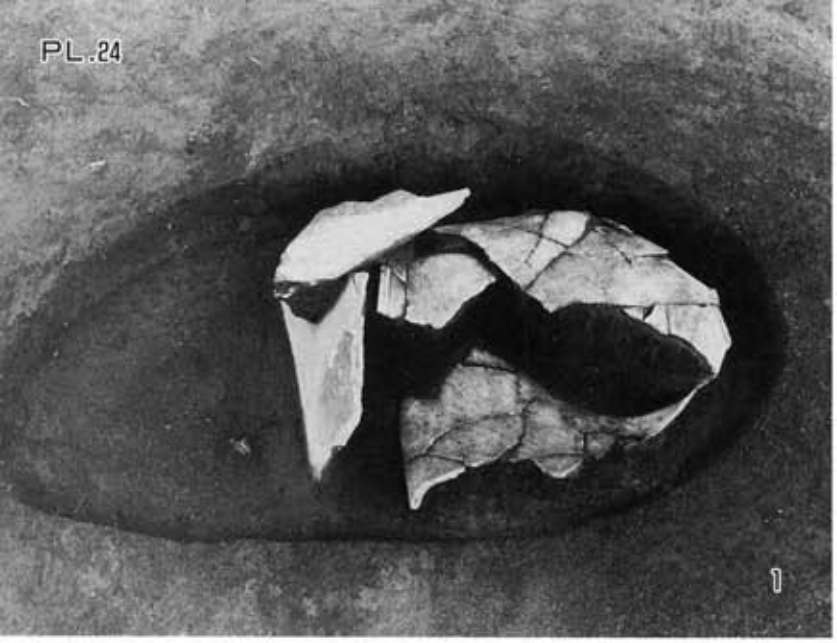
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ079甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ080甕棺墓
（西から）
3．ＳＪ081甕棺墓
（東から）

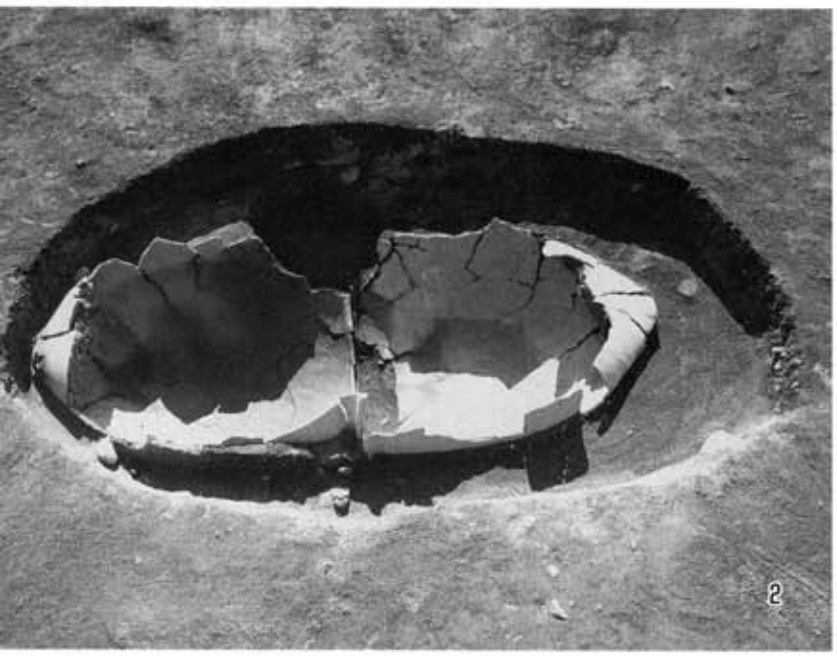






東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ082甕棺墓
（南から）
2．ＳＪ083甕棺墓
（南から）
3．ＳＪ091甕棺墓(前)
ＳＪ085甕棺墓(中)
ＳＪ084甕棺墓(後)
（南から）



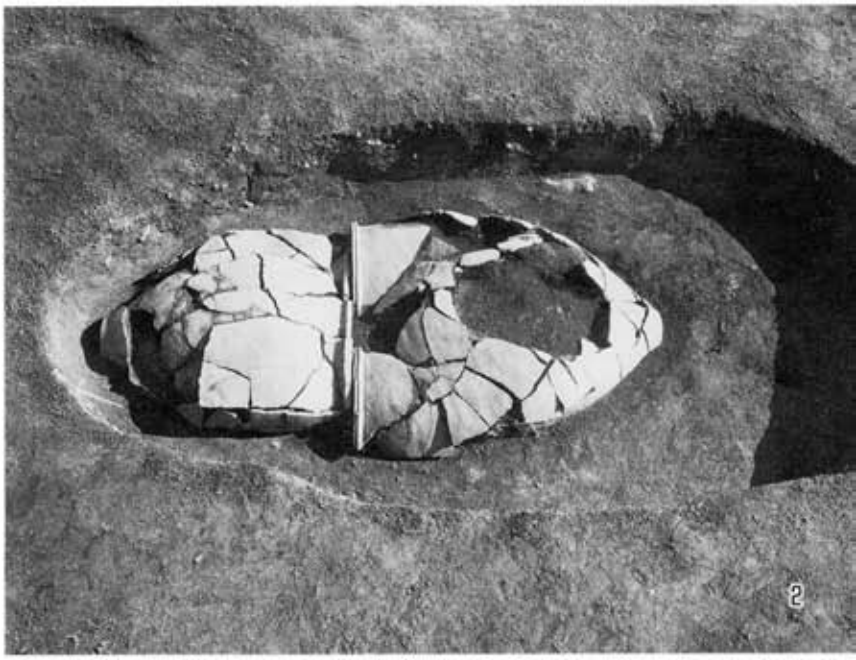


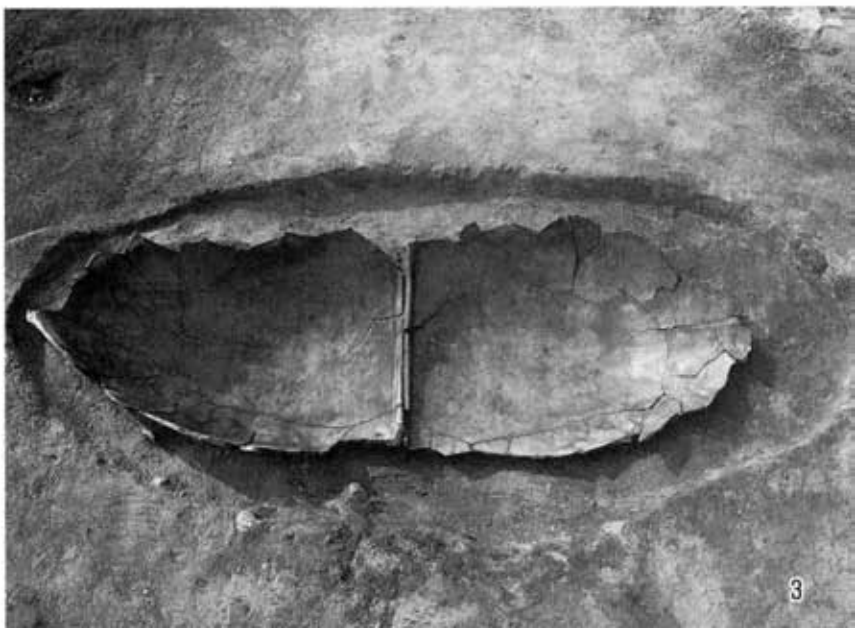
東山田一本杉遺跡Ⅰ区

1．ＳＪ086甕棺墓
（南から）

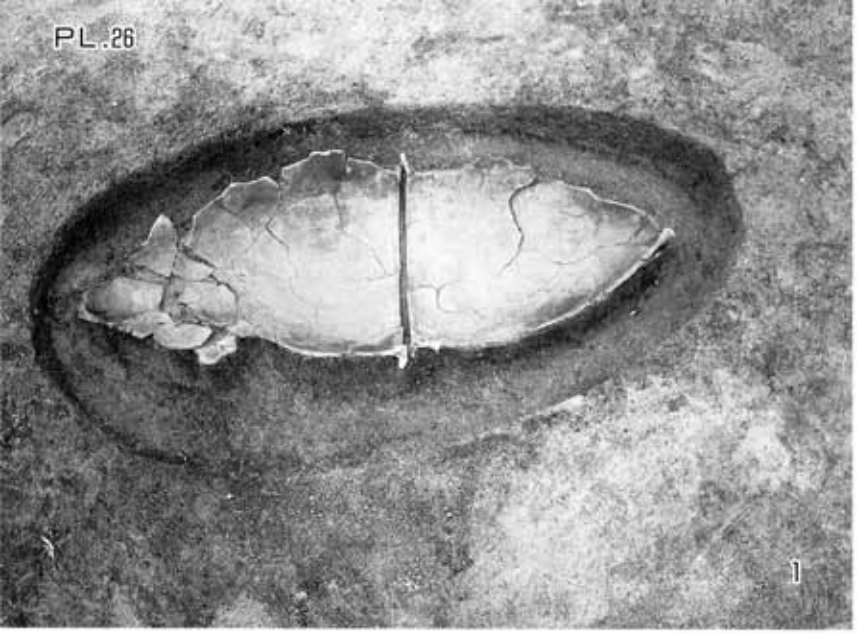
2．ＳＪ087甕棺墓
（北から）

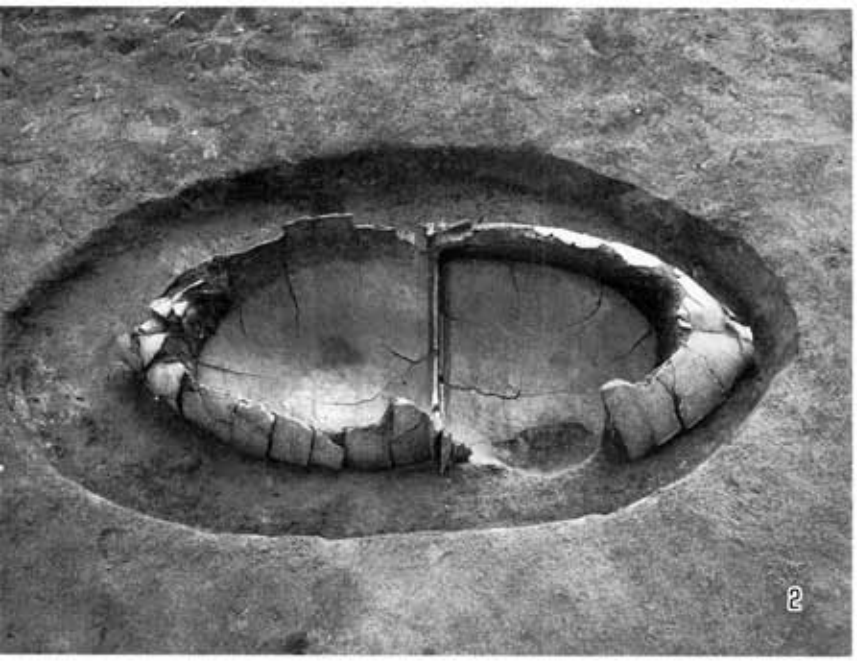
3．ＳＪ089甕棺墓
（南から）

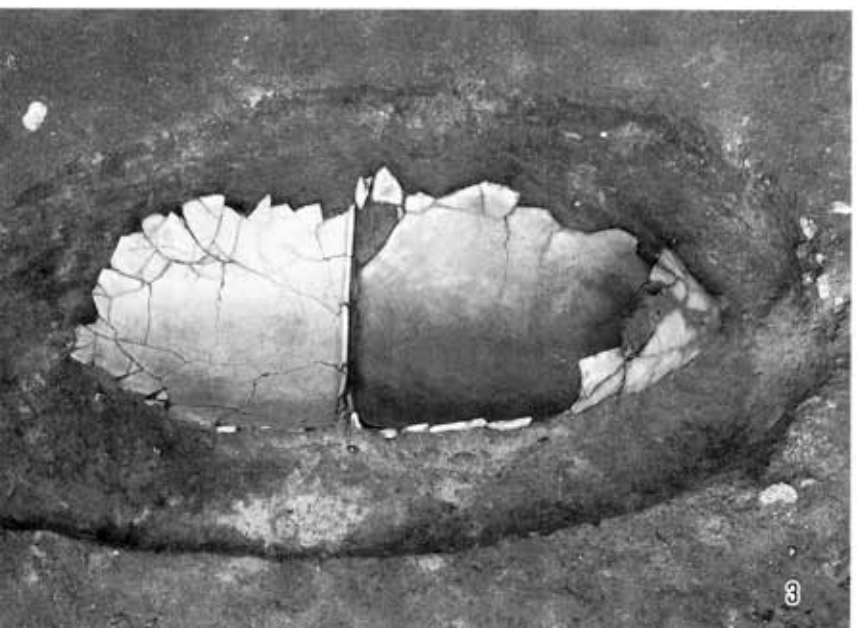




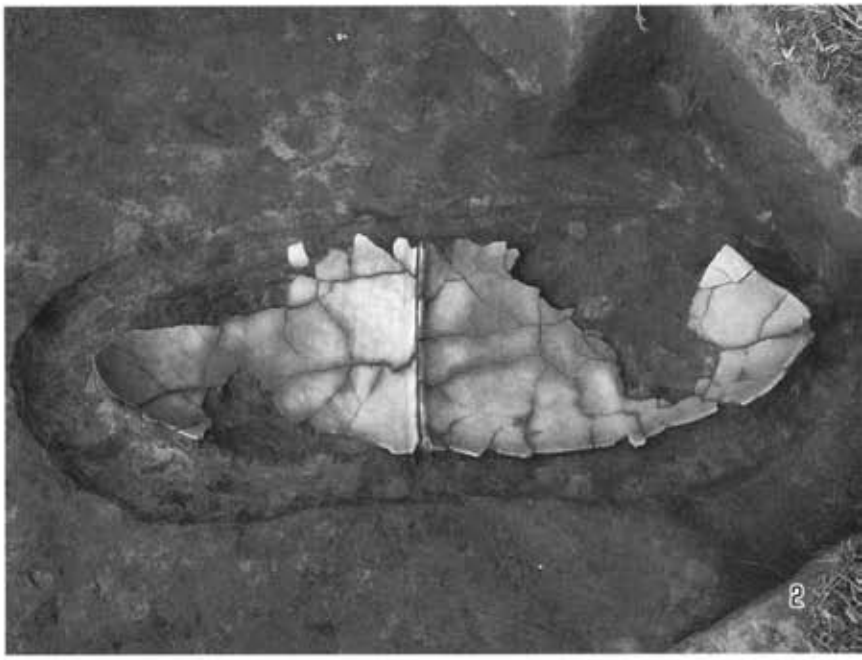
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ092甕棺墓(後)
　ＳＪ093甕棺墓(前)
　(北から)
2．ＳＪ099甕棺墓
　(西から)
3．ＳＪ108甕棺墓
　(東から)



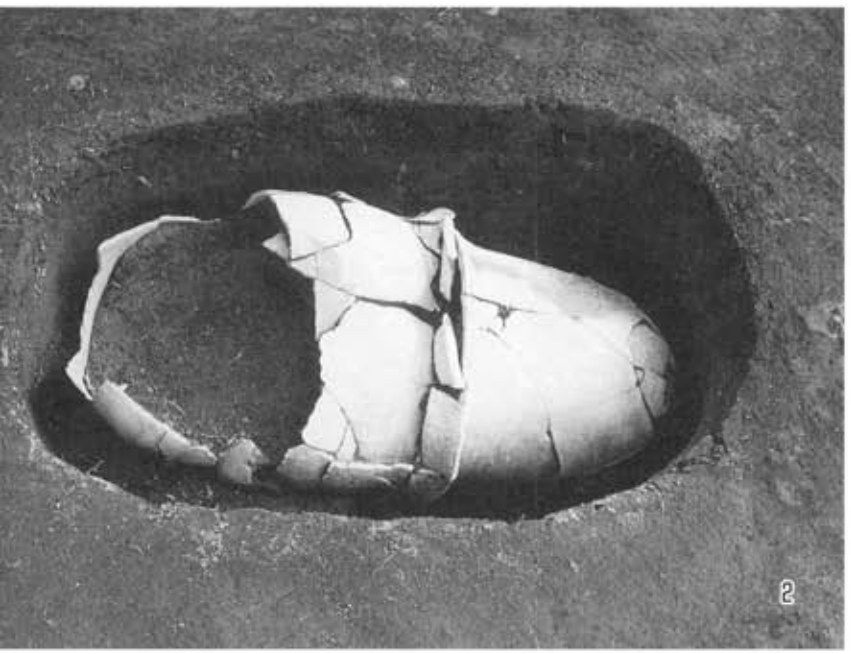




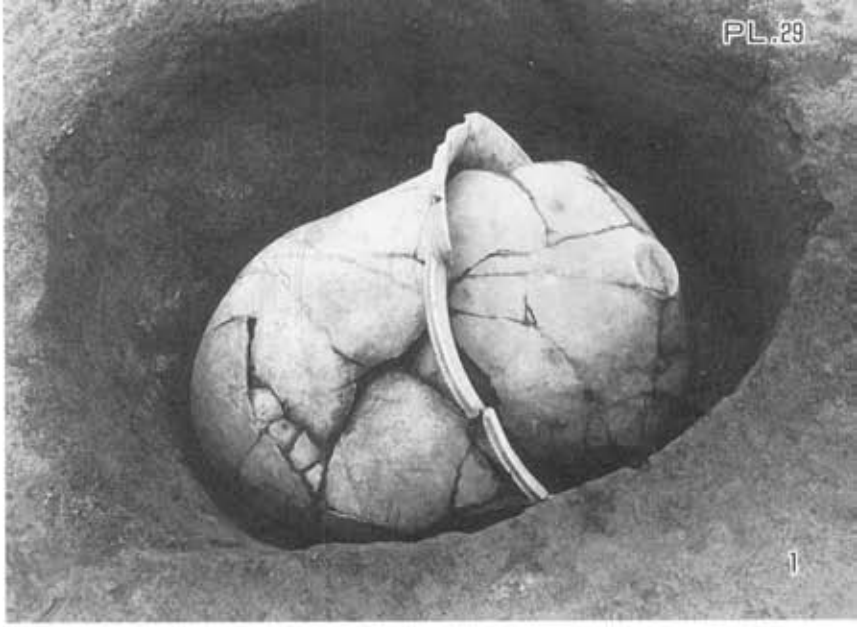
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ111甕棺墓
（東から）
2．ＳＪ113甕棺墓
（北から）
3．ＳＪ115甕棺墓
（南から）

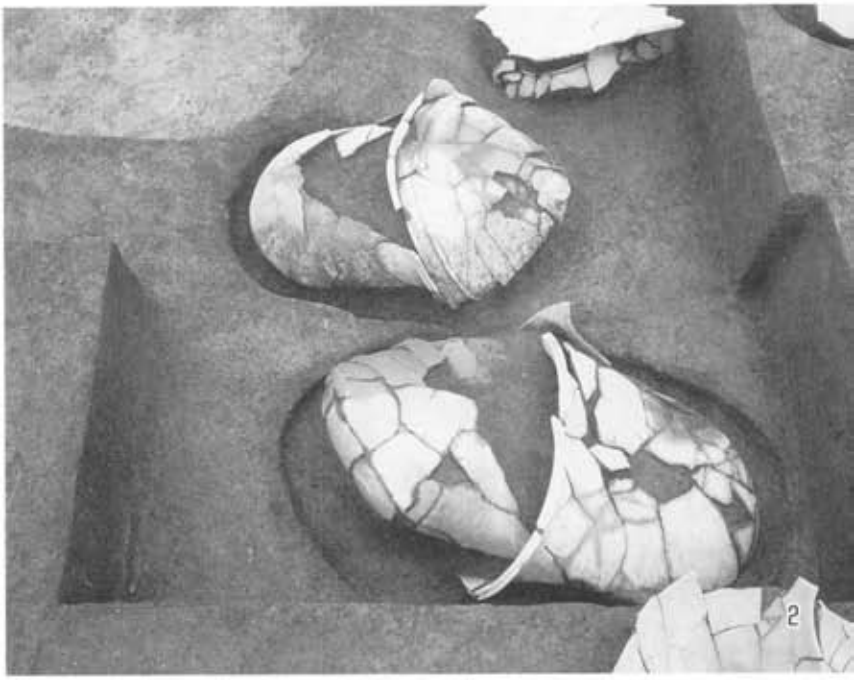


東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ121甕棺墓
（北から）
2．ＳＪ122甕棺墓
（東から）
3．ＳＪ123甕棺墓
（北東から）



東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ124甕棺墓
（南から）
2．ＳＪ131甕棺墓
（北西から）
3．ＳＪ137甕棺墓
（北から）



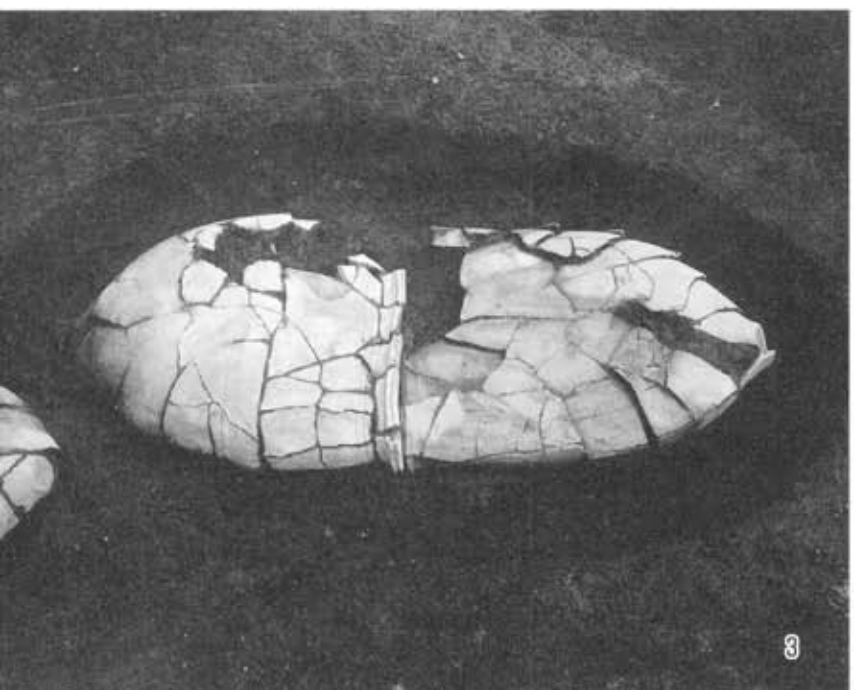


東山田一本杉遺跡Ⅰ区

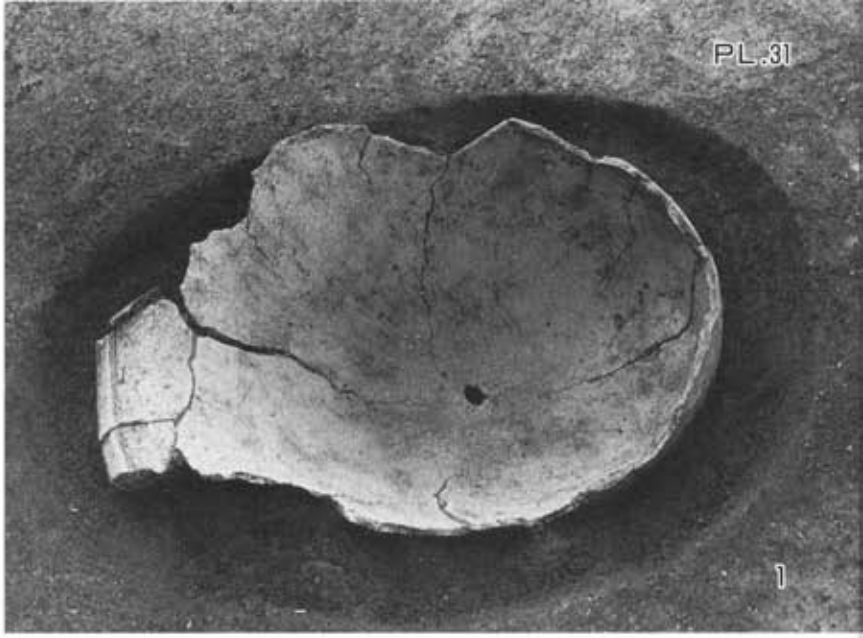
1．ＳＪ127甕棺墓
（北から）

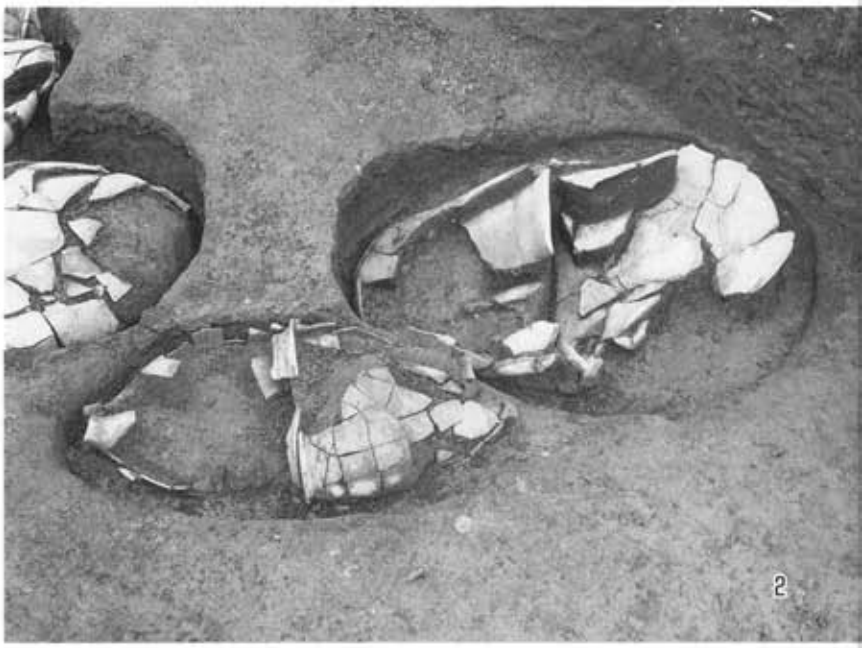
2．ＳＪ130甕棺墓（前）
ＳＪ129甕棺墓（中）
ＳＪ136甕棺墓（後）
（西から）

3．ＳＪ136甕棺墓
（北から）

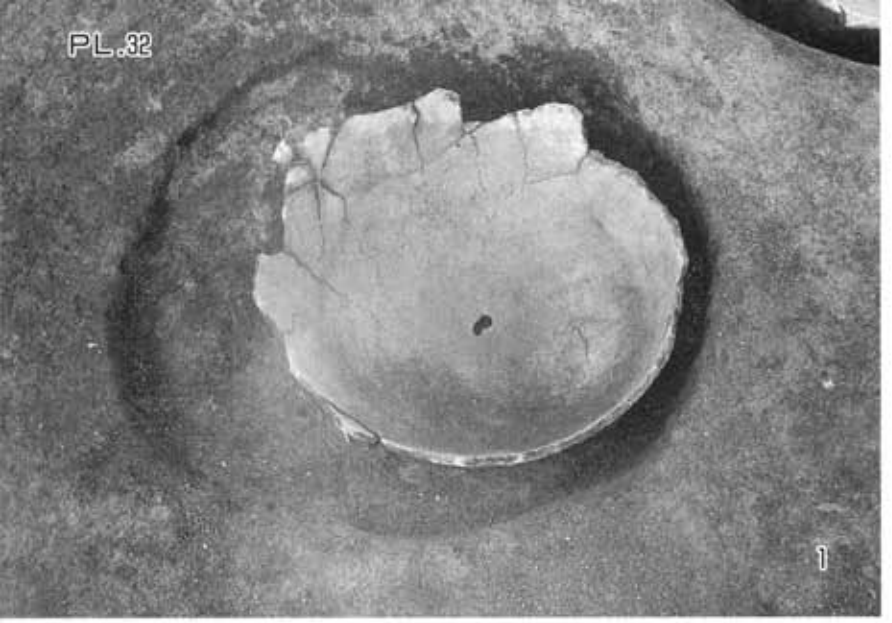


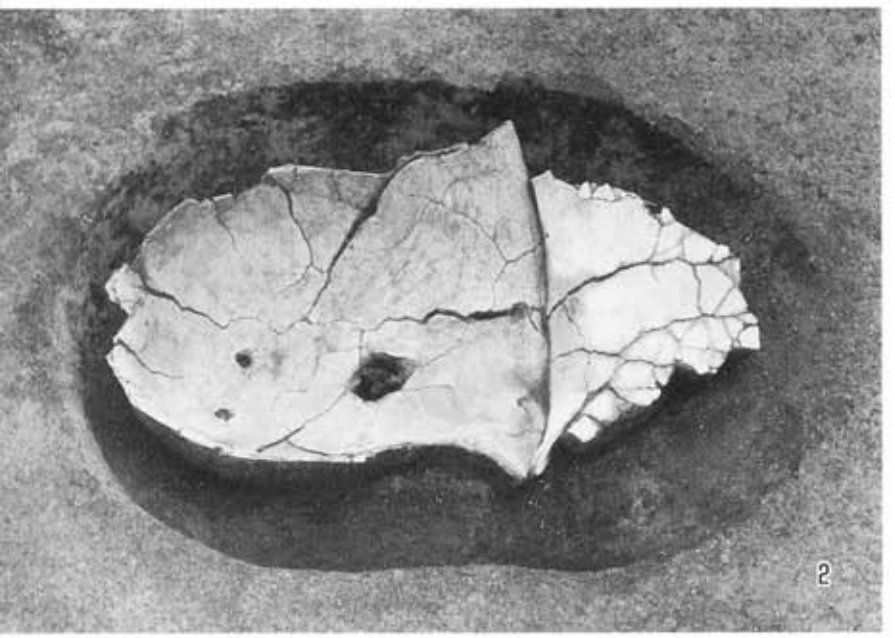
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ139甕棺墓
（東から）
2．ＳＪ140甕棺墓（左）
ＳＪ150甕棺墓（右）
（南から）
3．ＳＪ158甕棺墓
（西から）

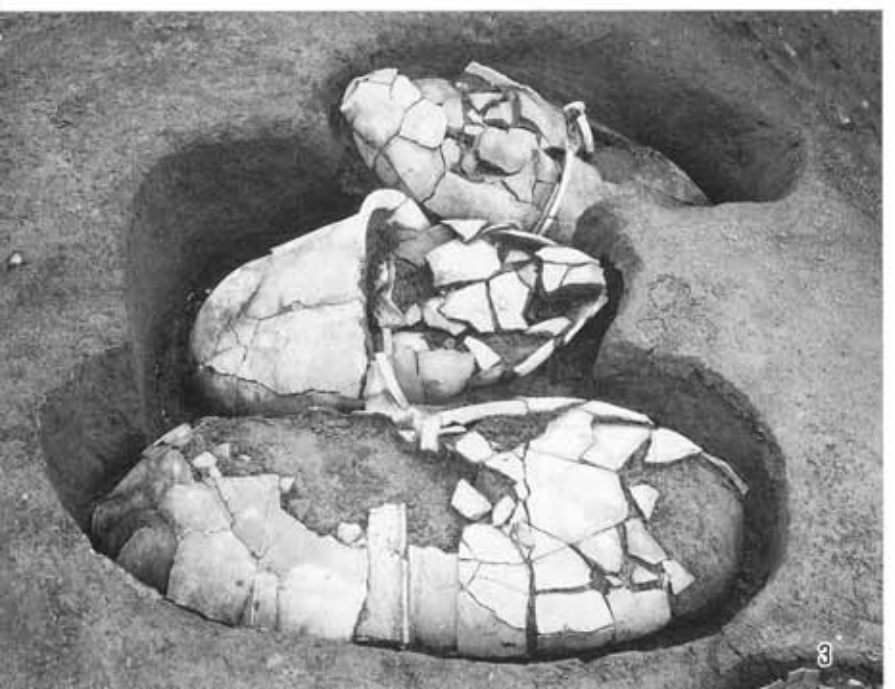




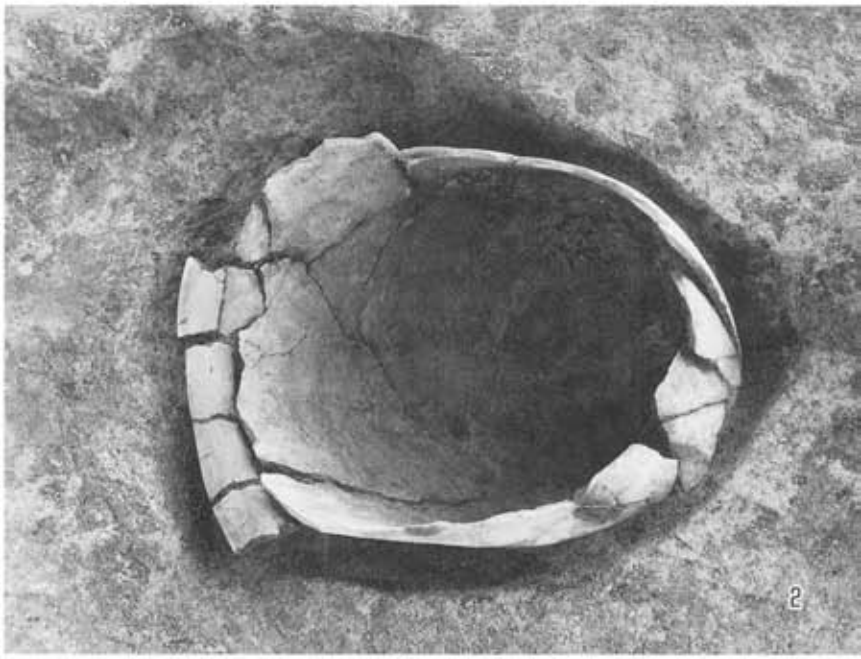
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ141甕棺墓
（東から）
2．ＳＪ142甕棺墓(右)
ＳＪ143甕棺墓(左)
（南西から）
3．ＳＪ144甕棺墓
（北から）

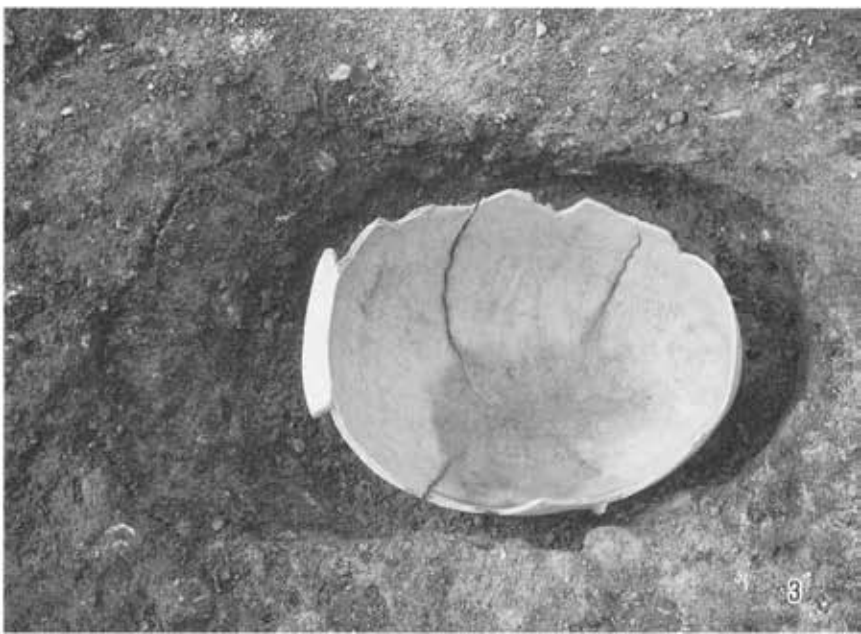




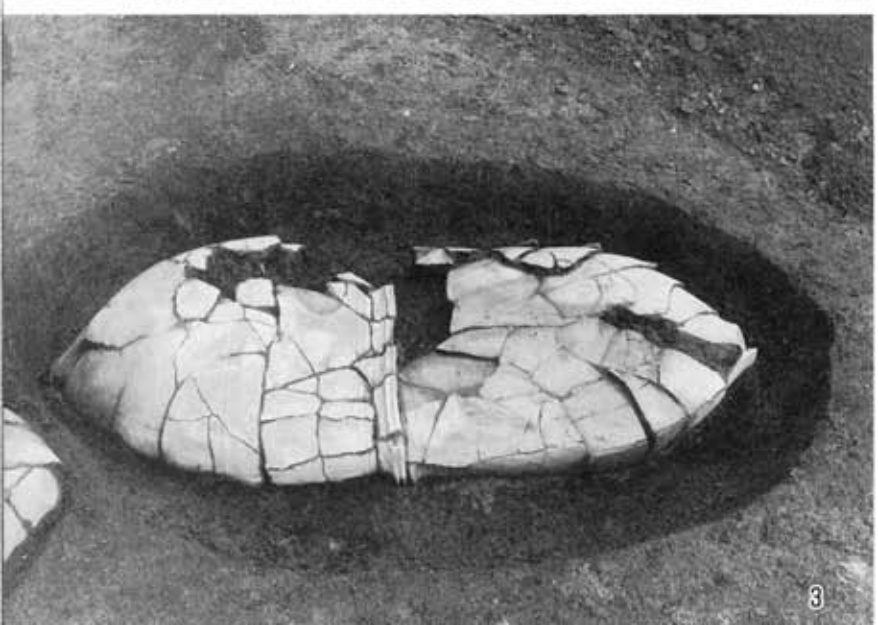


東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ145甕棺墓
（南から）
2．ＳＪ146甕棺墓
（南東から）
3．ＳＪ147甕棺墓(前)
ＳＪ148甕棺墓(中)
ＳＪ149甕棺墓(後)
（西から）

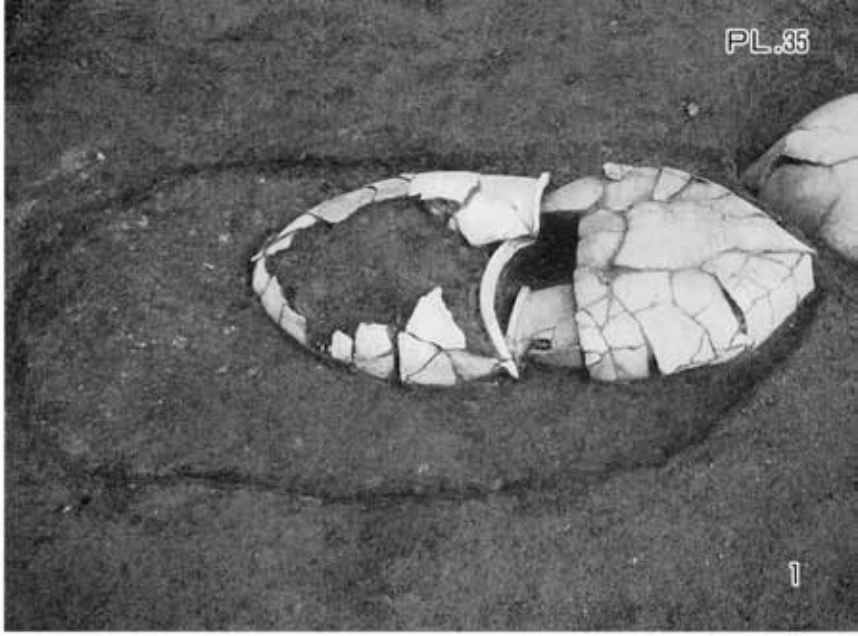


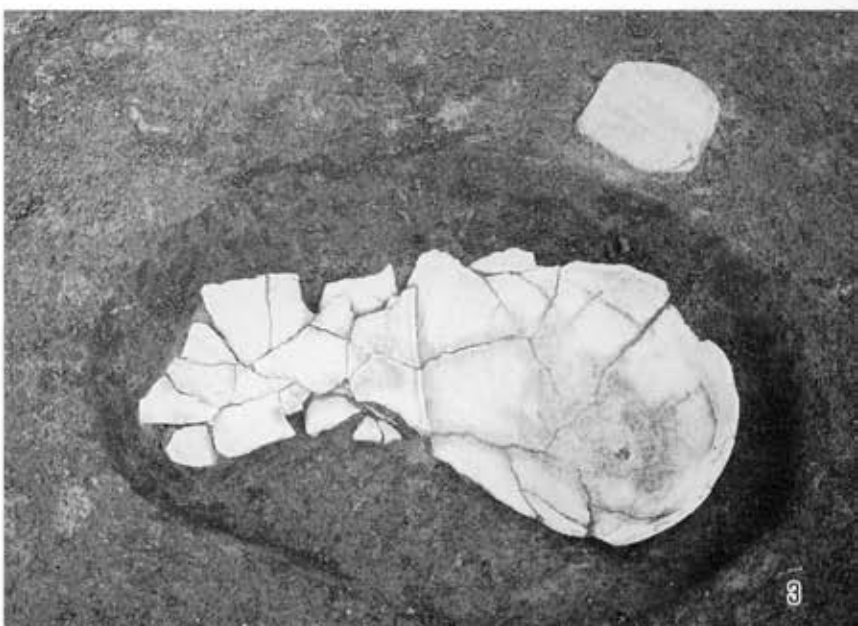




東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ152甕棺墓
（南から）
2．ＳＪ153甕棺墓
（北から）
3．ＳＪ155甕棺墓
（南から）

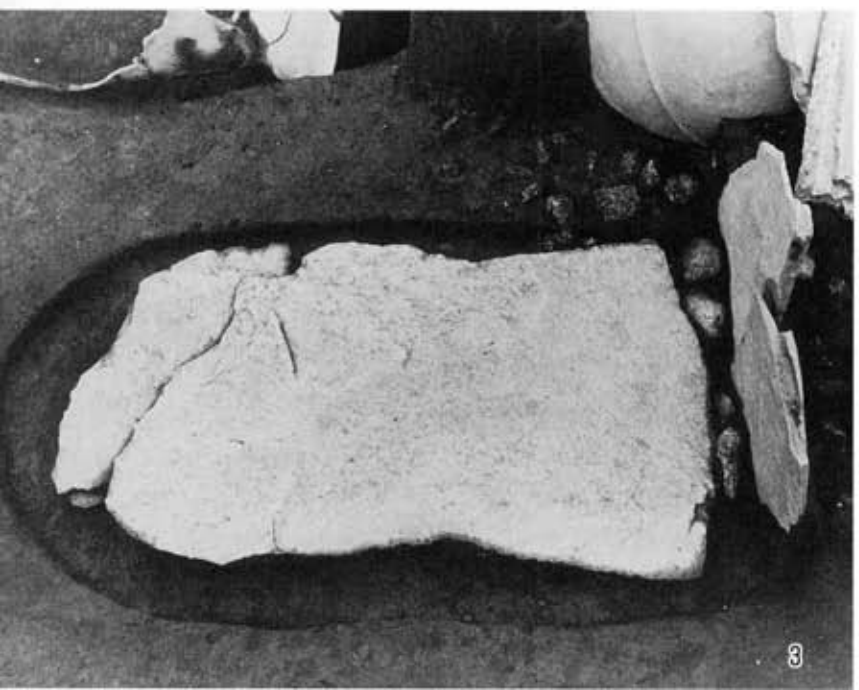


東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ156甕棺墓
（東南から）
2．ＳＪ157甕棺墓
（西から）
3．ＳＪ158甕棺墓
（西から）






東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＪ159甕棺墓
（西から）
2．ＳＪ160甕棺墓
（南から）
3．ＳＪ161甕棺墓
（南から）

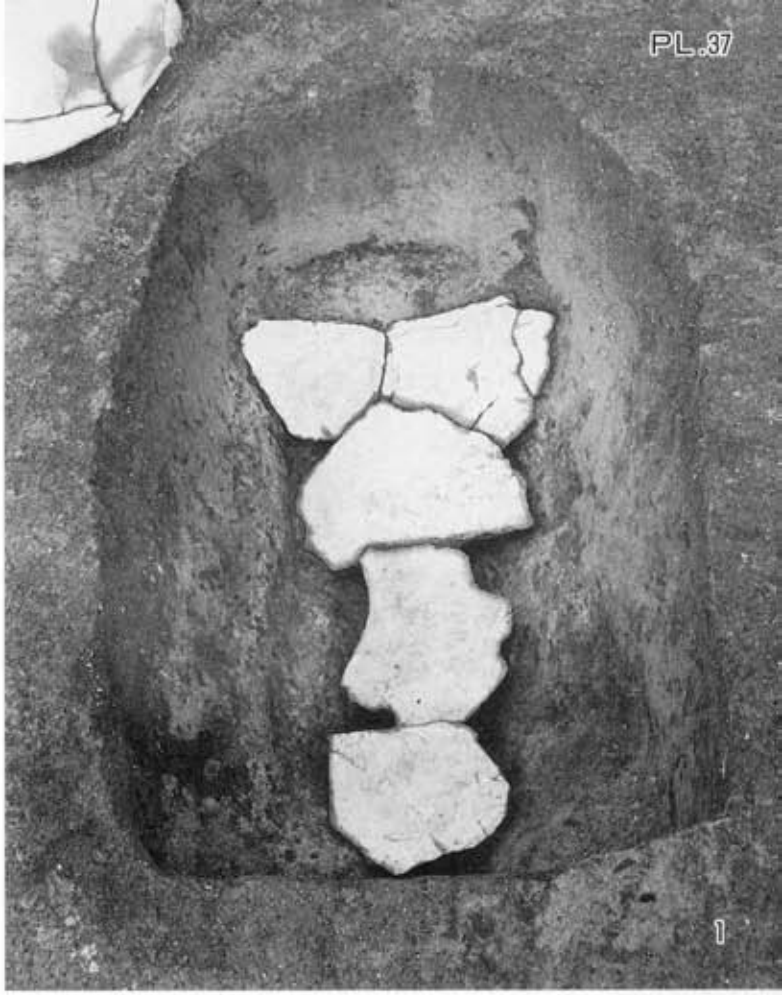


東山田一本杉遺跡Ⅰ区

1．ＳＰ016石蓋土壙墓
蓋石
（東から）

2．ＳＰ016石蓋土壙墓
土壙

3．ＳＰ036石蓋土壙墓
（東から）

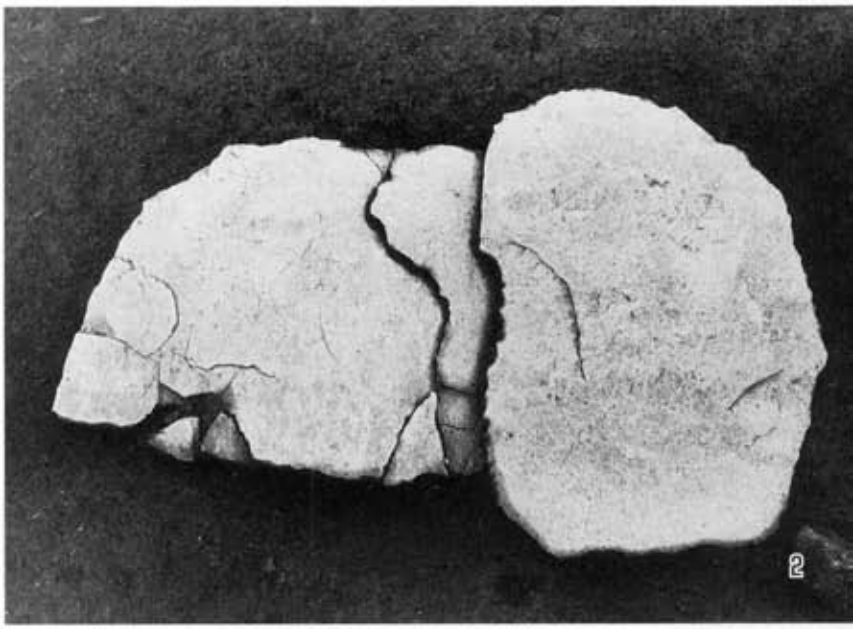


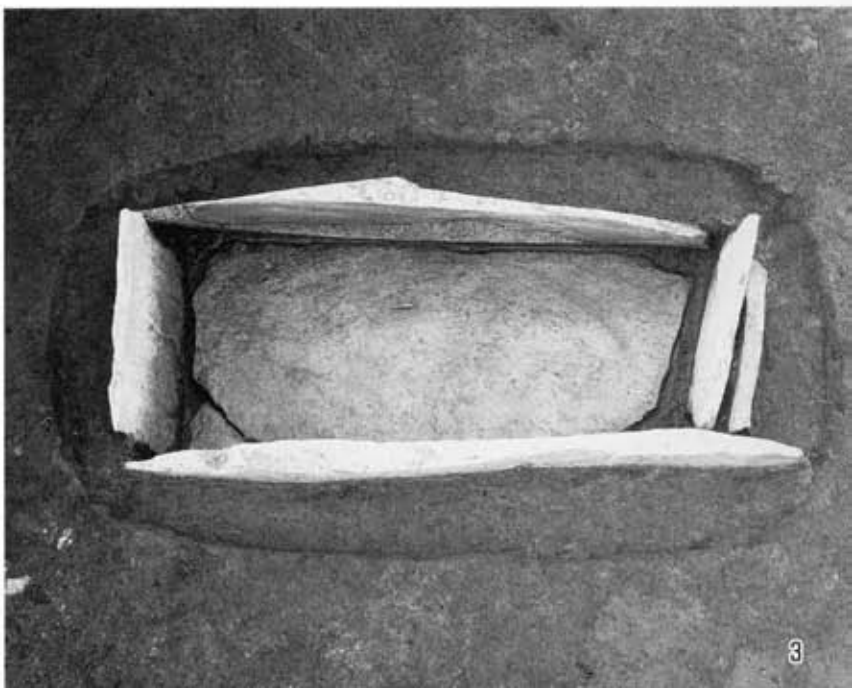
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
ＳＰ151石蓋土壙墓
1．蓋石（南から）
2．土壙（西から）

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＰ056配石土壙墓
（北東から）
2．ＳＰ073配石土壙墓
（南から）
3．ＳＰ138配石土壙墓
（東から）

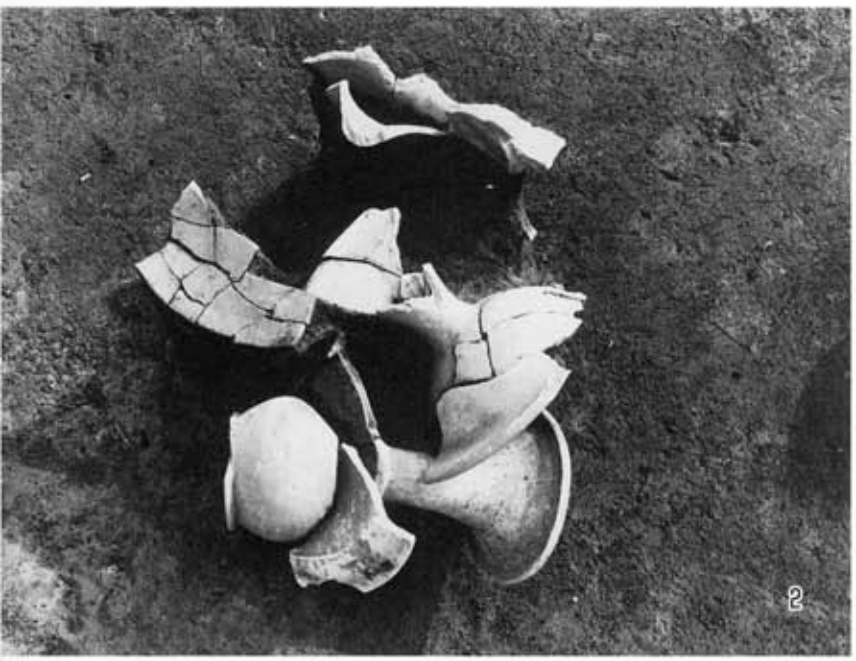
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＰ006　配石土壙墓（北から）
2．ＳＰ090　配石土壙墓（南から）

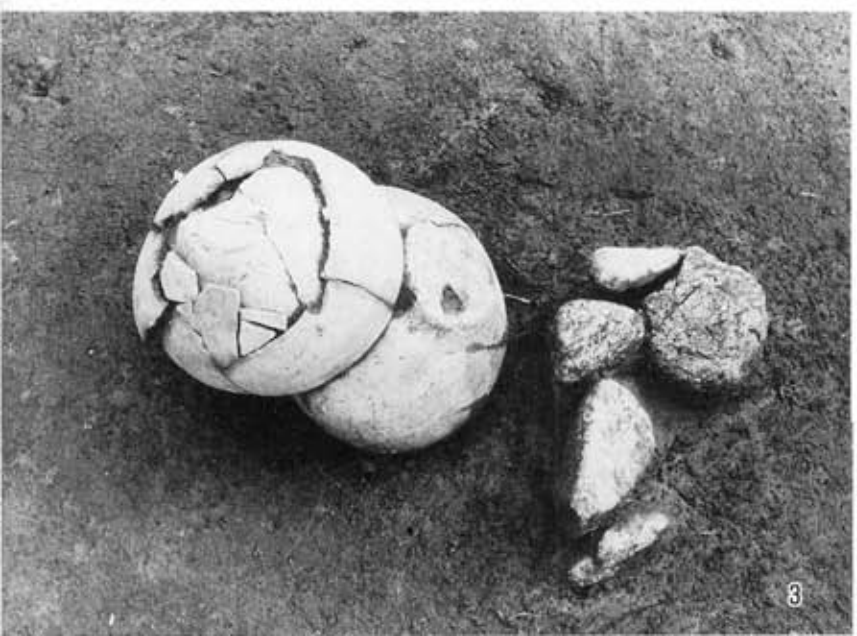
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＰ049土壙墓
（北西から）
2．ＳＰ058土壙墓
（南から）
ＳＰ125土壙墓
（南から）





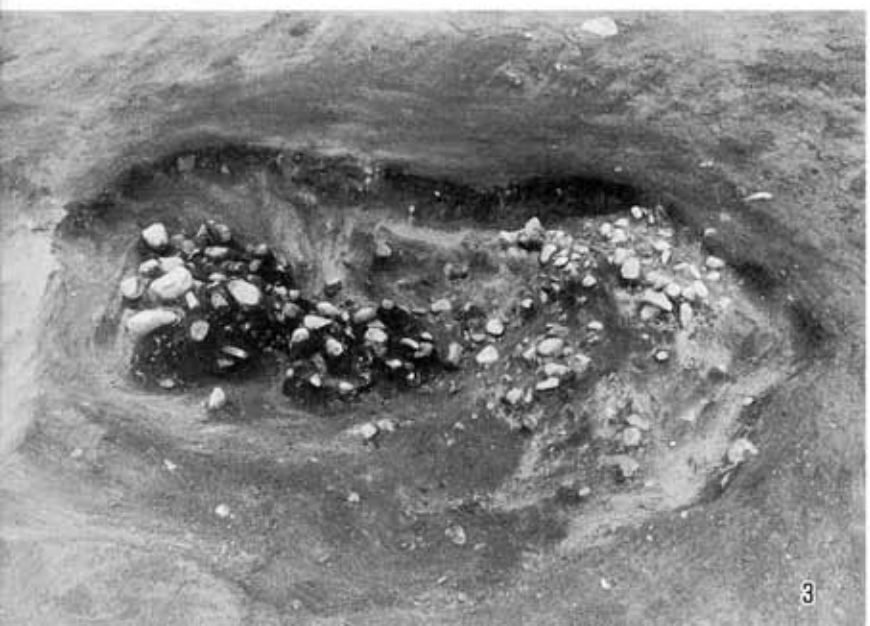
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．ＳＣ018石棺墓
（南東から）
2．ＳＣ110石棺墓（蓋）
（南東から）
3．ＳＣ110石棺墓（身）
（南東から）




東山田一本杉遺跡Ⅰ区
ＳＸ028祭祀土器群
出土状況
1．全景（西から）
2．北群（西から）
3．南群（西から）

東山田一本杉遺跡Ⅰ区
1．SK106土壙
（北から）
2．SK070土壙
（北から）
3．SK112・114
土壙
（東から）

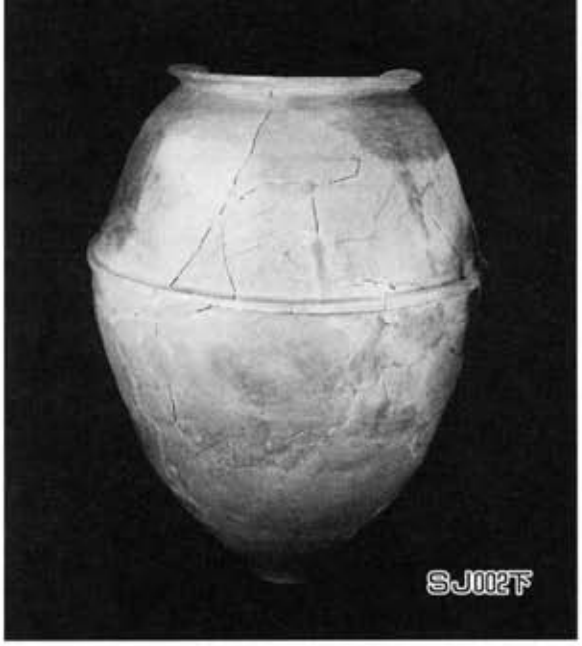


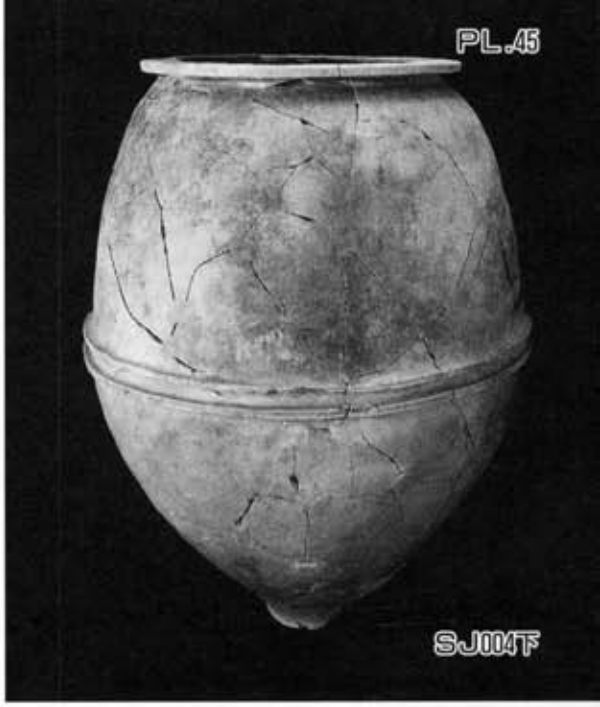
東山田一本杉遺跡Ⅰ区

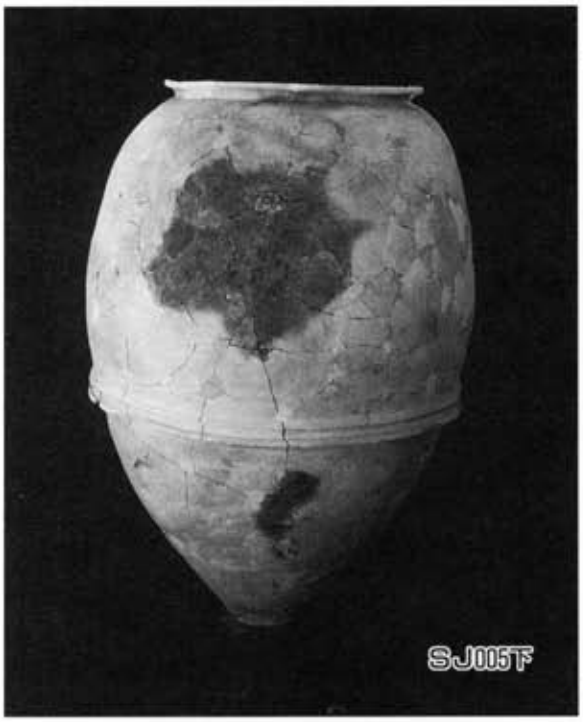
1．ＳＫ117土壙
（東から）

2．ＳＫ119土壙
（南から）

3．ＳＫ133土壙
（東から）


SJ002下


SJ004下

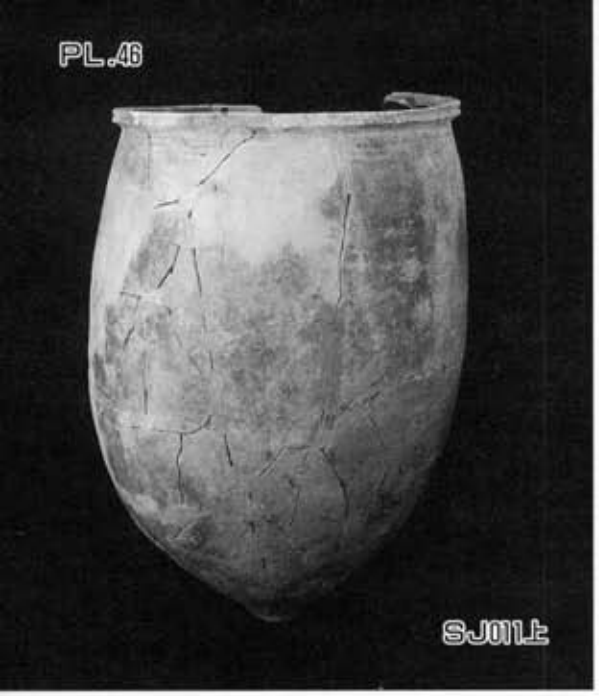

SJ005下

SJ007下

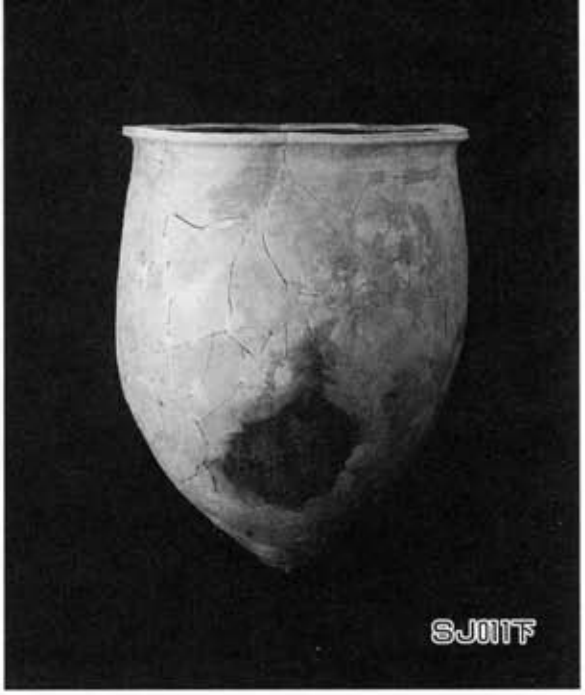
SJ009下

SJ010下

PL.46

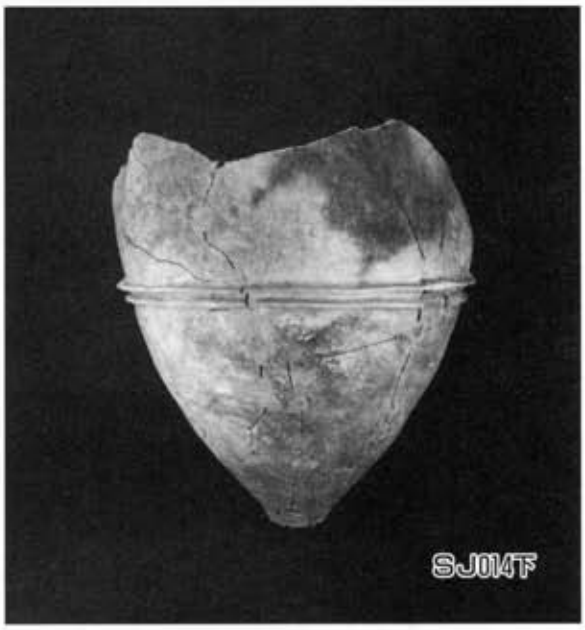


SJ011上



SJ011下

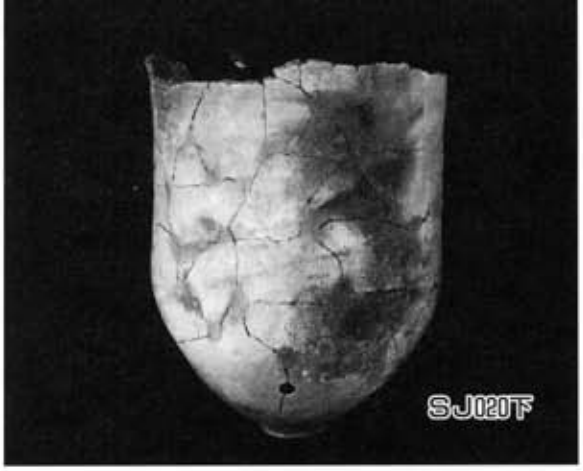
SJ012下



SJ014下

SJ013下

SJ019下


SJ020下

SJ021下

SJ022下

SJ025下

SJ023上

SJ023下

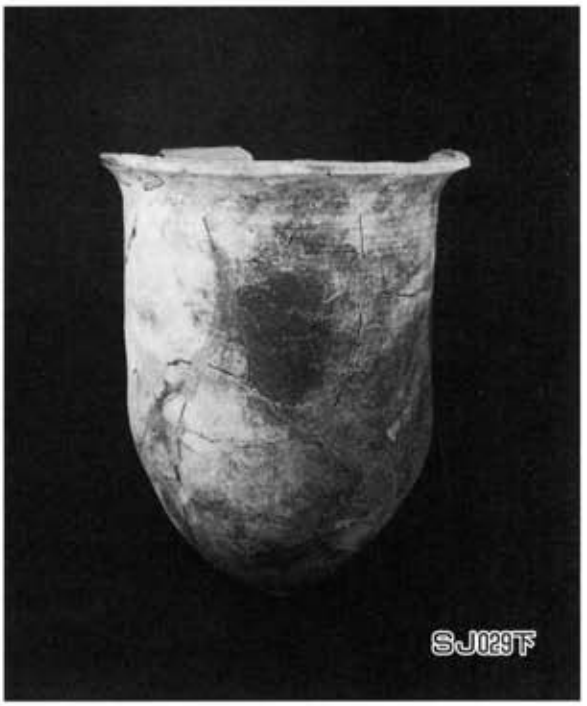
SJ027

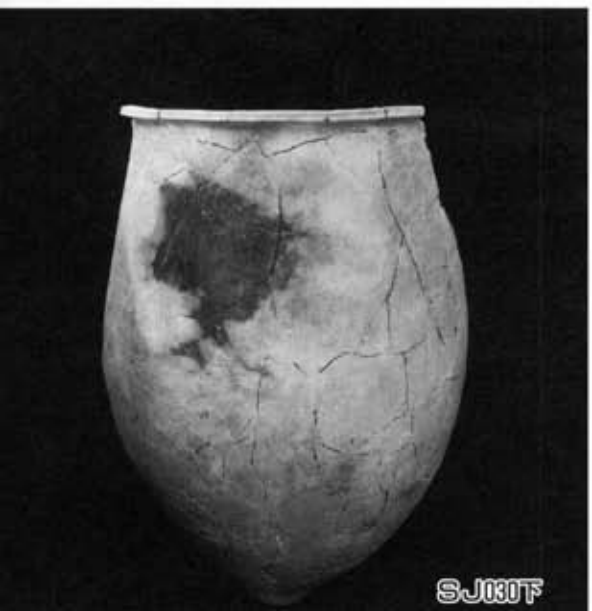
PL.48

SJ026上

SJ026下

SJ029上


SJ029下

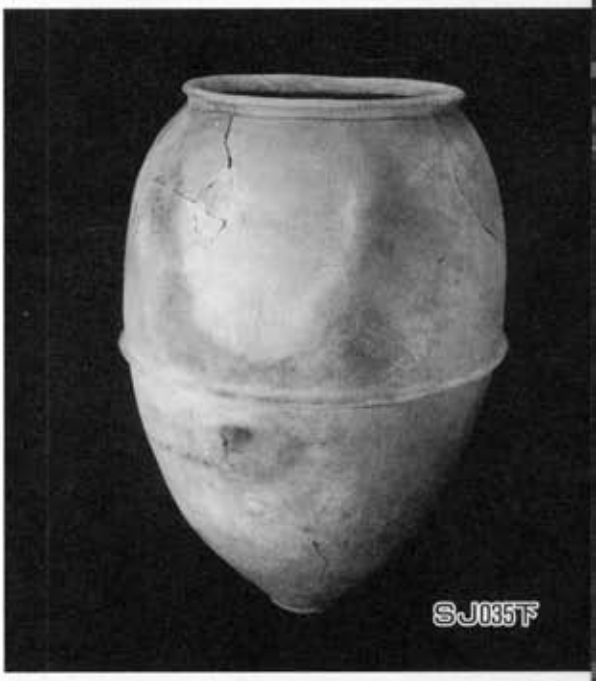

SJ030下

SJ030下線刻

SJ032上

SJ034下

SJ035上


SJ035下

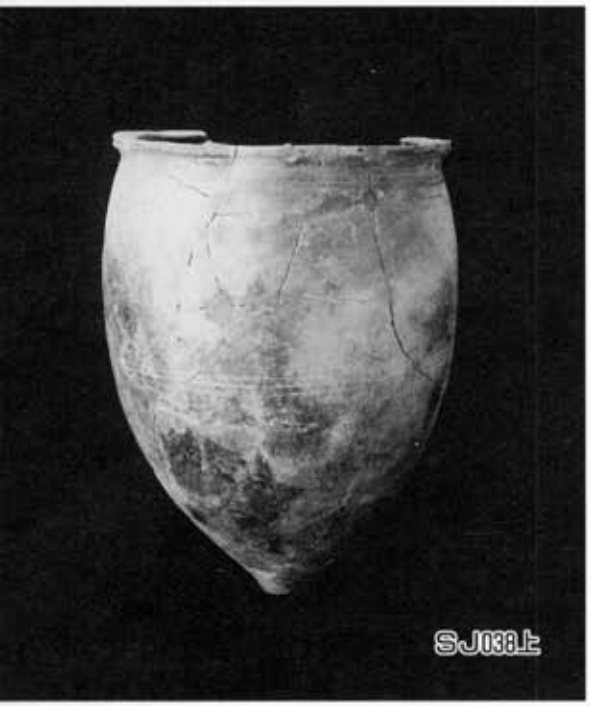
SJ036上

SJ036下

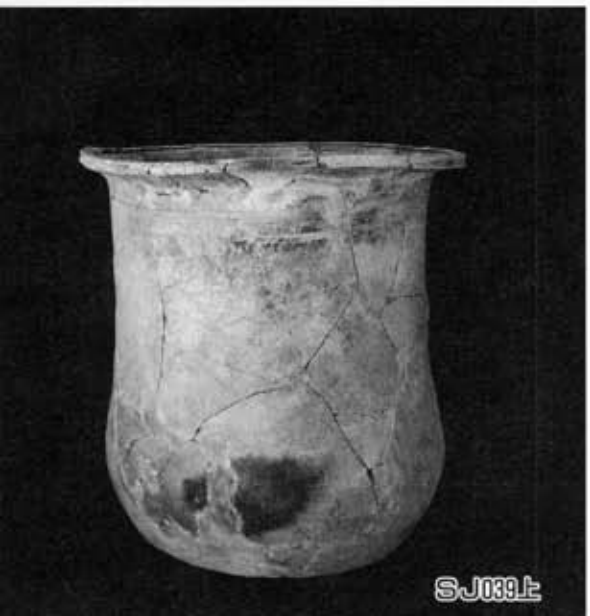
PL.50

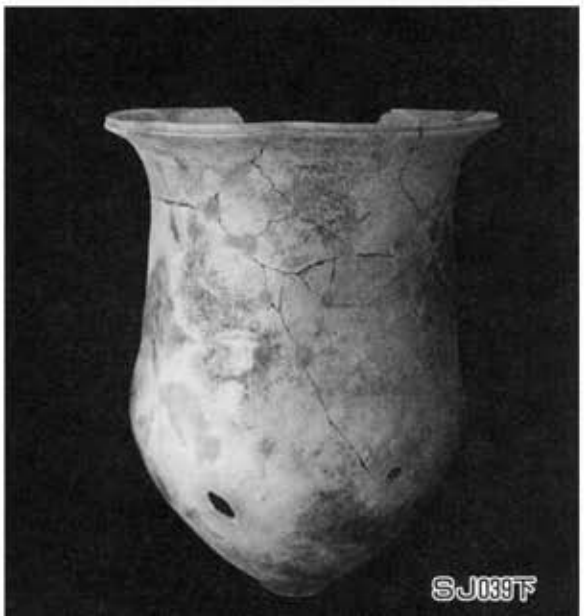
SJ037上

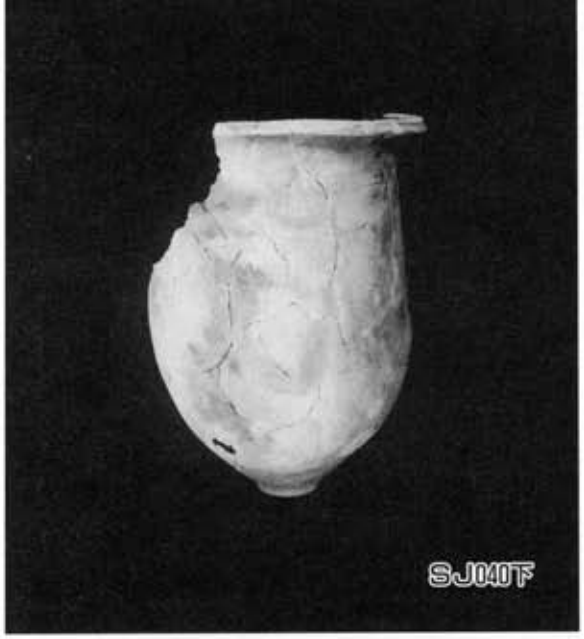
SJ037下

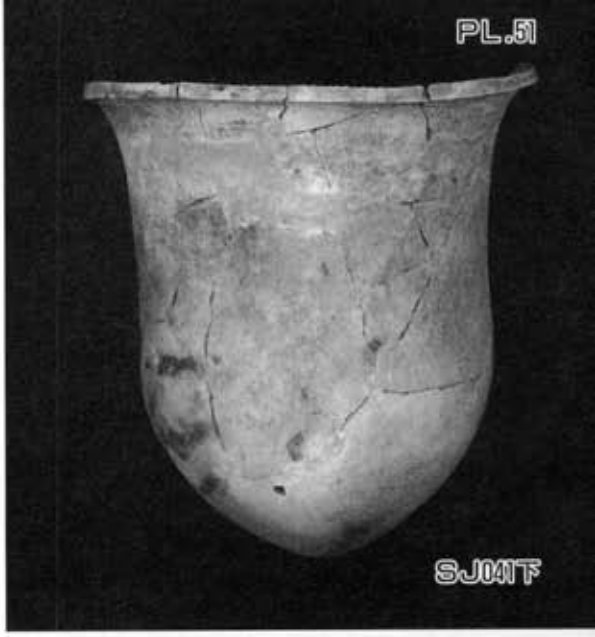

SJ038上

SJ038下


SJ039上


SJ039下


SJ040下


SJ041下

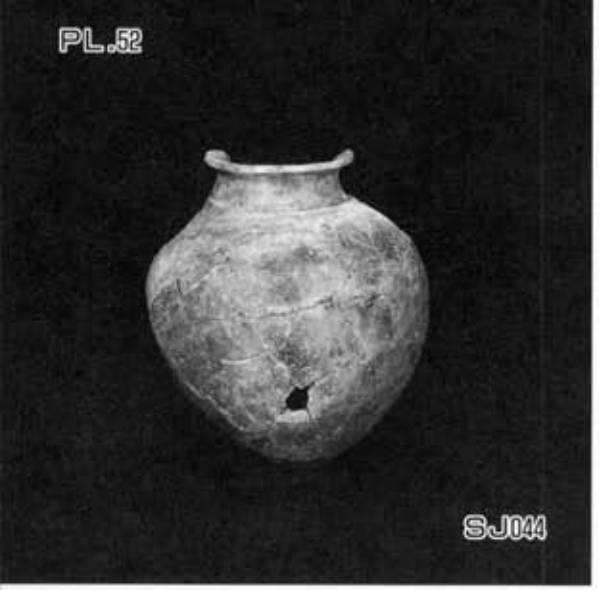
SJ042上

SJ042下

SJ043上

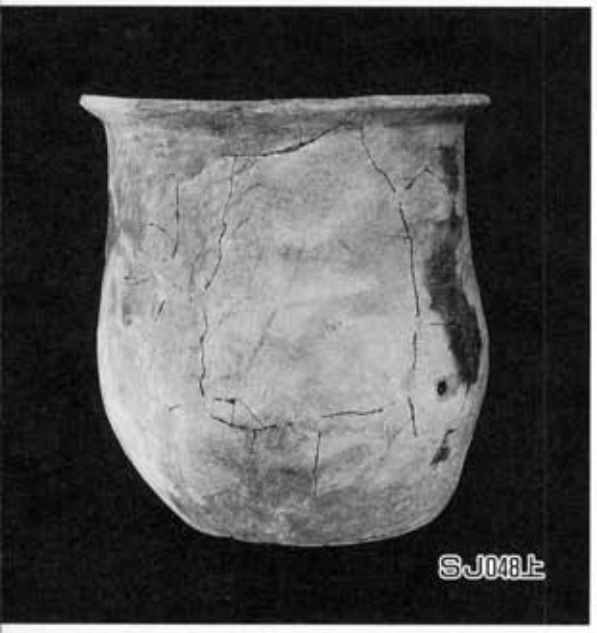
SJ043下

PL.52



SJ044

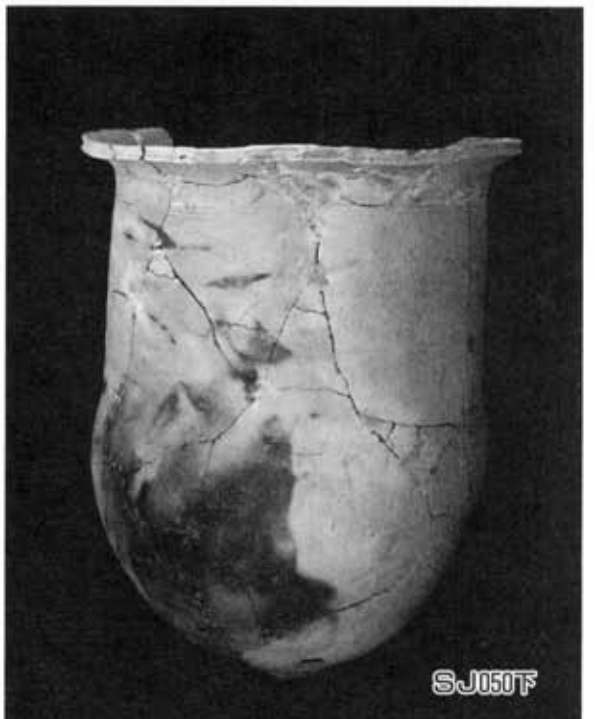
SJ045



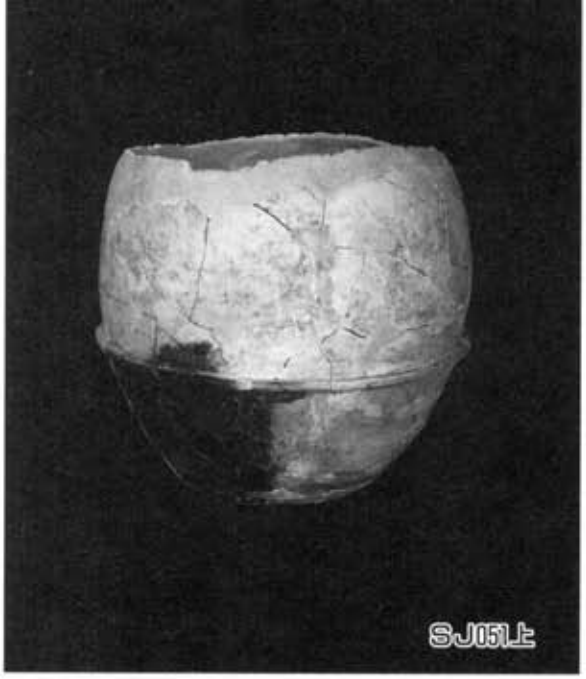
SJ048上

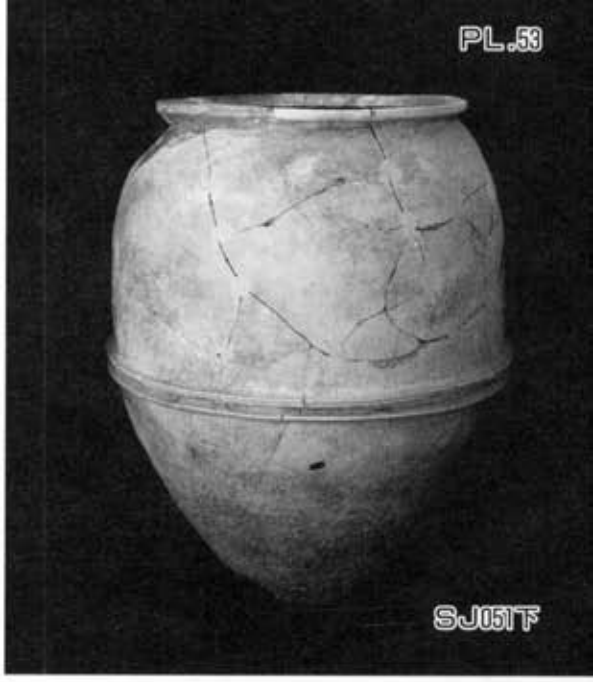
SJ047下

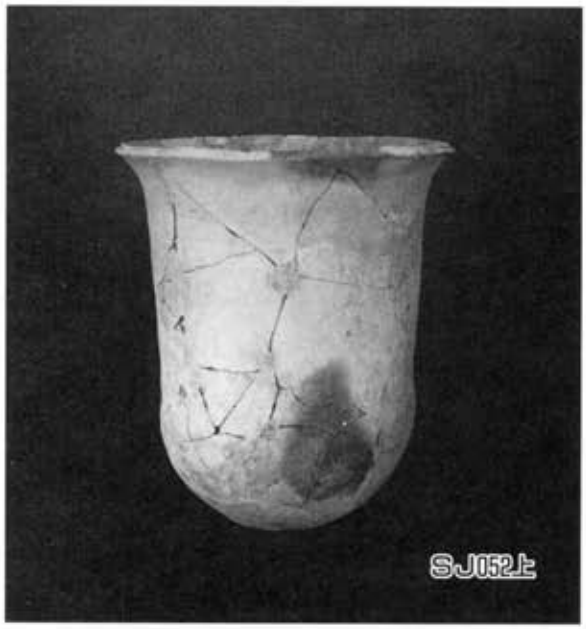
SJ050上



SJ050下


SJ051上


SJ051下


SJ052上

SJ052下

SJ053上

SJ053下

PL.54

SJ054上

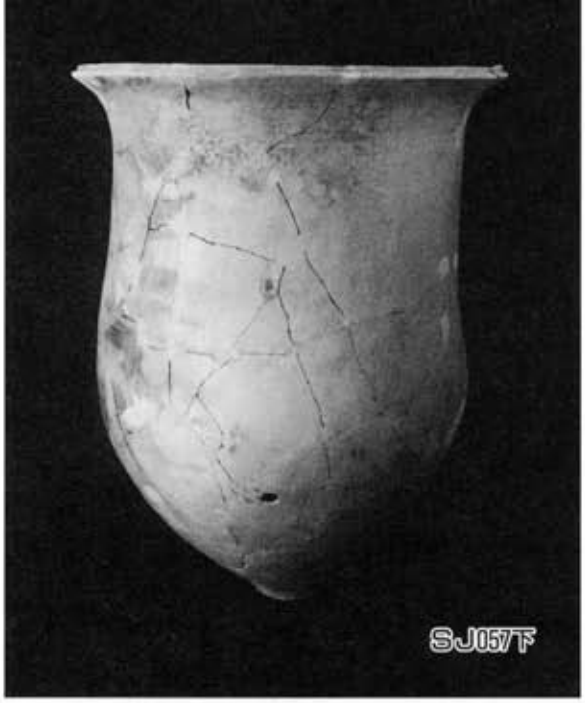
SJ054下

SJ055上

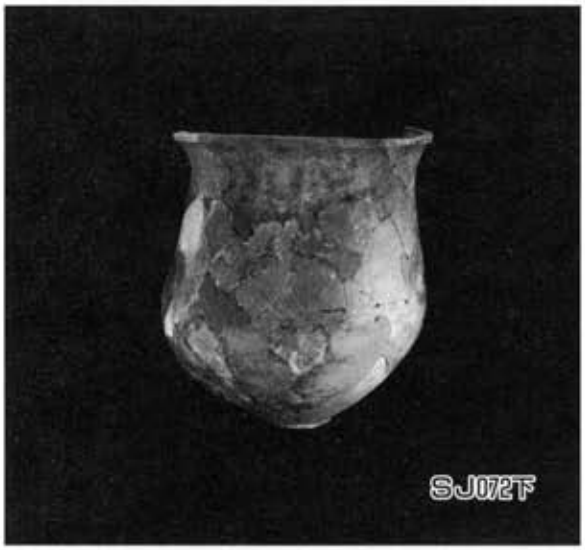
SJ055下

SJ059上

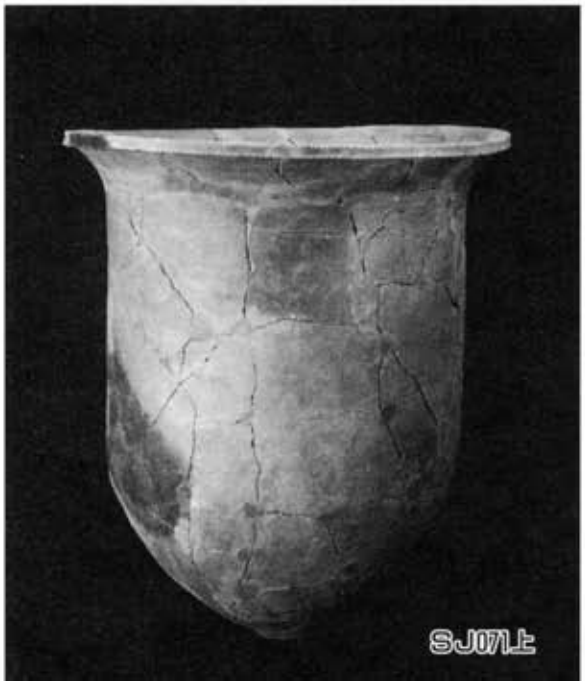
SJ059下

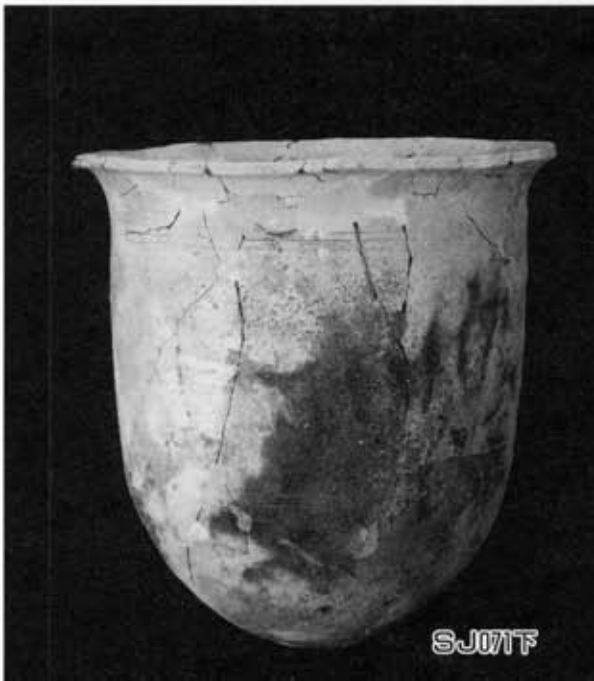

SJ057下

SJ060下

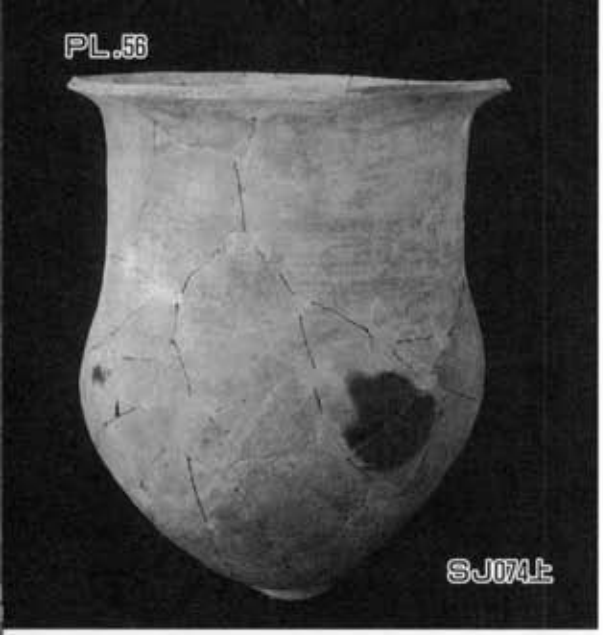

SJ072下

SJ064下


SJ071上

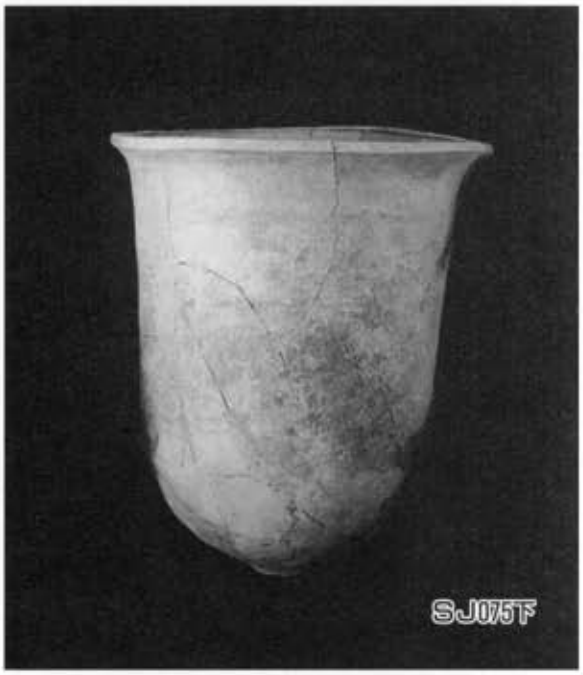

SJ071下

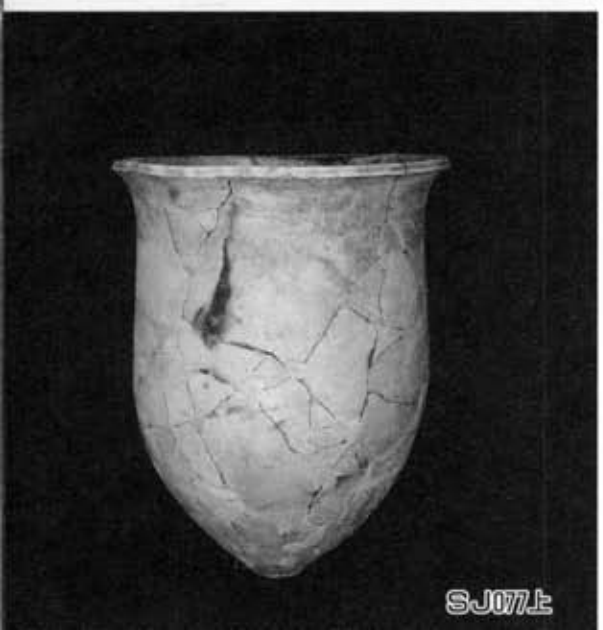
PL.56


SJ074上

SJ074下

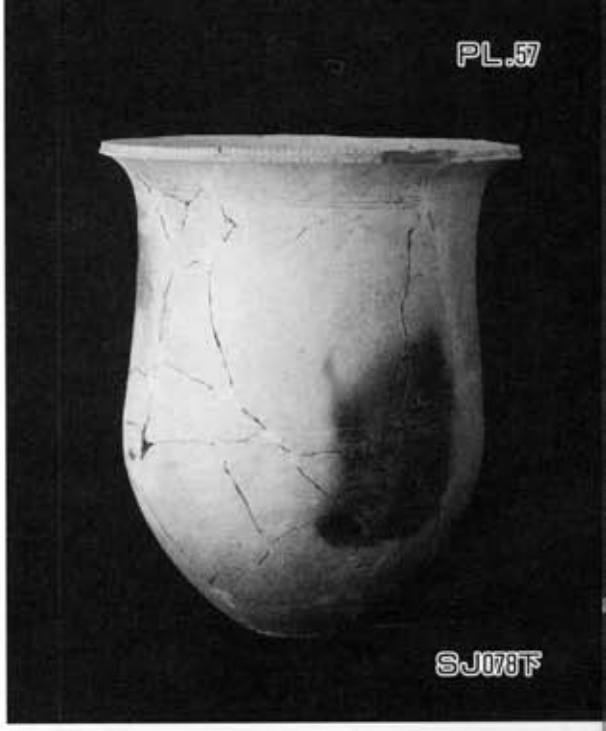
SJ075上


SJ075下


SJ077上

SJ077下

SJ078上



SJ078下

SJ079上

SJ079下

SJ081上

SJ081下

PL.58

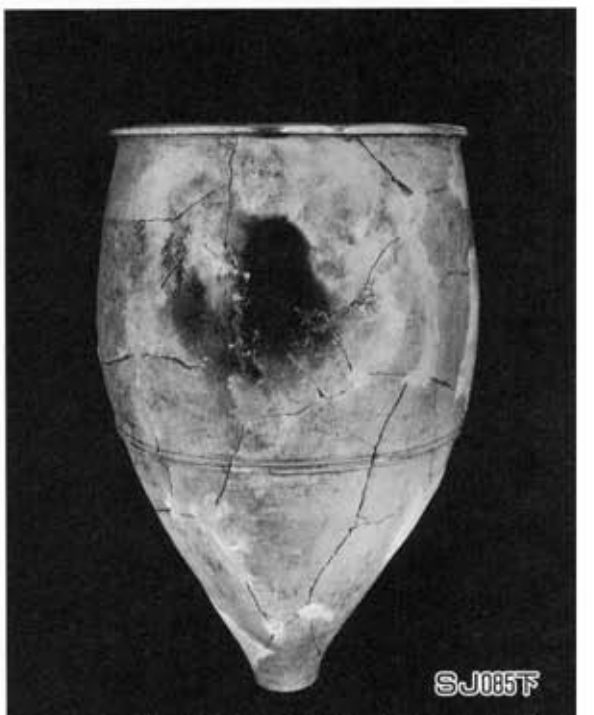
SJ083上

SJ083下

SJ084上

SJ084下

SJ085上


SJ085下

SJ086

SJ089下

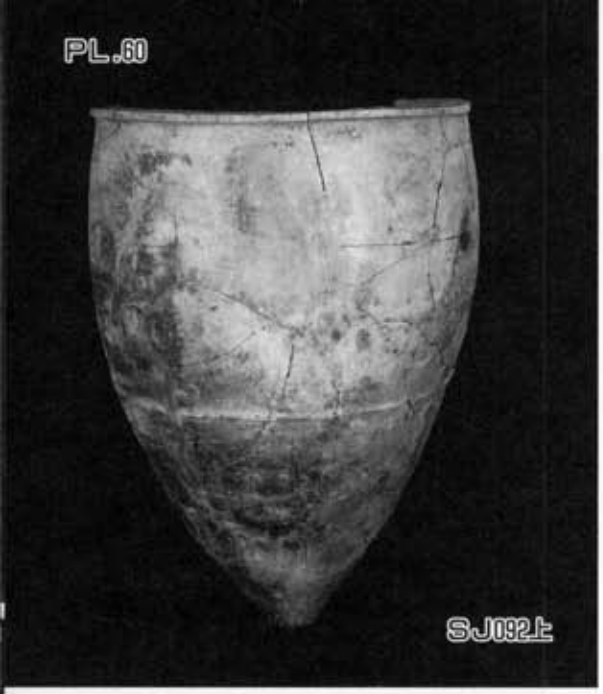
SJ087上

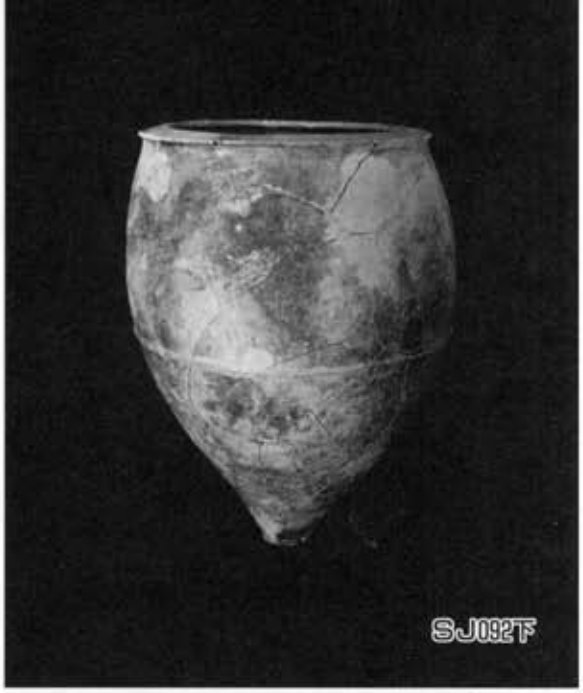
SJ087下

SJ088上

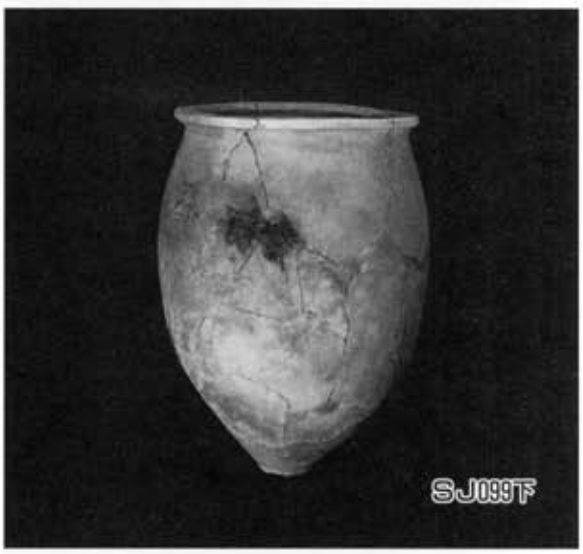
SJ088下

PL.60


SJ092上


SJ092下

SJ099上


SJ099下

SJ093下

SJ108上

SJ108下

SJ111上

SJ111下

SJ113上

SJ113下

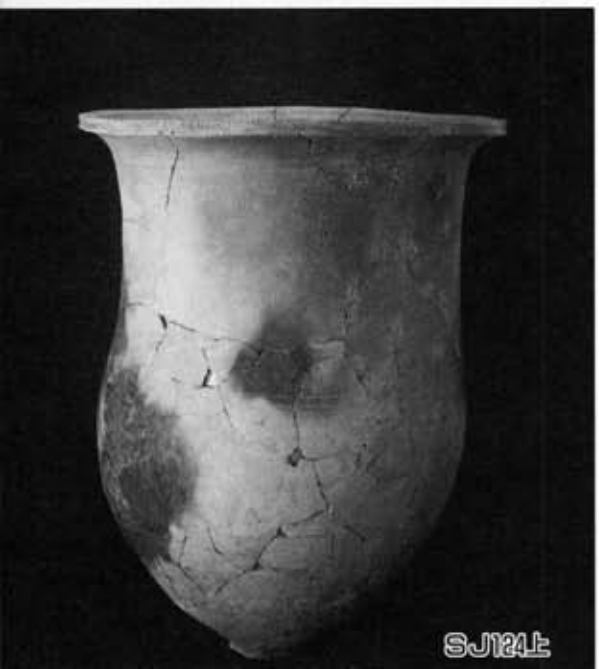
PL.62

SJ115上

SJ115下

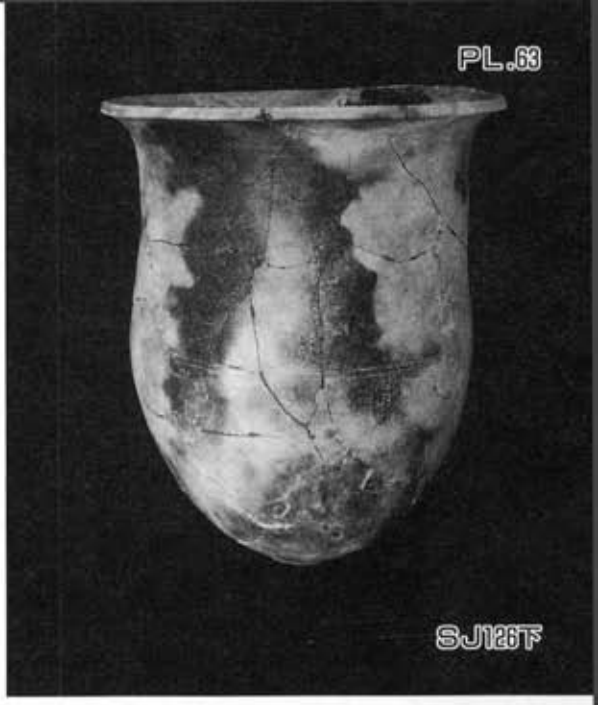
SJ121下

SJ122下


SJ124上

SJ124下

SJ126上


SJ126下

SJ127上

SJ127下

SJ129上

SJ129下

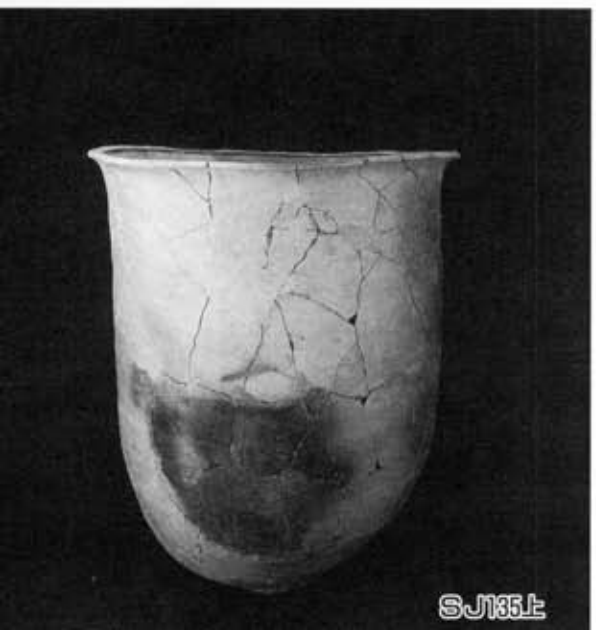
PL.64

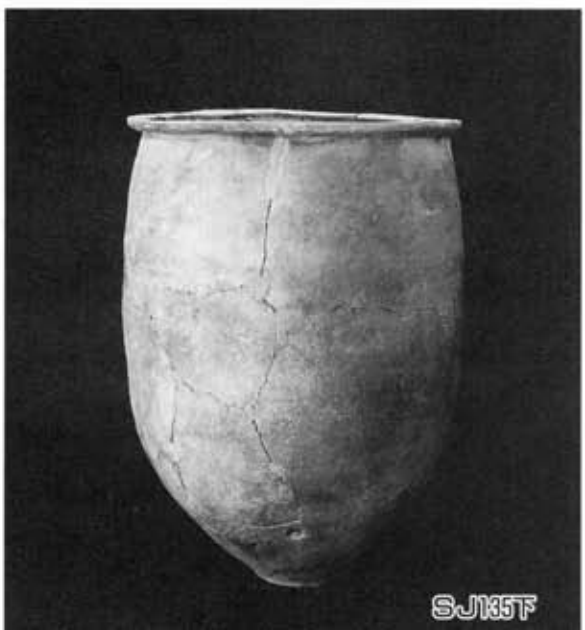
SJ130上

SJ130下

SJ131上

SJ131下


SJ135上

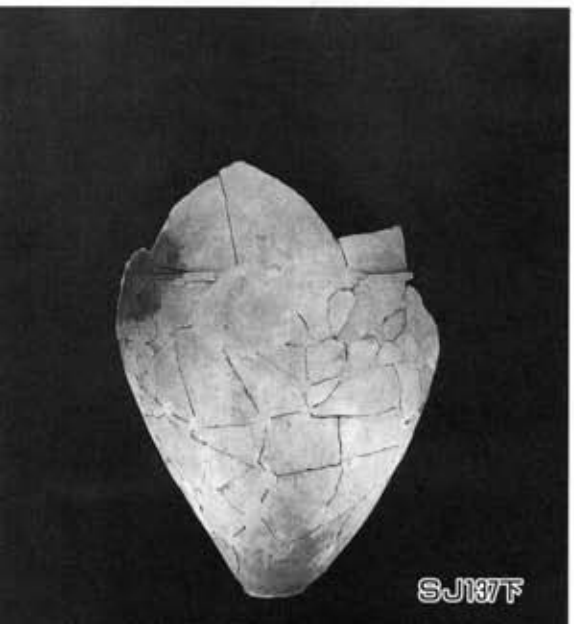

SJ135下

SJ139上

SJ139下

SJ142上

SJ142下


SJ137下

PL.66

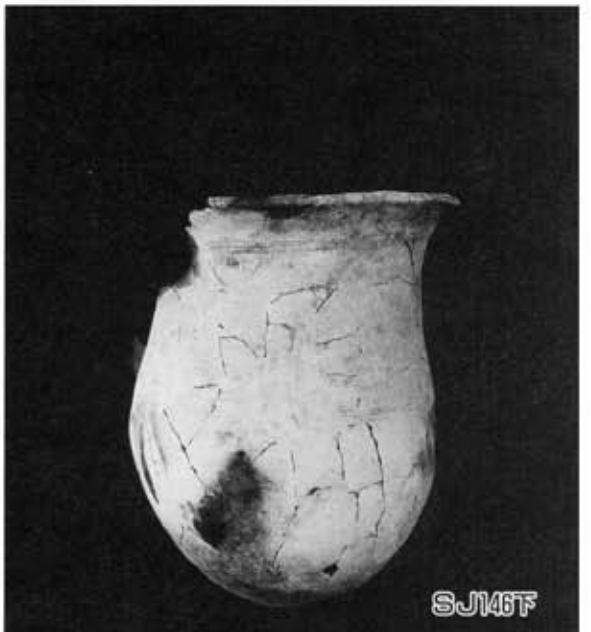
SJ143上

SJ143下

SJ141下

SJ144下

SJ145下


SJ146下

SJ147上

SJ147下

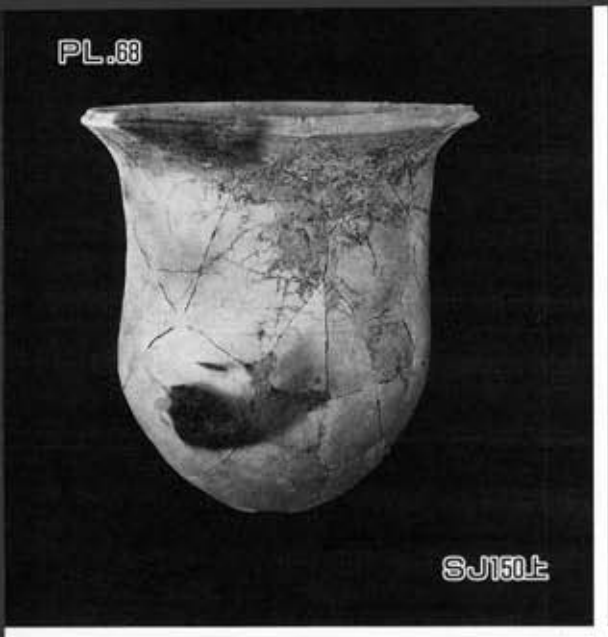
SJ148上

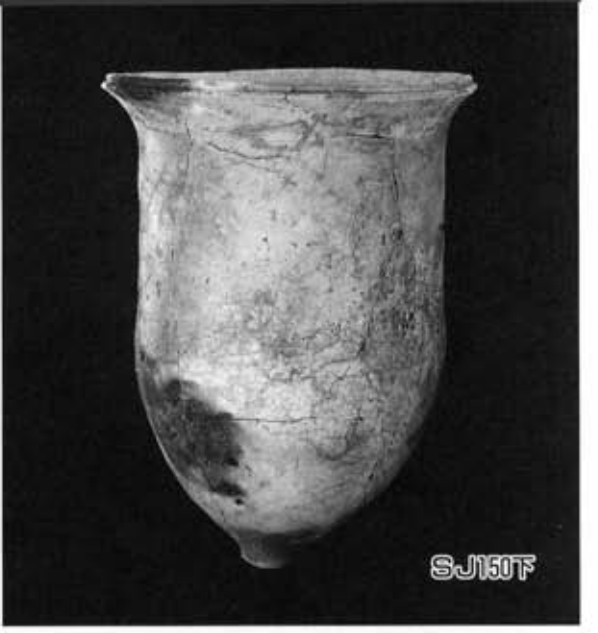
SJ148下

SJ149上

SJ149下

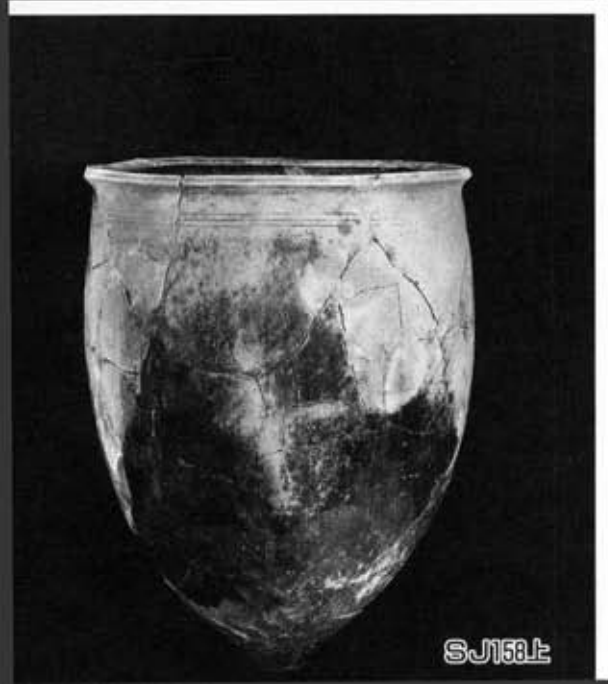
PL.68


SJ150上


SJ150下

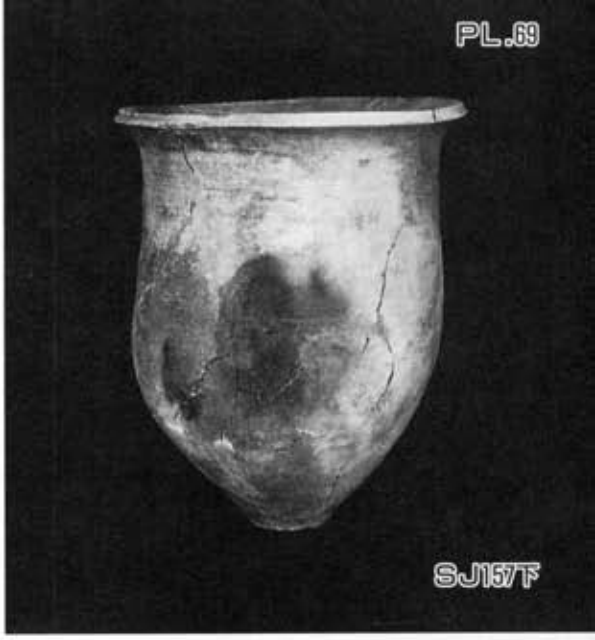
SJ153下

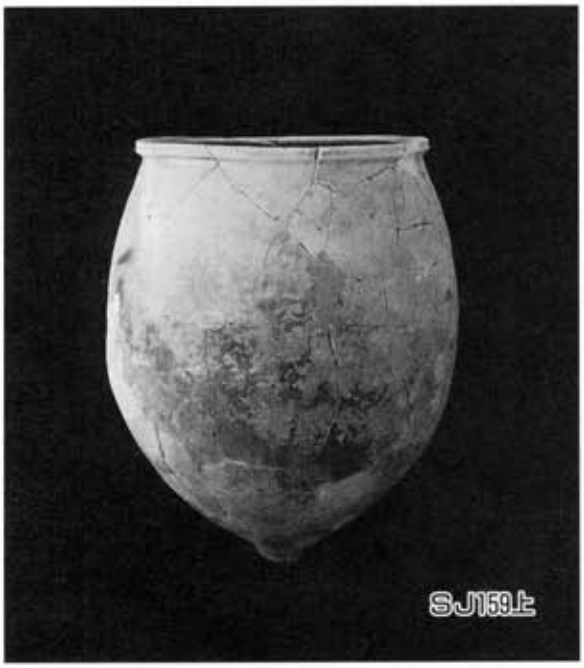
SJ158下


SJ158上

SJ158下

SJ157上


SJ157下

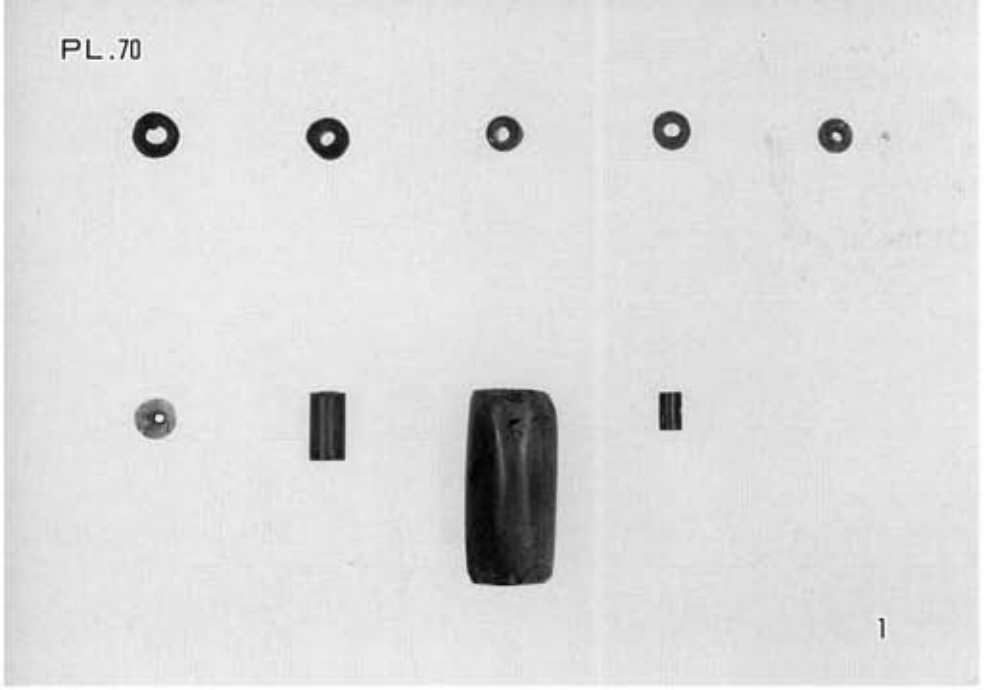

SJ159上

SJ159下

SJ160下

SJ161下

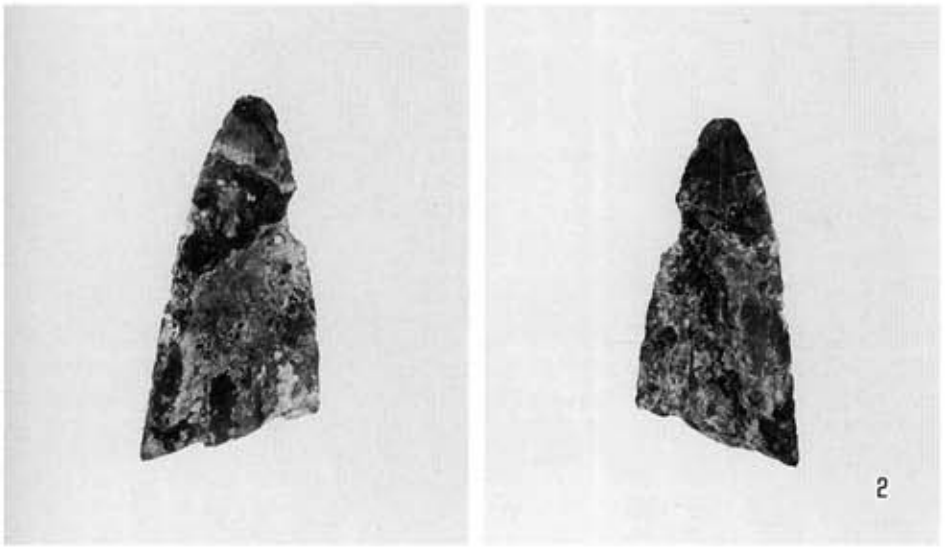
PL.70



1

玉類

上段　左4点はSJ019
　　右1点はSJ078
下段　左3点はSJ072
　　右1点はSJ052

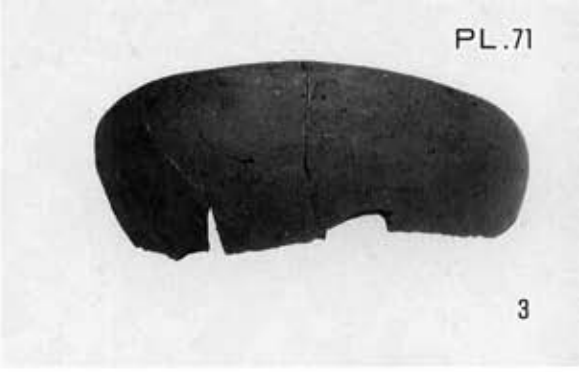


2

銅剣

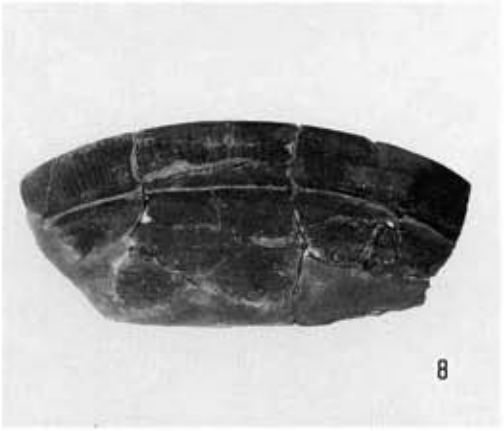
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
玉類・銅剣(実大)

1


3

2

10


8

11

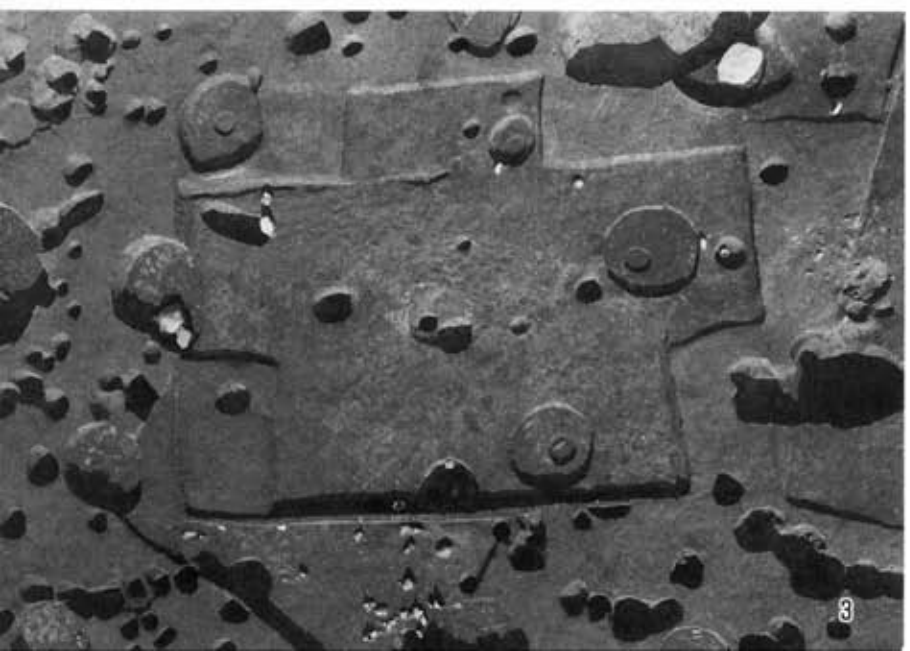
4

5

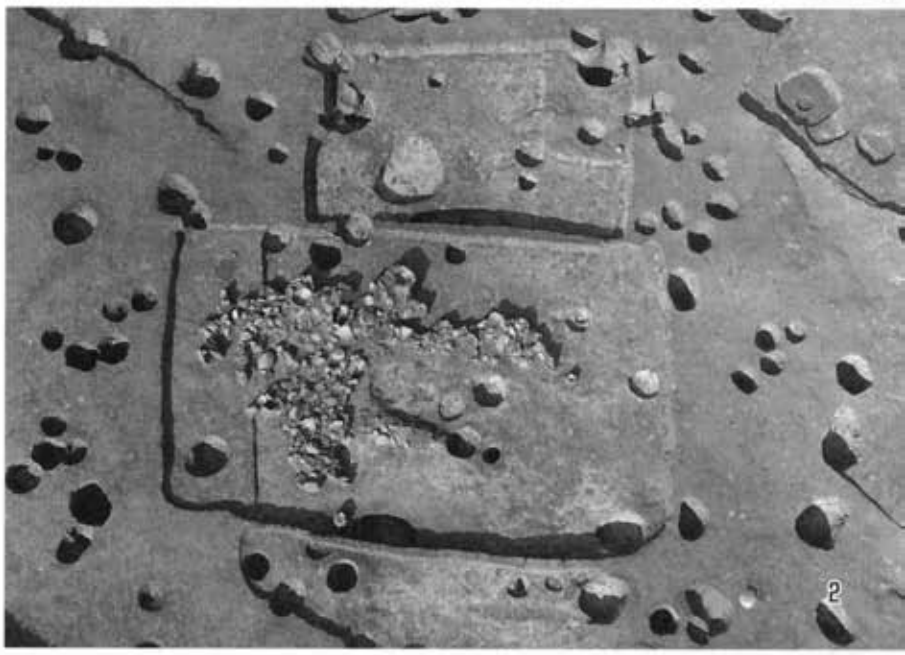
東山田一本杉遺跡Ⅰ区
ＳＸ028祭祀関係遺構出土土器　　番号は遺物実測図に一致

# 東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
# 西山田二本松遺跡B区

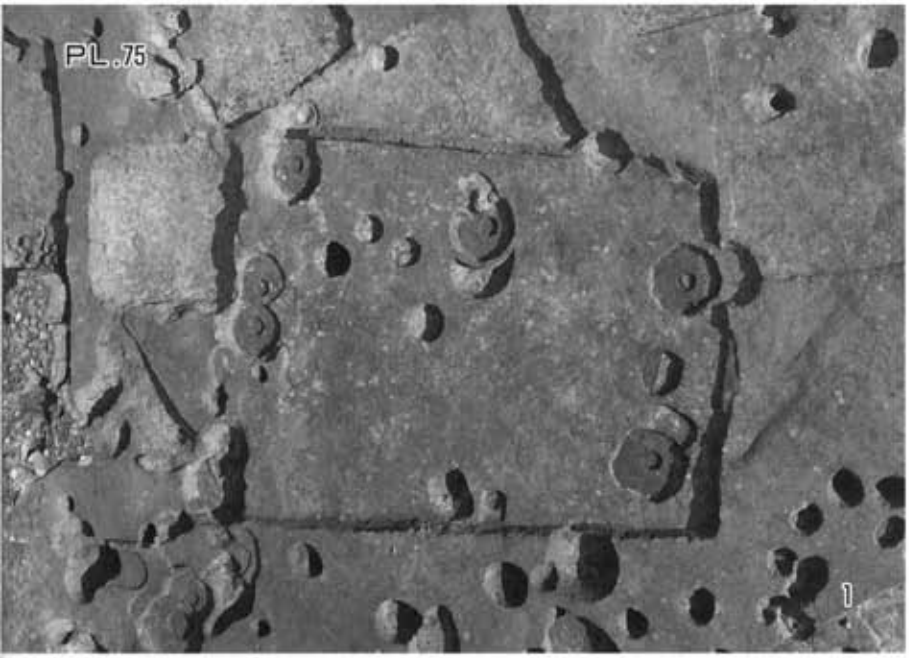
1．東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区周辺近景(西から)
2．西山田二本松遺跡Ｂ区周辺近景(南から)

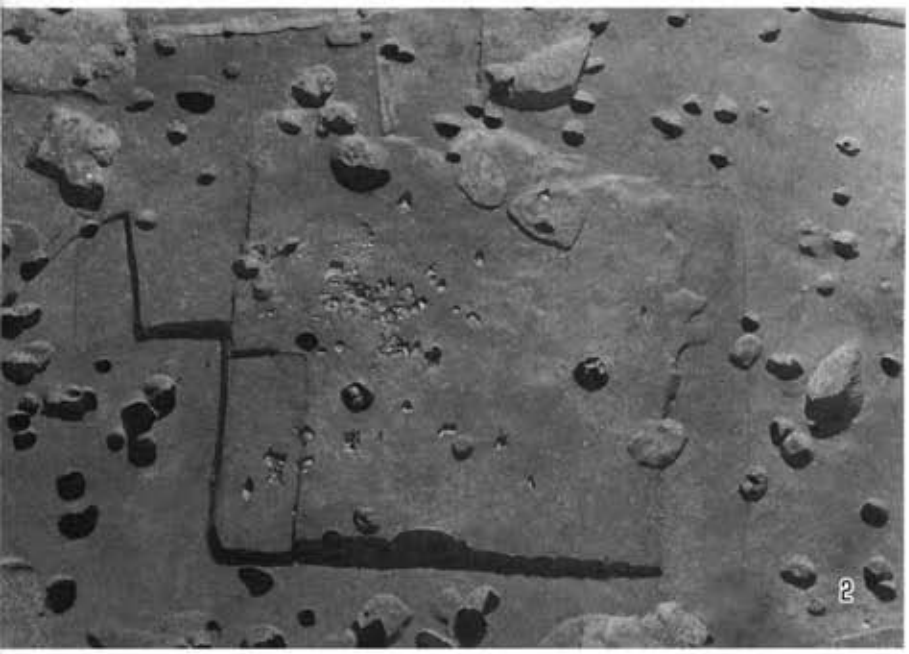


東山田一本杉遺跡II・III区
1．SB165竪穴住居跡（西から）
2．SB235竪穴住居跡（北から）
3．SB238竪穴住居跡（真上から）

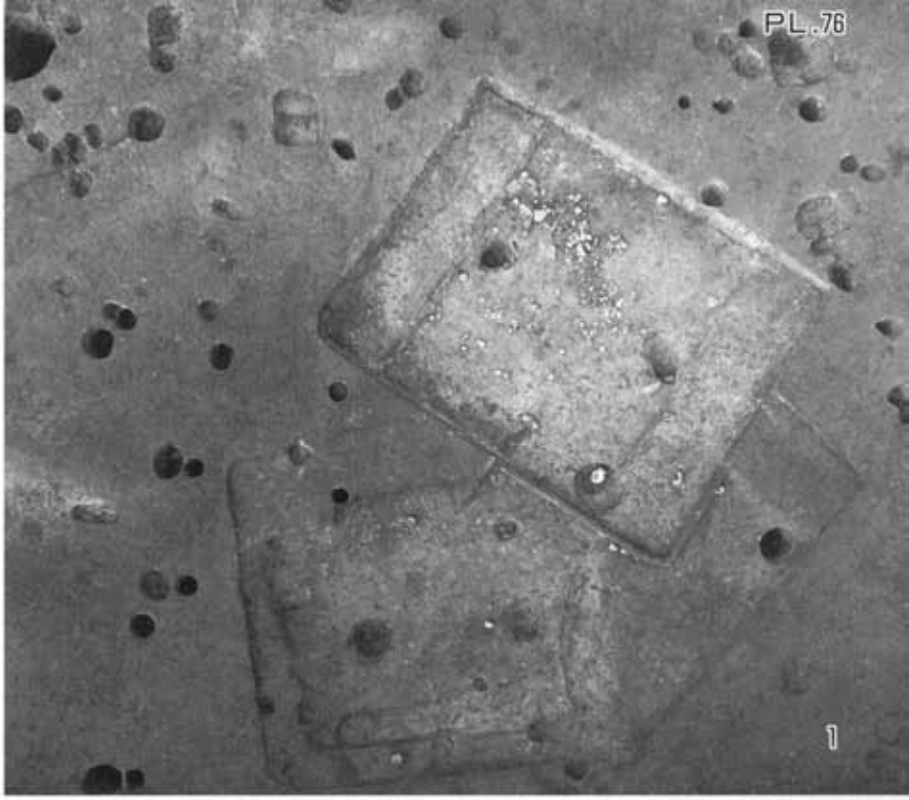


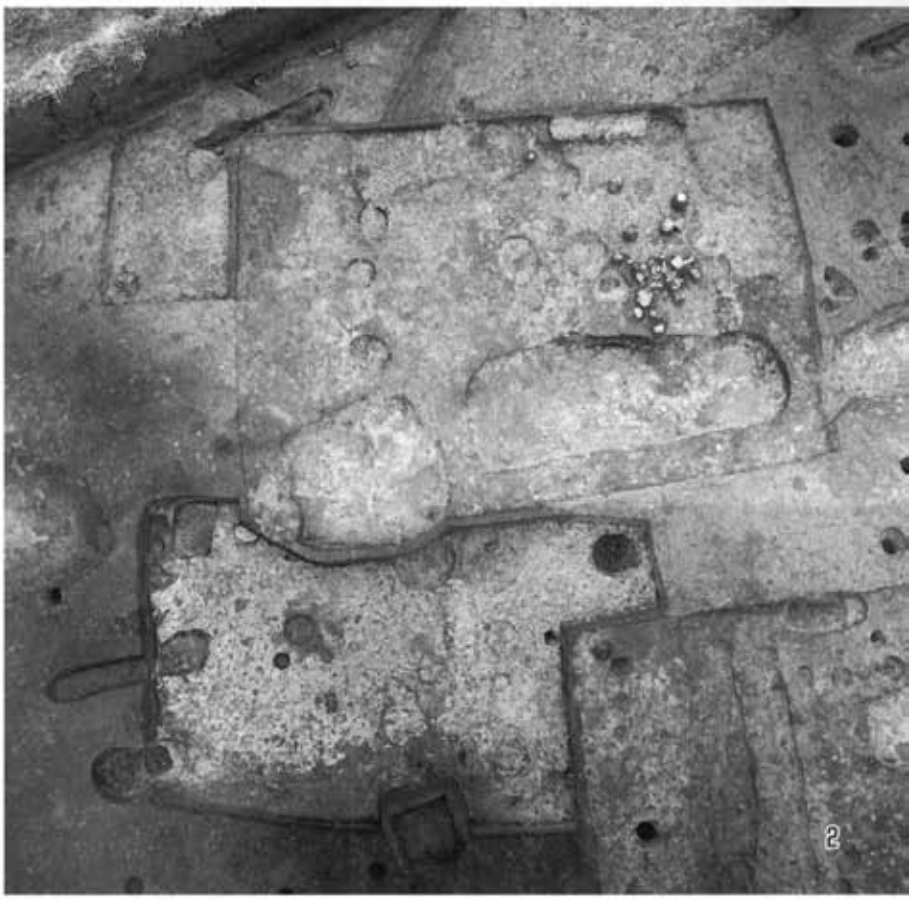
東山田一本杉遺跡II・III区
1．SB247竪穴住居跡（真上から）
2．SB248・249竪穴住居跡（真上から）
3．SB264竪穴住居跡（真上から）



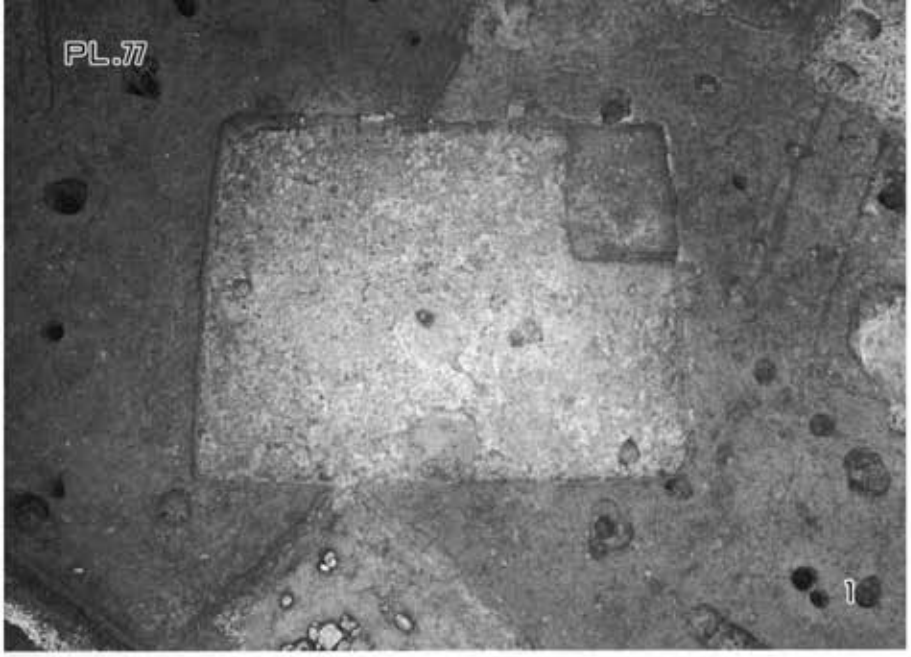


東山田一本杉遺跡II・III区
1．SB267竪穴住居跡（真上から）
2．SB269・273竪穴住居跡（真上から）
3．SB298竪穴住居跡（真上から）



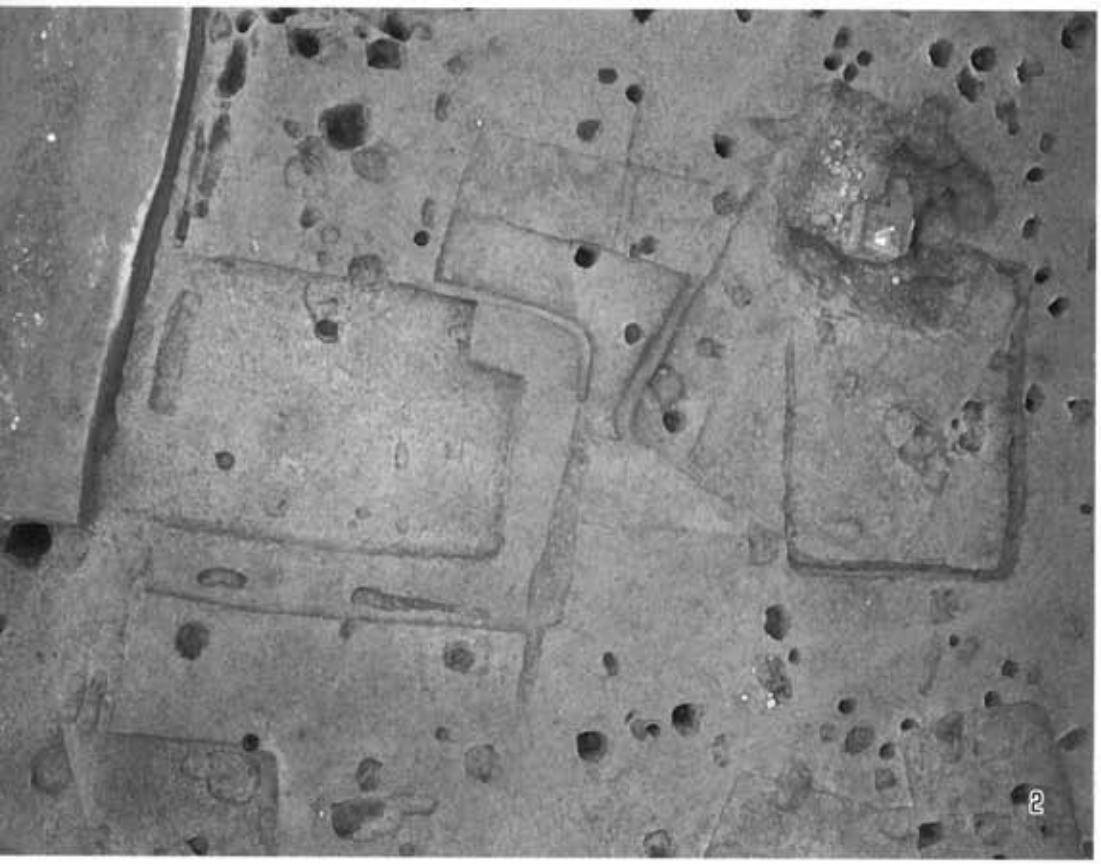




東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区
1．ＳＢ298・299・300竪穴住居跡（真上から）
2．ＳＢ355・359・365・387竪穴住居跡（真上から）

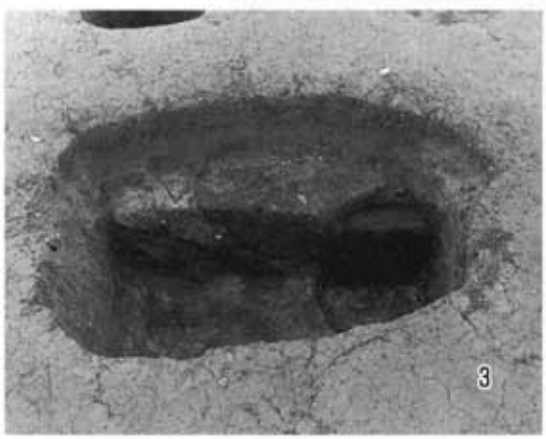


東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区
1．ＳＢ301竪穴住居跡（真上から）
2．ＳＢ348竪穴住居跡（真上から）
3．ＳＢ391・400竪穴住居跡（北から）

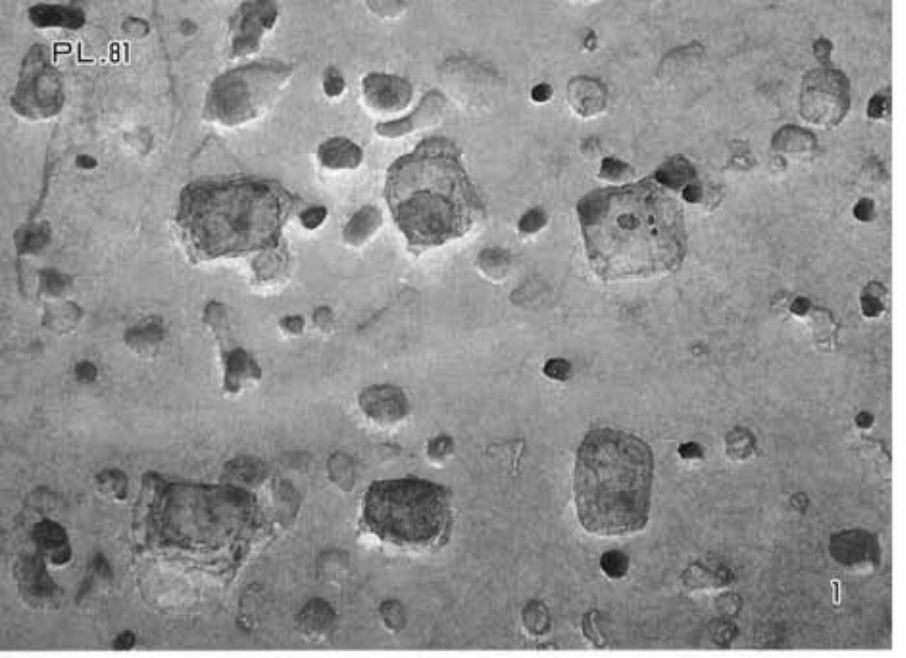
東山田一本杉遺跡II・III区
西山田二本松遺跡B区
1．SB393・394竪穴住居跡（南から）
2．SB54竪穴住居跡（南から）
3．SB64竪穴住居跡（南から）



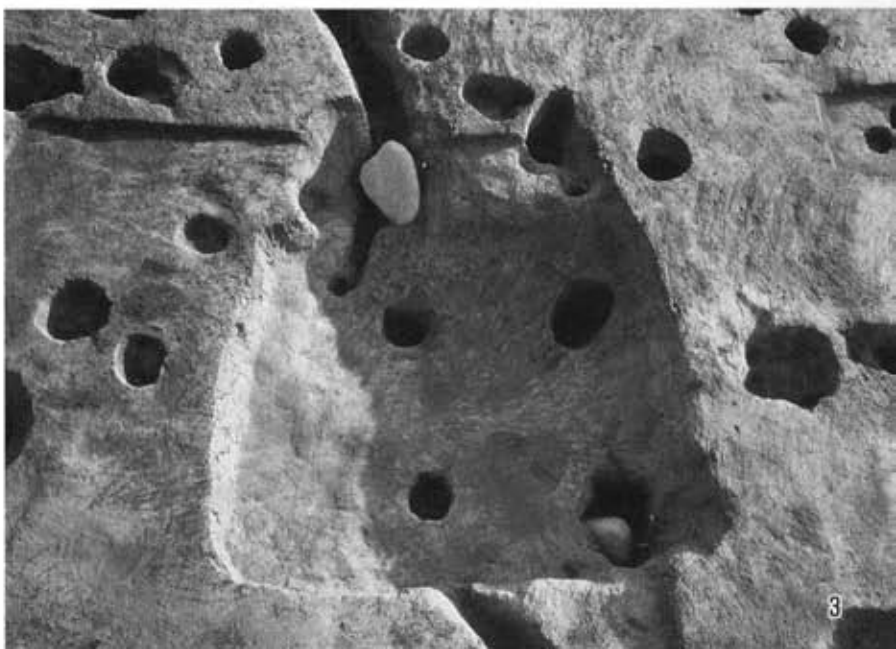
西山田二本松遺跡Ｂ区
1．ＳＢ05～10竪穴住居跡（真上から）
2．ＳＢ36・37・40・41竪穴住居跡（真上から）



東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区
1．ＳＢ76竪穴住居跡（南から）
2．ＳＢ179掘立柱建物跡（南から）
3・4．同柱穴断面（南から）



東山田一本杉遺跡Ⅱ・Ⅲ区
西山田二本松遺跡Ｂ区
1．ＳＢ26掘立柱建物跡（真上から）
2．ＳＸ302不明遺構（真上から）
3．ＳＫ220土壙（北から）

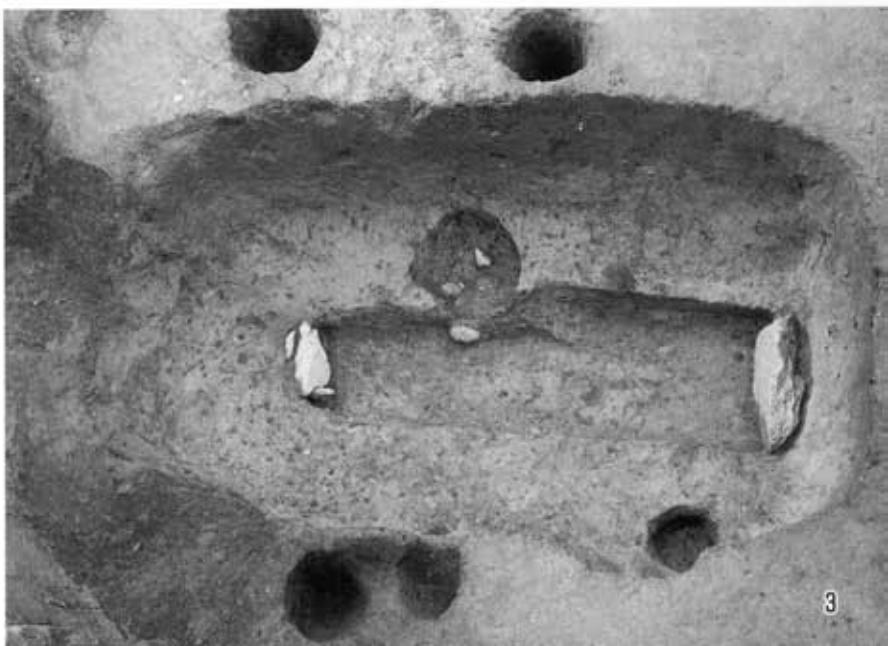


東山田一本杉遺跡II・III区
西山田二本松遺跡B区
1．SK210土壙（南から）
2．SK223土壙（北から）
3．SK50土壙（北から）

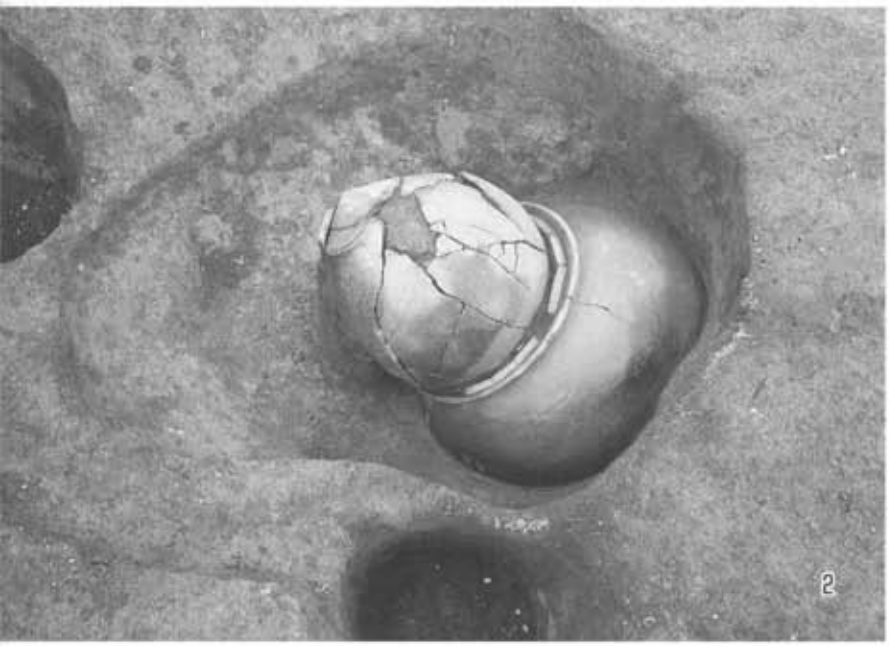
東山田一本杉遺跡II・III区
1．SP182土壙墓（北東から）
2．SP194土壙墓（南から）
3．SP197土壙墓（西から）

東山田一本杉遺跡II・III区
1．ＳＰ200土壙墓（北西から）
2．ＳＰ207土壙墓（南東から）
3．ＳＰ209土壙墓（南から）

東山田一本杉遺跡II・III区
1．SP212土壙墓（南から）
2．SP214土壙墓（北から）
3．SP230土壙墓（北から）

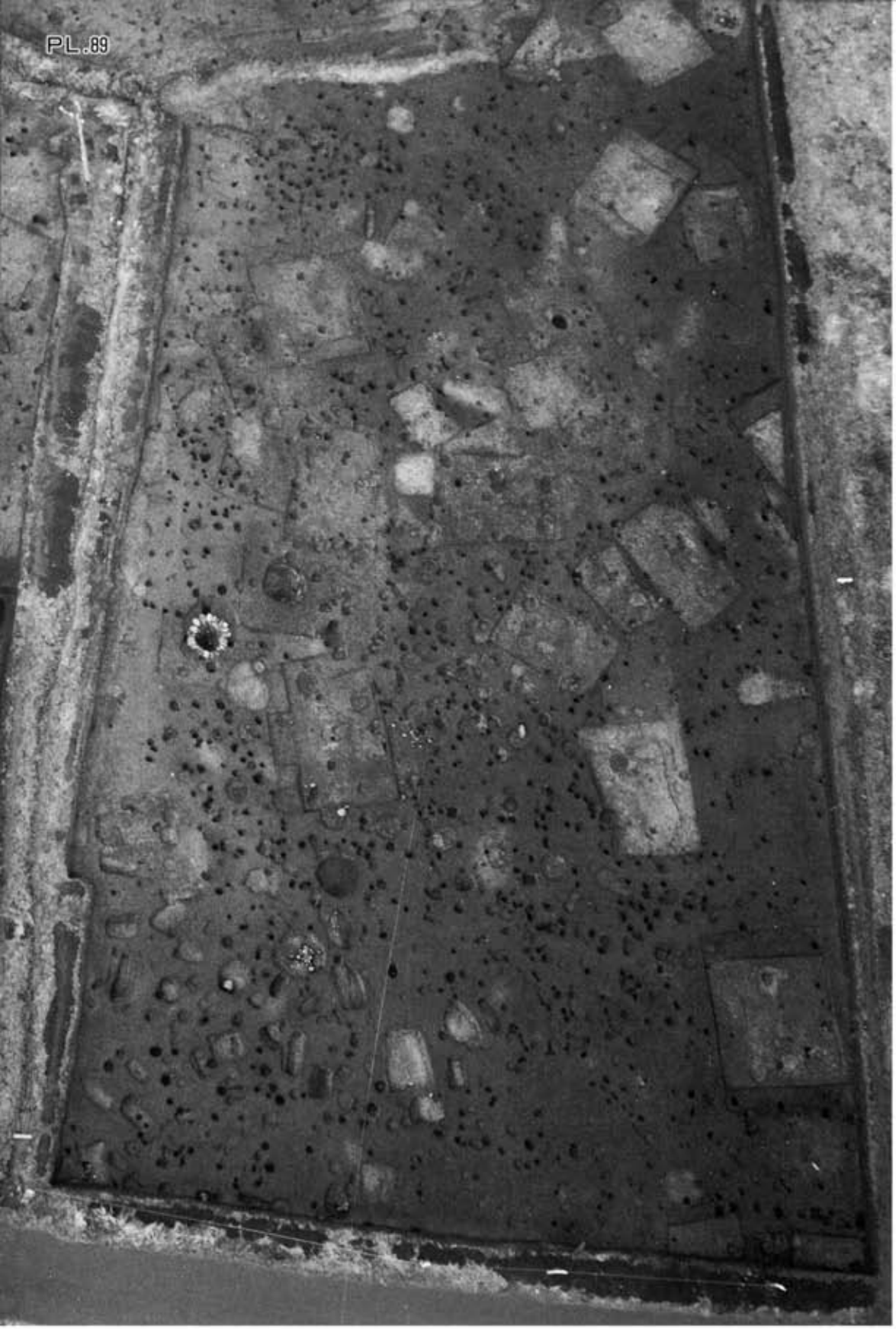



東山田一本杉遺跡II・III区
西山田二本松遺跡B区
1．SP244土壙墓（東から）
2．SP257土壙墓（東から）
3．SP04土壙墓（北から）

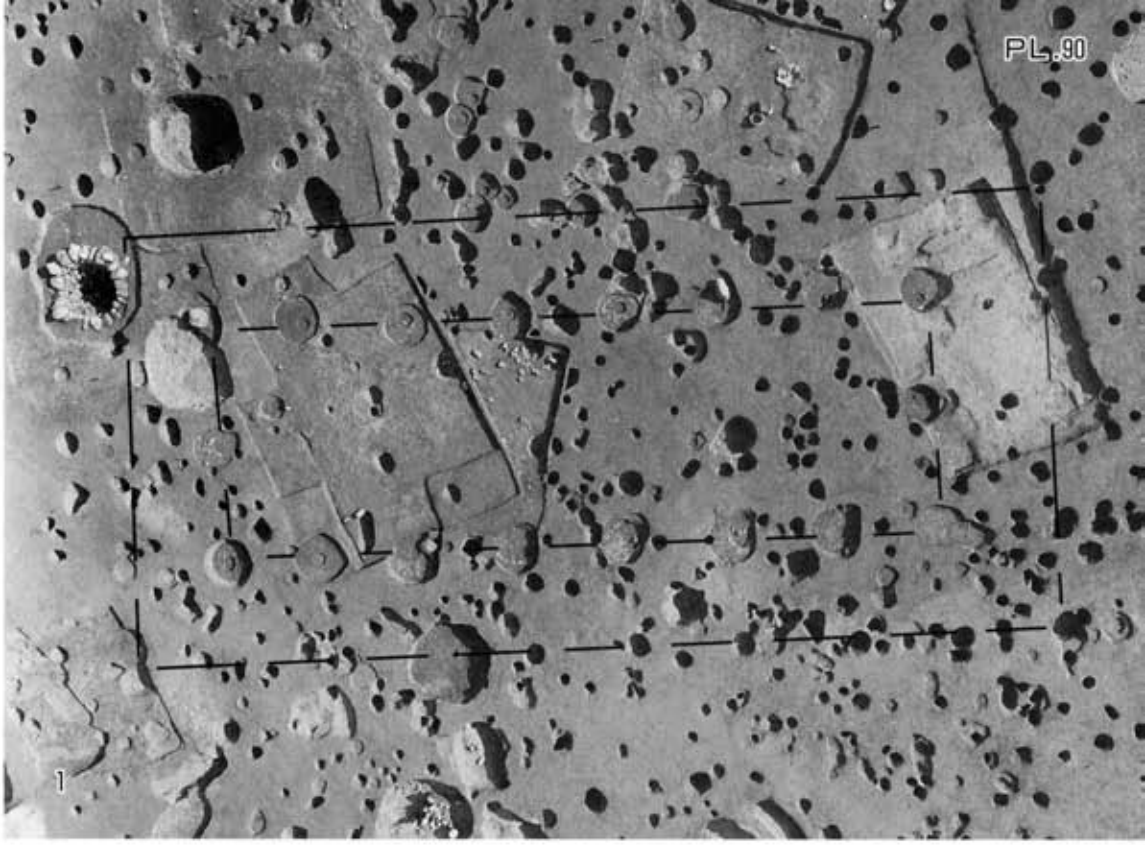


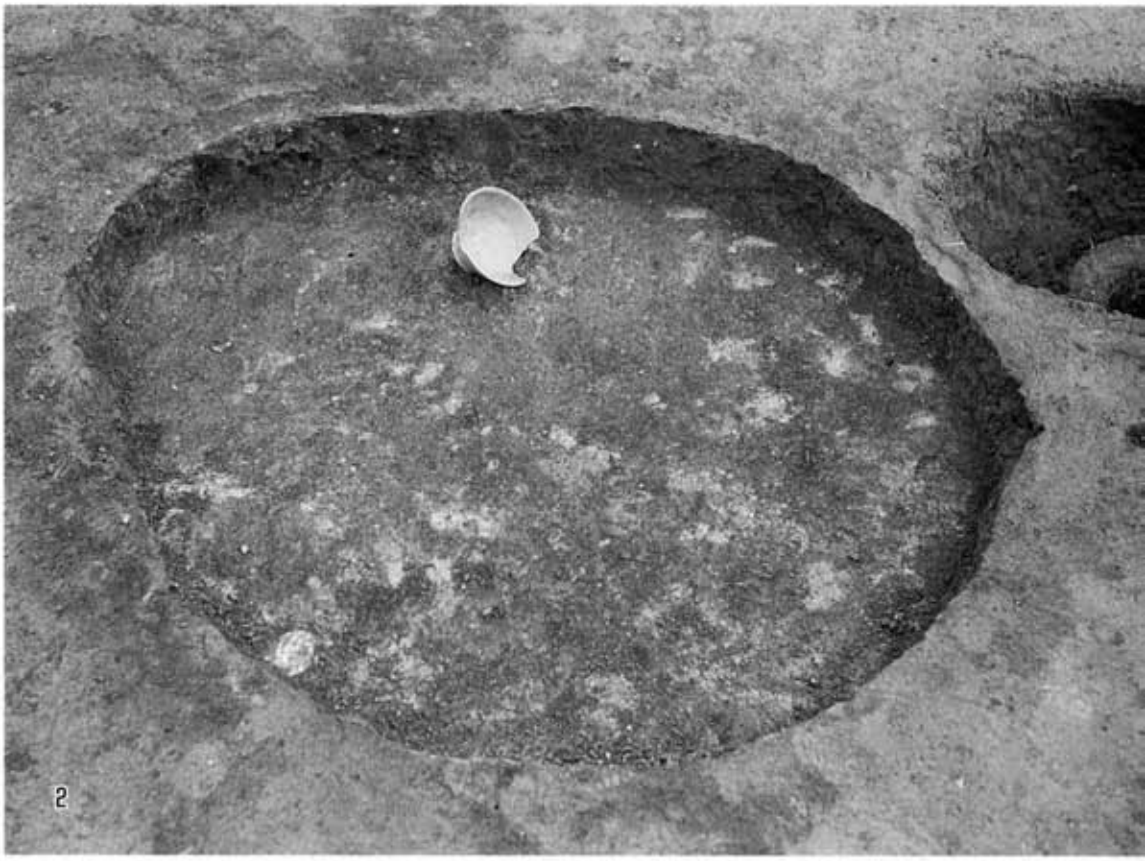
東山田一本杉遺跡II・III区
1．ＳＪ199甕棺墓（南から）
2．ＳＪ202甕棺墓（南から）
3．ＳＪ261甕棺墓（南から）

1．東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区遺跡全景（上方が北）
2．西山田二本松遺跡Ｂ区遺跡全景（上方が北）



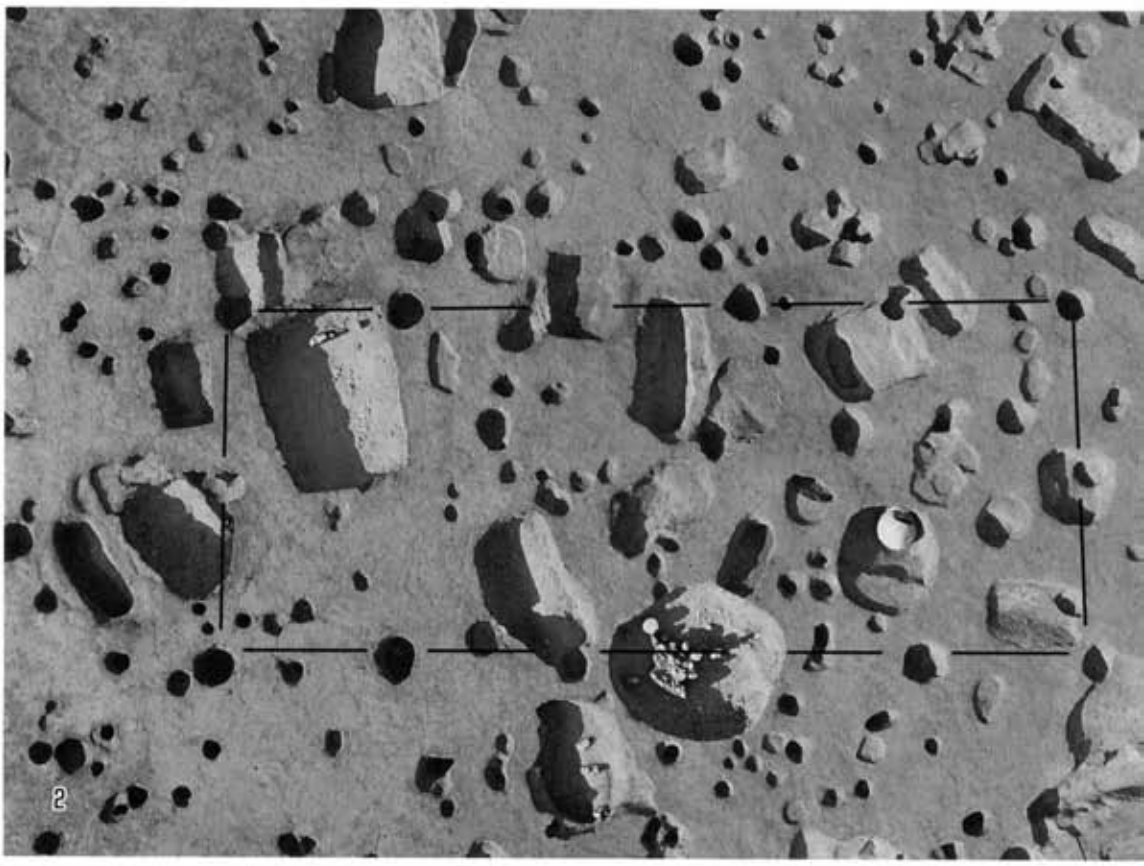
東山田一本杉遺跡Ⅲ区　掘立柱建物跡等近景



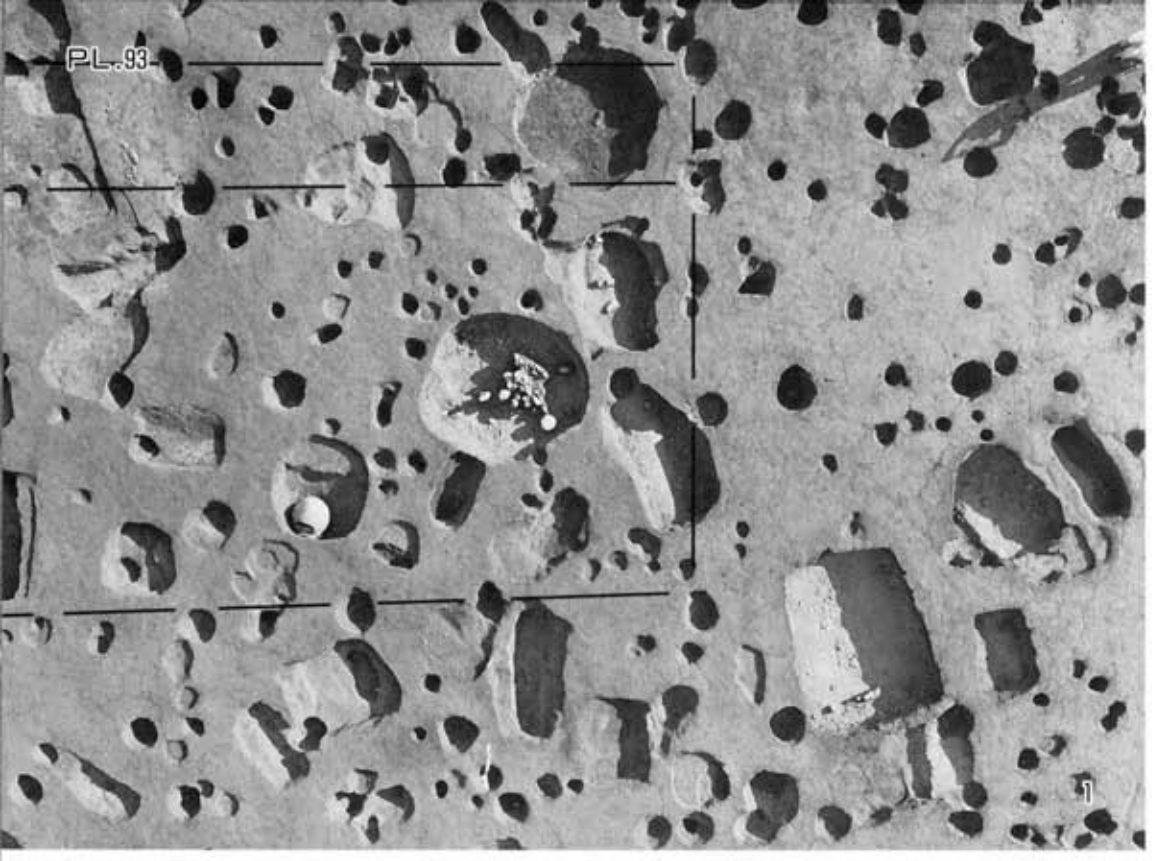


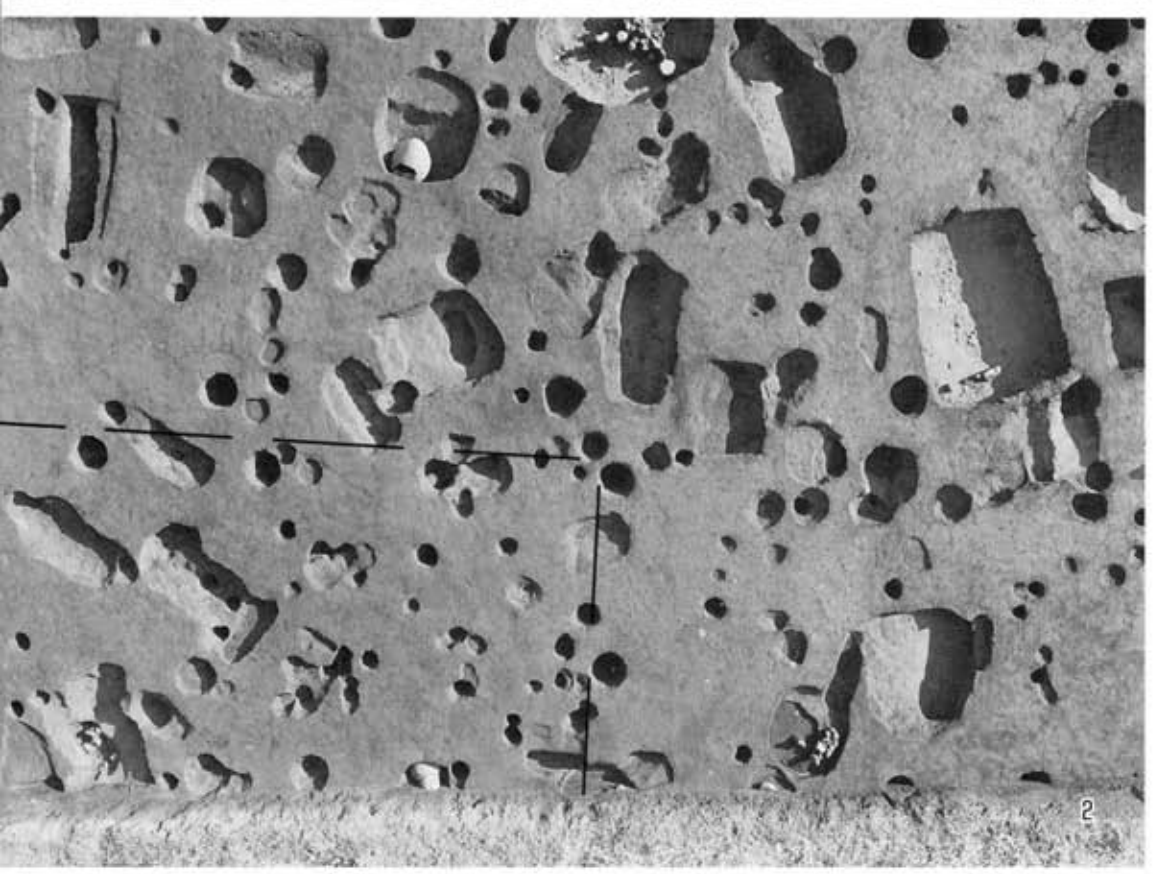
東山田一本杉遺跡Ⅲ区
1．ＳＢ237掘立柱建物跡（上方が東）
2．ＳＢ237柱穴Ｎ及び遺物出土状況（北から）

東山田一本杉遺跡Ⅲ区
ＳＢ237柱穴セクション
1．身舎西側柱列南端（東から）
2．身舎西側柱列南端より３番目（東から）
3．身舎西側柱列南端より７番目（東から）

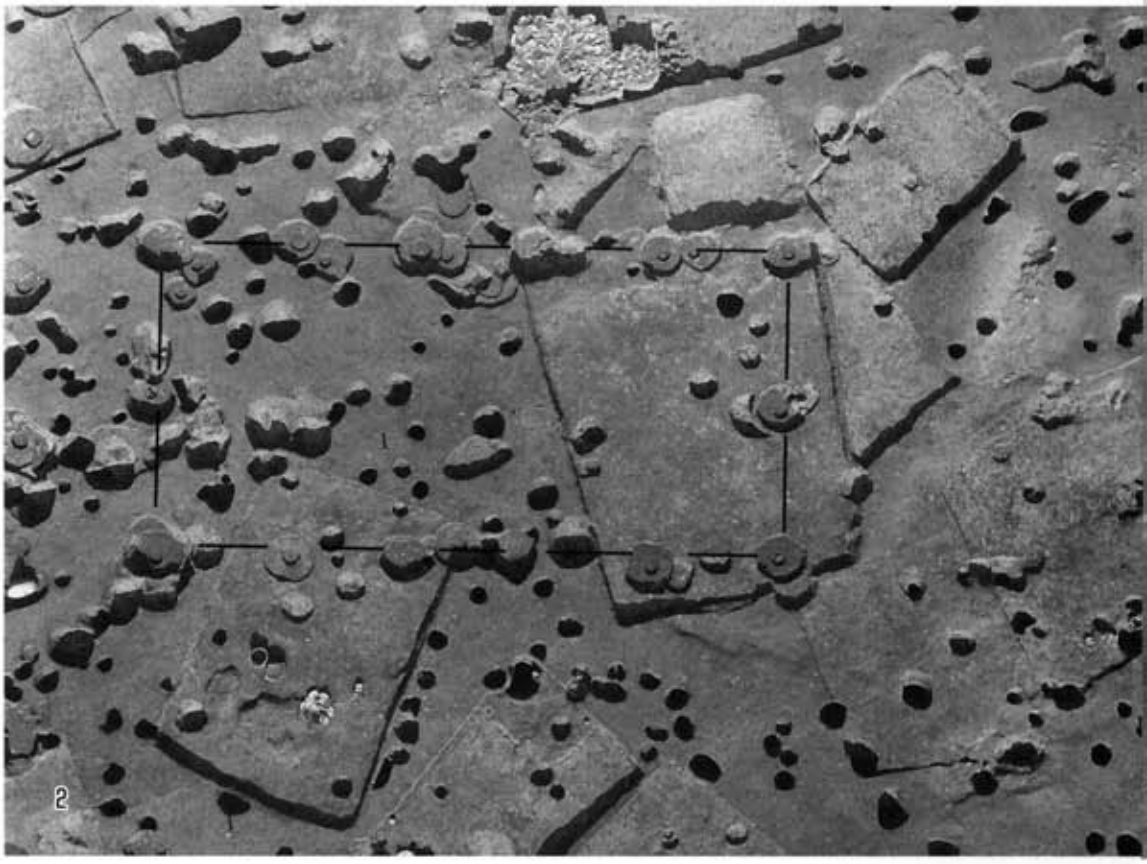



東山田一本杉遺跡Ⅲ区
1．ＳＢ240掘立柱建物跡（上方が西）
2．ＳＢ254掘立柱建物跡（上方が西）





東山田一本杉遺跡Ⅲ区
1．ＳＢ255掘立柱建物跡（上方が東）
2．ＳＢ256掘立柱建物跡（上方が東）



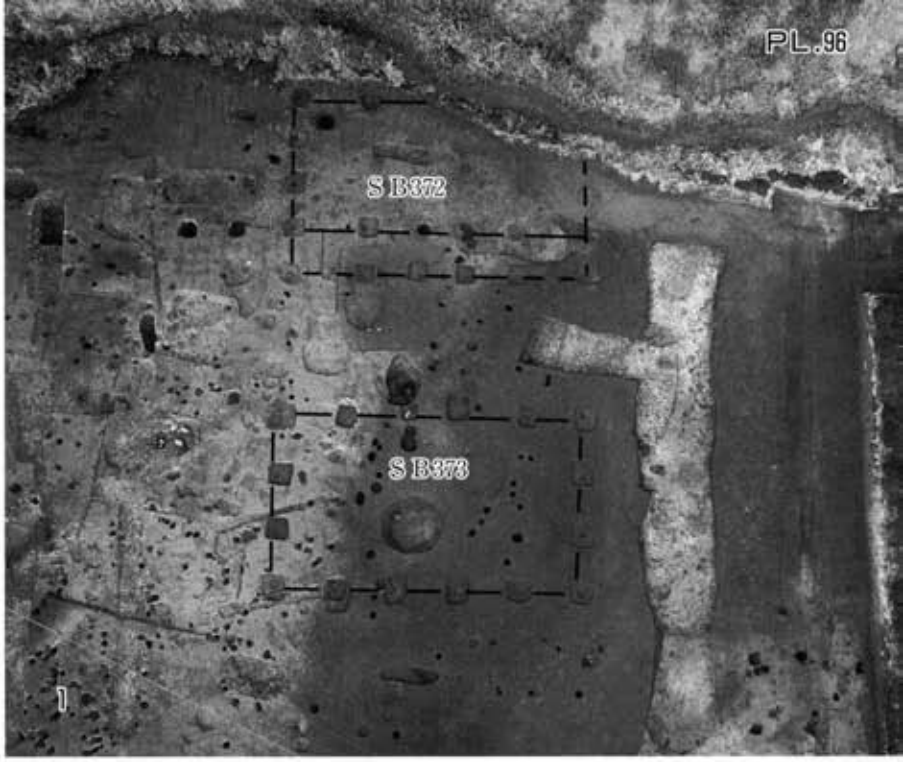
東山田一本杉遺跡Ⅲ区
1．ＳＢ258掘立柱建物跡（上方が東）
2．ＳＢ266掘立柱建物跡（上方が北）

東山田一本杉遺跡Ⅲ区

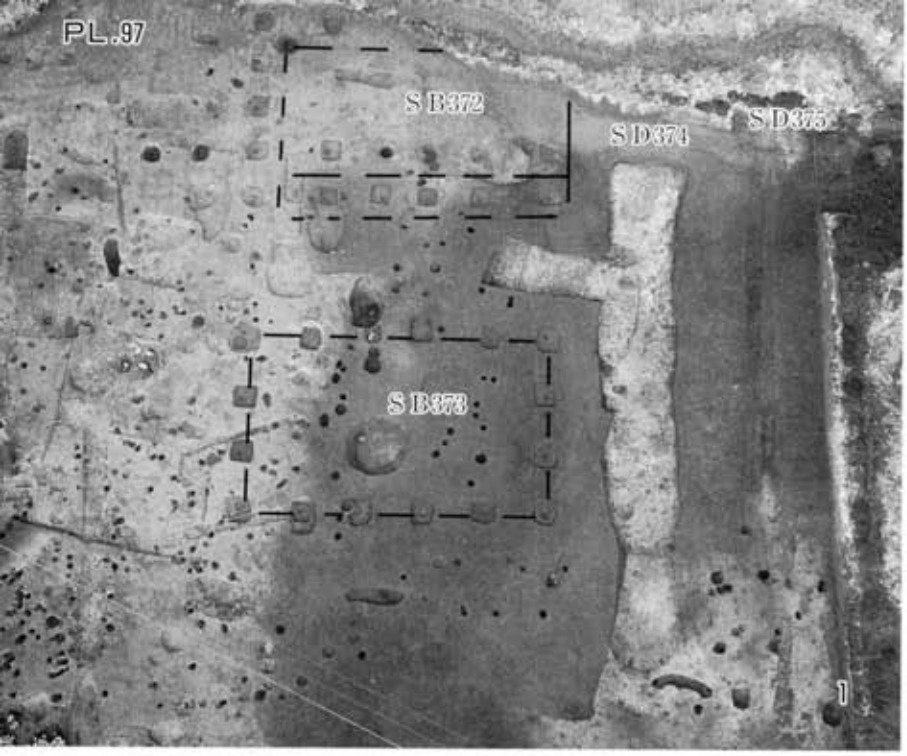
1．ＳＢ266柱穴セクション
（西側柱列南端より２番目）
（東より）

2．ＳＢ266・401柱穴セクション
（北側柱列西端より３番目）
（南より）

3．ＳＢ401掘立柱建物跡（上方が南）



東山田一本杉遺跡Ⅲ区
1．ＳＢ372掘立柱建物跡
（上方が北）
2．ＳＢ372柱穴セクション
（南面廂柱列西端より４番目）
（南より）
3．ＳＢ372柱穴セクション
（南面廂柱列西端より５番目）
（南より）

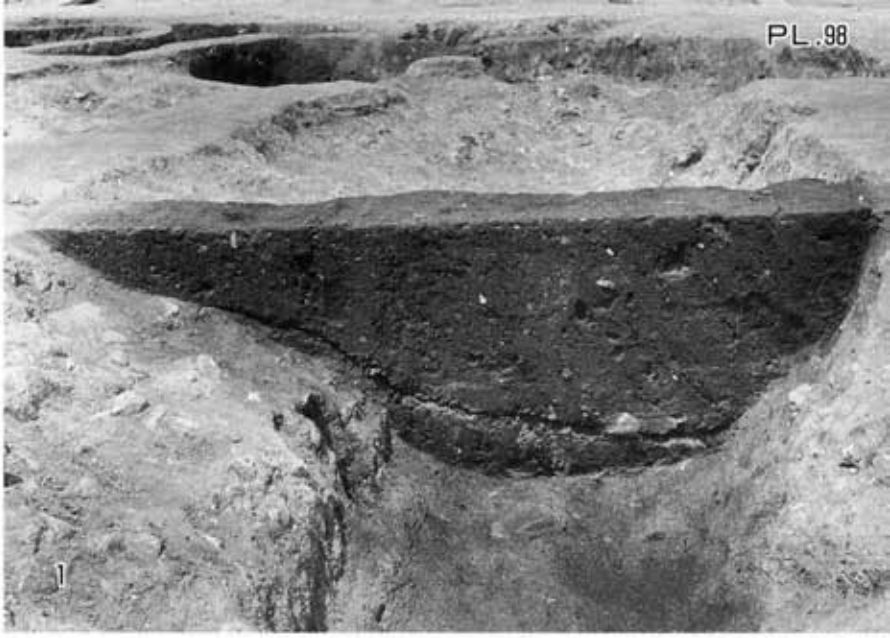


東山田一本杉遺跡Ⅲ区

1．ＳＢ373掘立柱建物跡
（上方が北）

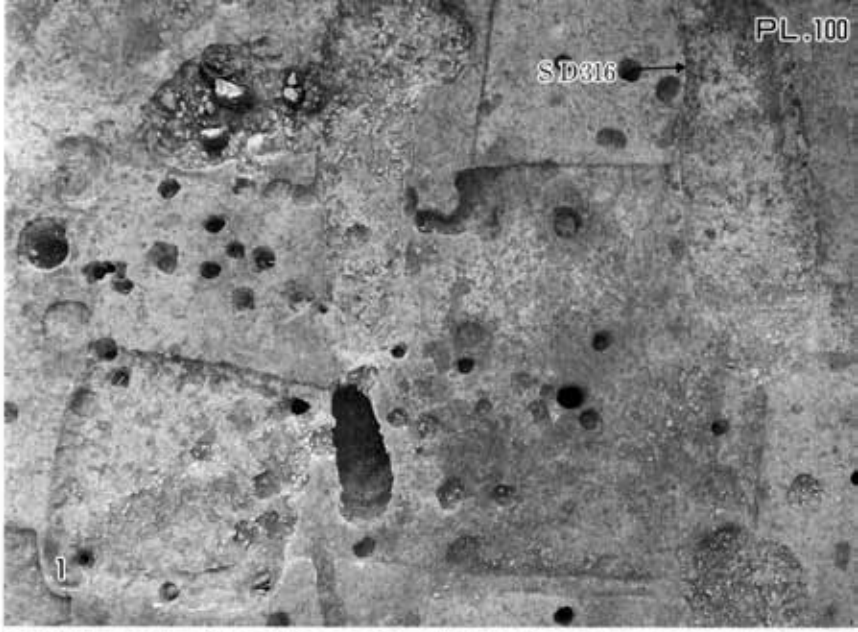
2．ＳＢ373柱穴セクション
（西面側柱南端）
（東から）

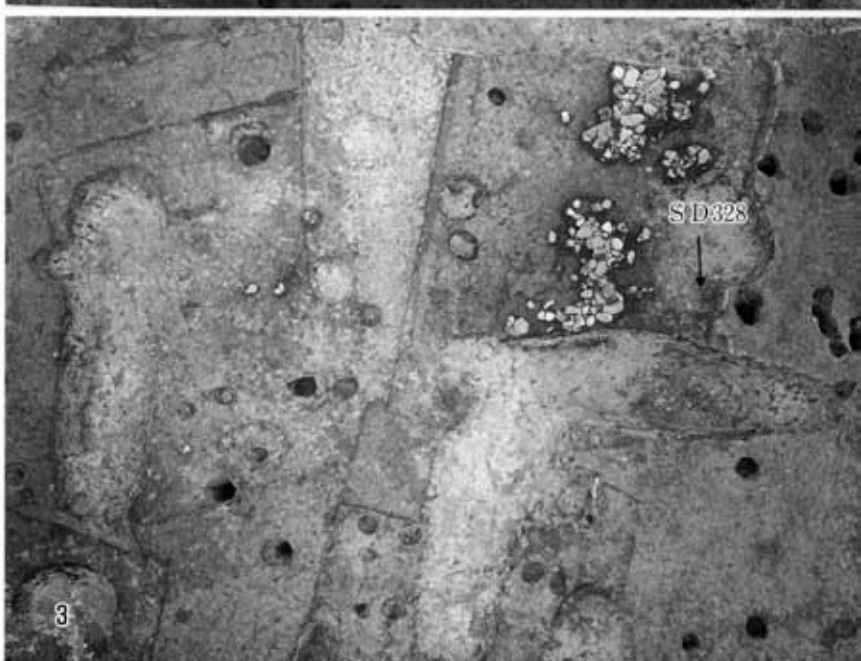
3．ＳＢ373柱穴セクション
（南面側柱列南端３番目）
（東から）



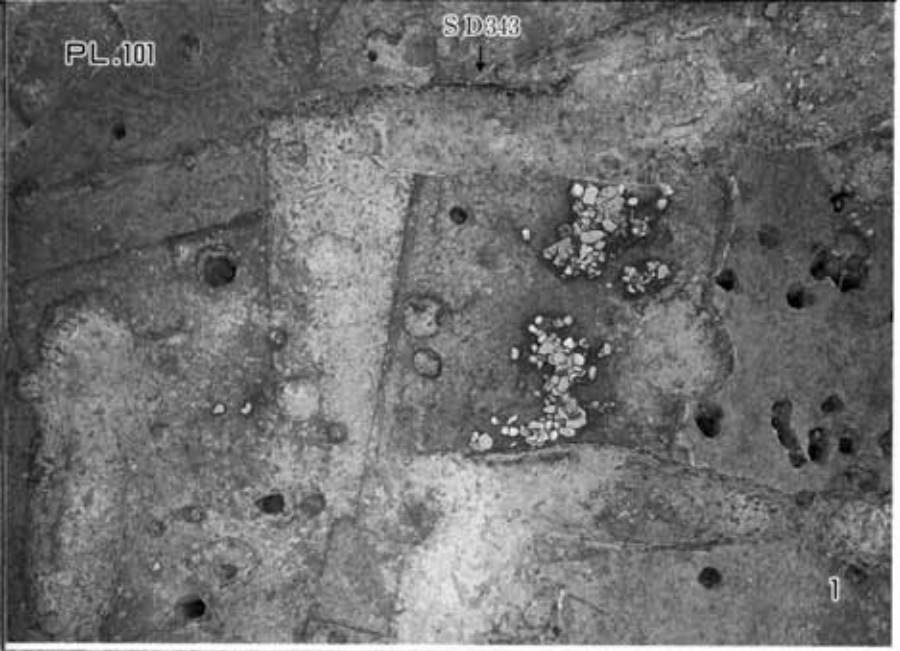
東山田一本杉遺跡II区・III区
築地関連遺構セクション
1．SD158溝跡（東から）
2．SD159溝跡（東から）
3．SD160溝跡（東から）

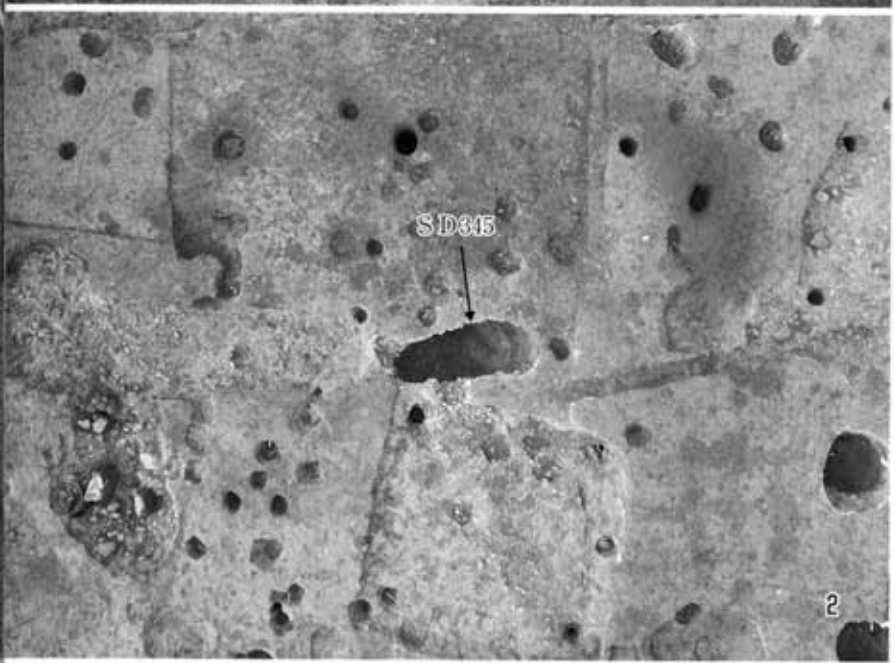
東山田一本杉遺跡II区・III区
築地関連遺構セクション
1．SD174溝跡（東から）
2．SD175溝跡（東から）
3．SD178溝跡（東から）

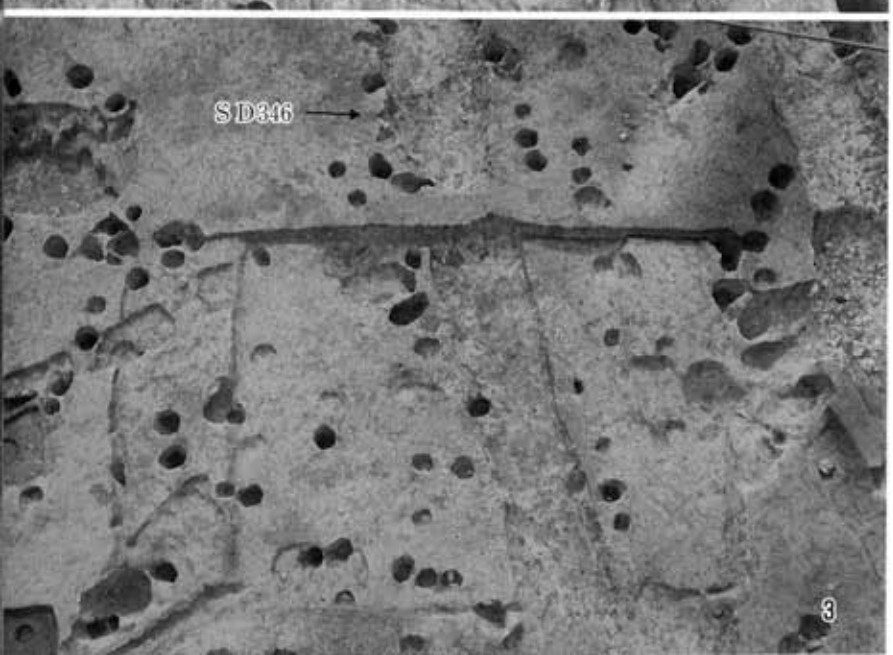




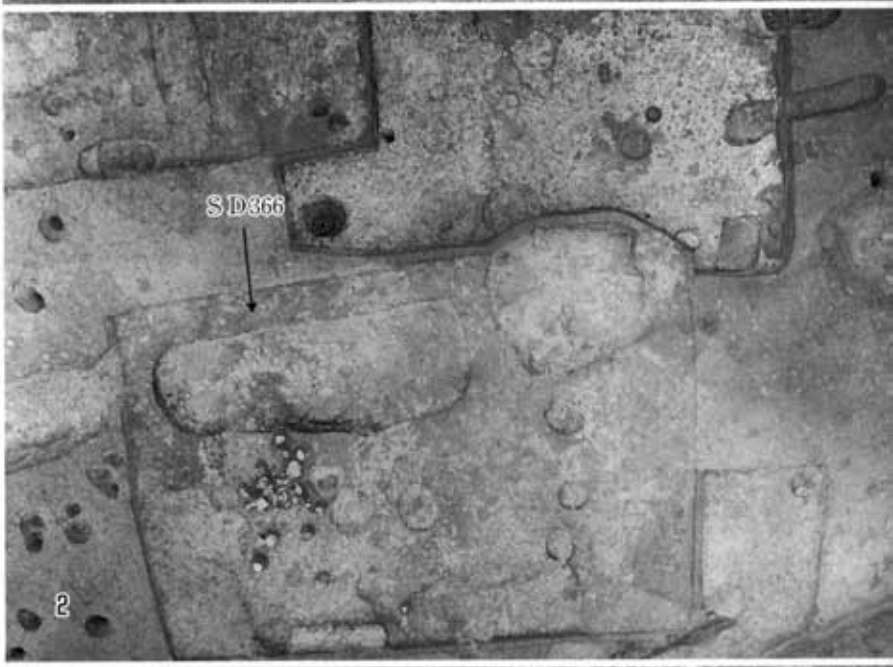

東山田一本杉遺跡II区・III区
築地関連遺構
1．SD316溝跡（上方は南）
2．SD327溝跡（上方は北）
3．SD328溝跡（上方は西）



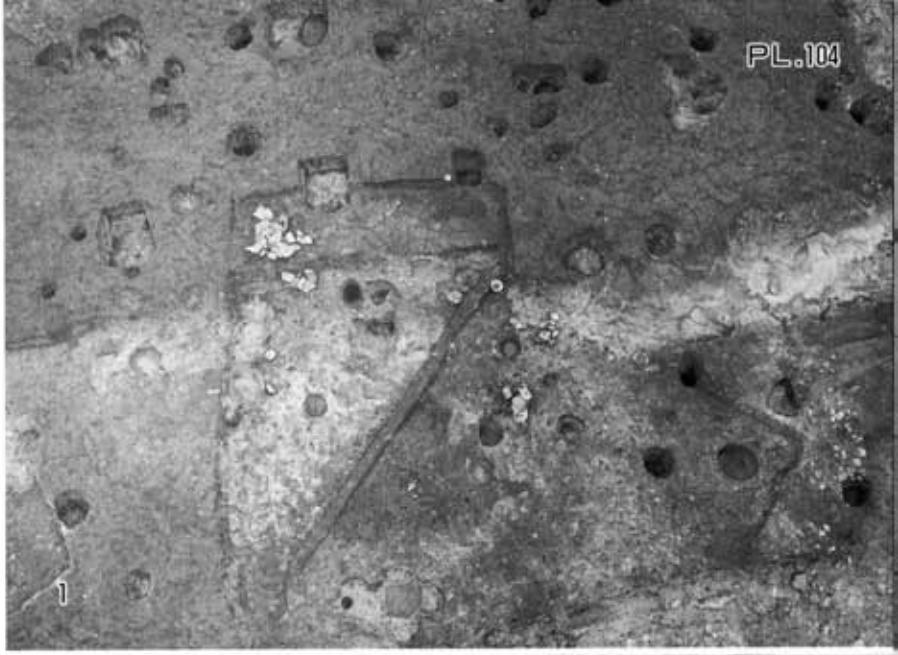




東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
築地関連遺構
1．ＳＤ343溝跡（上方が西）
2．ＳＤ345溝跡（上方が西）
3．ＳＤ346溝跡（上方が南）



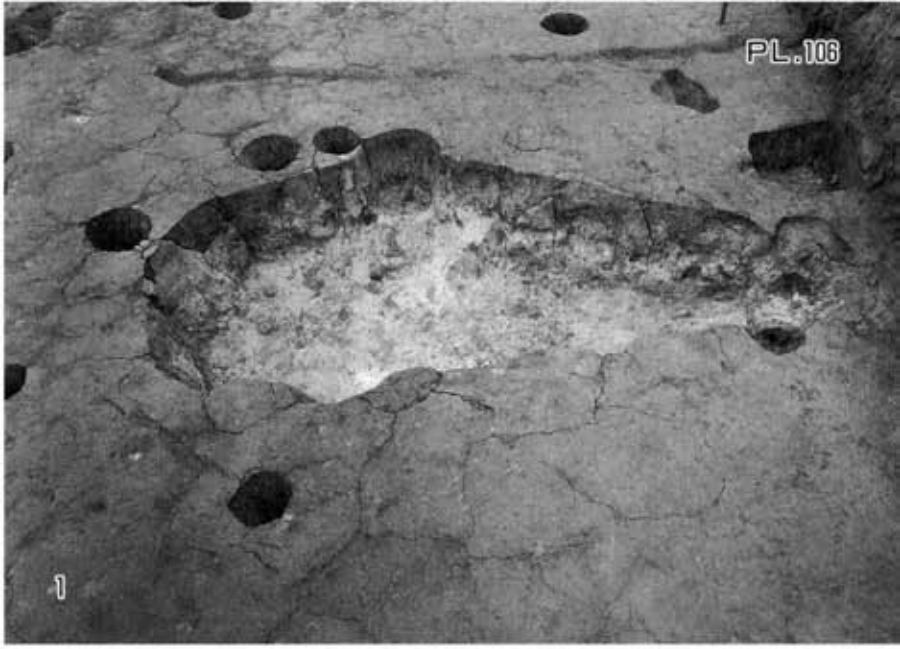
東山田一本杉遺跡II区・III区
築地関連遺構
1．SD350溝跡（上方が北）
2．SD366溝跡（上方が北）
3．SD374溝跡（上方が北）

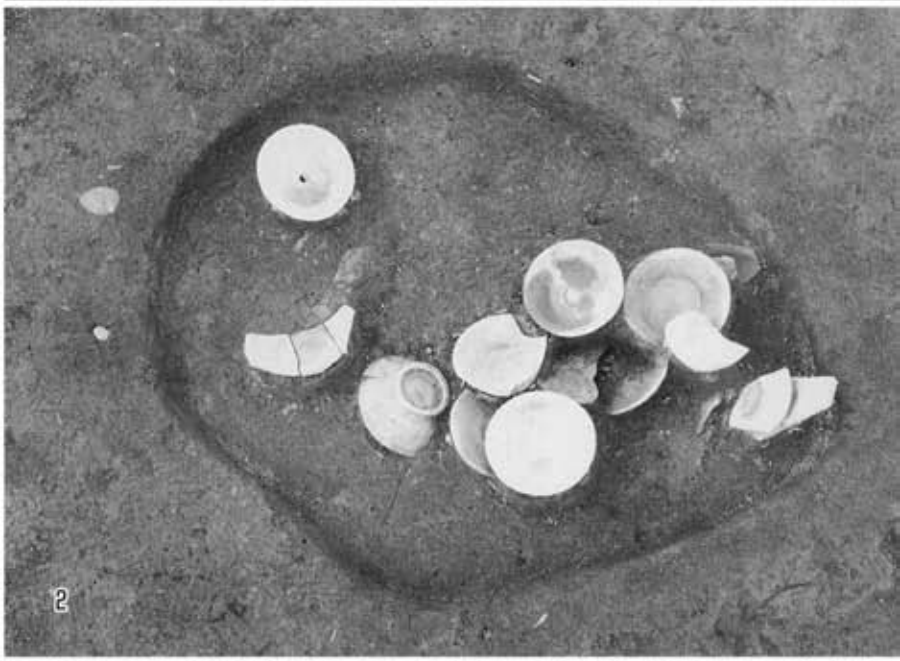
東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
築地関連遺構
1．SD374セクションNo. 1（南から）
2．SD374セクションNo. 2（南から）
3．SD375溝跡（上方が北）

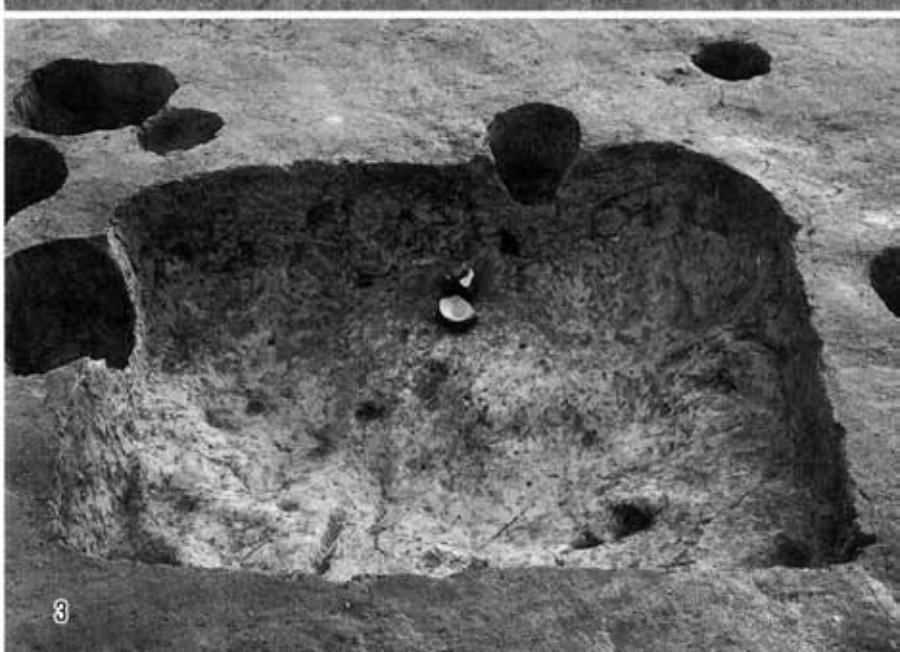


東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
溝跡
1．ＳＤ303溝跡（上方が西）
2．ＳＤ303セクション
（北から）
西山田二本松遺跡Ｂ区
溝跡
3．ＳＤ17溝跡（西から）

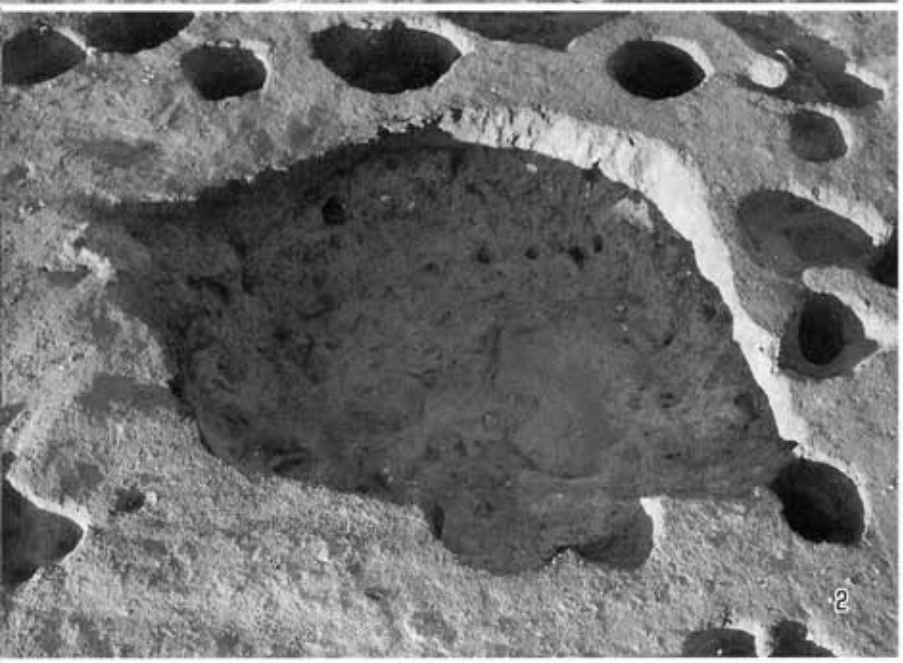
東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
1．ＳＥ290井戸跡（北から）
2．ＳＫ196土壙（西から）
3．ＳＫ242土壙（南から）



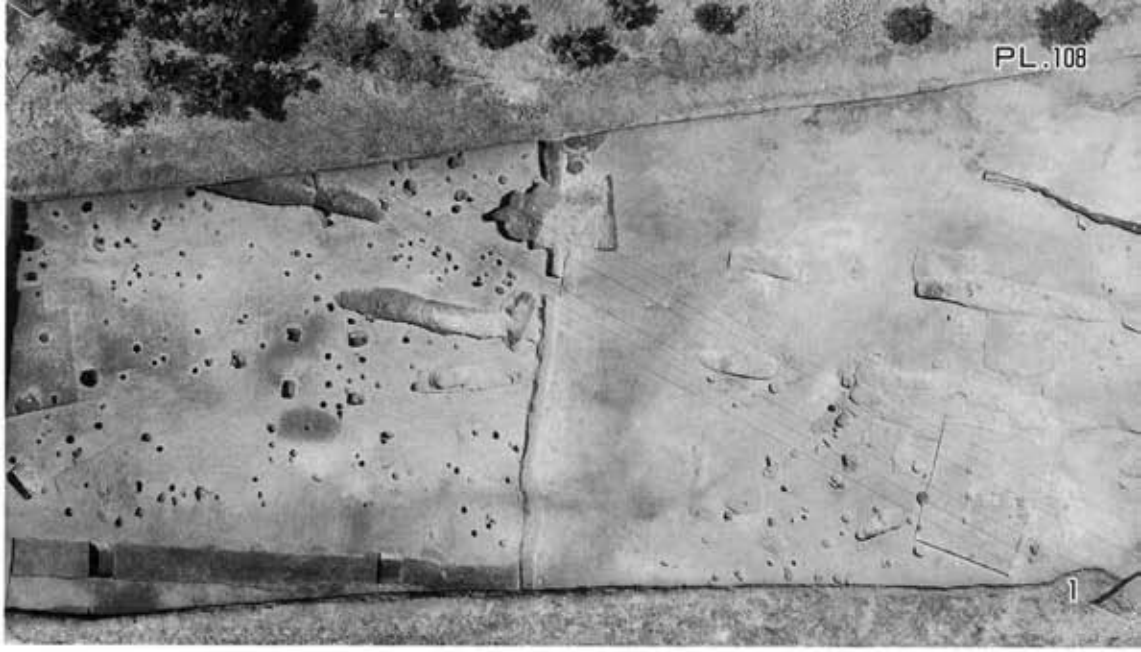


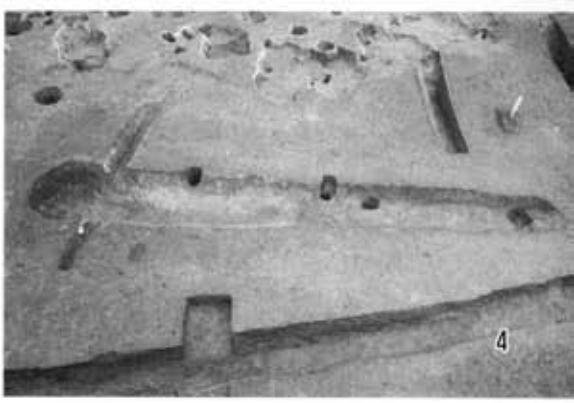


東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
1．ＳＫ250土壙（西から）
2．ＳＫ285土壙遺物出土状況
（南から）
3．ＳＫ307土壙（北から）



東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
1．ＳＫ332土壙（西から）
西山田二本松遺跡Ｂ区
2．ＳＫ02土壙（南から）
3．ＳＫ19土壙（南から）

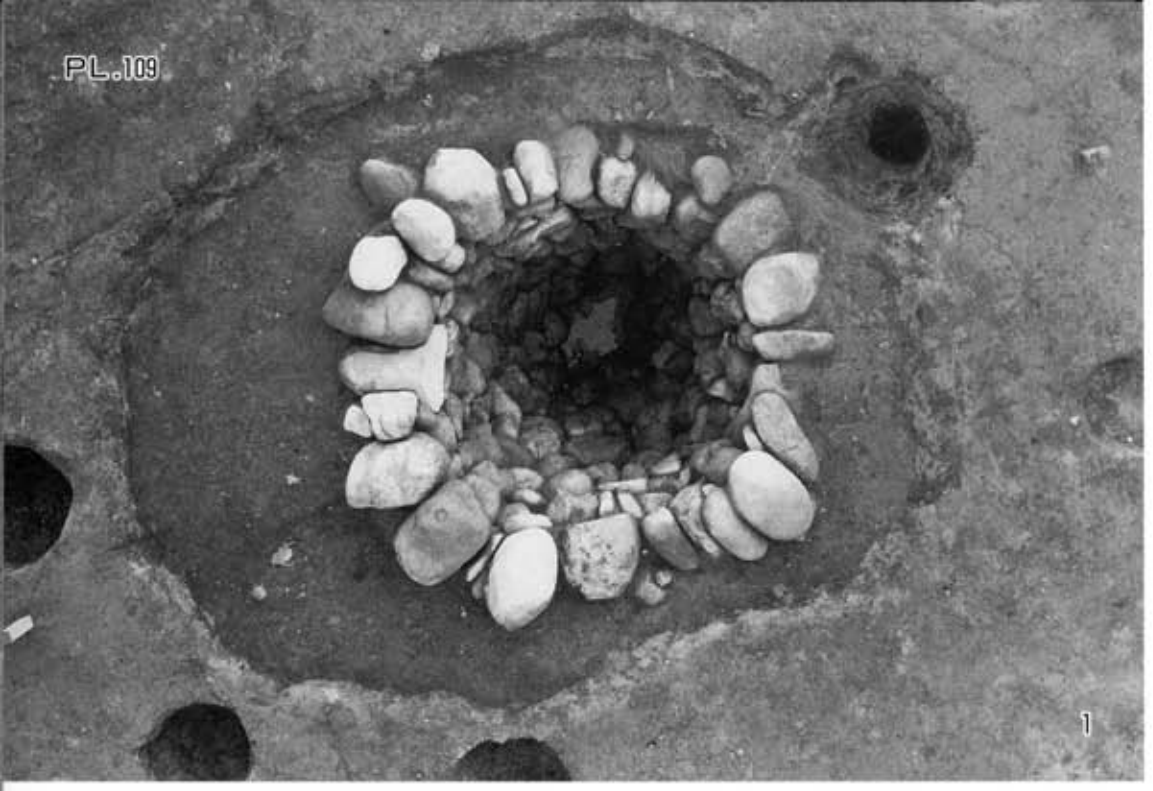


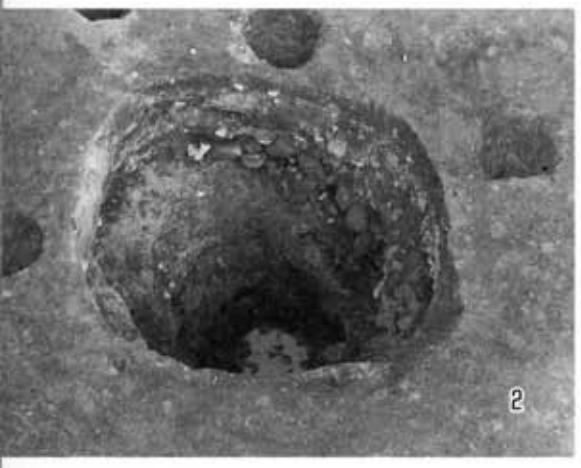


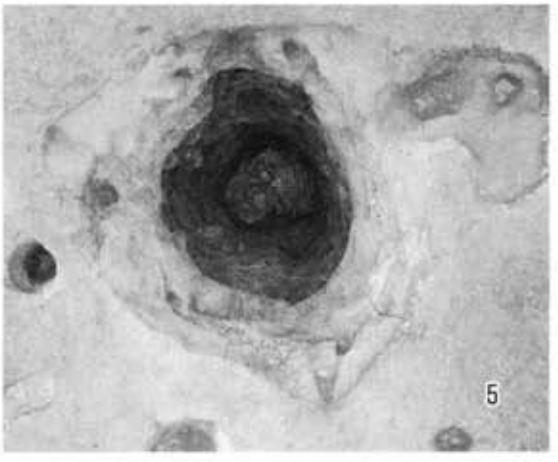
東山田一本杉遺跡II区・III区，西山田二本松遺跡B区

1．ＳＤ335溝跡　　2．ＳＤ17南溝跡（東から）

3．ＳＤ275溝跡（南から）　　4．ＳＤ17北溝跡（西から）



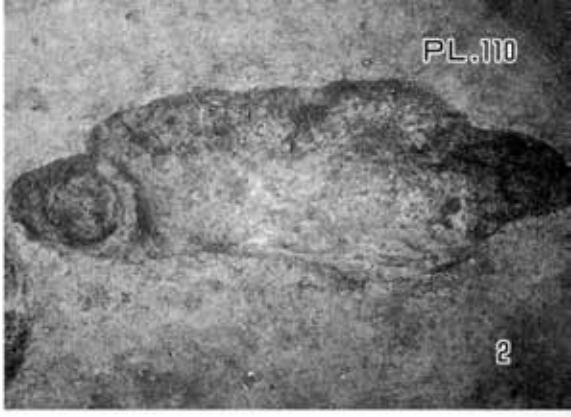



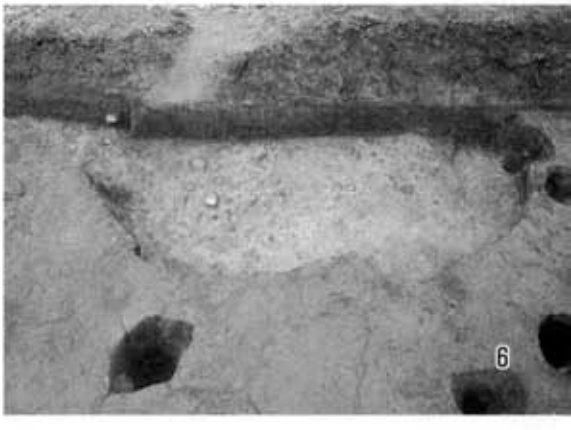



東山田一本杉遺跡II区・III区，西山田二本松遺跡B区

1．SE245井戸跡　2．SE246井戸跡　3．SE371井戸跡

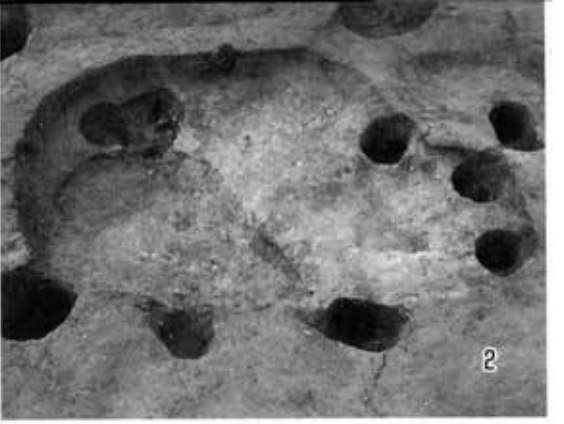
4．SE01井戸跡　5．SE38井戸跡

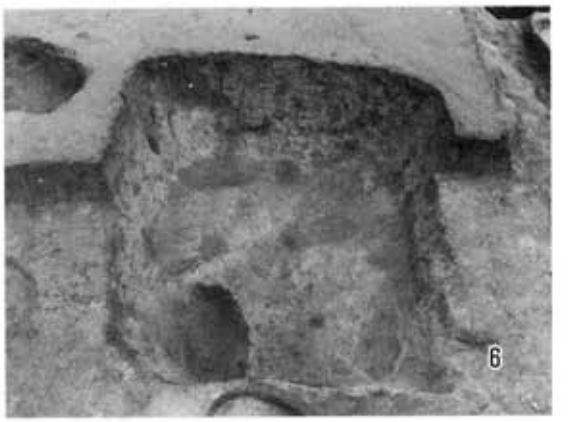




東山田一本杉遺跡II区・III区

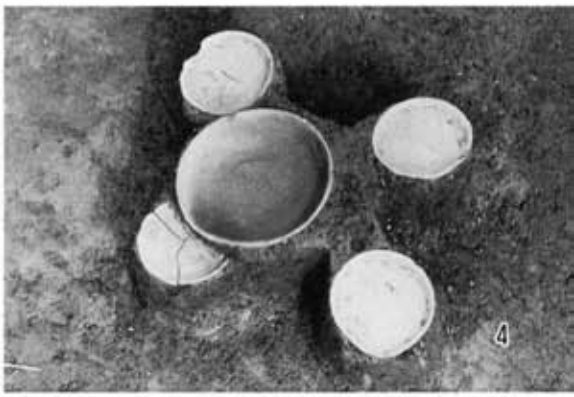
1．SK171土壙　2．SK191土壙
3．SK193土壙　4．SK204土壙
5．SK268土壙　6．SK271土壙
7．SK272土壙





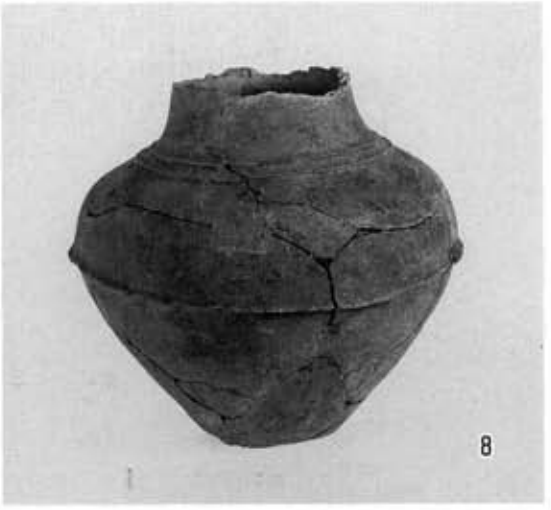
東山田一本杉遺跡II区・III区，西山田二本松遺跡B区

1．SK277土壙　2．SK278土壙
3．SK293土壙　4．SK360土壙
5．SK368土壙　6．SK03土壙
7．SK20土壙




東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区
1．ＳＰ356土壙墓　2．ＳＰ69土壙墓　3．ＳＰ356土壙墓　4．ＳＰ69土壙墓

東山田一本杉遺跡II・III区
西山田二本松遺跡B区
3．SJ190甕棺下
4．SJ202甕棺上
5．SJ202甕棺下
7．SJ218甕棺下
9．SJ24甕棺



東山田一本杉遺跡II・III区　　6．ＳＪ218甕棺上　　8．ＳＪ261甕棺下
16・21・23・24．ＳＢ235竪穴住居跡出土土器１

29

36

26

34

27

28

31

32

33

東山田一本杉遺跡II・III区　　S B235竪穴住居跡出土土器 2

58

72

71

77

82

83

東山田一本杉遺跡II・III区

58. SB238竪穴住居跡出土土器
71・72・77. SB247竪穴住居跡出土土器
82・83. SB249竪穴住居跡出土土器1

105

107

106

110

88

89

91

95

東山田一本杉遺跡II・III区　　SB249竪穴住居跡出土土器2

114

115

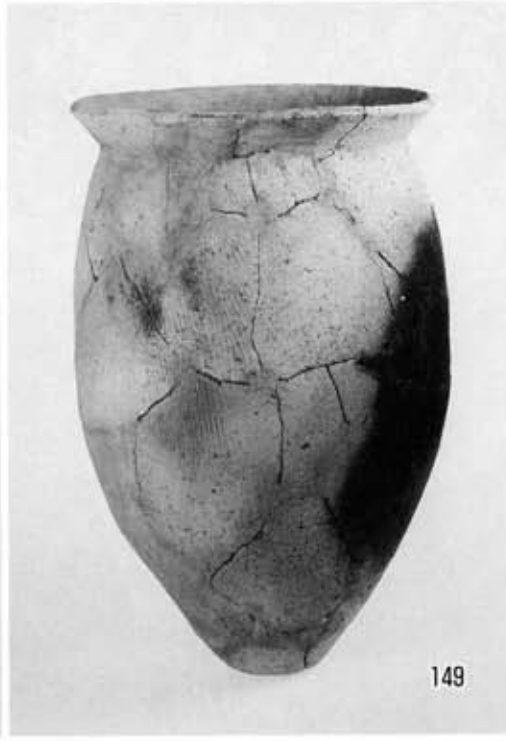
129

130

131

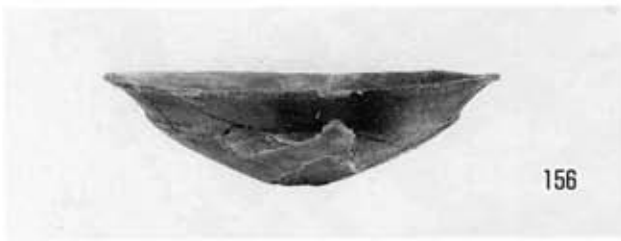
133

148


149

東山田一本杉遺跡II・III区

114. S B251竪穴住居跡出土土器
115. S B252竪穴住居跡出土土器
129・130・131・133. S B264竪穴住居跡出土土器


156

161

157

154

159

162

160

164

165

166

168

東山田一本杉遺跡II・III区　　SB269竪穴住居跡出土土器2

182

183

177

192

203

210

東山田一本杉遺跡II・III区

177・182・183・192．SB282竪穴住居跡出土土器
203・210．SB289竪穴住居跡出土土器

233

234

228

236

230

214

221

東山田一本杉遺跡II・III区　　SB298竪穴住居跡出土土器

273

278

313

314

250

251

272

303

305

310

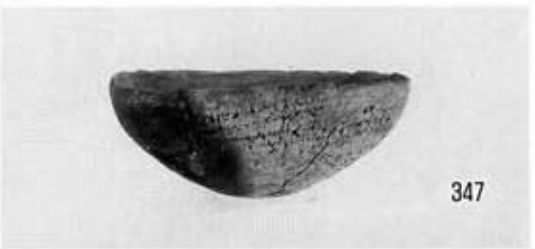
東山田一本杉遺跡II・III区　250・251．S B306竪穴住居跡出土土器　272・273．S B320竪穴住居跡出土土器
278．S B321竪穴住居跡出土土器　303・305．S B355竪穴住居跡出土土器
310．S B359竪穴住居跡出土土器　313・314　S B365竪穴住居跡出土土器

341

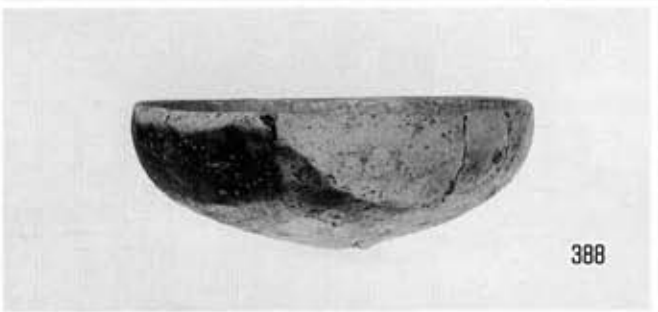
356

378

346


347

387


388

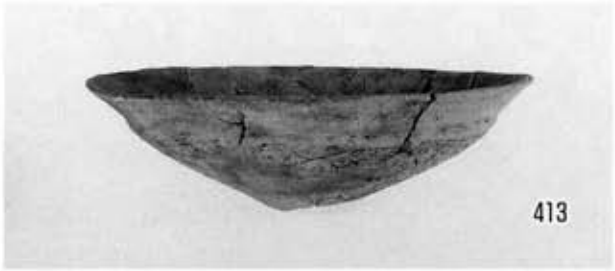
376

391

西山田二本松遺跡B区

341．ＳＢ05竪穴住居跡出土土器　346・347．ＳＢ07竪穴住居跡出土土器
356．ＳＢ09竪穴住居跡出土土器　376・378．ＳＢ15竪穴住居跡出土土器
387・388．ＳＢ22竪穴住居跡出土土器　391．ＳＢ27竪穴住居跡出土土器

408


413

403

404

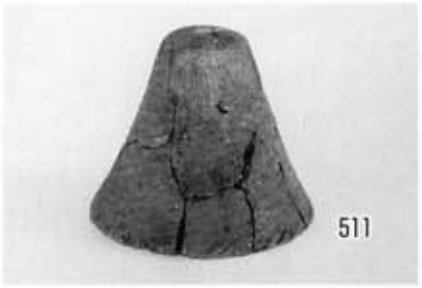
419

422

400

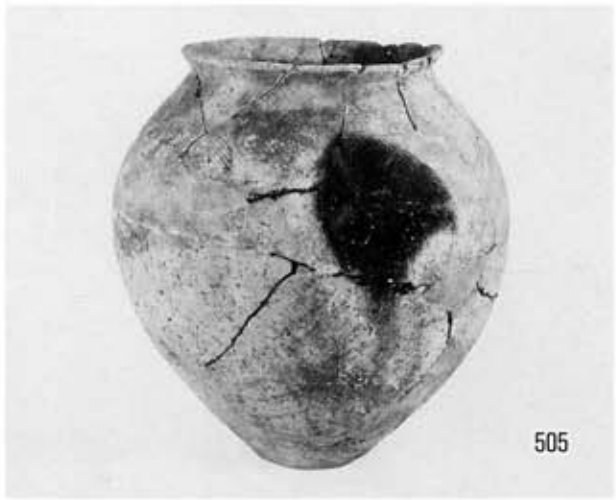
西山田二本松遺跡B区　　SB29竪穴住居跡出土土器

西山田二本松遺跡B区
432・434.
　S B41竪穴住居跡出土土器
463・465・467・468・469.
　S B54竪穴住居跡出土土器
485.
　S B76竪穴住居跡出土土器
528. 外来系土器


511

508

500


505

517

514

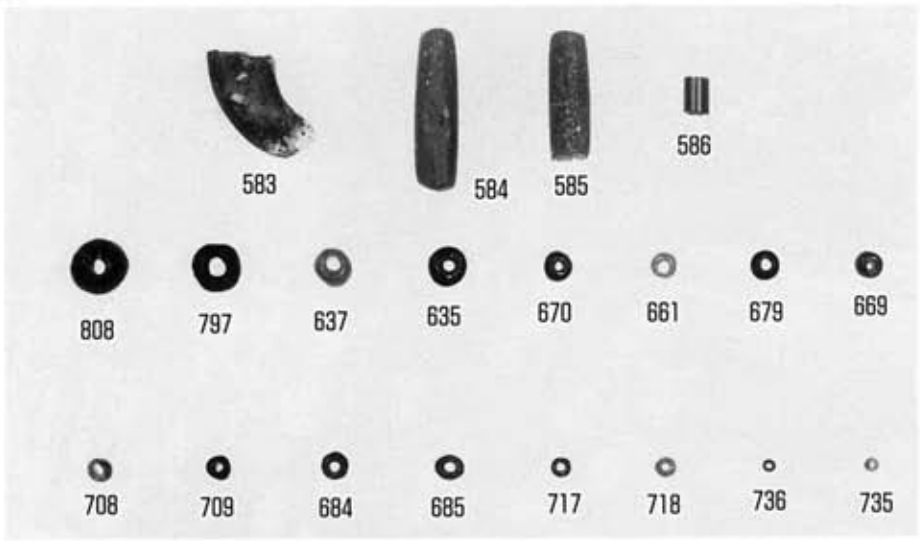
513

525

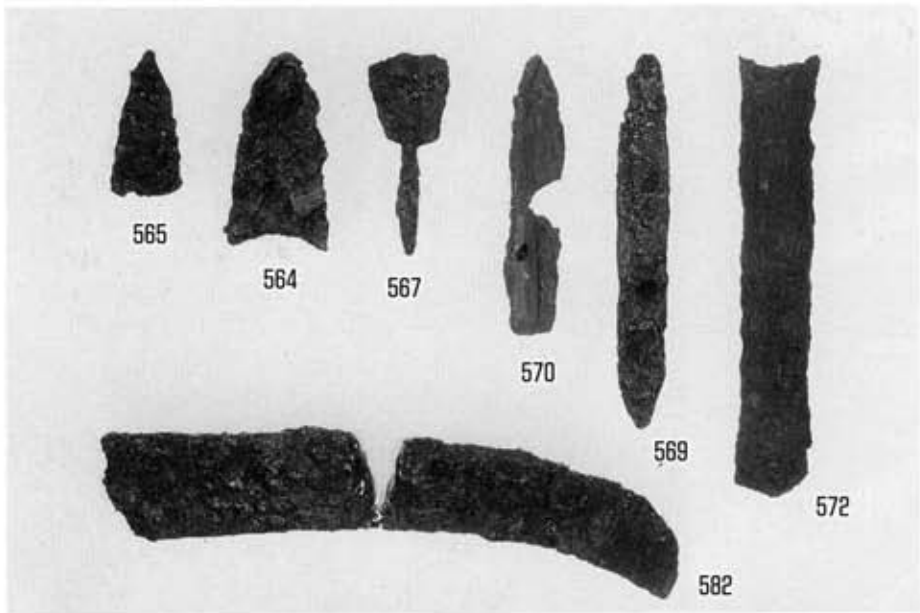
519

東山田一本杉遺跡II・III区

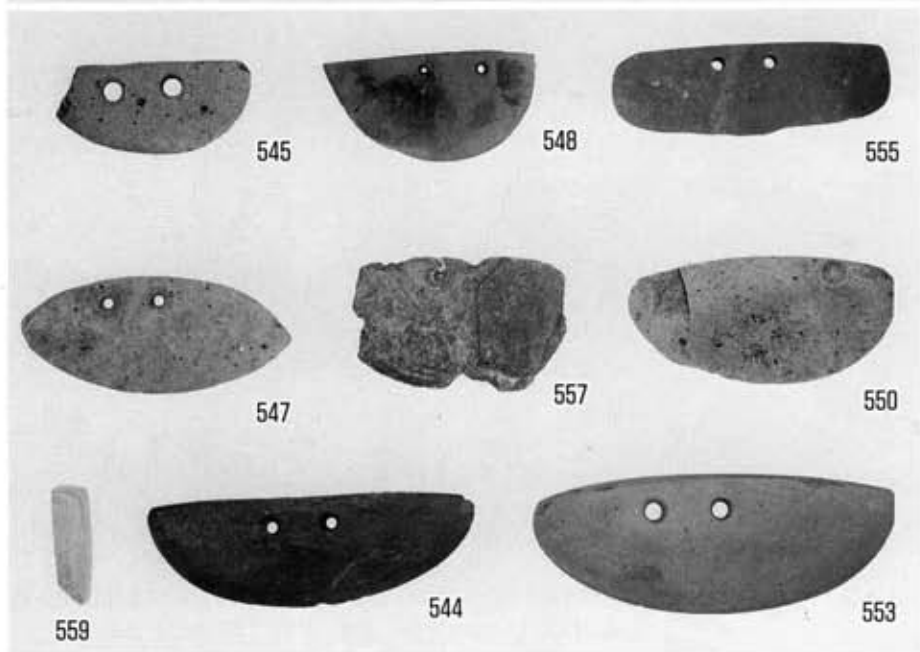
500・505・508・511・513・514・517．ＳＸ302不明遺構出土土器
519．ＳＫ210土壙出土土器　525．ＳＫ324土壙出土土器




東山田一本杉遺跡II・III区
西山田二本松遺跡B区
玉類




鉄器




石器

851

852

853

854

855

862

S B237掘立柱建物跡出土遺物(1/3)

865

872

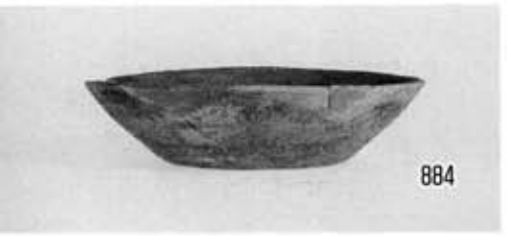
875

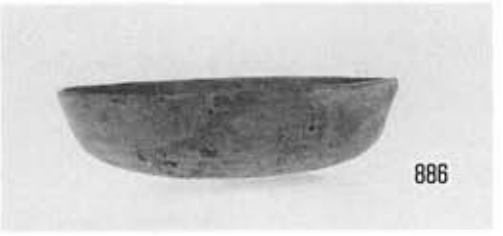
877

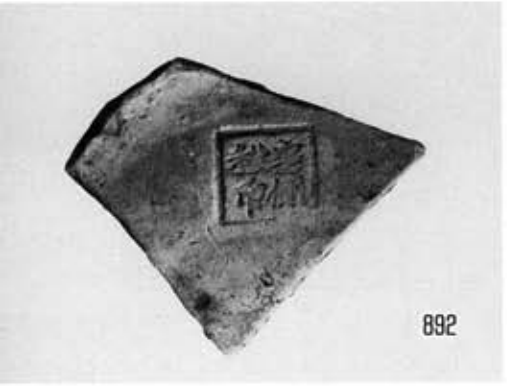
876

築地関連遺構出土須恵器(1/3)

865. S D342出土　　872. S D343出土
875. S D178出土　　877. S D374出土
876. S D341出土





築地関連遺構出土土師器(1/3)

884. ＳＤ157出土
892. ＳＤ374出土
893. ＳＤ315出土
886. ＳＤ160出土
896. ＳＤ374出土

ＳＤ303溝跡出土遺物(1/3)

S D303溝跡出土遺物
(928は1/4，929・931・936は1/3)

S D017溝跡出土遺物(1/3)

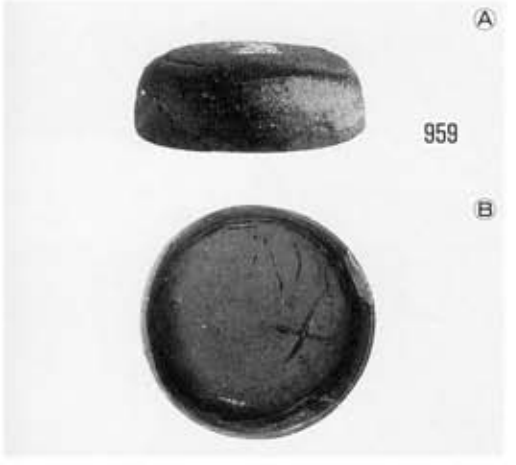
S D021溝跡出土遺物
(941は1/4，942・943は1/3，944は実寸大)

S E290井戸跡出土遺物 (1/3)

952

954

S K250土壙出土遺物(1/3)

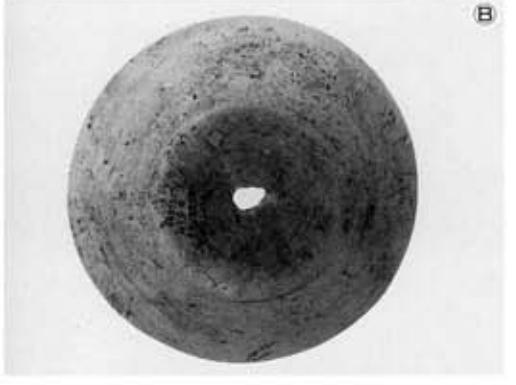

Ⓐ
959
Ⓑ

960

962

Ⓐ
964

Ⓐ
965


Ⓑ

Ⓑ

967

968

970

971

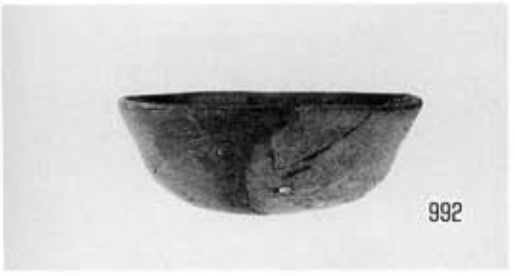
S K285土壙出土遺物(1/3)

S K286土壙出土遺物(1/3)

S K307土壙出土遺物(1/3)

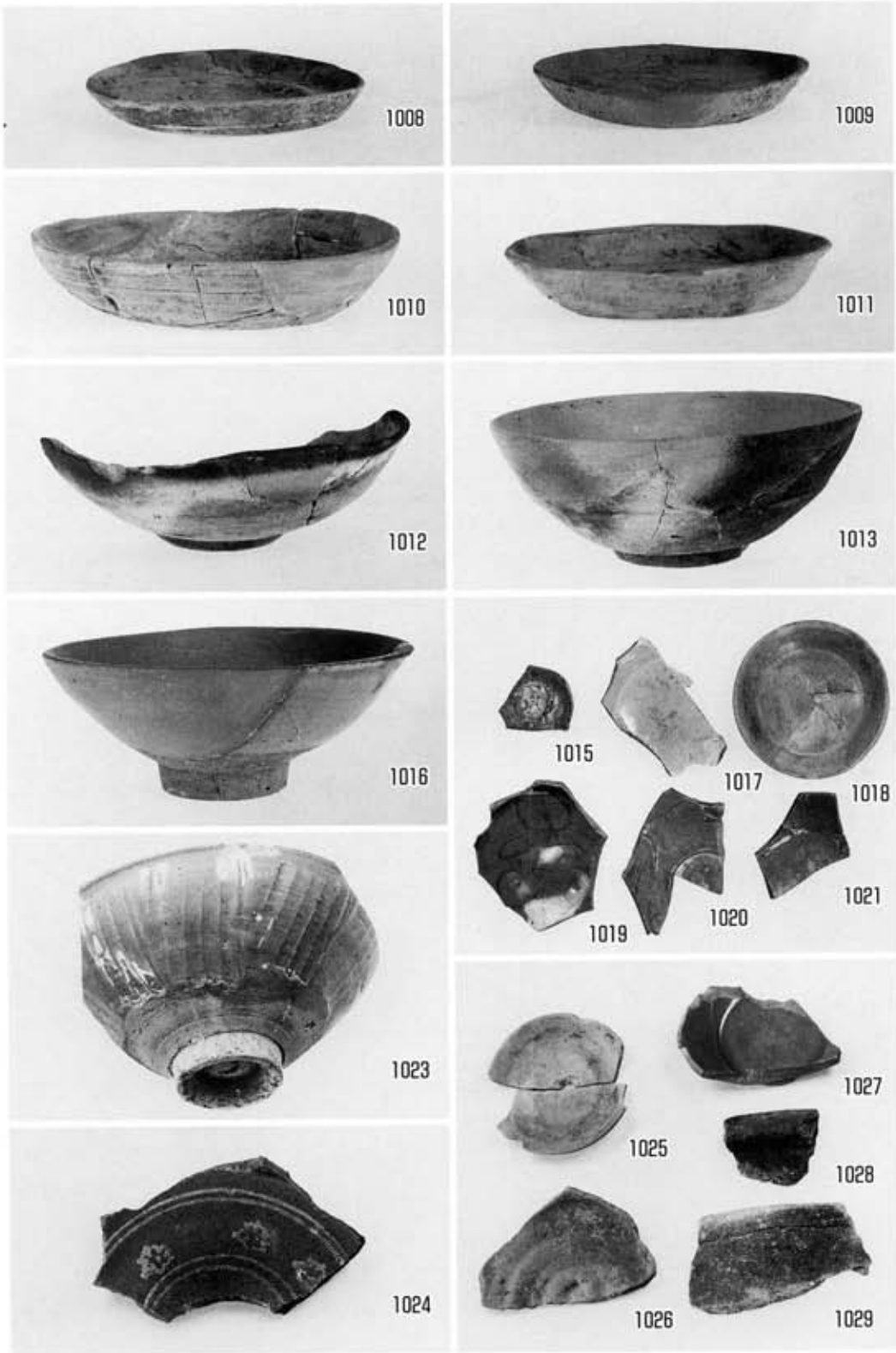
S K11土壙出土遺物(1/3)

S K19土壙出土遺物(1/3)

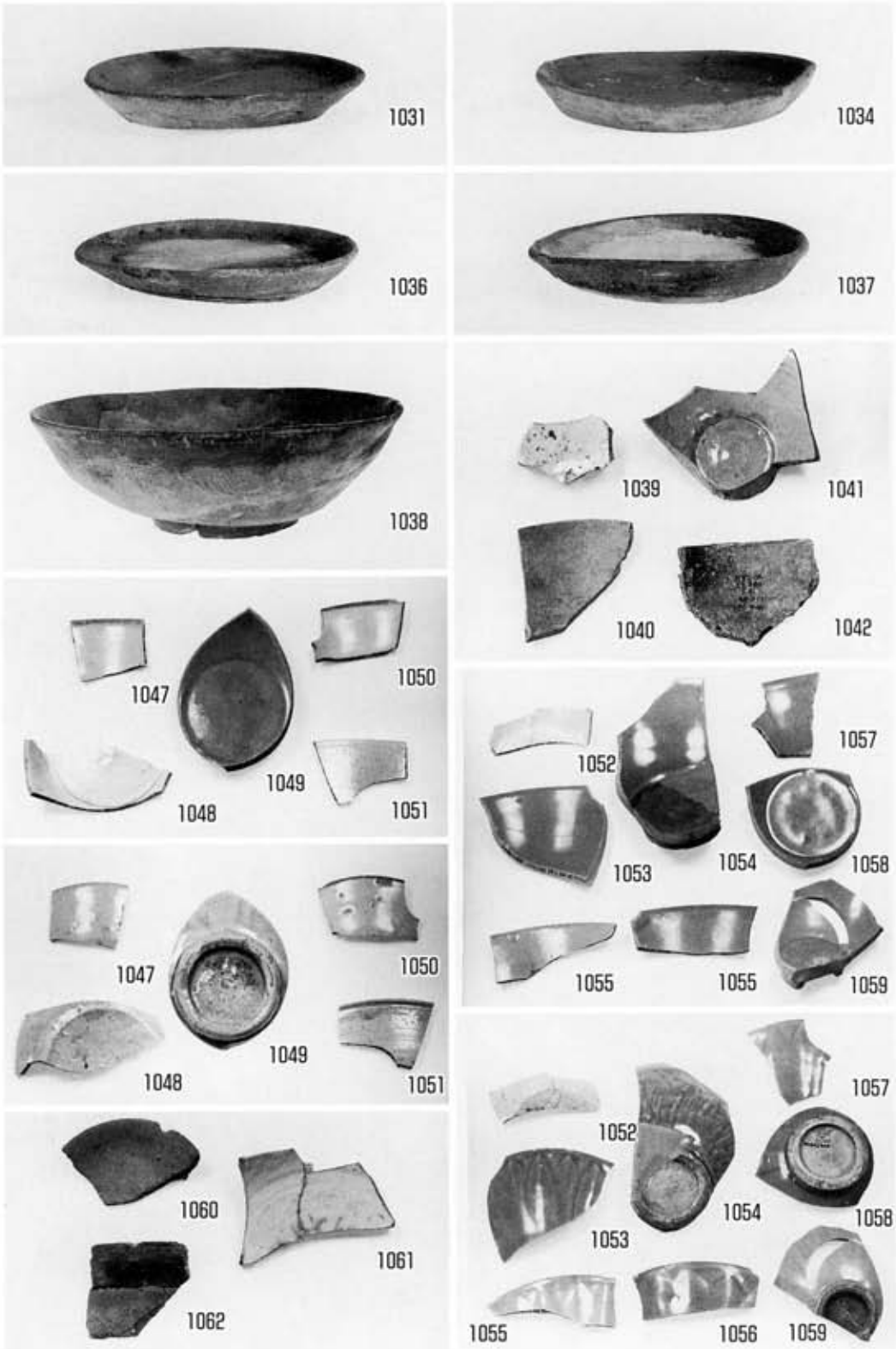


黒色包含層出土遺物(1/3)

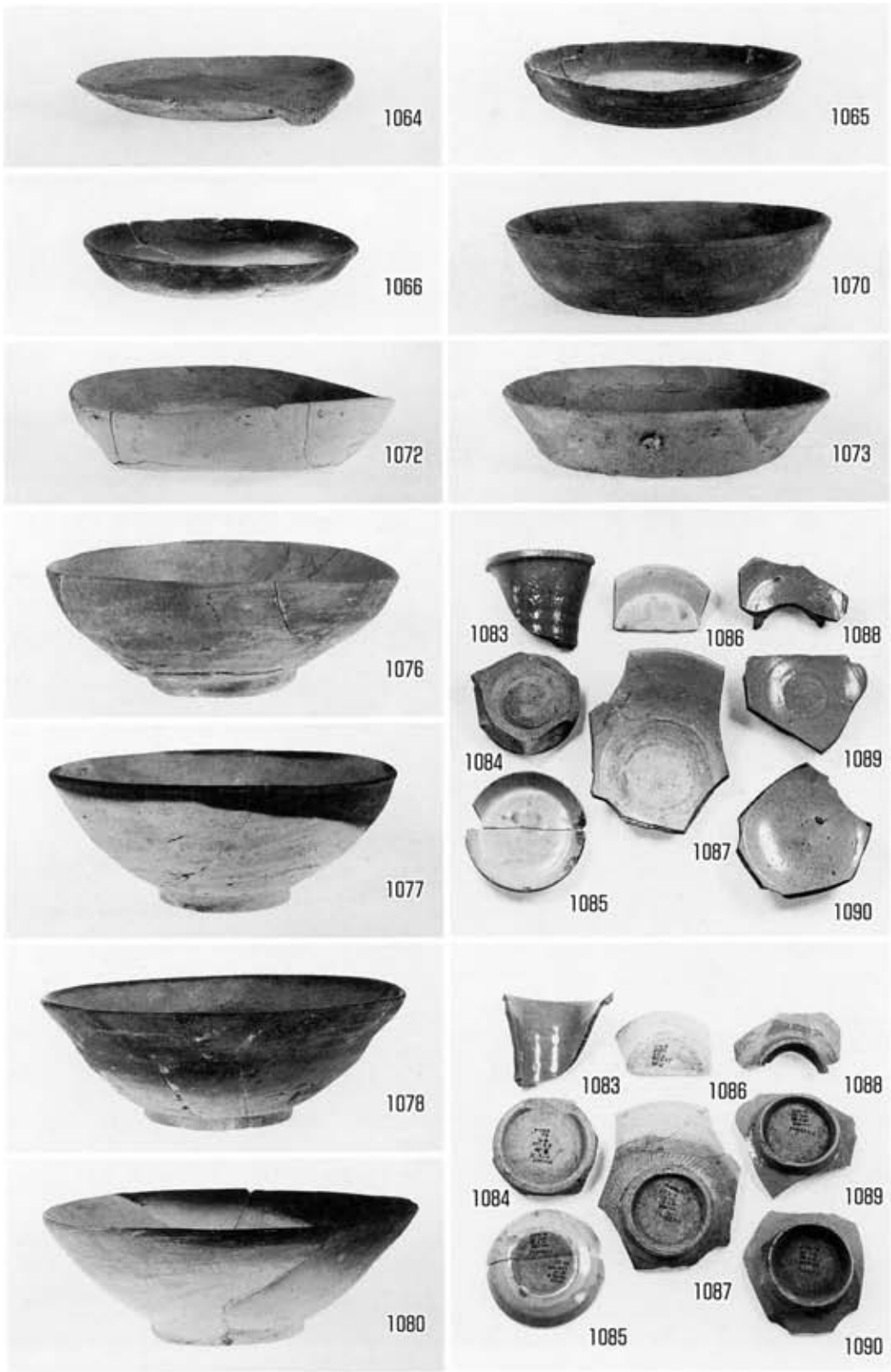
表面採集遺物(1/3)



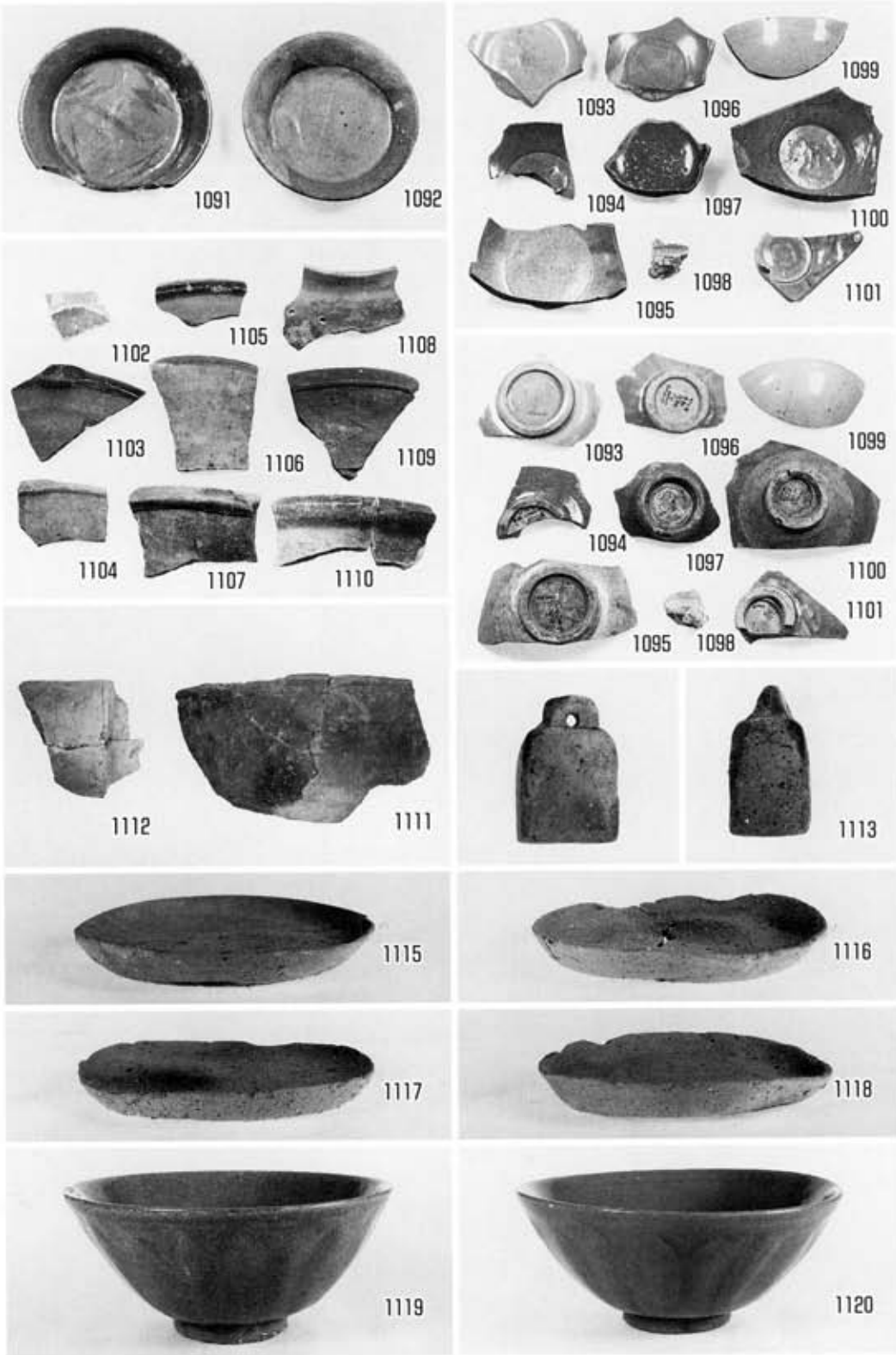

東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区
ＳＤ187溝跡，ＳＫ226・242土壙，ＳＥ245井戸跡出土遺物



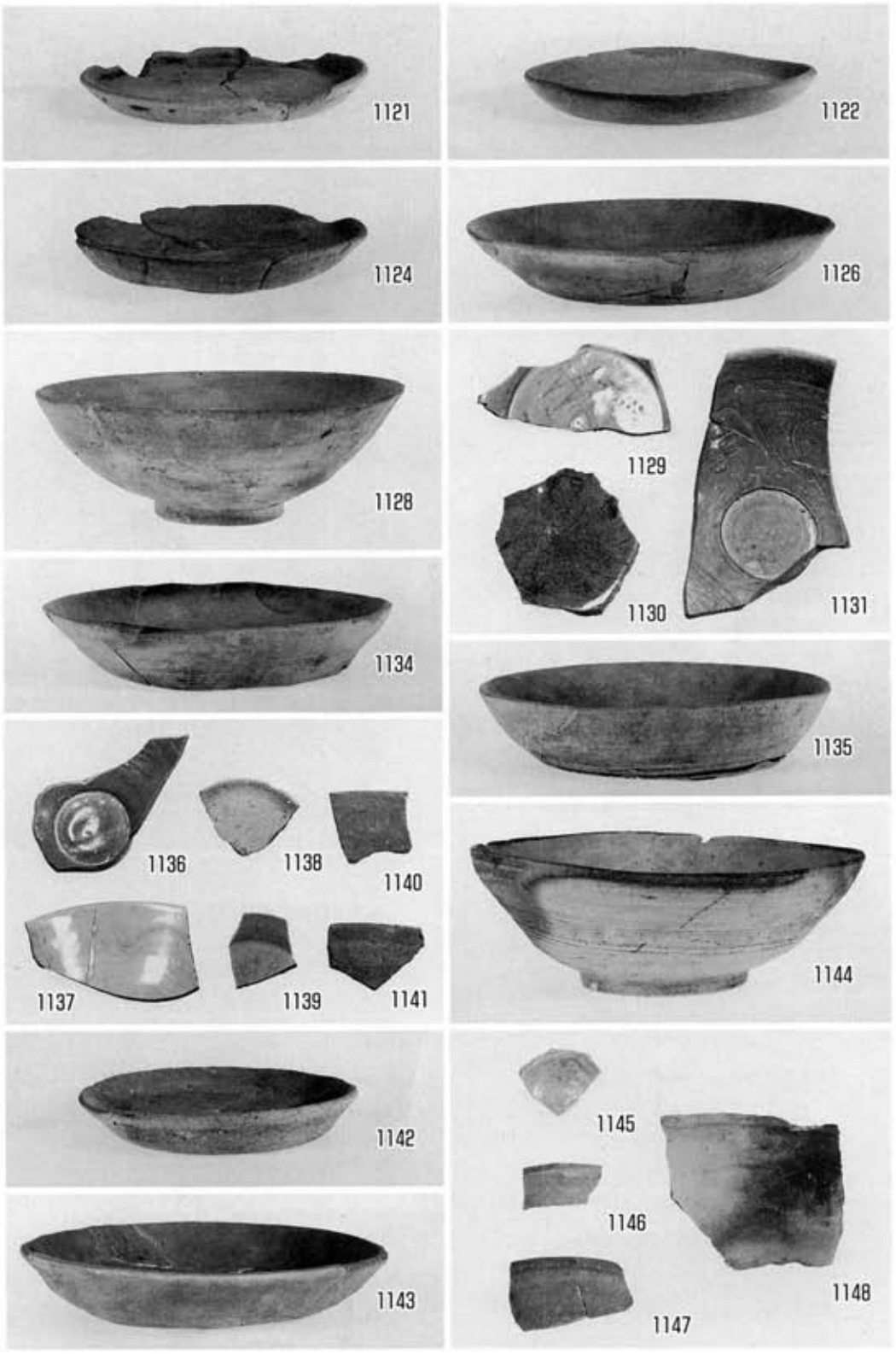

東山田一本杉遺跡II区・III区
SE246井戸跡，SK292・296土壙，SD329溝跡出土遺物



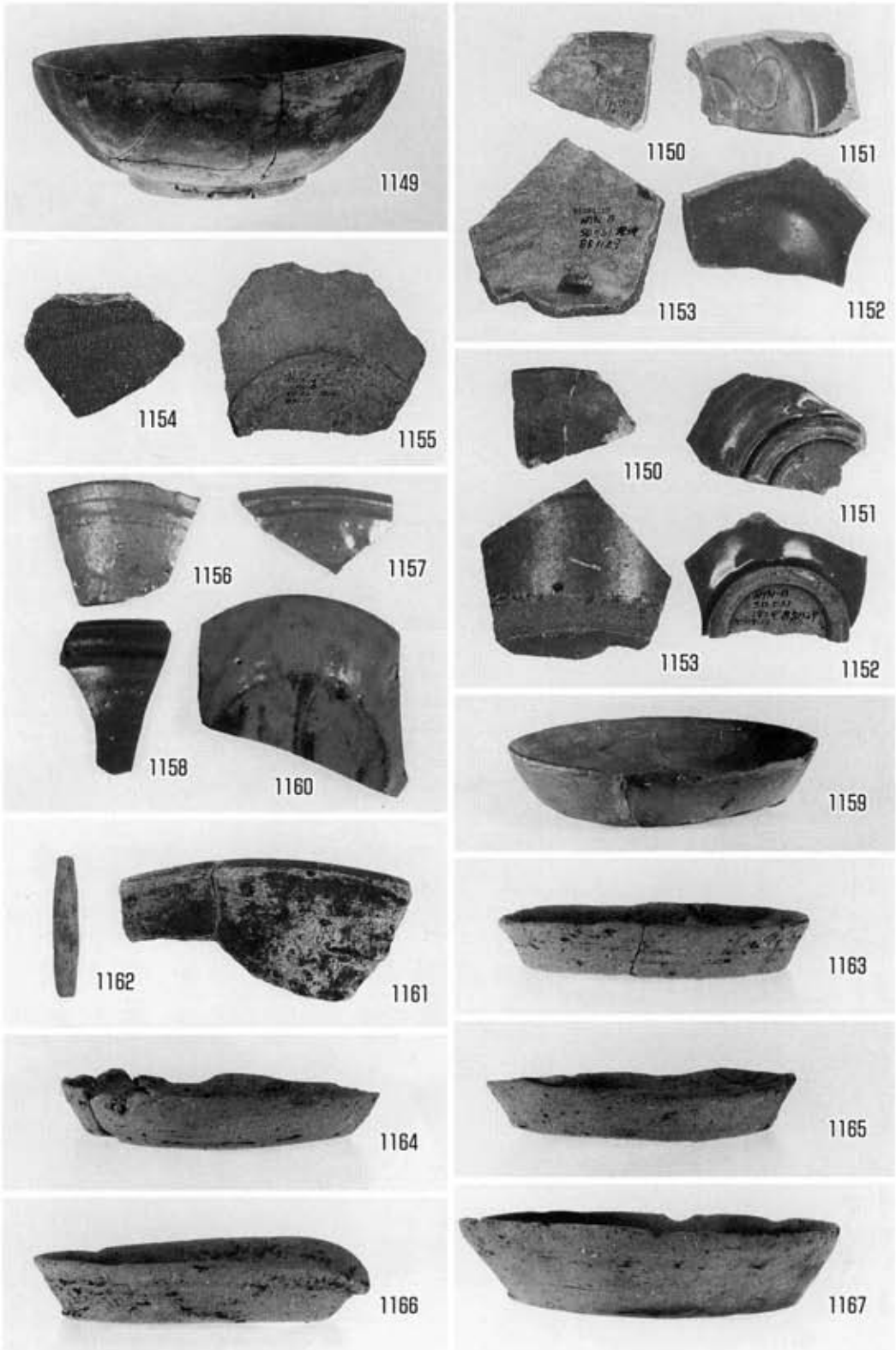

東山田一本杉遺跡II区・III区
ＳＤ335溝跡出土遺物




東山田一本杉遺跡II区・III区
SD335溝跡，SP356土壙墓出土遺物

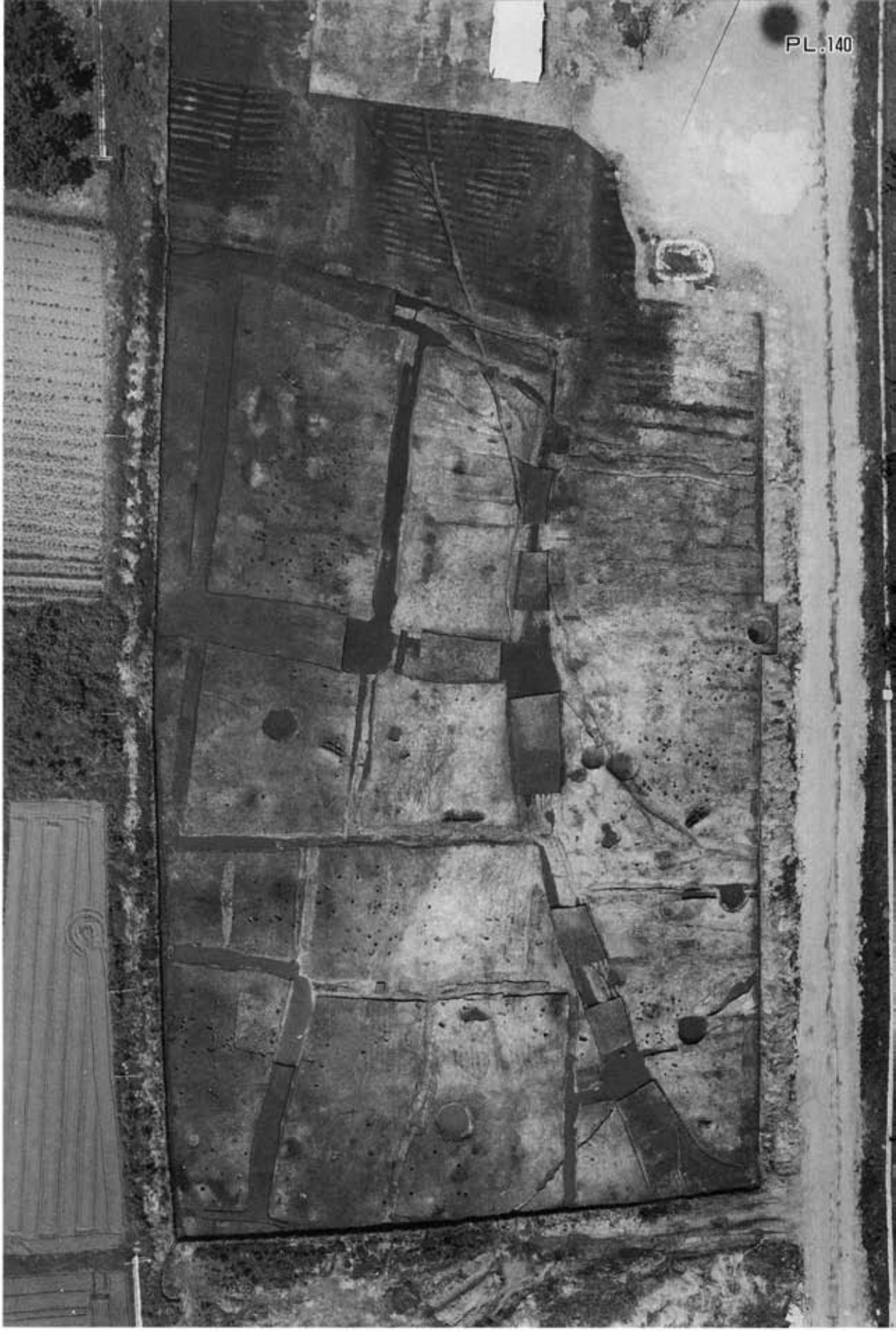



東山田一本杉遺跡Ⅱ区・Ⅲ区，西山田二本松遺跡Ｂ区
ＳＫ368・371土壙，ＳＤ33溝跡，ＳＥ38井戸跡出土遺物



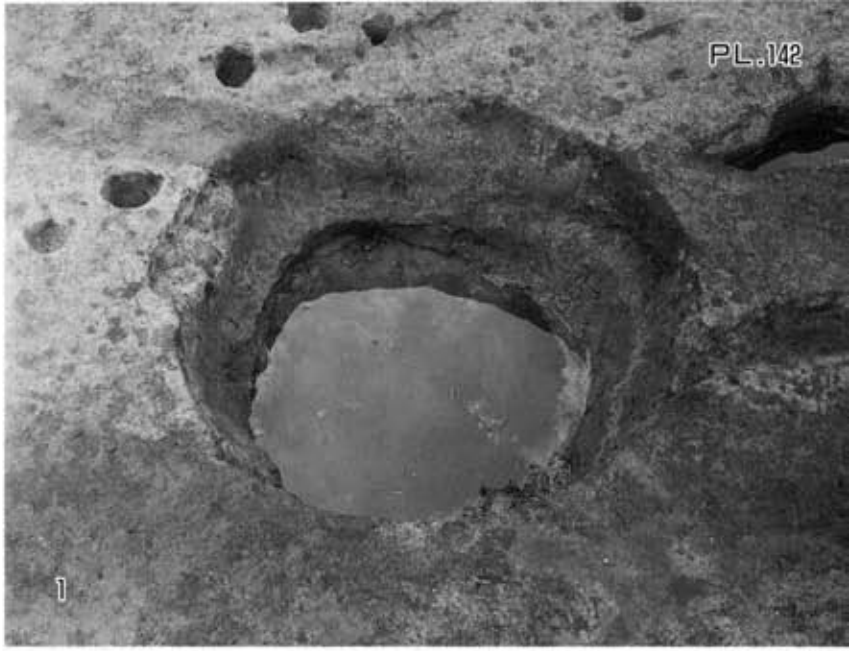

西山田二本松遺跡B区
SK52土壙，SD61溝跡，SK62土壙，SP69土壙墓出土遺物

# 今山八幡原遺跡

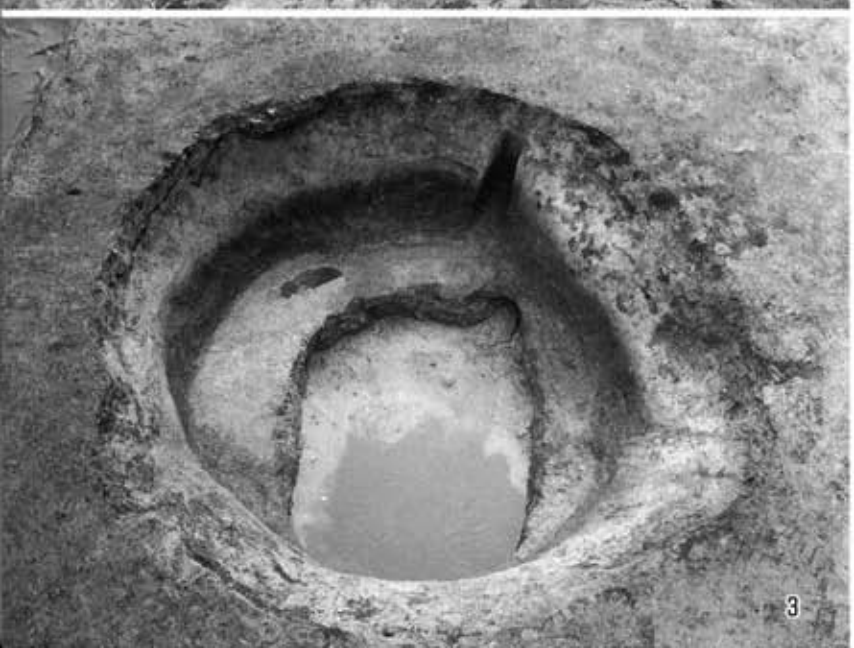


今山八幡原遺跡全景

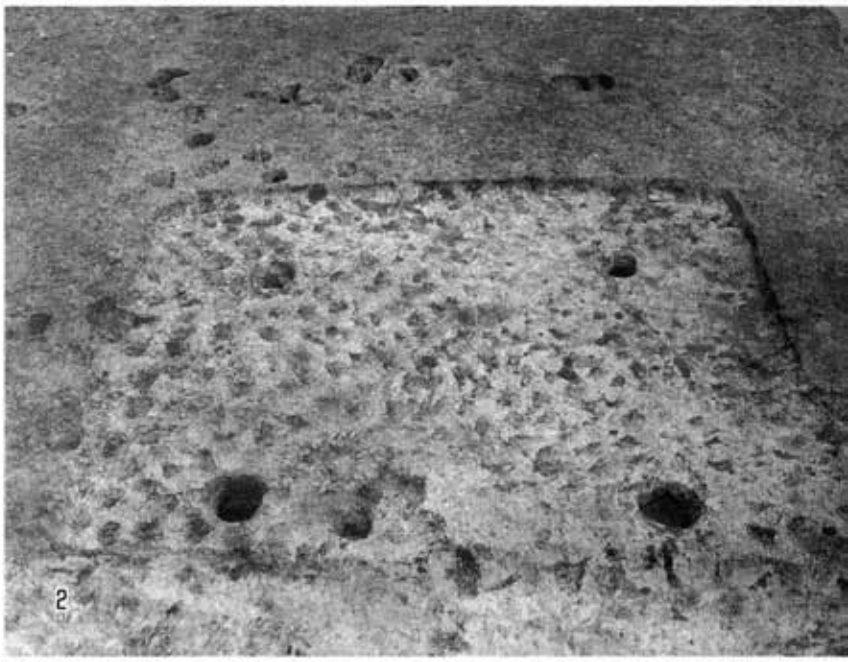
今山八幡原遺跡
1．遺跡より船塚方向を望む（南西から）
2．遺跡全景（西から）



今山八幡原遺跡
1．ＳＥ005井戸跡（東から）
2．ＳＥ008井戸跡（南から）
3．ＳＥ009井戸跡（東から）



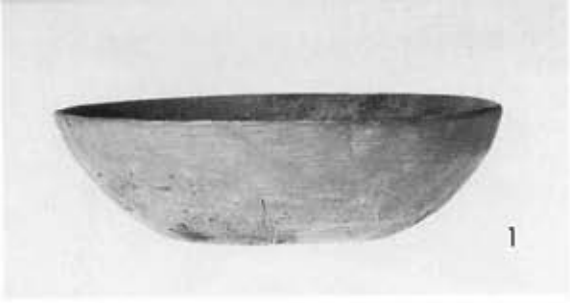
今山八幡原遺跡
1．ＳＥ012井戸跡（南から）
2．ＳＥ013井戸跡（西から）
3．ＳＥ020井戸跡（東から）

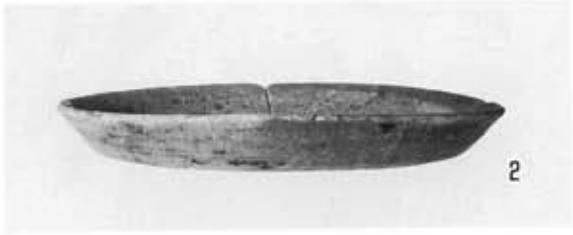


今山八幡原遺跡
1．ＳＥ036井戸跡（南から）
2．ＳＢ037住居跡（北から）
3．ＳＫ017土壙（北から）

今山八幡原遺跡
1．ＳＥ020井戸跡遺物出土状況（東から）
2．ＳＥ020井戸跡遺物出土状況（南から）
3．ＳＥ036井戸跡遺物出土状況（南から）

S K017

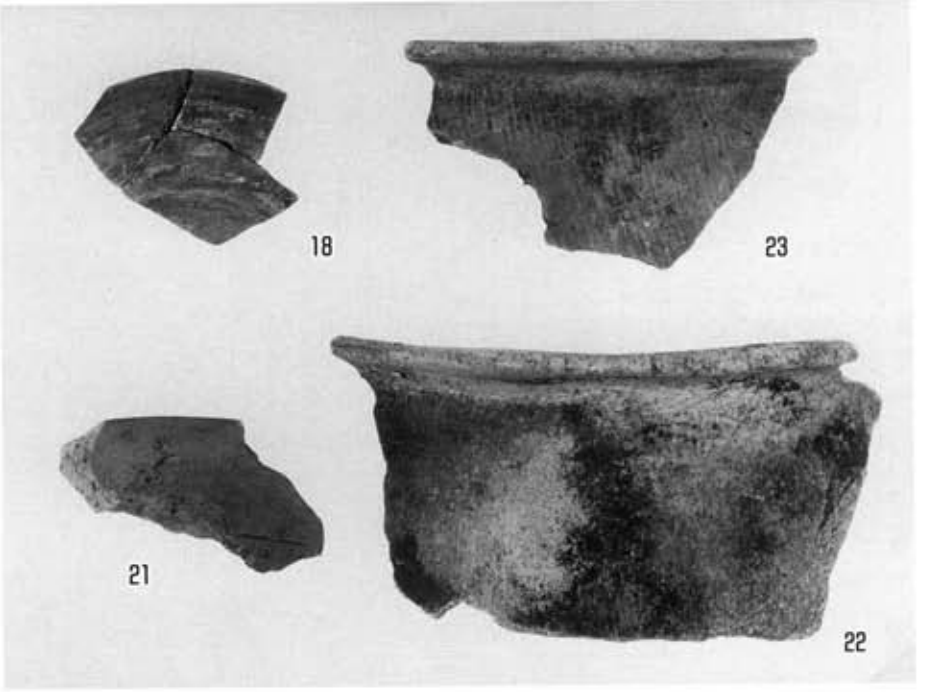


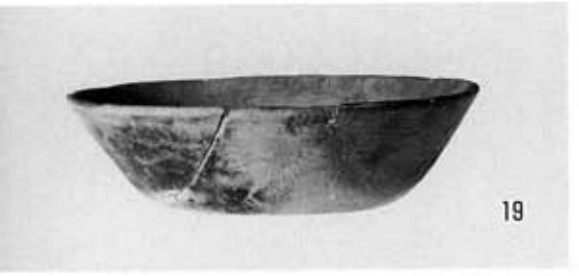
S E005

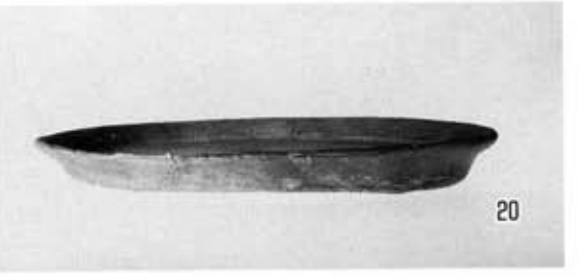
今山八幡原遺跡　　S K017土壙・S E005井戸跡出土遺物

PL.147

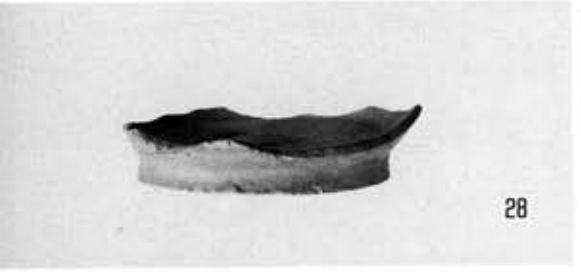


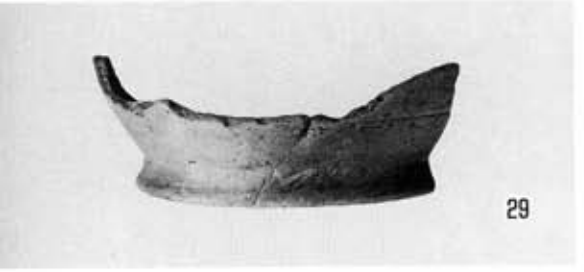

S E008



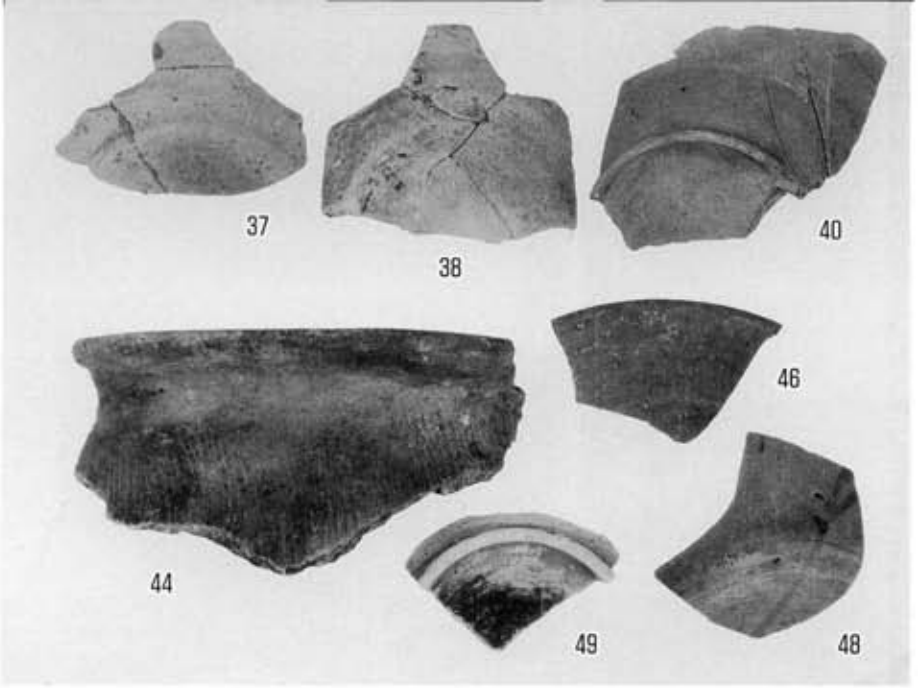



S E009

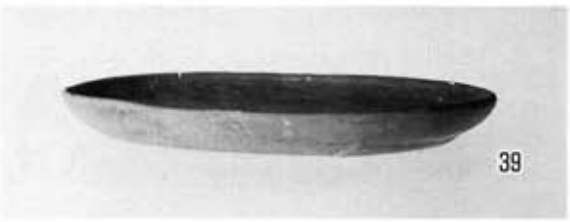


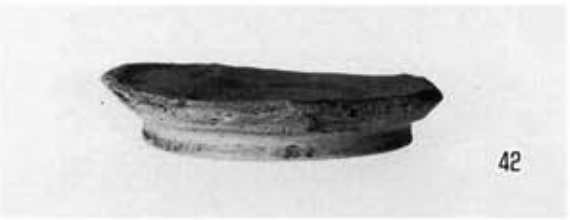


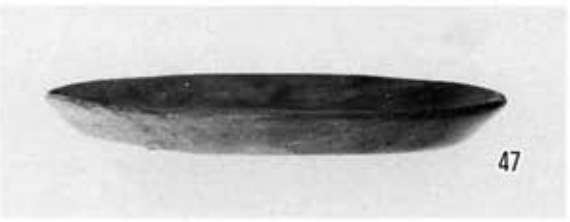
今山八幡原遺跡　　S E008・009井戸跡出土遺物



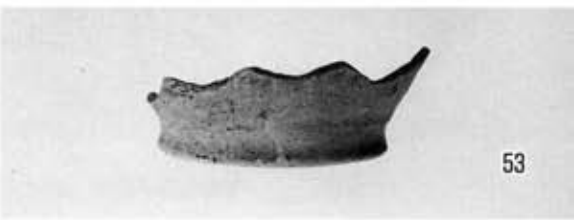

S E012



S E013



PL.149

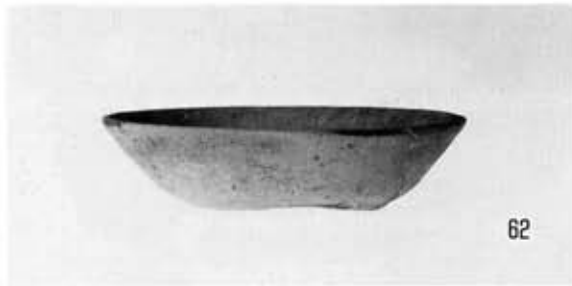
57

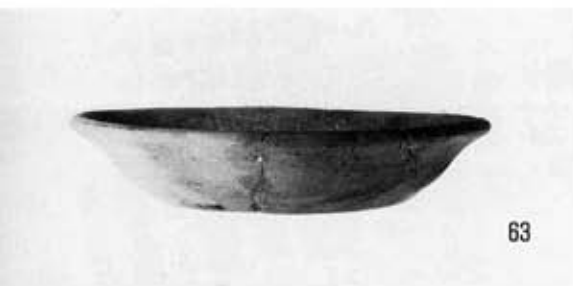
58

59

60

61


62


63

64

65

66

69

70

今山八幡原遺跡　　ＳＥ020井戸跡出土遺物１

71

72

74

76

83

84

85

86

88

砥石
91

今山八幡原遺跡　　ＳＥ020井戸跡出土遺物２

PL.151

77

78

79

80

81

82

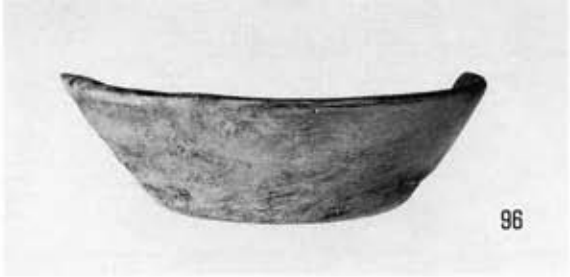
92

93

94

95

今山八幡原遺跡　　ＳＥ036井戸跡出土遺物１


96

97

98

101

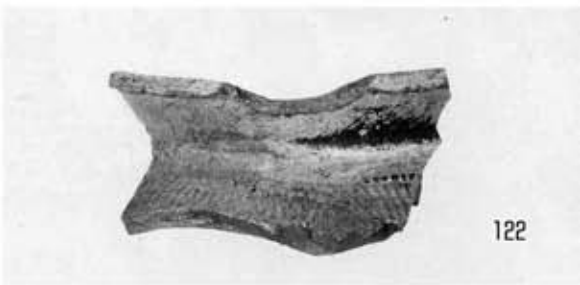
102

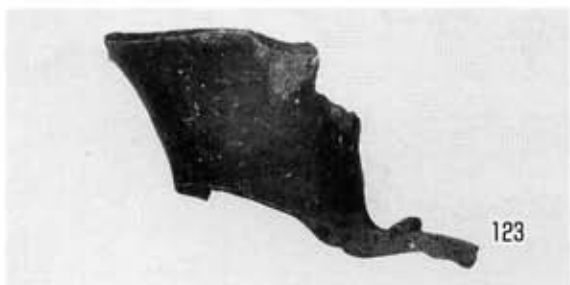
103

104

120

121


122


123

124

今山八幡原遺跡　　ＳＥ036井戸跡出土遺物２

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ひがしやまだいっぽんすぎいせき |
| 書名 | 東山田一本杉遺跡 |
| 副書名 | 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | 18 |
| シリーズ名 | 佐賀県文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第125集 |
| 編著者名 | 田平徳栄・天本洋一・副島正道・樋口秀信・渋谷　格 |
| 編集機関 | 佐賀県教育委員会 |
| 所在地 | 佐賀県佐賀市場内1丁目1-59 |
| 発行年月日 | 西暦1995年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 北緯<br>° ′ ″ | 東経<br>° ′ ″ | 調査期間 | 調査面積<br>(m²) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ひがしやまだいっぽんすぎ<br>東山田一本杉 | さがけんさがぐん<br>佐賀県佐賀郡<br>やまとまちおおあざひがしやまだ<br>大和町大字東山田 | 413054 | 2081,3096<br>4081,5079 | 33°<br>18′52″ | 130°<br>16′00″ | 19831122<br>～19850320 | 8,500 | 九州横断自動車道建設に伴う事前の発掘調査 |
| にしやまだにほんまつ<br>西山田二本松 | さがけんさがぐん<br>佐賀県佐賀郡<br>やまとまちおおあざかわかみ<br>大和町大字川上 | 413054 | 2068,3083<br>4067,5066 | 33°<br>18′51″ | 130°<br>16′00″ | 19860401<br>～19860430 | 2,500 | |
| いまやまはちまんばる<br>今山八幡原 | さがけんさがぐん<br>佐賀県佐賀郡<br>やまとまちおおあざくるま<br>大和町大字久留間 | 413054 | 1045,2103<br>3122,4102 | 33°<br>18′19″ | 130°<br>14′43″ | 19850415<br>～19850611 | 6,000 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東山田一本杉 | 墳墓群<br>集落跡 | 弥生 | 甕棺墓125基土壙墓45基 | 甕棺，細形銅剣(切先) | 弥生時代の甕棺墓群・集落跡奈良～平安時代の築地を伴う邸宅跡・倉庫群，及び中瀬の邸宅跡 |
| | | | 竪穴住居跡59基 | ガラス小玉，鋼鉄，鉄斧 | |
| | | 古墳 | 竪穴住居跡1基 | | |
| | | 奈良～平安 | 掘立柱建物跡11棟，築地塀 | 円面硯，須恵器，土師 | |
| | | | 連溝跡24条，井戸跡1基 | 器，印刻土器 | |
| | | 中世 | 溝跡2条，井戸跡3基 | 龍泉窯系青磁碗 | |
| 西山田二本松 | 集落跡 | 弥生 | 竪穴住居跡1基 | ガラス小玉，ミニチュア土器 | 弥生時代の集落跡，奈良～平安時代の区画溝，中世の邸宅跡 |
| | | 古墳 | 竪穴住居跡1基 | | |
| | | 奈良～平安 | 井戸跡1基，溝跡2条 | 須恵器杯，土師器皿 | |
| | | 中世 | 溝跡1条 | 常滑甕，東播系片口鉢 | |
| 今山八幡原 | 集落跡 | 奈良～平安 | 井戸跡7基，溝跡2条 | 墨書土器，曲物 | 平安時代の集落跡の縁辺部 |


佐賀県文化財調査報告書　第125集

**東山田一本杉遺跡**

九州横断自動車銅道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 (18)

平成7年3月28日　印刷
平成7年3月31日　発行

編集　佐賀県教育庁文化課
発行　佐賀市城内1丁目1－42

印刷　大同印刷株式会社
佐賀市天神1丁目1番32号